V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部機械工学科	職名 教授	氏名 青木　勇	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
「機構要素概論」の講義上の工夫＜専用補助教材の利用＞	平成 10 年 4 月	機構要素の実態を紙面で説明することは、1 年次生のような初学者には難しい面がある。そこで、ねじ、座金、軸受、歯車等二十数種の代表的要素を選択し、配布し、講義内容に合わせ実態説明し、理解を容易なものとした（無償配布資料）。さらに本講義ではＯＨＰ、ビデオを多用し、視覚的な理解に努めた。（～平成 11 年 4 月）
質問カードの利用	平成 14 年 4 月 ～現在に至る	授業後質問カードを配布し，質問を受け，翌週重要な質問に回答する．これは出席を兼ねている．学生の不明箇所を把握できる．
解答用紙の全返却による結果の確認	平成 14 年 4 月 ～現在に至る	小テスト全てを返却し，自分の誤りを確認させる。得点にも関係することから十分な見直しが期待できる。
学生による授業評価アンケートの活用	平成 15 年 4 月 ～現在に至る	アンケートに基づき，学習内容と実務との関係や結びつきが分かるようにテキストを修正，さらにパワーポイントも修正した．
神奈川大学自己点検・評価全学委員会における活動	平成 15 年 5 月 1 日	教員の教授内容・学生の受講状況等の改善に向けた授業評価アンケート、ならびに外部評価等の実施について検討を行った。
学生による授業評価アンケートの活用	平成 17 年 4 月 ～現在に至る	前年アンケートにおいて自主学習が少ないことが明らかになったため，各授業ごとに資料に復習ノートを付し，改善を図った
授業に集中させる試み	平成 18 年 4 月 ～現在に至る	授業への集中を促すため，在来の小テスト（講義 4 回に 1 回）に加え，毎回の「チェックテスト」を加えた．これは授業中に講義される内容の一部が問題となっているので集中度が増す．
FYS 補助資料の配布	平成 20 年 4 月 ～現在に至る	科目ＦＹＳにおいては多様な内容を短時間の授業でこなさなければならない．このためパワーポイント資料を全て（授業中のものと補填資料を含む）配布し，共通テキストと併せ使用させた．後日の見直しができることと，授業理解が容易と受け止められた．
2　作成した教科書、教材		
工科系大学生を対象とする「塑性加工の基礎」の出版	昭和 63 年 4 月	一般の工科系大学生を対象とする当該分野わかりやすい書物がないことから、入門的教科書として出版した。現在、国・私立大学、高専での利用が多い（出版社：産業図書）。

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
「機械工学製図Ⅱ」専用テキストの作成	昭和 63 年 9 月	「機械工学製図Ⅰ」の後を受ける性質上、前者との関連を考慮しなければならず、専用のテキストを作成した。(50 頁、無償配布資料)
工科系大学生を対象とする「塑性力学の基礎」の出版	平成 8 年 4 月	一般の工科系大学生を対象とするわかりやすい塑性力学の書物がないことから、入門的教科書として出版した。現在、国・私立大学、高専での利用が多い。(出版社：産業図書)
「塑性加工」専用講義テキスト作成	平成 8 年 9 月 ～平成 18 年 3 月	各種塑性加工をわかりやすい解析を交えたテキストとして作製。(74 頁、無償配布資料、毎年改訂)（～現在まで至る）
「機械加工学１」専用講義テキストの作成	平成 19 年 4 月 ～現在に至る	2006 年度新カリキュラム対応のテキスト作成．ものづくりの意義・必要性から始め加工全般にわたる知識を分りやすく教授できるよう工夫した．全体で 110 頁
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
2004 年度前期授業評価アンケート結果	平成 16 年 11 月	＜授業科目：機構要素概論＞　「板書・視聴覚教材は分かりやすいか」,「質問・意見を述べるような配慮をしたか」,「教科書，参考書，配布資料は授業理解に役立ったか」に関し「そう思う，強くそう思う」は 82～83%と高い．他方,「授業の内容に興味が持てたか」,「授業に取り組む教員に熱意を感じたか」,「この授業は総合的に見て満足のいくものであったか」は 70～73 %と幾分低い．設問 12 項目に対する「そう思う，強くそう思う」の平均は 73%であった．＜授業科目：塑性力学＞「授業のねらいや達成目標を明確に示したか」「授業に取り組む教員に熱意を感じたか」「教科書，参考書，配布資料は授業理解に役立ったか」に関しては,「そう思う，強くそう思う」はほぼ 80-85%と高い．他方,「授業の内容に興味・関心が持てたか」,「話し方は明瞭で学生をひきつけるものであったか」,「この授業は総合的に見て満足のいくものであったか」に関しては 60～70%と低い．設問 12 項目に対する「そう思う，強くそう思う」の平均は 71%であった．
2004 年度後期授業評価アンケート結果	平成 17 年 3 月	＜授業科目：塑性加工＞「授業に取り組む教員に熱意を感じたか」,「教科書，参考書，配布資料は授業理解に役立ったか」に関しては,「そう思う，強くそう思う」は 85～90%と高い．他方,「授業の内容に興味・関心が持てたか」,「話し方は明瞭で学生をひきつけるものであったか」,「この授業は総合的に見て満足のいくものであったか」に関しては 70～75%と低い．設問 12 項目に対する「そう思う，強くそう思う」の平均は 72%であった．
平成 18 年度前期　優秀講義賞	平成 18 年 10 月	学生のウエブ投票による講義賞

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
2006 年度前期授業評価アンケート結果	平成 18 年 10 月	＜授業科目：基礎機械要素＞「授業に取り組む教員に熱意を感じたか」に関しては 72%,「この授業は総合的に見て満足のいくものであったか」に関しては 51 %であった．設問 12 項目に対する「そう思う，強くそう思う」の平均は 56%であった．12 項目で「そう思う，強くそう思う」と肯定的な回答は 35〜72 %の範囲であった．＜授業科目：塑性力学＞「授業に取り組む教員に熱意を感じたか」に関しては 73%,「この授業は総合的に見て満足のいくものであったか」に関しては 52 %であった．設問 12 項目に対する「そう思う，強くそう思う」の平均は 56%であった．全 12 項目で「そう思う，強くそう思う」と肯定的な回答は 35〜75 %の範囲にあった．＜授業科目：FYS(First Year Seminar) ＞「板書や視聴覚教材は分かりやすかったか」,「授業に取り組む教員に熱意を感じたか」に関しては,「そう思う，強くそう思う」は 82%と高い．設問 12 項目に対する「そう思う，強くそう思う」の平均は 66%であった．アンケートの全 12 項目で「そう思う，強くそう思う」と肯定的な回答は 50〜82 %の範囲にあった．
2006 年度後期授業評価アンケート結果	平成 19 年 2 月	＜授業科目：塑性加工＞「授業の内容や進め方はシラバスに基づいていたか」,「授業の内容に興味・関心が持てたか」,「授業に取り組む教員に熱意を感じたか」,「この授業が目的としていた知識や技能を獲得できたと思うか」に関しては,「そう思う，強くそう思う」は 80〜89%と高い．他方,「この授業は総合的に見て満足のいくものであったか」に関しては 69%と低い．設問 12 項目に対する「そう思う，強くそう思う」の平均は 72%であった．
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		
高等学校における模擬授業の実施	平成 12 年 10 月	茨城県立第一高等学校において、「大学模擬授業・金属成形加工」を行なった。講義を通し、大学の講義に対する認識と、将来の進路検討に役立つことができた。
神奈川県立舞岡高校・第二学年進路総合ガイダンス	平成 17 年 3 月	理工学系学部を希望する高校生を対象に内容説明を行った。

II　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
仕上げ機械と周辺技術	共著	平成 15 年 6 月	加工技術研究会	藤井昌司　ほか　多数	660-666 頁
マイクマシン技術総覧	共著	平成 15 年 7 月	産業技術サービスセンター	樋口俊郎　ほか　多数	248-254 頁
機械学ポケットブック	共著	平成 16 年 12 月	（株）オーム社	大石久巳　ほか　多数	513-536-571-580 頁
日本塑性加工学会編　塑性加工便覧	共著	平成 18 年 5 月	（株）コロナ社	近藤一義　ほか　多数	374-378，391-392，416-418 頁
論文					
シェービングの加工機構に関する基礎的研究	共著	平成 15 年 5 月	（社）日本機械学会論文集（C 編）69 巻 681 号	笹田昌弘，品田健太郎，青木勇	1437-1442 頁
小穴抜き加工特性に及ぼす工具形状の影響	共著	平成 16 年 3 月	（社）日本機械学会論文集（C 編）70 巻 691 号	笹田昌弘，小林仁，青木勇	867-872 頁
Electromagnetic Microforming of Metal Foil	共著	平成 16 年 9 月	Proc. 10th Int. Conf. on Metal Forming	青木勇，笹田昌弘	311-315 頁
Burr-Free Microblanking Using Piezoelectric Actuator	共著	平成 16 年 11 月	Transactions ASME, J. Manufacturing Science Engineerin g 126	Isamu Aoki, Msahiro Sasada	653-658 頁
せん断加工における工具・材料間の摩擦係数に関する研究	共著	平成 17 年 12 月	日本機械学会論文集 C 編，71 巻 712 号	笹田昌弘，志村和樹，青木勇	3583-3589 頁
せん断技術を利用する金属樹脂の接合に関する研究	共著	平成 18 年 2 月	日本機械学会論文集 C 編 71，(714)	青木勇，笹田昌弘，春山幸生	657-663 頁
Study on Piercing Mechanism of Small Holes	共著	平成 18 年 7 月	Journal of Materials Processing Technology177	H. Kobayashi, Masahiro Sasada, Isamu Aoki	649-652 頁
微細精密せん断における偏心クリアランス是正作用に関する研究	共著	平成 18 年 10 月	塑性と加工（日本塑性加工学会誌）47，(549)	笹田昌弘，高良直希，青木勇	968-972 頁
Study on Coefficient of Fricition between Tool and Material in Shearing	共著	平成 18 年 10 月	JSME International Journal Series C49，(4)	Masahiro Sasada, Kazuki Shimura, Isamu Aoki	1171-1178 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Die Forming of Medical Forceps	共著	平成 19 年 4 月	Key Engineering Materials344	Isamu Aoki, Masahiro Sasada, Tadao Fuchiwaki	411-417 頁
せん断加工特性に及ぼす材料拘束の効果	共著	平成 20 年 1 月	『塑性と加工』（日本塑性加工学会）74,（737）	星隼人，笹田昌弘，青木勇	205-211 頁
Clearance Compensation Effect in Fine Precision Shearing	共著	平成 20 年 2 月	『Materials Transactions『』（ 日本金属学会）47,（549）	笹田昌弘，高良直樹　青木勇	969-972 頁
微細精密せん断における偏心クリアランス是正作用に及ぼすパンチ長さ及び板押えの影響	共著	平成 20 年 4 月	塑性と加工（日本塑性加工学会誌 49,（567）	笹田昌弘，青木勇	306-310 頁
Joining Method for Metal and Resin Sheets Using Shearing Technique with Counter Punch	共著	平成 20 年 9 月	Proceedings of the 12th International Conference on Metal Forming (Krakow, Poland)	Isamu Aoki, Masahiro Sasada	pp.657-662 頁
圧電素子で駆動される直動型変位拡大機構の自己状態監視機能	共著	平成 20 年 10 月	日本機械学会論文集 C 編 74,（746）	笹田昌弘，矢野健，青木勇	
その他					
マイクロプレス加工の現状と将来	単著	平成 15 年 4 月	プレス技術，41 巻 5 号		18-23 頁
微細小穴抜き加工における工具及び材料変形挙動について	共著	平成 15 年 4 月	プレス技術，41 巻 5 号	笹田昌弘・青木勇	52-56 頁
プレス加工のためのトライイボロジーQ＆A	単著	平成 15 年 9 月	プレス技術,41 巻 9 号		49-53 頁
追い抜きシェービングせん断による三次元微細加工システムの開発	単著	平成 16 年 3 月	フォーム テック レビュー,13 巻 1 号		65-70 頁
超微細医用鉗子の金型成形	共著	平成 16 年 5 月	平成 16 年度塑性加工春期講演会講演論文集	青木勇，笹田昌弘，小松誠，渕脇忠夫，内山寛基，桜本恵	371-372 頁
せん断技術を利用する金属・樹脂の接合技術に関する研究	共著	平成 16 年 5 月	平成 16 年度塑性加工春期講演会講演論文集	春山幸生，笹田昌弘，青木勇	335-336 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
せん断加工の FEM 解析における摩擦係数の検討	共著	平成 16 年 5 月	平成 16 年度塑性加工春期講演会講演論文集	志村和樹，笹田昌弘，青木勇	323-324 頁
小穴抜き加工に関する基礎的研究	共著	平成 16 年 11 月	第 55 回塑性加工連合講演会講演論文集	小林仁，笹田昌弘，青木勇	425-426 頁
せん断加工における偏心クリアランス是正作用の FEM 解析	共著	平成 16 年 11 月	第 55 回塑性加工連合講演会講演論文集	高良直希，笹田昌弘，青木勇	423-426 頁
微細精密せん断	単著	平成 17 年 1 月	岩手大学工学部付属金型技術研究センター，第４回特別講演会		
超微細プレス加工の現状と将来	単著	平成 17 年 1 月	プレス技術　43 巻 1 号		61-66 頁
超微細鉗子の冷間塑性加工法	共著	平成 17 年 1 月	プレス技術　43 巻 1 号	小松誠，小沢祐一，青木勇	67-71 頁
高速・精密プレス加工の動向	単著	平成 17 年 2 月	日本塑性加工学会 235 回塑性加工シンポジウムテキスト		1-8 頁
超微細医用鉗子の金型成形	共著	平成 17 年 3 月	2005 年度精密工学会春期大会学術講演会講演論文集	青木勇，笹田昌弘，小松誠，三池神也	441-442 頁
せん断技術を利用する金属・樹脂の接合技術に関する研究	共著	平成 17 年 11 月	第 56 回塑性加工連合講演会講演論文集	笹田昌弘，鈴木健郎，前西宏亮，青木勇	105-106 頁
内視鏡用微細鉗子の金型成形	共著	平成 17 年 12 月	精密工学会誌 71,（12）	青木勇，笹田昌弘，小松誠，三池神也	1618-1621 頁
圧電素子を用いた鉗子の駆動機構に関する基礎的研究	共著	平成 18 年 3 月	日本機械学会関東支部第 12 期総会講演会講演論文集	笹田昌弘，矢野健，青木勇	315-316 頁
せん断加工における偏心クリアランス是正作用に関する研究	共著	平成 18 年 5 月	平成 18 年度塑性加工春季講演会講演論文集	笹田昌弘，高良直希，青木勇	155-156 頁
微細精密せん断における偏心クリアランス是正作用へのパンチ長さ及び板押さえの影響	共著	平成 18 年 10 月	第 57 回塑性加工連合講演会講演論文集	笹田昌弘，青木勇	145-146 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
せん断加工の基礎と最新の技術動向	共著	平成 18 年 12 月	プレス技術 44,（14）	青木勇，笹田昌弘	18-21 頁
鉗子の駆動機構及び把持状態監視機能に関する基礎的研究	共著	平成 19 年 3 月	日本機械学会東海支部第 56 期総会講演会講演論文集	笹田昌弘，矢野健，青木勇	49-50 頁
せん断製品性状に及ぼす材料拘束の影響に関する研究	共著	平成 19 年 3 月	『日本機械学会東海支部第 56 期総会講演会講演論文集』　（日本機械学会）	星隼人，笹田昌弘，青木勇	101-102 頁
せん断加工のトライボロジー	単著	平成 19 年 8 月	『メンテナンス』（技術評論社）（253）		30-35 頁
微細精密せん断における偏心クリアランス是正作用に及ぼす材料拘束の影響	共著	平成 19 年 10 月	『第 58 回塑性加工連合講演会講演論文集』（日本塑性加工学会）	笹田昌弘，櫻井拓也，青木勇	67-68 頁
鉗子の駆動機構及び把持状態監視機能に関する基礎的研究	共著	平成 20 年 3 月	『日本機械学会東海支部第 57 期総会講演会講演論文集』　（日本機械学会）	笹田昌弘，佐藤不思議，早坂盛，矢野健，青木勇	81-82 頁
せん断加工特性に及ぼす予加工穴の影響	共著	平成 20 年 11 月	第５９回塑性加工連合講演会講演論文集	中村高士、笹田昌弘、青木勇	295-296 頁
微細精密せん断における偏心クリアランス是正作用に及ぼす材料拘束の影響（第２報）	共著	平成 20 年 11 月	第５９回塑性加工連合講演会講演論文集	櫻井拓也、笹田昌弘、青木勇	297-298 頁
小穴抜き加工機構と問題点	共著	平成 20 年 11 月	プレス技術 46,（14）	笹田昌弘，青木　勇	23-27 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 45 年 4 月～現在に至る	精密工学会会員
昭和 47 年 4 月～現在に至る	日本塑性加工学会会員
昭和 48 年 4 月～現在に至る	日本潤滑学会会員
昭和 58 年 4 月～現在に至る	日本機械学会会員
昭和 60 年 10 月～現在に至る	日本材料学会会員
平成元年 4 月～現在に至る	日本塑性加工学会板金プレス成形分科会運営委員
平成元年 4 月～現在に至る	日本塑性加工学会校閲委員
平成 2 年 10 月～現在に至る	財団法人天田金属加工機械振興財団（研究開発助成金） 2,500 千円 （せん断加工におけるかえり抑制に関する研究）（研究代表者）
平成 6 年 4 月～現在に至る	精密工学会校閲協力委員
平成 7 年 10 月～現在に至る	財団法人天田金属加工機械振興財団研（究開発助成金） 1,700 千円 （医用三次元微細素子成形プレスマシレの開発）（研究代表者）
平成 9 年 1 月～現在に至る	財団法人金型技術技術振興財団（研究開発助成金） 1,000 千円 （複合機能金型の開発）（研究代表者）
平成 12 年 3 月～平成 17 年 3 月	日本塑性加工学会関東支部商議員
平成 13 年 6 月～平成 15 年 5 月	日本塑性加工学会マイクロ加工研究委員会幹事
平成 14 年 2 月～平成 16 年 3 月	（受託研究）（株）堀鉄工「圧電マイクロプレスの研究」（1,000 千円）
平成 14 年 4 月～平成 16 年 3 月	日本塑性加工学会南関東支部幹事
平成 14 年 5 月～平成 16 年 3 月	NEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）技術委員
平成 15 年 4 月～平成 19 年 3 月	ショットピーニング技術協会理事
平成 15 年 5 月～平成 17 年 4 月	日本塑性加工学会代議員
平成 15 年 10 月～平成 16 年 3 月	（受託研究）（株）ナノコントロール「有限要素法によるプレス機架台の強度解析」（1,050 千円）
平成 16 年 4 月～平成 19 年 4 月	（受託研究）科学研究費「微細医用鉗子のプレス成形」（3,690 千円）
平成 16 年 4 月～平成 19 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究（C） 3,600 千円 （低侵襲医療を目的とする 0．3㎜級超微細医用鉗子の高度生産システムの開発）（研究代表者）
平成 16 年 4 月～平成 17 年 3 月	㈶神奈川光度技術支援財団（育成試験　研究補助金） 2,000 千円 （細胞診用微細医用鉗子の製作）（研究代表者）

年月	内　　容
平成 17 年 4 月～平成 18 年 3 月	神奈川県立舞岡高校・学校評議員会評議員
平成 18 年 4 月～平成 19 年 4 月	中小企業政策審議会臨時委員
平成 18 年 5 月～平成 19 年 5 月	日本塑性加工学会平成１９年度学会賞推薦委員
平成 18 年 9 月～平成 19 年 3 月	横浜市工業技術センター技術アドバイザー
平成 19 年 4 月～平成 22 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究（C） 3,290 千円 （順送金型成形法による生検鉗子の成形自由度の高度化および高機能化に関する研究）（研究代表者）
平成 19 年 5 月～平成 21 年 5 月	日本塑性加工学会平成１９・２０年度代議員
平成 19 年 8 月～平成 20 年 3 月	日本機械学会第８５期機械材料材料加工部門　第１（年次大会）技術委員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部機械工学科	職名 教授	氏名 伊藤　勝悦	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 材料力学および演習Ｉ，　材料力学および演習ＩＩの授業方法の改善について	平成 18 年 4 月 1 日 ～平成 21 年 3 月 31 日	学生の授業評価アンケートの結果，授業の内容が難しく分かりにくいと判断されたので，以下のように改善した． (1)　最低限理解していて欲しい内容の問題を 76 題を拾い出し，詳細な解答を与えて小冊子にまとめて印刷　　配布した．この小冊子は，院生にワードで作成してもらったため，図も含めて，綺麗に仕上がってい　　る． (2) 授業の最初の 20 分で小テストを行う．この小テストの内容は，前回の授業の講義内容から出題されて　　いる．授業の中間 50 分で，講義を行う．授業の後半では，その日の講義内容についての演習問題を上記　　(1) の教材から拾い出して説明し，その後，学生に解かせている．この際，2 名のテーチングアシスタン　　ト (TA) も学生の自習を補助する． (3) 講義時間が 50 分程度となっているため，講義は全て，教材提示装置で行っている． (4) 小テストは約 13 回行われるが，その合計点は約 25 点にしている．期末に行われるテストの配点は約 75 点　　にして，合計点で科目の成績を決めている． 以上のように，授業は丁寧に行っている．
2　作成した教科書、教材 材料力学Ｉ，材料力学ＩＩ　問題集 [印刷：(有) 駒瀬印刷所」 弾性力学入門，　森北出版（株）	平成 19 年 3 月 31 日 ～平成 18 年 11 月	大学工学部機械工学科学生用の演習問題として作成した．ページ数は 62. 大学院 機械工学専攻の院生用に執筆した．弾性論を分かりやすく解説している．
3　教育上の能力に関する大学等の評価 学生の授業評価は，全体の平均点に到達していない事が分かった．この結果を受けて，前述の教育方法の実践例のように，授業方法に工夫をしている．	平成 18 年 4 月 1 日 ～平成 21 年 3 月 31 日	
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
工学部ＦＤ委員会委員	平成 19 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 3 月 31 日	委員会委員として，2007 年度のＦＤだよりの発行を担当した．　　2008 年 3 月 8 日，9 日に京都で開催された，大学コンソーシアム京都が主催する第 13 回ＦＤフォーラム「大学教育と社会～ＦＤ義務化を控えて～」（京都，立命館大学）に出席した．本学工学部機械工学科のカリキュラム改定に際して，参考にすべき事項があり，有益なフォーラムであったと考えている．

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
弾性力学入門	単著	平成 18 年 11 月	森北出版（株）		
弾性数理解析とその応用 (渡辺一実，芦田文博，上田 整　編集)，第 4 章シュミット法によるき裂問題の解法 (伊藤勝悦担当)，pp.-84-102.	共著	平成 19 年 2 月	養賢堂	渡辺一実，芦田文博，上田 整　共同編集，執筆者：芦田文博ほか 13 名含む伊藤勝悦	
大学院材料力学入試問題集 (総ページ数：499 ページ)	共著	平成 20 年 5 月	NPO 法人　固体の力学研究会	畑　俊明，谷川義信，土田栄一郎，野田直剛，伊藤勝悦，渡辺一実，須見尚文，赤井富一，芦田文博，上田整，辻　知章，松永泰弘，小畑良洋，石原正行	
機械工学系大学院 材料力学入学試験問題集 (2009 年版)-問題とその解答集-	共著	平成 21 年 3 月	NPO 法人 固体の力学研究会	畑　俊明，土田栄一郎，伊藤勝悦，須見尚文，他 5 名	
論文					
Thermal stresses in an infinite elastic pipe weakened by a finite cylindrical crack	単著	平成 15 年 7 月	ASME Journal of Applied Mechanics (ASME, New York)70		616-618 頁
An experiment on stress intensity factors for an interface crack between epoxy and aluminum plates	単著	平成 16 年 1 月	International Journal of Fracture (Kluer Academic Publisher, the Netherland)125		89-102 頁
Stress intensity factors around a moving Griffith crack in a non-homogeneous layer between two dissimilar elastic half-planes	単著	平成 16 年 2 月	Acta Mechanica (Springer, Wien)167		213-232 頁
Thermal stresses around a rack in the nonhomogeneous interfacial layer between two dissimilar elastic half-planes	単著	平成 16 年 2 月	International Journal of Solids and Structures (Pergamon, Oxford)41		923-945 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Thermal stresses around a crack in a non-homogeneous diffusion layer between a coating plate and an elastic half-plane	単著	平成 17 年 10 月	Journal of Thermal Stresses (Taylor and Francis, London)28		1161-1178 頁
Stress intensity factors for a moving cylindrical crack in a nonhomogeneous cylindrocal layer in composite materials	単著	平成 17 年 12 月	Arch. Appl. Mech. (Springer, Berlin)75, (1)		18-30 頁
Transient dynamic stress intensity factors around two rectangular cracks in a nonhomogeneous interfacial layer between two dissimilar elastic half-spaces under impact load	単著	平成 19 年 8 月	Acta Mechanica (Springer-Verlag, Wien)192, (1)		89-110 頁
Thermal stresses in an infinite elastic pipe weakened by two cylindrical cracks	単著	平成 19 年 11 月	J. Thermal Stresses (Taylor and Francis, London)30, (11)		1069-1097 頁
Dynamic stress intensity factors around a cylindrical crack in an infinite elastic medium subject to impact load	単著	平成 19 年 11 月	Int. J. Solids and Structures (Pergamon-Elsevier, Oxford)44, (11)		7340-7356 頁
Stresses around a crack in an adhesive layer between woven laminate composites	単著	平成 20 年 5 月	Advances in Theoretical and Applied Mechanics (Hikari Ltd, Ruse)1, (2)		61-77 頁
Dynamic stress intensity factors around two cylindrical cracks in an infinite elastic medium subject to impact load	単著	平成 20 年 11 月	Advances in Theoretical and Applied Mechanics (Hikari Ltd, Ruse)Vol. 1, (No. 6)		pp. 255-271 頁
その他					
2 個の平行き裂を有する異方性無限板の動的応力拡大係数について	単著	平成 20 年 9 月	日本機械学会材料力学カンファレンス（M&M2008）CD-ROM(M&M2008)		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Dynamic stress intensity factors for two parallel interface cracks between a non-homogeneous bonding layer and two dissimilar elastic half-planes subjected to an impact load	単著	平成 20 年 11 月	Proceedings of the Asian Conference on Mechanics of Functional Materials and Structures		201-204 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 44 年 9 月～現在に至る	日本機械学会会員
平成 19 年 4 月～平成 21 年 3 月	日本機械学会論文集校閲委員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部機械工学科	職名 教授	氏名 林　憲玉	大学院における研究指導当 資格の有無　（㊒・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
視聴覚機器の使用	平成 17 年 9 月 ～平成 18 年 1 月	（授業科目：機構学）内容を分かりやすく伝えるため、パワーポイント・ビデオなどを使い、授業を行った。これにより、学生の理解度と興味・関心を高めることができた。
授業評価から	平成 18 年 9 月 ～平成 19 年 1 月	（授業科目：マイクロコンピュタ）黒板の上部部の字が見えないとの指摘があり、資料の配布およびパワーポイントを使用するなど、授業運営の改善を行った。
基礎学習および体験実習	平成 19 年 9 月 ～平成 20 年 1 月	（授業科目：M デザイン II）機械・制御・設計・電子工学などの基礎学習および体験実習のために 2 名の学生が 1 つの車輪型ロボットまたは倒立振子ロボットを設計・製作してロボットコンテストを行い、学生各々に問題解決意識を高めることができた。
授業評価アンケート結果の活用	平成 20 年 4 月 ～平成 20 年 7 月	（授業科目：機構及びロボット工学）視聴覚機器を授業で用いることにより，板書での説明だけではわかりにくい部分を映像により補足することができ、学生自身に興味・関心を高めることができた。
2　作成した教科書、教材		なし
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
「新版ロボット工学ハンドブック」	共著	平成 17 年 5 月	日本ロボット学会編、コロナ社		
論文					
“ Optimum Design of a New Humanoid Leg by Using Stiffness Analysis, ”	共著	平成 15 年 5 月	Proceedings of International Workshop on RAAD (Robotics in Alpe-Adria-Danube Region), Paper №045 in CD-ROM		
“ Numerical and Experimental Estimation of Stiffness Performances for the Humanoid Robot WABIAN-RV, ”	共著	平成 15 年 6 月	Proceedings of the IEEE/ASME International Conference on Advanced Intelligent Mechatronics,		962-967 頁
“ Stiffness Performances Estimation for Biped Locomotor WL-15, ”	共著	平成 15 年 6 月	Proceedings of the IEEE/ASME International Conference on Advanced Intelligent Mechatronics,		956-961 頁
“ Development of a Biped Locomotor Applicable to Medical and Welfare Fields, ”	共著	平成 15 年 6 月	Proceedings of the IEEE/ASME International Conference on Advanced Intelligent Mechatronics,		950-955 頁
“ Macro-walking Instruction for Biped Humanoid Robot, ”	共著	平成 15 年 6 月	Proceedings of the IEEE/ASME International Conference on Advanced Intelligent Mechatronics,		417-422 頁
“ Moment Compensation Control for Biped Walking Robots, ”	共著	平成 15 年 7 月	Proceedings of the World Multiconference on Systemics, Cybernetics and Informatics,		434-439 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
“ Simulation Study of Contact Force Suppression, ”	単著	平成 15 年 7 月	Proceedings of the World Multiconference on Systemics, Cybernetics and Informatics,		428-433 頁
“ Stiffness Analysis of the Humanoid Robot WABIAN-RV, ”	共著	平成 15 年 9 月	Proceedings of IEEE International Conference on Robotics and Automation,		3654-3659 頁
“ Control and Experiments of a Multi-purpose Bipedal Locomotor with Parallel Mechanism, ”	共著	平成 15 年 9 月	Proceedings of IEEE International Conference on Robotics and Automation,		4342-4347 頁
“ Sensory-based Walking Motion Instruction for Biped Humanoid Robot, ”	共著	平成 15 年 10 月	39. Proceedings of IEEE-RAS International Conference on Humanoid Robots, ” CD-ROM Proc.		
“ Realization of Sensory-Based Biped Walking, ”	共著	平成 15 年 10 月	Proceedings of International Conference on Control, Automation and Systems,		197-203 頁
Realization of Stable Dynamic Walking by a Parallel Bipedal Locomotor Using a Virtual Compliance, ”	共著	平成 15 年 10 月	Proceedings of IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems,		595-600 頁
“ Stretch Walking Pattern Generation for a Biped Humanoid Robot, ”	共著	平成 15 年 10 月	Proceedings of IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems,		352-357 頁
“ Mechanism and Control of Biped Humanoid Robots, ”	単著	平成 15 年 11 月	Proceedings of ITRC-IRRC Human Robot Workshop,		52-64 頁
“ Numerical Simulation for an Optimum Design of a Humanoid Leg through Stiffness Analysis, ”	共著	平成 15 年 11 月	Proceedings of IEEE-RAS International Conference on Humanoid Robots, CD-ROM Proc.		

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Mechanism and Control of Biped Humanoid Robots	単著	平成 15 年 11 月	ITRC-IRRC Human Robot Workshop, Daejeon,Republic of Korea		
Dynamic Simulation and Experiments for the Design of a New 7-dofs Biped Walking Leg Module	共著	平成 16 年 1 月	International Journal of Information, Education and Research in Robotics and Artificial Intelligence(ROBOTICA),Vol.22,No.1		41-50 頁
脚機構にパラレルメカニズムを用いた汎用 2 足ロコモータの開発 (第 1 報, 試作機 WL-15 の設計・開発)	共著	平成 16 年 3 月	日本機械学界論文集（C 編）Vol.70,No.691		790-797 頁
“ Control and Experiments of a Multi-purpose Bipedal Locomotor with Parallel Mechanism, ”	共著	平成 16 年 4 月	Proceedings of IEEE International Conference on Robotics and Automation,		3055-3060 頁
“ Development of a Human-like Walking Robot Having Two 7-DOF Legs and a 2-DOF Waist, ”	共著	平成 16 年 4 月	Proceedings of IEEE International Conference on Robotics and Automation,		134-139 頁
Position-based Impedance Control of Biped Humanoid Robot	共著	平成 16 年 4 月	International Journal of Advanced Robotics,Vol.18,No.4		415-435 頁
Online Walking Pattern and Balance Motion for a Biped Humanoid Robot Having a Trunk	共著	平成 16 年 4 月	International Journal of Human-friendly Welfare Robotic Systems,Vol.5,No.1		26-35 頁
“ WL-15: Prototype of a Multi-purpose Biped Locomotor with Parallel Mechanism, ”	共著	平成 16 年 6 月	CISM-IFToMM Symposium on Robot Design, Dynamics and Control, Paper №04-38 in CD-ROM,		
“ Realization of Knee Stretch Walking by a New Biped Robot, WABIAN-2 LL, ”	共著	平成 16 年 6 月	CISM-IFToMM Symposium on Robot Design, Dynamics and Control, Paper №04-28 in CD-ROM,		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
“ Compliance Control for Stable Biped Walking Motion, ”	共著	平成 16 年 7 月	Proceedings of International Conference on Cybernetics and Information Technologies, Systems and Application,		402-407 頁
Emotion-based Biped Walking	共著	平成 16 年 9 月	International Journal of Information, Education and Research in Robotics and Artificial Intelligence(ROBOTICA),Vol.22,No.5		577-586 頁
“ Support Torque Reduction Mechanism for Biped Locomotor with Parallel Mechanism, ”	共著	平成 16 年 10 月	Proceedings of IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems,		3213-3218 頁
“ A Novel Method of Biped Walking Pattern Generation with Predetermined Knee Joint Motion, ”	共著	平成 16 年 10 月	Proceedings of IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems,		2831-2836 頁
“ ２足ヒューマノイドロボットの膝関節伸展型歩行パターン生成, ”	共著	平成 16 年 12 月	日本機械学会論文集（C 編）（第 70 巻 700 号）		147-153 頁
Compensatory Motion Control for a Biped Walking Robot	共著	平成 17 年 1 月	International Journal of Information, Education and Research in Robotics and Artificial Intelligence, Vol.23, No.1		1-11 頁
Mechanism and Motion of New Biped Leg Machine	共著	平成 17 年 1 月	Proceedings of International Conference on Control, Automation and Systems		1922-1927 頁
Walking Control Method of Biped Locomotion on Inclined Plane	共著	平成 17 年 4 月	Proceedings of IEEE International Conference on Robotics and Automation		1989-1994 頁
Realization by Biped Leg-wheeled Robot of Biped Walking and Wheel-driven Locomotion	共著	平成 17 年 4 月	Proceedings of IEEE International Conference on Robotics and Automation		2981-2986 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Evaluation of Various Walking Patterns of Biped Humanoid Robot	共著	平成 17 年 4 月	Proceedings of IEEE International Conference on Robotics and Automation		605-610 頁
Development of Foot System of Biped Walking Robot Capable of Maintaining Four-point Contact	共著	平成 17 年 8 月	Proceedings of IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems		1464-1469 頁
Walking Up and Down Stairs Carrying a Human by a Biped Locomotor with Parallel Mechanism	共著	平成 17 年 8 月	Proceedings of IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems		3425-3430 頁
“ Development of A Humanoid Robot WABIAN-2, ”	共著	平成 18 年	the 2006 IEEE International Conference on Robotics and Automation	Yu Ogura, Hiroyuki Aikawa, Kazushi Shimomura, Hideki Kondo, Akitoshi Morishima, Hun-ok Lim and Atsuo Takanishi	76-81 頁
Stiffness Analysis of the Humanoid Robot WABIAN-RIV	共著	平成 18 年 1 月	Mechanism and Machine Theory, Vol.41, No.1		17-40 頁
Towards the Biped Walking Wheelchair	共著	平成 18 年 2 月	Proceedings of IEEE/RAS-EMBS International Conference on Biomedical Robotics and Biomechatronics,No.289,Pisa,Italy.		
Realization of Stable Biped Walking on Public Road with New Biped Foot System Adaptable to Uneven Terrain.	共著	平成 18 年 2 月	Proceedings of IEEE/RAS-EMBS International Conference on Biomedical Robotics and Biomechatronics,No.157,Pisa,Italy.		
Development of Humanoid Robot Capable of Leaning on a Walk-assist Machine	共著	平成 18 年 2 月	Proceedings of IEEE/RAS-EMBS International Conference on Biomedical Robotics and Biomechatronics,No.299,Pisa,Italy.		

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Quasi-human Biped Walking	共著	平成 18 年 3 月	International Journal of Information, Education and Research in Robotics and Artificial Intelligence, Vol.24, No.2		257-268, 577-586 頁
“ Biped Landing Pattern Modification Method with Nonlinear Compliance Control, ”	共著	平成 18 年 5 月	Proceedings of the 2006 IEEE International Conference on Robotics and Automation,	Kenji Hashimoto, Yusuke Sugahara, Hiroyuki Sunazuka, Chiaki Tanaka, Akihiro Ohta, Masamiki Kawase, Hun-ok Lim and Atsuo Takanishi,	1213-1218 頁
“ Falling Avoidable Foot Mechanism for Biped Locomotor, ”	共著	平成 18 年 5 月	Proceedings of the 2006 IEEE International Conference on Robotics and Automation,	Kenji Hashimoto, Yusuke Sugahara, Chiaki Tanaka, Masamiki Kawase, Hiroyuki Sunazuka, Akihiro Ohta, Hun-ok Lim and Atsuo Takanishi	1219-1224 頁
Stiffness Experimental Monitoring for WL-16RII Biped Locomotor During Walking, Proceedings of the 16th CISM-IFToMM Symposium on Robot Design, Dynamics and Control(ROMANSY16), Springer	共著	平成 18 年 6 月	Wien New York	Giuseppe Carbone, Marco Ceccarelli, Yusuke Sugahara, Hun-ok Lim and Atsuo Takanishi,	105-112 頁
“ Development of a New Humanoid Robot to Realize Various Walking Pattern Using Waist Motions, ”	共著	平成 18 年 6 月	the Proceedings of the sixteenth CISM-IFToMM Symposium on Robot Design, Dynamics, and Control (ROMANSY16), Springer Wien New York,	Yu Ogura, Hiroyuki Aikawa, Kazushi Shimomura, Hideki Kondo, Akitoshi Morishima, Hun-ok Lim and Atsuo Takanishi	279-286 頁
4. “ WL-16RII: Prototype of Biped Walking Wheelchair, ”	共著	平成 18 年 6 月	Proceedings of the 16th CISM-IFToMM Symposium on Robot Design, Dynamics and Control(ROMANSY 16), Springer Wien New York	Yusuke Sugahara, Kenji Hashimoto, Hiroyuki Sunazuka, Masamiki Kawase, Akihiro Ohta, Chiaki Tanaka, Hun-ok Lim and Atsuo Takanishi,	313-320 頁
New Biped Foot System Adaptable to Uneven Terrain	共著	平成 18 年 6 月	Journal of Robotics and Mechatronics, Vol.18, No.3, 271-277.	K. Hashimoto, Y. Sugahara, Hun-ok Lim and A. Takanishi.	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Can a Humanoid Robot be Used as a Guinea Pig of Human?	共著	平成 18 年 7 月	2006 the International Symposium on Experimental Robotics, CD-ROM Proc.	Hideki Kondo, Yu Ogura, Hiroyuki Aikawa, Kazushi Shimomura, Akitoshi Morishima, Hun-ok Lim and Atsuo Takanishi.	
Human-like Walking with Knee Stretched, Heel-contact and Toe-off Motion by a Humanoid Robot	共著	平成 18 年 9 月	Proceedings of the 2006 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems, pp.3976-3981.	Yu Ogura, Kazushi Shimomura, Hideki Kondo, Akitoshi Morishima, Tatsu Okubo, Shimpei Momoki, Hun-ok Lim and Atsuo Takanishi.	
Dynamic Locomotion and Mechanism of Biped Walking Robot	共著	平成 18 年 10 月	Proceedings of International Conference on Control, Automation and Systems,pp.3484-1989.	Hun-ok Lim, Y. Ogura, and A. Takanishi.	
Landing Pattern Modification Method with Predictive Attitude and Compliance Control to Deal with Uneven Terrain	共著	平成 18 年 10 月	Proceedings of the 2006 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems, pp.1755-1760.	Kenji Hashimoto, Yusuke Sugahara, Masamiki Kawase, Akihiro Ohta, Chiaki Tanaka, Akihiro hayashi, Nobutsuna Endo, Terumasa Sawato, Hun-ok Lim and Atsuo Takanishi.	
Motion Pattern Generation for a Biped Walking Vehicle Using Dynamic Human Model	共著	平成 18 年 10 月	Proceedings of the 2006 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems, pp.2497-2502.	Yusuke Sugahara, Kenji Hashimoto, Masamiki Kawase, Terumasa Sawato, Akihiro Hayashi, Nobutsuna Endo, Akihiro Ohta, Chiaki Tanaka, Hun-ok Lim and Atsuo Takanishi.	
Biped Walking Robots: WL and WABIAN Family	共著	平成 19 年 1 月	Philosophical Transactions of the Royal Society A: Mathematical, Physical and Engineering Sciences, Vol.365, No.1850, pp.49-64.	Hun-ok Lim and A. Takanishi.	
New Foot System Adaptable to Convex and Concave Surface	共著	平成 19 年 4 月	Proceedings of the 2007 IEEE International Conference on Robotics and Automation, pp.1869-1874.	Kenji Hashimoto, Yusuke Sugahara, Akihiro Hayashi, Masamiki Kawase, Terumasa Sawato, Nobutsuna Endo, Akihiro Ohta, Chiaki Tanaka, Hun-ok Lim, Atsuo Takanishi.	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Development of a Biped Locomotor with the Double Stage Linear Actuator	共著	平成 19 年 4 月	Proceedings of the 2007 IEEE International Conference on Robotics and Automation, pp.1850-1855.	Yusuke Sugahara, Kenji Hashimoto, Nobutsuna Endo, Terumasa Sawato, Masamiki Kawase, Akihiro Ohta, Chiaki Tanaka and Akihiro Hayashi, Hun-ok Lim, Atsuo Takanishi.	
Experimental Stiffness Measurement of WL-16RII Biped Walking Vehicle during Walking Operation	共著	平成 19 年 6 月	Journal of Robotics and Mechatronics, Vol.19, No.3, pp.272-280.	Yusuke Sugahara, Giuseppe Carbone, Kenji Hashimoto, Marco Ceccarelli, Hun-ok Lim and Atsuo Takanishi.	
搭乗者の受動的運動を考慮した人間搭乗型２足歩行ロボットの歩行パターン生成	共著	平成 19 年 9 月	日本ロボット学会誌, Vol.25, No.6, pp.842-850.	菅原雄介，橋本健二，川瀬正幹，沢戸瑛昌，太田章博，田中智明，林昭宏，遠藤信綱，林憲玉，高西淳夫.	
着地軌道修正制御と推定姿勢補償制御による人間搭乗屋外歩行の実現	共著	平成 19 年 9 月	日本ロボット学会誌, Vol.25, No.6, pp.851-859.	橋本健二，菅原雄介，川瀬正幹，林昭宏，田中智明，太田章博，沢戸瑛昌，遠藤信綱，林憲玉，高西淳夫.	
Development of a Biped Walking Robot	共著	平成 19 年 10 月	Proceedings of International Conference on Control, Automation and Systems, pp.1126-1131.	Hun-ok Lim and Kensuke Tajima.	
Development of a Personal Motor Roller	共著	平成 19 年 10 月	Proceedings of International Conference on Control,Automation and Systems, pp.1120-1125.	Hun-ok Lim and Hiroyuki Tamai.	
Unknown Disturbance Compensation Control for a Biped Walking Vehicle	共著	平成 19 年 11 月	Proceedings of the 2007 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems, pp.2204-2209.	Kenji Hashimoto, Yusuke Sugahara, Chiaki Tanaka, Akihiro Ohta, Kentaro Hattori, Terumasa Sawato, Akihiro Hayashi, Hun-ok Lim, Atsuo Takanishi.	
Locomotion Pattern Generation and Mechanisms of New Biped Walking Machine	共著	平成 20 年 1 月	Proceedings of the Royal Society A: Mathematical, Physical and Engineering Sciences, Vol.464, No.2089, pp.273-288.	Hun-ok Lim, Yu Ogura and A. Takanishi.	
Swizzle Movement for Biped Walking Robot Having Passive Wheels	共著	平成 20 年 6 月	Journal of Robotics and Mechatronics, Vol.20, No.3, pp.413-419.	Kenji Hashimoto, Yusuke Sugahara, Hun-ok Lim and Atsuo Takanishi.	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
その他					
“２足ダチョウ型ロボットの歩行制御，”	共著	平成 15 年 6 月	ロボティクス・メカトロニクス講演会，論文番号 2P1-1F-A4（in CD-ROM Proc.），		
“歩行アシスト機構・制御システムの開発，”	共著	平成 15 年 6 月	ロボティクス・メカトロニクス講演会，論文番号 2P1-2F-C8（in CD-ROM Proc.），		
“バッタ型ロボットの開発と制御，”	共著	平成 15 年 6 月	ロボティクス・メカトロニクス講演会，論文番号 1P1-1F-A6（in CD-ROM Proc.），		
“Development of Electrically actuated one-leg Robot，”	共著	平成 15 年 6 月	ロボティクス・メカトロニクス講演会，論文番号 2P1-1F-A4（in CD-ROM Proc.），		
ZMP 安定判別規範型モーメント補償軌道生成アルゴリズムを用いた４足歩行の実現，”	共著	平成 15 年 9 月	“日本ロボット学会学術講演会，論文番号 2G15（in CD-ROM Proc.），		
“脚部にパラレルリンク機構を用いた２足ロコモータの開発（第４報：高可搬重量化、広可動範囲化を図った新型ハードウェアの開発，”	共著	平成 15 年 9 月	日本ロボット学会学術講演会，論文番号 1G24（in CD-ROM Proc.），		
“脚部にパラレルリンク機構を用いた２足ロコモータの開発（第３報：仮想コンプライアンス制御を用いた不整地歩行），”	共著	平成 15 年 9 月	日本ロボット学会学術講演会，論文番号 1G16（in CD-ROM Proc.），		
“人間と同等の脚部自由度を持つ２足ヒューマノイドロボットの開発（第１報：脚の開発と基礎実験），”	共著	平成 15 年 9 月	日本ロボット学会学術講演会，論文番号 1A29（in CD-ROM Proc.），		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
“ 人間と同等の脚部自由度を持つ２足ヒューマノイドロボットの開発（第２報:膝関節伸展型２足歩行パターン生成方式の開発）, ”	共著	平成 15 年 9 月	日本ロボット学会学術講演会, 論文番号 1A2a（in CD-ROM Proc.）,		
“ 人の運搬を目指した 2 足移動モジュールの開発, ”	共著	平成 15 年 10 月	福祉工学シンポジウム,		
“ 人の歩行を模擬できる股関節・骨盤メカニズムを有する 2 足歩行ロボット, ”	共著	平成 15 年 10 月	福祉工学シンポジウム,		
“ PIC を用いた小型 4 足歩行ロボットの自立化, ”	共著	平成 16 年 6 月	ロボティクス・メカトロニクス講演会, 論文番号 2P2-H-10（in CD-ROM Proc.）,		
“ 表面金電位を用いた歩行アシストシステムの歩行学習法, ”	共著	平成 16 年 6 月	ロボティクス・メカトロニクス講演会, 論文番号 2A1-H-52（in CD-ROM Proc.）,		
“ 脚部に 12 自由度を持つ 2 脚歩行ロボット開発, ”	共著	平成 16 年 6 月	ロボティクス・メカトロニクス講演会, 論文番号 1A1 － L1-48（in CD-ROM Proc.）,		
“ ２足歩行ロボットの移動効率向上を図った車輪式足部機構の開発, ”	共著	平成 16 年 9 月	日本ロボット学会学術講演会, 論文番号 1K33（in CD-ROM Proc.）,		
“ 脚部にパラレルリンク機構を用いた２足ロコモータの開発第 6 報：姿勢補償制御を用いた傾斜路面歩行, ”	共著	平成 16 年 9 月	日本ロボット学会学術講演会, 論文番号 1K31（in CD-ROM Proc.）,		
“ 脚部にパラレルリンク機構を用いた２足ロコモータの開発（第５報：自重支持トルク低減機構による可搬重量の増加と消費エネルギの低減）, ”	共著	平成 16 年 9 月	日本ロボット学会学術講演会, 論文番号 1K32（in CD-ROM Proc.）,		
“ 多様な歩行運動を可能にする２足ヒューマノイドロボットの開発第２報：膝関節軌道指定型歩行パターン生成アルゴリズム, ”	共著	平成 16 年 9 月	日本ロボット学会学術講演会, 論文番号 3L26（in CD-ROM Proc.）,		

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
“ 多様な歩行運動を可能にする２足ヒューマノイドロボットの開発第１報：WABIAN-2/LL の開発と歩行実験, ”	共著	平成 16 年 9 月	日本ロボット学会学術講演会, 論文番号 3L25（in CD-ROM Proc.）,		
“ Sensory-based Walking Motion Instruction for Biped Humanoid Robot, ”	共著	平成 16 年 10 月	Robotics and Autonomous Systems. Vol.48,		223-230 頁
ヒューマノイドロボットが必要とする機能		平成 17 年 3 月	ロボット学会にてロボット工学セミナ		
福岡市ロボット開発・実証実験特区における２足歩行ロボットの公道歩行実験について	共著	平成 17 年 6 月	日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会、論文番号 1P1-S-040（in CD-ROM Proc.）		
２足歩行ロボットの不整地適応能力向上を図った足部機構の開発	共著	平成 17 年 6 月	日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会, 論文番号 1P1-S-041（in CD-ROM Proc.）		
体運動シミュレータとしての 2 足ヒューマノイドロボットの開発第３報：体幹を用いた前腕部制御による歩行支援機への寄りかかり運動	共著	平成 17 年 9 月	日本ロボット学会学術講演会、論文番号 1F33（in CD-ROM Proc.）		
体運動シミュレータとしての 2 足ヒューマノイドロボットの開発第２報：膝関節伸展型歩行における足部の倣い動作	共著	平成 17 年 9 月	日本ロボット学会学術講演会, 論文番号 1F32（in CD-ROM Proc.）		
人体運動シミュレータとしての２足ヒューマノイドロボットの開発第１報：体幹 2 自由度・腕７自由度を持つヒューマノイドロボットの開発	共著	平成 17 年 9 月	日本ロボット学会学術講演会、論文番号 1F31（in CD-ROM Proc.）		
腰部にパラレルリンク機構を用いた２足ロコモータの開発（第７報：人間搭乗階段昇降の実現）	共著	平成 17 年 9 月	日本ロボット学会学術講演会、論文番号 1G24（in CD-ROM Proc.）		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
2 足歩行ロボットの不整地適応能力向上を図った足部機構の開発（第 2 報：保持機構の強化による不整地歩行の実現）	共著	平成 17 年 9 月	日本ロボット学会学術講演会，論文番号 1G23 (in CD-ROM Proc.)		
人間搭乗型 2 足歩行ロボット WL-16RII の歩行中の剛性測定実験	共著	平成 18 年 5 月	日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会２００５，2P1-B11，東京都	１３．　菅原雄介，Giuseppe Carbone，Marco Ceccarelli，橋本健二，林憲玉，高西淳夫	
脚部にパラレルリンク機構を用いた汎用 2 足ロコモータの開発（第１０報：支持多角形拡大による足部転倒防止機構）	共著	平成 18 年 5 月	日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会２００５，2P1-B12，東京都	橋本健二，菅原雄介，田中智明，川瀬正幹，砂塚裕之，太田章博，林憲玉，高西淳夫	
２足歩行ロボットの不整地適応能力向上を図った足部機構の開発,（第３報：新保持機構開発による不整地歩行の実現）	共著	平成 18 年 9 月	日本ロボット学会第 24 回学術講演会予稿集，2F15，岡山県	橋本健二，菅原雄介，林昭宏，川瀬正幹，太田章博，田中智明，遠藤信綱，沢戸瑛昌，林憲玉，高西淳夫	
脚部にパラレルリンク機構を用いた２足ロコモータの開発（第１３報：推定姿勢補償制御と着地軌道修正制御による人間搭乗屋外歩行の実現）	共著	平成 18 年 9 月	日本ロボット学会第 24 回学術講演会予稿集，1F33，岡山県	橋本健二，菅原雄介，川瀬正幹，田中智明，太田章博，林昭宏，沢戸瑛昌，遠藤信綱，林憲玉，高西淳夫	
脚部にパラレルリンク機構を用いた２足ロコモータの開発（第１２報：搭乗者の力学モデルを用いた歩行パターン生成）	共著	平成 18 年 9 月	日本ロボット学会第 24 回学術講演会予稿集，1F32，岡山県	橋本健二，菅原雄介，川瀬正幹，太田章博，田中智明，沢戸瑛昌，林昭宏，遠藤信綱，林憲玉，高西淳夫	
“ 爪先受動関節を持つヒューマノイドロボットによる踵接地・爪先離地歩行 ”	共著	平成 18 年 9 月	第 24 回日本ロボット学会学術講演会 CD-ROM	小椋優，下村嘉士，桃木新平，大久保達，林憲玉，高西淳夫	
“ 人間の歩行データを用いたロボットヒューマノイド用足部機構の開発 ”	共著	平成 18 年 9 月	第 24 回日本ロボット学会学術講演会 CD-ROM	桃木新平，下村嘉士，大久保達，小椋優，近藤秀樹，森島彰俊，林憲玉，高西淳夫	
脚部にパラレルリンク機構を用いた２足ロコモータの開発（第１１報：高可動範囲化を目的とした２段直動アクチュエータの開発）	共著	平成 18 年 9 月	日本ロボット学会第 24 回学術講演会予稿集，1F31，岡山県	橋本健二，菅原雄介，遠藤信綱，沢戸瑛昌，川瀬正幹，太田章博，田中智明，林昭宏，林憲玉，高西淳夫	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
“２足歩行ロボットの不整地適応能力向上を図った足部機構の開発,（第３報：新保持機構開発による不整地歩行の実現），”	共著	平成 18 年 9 月	日本ロボット学会第 24 回学術講演会予稿集，2F15，岡山県	橋本健二，菅原雄介，林昭宏，川瀬正幹，太田章博，田中智明，遠藤信綱，沢戸瑛昌，林憲玉，高西淳夫	
“脚部にパラレルリンク機構を用いた２足ロコモータの開発（第１１報：高可動範囲化を目的とした２段直動アクチュエータの開発），”	共著	平成 18 年 9 月	日本ロボット学会第 24 回学術講演会予稿集，1F31，岡山県	橋本健二，菅原雄介，遠藤信綱，沢戸瑛昌，川瀬正幹，太田章博，田中智明，林昭宏，林憲玉，高西淳夫	
“脚部にパラレルリンク機構を用いた２足ロコモータの開発（第１２報：搭乗者の力学モデルを用いた歩行パターン生成），”	共著	平成 18 年 9 月	日本ロボット学会第 24 回学術講演会予稿集，1F32，岡山県	橋本健二，菅原雄介，川瀬正幹，太田章博，田中智明，沢戸瑛昌，林昭宏，遠藤信綱，林憲玉，高西淳夫	
“脚部にパラレルリンク機構を用いた２足ロコモータの開発（第１３報：推定姿勢補償制御と着地軌道修正制御による人間搭乗屋外歩行の実現），”	共著	平成 18 年 9 月	日本ロボット学会第 24 回学術講演会予稿集，1F33，岡山県	橋本健二，菅原雄介，川瀬正幹，田中智明，太田章博，林昭宏，沢戸瑛昌，遠藤信綱，林憲玉，高西淳夫	
“人間の歩行データを用いたロボットヒューマノイド用足部機構の開発 ”	共著	平成 18 年 9 月	第 24 回日本ロボット学会学術講演会 CD-ROM	桃木新平，下村嘉士，大久保達，小椋優，近藤秀樹，森島彰俊，林憲玉，高西淳夫	
“２足歩行ロボットの受動車輪機構を用いた滑走移動（第１報:インラインスケートによるスウィズル動作の実現），”	共著	平成 19 年 5 月		橋本健二，菅原雄介，細畠拓也，御厨裕，砂塚裕之，川瀬正幹，林憲玉，高西淳夫	
“２足歩行ロボットの受動車輪機構を用いた滑走移動（第２報：ローラースケートによる蹴り出し動作の実現），”	共著	平成 19 年 5 月		橋本健二，菅原雄介，細畠拓也，御厨裕，砂塚裕之，川瀬正幹，林憲玉，高西淳夫	
“人間搭乗型２足歩行ロボットにおけるスチュワート・プラットフォーム型脚機構の最適化設計と評価，”	共著	平成 19 年 7 月		橋本健二，菅原雄介，服部賢太郎，太田章博，田中智明，沢戸瑛昌，林昭宏，林憲玉，高西淳夫	29-34 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
“ 脚部にパラレルリンク機構を用いた２足ロコモータの開発（第１４報：脚機構の最適化設計），”	共著	平成 19 年 9 月		橋本健二，菅原雄介，太田章博，服部賢太郎，田中智明，沢戸瑛昌，林昭宏，林憲玉，高西淳夫	
“ Development of Biped Humanoid Robot as Human Motion Simulator － 6th Report: Dynamic Simulation for Biped Walking with Walk-assist Machine －，”	共著	平成 19 年 9 月		オマール・アイマン，小椋優，近藤秀樹，林憲玉，高西淳夫	
“ 人体運動シミュレータとしての２足ヒューマノイドロボットに関する研究－第５報：擬似障害歩行パターン生成アルゴリズムの開発－，”	共著	平成 19 年 9 月		近藤秀樹，森島彰俊，清水自由理，小椋優，桃木新平，林憲玉，高西淳夫	
人体運動シミュレータとしての 2 足ヒューマノイドロボットの開発－第 4 報：ユーザビリティの向上を目的とした電装システムの改良－，”	共著	平成 19 年 9 月		清水　自由理，近藤秀樹，森島彰俊，小椋優，桃木新平，林憲玉，高西淳夫	

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
平成 11 年 3 月～現在に至る	日本ロボット学会会員
平成 11 年 3 月～現在に至る	日本機械学会会員
平成 11 年 3 月～現在に至る	計測自動制御学会会員
平成 11 年 3 月～現在に至る	IEEE 会員
平成 16 年 4 月～平成 18 年 3 月	日本ロボット学会評議員
平成 19 年 4 月～現在に至る	日本ロボット学会評議員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部機械工学科	職名 教授	氏名 浦田　暎三	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
Web を利用した授業サポート,（授業科目：工学解析及び演習Ⅱ）	平成 15 年 4 月 3 日 ～平成 15 年 8 月 31 日	昨年度 Web 上に公開した授業用のテキスト及び演習問題の解答例を、本年度授業用に改訂して公開した。この公開は昨年度から始めたが、受講者数は昨年度よりもかなり増加しているようである。
Ｗｅｂを利用した授業サポート,（授業科目：統計解析）	平成 15 年 4 月 4 日 ～現在に至る	授業用のテキスト，資料を作成し，研究室のホームページに載せ，学生がダウンロードして使用できるようにした．学生が授業に出席する前に当日授業内容を知って，予習することができるようにした．
Web を利用した授業サポート,（授業科目：工学解析及び演習 2）	平成 16 年 7 月 31 日 ～現在に至る	授業用のテキスト、演習問題の解答例をそれぞれファイルに作成し、また授業で使用するスライド（パワーポイント）を研究室のホームページに乗せ、学生が予習、復習に際して、随時インターネットからアクセスできるようにした。またこれらはすべてプリントできるように、ファイルをアクロバットリーダーで読めるように変換した。これにより、学生は必要な部分を印刷し、授業にのぞむことができるし、出席できない場合でも、授業の概要を把握できる。この処理による出席者数の減少はほとんどない。
Ｗｅｂを利用した授業サポート，授業科目：制御工学	平成 19 年 8 月 31 日 ～現在に至る	授業に用いるテキストを作成し，公開した．研究室のホームページに載せてあるので，学生はダウンロードして使用できる．また当日の授業内容の概要を知ることができる．
Ｗｅｂを利用した授業サポート，授業科目：動力伝達工学	平成 20 年 3 月 31 日 ～現在に至る	テキスト及び資料を作成し，研究室のホームページに載せ，授業期間中に学生が利用できるようにした．学生は，当日授業の内容をあらかじめ知って用っ不ができる．また出席できない場合も，ダウンロードして，授業概要をしることができる．
Web を利用した授業サポート,（授業科目：機械の数理）	～平成 15 年 4 月 3 日	昨年度 Web 上に公開した授業用のテキスト及び演習問題の解答例を、本年度授業用に改訂して公開した。学生が予習・復習に際して、随時インターネットからアクセスできるようにした。またこれらはすべてプリントできるように、ファイルをアクロバットリーダーで読めるように変換した。これにより、学生は必要な部分を印刷し、授業にのぞむことができるし、出席できない場合でも、授業の概要を把握できる。
Web を利用した授業サポート,（授業科目：工業力学及び演習Ⅱ）	～平成 15 年 4 月 3 日	授業用のテキストを研究室のホームページに載せ、学生が予習・復習に際して、随時インターネットからアクセスできるようにした。またこれらはすべてプリントできるように、ファイルをアクロバットリーダーで読めるように変換した。これにより、学生は必要な部分を印刷し、授業にのぞむことができるし、出席できない場合でも、授業の概要を把握できる。

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
Web を利用した授業サポート,（授業科目：工学解析及び演習 1）	～平成 17 年 2 月 2 日	授業で使用したスライド（パワーポイント）を研究室のホームページに乗せ、学生が復習に際して、随時インターネットからアクセスできるようにした。これらは、各回別の個別ファイルと、全体の圧縮ファイルとしてある。また学生は E メールにより随時質問できる。試験期に学生のアクセスが集中している。
2　作成した教科書、教材		
授業科目：機械の数理	平成 13 年 4 月 1 日	上記授業用テキスト
授業科目：機械の数理	平成 14 年 4 月 1 日	上記授業用テキスト改訂版
授業科目：工業力学及び演習Ⅱ	平成 14 年 4 月 1 日	上記授業用テキスト
授業科目：機構学	平成 14 年 8 月 31 日	上記授業用テキスト
授業科目：工学解析及び演習Ⅱ	平成 15 年 4 月 3 日	上記の授業用教材
授業科目：統計解析	平成 15 年 4 月 4 日	上記授業用テキスト
授業科目：工学解析及び演習 1	平成 16 年 4 月 1 日	上記授業用テキスト
授業科目：工学解析及び演習 2	平成 16 年 7 月 31 日	上記授業用テキスト
授業科目：制御工学	平成 19 年 8 月 31 日	上記授業用テキスト
授業科目：動力伝達工学	平成 20 年 3 月 31 日	上記授業テキスト
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
Static Stability of Toque Motors	単著	平成 15 年 5 月	The Eighth Scandinavian Intl.Conf. on Fluid Power,Vol.2,(Tampere).		871-885 頁
Improvement of Cavitation Resistive Property of a Water Hydraulic Relief Valve	共著	平成 15 年 5 月	The Eighth Scandinavian International Conference on Fluid Power, Vol.2 (Tampere)	K. Suzuki, E. Urata	265-276 頁
Influence of eddy current on torque-motor dynamics	単著	平成 16 年 3 月	4ht International Fluid Power Conf.Workshop Proceedings,(Dresden)		71-82 頁
One-degree-of-freedom Model for Torque-motor Dynamics	単著	平成 16 年 8 月	InternationalJouranl of Fluid Power5,（2）		35-42 頁
Improvement in Static Characteristics of a Water Hydraulic Relief Valve	共著	平成 17 年 6 月	The Ninth Scandinavian Intl. Conf. on Fluid Power, Proc. CD-ROM (Linkoping, 2005-6)	K. Suzuki, E. Urata	
Influence of Asymmetry of Air-Gaps in Servovalve Torque Motors	単著	平成 17 年 6 月	The Ninth International Conf. on Fluid PowerCD-ROM (Linkoping, 2005-6)		
Notes on Contamination Control	単著	平成 17 年 11 月	The Sixth JFPS Intl. Symp. on Fluid Power, Proc. CD-ROM (Tsukuba, 2005-11)		
Dynamic Characteristics of a Direct-Pressure Sensing Water Hydraulic Relief Valve	共著	平成 17 年 11 月	The Sixth JFPS Intl. Symp. on Fluid Power, Proc. CD-ROM (Tsukuba, 2005-11)	K. Suzuki, E. Urata	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
A quasi-single-pass test method for fluid power filters	共著	平成 18 年 9 月	Bath Symposium on Power Transmission and Motion Control, PTMC2006 (Hadleys Ltd)	E. Urata, K. Suzuki and Y. Kato	95-106 頁
Development of a Pressure-compensated Flow Control Valve for Water Hydraulics	共著	平成 19 年 5 月	Proceedings of TheTenth Scandinavian Intl. Conf. on Fluid Powervol. 2	K. Suzuki and E. Urata	47-60 頁
A Suggestion of Artificial Filter Test Dust	共著	平成 19 年 5 月	Proceedings of The Tenth Scandinavian Intl. Conf. on Fluid PowerVol. 2	E. Urata, K. Tajima, K. Suzuki and T. Suda	203-212 頁
On the torque generated in a servo valve torque motor using permanent magnets	単著	平成 19 年 5 月	Proc. IMechE Part C: Journal of Mechanical Engineering Science221,（C5）		519-526 頁
流体フィルタの性能測定及び評価に関する研究	共著	平成 19 年 11 月	神奈川大学　工学研究所所報（30）	浦田暎三，田嶋和夫	39-51 頁
Influence of unequal air-gap thickness in servo valve torque motors	単著	平成 19 年 11 月	Proc. IMechE Part C: Journal of Mechanical Engineering Science221,（C11）		1287-1297 頁
The stiffness of armature support in servo-valve torque-motors	共著	平成 20 年 3 月	Procedings of 6th IFK Workshop	E. Urata, K.Suzuki, T.Mori	113-126 頁
Development of a direct ressure-sensing water hydraulic relief valve	共著	平成 20 年 8 月	International Journal of Fluid Power9,（2）	Kenji Suzuki, Eizo Urata	5-13 頁
Development of a water hydraulic pressure-compensated flow control valve	共著	平成 20 年 11 月	Intl. J. of Fluid Power9,（3）	K. Suzuki and E. Urata	25-33 頁
Development of a direct pressure-sensing pressure-reducing valve for water hydraulics	共著	平成 20 年 12 月	Proc. Instn Mech Engers, Part I: J. Systems and Control Engineering222,（I8）	K. Suzuki and E. Urata	787-797 頁
その他					

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
水圧制御弁に用いる静圧軸受の性能に及ぼす真円度の影響	共著	平成 16 年 3 月	日本機械学会中国四国支部第 42 期総会・講演会講演論文集, (広島, 2004-3).	内田慶一郎, 鈴木健児, 浦田暎三	133-134 頁
水圧用リリーフ弁におけるキャビテーション抑制のための設計	共著	平成 16 年 3 月	日本機械学会中国四国支部第 42 期総会・講演会講演論文集, (広島, 2004-3).	小林拓也, 鈴木健児, 浦田暎三	137-138 頁
圧力直接検知方式を用いた水圧用圧力制御弁の開発	共著	平成 16 年 11 月	平成 16 年度秋季フルードパワーシステム講演会講演論文集, (高知, 2004-11).	田中弥智, 鈴木健児, 浦田暎三	149-151 頁
水圧用圧力補償型流量調整弁の試作	共著	平成 16 年 11 月	平成 16 年度秋季フルードパワーシステム講演会講演論文集, (高知, 2004-11).	上條智拓, 鈴木健児, 浦田暎三	152-154 頁
サーボ弁のトルクモータにおける磁気回路の研究	共著	平成 17 年 3 月	日本機械学会九州支部第 58 期総会・講演会講演論文集, (福岡，2005-3).	奈良祐一, 鈴木健児, 浦田暎三	263-264 頁
流体駆動装置に用いるフィルタのろ過特性評価方法	共著	平成 17 年 3 月	日本機械学会九州支部第 58 期総会・講演会講演論文集, (福岡，2005-3).	代永政也, 鈴木健児, 浦田暎三	375-376 頁
アンビル式によるキャビテーションエロージョン試験	共著	平成 18 年 3 月	日本機械学会九州支部第 59 期総会・講演会講演論文集, (福岡，2006-3).	文蔵大輔, 鈴木健児, 浦田暎三	45-46 頁
シングルパス法によるろ過特性測定実験,	共著	平成 18 年 3 月	日本機械学会九州支部第 59 期総会・講演会講演論文集, (福岡，2006-3).	加藤裕哉, 鈴木健児, 浦田暎三	111-112 頁
コンタミネーションコントロールの基礎研究	単著	平成 18 年 11 月	「フルードパワーシステム」（フルードパワーシステム学会）37,（6）		332-335 頁
水圧用圧力補償型流量調整弁の研究	共著	平成 19 年 3 月	日本機械学会関東支部第 13 期総会講演会講演論文集, (宇都宮，2007-3).	富井大輔, 鈴木健児, 浦田暎三	89-90 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
水圧リリーフ弁内の圧力降下特性と弁の変形が弁の性能に及ぼす影響,	共著	平成 19 年 3 月	日本機械学会関東支部第 13 期総会講演会講演論文集, (宇都宮，2007-3).	渡辺洋明, 鈴木健児, 浦田暎三	91-92 頁
準シングルパス法によるフィルタのろ過特性の評価, ,	共著	平成 19 年 3 月	日本機械学会関東支部第 13 期総会講演会講演論文集 (宇都宮，2007-3).	後藤清隆, 鈴木健児, 浦田暎三	93-94 頁
サーボ弁用トルクモータのたわみ管のばね特性	共著	平成 19 年 3 月	日本機械学会関東支部第 13 期総会講演会講演論文集（宇都宮）	森貴志, 鈴木健児, 浦田暎三	405-406 頁
制御弁の流量係数及び流体力に関する研究	共著	平成 20 年 3 月	日本機械学会東北支部第 43 期総会講演会講演論文集 (仙台，2008-3).	香田一行, 鈴木健児, 浦田暎三	, pp.221-222 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 39 年 1 月～現在に至る	日本機械学会会員
昭和 45 年 4 月～現在に至る	科学研究費補助金 奨励研究（A） 200 千円 （研究代表者）
昭和 46 年 4 月～現在に至る	科学研究費補助金 奨励研究（A） 200 千円 （研究代表者）
昭和 47 年 4 月～現在に至る	科学研究費補助金 奨励研究（A） 240 千円 （研究代表者）
昭和 48 年 4 月～現在に至る	科学研究費補助金 奨励研究（A） 250 千円 （研究代表者）
昭和 49 年 1 月～現在に至る	日本フルードパワーシステム学会会員
昭和 53 年 4 月～現在に至る	科学研究費補助金 一般研究 D 450 千円 （　）（研究代表者）
昭和 56 年 1 月～平成 20 年 3 月	日本トライボロジー学会会員
昭和 58 年 1 月～現在に至る	計測自動制御学会会員
昭和 61 年 4 月～現在に至る	化学素材研究開発振興財団研究奨励金 2,500 千円 （機械材料に対する高含水流体の摩耗防止性能の評価に関する研究）（研究代表者）
平成元年 8 月～現在に至る	（国内共同研究）新技術事業団「水圧サーボシステム」
平成 13 年 1 月～平成 18 年 12 月	日本ロボット学会会員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部機械工学科	職名 教授	氏名 江上　正	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		なし
2　作成した教科書、教材		
電気機器とサーボモータ	平成 9 年 3 月	機械工学科３，４年次対象の講義「メカトロニクス」の教科書として執筆。笹島春己，江上正。電気機器の基本からパワーエレクトロニクス、およびメカトロニクスの一要素であるサーボモータまでわかり易く解説。〔主要項目〕直流機／同期機／変圧器／誘導機／パワーエレクトロニクス／サーボモータとその制御システム。
新版現代制御工学	平成 12 年 4 月	学部３年次対象の「自動制御及び演習１」、「自動制御及び演習２」、大学院対象の「制御工学特論１」、「制御工学特論２」の教科書として執筆。土谷武士、江上正。フィードバック制御系を中心として古典制御理論から現代制御理論までの基礎を直流モータ制御を具体例として取り上げながら丁寧に解説。［主要項目］制御工学とは／数学的基礎／数式モデル／特性表現／安定性・安定度／フィードバック制御系／最適レギュレータ系／最適ディジタルサーボ系／リニアブラシレスモータの最適ディジタル位置決め制御／他。
基礎システム工学	平成 13 年 3 月	学部３年次対象の「自動制御及び演習１」、「自動制御及び演習２」の参考書として執筆。土谷武士、江上正。制御の概念をイメージとして獲得してから、数式で制御理論の各論を理解するようにすることを最大の目標として執筆している。〔主要項目〕システム制御工学とは/フィードバック制御の具体例/フィードバック制御系が有効であるわけ/フィードバック制御系の構造/システムの表現/過渡応答と周波数応答による特性評価/安定性/PID 制御およびフィードバック増幅器/フィードバック制御系の特徴・一般論/より広い分野で－トータルシステム－。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
機械工学科 JABEE 委員としての活動	平成 15 年 4 月 1 日 ～平成 17 年 3 月 31 日	機械工学科の JABEE 委員として、平成 16 年度に受審した技術者教育プログラムの認定に必要な体制作り、環境整備、資料収集、自己点検書の作成などを行った。（平成 15 年 4 月 1 日～平成 17 年 3 月 31 日）
機械工学科広報委員としての活動	平成 17 年 4 月 1 日 ～平成 18 年 3 月 31 日	広報委員会副委員長として委員長の補佐を行った．また主に工学部・工学研究科広報、工学部・工学研究科業績報告の編集に携わった。とくに「工学部研究報告」に関しては編集長として，企画立案から原稿依頼，とりまとめまでを中心になって行った。
大学院研究委員会委員としての活動	平成 18 年 4 月 1 日 ～平成 19 年 3 月 31 日	研究委員会委員として，委員会においては書記として議事録のとりまとめを行った．また工学部重要機器整備費予算の学科配分やこれを用いた研究発表会の企画，工学部，大学院講演会のなどの企画を行った．大学院を中心として研究を活性化するための方針について検討を行った．
工学部予算委員としての活動	平成 18 年 4 月 1 日 ～平成 19 年 3 月 31 日	工学部予算委員として学科の予算の配分やとりまとめなどの業務を行った．
学生生活支援委員会委員としての活動	平成 19 年 4 月 1 日	全学の委員会である学生生活支援委員会の委員として活動した．

II　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
予見フィードフォワード補償を用いたディジタルスライディングモードサーボシステム	共著	平成 15 年 8 月	電気学会論文誌 C	佐藤匡, 江上正, 土谷武士	1439-1448 頁
伸縮座標変換を用いたベクトル分解経路	共著	平成 15 年 12 月	電気学会論文誌 D	江上正、円谷佳寛	1474-1482 頁
Digital Sliding Mode Servo Systems with Preview Feedforward Compensation	共著	平成 16 年 1 月	Electrical Engineering in Japan149,（1）	T.Sato, T.Egamiand T.Tsuchiya	33-43 頁
セミアクティブショックアブソーバのインテリジェント制御	共著	平成 16 年 10 月	日本機械学会論文集 C 編	豊田恭孝、江上正	40-48 頁
最適スライディングモード制御系の極の性質	共著	平成 16 年 11 月	日本機械学会論文集 C 編	愛田一雄、長島弘明、江上正、土谷武士	130-135 頁
任意曲線経路に対する移動車両の経路制御	共著	平成 17 年 1 月	計測自動制御学会論文集 41,（1）	江上正、望月光一郎、中崎哲	85-87 頁
離散時間スライディングモード予見繰り返しサーボ系の設計	共著	平成 17 年 9 月	システム制御情報学会論文誌 18,（9）	佐藤匡，江上正，土谷武士	312-321 頁
セミアクティブショックアブソーバのオリフィス面積制御	共著	平成 18 年 5 月	日本機械学会論文誌 C 編	佐野延忠，江上正	16-23 頁
任意曲線経路に対する移動車両の経路制御	単著	平成 18 年 7 月	計測と制御非ホロノミックメカニズム入門		595-601 頁
探索を用いた経路制御手法の提案とその応用	共著	平成 19 年 8 月	日本機械学会論文集（C 編）73,（732）	田坂泰久，江上正	64-71 頁
2 足歩行恐竜型ロボットの製作とその歩行理論	共著	平成 19 年 11 月	神奈川大学工学研究所所報（30）	宇佐見義之，江上正	52-60 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
その他					
形態可変型ロボットハンドの改良および制御	共著	平成 15 年 5 月	ロボティクス・メカトロニクス講演会 '03 1P1-1F-F8（公立はこだて未来大学）		
ベクトル分解経路制御の特性とその応用	共著	平成 15 年 5 月	第 47 回システム制御情報学会研究発表講演会［No.4010］（京都）		359-360 頁
二輪移動ロボットの経路制御	共著	平成 15 年 5 月	第 47 回システム制御情報学会研究発表講演会［No.4007］（京都）		353-354 頁
卓上型 NC フライス盤の経路制御	共著	平成 15 年 5 月	第 47 回システム制御情報学会研究発表講演会［No.4011］（京都）		361-362 頁
新しい経路制御手法の提案とその応用	単著	平成 15 年 11 月	北海道大学大学院講演会		
卓上型 NC フライス盤の経路制御	共著	平成 15 年 11 月	第 46 回自動制御連合講演会（岡山大学）		353-354 頁
卓上型 NC フライス盤の経路制御	共著	平成 16 年 1 月	第 36 回計測自動制御学会北海道支部学術講演会 A2（札幌コンベンションセンター）		3-4 頁
指の自動着脱可能な形態可変型ロボットハンドの開発	共著	平成 16 年 1 月	第 36 回計測自動制御学会北海道支部学術講演会 A31（札幌コンベンションセンター）		79-80 頁
卓上型 NC フライス盤の 3 次元経路制御	共著	平成 16 年 1 月	第 36 回計測自動制御学会北海道支部学術講演会 A3（札幌コンベンションセンター）		5-6 頁
センサレス制御を用いた DD ロボットの経路制御	共著	平成 16 年 1 月	第 36 回計測自動制御学会北海道支部学術講演会 A19（札幌コンベンションセンター）		
Art-linux による PA-10 のマルチスレッド制御	共著	平成 16 年 1 月	第 36 回計測自動制御学会北海道支部学術講演会 A27（札幌コンベンションセンター）		69-70 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
二輪移動ロボットの経路生成と制御	共著	平成 16 年 1 月	第 36 回計測自動制御学会北海道支部学術講演会 A20（札幌コンベンションセンター）		49-50 頁
多軸予見経路制御システムの研究	単著	平成 16 年 3 月	平成１３年度～平成１５年度科学研究費補助金（基盤研究 (C)）研究成果報告書		
多軸予見経路制御システムの研究	共著	平成 16 年 3 月	平成 13 年度～平成 15 年度科学研究費補助金（基盤研究（C）(2)）研究成果報告書		
ＮＣフライス盤の経路制御	共著	平成 16 年 5 月	第４８回システム制御情報学会研究発表講演会 [No.2048] （京都）		143-144 頁
指の自動着脱可能な形態可変型ロボットハンドの開発	共著	平成 16 年 6 月	ロボティクス・メカトロニクス講演会'04 2A1-L1-7（名城大学）		
ART-Linux による PA-10 並列制御システムの開発	共著	平成 16 年 6 月	ロボティクス・メカトロニクス講演会'04 IP1-L1-9（名城大学）		
減衰力可変ショックアブソーバのインテリジェント制御	単著	平成 16 年 7 月	横浜リエゾンポート２００４		
指の自動着脱可能な形態可変型ロボットハンドの開発	共著	平成 17 年 1 月	第３７回計測自動制御学会北海道支部学術講演会　A-25（北海道大学）		75-76 頁
減衰力可変ショックアブソーバの制御	共著	平成 17 年 1 月	第３７回計測自動制御学会北海道支部学術講演会　A-24（北海道大学）		73-74 頁
ベクトル分解経路制御を用いた力覚表現	共著	平成 17 年 1 月	第３７回計測自動制御学会北海道支部学術講演会　A-19（北海道大学）		59-60 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
卓上型ＮＣフライス盤の経路制御	共著	平成 17 年 1 月	第３７回計測自動制御学会北海道支部学術講演会　A-18（北海道大学）		57-58 頁
自動着脱機構を有する形態可変型ロボットハンドの開発	共著	平成 17 年 5 月	第 49 回システム制御情報学会研究発表講演会　[No.5B3-2]		441-442 頁
切削速度を考慮した卓上型ＮＣフライス盤の経路制御	共著	平成 17 年 5 月	第４９回システム制御情報学会研究発表講演会 [No.5A3-2]		405-406 頁
自動着脱機構を有する形態可変型ロボットハンドの開発	共著	平成 17 年 6 月	日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会 2005　[No.1A1-N-086]		
形態可変型ロボットハンドの自動着脱システムの構築	共著	平成 18 年 1 月	第３８回計測自動制御学会北海道支部論文集　B19 Ｂ１９		119-120 頁
重力の影響を考慮した形態可変型ロボットハンドの把持および操りの検討	共著	平成 18 年 1 月	第３８回計測自動制御学会北海道支部論文集　Ｂ１８		117-118 頁
電動車椅子の経路計画と走行制御	共著	平成 18 年 1 月	第３８回計測自動制御学会北海道支部論文集　Ｂ１５		109-110 頁
接線速度を考慮したＮＣフライス盤の経路制御	共著	平成 18 年 1 月	第 38 回計測自動制御学会北海道支部学術講演会論文集　B11		101-102 頁
ロボットハンドにおける指の接触判定と回避動作	共著	平成 18 年 5 月	第５０回システム制御情報学会研究講演発表会 6F4-3	藤尾創，西川昌宏，江上正	
重力の影響を考慮した形態可変型ロボットハンドの把持および操り	共著	平成 18 年 5 月	日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会 20061A1-B26	西川昌宏，高谷明，大場英樹, 江上正	
形態可変型ロボットハンドシステムの開発	共著	平成 18 年 5 月	日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会 20061A1-B25	笹尾良太，藤尾創，佐藤也寸志，江上正	
形態可変型ロボットハンドにおける指の接触判定と回避動作	共著	平成 18 年 9 月	第２４回日本ロボット学会学術講演会 3C22	藤尾創，西川昌宏，江上正	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
予見・経路制御とメカトロニクスを融合した，意欲的ロボットを次々と試作	単著	平成 18 年 12 月	かわさき産学連携ニュースレター 21		6-7 頁
経路制御を用いたフォースディスプレイの試作	共著	平成 19 年 1 月	第３９回計測自動制御学会北海道支部学術講演会 A14	山田大輔，江上正	43-44 頁
対象物の重心位置が不明確な場合に対応するロボットハンドの把持手法の検討	共著	平成 19 年 1 月	第３９回計測自動制御学会北海道支部学術講演会 A7	大場英樹，西川昌宏，江上正	21-22 頁
基準点周囲探索型経路制御手法とその応用	共著	平成 19 年 3 月	第７回制御部門大会 62-2-3	山崎光男，江上正	
多軸経路制御システムとその応用に関する研究	単著	平成 19 年 5 月	平成 16 年度～平成 18 年度科学研究費補助金（基盤研究 (C)）研究成果報告書		
移動距離を用いた経路制御手法とその応用	共著	平成 19 年 5 月	移動距離を用いた経路制御手法とその応用第 51 回システム制御情報学会研究発表講演会論文集 [No.2F3-4]	山崎光男，江上正	
対象物の重心位置が不明確な場合に対応するロボットハンドの把持手法の検討	共著	平成 19 年 5 月	ロボティクス・メカトロニクス講演会’07[No.2A1-E03]	西川昌宏，大場英樹，江上正	
ロボットハンドにおける指の接触回避動作	共著	平成 19 年 9 月	日本機械学会創立 110 執念記念 2007 年度年次大会講演論文集 [No.4211]	藤尾創，西川昌宏，江上正	455-456 頁
移動車両の可変速経路制御	共著	平成 19 年 9 月	日本機械学会創立 110 執念記念 2007 年度年次大会講演論文集 [No.0140]	金澤宏幸，江上正	67-68 頁
探索を用いた経路制御手法とその応用	共著	平成 19 年 9 月	日本機械学会創立 110 執念記念 2007 年度年次大会講演論文集 [No.0139]	山崎光男，江上正	65-66 頁
ロボットハンドによる柔らかい対象物の把握	共著	平成 20 年 1 月	第４０回計測自動制御学会北海道支部学術講演会　Ａ１４	藤塚敦，西川昌宏，江上正	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
ロボットハンドによる摩擦が少ない対象物の把握	共著	平成 20 年 1 月	第４０回計測自動制御学会北海道支部学術講演会　A13	大場英樹，西川昌宏，江上正	
最短点探索を用いた３次元経路制御	共著	平成 20 年 1 月	第４０回計測自動制御学会北海道支部学術講演会　A2	綾部伸一，江上正	
最短点探索を用いたNCフライス盤の経路制御	共著	平成 20 年 1 月	第４０回計測自動制御学会北海道支部学術講演会　A1	山崎光男，江上正	
ロボットハンドによる対象物の摩擦や柔らかさを考慮した把持	共著	平成 20 年 6 月	日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会２００８ [No.1P1-A06]	西川昌宏，藤塚敦，大場英樹，江上正	
ロボットハンドによる対象物の柔らかさを考慮した把持手法	共著	平成 20 年 9 月	第 26 回日本ロボット学会学術講演会 [No.2E2-01]	藤塚敦，西川昌宏，江上正	

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 57 年 4 月～現在に至る	計測自動制御学会会員
昭和 57 年 4 月～現在に至る	電気学会会員
昭和 62 年 6 月～現在に至る	日本自動制御協会（現システム制御情報学会）会員
平成 2 年 4 月～現在に至る	日本ロボット学会会員
平成 4 年 4 月～現在に至る	日本機械学会会員
平成 5 年 4 月～現在に至る	電気学会論文委員
平成 5 年 4 月～平成 8011 年 4 月	電気学会論文査読委員
平成 11 年 4 月～現在に至る	日本ファジィ学会（現日本知能情報ファジィ学会）会員
平成 13 年 4 月～現在に至る	ＩＥＥＥ会員
平成 13 年 4 月～平成 16 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究（C） 4,100 千円 （多軸予見経路制御システムの研究）（研究代表者）
平成 16 年 4 月～平成 19 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究（C） 3,000 千円 （多軸経路制御システムとその応用に関する研究）（研究代表者）
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	日本機械学会関東支部神奈川ブロック運営委員
平成 20 年 4 月～現在に至る	日本機械学会関東支部商議員
平成 20 年 4 月～平成 8011 年 9 月	日本機械学会関東支部商議員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部機械工学科	職名 教授	氏名 庄司　正弘	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
学生による授業評価及びカリキュラム改定のための教員ネットワークの活用	平成 18 年 4 月 1 日 ～現在に至る	授業科目（1）伝熱工学（後期）（2）工業熱力学 II（前期）（3）工学問題の解法（前期）（4）工業熱力学及び演習 I（後期）（5）工業熱力学及び演習 II に共通。　授業評価アンケートでは、講義はわかりやすいとの評価が多かったものの、定期試験結果（成績）は必ずしも良くなかった（４０%の学生が不可となった場合もある）。そこで、各週の単元を明確にし、各週で記憶すべきキーワードを数個に限定、且つ原則各週あるいは単元終了ごとに演習問題をやらせ、随時レポート課すようにした。また楽器の最終回は、全講義内容の復習に充て、最低限履修すべき内容を明確にするようにした。この成果は上がっているので、今後も工夫を凝らしながら継続的に教育方法の改善を図る。
授業内容の工夫と基礎学力（英語）の向上	平成 18 年 10 月 1 日 ～現在に至る	授業科目「機械工学輪講」。本学の最近の学生の基礎学力（数学、英語）は弱くなっている。特に上位大学の学生に比べ、英語の力はかなり弱い。そこで輪講では、読解のみならず英作文の例題を解かし、テクニカルタームの学習、文法基礎の向上に努めている。が、成果はいまいちなので、今後は適当な市販の教材を導入して効果を上げたいと計画している。
2　作成した教科書、教材		
テキスト「機械工学実験」	平成 6 年 3 月	機械工学科の学部において行う機械工学実験について、近年の新しい講義体系に対応した新しい内容に改訂。編集委員会の委員長として企画・編集・出版を行った。
教科書「伝熱工学」（東京大学出版会）	平成 7 年 3 月	学部３年、４年、大学院生及び若手研究者向けに伝熱工学の基本となる３伝熱形態（熱伝導、放射、対流伝熱）について解説している。
日本機械学会テキストシリーズ「伝熱工学」	平成 17 年 3 月	総括校閲者として原稿の査読を行った
日本機械学会テキストシリーズ「伝熱工学演習」	平成 20 年 2 月	テキスト「伝熱工学」の姉妹編としての演習本の出版に際し、総括校閲者として原稿内容、原稿の査読と取りまとめを行った
3　教育上の能力に関する大学等の評価		

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
学生の授業評価	平成 18 年 4 月 1 日 ～現在に至る	学生の評価は担当の全授業科目にほぼ共通しており、講義はわかりやすいものの、配布資料が少なく、且つ板書が分散してわかりにくい、とある。長年の経験から講義はノートを見ず行っているため、章節の番号付けや式番号が一括していないなど反省すべき点は多い。学生の評価点は、各項目で平均をわずかに上回る。
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
気泡と沸騰のカオス挙動とモデリング	共著	平成 17 年 2 月	『複雑性現象工学』（プレアデス出版）		251-280 頁
テキスト伝熱工学		平成 17 年 3 月	『テキスト伝熱工学』（日本機械学会）		1-300 頁
沸騰による気泡発生	共著	平成 17 年 3 月	『泡のエンジニアリング』（テクノシステム）		119-126 頁
マイクロ・ナノ熱流体		平成 18 年 2 月	エヌ・ティー・エス		1-680 頁
テキスト「伝熱工学演習」	共著	平成 20 年 3 月	「テキスト伝熱工学演習」（日本機械学会）	多数、庄司正弘が総合校閲	
論文					
Fluctuation of Gas-Liquid Two-Phase Flow at a Vertical T-Junction	共著	平成 15 年 4 月	Proc. UK-Japan Two-Phase Flow Seminar (in England)1,（1）	Shuang Feng Wang, Mamoru Ozawa and Masahiro Shoji	
Characteristics of Water Flow in a Vertical Micro Tube	共著	平成 15 年 4 月	Proc. First International Conference on Microchannel and Minichannel (in USA)ICMM-1081	Xiaoping Wang, Makoto Watanabe and Mashiro Shoji	643-650 頁
対オリフィスからの気泡発生特性とモデル	共著	平成 15 年 5 月	第４０回日本伝熱シンポジウム講演論文集（日本伝ね熱学会）2	丹下学、渡辺誠、庄司正弘	437-438(D232) 頁
高温鋼板の水噴流冷却とＶＯＦシミュレーション	共著	平成 15 年 5 月	山神、岩本、原口、（庄司）第４０回日本伝熱シンポジウム講演論文集（日本伝熱学会）		143-144(D145) 頁
気液ニ相流の流動様式と遷移の簡易モデル	共著	平成 15 年 5 月	第４０回日本伝熱シンポジウム講演論文集（日本伝熱学会）2	伊藤浩二、井上満、庄司正弘	449-450(D244) 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Effects of Heated Surface Thermal Capacity on Nucleation Site Interaction in Pool Boiling -Experimental study by employing twin artificial cavities -	共著	平成 15 年 5 月	第４０回日本伝熱シンポジウム講演論文集（日本伝熱学会）1	Lei Zhang and Masahiro Shoji	153-154(D155) 頁
Characteristics of Pool Boiling on a Heated Surface with Artificial Cavities - Effects of Cavity Arraqngement and Nucleation Site Interaction -	共著	平成 15 年 5 月	第４０回日本伝熱シンポジウム講演論文集（日本伝熱学会）1	Surapon Chatpun, Makoto Watanabe and Masahiro Shoji	145-146(D151) 頁
Fluctuation Characteristics of Gas-Liquid Two-Phase Flow Splitting aqt a Vertical T-Junction	共著	平成 15 年 5 月	第４０回日本伝熱シンポジウム講演論文集（日本伝熱学会）2	S.F.wang, M.Watanabe and M.Shoji	447-448(D243) 頁
Boiling Features on Artificial Surfaces	共著	平成 15 年 5 月	Proc. Fifth International Conference on Boiling Heat Transfer(in Jamaica)Keynote paper	Masahiro Shojiand Lei Zhang	
Nonlinear Analysis on Differetial Pressure of Two-Phase Flow through a T-junction	共著	平成 15 年 9 月	Int. J. Heat Mass Transfer46,（9）	Shuang Feng Wang and Masahiro Shoji	1519-1528 頁
Wettability-Methodes of evaluation and importance in Thermal-Fluid phenomena-	単著	平成 15 年 11 月	Thermal Science and Engineering10,（6）		11-14 頁
Thermal Convection in a Porous Natural Circulation Loop	共著	平成 15 年 11 月	J. Heat Transfer (ASME)125,（4）	Yu Yan Jiang and Masahiro Shoji	612-623 頁
Chaos in Bubbling-Nonlinear analysis and modeling-	共著	平成 15 年 11 月	Chemical. Engineerong Science58,（18）	Renauld Mosdorf and Masahiro Shoji	3837-3846 頁
Characteristics of Water Flow in a Vertical Micro-Tube	共著	平成 15 年 11 月	J. of Thermal Science and Engineering11,（6）	Xiaoping Wang, Makoto Watanabe and Masahiro Shoji	5158 頁
等温系気液ニ相流の流動様式と遷移の簡易モデル	共著	平成 16 年 1 月	日本機械学会論文集 70 巻 689 号	伊藤浩二、井上満、小澤守、庄司正弘	151-158 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
対オリフィスからの気泡発生特性とモデル	共著	平成 16 年 2 月	日本機械学会論文集 B 編、70 巻、690 号	丹下学、庄司正弘	348-355 頁
Experimental Study on Characteristics of nucleate Pool Boiling by the Effects of cavity Arrangement	共著	平成 16 年 3 月	Int. J. Experimental Thermal and Fluid ScienceVol.29	Surapong Chatpun, makoto watanabe and Masahiro Shoji	33-40 頁
Studies of Boiling Chaos: a review	単著	平成 16 年 3 月	Int. J. Heat Mass Transfer, Vol.47, No.6 － 7, March 2004		1105-1128 頁
加熱細線における気泡微細化プール沸騰	共著	平成 16 年 5 月	第４１回日本伝熱シンポジウム講演論文集（日本伝熱学会）1	湯浅真樹、丹下学、渡辺誠、庄司正弘	17-18(A131) 頁
人工キャビティ面からのイソプロパノールの核沸騰特性	共著	平成 16 年 5 月	第４１回日本伝熱シンポジウム講演論文集（日本伝熱学会）1	志村暢彦、丹下学、渡辺誠、庄司正弘	39-40(A154) 頁
２次元気泡の生成合体挙動	共著	平成 16 年 5 月	第４１回日本伝熱シンポジウム講演論文集（日本伝熱学会）2	楠原誠、鴨志田隼司、渡辺誠、庄司正弘	367-368(A224) 頁
ミニチャネル内の気泡微細化強制流動沸騰	共著	平成 16 年 5 月	第４１回日本伝熱シンポジウム講演論文集（日本伝熱学会）2	丹下学、高木周、渡辺誠、庄司正弘	365-366(A233) 頁
鍋の伝熱学的研究	共著	平成 16 年 5 月	第４１回日本伝熱シンポジウム講演論文集（日本伝熱学会）3	高尾俊匡、長尾慶子、渡辺誠、庄司正弘	733-734(F342) 頁
Microbubble Emission Flow Boiling in a Microchannel and Minichannel	共著	平成 16 年 6 月	Second International Conference of Micro-Mini Channels (at Rochester RIT in USA) 講演論文集	Manabu Tange, Maki Yuasa, Shu takagi and Masahiro Shoji	1 頁
behaviors of Formation and Coalescence of Two-Dimensional Bubbles	共著	平成 16 年 7 月	Thermal Sceinec and EngineeringVol.12, No.4	makoto Kusuhara, Junji Kamoshida, Makoto Watanabe and Masahiro Shoji	59-60 頁
A Simplified Model of Gas-Liquid Two-Phase Flow Pattern Transition	共著	平成 16 年 7 月	Heat Transfer, Asian ResearchVol.33, Issue7	Koji Ito, Mitsuru Inoue, Mamoru Ozawa and Masahiro Shoji	445-461 頁
Discussion on Self-Organization and Self-Similarity of Boiling System	共著	平成 16 年 8 月	J. Heat Transfer-Vol.126	L.H.Chai and masahiro Shoji	660-665 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
マイクロチャネル内の気泡微細化沸騰と蒸気泡の動的挙動	共著	平成 16 年 9 月	平成１６年機械学会年次大会講演論文集（日本機械学会）オーガナイズドセッション「マイクロナノスケールの流動現象」	丹下学、高木周、渡辺誠、庄司正弘	87-88 頁
超音波場における均一微細気泡生成過程（第１報、均一気泡生成に対する粘性の影響）	共著	平成 16 年 10 月	日本機械学会論文集 B 編、７０巻６９９号	幕田寿典、竹村文男、飛原英治、松本洋一郎、庄司正弘	2758-2767 頁
Nucleation Site Interaction i9n Pool Nucleate Boiling on a Heated Surface with Triple Artificial Cavities	共著	平成 16 年 11 月	Int. J. Heat Mass TransferVol.47	Surapong Chatpun, Makoto Watanabe and masahiro Shoji	3583-3587 頁
Microbubbles Emission Flow Boiling in a Microchannel and Minichannel	共著	平成 16 年 11 月	Thermal Science and EngineeringVol.12, No.6	Manabu Tange, Maki Yuasa, Shu Takagi and Masahiro Shoji	23-30 頁
Nonlinear Bubbling Features from Submerged Orifices	共著	平成 16 年 12 月	Japan-US Seminar on Two-Phase Flow Dynamics (in Shiga) 講演論文集 CD-ROM	Masahiro Shoji, lei Zhang, Daisuke Miyazaki, manabu Tange and Fumio Takemura	61-70 頁
pattern-Dynamics approach to two-Phase Flow Regime Transition	共著	平成 16 年 12 月	Japan-US Seminar on Two-Phase Flow Dynamics (in Shiga) 講演論文集	Koji Ito, mamoru Ozawa and Masahiro Shoji	103-112 頁
Numerical Simulation of Liquid jet and Mist Flow with Phase Change	共著	平成 16 年 12 月	Int. Symp. on Innovative Aerial/Space Flyer Systems in Tokyo 講演論文集	Sigemasa Yamagami, Shigefumi Nishio, Masahiro Shojiand Youichi Haraguchi	
Nucleate Boiling on Artificially Finished Simplified Surfaces	共著	平成 17 年 4 月	Sixth World Conference on Experimental Heat Transfer, Fluid mechanics and ThermodynamicsAward recipitant lecture, 講演論文集 CD-ROM	Masahiro Shoji, Lei Zhnag and Chatpun Surapon	1 頁
細線上の気泡微細化沸騰の伝熱機構	共著	平成 17 年 6 月	第４２回日本伝熱シンポジウム講演論文集（日本伝熱学会）1	丹下学、渡辺誠、高木周、庄司正弘	1 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
衝突噴流の下流領域における水平上・下向き面流動特性に関する研究	共著	平成 17 年 6 月	第４２回日本伝熱シンポジウム講演論文集（日本伝熱学会）1	山神成正、西尾茂文、庄司正弘	1 頁
２次元気泡の離脱挙動	共著	平成 17 年 6 月	第４２回日本伝熱シンポジウム講演論文集（日本伝熱学会）1	石川桂、庄司正弘、渡辺誠、丸山茂夫	1 頁
Microbubble Emission Boiling in a rectangular Minichannel Flow	共著	平成 17 年 6 月	Third International Conference of Micro-Mini Channels (at Toronto in Canada)CD-ROM ASME ISBN No.7918-3758-0, Order No.1725-CD	manabu Tange, Makoto Watanabe, Shu Takagi and Masahiro Shoji	
Visualization of Convective Boiling Heat Transfer in Single Micro Conduit with Different Shapes of Cross Section	共著	平成 17 年 6 月	Thrid Int. Conf. of Micro-Mini Channels (at Toronto in Canada)CD-ROM ASME ISBN No.7918-3758-0, Order No.1725-CD	tsu-Hsiang Yen, Masahiro Shoji, Fumio takemura, Yuji Suzuki and Nobuhide Kasagi	1 頁
Surface Tension Effects in Small-Scale Thermo-Fluid Systems	共著	平成 17 年 6 月	Third International Conference of Micro-Mini Channels (at Toronto in Canada)Keynote paper, CD-ROM ASME ISBN No.7918-3758-0, Paper#1725	Masahiro Shoji, Satoshi Someya, Tsu-Hsiang Yen and Manabu Tange	No.1725 頁
Microbubble Emission Boiling: Fundamental features and its possible application to microchannel cooling device	共著	平成 17 年 6 月	HEAT2005（Fourth Int. Conf. on Transport Phenomena in Multiphase Systems）(in Poland)Keynote paper, 講演論文集	M.Shoji, M.Watanabe, M.Tange and M.Yuasa	1 頁
Behaviors of Formation and Departure 0f Two-dimensional Bubbles	共著	平成 17 年 7 月	Thermal Science and EngineeringVol.13, No.4	Kei Ishikawa, Masahiro Shoji, Makoto Watanabe and Shigeo Maruyama	77-78 頁
Effects of Inlet Flow Pattern on Fluctuation Characteristics of Gas-Liquid Two Phase Flow at T-Junction	共著	平成 17 年 9 月	Japan-UK Seminar on Multiphase Flows (in Osaka) 講演論文集 CD-ROM	Shuangfeng Wang, Masahiro Shojiand Mamoru Ozawa	1 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Attainable Maximum Heat Flux of Pool Nucleate Boiling on a Heated Wire	共著	平成17年10月	Second International Symposium on Thermal Science and EngineeringKeynote, 講演論文集	M.Shoji, M.Tange, M.watanabe, J.Kamoshida and K.Sasaki	30-34頁
超音波場における均一微細気泡生成過程（第2報、均一気泡生成現象における安定生成条件）	共著	平成17年10月	日本機械学会論文集B編、７１巻、７１０号,	幕田寿典、竹村文男、飛原英治、松本洋一郎、庄司正弘	2465-2470頁
Nucleation Site Interaction in Pool Boiling - Results of serial experiments using artificial boiling surfaces -	単著	平成17年11月	Eleventh Conference of Chinese Society of Engineering Thermodynamics (in Beijing)Keynote lectute, Booklet of Abstract"Heat and Mass Transfer Report"		4-5頁
Nonlinear Analysis of Flow Boiling in Microchannels	共著	平成17年12月	Int. J. Heat Mass TransferVol.48	R.Mosdorf, P.Cheng, H.Y.Wu and Masahiro Shoji	4667-4683頁
Generation of Micro Gas Bubbles of Uniform Diamter in an Ultrasonic Field	共著	平成18年1月	J. Fluid MechanicsVol.548	Toshinori Makuta, Fumio Takemura, Eiji Hihara, Yoichiro Matsumoto and Masahiro Shoji	113-131頁
A Pattern Dynamics Approach to Two-Phase Flow Dynamics	共著	平成18年3月	Ｔｅｃｈｎｉｃａｌ Repot of Kansai UniversityNo.48	Mamoru Ozawa,Masahiro Shoji,Hisashi Umekawa and Ryosuke Matsumoto	13-22頁
非線形サーモキャピラリ溶液のミニチャネル蒸発管における伝熱特性と流れの挙動	共著	平成18年5月	第４３回日本伝熱シンポジウム講演論文集（日本伝熱学会）1	小野直樹、吉田貴洋、庄司正弘、竹村文男、厳子翔	337-338(A124)頁
２成分系超臨界中での熱輸送現象に関する研究	共著	平成18年5月	第４３回日本伝熱シンポジウム講演論文集（日本伝熱学会）1	中納暁洋、白石正夫、宗像鉄雄、庄司正弘	109-110(C123)頁
加熱細線のサブクールプール沸騰における限界熱流束：細線材質の影響	共著	平成18年5月	第４３回日本伝熱シンポジウム講演論文集（日本伝熱学会）2	佐々木一裕、丹下学、渡辺誠、鴨志田隼司、庄司正弘	567-568(j233)頁
加熱細線上の気泡微細化サブクールプール沸騰	共著	平成18年5月	第４３回日本伝熱シンポジウム講演論文集（日本伝熱学会）3	丹下学、庄司正弘	787-788(f344)頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Pool Subcooled Boiling on a Heated Wire with Microbubble Emission	共著	平成 18 年 5 月	Sixth International Conference on Boiling Heat Transfer (at Spoleto, Italy) 講演論文集 CD-ROM	M.Shoji, M.Tange, M.Watanabe,J.Kamoshida and K.Sasaki	1 頁
Dryout and Evaporation Heat Transfer of Forced Convective Flow in a Mini-Tube for Aqueous Solution with Nonlinear Surface Energy	共著	平成 18 年 8 月	IHTC-13(Thrteenth International Heat Transfer Conference) at Sydney 講演論文集、13 号、Vol.5	T-H Yen, N.Ono, M.Shojiand F.Takemura	1 頁
Evaporation near the Dryout Point of aqueous Solution with Nonlinear Surface Energy	共著	平成 18 年 9 月	Fourth Japanese-European Two-Phase Group Meeting (at Kyoto) 講演論文集 CD-ROM	Naoki Ono, Tzu-Hsiang Yen, Fumio Takemura and Masahiro Shoji	1 頁
Pattern Dynamics Simulation of Void Wave Propagation	共著	平成 18 年 9 月	Fourth Japanese-European Two-Phase Group Meeting at Kyoto 講演論文集 CD-ROM	M.Ozawa, T.Ami, H.Umekawa and M.Shoji	1 頁
Temperature Fluctuation at Twin Cavities in Nucleate Boiling - Wavelet analysis and modeling-	共著	平成 18 年 9 月	Int. J. Heat Mass TransferVol.49, No.18	R. Mosdorf and Masahiro Shoji	3156-3166 頁
非線形サーモキャピラリ溶液の表面張力測定と流動沸騰への適用	共著	平成 18 年 10 月	第２７回日本熱物性シンポジウム講演論文集（日本熱物性学会）1	小野直樹、吉田貴洋、庄司正弘、竹村文男、厳子翔	182-184 頁
高熱流束プール核沸騰における液層構造形成の遷移過程	共著	平成 18 年 11 月	熱工学コンファレンス 2006 講演論文集（日本機械学会）1	鴨志田隼司、弓座京子、井出幸祐、鈴木健二郎、庄司正弘、川口靖夫	
気泡微細化沸騰とその応用可能性	単著	平成 18 年 11 月	神奈川大学工学研究所報 No.29		
Visualization of Convective Boiling Heat Transfer in Single Microchannels with Different Shaped Cross Section	共著	平成 18 年 11 月	Int. J. Heat Mass TransferVol.49, No.21-22	Tzu-Hsiang Yen, Masahiro Shoji,Fumio Takemura, Yuji Suzuki and Nobuhide Kasagi	3884-3894 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
非線形サーモキャピラリ溶液のミニ・マイクロチャネル内流動沸騰における伝熱特性と流れの観察	共著	平成 19 年 5 月	第４４回日本伝熱シンポジウム講演論文集（日本伝熱学会）3	吉田貴洋、小野直樹、西口昇太朗、庄司正弘	543-544(a322) 頁
高熱流束蒸発器における冷却水流量制御：伝熱面形状の影響	共著	平成 19 年 5 月	第４４回日本伝熱シンポジウム講演論文集（日本伝熱学会）3	佐々木一裕、丹下学、竹村文男、庄司正弘	537-538(A319) 頁
気泡の非線形生成と相互干渉：沸騰現象理解のために	共著	平成 19 年 5 月	第４４回日本伝熱シンポジウム講演論文集（日本伝熱学会）3	山本千博、鳥羽裕将、庄司正弘、木村達人	525-526(A313) 頁
高熱流束除熱用小型吸収冷凍機の開発	共著	平成 19 年 5 月	第４４回日本伝熱シンポジウム講演論文集（日本伝熱学会）2	松本壮平、竹村文男、瀬川武彦、菊島義弘、市川直樹、宗像鉄雄、庄司正弘	435-436(C222) 頁
水平極細線の限界熱流束：細線径と材質の影響	共著	平成 19 年 5 月	第４４回日本伝熱シンポジウム講演論文集（日本伝熱学会）2	庄司正弘、若沢巧、飯島正隆、塩崎雅俊、原村嘉彦、渡辺誠	337-338(A241) 頁
水平極細線の限界熱流束：系圧力及びサブクールの影響	共著	平成 19 年 5 月	第４４回日本伝熱シンポジウム講演論文集（日本伝熱学会）2	柴田宗幸、庄司正弘、渡辺誠、原村嘉彦	335-336(A240) 頁
非線形ブタノール水溶液の沸騰と限界熱流束	共著	平成 19 年 5 月	第４４回日本伝熱シンポジウム講演論文集（日本伝熱学会）2	西口昇太朗、三田村和広、庄司正弘、小野直樹、吉田貴洋、渡辺誠	329-330(A237) 頁
The Aqueous Solutions with Nonlinear Surface Energy and Their Application to Flow Boiling in a Mini/Micro Tube	共著	平成 19 年 6 月	ICNMM20071	Naoki Ono, Takahiro Yoshida, Shotaro Nishiguchi	CDROM 頁
Heat Transfer and Liquid Motion of Forced Convection Boiling in a Mini-Tube for Aqueous Solutions with Nonlinear Surface Energy	共著	平成 19 年 9 月	Multiphase Science and Technology19	N.Ono, T.Yoshida, F.Takemura, H.Yen	225-240 頁
離散気泡モデルの沸騰ニ相流への応用	共著	平成 19 年 11 月	熱工学コンファレンス 2007 講演論文集（日本機械学会）1	網健行、梅川尚嗣、小澤守、庄司正弘	135-136 頁
プール沸騰における三相界面近傍の気泡観察	共著	平成 19 年 11 月	熱工学コンファレンス 2007 講演論文集（日本機械学会）1	鴨志田隼司、降旗健司、庄司正弘、川口靖夫	129-130(D112) 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
非線形サーモキャピラリ溶液の表面張力の温度依存性の測定	共著	平成 19 年 11 月	熱工学コンファレンス２００７講演論文集（日本機械学会）1	小野直樹、金子高広、吉田貴洋、庄司正弘、西口昇太朗	141-142(D122) 頁
Pattern Dynamics Simulation of Void Wave Propagation	共著	平成 19 年 12 月	Multiphase Science and Technology19	M.Ozawa, T.Ami, H.Umekawa	343-361 頁
垂直配向単層カーボンナノチューブ膜を接着した高温加熱面と液滴間の伝熱特性	共著	平成 20 年 5 月	第４５回日本伝熱シンポジウム講演論文集（日本伝熱学会）1	渡辺誠、関根哲彦、福富隆弘、石川桂、丸山茂夫、庄司正弘	99-100(C121) 頁
MEMS 伝熱面上の沸騰気泡生成（非定常加熱と核生成制御の実現）	共著	平成 20 年 5 月	第４５回日本伝熱シンポジウム講演論文集（日本伝熱学会）1	丹下学、高木周、竹村文男、庄司正弘	121-122(C151) 頁
液体の種類による高熱流束核沸騰域の液層構造	共著	平成 20 年 5 月	第４５回日本伝熱シンポジウム講演論文集（日本伝熱学会）2	鴨志田隼司、弓削京子、庄司正弘、川口靖夫	535-536(D214) 頁
加熱細線の限界熱流束に及ぼす細線径と系圧力の影響	共著	平成 20 年 5 月	第４５回日本伝熱シンポジウム講演論文集（日本伝熱学会）2	山本千博、田中淳平、庄司正弘	543-544(D224) 頁
透明沸騰面を用いたプール沸騰における気泡挙動の観察	共著	平成 20 年 5 月	第４５回日本伝熱シンポジウム講演論文集（日本伝熱学会）2	鴨志田隼司、降旗健司、西村剛、庄司正弘、川口靖夫	547-548(D231) 頁
気泡の発生と相互干渉に関する研究	共著	平成 20 年 5 月	第４５回日本伝熱シンポジウム講演論文集（日本伝熱学会）2	安東輝亮、西原望、丹下学、庄司正弘	551-552(D233) 頁
加熱極細線の水のサブクール沸騰と系圧力の影響	共著	平成 20 年 5 月	第４５回日本伝熱シンポジウム講演論文集 2	柴田宗幸、門間允誉、庄司正弘	553-554(D234) 頁
非線形溶液のミニ・マイクロチャネル内流動沸騰時の液滴挙動と温度振動	共著	平成 20 年 5 月	第４５回日本伝熱シンポジウム講演論文集第４５回	吉田貴洋、金子高広、小野直樹、西口昇太朗、庄司正弘	583-584 頁
非線形溶液の表面張力温度依存性の最大気泡法による測定	共著	平成 20 年 5 月	第４５回日本伝熱シンポジウム講演論文集 2,(45)	金子高広、吉田貴洋、小野直樹、西口昇太朗、庄司正弘	693-694(I212) 頁
Hydrodynamic Aspects of Nucleation Site Interaction	共著	平成 20 年 5 月	Int. J. Heat Mass Transfer (Elsevier)151	Renauld Mosdorf	
Critical Heat Flux of Butanol Aqueous Solution	共著	平成 20 年 6 月	ICNMM20086	Shotaro Nishiguchi, Naoki Ono	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Development of Miniature Adsorption Refrigerator for High-Heat Flux Cooling	共著	平成 20 年 9 月	Second International Forum on Heat Transfer（日本伝熱学会主催）講演論文集 CD-ROM、論文＃ 167	S.Matsumoto, F.takemura,T.Segawa, Y.Kikushima, T.Munakata and M.Shoji	68 頁
Measurement of temperature Dependency of Surface Tension of Alchol Aqueous Solutions by maximum Bubble Pressure Method	共著	平成 20 年 9 月	Second International Forum on Heat Transfer（日本伝熱学会主催）講演論文集 CD-ROM、論文＃ 200	Naoki Ono, Takahiro Kaneko, Shotaro Nishiguchi and Masahiro Shoji	97 頁
非線形サーモキャピラリ溶液の微細管内流動沸騰時の挙動	共著	平成 20 年 9 月	Thermal Science and EngineeringVol.16, No.3, pp.79-85.	小野直樹、吉田貴洋、金子高広、西口昇太朗、庄司正弘	79-85 頁
Surface Tension Measurement of Aqueous Solution of High-carbon Alchols and Flow Boiling Experiments with the Solution	共著	平成 20 年 10 月	IMA4(Fourth International marangoni Association COnference) 講演論文集	Naoki Ono, Takahiro kaneko, Shotaro Nishiguchi and masahiro Shoji	11 頁
その他					
会誌の新スタイル試行に至る経緯	単著	平成 16 年 7 月	日本機械学会誌 107, (1028)		507 頁
テクニカルコミュニケーションを有効に行うための基本的事項：第１部「あらましと背景」		平成 16 年 12 月	日本機械学会誌 107, (1033)		984-987 頁
国際伝熱会議アセンブリ委員会報告	単著	平成 17 年 1 月	日本伝熱学会誌「伝熱」44,（184）		22-23 頁
テクニカルコミュニケーションを有効に行うための基本的事項：第２部「基本的な決まり：形式と指針」		平成 17 年 1 月	日本機械学会誌 108, (1034)		57-61 頁
テクニカルコミューニケーションを有効に行うための基本的事項：第３部「技術論文の書き方」		平成 17 年 2 月	日本機械学会誌 108, (1035)		117-123 頁
甲藤好郎先生のご逝去を悼む：ご業績	単著	平成 17 年 3 月	日本伝熱学会誌 44, (185)		26-27 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
テクニカルコミュニケーションを有効に行うための基本事項：第４部「技術論文の発表の仕方」		平成 17 年 3 月	日本機械学会誌 108,（1036）		206-212 頁
ヌッセルト・レイノルズ賞を受賞して	単著	平成 17 年 5 月	日本伝熱学会誌「伝熱」44,（186）		37 頁
中国の熱関連学会活動：第１１回中国工程熱物理学会に出席して	単著	平成 17 年 11 月	日本伝熱学会　会誌「伝熱」44,（189）		31 頁
日中二国間共同研究－東アジア巨大都市における新エネ・省エネ技術導入の実現可能性に関する調査研究－	単著	平成 19 年 11 月	神奈川大学工学研究所報 No.30		95-96 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 43 年 4 月～現在に至る	(社) 日本機械学会会員
昭和 43 年 6 月～現在に至る	(社) 日本伝熱学会会員
平成 3 年 4 月～現在に至る	国際学術誌「アジアの伝熱研究 (Heat Transfer Asiaan Research)」(Ｗｉｌｅｙ社) 副編集長
平成 9 年 4 月～平成 17 年 3 月	日本学術会議　エネルギー資源工学研究連絡委員委員
平成 10 年 4 月～現在に至る	芝浦工業大学特別研究及び研究評価委員会委員
平成 12 年 4 月～平成 19 年 3 月	日本機械工業連合会　優秀省エネルギー機器表彰審査幹事会幹事
平成 12 年 4 月～平成 18 年 3 月	数理工学社：新機械工学シリーズ出版編集委員
平成 12 年 4 月～平成 18 年 3 月	日本機械学会：新版機械工学便覧出版分科会主査（基礎編α５熱工学）
平成 12 年 4 月～平成 19 年 3 月	日本機械工業連合会：優秀省エネルギー機器審査幹事会幹事
平成 13 年 4 月～平成 20 年 3 月	日本原子力研究所研究嘱託
平成 13 年 4 月～平成 18 年 3 月	日本学術会議：エネルギー資源工学連絡委員会委員
平成 13 年 4 月～現在に至る	日本機械学会：会員資格フェロー
平成 13 年 4 月～平成 15 年 4 月	日本機械学会：役員評議員
平成 13 年 9 月～現在に至る	Albodei revisori URL（イタリア科学技術研究費評価審査会）評価審査委員
平成 14 年 4 月～平成 16 年 3 月	ＮＥＤＯ研究評価委員
平成 14 年 4 月～平成 16 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究（B1) 15,000 千円 （微細加工技術を用いた人工沸騰面の創生）（研究代表者）
平成 14 年 10 月～平成 15 年 6 月	国際会議（First International Conference of Microchannel and Minichannel, Rochester, USA）Member of Organizing Comittee
平成 15 年 4 月～平成 21 年 3 月	東電記念科学技術研究所　学術助成審査委員会委員
平成 15 年 4 月～平成 19 年 4 月	国際伝熱会議　アセンブリー委員会日本代表委員（Delegate from japan）
平成 15 年 4 月～平成 19 年 3 月	熱物質移動国際学術誌 (Int.J.Heat Hass Transfer) 編集諮問委員会委員
平成 15 年 4 月～平成 16 年 4 月	国際会議（Sixth International Conference of Experimental Fluid Flow, Heat Transfer and Thermodynamics, Sendai, Japan）Member of Organizing Board
平成 15 年 4 月～平成 19 年 3 月	東京大学：２１世紀 COE 機械イノベーション事業事業推進者

年月	内　　容
平成 15 年 4 月～平成 16 年 3 月	日本機械学会：会誌新スタイル移行検討実施委員会幹事
平成 15 年 4 月～平成 16 年 3 月	日本機械学会：連載記事「科学技術英語」企画小委員会主査
平成 15 年 4 月～平成 19 年 3 月	熱物質移動国際センター（International Center of Heat and Mass Transfer）委員
平成 15 年 4 月～平成 16 年 4 月	（受託研究）住友金属工業「高温鋼板の均一冷却に関する研究」(1,300 千円)
平成 15 年 10 月～平成 16 年 6 月	国際会議（Second International Conference of Microchannel and Minichannel, Rochester, USA）Track organizer, Session chair and Comittee member
平成 16 年 4 月～平成 17 年 3 月	日本機械学会：フェロー選考委員会選考委員
平成 16 年 4 月～平成 17 年 3 月	日本機械学会：海外支部設立検討準備委員会委員
平成 16 年 4 月～平成 18 年 3 月	科学研究費補助金 萌芽研究 3,500 千円 （ソーレ効果を用いた水素混合ガスの成分分離デバイス開発に関する基礎的研究）（研究代表者）
平成 16 年 4 月～平成 18 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究（B2) 15,100 千円 （気泡微細化沸騰とミニチャネルを活用した高性能冷却システム開発のための基礎研究）（研究代表者）
平成 16 年 6 月～平成 17 年 5 月	日本伝熱学会会長・理事
平成 16 年 10 月～平成 17 年 6 月	国際会議（Third International Conference of Microchannel and Minichannel, Toronto, Canada）Track organizer, Session chair and Comittee member
平成 17 年 1 月～平成 17 年 12 月	日本学術振興会：科学研究費委員会第一部会小委員会２段専門委員：機械工学
平成 17 年 4 月～平成 20 年 3 月	工学院大学ハイテクリサーチ外部評価委員
平成 17 年 4 月～平成 19 年 3 月	日本機械学会：テキスト「伝熱工学」出版総括校閲者
平成 17 年 4 月～平成 19 年 3 月	日本機械学会：テキスト「機械の数学」出版総括校閲者
平成 17 年 5 月～現在に至る	会議主催団体（実験熱流体国際会議）Nusselt-reynolds Award 選考委員会委員
平成 17 年 6 月～平成 18 年 5 月	(社) 日本伝熱学会理事・会長
平成 17 年 10 月～平成 18 年 6 月	国際会議（Fourth International Conference of Microchannel and Minichannel, at Rochestre, USA）Track organizer, Session chair and Comitte member
平成 18 年 1 月～現在に至る	科学技術振興機構産学協同シーズイノベーション事業アドバイザー
平成 18 年 3 月～平成 18 年 12 月	日本学術振興会：科学研究費委員会基盤研究（S) 評価部会小委員会専門委員
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	日本機械学会：テキスト「伝熱工学演習」出版総括校閲者
平成 18 年 4 月～平成 19 年 3 月	独立行政法人産業技術総合研究所、筑波東事業所エネルギー技術部門顧問
平成 18 年 4 月～平成 18 年 12 月	日本学術振興会：科研費専門員：基盤研究（S) 評価部会小委員会委員

年月	内　　容
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究（B) 15,100 千円 （インクジェット方式液体供給制御を用いた高効率沸騰蒸発の基礎とその応用に関する研究）（研究代表者）
平成 18 年 8 月～現在に至る	日本学術会議連携会員
平成 18 年 8 月～平成 20 年 7 月	日本学術振興会：特別研究員等審査委員会専門委員
平成 18 年 8 月～平成 20 年 7 月	日本学術振興会：国際事業委員会書面審査委員
平成 18 年 10 月～平成 19 年 6 月	国際会議（Fifth International Conference of Microchannel and Minichaneel, in Mexico）Track chair, Session chair and Comittee member
平成 19 年 4 月～現在に至る	日本機械工業連合会：優秀省エネルギー機器審査幹事会副幹事長
平成 19 年 4 月～現在に至る	日本機械工業連合会：優秀省エネルギー機器表彰審査特別委員会委員
平成 19 年 5 月～現在に至る	経済産業省：地域技術開発事業に係る事前評価委員会評価委員
平成 19 年 8 月～平成 22 年 7 月	華南理工大学（中国広州）顧問教授
平成 19 年 10 月～平成 20 年 6 月	国際会議（Sixth International Conferenece of Nanochannel, Microchannel and Minichannel, in Germany）Track organizer, Session chair and Comittee member
平成 20 年 3 月～平成 20 年 4 月	日本学術振興会（文部科学省）グローバルＣＯＥ評価委員会レフェリー
平成 20 年 4 月～平成 20 年 10 月	国際会議（Seventh International Symposium on Heat Transfer, at Beijing in China）Interbational Comittee Member
平成 20 年 4 月～平成 22 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究（B) 10,790 千円 （沸騰伝熱に及ぼす加熱面性状の一般普遍的表記法の構築）（研究代表者）

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部機械工学科	職名 教授	氏名 竹村　兼一	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
学生による学会での発表指導	平成 11 年 3 月 12 日	卒業研究の内容を、日本機械学会関東学生会の卒業研究発表講演会にて発表することにより、学生に対して学外での研究発表の経験を与えた。
大学院生による国際会議での発表指導	平成 12 年 3 月 9 日	米国デトロイトで開催された SAE(Society of Automotive Engineers)2000 World Congress において、大学院生に研究発表及びディスカッションを行う機会を与えた。また英語でのプレゼンテーションに関する指導を行った。
学生による学会での発表指導	平成 15 年 3 月 14 日	卒業研究生 3 名に、日本機械学会関東学生会の卒業研究発表講演会にて発表する機会を与え、プレゼンテーションの指導を行った。
学生による学会での発表指導	平成 15 年 3 月 19 日	第 32 回 FRP シンポジウムにおいて、学生に研究発表を行う機会を与え、プレゼンテーションの指導を行なった。
大学院生による学会での発表指導	平成 16 年 7 月 23 日	日本機械学会主催 M&M2004（秋田大学）にて炭素繊維強化複合材料の破壊靱性に関する研究発表を行った.
大学院生による学会での発表指導	平成 16 年 9 月 8 日	日本機械学会 2004 年度年次大会（北海道大学）にて炭素繊維強化複合材料の曲げ強度に関する研究発表を行った.
大学院生による学会での発表指導	平成 16 年 10 月 29 日	日本複合材料学会第 29 回複合材料シンポジウムにて炭素繊維強化複合材料の界面特性に関する研究発表を行った.
大学院生による学会論文執筆指導（日本機械学会論文集）	平成 17 年 4 月 1 日 ～平成 18 年 3 月 20 日	CFRP の破壊及びクリープ特性に及ぼす物理的表面処理の影響, 日本機械学会論文集（A編）
大学院生による国際会議論文の作成指導	平成 17 年 4 月 14 日	米国デトロイトで開催された SAE(Society of Automotive Engineers)2005 World Congress において、大学院生と共著で論文を作成し，外国語での論文作成指導を行った．この論文は Accept され，教員が発表を行った.
大学院生による学会での発表指導	平成 17 年 9 月 20 日	日本機械学会 2005 年度年次大会での発表指導
大学院生による学会での発表指導	平成 17 年 11 月 5 日	日本機械学会 M&M2005 材料力学カンファレンスでの発表指導
大学院生による学会での発表指導	平成 18 年 3 月 16 日	日本材料学会第 35 回 FRP シンポジウムでの発表指導（銭花圭君）

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
大学院生による学会での発表指導	平成 18 年 8 月 4 日	日本機械学会 M&M2006 材料力学カンファレンスでの発表指導
大学院生による学会での発表指導	平成 18 年 8 月 5 日	日本機械学会 M&M2006 材料力学カンファレンス（安田佳史君）
大学院生による国際会議での発表指導	平成 18 年 9 月 15 日	Fourth Int. Workshop on Green Composites での発表指導（斎藤淳人君）
大学院生による国際会議での発表指導	平成 18 年 9 月 15 日	Fourth Int. Workshop on Green Composites での発表指導（嶺蔭雄一朗君）
大学院生による学会での発表指導	平成 19 年 9 月 10 日	日本機械学会 2007 年度年次大会（斎藤淳仁君）
大学院生による学会での発表指導	平成 19 年 10 月 19 日	日本複合材料学会第 32 回複合材料シンポジウム（嶺蔭雄一朗君）
大学院生による学会での発表指導	平成 20 年 3 月 18 日	日本材料学会 JCOM-37（斉藤淳仁君）
2008 年度前期授業評価アンケート結果	平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 7 月 31 日	（授業科目：材料力学及び演習１）毎回授業のはじめに、本授業でのテーマ、キーワード、重要な公式（配布時は空欄、授業時に学生に記入させる）、練習問題を記入した A4 用紙１枚を配布した。学生からのアンケート結果では、非常に好評であった。
2　作成した教科書、教材		
教科書の執筆	平成 13 年 3 月 27 日	日刊工業新聞社から，共著で「標準材料の力学」を発行した.
教科書の執筆	平成 20 年 4 月	最新材料の力学，培風館
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		
日本機械学会神奈川大学学生会委員長	平成 11 年 4 月 1 日 ～平成 16 年 3 月 31 日	機械工学科の学生に学会での活躍の場を与えるため、日本機械学会をはじめ各種学会を紹介し、日本機械学会学生会における神奈川支部、および神奈川ブロックでの活動を支援した。（平成 11 年 4 月 1 日～平成 16 年 3 月 31 日）
教員間連絡ネットワーク委員（コンピュータ関係）委員長	平成 15 年 4 月 1 日 ～平成 16 年 3 月 31 日	関連した科目の担当教員間で，教育内容を確認するためにネットワークを組織し，定期的に会議を行った.
新入生配布用機械工学科ガイドブック編集委員会委員長	平成 15 年 7 月 1 日 ～平成 16 年 3 月 31 日	新入生に配布するガイドブックをカラー化し，大幅に改訂した.
教員間連絡ネットワーク委員（設計材力）委員長	平成 16 年 4 月 1 日	関連した科目の担当教員間で，教育内容を確認するためにネットワークを組織し，定期的に会議を行った.
機械工学科公募制推薦入試選考方法検討委員会委員長	平成 16 年 12 月 1 日	2006 年公募制推薦入試に関連して，その選考方法を決定する.

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
機械工学科　卒業研究，輪講委員	平成 19 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 3 月 31 日	４年次に必修科目として開講している卒業研究及び輪講に関して，３年次の学生にその内容を詳しく説明し，具体的に学生の配属作業を行った．また，研究室配属後の学生の質問に対する対応を行った．
機械工学科教育委員	平成 20 年 4 月 1 日	

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
最新　材料の力学	共著	平成 20 年 4 月	培風館	青木義男他 18 名	
論文					
Effect of Water Absorption on Bending Creep Properties for Jute Fiber Reinforced Composite	単著	平成 15 年 7 月	Proceedings of 10th Annual Int.Conf.on Composite Engineering,(New Orleans)		719-720 頁
Static and Creep Properties for Jute Fiber Reinforced Plastics	単著	平成 16 年 1 月	Proceedings of 2nd Annual Int.Workshop on “ Green ”Composite(Yamaguchi,Ube)		41-42 頁
Effect of Water Absorption on Static and Creep Properties for Jute Fiber Reinforced Composite	単著	平成 16 年 5 月	WIT Transactions on the Build Environment76		383-389 頁
Tensile Properties and Surface Treatment for Natural Fiber Reinforced Composite	単著	平成 16 年 8 月	Proc. 11th Int. Conf. on Composites/Nano Engineering		pp. 721-722(CD-ROM) 頁
Tensile Properties and Effect of Surface Treatment for Natural Fiber Reinforced Plastics	単著	平成 17 年 3 月	Proc. 3rd Annual Int., Workshop on“ Green ” Composite		29-32 頁
Effect of Physical Surface Treatment of Carbon Fiber on Fracture Toughness and Bending Properties for CFRP	共著	平成 17 年 4 月	SAE Technical Paper Series No.2005-01-1677	K.Takemura,H.Shiibashi	1-4 頁
Strength and Effect of Surface Treatment for Bio Composite using Natural fibers	単著	平成 17 年 8 月	Proc. 12th Int. Conf. on Composites/Nano Engineering		1-4(CD-ROM) 頁
CFRP の破壊及びクリープ特性に及ぼす物理的表面処理の影響	共著	平成 18 年 4 月	日本機械学会論文集（A 編）72,（716）	竹村兼一，椎橋洋友	501-506 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Effect of surface treatment to tensile static and creep properties for jute fiber reinforced composite	単著	平成 18 年 5 月	WIT Transactions on the Build Environment85		143-149 頁
Effect of Molding Condition to Tensile Properties for Hemp Fiber Reinforced Composite	共著	平成 18 年 9 月	Proc. of Fourth Int. Workshop on Green Composites	K.Takemura,Y.Minekage	153-155 頁
Effect of Heat Treatment to Tensile Properties For Jute Fiber Reinforced Composite	共著	平成 18 年 9 月	Proc. of Fourth Int. Workshop on Green Composites	K.Takemura, K.Zenihana, A.Saito	156-157 頁
Fracture Toughness of Carbon Fiber Reinforced Composites with Rubber Modification	単著	平成 19 年 3 月	Key Engineering Materials334-335		509-512 頁
高温環境下での繊維強化高分子系複合材料の強度、クリープ特性に関する研究	単著	平成 19 年 3 月	第 2 回神奈川大学工学部・工学研究科　教育研究補助金による教育研究成果報告会要旨集 2		17-18 頁
Study on Static and Creep Properties of CFRP using Rubber Modified Matrix	共著	平成 19 年 6 月	WIT Transactions on Engineering SciencesVol.57	K. Takemuraand Y. Yasuda	3-11 頁
Effect of molding condition on tensile properties of hemp fiber reinforced composite	共著	平成 19 年 12 月	Advanced Composite MaterialsVol.16, (No.4)	K. Takemuraand Y. Minekage	
Static tensile properties for jute fiber reinforced composite	単著	平成 20 年 5 月	WIT Transactions on the Build Environment97		195-202 頁
Tensile Properties of Natural Fiber Reinforced Green Composites in Temperature Conditions	共著	平成 20 年 8 月	Proc. Fifth Int. Workshop on Green CompositesVol.5	K. Takemura, Y. Minekage and H.Katougi	
Effect of Water Absorption on Mechanical Properties of Hemp Fiber Reinforced Composite	共著	平成 20 年 9 月	Proc. the 6th Asia-Australasian Conference on Composite Materials6	K. Takemura, Y.Minekage and H. Katougi	455-458 頁
その他					

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
天然繊維強化複合材料の吸水環境下におけるクリープ特性	単著	平成 16 年 3 月	第 33 回 FRP シンポジウム講演論文集,		15-16 頁
平織り炭素繊維を用いた CFRP の層間破壊特性に及ぼす表面処理の影響	共著	平成 16 年 7 月	日本機械学会 M&M2004　材料力学カンファレンス　講演論文集	竹村兼一, 椎橋洋友	51-52 頁
平織り炭素繊維を用いた CFRP の曲げ特性に及ぼす表面処理の影響	共著	平成 16 年 9 月	日本機械学会 2004 年度年次大会講演論文集	竹村兼一, 椎橋洋友	357-358 頁
平織り構造を有する CFRP の強度特性に及ぼす表面処理の影響	共著	平成 16 年 10 月	日本複合材料学会第 29 回複合材料シンポジウム講演論文集	竹村兼一, 椎橋洋友	179-180 頁
天然繊維強化複合材料の強度特性に及ぼす表面処理の影響	単著	平成 17 年 3 月	第 34 回 FRP シンポジウム講演論文集		163-164 頁
ジュート繊維強化複合材料の引張り強度特性に及ぼす表面処理の影響	共著	平成 17 年 9 月	日本機械学会 2005 年度年次大会講演論文集 1	竹村兼一, 椎橋洋友	545-546 頁
表面処理を施した CFRP の層間破壊及びクリープ特性に関する研究	共著	平成 17 年 11 月	日本機械学会 M&M2005　材料力学カンファレンス講演論文	椎橋洋友, 竹村兼一	663-664 頁
ジュート繊維強化複合材料の引張りクリープ特性に及ぼす表面処理の影響	共著	平成 18 年 3 月	第 35 回 FRP シンポジウム講演論文集	竹村兼一, 銭花圭	295-296 頁
天然繊維を用いた環境に優しい FRP、４．天然繊維を用いた FRP（成形・問題）	単著	平成 18 年 4 月	強化プラスチックス, Vol.52, No.4		175-178 頁
炭素繊維強化複合材料のクリープ特性に関する研究	共著	平成 18 年 8 月	日本機械学会 M&M2006　材料力学カンファレンス講演論文	竹村兼一, 安田佳史	149-150 頁
加熱処理を施したジュート繊維を用いた複合材料の引張強度特性	共著	平成 18 年 9 月	日本機械学会 2006 年度年次大会講演論文集 1	竹村兼一, 斎藤淳仁	389-390 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
麻繊維強化グリーンコンポジットの強度特性	共著	平成 18 年 10 月	日本複合材料学会第 31 回複合材料シンポジウム講演要旨集 31	竹村兼一，嶺蔭雄一朗	129-130 頁
繊維の加熱処理がジュート繊維強化複合材料の引張り強度特性に及ぼす影響	共著	平成 19 年 3 月	日本材料学会 JCOM-36(材料・構造の複合化と機能化に関するシンポジウム)	竹村兼一，銭花圭	268-270 頁
ジュート繊維強化グリーンコンポジットの引張り強度特性	共著	平成 19 年 9 月	日本機械学会 2007 年度年次大会講演論文集 Vol.1	竹村兼一，斎藤淳仁	551-552 頁
麻繊維強化グリーンコンポジットの機械的特性	共著	平成 19 年 10 月	日本複合材料学会第 32 回複合材料シンポジウム講演論文集	竹村兼一，嶺蔭雄一朗	51-52 頁
ジュート繊維強化グリーンコンポジットにおける引張り強度特性の温度依存性	共著	平成 20 年 3 月	日本材料学会 JCOM-37(材料・構造の複合化と機能化に関するシンポジウム) 講演論文集	竹村兼一，斎藤淳仁	244-245 頁
炭素繊維強化複合材料の強度及びクリープ特性に及ぼす吸水の影響	共著	平成 20 年 5 月	日本材料学会第５７期学術講演会講演論文集	加藤木秀章，安田佳史，竹村兼一	273-274 頁
ジュート繊維強化グリーンコンポジットの強度特性に及ぼす表面処理の影響	共著	平成 20 年 8 月	日本機械学会 2008 年度年次大会講演論文集 Vol.1	斎藤淳仁，竹村兼一，加藤木秀章	373-374 頁
麻繊維を用いたグリーンコンポジットの機械的特性	単著	平成 20 年 10 月	日本複合材料学会第 33 回複合材料シンポジウム講演論文集		161-162 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
～現在に至る	（国内共同研究）「複合材料のクリープ特性」
～現在に至る	（国内共同研究）「天然繊維強化複合材料の強度特性」
平成 4 年 7 月～現在に至る	日本機械学会会員
平成 6 年 4 月～現在に至る	（国内共同研究）同志社大学工学部機械系学科の藤井透研究室「架橋ゴム粒子を用いたＣＦＲＰの高じん性化に関する研究」
平成 6 年 4 月～現在に至る	（国内共同研究）同志社大学工学部機械系学科の藤井透研究室「架橋ゴム粒子を用いたＣＦＲＰの高じん性化に関する研究」
平成 9 年 4 月～現在に至る	日本材料学会会員
平成 9 年 4 月～現在に至る	日本複合材料学会会員
平成 10 年 4 月～現在に至る	複合材料界面科学研究会会員
平成 12 年 7 月～現在に至る	Member of International Advisory Board for ICCE 運営委員
平成 15 年 4 月～現在に至る	日本材料学会複合材料部門委員会内グリーンコンポジット WG メンバー
平成 15 年 4 月～現在に至る	日本材料学会複合材料部門委員会委員
平成 16 年 1 月～現在に至る	Member of Local Committee for International Workshop on Green Composities 運営委員
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	日本材料学会複合材料部門委員会内グリーンコンポジット WG 幹事
平成 18 年 9 月～平成 18 年 9 月	日本材料学会複合材料部門委員会主催国際会議 IWGC-4 事務局長
平成 20 年 3 月～平成 20 年 3 月	高大連携　高等学校への出張講義講師
平成 20 年 4 月～現在に至る	日本材料学会複合材料部門委員会内グリーンコンポジット WG 主査
平成 20 年 5 月～平成 20 年 8 月	日本材料学会複合材料部門委員会主催国際会議 IWGC-5 実行委員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部機械工学科	職名 教授	氏名 中尾　陽一	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 配布教材の更新	平成 19 年 9 月	授業評価アンケートを受けて，自習用の練習問題を増やし，学生の自主学習による学力向上を図った
2　作成した教科書、教材 「工業力学演習」用教材 「工作機械」用教材	平成 14 年 4 月 平成 17 年 4 月	
3　教育上の能力に関する大学等の評価 工学部優秀講義賞	平成 19 年 9 月	
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他 機械工学科カリキュラム検討委員会委員長としての取組み	～平成 15 年 4 月	学科における教育の充実を図るためカリキュラムの改定作業を行っている

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
高精度切削･研削･研磨, 精密成形による非球面レンズの加工技術と評価　～ガラス･プラスチック, 材料, 金型, 装置, 測定・評価～		平成 17 年 8 月	技術情報協会		
論文					
Diamond Turning using Position and AE Dual Feedback Control System	共著	平成 15 年 4 月	Journal of the International Societies for Precision Engineering and Nanotechnology, Vol. 27, No. 2,		117-124. 頁
Speed control of high-speed motor driven by fluid energy	単著	平成 15 年 8 月	Proceedings of 2003 FLUCOME, CD-ROM		
Water Energy Drive Spindle Supported by Water Hydrostatic Bearing for Ultra-Precision Machine Tool	共著	平成 15 年 10 月	Proc. of ASPE 2003 Annual Meeting, (2003).		199-202 頁
Influence of Exit Surface Angle on Drilling Burr Formation	共著	平成 15 年 10 月	Transactions of the ASME, Journal of Manufacturing Science and Engineering, Vol. 125, (2003-11).		637-644 頁
Measurements and Evaluations of Drilling Burr Profile	共著	平成 16 年 6 月	Proc. of 7th International Conference on Deburring and Surface Finishing		117-126 頁
Performances of Water Energy Drive Spindle Supported by Water Hydrostatic Bearing	共著	平成 16 年 10 月	Proc. of ASPE 2004 Annual Meeting		241-244 頁
画像計測によるドリルバリの輪郭形状測定法（第 1 報, バリの輪郭形状測定システムの開発）	共著	平成 17 年 1 月	日本機械学会論文集 (C 編) Vol. 71, No. 701		319-326 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
超精密工作機械用スピンドル組込み型流体駆動モータに関する研究	共著	平成 17 年 3 月	日本機械学会論文集 (C 編)) Vol. 71, No. 703		1077-1084 頁
スピンドルの諸問題を解消するウォータードライブスピンドル	単著	平成 17 年 5 月	機械設計　49 巻 7 号（日刊工業新聞社）		54-60 頁
Water Drive Spindle for Diamond Turning Machine	共著	平成 17 年 10 月	Proc. of the third international conference on leading edge manufacturing in 21st century		449-454 頁
Development of Water Drive Spindle	共著	平成 17 年 11 月	Proceedings of the 6th JFPS International Symposium on Fluid Power CD ROM		
超精密工作機械用ウォータドライブスピンドル	単著	平成 18 年 2 月	ツールエンジニア　47 巻 2 号　（大河出版）		80-85 頁
Measurements and Evaluations of Drilling Burr Profile	共著	平成 18 年 4 月	Proceedings of the Institution of Mechanical Engineers, Part B: Journal of Engineering Manufacture220,（4）	Y. Nakao, Y. Watanabe	513-523 頁
Diamond Turning using Water Drive Spindle	共著	平成 18 年 8 月	Proceedings of 11th International Conference on Precision Engineering	Y. Nakao and Y. Sagesaka	157-161 頁
Design of air drive spindle	共著	平成 18 年 10 月	Proceedings of ASPE 2006 Annual Meeting	Yohichi Nakao, Tomohiro Mizoi and Yuzo Minowa	
Rotational Speed Control of Water Drive Spindle for Diamond Cutting	単著	平成 19 年 9 月	Proc. International Conference on Manufacturing Research		pp. 54-58 頁
Design of Fluid Drive Spindle and its Rotational Speed Control	共著	平成 19 年 11 月	Proc. of ASME 2007 International Mechanical Congress and ExpositionCD ROM	Masanori Ishikawa	
Rotational Speed Control of Fluid Drive Motor	共著	平成 20 年 6 月	Proceedings of International Symposium on Flexible Automation 2008	Masanori Ishikawa	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Design of Angular Position Controller of Fluid Drive Spindle for Diamond Turning	共著	平成 20 年 9 月	Proc. International Conference on Manufacturing Research 2008	Yohichi Nakao, Masanori Ishikawa	57-64 頁
Design of Angular Position Control System for Fluid Driven Spindle	共著	平成 20 年 11 月	Proc. of ASME 2008 International Mechanical Congress and ExpositionCD-ROM	Yohichi Nakao, Masanori Ishikawa	
その他					
水によって駆動する超精密工作機械用スピンドル（第２報，スピンドルの性能試験）	共著	平成 16 年 9 月	日本機械学会 2004 年度年次大会講演論文集 Vol. 4		311-312 頁
水によって駆動する超精密工作機械用スピンドル（第１報，スピンドルの開発）	共著	平成 16 年 9 月	日本機械学会 2004 年度年次大会講演論文集 Vol. 4		309-310 頁
ウォータドライブスピンドルによるダイヤモンド切削	共著	平成 18 年 9 月	日本機械学会 2006 年度年次大会講演論文集	中尾, 提坂，近藤	51-52 頁
エアドライブスピンドルの設計	共著	平成 18 年 9 月	日本機械学会 2006 年度年次大会講演論文集 4	中尾，溝井	49-50 頁
ウォータドライブスピンドルの回転数制御に関する検討	単著	平成 19 年 10 月	日本機械学会沖縄講演会講演論文集		107-108 頁
流体駆動スピンドルの回転数制御	共著	平成 20 年 3 月	日本機械学会九州支部・第 61 期総会講演会論文集	石川雅教	71-72 頁
流体駆動スピンドルの試作と基本特性	共著	平成 20 年 3 月	日本機械学会中国四国支部・第 46 期総会講演会論文集	石川雅教	405-406 頁
回転角制御機能を備えた流体駆動スピンドルの試作と制御系設計	共著	平成 20 年 4 月	日本機械学会 機素潤滑設計部門講演会論文集	石川雅教	135-136 頁
流体駆動スピンドルの回転角制御に関する基礎的検討	共著	平成 20 年 11 月	計測自動制御学会九州支部学術講演会論文集	中尾陽一，浅岡直哉	
ワイヤドライブ・エアステージの試作とモデリング	共著	平成 20 年 11 月	精密工学会中国四国支部愛媛地方学術講演会論文集	中尾陽一，高橋広和	25-26 頁

著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び 巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
ダイヤモンド切削用流体駆動スピンドルの性能評価	共著	平成 21 年 3 月	日本機械学会関西支部・第 84 期総会講演会論文集	浅岡直哉，中尾陽一	25 頁
ワイヤドライブ・エアステージの制御系設計	共著	平成 21 年 3 月	日本機械学会関西支部・第 84 期総会講演会論文集	高橋広和，中尾陽一	23 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
平成元年～現在に至る	日本機械学会会員
平成元年～現在に至る	日本人工臓器学会会員
平成 4 年～現在に至る	精密工学会会員
平成 13 年 4 月～現在に至る	日本機械学会 2001 年メカライフ編集委員会委員
平成 14 年 4 月～現在に至る	日本機械学会 2002 年メカライフ編集委員会委員
平成 15 年～現在に至る	精密工学会加工機械のマイクロ化分科会委員
平成 15 年 4 月～平成 18 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 (C)　4,100 千円 （超精密 Meso スケール部品創成用マイクロファクトリのための高性能スピンドルの開発）（研究代表者）
平成 15 年 4 月～平成 16 年 3 月	神奈川高度技術支援財団 RSP 事業 （水駆動による高性能小型スピンドル装置を用いた超精密メゾスケール部品創成用加工システムの試作）（研究代表者）
平成 16 年～現在に至る	日本機械学会論文集校閲委員
平成 17 年 4 月～現在に至る	精密工学会その他（マイクロ生産機械専門委員会)
平成 17 年 4 月～現在に至る	精密工学会マイクロ生産機械専門委員会
平成 18 年 4 月～平成 21 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究C 一般 3,400 千円 （超精密メゾスケール部品創成用ウォータドライブ小型加工システムの開発）（研究代表者）
平成 18 年 4 月～平成 19 年 3 月	財団法人　マザック財団 500 千円 （回転角制御機能を備えたウォータドライブスピンドルの試作）（研究代表者）
平成 19 年 4 月～現在に至る	日本フルードパワーシステム学会会員
平成 19 年 4 月～現在に至る	（受託研究）科学技術振興機構「枚葉式スピン洗浄装置用スピンテーブルの開発」
平成 19 年 4 月～平成 20 年 3 月	科学技術振興機構（シーズ発掘試験） 2,000 千円 （枚葉式スピン洗浄装置用完全純水駆動ウォータドライブスピンテーブルの開発）（研究代表者）
平成 20 年 4 月～現在に至る	日本機械学会日本機械学会　関東支部商議員
平成 20 年 4 月～現在に至る	日本機械学会日本機械学会関東支部庶務幹事
平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月	財団法人　工作機械技術振興財団（試験研究） 2,000 千円 （回転テーブル機能を具備したウォータドライブスピンドルの開発と性能評価）（研究代表者）

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部機械工学科	職名 教授	氏名 原村　嘉彦	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		なし
2　作成した教科書、教材 Mデザイン I 授業教材の開発	平成 18 年 7 月 ～平成 20 年 4 月	現象等に接しながら解析手法を身につける科目として設定された「M デザイン I 」において，流体力学と動力学に関連する実験装置とそれを用いた演習のためのテキストを作成した.
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他 工学部 FD 委員会委員長	平成 12 年 11 月 ～平成 16 年 3 月	自己点検・評価、JABEE による認定準備の一環として、全学に先駆けて工学部として FD を実施するために発足した委員会で、委員長として立案を主導し、調整を画った。（平成 12 年 11 月～）
機械工学科カリキュラム検討委員	平成 15 年 1 月 ～平成 17 年 7 月	入学生の多様化等に対応すべく、平成 17 年 4 月改定を目標に教育課程の見直しを行っている。（平成 15 年 1 月～）
2003 年度授業評価アンケートの解析と報告書の編集	平成 15 年 10 月 ～平成 16 年 3 月	2003 年度授業評価に対して工学部 FD 小委員会で行った解析作業をワーキンググループの一員として中心となって行った。解析作業は、データの信頼性の検証とデータから各教員が自分の弱点を見つけるための基礎データの提示を中心に行った。（平成 15 年 10 月～）
機械工学科教育の継続的改善委員会委員長	平成 16 年 4 月 ～平成 18 年 3 月	
機械工学科教育の継続的改善委員会委員	平成 19 年 4 月 ～平成 20 年 3 月	

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
機械工学専攻カリキュラム検討委員会委員長	平成 20 年 3 月 ～現在に至る	

II　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
授業評価アンケートの解析	共著	平成 16 年 11 月	工学教育		66-71 頁
Heat Transfer During Compression and Expansion of Gas	共著	平成 20 年 3 月	Journal of Heat Transfer130-3	Masutaka Ota, Yoshihiko Haramura	032801 頁
その他					
サブクール沸騰限界熱流束に対する溶存気体の影響（実験結果と機構モデル）		平成 15 年 5 月	第 40 回日本伝熱シンポジウム, 広島		
教育評価アンケートで得られたこと－卒業生父母に対するアンケート調査－	共著	平成 15 年 9 月	平成 15 年度工学、工業教育研究講演会, 札幌		
教育評価アンケートの分析－卒業生に対するアンケート調査	共著	平成 15 年 9 月	平成 15 年度工学、工業教育研究講演会、札幌		
スターリングエンジン最適パラメータ（平均圧と温度比の依存性）		平成 15 年 10 月	第 7 回スターリングサイクルシンポジウム		
気体の圧縮・膨張時の伝熱	共著	平成 16 年 10 月	第 8 回スターリングサイクルシンポジウム講演論文集		87-90 頁
Heat transfer during compression and expansion of gas	共著	平成 17 年 3 月	6th KSME-JSME Thermal and Fluids Engineering Conference		EH-06 頁
Heat transfer in a regenerator made by wire-cut electrospark machining and a design of an extremely short engine	共著	平成 17 年 9 月	Proceedings of the 12th International Striling Engine Conference		
気体の圧縮　膨張時の伝熱（固定壁近傍の温度分布）	共著	平成 17 年 10 月	第 9 回スターリングサイクルシンポジウム講演論文集		87-88 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
極小ストローク・ボア比のスターリングエンジンの設計	共著	平成 17 年 10 月	第 9 回スターリングサイクルシンポジウム講演論文集		11-14 頁
サブクール液中における気泡の凝縮による熱輸送	単著	平成 18 年 6 月			334 頁
ホットワイヤセンサを用いた圧縮・膨張時の気体温度測定	共著	平成 18 年 10 月	第 10 回スターリングサイクルシンポジウム	太田益隆，原村嘉彦	79 頁
円柱状空間における環状噴流の可視化	共著	平成 18 年 10 月	第１０回スターリングサイクルシンポジウム	久保田和博，原村嘉彦	17 頁
抵抗線センサを使用した温度測定の補償法	共著	平成 19 年 5 月	第 44 回日本伝熱シンポジウム	太田益隆，原村嘉彦	C216 頁
Heat Transfer on the End Surface of Short Columnar Space due to an Annular Jet and Suction Driven by the Displacer Motion	共著	平成 19 年 9 月	Proceedings of the 13th International Stirling Engine Conference	Y. Haramura, K. Kubota	130 頁
ディスプレーサの動きで誘起される環状噴流による熱伝達特性	共著	平成 20 年 8 月	日本機械学会年次大会 2008（横浜）	原村嘉彦，久保田和博	

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
～現在に至る	日本機械学会会員
～現在に至る	日本伝熱学会会員
平成 13 年 4 月～平成 19 年 3 月	日本機械学会スターリングサイクル委員会委員
平成 14 年 3 月～平成 16 年 2 月	日本機械学会関東支部神奈川ブロック運営委員
平成 14 年 4 月～平成 16 年 3 月	日本機械学会関東支部商議員
平成 15 年 4 月～平成 17 年 3 月	日本機械学会論文集編集委員会校閲委員
平成 16 年 4 月～現在に至る	日本設計工学会会員
平成 16 年 4 月～平成 17 年 3 月	日本機械学会熱工学部門 出版委員会幹事
平成 17 年 12 月～平成 18 年 12 月	第 10 回スターリングサイクルシンポジウム実行委員長
平成 18 年 2 月～平成 19 年 12 月	13th International Stirling Engine Conference 実行委員会委員
平成 18 年 3 月～平成 20 年 2 月	日本機械学会関東支部神奈川ブロック長
平成 19 年 4 月～現在に至る	日本機械学会スターリングサイクル委員会委員長
平成 19 年 4 月～現在に至る	日本機械学会エンジンシステム部門運営委員
平成 19 年 10 月～平成 20 年 3 月	連続運転事前審査委員会委員
平成 20 年 3 月～現在に至る	日本機械学会関東支部神奈川ブロック運営委員
平成 20 年 4 月～現在に至る	開放検査周期認定事前審査委員会委員
平成 20 年 5 月～現在に至る	日本伝熱学会理事・総務部会長

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部機械工学科	職名 教授	氏名 前森　健一	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
授業活性化の手段としてのスモールテストの活用	平成 5 年 4 月 1 日 ～現在に至る	その回の授業内容から出題する，参照可のスモールテストを，講義終了直後に実施することにより，受講学生の居眠り，遅刻，無断出入り，私語を減らした．
アイデア教育の実施	平成 11 年 4 月 1 日 ～現在に至る	設計工学の授業において，概念設計を実践させた．創造力を養成するために，各種題材（人力飛行物体，安全浴槽，娯楽用車いすなど）を取上げた．
学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 15 年 4 月 1 日 ～現在に至る	授業評価アンケートにおいて,「滑舌」が悪いとの指摘を受けたので，授業直前に約 10 分間「滑舌」の練習を行っている．さらに，プレゼンテーションの授業において，受講者に「滑舌」のテストを課している．
もの作り教育の実施	平成 19 年 9 月 1 日 ～現在に至る	機械工学輪講において，卒業研究のテーマに関係する諸事項を学習させた上で，これらを取り込んだ模型自動車を製作させ，その成果を評価するために，自動車レースを実施した．
演習の重視	平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	機械設計及び演習 1 の授業において，設計対象の機械要素を単独に取上げるのではなく，それらを有機的に結びつけることによって，興味を持たせるようにした．また，4 名程度の班に分け，教えあうようにした．ひとつの設計テーマに対し，演習の機会を数回設け，理解の徹底を図った．
2　作成した教科書、教材		なし
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		
機械工学科「教員間ネットワーク委員会」に於ける活動	平成 16 年 4 月 1 日 ～現在に至る	設計製図，材料力学担当教員の授業内容・方法の改善・向上への取組みなどについて検討し，継続的な改善活動を行っている．

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
機械工学科「教育の継続的改善委員会」に於ける活動	平成 18 年 4 月 1 日 ～現在に至る	機械工学科に複数設置された「教員間ネットワーク委員会」の上部委員会として，本学科の教育内容全般について，継続的な改善活動を行っている．
工学部 FD 小委員会委員としての活動	平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	機械工学科の研究授業について，実施計画・実施・結果の取り纏めなどを行っている．

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
質量変動に対応するセミアクティブ油圧緩衝器の最適化	共著	平成 15 年 9 月	日本機械学会論文集（C 編）69,（685）	前森健一，小金井玲子	2295-2301 頁
MR 流体を用いたセミアクティブ緩衝器の最適化	共著	平成 17 年 8 月	日本機械学会論文集（C）編７１,（708）	史鳳輝，友森快治，谷川直樹，小金井玲子，前森健一	2492-2500 頁
ER 緩衝器の開発	共著	平成 18 年 6 月	日本設計工学会誌 41,（6）	史鳳輝，友森快治，小金井玲子，谷川直樹，前森健一	308-314 頁
MR 流体を用いた緩衝器の開発	共著	平成 18 年 12 月	日本設計工学会誌 41,（12）	史鳳輝，友森快治，小金井玲子，谷川直樹，前森健一	636-643 頁
MR油圧緩衝器のモデル化とパラメータ同定	共著	平成 20 年 11 月	日本機械学会論文集 C 編 74,（747）	小林雅治，史鳳輝，前森健一	
その他					
Optimization for Mass Variation of System Including Shock Absorber	共著	平成 15 年 9 月	DETC’０3ASME Design Engineering Technical Conference and Conputer Information in Engineering Conference	Reiko Koganei,（Ken’ichi Maemori	1 頁
Optimization of a Semi-Active Shock Absorber for Aircraft Landing Gear	共著	平成 15 年 9 月	DETC’０3 ASME Design Engineering Technical Conference and Conputer Information in Engineering Conference	Ken’ichi Maemori,Naoki Tanigawa, Reiko Koganei,Tosio Morihara	1 頁
セミアクティブ緩衝器の最適化について	共著	平成 15 年 10 月			1-2 頁
MR 流体を用いた緩衝器に関する研究	共著	平成 15 年 11 月	日本機械学会鹿児島地方講演会	史　鳳輝，友森快治，谷川直樹，前森健一	1-2 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
ER 流体を用いた緩衝器に関する研究	共著	平成 15 年 11 月	日本機械学会鹿児島地方講演会	友森快治，史　鳳輝，谷川直樹，前森健一	1-2 頁
中空メータリングピン式セミアクティブ緩衝器の最適設計	共著	平成 16 年 9 月	日本機械学会２００４年度年次大会	谷川直樹，史　鳳輝，前森健一	265-266 頁
MR 流体を用いた緩衝器の試作と実験	共著	平成 16 年 9 月	日本機械学会２００４年度年次大会	史　鳳輝，友森快治，谷川直樹，小金井玲子，前森健一	261-262 頁
Optimization of a Semi-Active Shock Absorber Using a Genetic Algoruthm	共著	平成 16 年 9 月	DETC’０４ ASME Design Engineering Technical Conference and Conputer Information in Engineering Conference	Ken’ichi Maemori,Naoki Tanigawa, Fen g-hui Shi	1-8 頁
MR 緩衝器のモデリング	共著	平成 18 年 9 月	日本機械学会 2006 年度年次大会	小林雅治，史　鳳輝，前森健一	353-354 頁
バイパスオリフィス式セミアクティブ油圧緩衝器のモデリング	共著	平成 18 年 9 月	日本機械学会 2006 年度年次大会	松原一敬，森田洋介，谷川直樹，前森健一	347-348 頁
バイパスオリフィス式セミアクティブ油圧緩衝器の抵抗力特性	共著	平成 18 年 9 月	日本機械学会 2006 年度年次大会	森田洋介，松原一敬，谷川直樹，前森健一	345-346 頁
MR 緩衝器のモデリングについて	共著	平成 19 年 9 月	日本機械学会創立 110 周年記念 2007 年度年次大会	小林雅治，史　鳳輝，前森健一	203-204 頁
MR 緩衝器の抵抗力に関する研究	共著	平成 19 年 9 月	日本機械学会創立 110 周年記念 2007 年度年次大会	千葉修平，小林雅治，史　鳳輝，前森健一	201-202 頁
バイパスオリフィス式油圧緩衝器の抵抗力に関する研究	共著	平成 19 年 9 月	日本機械学会創立 110 周年記念 2007 年度年次大会		199-200 頁
可動式ハンプに関する研究	共著	平成 19 年 9 月	日本機械学会創立 110 周年記念 2007 年度年次大会	森田洋介，中西昭之，前森健一	197-198 頁
可動式ハンプに関する提案	共著	平成 19 年 9 月	日本機械学会創立 110 周年記念 2007 年度年次大会	中西昭之，森田洋介，前森健一	195-196 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
MR 緩衝器の材料に関する研究	共著	平成 20 年 9 月	第 18 回設計工学・システム部門講演会	千葉修平，小林雅治，史　鳳輝，前森健一	199-200 頁
バイパスオリフィス式油圧緩衝器のモデリング	共著	平成 20 年 9 月	第 18 回設計工学・システム部門講演会	小暮彰太，松原一敬，史　鳳輝，前森健一	195-198 頁
アクティブ可動ハンプに関する研究	共著	平成 20 年 9 月	第 18 回設計工学・システム部門講演会	中西昭之，森田洋介，前森健一	191-194 頁
セミアクティブ可動ハンプに関する研究	共著	平成 20 年 9 月	第 18 回設計工学・システム部門講演会	石田哲志，中西昭之，小暮彰太，千葉修平，前森健一	191-194 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 42 年 4 月～現在に至る	社団法人自動車技術会会員
昭和 49 年 4 月～現在に至る	社団法人日本機械学会会員
昭和 61 年～現在に至る	財団法人佐川交通社会財団交通安全対策振興助成金 979 千円 （自動車走行速度抑制用ハンプに関する研究）（研究代表者）
平成 3 年 4 月～現在に至る	社団法人日本航空宇宙学会会員
平成 17 年 4 月～現在に至る	社団法人日本設計工学会会員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部機械工学科	職名 准教授	氏名 工藤　邦男	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 16 年 4 月 1 日 ～現在に至る	業科目：加工学概論平成１５年度後期授業評価アンケートを受け、総合的満足は約７０％であったが、授業の板書が早いとの指摘があり、配布プリントに説明文を記述し改善を図った。
学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 17 年 4 月 1 日 ～現在に至る	授業科目：加工学概論平成１６年度後期授業評価アンケートを受け、総合的満足は約６７％で教員の熱意が約８０％であった。学生の勉強時間を増やすために小試験と中間試験の回数を各１回ずつ増やし勉強する時間を増加させるよう工夫した
学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 18 年 4 月 1 日 ～現在に至る	授業科目：金属材料平成１６年度後期授業評価アンケートを受け、総合的満足は約６０％で教員の熱意が約９４％であった。本科目に対して受講生の学習意欲や興味が増すように創意・工夫がなされているかとの問いに「どちらともいえない」が約４０％あり、身近な材料をできるだけ具体的に話すよう改善を図った。
学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 18 年 9 月 20 日 ～現在に至る	授業科目：金属材料平成１６年度後期授業評価アンケートを受け、総合的満足は約６０％で教員の熱意が約９４％であった。本科目に対して受講生の学習意欲や興味が増すように創意・工夫がなされているかとの問いに「どちらともいえない」が約４０あり、身近な材料をできるだけ具体的に話すよう改善を図った。
講義中に受講生の理解度を高めるための改善	平成 19 年 4 月 1 日 ～現在に至る	授業科目：機械材料講義中に本講義の中で重要な部分については、配布テキストにマーキングさせ、なぜ重要であるかを説明し理解度を高める工夫を図った。
小テストおよび中間テストの理解度チエック	平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	授業科目：機械材料講義内容で理解できない点などを中心に希望者のみであるが、補修授業で補い習熟度を高める工夫を図った。
2　作成した教科書、教材		
機械材料のテキスト	平成 16 年 1 月 10 日 ～平成 16 年 3 月 20 日	前期科目『機械材料』の講義用テキスト（A4 で 41 枚）を自身で作成し、教材として配布した。
講義用テキストの作成	平成 18 年 1 月 20 日 ～平成 18 年 3 月 20 日	前回作成した前期科目『機械材料』の講義用テキスト（A4 で 41 枚）に説明文を加筆して（A4 で 45 枚）教材として配布した。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
２００７年度授業評価アンケート結果	平成 19 年 4 月 1 日 ～現在に至る	授業科目：FYS １年次の FYS では、”熱意を感じた、質問意見に配慮した、課題を適切に支持した ”という評価項目で、全体評価を上回る 4.2 以上の評価を得た。
2007 年度後期学部優秀講義賞	平成 20 年 3 月 3 日	学生の意見調査を参考とした 2007 年度後期において学部優秀講義賞を受賞した。
２００８年授業評価アンケート	平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	昨年の金属材料（難易度は 3.3）と同等内容で機械材料の講義を実施したが、難易度 4.2 の評価を得た。今後は、講義内容を絞り、身近な材料を取り上げて平易に説明するため資料を作成する
４　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
５　その他		なし

II　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
Crater wear characteristics of an Fe diffused carbide cutting tool	共著	平成 15 年 5 月	Journal of Materials Processing Technology132		255-261 頁
Hardness and oxidation Resistance of Perovskite-Type Solid Solution of the $ScRh_3B$-$ScRh_3C$ System	共著	平成 15 年 9 月	J.of Alloys and Compounds358		5213-5214 頁
切削工具の摩耗に及ぼす熱電流の影響	単著	平成 15 年 12 月	神奈川大学工学研究所報 No.26		2-28 頁
High temperature solustion growh and characterization of chrominum disilicide.	共著	平成 15 年 12 月	Jpn.J.of Appl.Phys,Vol.42,Part 1,No.12		7292-7293 頁
Search for Perovskite type New Boride in the Sc-Ni-B system	共著	平成 15 年 12 月	Jpn.J.of Appl.Phys,Vol.42,	T. Shishido, K. Kudou, J. Ye, T. Sasaki, S. Okada, K. iizumi, M. Tanaka, T. Sugawara, a. Nomura, s. Kohiki, m oku, Y. kawazono and K. Nakajima,	7464-7466 頁
Hardness and Oxidaition Resistance of Perovskite-type Solid Solution of the $RRh_3B_xC_{1-x}$ (R=Y,Sc)	共著	平成 16 年 3 月	国士舘大学理工学研究所報告 No.16	S.Okada,K.Kudou, K. Iizumi, K. Nakajima and T.Shishido	27-30 頁
Thermal Properties of the Cerium Ortho-Aluminate and Ortho-Gallate	共著	平成 16 年 3 月	国士舘大学理工学研究所報告（No.16）	S.Okada,K.Kudou, K. Iizumi, K. Nakajima and T.Shishido	23-26 頁
Ternary boron-rich phases $AlMgB_{14}$ and $AlMgB_{22}$ grown from a molten Al-Mg-B mixture and properties of the crystals	共著	平成 16 年 3 月	国士舘大学工学部紀要 No.37	S.Okada,K.Kudou, T. Mori, T.Shishido and T.Lundstrom	25-29 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Growth and some properties of Sc_2AlB_6 crystal obtained from self-component aluminum solution	共著	平成 16 年 3 月	J.Solid State Chemistry177	S. Okada,K. Kudou, T. Tanaka,T. Shishido, Vladimir N. Gurin and T.Lundstrom	547-550 頁
Crystal growth, microhardness and oxidation behavior RMn_2Si_2 compounds (R=La,Ce,Pr,Nd,Sm,Gd)	共著	平成 16 年 5 月	『Journal of Alloys and compounds』383		254-258 頁
RMn_2Si_2 (R=La,Ce,Pr,Nd,Sm,Gd)Compounds Grown from Metal Flux and Properties of the Crystals.	共著	平成 16 年 5 月	Journal of the Society of JapanVol.112,(No,5)	K.Iizumi, S. Okada, T. Mori, T, Shishido, K. Kunio and P. Rogl	263-265 頁
Crystal Growth of Aluminium Mangnesium Borides from Al-Mg-B Ternary System Solutions and PropertiesS of the Crystals,	共著	平成 16 年 6 月	Materials Science Forum Vol.449-452	S. Okada, K. Kudou, T. Mori, T. Shishido, I. Higashi, N. Kamegashira, K. Nakajima, T. Lundstrom	365-368 頁
Boron-carbon atomic ratio dependence on the hardness and oxidation resistance of perovskite-type solid solution $ScRh_3B_XC_{1-X}$	共著	平成 16 年 7 月	J.Alloys and ComoundsVol.375	T. Shishido, J. Ye, K. Kudou, S. Okada,Y. Ishizawa, K. Iizumi, y.Sawada, M.Oku, Y. Ishizawa, A. Yoshikawa, M. Tanaka, , A. Nomura, T. Sugawara, K. Obara, T. Amano, S. Oishi, N. Kamegashira, Y. Kawazono S. Kohiki and K. Nakajima	217-220. 頁
Crater Wear Resistance of a Fe-diffused Carbide Tool	共著	平成 16 年 11 月	Pacific Science ReviewVol.6,（1）	K.Kudouand S.Okada	118-125 頁
Crystal growth, microhardness and oxidation behavior RMn_2Si_2 compounds (R=La,Ce,Pr,Nd,Sm,Gd)	共著	平成 16 年 12 月	Journal of Alloys and compounds,Vol.383	S. Okada,K.Iizumi, T. Mori, T, Shishido, K. Kudou,T. Tanaka, P. Rogl and T. Lundstrom	254-258 頁
Search for Perovskite-type new Boride in the Sc-T m-B(Tm=Ti, V,Cr,Mn,Fe,Co and Ni) system	共著	平成 16 年 12 月	Journal of Alloys and compoundsVol.383	T. Shishido, K. Kudou, J. Ye, T. Sasaki, S. Okada, K. iizumi, M. Tanaka, T. Sugawara, a. Nomura, s. Kohiki, m oku, Y. kawazono and K. Nakajima,	294-297 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Molten metal flux growth and properties of $CrSi_2$	共著	平成 16 年 12 月	Journal of Alloys and Compounds383	S. Shishido, S. Okada, Y. Ishizawa, K. Kudou, K. Iizui, Y.Sawada,H. Horiuchi, K. Inaba, T. Sekiguchi, J.Ye, Nomura, S. Miyashita, T.Sugawara, K. Obara, M.Oku, K.Fujiwara, T. Ujihara, G. Sazaki, N. Usami, S.Kohiki,Y. Kawazoe and K. Nakajima	294-297 頁
Crystal growth and structure refinement of a new higher boride $NaAlB_4$	共著	平成 17 年 5 月	Journal of Alloys and Compounds395	S.Okada, T. Tanaka, A. Sato, T. Shishido, K. Kudou et..al,	231-235 頁
NbB_2 粉末のメカノケミカル合成におよぼす粉砕媒体の影響	共著	平成 17 年 8 月	粉体および粉末冶金 Vol.52,（No.8）	飯泉清賢，関谷千春，岡田繁，宍戸統悦，工藤邦男	581-585 頁
Magnetic properties of thulium aluminoboride $TmAlB_4$	共著	平成 17 年 9 月	Journal of Appl. PhysVol.97	T.Mori, S. Okada and K. Kudou	10A910-1-3 頁
Properties of $REAlB_4$ and Lu_2AlB_6 crystalsgGrowth from RE-Al-B(RE=Tm, Yb, Lu) Melts	共著	平成 18 年 2 月	Journal of Alloys and Compounds408-412	SS. Okada,T. Shishido,T. Mori,K. Kudou et.al	375-378 頁
Synthesis, boron-nonstoichiometry and hardness of perovskite-type rare earth rhodium borides RRh_3B_x	共著	平成 18 年 2 月	Journal of Alloys and Compounds408-412	S.Shishido, S. Okada, K. Kudouet al.,	379-383 頁
Hardness and oxidation resistance of the perovskite-type RRh_3B_{xC1-x} (R=Y, Sc)	共著	平成 18 年 2 月	Journal of Alloys and Compounds408-412	S.Shishido, Y.Ishihara, J. Ye, S. Okada, K. Kudou et al.,	375-378 頁
Synthesis,boron-nonstoichiometry and hardness of perovskite-type rare earth rhodium borides RRh_3B_x(R=La, Gd, Lu and Sc)	共著	平成 18 年 2 月	Journal of Alloyas and Compounds408-412	S.Shishido, S. Okada, K. Kudouet al.	379-383 頁
Hardness and oxidation resistance of the perovskite-type $RRh_3B_xC_{1-x}$ (R=Y, Sc)	共著	平成 18 年 2 月	Journal of Alloyas and Compounds408-412	S,shishido,Y.Sahara,S.Okada,K.Kudou et. al	375-378 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
A first principles study of the elastic properties in perovskite-type RRh_3B and RRh_3C with R=Sc, Y and LaA first principles study of the elastic properties in perovskite-type RRh_3B and RRh_3C with R=Sc, Y and La	共著	平成 18 年 4 月	Computatonal Materials Science36	R.Sahara,T.Shishido,A.Nomura, "K.Kudou",S.Okada,V.Kumar, K. Nakajima, Y.Kawazoe	12-16 頁
A first principles studu of the elastic properties in perovskite-type RRh_3B and RRh_3C with R=Sc, Y and La	共著	平成 18 年 4 月	Computational Materials ScienceVol.36	R.Sahara,T.Shishido,A.Nomura, K.Kudou,S.Okada,V.Kumar, K. Nakajima, Y.Kawazoe	12-16 頁
Perovskite-type new boride in the Sc-Ni-B system	共著	平成 18 年 5 月	『国士舘大学工学部紀要』 第３９号		40-42 頁
超伝導体ＮｂＢ$_2$粉末のメカノケミカル合成に対する粉砕媒体の効果	単著	平成 18 年 5 月	国士舘大学工学部紀要 第 39 号		35-39 頁
Growth and characterization of erbium rhodium borocarbide	共著	平成 18 年 5 月	『国士舘理工学研究所報告』 第 18 号		29-32 頁
Hardness and Magnetic Properties of $TmAlB_4$,$YbAlB_4$, $LuAlB_4$ and Lu_2AlB_6crystals	共著	平成 18 年 5 月	国士舘大学理工学研究所報告 Vol.18		24-28 頁
Properties of $REAlB_4$and Lu_2AlB_6 crystals gGrowth from RE-Al-B(RE=Tm, Yb, Lu) Melts	共著	平成 18 年 5 月	Journal of Alloys and Compounds408-412	S. Okada,T. Shishido,T. Mori,K. Kudouet al	547-550 頁
Mechanism of the increase in bulk modulus of perovskite $ScRh_3B_x$ by vacancies	共著	平成 18 年 6 月	Physical ReviewB73	R.Sahara,T.Shishido,A.Nomura,K.Kudou,S.Okada,V.Kumar, K. Nakajima, Y.Kawazoe	184102-1-9 頁
Mechanism of the increase in bulk modulus of perovskite $ScRh_3B_x$ by vacancies	共著	平成 18 年 6 月	Physical reviewB73	R.Sahara,T.Shishido,A.Nomura, K.Kudou,S.Okada,V.Kumar, K. Nakajima, Y.Kawazoe	184102-1-9 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Mechanochemical Synthesis of Zinc Ferrite, $ZnFe_{204}$, Materials Science Forum	共著	平成18年10月	Materials Science Forum534-536	Yutaka Sawada,Kiyokata Iizumi,Tomokazu Kuramochi,Meihan Wamg, li*xian Sun, Shigeru Okada, Kunio Kudou, Toetsu Shishido Jun-ichi Matsushita,	201-204頁
Growth of single crystals in the System R-Rh-B and R-Rh-B-C (R=Rare Earth Element) from Molten Copper Flux	共著	平成18年12月	Pacific Science Review8	T. Shishido, S. Okada, K. Kudou, K. Nakajima	Pacific Science Review頁
Syntheses of $Al_{1.1}Be_{0.7}B_{22}$,$Al_{1.4}Mg_{0.45}B_{22}$, $Al_xCu_yB_{105}$ (X=2.8-3.3, y=2.9-1.0),$Al_{1.3}Cu_{1.1}B_{25}$ and CuB_{23} crystals,and its poperties	共著	平成18年12月	Pacific Science Review8	S. Okada, T. Shishido, H. Kanari, K.Kamaoto, K. Kudou	139-144頁
Syntheses and properties of $REB_{48}Si_2$ (RE=Y,Tb,Dy.Ho,Er,Lu) compounds obtained by arc-melting」	共著	平成18年12月	Pacific Science Review12月号	K. Kudou, A. Okada, T. Shishido	115-117頁
Syntheses and Properties of $MgAlB_{14}$-type Compounds from Al-self Flux	共著	平成19年1月	12月号	S. Okada, T. Mori, T. Shishido, K. Iizumi, K. Kudou, K. Nakajima, P. Rogle	29-32頁
Growth and Some Properties of $REAlB_4$ and RE_2AlB_6(RE=Rare Earth Element	共著	平成19年2月	Journal of Flux Growth12,（2）	S.Okada,T.Shishido.T.Mori,K.Kudou, K.Iizumi,K.Kawazon	83-86頁
Crystal growth of higher borides from melts in the Al-ME-B (ME=Be, Mg, Cu) or Cu-B systems and its properties	共著	平成19年3月	Transactions of the Kokushikan Univ. Faculty of Engineering40	S. Okada, T. Mori, T. Shishido, K. Kudou, K. Iizumi, K. Nakajima	35-40頁
Solid solution range of boron and properties of the perovskite-type $NdRh_3B$	共著	平成19年3月	Transactions of the Kokushikan Univ. Faculty of Engineering40	S. Okada, K. Kudou, K. Iizumi, K. Nakajima, T. Shishido	30-34頁
Study on chemical state of perovskite-type boride $HoRh_3B$	共著	平成19年3月	国士舘大学理工学部付属理工学研究所報告.No.20	S. Okada, K. Kudou, K. Iizumi, K. Nakajima, T. Shishido	35-39頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
First-principles study of the structural, electronic, and elastic properties of $RRh_3B_xC_{1-x}$ (R=Sc and Y)	共著	平成 19 年 7 月	Physical review7 月号	R. Sahara, T. Shishido, A. Nomura, K. Kudou, S. Okada, V. kumar, K. Nakajima and Y. Kawazono	1-9 頁
Ab initio studies of structural, elastic, and electronic properties of RRh_3B_x (R=Sc, Y, La, and Ce)	共著	平成 19 年 7 月	Applied Physics Letters7 月号	H. Kojima, R. Shahara, T. Shishido, A. Nomura, K. Kudou, S. Okada, V. Kumar K. Nakajima, Y. Kawazono	081901-3 頁
Crystal structure, chemical bonding, electrical transport, and magnetic behavior of $TmAlB_4$	共著	平成 19 年 8 月	Physical ReviewB76,(8)	T. Mori, H. Borrmann, S. Okada, K. Kudou, A. Leithe-Jasper, U.Burkhardt, Y. Grin	064404-1-10 頁
酸化ニオブ（V）と非晶質ホウ素の固相反応によるニオブホウ化物の合成	共著	平成 19 年 10 月	粉体および粉末冶金 No.54,Vol.10	飯泉清賢、澤田豊、岡田繁、宍戸統悦、工藤邦男、中島一雄	682-685 頁
Hardness and Oxidation Resistance, magnetic Properties of $REB_{48}Si_2$（RE=Y, Tb, Dy, Ho, Er, Lu）Compounds Obtained by Arc Melting	共著	平成 19 年 12 月	The Japan Society of Applied PhysicsVol.46. No.12	K. Kudou, S. Fukuda, S. Okada, T. Mori, K Iizumi, T. Shishido, K Mantani	7803-7805 頁
Crystal growth of $MgAlB_{14}$ type compounds using metal salts and some properties	共著	平成 20 年 5 月	Journal of Alloys and Compounds458	Sigeru Okada, Toetsu Shishido, Takao Mori, Kiyokata Iizumi, Kunio Kudou, Kazuo Nakajima	297-301 頁
Synthesis and properties of the perovskite-type rare eath rhodium borides	共著	平成 20 年 12 月	国士舘大学理工学研究所報告（No.21）	S.Okada,K.Kudou,T.Shishido	pp.19-23. 頁
Colors and resistivities of sintered bodies of indium oxide doped with various tetravalent ions	共著	平成 20 年 12 月	Transaction of the Materials Research Society of Japan-Vol.33,（No.4）	.Sawada,A.Tobishima,K.Iizumi,M.Inui,T.kiji,T.Shishido,S.Okada,K.Kudou,A.Shida and M.Ide	pp.1353-1362 頁
Synthesis, Boron Solubility and Properties of Perovskite-Type Raer Earth Pallagiumu Borides	共著	平成 20 年 12 月	Journal of Flux GrowthVol.3,No. 2	T.Shishido, J. Ye, S. Okada, K. Kudou、Y. Ishizawa、T.Mori、Y. Sawada et. al	68-71 頁
Crystal structure of the $GaCo_2B_2C_X$(x=0-1)	共著	平成 21 年 3 月	国士舘大学理工学部紀要（N0.2）	S.Okada,K.Kudou,T,Shishido	pp.21-24 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
その他					
ペロブスカイト型 RRh_3B (R=La,Gd,Lu,Sc) の硬さおよび耐酸化性	共著	平成 15 年 5 月	第 20 回希土類討論会		210-211 頁
RE-Mn-Si 系化合物 (RE=希土類) の合成と物理化学的な性質	共著	平成 15 年 5 月	第 20 回希土類討論会		
ペロブスカイト型ホウ化物のボロンの不安比性と機械的及び電気的性質との関連	共著	平成 15 年 6 月	東北大学金属材料研究所研究部共同研究報告		204-206 頁
SEARCH FOR PEROVSKITE-TYPE NEW BORIDIS IN THE Sc-TM-B(TM=Ti,V,Cr,Mn,Co,Ni) SYSTEMS	共著	平成 15 年 7 月	14th International Conference on Solid Compounds of Transition Elements,Austria,Linze		
Al-Li-B 三成分系フラックスから高ホウ化物単結晶の育成	共著	平成 15 年 7 月	第 19 回日本セラミックス協会関東支部研究発表会		88-89 頁
FLUX GROWTH AND PROPAERTIES OF $CrSi_2$	共著	平成 15 年 7 月	14th International Conference on Solid Compounds of Transition Elements,Austria,Linze		
CRYSTAL GROWTH OF ALUMINIUM MAGNESIUM BORIDIES BY Al-Mg-B THERNARY SYSTEM SOLUTIONS AND PROPAERTOES OF THE CRYSTALS	共著	平成 15 年 7 月	14th International Conference on Solid Compounds of Transition Elements,Austria,Linze		
欠損摩擦に及ぼすサーメット工具の組成成分	共著	平成 15 年 7 月	第 19 回日本セラミックス協会関東支部研究発表会		95-96 頁
CrB_2 および CrB の高温酸化	共著	平成 15 年 7 月	第 19 回日本セラミックス協会関東支部研究発表会		91-92 頁
ペロブスカイト型 $RRh_3B_XC_{1-X}$ (R = Y, Sc) の硬さおよび耐酸化性の x 依存性	共著	平成 15 年 8 月	平成 15 年度日本セラミックス協会東北北海道支部研究発表会		68 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
酸化クロムとホウ素の固相反応で合成した CrB_2 の焼結	共著	平成 15 年 10 月	平成 15 年度神奈川県産学公交流研究発表会		227 頁
ペロブスカイト型化合物 $RRh_3B_XC_{1-X}$（R = Sc,Y）の硬さ，耐酸化性	共著	平成 15 年 10 月	平成 15 年度化学系 9 学協会連合東北地方大会		40 頁
Al-Mg-B 三成分フラックスから高ホウ化物の育成と性質	共著	平成 15 年 10 月	平成 15 年度科学系 9 学協会連合東北地方大会		41 頁
亜鉛フェライトのメカノケミカル合成	共著	平成 15 年 10 月	平成 15 年度科学系 9 学協会連合東北地方大会		119 頁
Al-Na-B 系フラックスから新しい高ホウ化物単結晶の育成	共著	平成 15 年 10 月	第 48 回人工結晶討論会		47-48 頁
ペロブスカイト型化合物 $RRh_3B_XC_{1-X}$ (R=La,Gd,Lu,Y,Sc,0 ≦ x ≦ 1）の硬さに関する研究	共著	平成 15 年 10 月	第 48 回人工結晶討論会		45-46 頁
RMO_3 (R=Ce,Pr,Tb;M=Al,Ga) の熱化学的安定性	共著	平成 15 年 10 月	平成 15 年度化学系 9 学協会連合東北地方大会		119 頁
Crystal Growth of Aluminum Magnesium Borides by Al-Mg-B Ternary System Solutions and properties of the Crystals	共著	平成 15 年 11 月	The 3rd International Symposium on the Designing,Processing and Properties of Advanced Engineering Materials,Jeju,Korea		138 頁
金属フラックス法による YTE_2Si_2 (TE=Fe,Co,Ni）化合物の合成と性質	共著	平成 16 年 3 月	『日本化学会第 84 春季年会』		630 頁
工具磨耗に及ぼす被削材中に含有する微量元素の影響	共著	平成 16 年 3 月	『日本機械学会　関東学生会第 43 回学生員卒業研究発表講演会』		257-258 頁
北海道神明石鉱物をを用いた NO_X 処理の効果	共著	平成 16 年 3 月	『日本化学会第 84 春季年会』		523 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
三成分系ホウ素過剰化合物 $AlMgB_{22}$ 結晶の合成と性質	共著	平成 16 年 3 月	『日本セラミックス協会 2004 年年会』		523 頁
コーティング工具のクレーター摩耗に及ぼす工具母材表層の影響	共著	平成 16 年 3 月	『日本機械学会　関東学生会第 43 回学生員卒業研究発表講演会』		259-260 頁
NbB_2 のメカノケミカル合成	共著	平成 16 年 3 月	『日本セラミックス協会 2004 年年会』		90 頁
TiN-TiB_2 複合粉末のメカノケミカル合成	共著	平成 16 年 3 月	『日本化学会第 84 春季年会』		630 頁
コーティング工具のクレーター摩耗に及ぼす工具母材表層の影響	共著	平成 16 年 3 月	日本機械学会　関東学生会第 43 回学生員卒業研究発表講演会,		259-260 頁
TiN-TiB_2 複合粉末のメカノケミカル合成	共著	平成 16 年 3 月	日本化学会第 84 春季年会		630 頁
金属フラックス法による YTE_2Si_2（TE=Fe,Co,Ni）化合物の合成と性質	共著	平成 16 年 3 月	日本化学会第 84 春季年会		630 頁
北海道神明石鉱物をを用いた NO_X 処理の効果	共著	平成 16 年 3 月	日本化学会第 84 春季年会		523 頁
工具磨耗に及ぼす被削材中に含有する微量元素の影響	共著	平成 16 年 3 月	日本機械学会　関東学生会第 43 回学生員卒業研究発表講演会,		257-258 頁
NbB_2 のメカノケミカル合成	共著	平成 16 年 3 月	日本セラミックス協会 2004 年年会		90 頁
三成分系ホウ素過剰化合物 $AlMgB_{22}$ 結晶の合成と性質	共著	平成 16 年 3 月	日本セラミックス協会 2004 年年会		523 頁
ペロブスカイト型ボライド $ScNi_3B_{0.5}$ の合成および性質	共著	平成 16 年 5 月	ペロブスカイト型ボライド ScNi3B0.5 の合成および性質		66-67 頁
RE-Al-B 系 (RE=Er,Tm,Yb,Lu) から希土類アルミニウムホウ化物の結晶育成とそれらの化合物の性質	共著	平成 16 年 5 月	『第 21 回希土類討論会』		64-65. 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
ペロブスカイト型ホウ化物のボロンの不定比性と機械的および電気的性質との関連	共著	平成 16 年 6 月	『東北大学金属材料研究所研究部共同研究報告』		204-206 頁
$ThCr_2Si_2$ タイプを有する YTE_2Si_2 (TE=Fe,Co,Ni) 結晶の合成と性質	共著	平成 16 年 7 月	『第 20 回日本セラミックス協会関東支部研究発表会』		83-84 頁
RE-Al-B 系 (RE=希土類) 系フラックスから得られた希土類アルミニウムホウ化物結晶の育成，構造と物理的性質	共著	平成 16 年 7 月	『第 20 回日本セラミックス協会関東支部研究発表会』		$79^8$0 頁
金属フラックスから得た $ThCr_2Si_2$ 型化合物 $REMn_2Si_2$ (RE=Tb から Lu) の硬さと磁化特性	共著	平成 16 年 9 月	金属フラックスから得た ThCr2Si2 型化合物 REMn2Si2 (RE=Tb から Lu) の硬さと磁化特性		334 頁
金属フラックス法による $ThCr^2Si_2$ 型 YTE_2Si_2 (TE=Cr,Mn,Fe) 結晶の合成と性質	共著	平成 16 年 9 月	『平成１６年度化学系学協会東北大会』		208 頁
$REAlB_2$(RE=Tm,Yb,Lu) 結晶の硬さと磁化率	共著	平成 16 年 9 月	『平成１６年度化学系学協会東北大会』		207 頁
NbC のメカノケミカル合成	共著	平成 16 年 9 月	『平成１６年度化学系学協会東北大会』		196 頁
ペロブスカイト型 RRh_3B(R=La,Gd,Lu,Sc) のホウ素不定比及び硬さ	共著	平成 16 年 9 月	『平成１６年度化学系学協会東北大会』		140 頁
Mechanochemically Assisted Preparation of NbB_2 Powder	共著	平成 16 年 10 月	『International Symposium on Inorganic and Environmental Materials』 Eindhoven, The Netherlands,		217 頁
Crystal Growth of New Aluminium Sodium Boride $AlNaB_{14}$ and Some Properties	共著	平成 16 年 10 月	『ISIEM2004（International Symposium on Inorganic and Environmental Materials, Eindhoven, The Netherlands』		191 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Solid Solution Range of Boron in Perovskite-type Rare Earth Rhdium Borides and Their Hardness	共著	平成 16 年 11 月	『Rare Earths' 04 in Nara ,Japan』		76 頁
Hardness and Oxidation resistance of the Perovskite-type $RRh_3B_xC_{1-x}$(R=Y,Sc)	共著	平成 16 年 11 月	『Rare Earths' 04 in Nara,Japan』		75 頁
Properties of $REALB_4$ and Lu_2AlB_6 crystals Grown from the RE-Al-B(RE=Tm, Yb, Lu) Melts.	共著	平成 16 年 11 月	『Rare Earths' 04 in Nara,Japan』		147 頁
ペロブスカイト型 $CeRh_3B$ の合成および性質	共著	平成 16 年 11 月	『第 49 回人工結晶討論会』		32-33 頁
$LEAlB_{14}$(LE=Li,Na) 結晶の育成と物理的性質	共著	平成 16 年 11 月	『第 49 回人工結晶討論会』		30-31 頁
NbC-NbB_2 複合粉末のメカノケミカル合成	共著	平成 17 年 3 月	『日本セラミックス協会 2005 年年会』		162 頁
リチウム塩を用いた $LiAlB_{14}$ 結晶の合成と性質	共著	平成 17 年 3 月	『日本セラミックス協会 2005 年年会』		65 頁
天然鉱物を用いた窒素酸化物 NO_x 吸着効果（2）	共著	平成 17 年 3 月	『日本化学会第 85 春季年会』		728 頁
ペロブスカイト型化合物 RRh_3B,$RRh_3B_{1-x}C_x$(R=rare earth) の硬さに関する研究	共著	平成 17 年 3 月	『日本化学会第 85 春季年会』		690 頁
立方晶系ペロブスカイト型 RPd_3B(R=Sc,Y,Gd,La) 化合物における R 原子の半径が及ぼす硬さと耐酸化性への影響	共著	平成 17 年 3 月	『日本化学会第 85 春季年会』		689 頁
メカノケミカル法で得られた $LiFeO_2$ の NO_x 吸着	共著	平成 17 年 3 月	『日本化学会第 85 春季年会』		631 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
NbB_2 と非晶質ホウ素の固相反応によるニオブホウ化物の合成	共著	平成 17 年 3 月			630 頁
ペロブスカイト型化合物 RRh_3B,RRh_3B_{1-x},$RRh_3B_{1-x}C_x$(R=rare erath) の硬さに関する研究	共著	平成 17 年 3 月	『日本化学会第 85 春季年会』		690 頁
ペロブスカイト型ボライド $CeRh_3B$ のホウ素不定比と性質	共著	平成 17 年 5 月	『第 22 回希土類討論会』		
ペロブスカイト型ホウ化物のボロンの不定比性と機械的および電気的性質との関連	共著	平成 17 年 6 月	『東北大学金属材料研究所研究部共同研究報告』		
ボロン鋼の被削性について	共著	平成 17 年 10 月	神奈川県産学公交流研究発表会	工藤邦男、岡田繁、宍戸統悦，飯泉清賢	p.294 頁
ペロブスカイト型希土類ロジウムボライドの合成、単結晶化および評価	共著	平成 17 年 11 月	第 50 回人工結晶討論会	宍戸統悦，岡田　繁，石沢芳雄，工藤邦男，飯泉清賢，奥正興，葉　金花，田中雅彦，野木直行，佐原亮二，湯蓋邦男，小島秀伸，ビジャイ　クマ-ル，野村明子，菅原孝昌，戸澤慎一郎，小原和夫，大石修治，古曳重美，川添義幸，中嶋一雄	pp.120-121 頁
軽金属元素を含有したアルミニウム高ホウ化物単結晶の育成と物理化学的な性質	共著	平成 17 年 11 月	第 50 回人工結晶討論会	岡田繁，宍戸統悦，田中高穂，森孝雄，飯泉清賢，工藤邦男，中嶋一雄	pp.114-115 頁
溶融金属フラックス法によるハイヤ-ボ-ライド α-AlB_{12} 単結晶の育成および評価	共著	平成 17 年 12 月	第 2 回東北大学総合技術発表会	野村明子，菅原孝昌，岡田　繁，工藤邦男，飯泉清賢，湯蓋邦夫，中嶋一雄，宍戸統悦	
$ScRh_3B_x$ ($0 \leqq x \leqq 1$) の弾性的性質に対する空孔の効果	共著	平成 18 年 3 月	第４回ホウ素・ホウ化物研究会	佐原亮二、宍戸統悦、野村昭子、工藤邦男、岡田繁	pp.50-51 頁
ペロブスカイト型希土類ロジウムボライドの合成、単結晶化、緒性質	共著	平成 18 年 3 月	第４回ホウ素・ホウ化物研究会	宍戸統悦、葉金花、奥正興、岡田繁、工藤邦男、飯泉清賢、石沢芳夫、森孝雄、田中雅彦、野木直行、佐原亮二他	pp.17-18 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Nb-B 混合粉末のボ-ルミリングによる NbB_2 粉末の合成	共著	平成 18 年 3 月	第４回ホウ素・ホウ化物研究会	飯泉清賢、関谷千春、岡田繁、工藤邦男、宍戸統悦	pp.10-13 頁
ア-ク溶融法による $REB_{48}Si_2$(RE=Y,Tb,Dy,Ho,Er,Lu) 化合物の合成と緒性質	共著	平成 18 年 3 月	第４回ホウ素・ホウ化物研究会	福田茂、工藤邦男、岡田繁、宍戸統悦、飯泉清賢	pp.7-9 頁
希土類アルミニウムホウ化物 $REAlB_4$(RE=Tm,Yb,Lu) と Lu_2AlB_6 の合成および性質	共著	平成 18 年 3 月	第４回ホウ素・ホウ化物研究会	岡田繁、宍戸統悦、森孝雄、工藤邦男、飯泉清賢、田中高穂、中嶋一雄	pp.3-6 頁
第一原理計算による $ReRh_3B_xC_{1-x}$(Re=Sc and Y) の機械的特性評価	共著	平成 18 年 5 月	ナノ学会第４回大会	佐原亮二、宍戸統悦、野村明子、工藤邦男、岡田繁他	p.150 頁
第一原理計算を用いたペロブスカイト型希土類ロジウムホウ化物 $RERh_3B_x$ (RE=Sc,Y,La,Ce) の弾性特性評価	共著	平成 18 年 5 月	ナノ学会第４回大会	小島秀伸、佐原亮二、宍戸統悦、野村明子、工藤邦男、岡田繁他	p.151 頁
ペロブスカイト型希土類ロジウムボライドの磁性、硬度、耐酸化性	共著	平成 18 年 5 月	第 23 回希土類討論会	宍戸統悦，葉　金花，奥　正興，岡田　繁，工藤邦男，飯泉清賢，石沢芳夫，田中雅彦，佐原亮二，湯蓋邦夫，小島英伸、ビジャイ　クマ-ル，野村明子、菅原孝昌，戸澤慎一郎、小原和夫，大石修治，古曳重美，川添義幸，中嶋一雄	18 頁
希土類高ホウ化物 $REB_{50-x}Si_x$(RE=Y,Tb,Dy,Er, x=1-10) の合成と物理化学的性質	共著	平成 18 年 5 月	第 23 回希土類討論会	福田茂、工藤邦男、岡田繁、森孝雄、田中高穂、宍戸統悦、飯泉清賢、中嶋一雄	20 頁
溶融金属フラックス法による R-Rh-B(R=希土類元素) 系化合物単結晶の育成	共著	平成 18 年 9 月	日本セラミックス協会第 19 回秋季シンポジウム	宍戸統悦、岡田繁、葉金花、工藤邦男、飯泉清賢他	p. 107 頁
ケイ素を添加した REB_{50}-type 化合物の硬さと耐酸化性	共著	平成 18 年 9 月	日本セラミックス協会第 19 回秋季シンポジウム	工藤 邦男、岡田 繁、飯泉 清賢、宍戸 統悦	p.113 頁
$REB_{50-x}Si_x$(RE=Y,Tb,Dy,Ho) 化合物の Si の固溶限界とそれら化合物の硬さ、耐酸化性 ”,	共著	平成 18 年 9 月	２００６年度化学系学協会東北支部	工藤邦男、岡田　繁、宍戸統悦、飯泉清賢	p.168 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
ME-Al-B　系（ME=Be, Mg, Cu）から得た高ホウ化物の合成と評価	共著	平成 18 年 10 月	平成 18 年度神奈川県産学公交流研究発表会	岡田繁, 宍戸統悦, 森孝雄, 飯泉清賢, 工藤邦男	p.181 頁
メカノケミカルプロセスを経由した NbB_2-NbC 複合粉末の無加圧焼結	共著	平成 18 年 10 月	平成 18 年度神奈川県産学公交流研究発表会	飯泉清賢、岡田 繁, 工藤邦男, 宍戸統悦	p.193 頁
NbB_2 のメカノケミカル合成（２）	共著	平成 19 年 3 月	日本セラミックス協会 2007 年年会	飯泉清賢、岡田繁、宍戸統悦、工藤邦男	p.148 頁
フラックス法から得た高ホウ化物の合成および酸化抵抗、硬さと磁気特性	共著	平成 19 年 3 月	日本セラミックス協会 2007 年年会	岡田繁、工藤邦男、宍戸統悦、飯泉清賢	p.198 頁
メカノケミカル処理した Ti-Nb-B 混合粉末から $Nb_xTi_{1-x}B_2$ 複合体の焼	共著	平成 19 年 3 月	日本化学会第 87 春季年会	阿部直樹、山口睦嘉、飯泉清賢、岡田繁、宍戸統悦、工藤邦男	p.2PC-031 頁
R-Rh-B 系ペロブスカイト型化合物のホウ素不定比と硬さ	共著	平成 19 年 5 月	ナノ学会第５回大会	宍戸統悦, 奥 正興, 岡田 繁, 葉 金花, 森孝雄, 工藤邦男, 飯泉清賢, 澤田豊他	p.117 頁
ペロブスカイト型 RM_3B(R=希土類元素, M=Pd,Rh) の合成および評価	共著	平成 19 年 7 月	第５回ホウ素・ホウ化物研究会	宍戸統悦, 葉　金花, 岡田　繁, 工藤邦男, 飯泉清賢, 澤田　豊, 石沢芳夫, 森　孝雄他	p.16-17 頁
酸化ニオブとホウ素も反応によるニオブホウ化物の合成	共著	平成 19 年 7 月	第５回ホウ素・ホウ化物研究会	飯泉清賢, 岡田　繁, 宍戸統悦, 工藤邦男, 澤田　豊	p.20-21 頁
ホウ化物の機械的特性の理論解析	共著	平成 19 年 7 月	第５回ホウ素・ホウ化物研究会	佐原亮二, 小島秀伸, 宍戸統悦, 野村明子, 工藤邦男, 岡田 繁他	p.31-32 頁
アークメルト法を用いた WB 系化合物の合成とその機械的・熱的性質	共著	平成 19 年 7 月	第５回ホウ素・ホウ化物研究	工藤邦男、野戸章吾、岡田 繁, 宍戸統悦、飯泉清賢、万谷義和	p.31-32 頁
二成分系ホウ化物の合成および性質（フラックス法によるニオブホウ化物結晶の育成と性質）	共著	平成 19 年 7 月	第５回ホウ素・ホウ化物研究会	岡田繁, 宍戸統悦, 森孝雄, 飯泉清賢, 工藤邦男, 中島一雄	p.33-35 頁
アークメルト法による $WBSi_X$,WB_2Si_X(X=0.1-0.5) 化合物の合成とそれら化合物の機械的性質	共著	平成 19 年 9 月	2007 年度化学系学協会東北大会	工藤邦男, 野戸章吾, 万谷義和, 岡田　繁, 宍戸統悦, 飯泉清賢	p.213 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
ペロブスカイト型 RM_3B(R=希土類元素、M=Rh,Pd) の熱化学的性質	共著	平成 19 年 9 月	2007 年度化学系学協会東北大会	宍戸統悦, 飯泉清賢, 工藤邦男, 岡田繁, 澤田豊, 野村明子他	p.214 頁
アークメルト法による TiSi 系化合物の合成と諸性質	共著	平成 19 年 9 月	2007 年度化学系学協会東北大会	高橋英樹, 工藤邦男, 岡田 繁, 宍戸統悦, 飯泉清賢, 万谷義和, 原田真吾	p.217 頁
ニオブホウ化物結晶の合成と磁気特性	共著	平成 19 年 9 月	2007 年度化学系学協会東北大会	岡田 繁, 宍戸統悦, 森孝雄、工藤邦男, 飯泉清賢	p.224 頁
カノケミカルプロセスを経由した NbB_2-CrB_2 複合セラミックスの焼結	共著	平成 19 年 9 月	2007 年度化学系学協会東北大会	飯泉清賢, 岡田 繁, 宍戸統悦, 工藤邦男, 澤田豊	p.227 頁
ペロブスカイト型 R-Pd-B 系化合物の合成と基礎的評価	共著	平成 19 年 9 月	日本セラミックス協会第 20 回秋季シンポジウム	宍戸統悦, 葉金花, 岡田繁, 工藤邦男, 飯泉清賢, 澤田豊, 佐原亮二他	p.220 頁
金属フラックスによる NbB_2 結晶の合成と磁気的性質	共著	平成 19 年 9 月	日本セラミックス協会第 20 回秋季シンポジウム	岡田 繁, 森 孝雄, 宍戸 統悦, 工藤 邦男, 飯泉 清賢, 中嶋 一雄	p.225 頁
ホウ化物の弾性特性に関する理論研究	共著	平成 19 年 12 月	第 2 回日本フラックス成長研究会	佐原亮二、宍戸統悦、野村明子、工藤邦男、岡田繁、Vijay Kumar、中島一雄、川添良幸	p.119-120 頁
アークメルト法による Ti-B 系化合物の合成と諸性質	共著	平成 19 年 12 月	第 2 回フラックス成長研究会	高橋英樹、工藤邦男、岡田繁、飯泉清賢、宍戸統悦、万谷和義	p.145-146 頁
$REMn_2Si_2$(RE=La,Ce,Pr,Nd,Sm,Gd) の結晶育成と性質	共著	平成 19 年 12 月	第 2 回フラックス成長研究会	岡田繁、森孝雄、宍戸統悦、飯泉清賢、工藤邦男、中島一雄	p.147 頁
新規 Sc_2AlB_6 単結晶の育成、結晶構造と性質	共著	平成 19 年 12 月	第 2 回フラックス成長研究会	岡田繁、工藤邦男、田中高穂、宍戸統悦、飯泉清賢	p.148 頁
溶融金属フラックス法による α − AlB_{12} 単結晶の育成および評価	共著	平成 19 年 12 月	第 2 回フラックス成長研究会	野村明子、菅原孝昌、湯蓋邦夫、岡田繁、工藤邦男、飯泉清賢、澤田豊、中島一雄、宍戸統悦	p.158 頁
アークメルト法を用いたシリコン添加 NbB 化合物の合成	共著	平成 20 年 3 月	日本化学会第 88 春季年会	高橋英樹、工藤邦男、万谷和義、岡田繁、宍戸統悦	p.602 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
酸化タンタル（V）と非晶質ホウ素の固相反応によるタンタルホウ化物の合成と性質	共著	平成 20 年 3 月	日本化学会第 88 春季年会	岡田繁、大泉由香、飯泉清賢、工藤邦男、宍戸統悦	p.611 頁
アークメルト法を用いた V-Si 系化合物の合成とそれら化合物の機械的・熱的性質	共著	平成 20 年 7 月	日本セラミックス協会関東支部研究発表会	矢口　慧　、桑原　務、高橋英樹、工藤邦男、岡田　繁	p.86 頁
アークメルト法を用いた Nb-Si 系化合物の合成とそれら化合物の硬さ、耐酸化性について	共著	平成 20 年 7 月	第 24 回日本セラミックス協会関東支部研究発表会	高橋英樹、工藤邦男、岡田繁、宍戸統悦	p.90 頁
チタン合金マルテンサイト組織の時効に対する相安定性	共著	平成 20 年 10 月	第 55 回日本学術会議材料工学連合講演会論文集	万谷義一、工藤邦男	pp.129-130. 頁
$AlMB_{14}$(M=Li,Ma,Na) の電子状態と弾性特性に及ぼすシリコンの影響	共著	平成 20 年 12 月	第 3 回日本フラックス成長研究発表会予稿集	佐原亮二、宍戸統悦、野村明子、工藤邦男、岡田繁、Vijay Kumar、中島一雄、川添良幸	p.146 頁
アークメルト法による Si 添加 Cr-B 系化合物の合成と諸性質	共著	平成 20 年 12 月	第 3 回日本フラックス成長研究発表会予稿集	高橋英樹、工藤邦男、岡田繁、宍戸統悦	p.126-127 頁
アークメルト法による Mn-Si 系化合物の合成と機械的・熱的・電気的性質	共著	平成 20 年 12 月	第 3 回日本フラックス成長研究発表会予稿集	徳永慎一、中川誠、工藤邦男、岡田繁、宍戸統悦	p.124-125 頁
アークメルト法による Mn_2B および MnB_2 化合物の合成と得られた化合物の性質	共著	平成 20 年 12 月	第 3 回日本フラックス成長研究発表会予稿集	中川誠、徳永慎一、工藤邦男、岡田繁、宍戸統悦	p.122-123 頁
フラックス法による Y_2ReB_6 化合物の合成と物理的性質	共著	平成 20 年 12 月	第 3 回日本フラックス成長研究発表会予稿集	岡田繁、森孝雄、宍戸統悦、工藤邦男	p.100 頁
固相反応および共沈法による $MgFe_2O_4$ の合成と NO_x 吸着処理	共著	平成 20 年 12 月	第 3 回日本フラックス成長研究発表会予稿集	鎌本喜美代、岡田繁、宍戸統悦、工藤邦男	
RM_3B_x(R ＝希土類元素、M ＝ Pd,Rh) の合成、化合物形成機構および性質	共著	平成 20 年 12 月	第 3 回日本フラックス成長研究発表会予稿集	宍戸統悦、葉金花、岡田繁、工藤邦男、飯泉清賢、澤田豊、石沢芳夫、、森孝雄、田中雅彦他１４名	p.91 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
$RETrB_4$(RE=希 土 類 、Tr=遷移金属) における物性と building defect の作用	共著	平成 20 年 12 月	第 3 回日本フラックス成長研究発表会予稿集	森 孝 雄 、岡 田 繁 、工 藤 邦 男 、宍 戸 統 悦 、湯 蓋 邦 夫 、中 島 一　雄　、H.Borrman,A.Leith-Jasper,I.Veremchuk,Yu.Grin	p.84 頁
Ti-15Nb 合金の相構成と内部摩擦に及ぼす熱処理条件の影響	共著	平成 21 年 3 月	日本金属学会講演概要集	万谷義一、工藤邦男、黒田勝彦	p.479 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 45 年 4 月～現在に至る	精密工学会会員
昭和 46 年～現在に至る	（国内共同研究）「工具摩耗に関する研究」
昭和 54 年 12 月～現在に至る	日本トライボロジー学会会員
昭和 59 年 6 月～現在に至る	日本セラミックス協会会員（現在に至る）会員
昭和 62 年 11 月～現在に至る	テイボー (株) 機械技術研究会。講義。センサについて（基礎編）。工場内で、機械化・自動化・測定検査などでセンサを用いる場合、センサの原理別分類と使用上別分類方法から、その長所と短所を説明した。
昭和 63 年 10 月～現在に至る	テイボー (株) 機械技術研究会。講義。加工図面の見方・描き方（基礎編）。初心者を対象に、製図の目的や図面上で用いる線の種類と意味、寸法記入方法、幾何公差の図示方法、加工方法と粗さの図示方法、断面図の図示方法、製図で用いる投影法などを説明した。
昭和 63 年 12 月～現在に至る	テイボー (株) 機械技術研究会。講義。加工図面の見方・描き方（応用編）。投影法の一つである三角法で書かれた正投影図を用いて、部品の立体図および立体図から正投影図を作図させ、さらに寸法表示方法や寸法公差・幾何交差の記入方法など製図問題集を作成し、回答させながら説明した。
平成 5 年 4 月～現在に至る	日本材料学会会員
平成 9 年 4 月～現在に至る	日本セラミックス協会会員サービス小委員会委員
平成 10 年 4 月～現在に至る	日本セラミックス協会会員サービス小委員会幹事
平成 11 年 4 月～現在に至る	日本セラミックス協会会員サービス小委員会主査
平成 12 年～現在に至る	（国内共同研究）「ペロブスカイト型ホウ化物の合成及びボロンの不定比性と硬さに関する研究」
平成 12 年 4 月～現在に至る	日本化学会会員
平成 12 年 5 月～現在に至る	日本セラミック協会行事企画委員会行事サー委員
平成 16 年 3 月～現在に至る	日本機械学会会員
平成 18 年 12 月～現在に至る	日本フラックス成長研究会日本フラックス成長研究会監事
平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月	（国内共同研究）東北大学金属材料研究所「プラズマアークメルト法を用いた金属ホウ化物の単相化」

Ⅴ　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部機械工学科	職名 准教授	氏名 熊倉　進	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
機械製図の授業評価に関する独自アンケートの活用	昭和 63 年 1 月 ～平成 17 年 1 月	前期と後期の最終授業時に演習評価のアンケート（無記名）を独自に実施している。その結果を受けて、次年度の演習課題、時間数、自作説明書等の修正、改定を行い改善している。
2007 年度前期授業評価アンケート結果の活用	平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 7 月	（授業科目：CAD/CAM 及び演習１）平成 19 年度前期授業評価のアンケート結果、よく分からない箇所、質問機会、検図方法についての問題の指摘があった．そのため、テキストの改定、説明方法の改善を行った．
2　作成した教科書、教材		
機械工学製図１演習教材	平成 16 年 4 月 ～平成 16 年 7 月	図例、JIS 解説等の補助資料を作成．
機械工学製図２演習テキスト	平成 16 年 9 月 ～平成 17 年 1 月	
機械工学製図１演習用教材	平成 17 年 4 月 ～平成 17 年 7 月	図例、JIS 規格抜粋、はめあい計算例等、演習の度に配布．
機構要素概論テキスト	平成 17 年 4 月 ～平成 17 年 7 月	自作教科書を授業の度配布．
機械工学製図２－演習テキスト（改訂版）	平成 17 年 9 月 ～平成 18 年 1 月	CAD/CAM 演習用に、その使用するシステムの解説と取り扱い説明、教材をまとめて印刷製本し、配布する．
２００６機械工学製図２演習用テキスト	平成 18 年 4 月 ～平成 18 年 7 月	教科書の他に、CAD/CAM についての解説、システムの操作法、教材等をまとめ、小冊子（印刷製本、６４ページ）にして、配布する．
機械製図演習教材	平成 19 年 4 月 ～平成 19 年 7 月	教科書の補助教材として、製図のポイント、解説、図例を演習の度に配布する．
機械製図２演習用教材	平成 19 年 9 月 ～平成 20 年 1 月	CAD/CAM 演習のためのシステム解説、取り扱い説明、図例等をまとめて製本し、配布する．（再履者用）

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
CAD/CAM 及び演習１テキスト（２００８年度－改訂版）	平成 20 年 3 月 ～平成 21 年 1 月	新カリキュラム、「CAD/CAM 及び演習１」のための自作テキスト（印刷製本、６４ページ）、２００６年度版をソフトウエアの Ver アップにともない改訂版を作成した.
３　教育上の能力に関する大学等の評価		
神奈川大学工学部優秀講義賞	平成 18 年 9 月 ～平成 19 年 3 月	
２００８年前期授業評価アンケート結果	平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 7 月	（授業科目：CAD/CAM 及び演習１、３年　A クラス、集計者数 88 名）「この授業の担当教員に、授業に取り組む熱意を感じたか」の評価項目で学部平均値 3.7 に対して 4.2 の評価を得た. また、「教科書・資料等は役にたった」の評価項目では、4.0（学部平均値 3.5）の評価を得た. このほかの評価項目の全てにおいて、学部平均値を上回る評価を得ている.
２００８年前期授業評価アンケート結果	平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 7 月	（授業科目：CAD ／ CAM 及び演習１、３年、B クラス、集計数 82）「この授業の担当教員に、授業に取り組む熱意を感じたか」という評価項目で学部平均値（3.7）を上回る評価（4.3）を得た. その他の評価項目で学部平均値を上回る評価を得ている.
４　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
５　その他		なし

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
新版ねじ締結ガイドブック	共著	平成 16 年 3 月	日本ねじ研究協会	熊倉　進、萩原正弥、賀勢晋司、大橋宣俊、他	pp.147-150 頁
論文					
Tightening sequence for bolted flange joint assembly	共著	平成 15 年 8 月	ASME,Analysis of Bolted Joints PVP-Vol.457.	S.kumakura、K.Saito	9-16 頁
神奈川大学機械工学科における CAD／CAM システムによる製図・もの作り教育の一事例	単著	平成 15 年 10 月	日本設計工学会誌 Vol.38, No.10		532-535 頁
ボルト・ナットの結合体のゆるみに関する研究（第 3 報）,（作用荷重が小さい場合のボルト・ナットの変形量を考慮した検討）	単著	平成 15 年 12 月	精密工学会誌 Vol.69, No.12		1801-1806 頁
ねじ締結基礎講座, 強度設計の手順と方法, 設計例, 軸方向外力を受ける平板の締結	単著	平成 16 年 6 月	『日本ねじ研究協会誌』 Vol.35 ,No.6		153-156 頁
軸方向の繰返し荷重によるボルト・ナット結合体のゆるみ	単著	平成 16 年 7 月	『日本ねじ研究協会誌』 Vol35, No.7		183-190 頁
引張荷重によるねじ結合体のゆるみ	単著	平成 16 年 11 月	『神奈川大学工学研究所所報』No.27		49-55 頁
Self-loosening Characteristics of Nut Assembly eith Conical Spring Washer under Repeated Tensile Loads	共著	平成 17 年 6 月	International Conferenece Machine Design and Tribology2005 , CD-ROM	S.Kumakura、G.Fukuoka	CD-ROM, 1-2 頁
Self-loosening Characteristics of the Prevailing Torque Type Nuts under Repeated Tensile Loads	共著	平成 19 年 7 月	International Conferece Machine Design and Tripology2007, CD-ROM	S.kumakura,　R.Sakakibara	CD-ROM, 1-4 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
その他					
多人数学生を対象とするCAD／CAMシステムによるもの作り教育（自然木材の被削材としての評価）	共著	平成15年5月	日本設計工学会，平成15年春季講演論文集	熊倉　進、齊藤久美子、長崎昭頼	49-52頁
技術講演テキスト，ねじ締結体の設計基礎	共著	平成15年8月	日本高圧力技術協会 技術講習会（東京）	熊倉　進，澤　俊行　他.	99-117頁
軸方向荷重によるボルト・ナット結合体の緩みに関する研究（続報・ナットの半径方向の変形と摩擦係数の影響）	共著	平成15年8月	日本機械学会2003年度年次大会講論集 No.03-4	熊倉　進，齊藤久美子	69-70頁
ボルト締め管フランジの締付け手順に関する実験的研究（フランジ接合面の影響）	共著	平成15年10月	日本機械学会山梨講演会講論集 No.030-4	熊倉　進、齊藤久美子、山田大介	27-28頁
日本工業規格、JIS　B 1136，ヘクサロビュラ穴付きボルト		平成16年3月	『日本工業規格　ＪＩＳ　Ｂ　１１３６』，２００４年，（日本規格協会）		
日本工業規格、JIS　B 0147，ブラインドリベット，用語及び定義		平成16年3月	『日本工業規格 JIS B ０１４７』，２００４年，（日本規格協会）		
日本工業規格、JIS　B 1087，ブラインドリベット，機械的試験		平成16年3月	『日本工業規格 JIS B １０８７』，２００４年，（日本規格協会）		
日本高圧力技術協会規格、JPIS Z 103，フランジ継手締付け指針		平成16年4月	『日本高圧力技術協会規格ＪＰＩＳ Ｚ １０３』，２００４年，（日本高圧力技術協会）		
多人数を対象とするＣＡＤ／ＣＡＭ教育用被切削材の検討（小型工作機械による自然木材の切削特製）	共著	平成16年5月	『日本設計工学会平成１６年度春季研究発表講演論文集』	熊倉　進、高橋直也、中根一誠	129-132頁
Ｗｅｂ３Ｄによる小型ＮＣ工作機械の教育用バーチャルマニュアルの開発	共著	平成16年5月	『日本設計工学会平成１６年度春季研究発表講演論文集』，	熊倉　進，工藤結佳，臼井圭佑	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
技術講演テキスト，ねじ締結体の設計基礎とへたりによるゆるみ	共著	平成 16 年 8 月	『圧力機器および配管によるガスケットフランジ締結体のシーリングテクノロジー』，２００４年，（日本高圧力技術協会）	熊倉　進，澤　俊行　他.	137-155 頁
軸方向荷重によるフランジ付き六角ナットのゆるみ特性（ボルト・ナットの半径方向変位の有限要素解析）	共著	平成 16 年 9 月	『日本機械学会２００４年度年次大会講演論文集』No.04-1	熊倉　進，齊藤久美子	231-232 頁
皿ばね座金組込みナットのゆるみ特性について	共著	平成 16 年 10 月	『日本機械学会山梨講演会講演論文集』No.040-4	熊倉　進，齊藤久美子, 福岡吾郎,	141-142 頁
設計製図教育支援システムの試作	単著	平成 16 年 11 月	日本設計工学会関西支部平成 16 年度講演論文集,		12-13 頁
日本工業規格，JIS B 1194 六角穴付き皿ボルト		平成 17 年 3 月	日本規格協会		
日本工業規格，JIS B 1176 六角穴付きボルト		平成 17 年 3 月	日本ねじ研究協会		
日本工業規格，JIS B 1174 六角穴付きボタンボルト		平成 17 年 3 月	日本ねじ研究協会		
日本工業規格，JIS B 1016 六角穴のゲージ検査		平成 17 年 3 月	日本ねじ研究協会		
日本工業規格，JIS B 1258 座金組込みねじ用平座金－小形，並形及び大形系列－部品等級 A －		平成 17 年 3 月	日本ねじ研究協会		
日本工業規格，JIS B 1130 平座金組込みねじ－座金の硬さ 区分 200HV 及び 300HV －		平成 17 年 3 月	日本ねじ研究協会		
技術講演テキスト，ねじ締結体の設計基礎	共著	平成 17 年 8 月	日本高圧力技術協会，2005 年, HPI 技術セミナーテキスト	熊倉　進，澤　俊行　他	147-164 頁
管フランジ締結体の締付け手順とボルト軸力特性	共著	平成 17 年 9 月	日本機械学会２００５年度年次大会講演論文集，No.05-1	熊倉　進，正司康雅，細矢裕彦，本間和弘	173-174 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
ボルト締め管フランジの締付け手順の検討	共著	平成 17 年 11 月	日本機械学会 M&M ２００５材料力学カンファレンス講演論文集 No.05-9	熊倉　進，正司康雅，本間和弘，細矢裕彦	397-398 頁
ばね座金の軸方向荷重増減によるゆるみ止め効果	共著	平成 18 年 3 月	日本機械学会関西支部第８１期定時総会講演会論文集．No.064-1	熊倉　進，本間和弘，細矢裕彦	14-7 頁
ねじ文献紹介	単著	平成 18 年 5 月	日本ねじ研究協会誌 37,(5)		147-142 頁
日本ねじ研究協会誌の CD-ROM 版	共著	平成 18 年 6 月	日本ねじ研究協会	熊倉　進，根本俊雄、大橋宣俊、細川修二	
会誌の CD-ROM 版の発行に当たって	単著	平成 18 年 6 月	日本ねじ研究協会誌 37,(6)		153-154 頁
技術講演テキスト，ねじ締結体の設計基礎	共著	平成 18 年 9 月	日本高圧力技術協会 2006 年度	熊倉　進，澤　俊行　他	24-42 頁
ばね座金の軸方向荷重増減によるゆるみ止め効果（続報）	共著	平成 18 年 9 月	日本機械学会２００６年度年次大会講演論文集 Vol.4.No06-1	熊倉　進、榊原　怜、山田章夫	307-308 頁
技術講演テキスト，ねじ締結体の設計基礎	共著	平成 19 年 8 月	日本高圧力技術協会第 6 回圧力機器および配管におけるガスケットフランジ締結体のシーリングテクノロジーセミナーテキスト	熊倉　進，澤　俊行　他	pp44-66 頁
全金属方製プリベリングトルク形六角ナットの軸方向荷重によるゆるみ止め効果,	共著	平成 19 年 9 月	日本機械学会創立 110 年記念 2007 年度年次大会講演論文集	熊倉　進，榊原　怜，山田章夫	61-62 頁
トルク法による締付けが管フランジのボルト軸力のばらつきに及ぼす影響－手動トルクレンチ使用	共著	平成 19 年 10 月	日本機械学会山梨講演会 No.070-4	熊倉　進中嶋　慎、佐藤　諒平、榊原　怜	175-176 頁
プリベリングトルク形六角ナットの軸方向荷重増減によるゆるみ止め効果－ステアケース法による評価	共著	平成 20 年 8 月	日本機械学会 2008 年度年次大会講演論文集 No.08-1	熊倉　進，榊原　怜	101-102 頁
管フランジの同時ボルト締めによる軸力のばらつき	共著	平成 20 年 10 月	山梨講演会講演論文集 No.080-4	熊倉　進、正司康雅、高橋宏直	133-134 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 46 年 4 月～現在に至る	日本機械学会会員
昭和 46 年 4 月～現在に至る	日本設計製図学会会員（現在, 日本設計工学会）会員
昭和 46 年 4 月～平成 8011 年 3 月	日本機械学会会員
昭和 46 年 4 月～平成 8011 年 3 月	日本設計工学会会員
昭和 49 年 4 月～平成 8011 年 3 月	精密工学会会員
昭和 49 年 6 月～現在に至る	精機学会（現在, 精密工学会）会員
昭和 51 年 5 月～現在に至る	日本ねじ研究協会会員
平成 2 年 4 月～現在に至る	型技術協会会員
平成 9 年 11 月～現在に至る	日本高圧力技術協会会員
平成 11 年 9 月～現在に至る	日本高圧力技術協会、フランジ継手漏洩防止研究委員会調査委員
平成 13 年 4 月～現在に至る	日本ねじ研究協会出版委員会委員
平成 15 年 5 月～平成 16 年 3 月	日本ねじ研究協会、日本工業規格　JIS B　1092　品質保証システム委員
平成 15 年 5 月～平成 16 年 3 月	日本ねじ研究協会、日本工業規格　JIS B　1099　締結用部品－ボルト、ねじ、植込みボルト及びナットに対する規定項目幹事委員
平成 15 年 5 月～平成 15 年 5 月	講演，ねじ締結体の設計・締付け管理とゆるみ防止策の実際講師
平成 16 年 1 月～平成 16 年 1 月	講演，ねじ締結体の設計・締付け管理とゆるみ防止策の実際講師
平成 16 年 4 月～平成 17 年 3 月	日本ねじ研究協会　日本工業規格　JIS B 1258　座金組込みねじ用平座金－小形、並形及び大形系列委員
平成 16 年 4 月～平成 17 年 3 月	日本ねじ研究協会　日本工業規格　JIS B　1130　平座金組込みねじ－座金の硬さ区分２００ HV 及び３００ HV 委員
平成 16 年 4 月～平成 17 年 3 月	日本ねじ研究協会　日本工業規格　JIS B　1016　六角穴のゲージ検査委員
平成 16 年 4 月～平成 17 年 3 月	日本ねじ研究協会　日本工業規格　JIS B　1174　六角穴付きボタンボルト委員
平成 16 年 4 月～平成 17 年 3 月	日本ねじ研究協会　日本工業規格　JIS B　1176　六角穴付きボルト委員
平成 16 年 4 月～平成 17 年 3 月	日本ねじ研究協会　日本工業規格　JIS B 1194　六角穴付き皿ボルト委員
平成 17 年 4 月～平成 18 年 3 月	日本ねじ研究協会会誌電子化委員会委員長

年月	内　　容
平成 17 年 4 月～平成 17 年 9 月	ボルトの強度に関する鑑定書（神奈川県警）鑑定人
平成 17 年 9 月～平成 17 年 9 月	ボルトの強度に関する鑑定書（警視庁）鑑定人
平成 19 年 4 月～平成 20 年 3 月	日本ねじ研究協会　日本工業規格　JIS B 1166　T 溝ボルト委員
平成 19 年 4 月～平成 20 年 3 月	日本ねじ研究協会　日本工業規格　JIS B 1178　基礎ボルト委員
平成 19 年 4 月～平成 20 年 3 月	日本ねじ研究協会　日本工業規格　JIS B 1179　皿ボルト委員
平成 19 年 4 月～平成 20 年 3 月	日本ねじ研究協会　日本工業規格　JIS B 1182　四角ボルト委員
平成 19 年 4 月～平成 20 年 3 月	日本ねじ研究協会　日本工業規格　JIS B 1195　溶接ボルト委員
平成 19 年 4 月～平成 20 年 3 月	日本ねじ研究協会　日本工業規格　JIS B 1199-1　プリベリングトルク形ナット－第１部：非金属インサート付き六角ナット（追補）委員長
平成 19 年 11 月～平成 8011 年 3 月	日本ねじ研究協会　精度測定方法調査研究委員会委員
平成 20 年 4 月～平成 8011 年 3 月	日本ねじ研究協会　日本工業規格　JIS B 1173　植込みボルト委員長
平成 20 年 4 月～平成 8011 年 3 月	日本ねじ研究協会　日本工業規格　JIS B 1185　ちょうナット委員長
平成 20 年 4 月～平成 8011 年 3 月	日本ねじ研究協会　日本工業規格　JIS B 1184　ちょうボルト委員長
平成 20 年 4 月～平成 8011 年 3 月	日本ねじ研究協会　日本工業規格　JIS B 1196　溶接ナット委員長

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部機械工学科	職名 准教授	氏名 笹田　昌弘	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 小テストを利用した理解度の確認	平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 7 月 31 日	（授業科目：工業力学及び演習 1）前回の講義にて学習した内容の理解度を確認するため，講義開始直後に小テストを実施した．また，解答用紙のみ回収し，ただちに解説を行うことにより，学生自身により理解度の確認が行えるようにした．
2　作成した教科書、教材 「機械工学輪講」の教材作成	平成 19 年 9 月 1 日 ～平成 20 年 3 月 31 日	担当するクラスへ配付することを目的とし，有限要素解析に関するテキストを作成した．本テキストは入門書であり，書き込みながら有限要素解析を学べる形式となっている．毎回講義で使用する部分のみ配付した．
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
塑性加工便覧 (日本塑性加工学会編)	共著	平成 18 年 5 月	コロナ社		382-386 頁
論文					
Shearing of Precoated Metal	共著	平成 15 年 4 月	Proceedings of the SheMet2003	I.Aoki, M.Sasada	65-72 頁
シェービングの加工機構に関する基礎的研究	共著	平成 15 年 5 月	日本機械学会論文集 C 編 69,（681）	笹田昌弘，品田健太郎，青木勇	1437-1442 頁
Study on Crack Initiation at Small Holes of One-Piece Brake Discs	共著	平成 15 年 9 月	SAE2002 Transactions Journal of Passenger Cars - Mechanical Systems	Tsuyoshi Nakatsuji, Kazuya Okubo, Toru Fujii, Masahiro Sasada, Yoshihisa Noguchi	1309-1315 頁
小穴抜き加工特性に及ぼす工具形状の影響	共著	平成 16 年 3 月	日本機械学会論文集 C 編 70,（691）	笹田昌弘，小林仁，青木勇	867-872 頁
Electromagnetic Microforming of Metal Foil	共著	平成 16 年 9 月	Proc. 10th Int. Conf. on Metal Forming	Isamu Aoki,Masahiro Sasada	pp.311-315 頁
Burr-Free Microblanking Using Piezoelectric Actuator	共著	平成 16 年 11 月	Trans. ASME, J. Manuf. Sci. Eng.126	Isamu Aoki, Masahiro Sasada	653-658 頁
Heat transfer in a regenerator made by wire-cut electrospark machining and a design of an extremely short engine	共著	平成 17 年 9 月	Proceedings of the 12th International Stirling Engine Conference and Technology Exhibition	Yoshihiko HARAMURA, Masutaka OTA, Masahiro Sasada	228-239 頁
内視鏡用微細鉗子の金型成形	共著	平成 17 年 12 月	精密工学会誌 71,（12）	青木勇，笹田昌弘，小松誠，三池神也	1618-1621 頁
せん断加工における工具・材料間の摩擦係数に関する研究	共著	平成 17 年 12 月	日本機械学会論文集 C 編 71,（712）	笹田昌弘，志村和樹，青木勇	3583-3589 頁
せん断加工技術を利用する金属・樹脂の接合に関する研究	共著	平成 18 年 2 月	日本機械学会論文集 C 編 72,（714）	青木勇，笹田昌弘，春山幸生，	657-663 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Study on Piercing Mechanism of Small Holes	共著	平成 18 年 7 月	Journal of Materials Processing Technology177	M.Sasada,H.Kobayashi,I.Aoki	649-652 頁
微細精密せん断における偏心クリアランス是正作用に関する研究	共著	平成 18 年 10 月	塑性と加工（日本塑性加工学会誌）47,（549）	笹田昌弘，高良直希，青木勇	968-972 頁
Study on Coefficient of Fricition between Tool and Material in Shearing	共著	平成 18 年 12 月	JSME International Journal Series C49,（4）	M.Sasada,K.Shimura,I.Aoki	1171-1178 頁
Die Forming of Medical Forceps	共著	平成 19 年 4 月	Key Engineering Materials344	Isamu Aoki, Masahiro Sasada, Tadao Fuchiwaki	411-417 頁
せん断加工特性に及ぼす材料拘束の影響	共著	平成 20 年 1 月	日本機械学会論文集 C 編 74,（737）	星隼人，笹田昌弘，青木勇	206-211 頁
Clearance Compensation Effect in Fine Precision Shearing	共著	平成 20 年 2 月	MATERIALS TRANSACTIONS49,（2）	Masahiro Sasada, Naoki Koura, Isamu Aoki	310-316 頁
微細精密せん断における偏心クリアランス是正作用に及ぼすパンチ長さ及び板押えの影響	共著	平成 20 年 4 月	塑性と加工（日本塑性加工学会誌）第 49 巻，第 567 号	笹田昌弘，青木勇	306-310 頁
Joining Method for Metal and Resin Sheets Using Shearing Technique with Counter Punch	共著	平成 20 年 9 月	Proceedings of the 12th International Conference on Metal Forming	Isamu Aoki, Masahiro Sasada	657-662 頁
圧電素子で駆動される直動型変位拡大機構の自己状態監視機能	共著	平成 20 年 10 月	日本機械学会論文集 C 編第 74 巻，746 号	笹田昌弘，矢野健，青木勇.	2489-2494 頁
その他					
微細小穴抜き加工における工具および材料変形挙動について	共著	平成 15 年 5 月	プレス技術 41,（5）	笹田昌弘，高橋俊典，青木勇	52-56 頁
小穴抜き加工特性に及ぼす工具形状の影響	共著	平成 15 年 11 月	第 54 回塑性加工連合講演会講演論文集	小林仁，笹田昌弘，青木勇	477-478 頁
プレコート材のせん断加工	単著	平成 16 年 3 月	天田財団 FORMTECHREVIEW,Vol.13,No.1		38-41 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
超微細医用鉗子の金型成形	共著	平成 16 年 5 月	平成 16 年度塑性加工春季講演会講演論文集	青木勇，笹田昌弘，小松誠，渕脇忠夫，内山寛基，桜本恵	371-372 頁
せん断技術を利用する金属・樹脂の接合技術に関する研究	共著	平成 16 年 5 月	平成 16 年度塑性加工春季講演会講演論文集	春山幸生，笹田昌弘，青木勇	335-336 頁
せん断加工の FEM 解析における摩擦係数の検討	共著	平成 16 年 5 月	平成 16 年度塑性加工春季講演会講演論文集	志村和樹，笹田昌弘，青木勇	323-324 頁
年間展望・せん断加工	単著	平成 16 年 8 月	日本塑性加工学会誌 45,（523）		631-633 頁
小穴抜き加工に関する基礎的研究	共著	平成 16 年 11 月	第 55 回塑性加工連合講演会講演論文集	小林仁，笹田昌弘，青木勇	425-426 頁
せん断加工における偏心クリアランス是正作用の FEM 解析	共著	平成 16 年 11 月	第 55 回塑性加工連合講演会講演論文集	高良直希，笹田昌弘，青木勇	423-424 頁
高アスペクト比穴抜き加工	単著	平成 17 年 1 月	プレス技術 43,（1）		76-79 頁
圧電素子駆動による鍛金加工に関する研究	単著	平成 17 年 2 月	研究概要報告書・国際交流報告書（財団法人天田金属加工機械技術振興財団），第 17 巻		181-184 頁
超微細医用鉗子の金型成形	共著	平成 17 年 3 月	2005 年度精密工学会春季大会学術講演会講演論文集	青木勇，笹田昌弘，小松誠，三池神也	441-442 頁
せん断技術を利用する金属・樹脂の接合技術に関する研究（第 2 報）逆パンチ利用の提案	共著	平成 17 年 11 月	第 56 回塑性加工連合講演会講演論文集	笹田昌弘，鈴木健郎，前西宏亮，青木勇	105-106 頁
圧電素子を用いた鉗子の駆動機構に関する基礎的研究	共著	平成 18 年 3 月	日本機械学会関東支部第 12 期総会講演会講演論文集	笹田昌弘，矢野健，青木勇	315-316 頁
せん断加工における偏心クリアランス是正作用に関する研究	共著	平成 18 年 5 月	平成 18 年度塑性加工春季講演会講演論文集	笹田昌弘，高良直希，青木勇	155-156 頁
年間展望・せん断加工	単著	平成 18 年 8 月	塑性と加工（日本塑性加工学会誌）47,（547）		724-726 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
微細精密せん断における偏心クリアランス是正作用へのパンチ長さ及び板押さえの影響	共著	平成 18 年 10 月	第 57 回塑性加工連合講演会講演論文集	笹田昌弘，青木勇	145-146 頁
せん断加工の基礎と最新の技術動向	共著	平成 18 年 12 月	プレス技術，Vol.44, No.14	青木勇，笹田昌弘	18-21 頁
せん断製品性状に及ぼす材料拘束の影響に関する研究	共著	平成 19 年 3 月	日本機械学会東海支部第 56 期総会講演会講演論文集	星隼人，笹田昌弘，青木勇	pp.101-102 頁
鉗子の駆動機構及び把持状態監視機能に関する基礎的研究	共著	平成 19 年 3 月	日本機械学会東海支部第 56 期総会講演会講演論文集	笹田昌弘，矢野健，青木勇	49-50 頁
圧電素子駆動による鍛金加工に関する研究	単著	平成 19 年 3 月	FORM TECH RE-VIEW200616,（1）		8-11 頁
微細精密せん断における偏心クリアランス是正作用に及ぼす材料拘束の影響	共著	平成 19 年 10 月	第 58 回塑性加工連合講演会講演論文集	笹田昌弘，櫻井拓矢，青木勇	67-68 頁
鉗子の駆動機構及び把持状態監視機能に関する基礎的研究 (ひずみゲージを用いた把持状態監視機能)	共著	平成 20 年 3 月	日本機械学会東海支部第 57 期総会講演会講演論文集	笹田昌弘，佐藤不思議，早坂盛，矢野健，青木勇	81-82 頁
順送型におけるパイロットピンの変形に及ぼすせん断条件の影響（第 1 報）	共著	平成 20 年 5 月	平成 20 年度塑性加工春季講演会講演論文集	笹田昌弘，別府宗明，青木勇	245-246 頁
マイクロせん断加工	共著	平成 20 年 7 月	塑性と加工（日本塑性加工学会誌）49,（570）	青木勇，笹田昌弘	619-623 頁
微細精密せん断における偏心クリアランス是正作用に及ぼす材料拘束の影響（第 2 報）	共著	平成 20 年 11 月	第 59 回塑性加工連合講演会講演論文集	櫻井拓矢，笹田昌弘，青木勇	297-298 頁
せん断加工特性に及ぼす予加工穴の影響	共著	平成 20 年 11 月	第 59 回塑性加工連合講演会講演論文集	中村高士，笹田昌弘，青木勇	295-296 頁
小穴抜きの加工機構と問題点	共著	平成 20 年 12 月	プレス技術 46,（14）	笹田昌弘，青木勇	23-27 頁
順送金型を用いたプレス成形に関する基礎的研究（第 1 報）	共著	平成 21 年 3 月	日本機械学会関西支部第 84 期定時総会講演会講演論文集 No.94-1	笹田昌弘，青木勇，品村一輝，鈴木悠介	pp.3-22 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
平成 7 年 7 月～現在に至る	社団法人　自動車技術会会員
平成 8 年 1 月～現在に至る	社団法人　日本機械学会会員
平成 12 年 4 月～現在に至る	社団法人　日本塑性加工学会会員
平成 12 年 11 月～現在に至る	社団法人　精密工学会会員
平成 15 年 5 月～平成 17 年 3 月	社団法人　日本塑性加工学会南関東支部・南関東ブロック若手会スタッフ
平成 15 年 10 月～平成 16 年 9 月	天田金属加工機械技術振興財団（奨励研究助成） 500 千円 （圧電素子駆動による鍛金加工に関する研究）（研究代表者）
平成 16 年 4 月～平成 19 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 C 2,900 千円 （低侵襲医療を目的とする 0.3mm 級超微細医用鉗子の高度生産システムの開発）（研究分担者）
平成 17 年 2 月～現在に至る	アメリカ機械学会会員
平成 17 年 4 月～平成 20 年 3 月	科学研究費補助金 若手研究 B 2,700 千円 （外科手術及び細胞診に用いるマイクロ医療用工具の実用化に伴う強度問題に関する研究）（研究代表者）
平成 18 年 9 月～平成 20 年 3 月	天田金属加工機械技術振興財団（平成 18 年度天田金属加工機械技術振興財団研究助成，奨励研究助成） 600 千円 （微細精密せん断における偏心クリアランス是正作用）（研究代表者）
平成 19 年 4 月～現在に至る	社団法人　日本塑性加工学会出版事業委員会委員
平成 19 年 4 月～現在に至る	科学研究費補助金 科学研究費補助金　基盤研究（C） 2,400 千円 （順送金型成形法による生検鉗子の成形自由度の高度化および高機能化に関する研究）（研究分担者）

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部機械工学科	職名 准教授	氏名 品田　正昭	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 19 年 4 月 1 日 ～現在に至る	（授業科目：フルイドパワー）平成 18 年度前期授業評価アンケート評価を受け、内容を分かりやすく伝えるため、パワーポイント・配布資料を使用するなど、授業運営の改善活動を行った。
2　作成した教科書、教材		なし
3　教育上の能力に関する大学等の評価 2006 年前期授業評価アンケート結果 2006 年後期授業評価アンケート結果	平成 18 年 9 月 30 日 平成 19 年 3 月 30 日	（授業科目：フルイドパワー）学生による授業評価アンケートにおいて、全ての評価項目が学部・学科の平均値を上回り、全項目の平均値が 4.0 点（5 点満点）であった。 （授業科目：工業力学）学生による授業評価アンケートにおいて、全ての評価項目が学部・学科の平均値を上回り、全項目の平均値が 3.9 点（5 点満点）であった。
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
Development of accurate and practical simulation technique based on the modal approximations for fluid toransients in compound fluid-line systems（2nd report）	共著	平成 15 年 10 月	Intenational Journal of Fluid Power14,（3）	Eiichi Kojima,Masaaki Shinada	35-45 頁
安全弁を有する複合管路内流体過渡現象の SMA 法に基づくシミュレーション技術の開発	共著	平成 18 年 9 月	日本機械学会論文集（B 編）72,（721）	小嶋英一，山崎徹，品田正昭	2203-2210 頁
Development of a New Simulation Technique Based on the Modal Approximation for Fluid Transients in Complex Pipeline Systems with Time-Variant Nonlinear Boundary Conditions	共著	平成 19 年 6 月	Transactions of the ASME, Journal of Fluid Engineering（129）	Eiichi Kojima,Toru Yamazaki,Masaaki Shinada	791-798 頁
大型油圧システムのバルブボックス内の分岐通路に発生する過渡的異常高圧	単著	平成 19 年 11 月	日本フルードパワーシステム学会論文集 38,（6）		pp.83-89 頁
その他					
流体過渡現象シミュレーション技術（“ SMA ”法）の改良と実機複合管路系への適用例	共著	平成 15 年 11 月	平成 15 年秋季フルードパワーシステム講演会（那覇）		42-44 頁
時変非線形境界条件を有する複合管路系内流体過渡現象の解析（ＳＭＡ 法の工学的有用性の検討）	共著	平成 17 年 5 月	平成 17 年春季フルードパワーシステム講演会論文集（東京）		26-28 頁

著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び 巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
大型油圧システムのバルブボックス内の分岐通路に発生する過渡的異常高圧	共著	平成 18 年 11 月	平成 18 年秋季フルードパワーシステム講演会論文集（静岡）	品田正昭，小嶋英一	88-90 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 49 年 1 月～現在に至る	日本機械学会会員
昭和 50 年 1 月～現在に至る	日本油空圧学会会員
平成 9 年 1 月～現在に至る	日本油空圧学会企画委員会委員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部機械工学科	職名 准教授	氏名 中西　裕二	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 講義内での演習の増加（授業評価アンケート結果の反映）	平成 19 年 4 月 1 日	これまでの学生による授業評価アンケートにおいて，力学系の科目では，難易度が高いとの評価が多かったため，2006 年度からのカリキュラムの「流体力学及び演習 I, II」,「工業力学及び演習 II」の中で演習を多く取り入れた講義内容に変更した.
2　作成した教科書、教材		なし
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
粒子法によるペルトン水車バケット内の流れの解析(第1報, 相対軌跡を利用した1枚の回転バケット内の流れ)	共著	平成19年4月	日本機械学会論文集B編73,（728）	中西　裕二、藤井　恒彰	1008-1013頁
ペルトン水車のジェット干渉初生点	共著	平成19年12月	ターボ機械35,（12）	藤井恒彰，塚本直史，黒川淳一，中西裕二	8-6頁
粒子法によるペルトン水車バケット内の流れの解析(第2報, 非設計点における流れとランナ出力)	共著	平成19年12月	日本機械学会論文集(B編)73,（736）	中西裕二, 藤井恒彰，和智恒機	2524-2529頁
その他					
Numerical Simulation of Flow in Pelton Buckets by Particle Method(2D Flow on Stationary Curved Vane)	共著	平成15年9月	The 12th International Conference on Fluid Flow Technologies,Budapest		
Hydraulic Characteristics of a Floating Buoy for Tidal Current Power Generation	共著	平成16年5月	Proc. of the 14th Int. Offshore and Polar Engineering Conference & Exhibition		CD-ROM頁
Numerical Simulation of Flow on Rotating Flat Plates by a Particle Method	単著	平成17年10月	Proceeding of 8th Asian International Fluid Machinery Conference		384-393頁
粒子法によるペルトン水車バケット内流れの数値解析(静止バケット内の流れ)	共著	平成18年9月	日本機械学会2006年度年次大会講演論文集2	和智　恒機、藤井　恒彰、中西　裕二	169-170頁
Numerical Simulation of the Flow in a Pelton Bucket by a Particle Method	共著	平成18年10月	Proc. of 23rd IAHR Symposium - YokohamaCD-ROM	Yuji Nakanishi, Tsuneaki Fujii, Masakazu Morinaka, Koki Wachi	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
MPS Simulation of the Flow in a Rotating Pelton Bucket and Power	共著	平成 19 年 10 月	Proceedings of th 9th Asian International Conference on Fluid MachineryCD-ROM	Yuji Nakanishi, Tsuneaki Fujii and Koki Wachi	
Research for a Jet Interference of Pelton Turbine	共著	平成 19 年 10 月	Proceedings of th 9th Asian International Conference on Fluid MachineryCD-ROM	Tsuneaki Fujii, Toshiaki Karaki, Tadashi Tsukamoto, Yuji Nakanishiand Junichi Kurokawa	
MPS Simulation of Jet Interference of Pelton Turbines	共著	平成 20 年 11 月	Proceedings of 15th International Seminar on Hydropower Plants	Y. Nakanishi, T. Fujii	65-71 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 63 年 4 月～現在に至る	日本機械学会会員
平成 5 年 10 月～現在に至る	ターボ機械協会会員
平成 6 年 4 月～現在に至る	ターボ機械協会会員
平成 6 年 4 月～現在に至る	国際水理学会会員
平成 6 年 7 月～現在に至る	International Association for Hydraulic Research 会員
平成 8 年 7 月～平成 16 年 11 月	ターボ機械協会水力機械委員会ハイドロタービン性能予測分科会幹事
平成 13 年 4 月～現在に至る	ISO ／ TC30 管路における流量測定国内委員会委員
平成 14 年 4 月～現在に至る	電気規格調査会原動機部会（水車標準化委員会/IEC TC4 国内委員会）委員
平成 18 年 7 月～現在に至る	日本流体力学会会員
平成 19 年 4 月～平成 20 年 3 月	JISB0119 水車及びポンプ水車用語原案改正委員会委員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部機械工学科	職名 准教授	氏名 山崎　徹	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
他大学との研究交流	平成 14 年 5 月 ～現在に至る	卒業研究生の意欲向上を目的に、他大学の研究室と研究交流を行っている。お互いの研究内容についてプレゼンテーション、ディスカッションを行い、良い刺激を受け、卒業研究への取り組み姿勢が改善されている。
Tablet PC と Projector を用いた，穴埋め形式の講義	平成 16 年 4 月 ～現在に至る	機械力学 I，機械力学 II，工業力学および演習 II，計算機解析，工学問題の解析法，コンピュータリテラシー，機械力学および演習 I，機械力学および演習 II，機械力学特論 I，機械力学特論 II，基礎プログラミング，プログラミング
2　作成した教科書、教材		
実用理工学入門講座「基礎からの機械力学」，日新出版	平成 16 年 4 月 1 日	
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
株式会社技術情報センター「製品価値として欠かせない～低振動・低騒音化設計法～」セミナー講師	平成 18 年 12 月 12 日	
株式会社東京濾器　工学基礎講座　講師	平成 19 年 10 月 5 日	
日刊工業新聞社　“ 技術者 ”のための振動騒音の低減対策プロセス～モーターなどをいじらずに構造を変えて低騒音に～セミナー講師	平成 20 年 4 月 14 日	
日刊工業新聞社　“ 技術者 ”のための振動騒音の低減対策プロセス～モーターなどをいじらずに構造を変えて低騒音に～	平成 20 年 4 月 14 日	
5　その他		
大学院機械工学専攻カリキュラム検討委員	平成 20 年 4 月 ～平成 20 年 10 月	09 年度から実施のカリキュラムを作成した

II　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
実用理工学入門講座「基礎からの機械力学」	共著	平成 17 年 4 月	日新出版		
制振工学ハンドブック	共著	平成 20 年 4 月	コロナ社	制振工学ハンドブック編集委員会, 山崎徹	191-195,626-632 頁
論文					
SEA Model Building of Automotive Vehicle Body in White Using Experiment and FEM	共著	平成 15 年 5 月	2003 SAE Noise & Vibration Conference Proceedings		
SEA Model of Automotive Vehicle Body-in-White Based on Modal Density Estimation	共著	平成 15 年 7 月	Proceedings of Tenth International Congress on Sound and Vibration in Stockholm		1179-1186 頁
Applicability of experimental statistical energy analysis to an engine structure	共著	平成 15 年 7 月	JSAE Review, 24		263-267 頁
Vibration Analysis of A Printer Unit Using Statistical Energy Analysis	共著	平成 15 年 8 月	Proceedings of Inter-Noise 2003		3708-3714 頁
SEA によるレーザプリンタの振動解析－実験 SEA モデルの構築－	共著	平成 15 年 8 月	日本機械学会 2003 年度年次大会講演論文集, Vol.V		127-128 頁
Prediction of Sound Power Radiated from Oil Hydraulic Pump by FEM and BEM	共著	平成 15 年 9 月	Proceeding of Power Transmission and Motion Control (PTMC 2003)		pp.265-274 頁
平板における振動エネルギー流れの発生メカニズムに関する研究	共著	平成 15 年 9 月	日本機械学会 Dynamics and Design Conference 2003 CD-ROM 論文集，349(2003-9)		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
フロアカーペットによる振動放射音低減効果に関する実験的検討	共著	平成 15 年 9 月	日本機械学会 Dynamics and Design Conference 2003 CD-ROM 論文集		
自動車トリムドボディの SEA モデル化に関する研究	共著	平成 15 年 9 月	日本機械学会 Dynamics and Design Conference 2003 CD-ROM 論文集		
SEA によるレーザプリンタの振動解析 (－印刷時の入力パワー同定－)	共著	平成 15 年 9 月	日本機械学会 Dynamics and Design Conference 2003 CD-ROM 論文集		
Vibration Analysis of an Office Machine Using Statistical Energy Analysis	共著	平成 16 年 4 月	Proceedings of ICA2004, The 18th International Congress on Acoustics,IV		
Modelling of Floor Carpet on Vibration and Structure-Borne Noise Transmission	共著	平成 16 年 4 月	Proceedings of ICA2004, The 18th International Congress on Acoustics, IV		
Vibration analysis of office machines by SEA using FE model	共著	平成 16 年 7 月	Proceedings of Eleventh International Congress on Sound and Vibration in St.Petersburg, 0805		3265-3272 頁
Vibration analysis of office machines by SEA using FE model	共著	平成 16 年 8 月	Proceedings of Inter-Noise 2004, 330		330 頁
SEA による構造設計手法の検討	共著	平成 16 年 9 月	日本機械学会 2004 年度年次大会講演論文集		247-248 頁
振動エネルギに基づく衝撃応答予測手法の基礎的検討	共著	平成 16 年 9 月	日本機械学会茨城講演会，No.040-3		33-34 頁
自動車フロアに用いられる遮音型カーペットの振動放射音予測	共著	平成 16 年 9 月	日本機械学会茨城講演会，No.040-3		31-32 頁
振動・音響エネルギー流れと機械の振動・騒音に関する基礎研究	共著	平成 16 年 9 月	日本機械学会茨城講演会，No.040-3		23-24 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
SEA を用いた振動入力源同定手法のエンジンでの検討	共著	平成 16 年 9 月	日本機械学会 Dynamics and Design Conference 2004 CD-ROM 論文集		434 頁
カーペットによるフロア振動の低減効果を考慮した FE モデルの構築	共著	平成 16 年 9 月	日本機械学会 Dynamics and Design Conference 2004 CD-ROM 論文集		611 頁
SEA Model Building of Automotive Vehicle Body in White Using Experiment and FEM	共著	平成 16 年 9 月	SAE 2003 Transactions Journal of Passenger Cars &# 8211; Mechanical		2003-01-1411, pp.1561-1568 頁
Study on prediction of energy levels of simple plate systems using WIA based on experimental estimation of transmissibility	共著	平成 17 年 4 月	International congress NOVEM 2005, 038.pdf		
油圧絞り部におけるキャビテーション騒音の発生機構の解明	共著	平成 17 年 5 月	春季フルードパワーシステム講演会講演論文集		56-58 頁
Noise Reduction of A Laser Printer Using SEA And FEM	共著	平成 17 年 7 月	Proceedings of Twelfth International Congress on Sound and Vibration		
Measurement and Modelling of Variation of Structural Dynamic Responses	共著	平成 17 年 8 月	Proceedings of Inter-Noise 2005	K.Kuroda, T.Yamazaki	1864 頁
SEA によるレーザプリンタの固体伝播音低減	共著	平成 17 年 8 月	日本機械学会 Dynamics and Design Conference 2005 CD-ROM 論文集		360 頁
機械構造物の振動応答のばらつき計測とそのモデル化	共著	平成 17 年 8 月	日本機械学会 Dynamics and Design Conference 2005 CD-ROM 論文集		602 頁
エネルギを変数とした衝撃応答予測手法に関する研究（簡易構造物での検討）	共著	平成 17 年 8 月	日本機械学会 Dynamics and Design Conference 2005 CD-ROM 論文集		217 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Elucidation of the Noise Generating Mechanism produced by a Hydrodynamic Source associated with Cavitation in an Oil Hydraulic Valve Orifice	共著	平成 17 年 9 月	Proceeding of Power Transmission and Motion Control (PTMC 2005)		409-425 頁
自動車フロアカーペットの振動音響モデルの基礎的検討	共著	平成 18 年 3 月	日本機械学会関東支部第 45 回学生員卒業研究発表講演会前刷集		149-150 頁
過渡的 SEA による集中定数系の衝撃応答解析	共著	平成 18 年 3 月	日本機械学会関東支部第 45 回学生員卒業研究発表講演会前刷集		205-206 頁
振動インテンシティのモード分離	共著	平成 18 年 3 月	日本機械学会関東支部第 45 回学生員卒業研究発表講演会前刷集		177-178 頁
Prediction of energy levels of simple plate systems using WIA based on experimental SEA parameters	共著	平成 18 年 7 月		Proceedings of 13th International Congress on Sound and Vibration	281 頁
振動インテンシティの振動モードによる記述	共著	平成 18 年 8 月	日本機械学会 Dynamics and Design Conference 2006 CD-ROM 論文集	山崎徹，上野正貴，塩幡宏規	244 頁
過渡 SEA による衝撃応答解析の基礎的検討	共著	平成 18 年 8 月	日本機械学会 Dynamics and Design Conference 2006 CD-ROM 論文集	山崎徹，石川慧介，黒田勝彦	247 頁
ロータを有する機械への SEA の適用検討	共著	平成 18 年 8 月	日本機械学会 Dynamics and Design Conference 2006 CD-ROM 論文集	山崎徹，長井孝資，黒田勝彦	726 頁
SEA モデル構築における面内振動の影響	共著	平成 18 年 8 月	日本機械学会 Dynamics and Design Conference 2006 CD-ROM 論文集	黒田勝彦，山崎徹	727 頁
自動車フロアカーペットの振動音響モデルの検証	共著	平成 18 年 8 月	日本機械学会 Dynamics and Design Conference 2006 CD-ROM 論文集	山崎徹，金澤俊，見坐地一人，井出史彦，多田寛子	729 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Noise reduction of a laser printer using SEA and FEM	共著	平成 18 年 9 月	Proceedings of International Conference on Noise and Vibration Engineering	A.Mori,T.Yamazaki, K.Kuroda, F.Kuratani	isma2006$_0$263.*pdf* 頁
安全弁を有する複合管路内流体過渡現象の“ SMA ”法に基づくシミュレーション技術の開発	共著	平成 18 年 9 月	日本機械学会論文集 72 巻 721 号 B 編	小嶋英一，山崎徹，品田正昭	2203-2210 頁
平板を対象とする振動インテンシティのモード重ね合わせ法に関する基礎研究	共著	平成 18 年 11 月	日本機械学会論文集 72 巻 723 号 C 編	塩幡宏規，尾崎公哉，山崎徹	3474-3479 頁
Influences of In-plane Vibration on SEA Models Building Using FEM	共著	平成 18 年 12 月	Proceedings of Inter-Noise 2006	K.Kuroda, T.Yamazaki	in06$_2$81.*pdf* 頁
Experimental Investigation for an Alternative Stationary Exhaust Noise Test	共著	平成 18 年 12 月	Proceedings of Inter-Noise 2006	I.Sakamoto, T.Tanaka, M.Ishihama, S.Kaneko, T.Yamazaki	in06$_4$75.*pdf* 頁
Characteristics of Transient Statistical Energy Analysis Using Case of Two DOF System	共著	平成 18 年 12 月	Proceedings of Inter-Noise 2006	T.Yamazaki, K.Ishikawa, K.Kuroda	in06$_6$20.*pdf* 頁
Discussion on the Characteristics of the Coupling Matrix of Experimental WIA in Comparison with WIA, SEA and ESEA	共著	平成 19 年	Journal of System Design and Dynamics1, (2)	J.J.Bayod, T.Yamazaki, M.Kamata,	362-373 頁
SEA による機械製品の固体音低減プロセス	共著	平成 19 年 2 月	日本機械学会論文集 C 編 73 巻 726 号	山崎徹，黒田勝彦，森厚夫	446-452 頁
可視化技術による機械構造物の音質を考慮した低振動低騒音設計手法の開発	単著	平成 19 年 3 月	神奈川大学工学部報告 (45)		30-42 頁
過渡 SEA を用いた衝撃応答予測手法の検討	共著	平成 19 年 3 月	日本機械学会関東支部第 46 回学生員卒業研究発表講演会前刷集	マクシュトフ・スタニスラブ，国分和城，山崎徹	
振動インテンシティの固有モード成分の算出	共著	平成 19 年 3 月	日本機械学会関東支部第 46 回学生員卒業研究発表講演会前刷集	沼田臨，鈴木貴博，壷内一平，山崎徹	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
加振位置変更による所望の振動インテンシティ分布の実現	共著	平成 19 年 3 月	日本機械学会関東支部第 46 回学生員卒業研究発表講演会前刷集	鈴木貴博，沼田臨，壷内一平，山崎徹	
自動車 CVT 用ベーンポンプの吐出し流量脈動のモデル化	共著	平成 19 年 3 月	日本機械学会関東支部第 46 回学生員卒業研究発表講演会前刷集	安藤強志，中村和久，山崎徹，小嶋英一	
Prediction of Vibration Energy Levels on Structures Using Wave Intensity Analysis Based on Experimental Data	共著	平成 19 年 3 月	Journal of System Design and Dynamics1, (1)	J.J.Bayod, T.Yamazaki, M.Kamata	
Development of a New Simulation Technique Based on the Modal Approximation for Fluid Transients in Complex Pipeline Systems With Time-Variant Non-Linear Boundary Conditions	共著	平成 19 年 6 月	Journal of Fluids Engineering, Transactions of the ASME129	E.Kojima, T.Yamazaki, M.Shinada	791-798 頁
はりの曲げ振動インテンシティのモード展開	単著	平成 19 年 7 月	日本機械学会 73 巻 731 号 C 編		1948-1954 頁
Influences of In-plane Vibration on SEA Models Building Using FEM	共著	平成 19 年 8 月	Proceedings of Inter-Noise 2007	K.Kuroda,T.Yamazaki	
防音材仕様の解析技術	共著	平成 20 年 2 月	自動車技術 62,（2）	見坐地一人，井出史彦，多田寛子，山崎徹	112-117 頁
過渡 SEA の二自由度系による基礎的検討	共著	平成 20 年 4 月	日本機械学会論文集 C 編 74,（740）	山崎徹，石川慧介，Maksyutov Stanislav，黒田勝彦	773-779 頁
A New Structural Design Method by using Structural Intensity	共著	平成 20 年 7 月	NumataProceedings of 15th International Congress on Sound and Vibration	T.Yamazaki, N.Numata	2835-2842 頁
平板構造物の面外振動の SEA モデルに及ぼす面内振動の影響	共著	平成 20 年 8 月	, 日本機械学会論文集 C 編 74,（744）	黒田勝彦，山崎徹，鞍谷文保	1955-1962 頁
固体音解析における解析 SEA パラメータの FEM による検証	共著	平成 20 年 8 月	日本機械学会論文集 C 編 74,（744）	山崎徹，黒田勝彦	1963-1970 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
A structural design process for reducing structure-borne sound on machinery using SEA	共著	平成 20 年 9 月	Proceedings of International Conference on Noise and Vibration Engineering	K.Kuroda, S.Ohno,	isma2008$_0$468.*pdf* 頁
A structural design process for reducing structure-borne sound on machinery using SEA	共著	平成 20 年 9 月	Proceedings of International Conference on Noise and Vibration Engineering, ISMA	T.Yamazaki, K.Kuroda, S.Ohno	
Structural Optimization of Subsystems to Realize Desired SEA Parameters	共著	平成 20 年 10 月	Proceedings of Inter-Noise 2008	K.Kuroda, T.Yamazaki, F.Kuratani	
部分構造を対象としたFEM による SEA パラメータの評価－ FEM-SEA の提案－	共著	平成 20 年 11 月	日本機械学会論文集 C 編 74,（747）	山崎徹，黒田勝彦，鎌田実	
油圧ポンプの発生する固有脈動パワーを測定するための標準試験法の開発	共著	平成 20 年 11 月	日本フルードパワーシステム学会誌 39,（6）	小嶋英一，山崎徹，安藤強志	
Development of Standard Testing Procedure for Experimentally Determining Inherent Source Pulsation Power Generated by Hydraulic Pump	共著	平成 21 年	International Journal of Fluid Power10,（1）	E.Kojima, K.Edge	27-35 頁
その他					
高周波解析手法 SEA を用いた低騒音低振動構造設計	共著	平成 16 年 10 月	平成 16 年度神奈川県産学公交流研究発表会資料		86 頁
振り子型吸振器に関する基礎研究	共著	平成 17 年 10 月	平成 17 年度神奈川県産学公交流研究発表会資料		
SEA による固体音低減プロセスの食器洗浄乾燥機への適用	共著	平成 18 年 10 月	平成 18 年度神奈川県産学公交流研究発表会資料	山崎徹，柏倉健，黒田勝彦，長井孝資	81 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
平成 5 年 4 月～現在に至る	日本機械学会会員
平成 8 年～現在に至る	自動車技術会会員
平成 9 年 6 月～現在に至る	自動車技術会会員
平成 12 年 4 月～現在に至る	日本騒音制御工学会会員
平成 12 年 4 月～現在に至る	日本音響学会会員
平成 13 年 3 月～現在に至る	自動車技術会振動騒音研究会　話題提供（SEA 法の要素分割に関する一考察）
平成 14 年 4 月～平成 16 年 3 月	日本自動車技術会 音質評価技術研究会委員
平成 15 年 1 月～現在に至る	自動車技術会振動騒音委員会 話題提供（FEM 援用 SEA に関する研究）
平成 15 年 4 月～平成 17 年 3 月	（受託研究）キャノン株式会社「事務機器の統計的エネルギー解析（SEA）を利用した騒音低減に関する研究」（1,500 千円）
平成 15 年 4 月～平成 18 年 3 月	（受託研究）本田技術研究所栃木研究所「ロードノイズに対する低騒音 Floor 構造の開発」（5,000 千円）
平成 16 年 4 月～平成 18 年 3 月	日本自動車技術会 音質評価技術部門委員会委員
平成 16 年 4 月～平成 20 年 3 月	（受託研究）ユニバーサル造船「過渡 SEA の基礎的検討に関する研究」（2,000 千円）
平成 16 年 7 月～平成 16 年 7 月	自動車技術会振動騒音委員会　話題提供　（FEM による SEA モデルの構築とフロアカーペットのモデル）
平成 16 年 9 月～平成 18 年 3 月	日本自動車技術会 騒音技術検討会委員
平成 17 年 3 月～現在に至る	日本フルードパワーシステム学会会員
平成 17 年 4 月～平成 17 年 4 月	広島県音・振動技術研究会　講演（SEA の考え方と事例紹介）
平成 17 年 8 月～現在に至る	B&KJapan 騒音・振動技術講習会講師
平成 17 年 10 月～現在に至る	日本モーダル解析協議会数値解析技術基礎セミナー講師
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	自動車騒音調査研究委員会委員
平成 18 年 12 月～平成 18 年 12 月	技術情報センターにてセミナー「製品価値として欠かせない～低振動・低騒音化設計法～」講師
平成 19 年 4 月～平成 20 年 3 月	自動車技術会振動騒音委員会オブザーバー
平成 19 年 6 月～現在に至る	日立製作所「設計者のための低振動・静音化技術」講師

年月	内　　容
平成 19 年 7 月～現在に至る	日本モーダル解析協議会（JMAC）数値解析技術基礎セミナー講師
平成 19 年 7 月～現在に至る	ブリュエル・ケアー・ジャパン騒音・振動技術講習会（NVH 技術者のための統計的エネルギー解析の基礎）講師
平成 20 年 1 月～現在に至る	国際音響振動協会（IIAV) 会員
平成 20 年 4 月～現在に至る	日本機械学会 RC-D5「自動車を中心とした振動－騒音解析技術に関する研究分科会」幹事
平成 20 年 4 月～現在に至る	自動車技術会振動騒音委員会委員
平成 20 年 4 月～平成 22 年 3 月	日本機械学会　RC-D5　自動車を中心とした振動－騒音解析技術に関する研究分科会委員および幹事
平成 20 年 4 月～現在に至る	自動車技術会振動騒音委員会委員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部機械工学科	職名 助教	氏名 石渡　秋二	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		なし
2　作成した教科書、教材		なし
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動					
著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び 巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
その他					
切削油剤の特性評価	共著	平成 17 年 9 月	日本機械学会東北支部 第 41 期秋期講演会論文 集 No.2005-2	石渡秋二平津衛	269-270 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 44 年 4 月～現在に至る	精密工学会会員
昭和 44 年 4 月～現在に至る	日本トライボロジー学会会員
昭和 44 年 4 月～現在に至る	日本機械学会会員
平成元年 4 月～現在に至る	砥粒加工学会会員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部機械工学科	職名 助教	氏名 佐藤　昌夫	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		なし
2　作成した教科書、教材		なし
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動					
著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び 巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
（独）日本学術振興会「転り軸受寿命第１２６委員会終了報告書」	共著	平成 17 年 3 月			
論文					
転がり軸受寿命試験マニュアル	共著	平成 20 年 4 月		トライボロジー学会第２種研究会：転がり軸受寿命研究会	
その他					

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
～現在に至る	（国内共同研究）「転がり軸受の寿命の研究」
昭和 41 年 4 月～現在に至る	日本潤滑学会会員
昭和 44 年 4 月～現在に至る	日本機械学会会員
昭和 50 年 4 月～現在に至る	日本学術振興会第 126 委員会委員および分科会委員
昭和 54 年 4 月～現在に至る	精機学会会員
昭和 61 年 4 月～平成 17 年 3 月	（独）日本学術振興会第１２６委員会（転り軸受寿命）委員１９８９～幹事会員
平成 2 年 5 月～平成 17 年 3 月	日本学術振会第 126 委員会幹事
平成 17 年 7 月～平成 20 年 3 月	日本トライボロジー学会第２種研究会（転がり軸受寿命研究会）幹事会員
平成 17 年 7 月～平成 20 年 3 月	日本トライボロジー学会第２種研究会「転がり軸受寿命研究会」幹事幹事
平成 20 年 4 月～現在に至る	日本トライボロジー学会第２種研究会「転がり軸受寿命研究会」委員委員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部機械工学科	職名 助教	氏名 細川　修二	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 19 年 4 月 1 日 ～平成 19 年 7 月 20 日	（授業科目：M デザイン１）当該科目の講義内容，講義方法，提出物などについて最終講義のなかで感想，意見調査を行い，結果を次年度以降の授業に反映させている．
学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 19 年 9 月 25 日 ～平成 20 年 1 月 20 日	（授業科目：機械工学実験）当該科目の実験内容，講義方法，報告書の書き方などのついて，意見調査を行い，その結果を次年度以降の授業に反映させている．
2　作成した教科書、教材		
教科書の作成	平成 20 年 4 月 1 日	（授業科目：M デザイン１）当該科目の講義用に教科書を作成した．
紙引張り，ゴム曲げ試験装置の作成	平成 20 年 4 月 1 日	（授業科目：M デザイン１）当該科目の授業に使用する理解しやすい小型の紙引張り試験およびゴムの曲げ試験を行う装置を作成した．
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
新版　ねじ締結ガイドブック	共著	平成 16 年 3 月	日本ねじ研究協会		
論文					
Fictional Torque of Bolt Head in Tightening of Screw	単著	平成 17 年 6 月	The 1st International Conference on Manufacturing, Machine Design and Tribology, Session EFE-401		
ねじの締付けによるボルト軸の曲げモーメントに関する研究	単著	平成 18 年 10 月	精密工学会誌 72,（10）		1242-1246 頁
締付けによるボルト軸の曲げについて	単著	平成 19 年 3 月	日本ねじ研究協会誌 38,（3）		70-74 頁
その他					
随想	単著	平成 15 年 4 月	日本ねじ研究協会誌 34 巻 4 号		
長方形複数ボルト締結体におけつ締付け力の相互作用について	共著	平成 15 年 8 月	日本機械学会 2003 年度年次大会　徳島大学		
介護労働に関する実証的研究	共著	平成 15 年 11 月	日本機械学会鹿児島地方講演会鹿児島大学		
ねじ締結基礎講座，強度設計の手順と方法（2）設計例　軸直角外力を受ける平板の締結	単著	平成 16 年 6 月	「日本ねじ研究協会誌」３５巻 6 号		156-158 頁
ねじの締付けにおけるボルト軸の曲げモーメント	単著	平成 16 年 9 月	日本機械学会２００４年度年次大会論文集 No.０４－１		239-240 頁
健常者と要介護者のベットからの起上がり動作の解析	共著	平成 16 年 10 月	日本人間工学会東海支部 2004 年研究大会論文集		24-25 頁

著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び 巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
わが国における VA/VE （価値工学）の変遷と動向	共著	平成 17 年 3 月	日本機械学会九州支部 講演論文集 No.058-1		115-116 頁
ねじの締付けにおける摩擦 トルクについて	単著	平成 18 年 3 月	日本機械学会九州支部 講演論文集 No.068-1		195-196 頁
締付けにおけるボルト頭部 の座面摩擦トルク	単著	平成 19 年 9 月	日本機械学学会講演論 文集　Vol.4　pp.51- 52		

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 46 年～現在に至る	日本機械学会会員
昭和 48 年～現在に至る	日本材料学会会員
昭和 54 年～現在に至る	精密工学会会員
昭和 60 年～現在に至る	日本設計製図学会会員
平成 4 年 3 月～現在に至る	宮陸会学術研究奨励助成金 400 千円 （ゆるみの検出方法に関する研究）（研究代表者）
平成 15 年～現在に至る	（国内共同研究）「介護技援機器の開発」
平成 18 年 7 月～平成 19 年 3 月	平成 18 年度日本工業規格（JIS) 原案作成委員会委員

Ⅴ　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部機械工学科	職名 特別助教	氏名 木村　達人	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		なし
2　作成した教科書、教材		なし
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
泡のエンジニアリング	共著	平成 17 年 3 月	テクノシステム		
論文					
Burr-Free Microblanking Using Piezoelectric Actuator	共著	平成 16 年	Transaction of the ASME Journal of manufacturing science and engineering No.126		653-658 頁
固液気境界線（コンタクトライン）近傍流体のダイナミクス	共著	平成 16 年 10 月	日本マイクログラビティ応用学会誌		
固気液界面 (コンタクトライン) 低傍の可視化-ミクロな視点から観る固気液境界線	共著	平成 17 年	可視化情報学会誌 25,（98）	小宮敦樹・上野一郎・木村達人	175-180 頁
Molecular Dynamics of Ice-Nanotube Formation Inside Carbon Nanotubes	共著	平成 19 年	Journal of Physical Chemistry C111,（33）	J. Shiomi, T. Kimura, S. Maruyama	12188-12193 頁
その他					
分子動力学法によるカーボンナノチューブ内部での水の相変化	共著	平成 15 年 5 月	第 40 回日本伝熱シンポジウム		
固気液接触界線の分子動力学	共著	平成 16 年 5 月	第 41 回日本伝熱シンポジウム		
Molecular Dynamics Simulation of Moving Contact Line	単著	平成 17 年 3 月	6th KSME-JSME Thermal and Fluids Engineering Conference		
コンタクトラインの分子動力学計算	単著	平成 17 年 11 月	第 18 回計算力学講演会		
分子動力学法による白金表面上の水液滴核生成	単著	平成 18 年 5 月	第 43 回日本伝熱シンポジウム		

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
～現在に至る	フラーレン・ナノチューブ研究会会員
平成 13 年 11 月～現在に至る	日本機械学会会員
平成 15 年 5 月～現在に至る	日本伝熱学会会員
平成 16 年 4 月～平成 18 年 3 月	科学研究費補助金 若手研究（B） 3,100 千円 （固気液境界線の動的挙動に関する分子動力学法シミュレーション）（研究代表者）

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部電子情報フロンティア学科	職名 教授	氏名 穴田　哲夫	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		なし
2　作成した教科書、教材 電子情報通信学会の時限研究会（ＭＳＴ研）による本：マイクロ波シミュレータの基礎	平成 16 年 3 月 20 日	電気磁気学の教育を担当しているので，学生にイメージを伝えるために電磁解析シミュレータによる可視化，FDTD 法の数値計算結果の可視化に取り組み，電気磁気学のイメージを提供.
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項 マイクロ波技術者（初学者）のための基礎講座分担担当	平成 18 年 11 月 6 日	マイクロ波平面回路の電磁界測定とシミュレーションとの比較．の題目で初級技術者に講義．過去にも同技術展示において，電磁界の数値解析のオーガナイザーを努めた.
5　その他		

II　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
マイクロ波シミュレータの基礎	共著	平成 16 年 3 月	電子情報通信学会		
論文					
FOCUSING PROPERTIES NEAR THE FOCAL AREA OF UNDERWATER ACOUSTIC LENSES USING PARABOLIC EQUATION METHOD	共著	平成 15 年 4 月	WA-32, The Eighth Western Pacific Acoustics Conference, 9 April 2003		
A simple Electric Coaxial Probe Measurement in Microwave Circuits and Comparison with FD-TD method	共著	平成 15 年 11 月	2003 Asia-Pacific Microwave Conference FE-6.3		
Measurement of Electric Field Distributions using Small Coaxial Probe in Microstrip-Line Circuits and Comparison with FD-TD method	共著	平成 15 年 11 月	Measurement of Electric Field Distributions using Small Coaxial Probe in Microstrip-Line Circuits and Comparison with FD-TD method		
Parabolic Equation Approach for Calculating Wave Propagation Properties of Dielectric Planar Circuits	共著	平成 15 年 11 月	2003 Asia-Pacific Microwave Conference TEP-62		
Parabolic Equation Approach for Calculating Wave Propagation Properties of Multilayer 3D Optical Waveguide	共著	平成 16 年 6 月	Optical Amplifiers and Their Applications Integrated Photonics Research Topical Meetings		
Numerical and Experimental Near Field Distributions in High-Frequency Planar Circuits	共著	平成 16 年 6 月	2004 International Symposium on Electromagnetic Compatibility No. 2c4-2		pp.401-404 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
CHARACTERISTICS OF PRESSURE FIELDS FOCUSED BY A BI-CONCAVE ACOUSTIC LENS	共著	平成 16 年 7 月	Proceedings of the Seventh European Conference on Underwater Acoustics		6 -page 頁
REAL-TIME IMAGING SONAR SYSTEM USING ACOUSTIC LENS AND ITS PROPERTY WITH PE METHOD	共著	平成 16 年 7 月	Proceedings of the Seventh European Conference on Underwater Acoustics ECUA 2004		pp.21-26 頁
微小電界プローブによる高周波プリント回路の電界測定と FDTD 法との比較	共著	平成 16 年 9 月	電子情報通信学会, 第４回マイクロ波シミュレータ研究会		6-page 頁
両凹面音響レンズの集束特性	共著	平成 16 年 11 月	第 24 回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム		
Measurements of Two-Dimensional Electric Field Distribution in Microwave Planar Circuits Using Small Coaxial Probe	共著	平成 16 年 12 月	Sixteenth Asia Pacific Microwave Conference, page.4,India		3163-3168 頁
Two Dimensional Electric Field Measurement in Microstrip-Line Circuits by Coaxial-Type Probe	共著	平成 17 年 1 月	IEICE Transactions on Electronics		VOL.E88-C NO.1 pp.77-82, 頁
終端開放形同軸プローブを用いた複素誘電率と複素透磁率の測定に対する不確定性解析」	共著	平成 17 年 5 月	信学技報マイクロ波研究会,MW2005-22		61-66 頁
微小電界プローブによるマイクロ波平面回路の電界測定と FDTD 法との比較	共著	平成 17 年 5 月	信学技報マイクロ波研究会, vol. 105, No. 60,MW2005-2		55-60 頁
Sound Presure Fields Focused Using Biconcave Acoustic Lens for Normal Incidence	共著	平成 17 年 5 月	Jpn. J. Applied Physics Vol. 43, No. 5B,		pp.3163-3168 頁
Sound Fields Focused by a Biconcave Acoustic Lens for Normal and Oblique Incidence	共著	平成 17 年 6 月	IEEE OCEANS '05 Europe Conference, CD 041112-01, France		

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Real-Time Sonar System using Acoustic Lens and Numerical Analysis based on 2D/3D Parabolic Equation Method	共著	平成 17 年 6 月	IEEE OCEANS '05 Europe Conference, CD 041102-02, France		
A NOVEL COMPACT MICROSTRIP LOWPASS FILTER WITHTWO TRANSMISSION ZEROS	共著	平成 17 年 8 月	10th International Symposium on Microwave and Optical Technology,D-35		803-806 頁
ERROR SOURCES IN SIMULTANEOUS CHARACTERIZATION OF COMPLEX EM PARAMETERS USING A FLANGED OPEN-ENDED COAXIAL PROBE	共著	平成 17 年 8 月	10th International Symposium on Microwave and Optical Technology, C-28		696-699 頁
Error Sources in Open-ended Coaxial Probe Techniques for Simultaneous Complex EM Parameters Characterization	共著	平成 17 年 8 月	ICEMI '2006, vol.2, p.2-705-709, August, Bejing,China		
Electric Field in Coplanar Patch Antenna (CPA) -Simulation and Measurement-	共著	平成 17 年 10 月	35th European Microwave Conference, France		1071-1074 頁
Further Study on Two-Thickness-Method for Simultaneous Measurement of Complex EM Parameters Based on Open-Ended Coaxial Probe	共著	平成 17 年 10 月	EuMC24,35th European Microwave Conference, France		505-508 頁
A Dual-Band Bandpass Filter Synthesized by Using Frequency Transformation and Circuit Conversion Technique	共著	平成 17 年 12 月	2005 Asia-Pacific Microwave Conference December 4-7, 2005,Vol.5, W4.10		2302-2305 頁
Nondestructive and Simultaneous Measurement of Complex EM Parameters with Scalar Reflectometer	共著	平成 17 年 12 月	2005 Asia-Pacific Microwave Conference December 4-7, 2005,Vol.4 W6.8		2382-2385 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
A Compact UWB Band-pass Filter Using Two-Section Open-Circuited Stubs to Realize Trans-mission	共著	平成 17 年 12 月	2005 Asia-Pacific Microwave Confer-ence December 4-7, 2005,Vol.5, P.5.60		3356-3359 頁
Microstrip Bandpass Filters Using Degenerate Dual-Modes of Slotted Equilateral Triangular Patch Resonators	共著	平成 17 年 12 月	2005 Asia-Pacific Microwave Confer-ence December 4-7, 2005,Vol.1, P.1.37		454-457 頁
［特別講演］第 35 回欧州マイクロ波会議出席報告	共著	平成 18 年 1 月	電子情報通信学会信学技報, vol.105, No.525, MW2005-223(機 械 振興会館, 東京)		.81-88 頁
コンポジット共振器を用いたデュアルバンド帯域通過フィルタ	共著	平成 18 年 1 月	電子情報通信学会信学技報 ED2005-212, MW2005-166(機 械 振興会館, 東京)		19-24 頁
コンポジット共振器と SIR を併用した広い阻止域を持つ有極形帯域通過フィルタ	共著	平成 18 年 1 月	電子情報通信学会信学技報 （機械振興会館, 東京)vol.106, ED2005-211, MW2005-165		13-18 頁
Synthesis of dual-band bandpass filters using successive frequency transformations and cir-cuit conversions, IEEE Microwave and Wireless Components Letters, Vol. 16, Issue 3, pp. 110 - 112, March 2006	共著	平成 18 年 3 月	IEEE Microwave and Wireless Components Letters3 月号	Xuehui Guan; Zhewang Ma; Peng Cai; Kobayashi, Y.; Anada, T.; Hagiwara	pp.110-112 頁
コンポジット共振器と回路変換によるデュアルバンド帯域通過フィルタの設計, 信学技報, vol. 106, no. 12, MW2006-2, pp. 7-11, 2006 年 4 月.(機械振興会館，東京) （研究会）	共著	平成 18 年 4 月	電子情報通信学会 4 月号	馬 哲旺，清水太一，小林禧夫，穴田哲夫	7-11 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Dual-Mode Bandpass Filters Using Microstrip Slotted Equilateral Triangular Patch Resonators, IEICE, Vol.E89-C No.4, pp.503-508, April, 2006	共著	平成 18 年 4 月	IEICE4 月号	Weiliang HU, Zhewang MA, Yoshio KOBAYASHI, Tetsuo ANADA, Gen HAGIWARA	pp.503-508 頁
Synthesizing Microstrip Dual-Band Bandpass Filters Using Frequency Transformation and Circuit Conversion Technique, IEICE, Vol.E89-C No.4, pp.495-502, April, 2006	共著	平成 18 年 4 月	IEICE4 月号	Xuehui GUAN, Zhewang MA, Peng CAI, Yoshio KOBAYASHI,Tetsuo ANADA, Gen HAGIWARA	495-502 頁
コンポジット共振器を用いたデュアルバンド帯域阻止フィルタの設計, 信学技報, vol. 106, no. 48, MW2006-13, pp. 7-12, 2006 年 5 月.（龍谷大学, 滋賀） （研究会）	共著	平成 18 年 5 月	電子情報通信学会 信学技報 5 月号 MW2006-13	馬 哲旺, 菊池 勝倫, 小林 禧夫, 穴田 哲夫	7-12 頁
INFLUENCE OF REFERENCE WAVENUMBER FOR PARABOLIC EQUATION IN ULTRA-LONG RANGE OCEAN ACOUSTIC PROPAGATION, Proceedings of the Eighth European Conference on Underwater Acoustics, 8th ECUA, Portugal, 12-15 June, 2006 [CD version].	共著	平成 18 年 6 月	Proceedings of the Eighth European Conference on Underwater Acoustics8th ECUA, Portugal 12-15 June, 2006 [CD version].	Ryosuke Tatsumi, Tetsuo Anada, Takenobu Tsuchiya, Nobuyuki Endoh, et al	4 page 頁
IN-SITU BROADBAND CHARACTERIZATION OF COMPLEX EM-PARAMETERS OF MICROWAVE ABSORBERS, 信学技報, MW2006-46, pp.59-64, 2006 年 7 月 27 日	共著	平成 18 年 7 月	電子情報通信学会 信学技報 7 月号	Chun-Ping Chen, Zhewang Ma, Tetsuo Anada, Jui-Pang Hsu	59-64 頁
セミベクトル波動伝搬法に基づいた多層誘電体導波路の伝搬特性, 信学技報, OPE2006-07-, pp.53-58, 2006 年 7 月 27 日	共著	平成 18 年 7 月	電子情報通信学会 信学技報 7 月号	立見亮介, 陳 春平, 永岡直樹, 菅原康平, 穴田哲夫, 馬 哲旺	53-58 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Synthesis and Realization of Ultra-Wideband Bandpass Filters Using the Z-Transform Technique, Microwave and optical Technology Letters, Vol.48, No.7, pp. 1398-1400, July 2006.	共著	平成 18 年 7 月	Microwave and optical Technology Letters7 月号	Peng Cai, Zhewang Ma, Xuehui Guan, Tetsuo AnadaAnd Gen Hagiwara	pp. 1398-1400 頁
Near Electric Field in Microstrip/Coplanar Circuits and Antennas -Simulation and Measurement-, No.TU-PM-2-2, August 15, ISBN:1-4244-0294-8, IEEE EMC 2006.	共著	平成 18 年 8 月	IEEE EMC 2006ISBN:1-4244-0294-8	C. P. Chen, N. Nagaoka, T. Anada, Keren Li, Z.W Ma, C. Christopoulos	4page 頁
Semi-Vectorial Beam Propagation Method for Calculating Wave Propagation Properties of Multilayer 3D Dielectric Waveguide, Japan-China Joint Microwave Conference, Aug.23-24-25, 2006 (Oral Session T4), ISBN7-900668-43-8	共著	平成 18 年 8 月	IEICE Japan-China Joint Microwave ConferenceISBN7-900668-43-8	Ryosuke Tatsumi, Chun-Ping Chen, Tetsuo Anada, Zhewang Ma	
Determination of Absorbing Materials 'Complex EM-parameters via Scalar Reflectometer, Progress in Electromagnetics Research Symposium (PIERS 2006), Session 1p3, pp.103-106, ISSN:1559-9450, August 2-6, 2006	共著	平成 18 年 8 月	Progress in Electromagnetics Research SymposiumISSN:1559-9450	Chun-Ping Chen, Zhewang Ma, Tetsuo Anada, Jui-Pang Hsu	103-106 頁
Scalar Reflectometer Based Nondestructive Technique for Measuring Complex Permittivity and Permeability,pp.913-916, 2-9600551-6-0, 2006 EuMA, 36th European Microwave Conference, 10-15 September, UK.	共著	平成 18 年 9 月	36th European Microwave Conference	Chun-Ping Chen, Zhewang Ma, Tetsuo Anada,et al	pp.913-916 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
IN-SITU BROADBAND CHARACTERIZATION OF COMPLEX PERMITTIVITY AND PERMEABILITY OF MAGNETIC DISPERSIVE MATERIALS, pp.341-346, OWeA2-5, ISBN:84-889-9438-3,EMC-EUROPE2006. September 4 - 8, 2006 Barcelona, Spain.	共著	平成 18 年 9 月	EMC-EUROPE2006ISBN:84-889-9438-3	C.P Chen, Z. Ma, T. Anada, et al	
Further Study on Coaxial-Probe-Based Two-Thickness-Method for Nondestructive and Broadband Measurement of Complex EM-parameters of Absorbing Material	共著	平成 19 年 9 月	IEICEvol.E90-C, No.94,pp.1763-1769, September, 2007.	Chun-Ping CHEN, Deming XU, Zhewang MA, Tetsuo ANADA	
Parabolic Equation Method for Calculating Leaky Mode Propagation in 2D/3D Multilayer Dielectric Waveguide	共著	平成 19 年 11 月	Proc. Asia Pacific Microwave Conference 2007Nov. 10-14, 2007, pp.1437-1440.	Ryosuke Tatsumi, Chun-Ping Chen, Tetsuo Anada, Zhewang Ma	
Non-contacting Electric and Magnetic Field Probe for Measuring EM Fields on Microwave Planar Circuits	共著	平成 19 年 11 月	Proc. Asia Pacific Microwave Conference 2007pp.1441-1444, Nov. 10-14, 2007.	Kohei Sugawara, Chun-Ping Chen, Zhewang Ma, Tetsuo Anada、D.W.P. Thomas,	
Novel Compact Ultra-Wideband Bandpass Filter Employing Short-circuited Stubs with Coupled Stepped-Impedance Resonator	共著	平成 19 年 11 月	Proc. Asia Pacific Microwave Conference 2007pp. 1175-1178, Nov. 10-14, 2007.	Chun-Ping CHEN, Zhewang Ma, Naoki Nagaoka,Tetsuo Anada	
A microstrip dual-band bandpass filter with reduced size and improved stopband characteristics	共著	平成 20 年 3 月	Microwave and Optical Technology Letters, John WileyVol. 50, Issue 3, pp: 618-620	Xuehui Guan, Zhewang Ma, Peng Cai, Tetsuo Anada, Gen Hagiwara	
その他					
ARROW 型 3 次元光導波路の ADI-BPM による固有モード解析	共著	平成 15 年 9 月	C-3-77, 2003 電子情報通信学会ソサイエティ大会, 2003.9.23-26		

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
放物型方程式を用いた水中音響レンズの水中音響特性	共著	平成 16 年 3 月	3-5-5,1067-1068、日本音響学会　春季大会		
マイクロストリップ線共振素子の電界測定と FDTD との比較	共著	平成 16 年 3 月	電子情報通信学会総合全国大会、C-2-124		
PE 法に基づく複数の水中音響レンズの集束特性	共著	平成 16 年 5 月	海洋音響学会 2004 年度研究発表会 5 月 No.04-34		
両凹面音響レンズの集束特性	共著	平成 16 年 9 月	第 24 回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム P3-H-26		
水中音響レンズの音響特性の PE 法による数値解析 (2) - 球面レンズと非球面レンズの比較 -	共著	平成 16 年 9 月	日本音響学会 2004 年秋季研究発表会 No.2-10-2,		pp.1315-1316 頁
先進的水中映像ソーナーに関する研究	共著	平成 17 年 2 月	防衛庁第 5 研究室		
Further study on Thickness-Varying Method for Measuring the Both Complex Electromagnetic Parameters with an Open-ended Coaxial Probe	共著	平成 17 年 3 月	電子情報通信学会春季大会,C-2-53		
PE 法による超長距離音波伝搬における参照波数の影響	共著	平成 17 年 5 月	海洋音響学会平成 17 年度研究発表会,No. 05-13		39-40 頁
Nondestructive Measurement of Complex Permittivity and Complex Permeability by Scalar Reflectometer	共著	平成 17 年 9 月	C-2-121, 電子情報通信学会秋季ソサイエティ大会		
Synthesis and Realization of UWB Bandpass Filters Using Z-transform Technique	共著	平成 17 年 9 月	C-2-69, 電子情報通信学会秋季ソサイエティ大会		
多重レンズ方式による水中映像ソーナー	共著	平成 17 年 9 月	電子情報通信学会秋季ソサイエティ大会, A-11-6		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
マイクロ波平面回路の電磁界測定とシミュレーションとの比較	共著	平成 17 年 11 月	WS03-04,2005 Microwave Workshops & Exhibition(MWE 2005)		

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 47 年 4 月～現在に至る	電子通信学会会員
昭和 49 年 4 月～現在に至る	アメリカ電気学会（IEEE）会員
平成 9 年 4 月～現在に至る	Asia-Pacific Microwave Conference プログラム委員
平成 9 年 4 月～現在に至る	Microwave Workshop & Exhibition プログラム委員
平成 13 年 2 月～現在に至る	Microwave Workshop & Exhibition　プログラム委員
平成 13 年 2 月～現在に至る	Asia-Pacific Microwave Conference プログラム委員
平成 13 年 2 月～現在に至る	電子情報通信学会（IEICE）論文査読委員
平成 16 年 4 月～平成 21 年 3 月	２００４年度文部科学省私立大学研究高度化推進事業　ハイテクリサーチセンター（チップ上に広がる人間環境系を支える知能集積技術）25,000 千円 （集積化インテリジェント機能チップを支える周辺技術）（研究分担者）
平成 17 年 4 月～現在に至る	IEEE Electromagnetic Compatibility(EMC) 論文査読委員

Ⅴ　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部電子情報フロンティア学科	職名 教授	氏名 遠藤　信行	大学院における研究指導当 資格の有無　（㊒・無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
問題解法法に関するプレゼンテーションの採用	平成 12 年 4 月 ～現在に至る	電気回路演習において、各履修者に割り振った解くべき問題の解法法を、クラス全員の前で黒板を使用して説明するように指導した。さらに、質問に対する適切な回答を行うようにも指導した。これより、自分の考えを他人に正確に伝えるための技術を習得することに役立った。
学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 14 年 4 月 ～現在に至る	「電気回路１＆２」におけるアンケート結果をもとに、理解が浅い学生に対する個人指導を意識した教育をした。すなわち、小テスト時において、演壇から降壇して理解のできない学生の机の間を巡回し、それぞれの問題について対話教育をした。
学生の授業評価アンケート結果の活用	平成 14 年 4 月 ～現在に至る	「電気回路演習」におけるアンケート結果をもとに、理解が浅い学生に対する個人指導を意識した教育をした。すなわち、小テスト時において、演壇から降壇して理解のできない学生の机の間を巡回し、それぞれの問題について対話教育をした。
2　作成した教科書、教材		
電気回路演習用問題の製作	平成 12 年 4 月 ～現在に至る	「電気回路演習」あるいは「ユニット演習 2」用の学生が回答すべき問題の作成
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
2007 年度前期授業評価アンケート	平成 19 年 7 月	（授業科目：電気回路 2）学生の授業評価アンケートにおいて、総合満足度が７３点であり、電子情報フロンティア学科におけるトップであった。
工学部優秀講義賞	平成 20 年 3 月	
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
社内教員に対する専門教育の実践	平成 13 年 12 月	ＮＰＯ法人海洋音響学会の技術講習会を開催し、ＮＥＣ社等の社員（海洋音響に関する専門家）に、社内教育のための専門研究について講義し、製作したプログラム（後で配布）を使用した実践教育を行った。
5　その他		

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
神奈川大学工学部自己点検・外部評価委員会委員	平成 15 年 4 月 1 日 ～平成 16 年 3 月 31 日	外部評価委員会委員長していただいた IIJ の教授を、神奈川大学工学部自己点検・外部評価委員会委員に紹介し、委員長就任の橋渡しをした。また、電気電子情報工学科内におけるとりまとめを行った。
全国大学電気系教官会議出席	平成 15 年 7 月 23 日 ～平成 15 年 7 月 25 日	学生教育に関する全国大学電気系教官会議に出席し、教育に関する研修を行った。
私立大学情報教育協会会議出席	平成 16 年 7 月 31 日	教育の情報化推進のための理事長学長等会議（明治大学）に出席した。
全国大学電気系教官会議出席	平成 18 年 7 月 19 日 ～平成 18 年 7 月 21 日	学生教育・FD に関する全国大学電気系教官会議（山形市）に出席し、教育に関する研修を行った。
私立大学情報教育協会会議出席	平成 18 年 8 月 2 日	教育の情報化推進のための理事長学長等会議（工学院大学）に出席

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
Influence of Sediment on Sound Propagation Characterristics in Shallow Water Calculated by FDTD	共著	平成 15 年 4 月	Proc.of WESPAC 8		
Received Pulse from an Aerial Ultrasonic Sensor Affected by Temperature and Relative Humidity	共著	平成 15 年 5 月	Jpn.J.Apl.Phys.Vol.42 No.5B,		3029-3030 頁
Comparison of estimated pulse waveform using by FDTD method and observed received pulse in shallow water	共著	平成 15 年 9 月	Proc.of World Congress on Ultrasonics 2003		681-684 頁
Relation between Received Pulse of Aerial Ultrasonic Sonar and Temperature and Relative Humidity	共著	平成 15 年 9 月	Proc.of World Congress on Ultrasonics 2003		1121-1124 頁
Numerical calculation of heat condition in phantom using Finite Difference Time Domain method and Heat Conduction Equation method	共著	平成 16 年 10 月	Proc. of 12th AFSUMB		
Comparison between Experiment and Numerical Calculation by Elastic FDTD for Estimation of Inner State of Bone Phantom	共著	平成 17 年 1 月	Prc. ASK-ASJ Joint Conference on Acousticds 2005		105-108 頁
Numerical Analysis of Heat Distribution in Tissue Phantom Simulated by FDTD and HCE Method	共著	平成 17 年 1 月	Prc. ASK-ASJ Joint Conference on Acousticds 2005		137-140 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Heat Conduction Analysis in Tissue Phantom Calculated by FDTD and HCE Method	共著	平成 17 年 5 月	Proc. of 4th ISTU (American Institute of Physics)		137-139 頁
Numerical analysis of temperature rise in tissue by ultrasound	共著	平成 17 年 6 月	Jpn.J.Apl.Phys.Vol.44, No.6B		4600-4601 頁
Development of Ultrasonic Propagation Analysis Method for Estimation of Inner State of Bone Phantom	共著	平成 17 年 6 月	Jpn.J.Apl.Phys. Vol.44, No.6B		4598-4601 頁
Numerical Analysis of Temperature Rise in Tissue Using Electronic Focused Ultrasound	共著	平成 18 年 6 月	Jpn.J.Apl.Phys.Vo.45 5B		1001-1004 頁
Estimation of temperature distribution in agar phantom with mimic bone	共著	平成 19 年 5 月	Acoustic Imaging29	Nobuyuki Endoh, Takenobu Tsuchiya, Shou Oride, Kazuki Nagai and Sintarou Sugimura	
北極海での音波伝搬特性に氷の横波が与える影響	共著	平成 19 年 10 月	海洋音響学会誌 34	土屋健伸, 松本さゆり, 穴田哲夫, 遠藤信行	157-166 頁
超音波照射時の生体内温度上昇における擬似骨の影響のファントム実験とシミュレーションとの比較検討	共著	平成 20 年 2 月	日本超音波医学会誌 35, (2)	遠藤信行, 土屋健伸	173-181 頁
その他					
海底反射パルス波の FDTD 法を用いた推定波形と実測波形の比較	共著	平成 15 年 5 月	海洋音響学会講演論文集		
海底遷移層からの反射パルス波の時間領域差分法による推定	共著	平成 15 年 8 月	電子情報通信学会技術研究報告　US2003-13-18		
FDTD 法を用いた海洋音波伝搬の数値解析 (5) －海底遷移層が反射パルス波に与える影響について－	共著	平成 15 年 9 月	日本音響学会講演論文集		1127-1128 頁
MPI を用いた三次元 FDTD 法による音場解析	共著	平成 15 年 9 月	日本音響学会講演論文集		’1027-1028 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
浅海域音場解析のための後方散乱を考慮した放物型音波伝搬方程式	共著	平成 15 年 9 月	日本音響学会講演論文集		1129-1130 頁
FDTD 法による遷移層を有する浅海海底からの反射パルス波の推定	共著	平成 15 年 11 月	第 24 回超音波シンポジウム講演予稿集		279-280 頁
三次元 FDTD 法による空中超音波センサの音場解析	共著	平成 15 年 11 月	第 24 回超音波シンポジウム講演予稿集		’257-258 頁
三次元 FDTD 法を用いた湿度と温度による音場への影響の数値解析	共著	平成 16 年 1 月	電子情報通信学会技術研究報告　US2004-		
超音波照射による生体内の温度上昇の数値解析による基礎的検討	共著	平成 16 年 3 月	日本音響学会講演論文集		’917-918 頁
三次元 FDTD 法による空中超音波センサーの音場情解析 (1)-数値計算の基礎的検討-	共著	平成 16 年 3 月	日本音響学会講演論文集		’1105-1106 頁
放物型方程式を用いた水中音響レンズの水中音響特性	共著	平成 16 年 3 月	日本音響学会講演論文集		’1067-1068 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 46 年 7 月～現在に至る	日本超音波医学会会員
昭和 46 年 8 月～現在に至る	日本音響学会会員
昭和 56 年 4 月～現在に至る	電子情報通信学会会員
昭和 60 年 10 月～現在に至る	アメリカ音響学会会員
昭和 61 年～現在に至る	㈶電気通信普及財団（海外渡航旅費） 400 千円 （　）（研究代表者）
昭和 62 年 7 月～現在に至る	アメリカ超音波医学会会員
平成 2 年～現在に至る	（財）国際科学技術財団 日本国際賞（Japan Prize）候補者の推薦推薦者
平成 4 年 4 月～現在に至る	第 7 回世界超音波医学学術連合大会実行委員
平成 7 年 4 月～現在に至る	Scientific Editional Board of Ultrasound International
平成 7 年 5 月～現在に至る	海洋音響学会会員
平成 8 年 5 月～現在に至る	海洋音響学会平成 8 年度研究発表会実行委員委員長
平成 11 年 4 月～平成 16 年 3 月	㈳電子情報通信学会専門委員会委員
平成 13 年 5 月～平成 15 年 4 月	海洋音響学会会員
平成 13 年 5 月～平成 15 年 5 月	（社）日本音響学会会員
平成 13 年 5 月～平成 15 年 5 月	日本音響学会代議員
平成 13 年 5 月～平成 15 年 4 月	海洋音響学会理事
平成 14 年 1 月～平成 16 年 1 月	産業技術総合研究所　国際計量研究委員会音響超音波振動分科会委員
平成 14 年 4 月～平成 16 年 3 月	技術研究組合医療福祉機器研究所超音波治療システム委員会委員
平成 14 年 4 月～平成 16 年 4 月	AFSUM（アジア超音波医学学術連合大会）実行委員
平成 14 年 6 月～平成 16 年 5 月	（社）日本超音波医学会会員
平成 14 年 6 月～平成 16 年 5 月	日本超音波医学会機器と安全に関する委員会委員長
平成 14 年 6 月～平成 16 年 5 月	（社）日本超音波医学会理事

年月	内　　容
平成 14 年 6 月～平成 16 年 5 月	（社）日本超音波医学会機器と安全に関する委員会委員長
平成 14 年 12 月～平成 15 年 12 月	日本学術振興会　平成 15 年度科学研究補助金審査員審査委員
平成 15 年 4 月～平成 16 年 3 月	超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム論文委員
平成 15 年 5 月～平成 17 年 4 月	海洋音響学会会員
平成 15 年 5 月～平成 17 年 5 月	（社）日本音響学会会員
平成 15 年 5 月～平成 17 年 5 月	日本音響学会代議員
平成 15 年 5 月～平成 17 年 4 月	海洋音響学会副会長
平成 15 年 5 月～平成 17 年 4 月	海洋音響学会企画運営委員会委員長
平成 16 年 2 月～平成 18 年 2 月	産業技術総合研究所国際計量研究委員会音響超音波振動分科会委員
平成 16 年 4 月～平成 17 年 3 月	超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム論文委員
平成 16 年 4 月～平成 18 年 3 月	（受託研究）文部科学省「超音波照射時の生体内温度上昇の精密測定と数値解析法」(3,600 千円)
平成 16 年 4 月～平成 18 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 C) 3,600 千円 （安全性確認を目的とした超音波照射時の生体内温度上昇の精密測定と数値解析法）(研究代表者)
平成 16 年 5 月～平成 18 年 5 月	（社）日本音響学会会員
平成 16 年 6 月～平成 18 年 5 月	（社）日本超音波医学会会員
平成 16 年 6 月～平成 18 年 5 月	（社）日本超音波医学会理事
平成 16 年 6 月～平成 18 年 5 月	（社）日本超音波医学会機器と安全に関する委員会委員長
平成 16 年 6 月～平成 17 年 3 月	防衛庁技術研究本部外部評価委員
平成 17 年 4 月～平成 18 年 3 月	超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム運営委員
平成 17 年 4 月～平成 19 年 4 月	（受託研究）日本超音波医学会「生体安全性の確認を目的とした超音波熱作用による温度上昇の高精度予測数値解析法の開発」(2,150 千円)
平成 17 年 4 月～平成 19 年 3 月	（社）日本超音波医学会（研究開発班） 2,100 千円 （生体安全性の確認を目的とした超音波熱作用による温度上昇の高精度予測数値解析法の開発）(研究代表者)
平成 17 年 5 月～平成 19 年 5 月	海洋音響学会その他（副会長)
平成 17 年 5 月～平成 19 年 5 月	日本音響学会代議員
平成 17 年 5 月～平成 19 年 5 月	海洋音響学会副会長

年月	内　　容
平成 17 年 5 月～平成 19 年 5 月	海洋音響学会企画運営委員会委員長
平成 17 年 6 月～平成 18 年 3 月	防衛庁技術研究本部外部評価委員
平成 17 年 12 月～平成 18 年 3 月	（受託研究）NEC「FDTD の並列計算」(1,000 千円)
平成 18 年 4 月～平成 19 年 3 月	超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム運営委員
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	（受託研究）文部科学省「音響レンズの設計・開発」(3,600 千円)
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究C 一般 3,600 千円 （音響レンズを用いたカテーテル型超音波診断・治療用探触子開発の基礎研究）(研究代表者)
平成 18 年 6 月～平成 20 年 5 月	（社）日本超音波医学会その他（副会長)
平成 18 年 6 月～平成 20 年 5 月	（社）日本超音波医学会副理事長
平成 18 年 6 月～平成 19 年 5 月	（社）日本超音波医学会地方会運営委員長会委員長
平成 18 年 6 月～平成 20 年 5 月	（社）日本超音波医学会研究開発促進委員会委員長
平成 18 年 12 月～平成 19 年 3 月	（受託研究）NEC「FDTD による音波伝搬」(800 千円)
平成 19 年 4 月～平成 20 年 3 月	超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム運営委員
平成 19 年 5 月～平成 21 年 5 月	（社）日本音響学会その他（代議員)
平成 19 年 5 月～平成 21 年 5 月	海洋音響学会会員
平成 19 年 5 月～平成 21 年 5 月	（社）日本音響学会評議員
平成 19 年 5 月～平成 21 年 5 月	（社）日本音響学会代議員
平成 19 年 5 月～平成 21 年 5 月	海洋音響学会会長
平成 19 年 7 月～平成 19 年 9 月	日本学術振興会　平成 20 年度採用分日本学術振興会特別研究員の書面審査書面審査員
平成 20 年 2 月～平成 22 年 2 月	産業技術総合研究所国際計量研究委員会音響超音波振動分科会委員
平成 20 年 4 月～平成 22 年 3 月	（受託研究）文部科学省「カテーテル型超音波プローブ開発のための複合音響レンズの開発」(3,820 千円)
平成 20 年 4 月～平成 22 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究（C) 3,900 千円 （カテーテル型超音波プローブ開発のための複合音響レンズの開発）(研究代表者)
平成 20 年 5 月～平成 22 年 5 月	（社）日本超音波医学会会員
平成 20 年 5 月～平成 22 年 5 月	（社）日本超音波医学会副理事長
平成 20 年 5 月～平成 22 年 5 月	（社）日本超音波医学会学術集会委員会委員長

Ⅴ　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部電子情報フロンティア学科	職名 教授	氏名 大野　吉弘	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 14 年 4 月 1 日 ～現在に至る	授業科目：エネルギー工学：先年前期授業評価アンケート結果を受け、より学生が勉強するように補足資料の追加配布を増やした。また数年来実施している小テストは毎回実施し理解の程度を自覚するようにした。授業科目：システム数学：先年後期授業評価アンケート結果を受け、補足の配布資料のＰＣ演算方法をそっくりおさらいさせ理解と演算の習熟を図るようにした。
2　作成した教科書、教材 エネルギー変換工学 システム数学	 平成 15 年 4 月 平成 15 年 4 月	 エネルギー変換の授業に採用 システム工学（数学）の授業に使用、エクセルによるデータの整理方法とＣ－プログラミング演算におけるデータの授受についての資料の配布と演算の実施を行わせた
3　教育上の能力に関する大学等の評価 2008 年度前期後期授業評価アンケート結果	 平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	 授業科目：エネルギー工学：資料の配布によるエネルギー変換技術の歴史の理解と現在の技術との連関が理解でき、授業に若干の興味が高まったらしい。授業科目：システム数学：資料の配布と PC による実験データをもとにした演算の修得は学生の数学あるいはＰＣによる演算などの能力の涵養に有効であったという結果が得られた
4　実務の経験を有する者についての特記事項		 なし
5　その他		

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
燃料電池技術	共著	平成 18 年 10 月			
論文					
Temperature Dependence of Hall Coefficient of LaSrMnO3	共著	平成 16 年	Trans.,of the Mater.Res.,Soc.,of Japan29,（5）	S.Yoneda,Y.Ohno	2125-2127 頁
Improved Thermoelectric Properties in Structure Controlled Ag-sb-Te System	共著	平成 16 年	電　　学論.A.No.124/4124,（4）	米田征司、大野吉弘	312-316 頁
Thermoelectric Properties of Solidified PbTe Doped with AgSbTe2	共著	平成 17 年	Trans.of Materials Research Society of Japan	S.Yoneda, Y.Ohno,Y.Isoda,Y.Imai,Y.Shinohara	
Stochastic Approach for the Analysis of PEFC Behavior.	共著	平成 17 年 7 月	3rd EUROPEAN PEFC FORUM	S.Yoneda	
固体酸化物形燃料電池構成材料の熱膨張特性	共著	平成 18 年	ざいりょうの科学と工学 Vol.43.No.4,pp.187-193	米田征司	
その他					
Temperature Dependence of Hall Coefficient fo LaSrMnO3	共著	平成 15 年	IU-MRS	S.Yoneda,Y.Ohno	
Bi-Te 系熱電発電モデュールの発電特性	共著	平成 15 年	熱電変換シンポジウム論文集	増田隆信、淡中伸介、関義則、菊地佑一、田辺雅和、米田征司、大野吉弘	
P 形 PbSnTe の熱特性	共著	平成 15 年	熱電変換シンポジウム論文集	増田隆信、淡中伸介、関義則、菊地佑一、米田征司、大野吉弘	
燃料電池の電極反応に関する確率論的考察ー SOFC について　ー	共著	平成 16 年 3 月	電気学会全国大会	関義則、菊地佑一、淡中伸介、増田隆信、米田征司、大野吉弘	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
インバータ電源のローカル系統安定度への影響についての検討	共著	平成 16 年 3 月	電気学会全国大会	淡中伸介、菊地佑一、関義則、増田隆信、米田征司、大野吉弘	
高性能化熱電変換発電システムの設計と考察	共著	平成 16 年 3 月	電気学会全国大会	増田隆信、板橋明久、菊地佑一、関義則、淡中伸介、米田征司、大野吉弘	
10 セル型 PEFC のインピーダンス変化の考察	共著	平成 16 年 3 月	電気学会全国大会	菊地佑一、関、義則、淡中伸介、増田隆信、米田征司、大野吉弘	
Fabrication and Evaluation of an Element for Thermoelectric Generating System	共著	平成 16 年 7 月	Proc.,23rd Intl.,Conf.,on Thermoelectrics	T.Masuda,Y.Kikuchi, Y.Seki,S.Tanaka, S.Yoneda,Y.Ohno	
Mathematical Model for Evaluating a Reaction Process of the SOFC.-Air Electrode and Electrolyte Interface-	共著	平成 16 年 7 月	6th European Solid Oxide Fuel CellForum	S.Yoneda,Y.Ohno	
テクニカルレクチャ：熱電変換システムのあらまし	共著	平成 16 年 8 月	金属 74,（8）	米田征司、大野吉弘	
カルコゲン系熱電変換発電システムの設計と考察	共著	平成 16 年 8 月	第１回日本熱電学会学術講演会	増田隆信、淡中伸介、関義則、菊地佑一、米田征司、大野吉弘	
PbTe 系熱電素子の作製	共著	平成 16 年 8 月	第１回日本熱電学会学術講演会論文集	増田隆信、淡中伸介、関義則、菊地佑一、米田征司、大野吉弘	
中温度域熱電発電モデュールの作製	共著	平成 17 年 12 月	電気学会、研究会	米田征司、佐藤允映、関翔一、大野吉弘、増田隆信	
10 セル PEFC スタックによる複素インピーダンス計測	共著	平成 18 年 3 月	電気学会全国大会	米田征司、佐藤允映、関翔一、大野吉弘	
10 セル PEFC スタックの静特性の検討	共著	平成 18 年 3 月	電気学会全国大会	関翔一、佐藤允映、米田征司、大野吉弘	
９分割した PEFC 単素子の各要素セルの電流分担	共著	平成 18 年 3 月	電気学会全国大会	佐藤允映、関翔一、米田征司、大野吉弘、佐藤元彦	
SPS 法を用いた PbSnTe 焼結体の作製	共著	平成 18 年 8 月	日本熱電学会学術講演会論文集	日景優一朗、佐藤允映、関翔一、米田征司、大野吉弘	
SPS 法による PBSnTe 焼結体の電気的特性に対する結晶粒径依存性	共著	平成 18 年 9 月	日本金属学会、２００６年秋期講演大会	日景優一朗、佐藤允映、関翔一、米田征司、大野吉弘	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Thermal Expansion Properties of Thermoelectric Generating Device Component	共著	平成 19 年 6 月			
FEM による PbTe 系熱電発電素子の熱応力解析	共著	平成 19 年 8 月			
PbTe 系熱電材料の熱膨張特性に及ぼす結晶粒径の影響	共著	平成 19 年 8 月			
Synthesis and Characterization of AgPb18SbTe20 doped with PbI2	共著	平成 19 年 9 月			
PbTe 系熱電素子の熱応力	共著	平成 19 年 9 月			
PbTe 系熱電素子の電極特性	共著	平成 19 年 11 月			
Study of Oxidation and Evaporation Behavior of PbTe Components by Using Thermal Analysis	共著	平成 19 年 12 月			
PbTe 系熱電材料の機械的特性	共著	平成 20 年 3 月			
PEFC の水素側小規模電極における定常電流分担	共著	平成 20 年 3 月			
PEFC の小規模電極における過渡現象	共著	平成 20 年 3 月			

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 42 年～現在に至る	アメリカ電気電子工学会（IEEE）会員
昭和 42 年～現在に至る	電気学会会員
昭和 59 年 4 月～現在に至る	電気学会コージェネレーションシステム調査専門委員会委員
昭和 62 年 9 月～現在に至る	電気学会燃料電池技術開発動向調査専門委員会委員
昭和 62 年 9 月～現在に至る	日本産業機械工業会 次世代高効率発電システムの石炭ガス利用フィージビリティ調査研究、燃料電池分科会委員
平成元年 7 月～現在に至る	国際エネルギー機関（IEA）固体電解質燃料電池専門家会議日本代表
平成元年 12 月～現在に至る	燃料協会 石炭ガス化燃料電池発電システム委員会委員長
平成 2 年 4 月～現在に至る	日本エネルギー学会会員
平成 2 年 7 月～現在に至る	国際エネルギー機関（IEA）固体電解質燃料電池ワークショップ並びに専門家会議日本代表
平成 3 年 1 月～現在に至る	固体イオニクス学会会員
平成 3 年 12 月～現在に至る	神奈川県エネルギー需給調査推進委員会委員
平成 4 年 4 月～現在に至る	日本機械学会シンポジウムオーガナイザー／座長
平成 4 年 8 月～現在に至る	ZirconiaⅤ（メルボルン）座長
平成 5 年 4 月～現在に至る	電気学会都市分散電源システム調査専門委員会委員
平成 5 年 4 月～現在に至る	電気学会学生部委員
平成 6 年 4 月～現在に至る	日本クリーンエネルギー研究所非常勤理事
平成 7 年 6 月～現在に至る	第 4 回 SOFC 国際シンポジウム座長／国内委員
平成 8 年 3 月～現在に至る	電気学会全国大会座長
平成 8 年 4 月～現在に至る	固体イオニクス学会幹事
平成 8 年 4 月～現在に至る	日本クリーンエネルギー研究所理事
平成 9 年 1 月～現在に至る	電気学会学生部委員
平成 9 年 8 月～現在に至る	電気学会 Intl.Conf.onEE 座長

年月	内　　容
平成 11 年 4 月～現在に至る	電気学会燃料電池発電次世代システム技術調査専門委員会委員
平成 12 年 1 月～現在に至る	日本エネルギー学会表彰委員会委員
平成 12 年 4 月～現在に至る	NEDO 産業技術実用化開発助成事業事前審査会評価委員
平成 12 年 4 月～現在に至る	省エネルギーセンター（技術）基準判断小委員会委員
平成 12 年 5 月～現在に至る	電気学会神奈川支所支所委員会委員
平成 13 年 4 月～現在に至る	総合資源エネルギー調査会臨時委員
平成 14 年 4 月～平成 20 年 3 月	電気学会燃料電池発電システム適用性評価調査専門委員会委員
平成 15 年 11 月～平成 16 年 3 月	（受託研究）東京電力「ローカル系統におけるインバータ電源の安定度に関する検討」（3,150 千円）
平成 15 年 12 月～平成 16 年 11 月	（受託研究）明電舎「固体高分子形燃料電池の開閉サージ特性の研究」
平成 17 年 11 月～平成 18 年 3 月	（受託研究）東京電力「負荷追従性特性を考慮した燃料電池のモデルに関する検討」（3,150 千円）
平成 18 年～平成 19 年 3 月	（受託研究）東京電力「配電系統内の直流分散型電源の数値計算のモデル化」（3,150 千円）
平成 19 年 3 月～現在に至る	電気学会電気学会全国大会座長
平成 19 年 9 月～平成 20 年 3 月	（受託研究）東京電力「インバータ電源（燃料電池）を導入した電力系統モデルの検討」（3,000 千円）

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部電子情報フロンティア学科	職名 教授	氏名 木下　宏揚	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
授業に関するアンケートの実施	平成 7 年 7 月 20 日 ～現在に至る	すべての期末試験の際に、当該科目の講義内容、講義方法、採点方法、試験内容などについてアンケートを実施して結果を次年度以降の授業に反映させている。(平成 7 年 7 月 20 日より継続)
小テストの実施	平成 11 年 4 月 8 日 ～現在に至る	電気回路Ⅰ,Ⅱ、および情報数学について学生の理解度をチェックするために毎時間講義終了間際に小テストを実施している。また講義開始時に前回の小テストの解説をおこなっている。(平成 11 年 4 月 8 日より継続)
WWW による授業サポート	平成 13 年 4 月 8 日 ～現在に至る	WWW を用いて、黒板に記載した内容など講義に関する情報を提供している。(平成 13 年 4 月 8 日より継続)
2　作成した教科書、教材		なし
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
Anonymous communication on IPv6 using RFC3041	共著	平成 15 年 7 月	3rd IASTED International Conference WIRESS AND OPTICAL COMMUNICATIONS	KINOSHITA Hirotsugu, MOCHIZUKI Hideto, MORIZUMI Tetsuya	pp.314-319 頁
An Electronic Money System based on Distributed Database	共著	平成 15 年 8 月	The 7th World Multiconference on Systemics, Cybernetics and InformaticsSCI2003,（VI）	KINOSHITA Hirotsugu, MOCHIZUKI Hideto, MORIZUMI Tetsuya	pp.333-338 頁
埋込みビット量と視覚的劣化を考慮した電子透かし	共著	平成 16 年 10 月	映像情報メディア学会誌 10 月号	沖原健一, 稲積泰宏, 木下宏揚	pp.1465-1467 頁
Covert Channel 分析評価のための Access Control Agent System の提案	共著	平成 17 年 3 月	日本セキュリティ・マネジメント学会誌 3 月号	森住哲也、牛頭靖幸、稲積泰宏、 木下宏揚	pp.30-43 頁
A Visible Watermark Method for Sample Image in Video Delivery	共著	平成 17 年 9 月	The First International Workshop on Image Media Quality and its ApplicationsIMQA2005	Kenichi Okihara, Yasuhiro Inazumi, and Hirotsugu Kinoshita	p22 頁
The Relationship between Human Memory and Image Resolution for Improving Accuracy of Image Retrieval	共著	平成 17 年 9 月	The First International Workshop on Image Media Quality and its ApplicationsIMQA2005	Masanori Nozawa, Yasuhiro Inazumi, Hirotsugu Kinoshita	P12 頁
有料放送のための画像特徴を考慮した可視型電子透かし	共著	平成 18 年 2 月	映像情報メディア学会誌 60,（2）	沖原健一, 稲積泰宏, 木下宏揚	pp.192-199 頁
インターネット社会のの情報漏えい・情報改ざんを防止するセキュリティモデルの提案	共著	平成 19 年 1 月	日本セキュリティ・マネジメント学会誌 1 月号	森住哲也、木下宏揚	
画像検索のためのパネルを用いたクエリ生成インタフェース	共著	平成 19 年 3 月	画像電子学会誌 3 月号	野沢理倫、稲積泰宏、木下宏揚	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
A network for copyright management and control of private information Possibility of Human Grid Computing for Artificial Intelligence Systems	共著	平成 20 年 8 月	The 2008 Symposium on Applications & the Internet The Workshop on ITeS: IT enabled Services (ITeS)SAINT ITeS	Hirotsugu KinoshitaTetsuya Morizumi	
その他					
情報フィルタと情報カプセルによる著作権・所有権保護システム	共著	平成 18 年 12 月	暗号と情報セキュリティシンポジウム SITE2006-12	山田孔太, 木下宏揚，森住哲也	pp43-50 頁
自己言及的な『社会と主観』の視点に於けるアクセス制御システム	共著	平成 18 年 12 月	信学技報 SITE2006-44	森住哲也, 木下宏揚	pp. 9-16 頁
エージェントベースの情報カプセルを用いたコンテンツ利用の利便性の向上	共著	平成 19 年 1 月	暗号と情報セキュリティシンポジウム SCIS2007	山田孔太，木下宏揚，森住哲也，稲積泰宏	pp.214 頁
ニュースサイトのコンテンツにおけるフォークソノミーによるタグ付けの解析	共著	平成 19 年 1 月	高梨健，木下宏揚，稲積泰宏信学技報 IN2006-156	高梨健，木下宏揚，稲積泰宏	pp.109-114 頁
エージェントベースの情報カプセルを用いたコンテンツ利用の利便性の向上	共著	平成 19 年 1 月	暗号と情報セキュリティシンポジウム	山田孔太，木下宏揚，森住哲也，稲積泰宏	pp214 頁
ルール空間におけるパケットフィルタリングのルール配置の最適化	共著	平成 19 年 1 月	暗号と情報セキュリティシンポジウム SCIS2007 3B3-5	山崎 朗, 木下 宏揚	
不確定な情報“ covert channel ”の直観主義論理による解釈と分析	共著	平成 19 年 7 月	信学技報 SITE2007-19	森住哲也，木下宏揚，辻井重男	pp. 65-70 頁
トピックマップを用いた非文字資料における Context の表現	共著	平成 19 年 12 月	信学技報 SITE2007-50	山下祐平, 木下宏揚, 森住哲也	pp. 33-38 頁
直観主義論理によるダイナミックなアクセス制御の記述	共著	平成 20 年 1 月	2008 年暗号と情報セキュリティシンポジウム 4B1-6	森住哲也，木下宏揚，辻井重男	
Context 表現のための手法の考察	共著	平成 20 年 7 月	信学技報 SITE2008-24	山下裕平, 森住哲也, 木下宏揚	103-108 頁

著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び 巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
多元社会の意味ネットにおける存在論と認識論の役割 ～ 社会システムのアクセス制御 agent の視点から～”		平成 20 年 7 月	信学技報 SITE2008-24		97-102 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 60 年 10 月～現在に至る	電子情報通信学会会員
平成 5 年 4 月～現在に至る	画像電子学会カラーファクシミリ検討会 WG 委員
平成 6 年 4 月～現在に至る	日本学術振興会第 159 委員会 WG 委員
平成 7 年 8 月～現在に至る	テレビジョン学会会員
平成 7 年 8 月～現在に至る	情報処理学会会員
平成 12 年 5 月～現在に至る	日本学術振興会第１５９委員会委員
平成 13 年 4 月～平成 16 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 (C)　3,400 千円 （キャンパスネットワークの情報コンテンツ保護と著作権制御に関する研究）（研究代表者）
平成 14 年 4 月～現在に至る	インターネット接続サービス安全・安心マーク推進協議会委員
平成 14 年 5 月～平成 16 年 4 月	電子情報通信学会技術と社会・倫理研究専門委員会幹事
平成 14 年 6 月～平成 15 年 5 月	電子情報通信学会技術と社会・倫理研究専門委員会幹事補佐
平成 15 年 6 月～平成 17 年 5 月	電子情報通信学会技術と社会・倫理研究専門委員会幹事
平成 16 年 5 月～平成 18 年 4 月	電子情報通信学会技術と社会・倫理研究専門委員会副委員長
平成 16 年 6 月～平成 18 年 5 月	電子情報通信学会技術と社会・倫理研究専門委員会副委員長
平成 17 年 4 月～平成 21 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 (C) 3,600 千円 （研究者の役に立つ著作権とセキュリティを考慮した知識の発見と流通に関する研究）（研究代表者）
平成 17 年 6 月～平成 18 年 5 月	電子情報通信学会基礎境界ソサエティ代議員
平成 18 年 5 月～平成 20 年 4 月	電子情報通信学会技術と社会・倫理研究専門委員会委員長
平成 18 年 6 月～平成 20 年 5 月	電子情報通信学会技術と社会・倫理研究専門委員会委員長
平成 18 年 8 月～平成 19 年 9 月	電子情報通信学会ネットワーク運用ガイドライン検討WGネットワーク運用領域分科会委員
平成 19 年 10 月～現在に至る	高等教育機関における情報セキュリティポリシー推進部会委員
平成 20 年 2 月～現在に至る	電子情報通信学会ネットワーク運用ガイドライン検討ワーキンググループ主査より活動業績に対して感謝状を授与
平成 20 年 3 月～平成 21 年 11 月	第 1 回プライバシー・セキュリティ国際会議　ＩＰＳＣ２００８実行委員会委員、管理委員会委員長
平成 20 年 5 月～現在に至る	電子情報通信学会技術と社会・倫理研究専門委員会顧問

Ⅴ　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部電子情報フロンティア学科	職名 教授	氏名 許　瑞邦	大学院における研究指導当 資格の有無　（㊒・無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 演習科目の実力向上	昭和 42 年 4 月 1 日 ～平成 21 年 3 月 31 日	４０年間に亘り電気磁気学演習を分担担当している。学生に電気磁気学の実際への適用法を理解させるために色々と工夫をしているが　現在では教科書での標準的な問題を徹底的に勉強させる事にしている．１．１０章分を２章毎に分けて５ラウンド構成にする。２．２週で２章分の演習と１週の実力試験を課す。演習で出来ない問題は宿題としている．３．採点は１ラウンド当たり２０点とし平常点を１０点、試験点を１０点に割り振っている．４．毎週　学生の取得総得点とその内容を表示して学生の勉強意欲を高めている．５．このシステム遂行上１５週の学習時間が必要となる．大学では１４週保証、１周分は補講で補っている．
学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 14 年 4 月 1 日 ～平成 21 年 3 月 31 日	２００２年度後期より始まった「学生による授業評価アンケート」を参考にして毎年授業の改善を試みている．特に　アンケートで以下の点が要望されたの各々で改善を試みている。　１．声が聞こえないーーーーーマイクの使用　２．黒板の字が小さいーーーーおおきくする、講義室の変更　３．黒板の字が読めないーーープリントの活用
2　作成した教科書、教材		なし
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
「マイクロ波シミュレータの基礎」	共著	平成 16 年 3 月	電子情報通信学会発行 山下榮吉監修第 11 章「分布定数回路の扱い方」		
論文					
Analysis of stripline T-junction with rectangular cut based on eigenmode expansion method and Foster-type equivalent network	共著	平成 15 年 6 月	2003 IEEE MTT-S DigestWE2D-4	Tetsuya TAKENAKA,Takaharu HIRAOKA, HSU,Jui-Pang	pp1111-1114 頁
Calculation and demonstration of dynamic behavior of time dependent electromagnetic field distribution in H-plane rectangular waveguide circuit	共著	平成 15 年 6 月	2003 IEEE MTT-S DigestIFTH-5	Takaharu HIRAOKA,HSU,Jui-Pang	pp2057-2060 頁
ストリップ線 45 度曲がりの解析と応用	共著	平成 15 年 9 月	電子情報通信学会技術研究報告［マイクロ波］ MW 2003-146	浜谷 一弘, 伊賀 泰一郎, 平岡 隆晴, 許 瑞邦	pp135-140 頁
ストリップ線 T 分岐回路のフォスタ型等価回路による解析一方形切り込み平面接合部固有モードに基づいてー	共著	平成 15 年 12 月	電子情報通信学会技術研究報告［マイクロ波］ MW 2003-215	竹中 哲也, 丸山 雄, 平岡 隆晴, 許 瑞邦	pp45-52 頁
Equivalent network for H-plane rectangular waveguide circuits and its practical application for analysis of circuit performance and field behavior	共著	平成 16 年 6 月	International Journal RF and Microwave Computer-Aided Engineering, Wiley Periodicals Inc.	Takaharu HIRAOKA, Jui-Pang HSU	210-226 頁
３次元光導波路不連続部の等価回路による解析　ー断面電磁界分布の連続性の検討ー	共著	平成 16 年 7 月	電子情報通信学会技術研究報告［マイクロ波］ MW2004-62	二瓶　善英, 堤　博久, 平岡　隆晴, 許　瑞邦	pp135-140 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Foster-type equivalent network for stripline 45 degrees bend based on calculation of eigenmode and its application	共著	平成 16 年 8 月	Proceeding of China-Japan Joint Meeting on Microwave 2004Passive circuits and devices A-1-10	Takaharu HIRAOKA, Kazuhiro HAMATANI, Jui-Pang HSU	33-36 頁
Analysis of stripline T-junction with wedge cut based on eigenmode expansion method and Foster-type equivalent network	共著	平成 16 年 12 月	Asia-Pacific Microwave conference 2004APMC/04/C/443	Takaharu HIRAOKA, Tetsuya TAKENAKA, Jui-Pang HSU	
「ストリップ線回路の等価回路に基づく理論的取り扱い　ー固有モード展開法の適用ー」	共著	平成 16 年 12 月	電子情報通信学会論文誌 CVol.J87-C No.12	許　瑞邦, 平岡　隆晴	pp992-1007 頁
Characterization of Stripline Circuit by Planar Circuit/Equivalent Network and Demonstration of its Validity by 1D, 2D and 3D Analysis for Practical Structures	共著	平成 17 年 6 月	2005 IEEE MTT-S International Microwave Symposium (IMS2005)WEPA-10	Jui-Pang Hsu, Takaharu Hiraoka, Takahiro Ogawa	
高周波回路解析ソフトおよび運用ソフトの開発の試み　ープラットフォームとソルバの開発ー	共著	平成 17 年 9 月	電子情報通信学会技術研究報告［マイクロ波シミュレータ］MST2005-01	許　瑞邦, 平岡　隆晴	
Analysis of Offset-Connected Rectangular Waveguide Discontinuity Based on Equivalent Network and Point Matching Method	共著	平成 17 年 10 月	2005 Korea-Japan Microwave Workshop	Kenichi Matsumoto, Takaharu Hiraoka, Hsu, Jui-Pang	
Calculation of Foster-type equivalent network for stripline 45 degrees bend based on novel calculation method of the eigenmode	共著	平成 17 年 10 月	The 35th European Microwave Conference (EuMC2005)EuMC18-1	Takaharu Hiraoka, Kazuhiro Hamatani, Jui-Pang Hsu	
Analysis of eigenmode for 3-D optical waveguide based on planar circuit equations and lateral equivalent network	共著	平成 17 年 12 月	2005 Asia-Pacific Microwave Conference ProceedingsP1.6	Manabu Inoue, Takaharu Hiraoka, Jui-Pang Hsu	338-341 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Equivalent network for H-plane rectangular waveguide circuit based on mode theory and its application for analysis of circuit performance with network theory	共著	平成17年12月	2005 Asia-Pacific Microwave Conference Proceedings,T1.10	Takaharu Hiraoka, Kenichi Matsumoto, Jui-Pang Hsu	pp736-739頁
Analysis of Propagation Eigenmode for Stripline based on Planar Circuit Equations and Lateral Equivalent Network	共著	平成18年6月	2006 IEEE MTT-S International Microwave Symposium (IMS2006)WEPA3	Akira Hirota, Takaharu Hiraoka, Jui-Pang Hsu	pp.1017-1020頁
Circuit analysis of four coupled rectangular-waveguide resonators based on mode corresponding equivalent network	共著	平成18年8月	2006 China-Japan Joint Microwave Conference (CJMW2006)F9-1	Takaharu Hiraoka, Takahiro Ogawa, Jui-Pang Hsu	pp.610-613頁
Calculation of Propagation Eigenmode for Stripline based on Lateral Equivalent Network	共著	平成18年8月	2006 China-Japan Joint Microwave Conference (CJMW2006)T3-5	Ding Kai, Akira Hirota, Takaharu Hiraoka, Jui-Pang Hsu	pp.51-54頁
伝送線路回路解析用ソフトと運用ソフトの開発 ―プラットフォームとソルバー―	共著	平成19年9月	電子情報通信学会技術研究報告［マイクロ波］MW2007-86	許　瑞邦, 平岡　隆晴	
Calculation of Characteristic Impedance for Strip-Line Based on Planar Circuit and Lateral Equivalent Network	共著	平成19年10月	37th Eupopean Microwave Conference 2007 (EuMC2007)EuMCPoster01-28	Kai DING, Takaharu HIRAOKA, Jui-Pang HSU	1365-1368頁
Calculation of Propagation Eigenmode for Stripline with Finite Thickness based on Equivalent Network along Horizontal or Vertical Direction	共著	平成19年11月	2007 Korea-Japan Microwave Conference (KJMW2007)TH02-3	Kai DING, Takaharu HIRAOKA, Jui-Pang HSU	33-36頁
Equivalent Network Approach for Field Analysis of 3-D Optical Waveguide Step Discontinuity and their Dynamic Behavior	共著	平成19年12月	2007 Asia-Pacific Microwave Conference (APMC2007)TH-P1-E5	Yasuhiro HASWEAWA, Manabu INOUE, Takaharu HIRAOKA, Jui-Pang HSU	925-928頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Analysis and Design of Double-mitered Right-angle Bend based on Planar Circuit Model and Rigorous Equivalent Network	共著	平成 19 年 12 月	2007 Asia-Pacific Microwave Conference (APMC2007)WE-P1-C3	Yasuhiro AKIMOTO, Takaharu HIRAOKA, Jui-Pang HSU	63-66 頁
Construction of Common Platform and Network Theory-Based Solver for Microwave Circuit Analysis - Practical Construction of 1-D Transmission Line Circuit-	共著	平成 20 年 9 月	2008 China Japan Joint Microwave Conference (CJMW2008)TA2-1	Jui-Pang HSU, Takaharu HIRAOKA, Yasuhiro AKIMOTO, Takahiro OGAWA	33-39 頁
Field Analysis of 3-D Optical Waveguide Step Discontinuity by Equivalent Network of Multi-Transmission Line and Multi-Port Ideal Transformer	共著	平成 20 年 9 月	2008 China Japan Joint Microwave Conference (CJMW2008)FA1-4	Yasuhiro HASEGAWA, Takaharu HIRAOKA, Jui-Pang HSU	318-322 頁
その他					
「くさび形切り込みストリップ線Ｔ分岐回路の周波数特性の計算－フォスタ型等価回路に基づいて－」	共著	平成 15 年 9 月	2003 年電子情報通信学会エレクトロニクスソサエティ大会 C-2-57		
「3 次元光導波路不連続部の等価回路による解析－断面電磁界分布の連続性の検討－」	共著	平成 15 年 9 月	2003 年電子情報通信学会エレクトロニクスソサイエティ大会 C-1-9		
「マイクロ波受動回路の基礎知識　－分布定数線路理論を中心に－」	共著	平成 16 年 5 月	マイクロ波シミュレータワークショップ第２部基礎講座		
「方形導波管位置ずれ不連続部の等価回路・点整合法による解析」	共著	平成 16 年 9 月	2004 年電子情報通信学会ソサイエティ大会 C-2-52 （徳島，2004．9）		
「フォスタ型等価回路によるストリップ線４５度曲がりの解析」	共著	平成 16 年 9 月	2004 年電子情報通信学会ソサイエティ大会 C-2-47 （徳島，2004．9）		
「方形導波管誘導性窓空洞共振器の等価回路による固有モード計算－多線条伝送線路・多開口理想変圧器－」	共著	平成 16 年 9 月	2004 年電子情報通信学会ソサイエティ大会 C-2-46 （徳島，2004．9）		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
「ストリップ線回路の平面回路理論およびモーメント法による解析－分岐線路型3dBハイブリッド回路について－」	共著	平成16年9月	2004年電子情報通信学会ソサイエティ大会 C-2-45（徳島，2004．9）		
「三次元光導波路の横方向等価回路による固有モード計算　－多層超薄膜構造への応用－」	共著	平成16年9月	2004年電子情報通信学会ソサイエティ大会 C-1-16（徳島，2004．9）		
「３次元光導波路不連続部の等価回路による解析　－断面電磁界分布のの連続性の検討－」	共著	平成16年9月	2004年電子情報通信学会ソサイエティ大会 C-1-15（徳島，2004.9）		
「方形導波管位置ずれ不連続部の固有モードによる解析」	共著	平成17年3月	2005年電子情報通信学会総合大会　C-2-79		
「ストリップ線異幅45度曲がりのフォスタ型等価回路による解析」	共著	平成17年3月	20０5年電子情報通信学会総会大会　Ｃ－2－78		
「三次元光導波路の横方向等価回路による固有－アクセスモード・ローカルモード分離によるー」	共著	平成17年3月	2005年電子情報通信学会総合大会　Ｃ－1－21		
方形導波管不連続部の等価回路による電磁界解析　－導波管位置ずれ不連続構造－	共著	平成17年9月	2005年電子情報通信学会ソサイエティ大会 C-2-105		
窓結合方形導波管空洞共振器の固有モードの等価回路による解析　-多線状伝送線路・多開口理想変圧器を用いて-	共著	平成17年9月	2005年電子情報通信学会ソサイエティ大会 C-2-104		
ストリップ線導波路の横方向等価回路に基づく固有モード解析	共著	平成17年9月	2005年電子情報通信学会ソサイエティ大会 C-2-88		
多段構成インピーダンス変換回路のストリップ線路での実現　―1次元・2次元・3次元解析―	共著	平成17年9月	2005年電子情報通信学会ソサイエティ大会 C-2-87		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
三次元光導波路の横方向等価回路による固有モード解析　-到達／局所モード分離の PMMA/MgF2 系構造への応用-	共著	平成 17 年 9 月	2005 年電子情報通信学会ソサイエティ大会 C-1-13		
H/NRD 導波路の多線条等価回路における回路定数の導出	共著	平成 17 年 9 月	2005 年電子情報通信学会ソサイエティ大会 C-1-12		
第 11 章『分布定数回路の扱い方』（理論・解析法・解析ソフト・プラットフォームによる表示）」	単著	平成 18 年 9 月	第１２回マイクロ波シミュレータワークショップおよび第３回講習会		
伝送線路回路解析ソルバと共通プラットフォームの開発		平成 18 年 12 月	マイクロウェーブ展 2006		
伝送線路回路解析ソルバと運用ソフトウェアの開発	共著	平成 19 年 3 月	2007 年電子情報通信学会総合大会 C-2-60	平岡　隆晴，許　瑞邦	
横方向等価回路に基づくストリップ線導波路の線路定数計算	共著	平成 19 年 3 月	2007 年電子情報通信学会総合大会 C-2-47	丁　凱，平岡　隆晴，許　瑞邦	
二重隅切直角曲がりの平面回路モデルと等価回路による解析と設計指針	共著	平成 19 年 9 月	2007 年電子情報通信学会ソサイエティ大会 C-2-82	秋本　泰宏，平岡　隆晴，許　瑞邦	
横方向等価回路に基づいた平行結合ストリップ線導波路の固有伝送モード解析	共著	平成 19 年 9 月	2007 年電子情報通信学会ソサイエティ大会 C-2-40	丁　凱，平岡　隆晴，許 瑞邦	
三次元光導波路不連続構造の等価回路による電磁界解析	共著	平成 19 年 9 月	2007 年電子情報通信学会ソサイエティ大会 C-1-17	長谷川　安洋，平岡　隆晴，許　瑞邦	
伝送線路回路・平面回路解析ソルバと共通プラットフォームの開発	共著	平成 19 年 11 月	マイクロウェーブ展 2007		
三次元光導波路ステップ型不連続部の電磁界解析　ー固有モード展開による横方向・伝搬方向等価回路に基づいてー	共著	平成 20 年 3 月	2008 年電子情報通信学会総合大会 C-3-44	長谷川　安洋，平岡　隆晴，許　瑞邦	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
45 度クランクの平面回路モデルと等価回路による解析	共著	平成 20 年 3 月	2008 年電子情報通信学会総合大会 C-2-48	秋本　泰宏，平岡　隆晴，許　瑞邦	
方形導波管直角曲がりの固有電流モードによる解析　-モードアドミタンス行列に基づく-	共著	平成 20 年 3 月	2008 年電子情報通信学会総合大会 C-2-47	平岡　隆晴，許　瑞邦	
各種ストリップ線 Y 分岐回路の平面回路モデルと等価回路による解析	共著	平成 20 年 9 月	2008 年電子情報通信学会ソサイエティ大会 C-2-52	秋本　泰宏，平岡　隆晴，許　瑞邦	
方形導波管中任意形状窓の等価並列インピーダンスの計算	共著	平成 20 年 9 月	2008 年電子情報通信学会ソサイエティ大会 C-1-2	小川　隆博，許　瑞邦	
三次元光導波路伝搬方向不連続構造の等価回路による電磁界解析	共著	平成 20 年 11 月	電子情報通信学会技術報告［マイクロ波]MW2008-	長谷川　安洋，平岡　隆晴，許　瑞邦	
平面回路解析用ソルバと共通プラットフォームの開発　―ストリップ線回路型平面回路―	共著	平成 20 年 11 月	電子情報通信学会技術報告［マイクロ波]MW2008-	平岡　隆晴，秋本　泰宏，小川　隆博，許　瑞邦	
45 度曲がりで構成される各種ストリップ線回路の解析	共著	平成 20 年 11 月	電子情報通信学会技術報告［マイクロ波]MW2008-	秋本　泰宏，平岡　隆晴，許　瑞邦	

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 37 年 4 月～現在に至る	電子情報通信学会会員
昭和 42 年 4 月～現在に至る	米国 IEEE 会員
昭和 57 年 4 月～現在に至る	電子情報通信学会査読委員
昭和 59 年 4 月～現在に至る	電子通信学会会員
平成 13 年 5 月～平成 15 年 5 月	電子情報通信学会マイクロ波研究専門委員会委員長
平成 15 年 1 月～平成 16 年 12 月	IEEE　MTT-S　Japan　Chapter 会員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部電子情報フロンティア学科	職名 教授	氏名 齊藤　隆弘	大学院における研究指導当 資格の有無　（㊒・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
卒業研究指導の工夫	平成 12 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 3 月 31 日	1999 年度以前は、卒業研究のために研究室に配属された学生（12 名程度）を一堂に集め、研究指導のための研究打合せ会を毎週行っていたが、この方法では学生の主体的な学習・研究活動を必ずしも十分に動機付けることができなかった。そこで、2000 年度より、学生のその卒業研究テーマの類似性から 3～4 グループに分け、グループごとに隔週でグループミーティングとインタビュー形式の研究指導を行う方式へと切り替えた。これにより、学生の学習・研究意欲や主体的な学習・研究姿勢を強く引き出すことができるようになった。
担当講義科目における講義方法の定常的な改善	平成 15 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 3 月 31 日	2002 年度までは、担当する学部の授業科目と演習科目は OHP を使用して行っていたが、2002 年度に行われた授業評価アンケートにより多くの学生から、教室が暗くノートが取り難い等の指摘を受けたため、2003 年度より担当するすべての授業科目と演習科目を板書を中心として進め、必要に応じて補助的教材をプリントとして配布することにし、授業運営の改善を行った。また、授業評価アンケートより、学生の授業参加の意欲が必ずしも十分でないことが読み取れたので、原則として、講義の最後の 15 分～20 分間は、その回の授業の内容に沿った小テストを実施するなどし、毎年、授業運営を前年度の反省を踏まえて、改善している。
授業記録実施記録の作成とその活用	平成 15 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 3 月 31 日	所属する学科の教育プログラムを 2004 年度に JABEE 申請するための準備として、2003 年度より、授業実施記録を授業後に直ちに記載する活動を個人的に開始し、毎回の授業の講義項目、問題点や次回に再度説明する必要のある事項などを記録している。この記録を翌年度の授業内容や授業運営の改善の基礎的データとして活用している。その結果、とくに学生の平常学習の動機付けを行うための授業運営法（宿題の課題の工夫など）が毎年少しずつ変わってきた。
大学院研究指導方法の改善	平成 18 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 3 月 31 日	本研究室（画像工学研究室）では 2006 年度より学外の研究機関との共同研究体制を強力に推進しており、大学院生には共同研究の一環として研究を行うよう指導している。大学院の研究打合せは毎週土曜日の午前から夕刻にかけて、本研究室にて、教員、大学院生、学外の共同研究者が参加して行っており、大学院生はこの会合に出席して毎週研究発表を行うことで、学習・研究意欲や研究能力が飛躍的に向上し、大きな教育的効果をあげつつある。
2　作成した教科書、教材		

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
「回路演習（旧カリ）」及び「ユニット演習 II（新カリ）」の教材作成	平成 9 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 3 月 31 日	1997 年度より、電気回路に関する演習科目で使用する 14 回の講義分の教材（その内容は、各回の講義が一つの章に対応し、各章は、回路学の基本的な事項のまとめ、基本的な例題とその解説、演習問題からなる。一つの章は B5 版両段組で 4～5 ページ程度）を作成し、次回の講義で使用する章を配布している。内容については、毎年、少しずつ加筆・改訂している。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 15 年 4 月 1 日 ～平成 21 年 3 月 31 日	2002 年度までは、担当する学部の授業科目と演習科目は OHP を使用して行っていたが、2002 年度に行われた授業評価アンケートにより多くの学生から、教室が暗くノートが取り難い等の指摘を受けたため、2003 年度より担当するすべての授業科目と演習科目を板書を中心として進め、必要に応じて補助的教材をプリントとして配布することにし、授業運営の改善を行った。また、授業評価アンケートより、学生の授業参加の意欲が必ずしも十分でないことが読み取れたので、原則として、講義の最後の 15 分～20 分間は、その回の授業の内容に沿った小テストを実施するなどし、毎年、授業運営を前年度の反省を踏まえて、改善している。
研究授業「ユニット演習 II（電気回路演習）」	平成 19 年 11 月 22 日	演習科目「ユニット演習 II（電気回路演習）」は４名の教員が４クラスを並列に担当する必須科目であり、４名の教員とともに研究授業を行い、本学部、本学科の他の教員に参観していただき、授業運営についての意見交換を行った。４名の教員はそれぞれ独自の授業運営を行っており、意見交換は授業運営を改善する上で大いに参考になった。
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		
電子情報通信学会教科書委員会委員としての活動	平成 12 年 2 月	電子情報通信学会教科書委員会委員として当該分野の新時代の学部レベルの教科書の企画案の策定に参画した。
大学院委員として専攻の教育研究活動の高度化を推進	平成 14 年 4 月 1 日 ～平成 18 年 3 月 31 日	大学院委員として、本専攻の教育研究活動の高度を推進した。この間、本専攻は、2004 年度から 5 年間、文部科学省ハイテクリサーチセンタープロジェクト研究助成を受け、本専攻の教育研究活動が顕著に活発化した。
学科内教育プログラム検討委員会委員として教育課程の改善活動に参画	平成 14 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 3 月 1 日	2002 年度より学科内に設置されている教育プログラム検討委員会委員として、教育課程の点検評価、改善活動に参画している。
学科主任として 2006 年度からの学科名称変更に伴う新教育課程の円滑な実施を主導	平成 18 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 3 月 31 日	2006 年度に学科名称を「電気電子情報工学科」から「電子情報フロンティア学科」へと変更し、新教育課程へと切り替えた。新教育課程が軌道に乗るよう、学科の教育課程の PDCA 活動を主導した。
大学院学務委員長として大学院の教育研究組織の改善活動に従事	平成 20 年 4 月 1 日	大学院学務委員長として、大学院の教育研究組織を、新しい時代に必要とされる組織へと変革するための施策について審議を推進し、組織の変革を早期に実現しうるよう改善活動を推進している。

II　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
Detection and repair of defects in range-and-color image data observed with a laser range scanner	共著	平成 15 年 7 月	Proc. SPIE Visual Commun. & Image Process. (VCIP 2003)5150	T. Saito, T. Komatsu, S. Sunaga, M. Hashiguchi	2122-2133 頁
3D image representation of buildings utilizing heterogeneous information for multimedia ambiance communication	共著	平成 15 年 7 月	Proc. SPIE Visual Commun. & Image Process. (VCIP 2003)5150	M. Toba, T. Saito, K. Aizawa, K. Mochizuki, T. Naemura, H. Harashima	1957-1965 頁
Color image sharpening based on collective time-evolution of simultaneous nonlinear reaction-diffusion	共著	平成 15 年 7 月	Proc. SPIE Visual Commun. & Image Process. (VCIP 2003)5150	T. Saito, J. Satsumabayashi, H. Harada, T. Komatsu	1359-1370 頁
Defect repair for range data observed with a laser range scanner	共著	平成 15 年 9 月	Proc. 2003 IEEE Int. Conf. Image Process. (ICIP 2003)	T. Saito, T. Komatsu, S. Sunaga, M. Hashiguchi	III1037-III1040 頁
Color image sharpening based on nonlinear reaction-diffusion	共著	平成 15 年 9 月	Proc. 2003 IEEE Int. Conf. Image Process. (ICIP 2003)	T. Saito, J. Satsumabayashi, H. Harada, T. Komatsu	III389-III392 頁
Motion de-blurring based on time-evolution of simultaneous nonlinear reaction-diffusion	共著	平成 16 年 1 月	Proc. SPIE/IS&T Electronic Imaging (EI 2004)5308	T. Saito, H. Harada, T. Komatsu	753-764 頁
Demosaicking for a color image sensor with removal of blur due to an optical low-pass filter	共著	平成 16 年 1 月	Proc. SPIE/IS&T Electronic Imaging (EI 2004)5301	T. Komatsu, T. Saito	334-345 頁
ディジタル画像処理による古い映像フィルムの修復とディジタルフィルムアーカイブの構築	単著	平成 16 年 3 月	年報　人類文化研究のための非文字資料の体系化 1		169-187 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Motion de-blurring by coupled nonlinear diffusion using an anisotropic peaking term	共著	平成 16 年 9 月	Proc. 4-th IASTED Int. Conf. Visualization, Imaging, and Image Processing	T. Saito, H. Harada, T. Komatsu	796-801 頁
Sharpening-demosaicking method for removal of image blurs caused by an optical low-pass filter	共著	平成 16 年 10 月	Proc. 2004 IEEE Int. Conf. Image Process. (ICIP 2004)	T. Komatsu, T. Saito	1237-1240 頁
Selective image sharpening by simultaneous nonlinear-diffusion process with spatially varying parameter presetting	共著	平成 16 年 11 月	Advances in Multimedia Information Processing, Lecture Notes in Computer Science, Speinger Verlag3332, (2)	T. Saito, S. Anyoji, T. Komatsu	841-848 頁
連立非線形拡散法によるカラー画像の選択的鮮鋭化	共著	平成 16 年 11 月	映像情報メディア学会誌 58,（11）	齊藤隆弘，原田寛之，薩摩林純，小松隆	1673-1679 頁
連立非線形拡散法の動きぼけ補正への拡張	共著	平成 16 年 12 月	映像情報メディア学会誌 58,（12）	齊藤隆弘，原田寛之，小松隆	1839-1844 頁
Motion de-blurring by coupled nonlinear diffusion with discrete calculus adaptive to a motion direction	共著	平成 17 年 1 月	Proc. SPIE/IS&T Electronic Imaging (EI 2005)5685	T. Saito, H. Harada, T. Komatsu	8101-8112 頁
Sharpening-demosaicking method with a total-variation-based super-resolution technique	共著	平成 17 年 1 月	Proc. SPIE/IS&T Electronic Imaging (EI 2005)5678	T. Saito, T. Komatsu	1801-1812 頁
Variational color transformation method for direct color imaging	共著	平成 17 年 1 月	Proc. SPIE/IS&T Electronic Imaging (EI 2005)5678	T. Saito, T. Komatsu	1001-1012 頁
光学的ローパスフィルタによるボケの復元機能を有するデモザイキング	共著	平成 17 年 3 月	映像情報メディア学会誌 59,（3）	齊藤隆弘，小松隆	407-414 頁
Model-based PDE method and model-free PDE method for motion de-blurring	共著	平成 17 年 7 月	Proc. SPIE Visual Commun. & Image Processing (VCIP 2005)5960	T. Saito, H. Harada, T. Komatsu	1798-1809 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
An adaptive video stabilization method for reducing visually induced motion sickness	共著	平成 17 年 9 月	Proc. 2005 IEEE Int. Conf. Image Process. (ICIP 2005)	I. Tsubaki, T. Morita, T Saito, K. Aizawa	III497-III500 頁
Super-resolution sharpening-demosaicking method for removing image blurs caused by an optical low-pass filter	共著	平成 17 年 9 月	Proc. 2005 IEEE Int. Conf. Image Process. (ICIP 2005)	T. Komatsu, T. Saito	I 845-I 848 頁
Super-resolution sharpening-demosaicking approach for a single solid-state image sensor	共著	平成 17 年 9 月	Proc. 1-st Int. Workshop on Image Media Quality and its Applications	T. Saito, T. Komatsu	97-102 頁
ぼけモデルを用いた動きぼけ補正	共著	平成 17 年 11 月	映像情報メディア学会誌 59,（11）	齊藤隆弘，原田寛之，佐野大志，小松隆	1714-1721 頁
Super-resolution sharpening-demosaicking with spatially adaptive total-variation image regularization	共著	平成 17 年 11 月	Advances in Multimedia Information Processing, Lecture Notes in Computer Science, Springer Verlag3767,（Part I）	T. Saito, T. Komatsu	246-236 頁
Robust global motion estimation in video stabilization for reducing visually induced motion sickness	共著	平成 18 年 1 月	Proc. SPIE-IS&T Electronic Imaging 2006 (EI 2006)6077	I. Tsubaki, T. Morita, K. Aizawa, T. Saito	60771X:1-60771X:12 頁
Spatially adaptive super-resolution sharpening-demosaicking for a single solid-state color image sensor	共著	平成 18 年 1 月	Proc. SPIE-IS&T Electronic Imaging 2006 (EI 2006)6069	T. Saito, T. Komatsu	606908:1-606908:12 頁
Image recovery for a direct color imaging approach using a color filter array	共著	平成 18 年 1 月	Proc. SPIE-IS&T Electronic Imaging 2006 (EI 2006)6069	T. Saito, T. Komatsu	606905:1-606905:12 頁
Coupled nonlinear-diffusion color image sharpening based on the chromaticity-brightness model	共著	平成 18 年 1 月	Proc. SPIE-IS&T Electronic Imaging 2006 (EI 2006)6077	R. Nosaka, T. Komatsu, T. Saito	60771H:1-60771H:12 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Separation of irradiance and reflectance from observed color images by logarithmical nonlinear diffusion process	共著	平成 18 年 1 月	Proc. SPIE-IS&T Electronic Imaging 2006 (EI 2006)6805	H. Takahashi, T. Komatsu, T. Saito	680511:1-680511:12 頁
手ぶれ映像に含まれる映像酔いを引き起こしやすい振動成分の解析	共著	平成 18 年 3 月	電子情報通信学会論文誌 AJ89-A,（3）	椿郁子、森田寿哉、相澤清晴、齊藤隆弘	262-267 頁
画像復元に基づいた自由視点画像の生成	共著	平成 18 年 3 月	O plus E, 新技術コミュニケーションズ 2006 年 3 月号	久保田彰、齊藤隆弘	254-257 頁
明滅による不快症状を防止するための映像変換手法	共著	平成 18 年 7 月	電子情報通信学会論文誌 DJ89-D,（7）	椿郁子、森田寿哉、相澤清晴、齊藤隆弘	1606-1609 頁
High-quality image interpolation based on multiplicative skeleton-texture separation	共著	平成 18 年 9 月	Proc. 14-th European Signal Process. Conf. (EUSIPCO 2006）, CD-ROM	T. Saito, Y. Ishii, Y. Nakagawa, T. Komatsu	1568979711.pdf 頁
Model-based robust variatinal method for motion de-blurring	共著	平成 18 年 9 月	Proc. 14-th European Signal Process. Conf. (EUSIPCO 2006）, CD-ROM	T. Saito, T. Sano, T. Komatsu	1568979710.pdf 頁
Image sharpening by coupled nonlinear-diffusion on the chromaticity-brightness color representation	共著	平成 18 年 9 月	Proc. 14-th European Signal Process. Conf. (EUSIPCO 2006）, CD-ROM	T. Saito, R. Nosaka, T. Komatsu	1568979709.pdf 頁
Color transformation and interpolation for a direct imaging with a color filter array	共著	平成 18 年 10 月	Proc. 2006 IEEE Int. Conf. Image Process. (ICIP 2006)	T. Komatsu, T. Saito	3301-3304 頁
Variational retinex algorithm with its application to a high-quality chroma key	共著	平成 18 年 10 月	Proc. 2006 IEEE Int. Conf. Image Process. (ICIP 2006)	H. Takahashi, T. Saito, T. Komatsu	977-980 頁
Adaptable image interpolation with skeleton-texture separation	共著	平成 18 年 10 月	Proc. 2006 IEEE Int. Conf. Image Process. (ICIP 2006)	T. Saito, Y. Ishii, Y. Nakagawa, T. Komatsu	681-684 頁
Super-resolution total-variation decoding of JPEG-compressed image data	共著	平成 19 年 1 月	Proc. SPIE-IS&T Electronic Imaging 2007 (EI 2007)6502	T. Saito, T. Komatsu	6502G:1-6502G:12 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Removal of signal-dependent noise for a digital camera	共著	平成 19 年 1 月	Proc. SPIE-IS&T Electronic Imaging 2007 (EI 2007)6502	T. Saito, Y. Ishii, R. Nosaka, T. Komatsu	6502E:1-6502E:12 頁
CMOS color image sensor with silicon photodiode and overlaid organic photoconductive layer having narrow absorption band	共著	平成 19 年 1 月	Proc. SPIE-IS&T Electronic Imaging 2007 (EI 2007)6502	S. Takada, M. Ihama, T. Komatsu, T. Saito	650207:1-650207:11 頁
Motion deblurring for suppression of breathing distortions caused by camera shake	共著	平成 19 年 1 月	Proc. SPIE-IS&T Electronic Imaging 2007 (EI 2007)6497	I. Tsubaki, T. Komatsu, T. Saito	649714:1-649714:8 頁
Suppression of time-varying motion blur caused by camera shake	共著	平成 19 年 3 月	Proc. 2nd International Workshop on Image Media Quality and Its Applications (IMQA 2007)	I. Tsubaki, T. Komatsu, T. Saito	24-27 頁
Nonlinear decomposition-and-denoising approach for removal of signal-dependent noise of a digital color camera	共著	平成 19 年 5 月	Proc. of SPIE Noise and Fluctuations 20076603	T. Saito, Y. Ishii, T. Komatsu	66031M:1-66031M:12 頁
実用化に向けた経年劣化シネマ映像のディジタル修復に関する検討	共著	平成 19 年 7 月	画像電子学会誌 36,（4）	武尾英哉、小松隆、齊藤隆弘	465-470 頁
乗算型骨格/テクスチャ画像分離の画像処理への応用	共著	平成 19 年 7 月	電子情報通信学会論文誌 DJ90-D,（7）	石井勇樹、中川陽介、小松隆、齊藤隆弘	1682-1685 頁
TV 正則化法を用いた JPEG 圧縮画像の超解像デコーディング	共著	平成 19 年 7 月	電子情報通信学会論文誌 DJ90-D,（7）	小松隆、齊藤隆弘	1671-1674 頁
A variational recovery method for virtual view synthesis	共著	平成 19 年 9 月	Proc. 2007 IEEE Int. Conf. on Image Processing (ICIP 2007)	A.Kubota, T. Saito	IV421-IV424 頁
Interframe motion deblurring using spatio-temporal regularization	共著	平成 19 年 9 月	2007 IEEE Int. Conf. on Image Processing (ICIP 2007)	I. Tsubaki, T. Komatsu, T. Saito	IV409-IV412 頁
Denoising via nonlinear image decomposition for a digital color camera	共著	平成 19 年 9 月	Proc. 2007 IEEE Int. Conf. on Image Processing (ICIP 2007)	Y. Ishii, T. Saito, T. Komatsu	.I309-I312 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Total-Variation 正則化を用いたシャープニング―デモザイキング法	共著	平成 19 年 11 月	映像情報メディア学会誌 61,（11）	小松隆、齊藤隆弘	1621-1632 頁
High-quality image interpolation via nonlinear image decomposition	共著	平成 20 年 1 月	Proc. SPIE-IS&T Electronic Imaging 2008 (EI 2008)6812	Takahiro Saito, Yuki Ishii, Haruya Aizawa, Takashi Komatsu	68120V:1-68120V:12 頁
Demosaicing method using the extended color total-variation regularization	共著	平成 20 年 1 月	Proc. SPIE-IS&T Electronic Imaging 2008 (EI 2008)6817	Takahiro Saito, Takashi Komatsu	68170C:1-68170C:12 頁
Noise suppression approach with the BV-L1 nonlinear image decomposition	共著	平成 20 年 1 月	Proc. SPIE-IS&T Electronic Imaging 2008 (EI 2008)6817	Takahiro Saito, Yuki Ishii, Haruya Aizawa, Takashi Komatsu	681709:1-681709:12 頁
サンプリング定理の壁を打ち破る： 一枚の画像からの超解像度オーバーサンプリング	単著	平成 20 年 2 月	映像情報メディア学会誌 62,（2）		181-189 頁
ディジタル映像アーカイブのための画像修復技術の研究開発	単著	平成 20 年 3 月	神奈川大学 21 世紀 COE プログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」研究推進会議非文字資料から人類文化へ―研究参画者論文集―		39-50 頁
Total-variation approach and wavelet shrinkage for color-image denoising with inter-cahnnel cross-correlations	共著	平成 20 年 3 月	Proc. IEEE Thrid Int. Symposium on Commun., Control and Signal Process. (ISCCS 2008)	Takahiro Saito, Takashi Komatsu	494-499 頁
色間相関を利用した新しい Wavelet Shrinkage 雑音除去法の提案	共著	平成 20 年 8 月	電子情報通信学会論文誌 DJ91-D,（8）	齊藤隆弘、小松隆	2005-2008 頁
色差と色和の TV を用いたカラー画像雑音除去法	共著	平成 20 年 8 月	電子情報通信学会論文誌 DJ91-D ,（8）	小松隆、齊藤隆弘	2002-2004 頁
TV-L1 非線形画像分解による信号依存性雑音の除去	共著	平成 20 年 8 月	電子情報通信学会論文誌 DJ91-D,（8 ）	相澤陽哉、石井勇樹、小松隆、齊藤隆弘	1998-2001 頁
乗算型 TV-G 画像分解に基づく画像拡大法	共著	平成 20 年 8 月	電子情報通信学会論文誌 DJ91-D,（8 ）	石井勇樹、相澤陽哉、小松隆、齊藤隆弘	1979-1982 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Spatially-adaptive wavelet denoising scheme with linear color shrinkage	共著	平成 20 年 8 月	Proc. 16th European Signal Processing Conference (EUSIPCO 2008), CD-ROM	Takahiro Saito, Nibuhiro Fujii, Shingo Yoshioka, and Takashi Komatsu	1569098800.pdf 頁
Nonlinear decomposition-and-demosicing approach for a digital color camera	共著	平成 20 年 8 月	Proc. 16th European Signal Processing Conference (EUSIPCO 2008), CD-ROM	Takahiro Saito, Yuki Ishii, Haruya Aizawa, Daisuke Yamada, and Takashi Komatsu	1569098794.pdf 頁
Image-processing approach via nonlinear image-decomposition for a digital color camera	共著	平成 20 年 10 月	Proc. of 2008 IEEE International Conference on Image Processing (ICIP 2008)	Takahiro Saito, Yuki Ishii, Haruya Aizawa, Daisuke Yamada, Takashi Komatsu	905-908 頁
Demosaicing approach baseed on extended color total-variation regularization	共著	平成 20 年 10 月	Proc. of 2008 IEEE International Conference on Image Processing (ICIP 2008)	Takahiro Saito, Takashi Komatsu	885-888 頁
Nonlinear color-image decomposition for image processing of a digital color camera	共著	平成 21 年 1 月	Proc. SIPE-IS&T, Electronic Imaging 2009 (EI 2009)7250	Takahiro Saito, Haruya Aizawa, Daisuke Yamada, Takashi Komatsu	72500R:1-72500R:12 頁
New architectures of an image-processing pipeline based on nonlinear image-decomposition	共著	平成 21 年 1 月	Proc. SPIE-IS&T Electronic Imaging 2009 (EI 2009)7250	Takahiro Saito, Daisuke Yamada, Haruya Aizawa, Takashi Komatsu	72500A:1-72500A:12 頁
Image-processing approach based on nonlinear image-decomposition	共著	平成 21 年 3 月	IEICE Trans. FundamentalsE92-A, (3)	Takahiro Saito, Takashi Komatsu	696-707 頁
その他					
複屈折式光学ローパスフィルタの特性を考慮したデモザイキングの一検討	共著	平成 15 年 8 月	映像情報メディア学会年次大会, 21-3	小松隆，齊藤隆弘	
フィルムブロッチの検出と補正についての実験的検討〜特徴量に基づくスクリーニング〜	共著	平成 15 年 8 月	映像情報メディア学会年次大会, 15-2	飯高一郎，小松隆，齊藤隆弘	
レーザレーダ観測データを利用した映像ポストプロダクション	共著	平成 15 年 8 月	映像情報メディア学会年次大会, 2-4	渡邊孝，小松隆，齊藤隆弘	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
輸送型インペイント・アルゴリズムを用いた3次元点群データ射影修復法によるレンジデータ欠損修復	共著	平成 15 年 8 月	映像情報メディア学会年次大会, 2-3	齊藤隆弘，須長信一，橋口正幸，小松隆	
A note on acquisition using RWB color filters for single image sensors	共著	平成 15 年 9 月	第 2 回 情報科学技術フォーラム, J-081	小松隆，齊藤隆弘	
屋外撮影映像のポストプロダクション	共著	平成 15 年 9 月	第 2 回 情報科学技術フォーラム, J-077	渡邊孝，小松隆，齊藤隆弘	
経年劣化映像の損傷修復アルゴリズムの定量的評価	共著	平成 15 年 9 月	第 2 回 情報科学技術フォーラム, J-050	飯高一郎，小松隆，齊藤隆弘	
連立非線形拡散時間発展方程式による動きボケの除去	共著	平成 15 年 9 月	第 2 回 情報科学技術フォーラム,J-049	原田寛之，小松隆，齊藤隆弘	
経年劣化映像の損傷検出・修復の定量的評価	共著	平成 15 年 11 月	映像メディア処理シンポジウム (IMPS2003), I-4.15	飯高一郎，小松隆，齊藤隆弘	
マルチスペクトル画像を用いたカラー画像入力方式の評価法の一検討	共著	平成 15 年 11 月	映像メディア処理シンポジウム (IMPS2003), I-3.02	小松隆，齊藤隆弘	
連立非線形拡散法による動きぼけを含む動画像の鮮鋭化	共著	平成 15 年 11 月	映像メディア処理シンポジウム (IMPS2003), I-2.16	原田寛之，小松隆，齊藤隆弘	
非線形時間発展方程式によるレンジデータの欠損修復	共著	平成 15 年 11 月	映像メディア処理シンポジウム (IMPS2003), I-2.15	橋口正幸，小松隆，齊藤隆弘	
奥行きデータを用いた映像ポストプロダクション	共著	平成 15 年 11 月	映像メディア処理シンポジウム (IMPS2003), I-2.06	渡邊孝，小松隆，齊藤隆弘	
非線形拡散による画像のマルチスケール表現とその特徴解析	共著	平成 15 年 11 月	映像メディア処理シンポジウム (IMPS2003), I-2.02	安養寺重光，小松隆，齊藤隆弘	
報告書：デモザイキング技術を用いた高精細なマルチバンドカラー画像入力方式に関する研究	共著	平成 16 年 3 月	放送文化基金助成・援助金，研究成果報告書	齊藤隆弘，小松隆	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
レンジデータ修復のためのインペイント・アルゴリズムの改良	共著	平成 16 年 3 月	電子情報通信学会 2004 年総合大会, D-11-145	橋口正幸，小松隆，齊藤隆弘	
パラメータ事前設定処理を付与した四軸型連立非線形拡散法による画像鮮鋭化	共著	平成 16 年 3 月	電子情報通信学会 2004 年総合大会, D-11-138	安養寺重光，小松隆，齊藤隆弘	
動きぼけ鮮鋭化のための連立非線形拡散法の実験的検討	共著	平成 16 年 3 月	電子情報通信学会 2004 年総合大会, D-11-91	原田寛之，小松隆，齊藤隆弘	
Foveon X3 撮像方式の一検討	共著	平成 16 年 3 月	電子情報通信学会 2004 年総合大会, D-11-69	小松隆，齊藤隆弘	
1 画素多色撮像方式の色分解性能の改善	共著	平成 16 年 8 月	映像情報メディア学会 2004 年年次大会, 19-8	小松隆，齊藤隆弘	
連立非線形拡散による動きぼけの〜動き方向に適応した離散化法〜	共著	平成 16 年 8 月	映像情報メディア学会 2004 年年次大会, 17-4	原田寛之，小松隆，齊藤隆弘	
連立非線形拡散プロセスに基づく領域適応型画像鮮鋭化	共著	平成 16 年 8 月	映像情報メディア学会 2004 年年次大会, 17-3	安養寺重光，小松隆，齊藤隆弘	
同一な画角条件下においてディスプレイサイズが映像酔いに及ぼす影響	共著	平成 16 年 8 月	映像情報メディア学会 2004 年年次大会, 8-4	繁桝博昭，原澤賢充，松嵜直幸，椿郁子，川島尊之，森田寿哉，伊藤崇之，齊藤隆弘，佐藤隆夫，相澤清晴	
映像酔いを引き起こしやすい映像のグローバルモーションの分析	共著	平成 16 年 8 月	映像情報メディア学会 2004 年年次大会, 8-3	椿郁子，松嵜直幸，繁桝博昭，原澤賢充，川島尊之，森田寿哉，伊藤崇之，齊藤隆弘，佐藤隆夫，相澤清晴	
映像酔いに及ぼす動き予測の影響	共著	平成 16 年 8 月	映像情報メディア学会 2004 年年次大会, 8-2	松嵜直幸，椿郁子，原澤賢充，繁桝博昭，川島尊之，森田寿哉，伊藤崇之，齊藤隆弘，佐藤隆夫，相澤清晴	
映像の縦揺れ時間周波数が映像酔いに及ぼす効果	共著	平成 16 年 8 月	映像情報メディア学会 2004 年年次大会, 8-1	原澤賢充，椿郁子，繁桝博昭，松嵜直幸，川島尊之，森田寿哉，伊藤崇之，齊藤隆弘，佐藤隆夫，相澤清晴	
映像ポストプロダクション利用のための領域分割に基づくレンジデータ補間法	共著	平成 16 年 9 月	第 3 回情報科学技術フォーラム, J-030	橋口正幸，小松隆，齊藤隆弘	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
連立非線形拡散法による動きぼけの鮮鋭化 -非等方性拡散と方向性ピーキングの導入-	共著	平成 16 年 9 月	第 3 回情報科学技術フォーラム, J-029	原田寛之，小松隆，齊藤隆弘	
画像鮮鋭化のための連立非線形拡散法の適応的パラメータ設定	共著	平成 16 年 9 月	第 3 回情報科学技術フォーラム, J-028	安養寺重光，小松隆，齊藤隆弘	
オーバーラップした分光感度を用いる 1 画素多色撮像方式のための RGB 原色生成	共著	平成 16 年 9 月	第 3 回情報科学技術フォーラム, J-024	小松隆，齊藤隆弘	
対数輝度の非線形拡散プロセスによる照明成分と反射率の分離推定	共著	平成 16 年 9 月	第 3 回情報科学技術フォーラム, J-019	高橋広美，小松隆，齊藤隆弘	
光感受性発作を軽減するための輝度変換手法の提案	共著	平成 16 年 11 月	映像メディア処理シンポジウム (IMPS2004), I-4.15	高華沙，椿郁子，相澤清晴，齊藤隆弘，森田寿哉	
領域分割を用いたインペイントアルゴリズムによるレンジデータ補間	共著	平成 16 年 11 月	映像メディア処理シンポジウム (IMPS2004), I-4. 09	橋口正幸，小松隆，齊藤隆弘	
超解像手法を用いたデモザイキング法の提案	共著	平成 16 年 11 月	映像メディア処理シンポジウム (IMPS2004), I-4.07	小松隆，齊藤隆弘	
動きぼけモデルを用いた時間発展プロセスによる動きぼけ鮮鋭化	共著	平成 16 年 11 月	映像メディア処理シンポジウム (IMPS2004), I-4.06	原田寛之，小松隆，齊藤隆弘	
映像酔いを軽減するための手持ちカメラ映像の補正手法の検討	共著	平成 16 年 11 月	映像メディア処理シンポジウム (IMPS2004), I-4.03	椿郁子，松嵜直幸，繁桝博昭，原澤賢充，川島尊之，森田寿哉，伊藤崇之，齊藤隆弘，佐藤隆夫，相澤清晴	
四軸型連立非線形拡散プロセスに基づくカラー画像の選択的鮮鋭化	共著	平成 16 年 11 月	映像メディア処理シンポジウム (IMPS2004), I-2.02	安養寺重光，小松隆，齊藤隆弘	
非線形拡散プロセスによる観測カラー画像からの照明成分と反射率の分離	共著	平成 16 年 11 月	映像メディア処理シンポジウム (IMPS2004), I-2.01	高橋広美，小松隆，齊藤隆弘	
輝度変換による光感受性発作を軽減するため手法の検討	共著	平成 16 年 12 月	映像情報メディア学会 2004 年冬季大会, 11-5	高華沙，椿郁子，相澤清晴，齊藤隆弘，森田寿哉	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
手ぶれ補正による映像酔いの軽減に関する検討	共著	平成 16 年 12 月	映像情報メディア学会 2004 年冬季大会, 11-4	椿郁子，松嵜直幸，繁桝博昭，原澤賢充，川島尊之，森田寿哉，伊藤崇之，齊藤隆弘，佐藤隆夫，相澤清晴	
映像の動きの視覚的手がかりが映像酔いに及ぼす効果	共著	平成 16 年 12 月	映像情報メディア学会 2004 年冬季大会, 11-3	松嵜直幸，椿郁子，原澤賢充，繁桝博昭，川島尊之，森田寿哉，伊藤崇之，齊藤隆弘，佐藤隆夫，相澤清晴	
縦揺れ映像の観察による映像酔い -背景の揺れと注視対象の揺れ-	共著	平成 16 年 12 月	映像情報メディア学会 2004 年冬季大会, 11-2	原澤賢充，椿郁子，繁桝博昭，松嵜直幸，川島尊之，森田寿哉，伊藤崇之，齊藤隆弘，佐藤隆夫，相澤清晴	
映像酔いを低減する付加的背景刺激の効果の検討	共著	平成 16 年 12 月	映像情報メディア学会 2004 年冬季大会, 11-1	繁桝博昭，原澤賢充，松嵜直幸，椿郁子，川島尊之，森田寿哉，伊藤崇之，齊藤隆弘，佐藤隆夫，相澤清晴	
報告書：不完全観測データからの高品質共有型リアル三次元映像空間表現の作成に関する研究	共著	平成 17 年 3 月	平成 15 年度～16 年度 文部科学省科学研究費補助金　基盤研究 (C), 研究成果報告書	齊藤隆弘，小松隆	
非線形拡散プロセスによる照明の補正	共著	平成 17 年 3 月	電子情報通信学会 2005 年総合大会, D-11-141	高橋広美，小松隆，齊藤隆弘	
ぼけモデルを用いた動きぼけ鮮鋭化	共著	平成 17 年 3 月	電子情報通信学会 2005 年総合大会, D-11-140	原田寛之，小松隆，齊藤隆弘	
カラーフィルタを併用した新しい Direct 撮像法の提案	共著	平成 17 年 3 月	電子情報通信学会 2005 年総合大会, D-11-68	小松隆，齊藤隆弘	
動きの予測しやすさによる映像酔いに関する映像の評価	共著	平成 17 年 3 月	電子情報通信学会 2005 年総合大会, DS-1-2	松嵜直幸，椿郁子，原澤賢充，繁桝博昭，川島尊之，森田寿哉，伊藤崇之，齊藤隆弘，佐藤隆夫，相澤清晴	
縦揺れ映像による酔い—背景の揺れと注視対象の揺れ—	共著	平成 17 年 5 月	第 1 回デジタルコンテンツシンポジウム, 1-8	原澤賢充, 椿郁子, 繁桝博昭, 松嵜直幸, 森田寿哉, 伊藤崇之, 齊藤隆弘, 佐藤隆夫, 相澤清晴	
光トポグラフィによる運動刺激検出時の脳活動の計測	共著	平成 17 年 7 月	日本視覚学会夏季大会, 2p3	原澤賢充, 小幡亜希子, 森田寿哉, 伊藤崇之, 齊藤隆弘, 佐藤隆夫, 相澤清晴	
映像の動きの加速度、頻度、持続時間と映像酔いとの関係	共著	平成 17 年 8 月	映像情報メディア学会年次大会, 21-4	松嵜直幸, 椿郁子, 原澤賢充, 繁桝博昭, 川島尊之, 森田寿哉, 伊藤崇之, 齊藤隆弘, 佐藤隆夫, 相澤清晴	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
映像の運動方向の変化が酔いに与える影響	共著	平成 17 年 8 月	映像情報メディア学会年次大会, 21-3	原澤賢充, 松嵜直幸, 繁桝博昭, 椿郁子, 森田寿哉, 伊藤崇之, 齊藤隆弘, 佐藤隆夫, 相澤清晴	
映像酔いにおいてディスプレイの実サイズが及ぼす影響	共著	平成 17 年 8 月	映像情報メディア学会年次大会, 21-2	繁桝博昭, 原澤賢充, 松嵜直幸, 椿郁子, 森田寿哉, 伊藤崇之, 齊藤隆弘, 佐藤隆夫, 相澤清晴	
単位球面上の連立非線形拡散を用いたカラー画像の鮮鋭化	共著	平成 17 年 8 月	映像情報メディア学会年次大会, 24-3	野坂玲奈, 小松隆, 齊藤隆弘	
局所適応型明度／色補正のための非線形拡散プロセス	共著	平成 17 年 8 月	映像情報メディア学会年次大会, 24-2	高橋広美, 小松隆, 齊藤隆弘	
対数輝度補正アルゴリズムによる画像フリッカ補正	共著	平成 17 年 8 月	映像情報メディア学会年次大会, 24-1	大貫崇英, 小松隆, 齊藤隆弘	
Total-Variation 正則化を用いた超解像度デモザイキング法の一検討	共著	平成 17 年 8 月	映像情報メディア学会年次大会, 8-5	小松隆，齊藤隆弘	
ベクトル選択型ブロックマッチング法	共著	平成 17 年 9 月	2005 年電子情報通信学会ソサイエティ大会, A-4-44	小松隆, 齊藤隆弘	
MDPE 法を用いたロバストなグローバルモーション推定	共著	平成 17 年 9 月	2005 年電子情報通信学会ソサイエティ大会, A-4-42	椿郁子, 小松隆, 齊藤隆弘	
対数輝度補正アルゴリズムを用いた画像フリッカ補正法 -ラプラシアンピラミッドによる高速化-	共著	平成 17 年 9 月	2005 年電子情報通信学会ソサイエティ大会, A-4-34	大貫崇英, 小松隆, 齊藤隆弘	
非線形拡散プロセスによる照度成分の分離推定	共著	平成 17 年 9 月	2005 年電子情報通信学会ソサイエティ大会, A-4-33	高橋広美, 小松隆, 齊藤隆弘	
明度/色度カラーモデルに基づくカラー画像の選択的鮮鋭化	共著	平成 17 年 9 月	2005 年電子情報通信学会ソサイエティ大会, A-4-32	野坂玲奈, 小松隆, 齊藤隆弘	
ハイブリッド撮像方式の検討―カラーフィルタ方式+ダイレクト撮像方式―	共著	平成 17 年 9 月	FIT2005 第 4 回情報科学技術フォーラム，J-005	小松隆, 齊藤隆弘	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
パネル討論：PCSJ/IMPSの役割と今後の研究課題	単著	平成 17 年 11 月	2005 画像符号化シンポジウム (PCSJ2005)/2005 映像メディア処理シンポジウム (IMPS2005)		
準同形型非線形フリッカ補正法とその高速化	共著	平成 17 年 11 月	映像メディア処理シンポジウム (IMPS2005), I-6.10	大貫崇英, 小松隆, 齊藤隆弘	
連立非線形拡散法の明度/色度カラーモデルへの拡張	共著	平成 17 年 11 月	映像メディア処理シンポジウム (IMPS2005), I-6.09	野坂玲奈, 小松隆, 齊藤隆弘	
ロバストなグローバルモーション推定を用いた手ぶれ補正	共著	平成 17 年 11 月	映像メディア処理シンポジウム (IMPS2005), I-5.03	椿郁子, 小松隆, 齊藤隆弘	
動き推定誤りにロバストな動きぼけ鮮鋭化の実験的検討	共著	平成 17 年 11 月	映像メディア処理シンポジウム (IMPS2005), I-4.12	佐野大志, 小松隆, 齊藤隆弘	
対数輝度からの骨格／テクスチャ分離とその応用	共著	平成 17 年 11 月	映像メディア処理シンポジウム (IMPS2005), I-4.11	中川陽介, 小松隆, 齊藤隆弘	
MDPE 法によるレンジデータからの対象物体の幾何学的特徴の抽出	共著	平成 17 年 11 月	映像メディア処理シンポジウム (IMPS2005), I-2.20	浅野佑己, 小松隆, 齊藤隆弘	
対数非線形拡散照度分離法による色補正のクロマキー合成への応用	共著	平成 17 年 11 月	映像メディア処理シンポジウム (IMPS2005), I-2.14	高橋広美, 小松隆, 齊藤隆弘	
Total-Variation 正則化を用いたシャープニング−デモザイキング法の画質改善	共著	平成 17 年 11 月	映像メディア処理シンポジウム (IMPS2005), I-2.13	小松隆, 齊藤隆弘	
特許取得：画像符号化方式	共著	平成 18 年 2 月	特許登録記事 3772185	太田善之、原島博、金子正秀、齊藤隆弘	
Invited lecture: color interpolation	単著	平成 18 年 2 月	IEEE 2006 Int. Solid-State Circuits Conference (ISSCC 2006), Color Imaging Forum		
照度分離による色補正とその性能比較	共著	平成 18 年 3 月	電子情報通信学会総合大会, D-11-105	高橋広美、小松隆、齊藤隆弘	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
連立非線形拡散のよる逐次型カラー画像鮮鋭化手法	共著	平成 18 年 3 月	電子情報通信学会総合大会, D-11-93	野坂玲奈、小松隆、齊藤隆弘	
骨格/テクスチャ分離に基づく画像拡大	共著	平成 18 年 3 月	電子情報通信学会総合大会, D-11-90	齊藤隆弘、石井勇樹、中川陽介、小松隆	
Direct 撮像方式のための色変換法の一検討	共著	平成 18 年 3 月	電子情報通信学会総合大会, D-11-54	小松隆、齊藤隆弘	
招待講演：高品質画像入力のための新しい画像処理パラダイム	単著	平成 18 年 7 月	映像情報メディア学会・次世代画像入力専門研究部会・第 1 回研究会		
巻頭言： インターネット時代の学会誌	単著	平成 18 年 8 月	映像情報メディア学会誌（巻頭）60,（8）		
非線形な輝度補正アルゴリズムによるフィルムフリッカ補正	共著	平成 18 年 8 月	映像情報メディア学会年次大会, 7-9	大貫崇英、小松隆、齊藤隆弘	
手ぶれ動画像のための動きぼけによるブリージングひずみの抑制	共著	平成 18 年 8 月	映像情報メディア学会年次大会, 7-8	椿郁子、小松隆、齊藤隆弘	
ハイブリッド撮像方式の色再現性能の評価	共著	平成 18 年 8 月	映像情報メディア学会年次大会, 7-7	小松隆、齊藤隆弘	
カラー画像の選択的鮮鋭化のための逐次画像処理	共著	平成 18 年 8 月	映像情報メディア学会年次大会, 7-6	野坂玲奈、小松隆、齊藤隆弘	
乗算型骨格/テクスチャ分離の拡張とその画像処理への応用	共著	平成 18 年 8 月	映像情報メディア学会年次大会, 5-8	石井勇樹、中川陽介、小松隆、齊藤隆弘	
画像の骨格/テクスチャの加算型分離と乗算型分離	共著	平成 18 年 9 月	電子情報通信学会ソサイエティ大会, A-4-2	石井勇樹、小松隆、齊藤隆弘	
TV 正則化を用いた Luminance 画像の生成法	共著	平成 18 年 9 月	電子情報通信学会ソサイエティ大会, A-4-1	小松隆、齊藤隆弘	
曲平面を含むレンジデータからの幾何学的構造の抽出	共著	平成 18 年 9 月	第 5 回情報科学技術フォーラム, J-062	浅野佑己、小松隆、齊藤隆弘	
TV 正則化法を用いた JPEG 圧縮画像の超解像復元法	共著	平成 18 年 9 月	第 5 回情報科学技術フォーラム, J-046	小松隆、齊藤隆弘	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
招待講演：高品質画像入力のための新しい画像処理パラダイム－フーリエ解析を超えた新しい画像処理の世界－	単著	平成 18 年 10 月	浜松地域知的クラスター創成事業・第 17 回イメージングセミナー		
乗算型骨格/テクスチャ分離に基づく画像拡大	共著	平成 18 年 11 月	映像メディア処理シンポジウム (IMPS2006), I6-09	石井勇樹、中川陽介、小松隆、齊藤隆弘	
画像の骨格/テクスチャ分離のための 変分モデルとその性能比較	共著	平成 18 年 11 月	, 映像メディア処理シンポジウム (IMPS2006), I5-03	石井勇樹、中川陽介、小松隆、齊藤隆弘	
経年劣化損傷にロバストな高速フリッカ補正法	共著	平成 18 年 11 月	映像メディア処理シンポジウム (IMPS2006), I4-10	大貫崇英、小松隆、齊藤隆弘	
局所的推定動き量を用いた動きぼけの補正	共著	平成 18 年 11 月	映像メディア処理シンポジウム (IMPS2006), I4-09	佐野大志、小松隆、齊藤隆弘	
手ぶれ映像のための動きぼけ補正	共著	平成 18 年 11 月	映像メディア処理シンポジウム (IMPS2006), I4-08	椿郁子、小松隆、齊藤隆弘	
乗算型骨格/テクスチャ分離の雑音耐性と画像雑音除去への応用	共著	平成 18 年 11 月	映像メディア処理シンポジウム (IMPS2006), I2-08	石井勇樹、中川陽介、小松隆、齊藤隆弘	
トレース形式の連立非線形拡散法による画像の雑音除去	共著	平成 18 年 11 月	映像メディア処理シンポジウム (IMPS2006), I2-07	野坂玲奈、小松隆、齊藤隆弘	
TV 正則化法による超解像 JPEG デコーディング	共著	平成 18 年 11 月	画像符号化シンポジウム (PCSJ2006), P5-10	小松隆、齊藤隆弘	
（巻頭）トップは語る：坂内正夫 国立情報学研究所長に聞く	共著	平成 19 年 1 月	映像情報メディア学会誌（巻頭）61,（1）	坂内正夫、齊藤隆弘	1-9 頁
特許出願：固体撮像素子	共著	平成 19 年 1 月	特願 2007 － 016453	乾谷正史、高田俊二、齊藤隆弘、小松隆	
特許出願：画像処理装置および撮像装置	共著	平成 19 年 1 月	特願 2007 － 002655	齊藤隆弘、石井勇樹、渡辺伸之	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
経年劣化シネマ映像のディジタル修復に関する一検討　－　実用化に向けた高速化検討　－	共著	平成 19 年 3 月	動的画像処理実用化ワークショップ（ＤＩＡ 2007），O7-1	武尾英哉、齊藤隆弘	
招待講演：Total Variation と画像表現	単著	平成 19 年 3 月	映像情報メディア学会，講習会「H.264/AVC を超えられるか－映像符号化のブレイクスルー」		
経年劣化シネマ映像のディジタル修復に関する一検討	共著	平成 19 年 3 月	電子情報通信学会 2007 年総合大会，D-11-64	武尾英哉、小松隆、齊藤隆弘	
乗算型 BV-L1 分離に基づく画像雑音除去	共著	平成 19 年 3 月	電子情報通信学会 2007 年総合大会，D-11-17	相澤陽哉、石井勇樹、中川陽介、小松隆、齊藤隆弘	
TV 正則化 JPEG デコーディング法の性能比較	共著	平成 19 年 3 月	電子情報通信学会 2007 年総合大会，D-11-15	小松隆、齊藤隆弘	
乗算型 BV-G 分離に基づく画像拡大	共著	平成 19 年 3 月	電子情報通信学会 2007 年総合大会，D-11-14	相澤陽哉、石井勇樹、中川陽介、小松隆、齊藤隆弘	
特許出願：画像処理装置	共著	平成 19 年 6 月	特願 2007 － 166369	齊藤隆弘、石井勇樹、新垣英哉	
報告書：超高品質ディジタルシネマのためのヒューマンプロセッサ型撮像方式の研究	共著	平成 19 年 6 月	平成 17 年度～18 年度科学研究費補助金　基盤研究（C），研究成果報告書	齊藤隆弘、小松隆	
招待講演：ICT，人工知能，脳と視覚，そして画像処理	単著	平成 19 年 7 月	第 38 回神奈川大学産学交流講演会		
Application for United States Letters Patent: Noise Removal Device, Noise Removal Method, and Computer Readable Recording Medium	共著	平成 19 年 8 月	Application No. 2007-225840	Hideya Aragaki, Takahiro Saito, Takashi Komatsu	
特許出願：ノイズ除去装置，ノイズ除去方法及びノイズ除去プログラム	共著	平成 19 年 8 月	特願 2007 － 225840	新垣英哉、齊藤隆弘、小松隆	
BV-L1 非線形画像分解に基づく雑音抑制型の画像コントラスト強調	共著	平成 19 年 8 月	2007 年映像情報メディア学会年次大会，7-5	相澤陽哉、石井勇樹、小松隆、齊藤隆弘	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Total Variation 正則化を用いたデモザイキングの一検討	共著	平成 19 年 8 月	2007 年映像情報メディア学会年次大会，7-2	小松隆、齊藤隆弘	
ディジタルカメラ信号依存性雑音の非線形画像分解による特徴付けと除去	共著	平成 19 年 8 月	2007 年映像情報メディア学会年次大会，6-3	相澤陽哉、石井勇樹、小松隆、齊藤隆弘	
巻頭言：ICT 時代における学会の会員サービスとは	単著	平成 19 年 8 月	映像情報メディア学会誌（巻頭）61，(8)		
乗算型 TV-G 画像分離に基づく画像拡大とその客観的評価	共著	平成 19 年 9 月	電子情報通信学会 2007 年ソサイエティ大会，A-4-52	石井勇樹、小松隆、齊藤隆弘	
ディジタルカメラ信号依存性雑音の非線形画像分解によるモデル化と除去	共著	平成 19 年 9 月	電子情報通信学会 2007 年ソサイエティ大会，A-4-24	相澤陽哉、石井勇樹、小松隆、齊藤隆弘	
色差/色和の TV 正則化を用いた雑音除去法の一検討	共著	平成 19 年 9 月	電子情報通信学会 2007 年ソサイエティ大会，A-4-23	小松隆、齊藤隆弘	
特許出願：画像処理装置及び画像処理プログラム	共著	平成 19 年 11 月	特許出願 2007-303551	新垣英哉、齊藤隆弘、石井勇樹	
TV-L1 非線形画像分解による信号依存性雑音の除去	共著	平成 19 年 11 月	映像メディア処理シンポジウム (IMPS2007)，I4-15	相澤陽哉、石井勇樹、小松隆、齊藤隆弘	
色差と色和の TV を用いたカラー画像雑音除去法の検討	共著	平成 19 年 11 月	映像メディア処理シンポジウム (IMPS2007)，I3-02	小松隆、齊藤隆弘	
乗算型 TV-G 画像分解に基づく画像拡大法の定量的性能評価	共著	平成 19 年 11 月	映像メディア処理シンポジウム (IMPS2007)，I2-17	石井勇樹、小松隆、齊藤隆弘	
色相関を利用した新しい Wavelet Shrinkage 雑音除去法の提案	共著	平成 19 年 11 月	映像メディア処理シンポジウム (IMPS2007)，I2-16	齊藤隆弘、小松隆	
CFA モザイク画像の非線形画像分解とその応用	共著	平成 19 年 12 月	2007 年映像情報メディア学会冬季大会，4-8	石井勇樹、小松隆、齊藤隆弘	
（巻頭）トップは語る：原島博 超臨場感コミュニケーション産官学フォーラム会長に聞く	共著	平成 20 年 1 月	映像情報メディア学会誌（巻頭）62，(1)	原島 博、齊藤隆弘	1-9 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
特許出願：画像処理装置及び画像処理プログラム	共著	平成 20 年 3 月	特願 2008-53378	新垣英哉、齊藤隆弘、小松隆	
Telegraph 発散形式の連立非線形拡散法による画像の鮮鋭化	共著	平成 20 年 3 月		山田大介、小松隆、齊藤隆弘	
変換領域におけるカラー画像雑音除去のための Color Shrinkage 法	共著	平成 20 年 3 月	電子情報通信学会 2008 年総合大会，D-11-90	齊藤隆弘、小松隆	
線形 Color Shrinkage を用いた Wavelet 雑音除去法	共著	平成 20 年 3 月	電子情報通信学会 2008 年総合大会，D-11-89	藤井信宏、吉岡慎吾、小松隆、齊藤隆弘	
視覚の時空間特性を利用した雑音除去静止画像の新表示法	共著	平成 20 年 3 月	電子情報通信学会 2008 年総合大会，D-11-88	小松隆、齊藤隆弘	
CFA モザイクカラー画像の非線形画像分解に基づく雑音抑制型デモザイキング法	共著	平成 20 年 3 月	電子情報通信学会 2008 年総合大会，D-11-85	石井勇樹、小松隆、齊藤隆弘	
TV-L1 非線形画像分解によるカラー画像の雑音除去	共著	平成 20 年 3 月	電子情報通信学会 2008 年総合大会，D-11-84	相澤陽哉、石井勇樹、小松隆、齊藤隆弘	
ディジタル映像アーカイブのための経年劣化シネマ映像の修復の検討	共著	平成 20 年 3 月	電子情報通信学会 2008 年総合大会，D-11-72	武尾英哉、小松隆、齊藤隆弘	
《招待講演》（チュートリアル）Total Variation 正則化の画像処理への応用	単著	平成 20 年 3 月	情報処理学会 オーディオビジュアル複合情報処理（AVM）研究会		
《招待講演》画像処理の新パラダイムとその応用	単著	平成 20 年 4 月	ソニー講演会		
《招待講演》骨格/テクスチャ非線形画像分解とイメージング IP パイプライン高度化への応用　－　画像品質の自在コントロールを目指して　－	単著	平成 20 年 6 月	自然科学研究機構生理学研究所研究会「視知覚研究の融合を目指して－生理、心理物理、計算論」		
特許出願：成分抽出補正装置、成分抽出補正方法、成分抽出補正プログラム、又は電子機器	共著	平成 20 年 7 月	特願 2008-196814	新垣英哉、齊藤隆弘	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
《招待講演》骨格/テクスチャ非線形画像分解とイメージング IP パイプライン高度化	単著	平成 20 年 7 月	日本工業技術振興会・次世代画像入力ビジョンシステム部会・第 119 回定例会		
特許出願: ノイズ除去装置、ノイズ除去方法及びノイズ除去プログラム	共著	平成 20 年 8 月	特願 2008-222369	新垣英哉、齊藤隆弘、小松隆	
画像符号化・映像メディア処理レター特集の発行にあたって	単著	平成 20 年 8 月	電子情報通信学会論文誌 DJ91-D,（8）		1931-1931 頁
DSC のための非線形画像分解に基づく新 IP パイプライン	共著	平成 20 年 8 月	2008 年映像情報メディア学会年次大会， 7-4	山田大介、相澤陽哉、小松隆、齊藤隆弘	
L1 − L2 Color Shrinkage を用いた適応的画像雑音除去	共著	平成 20 年 8 月	2008 年映像情報メディア学会年次大会， 7-3	藤井信宏、遠藤圭亮、小松隆、齊藤隆弘	
３色／４色 CFA 用線形デモザイキングとその雑音耐性	共著	平成 20 年 8 月	2008 年映像情報メディア学会年次大会，1-4	堀川祐二、小松隆、齊藤隆弘	
カラーチャンネル間相関を考慮した非線形画像分解	共著	平成 20 年 8 月	2008 年映像情報メディア学会年次大会，1-3	相澤陽哉、山田大介、小松隆、齊藤隆弘	
多重解像度 TV 離散化を用いたカラー画像雑音除去	共著	平成 20 年 8 月	2008 年映像情報メディア学会年次大会，1-2	小松隆、齊藤隆弘	
色間相関を考慮した TV-L1 非線形画像分解	共著	平成 20 年 9 月	電子情報通信学会 2008 年ソサイエティ大会，A-4-18	相澤陽哉、山田大介、小松隆、齊藤隆弘	
L1-L2 Color Shrinkage と L2-L2 Color Shrinkage の雑音除去能力の比較	共著	平成 20 年 9 月	電子情報通信学会 2008 年ソサイエティ大会，A-4-17	藤井信宏、小松隆、齊藤隆弘	
TV 正則化を用いた Alleysson の線形デモザイキング法の改善	共著	平成 20 年 9 月	電子情報通信学会 2008 年ソサイエティ大会，A-4-16	小松隆、齊藤隆弘	
ディジタルカラーカメラのための 4 色 CFA 方式の色再現性の評価	共著	平成 20 年 9 月	電子情報通信学会 2008 年ソサイエティ大会，A-4-15	堀川祐二、小松隆、齊藤隆弘	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
加算型非線形画像分解を用いたディジタルカラーカメラ IP パイプライン	共著	平成 20 年 9 月	電子情報通信学会 2008 年ソサイエティ大会, A-4-12	山田大介、小松隆、齊藤隆弘	
多重解像度離散化を用いた BV-G 分解法の一検討	共著	平成 20 年 10 月	映像メディア処理シンポジウム (IMPS2008), I6-02	小松隆、齊藤隆弘	
4 色 CFA を用いたディジタル撮像方式の評価	共著	平成 20 年 10 月	映像メディア処理シンポジウム (IMPS2008), I6-01	堀川祐二、小松隆、齊藤隆弘	
雑音除去誤差の非線形画像分解による分析	共著	平成 20 年 10 月	映像メディア処理シンポジウム (IMPS2008), I4-02	遠藤圭亮、小松隆、齊藤隆弘	
色間相関を利用した非線形画像分解に基づくディジタルカメラ IP パイプライン	共著	平成 20 年 10 月	映像メディア処理シンポジウム (IMPS2008), I4-01	山田大介、小松隆、齊藤隆弘	
色間相関を考慮した非線形画像分解による雑音除去	共著	平成 20 年 10 月	映像メディア処理シンポジウム (IMPS2008), I2-02	相澤陽哉、山田大介、小松隆、齊藤隆弘	
Color Shrinkage を用いた適応的 Wavelet 雑音除去法の性能評価	共著	平成 20 年 10 月	映像メディア処理シンポジウム (IMPS2008), I2-01	藤井信宏、小松隆、齊藤隆弘	
色間相関を考慮した非線形画像分解法	共著	平成 20 年 10 月	映像メディア処理シンポジウム (IMPS2008), I1-03	齊藤隆弘、小松隆	
L1-L2 Color Shrinkage 及び L2-L2 Color Shrinkage を用いた Wavelet 変換領域でのカラー画像雑音除去法の性能比較	共著	平成 21 年 2 月	電子情報通信学会画像工学研究会, IEICE-IE-425	藤井信宏, 小松隆, 齊藤隆弘	
L1-L2　型反復 Color Shrinkage アルゴリズムの収束特性解析	共著	平成 21 年 3 月	電子情報通信学会 2009 年総合大会, D-11-98	藤井信宏, 小松隆, 齊藤隆弘	
一画面 DFT と局所的 DFT を併用した 4 色 CFA のデモザイキング法	共著	平成 21 年 3 月	電子情報通信学会 2009 年総合大会, D-11-97	堀川祐二, 小松隆, 齊藤隆弘	
不均一標本画像場のための偏微分近似作用素	共著	平成 21 年 3 月	電子情報通信学会 2009 年総合大会, D-11-96	齊藤隆弘, 小松隆	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
テクスチャ調整による DSC-IP パイプラインの画質調整	共著	平成 21 年 3 月	電子情報通信学会 2009 年総合大会, D-11-93	山田大介, 小松隆, 齊藤隆弘	
冗長 Haar-wavelet 変換を用いた新しい反復型画像ぼけ復元法	共著	平成 21 年 3 月	電子情報通信学会 2009 年総合大会	小松隆, 齊藤隆弘	
カラー雑音除去のための非線形カラー画像分解	共著	平成 21 年 3 月	電子情報通信学会 2009 年総合大会, D-11-50	相澤陽哉, 小松隆, 齊藤隆弘	
Color Shrinkage と冗長 DCT を用いたカラー画像の雑音除去法	共著	平成 21 年 3 月	電子情報通信学会 2009 年総合大会, D-11-49	上田康隆, 小松隆, 齊藤隆弘	
BV-G 非線形画像分解と構造類似指標を用いた雑音画像の分析	共著	平成 21 年 3 月	電子情報通信学会 2009 年総合大会, D-11-48	遠藤圭亮, 小松隆, 齊藤隆弘	

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 52 年 1 月～現在に至る	IEEE 会員
昭和 52 年 4 月～現在に至る	電子情報通信学会会員
昭和 59 年 4 月～現在に至る	電気学会会員
昭和 60 年 4 月～現在に至る	情報処理学会会員
昭和 60 年 4 月～現在に至る	日本 ME 学会会員
昭和 62 年 4 月～現在に至る	情報理論とその応用学会会員
平成 8 年 5 月～現在に至る	電子情報通信学会ソサイエティ論文誌編集委員会・査読委員
平成 9 年 1 月～現在に至る	映像情報メディア学会会員
平成 12 年 2 月～現在に至る	電子情報通信学会教科書委員会・委員
平成 12 年 5 月～平成 15 年 4 月	電子情報通信学会画像符号化シンポジウム・運営委員会・委員； 実行委員会・委員長
平成 15 年 4 月～平成 16 年 3 月	（受託研究）富士通研究所「画像品質エンハンスメント技術に関する研究」（500 千円）
平成 15 年 4 月～平成 16 年 3 月	（受託研究）東芝「情報源符号化に関する研究」（500 千円）
平成 15 年 4 月～平成 17 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 (C)(2) 3,800 千円 （不完全観測データからの高品質共有型リアル三次元映像空間表現の作成に関する研究）（研究代表者）
平成 15 年 4 月～平成 16 年 3 月	財団法人放送文化基金助成・援助金 1,000 千円 （デモザイキング技術を用いた高精細マルチバンドカラー画像入力方式に関する研究）（研究代表者）
平成 15 年 5 月～平成 18 年 4 月	電子情報通信学会画像符号化シンポジウム・運営委員会・副委員長
平成 15 年 5 月～現在に至る	特定非営利活動法人ディジタルシネマ・コンソーシアム理事
平成 15 年 11 月～平成 16 年 3 月	（受託研究）総務省情報通信政策局「映像が生体に与える悪影響を防止する技術」（1,000 千円）
平成 16 年 4 月～平成 17 年 3 月	（受託研究）東芝「情報源符号化に関する研究」（500 千円）
平成 16 年 4 月～平成 17 年 3 月	（受託研究）総務省情報通信政策局「映像が生体に与える悪影響を防止する技術」（400 千円）
平成 16 年 4 月～平成 21 年 3 月	文部科学省私立大学研究高度化推進事業（ハイテク・リサーチ・センター） 601,176 千円 （チップ上に広がる人間環境系を支える知能集積技術）（研究代表者）
平成 16 年 5 月～平成 17 年 4 月	映像情報メディア学会評議員

年月	内　　容
平成 16 年 5 月～現在に至る	デジタルシネマ実験推進協議会（財団法人テレコム先端技術研究支援センター）委員
平成 16 年 9 月～平成 16 年 12 月	（受託研究）ＬＧ電子「PDP に応用できる動き検出方式とその最適化」（200 千円）
平成 17 年 4 月～平成 18 年 3 月	（受託研究）富士写真フィルム「ダイレクトイメージング撮像素子の性能評価」（1,000 千円）
平成 17 年 4 月～平成 18 年 3 月	（受託研究）総務省情報通信政策局「映像が生体に与える悪影響を防止する技術」（400 千円）
平成 17 年 4 月～平成 18 年 3 月	（受託研究）東芝「画像の高画質化に関する研究」（500 千円）
平成 17 年 4 月～平成 19 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究（C）一般 3,200 千円 （超高品質ディジタルシネマのためのヒューマンプロセッサ型撮像方式の研究）（研究代表者）
平成 17 年 6 月～平成 18 年 3 月	（受託研究）ＬＧ電子「TV 信号の Noise 除去と Sharpness 向上 Algorithm 開発」（500 千円）
平成 17 年 10 月～平成 18 年 3 月	（受託研究）ウインボンド・エレクトロニクス「イメージシグナルプロセッサー（ＩＳＰ）の画像処理技術の研究開発」（500 千円）
平成 18 年 1 月～現在に至る	International Picture Coding SymposiumInternational Sterring Committee Member
平成 18 年 4 月～平成 19 年 3 月	（受託研究）オリンパス「非線形拡散画像モデルに基づく高画質化処理の検討」（1,999 千円）
平成 18 年 4 月～平成 19 年 3 月	（受託研究）富士写真フィルム「ダイレクトイメージング撮像素子の性能評価」（1,000 千円）
平成 18 年 4 月～平成 19 年 3 月	（受託研究）ウインボンド・エレクトロニクス「イメージシグナルプロセッサー (ISP) の画像処理技術の研究開発」（1,000 千円）
平成 18 年 4 月～平成 19 年 3 月	（受託研究）東芝「画像の高画質化に関する基礎理論の検討・技術開発」（500 千円）
平成 18 年 5 月～現在に至る	電子情報通信学会画像符号化シンポジウム・運営委員会・委員長
平成 18 年 5 月～平成 20 年 5 月	映像情報メディア学会理事
平成 18 年 6 月～平成 20 年 6 月	映像情報メディア学会編集長
平成 18 年 9 月～平成 19 年 7 月	電子情報通信学会「画像符号化・映像メディア処理」レター特集号・編集委員長
平成 19 年 2 月～現在に至る	総務省「情報通信技術の研究開発の評価に関する会合」評価会構成員
平成 19 年 3 月～現在に至る	IEEEIEEE 2012 ICASSP，基調講演担当議長
平成 19 年 4 月～平成 20 年 3 月	（受託研究）株式会社　東芝　研究開発センター「画像の高画質化に関する技術開発」（500 千円）
平成 19 年 4 月～平成 20 年 3 月	（国内共同研究）オリンパス　株式会社「非線形画像分解モデルに基づく高画質化処理の検討」（4,000 千円）
平成 19 年 4 月～平成 21 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 (C) 一般 3,300 千円 （新画像分解表現理論とその超高品質ディジタルシネマ撮影用の高画質化処理への展開）（研究代表者）
平成 19 年 5 月～現在に至る	電子情報通信学会電子情報通信学会ハンドブック/知識ベース委員会　編主任（2 群 1 編 画像処理）

年月	内　　容
平成 19 年 8 月～現在に至る	映像情報メディア学会映像情報メディア工学総合大事典　編集委員会幹事長　及び基礎編　編幹事長
平成 19 年 10 月～平成 20 年 8 月	電子情報通信学会「画像符号化・映像メディア処理」レター特集号・編集委員長
平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月	（受託研究）オリンパス株式会社「非線形画像分解モデルに基づく高画質化処理の検討」（4,000 千円）

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部電子情報フロンティア学科	職名 教授	氏名 島　健	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 授業用パワーポイント資料の公開	平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 21 年 3 月 31 日	授業で用いるパワーポイント資料をホームページにて公開。履修学生に対して予習復習ができるようにした。公開科目は電子回路基礎、電子回路 II、集積回路工学の 3 科目。板書の字が小さく見ずらいとのアンケート結果や研究授業での他の先生の講義法を参考に、パワーポイント資料を利用することとしたが、ホームページ上で電子データを公開することで、履修学生ばかりでなく、この分野を学ぶ人へ配慮した。
2　作成した教科書、教材 授業用パワーポイント資料	平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 21 年 3 月	授業内容に準拠したパワーポイント資料。科目は電子回路基礎、電子回路 II、集積回路工学の 3 科目。
3　教育上の能力に関する大学等の評価 2008 年度前期授業評価アンケート結果（FYS）	平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 9 月 30 日	（授業科目；FYS）授業運営に関して,「生徒が主体となって進んでいくよい授業であった」,「自分たちの意見が述べれるところが良かった」という肯定的感想のほか,「生徒どおしでの話し合いの場がすくない」,「先生の声が小さい」という改善点の指摘を受けた。
2008 年度前期授業評価アンケート結果（電子回路 II）	平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 9 月 30 日	（授業科目；電子回路 II）「全体的にまとまった授業でわかりやすかった」,「授業内容を WEB で見られる点がよかった」という肯定的感想や，再履修者より「昨年より丁寧な講義であった」という感想があった。一方で,「演習を増やしてほしい」,「小テストなどを使い具体的な説明がほしい」,「スライドが見えにくい」,「声が小さい」との指摘を受けた。
2008 年度前期授業評価アンケート結果（集積回路工学）	平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 9 月 30 日	（授業科目；集積回路工学）「授業で使用したスライドをホームページで見れるので復習しやすかった」,「わかりやすかった」,「スライドは見やすく理解しやすかった」,「専門書を紹介していて興味を持った」等の肯定的感想のほか,「板書を増やしてほしい」,「OHP の切り替えが早すぎる」,「ノートを構成しにくい」,「説明が抽象的で，例がほしい」,「スライドがわかりにくい」,「声が小さい」等の指摘を受けた。
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
5　その他		なし

II　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
電子回路の講義と演習	共著	平成 15 年 4 月	日新出版		
論文					
その他					
ΔΣ変換器用コンパレータに関する考察	共著	平成 15 年 4 月	電子情報通信学会第 16 回 回路とシステムワークショップ		
電流帰還型演算増巾器の入力段の一構成	共著	平成 15 年 10 月	電気学会電子回路研究会		
Low negative input impedance and offset reduced CMOS CFA	共著	平成 16 年 9 月	Proceedings of International conference on signals ans electronic systems 2004		103-106 頁
Tuning technique for realizing an ideal Gm-C integrator	単著	平成 17 年 10 月	2005 IEEJ Analog VLSI workshop,		AVLSIW05-31 頁
オフセットを低減したバンドギャップレファレンス回路	共著	平成 18 年 3 月	電子情報通信学会、総合全国大会		A-1-18 頁
Gm 回路の線形性改良に関する一考察	共著	平成 18 年 3 月	電子情報通信学会、総合全国大会		A-1-20 頁
ミラー容量に双対なインダクター回路の提案	単著	平成 18 年 3 月	電子情報通信学会、総合全国大会		A-1-19 頁
Simple and Efficient Gm Linearization Technique	共著	平成 18 年 9 月	Proceedings International Conference on Signals and Electronic Systems2	Nao Ota, Takeshi Shima	635-638 頁
Element multiplier Circuit for Large Passive Element Integratio n	共著	平成 18 年 11 月	電気学会 Proceedings IEEJ Analog VSLI Workshop	Kosuke Seki, Takeshi Shima	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
電流モードによるフィルターの一構成法	共著	平成 19 年 3 月	電子情報通信学会 2007 総合大会論文集、基礎・境界ソサイエティ	浦林浩司、島健	A-1-14 頁
Temperature Insensitive Current Reference Circuit using Standard CMOS Devices	単著	平成 19 年 8 月	Ｉ IEEEProc. iEEE MWSCAS/NEWCAS 2007		
Delta Sigma Modulator using Differentiators	共著	平成 19 年 11 月	IEEJProc. 2007 IEEJ INTERNATIONAL ANALOG VLSI WORKSHOP	Kazuaki Honnma	
差動対の線形化に関する一考察	共著	平成 20 年 3 月	電子情報通信学会 2008 総合大会論文集基礎・境界ソサイエティ、 A-1-37	広田一世	
電流モードラッチ回路によるコンパレータ回路の提案	共著	平成 20 年 3 月	電子情報通信学会 2008 総合大会論文集基礎・境界ソサイエティ、 A-1-1 8	斉　智司	
4 段リング発振器に関する一考察	共著	平成 20 年 3 月	電子情報通信学会 2008 総合大会論文集基礎・境界ソサイエティ、 A-1-19	草賀貴志	
Four-Stage Ring Oscillator for Quadrature Signal Generation	共著	平成 20 年 9 月	Proc. Int. Conf. on Signals and electronic systems,	Takashi Kusaga	89-92 頁
発振器の位相雑音耐性の簡易評価による回路設計検証	共著	平成 20 年 11 月	電気学会電子回路研究会	島健，草賀貴志	57-60 頁
ホールデッドカスコードリニアトランスコンダクタンスセルに関する一考察	共著	平成 21 年 1 月	電気学会電子回路研究会	池田伸幸，島健	67-70 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
～現在に至る	（国内共同研究）「脳型デバイスの研究」
昭和 53 年 4 月～現在に至る	日本・電子情報通信学会会員
昭和 62 年 6 月～現在に至る	米国・The Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc.(IEEE) 上級会員
平成元年 10 月～現在に至る	日本・日本神経回路学会会員
平成 4 年 4 月～現在に至る	日本・日本神経回路学会企画理事
平成 6 年 1 月～現在に至る	日本・応用物理学会会員
平成 7 年 4 月～現在に至る	日本・電気学会会員
平成 7 年 4 月～平成 16 年 3 月	日本・電気学会非線形問題調査専門委員
平成 8 年 5 月～現在に至る	日本・電子情報通信学会査読委員
平成 9 年 4 月～現在に至る	東北大学・脳型計算機のアーキテクチャに関する基礎的研究共同プロジェクト研究員
平成 12 年 4 月～現在に至る	電子情報通信学会査読委員
平成 14 年 2 月～平成 16 年 12 月	日本・電気学会アナログ電子回路の流通と再利用技術調査専門委員
平成 14 年 4 月～現在に至る	電気学会会員
平成 16 年 4 月～現在に至る	電気学会専門委員
平成 16 年 4 月～平成 19 年 3 月	日本・電気学会非線形電子回路の応用技術専門委員会委員
平成 16 年 4 月～平成 21 年 3 月	科学研究費補助金 私立大学学術研究高度化推進事業 20,000 千円 （チップ上に広がる人間環境系を支える知能集積技術）（研究分担者）
平成 17 年 1 月～平成 19 年 12 月	日本・電気学会・電子回路技術委員会・アナログ電子回路の設計支援技術調査専門委員会委員
平成 18 年 6 月～平成 21 年 5 月	電気学会　電子回路の実践的教育プログラム調査専門委員会委員
平成 18 年 6 月～平成 18 年 12 月	電子情報通信学会「Special Section on Analog Circuit Techniques and elated Topics」編集委員
平成 18 年 10 月～平成 19 年 6 月	電子情報通信学会「アナログ回路技術と Soc 向け混載技術に関する小特集」編集委員
平成 19 年 4 月～平成 22 年 3 月	電子情報通信学会英文論文誌Ｃ編集委員
平成 20 年 1 月～平成 22 年 12 月	電気学会アナログ電子回路の設計生産性向上技術調査専門委員会委員委員

Ⅴ　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部電子情報フロンティア学科	職名 教授	氏名 新中　新二	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
教育用サーボシステムの構築と系統的な制御工学教育	平成 10 年 4 月 1 日 ～現在に至る	制御工学の系統的教育を実施すべく、講義において教授した制御系設計理論の検証を、シミュレーションと実機実験により効率的に実施できる、パソコンと産業用実機からなる神奈川大学独自の教育用サーボシステムを構築した。これにより、理論による定性的理解、シミュレーションによる定量的理解、実機による実際的理解といった制御工学の総合的かつ実践的な理解を促すことが可能となった。平成 10 年度より本サーボシステムの利用を開始した。
2　作成した教科書、教材		
大学院教科書「適応アルゴリズム（離散と連続、真髄へのアプローチ）」の単著出版	平成 2 年 8 月 6 日 ～現在に至る	大学院生を対象として、適応制御、適応信号処理に共通して利用可能な適応アルゴリズムを体系的に解説した。本書は、平成 3 年 8 月に計測自動制御学会から優れた著作として同年度の著述省を受賞している。この受賞は、本書の貢献の始まりに過ぎず、出版依頼今日までの間、適応アルゴリズムのバイブル的書籍として、活用されている。
インターネット大学院教育のためのビデオ製作	平成 14 年 9 月 20 日 ～現在に至る	信州大学の要請を受け、インターネット大学院教育（1 学期分、制御工学特論Ⅰ）のためのビデオ製作した。本ビデオに従って履修することにより、適応制御システムのための同定アルゴリズムが独習できるようになっている。平成 14 年後期より稼働中である。
学部・大学院参考書「コントロールモータハンドブック」の共著出版	平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	制御用各種モータに関するハンドブックにおいて、センサレスベクトル制御に関して執筆。本書は、学部・大学院生に教育に利用。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
工学部ＦＤ委員会委員長	平成 18 年 4 月 1 日 ～平成 19 年 3 月 31 日	工学部では、教員の教育能力向上を目指し、ＦＤ委員会を中心に、ＦＤ活動を行っている。２年間、同委員会委員長として、教員の教育能力向上に尽力。
工学系大学教育（ＦＤ分科会）参加	平成 18 年 10 月	表記会合に、学科代表の１人として参加。
京都ＦＤ研究会参加	平成 19 年 3 月	毎年京都で開かれるＦＤ関係の研修会に、工学部ＦＤ委員会の代表として参加
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
		なし

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
5　その他		なし

II　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
コントロールモータハンドブック	共著	平成 20 年 4 月	日刊工業新聞社	仲田克之、他	335-343 頁
永久磁石同期モータのベクトル制御技術、下巻（センサレス駆動制御の真髄）	単著	平成 20 年 12 月	電波新聞社		
永久磁石同期モータのベクトル制御技術、上巻（原理から最先端まで）	単著	平成 20 年 12 月	電波新聞社		
システム設計のための基礎制御工学	単著	平成 21 年 2 月	コロナ社		
論文					
”突極形永久磁石同期モータの広範囲高効率運転のための鉄損を考慮した実用的最適電流指令法”	単著	平成 15 年 11 月	電気学会論文誌，Vol. 123-D, No. 11		1359-1370 頁
”永久磁石同期モータの最小次元D因子状態オブザーバとこれを用いたセンサレスベクトル制御法の提案”	単著	平成 15 年 12 月	電気学会論文誌，Vol. 123-D, No. 12		1446-1460 頁
”突極特性をもつハイブリッド界磁形同期モータの一般座標系上の動的モデリングとベクトルブロック線図”	単著	平成 16 年 3 月	電気学会論文誌，Vol. 124-D, No. 3		295-303 頁
”New Mirror-Phase Vector Control for Sensorless Drive of Permanent Magnet Synchronous Motor with Pole Saliency”	単著	平成 16 年 4 月	IEEE Trans. Industry Applications Vol. 40, No. 2		
突極形永久磁石同期モータのセンサレス駆動のための鏡相形ベクトル制御	単著	平成 16 年 5 月	計測自動制御学会論文集		536-545 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
非突極ハイブリッド界磁同期モータの高効率・広範囲運転のための電流制御法	共著	平成 16 年 6 月	電気学会論文誌		536-548 頁
単相電力における周期的時間平均量の簡易瞬時推定法と単相電力系統連系への応用	単著	平成 16 年 11 月	電気学会論文誌，Vol. 124-B, No. 11		pp.1327-1335 頁
４次同一次元状態オブザーバを利用したＰＭＳＭセンサレスベクトル制御への一般化積分形ＰＬＬ法の適用可能性	共著	平成 16 年 11 月	電気学会論文誌，Vol. 124-D, No. 11		1164-1165 頁
同期リラクタンスモータの動的数学モデルに関する一考察、モデル特性の簡易統一的解析	単著	平成 16 年 11 月	電気学会論文誌，Vol. 124-D, No. 11		1149-1154 頁
回転高周波電圧印加によるＳＰＭ同期モータの新初期位置推定法、磁束飽和現象を考慮した動的シミュレータによるアプローチ	共著	平成 16 年 11 月	電気学会論文誌		1094-1103 頁
１次制御対象に対する高次制御器の構造と設計、内部モデル制御器の新構造と新設計	単著	平成 17 年 1 月	電気学会論文誌，Vol. 125-D, No. 1		115-116 頁
写像法による単相信号の瞬時位相推定、ＤＦＴ法の一般化と実現	単著	平成 17 年 1 月	電気学会論文誌，Vol. 125-B, No. 1		29-38 頁
突極形永久磁石同期モータの高効率・広範囲運転のためのノルム指令形電流制御法	単著	平成 17 年 3 月	電気学会論文誌，Vol. 125-D, No. 3		212-220 頁
New D-State-Observer-Based Vector Control for Sensorless Drive of Permanent-Magnet Synchronous Motors	単著	平成 17 年 5 月	IEEE Trans. Industry Applications Vol. 41, No. 3		825-833 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
積分フィードバック形速度推定法併用の固定座標４次同一次元状態オブザーバによる PMSM の新センサレスベクトル制御法	共著	平成 17 年 8 月	電気学会論文誌，Vol. 125-D, No. 8		830-831 頁
外乱オブザーバを利用した SynRM センサレスベクトル制御への積分フィードバック形速度推定法の適用可能性	共著	平成 17 年 11 月	計測自動制御学会論文集, Vol. 41, No. 11		934-936 頁
永久磁石同期モータを利用したセンサレスベクトル制御駆動・トランスミッションレス電気自動車の開発	共著	平成 17 年 12 月	電気学会論文誌，Vol. 125-D, No. 12		1129-1139 頁
永久磁石同期モータ用センサレス起動・駆動のための電流比形ベクトル制御法、―　ミール法に立脚した有効無効電流のフィードバック制御　―	単著	平成 18 年 3 月	電気学会論文誌，Vol. 126-D, No. 3		225-236 頁
New Sensorless Vector Control Using Minimum-Order State-Observer in Stationary Reference Frame for Permanent-Magnet Synchronous Motors	単著	平成 18 年 4 月	IEEE Trans. Industrial ElectronicsVol. 53, No. 2, pp. 388-898		388-898 頁
自励式ハイブリッド界磁同期モータ、―　動的モデリング、ベクトルブロック線図、及び動的ベクトルシミュレータ　―	単著	平成 18 年 7 月	電気学会論文誌 Vol. 126-D, No. 7, pp. 971-982		971-982 頁
同期モータセンサレス駆動のためのD因子外乱オブザーバの存在、―　ゼロ位相遅れの新位相推定法　―	単著	平成 18 年 9 月	電気学会論文誌 Vol. 126-D, No. 9, pp. 1220-1226		1220-1226 頁
突極形永久磁石同期モータセンサレス駆動のための速応楕円形高周波電圧印加法の提案、―　高周波電流相関信号を入力とする一般化積分形 PLL 法による位相推定　―	単著	平成 18 年 11 月	電気学会論文誌 Vol. 126-D, No. 11, pp. 1572-1584		1572-1584 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
永久磁石同期モータセンサレスベクトル制御のための加速度を考慮した最小次元誘起電圧状態オブザーバの可能性	共著	平成 18 年 11 月	電気学会論文誌 Vol. 126-D, No. 11, pp. 1467-1478	齋藤洋治	1467-1478 頁
自励式ハイブリッド界磁同期モータ用動的ベクトルシミュレータの実機検証	単著	平成 18 年 11 月	電気学会論文誌 Vol. 126-D, No. 10, pp. 1413-1414		1413-1414 頁
A New Sensorless Drive System for Transmissionless EVs Using a Permanent-Magnet Synchronous Motor	共著	平成 19 年 5 月	The World Electric Vehicle Association JournalVol. 1	S. Shinnakaand S. Takeuchi	1-9 頁
永久磁石同期モータセンサレス駆動のための一般化D因子状態オブザーバの構築、－　回転子磁束高調波成分の同基本波成分推定値への影響　－	単著	平成 19 年 7 月	電気学会論文誌D 127-D		767-776 頁
突極形永久磁石同期モータセンサレス駆動のための一般化速応楕円形高周波電圧印加法と鏡相推定法、－　高周波電流楕円長軸追随を目指した汎用位相推定法　－	単著	平成 19 年 9 月	電気学会論文誌D 127-D		973-986 頁
ＰＭＳＭセンサレス駆動のためのモデルマッチング形位相推定法のパラメータ誤差起因・位相推定誤差に関する統一的解析と軌道指向形ベクトル制御法、－　拡張誘起電圧推定の場合　－	単著	平成 19 年 9 月	電気学会論文誌D 127-D		962-972 頁
ＰＭＳＭセンサレス駆動のためのモデルマッチング形位相推定法のパラメータ誤差起因・位相推定誤差に関する統一的解析と軌道指向形ベクトル制御法、－　回転子磁束推定・誘起電圧推定の場合　－	共著	平成 19 年 9 月	電気学会論文誌D 127-D	新中新二・佐野公亮	950-961 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
New Optimal Current Control Methods for Energy-Efficient and Wide Speed-Range Operation of Hybrid-Field Synchronous Motor	共著	平成 19 年 10 月	IEEE Trans. Industrial ElectronicsVol. 54, No. 5	T.Sagawa	pp. 2443-2450 頁
ＰＭＳＭセンサレス駆動のための力率位相形ベクトル制御法、－ モータパラメータ変動に低感度な準最適センサレス駆動制御 －	単著	平成 19 年 10 月	電気学会論文誌Ｄ Vol. 127, No. 10		pp. 1070-1080 頁
軌跡偏差を用いた二次元軌跡追従制御法	共著	平成 19 年 11 月	電気学会論文誌Ｄ Vol. 127, No. 11	91) 杉山祐太	pp. 1148-1156 頁
永久磁石同期モータセンサレス駆動のためのＤ因子状態オブザーバの推定速度に対する収束特性	単著	平成 20 年 1 月	電気学会論文誌Ｄ Vol. 128, No. 1		pp. 8-17 頁
A Robust Single-Phase PLL System with Stable and Fast Tracking	単著	平成 20 年 3 月	IEEE Trans. Industry ApplicationsVol. 44, No. 2		pp. 624-633 頁
永久磁石同期モータセンサレス駆動に使用される高周波電圧印加法のための位相誤差補償法	単著	平成 20 年 3 月	電気学会論文誌Ｄ Vol. 128, No. 3		pp. 351-352 頁
鉄損を有する永久磁石同期モータのためのベクトル制御系の新構造	単著	平成 20 年 3 月	電気学会論文誌Ｄ Vol. 128, No. 3		pp. 340-350 頁
A New Speed-Varying Ellipse Voltage Injection Method for Sensorless Drive of Permanent-Magnet Synchronous Motors With Pole Saliency , New PLL Method Using High-Frequency Current Component Multiplied Signal	単著	平成 20 年 5 月	IEEEIEEE Trans. Industry Applications		777-788 頁
突極形永久磁石同期モータセンサレス駆動のための一定直線形高周波電圧印加法の電流特性と鏡相推定法	単著	平成 20 年 5 月	電気学会電気学会論文誌Ｄ		588-600 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
同期リラクタンスモータの最小電流軌跡に関する一解析	単著	平成 20 年 9 月	電気学会電気学会論文誌D		1147-1148 頁
自励式ハイブリッド界磁同期モータの新初期位相推定法	共著	平成 20 年 10 月	電気学会電気学会論文誌D	矢代勇太	1228-1236 頁
永久磁石同期モータのセンサレス駆動のための高次応速帯域フィルタ形位相推定法、　定格負荷下でのゼロ速起動と極低速安定駆動をもたらす位相推定法	単著	平成 20 年 10 月	電気学会電気学会論文誌D		1163-1174 頁
鉄損を有する同期リラクタンスモータの最小総合損失のための最適電流軌跡	共著	平成 21 年 1 月	電気学会電気学会論文誌D	向井泰佑	117-118 頁
単相交流信号の基本波成分推定のためのD因子フィルタを用いた周波数追従形推定法	単著	平成 21 年 2 月	電気学会電気学会論文誌D		191-200 頁
ＰＭＳＭセンサレス駆動のための同一次元D因子状態オブザーバ、オブザーバゲインの新直接設計法	単著	平成 21 年 3 月	電気学会論文誌Ｄ電気学会論文誌Ｄ		267-280 頁
その他					
“ New“ Mirror-Phase Vector Control ”for Sensorless Drive of IPM Synchronous Motor ”	単著	平成 15 年 6 月	Proceedings of the 2003 IEEE International Electric Machines and Drives Conference		1875-1881 頁
”永久磁石同期モータを利用したセンサレスベクトル制御駆動･トランスミッションレス電気自動車の開発可能性”	単著	平成 15 年 8 月	平成１５年電気学会産業応用部門全国大会講演論文集Ⅱ		223-228 頁
”永久磁石同期モータの最小次元 D 因子状態オブザーバとこれを用いたセンサレスベクトル制御法の提案”	単著	平成 15 年 8 月	平成１５年電気学会産業応用部門全国大会講演論文集Ⅰ		571-574 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
”４次同一次元状態オブザーバを利用したＰＭＳＭセンサレスベクトル制御への一般化積分形ＰＬＬ法の適用可能性”	共著	平成 16 年	平成１６年電気学会全国大会講演論文集４		197-198 頁
”PMSM のための加速度項を含む最小次元・誘起電圧・状態オブザーバを用いたセンサレスベクトル制御法の実機実験”	共著	平成 16 年	平成１６年電気学会全国大会講演論文集４		195-196 頁
”誘導電動機の瞬時トルクの適応同定、――制御装置外部情報を用いた方法の一考察――”	共著	平成 16 年	平成１６年電気学会全国大会講演論文集５		178-179 頁
”誘導電流形ハイブリッド界磁同期モータの一般座標系上の動的モデリングとベクトルブロック線図”	単著	平成 16 年	平成１６年電気学会全国大会講演論文集５		143-144 頁
高効率永久磁石同期モータを利用したセンサレスベクトル制御駆動・トランスミッションレスＥＶの開発	共著	平成 16 年 5 月	計測自動制御学会・第４回制御部門大会資料		571-574 頁
高効率永久磁石同期モータを利用したセンサレスベクトル制御駆動・トランスミッションレス電気自動車の開発	共著	平成 16 年 9 月	平成１６年電気学会産業応用部門全国大会講演論文集２		411-414 頁
永久磁石同期電動機の制御技術	共著	平成 16 年 9 月	平成１６年電気学会産業応用部門全国大会講演論文集Ⅰ		107-112 頁
New“ D-State-Observer ” Based Sensorless Vector Control for Permanent Magnet Synchronous Motors	単著	平成 16 年 10 月	CD Conference Record of the 2004 IEEE Industrial Applications Conference (IAS 2004)		
積分フィードバック形速度推定法併用の固定座標４次同一次元状態オブザーバによるＰＭＳＭの新センサレスベクトル	共著	平成 17 年 3 月	平成１７年電気学会全国大会講演論文集４		242-243 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
永久磁石同期モータ用センサレススタータのための簡易ベクトル制御	単著	平成 17 年 3 月	平成１７年電気学会全国大会講演論文集４		240-241 頁
外乱オブザーバを利用したSynRM ベクトル制御への積分フィードバック形速度推定法の適用可能性	共著	平成 17 年 3 月	平成１７年電気学会全国大会講演論文集４		207-208 頁
New Dynamic Mathematical Model and New Dynamic Vector Simulators of Hybrid-Field Synchronous Motors	単著	平成 17 年 5 月	Proceedings of the 2005 IEEE International Electric Machines and Drives Conference (IEMDC 2005)		882-889 頁
New Optimal Current Control Methods for Energy-Efficient and Wide Speed-Range Operation of Hybrid-Field Synchronous Motor	共著	平成 17 年 5 月	Proceedings of the 2005 IEEE International Electric Machines and Drives Conference (IEMDC 2005)		535-542 頁
同期モータセンサレス駆動のための D 因子外乱オブザーバ	単著	平成 17 年 8 月	平成１７年電気学会産業応用部門全国大会講演論文集１		253-256 頁
Self-Excited Hybrid-Field Synchronous Motors, –New Dynamic Mathematical Model and New Dynamic Vector Simulators–	単著	平成 17 年 9 月	CD Proceedings of the 11th European Conference on Power Electronics and Applications (EPE 2005)		
突極形永久磁石同期モータセンサレス駆動のための速応楕円形高周波電圧印加法、― 高周波電流相関信号を入力とする一般化積分形 PLL 法による位相検出 ―	単著	平成 18 年 3 月	平成１８年電気学会全国大会講演論文集４		192-193 頁
A New Norm-Based Current Control Method for Energy-Efficient/Wide-Speed-Range Drive of Salient-Pole Permanent-Magnet Synchronous Motors	単著	平成 18 年 6 月	CD Proceedings of 37th Annual IEEE Power Electronics Specialists Conference (PESC06)		1340-1346 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
自励式ハイブリッド界磁同期モータの新初期位相推定法	共著	平成 18 年 8 月	平成１８年電気学会産業応用部門全国大会講演論文集 1	矢代勇太	545-548 頁
同期リラクタンスモータセンサレス駆動のためのD因子状態オブザーバ	共著	平成 18 年 8 月	平成１８年電気学会産業応用部門全国大会講演論文集 1	山崎英士	401-406 頁
永久磁石同期モータセンサレス駆動のためのD因子状態オブザーバのパラメータ誤差に対する収束特性	共著	平成 18 年 8 月	平成１８年電気学会産業応用部門全国大会講演論文集 1	佐野公亮	399-340 頁
永久磁石同期モータセンサレス駆動のためのD因子状態オブザーバの推定速度に対する収束特性	単著	平成 18 年 8 月	平成１８年電気学会産業応用部門全国大会講演論文集 1		393-398 頁
ACV の動的浮上数学モデルと同シミュレータの提案	共著	平成 18 年 10 月	第４４回飛行機シンポジウム講演集	小沼雄作	475-478 頁
A New Sensorless Drive System for Transmissionless EVs Using a Permanent-Magnet Synchronous Motor	共著	平成 18 年 10 月	Proceedings of the 22nd International Battery, Hybrid and Fuel Cell Electric Vehicle Symposium and Exhibition (EVS 22)	竹内茂	553-564 頁
A New Current-Ratio-Oriented Simple Vector Control Method for Starting Up Sensorless Drive of Permanent-Magnet Synchronous Motors, Feedback Control of Effective/Reactive Currents Based on MIR Strategy	単著	平成 18 年 10 月	CD Conference Record of IEEE/IAS 41st Annual Meeting (IAS 2006)		
空間軌道偏差を用いた軌道追従制御法	共著	平成 18 年 11 月	第４９回自動制御連合講演会、CD 前刷	杉山祐太	
PMSM センサレス駆動のための力率位相指向形ベクトル制御法、― モータパラメータに低感度な準最適センサレス駆動制御 ―	単著	平成 19 年 3 月	平成１９年電気学会全国大会講演論文集 4		177-178 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
A New Frequency-Adaptive Phase-Estimation Method on a New PLL Structure for Single-Phase Signals	単著	平成 19 年 4 月	Proceedings of the Power Conversion Conference-Nagoya 2007 (PCC-Nagoya 2007)		191-198 頁
A New Speed-Varying Ellipse Voltage Injection Method for Sensorless Drive of Permanent-Magnet Synchronous Motors with Pole Saliency	単著	平成 19 年 5 月	Proc. of the 2007 IEEE International Electric Machines and Drives Conference (IEMDC ‘ 07)1, (1)		1768-1776 頁
永久磁石同期モータセンサレス駆動のための高次速応帯域フィルタ形位相推定法、― 定格負荷下でのゼロ速起動と極低速安定駆動をもたらす位相推定法 ―	単著	平成 19 年 8 月	平成１９年電気学会産業応用部門大会講演論文集 1		569-574 頁
ＰＭＳＭセンサレス駆動のための同一次元D因子状態オブザーバ、― オブザーバゲインの新設計法 ―	単著	平成 20 年 3 月	平成２０年電気学会全国大会講演論文集４		pp.146-147 頁
自動車における可変速交流ドライブ技術	共著	平成 20 年 8 月	電気学会平成２０年電気学会産業応用部門大会講演論文集	新中新二・山本恵一・青木康明・有満稔・金東海・只野裕吾・千葉明・野口季彦	11-15 頁
単相交流信号の基本波成分推定のための周波数追従形D因子推定法	単著	平成 20 年 8 月	電気学会平成２０年電気学会産業応用部門大会講演論文集		223-228 頁
自励式ハイブリッド界磁同期モータの新初期位相推定法	共著	平成 20 年 8 月	電気学会平成２０年電気学会産業応用部門大会講演論文集	矢代勇太	187-192 頁
台形着磁ＰＭＳＭの動的数学モデルと動的シミュレータ	単著	平成 21 年 3 月	平成２１年電気学会全国大会講演論文集平成２１年電気学会全国大会講演論文集		188-189 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 52 年～現在に至る	IEEE（米国電気電子学会）会員
昭和 54 年 4 月～平成 19 年 3 月	電子情報通信学会会員
昭和 56 年～現在に至る	計測自動制御学会会員
昭和 60 年～現在に至る	電気学会会員
昭和 63 年 10 月～現在に至る	システム制御情報学会会員
平成 13 年 4 月～平成 16 年 3 月	科学研究費補助金 基盤、C、２ 3,400 千円 （磁気特性を考慮した AC モータの高度駆動制御法の研究）（研究代表者）
平成 13 年 7 月～平成 15 年 6 月	電気学会産業における実用的適応・学習制御系設計協同研究委員会委員
平成 14 年 4 月～平成 16 年 3 月	電気学会永久磁石電動機リラクタンスモータの駆動回路制御技術の研究開発動向委員会委員
平成 14 年 4 月～平成 16 年 3 月	電気学会車外情報を利用する自動車交通の高効率化と安全性向上制御に関する調査専門委員会委員
平成 15 年 3 月～平成 16 年 8 月	4th International Power Electronics and Motion Control Conference (IPEMC 2004), Technical Program Committee 委員
平成 15 年 7 月～平成 17 年 6 月	電気学会先端ロバスト・適応制御技術の産業応用に関する協同研究委員会委員
平成 15 年 7 月～平成 17 年 6 月	電気学会、先端ロバスト・適応制御技術の産業応用に関する協同研究委員会委員
平成 15 年 8 月～平成 15 年 8 月	電気学会平成１５年産業応用部門大会、メカトロニクス（モータ制御）チェアマン
平成 15 年 8 月～平成 15 年 8 月	平成１５年電気学会産業応用部門大会、メカトロニクス（モータ制御）チェアマン
平成 15 年 9 月～平成 17 年 4 月	電気学会 2005 年パワーエレクトロニクス国際会議組織委員会委員
平成 15 年 9 月～平成 17 年 4 月	電気学会、2005 年パワーエレクトロニクス国際会議 (IPEC-Niigata2005) 組織委員会委員
平成 16 年 4 月～平成 19 年 3 月	科学研究費補助金 基盤、C 3,100 千円 （リラクタンストルクを利用した AC モータの高度駆動制御法の研究）（研究代表者）
平成 16 年 11 月～平成 18 年 4 月	電気学会交流電動機駆動方法およびその応用技術調査専門委員会委員
平成 16 年 11 月～平成 18 年 5 月	電気学会、交流電動機駆動方法およびその応用技術調査専門委員会委員
平成 17 年 3 月～平成 17 年 3 月	電気学会平成１７年電気学会全国大会、回転機制御技術（回転機制御一般）チェアマン
平成 17 年 3 月～平成 18 年 8 月	5th International Power Electronics and Motion Control Conference (IPEMC 2006), Technical Program Committee 委員
平成 17 年 3 月～平成 17 年 3 月	平成１７年電気学会全国大会、回転機制御技術（回転機制御一般チェアマン

年月	内　　容
平成 17 年 4 月～平成 17 年 4 月	電気学会 2005 年パワーエレクトロニクス国際会議 (IPEC-Niigata2005) Session S11(Induction Motor Drive 2) Chairman
平成 17 年 4 月～平成 17 年 4 月	電気学会 2005 年パワーエレクトロニクス国際会議 (IPEC-Niigata2005) Session S34(Induction Motor Drive 3) Chairman
平成 17 年 4 月～平成 17 年 4 月	電気学会、2005 年パワーエレクトロニクス国際会議 (IPEC-Niigata2005) Session S11(Induction Motor Drive 2) チェアマン
平成 17 年 4 月～平成 17 年 4 月	電気学会、2005 年パワーエレクトロニクス国際会議 (IPEC-Niigata2005) Session S34(Induction Motor Drive 3) チェエマン
平成 17 年 7 月～平成 19 年 6 月	電気学会ロバスト・適応制御融合技術とハイブリッド制御技術の産業応用に関する協同研究委員会 委員
平成 17 年 7 月～平成 19 年 6 月	電気学会、ロバスト・適応制御融合技術とハイブリッド制御技術の産業応用に関する協同研究委員会委員
平成 17 年 10 月～平成 19 年 4 月	電気学会 IEEJ/IEEE Joint IAS Power Conversion Conference Nagoya 2007 (PCC Nagoya 2007) 組織委員会委員
平成 17 年 10 月～平成 19 年 4 月	IEEJ　IEEE Joint IAS Power Conversion Conference Nagoya 2007 (PCC Nagoya 2007) 組織委員会委員
平成 18 年 10 月～平成 20 年 9 月	電気学会電気学会、交通運輸分野における可変速交流ドライブの適用技術調査専門委員会委員
平成 18 年 10 月～平成 20 年 9 月	電気学会、交通運輸分野における可変速交流ドライブの適用技術調査専門委員会委員
平成 19 年 7 月～平成 21 年 6 月	電気学会電気学会、ロバスト・適応・ハイブリッド制御技術の融合とその産業応用に関する協同研究委員会
平成 19 年 7 月～平成 21 年 6 月	電気学会、ロバスト・適応・ハイブリッド制御技術の融合とその産業応用に関する協同研究委員会委員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部電子情報フロンティア学科	職名 教授	氏名 豊嶋　久道	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 Web ページによる授業サポート	平成 17 年 9 月 1 日 ～現在に至る	（授業科目：ユニット演習 I、ディジタルシステム基礎、ディジタル信号処理） 共通の Web ページを作成し、それぞれの授業の情報を公開した。公開する内容は、毎回の授業のまとめ、レポート課題、解答、試験などの連絡事項で、最低週に２回は情報を更新するようにした。またこれらの授業情報は過去に遡って閲覧することもできるため、学生の予習、復習を効果的にサポートすることができた。
2　作成した教科書、教材 「ディジタルシステム基礎」の教材作成	平成 18 年 4 月 1 日 ～現在に至る	講義テキストを作成し、それを PDF ファイルとして Web ページに公開した。数回分の講義で利用する１０ページ程度を PDF ファイルとすることで、学生に印刷の負担が集中しないよう配慮した。従来のテキストを購入させる場合に比べて、テキストの持参率が高くなった。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他 電気電子情報工学科教育プログラム検討委員としての活動	平成 14 年 4 月 1 日 ～現在に至る	電気電子情報工学科における教育プログラム改編について検討を行った。特に学生の成績の解析のために成績データを処理するソフトウェアを開発し、その処理結果は教育プログラム検討のために有効に活用された。（平成 14 年 4 月 1 日～）
指導学生の表彰	～平成 15 年 5 月 28 日	当研究室に所属する学生が第８回電子情報通信学会東京支部学生会研究発表会にて発表した研究発表（タブーサーチを用いた縦続形 FIR ディジタルフィルタの設計）に対して奨励賞が授与された。
指導学生の表彰	～平成 15 年 5 月 28 日	当研究室に所属する学生が第８回電子情報通信学会東京支部学生会研究発表会にて発表した研究発表（遺伝的アルゴリズムを用いた FIR ディジタルフィルタの係数最適化）に対して奨励賞が授与された。

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
指導学生の表彰	～平成 16 年 5 月 28 日	当研究室に所属する学生が第９回電子情報通信学会東京支部学生会研究発表会にて発表した研究発表（中間演算を省略した冗長２進加算器・乗算器に関する研究）に対して奨励賞が授与された。
指導学生の表彰	～平成 17 年 5 月 28 日	当研究室に所属する学生が第１０回電子情報通信学会東京支部学生会研究発表会にて発表した研究発表（遺伝的アルゴリズムによるテクニカル分析の組合せ最適化）に対して奨励賞が授与された。
指導学生の表彰	～平成 18 年 5 月 28 日	当研究室に所属する学生が第１１回電子情報通信学会東京支部学生会研究発表会にて発表した研究発表（ファジィ推論を用いたトレーディングシステムに関する研究）に対して奨励賞が授与された。
指導学生の表彰	～平成 18 年 5 月 28 日	当研究室に所属する学生が第１１回電子情報通信学会東京支部学生会研究発表会にて発表した研究発表（ソフトウェア記述からハードウェア記述への自動変換のための演算回路最適化）に対して奨励賞が授与された。
指導学生の表彰	～平成 19 年 5 月 28 日	当研究室に所属する学生が第１１回電子情報通信学会東京支部学生会研究発表会にて発表した研究発表（時系列の多重周期成分を用いたニューラルネットによる株価予測）に対して奨励賞が授与された。

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
FX メタトレーダー入門	単著	平成 20 年 1 月	パンローリング		
論文					
遺伝的アルゴリズムによる定数乗算回路のハードウェア設計	共著	平成 15 年 4 月	Proc. 第 16 回 回路とシステム (軽井沢) ワークショップ	込宮 英幸, 佐々木 孝雄, 豊嶋久道	189-194 頁
遺伝的アルゴリズムによる複数の定数乗算回路の最適合成手法	共著	平成 15 年 4 月	Proc. 第 16 回 回路とシステム (軽井沢) ワークショップ	天川 昌充, 佐々木 孝雄, 豊嶋久道	123-128 頁
タブーサーチによる FIR ディジタルフィルタの係数乗算ブロック最適化	共著	平成 15 年 4 月	Proc. 第 16 回 回路とシステム (軽井沢) ワークショップ	松本 有弘, 佐々木 孝雄, 豊嶋久道	129-134 頁
分散最大制約充足アルゴリズムの分散グラフ色塗り問題による評価	共著	平成 15 年 9 月	第 2 回情報科学技術フォーラム (FIT2003), 情報技術レターズ	安藤雅彦, 能登正人, 豊嶋久道	129-130 頁
Empirical Evaluation of Distributed Maximal Constraint Satisfaction Method	共著	平成 15 年 10 月	Proc. 2003 Int. Conf., Systems, Man & Cybernetics	M. Ando, M. Noto and H.Toyoshima	4672-4677 頁
An Optimal Synthesis Method for Multiple Constant Multiplication Circuits With Consideration of the Order of Coefficients to be Synthesized	共著	平成 16 年 9 月	Proc. 10th Int, Symp., Integrated Circuits, Devices & Systems	T. Sasaki and H. Toyoshima	1-4 頁
Quantitative Evaluation of Communication Traffic of Mobile Agents in Distributed Constraint Satisfaction Model	共著	平成 16 年 10 月	Proc. 2004 Int. Conf., Systems, Man & Cybernetics	H. Endo, M. Noto and H.Toyoshima	1-4 頁
確率的タブーサーチによる係数乗算ブロックで構成された FIR ディジタルフィルタの設計	共著	平成 17 年 1 月	電子情報通信学会論文誌 (A), J88-A	豊嶋久道，松本 有弘，佐々木孝雄	99-103 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
遺伝的アルゴリズムを用いた係数の合成順序最適化による複数の定数乗算回路の合成手法	共著	平成 18 年 3 月	システム制御情報学会論文誌, Vol.19, No.3	佐々木孝雄, 豊嶋久道	96-101 頁
Arithmetic Circuit Optimization in Finite Word Length Approximation of Arbitrary Functions	共著	平成 19 年 12 月	Proc. 7th Int. Conf. Optimization: Techniques and Applications	K. Kotani, T. Sasaki and H. Toyoshima	487-488 頁
Arithmetic Circuit Optimization in Finite Word Length Approximation of Arbitrary Functions	共著	平成 20 年 7 月	Proc. 23rd International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications	T. Sasaki, K. Kotani and H. Toyoshima	1277-1280 頁
Shortening of Processing Time of Optimal Design of Multiple Constant Multiplication using FPGAs	共著	平成 20 年 7 月	Proc. 23rd International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications	M. Nakayama, T. Sasaki and H. Toyoshima	165-168 頁
その他					
タブーサーチによる FIR ディジタルフィルタの係数乗算ブロック最適化	共著	平成 15 年 9 月	2003 年電子情報通信学会ソサイエティ大会	松本有弘, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
遺伝的アルゴリズムによる複数の定数乗算回路のハードウェア設計	共著	平成 15 年 9 月	2003 年電子情報通信学会ソサイエティ大会	込宮英幸, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
タブーサーチによる FIR ディジタルフィルタの係数乗算ブロック最適化	共著	平成 15 年 10 月	電子情報通信学会技術研究報告	松本有弘, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
遺伝的アルゴリズムによる複数の定数乗算回路のハードウェア設計	共著	平成 15 年 10 月	電子情報通信学会技術研究報告	込宮英幸, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
中間演算を省略した冗長 2 進加算器・乗算器に関する研究	共著	平成 16 年 3 月	電子情報通信学会東京支部学生研究発表会	諸岡昌樹, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
タブーサーチによる FIR ディジタルフィルタの係数乗算ブロック最適化	共著	平成 16 年 3 月	電子情報通信学会技術研究報告	松本有弘, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
グラフ構造の共有による線形変換回路の演算コスト削減アルゴリズム	共著	平成 16 年 3 月	2004 年電子情報通信学会総合大会	佐藤圭介, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
オーディオイコライザに適用可能な FIR ディジタルフィルタの設計	共著	平成 16 年 3 月	電子情報通信学会東京支部学生研究発表会	大野義輝, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
遺伝的アルゴリズムによる複数の定数乗算回路のハードウェア設計	共著	平成 16 年 3 月	電子情報通信学会技術研究報告	込宮英幸, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
並列タブサーチによる FIR ディジタルフィルタの係数最適化	共著	平成 16 年 3 月	電子情報通信学会東京支部学生研究発表会	中島賢弘, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
ハイブリッド型分散制約充足アルゴリズムの開発	共著	平成 16 年 3 月	情報処理学会第 66 回全国大会	安藤雅彦，能登正人，豊嶋久道	
性能の異なる複数のマシンを用いた遺伝的アルゴリズムの並列化	共著	平成 16 年 3 月	電子情報通信学会東京支部学生研究発表会	岡大介, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
遺伝的アルゴリズムによる複数の定数乗算回路のゲートレベル設計	共著	平成 16 年 9 月	電子情報通信学会ソサイエティ大会	加藤幸信, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
遺伝的アルゴリズムによる線形変換回路の係数列合成順序の最適化	共著	平成 16 年 9 月	電子情報通信学会ソサイエティ大会	佐藤圭介, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
分散グラフ色塗り問題によるモバイルエージェント通信の実験的評価	共著	平成 16 年 9 月	第 3 回情報科学技術フォーラム (FIT2004)	遠藤博人, 能登正人, 豊嶋久道	
線形変換回路の係数列合成順序を考慮した演算コスト削減アルゴリズム	共著	平成 16 年 11 月	電子情報通信学会技術研究報告	佐藤圭介, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
複数の定数乗算回路の VLSI 設計に関する一考察	共著	平成 17 年 3 月	電子情報通信学会総合大会	加藤幸信, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
動的制約ネットワークモデルにおけるモバイルエージェントの通信トラフィック	共著	平成 17 年 3 月	電子情報通信学会総合大会	遠藤博人, 能登正人, 豊嶋久道	
直交変換回路の規則性と係数合成順序を考慮した演算コスト削減アルゴリズム	共著	平成 17 年 3 月	電子情報通信学会総合大会	佐藤圭介, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
簡略化した進化的アルゴリズムを用いた FIR ディジタルフィルタの係数最適化	共著	平成 17 年 3 月	電子情報通信学会東京支部学生会研究発表会	石川 賢, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
遺伝的アルゴリズムによる状態空間ディジタルフィルタ回路設計	共著	平成 17 年 3 月	電子情報通信学会東京支部学生会研究発表会	安藤 圭一, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
ファジィ推論を用いたニューラルネットの学習回数削減法	共著	平成 17 年 3 月	電子情報通信学会東京支部学生会研究発表会	太田 篤史, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
遺伝的アルゴリズムによるテクニカル分析の組合せ最適化	共著	平成 17 年 3 月	電子情報通信学会東京支部学生会研究発表会	桑原 志乃, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
ニューラルネットによる経済時系列データ予測に関する研究	共著	平成 17 年 3 月	電子情報通信学会東京支部学生会研究発表会	中野 亮, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
遺伝的アルゴリズムによる複数の定数乗算回路のハードウェア設計	共著	平成 17 年 5 月	第 49 回システム制御情報学会研究発表講演会	加藤幸信, 豊嶋久道, 佐々木孝雄	
遺伝的アルゴリズムによる状態空間ディジタルフィルタ回路設計	共著	平成 17 年 5 月	第 49 回システム制御情報学会研究発表講演会	安藤 圭一, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
制約条件を考慮した複数の定数乗算回路設計における遺伝的アルゴリズムの適用	共著	平成 17 年 9 月	第 15 回インテリジェントシステムシンポジウム	加藤幸信, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
遺伝的アルゴリズムによる状態空間ディジタルフィルタの演算量削減	共著	平成 17 年 9 月	第 15 回インテリジェントシステムシンポジウム	安藤圭一, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
金融市場における高周波データ解析のためのディジタルフィルタ	共著	平成 17 年 9 月	第 15 回インテリジェントシステムシンポジウム	遠藤淳一, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
ハードウェアに関する制約条件を考慮した複数の定数乗算回路設計	共著	平成 17 年 11 月	電子情報通信学会技術研究報告	加藤幸信, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
ソフトウェア記述からハードウェア記述への自動変換のための演算回路最適化	共著	平成 18 年 3 月	電子情報通信学会東京支部学生会研究発表会	小谷光史, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
遺伝的アルゴリズムを用いた線形変換回路の遅延時間・回路規模最適化	共著	平成 18 年 3 月	電子情報通信学会東京支部学生会研究発表会	鈴木麻衣, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
金融市場における時系列データ解析のための適応フィルタ	共著	平成 18 年 3 月	電子情報通信学会東京支部学生会研究発表会	鈴木健祐, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
ファジィ推論を用いたトレーディングシステムに関する研究	共著	平成 18 年 3 月	電子情報通信学会東京支部学生会研究発表会	倉林佑, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
ハードウェアに関する制約条件を考慮した複数の定数乗算回路設計	共著	平成 18 年 3 月	電子情報通信学会技術研究報告	加藤幸信, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
GA･TS のハイブリッドアルゴリズムによる有限語長多項式近似の最適化	共著	平成 18 年 5 月	第 50 回システム制御情報学会研究発表講演会	小谷光史, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
状態空間係数を遺伝子としたディジタルフィルタ回路の進化論的生成	共著	平成 18 年 5 月	第 50 回システム制御情報学会研究発表講演会	安藤圭一, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
遺伝的アルゴリズムを用いた線形変換回路の遅延時間・回路規模最適化	共著	平成 18 年 5 月	第 50 回システム制御情報学会研究発表講演会	鈴木麻衣, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
遺伝的アルゴリズムを用いた金融市場のテクニカルパターン生成法	共著	平成 18 年 5 月	第 50 回システム制御情報学会研究発表講演会	遠藤淳一, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
状態空間係数を遺伝子としたディジタルフィルタ回路の進化論的生成	共著	平成 18 年 9 月	2006 年電子情報通信学会ソサイエティ大会	安藤圭一, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
遺伝的アルゴリズムを用いた線形変換回路合成における分割最適化に関する考察	共著	平成 18 年 9 月	第 5 回情報科学技術フォーラム (FIT2006)	鈴木麻衣, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
組み合わせ最適化アルゴリズムを用いた有限語長多項式近似におけるハードウェアコスト最小化	共著	平成 18 年 9 月	第 5 回情報科学技術フォーラム (FIT2006)	小谷光史, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
GA を用いた金融市場のテクニカルパターン生成とその予測可能性に関する考察	共著	平成 18 年 9 月	第 5 回情報科学技術フォーラム (FIT2006)	遠藤淳一, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
遺伝的アルゴリズムを用いた線形変換回路合成における計算時間削減	共著	平成 19 年 3 月	2007 年電子情報通信学会総合大会，ISS-P-71	鈴木麻衣, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
任意の関数のハードウェア設計におけるタブーサーチによるコスト最適化	共著	平成 19 年 3 月	2007 年電子情報通信学会総合大会，ISS-P-70	小谷光史, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
FPGA を用いたソフトウェア・ハードウェア協調動作による遺伝的アルゴリズムの高速化	共著	平成 19 年 3 月	2007 年電子情報通信学会総合大会，ISS-P-47	中山雅雄, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
遺伝的アルゴリズムを用いた線形変換回路合成における計算時間削減	共著	平成 19 年 3 月	電子情報通信学会技術研究報告，CAS2006-97	鈴木麻衣, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
任意の関数のハードウェア設計におけるタブーサーチによるコスト最適化	共著	平成 19 年 3 月	電子情報通信学会技術研究報告，CAS2006-95	小谷光史, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
GA を用いた金融市場のテクニカルパターン生成に関する研究	共著	平成 19 年 3 月	電子情報通信学会技術研究報告，CAS2006-104	遠藤淳一, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
時系列の多重周期成分を用いたニューラルネットによる株価予測	共著	平成 19 年 3 月	電子情報通信学会東京支部学生会研究発表会 (第１２回), 98	川畑順裕, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
解の構成要素の適応度を考慮した近傍探索アルゴリズム	共著	平成 19 年 3 月	電子情報通信学会東京支部学生会研究発表会 (第１２回), 91	細田哲矢, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
FPGA を用いたソフトウェア・ハードウェア協調動作による遺伝的アルゴリズムの高速化	共著	平成 19 年 3 月	電子情報通信学会東京支部学生会研究発表会 (第１２回), 40	中山雅雄, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
任意の関数のハードウェア設計における組合せ最適化アルゴリズムによるコスト最適化	共著	平成 19 年 5 月	第 51 回システム制御情報学会研究発表講演会, 5F4-2	小谷光史, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
FPGA を用いたソフトウェア・ハードウェア協調動作による遺伝的アルゴリズムの高速化	共著	平成 19 年 5 月	第 51 回システム制御情報学会研究発表講演会, 2W4-6	中山雅雄, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
遺伝的アルゴリズムを用いた線形変換回路合成における計算時間削減	共著	平成 19 年 5 月	第 51 回システム制御情報学会研究発表講演会, 2W4-5	鈴木麻衣, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
MetaTrader4 を使ったシステム売買入門	単著	平成 20 年 3 月	ODL JAPAN 設立記念外国為替取引セミナー		
MCM 問題の最適化のためのハードウェアアルゴリズム	共著	平成 20 年 3 月	2008 年電子情報通信学会総合大会	中山雅雄, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
任意の関数の有限語長近似における演算回路最適化	共著	平成 20 年 3 月	情報処理学会研究報告: 第 68 回数理モデル化と問題解決研究会	小谷光史, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
線形変換回路最適化における計算時間削減アルゴリズム	共著	平成 20 年 3 月	情報処理学会研究報告: 第 68 回数理モデル化と問題解決研究会	鈴木麻衣, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
FPGA を用いた複数定数乗算回路の最適設計の高速化	共著	平成 20 年 5 月	第 52 回システム制御情報学会研究発表講演会	中山雅雄, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	
FPGA を用いた複数定数乗算回路の最適設計の高速化	共著	平成 21 年 3 月	情報処理学会研究報告: 第 73 回数理モデル化と問題解決研究会	中山雅雄, 佐々木孝雄, 豊嶋久道	

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 63 年 4 月～現在に至る	電子情報通信学会会員
平成 4 年 4 月～現在に至る	情報処理学会会員
平成 5 年 4 月～現在に至る	アメリカ電気学会 (IEEE) 会員
平成 6 年 4 月～平成 18 年 3 月	ヨーロッパ信号処理学会会員
平成 8 年 4 月～現在に至る	電子情報通信学会東京支部学生会顧問
平成 9 年 4 月～現在に至る	電子情報通信学会東京支部学生会顧問
平成 13 年 4 月～平成 16 年 3 月	回路とシステム（軽井沢）ワークショップ実行委員
平成 16 年 10 月～現在に至る	システム制御情報学会会員
平成 17 年 4 月～現在に至る	日本知能情報ファジィ学会会員
平成 17 年 11 月～現在に至る	電気学会会員

Ⅴ　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部電子情報フロンティア学科	職名 教授	氏名 中山　明芳	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 確認小テストの実施による重要事項の理解確認	平成 19 年 9 月 ～平成 20 年 11 月	電磁解析のスキル I,II の授業、ユニット演習 III（電磁解析のスキル I,II の内容の演習）において、重要事項の理解確認と標準的な問題演習のため、確認小テストを実施している。
2　作成した教科書、教材 教科書「超伝導エレクトロニクス入門」の授業での活用	平成 17 年 9 月 ～平成 20 年 3 月	超伝導体の基礎と応用や磁性体の基礎について記述した教科書「超伝導エレクトロニクス入門」を作成し、電気物性や、電気物性基礎論の授業において使用した。
3　教育上の能力に関する大学等の評価 ２００８年前期学生による授業評価アンケート結果	平成 20 年 4 月 ～平成 20 年 7 月	電気磁気解析のスキル II, ユニット演習 III、電気物性の授業に対する、学生による授業アンケートにおいて、ほぼずべての評価項目において、工学部平均の評価を得た。
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他 電子情報フロンティア学科教育プログラム検討委員会における活動	平成 20 年 4 月 ～平成 20 年 9 月	教育課程表、授業カリキュラムなどについての検討、継続的な改善活動をおこなっている。

II　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
超伝導エレクトロニクス入門	単著	平成 15 年 10 月	電子情報通信学会		
論文					
Modulation of I-V curves of Nb single and double junctions by 2D scan of magnetic field	共著	平成 15 年 4 月	Physica B329-333 (2003)		
Magnetic field dependence of Josephson current by applying the external magnetic field perpendicular to the Josephson junction	共著	平成 17 年 5 月	Journal of Applied Physics Vol.97, No.10,	N. Watanabe, A. Nakayama, S. Abe, K. Aizawa	10B116 1-3 頁
Hexagnal symmetry of magnetic field dependence of Josephson current through triangle shape superconducting junctions	共著	平成 18 年	Journal of Physics: Conference Series 43,	A. Nakayama, S. Abe, T. Shimoyama, N. Watanabe, Hsu Jui-Pang, Y. Okabe	1092-1095 頁
The measurement of Josephson current of double Josephson junction	共著	平成 18 年	Journal of Physics: Conference Series 43,	K. Aizawa, A. Nakayama, S. Abe, N. Watanabe	1088-1091 頁
Influence of the Nb middle layer on the current of a double Josephson junction	共著	平成 18 年 5 月	Superconductor Science and Technology, Vol.19, No.5,	K. Aizawa, A. Nakayama, S. Abe, N. Watanabe	s217-s220 頁
Influence of trapped magnetic flux quantum on two-dimensional magnetic field dependence of a josephson junction	共著	平成 19 年 6 月	Journal of Applied Physics,Vol.101,Issue9,		09G105-09G105-3 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Two-dimensional magnetic field dependence of current-voltage characteristics of rectangular,hexagonal and triangle shape superconducting junctions and DC-SQUIDs	共著	平成 20 年	Journal of Physics:Conference Series 97,012247	A Nakayama,N Watanabe,S Abe,Y Nishi and Y Okabe	
The Shape-dependency of two-dimensional magnetic field dependence of a Josephson junction	共著	平成 20 年 5 月	Journal of Applied Physics,vol.103,	N.Watanabe,A.Nakayama,S.Abe,S.Kawai,Y.Nishi,K.Masuda	07C707-07C707-3 頁
その他					
外部磁場の二次元走査によるダブルバリア超伝導接合の超伝導電流の変調	共著	平成 15 年 9 月	電子通信学会全国大会（新潟）		
Wave functions and energy levele of Andreev bound states in suoerconductor/normalmetal/superconductor junctions	共著	平成 15 年 9 月	6th European Conference on Applied Superconductivity		
Modulation of Current - Voltage haracteristics of Nb Single and Double Junctions by Two-Dimensional Scan of the External Magnetic Field	共著	平成 15 年 9 月	6th European Conference on Applied Superconductivity		
磁束トラップによる Nb 接合の超伝導電流の２次元磁場特性	共著	平成 15 年 9 月	電子通信学会全国大会(新潟)		
Modulation of Current-Voltage Characteristics of Nb Single and Double Junctions by Two-Dimensional Scan of the External Magnetic Field	共著	平成 16 年	CD Rom Proceedings, Eucas03,	A. Nakayama, N. Watanabe, S. Abe, K. Aizawa	2848-2855 頁
外部磁場の二次元走査による中間層膜厚の異なるダブルバリア超伝導接合の評価	共著	平成 16 年 3 月	応用物理学会大会（東京工科大学）		

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
中間層膜厚の異なるダブルバリア超伝導接合の同時製作と外部磁場の二次元走査による接合評価	共著	平成 16 年 3 月	電子通信学会全国大会（東工大）		
外部磁場の二次元走査による中間層膜厚の異なるダブルバリア超伝導接合の評価	共著	平成 16 年 3 月	応用物理学会大会（東京工科大学）		
超伝導薄膜に垂直な外部磁界印加によるジョセフソン接合の Ic-H 特性	共著	平成 16 年 3 月	電子通信学会全国大会（東工大）		
ダブル接合ジョセフソン素子の中間層 Nb が超伝導電流に与える影響	共著	平成 16 年 9 月	2004 年秋季 第 65 回応用物理学会学術講演会, 2a-F-11	相澤邦守，中山明芳，阿部晋，渡邉騎通，菊地良祐	
超伝導薄膜に垂直な外部磁界印加によるジョセフソン電流の磁界依存性	共著	平成 16 年 9 月	2004 年秋季 第 65 回応用物理学会学術講演会, 2a-F-10	渡邉騎通，中山明芳，阿部晋，相澤邦守，佐藤由樹，下山哲矢，真嶋智	
ダブル接合ジョセフソン素子の超伝導電流に対する中間層 Nb の厚さの影響	共著	平成 16 年 9 月	電子情報通信学会 2004 年ソサイエティ大会, C-8-15	相澤邦守，中山明芳，阿部晋，渡邉騎通，高畑秀幸，菊地良祐	
ジョセフソン接合に垂直な外部磁界印加によるジョセフソン電流の磁界依存性	共著	平成 16 年 9 月	電子情報通信学会 2004 年ソサイエティ大会, C-8-14	渡邉騎通，中山明芳，阿部晋，相澤邦守，佐藤由樹，下山哲矢，真嶋智	
Influence of Film Thickness of Middle Nb Layer on the Superconducting Current in Double Josephson Junction	共著	平成 16 年 11 月	49TH ANNUAL CONFERENCE ON MAGNETISM AND MAGNETIC MATERIALS, HU-05	K. Aizawa, A. Nakayama, S. Abe, N. Watanabe	
Magnetic field dependence of Josephson current by applying the external magnetic field perpendicular to the Josephson junction	共著	平成 16 年 11 月	49TH ANNUAL CONFERENCE ON MAGNETISM AND MAGNETIC MATERIALS, HU-04	N. Watanabe, A. Nakayama, S. Abe, K. Aizawa, Y. Okabe	
Hysteresis in Josephson current through superconducting junctions by applying the external magnetic field perpendicular to Niobium electrodes	共著	平成 17 年 2 月	2005 Japan-Taiwan Symposium on Superconductivity, 1-4	N. Watanabe, A. Nakayama, S. Abe, K. Aizawa	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
ダブル接合ジョセフソン素子の 2 次元磁場変調特性	共著	平成 17 年 3 月	電子情報通信学会 2005 年総合大会，C-8-13	相澤邦守，中山明芳，阿部晋，渡邉騎通，高畑秀幸，菊地良祐	
ジョセフソン接合に垂直な外部磁界印加による Ic-H 特性のヒステリシス	共著	平成 17 年 3 月	電子情報通信学会 2005 年総合大会，C-8-12	渡邉騎通，中山明芳，阿部晋，相澤邦守，佐藤由樹，下山哲矢，真嶋智	
ジョセフソン接合を流れる電流の 2 次元磁界特性	共著	平成 17 年 3 月	第 52 回応用物理学関係連合講演会，30p-X-3	中山明芳，阿部晋，渡邉騎通，菊地良祐，下山哲矢，真嶋智，川口大吾，西洋平，山川直也	
ジョセフソン接合に垂直な外部磁界印加によるジョセフソン電流のヒステリシス	共著	平成 17 年 3 月	第 52 回応用物理学関係連合講演会，30p-X-2	渡邉騎通，中山明芳，阿部晋，相澤邦守，佐藤由樹，下山哲矢，真嶋智	
ダブル接合ジョセフソン素子の超伝導電流の 2 次元磁場変調特性	共著	平成 17 年 3 月	第 52 回応用物理学関係連合講演会，30p-X-1	相澤邦守，中山明芳，阿部晋，渡邉騎通，高畑秀幸，菊地良祐	
Hysteresis in Josephson Current by Magnetic Flux Quantum	共著	平成 17 年 4 月	THE 2005 IEEE INTERNATIONAL MAGNETIC CONFERENCE, EX-09	N. Watanabe, A. Nakayama, S. Abe, K. Aizawa	
The influence of the difference of the thickness of Nb middle layer upon the current-voltage characteristics of the double Josephson junctions	共著	平成 17 年 9 月	10th International Superconductive Electronics Conference, P-S.03	K. Aizawa, A. Nakayama, S. Abe, N. Watanabe	
Hysteresis Phenomena of Josephson Current Through Superconducting Junctions Obtained by Three Dimensional Scanning of External Magnetic Field	共著	平成 17 年 9 月	10th International Superconductive Electronics Conference, P-S.02	A. Nakayama, S. Abe, N. Watanabe, Hsu Jui-Pang, Y. Okabe	
Hexagonal Symmetry of Magnetic Field Dependence of Josephson Current Through Triangle Shape Superconducting Junctions	共著	平成 17 年 9 月	7th European Conference on Applied Superconductivity, MO-P1-154	A. Nakayama, S. Abe, N. Watanabe, Hsu Jui-Pang, Y. Okabe	
The measurment of Josephson current of double Josephson junction	共著	平成 17 年 9 月	7th European Conference on Applied Superconductivity, MO-P1-146	K. Aizawa, A. Nakayama, S. Abe, N. Watanabe	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Influence of trapped magnetic flux quantum on two-dimensional magnetic field dependence of a Josephson junction	共著	平成 19 年 1 月	10TH JOINT MMM/INTERMAG CONFERENCE, EP-10	N. Watanabe, A. Nakayama, S. Abe	
接合形状によるジョセフソン接合の二次元磁界変調特性の変化	共著	平成 19 年 9 月	2007 年秋季 第 68 回応用物理学会学術講演, 4a-ZH-1	渡邉騎通，中山明芳，阿部晋，河合翔，鶴岡茂紀，西洋平，増田浩司，須田光紀	
ジョセフソン接合の二次元磁界変調特性の接合形状依存性	共著	平成 19 年 9 月	電子情報通信学会 2007 年ソサイエティ大会，C-8-2	渡邉騎通, 中山明芳, 阿部晋, 河合翔, 鶴岡茂紀, 西洋平, 増田浩司	
Two-dimensional Magnetic Field Dependence of Current-Voltage Characteristics of Rectangular, Hexagonal and Triangle Shape Superconducting Junctions and DC-SQUIDs	共著	平成 19 年 9 月	8th European Conference on Applied Superconductivity, 0491	A.NAKAYAMA, N.WATANABE, S.ABE, Y.NISHI, Y.OKABE	
Modulation Characteristics of a Josephson Junction by Applying the Magnetic Field Perpendicular to the Junction Plane	共著	平成 19 年 9 月	8th European Conference on Applied Superconductivity, 0490	N. Watanabe, A. Nakayama, S. Abe, Y. Nishi, K. Masuda, M. Suda	
Modulation characteristics of a Josephson junction by three-dimensional scan of the magnetic field parallel and perpendicular to the plane of junction	共著	平成 19 年 10 月	2007 China-Japan Joint Meeting on Superconductor Electronics	N. Watanabe, A. Nakayama, S. Abe, Y. Nishi, K. Masuda, M. Suda	
The shape-dependency of two-dimensional magnetic field dependence of a Josephson junction	共著	平成 19 年 11 月	52nd Magnetism and Magnetic Materials Conference, HQ-05	N. Watanabe, A. Nakayama, S. Abe, S. Kawai, Y. Nishi, K. Masuda	
振動試料型磁力計による Nb 超伝導薄膜の磁束分布の測定	共著	平成 20 年 3 月	電子情報通信学会 2008 年総合大会，C-8-5	渡邉騎通，中山明芳，阿部晋，西洋平，増田浩司，須田光紀	
ジョセフソン電流の垂直磁界依存性と振動試料型磁力計による Nb 超伝導薄膜の磁束の測定	共著	平成 20 年 3 月	2008 年春季 第 55 回応用物理学関係連合講演会, 28a-NA-1	渡邉騎通，中山明芳，阿部晋，西洋平，増田浩司，須田光紀	

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 56 年 7 月～現在に至る	応用物理学会会員
昭和 58 年 4 月～現在に至る	The Institute of Electrical and Electronics Engineers 会員
昭和 62 年 4 月～現在に至る	電子情報通信学会会員
平成 3 年 1 月～現在に至る	日本学術振興会超伝導エレクトロニクス第 146 委員会委員
平成 8 年 4 月～現在に至る	電子情報通信学会超伝導エレクトロニクス研究会専門委員
平成 13 年 4 月～平成 16 年 3 月	日本学術振興会超伝導エレクトロニクス第 146 委員会総務幹事、運営委員
平成 16 年 4 月～平成 18 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究　C 3,700 千円 （外部印加磁場の 2 次元走査によるＳＱＵＩＤの超伝導接合の形状及び配置の最適化）（研究代表者）
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究C 一般 3,500 千円 （超伝導接合の 3 次元磁界特性を決める磁束量子の位置の観察）（研究代表者）

Ⅴ　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部電子情報フロンティア学科	職名 教授	氏名 平手　孝士	大学院における研究指導当 資格の有無　（㊒・無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
授業時間内「小テスト」の実施	平成元年 4 月 1 日 ～平成 21 年 3 月 31 日	（授業科目：電磁解析のスキル I、同 II）学生が十分な予習復習をして授業に臨むことは興味を誘起させる有効な手段であるので、時間の許す限り、授業時間の最初の 15～20 分間に前回の小テスト以降の授業内容の範囲を対象とした簡単な試験を行う。あるいは次週までの宿題としてレポートを課す。その結果をみて、学生の理解が不充分な個所を把握して再度説明するようにする等の工夫をしてから先に進めるようにする。この試験は評価の対象になっていると共に出席のチェックにもなっている。（平成 1 年 4 月 1 日～）
学生相互質疑応答の採用	平成元年 4 月 1 日 ～平成 21 年 3 月 31 日	（授業科目：ユニット演習 III）論理的思考能力を高めることを目的として、学生に課した演習問題の解答を、学生がプロジェクタを用いて、その内容を説明した後、他の学生の質問を受け、それに応答するという形式で授業を進める。（平成 1 年 4 月 1 日～）
実験における情報関連テーマの実施	平成 10 年 4 月 1 日 ～平成 21 年 3 月 31 日	(授業科目：電子情報工学実験C、D）従来実施されてきた電子工学及び電気工学に関する実験項目の一部を廃止し新たに情報工学に関する実験テーマを実現した。実験の内容をさらに時代に沿ったものとすることによって、学生の実験への興味を向上させる。(平成 10 年 4 月 1 日～）
授業評価に関するアンケートの実施	平成 10 年 4 月 1 日 ～平成 21 年 3 月 31 日	前期末と後期末に授業内容、教授方法、学生の理解度に関するアンケートを実施した。その結果に基いて、できる限り多くの学生の興味が高まり、理解が深まるように、次期のシラバスと授業方法を工夫改良した。特に最近は、数式理解力の減少がみられる学生の割合が多くなってきたので、視覚に訴えるべく、PPT 形式のスライドや動画を作成して、理解度を高める工夫をしている（平成 10 年 4 月 1 日～）
2　作成した教科書、教材		
補助教材としての、各種資料のパワーポイント版の作製と授業での利用	平成 16 年 4 月 1 日 ～平成 21 年 3 月 31 日	（授業科目：電磁解析のスキル I、同 II、ユニット演習 III）電磁気学の建設に功績のあった歴史上の人物の写真、像、人生、業績等を紹介した資料を作成。ベクトル解析解説資料を作成。実験説明動画を作成。（授業科目：半導体工学）半導体物性の説明のための基礎事項、実験データ等から構成された資料を作成。半導体デバイスの開発の歴史を紹介した資料を作成。集積回路製造プロセス説明資料を作成。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
Material Research Society Symposium Proceedings Vol. 829	共著	平成 16 年 11 月	MRS		127-132, 395-400 頁
Material Research Society Symposium Proceedings Vol.799	共著	平成 17 年 4 月	Material Research Society		311-316 頁
Polycrystalline Semiconductors VIII	共著	平成 17 年 9 月	Ｅｌｓｅｖｉｅｒ		35-39 頁
ZnO and Related Materials	共著	平成 18 年 2 月	Elsevier	Hiroshi Miyashita, Tomomasa Satoh and Takashi Hirate	pp.67-74 頁
Material Research Society Symposium Proceedings, Volume 891	共著	平成 18 年 8 月		Takashi Hirate, Hiroshi Miyashita, Takashi Kimpara, Kazumoto Takizawa and Tomomasa Satoh	
Mateials Research Society Symposium Proceedings, Volume 957	共著	平成 19 年 5 月			
ZnO and Related Materials	共著	平成 19 年 10 月	Elsevir		
論文					
A New DC Electroluminescent Device Including Nanosized ZnO Whiskers	共著	平成 15 年 9 月	Proceedings of the 23rd, International Display Research Conference,		153-156 頁
Effects of Laser-Ablated Impurity on Aligned ZnO Nanorods Grown by Chemical Vapor Deposition	共著	平成 16 年 9 月	International Conference on Poly c rystalline Semiconductors		

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
A New Electroluminescence Spectrum of ZnS:Ce Films Grown by Chemical Vapor Deposition with Laser Ablation Doping	共著	平成 16 年 9 月	Proceedings of 12th International Workshop on Inorganic and Organic Electroluminescence & 2004 International Conference on the Science and Technology of Enissive Displays and Lighting,		224-227 頁
Annealing Effects of ZnO Nanorods on DC Inorganic Electroluminescent Device Characteristics	共著	平成 16 年 11 月	Material Research Society Symposium Proceeding Vol. 829 ”Progress in Compound Semiconductor Materials IV - Electronic and Optoelectrionic Applications” B2.20		
Growth of Separated and Oriented ZnO Nanorods by Chemical Vapor Deposition Combined with Laser Ablation	共著	平成 16 年 12 月	Symposium H of the 2004 Material Research Fall Meeting, H11.30		
New Electroluminescence Spectrum from Co-doped ZnS:(Mn,Si) Films Prepared by Chemical Vapor Deposition Combined with Laser Ablation	共著	平成 16 年 12 月	Material Research Society Symposium Proceeding Vol. 829 ”Progress in Compound Semiconductor Materials IV - Electronic and Optoelectrionic Applications” B9.9		
Effects of Laser Ablation in Fabrication of ZnO Nanorods by Chemical Vapor Deposition	共著	平成 17 年 5 月	European Materials Research Society 2005 Spring Meeting, G/PI-13		
Control of Morphology of ZnO Nanorods Grown by Chemical Vapor Deposition with Laser Ablation of ZnO	共著	平成 17 年 5 月	European Materials Research Society 2005 Spring Meeting, G/PI-07		
Effects of Laser-Ablated Impurity on Aligned ZnO Nanorods Grown by Chemical Vapor Deposition	共著	平成 17 年 9 月	Thin Solid Films Vol.487, pp.35-39., Elsevier		35-39 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Roles of Laser-Ablation of Mn in Initial Stage of Growth of ZnO Nanorods by Chemical Vapor Deposition	共著	平成 17 年 11 月	Materials Research Society 2005 Fall Meeting, EE10.13		
Effects of Laser Ablation in Fabrication of ZnO Nanorods by Chemical Vapor Deposition	共著	平成 18 年 1 月	Superlattices and Microstructures, Vol.39, pp.67-74, Elsevier		67-74 頁
Luminescent Properties of Mn-Si-O Thin Films Grown by Pulsed Laser Deposition	共著	平成 18 年 4 月	Materials Research Society 2006 Spring Meeting, DD6.2		
Control of Diameter of ZnO Nanorods Grown by Chemical Vapor Deposition with Laser Ablation of ZnO	共著	平成 18 年 6 月	European Materials Research Society 2006 Spring Meeting, KP-IV04	Takashi Kimpara, Shinichi Nakamura, Tomomasa Satoh and Takashi Hirate	
Lowering of Operation Voltage of AC Type Inorganic Electroluminescence Devices by Including ZnO Nanorods	共著	平成 18 年 10 月	Proceedings of the 9th Asian Symposium on Information Display, pp.511-514	Tomomasa Satoh, Hiroshi Miyashita, Akiko Nishiyama and Takashi Hirate	
Enhancement of Field Emission Current from ZnO Nanorods Fabricated by Two Step Chemical Vapor Deposition with Laser Ablation of ZnO	共著	平成 18 年 11 月	Materials Research Society 2006 Fall Meeting, K10-38	Takashi Hirate, Takashi Kimpara, Kazumoto Takizawa and Tomomasa Satoh	
Roles of Pre-Laser-Ablation of Mn in Growth of ZnO Nanorods by Chemical Vapor Deposition	共著	平成 19 年 4 月	Materials Research Society 2007 Spring Meeting, DD16.40	Takashi Hirate, Hiroshi Miyashita and Tomomasa Satoh	
Roles of Pre-Laser-Ablation of Mn in Growth of ZnO Nanorods by Chemical Vapor Deposition	共著	平成 19 年 4 月	Materials Research Society 2007 Spring Meeting, DD16.40	Takashi Hirate, Hiroshi Miyashita and Tomomasa Satoh	
Roles of Pre-Laser-Ablation of Mn in Growth of ZnO Nanorods by Chemical Vapor Deposition	共著	平成 19 年 4 月	Materials Research Society 2007 Spring Meeting, DD16.40	Takashi Hirate, Hiroshi Miyashita and Tomomasa Satoh	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Effects of Al Doping to ZnO Nanorods in Inorganic EL Device including ZnO Nanorods	共著	平成 19 年 9 月	Proceedings of the 27th International Display Research Conference	Tomomasa Satoh, Kazumoto Takizawa, Takumori Shinao and Takashi Hirate	pp.387-390. 頁
Control of Diameter of ZnO Nanorods Grown by Chemical Vapor Deposition with Laser Ablation of ZnO	共著	平成 19 年 9 月	Superlattices and Microstructures, ElsevierVol.42	Takashi Hirate, Takashi Kimpara, Shinichi Nakamura and Tomomasa Satoh	pp.409-414 頁
Coating Characteristics of Aligned ZnO Nanorods with ZnS:Mn Layers by Chemical Vapor Deposition Cooperated with Laser Ablation of Mn	共著	平成 19 年 11 月	Materials Research Society 2007 Fall Meeting, L8.24	Takashi Hirate, Kenta Kakio and Tomomasa Satoh	
Novel Inorganic DC Thin Film Lateral Electroluminescent Devices Composed of ZnO Nanorods and ZnS Phosphor	共著	平成 20 年 12 月	Materials Research Society 2008 Fall Meeting, LL 19-21	Tomomasa Satoh, Yuki Matsuzawa, Hiroaki Koishikawa, Takashi Hirate	
Effects of Laser Ablation on Growth of ZnO/ZnS/ZnO Multilayer Structured Nanorods by Chemical Vapor Deposition	共著	平成 20 年 12 月	Materials Research Society 2008 Fall Meeting, LL 13-13	Takashi Hirate, Hiroaki Koisikawa, Makoto Yugi, Takuya Kumada, Yuki Matsuzawa and Tomomasa Satoh	
その他					
ITO/ZnS:Mn/w-ZnO/p-Si 型 DCEL 素子の絶縁破壊電圧における ZnO ウィスカー形状の影響	共著	平成 15 年 9 月	電子情報通信学会エレクトロニクスソサイエティ大会（C-6-9）		
CVD-ZnS:Mn 膜の発光スペクトルへの成膜温度の影響	共著	平成 15 年 9 月	電子情報通信学会エレクトロニクスソサイエティ大会（C-6-8）		
CVD 法による ZnO の成長への p-Si 基板表面処理の影響	共著	平成 15 年 9 月	電子情報通信学会エレクトロニクスソサイエティ大会（C-6-7）		
CVD 法による ZnO 成長形状への成長温度の影響	共著	平成 16 年 3 月	第 51 回応用物理学関係連合講演会（29a）		9-5 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
ZnO ナノロッドをバッファ層として用いた直流 EL 素子に関する一検討	共著	平成 16 年 3 月	第 51 回応用物理学関係連合講演会（29 p）		13-18 頁
レーザアブレーションにより Ce をドープした CVD-ZnS:Ce 膜の発光特性	共著	平成 16 年 3 月	第 51 回応用物理学関係連合講演会（29 p）		13-19 頁
減圧熱 CVD-ZnO 成長におけるレーザアブレーション不純物の影響	共著	平成 16 年 3 月	電子情報通信学会総合大会（C-6-7）		
(Zn,Mn)S 系蛍光薄膜からの青色 EL 発光	共著	平成 16 年 9 月	電子情報通信学会エレクトロニクスソサイエティ大会（C-9-3）		
ZnO ナノロッドの電界放出特性における熱処理効果	共著	平成 16 年 9 月	電子情報通信学会エレクトロニクスソサイエティ大会（C-9-2）		
ITO/ZnS:Mn/ZnO-nanorods/p-Si 型直流電界発光素子の電流制限機構に関する検討	共著	平成 16 年 9 月	電子情報通信学会エレクトロニクスソサイエティ大会（C-9-1）		
ナノ構造 ZnO 成長における成長温度の影響	共著	平成 16 年 9 月	電子情報通信学会エレクトロニクスソサイエティ大会（C-6-2）		
Mn をドーピングしたナノロッド ZnO の成長過程	共著	平成 16 年 9 月	電子情報通信学会エレクトロニクスソサイエティ大会（C-6-1）		
酸素流量の CVD-ZnO ナノ構造形状への影響	共著	平成 17 年 3 月	電子情報通信学会総合大会（C-6-5）		
レーザアブレーション法を併用した CVD 法による ZnO ナノロッド成長におけるレーザアブレーション時間の影響	共著	平成 17 年 4 月	第 52 回応用物理学関係連合講演会（1p-ZN-8）		
減圧熱 CVD 法による ZnO ナノロッド成長における Mn ドーピング時間の影響	共著	平成 17 年 4 月	第 52 回応用物理学関係連合講演会（1p-ZN-7）		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
ZnO ナノロッドの FE 特性における Mn ドーピングによる表面改質効果	共著	平成 17 年 9 月	電子情報通信学会エレクトロニクスソサイエティ大会（C-6-9）		
CVD-ZnO ナノロッド成長における Mn ドーピングの効果	共著	平成 17 年 9 月	電子情報通信学会エレクトロニクスソサイエティ大会（C-6-8）		
Mn-Si-O 系の発光スペクトル	共著	平成 17 年 9 月	電子情報通信学会エレクトロニクスソサイエティ大会（C-6-7）		
電界発光素子における ZnO ナノロッドの挿入による低電圧駆動化	共著	平成 17 年 9 月	電子情報通信学会エレクトロニクスソサイエティ大会（CS-5-6）		
２段階成長による高配向 ZnO ナノロッドの細径化	共著	平成 18 年 3 月	電子情報通信学会総合大会（C-6-）		
DC 駆動型無機電界発光素子における Ni 層の挿入による発光領域の均一化	共著	平成 18 年 3 月	電子情報通信学会総合大会（C-6-）		
ZnO ナノロッドを挿入した AC 駆動型無機電界発光素子の特性	共著	平成 18 年 3 月	電子情報通信学会総合大会（C-6-）		
CVD-ZnO ナノロッド成長における Mn レーザアブレーションの効果	共著	平成 18 年 9 月	電子情報通信学会エレクトロニクスソサイエティ大会（C-6-３）	平手孝士、橋本敦士、滝澤和元、佐藤知正	
ZnO ナノロッドの CVD 成長前の ZnO レーザアブレーションの効果	共著	平成 18 年 9 月	電子情報通信学会エレクトロニクスソサイエティ大会（C-6-２）	滝澤和元、池本竜一、佐藤知正、平手孝士	
Al ドープした ZnO ナノロッドを挿入した AC 駆動型無機電界発光素子	共著	平成 19 年 3 月	電子情報通信学会総合大会（C-6-6）	佐藤知正、志直卓典、平手孝士	
ZnO ナノロッドを挿入した AC-EL 素子の電気的特性	共著	平成 19 年 9 月	電子情報通信学会エレクトロニクスソサイエティ大会（C-6-1）	滝澤　和元、佐藤 知正、志直 卓典、平手 孝士	
ZnO ナノロッド上への ZnS/ZnO 成長	共著	平成 20 年 3 月	電子情報通信学会総合大会（C-6-6）	平手孝士・熊田拓也・小石川浩章・佐藤知正	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
ZnO ナノロッドの CVD 成長前のレーザアブレーション時の Zn 蒸気供給の効果	共著	平成 20 年 3 月	電子情報通信学会総合大会（C-6-5）	佐藤知正・鐘ヶ江卓思・松澤友紀・平手孝士	
ZnO ナノロッドを組み入れた横方向電圧印加型直流 E L デバイス	共著	平成 20 年 9 月	電子情報通信学会エレクトロニクスソサイエティ大会（C-6-4）	松澤友紀・北田浩美・佐藤知正・平手孝士	
ZnO ナノロッド上への Zn(O1-xSx) 成長	共著	平成 20 年 9 月	電子情報通信学会エレクトロニクスソサイエティ大会（C-6-3）	小石川浩章・柚木　真・福田真人・上田健寛・佐藤知正・平手孝士	
ZnO ナノロッド上への ZnS 成長	共著	平成 21 年 3 月	電子情報通信学会総合大会（C-6-5）	小石川浩章・柚木　真・佐藤知正・平手孝士	
横方向電圧印加型 DCEL デバイスの作製における転写とエッチングの導入	共著	平成 21 年 3 月	電子情報通信学会総合大会（C-6-4）	松澤友紀・佐藤知正・平手孝士	

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 62 年～現在に至る	私学振興財団の補助を得て「複合表面分析装置」を導入
平成 2 年 1 月～平成 21 年 3 月	IEEE 学会会員
平成 2 年 1 月～平成 21 年 3 月	電気学会会員
平成 2 年 1 月～平成 21 年 3 月	電子情報通信学会会員
平成 2 年 1 月～平成 21 年 3 月	日本物理学会会員
平成 4 年～現在に至る	私学振興財団の補助を得て「半導体微細加工システム」を導入
平成 12 年 1 月～平成 21 年 3 月	ＳＩＤ会員
平成 12 年 7 月～平成 15 年 6 月	電気学会有機薄膜・分子薄膜及び有機・無機複合膜の機能化調査専門委員会委員
平成 14 年 12 月～平成 21 年 3 月	MRS 会員
平成 15 年 1 月～平成 21 年 3 月	AVS 会員
平成 16 年 4 月～平成 18 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究（C） 2,400 千円 （ZnO ナノロッド・ウィスカの成長制御技術の開発とそのディスプレイへの応用）（研究分担者）

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部電子情報フロンティア学科	職名 教授	氏名 松澤　和光	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
授業評価に関するアンケートの実施	平成 14 年 9 月 1 日 ～現在に至る	後期担当科目「情報処理工学Ⅱ」において、授業評価・要望に関する意見収集のため、学生用メールアドレスを設定。総計数十通を受けて各回の授業運営に反映するとともに、全てに簡単に返信し、講義が一方的形式とならないよう配慮。2 部「電子計算機Ⅱ」でも、ほぼ毎回、紙形式で同様の意見収集を行った。今後の担当授業でも同様に継続する予定。（平成 14 年 9 月 1 日～）
学生とのコミュニケーションを主眼とした新しい授業形態の模索	平成 15 年 4 月 1 日 ～現在に至る	上記実績を踏まえて、新しく企画し開設した担当科目「情報システム基礎」において、毎回の授業アンケート結果を次回の授業中に回答するリクエスト・タイム、および授業初めに「前回までのあらまし」を累積的に要約提示する復習タイムなどを取り入れ、学生とのコミュニケーションを主眼とした新しい授業形態として試行した。この結果、受講者が 100 名を越す多人数の講義ながら（毎回のアンケート等での）学生の評価は高く、期末に実施した「学生による授業評価」でも大半の項目が 4.4 ポイント前後と、学科平均を各 1 ポイント近く上回る高い評価を得た。この授業形態は後期の「情報処理工学Ⅱ」や同 2 部「電子計算機Ⅱ」でも試行して成功を収めており、今後もさらに改善を図っていく予定である。（平成 15 年 4 月 1 日～）
授業支援システムの活用	平成 15 年 9 月 1 日 ～現在に至る	経営工学科内田教授が構築された授業支援システムを、後期担当科目「プログラミング演習」の毎回出席管理に活用している。また、一般教室向けに新たに開発された暗号カード式の出席管理システムを、後期科目「情報処理工学Ⅱ」でも試行的に実施した。今後もできるだけ電子的支援システムの活用を図っていく。（平成 15 年 9 月 1 日～）
学科ヘルプデスクの開設	平成 18 年 4 月 1 日 ～現在に至る	学修上の悩み等を抱える学生向けに、誰でも気軽に相談できる常設の窓口として、ヘルプデスクの開設を学科に提案し採用された。学期中の毎週金曜昼休みに、学生の休憩スペースである 23 号館 1 階ホールに滞在し、学生の相談に乗っている。現在のところ、年に平均して 50 名前後の相談がある。
成績優秀学生の活性化	平成 18 年 10 月 1 日 ～現在に至る	2006 年度のカリキュラム改定により、学力未熟者／学業不振者に対する支援策は充実して来たが、逆に成績優秀者の学修意欲を伸ばし向上心を高める仕組みが不十分であった。そこで、３年次卒業研究配属の際に選出される成績優秀者の活性化策を学科に提案し採用された。具体的には、優秀者の連絡網（メーリングリスト）を作成し、自己学習・啓発や将来進路に関わる情報を流す他、年３回程度、「意識の高い学生向け」の特別セミナーを開催し、当学科 OB の協力を得て学外から社会人講師を招いて、講演を頂いたり、学生との懇親・交流を深めている。

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
2　作成した教科書、教材 「学科案内」の改訂・充実	平成 18 年 4 月 1 日 ～現在に至る	従来から学生に配布していた学科・カリキュラム紹介の小冊子「学科案内」を、2006 年度のカリキュラム改定に際して大幅に改訂した。本冊子は学科所属の全学生に毎年配布しているが、特に新入生の最初の学修ガイダンスで大学での学修の進め方や将来進路の決め方等がよく理解できるように、それらに関する記述を大幅に新設した。その後も毎年、改訂・補強に努めている。
3　教育上の能力に関する大学等の評価 平成 18 年度優秀講義賞	平成 18 年 10 月 11 日	
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他 学科教育プログラム検討委員会における活動	平成 15 年 4 月 1 日 ～現在に至る	学科カリキュラム次期改訂を目指した委員会に参加し、情報系教育の改革案の企画・意見とりまとめ、特別講義Ⅰ・ⅡおよびFOCも含めた導入教育のあり方と改善提案、コース制廃止に伴う専門科目の履修選択法の検討、等を行った。現在は学科再編計画の進行との整合について検討を進めている。（平成 15 年 4 月 1 日～）2006 年度より学科名称を「電子情報フロンティア学科」に変更した。この改称に伴う様々な教育プログラムの改善の検討を行った。改称後もさらに引き続き、改善の検討を進めている。
工学部教育委員会拡大委員としての活動	平成 16 年 10 月 1 日 ～平成 17 年 3 月 31 日	2006 年度からの大学全体の教育改革にあわせて、学科カリキュラムの大幅な改訂を行うべく、教育委員に協力して種々の検討を行った。
学科教育委員としての活動	平成 17 年 4 月 1 日 ～平成 19 年 3 月 31 日	学科における種々の教育活動のとりまとめとして、４月期の新入生および各学年ガイダンスに始まり、３回にわたるFOCやフロンティアセミナーの企画・運営、父母懇談会の対応、オープンキャンパスの企画、９月期の１年次ガイダンス、特別講義の企画・運営、卒業研究の研究室配属、翌年のカリキュラム修正、時間割作成、シラバスのチェック、非常勤講師との連携、卒業研究報告会、原級者・留年者のガイダンス、などを他の教員と連携して実行した。また、工学部の教育委員会に出席し、学科間に跨る教育事項の審議・討論を行い、教育に関わる連絡事項を学科に伝えた。
学修進路支援委員としての活動	平成 17 年 4 月 1 日 ～平成 19 年 3 月 31 日	全学の学修進路支援委員会に工学部代表として参加し、全学に関わる教育関連事項の審議・討論を行った他、キャリア形成科目の導入時（2006 年度から）に設けられたキャリア教育小委員会メンバとしてキャリア教育の在り方を議論した。また、学修進路支援委員会で得られた情報を工学部教育委員会に報告し、そこでの議論結果をフィードバックした。
工学部教育委員長	平成 19 年 4 月 1 日 ～平成 21 年 3 月 31 日	工学部教育委員会を主宰し、学科間に跨る教育関連事項、各科から提議された事項、工学部長から指示された事項などについて、調査・議論・検討し、意見をとりまとめ、工学部長や工学部教授会に答申した。また、時間割やカリキュラム、シラバスなどのうち、各科室間に関わる事項の調整を図った。

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
その他					
松澤研究室におけることば工学のとりくみ	単著	平成 15 年 12 月	人工知能学会第 15 回ことば工学研究会（横浜）		
日記解析による格言返答システム	共著	平成 16 年 3 月	人工知能学会第 16 回ことば工学研究会（長岡）		
「起承転結」構成の物語によるコミュニケーション	共著	平成 16 年 7 月	人工知能学会第 17 回ことば工学研究会（山梨）		
「コミュニケーション知能」に関する工学研究の一提案	共著	平成 16 年 9 月	FIT2004		F-017 頁
読み手の意図に基づいたタイトル生成法	共著	平成 16 年 11 月	人工知能学会第 18 回ことば工学研究会（横浜）		
「話の展開」を推測する方式について	共著	平成 17 年 6 月	第 19 回人工知能学会全国大会,3D3-14		
「話の展開」を推測する方式について	共著	平成 18 年 3 月	人工知能学会第 22 回ことば工学研究会（大阪）		83-86 頁
Ｗｅｂページからの商品知識の獲得	共著	平成 18 年 3 月	人工知能学会第 22 回ことば工学研究会（大阪）		9-13 頁
新聞コーパスからの固有名詞知識の獲得と利用	共著	平成 18 年 3 月	人工知能学会第 22 回ことば工学研究会（大阪）		5-8 頁
係り受け情報を用いた概念ベースの作成	共著	平成 18 年 3 月	人工知能学会第 22 回ことば工学研究会（大阪）		1-4 頁
省資源型Ｂ級機関～まどろみ～	共著	平成 18 年 8 月	人工知能学会第 23 回ことば工学研究会（横浜）	松澤和光、天沼 博、西村拓弥、村上尚司、山本 侑	
ウェブ文書を用いた商品間の類似度算出とキーワード分析	共著	平成 19 年 3 月	人工知能学会第 25 回ことば工学研究会（東京）	西村拓弥、松澤和光	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
ブログを用いた人物紹介キャッチコピーの自動生成	共著	平成 19 年 9 月	FIT2007 第 6 回情報科学技術フォーラム E-039	松田優貴、天沼　博、松澤和光	
ブログ・コミュニケーションの支援に向けて　～人物紹介キャッチコピーの自動生成～	共著	平成 20 年 7 月	人工知能学会第 29 回ことば工学研究会（岩手）	松田優貴、天沼　博、松澤和光	
人物キャッチコピー生成によるブログ・コミュニケーション支援	共著	平成 20 年 10 月	電子情報通信学会 [技術と社会･倫理] 研究会（横浜）SITE2008-29	松田優貴、天沼　博、松澤和光	

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 49 年 4 月～現在に至る	電子情報通信学会会員
昭和 62 年 4 月～現在に至る	情報処理学会会員
平成元年 4 月～現在に至る	日本ファジィ学会会員
平成 5 年 4 月～現在に至る	人工知能学会会員
平成 9 年 1 月～現在に至る	言語処理学会会員
平成 11 年 3 月～平成 16 年 3 月	人工知能学会ことば工学研究会運営委員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部電子情報フロンティア学科	職名 教授	氏名 山口　栄雄	大学院における研究指導当 資格の有無　（㊒・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
2　作成した教科書、教材		なし
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他 高校生向け公開講座	～現在に至る	講師をつとめ、高校生対象の講義を行った。

II　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
Epitaxial growth of group III-nitride semiconductors	共著	平成 15 年 7 月	Research Signpost	Yamaguchi, H. Amano, and I. Akasaki	201-228 頁
Recent Research Developments in Crystal Growth	単著	平成 17 年 6 月	Transworld Research4		105-127 頁
AlGaInN 系および GaInAsSb 系薄膜熱電材料	単著	平成 17 年 7 月	セラミックス 40		522-525 頁
Handbook of Semiconductor Nanostructures and Nanodevices	共著	平成 18 年 7 月	American Scientific Publishers	S. Yamaguchiand A. Yamamoto	325-342 頁
MEMS TECHNOLOGY AND DEVICES	共著	平成 19 年 7 月	PAN STANFORD PUBLISHING	T. Anzai, S. Yamaguchi, and A. Yamamoto	25-28 頁
論文					
Thermoelectric properties of AlInN and AlGaInN prepared by RF-sputtering：Toward a thermoelectric power device	共著	平成 15 年	Appl.Phys.Lett.82, (2003)		2065-2067 頁
A p-n sandwich structure Peltier device with a sharp microtip for cooling/heating micro-objects	共著	平成 20 年 2 月	Electrochemical and Solid-State Letters11	S. Yamaguchi, T. Anzai, and A. Yamamoto	H103-H106 頁
その他					

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
平成 5 年 3 月～現在に至る	応用物理学会会員
平成 10 年 3 月～現在に至る	日本金属学会会員
平成 13 年 4 月～現在に至る	日本応用磁気学会会員
平成 13 年 4 月～現在に至る	日本希土類学会会員
平成 13 年 8 月～現在に至る	京都大学ベンチャービジネスラボラトリー研究助成金
平成 13 年 10 月～現在に至る	泉科学技術振興財団研究助成金
平成 13 年 12 月～現在に至る	Materials Research Society 会員
平成 14 年 4 月～現在に至る	熱電変換研究会会員
平成 14 年 4 月～現在に至る	工学研究所運営委員委員
平成 14 年 7 月～現在に至る	村田学術振興財団助成金
平成 15 年 4 月～現在に至る	日本熱電学会会員
平成 15 年 4 月～現在に至る	成均館大学学術交流検討委員会委員
平成 15 年 4 月～現在に至る	費ノン板硝子材料工学助成金
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究C 一般 3,500 千円 （不純物制御したインジウムアンチモン超格子熱電変換素子の開発）（研究代表者）

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部電子情報フロンティア学科	職名 教授	氏名 渡邉　良男	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
FYS での授業計画	平成 19 年 4 月 1 日 ～平成 19 年 7 月 20 日	経済学部対象の FYS でその授業計画案を作り、実践し、改善を図り、これらの結果を大学の教員に公開した。
電気回路とその演習授業で、演習主体の講義方式を試し、学生からのアンケート結果で効果を検証した。	平成 19 年 9 月 20 日 ～平成 20 年 11 月 30 日	
授業評価に関するアンケートの実施	～平成 20 年 4 月 30 日	電気電子計測Ⅰ・Ⅱについて授業アンケートを実施した。これをもとに学生と懇談会を持ち、学生の将来への希望、授業への要望、学科への要望を調査した。
実験実習テーマの改善	～平成 20 年 4 月 30 日	電気電子実験Ⅱの電力関連実験テーマを全面的に見なおし、廃止、新設を含めて 19 テーマから 9 テーマに大幅な整理・統合を図った。内容をほぼ一新し、新しい技術への学生の理解度向上を図った。
2　作成した教科書、教材		
電気回路講義用プリント教材の作成	平成 19 年 9 月 20 日 ～平成 20 年 11 月	最近の入学生の学力変化に対応できる教科書がない。また近年の教科書はあまりに貧弱になりつつあり、この面からも適切な教材に苦慮している。このため講義用プリント教材を全面的に開発した。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
回路演習で授業を公開した。	平成 19 年 11 月 22 日	工学部の研究授業で授業公開を行い、参観教員で批評会を行った。
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		
工学部教育委員会副委員長としての活動	平成 15 年 4 月 1 日 ～平成 17 年 3 月 31 日	工学部教育委員会副委員長として、2006 年度カリキュラム改訂にかかわる工学部教育改訂につき立案し、委員会審議を通して取りまとめを行った。その成果を 2004 年 2 月に「工学部教育改革答申」として工学部長に提出した。内容は基礎学力の重視、体験学習の積極的採用、メリハリの利いた教育体系の構築の 3 点で構成されている。

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
電気電子情報工学科、専門プログラムの認定連絡責任者	平成 16 年 4 月 ～平成 17 年 5 月	電気電子情報工学科、専門プログラムを日本技術者教育認定機構に認定申請し認定を受けた際の責任者として活動した。
電気電子情報工学科専門プログラムの中間審査連絡責任者	平成 18 年 4 月 ～平成 19 年 6 月	電気電子情報工学科専門プログラムの中間審査を日本技術者認定機構に申請し、その審査責任者として活動した。
電子情報フロンティア学科、教育プログラム検討委員長としての活動	平成 20 年 4 月 1 日	電子情報フロンティア学科の教育プログラム検討委員会でカリキュラム改善活動を行う

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
無電極放電ランプシステム開発の動向	共著	平成 15 年 8 月	照明学会誌 87 巻 8B 号	渡辺良男、吉岡、井上昭浩、野本、清水健一	617-621 頁
微量の酸素を含む窒素ガス中でのバリア放電によるベンゼン分解、	共著	平成 15 年 9 月	電気学会論文誌 A、123 巻 9 号	後藤直彦、栗源英人、工藤聡、渡辺良男	900-906 頁
倍電圧部分平滑複合整流回路の開発、	共著	平成 15 年 12 月	照明学会誌、88 巻 2 号	渡辺良男、苅田卓	71-76 頁
蛍光ランプ用共振型インバータ点灯での電極断線機構ー蛍光ランプ電極の寿命時現象ー	共著	平成 17 年 11 月	照明学会誌 89 巻 11 号	渡辺良男、大石陽、黒川良樹、榎亮次	782-787 頁
バリア放電ランプモデルの検討	共著	平成 19 年 5 月	照明学会誌 91 巻 5 号	渡辺良男、栗本英人、新田喬之	258-265 頁
理科離れは止めることができるか？	単著	平成 20 年 11 月	工学教育 56,（6）		
その他					
Phenomena on Electrodes of Compact Fluorescent Lamps at End-of-Life,	共著	平成 15 年 6 月	16th International Symposium on Plasma Chemistry (ISPC 16), Po5.43		
無電極放電ランプシステム開発の動向、	共著	平成 15 年 8 月	照明学会誌、87 巻 8B 号		617-621 頁
蛍光ランプ用フィラメント電極の現象、	共著	平成 15 年 8 月	照明学会全国大会 (仙台)、No.16		
バリア放電特性解析モデルの検討、	共著	平成 15 年 8 月	第 64 回応用物理学会学術講演会 (福岡)、30a-Q-2		

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Dimensional Measurement System based on Digital Image and Laser Meter,	共著	平成 15 年 8 月	SICE Annual Conference 2003 in Fukui, 計測自動制御学会		96-99 頁
蛍光ランプ用フィラメント電極の寿命時現象、	単著	平成 15 年 10 月	神奈川県産学公交流研究会、No.1614		54 頁
Numerical Model for Dielectric Barrier Discharge	共著	平成 16 年 7 月	Proceedings of the 10th International Symposium on the Science & Technology of Light Sources,		043 頁
蛍光ランプ電極の寿命時現象	共著	平成 16 年 8 月	第 37 回照明学会全国大会、No.6		No.6 頁
Laser Interferometric Measurement of Discharges in Air using an Acoust-optic Laser Deflector	共著	平成 16 年 9 月	17th Europhysics Conference on Atomic and Molecular Physics of Ionized Gases,		L-20 頁
バリア放電ランプの電圧・電流特性モデル	共著	平成 17 年 3 月	電気学会全国大会		No.1-066 頁
高周波点灯での調光時電極特性	共著	平成 17 年 7 月	第 37 回照明学会全国大会		6 頁
Modelling for Characteristics of Dielectric Barrier Discharge Lamp	共著	平成 17 年 8 月	17th International Symposium on Plasma Chemistry	Watanabe, Kurimoto, Nitta	417-419 頁
複数の移動障害物を考慮した移動ロボットの行動獲得	共著	平成 17 年 9 月	第 15 回インテリジェント・システム・シンポジウム	山口智浩、渡辺良男	417-418 頁
光の研究コミュニティー技術進展を支える光関連研究会/研究グループ、照明学会光の発生・関連システム研究専門部会	単著	平成 18 年 6 月	月刊オプトロニクス 6 月号		158-159 頁
Ionization Coefficient of the Model for Dielectric Barrier Discharge Lamp	単著	平成 18 年 7 月	8th APCPST		25 頁
Visualization of density variation accompanying pre-breakdown phenomena using shadowgraphy	共著	平成 18 年 7 月	18th ESCAMPIG	Ohkuma, Fukuchi, Nemoto, Watanabe	361-362 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
ラマン散乱法を用いた準安定励起窒素分子の計測	共著	平成 18 年 8 月	電気学会基礎材料部門大会 XVII-5	大熊、佐久間、渡辺、福地、根本	
バリア放電モデルの検討	共著	平成 18 年 10 月	第 21 回光源物性とその応用研究会 PE-06-4	渡辺良男	
ラマン散乱法を用いた大気圧放電中における N2(A3・u+) の計測	共著	平成 18 年 11 月	電気学会プラズマ研究会	大熊、佐久間、渡辺、福地、根本	
磁性体を用いた磁界結合型無電極放電ランプ	共著	平成 19 年 3 月	2007 年電気学会全国大会講演集 1,（134）	佐久間、渡辺良男	
Glass Melting Phenomena of Compact Fluorescent Lamps at End-of-Life	共著	平成 19 年 5 月	Proceedings of the 11th International Symposium on the Science & Technology of Ligt SorcesP-043	Watanabe, Kinoshita	
蛍光ランプ電極支持線根元部での放電スポット形成現象	単著	平成 19 年 8 月	照明学会全国大会 No.1		
磁性体方式磁界結合型無電極放電の励磁コイル巻数依存性	共著	平成 19 年 9 月	第 68 回応用物理学会秋季学術講演会 6a-ZD-1	佐久間智之	
理科離れに対して、我々は何をすべきか、何ができるか	単著	平成 19 年 10 月	照明学会誌 91,（10）		666-671 頁
技術者を社会にアピールする資格制度の創立を！	単著	平成 20 年 2 月	映像情報メディア学会誌 62,（2）		1 頁
磁性体方式磁界結合型無電極放電特性のコイル巻数依存性	共著	平成 20 年 3 月	電気学会全国大会 No.1-136	佐久間智典	
Dependence of Discharge Characteristics of Inductively Coupled Electrodeless Discharge on the Turns of the Excitation Coil	共著	平成 20 年 6 月	35th IEEE International Conference on Plasma Science (ICOPS2008)2P82	Yoshio Watanabe, Tomonori Sakuma	p.287 頁
レーザレンジセンサを用いた複数の移動物体認識	共著	平成 20 年 8 月	電気学会 D 部門大会 2－26	山口智浩、渡辺良男	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
6 足ロボットの段差乗り越え制御、電気学会産業応用部門大会	共著	平成 20 年 8 月	電気学会産業応用部門大会 Y-74	中村祐輔、山口智浩、渡辺良男	
Dependence of Moving striation on the Operating Frequency in a Fluorescent Lamp	単著	平成 20 年 10 月	9th Asia-Pacific Conference on Plasma Science and Technology (APCPST)LD18		
技術者教育が直面している問題と学会の課題	単著	平成 20 年 11 月	電気関係学会関西支部連合大会これからの照明教育シンポジウム		

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 44 年 2 月～現在に至る	日本電気学会会員
昭和 44 年 5 月～現在に至る	日本照明学会会員
平成 4 年 4 月～現在に至る	日本応用物理学会会員
平成 7 年 6 月～平成 16 年 3 月	電気学会全国大会委員（A 部門) 委員
平成 8 年 6 月～現在に至る	照明学会、光の発生・関連システム研究専門部会会員
平成 13 年 6 月～現在に至る	日本学術振興会「次世代の情報通信用スイッチング電源システム」第 173 委員会委員
平成 15 年 6 月～平成 16 年 5 月	日本技術者教育認定機構審査オブザーバ
平成 17 年 6 月～平成 18 年 5 月	日本技術者教育認定機構審査委員
平成 18 年 6 月～平成 20 年 12 月	日本照明学会上級照明士設立・ＣＰＤ教育プログラム実行委員会委員長
平成 19 年 5 月～平成 19 年 10 月	経済産業省地域イノベーション創出研究開発事業、地域技術開発支援事業事前評価委員
平成 19 年 6 月～平成 20 年 5 月	日本技術者教育認定機構 2007 年度審査長
平成 20 年 5 月～平成 20 年 10 月	経済産業省地域イノベーション創出研究開発事業、地域技術開発支援事業事前評価委員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部電子情報フロンティア学科	職名 准教授	氏名 阿部　晋	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 20 年 4 月 ～平成 20 年 8 月	（授業科目：計測工学）前年のアンケート評価を受け、板書時の字の大きさ等に気を使った。講義では学生実験が並列に進行しているので、計測器の原理、具体的な使用方法等を説明し、講義の内容と実験がリンクするように改善した。
2　作成した教科書、教材 資料の配布	平成 20 年 4 月 ～平成 20 年 9 月	板書では時間の掛かる図・表等はあらかじめ配布し、その用紙に書き込めるように改善した。
3　教育上の能力に関する大学等の評価 2008 年度前期授業評価アンケート結果	平成 20 年 4 月 ～平成 20 年 8 月	（授業科目：計測工学、電気電子計測 1）計測工学は 2 年生対象で選択科目。電気電子計測は 3 年、4 年対象の必須科目である。2 科目のアンケートで、「熱意を感じた」かに関し、計測工学では「はい」および「ほぼはい」が 72 %、電気電子計測 1 では 90 %の学生に評価された。板書では、説明終了後まとめるが、その進度が速かったかもしれないとの反省もある。総合的には「はい」、ほぼはい」が電気電子計測 1 で 65 %程度であった。
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
Modulation of I-V curves of Nb single and double junctions by 2D scan of magnetic field	共著	平成 15 年	Physica B329-333 (2003)		
大バルクハウゼン効果を用いた磁気薄膜センサの作製	共著	平成 15 年 4 月	日本応用磁気学会誌 Vol.27,4 月,2003		406-409 頁
Magnetic field dependence of Josephson current by applying the external magnetic field perpendicular to the Josephson junction	共著	平成 17 年 5 月	Journal of Applied Physics, Vol.97, No.10		10B116-1-3 頁
Hexagnal symmetry of magnetic field dependence of Josephson current through triangle shape superconducting junctions	共著	平成 18 年	Journal of Physics:Conference Series 43,	A.Nakayama, S.Abe, T.Shimoyama, N.Watanabe, Hsu Jui-Pang, Y.Okabe	1092-1095 頁
The measurement of Josephson current of double Josephson junction	共著	平成 18 年	Journal of Physics:Conference Series 43,	K.Aizawa, A.Nakayama,S.Abe, N.Watanabe	1088-1091 頁
Influence of the Nb middle layer on the current a double Josephson junction	共著	平成 18 年 5 月	Ｓｕｐｅｒｃｏｎｄｕｃｔｏｒ Ｓｃｉｅｎｃｅ ａｎｄ Ｔｅｃｈｎｏｌｏｇｙ、Ｖｏｌ．19	K.Aizawa, A.Nakayama, S.Abe, N.Watanabe	217-220 頁
Constant Velocity of Domain Wall Propagation Independent of Applied Field Strength in Vicalloy Wire	共著	平成 19 年 6 月	IEEE Trans. on Magnetics,Vol.43,No.6,2007,	H.Tanaka,T.Yamada,Y.Takemura,S.Abe,et al.	2397-2399 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Influence of trapped magnetic flux quantum on two-dimensional magnetic field dependence of a Josephson junction	共著	平成 19 年 6 月	Journal of Applied Physics, Vol. 101, Issue 9,	N.Watanabe, A.Nakayama, S.Abe	09G105-09G105-3 頁
Al(C12TCNQ+BEDT-TTF)LB 膜（有極性）/Au からの電力発生	共著	平成 20 年 2 月	電気学会論文誌 Vol.128-A, No.2,	日野、阿部，串田	86-90 頁
Ａｌ/無極性Ｌｂ膜/Ａｕから放出される電流、電圧および電力の解析	共著	平成 20 年 2 月	電気学会論文誌 Vol.128-A, No.2,	日野、阿部，串田	81-85 頁
The shape-dependency of two-dimensional magnetic field dependence of a Josephson junction	共著	平成 20 年 5 月	Journal of Applied Physics, Vol. 103,	N.Watanabe, A.Nakayama, S.Abe, S.Kawai, Y.Nishi, K.Masuda	07C707-07C707-3 頁
その他					
Modulation of Current - Voltage haracteristics of Nb Single and Double Junctions by Two-Dimensional Scan of the External Magnetic Field	共著	平成 15 年	6th European Conference on Applied Superconductivity		
複合磁気センサ小型化に向けた磁気ワイヤ長に関する検討	共著	平成 15 年 9 月	日本応用磁気学会		
磁束トラップによる Nb 接合の超伝導電流の２次元磁場特性	共著	平成 15 年 9 月	電子通信学会全国大会 (新潟)		
外部磁場の二次元走査によるダブルバリア超伝導接合の超伝導電流の変調	単著	平成 15 年 9 月	電子通信学会全国大会（新潟）		
大バルクハウゼン効果を用いた薄膜磁気センサの試作	共著	平成 15 年 9 月	電気学会研究会フィジカルセンサ研究会 PHS-03-3		
大バルクハウゼン効果を用いた薄膜磁気センサの作製 Ⅱ	共著	平成 15 年 9 月	神奈川県産学交流研究会、平成 15 年 9 月 No.3567		

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
外部磁場の二次元走査による中間層膜厚の異なるダブルバリア超伝導接合の評価	共著	平成 16 年 3 月	応用物理学会大会（東京工科大学）		
中間層膜厚の異なるダブルバリア超伝導接合の同時製作と外部磁場の二次元走査による接合評価	共著	平成 16 年 3 月	電子通信学会全国大会（東工大）		
超伝導薄膜に垂直な外部磁界印加によるジョセフソン接合の Ic-H 特性	共著	平成 16 年 3 月	電子通信学会全国大会（東工大）		
ダブル接合ジョセフソン素子の中間層 Nb が超伝導電流に与える影響	共著	平成 16 年 7 月	応用物理学会		
超伝導薄膜に垂直な外部磁界印加によるジョセフソン電流の磁界依存性	共著	平成 16 年 7 月	応用物理学会		
ダブル接合ジョセフソン素子の超伝導電流に対する中間層 Nb の厚さの影響	共著	平成 16 年 9 月	電子情報通信学会		C8-16 頁
ジョセフソン接合に垂直な外部磁界印加によるジョセフソン電流の磁界依存性	共著	平成 16 年 9 月	電子情報通信学会		C8-15 頁
ひねりバイカロイ線を用いた複合磁気センサの励磁条件の検討	共著	平成 16 年 9 月	日本応用磁気学会		
Influence of Film Thickness of Middle Nb Layer on the Superconducting Current in Double Josephson Junction	共著	平成 16 年 11 月	49th Conference on Magnetism and Magnetic Materials		HU-05 頁
Magnetic field dependence of Josephson current by applying the external magnetic field perpendicular to the Josephson junction	共著	平成 16 年 11 月	49th Conference on Magnetism and Magnetic Materials		HU-04 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Hysteresis of Josephson Currents through Superconducting Junctions by Applying the External Magnetic Field Perpendicular to Niobium Electrodes	共著	平成 17 年 1 月	2005 Japan-Taiwan Symposium on Superconductive		
ダブル接合ジョセフソン素子の超伝導電流の 2 次元磁場変調特性	共著	平成 17 年 3 月	第 52 回応用物理学関係連合講演会		
ジョセフソン接合に垂直な外部磁界印加によるジョセフソン電流のヒステリシス	共著	平成 17 年 3 月	第 52 回応用物理学関係連合講演会		
ジャセフソン接合を流れる電流の 2 次元磁界特性	共著	平成 17 年 3 月	第 52 回応用物理学関係連合講演会		
ダブル接合ジョセフソン素子の 2 次元磁場変調特性	共著	平成 17 年 3 月	電子情報通信学会 2005 年総合大会		C-8-13 頁
ジョセフソン接合に垂直な外部磁界印加による Ic-H 特性のヒステリシス	共著	平成 17 年 3 月	電子情報通信学会 2005 年総合大会		C-8-12 頁
Hysterersis in Josephson Current by Magnetic Flux Quantum	共著	平成 17 年 4 月	THE 2005 IEEE INTERNATIONAL MAGNETIC CONFERENCE		EX-09 頁
Hexagonal Symmetry of Magnetic Field Dependence of Josephson Current Through Triangle Shape Superconducting Junctions	共著	平成 17 年 9 月	7th European Confeerence Applied Superconductivity		MO-P1-154 頁
The measurement of Josephson current of double Josephson junction	共著	平成 17 年 9 月	7th European Confeerence on Applied Superconductivity		MO-P1-146 頁
The influence of the difference of the thickness of Nb middle layer upon the current-voltage characteristics of the double Josephson junctions	共著	平成 17 年 9 月	10th International Superconductive Electronics Conference		P-S.03 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Hysteresis Phenomena of Josephson Current Through Superconducting Junctions Obtained by Three Dimensional Scanning of External Magnetic Field	共著	平成 17 年 9 月	10th International Superconductive Electronics Conference		P-S.02 頁
[国際会議]Influence of trapped magnetic flux quantum on two-dimensional magnetic field dependence of a Josephson junction	共著	平成 19 年 1 月	10TH JOINT MMM/INTERMAG CONFERENCE, EP-10	N.Watanabe, A.Nakayama, S.Abe	
[国内発表] 接合形状によるジョセフソン接合の二次元磁界変調特性の変化	共著	平成 19 年 9 月		渡邉騎通，中山明芳，阿部晋，河合翔，鶴岡茂紀，西洋平，増田浩司，須田光紀	
[国内発表] ジョセフソン接合の二次元磁界変調特性の接合形状依存性	共著	平成 19 年 9 月		渡邉騎通, 中山明芳, 阿部晋, 河合翔, 鶴岡茂紀, 西洋平, 増田浩司	
[国際会議]Two-dimensional Magnetic Field Dependence of Current-Voltage Characteristics of Rectangular, Hexagonal and Triangle Shape Superconducting Junctions and DC-SQUIDs	共著	平成 19 年 9 月	8th European Conference on Applied Superconductivity, 0491	A.NAKAYAMA, N.WATANABE, S.ABE, Y.NISHI, Y.OKABE	
[国際会議]Modulation Characteristics of a Josephson Junction by Applying the Magnetic Field Perpendicular to the Junction Plane	共著	平成 19 年 9 月	8th European Conference on Applied Superconductivity, 0490	N.Watanabe, A.Nakayama, S.Abe, Y.Nishi, K.Masuda, M.Suda	
[国際会議]Modulation characteristics of a Josephson junction by three-dimensional scan of the magnetic field parallel and perpendicular to the plane of junction	共著	平成 19 年 10 月	2007 China-Japan Joint Meeting on Superconductor Electronics	N.Watanabe, A.Nakayama, S.Abe, Y.Nishi, K.Masuda, M. Suda	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
[国際会議]The shape-dependency of two-dimensional magnetic field dependence of a Josephson junction	共著	平成19年11月	52nd Magnetism and Magnetic Materials Conference,HQ-05	N.Watanabe, A.Nakayama,S.Abe, S.Kawai, Y.Nishi, K.Masuda	
[国内発表] 振動試料型磁力計による Nb 超伝導薄膜の磁束分布の測定	共著	平成 20 年 3 月		渡邉騎通，中山明芳，阿部晋，西洋平，増田浩司，須田光紀	
[国内発表] ジョセフソン電流の垂直磁界依存性と振動試料型磁力計による Nb 超伝導薄膜の磁束の測定	共著	平成 20 年 3 月		渡邉騎通，中山明芳，阿部晋，西洋平，増田浩司，須田光紀	

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 45 年～現在に至る	応用物理学会会員
昭和 45 年～現在に至る	電気学会会員
昭和 45 年～現在に至る	電子通信学会会員
昭和 45 年～現在に至る	日本応用磁気学会会員
平成 12 年 5 月～現在に至る	電気材料標準化委員会委員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部電子情報フロンティア学科	職名 准教授	氏名 猪野　朋敦	大学院における研究指導当 資格の有無　（㊒・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 学生の理解を増すための授業方法改善の試み	平成 14 年 4 月 1 日	「電気回路 I、電気回路 II、電力工学 I（２部）」：授業評価アンケート結果を受け、授業中に学生がノート作成に忙殺されず授業内容を理解することに集中できるよう、授業内容をパワーポイントで作成し、毎回、講義資料として配布する等、授業運営の改善を行った。なお、配布資料は重要まとめ部分、演習問題解答部分は白紙とし、学生自身に記入させることで集中力を持続できるよう工夫した。（現在に至る）
2　作成した教科書、教材 「電気回路 I、電気回路 II」の教材作成	平成 14 年 4 月 1 日	電気回路 I、電気回路 II は複数クラス開講かつ複数の教員が担当しており、開講年度、クラスにより使用教科書が異なる。このため、シラバス記載の到達目標および授業内容に即した統一テキストの作成を目指し、これをパワーポイントで作成した。これらは毎回の授業で講義資料（１講義分、24 シート程度）として配布した。（現在に至る）
「電気回路演習」の教材作成	平成 15 年 4 月 1 日	学科の設定した到達目標に即した演習問題を収録した問題集を作成することを目指し、単元毎に問題解決に必要な必須事項と演習問題を配置した電気回路演習テキスト（A4, 42 ページ）を作成、学生に配布した。この科目は複数クラス、複数教員の開講科目であるため担当教員へも参考のため配布した。（現在に至る）
「回路設計のスキル I、回路設計のスキルＩＩ」の教材作成	平成 19 年 4 月 1 日	これらの科目は 2006 年度改定教育プログラム、新設計の電気回路系科目であり、複数クラス、複数教員による開講科目である。このため開講年度、クラスで使用教科書が異なる。そこで、シラバス記載の到達目標および授業内容に即したテキストを新たに作成し、毎回の授業で講義資料として学生に配布した（１講義分 24 シート程度）。また、シラバスに即した授業内容の統一を図るため、参考資料として一部の担当教員に配布した。
3　教育上の能力に関する大学等の評価 工学部電子情報フロンティア学科　優秀講義賞受賞	平成 20 年 4 月	工学部ウェッブアンケート調査（調査項目：(1) 学びがいがあり、達成感を感じた講義、(2) 講義法および教材活用法に優れていると思える講義、(3) 教員の教育熱意が強く感じられる講義）を参考とした 2007 年度後期工学部優秀講義賞を受賞した。
4　実務の経験を有する者についての特記事項		

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
		なし
5　その他		
工学部ＪＡＢＥＥ小委員会委員	平成 17 年 4 月 1 日	学科ＪＡＢＥＥプログラムの改善 PDCA サイクルの一貫として、授業実施報告書を収集、また、JABEE プログラム履修者名簿の管理、JABEE プログラム修了認定書類等のエビデンスの収集整理等、学科教育プログラムの改善活動を行った。（現在に至る）
工学部安全委員会　高電圧高圧ガス部会長	平成 17 年 4 月 1 日	高電圧、高圧ガスを扱う教育・研究活動の安全に資するため、部会委員と協力して現状アンケート調査を実施、また実験安全マニュアルを整備する等、安全活動を行った。特に高圧ガス貯蔵安全管理については、高圧ガス保安法および同施行規則に基づく貯蔵施設の安全確保のための提言を行った。（現在に至る）
電子情報フロンティア学科プログラム検討委員会委員	平成 18 年 4 月 1 日	2006 年 4 月実施の学科教育プログラムの検証・評価活動に参加し、次期プログラムでの改定内容を検討した。（現在に至る）

II　研究活動					
著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び 巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
その他					
電気電子情報工学科の JABEE 受審報告	共著	平成 18 年 2 月	神奈川大学工学部報告 第 44 号	猪野朋敦、渡辺良男	32-37 頁
ＦＤＴＤ法による短距離送 電線の周波数特性の検討	共著	平成 19 年 3 月	電気学会平成１９年度 電気学会全国大会講演 論文集	今井俊、佐藤裕介、猪野朋敦	p.148 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 45 年 4 月～現在に至る	電気学会会員
昭和 56 年 4 月～現在に至る	IEEE 会員
平成 3 年 11 月～現在に至る	電気設備学会会員
平成 15 年 4 月～現在に至る	電気学会東京支部神奈川支所委員会委員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部電子情報フロンティア学科	職名 准教授	氏名 能登　正人	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 10 年 4 月 1 日 ～現在に至る	（授業科目：「プログラミング言語」および「情報処理のスキル II」）　大学が例年実施する授業評価アンケートに加えて、独自に作成したアンケートを実施し、授業改善に役立てている。
学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 11 年 4 月 1 日 ～現在に至る	（授業科目：「プログラミング言語」および「情報処理のスキル II」）　期末試験の際に、当該科目に関するアンケート（意見，要望，苦情など）を実施し、結果を次年度以降の授業に反映させている。
学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 16 年 4 月 1 日 ～現在に至る	（授業科目：「プログラミング言語」および「情報処理のスキル II」）　2003 年度前期授業評価アンケート評価を受け、自由記述欄に「教室が狭い」という記載が多かったため、適正な規模の授業講堂に変更し、授業の改善を図った。
2　作成した教科書、教材		
オリジナル教材・資料の作成	平成 10 年 10 月 1 日 ～現在に至る	（授業科目：「プログラミング言語演習」および「ユニット演習 I」）　授業内容に適した教材がなかったため，独自に教材を作成した.
Web 上での授業情報提供	平成 13 年 4 月 1 日 ～現在に至る	（授業科目：「プログラミング言語」,「プログラミング言語演習」,「情報処理のスキル II」,「ユニット演習 I」）　Web 上から授業情報を得られるようにしたり，作成した教材（電子ファイル）を Web 上から閲覧・ダウンロードできるようにし，受講生の便宜をはかった.
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
2006 年度後期工学部優秀講義賞	平成 19 年 3 月	学生の意見を参考とした 2006 年度後期工学部優秀講義賞を受賞した.
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
口コミモデルによる情報推薦システム	共著	平成 15 年 5 月	電子情報通信学会技術研究報告（SITE2003-3）	遠藤博人，能登正人	13-18 頁
分散最大制約充足アルゴリズムの分散グラフ色塗り問題による評価	共著	平成 15 年 9 月	情報技術レターズ 2	安藤雅彦，能登正人，豊嶋久道	129-130 頁
Empirical Evaluation of Distributed Maximal Constraint Satisfaction Method	共著	平成 15 年 10 月	Proc. of 2003 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics	M. Ando, M. Noto, H. Toyoshima	4672-4677 頁
A Word-of-Mouth Information Recommender System Considering Information Reliability and User Preferences	共著	平成 15 年 10 月	Proc. of 2003 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics	H. Endo, M. Noto	2990-2995 頁
エージェントの移動性を考慮したエージェント間通信のトラフィック量に関する実験と評価	共著	平成 16 年 3 月	電気学会論文誌 C124, (3)	能登正人，沼澤政信，栗原正仁	904-911 頁
Quantitative Evaluation of Communication Traffic of Mobile Agents in Distributed Constraint Satisfaction Model	共著	平成 16 年 10 月	Proc. of The 2004 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics	H. Endo, M. Noto	3852-3857 頁
Performance Evaluations for Clustered Wireless Ad-Hoc Networks	共著	平成 17 年 7 月	Proc. of The 2005 International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications	Y. Nagamatsu, M. Noto	999-1000 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Communicability Experiments for Different Node Densities in Mobile Ad-Hoc Networks	共著	平成 17 年 7 月	Proc. of The 2005 International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications	J. Arikawa, Y. Nagamatsu, M. Noto	801-802 頁
Experimental Study of Hybrid-Type Distributed Maximal Constraint Satisfaction Algorithm	共著	平成 18 年 1 月	Proc. of The Second IASTED International Conference on Advances in Computer Science and Technology	M. Noto, M. Kurihara	67-72 頁
マルチホップ無線ネットワークにおける階層化通信モデルの構築	共著	平成 18 年 3 月	電子情報通信学会技術研究報告（IN2005-173）	永松大和，松田充敏，能登正人	103-106 頁
Asynchronous Search Algorithm Considering Local Load in Distributed Constraint Optimization Problem	共著	平成 18 年 7 月	Proc. of The 2006 International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications1	D. Hashimoto, M. Matsuda, M. Noto	205-208 頁
Optimization Method for Low-power Flooding of Route Request in Ad-hoc Networks	共著	平成 18 年 7 月	Proc. of The 2006 International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications3	J. Arikawa, M. Matsuda, M. Noto	325-328 頁
周波数割り当て問題における制約違反の分散を考慮した非同期分散最適化アルゴリズム	共著	平成 19 年 3 月	電子情報通信学会技術研究報告（IN2006-198）	橋本大樹，松田充敏，能登正人	107-112 頁
DSR のキャッシュ機能を活かした省電力フラッディング手法	共著	平成 19 年 3 月	電子情報通信学会技術研究報告（IN2006-188）	有川隼，松田充敏，能登正人	49-54 頁
A Search Method for Reducing Local Cost in Distributed Constraint Optimization Problem	共著	平成 19 年 4 月	Proc. of The Third IASTED International Conference on Advances in Computer Science and Technology	M. Noto, D. Hashimoto, M. Matsuda	305-310 頁
省電力のためのアドホックネットワークのフラッディング手法	共著	平成 20 年 5 月	電子情報通信学会論文誌 J91-D,（5）	能登正人，有川隼，松田充敏	1252-1260 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
An Efficient Flooding Method in Ad-hoc Networks for Reducing Power Consumption	単著	平成 20 年 10 月	Proc. of The 2008 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics		974-979 頁
An Asynchronous Distributed Optimization Method for Solving Frequency Allocation Problems	共著	平成 21 年 3 月	Proc. of The IASTED International Conference on Advances in Computer Science and Engineering	M. Saito, M. Noto	101-106 頁
その他					
モバイルエージェント間の通信トラフィック量の定量的評価	共著	平成 15 年 9 月	情報科学技術フォーラム（第 2 回）	遠藤博人，能登正人	
分散制約充足モデルにおけるモバイルエージェントの通信トラフィック	共著	平成 16 年 3 月	2004 年電子情報通信学会総合大会	遠藤博人，能登正人	
ハイブリッド型分散制約充足アルゴリズムの開発	共著	平成 16 年 3 月	情報処理学会全国大会（第 66 回）	安藤雅彦，能登正人，豊嶋久道	
パーソナルエージェント間交渉を用いた座席予約システム構築のためのシミュレーション実験	共著	平成 16 年 5 月	情報処理北海道シンポジウム 2004	永松大和，能登正人	
ノード負荷を考慮したモバイルエージェント間通信の制約充足モデルにおける評価	共著	平成 16 年 5 月	情報処理北海道シンポジウム 2004	遠藤博人，能登正人，豊嶋久道	
エージェント間交渉によるユーザ指向型座席予約システムの提案	共著	平成 16 年 9 月	情報科学技術フォーラム（第 3 回）	永松大和，能登正人	
分散グラフ色塗り問題によるモバイルエージェント通信の実験的評価	共著	平成 16 年 9 月	情報科学技術フォーラム（第 3 回）	遠藤博人，能登正人，豊嶋久道	
情報演習科目への習熟度別クラス編成導入の是非	単著	平成 17 年 3 月	第 7 回知的＆新世代ソフトウェア・ワークショップ		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
ノードのクラスタリングによる無線アドホックネットワークの通信性能に関する実験	共著	平成 17 年 3 月	2005 年電子情報通信学会総合大会	永松大和，能登正人	
動的制約ネットワークモデルにおけるモバイルエージェントの通信トラフィック	共著	平成 17 年 3 月	2005 年電子情報通信学会総合大会	遠藤博人，能登正人，豊嶋久道	
マルチプラットフォームに対応した非文字データ管理モデルの提案	共著	平成 17 年 3 月	情報処理学会全国大会（第 67 回）	松尾剣冴，宇津木敏人，能登正人	
XML を用いた非文字ディジタルアーカイブの構築	共著	平成 17 年 3 月	情報処理学会全国大会（第 67 回）	穂苅正浩，宇津木敏人，能登正人	
動的無線アドホックネットワークにおけるノード密度による通信可能性に関する実験	共著	平成 17 年 3 月	情報処理学会全国大会（第 67 回）	有川隼，永松大和，宇津木敏人，能登正人	
ランダムウォークアドホックネットワークモデルにおける通信性能実験	共著	平成 17 年 9 月	情報科学技術フォーラム（第 4 回）	有川隼，能登正人	
クラスタモデルを導入したアドホックネットワークの評価実験	共著	平成 17 年 9 月	情報科学技術フォーラム（第 4 回）	永松大和，能登正人	
アドホックネットワークのルートディスカバリーにおける省電力フラッディング手法	共著	平成 18 年 3 月	情報処理学会全国大会（第 68 回）	有川隼，松田充敏，能登正人	
分散制約最適化問題における局所負荷軽減のための非同期分散探索手法	共著	平成 18 年 3 月	情報処理学会全国大会（第 68 回）	橋本大樹，能登正人	
アドホックルーティングにおける省電力フラッディング手法の提案	共著	平成 18 年 3 月	第 8 回知的＆新世代ソフトウェア・ワークショップ	有川隼，能登正人	
分散制約最適化問題における局所負荷を考慮した探索アルゴリズム	共著	平成 18 年 3 月	第 8 回知的＆新世代ソフトウェア・ワークショップ	橋本大樹，能登正人	
非同期分散最適化アルゴリズムに基づく負荷分散のための探索手法	共著	平成 18 年 9 月	情報科学技術フォーラム（第 5 回）	橋本大樹，松田充敏，能登正人	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
アドホックネットワークにおける無線端末の省電力に向けたルートディスカバリー方式の提案	共著	平成 18 年 9 月	情報科学技術フォーラム（第 5 回）	有川隼，松田充敏，能登正人	
オントロジーを使用したプログラム開発支援システムの提案	共著	平成 19 年 3 月	第 10 回知的＆新世代ソフトウェア・ワークショップ	斎藤倫紀，松田充敏，能登正人	
階層化 Enhanced Mobile IP におけるパケット通信処理の効率化	共著	平成 19 年 3 月	第 10 回知的＆新世代ソフトウェア・ワークショップ	斉藤隼人，松田充敏，能登正人	
ファイル属性を考慮した P2P ネットワークシステム	共著	平成 19 年 3 月	2007 年電子情報通信学会総合大会	下川貴由，松田充敏，能登正人	
転送ノード削減のためのアドホックマルチキャストルーティングプロトコル	共著	平成 19 年 3 月	2007 年電子情報通信学会総合大会	澤田隼人，松田充敏，能登正人	
追跡問題における学習残エントロピーを用いた Profit Sharing	共著	平成 20 年 3 月	2008 年電子情報通信学会総合大会	新井隼人，能登正人	
車車間アドホック通信を用いた衝突回避システムの提案	共著	平成 21 年 3 月	情報処理学会全国大会（第 71 回）	松井丈弥，能登正人	
分散制約最適化問題における局所負荷分散手法の提案	共著	平成 21 年 3 月	情報処理学会全国大会（第 71 回）	斎藤倫紀，能登正人	

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
平成 4 年 4 月～現在に至る	情報処理学会会員
平成 6 年 3 月～現在に至る	日本知能情報ファジィ学会（旧日本ファジィ学会）会員
平成 6 年 4 月～現在に至る	電子情報通信学会会員
平成 9 年 4 月～現在に至る	人工知能学会会員
平成 9 年 4 月～現在に至る	日本ソフトウェア科学会会員
平成 14 年 6 月～現在に至る	電気学会会員
平成 16 年 4 月～平成 21 年 3 月	文部科学省（ハイテク・リサーチ・センター整備事業） 23,500 千円 （チップ上に広がる人間環境系を支える知能集積技術）（研究分担者）
平成 16 年 6 月～平成 20 年 3 月	（受託研究）文部科学省（21 世紀 COE プログラム）「人類文化研究のための非文字資料の体系化」
平成 18 年 5 月～現在に至る	電子情報通信学会論文誌査読委員査読委員
平成 18 年 7 月～現在に至る	Member of the International Program Committee, IASTED International Conference on Advances in Computer Science and Technology 国際プログラム委員
平成 18 年 11 月～現在に至る	Reviewer of the IEEE Industrial Electronics Society 査読委員
平成 20 年 3 月～現在に至る	Organizer of the Special Session on Intelligent Media and New-Generation Software, The 2008 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics オーガナイザー

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部電子情報フロンティア学科	職名 助教	氏名 土屋　健伸	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
実験データのＰＣによる処理	平成 14 年 10 月 1 日 ～現在に至る	受け持ちの実験テーマにおいて、各テーブルにＮｏｔｅ　ＰＣを用意し、データの整理をＰＣ上で行わせた。（平成 14 年 10 月 1 日より実施）
実習授業（実験）の理論データに配布に関するアンケート	平成 14 年 12 月 10 日	データのＷｅｂでの配信についてアンケートを行った。データの双方向の交換手順や、方法の理解の未熟さ、不公平との意見があったため、Ｗｅｂ配信を一時見送った。
PowerPoint を使用した実験実習の概要説明	平成 17 年 4 月 26 日 ～平成 18 年 12 月 5 日	PowerPoint を用いて実験実習の概要と簡単な理論の説明を行った.
FYS に関する授業評価アンケート結果の活用	平成 19 年 9 月 ～平成 20 年 9 月	FYS に関する授業評価アンケートの結果を受けて次年度の授業実施に活用した．具体的には授業中の発声や資料スライドの色合い等を変更してより聞きやすく，見やすい授業とした.
2　作成した教科書、教材		
実験テーマの理論、データの紙冊子による回覧	平成 14 年 10 月 1 日 ～現在に至る	上記Ｗｅｂ配信の見送りに伴い、データを紙媒体で回覧して、実験の理解が深まるように努めた。（平成 14 年 10 月 1 日～）
実験実習の使用マニュアル，理論説明概要集	平成 17 年 4 月 24 日 ～現在に至る	
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
実習授業（実験）に関するアンケート	平成 14 年 12 月 10 日 ～平成 18 年 12 月 10 日	実習授業（実験）に関するアンケートを独自に行い，学生に対しての各実験テーマの難易度を計った.
2007 年度 FYS 授業評価アンケート結果	平成 19 年 9 月	
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
海洋音響の基礎と応用	共著	平成 17 年 2 月	成山堂書店		88-91 頁
論文					
Received Pulse from an Aerial Ultrasonic Sensor Affected by Temperature and Relative Humidity	共著	平成 15 年 5 月	Jpn.J.Apl.Phys.42,（5B）	Y. Yamada, T. Tsuchiyaand N. Endoh	3029-3030 頁
Analysis of sound Field of Aerial Ultrasonic Sensor by Three-Dimensional Finite-Difference Time-Domain Method Using Parallel Computing	共著	平成 16 年 5 月	Jpn.J.Apl.Phys. Vol.43 No.5B43,（5B）	Y. Yamada, T. Tsuchiyaand N. Endoh	2869-2870 頁
並列演算 FDTD 法による浅海内の音波伝搬解析	共著	平成 17 年 1 月	海洋音響学会誌　32 巻 1 号		18-29 頁
Numerical analysis of temperature rise in tissue by ultrasound	共著	平成 17 年 5 月	Jpn.J.Apl.Phys.44,（5B）	Y. Saito, T. Tsuchiya, N. Endoh	
Development of Ultrasonic Analysis Method Calculated for Estimation of Inner State of Bone Phantom	共著	平成 17 年 5 月	Jpn.J.Apl.Phys.44,（6B）	N. ENDOH and T. TSUCHIYA	4598-4599 頁
（博士論文）海洋音波伝搬の高精度数値解析手法に関する研究	単著	平成 17 年 10 月	東京工業大学		
Numerical Analysis of Temperature Rise in Tissue Using Electronically Focused Ultrasound	共著	平成 18 年 7 月	Jpn.J.Apl.Phys.Vol.45 No.7B	Y. Saito, T. Tsuchiya and N.Endoh	4693-4696 頁
北極海での音波伝搬特性に氷の横波が与える影響	共著	平成 19 年 7 月	海洋音響学会誌 34,（3）	土屋健伸，松本さゆり，穴田哲夫，遠藤信行	157-166 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
超音波照射時の生体内温度上昇における擬似骨の影響のファントム実験とシミュレーションとの比較検討	共著	平成 20 年 2 月	日本超音波医学会誌,35,(2)	遠藤信行，土屋健伸	173-181 頁
スーパーコンピュータを用いた時間領域差分法音波伝搬解析プログラムの高速化	共著	平成 20 年 7 月	海洋音響学会誌 35,(3)	小川誠，山田洋一，高橋智，土屋健伸，遠藤信行	
放物型方程式法に基づく海洋音波伝搬解析手法の開発	共著	平成 20 年 10 月	海洋音響学会誌 35,(4)	土屋健伸，松本さゆり，高橋茉里，穴田哲夫，遠藤信行	
その他					

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
平成 11 年 8 月～現在に至る	海洋音響学会編集委員会委員
平成 11 年 8 月～現在に至る	海洋音響学会編集委員会委員
平成 12 年 4 月～現在に至る	日本超音波医学会機器と安全に関する委員会委員
平成 12 年 4 月～現在に至る	日本超音波医学会機器と安全に関する委員会委員
平成 13 年 3 月～平成 16 年 12 月	海洋音響学会「海洋環境と音響技術」に関する部会委員（幹事）
平成 14 年 2 月～平成 17 年 3 月	日本作業船協会「海洋環境整備船高度利用技術開発調査会」
平成 14 年 4 月～現在に至る	日本超音波医学会機器と安全に関する委員会ワーキンググループ（WG）委員（幹事）
平成 15 年 4 月～平成 18 年 3 月	科学研究費補助金 若手研究（B） 3,400 千円 （ネットワーク結合型並列コンピュータを用いた体内組織および骨内伝搬音波の解析）（研究代表者）
平成 15 年 7 月～現在に至る	海洋音響学会企画運営委員会
平成 16 年 4 月～現在に至る	海洋音響学会企画運営委員会委員
平成 16 年 4 月～平成 18 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 C 3,400 千円 （安全性確認を目的とした超音波照射時の生体内温度上昇の精密測定と数値解析法）（研究分担者）
平成 17 年 4 月～平成 20 年 3 月	科学研究費補助金 若手研究B 3,300 千円 （生体の安全性確認のための超音波照射時における生体軟部組織ならびに骨内部の温度推定）（研究代表者）
平成 17 年 4 月～平成 20 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 C 3,400 千円 （音響レンズを用いたカテーテル型超音波診断治療用探触子開発の基礎研究）（研究分担者）
平成 20 年 4 月～平成 23 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 C 4,300 千円 （カテーテル型超音波プローブ開発のための複合音響レンズの開発）（研究分担者）

Ⅴ　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部電子情報フロンティア学科	職名 助教	氏名 米田　征司	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
各回の講義への感想の活用	平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	（授業科目：電気磁気学Ⅰ）毎回講義終了後、出席カードの裏に講義の感想を書いてもらい、学生の声を聞く様に努めた。その結果に基づき、次の回の講義などに反映させた。
効果的な授業機器の活用	平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	（授業科目：電気磁気学Ⅰ）講義にはパワーポイントと板書を使用した。パワーポイントと板書の特徴を生かして、効果的な進め方を検討した。
講義時間外の時間活用	平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	（授業科目：電気磁気学Ⅰ）テストや宿題を出すようにして、講義以外の時間でも勉強に取組んでもらうよう努めた。
各章の小テスト実施	平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	（授業科目：電気磁気学Ⅰ）教科書の各章が終了した後に各章毎に小テストを実施し、理解度を確認するよう努めた。
メールを活用した授業サポート	平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	（授業科目：電気磁気学Ⅰ）電子メールを活用して、情報提供、質問、回答、指導などを行うことができるようにした。
学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	（授業科目：電気磁気学Ⅰ）平成２０年度前期のアンケートの結果を受け、意見記載項目　B. 改善すべき点記述欄に「板書の字が少し汚いかもしれない」という記載があったので、後期よりすべてパワーポイントによる授業を行った。講義１回分のパワーポイントページ数は、３０ページを超える物となった。
学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	（授業科目：電気磁気学Ⅰ）平成２０年度前期のアンケートの結果を受け、意見記載項目　B. 改善すべき点記述欄に「スライドの背景色と背景色と文字色によって見にくい時も合ったので、そこは変えた方が助かると思いました。」という記載があったので、後期よりパワーポイントで使用する背景色と文字の色を見易い様に工夫改善した。後期では見難いとの声は聞いていない。
2　作成した教科書、教材		
電子情報実験 C・D　実験テーマ「三相交流発電機」補助テキストの作成	平成 20 年 4 月	電子情報実験 C・D　実験テーマ「三相交流発電機」で使用する補助テキストを作成した。

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
電気電子情報工学実験Ⅱ実験テーマ「ＡＴ互換機と FreeBSD」の改変	～平成 15 年 4 月 16 日	電気電子情報工学実験Ⅱ実験テーマ「AT 互換機と FreeBSD」で使用するすべてのコンピュータ部品一式および OS を最新のものに変更。それに伴い、部品の相性など安定動作を確認およびインストール操作でのあらゆるパターンを試し、安定な設定条件を見出した。さらに学生がコンピュータの組み立ておよび OS のインストールを問題無く行うための新たな教材を作成した。
電気電子情報工学実験Ⅱ実験テーマ「パワーエレクトロニクス」テキストの修正・再編集	～平成 16 年 3 月	Ⅰ・Ⅱ部の電気電子情報工学実験Ⅱ受講者を対象に、テーマ別の学生実験アンケートを実施し、その結果に基づきテキストの修正および再編集を行った。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
熱電変換技術ハンドブック	共著	平成 20 年 12 月	株式会社エヌ・ティー・エス	米田征司　分担執筆	
論文					
p 形 $Pb_{1-x}Sn_xTe$ の熱特性	共著	平成 15 年 8 月	熱電変換シンポジウム 2003 論文集	増田隆信、淡中伸介、関義則、菊地祐一、米田征司、大野吉弘	132-133 頁
Bi-Te 系熱電発電モジュールの発電特性	共著	平成 15 年 8 月	熱電変換シンポジウム 2003 論文集	増田隆信、淡中伸介、関義則、菊地祐一、田邉雅和、米田征司、大野吉弘	126-127 頁
10 セル型 PEFC のインピーダンス変化の考察	共著	平成 16 年 3 月	平成 16 年電気学会全国大会講演論文集 [7] エネルギー変換・輸送		27-28 頁
インバーター電源のローカル系統安定度への影響についての検討	共著	平成 16 年 3 月	平成 16 年電気学会全国大会講演論文集 [6] 電力システム		241-242 頁
高性能化熱電変換発電システムの設計と考察	共著	平成 16 年 3 月	平成 16 年電気学会全国大会講演論文集 [7] エネルギー変換・輸送		81-82 頁
燃料電池の電極反応に関する確率論的考察－ SOFC について－	共著	平成 16 年 3 月	平成 16 年電気学会全国大会講演論文集 [7] エネルギー変換・輸送		32-33 頁
Improved Thermoelectric Properties in Structure Controlled Ag-Sb-Te System	共著	平成 16 年 4 月	平成 16 年 4 月号電気学会論文誌（基礎・材料・共通部門誌）IEEJ Trans.FM,Vol.124,No.4		312-316 頁
Fabrication and Evaluation of an Element for Thermoelectric Generating System	共著	平成 16 年 6 月	Proc. of the 23rd International Conference on Thermoelectrics (IEEE, 2004)		

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Mathematical Model for Evaluating a Reaction Process of the SOFC Air Electrode and Electrolyte Interface	共著	平成 16 年 7 月	Proc. of 6th EUROPEAN SOFC FORUM, Volume 3 (2004)		1374-1379 頁
熱電変換システムのあらまし	共著	平成 16 年 8 月	金属		58-63 頁
カルコゲン系熱電変換発電システムの設計と考察	共著	平成 16 年 8 月	第 1 回 日本熱電学会学術講演会 (TSJ2004) 論文集		46-47 頁
PbTe 系熱電素子の作製	共著	平成 16 年 8 月	第 1 回 日本熱電学会学術講演会 (TSJ2004) 論文集		86-87 頁
Temperature Dependence of Hall Coefficient of $La_{1-x}Sr_xMnO_3$	共著	平成 16 年 8 月	Trans. of Materials Research Society of Japan	S.Yonedaand Y.Ohno	
熱電発電システムの作製	共著	平成 17 年 3 月	平成 17 年度電気学会全国大会講演論文集 [7] エネルギー変換・輸送		115-116 頁
真空遮断器を用いた直流電流遮断実験—燃料電池の負荷遮断現象測定—	共著	平成 17 年 3 月	平成 17 年度電気学会全国大会講演論文集 [7] エネルギー変換・輸送		84-85 頁
固体高分子形燃料電池における界面インピーダンス特性の実験解析	共著	平成 17 年 3 月	平成 17 年度電気学会全国大会講演論文集 [7] エネルギー変換・輸送		81-82 頁
Stochastic Approach for the Analyses of PEFC Behavior	共著	平成 17 年 7 月	Proc. of 3rd EUROPEAN PEFC FORUM	S. Yonedaand Y. Ohno,	
Pressure induced structural phase transition in $AgSbTe_2$	共著	平成 17 年 8 月	Phys.Rev.B,72	Ravhi S. Kumar, Andrew L. Cornelius, Eunja Kim, Yongrong Shen, S. Yoneda	060101(R) 頁
中温度域熱電発電モジュールの作製	共著	平成 17 年 12 月	電気学会研究会（新エネルギー・環境研究会:燃料電池など新エネルギー・環境技術）		
10 セル PEFC スタックによる複素インピーダンス計測	共著	平成 18 年 3 月	平成 18 年度電気学会全国大会講演論文集		

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
10 セル PEFC スタックの静特性の検討	共著	平成 18 年 3 月	平成 18 年度電気学会全国大会講演論文集		
9 分割した PEFC 単素子の各要素セルの電流分担	共著	平成 18 年 3 月	平成 18 年度電気学会全国大会講演論文集		
SPS 法を用いた Pb0.5Sn0.5Te 焼結体の作製	共著	平成 18 年 8 月	第 3 回 日本熱電学会学術講演会 (TSJ2006) 論文集	日景優一朗, 佐藤允映, 關 翔一, 米田征司, 大野吉弘	116-117 頁
固体酸化物形燃料電池構成材料の熱膨張特性	共著	平成 18 年 8 月	材料の科学と工学 43, (4)	米田征司、大野吉弘	187-193 頁
SPS 法による Pb0.5Sn0.5Te 焼結体の電気的特性に対する結晶粒径依存性	共著	平成 18 年 9 月	日本金属学会 2006 年秋期（第 139 回）大会講演概要	日景優一朗, 佐藤允映, 関 翔一, 桝谷 信, 大野吉弘, 米田征司, 磯田幸宏, 今井義雄, 篠原嘉一	177 頁
マイクロ熱電発電素子に関する研究	共著	平成 18 年 11 月	神奈川大学工学研究所所報（29）	山口栄雄, 米田征司	43-49 頁
Thermoelectric Properties of Solidified PbTe Doped with AgSbTe2	共著	平成 18 年 12 月	Trans. of Materials Research Society of Japan31,（4）	S.Yoneda, Y.Ohno, Y.Isoda, Y.Imai and Y.Shinohara	879-881 頁
熱電素子の出力特性に及ぼす電極接合抵抗の影響	共著	平成 19 年 3 月	平成 19 年度電気学会全国大会講演論文集［7］エネルギー変換・輸送	日景優一朗, 佐藤允映, 関 翔一, 桝谷信, 米田征司, 大野吉弘	11 頁
EB 法による BixTey 薄膜の作製と評価	共著	平成 19 年 3 月	平成 19 年度電気学会全国大会講演論文集［2］材料，マグネティックス	井野友哉, 山口栄雄, 米田征司	113 頁
酸素側 9 分割電極を有する PEFC 単セルの各要素電極の電流分担特性	共著	平成 19 年 3 月	平成 19 年度電気学会全国大会講演論文集［7］エネルギー変換・輸送	佐藤允映, 関 翔一, 桝谷 信, 日景優一郎, 米田征司, 大野吉弘	91 頁
水素側電極 9 分割 PEFC を用いた電解質膜界面現象の考察	共著	平成 19 年 3 月	平成 19 年度電気学会全国大会講演論文集［7］エネルギー変換・輸送	関 翔一, 佐藤允映, 日景優一郎, 桝谷信, 米田征司, 大野吉弘	92 頁
水素側電極 9 分割 PEFC の電流電圧特性	共著	平成 19 年 3 月	平成 19 年度電気学会全国大会講演論文集［7］エネルギー変換・輸送	桝谷 信, 佐藤允映, 関 翔一, 日景優一郎, 米田征司, 大野吉弘	93 頁
PbTe 系熱電材料の熱膨張特性に及ぼす結晶粒径の影響	共著	平成 19 年 8 月	第 4 回日本熱電学会 (TSJ2007)	日景優一朗, 佐藤賢利, 桝谷 信, 米田征司, 大野吉弘, 磯田幸宏, 今井義雄, 篠原嘉一, 加藤雅彦, 大杉 功	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
FEM による PbTe 系熱電発電素子の熱応力解析	共著	平成 19 年 8 月	第 4 回日本熱電学会 (TSJ2007)	日景優一朗, 佐藤賢利, 桝谷 信, 足立恵介, 米田征司, 大野吉弘, 磯田幸宏, 今井義雄, 篠原嘉一, 野口照夫, 山本淳	
PbTe 系熱電素子の熱応力	共著	平成 19 年 9 月	第 68 回応用物理学会秋季学術講演会	日景優一朗, 佐藤賢利, 桝谷 信, 足立恵介, 米田征司, 大野吉弘, 磯田幸宏, 今井義雄, 篠原嘉一, 野口照夫, 山本淳	
PbTe 系熱電素子の電極特性	共著	平成 19 年 11 月	第 19 回 傾斜機能材料シンポジウム論文集	米田征司, 日景優一朗, 大野吉弘, 磯田幸宏, 今井義雄, 篠原嘉一	1-6 頁
PbTe 系結晶格子の熱膨張特性における異方性	共著	平成 19 年 12 月	2007 年度日本結晶学会	大杉　功, 米田征司	
テルル化鉛の熱膨張特性の異方性	共著	平成 20 年	サレジオ工業高等専門学校研究紀要第 34 号	大杉 功, 加藤雅彦, 米田征司	103-106 頁
PEFC の小規模電極における過渡現象	共著	平成 20 年 3 月	平成 20 年度電気学会全国大会講演論文集［7］エネルギー変換・輸送	桝谷 信, 佐藤 賢利, 日景 優一郎, 米田 征司, 大野 吉弘	
PEFC の水素側小規模電極における定常電流分担特性	共著	平成 20 年 3 月	平成 20 年度電気学会全国大会講演論文集［7］エネルギー変換・輸送	佐藤 賢利, 桝谷 信, 日景 優一朗, 米田 征司, 大野 吉弘	
PbTe 系熱電材料の機械的特性	共著	平成 20 年 3 月	平成 20 年度電気学会全国大会講演論文集［7］エネルギー変換・輸送	日景 優一朗, 石渡 裕貴, 桝谷 信, 佐藤 賢利, 米田 征司, 大野 吉弘, 磯田幸宏, 今井 義雄, 篠原 嘉一	
Synthesis and Characterization of AgPb18SbTe20 doped with PbI2	共著	平成 20 年 6 月	Transaction of the Materials Research Society of Japan33, (2)	S.Yoneda, Y. Hikage, Y. Ohno, Y. Isoda, Y. Imai and Y. Shinohara	311-313 頁
XRD による PbTe 系熱電材料の熱膨張特性	共著	平成 20 年 8 月	第 5 回日本熱電学会 (TSJ2008)	平野裕司, 佐藤賢利, 米田征司, 大野吉弘, 加藤雅彦, 大杉 功, 今井義雄, 磯田幸宏, 篠原嘉一	
ICT2007 に参加して	単著	平成 20 年 11 月	神奈川大学工学研究所所報第 31 号		101-102 頁
Study of Oxidation and Evaporation Behavior of PbTe Compounds by Using Thermal Analysis	共著	平成 20 年 12 月	Trans. of Materials Research Society of Japan , Vol.33, No.433	Y. Hikage, S. Yoneda, Y. Ohno, Y. Isoda, Y. Imai, Y. Shinohara, I.J. Ohsugi	1123-1126 頁
その他					

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
熱電発電モジュールの試作評価	共著	平成 17 年 7 月	神奈川大学研究・技術成果集 3	米田征司, 大野吉弘	5 頁
PbTe 熱電材料の複合添加効果による高性能化に関する研究	単著	平成 18 年 3 月	都市エリア産官学連携推進事業（湘南・県央エリア）「光機能材料を中心とした都市近郊環境対策技術の開発」研究概要集		33 頁
Pressure induced structural changes in AgPb18SbTe20	共著	平成 18 年 3 月	2006 American Physical Society (APS) March Meeting	R. Kumar, A. Cornelius, M. Jacobsen, M. Nicol, and S. Yoneda	
熱電発電システムから見た熱電材料・素子の設計指針	単著	平成 19 年 2 月	新技術振興渡辺記念会シンポジウム		
新しい中温用熱電変換発電システムに関する研究	共著	平成 19 年 3 月	第 2 回 工学部・工学研究科教育研究補助金による教育研究成果報告会要旨集	大野吉弘, 米田征司	25-26 頁
エネルギーシステム素子用材料の設計指針 － 熱電発電デバイスの研究 －	単著	平成 19 年 5 月	エコマテリアルフォーラム 2007 年度 総会アニュアルシンポジウム		
Thermal Expansion Properties of Thermoelectric Generating Device Component	共著	平成 19 年 6 月	The 26th International Conference on Thermoelectrics		
Thermoelectric properties of mechanically milled AgSbTe2	共著	平成 21 年 3 月	2009 American Physical Society (APS) March Meeting		
ヒートパイプを用いた熱電発電システムの作製と評価	共著	平成 21 年 3 月	平成 21 年度電気学会全国大会講演論文集［7］エネルギー変換・輸送		
固体高分子形燃料電池の過渡特性の検討	共著	平成 21 年 3 月	平成 21 年度電気学会全国大会講演論文集［7］エネルギー変換・輸送		
PEFC 発電動作の確率論的考察	共著	平成 21 年 3 月	平成 21 年度電気学会全国大会講演論文集［7］エネルギー変換・輸送		

著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び 巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
PEFC インピーダンス計測の考察	共著	平成 21 年 3 月	平成 21 年度電気学会全国大会講演論文集［7］ エネルギー変換・輸送		
PEFC 発電動作の揺らぎの検討	共著	平成 21 年 3 月	平成 21 年度電気学会全国大会講演論文集［7］ エネルギー変換・輸送		

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
～現在に至る	応用物理学会会員
～現在に至る	固体イオニクス学会会員
～現在に至る	電気学会会員
～現在に至る	日本金属学会会員
～現在に至る	日本熱電学会会員
平成 9 年～現在に至る	科学技術庁金属材料技術研究所　所内研究テーマ　複合構造形成による熱電半導体の性能向上に関する研究に従事
平成 9 年 7 月～現在に至る	財団法人 慶応工学会　国際交流援助費
平成 11 年～現在に至る	日本熱電変換研究会ニュースレター（Vol.3,No.1）記事執筆（熱電変換シンポジウム'98 研究会報告）
平成 15 年～現在に至る	傾斜機能材料研究会 FGM ニュース記事執筆（第 21 回熱電変換国際会議報告）
平成 16 年 3 月～平成 17 年 3 月	社団法人未踏科学技術会エコマテリアル研究会 MLCD 部会委員
平成 17 年～現在に至る	（学内共同研究）学校法人神奈川大学「高効率多機能型半導体薄膜サーマルデバイスの開発」
平成 17 年 4 月～現在に至る	エコマテリアルフォーラム会員
平成 17 年 4 月～現在に至る	社団法人未踏科学技術協会エコマテリアルフォーラム設立発起人
平成 17 年 4 月～平成 19 年 3 月	社団法人未踏科学技術協会エコマテリアルフォーラム「多元的なエネルギーシステムとデバイス材料の検討」部会委員
平成 17 年 4 月～現在に至る	（学内共同研究）学校法人神奈川大学「先験的熱閉じ込めによる熱伝導率の制御」
平成 17 年 6 月～平成 18 年 3 月	財団法人神奈川科学技術アカデミー（都市エリア産学官連携促進事業　可能性試験） 1,000 千円 （PbTe 熱電材料の複合添加効果による高性能化に関する研究）（研究代表者）
平成 18 年 4 月～現在に至る	日本材料科学会会員
平成 18 年 8 月～平成 19 年 2 月	（受託研究）独立行政法人　物質・材料研究機構「中温用熱電発電システムとその周辺要素技術に関する研究」（800 千円）
平成 19 年 4 月～平成 20 年 3 月	科学研究費補助金 若手研究（B） 2,800 千円 （高性能n形中温度領域カルコゲン化合物熱電材料の創製）（研究代表者）
平成 19 年 6 月～平成 20 年 2 月	（受託研究）独立行政法人　物質材料研究機構「中温用熱電発電システムとその周辺要素技術に関する研究」（700 千円）
平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月	日本熱電学会創立５周年記念 熱電講習会実行委員
平成 20 年 4 月～現在に至る	社団法人電気学会学会活動推進員

年月	内　　容
平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月	（学内共同研究）工学研究所「構造相転移によるカルコゲン系熱電材料の高性能化に関する研究」(5,000 千円)
平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月	科学研究費補助金 若手研究（B） 780 千円 （高性能ｎ形中温度領域カルコゲン化合物熱電材料の創製）（研究代表者）

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部電子情報フロンティア学科	職名 特別助教	氏名 山口　智浩	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
電気電子情報工学実験 II の実験指導	平成 16 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 3 月 31 日	電気電子情報工学実験 II では、「サーボ制御系」と「AT 互換機と FreeBSD」を担当し、実験の進め方および報告書の書き方について指導を行った。
小学生を対象とした子供サマースクールで「LEGO ロボットで遊ぼう」を実施	平成 18 年 7 月 25 日 ～平成 18 年 7 月 26 日	電子玩具である LEGO MindStorms を用いてライントレースロボットを製作し、センサやマイコンについて小学生に講義を行った。
小学生を対象とした子供サマースクールで「LEGO ロボットで遊ぼう」を実施	平成 19 年 7 月 24 日 ～平成 19 年 7 月 25 日	電子玩具である LEGO MindStorms を用いてライントレースロボットを製作し、センサやマイコンについて小学生に講義を行った。
電子情報実験 C・D の実験指導	平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	電子情報実験 C では「AT 互換機と FreeBSD」を、電子情報実験 D では「LEGO MindStorms よる知能行動体実験」をそれぞれ担当し、実験の進め方および報告書の書き方について指導を行った。
2　作成した教科書、教材		
電気電子情報工学実験 II の教材作成	平成 16 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 3 月 31 日	電気電子情報工学実験 II では、「サーボ制御系」と「AT 互換機と FreeBSD」を担当し、実験用に FreeBSD のインストールマニュアルを作成し、配布した。
電子情報実験 C・D テキスト作成	平成 19 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 3 月 31 日	電子情報実験 C・D の実験テーマである LEGO MindStorms よる知能行動体実験のテキストを作成した。
電子情報実験 C・D の教材作成	平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	電子情報実験 C では、「AT 互換機と FreeBSD」を担当し、実験用に FreeBSD のインストールマニュアルを作成し、配布した。また、電子情報実験 D では「LEGO MindStorms よる知能行動体実験」を担当し、実験用に LEGO MindStorms の使用マニュアルを作成し、配布した。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
		なし

II　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
Acquisition of Obstacle Avoidance Actions with Free-Gait for Quadruped Robots	共著	平成 18 年 12 月	『Mobile Robots Moving Intelligence』(Advanced Robotic Systems, Edited by Jonas Buchli)	T.Yamaguchi,K.Watanabe,K.Izumi	535-556 頁
論文					
Obstancle avoidance for quadruped robots using a neural network	共著	平成 15 年 6 月	Journal of Advanced Computational Intelligence and Intelligent Informaticd,Vol.7,No.2	T.Yamaguchi,K.Watanabe,K.Izumi,and K.Kiguchi.	
ニューラルネットワークを用いた 4 脚歩行ロボットの障害物回避行動を伴う目的地経路の獲得	共著	平成 15 年 11 月	日本機械学会論文集第 69 号 687 巻　C 編	山口智浩、渡辺桂吾、泉清高、木口量夫	
ニューラルネットワークを用いた 4 脚歩行ロボットの障害物回避行動の獲得に関する研究	単著	平成 16 年 3 月	博士論文（佐賀大学）		
Neural network approach to acquiring free-gait motion of quadruped robots in obstacle avoidance	共著	平成 17 年 12 月	『Artificial Life and Robotics』 vol. 9 no.4 (Springer)	T.Yamaguchi,K.Watanabe,K.Izumi.	188-193 頁
その他					
NN による 4 脚歩行ロボットの障害物回避時の自由歩容の獲得	共著	平成 15 年 9 月	第 21 回日本ロボット学会学術講演会、東京都目黒区	山口智浩、渡辺桂吾、泉清高、木口量夫	
Obstacle avoidance of quadruped robots with consideration to the order of swing leg	共著	平成 15 年 10 月	Proceedings of the International Conference on Control,Automation and Systems(ICCAS 2003),Gyongju,Korea	T.Yamaguchi,K.Watanabe,K.Izumi,and K.Kiguchi.	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
4 脚歩行ロボット胴体の最小移動を考慮した障害物回避時の自由歩容獲得	共著	平成 15 年 11 月	第 22 回計測自動制御学会九州支部学術講演会 長崎県長崎市	山口智浩、渡辺桂吾、泉清高、木口量夫	
4 脚歩行ロボットの自由歩容のよる障害物回避	共著	平成 15 年 12 月	第 13 回インテリジェント・システム・シンポジウム、北海道函館市	山口智浩、渡辺桂吾、泉清高	
自由歩容を考慮した 4 脚歩行ロボットの障害物回避行動の獲得	共著	平成 15 年 12 月	第 5 回日本知能情報ファジィ学会九州支部学術講演会、福岡県北九州市	泉清高、山口智浩、渡辺桂吾	
Neural network approach to acquire the free-gait motion of quadruped robots in obstacle avoidance	共著	平成 16 年 1 月	Proceedings of the 9th International Symposium on Artificial Life and Robotics(AROB 9th '04),Beppu,Oita,Japan	T.Yamaguchi,K.Watanabe,K.Izumi.	
4 脚歩行ロボットの自由歩容実現のための脚順決定 NN の学習	共著	平成 16 年 6 月	日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会'04、愛知県名古屋市	泉清高、"山口智浩"、渡辺桂吾、新田秀樹	
Free-Gait of Quadruped Robots Using Neural Networks for Determining the Order of Swing Leg	共著	平成 16 年 9 月	Proceedings of 2004 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS2004), Sendai, Japan	K.Izumi, "T.Yamaguchi", K.Watanabe.	
脚順決定 NN による 4 脚歩行ロボットの自由歩容実現	共著	平成 16 年 9 月	第 22 回日本ロボット学会学術講演会、岐阜県岐阜市	村上貴、渡辺桂吾、泉清高、山口智浩	
複数の移動障害物を考慮した移動ロボットの行動獲得	共著	平成 17 年 9 月	第 15 回インテリジェント システム シンポジウム 講演論文集	山口智浩，渡辺良男	417-418 頁
Acquisition of Action for Mobile Robots Using Neural Network	共著	平成 17 年 12 月	International Conference on Information and Automation 2005	T.Yamaguchi，Y.Watanabe.	176-179 頁
複数の移動障害物回避を考慮した車輪移動ロボットの行動獲得	共著	平成 19 年 5 月	『ロボティクス・メカトロニクス講演会 2007 講演論文集』(日本機械学会)	山口智浩，渡辺良男	2A1-D05(CD-ROM) 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Acquisiton of Multiple Moving Obstacles Avoidance Actions for Wheeled Type Robots	共著	平成 19 年 10 月	Proceeding of International Conference on Intelligent Unmanned Systems	T. Yamaguchi, Y. Watanabe	ICIUS2007-B008 (CD-ROM) 頁
バスの乗降が可能な 6 足ロボットの開発	共著	平成 20 年 6 月	『ロボティクス・メカトロニクス講演会 2008 講演論文集』(日本機械学会)	中村祐輔，山口智浩，渡辺良男	1A1-E22(CD-EOM) 頁
レーザレンジセンサを用いた複数の移動物体認識	共著	平成 20 年 8 月	『平成 20 年電気学会産業応用部門大会　講演論文集』(電気学会)2	山口智浩，渡辺良男	395-396 頁
6 足ロボットの段差乗り越え制御	共著	平成 20 年 8 月	『平成 20 年電気学会産業応用部門大会　講演論文集』(電気学会)	中村祐輔，山口智浩，渡辺良男	Y-74 頁
バスの段差を考慮した 6 足ロボットの歩行制御	共著	平成 21 年 3 月	平成 21 年電気学会全国大会　講演論文集第 3 分冊	中村祐輔、山口智浩、渡辺良男	
車輪型ロボットによる複数の移動障害物認識	共著	平成 21 年 3 月	平成 21 年電気学会全国大会　講演論文集第 3 分冊	山口智浩、渡辺良男	

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
平成 14 年 2 月～現在に至る	日本機械学会会員
平成 14 年 9 月～現在に至る	日本ロボット学会会員
平成 15 年 10 月～現在に至る	計測自動制御学会会員
平成 16 年 5 月～現在に至る	社団法人　電気学会会員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部物質生命化学科	職名 教授	氏名 井川　学	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
授業評価に関するアンケートの実施	昭和 63 年 4 月 1 日 ～現在に至る	前期末と後期末に授業評価に関するアンケートを実施し、それを受けて、学生の希望を授業に反映させるべく次年度の講義内容を改善した。（昭和 63 年 4 月 1 日～）
質問票の提出義務化	平成 14 年 4 月 1 日 ～現在に至る	毎回、あるいは単元ごとに、授業で分かったこと、分からなかったことを書かせ、次回の授業の始めに口頭あるいはプリントでこれに答え、双方向授業を目指している。
2　作成した教科書、教材		
分析化学および環境化学講義教材の作成	昭和 59 年 4 月 1 日 ～現在に至る	環境化学では、プリントを作成し、これを教材にして講義している。分析化学では補助的な教材として、ほぼ毎回配布している。
基礎演習問題集の作成	平成 12 年 4 月 1 日 ～現在に至る	基礎的学力向上のために 2000 年より基礎演習という講義科目を立ち上げ、他の学科教員と共に演習テキストを編纂している。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
授業評価アンケート	昭和 63 年 4 月 1 日	配布するプリントが分かりやすいということと熱意を感じるという点で高い評価を得ている。
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		
学科 JABEE 委員としての活動	平成 13 年 4 月 1 日 ～現在に至る	学科の JABEE 委員の一人として、学科の教育システムの改善活動を行っている。
学科主任としての教育に関わる活動	平成 17 年 4 月 1 日 ～平成 19 年 3 月 31 日	学科主任として、学科の教育システムの改善を計った。特に、2006 年 4 月からの学科名称変更（応用化学科→物質生命化学科）にともない、新しい学科の教育理念のとりまとめと、新しい教育システムでの出発時の責任者を務めた。

II　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
大気と微粒子の話	共著	平成 20 年 3 月	京都大学学術出版会	笠原三紀夫、東野　達監修	48-57 頁
論文					
Neutralization Dialysis by Three-Compartment Cell	共著	平成 15 年	J. Ion Exchange, 14, Supplement 巻		249-252 頁
Selective transport of amino acids across a cation-exchange membrane via the specific reaction with metal ions fixed as counter ions in the membrane	共著	平成 15 年	J. Ion Exchange, 14, Supplement		253-256 頁
Transport characteristics of neutralization dialysis and desalination of tap water	共著	平成 15 年	Bull. Chem. Soc. Jpn., 76 巻		437-441 頁
Deposition of coarse soil particles and ambient gaseous components dominating dew water chemistry	共著	平成 15 年	J. Geophys. Res., 108 巻		4319-4023 頁
The Pertraction of Hydrophobic Organic Solutes across a Hydrophobic Membrane	共著	平成 16 年	Bull. Chem. Soc., Jpn.		1939-1943 頁
Characteristics of water-soluble components of atmosphereic aerosols in Yokohama and Mt. Oyama, Japan from 1990 to 2001	共著	平成 16 年	Atmos. Environ.		4701-4708 頁
The enhanced dissolution of some chlorinated hydrocarbons and monocyclic aromatic hydrocarbons in rainwater collected in Yokohama, Japan	共著	平成 16 年	Atmos. Environ.		4403-4414 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Enhanced dissolution of volatile organic compounds into urban dew water collected in Yokohama, Japan	共著	平成 17 年	Atmospheric Environment, 39 巻		6027-6036 頁
Specific permeation of hydrophobic solutes across a hydrophobic polymer membrane	共著	平成 17 年 8 月	Bulletin of the chemical society of Japan, 78 巻		1702-1703 頁
Dominant factors controlling concentrations of aldehydes in rain, fog, dew water and in the gas phase	共著	平成 17 年 9 月	Atmospheric Environment		7321-7329 頁
Application of Liesegang ring formation on a gelatin film to the determination of sulfate concentration in individual rain droplets	共著	平成 18 年	Anal. Sci.22	Ken-ichi Narita, Kiyoshi Matsumoto, Manabu Igawa	1559-1563 頁
Scavenging effect of precipitation on volatile organic compounds in ambient atmosphere	共著	平成 18 年	Bull. Chem. Soc., Jpn79	Emi Sato, Kiyoshi Matsumoto, Hiroshi Okochi, Manabu Igawa	1231-1233 頁
Facilitated transport of carbohydrates across an anion-exchange membrane fixed with borate ion	共著	平成 18 年	Bull. Soc. Sea Water Sci., Jpn60	Manabu Igawa, Koji Yamamoto, Kiyoshi Matsumoto	199-200 頁
渓流水の化学的特性から見た東丹沢の森林生態系への酸性沈着物の影響評価に関する予備的検討	共著	平成 19 年	分析化学 56	本田　拓、大河内　博、稲津晃司、井川　学	791-798 頁
Separation of heavy metal ions with a chelating reagent fixed in an anion-exchange membrane	共著	平成 19 年	J. Ion Exchange18	Manabu Igawa, Shinki Akiyama, Ryoji Okada, Chieko Sugawara, Tatsuo Kurokawa	506-509 頁
Adsorption of air pollutants on the grain surface of Japanese cedar pollen	共著	平成 19 年	Atmos. Environ.41	Yuji Okuyama, Kiyoshi Matsumoto, Hiroshi Okochi, Manabu Igawa	253-260 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Effect of atmospheric humic-like substances on the enhanced dissolution of volatile organic compounds into dew water	共著	平成 20 年	Atmos. Res.87	H. Okochi, E. Sato, Y. Matsubayashi, M. Igawa	213-223 頁
Growth and physiological responses of beech seedlings to long-term exposure to acid fog	共著	平成 20 年	Science of the Total Environment391	Ado Shigihara, Kiyoshi Matsumoto, Naoki Sakurai and Manabu Igawa	124-134 頁
その他					
Selective transport of amino acids across a cation-exchange membrane via the specific reaction with metal ions fixed as counter ions in the membrane	共著	平成 15 年 7 月	The 3rd International Conference on Ion Exchange		
Neutralization Dialysis by Three-Compartment Cell	共著	平成 15 年 7 月	The 3rd International Conference on Ion Exchange		
酸性霧の化学組成とその酸性化機構（19）	共著	平成 15 年 9 月	第４４回大気環境学会年会		
大気および降水中アルデヒドの定量とその濃度支配要因	共著	平成 15 年 9 月	第４４回大気環境学会年会		
雨水の化学組成とその酸性化機構（15）	共著	平成 15 年 9 月	第４４回大気環境学会年会		
リーゼガング環の生成による降水液滴の分析	共著	平成 15 年 9 月	日本分析化学会第５２年会		
横浜と丹沢大山における大気汚染状況とその支配要因	共著	平成 15 年 9 月	第４４回大気環境学会年会		
大気汚染物質の丹沢大山森林樹冠への沈着	共著	平成 15 年 9 月	第４４回大気環境学会年会		
酸性霧と森林衰退	単著	平成 15 年 10 月	第 21 回酸性雨問題研究会シンポジウム		
疎水性膜による有機物の分離と濃縮	共著	平成 16 年 3 月	日本化学会第 84 春季年会		

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
ベンジルアルコール液膜系における振動現象の輸送現象に及ぼす影響	共著	平成 16 年 3 月	日本化学会第 84 春季年会		
キレート剤担持イオン交換膜による重金属イオンの分離	共著	平成 16 年 9 月	第 20 回日本イオン交換研究発表会（甲府）、講演要旨集		39 頁
微量湿性沈着物（もや、霧、霧雨）の粒径と組成の分析	共著	平成 16 年 9 月	日本分析化学会第 53 年会（習志野）、講演要旨集		245 頁
ベンジルアルコール液膜系におけるエタノールの輸送と２段階電位振動現象	共著	平成 16 年 9 月	日本分析化学会第 53 年会（習志野）、講演要旨集		276 頁
リーゼガング環の生成を利用した液滴分析法の検討	共著	平成 16 年 9 月	日本分析化学会第 53 年会（習志野）、講演要旨集		151 頁
Enhanced dissolution of volatile organic compounds into urban dew water collected in Yokohama, Japan	共著	平成 16 年 10 月	The Third International Conference on Fog, Fog Collection and Dew（ケープタウン）		
Dominant Factors of Fog Characteristics in Mt. Oyama, Japan	共著	平成 16 年 10 月	The Third International Conference on Fog, Fog Collection and Dew（ケープタウン）		
有害大気汚染物質の動態解析と降水洗浄機構 (1)	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会（横浜）		2PA-145 頁
疎水性膜による疎水性有機物質の選択的抽出透過	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会（横浜）		1H7-43 頁
加熱温度の差異を用いた大気エアロゾルの化学組成分析	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会（横浜）		2H1-46 頁
大気中に浮遊するスギ花粉による大気汚染物質の収着	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会（横浜）		2H1-43 頁
Change of surface soil and stream water chemistry on Mt. Oyama located near the metropolitan area in Japan	共著	平成 17 年 6 月	Conference Abstracts of Acid Rain 2005 (Prague, Czech)		549 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Indirect evidence of seeder-feeder precipitation scavenging of acidic substances via mist droplets in urban area	共著	平成 17 年 6 月	Conference Abstracts of Acid Rain 2005 (Prague, Czech)		118 頁
Acid deposition on forest in Tanzawa mountains, Japan	共著	平成 17 年 6 月	Conference Abstracts of Acid Rain 2005 (Prague, Czech)		99 頁
Effect of acid deposition on fir needles and trees	共著	平成 17 年 6 月	Conference Abstracts of Acid Rain 2005 (Prague, Czech)		318 頁
Facilitated deposition of gas and aerosol by precipitation and the comparison of dry deposition in a mountainside to that in an urban site	共著	平成 17 年 9 月	Abstract of International symposium on atmospheric environmental impacts of aerosols in East Asia (Kyoto, Japan)		74 頁
酸性沈着物のモミ針葉に及ぼす影響 (2)	共著	平成 17 年 9 月	第 46 回大気環境学会年会 (名古屋) 講演要旨集		533 頁
有害大気汚染物質の動態解析と降水洗浄機構 (2)	共著	平成 17 年 9 月	第 46 回大気環境学会年会 (名古屋) 講演要旨集		520 頁
横浜及び丹沢大山における微量ガス成分濃度とその支配要因	共著	平成 17 年 9 月	第 46 回大気環境学会年会 (名古屋) 講演要旨集		406 頁
横浜及び丹沢大山における大気エアロゾルの化学組成と濃度支配要因	共著	平成 17 年 9 月	第 46 回大気環境学会年会 (名古屋) 講演要旨集		405 頁
露水内成分濃度とその支配要因	共著	平成 17 年 9 月	第 46 回大気環境学会年会 (名古屋) 講演要旨集		442 頁
丹沢大山における大気汚染物質の樹冠への沈着挙動	共著	平成 17 年 9 月	大気環境学会 (名古屋) 講演要旨集		459 頁
酸性霧の化学組成と酸性化機構 (21)	共著	平成 17 年 9 月	第 46 回大気環境学会年会 (名古屋) 講演要旨集		441 頁
イオン交換膜に担持したホウ酸イオンによる糖の選択輸送	共著	平成 18 年 3 月	日本化学会第 86 春季年会 (習志野) 講演要旨集		2PB-089 頁
疎水性膜による疎水性有機物質の選択的抽出透過 (II)	共著	平成 18 年 3 月	日本化学会第 86 春季年会 (習志野) 講演要旨集		2PB-088 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
酸性沈着物のモミ針葉に及ぼす影響 (3)	共著	平成 18 年 3 月	日本化学会第 86 春季年会 (習志野) 講演要旨集		2PA-036 頁
丹沢大山における大気汚染物質沈着量の標高依存性	共著	平成 18 年 3 月	日本化学会第 86 春季年会 (習志野) 講演要旨集		2PA-035 頁
露水の化学組成と濃度支配要因 (2)	共著	平成 18 年 9 月	第４７回大気環境学会年会講演要旨集	露久保功，松本潔, 井川学	P41 頁
酸性霧の化学組成と酸性化機構 (22)	共著	平成 18 年 9 月	第４７回大気環境学会年会講演要旨集	小倉一晃，松本潔, 井川学	P40 頁
丹沢山塊における微量ガス成分の濃度分布	共著	平成 18 年 9 月	第 47 回大気環境学会年会講演要旨集	井川学，永池英佑，中山槙子，松本潔, 内山佳美	P17 頁
横浜における大気中 VOCs の測定とその動態解明	共著	平成 18 年 9 月	第４７回大気環境学会年会講演要旨集	水野利一，松本潔, 井川学	P16 頁
横浜および丹沢大山における大気エアロゾルの化学組成と濃度支配要因（２）	共著	平成 18 年 9 月	第４７回大気環境学会年会講演要旨集	富永紗恵，松本潔, 井川学	P03 頁
丹沢山塊における酸性沈着物の負荷と森林への影響	共著	平成 18 年 9 月	第４７回大気環境学会年会講演要旨集	鴫原亜土，松本潔, 井川学	1I1324 頁
Behavior of the aerosols with the diameter larger than 10 μ m in urban atmosphere	共著	平成 18 年 9 月	Proceedings of 7th International Aerosol Conference	K. Matsumoto, S. Tominaga, and M. Igawa	1674 頁
丹沢山塊における酸性沈着物の負荷と森林への影響 (2)	共著	平成 19 年 3 月	日本化学会第 87 春季年会	鴫原亜土、松本潔、井川学	3F1-04 頁
Facilitated deposition of gas and aerosol by fog in Tanzawa mountains, Japan	共著	平成 19 年 7 月	Proceeding of 4th International Conference on Fog, Fog Collection and Dew (La Serena, Chile, 2007-7)	M. Igawa, K. Ogura, A. Shigihara, H. Sugimoto, M. Aniya, K. Matsumoto, and H. Okochi	161-164 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
～現在に至る	環境科学会会員
～現在に至る	日本イオン交換学会会員
～現在に至る	日本化学会会員
～現在に至る	日本海水学会会員
～現在に至る	日本水環境学会会員
～現在に至る	日本大気環境学会会員
～現在に至る	日本分析化学会会員
～現在に至る	日本膜学会会員
昭和 53 年 6 月～現在に至る	日本海水学会理事
昭和 54 年 4 月～現在に至る	科学研究費補助金 奨励研究 A （疎水性膜によるイオンの分離・濃縮）
昭和 57 年 4 月～現在に至る	科学研究費補助金 奨励研究 A （疎水性膜によるアルカリ金属イオンの逆浸透分離）
昭和 61 年 4 月～現在に至る	日本海水学会編集委員会理事
平成 6 年 4 月～現在に至る	科学研究費補助金 総合研究（B） （アジア地域における酸性雨による広域汚染の解明）
平成 10 年 7 月～現在に至る	第 36 回全国大学工業化学工学合同研究集会実行委員
平成 10 年 9 月～現在に至る	日本イオン交換学会理事
平成 10 年 10 月～平成 15 年 12 月	日本イオン交換学会学会誌編集委員
平成 13 年 4 月～平成 18 年 3 月	ハイテク・リサーチセンタープロジェクト助成金 （選択透過膜システムを用いた新規水処理プロセスの開発）（研究分担者）
平成 14 年 4 月～平成 18 年 3 月	科学研究費補助金 特定領域研究 8,200 千円 （エアロゾルの降水による沈着の促進と山岳部と都市部における乾性沈着量の比較）（研究代表者）
平成 15 年 1 月～平成 16 年 12 月	日本イオン交換学会学会誌編集委員長
平成 15 年 4 月～平成 19 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 A 一般 26,100 千円 （酸性霧の樹冠への沈着から森林衰退までのプロセスの解明と森林再生プログラムの検討）（研究代表者）
平成 17 年 2 月～現在に至る	アメリカ化学会会員

年月	内　　容
平成 17 年 7 月～平成 19 年 6 月	日本海水学会日本海水学会誌編集委員長
平成 18 年 4 月～平成 23 年 3 月	文部科学省（学術フロンティア助成金） 15,000 千円 （機能物質を目指す化学空間の設計と制御（代表者：内藤　周弌)、分担課題「選択透過膜システムの創製と輸送制御因子の解明」）（研究分担者）
平成 19 年 4 月～平成 21 年 3 月	科学研究費補助金 萌芽研究 3,300 千円 （スギ花粉表面への大気汚染物質の吸着とその花粉症発症に及ぼす影響）（研究代表者）

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部物質生命化学科	職名 教授	氏名 池原　飛之	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
小テストの活用	平成 15 年 4 月 1 日 ～現在に至る	(授業科目: 基礎高分子物性、高分子材料) 1 セメスターに小テストを 2 回行い、解答は必ず次回の授業で詳しく解説することで、学生に次週を促すと共に理解を深めることに寄与している。
小テストとレポートの活用	平成 16 年 4 月 1 日 ～現在に至る	(授業科目: 基礎物理化学、化学熱力学 I、反応速度論) その日の授業内容に関連した簡単な問題を用紙を配布して授業の最後に行い回収すると共に、レポートとして別の問題を毎回課すことで復習する機会としている。解答を必ず詳しく解説することで、更に理解を深めることに役立てている。
工学部 FD 講演会の活用	平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 9 月 30 日	2008 年 3 月 3 日に行われた工学部 FD 講演会主催講演会「初年次教育における教育目標とそれを達成する方法論」の内容を、2008 年度における FYS に採り入れ活用した。学生間の議論の活性化や円滑な授業進行に関して一定の効果があった。
学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	「基礎高分子物性」、「高分子材料」における授業評価アンケートのコメントで演習問題をもっとやって欲しいとの要望があったため、2008 年度から演習問題の出題とその解答法の解説を採り入れた。
2　作成した教科書、教材		
「応用化学演習 II」の問題集作成	平成 17 年 4 月 1 日 ～平成 18 年 3 月 31 日	1 セメスター分の問題集 (全 55 問) を作成し、授業で使用している。これは担当者が複数の科目なので、その解答も作成し各担当者に配布した。2006 年度から「物質生命化学演習 II」と科目名変更になったが、その後も継続して、現状では 3 年ごとにこの問題集を使用している。
「物質生命化学演習 II」の問題集作成	平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 21 年 3 月 31 日	2005 年度に作製した「応用化学演習 II」の問題集を基に、1 セメスター分の問題集 (全 55 問) を作成し、授業で使用している。これは担当者が複数の科目なので、その解答も作成し各担当者に配布した。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
2007 年度前期優秀講義賞	平成 19 年 10 月 10 日	工学部において学生の意見調査を参考にした 2007 年度前期優秀講義賞を受賞した。
4　実務の経験を有する者についての特記事項		

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
		なし
5　その他		
応用化学科教育委員	平成 16 年 4 月 1 日 ～平成 17 年 3 月 31 日	学科内の教育委員として、学生の対応をほぼ全て請け負った。その間、2006 年度からの新カリキュラム作成に寄与した。また必要書類を全てパソコン上で文書化し、後任者への引き継ぎを容易にした。
工学部 自己点検評価委員会委員	平成 18 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 3 月 31 日	2007、2008 年度版の工学部自己点検書の作製・編集に携わった。
工学部 FD 小委員会委員 (オブザーバー)	平成 18 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 3 月 31 日	工学部自己点検表か委員会から FD 小委員会にオブザーバーとして派遣され、両委員会の連携を円滑に進める役割を果たした。
企業技術者に対する講習会講師	平成 20 年 3 月 ～平成 20 年 11 月	技術情報協会からの依頼を受け、企業における研究者を対象とした講習会の講師としてポリマーブレンドに関する講習を 3 回行った。
工学部 FD 講演会への参加	平成 20 年 3 月 3 日	講演会「初年次教育における教育目標とそれを達成する方法論」に参加した。

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
共焦点レーザースキャン顕微鏡の活用	共著	平成 16 年	『精密高分子技術』（シーエムシー出版）		23-30 頁
論文					
Miscibility and crystallization in crystalline / crystalline blends of poly(butylene succinate) / poly(ethylene oxide)	共著	平成 15 年 4 月	Polymer,44,	Z.Qiu, T.Ikehara, T.Nishi	2799-2806 頁
Poly(hydroxybutyrate) / poly((butylene succinate) blends：miscibility and nonisothermal crystallization	共著	平成 15 年 4 月	Polymer44,（8）	Z.Qiu, T.Ikehara, T.Nishi	2503-2508 頁
Miscibility and crystallization of poly(ethylene oxide) and poly(ε-caprolactone) blends	共著	平成 15 年 5 月	Polymer44,（10）	Z.Qiu, T.Ikehara, T.Nishi	3101-3106 頁
Melting behaviour of poly(butylene succinate) in miscible blends with poly(ethylene oxide)	共著	平成 15 年 5 月	Polymer44,（10）	Z.Qiu, T.Ikehara, T.Nishi	3095-3099 頁
Crystallization behaviour of biodegradable poly(ethylene succinate) from the amorphous state	共著	平成 15 年 8 月	Polymer44,（18）	Z. Qiu, T. Ikehara, T. Nishi	5429-5437 頁
Evidence for the formation of interpenetrated spherulites in poly(butylene succinate-co-butylene carbonate)/poly(l-lactic acid) blends investigated by atomic force microscopy	共著	平成 15 年 10 月	Polymer, 44(21),	T. Ikehara, Y. Nishikawa, T. Nishi	6657-6661 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Investigation of crystallization behavior in dynamically vulcanized EPDM-nylon copolymer blends	共著	平成15年10月	Journal of Applied Polymer Science90,（3）	H. Huang, X. Liu, T. Ikehara, T. Nishi	824-829頁
Observation of morphology in EPDM/nylon copolymer thermoplastic vulcanizates by atomic force microscopy	共著	平成15年10月	Journal of Applied Polymer Science90,（5）	H. Huang, T. Ikehara, T. Nishi	1242-1248頁
Miscibility and crystallization behaviour of biodegradable blends of two aliphatic polyesters. Poly(3-hydroxybutyrate-co-hydroxyvalerate) and poly(butylene succinate) blends	共著	平成15年11月	Polymer44,（24）	Qiu, Zhaobin; Ikehara, Takayuki; Nishi, Toshio	7519-7527頁
パルス法NMRの高分子物性への適用	単著	平成15年12月	神奈川大学工学研究所所報		
Miscibility and crystallization behavior of biodegradable blends of two aliphatic polyesters. Poly(butylene succinate) and poly(ε-caprolactone)	共著	平成15年12月	Polymer44,（25）	Qiu, Zhaobin; Komura, Motonori; Ikehara, Takayuki; Nishi, Toshio	7749-7756頁
DSC and TMDSC study of melting behaviour of poly(butylene succinate) and poly(ethylene succinate)	共著	平成15年12月	Polymer, 44(26),	Qiu, Zhaobin; Komura, Motonori; Ikehara, Takayuki; Nishi, Toshio	7781-7785頁
Poly(butylene succinate)/poly(vinyl phenol) blends. Part 1. Miscibility and crystallization	共著	平成15年12月	Polymer44,（26）	Qiu, Zhaobin; Komura, Motonori; Ikehara, Takayuki; Nishi, Toshio	8111-8117頁
Study of nanorheology and nanotribology by coarse-grained molecular dynamics simulation	共著	平成16年3月	Polymer Journal36,（3）	Morita, Hiroshi; Ikehara, Takayuki; Nishi, Toshio; Doi, Masao	265-269頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Miscibility and crystallization of poly(ethylene succinate)/poly(vinyl phenol) blends	共著	平成 16 年 6 月	Polymer45,（13）	Qiu, Zhaobin; Fujinami, So; Komura, Motonori; Nakajima, Ken; Ikehara, Takayuki; Nishi, Toshio	4515-4521 頁
Spherulitic morphology and growth of poly(vinylidene fluoride)/poly(3-hydroxybutyrate-co-hydroxyvalerate) blends by optical microscopy	共著	平成 16 年 6 月	Polymer45,（13）	Qiu, Zhaobin; Fujinami, So; Komura, Motonori; Nakajima, Ken; Ikehara, Takayuki; Nishi, Toshio	4355-4360 頁
Nonisothermal crystallization kinetics of poly(butylene succinate) and poly(ethylene succinate)	共著	平成 16 年 8 月	Polymer Journal36,（8）	Qiu, Zhaobin; Fujinami, So; Komura, Motonori; Nakajima, Ken; (Ikehara, Takayukiょ; Nishi, Toshio	642-646 頁
Emerging technologies for the 3D analysis of polymer structures	共著	平成 16 年 9 月	Advances in Polymer Science170	Jinnai, Hiroshi; Nishikawa, Yukihiro; Ikehara, Takayuki; Nishi, Toshio	115-167 頁
Structure and properties of biodegradable polymer-based blends	共著	平成 16 年 10 月	Macromolecular Symposia216	Qiu, Zhaobin; Fujinami, So; Komura, Motonori; Nakajima, Ken; Ikehara, Takayuki; Nishi, Toshio	255-263 頁
Penetrating Spherulitic Growth in Poly(butylene adipate-co-butylene succinate)/Poly(ethylene oxide) Blends	共著	平成 17 年 6 月	Macromolecules38,（12）		5104-5108 頁
相互侵入球晶の形成と特徴	単著	平成 17 年 9 月	「高分子」(高分子学会)54,（9）		691 頁
Synthesis of photocrosslinkable hyperbranched polyesters and their film properties	共著	平成 17 年 10 月	Journal of Polymer Science, Part A: Polymer Chemistry43,（19）		4642-4653 頁
Miscibility and crystallization behavior of biodegradable blends of two aliphatic polyesters. Poly(3-hydroxybutyrate-co-hydroxyvalerate) and poly(ε-caprolactone)	共著	平成 17 年 12 月	Polymer46,（25）		11814-11819 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Nanotribology on polymer blend surface by atomic force microscopy	共著	平成 18 年 1 月	Polymer Journal38, (1)		31-36 頁
Various Crystalline Morphology of Poly(butylene Succinate-co-butylene Adipate) in Its Miscible Blends with Poly(vinylidene Fluoride)	共著	平成 19 年 3 月	Journal of Physical Chemistry B111, (11)	Qiu, Zhaobin; Yan, Chunzhu; Lu, Jiaoming; Yang, Wantai; Ikehara, Takayuki; Nishi, Toshio	2783-2789 頁
Local lamellar structures in banded spherulites analyzed by three-dimensional electron tomography	共著	平成 19 年 5 月	Journal of Polymer Science, Part B: Polymer Physics45, (9)	Ikehara, Takayuki; Jinnai, Hiroshi; Kaneko, Takeshi; Nishioka, Hideo; Nishi, Toshio	1122-1125 頁
Synthesis and Properties of Photo-Cross-Linkable Hyperbranched Poly(urethane)s Containing Both Terminal Methacryloyl Groups and Carboxyl Groups	共著	平成 19 年 7 月	40, (14)	Maruyama, Ken; Kudo, Hiroto; Ikehara, Takayuki; Nishikubo, Tadatomi; Nishimura, Isao; Shishido, Atsushi; Ikeda, Tomiki	4895-4900 頁
Study of Spherulitic Structures by Analyzing the Spherulitic Growth Rate of the Other Component in Binary Crystalline Polymer Blends	共著	平成 19 年 11 月	Macromolecules40, (24)	Ikehara, Takayuki; Kurihara, Hideo; Qiu, Zhaobin; Nishi, Toshio	8726-8730 頁
Thermal properties and microstructures of methylated polyrotaxane solutions	共著	平成 19 年 12 月	Current Drug Discovery Technologies4, (4)	Kataoka, Toshiyuki; Kidowaki, Masatoshi; Zhao, Changming; Araki, Jun; Ikehara, Takayuki; Ito, Kohzo	275-281 頁
Pulsed NMR Studies on Long-Term Crystallization Behavior and Melting Process of Natural Rubber under Elongation	共著	平成 20 年 4 月	Rubber Chemistry and Technology81, (1)	M. Komura, K. Nakajima, T. Nishi, T. Ikehara, Z. Qiu	110-120 頁
Effect of poly(butylene succinate) crystals on spherulitic growth of poly(ethylene oxide) in binary blends of the two substances	共著	平成 21 年 3 月	Journal of Polymer Science, Part B: Polymer Physics47, (5)	T. Ikehara, H. Kurihara, T. Kataoka	539-547 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
その他					
生分解性高分子をベースにした高分子ブレンド系の構造と物性	共著	平成 16 年 5 月	機能材料 5 月号、シーエムシー出版	池原飛之、邱兆斌、西敏夫	

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
平成元年 10 月～現在に至る	高分子学会会員
平成 16 年 4 月～現在に至る	（受託研究）新日本製鐵 (株)「ポリマーナノコンポジットのバウンドポリマーの評価技術の開発」
平成 16 年 4 月～平成 17 年 3 月	（受託研究）横浜ゴム (株)「オキセタン化合物を含む光硬化材料硬化物の作製」
平成 18 年 6 月～平成 21 年 5 月	高分子学会ホームページ委員会委員
平成 19 年 4 月～平成 22 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 (C) 一般 3,700 千円 （相互侵入球晶の形成ダイナミクスと球晶内非晶空間）（研究代表者）

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部物質生命化学科	職名 教授	氏名 岡本　専太郎	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
E-Learning 用 Web ページを通じた講義資料の配布・質問受付等	平成 18 年 4 月 1 日	研究室ホームページにリンクした独自の Web ページを作成し、これを通じて受講者に対して講義資料の配布、質問受付、補足説明を行っている。このページには、ID 番号とパスワードが必要であり、これらは、講義中に何回かアナウンスする形で受講者に知らせている。従って、完全にオープンなページではなく、あくまでも受講者を対象としたサービスとして行っている。現時点では、アクセスカウンターを設けていないので、このページの来訪者は把握できていないが、授業中に douwnload した講義資料の印刷物を多くの受講者が持っているので、かなりの人数が利用しているようだ。学生による、授業評価アンケートでも、この方法は便利であると受講者から複数の評価が得られている。
新科目「物質生命機能デザイン」の企画・実施とグループワーク用ワークブックの作成	平成 20 年 4 月 1 日	課題発見・課題解決に向けたデザインのための能力を育成する目的の思考型新科目として「物質生命機能デザイン」を昨年度より企画し、その初年度実施を取りまとめた。前半は、各研究室の先生方に研究の現場に於ける課題の発生とその解決のためのデザインと方法について実例を講義形式で行い、これらについてのレポートを課した。後半では、2 - 3 名のグループに編成し、各グループに昨年度の卒業研究課題を 1 つ選ばせ、その背景・問題点・解決のためのデザイン・方法・結果と評価を調査させ、それらを powerpoint 資料として作成するグループワークを行った。最後に、全員による発表（プレゼンテーション）を行わせ評価した。後半のグループワークに必要なワークブックを作成した。
2　作成した教科書、教材		
学科学生限定 Web ページによる課外授業教材「科学技術英語 III」	平成 18 年 4 月 1 日	研究室ホームページにリンクした独自の Web ページを作成し、これを通じて科学論文の読み方について、詳細な E-learning 教材を作成した。実際に出版された原著論文を取り上げ、一般英語・技術英語の区別をつけながら、英語論文を読む場合の注意事項と翻訳の実際を詳細に解説したものである。
学科学生限定 Web ページによる課外授業教材「有機合成虎の穴」	平成 18 年 4 月 1 日	研究室ホームページにリンクした独自の Web ページを作成し、これを通じて有機合成化学、特に天然物合成としてあるアルカロイドを取り上げ、この化合物の過去の合成例を合成戦略的に分析・分類した後、各合成法の鍵反応を解説し、その後、実際の合成の詳細を解説したものである。学部で学習する有機化学と研究（室）レベルでの実際の有機合成とのギャップは大きく、研究室配属するまでの間に、このギャップについて学部学生諸君に認識してもらい、一方、有機合成化学の「もの作り」としての面白さを感じてもらう目的で作成したもので、一人で学習できるようになっており、不明点についてはリンクの e-mail で直接私に質問できるようになっている。

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
3　教育上の能力に関する大学等の評価 学生による「授業評価アンケート」結果	平成 17 年 ～平成 20 年	ほとんどの項目で全学平均を上回る評価を得た。授業の内容上致し方ない部分では有るが、授業の進行と板書のスピードが速い点を何度か指摘されている。
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他 JABEE 委員	平成 18 年 4 月 ～平成 19 年 3 月	2006 年度の学科名称変更とカリキュラム改革実施によって 2006 年度入学生から全員 JABEE 対象者となった。旧カリキュラム（希望者が JABEE プログラム）との切り替え時であり、その運営にあたった。現在、このカリキュラムの定着を得て、今後、完成年度での見直しが予定される。
学科教育委員	平成 18 年 4 月 ～平成 20 年 3 月	2006 年度入学生から、新学科名称での新カリキュラムとなり、旧カリキュラム学生との混在での講義運営にあたった。新設置科目「物質生命機能デザイン」の企画・準備・運営を行った。授業時間割編成を行った。新旧カリキュラムの移行はおおむね円滑に行えた。今後、新カリキュラム完成年度以降の評価が必要である。
学部教育委員	平成 20 年 4 月	全学共通科目で初年度の導入教育科目である FYS について、今後の運営方法について学部教育委員会で議論し、学科単位での運営を答申した。

II　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
Asymmetric Synthesis of ally1-and α-Allenylamines from Chiral Imimes and Alkynes via (eta2-Imine)Ti(O-i-Pr)2	共著	平成 15 年	Organic Letters		2145-2149 頁
Efficient Convergent Synthesis of 1 α,25-Dihydroxyvitamin D3 and Its Analogues by Suzuki-Miyaura Coupling	共著	平成 15 年	Organic Letters		
Efficient Convergent Synthesis of 1r,25-Dihydroxyvitamin D3 and Its Analogues by Suzuki-Miyaura Coupling	共著	平成 15 年	Organic Letters		523-525 頁
An efficient synthesis of optically active (2R,3R)-2-methyl-3-[(1R)-1-methylprop-2-enyl]cyclopentanone, a useful chiral building block for synthesis of vitamin D and steroids	共著	平成 15 年	Tetrahedron Letters		2113-2115 頁
New Convergent Synthesis of 1 α,25- Dihydoroxyvitamin 3 and Its Analogues by Suzuki-Miyaura Coupling between A-ring and C,D-ring Parts	共著	平成 15 年	J.Org.Chem		9767-9772 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
An efficient synthesis of optically active five- and six-membered cyclic compounds with selectable stereo-controls by a Ti(II)-mediated cyclization of chiral secondary 2,7- and 2,8-enyn-1-ol derivatives	単著	平成 15 年	Tetrahedron Letters		653-657 頁
Formation of azatitanacyclopentanes from eneimines and a Ti(O-i-Pr)4/2i-PrMgX reagent and their synthetic reactions	共著	平成 16 年	Tetrahedron Letters, 45,		9037-9040 頁
γ-Selective allylic substitution reaction with Grignard reagents catalyzed by copper N-heterocyclic carbene complexes and its application to enantioselective synthesis	共著	平成 16 年	Tetrahedron Letters, 45,		5585-5588 頁
Cobalt-catalyzed mono-coupling of R3SiCH2MgCl with 1,2-dihalogenoethylene: A general route to γ-substituted (E)-allylsilanes	共著	平成 16 年	Tetrahedron Letters, 45,		4677-4679 頁
Use of CaH2 as a reductive hydride source: Reduction of ketones and imines with CaH2/ZnX2 in the presence of a Lewis acid	単著	平成 17 年	Tetrahedron Letters,46		1667-1669 頁
Intramolecular Cyclotrimerization of Triynes Catalyzed by N-Heterocyclic Carvene-CoCl2/Zn or-FwCl3/Zn	単著	平成 17 年	Organic Letters,7		3065-3067 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Allylic Substitution Reactions with Grignard Reagents Catalyzed by Imidazolium and 4,5-Dihydroimidazolium Carbene-CuCl Complexes	単著	平成 17 年	J.Organoment.Chem., 690		6001-6007 頁
Activity and behavior of imidazolium salts as a phase transfer catalyst for a liquid-liquid phase system	共著	平成 18 年	Tetrahedron Letters47	Sentaro Okamoto, Kouichi Takano, Tomohiro Ishikawa, Satoshi Ishigami, Akiko Tsuhako	8055-8058 頁
Ti(II)-Mediated domino cyclization of 2-functionalized 1-halo-2,n-enynes (n = 7, 8) to bicyclic compounds	共著	平成 18 年	Tetrahedron Letters47	Sentaro Okamoto, Hidemoto Ito, Shogo Tanaka and Fumie Sato	7537-7540 頁
Synthesis of N-substituted 2-arylpyrroles by the reaction of (eta2-imine)titanium complexes with 3,3-diethoxypropyne	共著	平成 18 年	Tetrahedron Letters47	Mutsumi Ohkubo, Daisuke Hayashi, Daisuke Oikawa, Kouki Fukuhara, Sentaro Okamoto, Fumie Sato	6209-6212 頁
Stereoselective construction of 3a-methylhydrindanes starting from 2,7-enynol derivatives based on Ti(II)-mediated cyclization and Ru-catalyzed ring-closing metathesis	共著	平成 18 年	Tetrahedron Letters		
Unexpected reactivity of annulated 3H-benzothiazol-2-ylideneamines as an acyl transfer catalyst	共著	平成 18 年	Tetrahedron Letters,		
Iron-catalyzed intramolecular cyclotrimerization of triynes to annulated benzenes	共著	平成 18 年	J. Organometallic Chemistry,		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
A Highly Practical Instant Catalyst for Cyclotrimerization of Alkynes to Substituted Benzenes	共著	平成 18 年	Organic Letters, 8,		1439 -1442 頁
Cobalt-catalyzed benzyl-alkynyl coupling	共著	平成 18 年	Tetrahedron Letters, 47,		2591-2594 頁
Efficient Activation of 2-Iminomethylpyridine/Cobalt-Based Alkyne [2+2+2] Cycloaddition Catalyst by Addition of a Silver Salt	共著	平成 19 年	Advanced Synthesis & Catalysis349	Avijit Goswami, Taichi Ito, Sentaro Okamoto	2368-2374 頁
Carbonyl reduction with CaH2 and R3SiCl catalyzed by ZnCl2	共著	平成 19 年	Tetrahedron Letters47	Akiko Tsuhako, Jing-Qian He, Mariko Mihara, Naoko Saino and Sentaro Okamoto	9120-9123 頁
Selective Cleavage of Allyl and Propargyl Ethers to Alcohols Catalyzed by Ti(O-i-Pr)4/MXn/Mg	共著	平成 19 年	Oragnic Letters9	Mutsumi Ohkubo, Sayaka Mochizuki, Takeshi Sano, Yuuki Kawaguchi, Sentaro Okamoto	733-776 頁
On-Demand Generation of an Efficient Catalyst for Pyridine Formation from Unactivated Nitriles and alfa,omega-Diynes Using CoCl2-6H2O, dppe and Zn	共著	平成 19 年	Organic Letters9	Kouki Kase, Avijit Goswami, Kazuhiko Ohtaki, Emi Tanabe, Naoko Saino, Sentaro Okamoto	931-934 頁
Selective Dimerization of 1,6-Diynes Catalyzed by Ionic Liquid-Supported Nickel Complexes in An Ionic Liquid/Toluene Biphasic System	共著	平成 20 年	Chem. Commun.	Avijit Goswami, Taichi Ito, Naoko Saino, Kouki Kase, Chikashi Matsuno and Sentaro Okamoto	in press 頁
Synthesis of Substituted 2,2'-Bipyridines and 2,2 ':6 ',2 "-Terpyridines by Cobalt-Catalyzed Cycloaddition Reactions of Nitriles and α, ω-Diynes with Exclusive Regioselectivity	共著	平成 20 年	Advanced Synthesis & Catalysis350	Avijit Goswami, Kazuhiko Ohtaki, Kouki Kase, Taichi Ito, Sentaro Okamoto	143-152 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Copper-catalyzed intramolecular hydroamination of allenylamines to 3-pyrrolines or 2-alkenylpyrrolidines	共著	平成 20 年 9 月	Tetrahedron Letters49	Akiko Tsuhako, Daisuke Oikawa, Kazushi Sakai, Sentao Okamoto	6529-6532 頁
Two-step allylic carbon insertion between ketone carbonyl and carbons giving a-quaternary a-vinyl ketones	共著	平成 20 年 10 月	etrahedron Letters49	Jing-Qian He, Daisuke Shibata, Chihaya Ohno, Sentaro Okamoto,	6724-6727 頁
Selective Dimerization of 1,6-Diynes Catalyzed by Ionic Liquid-Supported Nickel Complexes in An Ionic Liquid/Toluene Biphasic System	共著	平成 21 年 1 月	Chemical Communications	Avijit Goswami, Taichi Ito, Naoko Saino, Kouki Kase, Chikashi Matsuno and Sentaro Okamoto	439-441 頁
その他					
(招待講演) プロスタグランジン類の戦略的合成法開発とその後	単著	平成 15 年 8 月	第 2 回バイオリピットフォーラム 東京工業大学（東京）		
（国際会議発表）Stereoselective construction of 3a-methylhydroindenes by sequential Ti(II)-mediated cyclization/allylation and ring closing metathesis	共著	平成 17 年 12 月	PACIFICHEM 2005, Sesion 861, Program#1780 (Honolulu, Hawaii)	M.Ohkubo, W.Uchikawa, A.Nakano, T.Shirato and S.Okamoto	
（国際会議発表）Use of CaH2 as a reductive hydride source: Reduction of ketones and imines with CaH2/ZnX2 in the presence of Lewis acid	共著	平成 17 年 12 月	PACIFICHEM 2005, Sesion 861, Program#1752 (Honolulu, Hawaii)	T.Aida, N.Kuboki, W.Uchikawa, C.Matsuno and S.Okamoto	
（国際会議発表）Allylic and propargylic substitution reactions with Grignard reagents catalyzed by N-heterocyclic carbene-CuCl complexes	共著	平成 17 年 12 月	PACIFICHEM 2005, Sesion 699, Program#1155 (Honolulu, Hawaii)	K.Kase, S.Tominaga, K.Shimoda, N.Saino and S.Okamoto	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
（国際会議発表）Intramolecular Cyclotrimerization of Triynes Catalyzed by an N-Heterocyclic Carbene-CoCl2 or -FeCl3/Zn Reagent	共著	平成17年12月	Pachfichem 2005: Hawaii		
（国際会議発表）Co(acac)3-Catalyzed Benzyl-Alkynyl Coupling Reaction	共著	平成17年12月	Pacifichem 2005: Hawaii		
（国際会議発表）IRON- and COBALT-BASED HIGHLY PRACTICAL INSTANT CATALYST FOR CYCLOTRIMERIZATION OF ALKYNES TO SUBSTITUTED BENZENS	共著	平成18年8月	1st European Chemistry Congress(Budapest, Hungary)	S.Okamoto, N.Saino, K.Kase, F.Mamemiya and E.Tanabe	Proc. P.55 [C-PO-101] 頁
（国際会議発表）On-Demand Generation of a Catalyst for Pyridine Formation from Unactivated Nitriles and α, ω-Diynes Using CoCl2-6H2O, dppe and Zn	共著	平成19年8月	14th IUPAC International Symposium on Organometallic Chemistry Directed Towards Organic Synthesis(Nara, Japan)	S. Okamoto, K. Kase, A. Goswami, K. Ohtaki, E. Tanabe, N. Saino	Proc. P-348 頁
（国際会議発表）Synthesis of Substituted 2,2'-Bipyridines by Cobalt-Catalyzed Cycloaddition Reactions of Nitriles and α, ω-Diynes with Exclusive Regioselectivity	共著	平成19年8月	14th IUPAC International Symposium on Organometallic Chemistry Directed Towards Organic Synthesis(Nara, Japan)	A. Goswami, K. Ohtaki, K. Kase, S. Okamoto	Proc. P-349 頁
（国際会議発表）NICKEL-CATALYZED DIMERIZATION AND POLYMERIZATION OF 1,6-DIYNES	共著	平成20年7月	16th International Symposium on Homogeneous Catalysis (Florence (Italy)	Sentaro OKAMOTO, Avijit GOSWAMI, Naoko Saino and Taichi ITO	[P360] 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 60 年 3 月～現在に至る	日本化学会会員
平成 2 年 4 月～現在に至る	科学研究費補助金 奨励研究 (A) 800 千円 （抗潰瘍性プロスタグランジン誘導体の効率的合成法の開発）
平成 10 年 4 月～現在に至る	アメリカ化学会会員
平成 14 年 4 月～現在に至る	近畿化学協会会員
平成 14 年 4 月～平成 16 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 (C)　3,500 千円 （2 価チタンによる連続分子間–分子内カップリング：一段階多結合生成反応）（研究代表者）
平成 15 年 4 月～平成 17 年 3 月	日本化学会「化学と工業」編集委員
平成 16 年 4 月～平成 18 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究（C） 3,700 千円 （アザチタナサイクルの生成を基盤とするα－分岐アミン類の立体選択的合成）（研究代表者）
平成 18 年 1 月～平成 20 年 12 月	日本化学会代議員
平成 19 年 4 月～平成 21 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究　C 2,300 千円 （低原子価チタンの新発生法と結合生成・解裂反応への利用）（研究代表者）
平成 20 年 4 月～現在に至る	高分子学会会員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部物質生命化学科	職名 教授	氏名 小野　晶	大学院における研究指導当 資格の有無　（㊒・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
ホームページを利用した知識の提供	平成 17 年 10 月	ホームページに配布した教材、問題の解答例などを掲載し、学生が復習できるようにしている。
学生による授業評価アンケート結果の利用	平成 17 年 10 月	学生の意見に従い、板書を工夫するなど、授業運営の改善に努めている。
周辺知識の調査課題	平成 17 年 10 月	授業で取り扱う領域で重要な貢献をした研究者について調べる課題を課すなど、学生が多角的視点から学問に対する興味を高めるられるように工夫している。
電子メールの活用	平成 17 年 10 月	メールアドレスを公開し、質問と解説など、電子メールで教員学生のコミュニケーションを取れるように、使用を促している。
自主性の涵養	平成 17 年 10 月	授業を開始するにあたって「大学は義務教育ではないのだから、勉強したくない人は在籍する必要はない。学問を志す者が集うところである。」ということを話て聞かせ、基本的自主性を促している。
授業評価アンケートの活用	平成 19 年 1 月 1 日	課題、練習問題の解答例が欲しいという要望があった。ホームページに掲載することとした。
2　作成した教科書、教材		
演習テキスト	平成 18 年	毎年、物質生命化学演習のテキストを作成している。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		
学部ホームページの作成	平成 18 年 4 月	工学部広報委員として学部ホームページ担当グループに所属し、学生に分かりやすいホームページを作成した。学生の受賞などを掲載し、やる気を出させる工夫をした。

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
日本技術者認定機構	平成 19 年 4 月	学科担当者となり、学科の教育が日本技術者認定機構の認定に相応しいものであるように、種々取り計らっている。
神奈川大学論文大賞審査	平成 19 年 4 月	高校生の科学活動の奨励の一環として、高校生の科学クラブ活動から提出された論文を審査した。

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
Novel Strategy for Efficient Detection of Single Nucleotide Polymorphism (SNP):Specific Binding of Mercury (II) Cation to T:T Mismatch Base Pair and That of Silver (I) Cation to C:C Mismatch Base Pair	共著	平成 18 年 9 月	”Moleculomics and Thereafter” edited by Takaki Hiwasa, Research Signpost, Ltd., pp.1-21 (2006).		
論文					
Rotational diffusion tensor of nucleic acids from 13C NMR relaxation	共著	平成 15 年	J. Biomol. NMR27	Boisbouvier, L., Wu, Z., Ono, A., Kainosho, M.	133-142 頁
Stabilization of DNA Triplexes by Dangling Aromatic Residues	共著	平成 16 年 3 月	Tetrahedron Letters	Mio Kubota, Akira Ono	1187-1190 頁
Multiple-pyrene residues arrayed along DNA backbone exhibit significant excimer fluorescence	共著	平成 16 年 3 月	Tetrahedron Lettes	Momo Kosuge, Mio Kubota, Akira Ono	3945-3947 頁
DNA-Based Aromatic Zipper Fastened by an Aromatic Stacking Interaction	共著	平成 16 年 3 月	T etrahedron Letters	Mio Kubota, Akira Ono	5755-5758 頁
Novel Highly Selective Mercury Sensing in Aqueous Solutions: Fluorescence Resonance Energy Transfer associated with Hairpin Structure Formation of Oligonucleotide Derivatives derived by Mercury-Mediated Thymine-Hg-Thymine Pair Formation	共著	平成 16 年 3 月	Angewandte Chemie Int. Ed.,H. Togashi & A. Ono		4300-4302 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Fluorescent Sensor for Redox-Environment: A Redox-Controlled Molecular Device Based on the Reversible Mercury Mediated Folded Structure Formation of Oligothymidylate	共著	平成 17 年	Tetrahedron Letters	Yoko Miyake and Akira Ono	2441-2443 頁
Recognition of Oxidized Thymine Base on the Single-Stranded DNA by Replication Protein A	共著	平成 18 年	Nucleosides Nucleotides & Nucleic Acids25	Irie, D., Ono, A. & Izuta, S	436-451 頁
“ NMR spectroscopic study of a DNA duplex with mercury mediated T-T base pairs ”	共著	平成 18 年	Nucleoside Nucleotides & Nucleic Acids25	Yoshiyuki Tanaka, Hiroshi Yamaguchi, Shuji Oda, Makoto Nomura, Chojiro Kojima, Yoshinori Kondo, Akira Ono	613-624 頁
MercuryII-mediated formation of thymine-HgII-thymine base pairs in DNA duplexes	共著	平成 18 年 2 月	journal of the american chemical society128	Yoko Miyake, Humika Togashi, Mitsuru Tashiro, Hiroshi Yamaguchi, Shuji Oda, Megumi Kudo, Yoshiyuki Tanaka*, Yoshinori Kondo, Ryuichi Sawa, Takashi Fujimoto, Tomoya Machinami, Akira Ono*	2172-2173 頁
15N-15N J-Coupling Across HgII: Direct Observation of HgII-Mediated T-T Base Pairs in a DNA Duplex	共著	平成 19 年 2 月	Journal of A merican C hemical S ociety129	Yoshiyuki Tanaka*, Shuji Oda, Hiroshi Yamaguchi, Yoshinori Kondo, Chojiro Kojima and Akira Ono*	245-246 頁
新規ナノデバイス材料としてのメタロ DNA 分子の構造	共著	平成 20 年	生物物理 48,（22）	田中好幸、鳥越秀峯、小野　晶	119-124 頁
“ Nitrogen-15 NMR spectroscopy of N-metallated nucleic acids: insights into 15N NMR parameters and N metal bonds ”	共著	平成 20 年	Dalton transactions（37）	Yoshiyuki Tanaka* and Akira Ono	4965-4974 頁
“ Specific interactions between Silver(I) Ions and Cytosine Cytosine Pairs in DNA Duplexes ”	共著	平成 20 年	Chemical Communications（39）	Akira Ono*, Shiqi Cao, Humika Togashi, Mitsuru Tashiro, Takashi Fujimoto, Tomoya Machinami, Shuji Oda, Yoko Miyake, Itaru Okamoto, and Yoshiyuki Tanaka	4825-4827 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Metal-Ion Selectivity of Chemically Modified Uracil Pairs in DNA Duplexes	共著	平成 21 年 2 月	Angew. Chem. Int. Ed.,48,（9）	I. Okamoto, K. Iwamoto, Y. Watanabe, Y. Miyake, A. Ono*	1648-1651 頁
その他					
なし					

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
平成 14 年 4 月～平成 16 年 3 月	科学研究費補助金 提案公募型研究タンパク 3000 プロジェクト 10,000 千円 （同位体標識 DNA を用いる複製・修復関連蛋白質の構造決定）（研究代表者）
平成 16 年 4 月～平成 20 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究Ｂ 一般 13,200 千円 （遺伝子の一塩基多型（SNP）の効率的検出手法の開発研究）（研究代表者）
平成 16 年 9 月～現在に至る	三菱財団（第 35 回（平成 16 年度）三菱財団自然科学研究助成） 5,000 千円 （異種金属を任意に配列させた金属含有 DNA ナノワイヤーの構造と物性）（研究代表者）
平成 17 年 4 月～現在に至る	日本化学会会員
平成 17 年 4 月～現在に至る	日本薬学会会員
平成 17 年 4 月～現在に至る	高分子学会会員
平成 17 年 4 月～現在に至る	分析化学会会員
平成 17 年 4 月～現在に至る	ナノ学会会員
平成 18 年 4 月～平成 23 年 3 月	科学研究費補助金 学術フロンティア研究 3,000 千円 （機能物質創製を目指す化学空間の設計と制御）（研究分担者）
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	神奈川大学（神奈川大学共同研究奨励助成金） 6,000 千円 （金属含有 DNA ワイヤーの自己組織化による新規ナノ空間構造の構築）（研究代表者）

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部物質生命化学科	職名 教授	氏名 小出　芳弘	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		なし
2　作成した教科書、教材 物質生命化学基礎実験テキスト 物質生命化学基礎演習テキスト	 平成 18 年 5 月 平成 18 年 8 月	
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
One-Step Synthesis of Aluminum Acetylacetonate from [AlO(OH)]n (Boehmite) in Water	共著	平成 17 年 10 月	日本化学会		
鉱物ベーマイト([AlO(OH)]n) と有機配位子の直接反応によるアルミニウム配位化合物の合成	単著	平成 17 年 11 月	工学研究所報告		
Configuration-Specific Synthesis of the Facial and Meridional Isomers of Tris(8-hydroxyquinolinate)aluminum (Alq3)	共著	平成 18 年 7 月	Inorganic Chemistry		5730-5732 頁
Spontaneous Assembly of Dendrite Structure by Coordination of Al to 5,8-Dihydroxy-1,4-naphthoquinone	共著	平成 19 年 4 月	36	佐藤佑典	600 頁
Self-Assembled Monolayers Assisted Solid-State Conversion of Boehmite Particles to Aluminum Oxide Films	共著	平成 19 年 8 月	129,（33）	Naoko Sakuragi, Shintaro Yamamoto, Yoshihiro Koide	10048 頁
Preparation of Noncontact Ordered Array of Polystyrene Colloidal Particles by Using a Metallic Thin Film of Fused Hemispheres	共著	平成 20 年 10 月	Colloids and Surfaces A (Elsevier)330	藤澤圭　中根道治	108 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Size Controlled Synthesis of Periodic Nanocrystal Arrays by Using the Metal Hemispherical Nanowells	共著	平成 21 年	Chemistry Letters, Chemical Society of Japan	Yumina Sato	674 頁
Assembly of SAM-coated Al2O3 on TiO2 thin films for the fabrication of renewable superhydrophobic- superhydrophilic structures	共著	平成 21 年	Langmuir, American Chemical Society25(13), p.7226	S.Nishimoto, Y. Koide, A. Fujishima	7226 頁
その他					

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
平成 3 年～現在に至る	アメリカ化学会会員
平成 17 年 7 月～現在に至る	日本化学会会員
平成 17 年 10 月～現在に至る	高分子学会会員
平成 17 年 11 月～現在に至る	錯体化学会会員
平成 18 年 4 月～平成 19 年 3 月	財団法人　東京応化科学技術振興財団 1,000 千円 （アルミニウム配位化合物の立体選択合成の研究）（研究代表者）
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	財団法人　日本板硝子材料工学助成会 3,000 千円 （分子自己組織化を用いたアモルファスベーマイト皮膜によるガラス表面の超撥水加工の研究）（研究代表者）
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	神奈川大学 6,000 千円 （金属含有 DNA ワイヤーの自己組織化による新規ナノ空間構造の構築）（研究分担者）
平成 18 年 9 月～現在に至る	日本板硝子材料工学助成会 93,510 千円 （国際研究集会参加助成金）（研究代表者）
平成 19 年 4 月～平成 20 年 3 月	株式会社岩谷化学（有機ＥＬ用発光材料） 1,200 千円 （バイアライトを原料とする環境にやさしい新規発光材料の開発）（研究代表者）

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部物質生命化学科	職名 教授	氏名 櫻井　忠光	大学院における研究指導当 資格の有無　（㊒・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 19 年 4 月 1 日	（授業科目：基礎物理化学・化学熱力学Ⅰ・反応速度論・基礎分子光化学）平成 18 年度前期に実施された授業評価アンケート結果を踏まえ、学生の授業内容に対する理解度の把握と向上を目的として従来の授業運営方法の改善に取り組んだ。具体的には、原則として毎回授業終了後に重要事項についての基本的な問題（計算問題・説明問題・式の誘導問題・穴埋め問題等）を 2 問題作成し、宿題として学生に配付した。翌週の授業開始前に、復習と当日の授業目的の説明を兼ねて 15 分程度宿題の解説を行い、授業がスムーズに開始できるように工夫した。授業終了後に、当日の授業内容と宿題に関する質問時間を設けて遅刻者に対応した。学生にとって授業態度が評価され、また学期末試験の対策にもなることから、ほとんど全ての学生は宿題を提出しているようである。
2　作成した教科書、教材		なし
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
Cationic Micellar Effects on the Proton Transfer Reactions of N-Substituted 2-(7-Hydroxycoumarin-4-yl)acetamides and Related Compound in the Ground and Excited Singlet States	共著	平成 15 年 4 月	J.Photochem.Photobiol.A:Chem.,156 巻,1-3 号		127 頁
A New Route to Papaverine Analogs via Photocyclization of N-Acyl-α-dehydrophenylalanine Derivatives	共著	平成 15 年 8 月	Heterocycles,60 巻,8 号		1779 頁
Asymmetric Transformation of Chiral Auxiliary-Substituted N-Acyl-α-dehydro(1-naphthyl)alanines into 3,4-Dihydrobenzo[f]quinolinone Derivatives via Photoinduced Electron Transfer	共著	平成 16 年 2 月	Tetrahedron,60 巻,5 号		1183 頁
Selective Phototransformation of Hydroxy-Substituted Aromatic Nitrones into N,N-Diarylformamide Derivatives Showing a Novel Conformational Isomerism	共著	平成 16 年 2 月	Heterocycles,63 巻,2 号		241 頁
Selective and Efficient Transformation of N-(4-Substituted benzoyl)-α-dehydroarylalanine Alkyl Esters into 4,5-Dihydrooxazole Derivatives via Photoinduced Electron Transfer	共著	平成 16 年 4 月	Tetrahedron Lett.,45 巻,18 号		3663 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Viscosity Effects on 9,10-Dicyanoanthracene-Sensitized Photooxidation of *N*,*N*-Dibenzylhydroxylamine and Its Derivatives in Protic Polar Solvents	共著	平成 16 年 4 月	J.Photochem.Photobiol.A:Chem.,163 巻,1-2 号		135 頁
Abilities of 1-(9-Anthrylmethyloxy)-2-pyridone and Related Compounds to Initiate Radical and Cationic Photopolymerizations	共著	平成 16 年 6 月	J.Polym.Sci.Part A:Polym.Chem.,42 巻,12 号		2859 頁
A Novel Ring-Opening Reaction of (Z)-2-Methyl-4-arylmethylene-5(4H)-oxazolone Derivatives with N-Acylhydrazines	共著	平成 16 年 6 月	Heterocycles,63 巻,6 号		1273 頁
Radical Copolymerization of Diarylnitrone Derivatives Having a Polymerizable Group with Methyl Methacrylate	共著	平成 16 年 7 月	Macromolecules,37 巻,15 号		5482 頁
Photocontrol of the Refractive Index of Poly(methyl methacrylate) with a Nitrone Additive	共著	平成 16 年 9 月	J.Appl.Polym.Sci.,93 巻,9 号		2517 頁
A Novel Route to 2-Imidazolin-5-one Derivatives via Oxidative Cyclization of Aryl- Substituted (Z)-N-Acetyl-α-dehydroalanines Having a Dialkylamino Group	共著	平成 16 年 10 月	Tetrahedron,60　巻,42 号		9517 頁
Highly Selective Conversion of N-Aroyl-・-dehydronaphthylalaninamides into 3,4- Dihydrobenzoquinolinone Derivatives via Photoinduced Intermolecular Electron Transfer	共著	平成 16 年 11 月	Tetrahedron, 60 巻, 45 号	K. Maekawa, A. Shinozuka, M. Naito, T. Igarashi, T. Sakurai	10293 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Electron Transfer-Initiated and Highly Selective Photocyclization of N-Acyl-α-dehydroarylalaninamides to 3,4-Dihydroquinolinone Derivatives	共著	平成 17 年 1 月	Heterocycles,65 巻,1 号		117 頁
A Photoinduced Refractive-Index Increase in Poly(methyl methacrylate) Film Doped with N-Acetyl-α-dehydroarylalanine Naphthyl Esters	共著	平成 17 年 8 月	Macromolecules38, (17)		7207 頁
Bond-Cleavage Mode of O-Acyl Anthracene-9-methanol Derivatives in the Singlet Excited State and Their Abilities to Initiate Radical and Cationic Photopolymerizations	共著	平成 17 年 8 月	J. Photochem. Photobiol. A: Chem., 174 巻, 2 号		130 頁
Photoreactivity of Diarylnitrone Additive/Pendant in Poly(methyl methacrylate) Film and Photocontrol of Refractive Index for This Polymer Film	共著	平成 17 年 9 月	J. Photochem. Photobiol. A: Chem., 174 巻, 3 号		199 頁
Molecular Size Effects of Diarylnitrone Additive on the Refractive-Index Change in Poly(methyl methacrylate) Film	共著	平成 17 年 10 月	Polym. J., 37 巻, 10 号		776 頁
Graft Photocopolymerization of Styrene with 9-Anthrylmethyl-Substituted Poly(methyl methacrylate)	共著	平成 17 年 10 月	Polym. J., 37 巻, 10 号		754 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Electron Transfer-Initiated Asymmetric Photocyclization of Chiral Auxiliary-Substituted N-Acyl-α-dehydro(1-naphthyl)alaninamides to the Corresponding 3,4-Dihydrobenzo[f]quinolinone Derivatives	共著	平成 17 年 11 月	Tetrahedron61,（47）		11211 頁
Behavior of Nitroxyl Radical in the Polymerization Process Forming Copolymers Bearing Diarylnitrone Pendants and Photocontrol of Refractive Indices for These Copolymers	共著	平成 18 年 1 月	J. Polym. Sci. Part A: Polym. Chem.,44 巻, 1 号		88 頁
Abilities of 2-Arylmethyloxy-6-cyanonaphthalene Derivatives to Initiate Radical and Cationic Photopolymerizations	共著	平成 18 年 1 月	J. Polym. Sci. Part A: Polym. Chem.,44 巻, 1 号		25 頁
A Convenient Synthesis of Papaverine Analogs via Photocyclization of *N-Acyl*-α-dehydroarylalaninamide Derivatives	共著	平成 18 年 5 月	Heterocycles68 巻,（5 号）	H. Hoshina, K. Maekawa, K. Kobayashi, T. Igarashi, T. Sakurai	993 頁
Preferred Conformations of Diastereomeric N-Acyl-1-naphthylalanylprolinamides and Related Dipeptide and Their Fluorescence Quenching by Chiral Amines	共著	平成 18 年 8 月	Heterocycles68 巻,（8 号）	H. Kurosawa, K. Bakoshi, S. Ichikawa, T. Igarashi, T. Sakurai	1571 頁
Nitrile-Forming Radical Elimination Reactions of 1-Naphthaldehyde O-(4-Substituted Benzoyl)Oximes Activated by Triplet Benzophenone	共著	平成 18 年 9 月	J. Photochem. Photobiol. A: Chem183 巻,（2 号）	K. Yamada, M. Satoh, K. Tanaka, A. Wakabayashi, T. Igarashi, T. Sakurai	205 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Crystal Structures of N,N'-Bis(1-naphthylmethyl)-1,4,10,13-tetraoxa-7,16-diazacyclooctadecane Complexed with Lithium and Zinc Thiocyanates	共著	平成18年12月	Heterocycles70巻,（12号）	K. Kubo, T. Sakurai, H. Takahashi, T. Haruko	83頁
1-(Arylmethyloxy)anthracenes: Novel Photoinitiators for Radical and Cationic Polymerizations	共著	平成18年12月	Macromolecules39 巻,（25号）	K. Tanaka, Y. Koizumi, T. Igarashi, T. Sakurai	8556頁
1,4-Bis(1-naphthylmethyl)piperazine	共著	平成19年2月	Acta Crystallogr., Sect. E63巻,（2号）	K. Kubo, E. Yamamoto, A. Hayakawa, T. Sakurai, A. Mori	1347頁
9-(Bromoacetyl)anthracene	共著	平成19年2月	Acta Crystallogr., Sect. E63巻,（2号）	K. Kubo, K. Watanabe, T. Sakurai	1300頁
9-(Bromoacetyl)anthracene dimer	共著	平成19年4月	Acta Crystallogr., Sect. E, 63巻, 4号	K. Kubo, T. Matsumoto, K. Ikeda, K. Watanabe, T. Sakurai	2609頁
N-Hydroxy-N-phenylnaphthalene-2-carboxamide	共著	平成19年4月	Acta Crystallogr., Sect. E63巻,（4号）	K. Kubo, T. Matsumoto, K. Yuhi, J. Kubo, T. Sakurai	1942頁
A Novel 1-Naphthylmethyleneimino-Type Photocleavable Protecting Group for Amines	共著	平成19年6月	Synlett, 9号	T. Igarashi, M. Shimokawa, M. Iwasaki, K. Nagata, M. Fujii, T. Sakurai	1436頁
Photoinduced Electron Transfer-Initiated Asymmetric Cyclization of N-Benzoyl-α-dehydronaphthylalanine Alkyl Esters Carrying Chiral and Bulky Auxiliaries	共著	平成19年7月	Tetrahedron Lett., 48巻 27号	Y. Sasaki, K. Maekawa, H. Watanabe, T. Matsumoto, K. Kubo, T. Igarashi, T. Sakurai	4765頁
Preferential Formation of cis-4,5-Dihydrooxazole Derivatives via Photoinduced Electron Transfer-Initiated Cyclization of N-Acyl-α-dehydroarylalanine Alkyl Esters	共著	平成19年11月	Tetrahedron, 63巻, 46号	K. Maekawa, N. Hishikawa, K. Kubo, T. Igarashi, T. Sakurai	11267頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Synthesis and Properties of PET Fluoroionophore having 1-Pyridin-2-yl-piperazine Group	共著	平成 19 年 12 月	Heterocycles, 74 巻，1 号	K. Kubo, T. Sakurai, H. Takahashi, H. Takechi	167 頁
Photoinduced Electron Transfer-Initiated Enantioselective Cyclization of N-Benzoyl-α-dehydroarylalanine tert-Butyl Esters in the Presence of Chiral Amine	共著	平成 19 年 12 月	Heterocycles, 74 巻，1 号	H. Watanabe, K. Maekawa, T. Igarashi, T. Sakurai	149 頁
Proton Dissociation-Induced Tautomerization of 4-Substituted 7-Hydroxycoumarin and Its Bridged Dimer in the Ground State	共著	平成 20 年 9 月	Heterocycles76,（1）	H. Umeto, K. Kobayashi, T. Igarashi, T. Sakurai	161-168 頁
Efficient Formation of a Triazole Ring via Novel Ring-Opening Reaction of (Z)-2-Methyl-4-arylmethylene-5(4H)-oxazolones with Hydrazides	共著	平成 20 年 12 月	Heterocycles75,（12）	K. Maekawa, A. Tomoda, T. Igarashi, T. Sakurai	2959-2971 頁
Crystal Structure of trans-1,2,3-Tribenzoylcyclopropane	共著	平成 20 年 12 月	北海道医療大学人間基礎科学論集（34）	K. Kubo, T. Iwasawa, T. Sakurai, H. Takahashi, H. Takechi	A 47-A 56 頁
Novel Photoinduced Electron Transfer-Initiated Cyclization of 1,2,4-Triazole-Substituted α-Dehydronaphthylalaninamides in the Presence of Triethylamine	共著	平成 21 年 3 月	Heterocycles77,（2）	K. Maekawa, A. Tomoda, T. Igarashi, T. Sakurai	739-746 頁
その他					

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 45 年 4 月～現在に至る	日本化学会会員
昭和 61 年 11 月～現在に至る	光化学協会会員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部物質生命化学科	職名 教授	氏名 佐藤　憲一	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 18 年 9 月	平成 16 年前期のアンケート評価を受け、内容をわかりやすく伝える為、補助プリントを使用するなど授業運営の改善を行った。（後に学生による評価結果として優秀講義賞を受賞）
2　作成した教科書、教材		なし
3　教育上の能力に関する大学等の評価 2006 年度工学部優秀講義賞 2007 年度工学部優秀講義賞	平成 18 年 4 月 ～平成 19 年 3 月 平成 19 年 4 月 ～平成 20 年 3 月	2006 年度工学部優秀講義賞を受賞 2007 年度工学部優秀講義賞を受賞
4　実務の経験を有する者についての特記事項 サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト（神奈川県立横須賀高等学校、科学技術振興機構） 神奈川大学工学部高校生向け公開講座	～平成 18 年 10 月 ～平成 19 年 12 月	講座型学習活動（プランＡ）として、出張講義、本学での実験を企画し、講師を務め、生徒を啓蒙した。 高校生を対象として化学の素晴らしさを伝えるべく講師を務めた。
5　その他 工学教育連合講演会の企画 工学部ＦＤ委員会 ゼミ教育	平成 14 年 11 月 ～平成 16 年 平成 17 年 4 月 ～平成 18 年 3 月 ～平成 17 年	～平成 16 年日本工学教育協会のシンポジウム企画委員として「本格化した技術者教育認定制度」と題する講演会を企画した。 工学部ＦＤ委員会委員長としてＦＤ関連の講演を企画し、ＦＤの普及に努めた。 有機合成化学協会関東支部シンポジウムにおいて、ゼミ生の若手講演賞受賞 2 件。この 2 人は神奈川大学学生表彰を受けた。

II　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
“ Practical Synthesis of [1-13C]- and [6-13C]-D-Galactose ”	共著	平成 15 年 5 月	Tetrahedron Lett., 44(26),(2003).	K. Sato, S. Akai, M. Sakuma, M. Kojima and K. Suzuki	4903-4907 頁
“ Synthesis of D-Ruburanitrose by Using a Novel Method for Constructing Functionalized Branched-chain Structures ”	共著	平成 16 年 3 月	Tetrahedron Lett., 45(7), (2004).	K. Sato, D. Miyama, and S. Akai	1523-1525 頁
”An improved method for synthesizing antennary beta-D-mannopyranosyl disaccharide units”	共著	平成 16 年 10 月	Tetrahedron Lett., 45(44), (2004).	K. Sato, S. Akai, A. Yoshitomo, Y. Takai	8199-8201 頁
“ Practical synthesis of D-[1-13C]mannose, L-[1-13C] and L-[6-13C]fucose ”	共著	平成 17 年 1 月	Tetrahedron Lett.,46(2), (2005).	K. Sato,* S. Akai, H. Youda, M. Kojima, M. Sakuma, S.-i. Inaba, and K. Kurosawa	237-243 頁
“ Novel and stereocontrolled synthesis of (±)-tetrodotoxin from myo-inositol ”	共著	平成 17 年 9 月	J. Org. Chem., 70(19)	Ken-ichi Sato, Shoji Akai, Naoki Sugita, Tadatsugu Ohsawa, Tomokazu Kogure, Hirotsugu Shoji, Juji Yoshimura	7496-7504 頁
“ Convenient construction of a variety of glycosidic linkages using a universal glucosyl donor ”	共著	平成 17 年 10 月	Tetrahedron Lett., 46(43)	Ken-ichi Sato, Shoji Akai, Koudai Sakai, Masaru Kojima, Hideshige Murakami, Tetsuya Idoji	7411-7414 頁
”A novel method for regioselective ring-opening reduction of 4,6-O-benzylidene hexopyranoside derivatives using CoCl2 and BH3/THF”	共著	平成 19 年 5 月	Tetrahedron Lett.48, (17)	S. Tani, S. Sawadi, M. Kojima, S. Akai, K. Sato	3103-3104 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
”The use of 2-O-propagyloxycarbonyl protecting group in the selective formation of 1,2-trans-glycosidic linkage”	共著	平成 19 年 6 月	Tetrahedron Lett.48, (25)	K. Sato, K. Sakai, M. Kojima, S. Akai	4423-4425 頁
”The first total synthesis of telephiose A”	共著	平成 19 年 6 月	Tetrahedron Lett.48, (21)	K. Sato, K. Sakai, K. Tsushima, S. Akai	3745-3748 頁
”Stereoselective and Efficient Total Synthesis of Optically Active Tetrodotoxin from D-Glucose”	共著	平成 20 年 3 月	J. Org. Chem.73, (4)	K. Sato, S. Akai, H. Shoji, N. Sugita, S. Yoshida, Y. Nagai, K. Suzuki, Y. Nakamura, Y. Kajihara, M. Funabashi, J. Yoshimura	1234-1242 頁
“ Total Syntheses of Bistratamides J, E, and H from Two Types of dehydroAla-Containing Oligopeptides ”	共著	平成 20 年 4 月	Bull. Chem. Soc. Jpn.81, (4)	H. Suzuki, M. Andoh, Y. Yonezawa, S. Akai, C. Shin, K. Sato	495-501 頁
“ Thioester-assisted a-sialylation reaction ”	共著	平成 20 年 6 月	Tetrahedron Lett.49 , (43)	S. Hanashima, S. Akai, K. Sato	5111-5114 頁
“ Synthesis of (-)-Tetrodotoxin ”	共著	平成 20 年 8 月	Synfacts2008, (8)	K.-I. Sato, S. Akai, H. Shoji, N. Sugita, S. Yoshida, Y. Nagai, K. Suzuki, Y. Nakamura, Y. Kajihara, M. Funabashi, J. Yoshimura	794 頁
その他					
「新規α-ヒドロキシアルデヒド分枝鎖構築法を鍵反応とする天然産分枝糖の合成研究」	共著	平成 15 年 5 月	第 45 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム (群馬シンポジウム)(桐生).		
「フェニルカルバモイル基の特性を利用するグリコシル化反応による実用的な糖鎖の合成研究」	共著	平成 15 年 5 月	第 45 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム (群馬シンポジウム)(桐生).		
「^{13}C 標識化 Sialyl LeX mimetics の合成」	共著	平成 15 年 11 月	第 46 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム (新潟シンポジウム)(新潟).		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
「フェニルカルバモイルの特性を利用した効率的な糖鎖の合成研究」	共著	平成 15 年 11 月	第 46 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム (新潟シンポジウム)(新潟).		
「^{13}C 標識化 D-mannose の合成」	共著	平成 16 年 3 月	日本化学会第 84 春季年会 (兵庫).		
「L-Arabinose を出発原料とする L-[1-^{13}C]　Fucose の効率的合成」	共著	平成 16 年 3 月	日本化学会第 84 春季年会 (兵庫).		
「プロパギルオキシカルボニル基の隣接基関与を利用するグリコシル化反応の立体制御」	共著	平成 16 年 3 月	日本化学会第 84 春季年会 (兵庫).		
「D-グルコースおよび myo-イノシトールを出発原料とするテトロドトキシンの全合成」	共著	平成 16 年 10 月	第 30 回反応と合成の進歩シンポジウム－ライフサイエンスを志向した理論、反応および合成－, 講演要旨集　(札幌).		274-275 頁
「myo-イノシトール出発原料とする (±) －テトロドトキシンの全合成」	共著	平成 16 年 11 月	第 48 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム (新潟シンポジウム), 講演要旨集 (新潟)		127-128 頁
「Telephiose A の新規合成」	共著	平成 16 年 11 月	第 48 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム (新潟シンポジウム), 講演要旨集 (新潟)		180-181 頁
「9 炭糖 KDN をキラルシントンとする Polyhydroxy indolizidine 類の合成」	共著	平成 16 年 11 月	第 48 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム (新潟シンポジウム), 講演要旨集 (新潟).		184-185 頁
「D-グルコースを出発原料とする光学活性テトロドトキシンの合成」	共著	平成 16 年 11 月	第 48 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム (新潟シンポジウム), 講演要旨集 (新潟).		129-130 頁
「アセナフテンキノンと 3-オキソ-1,5-ペンタン二酸ジエチルとの新奇な Knoevenagel 1：2 縮合体　単離と構造決定」	共著	平成 16 年 11 月	第 48 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム (新潟シンポジウム), 講演要旨集　(新潟).		57-58 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
「簡便な geminal 炭素—炭素分枝鎖構築法の開発」	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会講演予稿集 2，2A2-32（横浜）	小島勝, 峯村祥, 峯岸一磨, 赤井昭二, 佐藤憲一	849 頁
「同一中間体を経由する 1 位 13C 標識体 D-mannose、D-glucose、D-GlcNAc, 及び D-ManNAc の効率的合成」	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会講演予稿集 2（横浜）		851 頁
「ストレプトースおよび関連分枝糖の系統的合成」	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会講演予稿集 2（横浜）		839 頁
「N-フェニルカルバモイル基及びプロパギルオキシカルボニル基を用いる Durhamycin 構成糖の合成研究」	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会講演予稿集 2（横浜）		839 頁
「フラノディクティン類の新規かつ短工程での合成」	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会講演予稿集 2（横浜）		844 頁
「D-Glucose を出発原料とする Lanceolin C の合成研究」	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会講演予稿集 2（横浜）		841 頁
「Ferrier 反応を鍵とする光学活性テトロドトキシンの合成」	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会講演予稿集 2（横浜）		851 頁
「D-グルコースおよび myo-イノシトールを出発原料とするテトロドトキシンの立体選択的合成」	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会講演予稿集 2（横浜）		850 頁
「9 炭糖 KDN を出発原料とする天然産シアル酸類の合成」	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会講演予稿集 2（横浜）		847 頁
「デヒドロペプチドを用いた天然物ビストラタミド F および誘導体の合成研究」	共著	平成 17 年 5 月	第 35 回複素環化学討論会，講演予稿集（大阪）.		189 頁
「新規抗生物質の開発を目的とした分枝糖 D-Rubranitrose 含有二糖誘導体の合成」	共著	平成 17 年 5 月	第 49 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム (横浜シンポジウム), 講演要旨集 (横浜).		138-139 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
「フラノディクシン類の効率的合成」	共著	平成 17 年 5 月	第 49 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム (横浜シンポジウム), 講演要旨集 (横浜)		50-51 頁
「テトロドトキシンの全合成」	共著	平成 17 年 7 月	第 25 回日本糖質学会年会，要旨集（大津）.		72 頁
「大環状抗生物質ラダマイシンの合成研究」	共著	平成 17 年 10 月	第 35 回複素環化学討論会，講演予稿集（大阪）.		191 頁
「海産性天然物ビストラタミドCおよびDの全合成研究」	共著	平成 17 年 10 月	第 49 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム (横浜シンポジウム), 講演要旨集 (横浜)		44-45 頁
「同一中間体からの Durhamycin B および Olivomycin A 構成三糖の合成研究」	共著	平成 17 年 11 月	第 50 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム (新潟 (長岡) シンポジウム), 講演要旨集 (長岡).		192-193 頁
「チオストレプトン系抗生物質ラダマイシンの合成研究」	共著	平成 17 年 11 月	第 50 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム (新潟 (長岡) シンポジウム), 講演要旨集 (長岡).		136-137 頁
”Effective Syntheses of Important 13C-Labeled Monosaccharides and Bioactive Oligosaccharides by Using Novel 13C-Labeling Strategy”	共著	平成 18 年 7 月	23rd International Carbohydrate Symposium, Abstracts (Canada, Whistler).	S. Akai, M. Kojima, H. Youda, H. Aoki, T. Hiroshima, K. Suzuki, K. Sato	129 頁
”Total Syntheses of Tetrodotoxin from myo-Inositol and D-Glucose”	共著	平成 18 年 7 月	23rd International Carbohydrate Symposium, Abstract (Canada, Whistler).	K. Sato, S. Akai, H. Shoji, N. Sugita, K. Suzuki, T. Kogure, Y. Nakamura, Y. Kajihara, M. Funabashi, J. Yoshimura	280 頁
「新規四級炭素構築法の開発」	共著	平成 18 年 8 月	第 26 回日本糖質学会年会, 要旨集（仙台）.	柾泰裕, 小島勝, 峯村祥, 赤井昭二, 佐藤憲一	130 頁
「D-Glucose を出発原料とする Lanceolin C の合成研究」	共著	平成 18 年 8 月	第 26 回日本糖質学会年会，要旨集（仙台）.	谷真樹, 酒井公大, 谷口恵美, 赤井昭二, 佐藤憲一	129 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
「ビサボラン セスキテルペン トリオールの合成研究」	共著	平成 18 年 12 月	第 52 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム（新潟シンポジウム），講演要旨集（新潟）	関秀人, 山浦力, 佐久間詔悟, 赤井昭二, 佐藤憲一	35-36 頁
「塩化コバルトを用いるベンジリデンアセタールの新規開裂法」	共著	平成 18 年 12 月	第 52 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム（新潟シンポジウム），講演要旨集（新潟）.	谷真樹, 澤地翔, 小島勝, 赤井昭二, 佐藤憲一	37-38 頁
「グリコシド化反応に対する新規ライトフルオラス保護基の隣接基関与効果と効率的精製法の検討」	共著	平成 19 年 8 月	第 27 回日本糖質学会年会（福岡），要旨集.	小島 勝，星　秀和，赤井昭二，中村　豊，武内征司，佐藤憲一.。小島 勝，星　秀和，赤井昭二，中村　豊，武内征司，佐藤憲一	159 頁
「ガラクタールを利用したα-2,3-シアリルガラクトース供与体の合成とその利用」	共著	平成 19 年 8 月	第 27 回日本糖質学会年会（福岡），要旨集	花　島　慎　弥　、B.Castaner, P.H.Seeberger	126 頁
「棘皮動物由来新規ガングリオシド LLG-3 の合成研究」	共著	平成 19 年 8 月	第 27 回日本糖質学会年会（福岡），要旨集	石川大地，花島慎弥，赤井昭二，佐藤憲一	152 頁
「デヒドロペプチドを用いたビストラタミド類の系統的合成」	共著	平成 19 年 10 月	第 37 回複素環化学討論会，講演予稿集，69，年月（長野）.	鈴木宏幸，安藤正倫，赤井昭二，米沢養躬，辛重基，佐藤憲一	69 頁
「ポリアゾール系抗生物質の合成に向けた簡便なオキサゾール構築法」	共著	平成 19 年 10 月	第 37 回複素環化学討論会（長野），講演予稿集	長屋昭裕，鈴木宏幸，米沢養躬，赤井昭二，辛重基，佐藤憲一	241 頁
「チオエステル供与体を用いたα-選択的シアリル化反応の開発」	共著	平成 19 年 12 月	第 54 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム (新潟シンポジウム)，講演要旨集	花島慎弥，増田綾子，赤井昭二，佐藤憲一	162-163 頁
「グリコシド化反応に対する新規ライトフルオラス保護基の隣接基関与効果」	共著	平成 19 年 12 月	第 54 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム (新潟シンポジウム)，講演要旨集	小島 勝，星　秀和，赤井昭二，中村　豊，武内征司，佐藤憲一	164-165 頁
「シアル酸を糖鎖中央部にもつガングリオシド AG-3 五糖の合成研究」	共著	平成 20 年 8 月	第 28 回日本糖質学会年会（つくば），要旨集	花島慎弥，山口芳樹，伊藤幸成，谷口直之，佐藤憲一	178 頁
「N-Glycolyl Sialyl Phosphite を用いたシアリル化の検討」	共著	平成 20 年 8 月	第 28 回日本糖質学会年会（つくば），要旨集	花島慎弥，冨谷卓，石川大地，赤井昭二，佐藤憲一	186 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
～現在に至る	（受託研究）神奈川県「高圧ガス施設危険度評価手法開発」(2,000 千円)
昭和 45 年～現在に至る	日本化学会会員
昭和 50 年～現在に至る	有機合成化学協会会員
昭和 62 年～現在に至る	日本生化学会会員
昭和 62 年～現在に至る	日本農芸化学会会員
昭和 62 年～現在に至る	日本薬学会会員
昭和 62 年～現在に至る	有機合成化学協会会員
平成 2 年 6 月～現在に至る	（受託研究）神奈川県「高圧ガス施設危険度評価手法開発」(2,000 千円)
平成 3 年 5 月～現在に至る	（受託研究）神奈川県「一般高圧ガス施設危険度評価手法開発」(2,000 千円)
平成 4 年 5 月～現在に至る	（受託研究）神奈川県「液化石油ガス施設危険度評価手法開発」(2,000 千円)
平成 8 年 4 月～現在に至る	日本糖質学会会員
平成 11 年 4 月～現在に至る	Ｇｌｙｃｏ TOKYO（東京糖鎖工学研究会）会員
平成 11 年 4 月～現在に至る	Ｇｌｙｃｏ TOKYO（東京糖鎖工学研究会）幹事
平成 11 年 8 月～現在に至る	日本糖質学会評議員
平成 12 年 4 月～平成 16 年 3 月	日本化学会関東支部幹事
平成 13 年 4 月～平成 16 年 3 月	日本化学会関東支部常任幹事
平成 13 年 4 月～平成 18 年 3 月	（受託研究）文部科学省「神奈川大学ハイテク・リサーチ・センタープロジェクト（分担)」
平成 13 年 5 月～平成 18 年 3 月	文部科学省学術研究補助金（ハイテク・リサーチ・センター研究補助金） 500,000 千円 （環境クリーン化プロセス技術の開発）(研究分担者)
平成 14 年 4 月～平成 16 年 3 月	科学研究費補助金 一般研究（C） 1,900 千円 （実用的 13C 標識糖類の合成）(研究代表者)
平成 14 年 6 月～現在に至る	日本化学会化学技術者教育委員会委員
平成 14 年 8 月～平成 16 年 3 月	日本糖質学会第 23 回実行委員（会場委員長）
平成 14 年 10 月～平成 16 年 3 月	JABEE 認定審査オブザーバーオブザーバー

年月	内　　容
平成 14 年 11 月～平成 16 年 3 月	日本工学教育協会シンポジウム企画委員
平成 14 年 12 月～平成 16 年 3 月	人材育成神奈川地域協議会委員
平成 16 年 4 月～平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会実行委員会委員（会場委員長）
平成 16 年 4 月～平成 18 年 3 月	独立行政法人雇用・能力開発機構　人材育成神奈川地域協議会委員
平成 16 年 4 月～平成 17 年 3 月	ＪＡＢＥＥ認定審査員審査員
平成 16 年 8 月～現在に至る	日本化学会国際交流委員会（日本におけるドイツ 2005/2006）委員会委員
平成 16 年 10 月～現在に至る	日本化学会化学士認定制度策定小委員会委員
平成 17 年 4 月～平成 18 年 3 月	ＪＡＢＥＥ認定審査員審査委員長
平成 18 年 4 月～現在に至る	（受託研究）文部科学省「神奈川大学学術フロンティアプロジェクト（分担）」（509,000 千円）
平成 18 年 4 月～平成 19 年 3 月	株式会社　ファンケル　中央研究所（受託研究） 1,000 千円 （フェルラ酸配糖体の合成と生理活性に関する研究）（研究代表者）
平成 18 年 4 月～現在に至る	文部科学省、神奈川大学（神奈川大学学術フロンティアプロジェクト） 500,000 千円 （機能物質創製を目指す化学空間の設計と制御）（研究分担者）
平成 19 年 12 月～平成 19 年 12 月	神奈川大学高校生向け公開講座講師

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部物質生命化学科	職名 教授	氏名 佐藤　祐一	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
関東学院大学工学部工業化学科本間英夫研究室との卒論中間発表会	平成 14 年 12 月	本間教授は“ めっき技術 ”の世界的権威である。この研究室と当研究室のめっき関係テーマの卒論生で交互に会場を移し、中間発表会を行い、大いに刺激を受け、交流を深めている。例年年末に交互を会場として実施
工学部 FD 委員	平成 15 年 4 月 ～平成 17 年 3 月	「教育効果を高めるための授業方法」と題する工学部教員配布用小冊子を作成する Working group 長として活動、冊子を発行した（平成 15 年 3 月）。
（社）日本化学会「電気化学研修コース」にて，企業会員に対し 2 年間，集中講義を行った。	平成 15 年 6 月 ～平成 16 年 8 月	
関東学院大学工学部本間研究室と合同卒論中間発表会を実施	平成 16 年 12 月 3 日	
神奈川大学・付属中高等学校連携による進路指導「一日神奈川大学生」	平成 17 年 6 月 3 日	上記において，特別講義「電池とめっき」を行った。
第 12 回神奈川大学・関東学院大学合同研究発表会	平成 17 年 12 月	関東学院大学本間研究室と当研究室の学生による表面処理にかかわる研究発表会を開催した。
関東学院大学との合同卒論研究中間発表会を実施	平成 18 年 12 月	同学工学部応用化学科本間英夫研究室と「めっき」に関わるたがいの研究について，卒論中間発表会を本学において開催した。
2　作成した教科書、教材		
日本化学会編・第 5 版実験化学講座 25「触媒化学，電気化学」（丸善出版）に分担執筆	平成 18 年 1 月	上記に二次電池の評価法にかかわる執筆を行った。（pp. 259-277）
電気化学教科書の出版	～平成 16 年 2 月	「電気化学の基礎と応用」と題する学部学生用教科書を分担執筆し，朝倉書店より発行された。分担部分：電池
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
5　その他		
工学部 FD 委員としての活動	平成 13 年 4 月 ～平成 16 年 3 月	この間，ベストティーチャー賞選考案，公開授業のやり方案，授業評価アンケート調査報告書作成等の活動に協力。工学部 FD 便りに「第 2 回 FD フォーラムに参加して」と題する記事を寄稿した。(平成 13 年 4 月～)
表面技術協会第 113 回講演大会において，博士課程学生が学術奨励講演賞を受賞した。	平成 18 年 3 月	
神奈川県理科作文コンクール表彰式における講演	平成 20 年 2 月 24 日	上記において，小，中，高校生及びその父母に対して,「科学技術立国　日本」と題して，燃料電池，リチウムイオン電池を例にとり，モデル実験を行いつつ,わかりやすく話をした。
文科省「東京湾岸地域大学間コンソーシアムによる社会人キャリアー・アップ協議会委員」	～平成 15 年 5 月 1 日	今後、社会人キャリアー・アップに寄与するにはどのような専門教育を行ったらよいかの資料を得るため、化学系 2 社を訪問し、社員教育の実状についての聴き取り調査を行った。
(社）日本化学会リメデイアル教育講師	～平成 15 年 7 月	（～8 月）同学会企業会員に対して行われた化学分野の教育の内,「電気化学」研修コースの講師を務め，”電池・めっき”について 4 コマの講義を行った。
宮谷小学校における授業と実験講師	～平成 15 年 12 月	広報部の依頼により横浜市立宮谷小学校 PTA 主催の課外活動として，小学生１２０名を対象に「電池のしくみ」について話し，実験として乾電池の作製を各自に行わせ好評であった。
第１～2 回神奈川大学・全国高校理科・化学論文大賞選考委員	～平成 16 年	左記審査員として, 電池関連論文２編を審査。その中 1 編が努力賞に入選。”未来の科学者との対話”出版にかかわり，当該論文へのコメントを執筆。

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
電気化学の基礎と応用	共著	平成 16 年 2 月	朝倉書店		37-62 頁
エレクトロニクス用カーボン技術大全	共著	平成 16 年 8 月	技術情報協会		p. 369-377 頁
ある工学部応用化学科の風景	単著	平成 17 年 4 月	新風社		1-173 頁
日本化学会編，第 5 版実験化学講座 25（触媒化学，電気化学）	共著	平成 18 年 1 月	丸善（株）		pp.259-277 頁
図解最先端表面処理技術のすべて	共著	平成 18 年 12 月	工業調査会	小早川紘一，佐藤祐一	
キャパシタ便覧	共著	平成 21 年 1 月	丸善	松田好晴，逢坂哲弥と 3 名で編集代表を務めた。	
論文					
Charge-discharge properties of a cathode prepared with ketjen black as the electro-conductive additive in lithium ion batteries.	共著	平成 15 年	J. Power Sources, 119-121, (2003).		924-928 頁
A new type of orthorhombic LiFeO2 with advanced battery performance and its structural change during cycling.	共著	平成 15 年	J. Power Sources, Vol. 119-121		285-289 頁
Electrochemical properties of layered $Li[Ni_{1/2}Mn_{1/2}]O2$ cathode material synthesized by ultrasonic spraypyrolysis.	共著	平成 15 年	J. Applied Electrochemistry, 33, (2003).		1169-1173 頁
Preparation of Mn-substitut-ed LiFeO2: A solid solution of LiFeO2 and LixMnO2	共著	平成 15 年 4 月	Electrochemistry Communnications, Vol. 5		359-364 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Structural change and capacity loss mechanism in orthorhombic Li/LiFeO2 system during cycling.	共著	平成 15 年 7 月	Electrochemistry Communications, Vol. 5		549-554 頁
電析ニッケル膜の特製に及ぼす種々の添加剤の影響	共著	平成 15 年 10 月	表面技術, 54 (10), (2003).		710-713 頁
Preparation and Cycle Characteristics of Nano-Crystalline LixFeyOz with Amorphous Structure.	共著	平成 15 年 12 月	Electrochemistry, vol.71		1042-1045 頁
液晶ポリマーフィルム上への無電解銅めっき	共著	平成 16 年 4 月	エレクトロニクス実装学会誌, 7 巻		328-332 頁
電析法による Pt-Ni 合金薄膜の作製	共著	平成 16 年 7 月	表面技術，55 巻		495-499 頁
一次乾電池用正極活物質・NiOOH の新しい電解合成法	共著	平成 16 年 11 月	Electrochemistry，72 巻		734-736 頁
Structure, m orphology and electrochemical properties of LiNi0.5Mn0.5-xCoxO2 prepared by solid state reaction	共著	平成 17 年	J. Power Sources, Vol. 148		85-89 頁
Visible-light active N-doped TiO2 prepared by heating of titanium hydroxide and urea	共著	平成 17 年 2 月	Journal of Photochemistry and Photobiology, A: Chemistry, 170 巻		177-179 頁
Development of lithium iron oxide materials for lithium secondary batteries	共著	平成 17 年 9 月	EElectrochemistry, Vol. 72		874-882 頁
Alkaline cation intercalation into graphite used as a conduction material in nickel electrode of aqueous secondary batteries	共著	平成 17 年 11 月	Electrochemical and Solid State Letters, Vol. 8		A544-A548 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Alkaline cation dependnenncy on the memory effect observed in alkaline secondary batteris using Ni electrode	共著	平成 17 年 11 月	ITE Letter, vol 6(4)		326-330 頁
“ Adsorption Behavior of 6-Octylthio-1,3,5-dithiol monosodium on Au(111) Investigated by Electrochemical Scanning Tunneling Microscopy ”	共著	平成 18 年	Chemistry Letters,35, (11)	S. Kaneko, S. Yoshimoto, T. Sawaguchi, K. Shikakura, A. Kageyama, S. Takahashi, K. Kobayakawa, Y. Sato,	1282-1283 頁
“ Preparation, morphology and electrochemical characteristics of LiNi1/3Mn1/3Co1/3O2 with LiF addition ”	共著	平成 18 年	Electrochimica Acta,52,（2）	D. Li, Y. Sasaki, K. Kobayakawa, H. Noguchi, Y. Sato,	643-648 頁
“ Structural and electrochemical characteristics of LiNi0.5Co2xMn1.5-xO4 preparfed by spray drying process and post-annealing in O2 ”	共著	平成 18 年	Journal of Power Sources161,（2）	D. Li, A. Ito, K. Kobayakawa, H. Noguchi, Y. Sato	1241-1246 頁
“ Preparation and electrochemical characteristics of LiNi1/3Mn1/3Co1/3O2 coated with metal oxides coating ”	共著	平成 18 年	Journal of Power Sources,160,（2）	D. Li, Y. Kato, K. Kobayakawa, H. Noguchi, Y. Sato,	1342-1348 頁
“ Structural and electrochemical properties of LiNi1/3Mn1/3Co1/3O2-xFx prepared by solid state reaction ”	共著	平成 18 年	Journal of Power Sources157,（1）	M. Sasaki, D. Li, K. Kobayakawa, Y. Sato, Y.-S. Lee,	494-500 頁
“ Morphological, structural, and electrochemical characteristics of LiNi0.5Mn0.5M0.1O2 (M = Li, Mg, Co, Al) ”	共著	平成 18 年	Journal of Power Sources,157,（7）	D. Li, Y. Sasaki, K. Kobayakawa, Y. Sato	532-535 頁
“ The Memory Effect in the Partial Charge-Discharge Cycling of Alkaline Secondary Batteries ”	共著	平成 18 年	Electrochemistry74, (7)	M. Morishita, S. Shikimori, Y. Shimizu, A. Imasto, H. Nakamura, K. Kobayakawa, Y. Sato,	532-535 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
「Ni/SiC 複合めっきに対するカチオン性界面活性剤の影響」	共著	平成 18 年	表面技術 57,（7）	浅井良規，岸本圭介，小早川紘一，佐藤祐一	524-528 頁
“ Impact of cobalt substitution for manganese on the structural and electrochemical properties of LiNi0.5Mn0.5O2 ”	共著	平成 18 年	Electrochimica Acta51,（18）	D. Li, Y. Sasaki, K. Kobayakawa, Y. Sato,	3809-3813 頁
Impact of cobalt substitution for manganese on the structural and electrochemical properties of Li Ni0.5Mn0.5O2.	共著	平成 18 年	Electrochimica Acta51,（18）	D. Li, Y. Sasaki, K. Kobayakawa, Y. Sato	3809-3813 頁
Morphological, structural, and electrochemical characteristics of LiNi0.5Mn0.5M0.1O2(M=Li, Mg, Co, Al).	共著	平成 18 年 1 月	J. Power Source s 157, 1	D. Li, Y. Sasaki, K. Kobayakawa,Y. Sato	488-493 頁
電析 Co/Pd 多層膜の磁気的性質に及ぼす金属下地層の影響	共著	平成 18 年 3 月	表面技術, 57 巻		215-219 頁
Strucural and electrochemical properties of LiNi1/3Mn1/3Co1/3O2-xFx prepared by solid state reaction.	共著	平成 18 年 6 月	J. Power Sources157, 1	M. Sasaki, D. Li,Y. Sato, Y. S. Lee	494-500 頁
The memory effect in the partial charge-discharge cycling of alkaline secondary batteries.	共著	平成 18 年 7 月	Electrochemistry74, 7	M. Morishita,S. Shikimori, Y. Shimizu, A. Imasato, H. Nakamura, K. Kobayakawa, Y. Sato	532-535 頁
Ni/SiC 複合めっきに対するカチオン性界面活性剤の影響	共著	平成 18 年 7 月	表面技術 57,（7）	浅井良規，岸本圭介，小早川紘一，佐藤祐一	524-528 頁
Powder property and electrochemical characterization of Li2MnO3 material	共著	平成 19 年	Materials Chemistry and Physics,102	Sang-Ho Park, Yuichi Sato, Jae-Kook Kim, Yun-Sung Lee	225-230 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Synthesis and electrochemical properties of Li1-xFe0.8Ni0.2O2-KixMnO2 (Mn/(Fe+Ni+Mn)=0.8) materials	共著	平成 19 年 2 月	Journal of Power sources174	G. J. Park, Y. S. Lee, J. Kim, K. S. Nahm, Y. Sato	730-734 頁
Influence of Co substitution for Ni and Mn on the structural and electrochemical characteristics of LiNi0.5Mn1.5O4	共著	平成 20 年	J. Power Sources185	I. Ito, D. Li, Y. -S, Lee, K. Kobayakawa, Y. Sato	1429-1433 頁
A new approach to improve the high-voltage cyclic performance of Li-rich layered cathode material by electochemica pre-treatment	共著	平成 20 年	J. Power Sources183	A. Ito, D. Li, Y. Ohsawa, Y. Sato	344-346 頁
Suppresson of the memory effectobserved in alkaline secondary batteries under partial charge-discharge conditions	共著	平成 20 年	Electrochimica Acta53	M. Morishita, Y. Shimizu, K. Koichi Kobayakawa,Y. Sato	6651-6656 頁
A new approach to improve the high-voltage cycle performance of Li-rich layered cathode material by electrochemical pre-treatment	共著	平成 20 年	J. Power Sources183	A. Ito, D. Li, Y. Osawa, Y. Sato	344-346 頁
シランカップリング後，無電解 Ni めっきを施した SiC 微粒子を用いた Ni-SiC 複合めっき	共著	平成 20 年 1 月	表面技術 59・1	浅井良規，小早川紘一，佐藤伸孝，佐藤祐一	63-65 頁
The Adlayers of 6-Anilino-1,3,5-Triazine-2,4-Dithiol Monosodium on Au(111) Electrode in Acidic Solution Studied by Electrochemical Scanning Tunneling Microscopy	共著	平成 20 年 1 月	Electrochemistry76	Shingo Kaneko, Yousuke Banba, Soichiro Yoshimoto, Takahiro Sawaguchi, Koichi Kobayakawa, Yuichi Sato	42-45 頁
めっき添加剤 SPS および MPS 単分子吸着層の Au(111) 電極上における電気化学 STM 観察	共著	平成 20 年 2 月	表面技術 59・2	金子信悟，吉岡浩史，小早川紘一, 佐藤祐一	145-148 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
A promising anode material of Li-ion battery for hybrid electric vehicle use	共著	平成 21 年	J. Power Sources	Y. Sato, K. Nagayama, Y. Sato, T. Takamura	
その他					
金単結晶上におけるトリアジンジチオール誘導体の吸着挙動	共著	平成 15 年 4 月	電気化学会第 70 回大会講演要旨集		97 頁
めっき法による Pt-Ni 合金薄膜の作製とその電極特性	共著	平成 15 年 4 月	電気化学会第 70 回大会講演要旨集		231 頁
TiO_2 光触媒をコーティングした医療用チューブの表面親水化とその応用	共著	平成 15 年 4 月	電気化学会第 70 回大会講演要旨集		353 頁
フッ素で一部置換した斜方晶 $LiFeO_2$ の合成とリチウム二次電池の正極の性能	共著	平成 15 年 4 月	電気化学会第 70 回大会講演要旨集		66 頁
水酸化チタンと尿素の加熱により得た可視光応答型 TiO_2 粉末の光触媒活性	共著	平成 15 年 4 月	電気化学会第 70 回大会講演要旨集		346 頁
Li 二次電池用正極活物質 Mn-substituted $LiFeO_2$ の合成と電極特性	共著	平成 15 年 4 月	電気化学会第 70 回大会講演要旨集		15 頁
Origin of the second low voltage plateau appeared during discharge of nickel oxyhydroxide.	共著	平成 15 年 4 月	203rd Meeting of The Electrochemical Society Abstracts 71		
The effect of ketjen black as the electrocon-ductive additive in electrochemical capacitor materials prepared by loading ruthenium oxide on activated carbon.	共著	平成 15 年 5 月	2003 International Conference ofAdvanced Capacitors Abstracts		95 頁
電解法により作製したイリジウム酸化物被覆電極の評価　その 2	共著	平成 15 年 7 月	第 13 回電極材料研究会資料集		17 頁
The cause of the memory effect observed in alkaline secondary batteries using nickel cathode	単著	平成 15 年 8 月	Hanyang University		

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
High energy electrochemical capacitor materials prepared by loading ruthenium oxide on activated carbon	単著	平成 15 年 8 月	54$_{th}$ Meeting of The International Society of Electrochemistry, Keynote Lecture		
Pt-Fe 合金めっきの作製とその電極特性	共著	平成 15 年 9 月	2003 電気化学秋季大会講演要旨集		104 頁
Development of New Fe-based Materials for Lithium Secondary Battery.	共著	平成 15 年 9 月	The 5th Korea-Japan Joint Seminar on Advanced Batteries Proceedings		153 頁
アルカリ系二次電池の部分充放電過程で認められるメモリー効果（Ⅰ）	共著	平成 15 年 9 月	2003 電気化学秋季大会講演要旨集		29 頁
ニッケル乾電池正極活物質の製造新プロセス	共著	平成 15 年 9 月	2003 電気化学秋季大会講演要旨集		29 頁
金単結晶上におけるトリアジンジチオール誘導体の吸着挙動	共著	平成 15 年 9 月	表面技術協会第 108 回講演大会講演要旨集		169 頁
リチウムイオン二次電池用正極活物質としての鉄系化合物	共著	平成 15 年 10 月	平成 15 年度神奈川県産学交流研究発表会要旨集		52 頁
トリアジンジチオール誘導体の吸着挙動	共著	平成 15 年 10 月	平成 15 年度神奈川県産学交流研究発表会要旨集		180 頁
リチウムイオン二次電池用正極材料（Li_2MnO_3）の合成と電池性能	共著	平成 15 年 10 月	平成 15 年度神奈川県産学交流研究発表会要旨集		51 頁
The mechanism of structural change in orthorhombic Li/$LiFeO_2$ system oncycling.	共著	平成 15 年 10 月	204$_{th}$ Meeting of The Electrochemical Society Abstracts, # 397.		
Li 二次電池用正極活物質 ZnO コート $LiFeO_2$-Li_xMnO_2 の電極特性	共著	平成 15 年 11 月	第 44 回電池討論会講演要旨集		366 頁
アルカリ系二次電池の部分充放電過程で認められるメモリー効果（Ⅱ）	共著	平成 15 年 11 月	第 44 回電池討論会講演要旨集		586 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
アルカリ系二次電池に生じるメモリー効果抑制の試み	共著	平成 15 年 11 月	第 44 回電池討論会講演要旨集		584 頁
リチウムイオン二次電池用正極材料 Li_2MnO_3 の電池特性とその物性評価	共著	平成 15 年 11 月	第 44 回電池討論会講演要旨集		340 頁
電池のしくみ	単著	平成 15 年 12 月	宮谷おもいっきり夢まつり，宮谷小学校 PTA 主催		
電池技術	単著	平成 15 年 12 月	表面技術, 54 (2003)		852-857 頁
環境クリーン化に寄与する新しい電池	単著	平成 15 年 12 月	神奈川大学横浜市民講座，神奈川大学主催		
$TiO_{2-x}N_x$ 粉末の作製と可視光応答	共著	平成 15 年 12 月	第 10 回光触媒シンポジウ講演要旨集		30 頁
高エネルギー密度二次電池材料の開発状況	単著	平成 16 年 2 月	横浜市表面技術セミナー，神奈川表面技術研究会主催		
電解複合 Ni ／ SiC めっきに対する界面活性剤の影響	共著	平成 16 年 3 月	表面技術協会第 109 回講演大会講演要旨集		21 頁
神奈川大学ハイテクリサーチセンタープロジェクト	共著	平成 16 年 3 月	2003 年度成果報告書		
リンゴ酸を用いたホウ酸フリー電気ニッケルめっき浴	共著	平成 16 年 3 月	表面技術協会第 109 回講演大会講演要旨集		22 頁
リチウムイオン二次電池負極活物質としての Sn － Cu 合金薄膜の作製と電池性能評価	共著	平成 16 年 3 月	表面技術協会第 109 回講演大会講演要旨集		21 頁
シュウ酸鉄を原料とするリチウムイオン二次電池用鉄系化合物の合成とその電池特性	共著	平成 16 年 3 月	電気化学会第 71 回大会講演要旨集		225 頁
非水溶媒からの Sm-Fe 電析とその磁気特性	共著	平成 16 年 3 月	表面技術協会第 109 回講演大会講演要旨集		32 頁
アルカリ系二次電池の部分充放電過程で認められるメモリー効果（Ⅲ）	共著	平成 16 年 3 月	電気化学会第 71 回大会講演要旨集		4 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
液晶ポリマーフィルム上への無電解銅めっき	共著	平成 16 年 3 月	第 18 回エレクトロニクス実装学術講演学会講演要旨集		173 頁
電解法により作製したイリジウム酸化物電極の特性評価	共著	平成 16 年 3 月	表面技術協会第 109 回講演大会講演要旨集		11 頁
Cyclic Mechanism and Its Electrochemical Properties of Li2MnO3 Materials	共著	平成 16 年 6 月	12th International Meeting on Lithium Batteries Abstract		No. 156 頁
Synthesis and Electrochemical Behavior of Bare and ZnO-coated LiFeO2-LixMnO2 Materials	共著	平成 16 年 6 月	12th International Meeting on Lithium Batteries, Abstracts		No.341 頁
固相反応法のみで合成した Li(Ni1/3Co1/3Mn1/3)O2 正極材料の充放電特性	共著	平成 16 年 6 月	第 6 回化学電池材料研究会ミーティング予稿集,		p. 2021 頁
電解複合 Ni/SiC めっきに対する界面活性剤の影響	共著	平成 16 年 8 月	表面技術協会第 110 回講演大会講演要旨集		13A-8 (p.11) 頁
Preparation of LixMn1/2Fe1/2O2 Using Hydrothermal and Post-Annealing Method and Its Electrochemical Properties	共著	平成 16 年 9 月	5th France-Japan Joint Seminar on Lithium Batteries , Abstract		p. 25 頁
トリアジンジチオール誘導体の吸着挙動の解明,	共著	平成 16 年 9 月	表面技術協会第 110 回講演大会講演要旨集		14D-24 ((p. 252) 頁
湿式法による Co/Pd 多層膜の作製とその磁気特性評価	共著	平成 16 年 9 月	表面技術協会第 110 回講演大会講演要旨集		13A-11 (p. 15) 頁
電解複合 Ni/SiC めっきに対する界面活性剤の影響	共著	平成 16 年 10 月	平成 16 年度神奈川県産学公交流研究発表会, 要旨集		
リンゴ酸を用いたホウ酸フリー電気ニッケルめっき浴	共著	平成 16 年 10 月	平成 16 年度神奈川県産学公交流研究発表会, 要旨集		

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Effect of Foreign Metal Ions Doping on the Structure and Electrochemical Properties of LiNi0.5Mn0.5O2	共著	平成 16 年 10 月	2004 年電気化学日米合同大会，Abstracts		No. 280 頁
The Memory Effect Observed in Partial Charge-Discharge Cycling Process of Alkaline Secondary Batteries Using Nickel Electrode	共著	平成 16 年 10 月	2004 年電気化学日米合同大会 Abstracts		No. 43. 頁
Adsorption Behavior of Triazinedithiol Derivatives Studied by Various Electrochemical Measurements	共著	平成 16 年 10 月	2004 年電気化学日米合同大会 Abstracts		No. 24 頁
充放電装置の電源方式の違いが二次電池の性能評価に及ぼす影響について	共著	平成 16 年 11 月	第 45 回電池討論会，講演要旨集,		3D24 (p. 552) 頁
リチウムイオン二次電池用層状 LiNi0.5Mn0.5CoxO2 正極材料の構造と電気化学的性質	共著	平成 16 年 11 月	第 45 回電池討論会，講演要旨集		2B25 (p. 224) 頁
固相反応法のみを用いてフッ素で一部置換した合成した Li(Ni1/3Co1/3Mn1/3)O2 の電極特性	共著	平成 16 年 11 月	第 45 回電池討論会，講演要旨集		2B23 (p. 220) 頁
Electrochemical properties of LiMnPO4 prepared by different methods	共著	平成 16 年 11 月	第 45 回電池討論会，講演予稿集		2B08 (p. 202). 頁
アルカリ系二次電池の部分充放電過程で生じるメモリー効果抑制の試み	共著	平成 16 年 11 月	第 45 回電池討論会，講演要旨集		1D02 (p. 426) 頁
電解法により作製した Ir 酸化物 - Ta 酸化物被覆電極	共著	平成 16 年 11 月	第 28 回電解技術討論会, 講演要旨集		p. 13 頁
尿素を用いて作製した窒素ドープ酸化チタン光触媒の可視光応答	共著	平成 16 年 12 月	第 11 回光触媒シンポジウム， 要旨集,		p. 16 (p. 66) 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
電解法により作製したTa2O5-IrO2被覆電極の電極特性	共著	平成17年3月	表面技術協会第111回講演大会，講演要旨集		PC-3 (p. 41) 頁
ITO電極上におけるトリアジンジチオール誘導体の電解重合	共著	平成17年3月	表面技術協会第111回講演大会，講演要旨集		PC-2 (p. 40) 頁
シランカップリング処理を施したSiC粒子を用いた電解複合Ni/SiCめっき	共著	平成17年3月	表面技術協会第111回講演大会，講演要旨集		PC-1(p. 39) 頁
アルカリ系二次電池に生じるメモリー効果の抑制	共著	平成17年4月	電気化学会第72回大会講演要旨集		PS16 頁
Electrochemical properties of LiNi0.5Mn0.4M0.1O2 (M=Li, Mg, Al, Co) prepared by solid state reactin	共著	平成17年4月	電気化学会第72回大会講演要旨集		2J05 頁
Ni極を使用したアルカリ系二次電池の部分充放電過程に生じるメモリー効果の原因解明	共著	平成17年4月	電気化学会第72回大会講演要旨集		1J05 頁
電気二重層キャパシタ容量への導電材の影響	共著	平成17年4月	電気化学会第72回大会講演要旨集		2H04 頁
Improved electrochemical activity of LiMnPO4 prepared by morphlogy modification	共著	平成17年5月	207th Meeting of the Electrochemical Society, Abstract		193 頁
Electrochemical properties of LiNi1/3Mn1/3Co1/3O2-xFx prepared by solid state reaction	共著	平成17年5月	207th Meeting of the Electrochemical Society, Abstract		154 頁
Electrochemical properties of liNi0.5Mn0.4M0.1O2 (M=Li, Mg, Al, Co) prepared by solid state reaction	共著	平成17年7月	Solid State Ionics 15		

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Structure, morphology and electrochemical properties of LiNi0.5mn0.5-xCoxO2 prepared by solid-stae reaction	共著	平成 17 年 9 月	56th Annual Meeting of International society of Electrochemmistry, Abstracts		3A-179-P 頁
The suppression of the memory effect observed alkaline secondary batteries by homogeneously dispersing nanosized conductive materials	共著	平成 17 年 9 月	56th Annual Meeting of International Society of Electrochemistry, Abstracts		8-043-P 頁
Effect of surfactant on the Ni/SiC composite plating	共著	平成 17 年 9 月	56th Annual Meeting of International society of Electrochemistry, Abstracts		8-042-P 頁
めっき法による白金ー遷移金属合金電極の作製と電極特性	共著	平成 17 年 9 月	2005 年電気化学秋季大会　講演要旨集		2C-02 頁
Ni 金属を被覆した SiC 粒子を用いた Ni/SiC 複合めっき	共著	平成 17 年 10 月	表面技術協会第 112 回講演大会，講演要旨集		6A-18 頁
Ta 酸化物との複合によるパルスめっきにより作製した Ir 酸化物膜電極の寿命の向上	共著	平成 17 年 11 月	第 26 回電解技術討論会講演要旨集		p.1 頁
Suppression of Memory Effect of Rechargeable Ni-Metal Hydride Battery for Hybrid Cars	共著	平成 17 年 11 月	アジア電動車両学会		
アルカリ系二次電池正極中の導電材・グラファイトへのアルカリカチオンのインターカレーション	共著	平成 17 年 11 月	第 46 回電池討論会講演予稿集		3C-10 頁
Ni 極を使用したアルカリ系二次電池の部分充放電過程に生じるメモリー効果の原因解明	共著	平成 17 年 11 月	第 46 回電池討論会講演予稿集		3C-06 頁
スプレードライ法によるハイレート特性を有する LiNi0.5Mn1.5O4 の合成	共著	平成 17 年 11 月	第 46 回電池討論会講演予稿集		3B-19 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
金属酸化物の表面被覆による LiNi1/3Co1/3Mn1/3O2 のサイクル特性の改善	共著	平成 17 年 11 月	第 46 回電池討論会講演要旨集		2B-16 頁
層状 Ni-Co-Mn 系材料への LiF の添加効果とその正極特性	共著	平成 17 年 11 月	第 46 回電池討論会講演要旨集		2B-14 頁
The Suppression of the Memory Effect Observed in Nickel-Metal-Hydride Batteries in Hybrid Electric Vehicles	共著	平成 17 年 12 月	第 16 回日本 MRS 学術シンポジウム講演要旨集		D2-P13-D 頁
電気化学 STM によって観察された Au(111) 上での 6-オクチル-1,3,5-トリアジン-2,4-ジチオールモノソジウム SAM の吸着挙動	共著	平成 17 年 12 月	第 16 回日本 MRS 学術シンポジウム講演要旨集		B1-P07-D 頁
Ni を被覆した SiC 粒子を用いた Ni/SiC 複合めっき	共著	平成 17 年 12 月	第 16 回日本 MRS 学術シンポジウム講演要旨集		Q1-P04-M 頁
Fe 電極上におけるトリアジンジチオール誘導体の電解重合と腐食抑制評価	共著	平成 18 年 3 月	表面技術協会第 113 回講演大会講演要旨集		PD-18 頁
電気化学 STM を用いたトリアジンジチオール誘導体の吸着挙動の解明	共著	平成 18 年 3 月	表面技術協会第 113 回講演大会講演要旨集		PD-17 頁
逆ミセル法によるナノオーダー Pt-Ni 合金微粒子の作製	共著	平成 18 年 3 月	表面技術協会第 113 回講演大会講演要旨集		PD-12 頁
リンゴ酸を用いたホウ酸フリー電気ニッケルめっき浴	共著	平成 18 年 3 月	表面技術協会第 113 回講演大会講演要旨集		PD-1 頁
《学会発表》“ Adsorption behaviors of 6-octylthio-1,3,5-triazine-2,4-dithiol monosodium SAM on Au(111) investigated by electrochemical STM ”	共著	平成 18 年 4 月	Abstract, PA‐05	S. Kaneko, S. Yoshimoto, T. Sawaguchi, K. Shikakura, A. Kameyama, K. Kobayakawa, Y. Sato	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
《学会発表》「リチウムイオン二次電池の正極に対する導電材の影響」	共著	平成 18 年 4 月	3L19	鴨川宏幸，小早川紘一，佐藤祐一	
《学会発表》「Ni 極を使用したアルカリ系二次電池の部分充放電過程で生じるメモリー効果の原因解明」	共著	平成 18 年 4 月	講演要旨集，3L18.	清水良憲，森下正典，小早川紘一，佐藤祐一	
《学会発表》「めっき法による白金ー遷移金属合金電極の作製とメタノール酸化特性」	共著	平成 18 年 4 月	講演要旨集，1P21	古山博康，戸田良輔，福井麻紀子，小早川紘一，佐藤祐一	
《学会発表》「ルテニウム酸化物担持活性炭電極への導電材の影響」	共著	平成 18 年 4 月	講演要旨集，1L27	萩谷将之，小早川紘一，佐藤祐一	
《学会発表》「Coドーピングによる LiNi0.5Mn1.5O4 の結晶構造および電気化学的特性への影響」	共著	平成 18 年 4 月	講演要旨集，PS08	伊藤敦史，李徳成，小早川紘一，佐藤祐一，野口英行	
《学会発表》“ Synthesis and Electrochemical Properties of Li1-xFe0.8Ni0.2O2-LixMnO2 Material ”	共著	平成 18 年 6 月	Abstract #0054	G. J. Park, Y. S. Lee, Y. Sato	
“ リチウム電池安全性に関するコメント ”	単著	平成 18 年 9 月	毎日新聞		
《学会発表》「スピロ型アンモニウム塩電解液を用いた電気二重層キャパシタ特性」	共著	平成 18 年 9 月	講演要旨集，1O31.	萩谷将之，千葉一美，小早川紘一，佐藤祐一	
《学会発表》「組成制御された Pt-Ni 合金超微粒子触媒の作製と電極特性」	共著	平成 18 年 9 月	講演要旨集，1C10	小山博康，曽根伸也，森下正典，小早川紘一，佐藤祐一	
《学会発表》「窒素ドープ酸化チタン粉末の光触媒挙動」	共著	平成 18 年 9 月	講演要旨集，1A25	村上祥教，小早川紘一，佐藤祐一	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
《学会発表》“ Adsorption behaviors of 6-octylthio-1,3,5-trazine-2,4-dithiol monosodium SAM on Au(111) investigated by electrochemical STM ”	共著	平成 18 年 9 月	S7-P-29	S. Kaneko, K. Shikakura, A. Kameyama, K. Kobayakawa, Y. Sato, Abstracts	
《学会発表》“ Alkaline cation intercalation into graphite used as a conducting materials n nickel electrode of aqueous secondary batteries ”	共著	平成 18 年 9 月	Abstracts, S1-P-58	Y. Sato, M. Morishita, K. Kobayakawa,	
《学会発表》「スピロ型アンモニウム塩電解液を用いた電気二重層キャパシタ特性」	共著	平成 18 年 10 月	2465	萩谷将之，小早川紘一，佐藤祐一，千葉一美	286 頁
《学会発表》「Fe 電極上におけるトリアジンジチオール誘導体の電解重合と腐食抑制評価」	共著	平成 18 年 10 月	3558	渡辺雅紀，亀山敦，金子信悟，小早川紘一，佐藤祐一	328 頁
《学会発表》「Fe 電極上におけるトリアジンジチオール誘導体の電解重合と腐食抑制評価」	共著	平成 18 年 10 月	3558	渡辺雅紀，亀山敦，金子信悟，小早川紘一，佐藤祐一	328 頁
《学会発表》「組成制御された Pt-Ni 合金超微粒子の作製」	共著	平成 18 年 10 月	3155	古山博康，曽根伸也，森下正典，小早川紘一，佐藤祐一	308 頁
《学会発表》「トリアジンジチオール誘導体の吸着挙動の金属腐食抑制効果に及ぼす影響」	共著	平成 18 年 10 月	講演要旨集，14D-11.	金子信悟，渡辺雅紀，吉本惣一郎，澤口隆博，鹿倉健太，亀山敦，小早川紘一，佐藤祐一	
《学会発表》「高温ハイレートにおける $LiNi_{0.5-x}Co_{2x}Mn_{1.5-x}O_4$ のサイクル特性」	共著	平成 18 年 11 月	講演要旨集　3 D-02	伊藤敦史，李徳成，小早川紘一，佐藤祐一	
《学会発表》「Ni 極を使用したアルカリ系二次電池の部分充放電過程に生じるメモリー効果抑制の検討」	共著	平成 18 年 11 月	講演要旨集，1C-05	清水良憲，森下正典，小早川紘一，佐藤祐一	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
《学会発表》「ハイブリッドカー搭載用ニッケル水素二次電池に生じるメモリー効果の原因解明」	共著	平成 18 年 11 月	講演要旨集，1C‐04	清水良憲，森下正典，小早川紘一，佐藤祐一	
《学会発表》“ Performance of EDLC Using Electrolyte Compound of Spiro-type Quaternary Ammonium BF4 Salt ”,	共著	平成 18 年 11 月	Abstracts　P-1	M. Hagiya, K. Chiba, K. Kobayakawa, Y. Sato	
“ 大学知の集積，ロボット研究 ”	単著	平成 18 年 12 月	朝日新聞		
「めっき技術の研究状況」		平成 18 年 12 月	第 13 回　神奈川大学・関東学院大学合同研究会		
《学会発表》「新規電界質スピロ型アンモニウム塩電解液を用いた電気二重層キャパシタ特性」	共著	平成 18 年 12 月	Q － PO3 － M（アブストラクト）	萩谷将史，小早川紘一，佐藤祐一，千葉和美	288 頁
《学会発表》「組成制御された Pt － Ni 合金超微粒子触媒の作製と電極特性」	共著	平成 18 年 12 月	L － P08 － M（アブストラクト）	古山博康，曽根伸也，森下正典，小早川紘一，佐藤祐一	36 頁
《学会発表》「ハイブリッドカー搭載ニッケル－水素電池の部分充放電過程に生じるメモリー効果の抑制」	共著	平成 18 年 12 月	D－ 17-M（アブストラクト）	清水良憲，森下正典，小早川紘一，佐藤祐一	126 頁
巻頭言「工学部離れを防ぐために」	単著	平成 19 年	神奈川大学工学部報告（第 45 号）		1-2 頁
「トリアジンジチオオール誘導体の吸着挙動の解明」，「電解重合と腐食抑制効果」	共著	平成 19 年 2 月	Advanced Surface Techology Exhibition & Conference 2007（国際先端表面技術展・会議　2007）		
《学会発表》「Li 過剰層状化合物材料の定電流充放電処理によるサイクル安定化」	共著	平成 19 年 3 月	講演要旨集，2H01	伊藤敦史，小早川紘一，佐藤祐一	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
《学会発表》「トリアジンチオール誘導体の吸着層形成に対する置換基効果の影響」	共著	平成 19 年 3 月	講演要旨集 PE16	番場陽介，金子真悟，小早川紘一，佐藤祐一	
《学会発表》「りんご酸を添加した浴での Ni － W 合金めっき」	共著	平成 19 年 3 月	講演要旨集　PE13	竹井　航，佐藤信孝，小早川紘一，佐藤祐一	
《学会発表》「エッチングレスガラス基板上への平滑な無電解めっき」	共著	平成 19 年 3 月	講演要旨集 PE6	二川圭介，赤澤亮介，浅井良規，小早川紘一，佐藤祐一	

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 36 年 1 月～現在に至る	日本化学会会員
昭和 38 年 1 月～現在に至る	日本ポーラログラフ学会会員
昭和 45 年 1 月～現在に至る	電気化学協会会員
昭和 50 年 1 月～現在に至る	㈳腐食防食協会会員
平成元年 1 月～現在に至る	アメリカ電気化学会会員
平成 2 年 6 月～現在に至る	International Society of Electrochemistry（国際電気化学学会）会員
平成 4 年 4 月～現在に至る	池谷科学技術振興財団研究助成金 （無電解めっき法による燃焼触媒の創成）（研究代表者）
平成 6 年 3 月～現在に至る	㈳表面技術協会第 89 回講演大会（神奈川大学）実行委員長
平成 6 年 4 月～現在に至る	東京応化科学技術振興財団研究費助成 （高エネルギー密度リチウム二次電池用正極法物質の合成とその電池特性）（研究代表者）
平成 6 年 10 月～現在に至る	日本学術会議金属表面専門委員会委員
平成 8 年 2 月～現在に至る	電気化学会会員
平成 8 年 5 月～現在に至る	科学研究費補助金 基盤研究 (B) （インターカレーション－反応場の制御と構築）（研究分担者）
平成 9 年 1 月～現在に至る	回路実装学会会員
平成 9 年 1 月～平成 16 年 3 月	回路実装学会査読委員
平成 9 年 1 月～現在に至る	電気化学便覧（第 5 版）編集委員
平成 9 年 1 月～平成 16 年 3 月	回路実装学会，エレクトロニクス実装学会査読委員
平成 9 年 3 月～平成 16 年 3 月	電気化学会生物工学研究会運営委員
平成 9 年 4 月～現在に至る	NHK 教育テレビ「発想ミュージアム」電池～1.5V が作った歴史～出演
平成 10 年 1 月～現在に至る	NHK 総合テレビ「なるほど経済・電池の選び方」出演
平成 10 年 10 月～現在に至る	(社) 電気化学会セミナー講師
平成 10 年 10 月～	(社) 電気化学会セミナー講師
平成 11 年 2 月～現在に至る	電気化学会平成 11 年度各賞選考委員会役員

年月	内　　容
平成 11 年 2 月～現在に至る	日本 TV 出演「伊東家の食卓」
平成 12 年 1 月～平成 16 年 3 月	電気化学会電解化学技術委員会委員
平成 12 年 1 月～平成 16 年 3 月	（社）電気化学会・電解科学技術委員会委員
平成 12 年 2 月～現在に至る	神奈川県産業貿易振興協会主催「第 21 回テクニカルショウヨコハマ 2000」に研究成果を出展
平成 13 年 2 月～平成 16 年 1 月	電気化学会 Electrochemistry　誌編集委員長
平成 13 年 2 月～平成 16 年 2 月	(社) 電気化学会”Electrochemistry” 誌編集委員長
平成 13 年 3 月～現在に至る	(社) エレクトロニクス実装学会第 16 回学術講演大会開催の実行委員長として神奈川大学で開催した。実行委員長
平成 13 年 4 月～平成 16 年 3 月	工学部 FD 委員会委員
平成 13 年 4 月～平成 15 年 5 月	エレクトロニクス実装学会総務理事
平成 13 年 5 月～平成 18 年 3 月	文部科学省・ハイテック・リサーチ・センターの設立（代表者）プロジエクトリーダー
平成 13 年 7 月～現在に至る	第 11 回電極材料研究会（(社) 電気化学会・電解科学技術委員会）を主催（神奈川大学）
平成 13 年 8 月～平成 16 年 3 月	文科省「東京湾岸地域大学間コンソーシアムによる社会人キャリア・アップ協議会」委員
平成 13 年 10 月～現在に至る	(社) 日本能率協会「2002 バッテリー技術シンポジウム」コーディネーター
平成 14 年 1 月～平成 15 年 12 月	電気化学会キャパシタ技術委員会委員長
平成 14 年 1 月～平成 16 年 12 月	（社）電気化学会・電池技術委員会副委員長，同出版部会長
平成 14 年 1 月～平成 15 年 12 月	（社）電気化学会キャパシタ技術委員会委員長
平成 14 年 2 月～平成 15 年 6 月	電気化学キャパシタ国際会議実行委員長
平成 14 年 3 月～現在に至る	(社) エレクトロニクス実装学会第 16 回学術講演大会を開催実行委員長
平成 14 年 3 月～平成 16 年 3 月	新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO) 新型電池電力貯蔵システム技術開発委員会リチウム電池・システム評価部会での活動委員長
平成 14 年 4 月～平成 18 年 3 月	（社）エレクトロニクス実装学会・配線板製造技術委員会マイクロファブリケーション研究会主査
平成 14 年 4 月～平成 17 年 3 月	（受託研究）三洋電機（株）「次世代アルカリ電池用新正極材料の研究」(3,000 千円)
平成 14 年 4 月～平成 17 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 (C) 3,200 千円 （大幅高容量化可能なハイブリッド電気化学キャパシタ）（研究代表者）
平成 14 年 5 月～現在に至る	(社) 電池工業会・国際規格回答原案作成委員会委員
平成 14 年 5 月～平成 15 年 7 月	(社) 電池工業会・マンガン乾電池 JIS 原案作成委員会委員長

年月	内　　容
平成 14 年 5 月～現在に至る	新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）戦略的産業技術実用化開発補助事業評価委員
平成 14 年 5 月～現在に至る	「横浜市産学共同研究センター」内に研究室分室を発足し、“ エネルギー貯蔵材料 ”PJ 立ち上げプロジェクトリーダー
平成 14 年 5 月～現在に至る	日本工業新聞「レーザ照射で無電解銅めっき」掲載
平成 14 年 5 月～現在に至る	日経産業新聞「三洋電気 (株) と産学連携で電池開発」掲載
平成 14 年 9 月～現在に至る	(社) 腐食防食協会平成 14 年度進歩賞選考委員長
平成 14 年 9 月～平成 20 年 9 月	（財）電子回路基板技術振興財団選考委員
平成 14 年 10 月～現在に至る	NHK 教育 TV 理科「蓄電池」番組作製に協力，放映（再掲）
平成 14 年 11 月～平成 16 年 4 月	電気化学会電子化検討委員会委員長
平成 14 年 11 月～平成 16 年 4 月	（社）電気化学会・電子化検討委員会委員長
平成 14 年 12 月～現在に至る	(財) 電子回路基板技術振興財団助成事業選考委員会委員
平成 15 年 1 月～平成 16 年 3 月	電気化学会電池技術委員会副委員長・同出版部会長
平成 15 年 1 月～平成 15 年 6 月	2003 Internatinal Conference on Advanced CapacitorsChairparson
平成 15 年 2 月～現在に至る	テクニカルショウヨコハマ 2003 出展「リチウムイオン二次電池用新規鉄系酸化物の合成と電池特性」
平成 15 年 5 月～現在に至る	2003 International Conference on Advanced Capacitors の Chairperson 実行委員長
平成 15 年 5 月～平成 17 年 3 月	(財) 日本電動車両協会標準化部会委員・同電池部会長
平成 15 年 5 月～平成 17 年 9 月	(社) 電池工業会・マンガン乾電池 JIS 原案作成委員会委員長委員長
平成 15 年 5 月～平成 17 年 9 月	(社) 電池工業会小形一次電池，二次電池関連 JIS 原案作成委員会委員長委員長
平成 15 年 5 月～現在に至る	新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) 燃料電池自動車等リチウム電池技術委員会委員長
平成 15 年 5 月～平成 20 年 3 月	新エネルギー・産業技術総合開発機構（ＮＥＤＯ）「平成 18 年度」戦略開発補助業（産業技術）評価委員
平成 15 年 7 月～平成 17 年 6 月	日本学術振興会・日韓科学協力事業 (共同研究) に採択
平成 15 年 7 月～平成 17 年 6 月	（国際共同研究）日本学術振興会，平成 15 年度日韓科学協力事業「リチウム二次電池用ナノ粒子サイズ ZnO コーティングした高性能/高電圧正極材料の開発」
平成 15 年 8 月～平成 19 年 3 月	(財) 無人宇宙実験システム研究開発機構・リチウムイオンバッテリー技術委員会委員
平成 15 年 8 月～平成 17 年 7 月	(社) 電池工業会・電源システム標準化委員会委員
平成 15 年 8 月～平成 16 年 5 月	(社) 電池工業会・小形一次電池，二次電池関連 JIS 原案作成委員会委員長

年月	内　　容
平成 15 年 8 月～現在に至る	国際会議における招待講演 (国際電気化学会議) において，電気化学キャパシタについての Keynote Lecture を行った。
平成 15 年 12 月～現在に至る	”12nd International Meeting of Lithium Batteries”Nara, Local Organizing Committee
平成 16 年 1 月～平成 17 年 12 月	（社）電気化学会顧問
平成 16 年 1 月～現在に至る	（社）表面技術協会・エレクトロニクス部会幹事
平成 16 年 2 月～平成 18 年 2 月	電気化学会顧問
平成 16 年 4 月～現在に至る	（社）表面技術協会・エレクトロニクス部会幹事
平成 16 年 5 月～現在に至る	FSISE(中国電気化学会，表面処理学会）主催国際会議におけるナノ多層めっきについての招待講演
平成 16 年 7 月～平成 20 年 6 月	（財）神奈川科学技術アカデミー評委員
平成 16 年 9 月～現在に至る	International Society of Electrochemistry ，　55th Annual Meeting にてアルカリ二次電池メモリー効果についての Keynote Lecture
平成 16 年 10 月～平成 17 年 4 月	（社）日本能率協会，2005 バッテリー技術シンポジウムコーデイネータ
平成 16 年 11 月～平成 20 年 3 月	新エネルギー・産業技術総合開発機構（ＮＥＤＯ）技術委員・燃料電池自動車等リチウム電池技術委員会委員長
平成 16 年 12 月～現在に至る	International Conference onElectrochemical Power Systems(India) でのアルカリ二次電池メモリー効果の招待講演
平成 17 年 1 月～平成 18 年 3 月	（社）電気化学会・電解科学技術委員会会計監査
平成 17 年 1 月～現在に至る	（社）電子情報通信学界にて，アルカリ系二次電池メモリー効果の招待講演
平成 17 年 1 月～平成 20 年 3 月	（社）電気化学会・電解科学技術委員会会計監査
平成 17 年 6 月～平成 21 年 3 月	（財）無人宇宙実験システム研究開発機構・次世代衛生基板技術・リチウムイオンバッテリー技術委員会委員
平成 17 年 8 月～現在に至る	（社）電池工業会・小形一次, 二次電池関連工業標準化（JIS）原案作成委員会委員長
平成 17 年 8 月～現在に至る	（社）電池工業会・国際規格回答原案作成委員会委員
平成 17 年 10 月～平成 18 年 4 月	（社）日本能率協会「2006 バッテリー技術シンポジウム」コーデイネータ
平成 17 年 10 月～平成 21 年 9 月	（社）電池工業会・電源システム標準化委員会委員
平成 18 年 3 月～現在に至る	（社）日本工学教育協会その他（特別教育士（工学・技術））
平成 18 年 3 月～現在に至る	（社）日本工学教育協会特別教育士（工学・技術）
平成 18 年 3 月～現在に至る	（社）日本工学教育協会特別教育士（工学・技術）
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	（独）新エネルギー・産業技術総合開発機構 NEDO 技術委員

年月	内　　容
平成 18 年 5 月～平成 20 年 5 月	（社）関東工学教育協会理事
平成 18 年 6 月～平成 19 年 7 月	（財）横浜学術教育振興財団選考委員
平成 18 年 8 月～平成 19 年 7 月	（社）日本工学教育協会賞選考委員会委員
平成 18 年 9 月～平成 20 年 9 月	経済産業省・消費経済審議会臨時委員
平成 18 年 11 月～平成 19 年 3 月	（社）電池工業会・規標準化委員会「防犯ブザー」
平成 18 年 12 月～現在に至る	（財）日本自動車研究所 FC・EV 標準化委員会委員
平成 18 年 12 月～現在に至る	（財）日本自動車研究所電池特別委員会委員
平成 19 年 2 月～平成 21 年 2 月	（社）表面技術協会評議員
平成 19 年 5 月～現在に至る	経済産業省，地域技術開発に係わる事前評価委員会委員
平成 19 年 7 月～平成 22 年 3 月	（財）日本自動車研究所電池ワーキンググループ主査
平成 20 年 1 月～現在に至る	（独）新エネルギー・産業技術総合開発機構（ＮＥＤＯ）”次世代自動車用高性能蓄電システム技術開発事業/次世代技術開発 ”次世代技術委員会委員長
平成 20 年 2 月～平成 23 年 10 月	（独）新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO），系統連系円滑化蓄電システム技術開発，サブプロジェクトリーダー
平成 20 年 4 月～平成 22 年 3 月	（独）新エネルギー・産業技術総合開発機構（ＮＥＤＯ）技術委員
平成 20 年 5 月～平成 213 年 5 月	（社）関東工学教育協会委員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部物質生命化学科	職名 教授	氏名 内藤　周弐	大学院における研究指導当 資格の有無　（㊒・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 16 年 9 月 ～現在に至る	平成 16,18,20 年の授業評価アンケート評価を受け、内容を分かりやすく伝えるため、パワーポイント・補助テキストを使用して、授業運営の改善活動を行った。
2　作成した教科書、教材 「量子化学」の補助教材作成	平成 19 年 9 月	「量子化学」は学生にとって非常に難しいという評価を受けたので、演習を含む補助教材を作成した。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		

II　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
触媒化学	共著	平成 16 年	朝倉書店		
化学用語辞典	共著	平成 17 年	丸善株式会社		
触媒反応速度論	共著	平成 18 年 1 月	実験化学講座２５、触媒化学・電気化学　（日本化学会編・丸善）		42-55 頁
触媒の本	共著	平成 19 年 2 月	R&D ブックス（日刊工業新聞社）	触媒学会編内藤周弐	
メタン高度化学変換技術集成	共著	平成 20 年 1 月			
触媒便覧	共著	平成 20 年 12 月	講談社	触媒学会編	
論文					
Preparation of Alumina and Silica-alumina Nanotubes Encapsulating Platinum Ultrafine Particles	共著	平成 15 年	J.Mater.Sci.Letts.,22,（2003）		543-546 頁
Liquid Phase Methanol Reforming with Water over Silica Supported Pt-Ru Catalysts”Liquid Phase Methanol Reforming with Water over Silica Supported Pt-Ru Catalysts”	共著	平成 15 年	Catal. Today, 87, (2003).		227-235 頁
Microporous Rhodium(III) 4,4’,4”,4”’-(21H,23H-porphine-5,10,15,20-tetrayl) tetrakisbenzoate. Synthesis, Nitrogen Adsorption Properties, and Catalytic Performance for Hydrogenation of olefin	共著	平成 15 年	Chem. Letters, 32, (2003).		854-855 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Catalytic Rh-catalyzed CO Insertion into Surface Carbonaceous Species formed by the Decomposition of Methane in the Presence of Nitric Oxide	共著	平成 15 年	Catal. Letters 91, (2003).		175-179 頁
Formation of Acetaldehyde and Acetonitrile by CH_4-CO-NO Reaction over Silica Supported Rh and Ru Catalysts	共著	平成 16 年	Stud. Surf. Sci. Catal. 140, 21 (2004)		
Mechanistic Study on the methane activation over various supported molybdenum carbide catalysts with isotopic tracer methods.	単著	平成 17 年	Appl.Catal.No.289		22-27 頁
Unique adsorption behavior of H2 and CO over group 8-10 metals encapsulated inside nanotubes and nanocapsules	共著	平成 17 年	J. Chem. Soc. Chemical Communication		1563 頁
Catalytic activity of various supported Ir-Re catalysts for liquid phase methanol reforming with water	共著	平成 17 年	Catalysis Communication 6		113 頁
Remarkable hydrogen occlusion ability of hollow Ir-SiO2 nanoparticles prepared by reversed micelle techniques	共著	平成 17 年 7 月	Journal of Materials Chemistry（１５）		2268-2270 頁
Preferential CO oxidation promoted by the presence of H2 over K-Pt/Al2O3	共著	平成 17 年 7 月	J.C.S. Chemical Communications		1429-1431 頁
Marked effect of various supports and additives upon liquid phase methanol reforming with water over supported group 8-10 metal catalysts	単著	平成 17 年 11 月	Catalysis Survey from Asia 9(4)		243-258 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Mechanistic study of water-gas shift reaction over TiO2 supported Pt-Re and Pd-Re catalysts	共著	平成 17 年 12 月	Applied Catalysis A General, 296		80-89 頁
Remarkable support effect for liquid phase methanol reforming with water over supported Pt-Ru catalysts	共著	平成 18 年 1 月	Applied Catalysis,A General, 299		285-291 頁
Catalytic performance and characterization of RhVO4/SiO2 for hydroformilation and CO hydrogenation	共著	平成 18 年 2 月	Journal of Molecular Catalysis A, Chemical, 244		201-212 頁
水素製造のためのメタノール液相改質触媒の研究	単著	平成 18 年 4 月	触媒技術の動向と展望２００６		13-21 頁
Marked Addition effect of Re upon the water gas shift reaction over TiO2 supported Pt, Pd and Ir catalysts	共著	平成 18 年 4 月	Catalysis Communication 7,		91-95 頁
The CO-H2 and CO-H2O reactions over TiO2 nanotubes filled with Pt metal nanoparticles	共著	平成 18 年 4 月	Catalysis Today, 111		164-170 頁
Surface modification of Ni catalysts with trace Pd and Rh for oxidative steam reforming of methane	共著	平成 18 年 5 月	Appleid CatalysisA; General	Y.Mukainakano, B.Li, S.Kado, T.Miyazawa, K.Okumura, T.Miyao, S.Naito, K.Kunimori, K.Tomishige	252-264 頁
A study on the water-gas shift reaction over Ir/Tio2 and Ir-Re/TiO2 catalysts	共著	平成 18 年 5 月	Applied Catalysis A, General （304）		62-71 頁
Temperature prophile of catalytic bed during oxidative steam reforming of methane over Pt-Ni bimetallic catalysts.	共著	平成 18 年 6 月	Applied CatalysisA, General	B.Li, S. Kado, Y. Mukainakano, T. Miyao, S. Naito, K. Kunimori, K. Tomishige	62-71 頁
Infrared spectroscopic study on the reaction mechanism of CO hydrogenation over Pd/CeO2	共著	平成 18 年 6 月	Research on Chemical Reaction Intermediates32,（3-4）	S. Naito, A. Aida, T. Kasahara, and T. Miyao	290 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Oxidative steam reforming of methane under atmospheric and pressurized conditions over Pd/NiO-MgO solid solution catalysts	共著	平成 18 年 7 月	Applied CatalysisA: General	M.Nurunnabi, Y.Mukainakano, S.Kado, T.Miyazawa, K. Okumura, T.Miyao, S.Naito, K.Suzuki, K.Fujimoto,K.Kunimori, K.Tomishige	1-12 頁
Unique adsorption and catalytic behavior of H2 and CO over hollow silica-Rh, -Ir and -Ru nanocomposites prepared by reversed micelle technique	共著	平成 18 年 8 月	Topics in catalysis39	S.Naito, K.Minoshima, T.Miyao	131-136 頁
Development of Ni catalysts for the removal by steam gasification of biomass	共著	平成 18 年 9 月	Applied CatalysisB: Enviromental	T.Kimura, T.Miyazawa, J.Nishikawa, S.Kado, K.Okumura, T.Miyao, S.Naito, K.Kunimori, K.Tomishige	160-170 頁
Preparation of hollow silica-Rh, -Ir, and -Rh/Ir-bimetallic nanocomposites by reverse micelle technique and their unique adsorption and catalytic behavior	共著	平成 18 年 9 月	Scientific Bases for the preparation of heterogeneous catalysts162	S.Naito, K.Minoshima, Y.Kurokawa and T.Miyao	63-70 頁
The role of additived in the catalytic reduction of NO by CO over Pd-In/SiO2 and Pd-Pb/SiO2 catalysts	共著	平成 19 年 1 月	Applied CatalysisA: General	T.Hirano, Y.Ozawa, T.Sekido, H.Ogino, T.Miyao, S.Naito	91-97 頁
Surface modification of Ni catalysts with trace Pt for oxidative steam reforming of methnae	共著	平成 19 年 1 月	Journal C atalysis245	B.Li, S.Kado, Y.Mukainakano, T.Miyazawa, T.Miyao, S.Naito, K.Okumura, K.Kunimori, T.Tomishige	144-155 頁
Marked effect of In, Pb and Ce addition upon the reduction of NO by CO over SiO2 supported Pd catalysts	共著	平成 19 年 5 月	Catalysis Communication8, (8)	T.Hirano, Y.Ozawa, T. Sekido, T. Ogino, T. Miyao and S. Naito	1249-1254 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Performance and chrar-acterization of NiO-MgO solid solution modified with noble metals in oxidative steam reforming of methane under pressurized conditions	共著	平成 19 年 6 月	ACS Symposium Series(Ultraclean Transportation Fuels)957	S.Kado, M.Mohammad, Y.Mukainakano, Y.Miyazawa, K.Nakao, K.Okumura, T.Miyao,S.Naito, K.Suzuki, K.Fujimoto, K.Kunimori, K.Tomishige	59-72 頁
Surface modification of Ni catalysts with trace Pd and Rh for oxidative steam reforming of methane	共著	平成 19 年 6 月	Applied Catalysis,A,general318	Y.Mukainakano, B.Li, S.Kado, T.Miyazawa, K.Okumura, T.Miyao, S.Naito, K.Kunimori, K.Tomishige	252-264 頁
Catalytic performance and charaterization of Pd/Ni0.2Mg0.8Al2O4 in oxidative steam reforming of methane under atmospheric and pressurized conditions	共著	平成 19 年 7 月	Applied Catalysis,A, general325,（1）	N.Mohammad, Y.Mukainakano, S.Kado, T.Miyao, S.Naito, K.Omumura, K.Kunimori, K.Tomishige	154-162 頁
Remarkable effect of addition of In and Pb on the reduction of N2O by CO over SiO2 supported Pd catalysts	共著	平成 19 年 8 月	Catalysis Letters117,（1-2）	H.Hirano, Y.Kazahaya, A.Nakamura, T.Miyao, S.Naito	73-78 頁
一酸化炭素による窒素酸化物の還元反応に著しい低温活性を示す担持パラジウム触媒での添加物の役割	単著	平成 19 年 11 月	月刊「ファインケミカル」11 月号		13-20 頁
Marked capability for the hydrogen occlusion of hollow silica nanospheres containing group 8-10 metal clusters	共著	平成 20 年 4 月	Catalysis Today132	T.Miyao, K.Minoshima, Y.Kurokawa, K.Shinohara, W.Shen, S.Naito	132-137 頁
Promoting effect of Co addition on the catalytic partial oxidation of methane at short contact time over a Rh/MgO catalysts	共著	平成 20 年 8 月	Journal of Catalysis259,（1）	H.Tanaka, S. Kado, T. Miyao, S. Naito, K. Okumura, K. Kunimori, K. Tomishige	138-146 頁
Preferential CO oxidation in hydrogen-rich steam over Pt catalysts modified with alkali metals	共著	平成 20 年 9 月	Applied Catalysis, A General343,（1-2）	H. Tanaka, M. Kuriyama, Y. Ishida, S. Ito, T. Miyao, S. Naito, T. Tomishige, K. Kunimori	125-133 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Oxidative steam reforming of methane over Ni/α－Al2O3 modified with trace Pd	共著	平成 20 年 11 月	Applied Catalysis A, General351		217-225 頁
Promoting effect of MgO addition to Pt/Ni/CeO2/Al2O3 in the steam gasification of biomass	共著	平成 21 年 1 月	Applied Catalysis B, Environmental86		36-44 頁
その他					
水素製造のためのメタノール液相改質触媒の研究	単著	平成 18 年 4 月	触媒技術の動向と展望（触媒学会編）２００６		13-21 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 42 年 4 月～現在に至る	イギリス化学会会員
昭和 42 年 4 月～現在に至る	日本化学会会員
昭和 42 年 4 月～現在に至る	日本触媒学会会員
昭和 55 年 4 月～現在に至る	日本触媒学会幹事
昭和 58 年 4 月～現在に至る	日本触媒学会編集委員
昭和 60 年 4 月～現在に至る	日本触媒学会討論会委員
平成 2 年 4 月～現在に至る	日本化学会速報誌編集委員
平成 2 年 4 月～現在に至る	文部省大学入試センター問題作問委員会委員
平成 2 年 11 月～現在に至る	日本化学会公報専門委員
平成 3 年 4 月～現在に至る	日本表面科学会会員
平成 6 年 4 月～現在に至る	日本触媒学会触媒セミナー実行委員
平成 11 年 1 月～現在に至る	日本触媒学会編集委員長
平成 14 年 4 月～平成 17 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究（B）（種々の集積型金属錯体による新規ナノ空間触媒の構築）（研究代表者）
平成 16 年 4 月～現在に至る	アメリカ化学会会員
平成 17 年 2 月～平成 19 年 1 月	日本触媒学会理事
平成 17 年 4 月～平成 19 年 3 月	日本触媒学会討論会委員長
平成 18 年 4 月～平成 21 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究Ｂ 一般 15,700 千円 （金属－酸化物ナノ構造体の壁構造の制御と新しい触媒調整法の開発）（研究代表者）
平成 18 年 4 月～平成 22 年 3 月	私学助成「私立大学学術高度化推進事業」学術フロンティアプロジェクト 590,000 千円 （機能物質創製を目指す化学空間の設計と制御）（研究代表者）

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部物質生命化学科	職名 教授	氏名 西久保　忠臣	大学院における研究指導当 資格の有無　（㊒・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
授業方法の改善	平成 15 年 4 月	授業方法の改善を目的として、授業形態を板書および OHP から、Power Point に変更し、その充実を図ってきた。その結果、授業の評価値が向上した（学生の授業評価の結果から判断）。このことから判断すると、Power Point を利用した講義は、学生の講義の理解に有効の様に思われる。
講義資料の作成と、その活用に関する調査	平成 15 年 4 月	講義科目「基礎高分子科学（旧基礎高分子化学）、高分子合成化学」講義方法の変更に併せ、今後の e‐ラーニングの準備を兼ねて、講義資料を作成した。次に、これを活用して、以下の様な調査を行った。「１）授業前に講義資料を配布する、２）各章の授業が終わった後に講義資料配布する、３）講義資料を配布しない」。その結果、２）授業の前に講義資料を配布した学年の成績が悪くなる傾向にあることが判明した。入学年度の違いによるばらつきもあるので明確に断定はできないが、最近、大学の授業でも参考資料を配布する傾向が増え、授業改善の一環としてこれを助長するような発想もある。しかし、本調査の結果から判断すると、授業に対する教員の安易な妥協と支援は反って学生の積極的な勉学心を削いでいるようにも思われる結果となっている。
2　作成した教科書、教材		なし
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
工学部応用化学科研究授業	平成 18 年 9 月 25 日	「授業科目：高分子合成化学」本学工学部の FD 活動の一環として、本講義の最初の授業日を研究授業として、同僚教員に公開し、このアンケート調査を行った。次に、このアンケート調査を授業改善の参考とした。
学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 20 年 4 月	（授業科目名：　ＦＹＳ）FYS の導入に賛同した者として、始めてこの授業の現場に立つことになった。ここで早速、学生諸君による授業評価の洗礼をうけることになった。項目 I-1～3 は概ね予想した通りである。項目 II-2～13 についても概ね妥当と判断する。また、FYS の目的や趣旨は適切であると思われるが、実勢に授業をする側と受ける側にギャップがあることを強く感じた。今後とも自分が担当する FYS の授業の質の向上に努めたい。　さらに、学生諸君の「意見記載項目」を参考にして今後の FYS を考えると、FYS の担当者としては、学生と世代が近い若手の教員の方が適切と思われる。今後、他の教育科目の分担を含めて、FYS の担当者の選別を考慮することも必要と判断する。

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 20 年 4 月	（授業科目：高分子合成化学）パワーポイントや板書を消すタイミングなどについては、今後の授業改善のための参考になるが、これに関する意見を述べると、学生諸君のノートを取るスピードが年々大幅に低下している。一方、パワーポイントと板書のノートも必要であるが、大学の講義で大切なことは、よく講義を聞き、その内容を理解し、復習して自分ノートを整理することである。さらに、数年に渡り、自分の授業改善や学生諸君の学習意欲の調査の観点から、毎年、授業の資料を作成し、「１）授業前に配布する、２）各章の授業が終わった後に配布する、３）資料を配布しない」ことを試行した。その結果、２）授業の前に資料を配布した学年の成績が悪くなる傾向にある。学年によるばらつきもあるので明確な判断はできないが、もっと広範での詳細な調査・分析も必要と判断する。最近、大学の授業でも参考資料を配布する傾向が増え、授業改善の一環としてこれを助長するような発想もある。しかし、本調査の結果から判断すると、授業に対する教員の安易な妥協と支援は反って学生の積極的な勉学心を削いでいるようにも思われる。
４　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
５　その他 神奈川大学工学部自己点検評価委員会委員長としての活動	平成 12 年 4 月 ～平成 18 年 3 月	神奈川大学工学部の自己点検評価のとりまとめを行った。また、この間 2003 年 9 月に有識者による外部評価を行い、この評価報告書のとりまとめを行った。

II　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
ACS Symposium Series 847. Photoinitiated Polymerization	共著	平成 15 年	K. D. Belfield and J. V. Crivello Eds., Am. Chem. Soc., Washington, D.C., U.S.A.	T. Nishikubo, A. Kameyama, and H. Kudo	363-377 頁
Photoinitiated Polymerization	共著	平成 15 年	ACS Symposium Series 847. K.D.Belfield and J.V.Crivello Eds.,Am.Chem.Soc., Washington,D.C. (2003)	T.Nishikubo, A.Kameyama, and H.Kudo.	363-377 頁
エポキシ樹脂, 第１巻 基礎編Ｉ（越智光一、佐武邦夫、中西義則、端直明、友井正男共編）	共著	平成 15 年 11 月	エポキシ樹脂技術協会	西久保忠臣、工藤宏人	235-249 頁
“ Contemporary Topics in Advanced Polymer Science and Technology ”	共著	平成 16 年 5 月	Qi-Feng Zhou and Stephen D. Z. Cheng Eds., Peking University Press, Beijing, China,	T. Nishikuboand A. Kameyama	309-318 頁
高分子辞典 (高分子学会編)	共著	平成 17 年 6 月	朝倉書店		
UV･EB 硬化技術の最新動向（ラドテック研究会編）	単著	平成 18 年 4 月	シーエムシー出版、		3-13 頁
“ 有機ナノエレクトロニクス ”	単著	平成 20 年	工業調査会		19-44 頁
論文					
Novel High Performance Materials. Calixarene Derivatives Containing Protective Groups and Photopolymerizable Groups for Photolithography, and Derivative Containing Active Ester Groups for Thermal Curing of Epoxy Resins	共著	平成 15 年	Polym. J.35,（3）	T. Nishikubo, A. Kameyama, and H. Kudo	213-229 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Synthesis and Characterization of Fluorine-Containing Polyesters by the Polyaddition of Bis(epoxide)s with Active Diesters.	共著	平成 15 年	J.Polym.Sci.Part A.Polym.Chem.,41,(2)	N.Ito, H.Kudo, A.Kameyama, T.Nishikubo, and T.Anada.	213-222 頁
Synthesis of a Hetero Telechelic Hyperbranched Polyethers. Anionic Ring-Opening Polymerization of 3-Ethyl-3-(hydroxylmethyl)oxetane Using Potassium *tert*-Buthoxide as an Initiator.	共著	平成 15 年	Polym.J.35,（1）	H.Kudo, A.Morita, and T.Nishikubo	88-91 頁
水中における重縮合	単著	平成 15 年 4 月	高分子 52,（4）		274 頁
オキセタン樹脂の開発：－オキセタン類の新しい反応の高分子合成、高分子工業への展開－	共著	平成 15 年 4 月	高分子加工 52,（4）	西久保忠臣、亀山敦	16-21 頁
Solid Phase Ring-opening Polymerization of Macrocyclic S-Aryl Thioesters Containing Terephthaloyl Structure	共著	平成 15 年 6 月	High Performance Polymer,15,（2）	A. Kameyama, T. Ide, and T. Nishikubo	207-218 頁
Synthesis of Polyester with Pendant Oxetane Groups by the Chemoselective Alternating Copolymerization of 3-Ethyl-3-(glycidyloxymethyl)oxetane with Carboxylic Anhydrides and Its Photochemical Reaction	共著	平成 15 年 6 月	J. Polym. Sci. Part A. Polym. Chem.41,(13)	H. Kudo, K. Ueda, N. Sano, and T. Nishikubo	1952-1961 頁
Synthesis of New Donor-Acceptor Norbornadiene Derivatives	共著	平成 15 年 8 月	Chem. Lett.32,（8）	T. Nagai, I. Takahashi, and T. Nishikubo	754-755 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Novel Synthesis of Reactive Polycarbonates with Pendant Chloromethyl Groups by the Polyaddition of Bis(oxetane)s with 2,2'-Bis[(4-chloroformyl)oxyphenyl]propane	共著	平成 15 年 8 月	J. Polym. Sci. Part A. Polym. Chem.41, (15)	T. Yashiro, T. Saitou, A. Kameyama, and T. Nishikubo	2304-2311 頁
Preparation of Nano-sized Silica with Solar Energy Conversion and Storage Function by Immobilization of Norbornadiene Moieties to Hyperbranched Poly(amino amine)-grafted Nano-sized Silica	共著	平成 15 年 11 月	Composit Interfaces,10,（6）	N. Tsubokawa, K. Kotami, S. Saito, and T. Nishikubo	609-619 頁
“ Molecular Design of Cationically Polymerizable Monomers and Polymers ”,	共著	平成 16 年	J. Photopolymer Sci. Tech., 17, (1)	A. Kameyama and T. Nishikubo	45-50 頁
Synthesis of Novel Chemically Amplified Materials Based on Calix[4]arene Derivatives with Acetal Moieties	共著	平成 16 年	Bull. Chem. Soc. Jpn.77,（11）	H. Kudo, K. Mitani,S. Koyama,andT. Nishikubo	2109-2114 頁
Synthesis of Poly(ether)s with Pendant Ester Groups by the Polyaddition of Bis(oxetane)s with Active Bis(ester)s	共著	平成 16 年	Polym. J.36,（10）	T. Nishikubo, H. Kudo, M. Sasaki, K. Kuwamura, and C. Imataki	841-847 頁
Synthesis and Chemical Modification of Hyperbranched Polyethers with terminal Hydroxyl Groups by the Anionic Ring-Opening Polymerization of 3-Alkyl-3-hydroxylmethyl Oxetanes	共著	平成 16 年	J. Polym. Sci. Part A. Polym. Chem.42	A. Morita, H. Kudo, and T. Nishikubo	3739-3750 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Synthesis of Alkaline-Developable, Photosensitive Hyperbranched Polyimides through the Reaction of Carboxylic Acid Dianhydrides with Trisamines	共著	平成 16 年	J. Polym. Sci. Part A. Polym. Chem.42	S. Makita, H. Kudo, and T. Nishikubo	3697-3707 (2004) 頁
Improved Durability of Norbornadiene Derivatives Using Antioxidized Reagents	共著	平成 16 年	Chem. Lett.33,（8）	T. Nagai and T. Nishikubo	998-999 頁
Synthesis of Fluorine-containing Poly(acetal)s by the Polyaddition of Bisphenol AF with Divinyl Ether Compounds and Their Photoinduced Depolymerization	共著	平成 16 年	Polym. J.36,（7）	Y. Konno, K. Matsumura, H. Kudo, A. Kameyama, and T. Nishikubo	531-537 頁
New Large Refractive-Index Change Materials: Synthesis and Photochemical Valence Isomerization of the Calixarene Derivatives Containing Norbornadiene Moieties	共著	平成 16 年	Bull. Chem. Soc. Jpn.77,（7）	H. Kudo, W. Ueda, K. Sejimo, K. Mitani, T. Nishikubo, and T. Anada	1415-1422 頁
Synthesis of Hyperbranched Polymers by the Anionic Ring-Opening Polymerization of 3,3-Bis(hydroxymethyl)oxetane	共著	平成 16 年	Polym. J.36,（5）	A. Morita, H. Kudo, and T. Nishikubo	413-421 頁
Synthesis and Properties of Fluorine-Containing Poly(ether)s with Pendant Hydroxyl groups by the Polyaddition of Bis(epoxide)s with Diols	共著	平成 16 年	J. Polym. Sci. Part A. Polym. Chem.42	Y. Konno, H. Kudo, A. Kameyama, and T. Nishikubo	2543-2550 頁
Synthesis and Properties of Fluorine-Containing Poly(ether)s with Pendant Hydroxyl Groups by the Poly(addition) of Bis(oxetane)s with Bisphenol AF	共著	平成 16 年 1 月	Polym. J.36,（2）	Y. Konno, H.Suzuki, H. Kudo, A. Kameyama, and T. Nishikubo	114-122 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Synthesis of Polyesters by the Polyaddition of Bis(oxetane)s with Active Di(ester)s	共著	平成 16 年 2 月	J. Polym. Sci. Part A. Polym. Chem.42	H. Kudo, T. Kurakata, M. Sasaki, and T. Nishikubo	1528-1536 (2004) 頁
新しいオキセタン化学とその高分子工業への展開	共著	平成 16 年 3 月	化学と工業、57, (3)		225-228 頁
Synthesis of Phosphorus-Containing Vinyl Ether Monomers and Oligomers and Their Photoinitiated Polymerization	共著	平成 16 年 3 月	J. Polym. Sci. Part A. Polym. Chem.42	S. Minegishi, T. Otsuka, A. Kameyama, and T. Nishikubo	2031-2042 頁
新しいオキセタン化学とその高分子工業への展開	共著	平成 16 年 3 月	化学と工業 57,（3）	西久保忠臣、亀山敦	225-228 頁
Synthesis and Photoinduced Deprotection Reaction of Calix[4]resorcinarene Derivatives Containing tert-Butylester Moieties	共著	平成 16 年 4 月	Bull. Chem. Soc. Jpn.77,（4）	H. Kudo, K. Mitani, T. Nishikubo, M. Mitsuishi, T. Miyashita	819-826 (2004) 頁
Synthesis of and Photoinitiated Cationic Polymerization of Polyfunctional 1-Propenyl Ether Monomers and Polymers Containing Phosphonate Linkage in the Main Chain	共著	平成 16 年 4 月	Polym. J.36,（4）	T. Otsuka. S. Minegishi, Y. Wakabayashi, A. Kameyama, and T. Nishikubo	329-337 頁
Molecular Design of Cationically Polymerizable Monomers and Polymers	共著	平成 16 年 5 月	J. Photopolymer Sci. Tech.17,（1）	A. Kameyama and T. Nishikubo	45-50 頁
オキセタンの新しい有機反応の研究と高分子材料への展開	共著	平成 16 年 11 月	RadTech Japan News Letter, No. 55	西久保忠臣、工藤宏人	5-6 頁
環状ポリマーに祝杯を	単著	平成 17 年	高分子 54,（11）		801 頁
オキセタンの新しい有機反応の研究と高分子材料への展開	単著	平成 17 年	神奈川大学工学部報告、No. 43		15-22 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Novel Thermal Curing Reaction of Oxetane Resins with Polyfunctional Phenols	共著	平成 17 年	J. Polym. Sci. Part A. Polym. Chem.43,（10）	T. Nishikubo, H. Kudo, M. Yoshihara, and K. Maruyama,	2028-2037 頁
Novel Molecular Photoresists Based on the Cyclodextrin Derivatives Containing Fluorine Atoms and t-Butyl Ester Groups	共著	平成 17 年	Bull. Chem. Soc. Jpn.78,（4）	H. Kudo, N. Inoue, I. Nishimura, and T. Nishikubo	731-737 頁
Synthesis and Photochemical Reaction of Poly(ether)s Containing Donor-Acceptor Type Norbornadiene Residues in the Both Main and Side Chain	共著	平成 17 年	Polym. J.37,（4）	Y. Ono, N. Kawashima, H. Kudo, T. Nagai, and T. Nishikubo	246-254 頁
ＵＶ・ＥＢ硬化性樹脂の最近の開発動向	単著	平成 17 年 5 月	化学工業日報		6-7 頁
環状オリゴマーを基盤とした新しい高性能光機能材料	共著	平成 17 年 6 月	ネットワークポリマー 26,（2）	工藤宏人、亀山敦、西久保忠臣	38-50 頁
Synthesis of Cyclic Polymers: Ring-Expansion Reaction of Cyclic S-Dithioester with Thiiranes	共著	平成 17 年 7 月	Macromolecules,38,（14）	H. Kudo, S. Makino, A. Kameyama, and T. Nishikubo	5964-5969 頁
Novel Photocurable Monomers: The Synthesis of Difunctional Vinyl Ethers with Phosphonate Group and Difunctional 1-Propenyl Ethers with a Phosphonate Group and Their Photoinitiated Cationic Polymerization	共著	平成 17 年 7 月	J. Polym. Sci. Part A. Polym. Chem.43,（14）	S. Minegishi, T. Otsuka, A. Kameyama, and T. Nishikubo	3105-3115 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Synthesis of New Photoresponsive Polyesters Containing Norbornadiene Moieties by the Ring-Opening Copolymerization of Donor-Acceptor Norbornadiene Dicarboxylic Acid Anhydride with Donor-Acceptor Norbornadiene Dicarboxylic Acid Monoglycidyl Ester Derivatives	共著	平成 17 年 10 月	J. Polym. Sci. Part A. Polym. Chem.43, (19)	Y. Ono, N. Kawashima, H. Kudo, T. Nishikubo, and T. Nagai	4412-4421 頁
Synthesis of Photocrosslinkable Hyperbranched Polyesters and Their film Properties	共著	平成 17 年 10 月	J. Polym. Sci. Part A. Polym. Chem.43, (19)	K. Maruyama, H. Kudo, T. Ikehara, N. Ito, and T. Nishikubo.	4642-4653 頁
ビスエポキシド類とトリカルボン酸類との重付加反応によるハイパーブランチポリマーの合成と機能化	共著	平成 17 年 12 月	接着,49,（12）	工藤宏人、丸山研、西久保忠臣	545-554 頁
主鎖にオキセタニル基と側鎖にメタクリロイル基或いはカルボキシル基を有するデュアルキュアー型硬化性樹脂の合成とその性質 ”	共著	平成 18 年	ネットワークポリマー、28, (1),	能坂麻美、工藤宏人、西久保忠臣	19-31 頁
（総合論文)“ オキセタン化合物の新規開環反応による構図制御された高分子の合成 ”	共著	平成 18 年	有合誌 64,（9）	西久保忠臣、亀山敦、工藤宏人	934-946 頁
Synthesis of Photocrosslinkable Hyperbranched Polyesters with Terminal Methacryloyl Groups by the One-pot Polyaddition of Bis(oxetane)s with 1,3,5-Benzenetricarboxylic Acid and Methacrylic Acid	共著	平成 18 年	Polym. J38,（5）	T. Nishikubo, H. Kudo, K. Maruyama, T. Nakagami, and H. Miyabe	447-756 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Synthesis and Properties of Hyperbranched Polybenzoxazole by Thermal Cyclodehydration of Hyperbranched Poly[o-(t-butoxycarbonyl)amide] via A3 + B3 Approach	共著	平成 18 年	J. Polym. Sci. Part A. Polym. Chem44,（11）	H. Kudo, K. Maruyama, S. Shindo, T. Nishikubo, and I. Nishimura	3640-3649 頁
Molecular Water-Wheel (Noria) from Simple Condensation of Resorcinol and an Alkanedial	共著	平成 18 年	Angew. Chem. Int. Ed.45,（47）	H. Kudo, R. Hayashi, K. Mitani, T. Yokozawa, N. C. Kasuga, and T. Nishikubo	7948-7952 頁
Refractive Index Change during Photo-Crosslinking Reaction of Poly(silsesquioxane) Derivatives Containing Cinnamoyl Moieties in the Side Chain	共著	平成 18 年	J. Network Polym. Jpn28,（1）	H. Kudo, M. Yamamoto, and T. Nishikubo	11-18 頁
Synthesis of Photocrosslinkable Hyperbranched Polyesters with Terminal Methacryloyl Groups by the One-pot Polyaddition of Bis(oxetane)s with 1,3,5-Benzenetricarboxylic Acid and Methacrylic Acid	共著	平成 18 年	Polym. J.38,（5）	T. Nishikubo, H. Kudo, K. Maruyama, T. Nakagami, and H. Miyabe	447-456 頁
Synthesis of Hyperbranched Poly(ester)s with Pendant hydroxy Groups by the Poly(addition) of Bis(oxetane)s with 1,3,5-Benzenetricarboxylic Acid	共著	平成 18 年 2 月	Polym. J.,38,（2）	T. Nishikubo, H. Kudo, and T. Nakagami,	145-152 頁
オキセタン樹脂の光および熱硬化材料への展開	共著	平成 18 年 3 月	ネットワークポリマー 27,（1）	西久保忠臣、工藤宏人	38-44 頁
Synthesis and Refractive-Indices Properties of Novel Octa-Arms Star-Shaped Polysulfides Radiating from p-t-Butylcalix[8]arene Core	共著	平成 18 年 3 月	Polym. J.,38,（3）	H. Kudo, H. Inoue, T. Nishikubo, and T. Anada,	289-297 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Novel Materials for Large Change in Refractive Index: Synthesis and Photochemical Reaction of the Ladderlike Poly(silsequioxane) Containing Norbornadiene, Azobenzene, and Anthracene Groups in the Side Chains	共著	平成 18 年 3 月	Macromolecules39,（5）	H. Kudo, M. Yamamoto, T. Nishikubo, and O. Moriya.	1759-1765 頁
側鎖にアゾベンゼンおよびアントラセン残基を有するポリマー類の合成とその光反応特性および屈折率変化	共著	平成 18 年 3 月	ネットワークポリマー 27,（1）	山本優、工藤宏人、小野由智、西久保忠臣	10-19 頁
IT 産業の技術革新を支える UV・EB 硬化技術	単著	平成 18 年 5 月	化学工業日報		7-8 頁
ＵＶ硬化技術の現状と将来の展望	単著	平成 19 年	成形加工 19,（2）		772-777 頁
Synthesis and Properties of Photo-crosslinkable Hyperbranched Poly(urethane)s Both Containing Terminal Methacryloyl Groups and Carboxyl Groups	共著	平成 19 年	Macromolecules40,（14）	K. Maruyama, H. Kudo, T. Ikehara, T. Nishikubo, I. Nishimura、A. Shishido, and T. Ikeda	4895-4900 頁
Synthesis of Self-Photosensitizing Polyesters Containing Donor-Acceptor Norbornadiene Moieties and Benzophenone Groups and Their Photochemical Reactions	共著	平成 19 年	J. Polym. Sci. Part A. Polym. Chem45,（14）	Y. Ono, N. Kawashima, H. Kudo, T. Nishikubo, and T. Nagai	2978-2988 頁
Synthesis and Refractive-Index control of Fluoropolymers by the Polyaddition of Bis(epoxide)s with Triazine Diaryl ether)s	共著	平成 19 年	J. Polym. Sci. Part A. Polym. Chem45,（19）	H. Kudo, N. Ito, K. Nakajima, M. Ochiai, and T. Nishikubo	4421-4429 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Controlled Thioacyl Group Transfer (TAGT) Polymerization of Cyclic Sulfides: Novel Approach to AB Diblock Copolymers by the Combination of RAFT and TAGT Polymerizations	共著	平成 19 年	Macromolecules40,（23）	A. Nagai, N. Koike, H. Kudo, and T. Nishikubo	8129-8131 頁
The Catalytic Reactions of Oxetanes with Protonic Reagents and Aprotic Reagents Leading to Novel Polymers	共著	平成 19 年	J. Polym. Sci. Part A. Polym. Chem45,（5）	HighlightHiroto Kudo and Tadatomi Nishikubo	709-726 頁
Synthesis of Macrocycles by the Ring-Crossover Reaction of a Cyclic Dithioester	共著	平成 19 年	J. Polym. Sci. Part A. Polym. Chem45,（4）	H. Kudo, S. Makino, and T. Nishikubo	680-687 頁
主鎖にオキセタニル基と側鎖にメタクリロイル基或いはカルボキシル基を有するデュアルキュアー型硬化性樹脂の合成とその性質	共著	平成 19 年	ネットワークポリマー 28,（1）	能坂麻美、工藤宏人、西久保忠臣	19-31 頁
Phenolic Molecular Glasses as Resists for Next Generation Lithography	共著	平成 19 年 2 月	Advances in Resist Materials and Processing Technology, Proceedings of SPIE6519	X. Andre, J.-K. Lee, A. D. Silva, C. K. Ober, H. B. Cao, H. Deng, H. Kudo, D. Watanabe, and T. Nishikubo	6519B 頁
“ High Performance Photo-curable Polymers and Oligomers Based on Novel Ring-opening Reactions of Oxetanes ”	単著	平成 19 年 4 月	2007 Materials Research Society Spring Meeting, Symposium Q		9-12 頁
Induced Smectic Phase in Mixtures of Hyperbranched Polyester and Liquid Crystal Mesogens	共著	平成 20 年	J. Phys. Chem.B,（112）	N. Kim, T. M. Huang, T. Kyu, M. Nosaka, H. Kudo, and T. Nishikubo	13225-13230 頁
Synthesis of Hetero-Telechelic Polymers by Self-Polyaddition of Monomers containing both Oxetanyl and Carboxyl Groups	共著	平成 20 年	Macromolecules46	H.Kudo,H.Atsumi,M.Sato, T.Nishikubo	7835-7842 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Synthesis of Star Polymer by Atom Transfer Radical Polymer with Resorcinol-Core Multifunctional Initiator:The construction of Nanocapsule via hydrolysis and Olefin Metathesis Reaction of the Obtained Star Polymer	共著	平成 20 年	J.Polym,Sci.Part A.Part A.Polym.Chem. 46,（X）	A.Nagai,T.Hirabayashi, H.Kudo, T.Nishikubo	4879-4888 頁
主鎖および末端にオキセタニル基、末端にメタクリロイル基およびカルボキシル基を有するハイブリッド型ハイパーブランチポリマーのワンポット合成とその性質	共著	平成 20 年	ネットワークポリマー 29,（2）	熊坂麻美、工藤宏人、西久保忠臣	73-85 頁
Template Polymerization with Noria as a Temperate	共著	平成 20 年	Macromolecules,41, （11）	Y.Saito,R.Saito,H.Kudo, T.Nishikubo	3755-3757 頁
Polymerization and Isomerization of Oxetanes using Heteropolyacid as a Catalyst	共著	平成 20 年	Polym.J.,40,（9）	T.Soga,H.Kudo,T.Nishikubo,and S.Sato	832-836 頁
A novel Noria (Water — wheel-like Cyclic Oligomer)Derivatives as a Chemically Amplified Electron-beam Resist Material	共著	平成 20 年	J.Mat.Chem.18	H.Kudo,D.Watanabe,T.Nishikubo,K.Maruyama,T.Shimizu,T.Kai,T.Shimokawa,and C.K.Ober,	3588-3592 頁
高性能光機能性分子材料	共著	平成 20 年	化学工業 59,（1）	工藤宏人、西久保忠臣	67-72 頁
A Novel approach to Cyclic Polysulfides via the controlled Ring-Expansion Polymerization of Cyclic Thiourethane with Thiiranes	共著	平成 20 年	Macromolecules41, （3）	H. Kudo, M. Sato, R. Wakai, T. Iwamoto, and T. Nishikubo	521-523 頁
Temperature Dependence of Refractive Index of Films of Well-defined Liner and Star-shaped Polystyrenes	共著	平成 20 年	Chem. Lett37,（3）	H. Kudo, H. Aoki, and T. Nishikubo	282-283 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
One-Pot Synthesis of a Novel Ladder Polymer of Calixarene via Condensation Reaction of Resorcinol and Alkanedial Based on Dynamic Covalent Chemistry	共著	平成 20 年	Macromolecules41,（6）	H. Kudo, K. Shigematsu, K. Mitani, T. Nishikubo, N. C. Kasuga, H. Uekusa, and Y. Ohashi	2030-2036 頁
A Novel Thermal curing Reaction of Oxetane Resin with Active Diester	共著	平成 20 年	Polymer.J.40,（4）	T.Nishikubo,H.Kubo,and H.Nomuura	310-316 頁
UV硬化材料の高性能化の方向	単著	平成 20 年 4 月	化学工業日報		6-7 頁
Environmentally Friendly Patterning molecular Waterwheel (Noria) in supercritical Carbon dioxide	共著	平成 21 年	J. Mat. Chem.（19）	M. Tanaka, A. Rastogi, H. Kudo, D. Watanabe, T. Nishikubo, and C. K. Ober	4622-4626 頁
Novel Noria (Water Wheel-Like Cyclic Oligomer) Derivative as a Chemically Amplified Extreme Ultraviolet (EUV)-Resist Material	共著	平成 21 年	J. Photopoly. Sci. Tech.22,（1）	Tadatomi Nishikubo, Hiroto Kudo, Yuji Suyama, Hiroaki Oizumi, Toshiro Itani	73-76 頁
Synthesis and Properties of Photo-functional Hyperbranched Polymers	共著	平成 21 年	Polym. Adv. Technol.20,（6）	T. Nishikubo, H. Kudo, and K. Maruyama	529-535 頁
末端にメタクリロイル基を有するハイパーブランチポリカーボネートの合成	共著	平成 21 年	高分子論文集 66,（1）	丸山研、高添泰地、工藤宏人、西久保忠臣	36-42 頁
アセタール残基を有するnoria（ラダー型環状オリゴマー）誘導体の合成とその光脱保護反応	共著	平成 21 年	高分子論文集 66,（1）	工藤宏人、渡辺大輔、西久保忠臣	10-16 頁
Synthesis and Refractive-Index Properties of Star- Shaped Polysulfides Radiating from Calixarenes,	単著	平成 21 年	Macromolecules42		1051-1057 頁
その他					

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
トリスオキセタン類とビスフェノール類との重付加反応による多分岐ポリエーテルの合成	共著	平成 15 年 5 月	第 52 回高分子年次大会、高分子学会予稿集。(名古屋）.52,（2）	仲神岳彦、飯島永実、工藤宏人、西久保忠臣	254 頁
DBU 法を用いたビスハロゲン化アルキルと活性メチレン化合物との重縮合反応による含フッ素ポリマーの合成	共著	平成 15 年 5 月	第 52 回高分子年次大会、高分子学会予稿集,(名古屋)52,（2）	工藤宏人、中村信裕、西久保忠臣	232 頁
アルカリ現像型感光性芳香族ハイパーブランチポリイミドの合成	共著	平成 15 年 5 月	第 52 回高分子年次大会、高分子学会予稿集,(名古屋)52,（2）	槇田昇平、工藤宏人、西久保忠臣	255 頁
分子内にオキセタニル基とカルボキシル基を有するモノマーの合成とその自己重付加反応	共著	平成 15 年 5 月	第 52 回高分子年次大会、高分子学会予稿集,(名古屋)52,（2）	工藤宏人、遠藤誠、西久保忠臣	269 頁
オキセタニル基とヒドロキシル基を有するハイパーブランチポリエーテルの機能化と光架橋反応	共著	平成 15 年 5 月	第 52 回高分子年次大会、高分子学会予稿集,(名古屋)52,（2）	森田亜也子、工藤宏人、西久保忠臣	333 頁
多官能性フェノール類を用いたオキセタン樹脂の硬化反応	共著	平成 15 年 5 月	第 52 回高分子年次大会、高分子学会予稿集,(名古屋)52,（3）	工藤宏人、吉原真由、西久保忠臣	653 頁
同一分子内にオキセタニル基とカルボキシル基を有する $\mathbf{AB_2}$ 型モノマーを用いた多分岐ポリエーテルの合成とその光硬化性樹脂への応用	共著	平成 15 年 5 月	第 52 回高分子年次大会、高分子学会予稿集,(名古屋)52,（2）	仲神岳彦、工藤宏人、西久保忠臣	255 頁
ラジカル重合による含フッ素および含硫黄ポリメタクリレートの合成とその屈折率制御	共著	平成 15 年 5 月	第 52 回高分子年次大会、高分子学会予稿集,(名古屋).52,（2）	落合雅美、王啓、工藤宏人、西久保忠臣	161 頁
ノルボルナジエン残基を有する光エネルギー変換・蓄積高分子 [**XLV**]：主鎖および側鎖にドナー・アクセプター型ノルボルナジエン残基および増感基を有する自己増感型ポリエステルの合成とその光反応	共著	平成 15 年 5 月	第 52 回高分子年次大会、高分子学会予稿集,(名古屋)52,（4）	小野由智、工藤宏人、西久保忠臣	737 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
ノルボルナジエン残基を有するカリックスアレーン誘導体類の合成とその屈折率変化	共著	平成 15 年 9 月	第 52 回高分子学討論会、高分子学会予稿集, (山口)52,（12）	工藤宏人、上田渉、瀬下清光、西久保忠臣	3422-3423 頁
メタクリロイル基を有する多分岐ポリマーの合成とその光架橋反応	共著	平成 15 年 9 月	第 52 回高分子学討論会、高分子学会予稿集, (山口)52,（7）	森田亜也子、工藤宏人、西久保忠臣	1453 頁
***t*-BuOK** を開始剤に用いた 3-アルキル-3-ヒドロキシメチルオキセタン類の開環重合と得られたポリマーの高分子反応	共著	平成 15 年 9 月	第 52 回高分子学討論会、高分子学会予稿集, (山口）52,（8）	森田亜也子、工藤宏人、西久保忠臣	1632-1633 頁
側鎖にアゾベンゼンおよびアントラセン残基を有する光-熱変換・蓄積高分子の合成とその光反応特性	共著	平成 15 年 9 月	第 52 回高分子学討論会、高分子学会予稿集, (山口)52,（11）	山本優、小野由智、工藤宏人、西久保忠臣	2686 頁
tert-ブチルエステル残基およびアセタール残基を有するカリックス [**4**] レゾルシンアレーン誘導体の合成およびその光脱保護反応”	共著	平成 15 年 9 月	第 52 回高分子学討論会、高分子学会予稿集, (山口）52,（12）	三谷浩司、工藤宏人、西久保忠臣	3406-3407 頁
同一分子内にオキセタニル基とカルボキシル基を有するモノマーの合成と重付加反応および得られた多分岐ポリマーの光機能化	共著	平成 15 年 10 月	第 53 回ネットワークポリマー講演討論会、講演要旨集、 平成 15 年 10 月 23,24 日 (横浜)	工藤宏人、仲神岳彦、西久保忠臣	149-152 頁
新しい多分岐ポリマーの合成と機能化	共著	平成 15 年 10 月	第 53 回ネットワークポリマー講演討論会、講演要旨集、平成 15 年 10 月 23,24 日 (横浜).	森田亜也子、工藤宏人、西久保忠臣	153-156 頁
Synthesis and Photo-induced Deprotection of the Calix[4]resorcinarene Derivatives with *tert*-Butylester Moieties	共著	平成 15 年 12 月	9th International Conference on Radiation Curing, RadTech Asia '03, Proceeding, 309, December 9-12, 2003 (Yokohama).	H. Kudo, K. Mitani, T. Nishikubo, M. Mitsuishi, and T. Miyashita,	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Synthesis and Photocrosslinking Reaction of Polyesters with Pendant Oxetane Groups by the Chemo-selective Alternation Copolymerization of 3-Ethyl-3-glycidyloxymethyl)oxetane with Carboxylic Anhydride	共著	平成 15 年 12 月	9th International Conference on Radiation Curing, RadTech Asia '03, Proceeding, 288, December 9-12, 2003 (Yokohama).	H. Kudo and T. Nishikubo	
Synthesis and Patterning Property of Alkaline Developable Photosensitive Hyperbranched Polyimide	共著	平成 15 年 12 月	9th International Conference on Radiation Curing, RadTech Asia '03, Proceeding, 596, December 9-12, 2003 (Yokohama).	S. Makita, H. Kudo, and T. Nishikubo	
New Fluoropolymers for 157 nm Lithography: Synthesis, Characterization, and Photochemical Reaction of Fluoropolymers	共著	平成 15 年 12 月	9th International Conference on Radiation Curing, RadTech Asia '03, Proceeding, 570, December 9-12, 2003 (Yokohama).	A. Kameyama, Y. Konno, Y. Kudo, and T. Nishikubo	
Synthesis of Novel Hyperbranched Poly(ester) Containing Methacryloxy Groups by the Polyaddition of Oxetanes with Carboxylic Acids and Their Photoinitiated Radical Polymerization	共著	平成 15 年 12 月	9th International Conference on Radiation Curing, RadTech Asia '03, Proceeding, 319, December 9-12, 2003 (Yokohama).	T. Nakagami, H. Miyabe, H. Kudo, and T. Nishikubo	
Synthesis of Photosenisitive Compounds using Addition Reaction of Oxetanes with Carboxylic Acids	共著	平成 15 年 12 月	9th International Conference on Radiation Curing, RadTech Asia '03, Proceeding, 600, December 9-12, 2003 (Yokohama).	M. Sasaki, M. Kusama, S. Ushiki, , M. Kakinuma, and T. Nishikubo	
ビスオキセタン類とフェニルホスホン酸類との重付加反応による側鎖に一級水酸基を有するポリホスホネート類の合成	共著	平成 16 年 3 月	日本化学会第 84 春季年会, 講演予稿集 II, 2 J8-31,(神戸)	工藤宏人、斉藤将行、西久保忠臣	1203 頁
3,3 ビス（ヒドロキシメチル）オキセタンのアニオン開環重合と機能性化	共著	平成 16 年 5 月	第 53 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集（神戸）53,（1）	森田亜也子、工藤宏人、西久保忠臣	194 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
ビスエポキシド類とトリカルボン酸との重付加反応による多分岐ポリマーの合成とその機能化	共著	平成 16 年 5 月	第 53 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集, (神戸)53,（1）	工藤宏人、丸山研、池原飛之、西久保忠臣、伊藤信人	419 頁
チオエステル部位を有する環状化合物の環拡大重合	共著	平成 16 年 5 月	第 53 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集,(神戸)53,（1）	工藤宏人、牧野真也、西久保忠臣	386 頁
水酸基を有するオキセタン化合物を出発原料に用いた新規多分岐ポリマーの合成と反応	共著	平成 16 年 5 月	第 53 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集,(神戸)53,（1）	森田亜也子、杉井慶太、工藤宏人、西久保忠臣	340 頁
シクロデキストリン類を基盤とする機能性含フッ素オリゴマー類の合成と性質	共著	平成 16 年 5 月	第 53 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集, (神戸)53,（1）	工藤宏人、井上奈緒美、西久保忠臣	339 頁
ジハロゲン化合物と活性メチレン化合物の重縮合反応による新規フォトレジストの合成	共著	平成 16 年 5 月	第 53 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集,(神戸)53,（1）	工藤宏人、駒野淳也、西久保忠臣	249 頁
シクロデキストリンを基盤とした機能性含フッ素ポリマーの合成と性質	共著	平成 16 年 9 月	第 53 回高分子討論会、高分子学会予稿集, (札幌)53,（2）	井上奈緒美、工藤宏人、西久保忠臣	3867 頁
光機能性多分岐ポリエステルの光硬化反応とその硬化物性	共著	平成 16 年 9 月	第 53 回高分子討論会、高分子学会予稿集, (札幌)53,（2）	丸山研、工藤宏人、西久保忠臣	3837 頁
環状ジチオエステルの環拡大挙動	共著	平成 16 年 9 月	第 53 回高分子討論会、高分子学会予稿集,(札幌)53,（2）	牧野真也、工藤宏人、西久保忠臣	2506 頁
Kinetic Study of UV Radiation Curing of the mMixtures Based on Oxetane and Epoxide by the Real-Time FT-IR	共著	平成 16 年 10 月	第 54 回ネットワークポリマー講演討論会、講演要旨集 (吹田)	Z. Qiu, T. Ikehara, H. Kudo, and T. Nishikubo	119-122 頁
3,3-ビス (ヒドロキシメチル) オキセタンの開環重合と得れれたポリマーの機能性化	共著	平成 16 年 10 月	第 54 回ネットワークポリマー講演討論会、講演要旨集 (吹田)	工藤宏人、森田亜也子、西久保忠臣	115-118 頁
アルカリ現像型多分岐ポリウレタンアクリレートの合成とその光反応	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会, 講演予稿集 CD-ROM, 3 H7-12(横浜)	丸山研、工藤宏人、池原飛之、西久保忠臣	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
シクロデキストリン類を基盤としたメタクリロイル基を有する機能性オリゴマーの合成と光反応	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会, 講演予稿集 CD-ROM, 3 H7-11(横浜)	井上奈緒美、安達隆明、工藤宏人、西久保忠臣	
種々の光反応性基を有するカリックスレゾルシン［4］アレーン類の合成とその光反応特性	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会, 講演予稿集 CD-ROM, 3 H7-10 (横浜)	山本優、久保川恵、工藤宏人、西久保忠臣	
環状ジチオエステル化合物の合成および環拡大重合挙動	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会, 講演予稿集 CD-ROM, 3 B7-05(横浜)	牧野真也、工藤宏人、西久保忠臣	
オキセタン類とフェノール類との付加反応速度とその反応機構の検討	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会, 講演予稿集 CD-ROM, 2 B7-43(横浜)	工藤宏人、三井裕子、西久保忠臣	
アゾおよびノルボルナジエン誘導体のフォトオプティカル効果	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会, 講演予稿集 CD-ROM, 2 H7-39 (横浜)	佐藤義和、山下俊、工藤宏人、西久保忠臣	
カリックスレゾルシン [4] アレーン骨格を有する新規環状 [n] 量体（n＝ 2,3）の選択的合成と性質	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会, 講演予稿集 CD-ROM, 2 B1-32	林理英子、三谷浩司、工藤宏人、西久保忠臣	
カリックスアレーン骨格を有する八本腕星型ポリマーの合成と屈折率制御	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会, 講演予稿集 CD-ROM, 2 B7-04 (横浜)	井上元、工藤宏人、西久保忠臣	
三本腕星型ポリスルフィドの合成とその屈折率制御	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会, 講演予稿集 CD-ROM, 2 B7-04 (横浜)	工藤宏人、乙坂卓矢、井上元、西久保忠臣	
メタクリロイル基とカルボキシル基を有する機能性ポリマーの合成と性質	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会, 講演予稿集 CD-ROM, 2 B7-03 (横浜)	工藤宏人、布施里美、西久保忠臣	
Creation of New Reactions of Oxetanes and Their Application to the Development of Photocurable Polymers	単著	平成 17 年 5 月	10th International Conference on Radiation Curing, RadTech Asia '05, Proceeding		232-235 頁
多分岐ポリベンゾオキサゾールの合成と光機能材料への応用	共著	平成 17 年 5 月	第 54 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集, (横浜)54,（1）	丸山研、新藤紫陽子、工藤宏人、西久保忠臣	1636 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
新規光硬化型環状化合物の合成とその性質	共著	平成 17 年 5 月	第 54 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集,(横浜)54,（1）	林理英子、三谷治司、工藤宏人、西久保忠臣	1635 頁
新規環状化合物（水車 [Noria] 構造）の機能化とその光反応特性	共著	平成 17 年 5 月	第 54 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集, (横浜)54,（1）	工藤宏人、林理英子、渡辺大輔、西久保忠臣	1355 頁
メタクリロイル基を有する機能性環状ポリスルフィドの合成と特性	共著	平成 17 年 5 月	第 54 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集,(横浜)54,（1）	牧野真也、小林夕香、工藤宏人、西久保忠臣	1332 頁
側差に種々の光反応性基を有するポリシルセスキオキサンの合成とその光反応特性	共著	平成 17 年 5 月	第 54 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集, (横浜)54,（1）	山本優、工藤宏人、西久保忠臣、守谷治。	1331 頁
オキセタン類のカチオン開環共重合による新規デンドリック高分子の合成とその機能化	共著	平成 17 年 5 月	第 54 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集, (横浜)54,（1）	工藤宏人、青木英行、森田亜也子、西久保忠臣	1327 頁
チアカリックスアレーンを基盤とする星型ポリマーの合成と性質	共著	平成 17 年 5 月	第 54 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集, (横浜)54,（1）	工藤宏人、稲垣岳史、西久保忠臣	1326 頁
カリックスレゾルシンアレーン骨格を有する 12 本腕星型ポリマーの合成とその屈折率制御	共著	平成 17 年 5 月	第 54 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集, (横浜)54,（1）	井上元、工藤宏人、西久保忠臣	1325 頁
レゾルシノールと 1,4-ブタンジアールとの縮合反応による新規ラダーポリマーの合成	共著	平成 17 年 5 月	第 54 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集, (横浜)54,（1）	林理英子、重松享輔、西久保忠臣	538 頁
同一分子内にオキセタニル基とカルボキシル基を有する種々のモノマーの合成とその自己重付加反応	共著	平成 17 年 5 月	第 54 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集, (横浜)54,（1）	渥美宏之、工藤宏人、西久保忠臣	394 頁
メタクリロイル基とオキセタニル基を有する機能性ポリマーの合成と性質	共著	平成 17 年 5 月	第 54 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集, (横浜)54,（1）	工藤宏人、能坂麻美、西久保忠臣	393 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Photoreactivity and films Properties of hyperbranched Poly(ester)s and Poly(uretane)s Containing Methacryloyl Groups	共著	平成 17 年 5 月	10th International Conference on Radiation Curing, RadTech Asia '05, Proceeding, (Shanghai, China)	K. Maruyama, H. Kudo, T. Ikehara, N. Ito, and T. Nishikubo.	665-669 頁
Synthesis, Properties, and Photochemical Deprotection of Novel Chemically Amplified Materials Based on Cyclodextrin Derivative Containing Fluorine Atoms and t-Butyl ester Groups	共著	平成 17 年 7 月	The 8th SPSJ International Polymer Conference, Proceeding, 577	H. Kudo, N. Inoue, I. Nishimura, and T. Nishikubo.	
Synthesis of Cyclic Polymers: Ring-Expansion Reaction of Cyclic S-Dithioester with Thiiranes	共著	平成 17 年 7 月	The 8th SPSJ International Polymer Conference, Proceeding, 519	H. Kudo, S. Makino, and T. Nishikubo.	
Synthesis and Refractive Indices Properties of New Octa-Arms Star-Shaped Polysulfides Radiating from p-t-Butylcalix[8]arene core		平成 17 年 7 月	The 8th SPSJ International Polymer Conference, Proceeding, 200		
The Facile Synthesis of Novel Cyclic Oligomers (Noria-Molecular) by the Reaction of Resorcinol and α, ω-Dialdehydes	共著	平成 17 年 7 月	The 8th SPSJ International Polymer Conference, Proceeding, 162	H. Kudo, R. Hayashi, N. Chikaraishi, T. Yokozawa, and T. Nishikubo.	
環状チオエステル化合物の環拡大重合	共著	平成 17 年 9 月	第 54 回高分子討論会、高分子学会予稿集, (山形)54, (2)	牧野真也、工藤宏人、西久保忠臣	2838 頁
新規ラダー化合物 (Noria) の合成およびその機能化	共著	平成 17 年 9 月	第 54 回高分子討論会、高分子学会予稿集, (山形)54, (2)	林理英子、重松享輔、力石紀子、工藤宏人、西久保忠臣	2837 頁
光反応性基を有する新規ハイパーブランチポリマーの合成とその性質	共著	平成 17 年 9 月	第 54 回高分子討論会、高分子学会予稿集, (山形)54, (2)	丸山研、新藤紫陽子、工藤宏人、西久保忠臣	2817 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
同一分子内にオキセタニル基とカルボキシル基を有する種々のモノマー類の合成とその自己重付加反応	共著	平成 17 年 9 月	第 54 回高分子討論会、高分子学会予稿集, 54, (2)	渥美宏之、工藤宏人、西久保忠臣	2551 頁
アゾベンゼン誘導体のフォトオプティカル効果の高効率化のための分子設計	共著	平成 17 年 9 月	第 54 回高分子討論会、高分子学会予稿集, (山形)54, (2)	山下俊、佐藤義和、工藤宏人、西久保忠臣	4378-4379 頁
カリックスアレーン骨格をコアーに有するスターポリスルフィドの合成とその屈折率制御	共著	平成 17 年 9 月	第 54 回高分子討論会、高分子学会予稿集, (山形)54, (2)	井上元、稲垣史、工藤宏人、西久保忠臣	2786-2787 頁
チイラン類の挿入反応による環状チオエステルの環拡大重合反応	共著	平成 17 年 9 月	第 54 回高分子討論会、高分子学会予稿集, (山形)54, (2)	工藤宏人、西久保忠臣	2768-2769 頁
Development of High Performance Photo-curable Polymers and Oligomers Using Novel Reaction of Oxetane Compounds	単著	平成 17 年 10 月	RadTech Europe 05, Conference Proceedings, Vol. 2		41-47 頁
オキセタン樹脂の光および熱硬化材料への展開	単著	平成 17 年 10 月	第 55 回ネットワークポリマー講演討論会特別講演、講演要旨集		37-40 頁
光カチオン重合性基と光ラジカル重合性基を有するハイブリット型高分子の合成とその光反応および熱反応	共著	平成 17 年 10 月	第 55 回ネットワークポリマー講演討論会、講演要旨集（横浜）	能坂麻美、工藤宏人、西久保忠臣	17-20 頁
オキセタン類のカチオン開環共重合による新規デンドリック高分子の合成と機能化	共著	平成 17 年 10 月	第 55 回ネットワークポリマー講演討論会、講演要旨集（横浜）	青木英行、工藤宏人、西久保忠臣	13-16 頁
側鎖にメタクリロイル基を有する環状ポリスルフィド類の合成とその光反応	共著	平成 17 年 10 月	第 55 回ネットワークポリマー講演討論会、講演要旨集（横浜）	牧野真也、工藤宏人、西久保忠臣	.9-12 頁
シクロデキストリンを基盤とした光硬化材料の合成と性質	共著	平成 17 年 10 月	第 55 回ネットワークポリマー講演討論会、講演要旨集（横浜）	井上奈緒美、工藤宏人、西久保忠臣	5-8 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
メタクリロイル基を有するハイパーブランチポリマーの合成とその光硬化反応および得られた硬化物の特性	共著	平成 17 年 10 月	第 55 回ネットワークポリマー講演討論会、講演要旨集（横浜）	丸山研、工藤宏人、池原飛之、西久保忠臣	1-4 頁
Development of New Reactions of Oxetanes and Their Application of Polymer Synthesis and Polymer Industry	単著	平成 17 年 12 月	Pacific Polymer conference IX, Abstracts, #13		
The facil Synthesis of Novel Cyclic Oligomer Noria-Molecular by the Reaction of Resorcinol and Dialdehydes	共著	平成 17 年 12 月	2005 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacifichem 2005), CD-Rom of Abstracts, ID#5863	R. Hayashi, H. Kudo, and T. Nishikubo.	
Synthesis and Property of the Functional Polymer Containing Both Oxetanyl and Methacryloyl Groups	共著	平成 17 年 12 月	2005 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacifichem 2005), CD-Rom of Abstracts, ID#5845	M. Nosaka, H. Kudo, and T. Nishikubo.	
Synthesis of New Star-Shaped Polysulfides Radiating From Calixarenes Core	共著	平成 17 年 12 月	2005 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacifichem 2005), CD-Rom of Abstracts, ID#5837	H. Inoue, H. Kudo, and T. Nishikubo.	
Synthesis of New Dendritic Polymers by the Cationic Polymerization of Heterotelechelic hyperbranched Polymers with Bisoxetane	共著	平成 17 年 12 月	2005 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacifichem 2005), CD-Rom of Abstracts, ID#5828	H. Aoki, H. Kudo, and T. Nishikubo.	
Synthesis and Photochemical Reaction of the Calixarene Derivatives containing Photo-Reactive Groups	共著	平成 17 年 12 月	2005 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacifichem 2005), CD-Rom of Abstracts, ID#5780	H. Kudo and T. Nishikubo.	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Novel Large Refractive-index Change Materials: Synthesis and Photochemical Reaction of the Ladder-like Polysilsesquioane Containing Photo-Reactive Groups in the side Chains	共著	平成 17 年 12 月	2005 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacifichem 2005), CD-Rom of Abstracts, ID#5243	T. Nishikuboand H. Kudo.	
Development of novel-Photofunctional Materials: Synthesis and Photochemical Reaction of Noria-derivatives	共著	平成 17 年 12 月	2005 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacifichem 2005), CD-Rom of Abstracts, ID#5232	D. Watanabe, H. Kudo, and T. Nishikubo.	
Synthesis of New Ladder Polymers by the Condensation Reaction of Resorcinol with 1,4-Butanedial	共著	平成 17 年 12 月	2005 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacifichem 2005), CD-Rom of Abstracts, ID#5049	K. Shigematsu, H. Kudo, and T. Nishikubo.	
オキセタン類とカルボン酸類の付加反応速度とその反応機構の解明	共著	平成 18 年 3 月	日本化学会第 86 春季年会, 講演予稿集 CD-ROM, 2 C2-29	工藤宏人、柴田千恵美、西久保忠臣	
チイラン類の挿入反応によるコアー架橋型スターポリスルフィドの合成とその屈折率特性	共著	平成 18 年 3 月	日本化学会第 86 春季年会, 講演予稿集 CD-ROM, 2 C2-15	井上元、工藤宏人、西久保忠臣	
Creation of New Organic Reactions of Oxetanes and Their Application of the Synthesis of Photo-curable Polymers and Oligomers	単著	平成 18 年 4 月	RadTech Presents: UV & EB Technology Expo & Conference, Technical Conference Proceedings		
側鎖にラジカル重合性基を有する機能性スターポリスルフィドの合成とその光反応前後における屈折率特性	共著	平成 18 年 5 月	第 55 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集 55,（1）	井上元、工藤宏人、西久保忠臣	1362 頁
低複屈折材料の開発を目的とした光重合性ハイパーブランチポリマー類の合成とその性質	共著	平成 18 年 5 月	第 55 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集,55,（1）	丸山研、工藤宏人、西久保忠臣	1360 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
側鎖にラジカル重合性基を有する機能性スターポリスルフィドの合成とその光反応前後における屈折率特性	共著	平成 18 年 5 月	第 55 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集 55,（1）	井上元、工藤宏人、西久保忠臣	1362 頁
低複屈折材料の開発を目的とした光重合性ハイパーブランチポリマー類の合成とその性質	共著	平成 18 年 5 月	第 55 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集 55,（1）	丸山研、工藤宏人、西久保忠臣	1360 頁
シクロデキストリンを基盤とした新規屈折率変換材料の合成と性質	共著	平成 18 年 5 月	第 55 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集 55,（1）	井上奈緒美、工藤宏人、西久保忠臣	1359 頁
NBD 残基を有するスターポリマーの合成とその屈折率変換材料への応用	共著	平成 18 年 5 月	第 55 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集 55,（1）	工藤宏人、進藤旭、西久保忠臣	474 頁
内部にクロロメチル基を有する新規デンドリマー類の合成	共著	平成 18 年 5 月	第 55 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集 55,（1）	駒野淳也、工藤宏人、西久保忠臣	399 頁
“ 動的共有結合（チオエステル）を有する環状化合物の環拡大重合 ”	共著	平成 18 年 5 月	第 55 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集（名古屋）55,（1）	牧野真也、工藤宏人、西久保忠臣	386 頁
“ グラフト型ポリスルフィドの合成と屈折率特性 ”	共著	平成 18 年 5 月	第 55 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集 55,（1）	工藤宏人、小池直之、西久保忠臣	377 頁
オキセタン類と活性エステル類との熱硬化反応及び得られた硬化物の熱的特性	共著	平成 18 年 5 月	第 55 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集（名古屋）55,（1）	西久保忠臣、工藤宏人、野村浩	275 頁
“ Synthesis of Functional Polymers by Novel Reactions of Oxetanes ”	単著	平成 18 年 7 月	IUPAC Macro 2006-World Polymer Congress		
光誘導脱保護基を有する環状オリゴマー（Noria）誘導体の合成とその光反応	共著	平成 18 年 9 月	第 55 回高分子討論会、高分子学会予稿集 55,（2）	渡辺大輔、工藤宏人、西久保忠臣	4123 頁
カリックスアレーン類をコアーとした原子移動ラジカル重合によるスターポリマー類の合成と屈折率特性	共著	平成 18 年 9 月	第 55 回高分子討論会、高分子学会予稿集 55,（2）	青木英行、工藤宏人、西久保忠臣	3901-3902 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
高屈折材料開発を目的としたスターポリスルフィドの合成と性質	共著	平成 18 年 9 月	第 55 回高分子討論会、高分子学会予稿集 55,(2)	工藤宏人、西久保忠臣	3049-3050 頁
ヘテロポリ酸を用いたオキセタン類のカチオン重合挙動	共著	平成 18 年 9 月	第 55 回高分子討論会、高分子学会予稿集 55,(2)	曽我哲徳、工藤宏人、西久保忠臣	2513-2514 頁
光重合性基と熱硬化反応性基を有するハイブリット型ハイパーブランチポリマーの合成とその光反応および熱硬化反応	共著	平成 18 年 9 月	第 55 回高分子討論会、高分子学会予稿集 55,(2)	能坂麻美、工藤宏人、西久保忠臣	2473-2474 頁
“ 光誘導脱保護基を有する環状オリゴマー（Noria）誘導体の合成とその光反応 ”	共著	平成 18 年 9 月	第 55 回高分子討論会、高分子学会予稿集 55,(2)	渡辺大輔、工藤宏人、西久保忠臣	4123 頁
“ カリックスアレーン類をコアーとした原子移動ラジカル重合によるスターポリマー類の合成と屈折率特性 ”	共著	平成 18 年 9 月	第 55 回高分子討論会、高分子学会予稿集 55,(2)	青木英行、工藤宏人、西久保忠臣	3901-3902 頁
“ 高屈折材料開発を目的としたスターポリスルフィドの合成と性質 ”	共著	平成 18 年 9 月	第 55 回高分子討論会、高分子学会予稿集 55,(2)	工藤宏人、西久保忠臣	3049-3050 頁
“ ヘテロポリ酸を用いたオキセタン類のカチオン重合挙動 ”	共著	平成 18 年 9 月	第 55 回高分子討論会、高分子学会予稿集 55,(2)	曽我哲徳、工藤宏人、西久保忠臣	2473-2474 頁
オキセタン類のカチオン開環共重合による新規デンドリティック高分子の合成とその機能化	共著	平成 18 年 10 月	平成 18 年度神奈川県産学交流研究発表会資料	青木英行、工藤宏人、西久保忠臣	229 頁
カリックスレゾルシンアレーン類をテンプレートとして用いた ATRP 法による共有結合型分子カプセルの合成	共著	平成 18 年 10 月	平成 18 年度神奈川県産学交流研究発表会資料	平林聡明、工藤宏人、西久保忠臣	228 頁
ヘテロポリ酸を用いたオキセタン類のカチオン重合挙動	共著	平成 18 年 10 月	平成 18 年度神奈川県産学交流研究発表会資料	曽我哲徳、工藤宏人、西久保忠臣	227 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
含硫黄マクロモノマーを用いたグラフトポリマー類の合成とその屈折率特性	共著	平成 18 年 10 月	平成 18 年度神奈川県産学交流研究発表会資料	小池直之、工藤宏人、西久保忠臣	226 頁
レゾルシノールとジアルデヒド類との動的共有結合反応による新規ラダーポリマーの合成	共著	平成 18 年 10 月	平成 18 年度神奈川県産学交流研究発表会資料	重松享輔、工藤宏人、西久保忠臣	45 頁
ATRP 法によるカリックスアレーン誘導体をコアに有するスターポリマー類の合成とその屈折率特性	共著	平成 18 年 10 月	平成 18 年度神奈川県産学交流研究発表会資料	青木英行、工藤宏人、西久保忠臣	44 頁
新規環状化合物 (水車 [Noria] 構造) の光機能化	共著	平成 18 年 10 月	平成 18 年度神奈川県産学交流研究発表会資料	渡辺大輔、工藤宏人、西久保忠臣	43 頁
側鎖に光異性化反応性基を有するポリマー類の合成とその光反応特性および屈折率変化	共著	平成 18 年 10 月	第 56 回ネットワークポリマー講演討論会、講演要旨集	工藤宏人、西久保忠臣	17-20 頁
光重合性基と熱硬化反応性基を有するハイブリット型ハイパーブランチポリマーの合成とほの光および熱硬化反応	共著	平成 18 年 10 月	第 56 回ネットワークポリマー講演討論会、講演要旨集（Proceedings of the Network Polymer Symposium Japan 2006）	能坂麻美、工藤宏人、西久保忠臣	13-16 頁
“ Creation of New Reactions of Oxetanes and Their Application to Polymer Synthesis ”	単著	平成 18 年 10 月	IUPAC International Symposium on Advanced Polymers for Engineering Technologies		104-105 頁
“ オキセタン類のカチオン開環共重合による新規デンドリティック高分子の合成とその機能化 ”	共著	平成 18 年 10 月	平成 18 年度神奈川県産学交流研究発表会資料	青木英行、工藤宏人、西久保忠臣	229 頁
“ カリックスレゾルシンアレーン類をテンプレートとて用いた ATRP 法による共有結合型分子カプセルの合成 ”	共著	平成 18 年 10 月	平成 18 年度神奈川県産学交流研究発表会資料	平林聡明、工藤宏人、西久保忠臣	228 頁
“ ヘテロポリ酸を用いたオキセタン類のカチオン重合挙動 ”	共著	平成 18 年 10 月	平成 18 年度神奈川県産学交流研究発表会資料	曽我哲徳、工藤宏人、西久保忠臣	227 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
“ 含硫黄マクロモノマーを用いたグラフトポリマー類の合成とその屈折率特性 ”	共著	平成 18 年 10 月	平成 18 年度神奈川県産学交流研究発表会資料	小池直之、工藤宏人、西久保忠臣	226 頁
“ レゾルシノールとジアルデヒド類との動的共有結合反応による新規ラダーポリマーの合成 ”	共著	平成 18 年 10 月	平成 18 年度神奈川県産学交流研究発表会資料	重松享輔、工藤宏人、西久保忠臣	45 頁
“ ATRP 法によるカリックスアレーン誘導体をコアに有するスターポリマー類の合成とその屈折率特性 ”	共著	平成 18 年 10 月	平成 18 年度神奈川県産学交流研究発表会資料	青木英行、工藤宏人、西久保忠臣	44 頁
“ 新規環状化合物 (水車 [Noria] 構造) の光機能化 ”	共著	平成 18 年 10 月	平成 18 年度神奈川県産学交流研究発表会資料	渡辺大輔、工藤宏人、西久保忠臣	43 頁
“ 側鎖に光異性化反応性基を有するポリマー類の合成とその光反応特性および屈折率変化 ”	共著	平成 18 年 10 月	講演要旨集（Proceedings of the Network Polymer Symposium Japan 2006）	工藤宏人、西久保忠臣	17-20 頁
光重合性基と熱硬化反応性基を有するハイブリット型ハイパーブランチポリマーの合成とほの光および熱硬化反応	共著	平成 18 年 10 月	第 56 回ネットワークポリマー講演討論会、講演要旨集	能坂麻美、工藤宏人、西久保忠臣	13-16 頁
“ 環状エーテルおよびスルフィド類の新規開環反応による構造制御された高分子の合成 ”	単著	平成 18 年 12 月	九州大学先導物質化学研究所		
“ デンドリテックネットワークポリマー ”	単著	平成 19 年 1 月	精密ネットワークポリマー研究会創立記念講演会、講演要旨集		5-6 頁
Phenolic Molecular Glasses as Resists for Next Generation Lithography	共著	平成 19 年 2 月	Advances in Resist Materials and Processing Technology, Proceedings of SPIE6519	X. Andre, J.-K. Lee, A. D. Silva, C. K. Ober, H. B. Cao, H. Deng, H. Kudo, D. Watanabe, and T. Nishikubo	6519B 頁
チイラン類と環状チオエステル類との反応による環状スルフィドの合成 ”	共著	平成 19 年 3 月	日本化学会第 87 春季年会, 講演予稿集 CD-ROM, 2 L 4-10	工藤宏人、岩本匡志、西久保忠臣	590 頁
動的共有結合化学を利用した新規ポリマーの合成	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集 59,（1）	工藤宏人、高橋真文、西久保忠臣	624 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
カリックスアレーン類をテンプレートとしたカチオン重合による共有結合型分子カプセルの合成	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集 56,（1）	工藤宏人、青木伸洋、西久保忠臣	483 頁
動的共有結合を利用したカリックスアレーンダイマーの合成	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集 56,（1）	工藤宏人、関浩之、西久保忠臣	482 頁
ビスオキセタン類とジハロゲン化物類の重付加反応	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集 56,（1）	工藤宏人、吉田真由加、西久保忠臣	418 頁
ポストポリアミノ酸の開発ーオキセタニル基を有するアミノ酸誘導体類の自己重付加反応	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集 56,（1）	工藤宏人、村上晴香、西久保忠臣	417 頁
高屈折材料の開発を目的とした光反応性ハイパーブランチポリスルフィドの合成と性質	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集 56,（1）	工藤宏人、杉本寛樹、西久保忠臣	416 頁
トリカルボン酸とビスアルキルハライドとの反応によるハイパーブランチポリエステルの合成	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集 56,（1）	平林聡明、工藤宏人、西久保忠臣	313 頁
ハイパーブランチポリカーボネートの合成とその光機能化	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集 56,（1）	工藤宏人、高添泰治、西久保忠臣	1643 頁
末端に光重合性基と熱硬化反応性基を有するハイブリット型ハイパーブランチポリマーの合成とその性質	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集 56,（1）	能坂麻美、工藤宏人、西久保忠臣	1418 頁
側鎖に光化学反応性基を有する腕の長さの制御されたスターポリマー類の合成とその屈折率変化	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集 56,（1）	青木英行、工藤宏人、西久保忠臣	1410 頁
光化学反応性基を有する新規環状オリゴマー (Noria) 誘導体の合成と屈折率変化	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集 56,（1）	渡辺大輔、工藤宏人、西久保忠臣	1409 頁
オキセタン系カリックスアレーン重合体の光学特性	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集 56,（1）	金泰昊、小松京次　、杉原興浩、戒能俊邦、工藤宏人、西久保忠臣	1401 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
カリックスアレーン重合体の光学特性	共著	平成 19 年 9 月	第 56 回高分子討論会、高分子学会予稿集 56,(2)	金泰昊、小松京嗣、杉原興浩、戎能俊邦、工藤宏人、西久保忠臣	4668-6669 頁
ラダー型環状オリゴマー (noria) を基盤とした EB および EUV レジスト材料の開発	共著	平成 19 年 9 月	第 56 回高分子討論会、高分子学会予稿集 56,(2)	西久保忠臣、工藤宏人、渡辺大輔、丸山研、Xavier Andrｅ、Christopher K. Ober	4524-4525 頁
動的共有結合化学を基盤とした環状オリゴマーおよびラダーポリマーの合成	共著	平成 19 年 9 月	第 56 回高分子討論会、高分子学会予稿集 56,(2)	工藤宏人、重松享輔、林理英子、三谷浩司、西久保忠臣	2860-2861 頁
動的共有結合化学に基づくレゾルシノールと種々の芳香族ジアルデヒド類との縮合反応によるポリマーの合成	共著	平成 19 年 9 月	第 56 回高分子討論会、高分子学会予稿集 56,(2)	関浩之、工藤宏人、西久保忠臣	2699 頁
ヘテロポリ酸を触媒としたオキセタン類のカチオン重合と異性化反応挙動	共著	平成 19 年 9 月	第 56 回高分子討論会、高分子学会予稿集 56,(2)	曽我哲徳、工藤宏人、西久保忠臣	2606 頁
ビスアルキルハライドとトリカルボン酸の縮合反応によるハイパーブランチポリエステルの合成とその性質	共著	平成 19 年 9 月	第 56 回高分子討論会、高分子学会予稿集 56,(2)	平林聡明、工藤宏人、西久保忠臣	2526 頁
低屈折率材料の開発を目的とした含フッ素ポリマーの合成と性質	共著	平成 19 年 9 月	第 56 回高分子討論会、高分子学会予稿集 56,(2)	小池直之、工藤宏人、西久保忠臣	2485 頁
分子量のコントロールを目指した自己重付加反応の開発	共著	平成 19 年 9 月	第 56 回高分子討論会、高分子学会予稿集 56,(2)	佐藤正明、渥美宏之、工藤宏人、西久保忠臣	2484 頁
動的共有結合を基盤としたラダー型環状オリゴマーおよびラダーポリマーの合成	共著	平成 19 年 10 月	第 57 回ネットワークポリマー講演討論会、講演要旨集	工藤宏人、林理英子、重松享輔、西久保忠臣	89-92 頁
ビスアルキルハライド類とトリメシン酸との反応による光架橋性ハイパーブランチポリエステルの合成と特性	共著	平成 19 年 10 月	第 57 回ネットワークポリマー講演討論会、講演要旨集	平林聡明、工藤宏人、西久保忠臣	85-88 頁
ハイパーブランチポリカーボネートの合成とその光機能化	共著	平成 19 年 10 月	第 57 回ネットワークポリマー講演討論会、講演要旨集	高添泰地、工藤宏人、西久保忠臣	81-84 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
低屈折率材料の開発を目的とした新しい含フッ素ポリマーの合成とその機能化	共著	平成 19 年 10 月	第 57 回ネットワークポリマー講演討論会、講演要旨集	小池直之、工藤宏人、西久保忠臣	77-80 頁
側鎖にビシクロオルトエステル類を有するポリマーの合成とその光架橋反応および光架橋前後の屈折率特性	共著	平成 19 年 10 月	第 57 回ネットワークポリマー講演討論会、講演要旨集	曽我哲徳、工藤宏人、西久保忠臣	65-68 頁
p-tert-ブチルフェノール類とα, ω-アルカンジアール類による新規動的共有結合化学反応	共著	平成 20 年 3 月	日本化学会第 88 春季年会, 講演予稿集 CD-ROM2 F1-13	工藤宏人、桑原慎吾、西久保忠臣	
レゾルシンールと 1,5-ペンタンジアールの縮合反応によるラダー型環状オリゴマー (Noria) の合成反応機構の解明	共著	平成 20 年 3 月	日本化学会第 88 春季年会, 講演予稿集 CD-ROM2 F1-1 2	工藤宏人、首藤拓也、西久保忠臣	
側鎖にビシクロオルトエステル基を有するポリマーの合成とその光架橋反応および光架橋前後の屈折率特性	共著	平成 20 年 3 月	高分子学会ネットワークポリマー研究会 第 1 回若手シンポジウム、講演要旨	曽我哲徳、工藤宏人、西久保忠臣	26 頁
ビスアルキルハライド類とトリメシン酸との反応による光架橋性ハイパーブランチポリエステルの合成と特性	共著	平成 20 年 3 月	高分子学会ネットワークポリマー研究会 第 1 回若手シンポジウム、講演要旨	平林聡明、工藤宏人、西久保忠臣	25 頁
低屈折率材料の開発を目的にした含フッ素ポリマーの合成と性質	共著	平成 20 年 3 月	高分子学会ネットワークポリマー研究会 第 1 回若手シンポジウム、講演要旨	小池直之、工藤宏人、西久保忠臣	24 頁
かご型シルセスキオキサンを基盤とした高性能屈折率変換材料の合成	共著	平成 20 年 5 月	第 57 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集 (横浜)57, (1)	工藤宏人、久保真之、西久保忠臣	1350 頁
p-tert-ブチルカリックス [8] アレーン (BCA) を鋳型に用いた新規ナノカプセルの合成	共著	平成 20 年 5 月	第 57 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集 (横浜)57, (1)	工藤宏人、小林達也、西久保忠臣	349 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
動的共有結合化学を利用した1,2,3-トリヒドロキシベンゼンと1,5-ペンタンジアールとの縮合反応による大環状化合物の合成	共著	平成20年5月	第57回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集(横浜).57,（1）	関浩之、工藤宏人、西久保忠臣	332頁
オキセタニル基を有する光学活性モノマーの合成とカチオン重合および得られたポリマーの光学特性	共著	平成20年5月	第57回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集(横浜)57,（1）	工藤宏人、大山舞、西久保忠臣	306頁
シルセスキオキサン骨格を有するハイパーブランチポリマーの合成と光学特性	共著	平成20年5月	第57回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集(横浜)57,（1）	宮坂誠、工藤宏人、西久保忠臣	263頁
（招聘講演）Synthesis of Ladder Cyclic Oligomers and Ladder Polymers by A2 + B4 Type Condensation Reaction of Resorcinol with α, ω-Alkanedials based on Dynamic Covalent Chemistry		平成20年6月			
（招聘講演）Synthesis of Ladder Cyclic Oligomers and Ladder Polymers by A2 + B4 Type Condensation Reaction of Resorcinol with α, ω-Alkanedials based on Dynamic Covalent Chemistry		平成20年7月			
（招聘講演）Synthesis of Ladder Cyclic Oligomers and Polymers by the Polycondensation of Resorcinol with α, ω-Alkanedials		平成20年8月			
（招聘講演）Synthesis and Photochemical Properties of Novel Hyperbranched Polymers		平成20年8月			
光硬化性ハイパーブランチポリマーの合成と性質およびその機能	共著	平成20年9月	第57回高分子討論会、高分子学会予稿集（大阪)57,（2）	西久保忠臣、工藤宏人、平林聡明、丸山研	5389-5390頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
アントラセン二量体をブロック間結合に用いたブロックコポリマーの合成と結晶化挙動	共著	平成 20 年 9 月	第 57 回高分子討論会、高分子学会予稿集 (大阪)57,（2）	青柳頼明、工藤宏人、片岡利介、西久保忠臣、池原飛之	3121 頁
ラダー型環状オリゴマーの合成と性質およびその機能化	共著	平成 20 年 9 月	第 57 回高分子討論会、高分子学会予稿集 (大阪)57,（2）	工藤宏人、首藤 拓也、林 理英子、西久保忠臣	3019-3020, 頁
多官能性オキセタン化合物と多官能性フェノール類との反応による熱硬化システムの開発	共著	平成 20 年 9 月	第 57 回高分子討論会、高分子学会予稿集 (大阪)57,（2）	野村浩、工藤宏人、西久保忠臣	2614 頁
多官能性エポキシ化合物とジオールおよびジカルボン酸類との反応による光機能性含フッ素ハイパーブランチポリマーの合成とその性質	共著	平成 20 年 9 月	第 57 回高分子討論会、高分子学会予稿集 (大阪)57,（2）	藤原祐輔、小池直之、宮坂誠、工藤宏人、西久保忠臣	2558 頁
動的共有結合化学を利用したピロガロールと 1,5-ペンタンジアールとの縮合反応によるラダー型環状化合物の合成とその機能化	共著	平成 20 年 9 月	第 57 回高分子討論会、高分子学会予稿集 (大阪)57,（2）	関浩之、工藤宏人、西久保忠臣	2414-2415 頁
ATRP 法より合成したハイパーブランチポリマーの DBU 法を用いた末端化学修飾による光硬化樹脂の合成とその特性	共著	平成 20 年 9 月	第 57 回高分子討論会、高分子学会予稿集 (大阪).57,（2）	高橋真文、工藤宏人、西久保忠臣	2412-2413 頁
（招聘講演）Synthesis of Novel Molecular Materials “ Noria Derivatives ” and its Application to EB and EUV Resists		平成 20 年 10 月			
ATRP により合成したハイパーブランチポリマー末端の化学修飾による光硬化樹脂の合成とその特性	共著	平成 21 年 3 月	高分子学会ネットワークポリマー研究会 第 2 回若手シンポジウム、講演要旨	高橋真文、工藤宏人、西久保忠臣	38 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
A2　モノマーとして Di-tert-Butyotrichlorocarbonate を用いた A2 ＋ B3 法によるハイパーブランチポリカーボネートの合成と機能化	共著	平成 21 年 3 月	高分子学会ネットワークポリマー研究会 第 2 回若手シンポジウム、講演要旨	高添泰地、宮坂誠、工藤宏人、西久保忠臣	37 頁
多官能性オキセタン化合物とカルボン酸無水物類との反応による新しい熱硬化システムの開発	共著	平成 21 年 3 月	高分子学会ネットワークポリマー研究会 第 2 回若手シンポジウム、講演要旨	野村浩、工藤宏人、西久保忠臣	19 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
～現在に至る	アメリカ化学会会員
～現在に至る	応用物理学会会員
～現在に至る	高分子学会会員
～現在に至る	日本化学会会員
～現在に至る	日本ゴム協会会員
～現在に至る	フォトポリマー懇話会会員
昭和 59 年 4 月～現在に至る	科学研究費補助金 一般研究（C) 2,000 千円 （相関移動触媒法を用いた側鎖にビニルエーテル基を有するポリマーの合成と応用）（研究代表者）
昭和 61 年 11 月～平成 16 年 8 月	ラドテック研究会会員及び幹事
平成 3 年 4 月～現在に至る	International Advisory Board for 4th International Symposium on Fine Chemistry and Functional Polymers（FCFP － 4）
平成 5 年 4 月～現在に至る	International Advisory Board for 5th International Symposium on Fine Chemistry and Functional Polymers（FCFP －Ⅴ）
平成 7 年 4 月～現在に至る	International Advisory Board for 6th International Symposium on Fine Chemistry and Functional Polymers（FCFP － 6）
平成 8 年 1 月～現在に至る	6th SPSJ International Polymer Conference （IPC97）プログラム委員
平成 8 年 4 月～現在に至る	International Advisory Board for 7th International Symposium on Fine Chemistry and Functional Polymers（FCFP － 7）
平成 8 年 7 月～現在に至る	Organizing Committee for the 1997 International Phase － Transfer Catalysis Conference
平成 9 年 7 月～現在に至る	横浜教育振興財団選考委員
平成 9 年 7 月～平成 18 年 3 月	横浜学術教育振興財団 研究者等助成事業選考委員
平成 11 年 9 月～現在に至る	エレクトロニクス実装学会会員
平成 12 年 4 月～平成 16 年 3 月	エレクトロニクス実装学会材料技術委員会委員
平成 13 年 1 月～平成 18 年 5 月	経済産業省 地域新生コンソーシアム研究開発事業事前評価委員
平成 13 年 4 月～平成 16 年 3 月	Chairman,The 9th International Conference on Radiation Curing（RadTech Asia 2003 国際会議組織委員会）委員長
平成 13 年 4 月～平成 16 年 3 月	神奈川高度技術支援財団 大学研究成果移転促進会議委員
平成 13 年 5 月～現在に至る	RadTech Asia OrganizationVice-president

年月	内　　容
平成 13 年 5 月～平成 18 年 4 月	関東工業教育協会理事
平成 13 年 5 月～平成 17 年 6 月	高分子辞典編集委員会委員
平成 13 年 12 月～現在に至る	経済産業省、地域技術開発事業事前評価委員会委員
平成 14 年 2 月～平成 17 年 3 月	関東経済産業局、地域新生コンソーシアム研究開発制度審査委員
平成 14 年 4 月～平成 17 年 3 月	科学研究費補助金 萌芽研究 3,000 千円 （オキセタン誘導体のアニオン重合による新規ハイパーブランチポリマーの合成と機能評価）（研究代表者）
平成 14 年 6 月～平成 16 年 5 月	高分子学会常任理事
平成 15 年 4 月～平成 16 年 3 月	高分子学会平成 15 年度代議員
平成 16 年 4 月～平成 17 年 3 月	高分子学会平成 16 年度代議員
平成 16 年 6 月～平成 18 年 5 月	高分子学会副会長
平成 16 年 9 月～現在に至る	ラドテック研究会会長
平成 17 年 4 月～平成 18 年 3 月	高分子学会平成 17 年度代議員
平成 17 年 4 月～平成 19 年 3 月	日本技術者教育認定機構運営委員
平成 18 年 3 月～現在に至る	社団法人日本工学教育協会特別教育士
平成 18 年 4 月～平成 19 年 3 月	高分子学会平成 18 年度代議員
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	大学基準協会平成 18・19 年度相互評価委員会委員・専門分科会主査
平成 18 年 5 月～平成 19 年 12 月	The 10th Pacific Polymer Conference,Organiging Committee 委員
平成 18 年 9 月～現在に至る	独立行政法人科学技術振興機構産学協同イノベーション化事業アドバイザー　(審査員)
平成 19 年 1 月～平成 20 年 12 月	独立行政法人日本学術振興機構 科学研究費委員会専門委員
平成 19 年 4 月～現在に至る	Red Tech Asia 2009 国際会議組織委員長
平成 19 年 5 月～現在に至る	経済産業省地域技術開発事業に係わる事前評価委員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部物質生命化学科	職名 教授	氏名 引地　史郎	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
スモールテスト・演習問題の効率化	平成 19 年 4 月 1 日	(授業科目：錯体化学，エネルギー化学）受講者数が 100 名を超える授業において講義内容の理解の定着を目的として実施しているスモールテスト・演習について、採点後に詳細な解答法および関連事項の解説を答案裏面に印刷して受講学生に返却することにより、知識の体系化と学習効果の向上を図っている
メーリングリストを活用した授業サポート	平成 19 年 4 月 1 日	（授業科目：FYS(ファースト・イヤー・セミナー)）メーリングリストによる課題の連絡、質問の受付などを行なっている。特に欠席がちな学生に対するフォローに効果を上げている。
2　作成した教科書、教材		
『錯体化学』の教材作成	平成 18 年 4 月 1 日	（授業科目：錯体化学（2008 年度より『配位化学』に名称変更)）：膨大な内容を含む錯体化学に関する要点をわかりやすく伝え、さらに自習可能なようにノート欄や演習問題を組み込んだワークシートを作成した（総ページ数 A4 版 20 ページ)
『物質生命化学基礎演習』の教材作成	平成 18 年 4 月 1 日	（授業科目：物質生命化学基礎演習）所属学科 1 年次生を対象とした必修科目である本科目について、他の教員と分担して毎年演習問題集の作成を行なっている。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		
九州大学理学部化学科主催 FD 会議における講演	平成 16 年 3 月 20 日 ～平成 16 年 3 月 20 日	「学生実験からみる化学教育」という演題で、教育効果を高めるための学生実験の取り組みに関する講演を行った。

II　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
『錯体化学選書１　生物無機化学　-金属元素と生命の関わり-』6.3 非ヘム金属酸化酵素	共著	平成 17 年 5 月	三共出版	穐田宗隆、伊東忍、小夫家芳明、榊茂好、実川浩一郎、鈴木正樹、福住俊一、舩橋靖博、引地史郎、増田秀樹、山内脩、渡辺芳人	
『メタン高度化学変換技術集成』第５章２．メタンモノオキシゲナーゼの反応機構と酵素模倣型アルカン選択酸化反応	共著	平成 20 年 2 月	「メタン高度化学変換技術集成；市川勝監修」（シーエムシー出版）	市川勝 監修	
『触媒技術の動向と展望 2008』3.4 錯体触媒による炭化水素類への環境調和型酸素添加反応	共著	平成 20 年 6 月	『触媒技術の動向と展望 2008』	触媒学会出版委員会編	40-50 頁
『触媒便覧』I. 基礎編 3.2 錯体反応の速度と反応機構	共著	平成 20 年 12 月	講談社サイエンティフィク	触媒学会	
論文					
Efficient Epoxidation of Olefins with ¿99% Selectivity and Use of Hydrogen Peroxide	共著	平成 15 年 5 月	Science300,（5621）	Keigo Kamata, Koji Yonehara, Yasutaka Sumida, Kazuya Yamaguchi, Shiro Hikichi, Noritaka Mizuno	964-966 頁
Conversion of a Hydroperoxo Complex, (TpiPr2)(py)Pd-OOH, into a Cyclic Alkylperoxo Complex Catalyzed by Cu(II) Species [TpiPr2: Hydrotris(3,5-diisopropylpyrazolyl)borato]	共著	平成 15 年 6 月	Chem. Lett.32,（6）	Masato Kujime, Shiro Hikichi, Munetaka Akita	486-487 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Enolato-cobalt and -nickel Complexes Bearing TpiPr2 Ligand, [TpiPr2M(XCHY)]n [TpiPr2 = Hydrotris(3,5-diisopropylpyrazolyl)borato; n= 1, 2], Obtained from Hydroxometal Complexes, (m-OH)2(MTpiPr2)2, and Active Methylene Compounds, CH2XY	共著	平成 15 年 7 月	Inorg. Chim. Acta350,（1）	Masato Kujime, Shiro Hikichi, Munetaka Akita	163-174 頁
物理化学実験-反応速度論の体験的理解-	単著	平成 15 年 8 月	化学と教育 51,（8）		470-473 頁
Interaction of Hydroperoxopalladium Complexes, (TpR)(py)Pd-OOH, with Hydroxonickel and -cobalt Complexes, [(m-OH)(MTpR)]2 (M = Ni, Co), Leading to Oxidative Dehydrogenation of the Saturated Hydrocarbyl Moiety in the Ancillary Ligand (TpiPr2)	共著	平成 15 年 9 月	Dalton Trans.2003,（18）	Masato Kujime, Shiro Hikichi, Munetaka Akita	3506-3515 頁
A Peroxochromium Complex, TpiPr2Cr(O2)2, Obtained by Oxidative Dehydrative Condensation Between a Dihydroxochromium Complex and H2O2 [TpiPr2 = hydrotris(3,5-diisopropylpyrazolyl)borato]	共著	平成 15 年 11 月	Dalton Trans.2003,（22）	Ken-ichiro Sugawara, Shiro Hikichi, Munetaka Akita	4346-4355 頁
[W(=O)(O2)2(H2O)2(m-O)]2–Catalyzed Epoxidation of Allylic Alcohols in Water with High Selectivity and Utilization of Hydrogen Peroxide	共著	平成 15 年 11 月	Adv. Synth. Catal.345,（11）	Keigo Kamata, Kazuya Yamaguchi, Shiro Hikichi, Noritaka Mizuno	1193-1196 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
The Hydrothermal Synthesis and Crystal Structure of (H2O)[Ge5O10] and [(CH3)4N][Ge10O20OH], Two Novel Porous Germanates	共著	平成 16 年 1 月	Chem. Lett.33,（1）	Yan Xu, Wei Fan, Naotaka Chino, Kazuhiro Uehara, Shirou Hikichi, Noritaka Mizuno, Masaru Ogura, Tatsuya Okubo	74-75 頁
Oxygenation of a Series of Cationic Aquoruthenium Complexes, TpiPr2Ru(OH2)nL3-nCF3SO3(THF)x, Leading to Mono- and Dinuclear Aquo-hydroxo Complexes Supported by Unique Hydrogen Bonding Networks	共著	平成 16 年 1 月	Polyhedron23,（2-3）	Yoshiaki Takahashi, Shiro Hikichi, Yoshihiko Moro-oka, Munetaka Akita	225-234 頁
生物無機化学と触媒化学の接点	単著	平成 16 年 6 月	触媒 46,（4）		262-267 頁
Oxygenation of a Low Valent Rhodium Complex, TpiPr2Rh(dppe): Sequential Conversion of Molecular Oxygen into Peroxo and Hydroperoxo Complexes and Characterization of the Peroxo Species.	共著	平成 16 年 8 月	Inorg. Chim. Acta,357,（6）	Yoshiaki Takahashi, Mariko Hashimoto, Shiro Hikichi, Yoshihiko Moro-oka, Munetaka Akita	1711-1724 頁
Structures and Sorption Properties of Ionic Crystals of Macrocation-Dawson-type Polyoxometalates with Different Charges	共著	平成 17 年 3 月	Chem. Mater.17,（6）	Sayaka Uchida, Ryosuke Kawamoto, Takeo Akatsuka, Shiro Hikichi, Noritaka Mizuno	1367-1375 頁
Xenophilic Complexes Bearing a TpR Ligand, TpRM-M'Ln [TpR = TpiPr2, Tp (TpMe2,4-Br); M= Ni, Co, Fe, Mn; M'Ln= Co(CO)4, Co(CO)3(PPh3), RuCp(CO)2]: The Two Metal Centers are Held Together not by Covalent Interaction but by Electrostatic Attraction.	共著	平成 17 年 4 月	Chem. Eur. J.11,（9）	Kazuhiro Uehara, Shiro Hikichi, Akiko Inagaki, Munetaka Akita	2788-2809 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Synthesis, Structural Characterization, and Catalytic Performance of Dititanium-substituted g-Keggin Silicotungstate	共著	平成 18 年 3 月	Inorg. Chem.45,（5）	Yuya Goto, Keigo Kamata, Kazuya Yamaguchi, Kazuhiro Uehara, Shiro Hikichi, Noritaka Mizuno	2347-2356 頁
Formation of S-Shaped Disilicoicosatungstate and the Efficient Baeyer-Villiger Oxidation with Hydrogen Peroxide	共著	平成 18 年 3 月	Angew. Chem. Int. Ed.45,（12）	Akihiro Yoshida, Masayuki Yoshimura, Kazuhiro Uehara, Shiro Hikichi, Noritaka Mizuno	1956-1960 頁
Molecular design of selective oxidation catalyst with polyoxometalate	共著	平成 18 年 9 月	Catalysis Today117,（1-3）	Noritaka Mizuno, Shiro Hikichi, Kazuya Yamaguchi, Sayaka Uchida, Yoshinao Nakagawa, Kazuhiro Uehara, Keigo Kamata	32-36 頁
Hydrogen bonding interaction between imidazolyl N-H group and peroxide: Stabilization of Mn(III)-peroxo complex TpiPr2Mn(h2-O2)(imMeH) (imMeH = 2-methylimidazole)	共著	平成 18 年 10 月	Inorg. Chim. Acta359,（13）	Udai P. Singh, Asish K. Sharma, Shiro Hikichi, Hidehito Komatsuzaki, Yoshihiko Moro-oka, Munetaka Akita	4407-4411 頁
人工酸化酵素の開発を指向した遷移金属－活性酸素錯体の研究	単著	平成 18 年 11 月	神奈川大学工学研究所所報 29		10-17 頁
2D-Grid Layered Pd-Based Cationic Infinite Coordination Polymer/Polyoxometalate Crystal with Hydrophilic Sorption	共著	平成 18 年 11 月	Inorg. Chem.45,（23）	Kazuhiro Uehara, Hideaki Nakao, Ryosuke Kawamoto, Shiro Hikichi, Noritaka Mizuno,	9448-9453 頁
Acid-Base Catalyses by Dimeric Disilicoicosatungstates and Divacant g-Keggin-type Silicodecatungstate Parent: Reactivity of the Polyoxometalate Compounds Controlled by Step-by-step Protonation of Lacunary W=O Sites	共著	平成 19 年 1 月	J. Organomet. Chem.962,（1-3）	Akihiro Yoshida, Shiro Hikichi, Noritaka Mizuno	455-459 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Olefin Epoxidation with Hydrogen Peroxide Catalyzed by Lacunary Polyoxometalate [γ-SiW10O34(H2O)2]4-	共著	平成 19 年 1 月	Chem. Eur. J.13,（2）	Keigo Kamata, Miyuki Kotani, Kazuya Yamaguchi, Shiro Hikichi, Noritaka Mizuno	639-648 頁
Preparation of Monodispersed Nano-particles by Electrostatic Assembly of Keggin-type Polyoxometalates and tacn-Based Transition Metal Complexes	共著	平成 19 年 9 月	Chem. Mater.19	Sayaka Uchida,Shiro Hikichi, Takeo Akatsuka, Toshiyuki Tanaka, Ryosuke Kawamoto, Aldes Lesbani, Yoshinao Nakagawa, Kazuhiro Uehara, Noritaka Mizuno	4694-4701 頁
Baeyer-Villiger Oxidation and C-C Bond Formation Reactions Catalyzed by Disilicoeicosatungstates	共著	平成 19 年 11 月	Studies in Surface Science and Catalysis172	Akihiro Yoshida, Shiro Hikichi, Noritaka Mizuno	205-208 頁
金属タンパク質・酵素における金属中心の構造と機能	単著	平成 20 年 11 月	固体物理 43,（11）		733-742 頁
Structural Characterization and Oxidation Activity of a Nickel(II) Alkylperoxo Complex	共著	平成 21 年 1 月	Angew. Chem. Int. Ed.48,（1）	Shiro Hikichi, Hideho Okuda, Yoshiko Ohzu, Munetaka Akita	188-191 頁
その他					
遷移金属による還元的酸素活性化能の制御 -Bio-inspired 酸化触媒の開発を目指して-(依頼講演)	単著	平成 16 年 6 月	触媒学会高難度選択酸化研究会		
水中で機能するメタン水酸化触媒 (解説記事)	単著	平成 17 年 1 月	化学 (化学同人)60,（1）		66-67 頁
Bio-inspired 酸化触媒の開発を目指して (招待講演)	単著	平成 18 年 12 月	第 3 回触媒相模セミナー (相模中央化学研究所)		
生体内金属ー電子状態と触媒作用（招待講演)	単著	平成 19 年 4 月	理化学研究所研究会 分子系の構造と電子状態ー「生物物質科学」を目指して		
生活習慣と実験技術 (エッセイ)	単著	平成 19 年 10 月	触媒 (触媒学会)49,（7）		601-602 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
非ヘム金属タンパク質の配位構造と触媒作用（招待講演)	単著	平成 19 年 12 月	理化学研究所理事長ワークショップ「生物物質科学を目指して－金属を含む分子系を中心に－」		
講演デビューと「仰げば尊し」(エッセイ)	単著	平成 20 年 3 月	化学 (化学同人)63,（3）		52 頁
炭化水素への酸素添加における反応選択性制御 (解説記事)	単著	平成 20 年 8 月	Organometallic News（近畿化学協会有機金属部会）2008,（3）		118 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
平成 2 年 1 月～現在に至る	日本化学会会員
平成 11 年 1 月～現在に至る	アメリカ化学会会員
平成 11 年 6 月～現在に至る	触媒学会会員
平成 14 年 1 月～平成 16 年 12 月	触媒学会「触媒」編集委員
平成 15 年 2 月～平成 18 年 1 月	日本化学会高校化学グランプリ・国際化学オリンピック委員
平成 16 年 4 月～平成 19 年 3 月	科学研究費補助金 若手研究A 1,700 千円 （活性点構造を精密に制御した酵素模倣型高性能酸化反応触媒の開発）（研究代表者）
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	大学入試センター　教科科目第一委員会　化学部会教科科目第一委員会　化学部会　委員
平成 19 年 4 月～平成 21 年 3 月	科学研究費補助金 特定領域研究 4,000 千円 （活性点構造の精密制御による高原子効率的な選択酸化反応系の開発）（研究代表者）
平成 19 年 4 月～平成 22 年 3 月	科学研究費補助金 特定領域研究 5,800 千円 （機能集積型固体酸化反応触媒の開発）（研究代表者）
平成 19 年 5 月～平成 20 年 3 月	日本化学会第 88 春季年会　総務小委員会　委員
平成 19 年 8 月～平成 21 年 2 月	日本学術振興会　特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員
平成 20 年 3 月～平成 22 年 2 月	日本化学会男女共同参画推進委員会　委員
平成 20 年 3 月～平成 22 年 2 月	触媒学会代議員
平成 20 年 3 月～平成 22 年 2 月	触媒学会東日本地区幹事
平成 20 年 3 月～平成 21 年 2 月	触媒学会触媒学会創設 50 周年記念国際シンポジウム組織委員
平成 20 年 4 月～平成 23 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 (B) 14,700 千円 （炭化水素類の酸素酸化プロセス構築を指向した触媒デバイスの構築）（研究代表者）

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部物質生命化学科	職名 教授	氏名 山村　博	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
講義資料の配付	平成 16 年 4 月	無機材料工学は無機工業からセラミックス材料に関する広い領域に渡る講義であり、適切な教科書が無い。そこで、独自の資料を作成し、学生に配付するとともにパワーポイントを用いて講義している。このとき集中力を高めるため、資料の一部を記入式を採用するなど工夫をこらしているが、学生にはおおむね好評である。
2　作成した教科書、教材		
結晶化学入門	平成 11 年 12 月	大学理工系学生を対象とした結晶化学の入門書。結晶構造に関する理解を深めるために、図表をできるだけ多く使用している。朝倉書店出版。
無機化学	平成 16 年 4 月 ～平成 18 年	応用化学科の学生を意識した講義内容をテキストとしてまとめた。
機能性セラミックス化学	平成 16 年 12 月	セラミックスの持つ様々な機能を原理・原則まで踏み込んで説明することを執筆方針として、朝倉書店から教科書として出版した。現在、無機材料工学の参考書として使用している。
基礎からの無機化学	平成 18 年 3 月	以前作成した講義用テキストを編集し直し、「基礎からの無機化学」という題名で朝倉書店より出版した。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
		なし
5　その他		
工学部 JABEE 委員長	平成 14 年 5 月 1 日 ～平成 16 年 3 月 30 日	工学部の JABEE 認定に向けて情報収集及び啓蒙活動の推進 (至平成 16 年 3 月 30 日)
学修進路支援委員会委員	平成 16 年 4 月	

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
工学部教育委員	平成 16 年 4 月	
学修進路支援委員会　副部長	平成 17 年 4 月	
JABEE 本審査で対応責任者	～平成 15 年 11 月 11 日	（～平成 15 年 11 月 11 日）平成 13 年の試行審査の結果を学科カリキュラムに反映させ、本審査に臨んだ。

II　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
機能性セラミックス化学	共著	平成 16 年 12 月	朝倉書店		
基礎からの無機化学	共著	平成 18 年 3 月	朝倉書店		
論文					
Low Temperature Heat Capacity and Thermodynamic Functions of Ceria-Stabilized Zirconia	共著	平成 15 年	J. Chem. Eng. Data 2003, 48, 1479-82		
The relationship between the mean dopant-ion radii and conductivity of Co-doped ZnO System	共著	平成 15 年	J.Mat.Sci, 38, (2003)		7-11 頁
Electrical Conductivity Anomaly Around Fluorite-orPyrochlore-Phase Boundary	共著	平成 15 年	Solid State Ionics 158 (2003)		359-365 頁
Crystal Phase and Electrical Conductivity in the Pyrochlore-Type Composition Systems	共著	平成 15 年 12 月	J. Ceram. Soc.2 月 Japan,111, (2003)		902-906 頁
Solid oxide fuel cell using (Ba,Sr,La)InO3 electrolyte	共著	平成 16 年	Solid State Ionics, 175 巻		139-143 頁
Thermal Expansion and Electrical Conductivity of Perovskite Oxide (Ln,Sr)CoO3 (Ln=La, Nd, and Sm)	共著	平成 16 年	J. Ceram. Soc. Japan, 112 巻		342-346 頁
Electrical conductivity and local distortion of (Ba,La)2In2O5.5 doped with dovalent or tetravalent cation in in-site	共著	平成 16 年	Solid State Ionics, 168 巻		69-74 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Crystal Structure and Electrical Conductivity of Pyrochlore-type Composition System	共著	平成 16 年 5 月	J. Ceram. Soc. Japan, 112 巻		S738-S741 頁
AC Conductivity for Eu2Zr2O7 and La2Ce2O7 with Pyrochlore-Type Composition	共著	平成 16 年 10 月	J. Ceram. Soc. Japan		553-558 頁
Effect of Cation Radius Ratio and Unit Cell Free Volume on Oxide-Ion Conductivity in Oxide System with Pyrochlore-Type Composition	共著	平成 16 年 10 月	J. Ceram. Soc. Japan, 112 巻		541-546 頁
安定化ジルコニア電気化学セルを用いたベンゼンガスの分解	共著	平成 17 年 4 月	J. Soc. Inorg. Mater., 12 巻		138-142 頁
Oxide-Ion Conductivity for the Pyrochlore-Type Composition System $(Yb_{1-x}Nd_x)_2(Ce_{1-0.88x}Zr_{0.88x})_2O_7$ with Keeping the Lattice Parameter Constant	共著	平成 17 年 4 月	J. Ceram. Soc. Japan 113 巻		236-240 頁
Interface Characterization of $(La_{0.6}Sr_{0.4})(Mn_{1-x}Fe_x)O_3$ Cathod/$(Ba_{0.3}Sr_{0.2}La_{0.5})InO_{2.75}$ Electrolyte in the Solid Oxide Fuel Cell	共著	平成 17 年 6 月	Solid State Ionics, 176 巻		2405-2410 頁
Synthesis of ZrN Thin Film by a New Carbothermal Nitridation Method of Sol-Gel Derived ZrO_2	単著	平成 17 年 6 月	J.Ceram.Soc.Japan,113 巻 7 号		458-461 頁
High Oxide Ion Conductivity of (Ba1-x-ySrxLay)InO2.5+y/2 Members Derived from the Ba2In2O5 System	共著	平成 17 年 12 月	Defect and Diffusion Forum242-244	K. Kakinuma, H. Yamamura, T. Atake	159-167 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Cation Distribution and Electrical Conductivity in $Ba_xSr_yLa0.5InO2.5+x+y$ System with Excess Alkaline Earth Oxide	共著	平成 18 年 5 月	J. Ceram. Soc. Japan114,（5）	K. Kakinuma, T. Arisaka, H. Yamamura, T. Atake	399-403 頁
Electrical conductivity of (Ba0.3Sr0.2La0.5)(In1-xFex)O3	共著	平成 18 年 6 月	Solid State Ionics177	K. Kakinuma, K. Yamakawa, S. Hasunuma, H. Yamamura, T. Atake	1317-1322 頁
Cathodic characteristics of (La0.6Sr0.4)(Mn1-xMx)O3 (M=Co, Ni) for use in a solid oxide fuel cell with a (ba0.3Sr0.2La0.5)InO2.75 electrolyte	共著	平成 18 年 10 月	Solid State Ionics177	K. Kakinuma, S. Machida, K. Horiuchi, S. Hasunuma, H. Yamamura, T. Atake	2159-2164 頁
Water vapor absorption and proton conductivity of (Ba1-xLax)2In2O5+x	共著	平成 18 年 12 月	J. Mat. Sci.,41	K. Kakinuma, A. Tomita, H. Yamamura, T. Atake	6435-6440 頁
Perovskite-Type Oxyfluoride Phase in the ABO3-BaLiF3 Systems (A=Ba, Ca and B=Ti, Zr)	共著	平成 18 年 12 月	J. Ceram. Soc. Japan114,（12）	H. Yamamura, N. Okitsu, K. Kakinuma	2006 頁
Relationship between Oxide-Ion Conductivity and Dielectric Constant in Ce0.9Sm0.1O2	共著	平成 19 年 1 月	J. Ceram. Soc. Japan115,（1）	H. Yamamura, S. Takeda, H. Nishino, K.Kakinuma, Y. Takeda	23-27 頁
Relationship between oxide-ion conductivity and ordering of oxide-ion in the (Y1-xLax)2(Ce1-xZrx)2O7	共著	平成 19 年 2 月	178	Solid State Ionics	233-238 頁
Mean dopant ion radius dependency of electrical resistivity in the Zn1-x-yGaxInyO system	共著	平成 19 年 3 月	Ceram. International33	K. Kakinuma, T. Shiho, M. Watanabe, H. Yamamura	589-593 頁
Dielectric Relaxations in the Ce1-xSmxO2 System	共著	平成 19 年 4 月	J. Ceram. Soc. Japan115,（4）	H. Yamamura, S. Takeda, K. Kakinuma	264-268 頁
Relationship between oxide-ion conductivity and dielectric relaxation in Sm-doped CeO2	共著	平成 19 年 6 月	Solid State Ionics178	H. Yamamura, S. Takeda, K. Kakinuma	889-893 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Dielectric relaxations in the Ce1-xNdxO2-δ system	共著	平成 19 年 7 月	Solid State Ionics178	H. Yamamura, S. Takeda, K. Kakinuma	1059-1064 頁
Dielectric Relaxations in the Ca-Doped CeO2 System	共著	平成 19 年 8 月	J. Ceram. Soc. Japan115,（8）	H. Yamamura, S. Takeda, K. Kakinuma	471-474 頁
Dielectric Relaxations of Y-Doped ZrO2 Single Crystal	共著	平成 19 年 9 月	J. Ceram. Soc. Japan115,（9）	H. Yamamura, Y. Yagi, K. Kakinuma	546-550 頁
Dielectric Relaxations in the Ce1-xYbxO2-δ System	共著	平成 20 年 1 月	Japn. J. Appl. Phys.47,（1）	H. Yamamura, J. Satake, M. Saito, K. Kakinuma	212-216 頁
Dielectric properties of proton conductor BaCe0.9Y0.1O3-δ	共著	平成 20 年 2 月	J. Ceram. Soc. Japan116,（2）	H. Yamamura, Y. Katoh, T. Yokote, K. Kakinuma	350-353 頁
Relationship between oxide-ion conductivity and dielectric relaxation in the Ln2Zr2O7 system having pyrochlore-type compositions (Ln=Yb, Y, Gd, Eu, Sm, Nd, La)	共著	平成 20 年 5 月	J. Phys. Chem. Solids69	Hiroshi Yamamura,Hanako Nishino, Katsuyoshi Kakinuma	1711-1717 頁
Relationship between Oxide-Ion Conduction and Dielectric Properties of Gd2Zr2O7 Having a Fluorite-Type Structure	共著	平成 20 年 7 月	Jap. J. Appl. Phys. No.7	H. Yamamura, H. Nishino, K. Kakinuma	5521-5525 頁
Electrode Effects for Dielectric Properties of 8 mol% Y2O3 Stabilized ZrO2	共著	平成 20 年 10 月	Electrochem.76,（10）	H. Yamamura, Y. Yagi, K. Kakinuma	734-739 頁
その他					
ペロブスカイト型酸化物 (Ba,Sr,La)2In2O2.5+x を電解質とする SOFC の開発 (2)	共著	平成 15 年 4 月	電気化学会 70 周年大会		
パイロクロア型組成 (A2B2O7) における結晶構造とイオン伝導度	共著	平成 15 年 4 月	電気化学会 70 周年大会		

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Oxide-ion Conductivity of(Ba,Sr,La)2In2O2.5+x and Application to SOFC	共著	平成 15 年 6 月	Int. Nat'l Conf.on Solid State Ionics (USA)		
ペロブスカイト型酸化物 (Ba,Sr,La)2In2O2.5+x を電解質とする SOFC の開発 (3)	共著	平成 15 年 9 月	電気化学会秋季大会（札幌）		
ペロブスカイト関連構造を有する酸フッ化物の合成	単著	平成 15 年 9 月	電気化学会秋季大会（札幌）		
A サイト欠陥ペロブスカイト酸化物におけるプロトン伝導	単著	平成 15 年 9 月	電気化学会秋季大会（札幌）		
酸化物イオン伝導体と固体酸化物型燃料電池	共著	平成 16 年 3 月	平塚シンポジウム		
Perovskite-Based Oxide-Ion and Protpn Conductors-Structure and Electrical Properties	共著	平成 16 年 12 月	Recent Res. Devel. Solid State Ionics		281-316 頁
ペロブスカイト型酸化物 (Ba0.3Sr0.2La0.5)InO2.75 を用いた SOFC の開発	共著	平成 16 年 12 月	第 30 回固体イオニクス討論会 （京都）		
The Oxide-Ion Conductivity of Perovskite Related Oxide (Ba1-x-ySrxLay)InO2.75	共著	平成 16 年 12 月	Rare Earth '04 in Nara		
基礎化学教育に向けた神奈川大学応用化学科の試み	単著	平成 17 年 3 月	日本化学会「教育フォーラム」		
パイロクロア型酸化物 (Y1-xLax)2(Ce1-xZrx)2O7 の結晶構造とイオン伝導度	共著	平成 17 年 5 月	電気化学会第 72 大会（熊本）		
ペロブスカイト型酸化物 (Ba0.3Sr0.2La0.5)InO2.75 を用いた SOFC におけるカソード特性	共著	平成 17 年 5 月	電気化学会第 72 大会（熊本）		
(1-x)Bi2O3-xY2O3 系における電気伝導と誘電特性	共著	平成 17 年 7 月	第 21 回日本セラミックス協会関東支部研究発表会 （栃木）		

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
A サイトに欠陥を有する Ba2In2O5 系酸化物のプロトン伝導	共著	平成 17 年 7 月	第 21 回日本セラミックス協会関東支部研究発表会 （栃木）		
固体電解質セルを用いた一酸化窒素の分解に及ぼす電極の影響	共著	平成 17 年 7 月	第 21 回日本セラミックス協会関東支部研究発表会 （栃木）		
In, Ga を同時固溶させた ZnO の電気的特性	共著	平成 17 年 7 月	第 21 回日本セラミックス協会関東支部研究発表会 （栃木）		
(Ba0.3Sr0.2La0.5)InO2.75 をベースとした SOFC 用電極材料の電気的特性	共著	平成 17 年 7 月	第 21 回日本セラミックス協会関東支部研究発表会 （栃木）		
Single Cell Performance of Solid Oxide Fuel Cell Using Perovskite Oxide of (Ba0.3Sr0.2La0.5)InO2.75	共著	平成 17 年 7 月	International Conference on Solid Ionics (Germany)		
固体電解質 (Ba0.3Sr0.2La0.5)InO2.75/カソード界面 B サイトイオンの相互拡散とその発電への影響	共著	平成 17 年 9 月	2005 年電気化学会秋季大会 （千葉）		
ゾル・ゲル法による窒化ジルコニウム薄膜の合成	共著	平成 17 年 9 月	第 18 回日本セラミックス協会秋季シンポジウム （大阪）		
固体電解質を用いた電気化学セルに適した窒素酸化物分解用電極	共著	平成 17 年 9 月	第 18 回日本セラミックス協会秋季シンポジウム （大阪）		
(Ba0.3Sr0.2La0.5)In0.97Zr0.03O2.765 電解質を用いた固体酸化物型燃料電池 Ni サーメット材料の発電に及ぼす影響	共著	平成 17 年 9 月	第 18 回日本セラミックス協会秋季シンポジウム （大阪）		
固体電解質 $(Ba_{0.3}Sr_{0.2}La_{0.5})InO_{2.75}$SOFC の発電特性	共著	平成 17 年 9 月	第 18 回日本セラミックス協会秋季シンポジウム （大阪）		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
パイロクロア型酸化物　　(Y1-xLax)2(Ce1-xZrx)2O7 の結晶構造とイオン伝導度	共著	平成 17 年 9 月	第 18 回日本セラミックス協会秋季シンポジウム　（大阪）		
CeO2 系酸化物イオン伝導体の交流伝導特性	共著	平成 17 年 9 月	第 18 回日本セラミックス協会秋季シンポジウム　（大阪）		
(Sr,M)3M'2O7　(M=Ln, M'=Ti, Mn) の合成と熱電特性	共著	平成 17 年 9 月	第 18 回日本セラミックス協会秋季シンポジウム　（大阪）		
新規酸化物イオン伝導体の開発と誘電特性	単著	平成 17 年 12 月	東京工業大学　（招待講演）		
イオン伝導材料の現状と将来	単著	平成 18 年 1 月	第 13 回セラミックス基礎秋季教室　（埼玉大学）		

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
～現在に至る	日本セラミックス協会会員
昭和 39 年 4 月～現在に至る	日本化学会会員
平成 13 年～平成 15 年	（受託研究）三菱化学（株）「GaN の合成研究」
平成 16 年 4 月～現在に至る	日本セラミックス協会関東支部常任幹事
平成 16 年 4 月～現在に至る	日本セラミックス協会関東支部常任幹事
平成 18 年 12 月～現在に至る	物質・材料研究機構リサーチアドバイザー
平成 19 年 4 月～現在に至る	日本化学会関東支部常任幹事
平成 19 年 4 月～現在に至る	日本化学会関東支部常任幹事

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部物質生命化学科	職名 教授	氏名 横澤　勉	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 17 年 4 月 ～現在に至る	（授業科目：基礎有機反応論、有機反応機構論）平成 16 年度授業評価アンケート評価を受け、黒板に書く内容をあらかじめプリントとして配布（ただし、主要なところは穴をあけてある）し、授業を聞いて理解する時間を与えた。翌年からのアンケート結果は良好。
2　作成した教科書、教材		
21 世紀の化学シリーズ第二巻　有機化学反応（朝倉書店）を共著	平成 17 年 1 月	21 世紀の化学シリーズ第二巻　有機化学反応を出版
大学院講義有機化学（講談社）を分担執筆	平成 18 年 4 月 ～平成 19 年 3 月	
高分子学会編　基礎高分子科学（東京化学同人）を分担執筆	平成 18 年 4 月	
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
平成 18 年度前期　工学部優秀講義賞	平成 18 年 4 月 1 日 ～平成 18 年 9 月 30 日	
平成 20 年度前期　工学部優秀講義賞	平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 9 月 30 日	
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
		なし
5　その他		
応用化学科 JABEE 小委員会委員	平成 15 年 4 月 ～平成 15 年 11 月	JABEE 審査のための自己点検書およびシラバスの作成を分担して行った（平成 15 年 4 月～）。
工学部 JABEE 小委員会委員	平成 17 年 4 月	工学部での委員会の出席および応用化学科での中間審査受審取りまとめ。
高校への出張講義	～平成 15 年 5 月 15 日	神奈川県立津久井浜高校で工学部でどんなことを学ぶのかを講義した（入試センターからの依頼）

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
高校生への講義	～平成 15 年 10 月 18 日	高校生への公開講座で実験を含めた化学の講義をした。

II　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
高分子の精密合成と高次構造制御	共著	平成 16 年 3 月	高分子学会編,　NTS		63-102 頁
21 世紀の化学シリーズ第二巻　有機化学反応	共著	平成 17 年 1 月	朝倉書店	松本正勝, 山田眞二, 横澤　勉	
実験化学講座　改訂５版	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会編, 丸善高分子化学	横澤　勉	264-266 頁
反応性高分子の新展開	共著	平成 17 年 5 月	シーエムシー	遠藤　剛監修、横澤　勉	158-165 頁
高分子辞典（第 3 版）	共著	平成 17 年 6 月	朝倉書店		
基礎高分子科学	共著	平成 18 年 7 月	高分子学会編, 東京化学同人	横澤　勉分担執筆	286-300, 334-349 頁
Macromolecular Engineering	共著	平成 19 年 2 月	Wiley-VCHSynthetic Technique	K. Matyjaszewski, Y. Gnanou, L. Leibler, Eds.	295-349 頁
論文					
Bidirectional Propagation of Chain-Growth Polycondensation: Its Application to PEG-Aromatic Polyamide-PEG Triblock Copolymer with Low Polydispersity	共著	平成 15 年 4 月	J. Polym. Sci. Polym. Chem. Ed.41,（9）	R. Sugi, Y. Hitaka, A. Sekino, A. Yokoyama, T. Yokozawa	1341-1346 頁
Investigation of Aromatic Polyester Synthesis by Chain-Growth Polycondensation Method	共著	平成 15 年 6 月	Macromolecules36,（12）	A. Yokoyama, K. Iwashita, K. Hirabayashi, K. Aiyama, T. Yokozawa	4328-4336 頁
Chain-Growth Polycondensation for Aromatic Polyethers with Low Polydispersities. Living Polymerization Nature in Polycondensation	共著	平成 15 年 7 月	Macromolecules36,（13）	Y. Suzuki, S. Hiraoka, A. Yokoyama, T. Yokozawa	4756-4765 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
精密縮合系ブロックポリマーと新規熱可塑性エラストマーとしての可能性	共著	平成 15 年 8 月	日本ゴム協会誌 76,（8）	横澤　勉, 横山明弘	304-309 頁
Chain-Growth Polycondensation of Potassium 3-Cyano-4-fluorophenolate Derivatives for Well-Defined Poly(arylene ether)s	共著	平成 15 年 9 月	Macromol. Symp.199	Y. Suzuki, S. Hiraoka, A. Yokoyama, T. Yokozawa	37-46 頁
Synthesis of Well-Defined Poly(*p*-benzamide) from Chain-Growth Polycondensation and Its application to Block Copolymers	共著	平成 15 年 9 月	Macromol. Symp.199	T. Yokozawa, M. Ogawa, A. Sekino, R. Sugi, A. Yokoyama,	197-208 頁
連鎖重縮合による芳香族ポリアミド合成法を利用したブロック共重合体およびスターポリマーの合成	共著	平成 15 年 10 月	高分子加工 52,（10）	杉　龍司, 横山明弘, 横澤　勉	435-442 頁
Folded Structure of a Cyclic Hexamer of 4-(Methylamino)benzoic Acid in the Crystal	共著	平成 15 年 12 月	Anal., Sci.19	I. Azumaya, T. Kato, A. Yokoyama, T. Yokozawa, F. Imabeppu, A. Watanabe, H. Takayanagi	x67 頁
Synthesis of Well-Defined Telechelic Aromatic Polyamides by Chain-Growth Polycondensation: Application to the Synthesis of Block Copolymers of Polyamide and Poly(tetrahydrofuran)	共著	平成 15 年 12 月	Macromol. Rapid Commun.24,（18）	R. Sugi, A. Yokoyama, T. Yokozawa	1085-1090 頁
Chain-Growth Polycondensation: Living Polymerization Nature in Polycondensation and Approach to Condensation Polymer Architecture	共著	平成 16 年 2 月	Polym. J.36,（2）	T.Yokozawa, A. Yokoyama	65-83 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Chain-Growth Polymerization for Poly(3-hexylthiophene) with a Defined Molecular Weight and a Low Polydispersity	共著	平成 16 年 2 月	Macromolecules37,（4）	A. Yokoyama, R. Miyakoshi, T. Yokozawa	1169-1171 頁
Solvent Effect on Chain-Growth Polycondensation for Aromatic Polyethers	共著	平成 16 年 2 月	J. Polym. Sci., Part A: Polym. Chem.42,（5）	Y. Suzuki, S. Hiraoka, A. Yokoyama, T. Yokozawa	1198-1207 頁
Absolute Helical Arrangement of Stacked Benzene Rings: Heterogeneous Double-Helical Interaction Comprising a Hydrogen-Bonding Belt and an Offset Parallel Aromatic-Aromatic-Interaction Array	共著	平成 16 年 3 月	Angew. Chem. Int. Ed.43,（11）	I. Azumaya, D. Uchida, T. Kato, A. Yokoyama, H. Takayanagi, A. Tanatani, T. Yokozawa	1360-1363 頁
Self-Initiated Chain-Growth Polycondensation for Aromatic Polyamides	共著	平成 16 年 3 月	Chem. Lett.33,（3）	T. Yokozawa, R. Sugi, T. Asai, A. Yokoyama	272-273 頁
Synthesis of Poly(3-hexylthiophene) with a Narrower Polydispersity	共著	平成 16 年 10 月	Macromol. Rapid Commun.25,（19）	R. Miyakoshi, A. Yokoyama, T. Yokozawa	1663-1666 頁
高分子合成化学の最近の進展と接着技術への応用の可能性 (6)　重縮合	共著	平成 17 年	日本接着学会誌 41,（2）	横澤　勉, 横山明弘	72-83 頁
金属触媒の分子内移動による特異な重縮合挙動	共著	平成 17 年	高分子加工 54,（4）	宮越　亮, 横山明弘, 横澤　勉	169-175 頁
縮合系高分子の長さを制御する―重縮合における分子量と分子量分布の制御―	共著	平成 17 年	現代化学（8）	横澤　勉, 横山明弘	18-23 頁
高分子合成化学の最近の進展と接着技術への応用の可能性 (6)　重縮合	共著	平成 17 年 1 月	日本接着学会誌 41,（2）	横澤　勉, 横山明弘	72-83 頁
End-Cap Exchange of Rotaxane by the Tsuji-Trost Allylation Reaction	共著	平成 17 年 3 月	Org. Lett.7,（7）	N. Kihara, S. Motoda, T. Yokozawa, T. Takata	1199-1202 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
重縮合における有機化学の新しい研究領域	単著	平成 17 年 4 月	高分子 54,（4）		253 頁
Chain-Growth Polycondensation for Well-Defined Condensation Polymers and Polymer Architecture	共著	平成 17 年 4 月	Chem. Rec.5,（1）	T. Yokozawa, A. Yokoyama	47-57 頁
金属触媒の分子内移動による特異な重縮合挙動	共著	平成 17 年 4 月	高分子加工 54,（4）	宮越　亮、横山　明弘、横澤　勉	169-175 頁
Helical Structure of *N*-Alkylated Poly(*p*-benzamide)s	共著	平成 17 年 6 月	J. Am. Chem. Soc.127,（23）	A. Tanatani, A. Yokoyama, I. Azumaya, Y. Takakura, C. Mitsui, M. Shiro, M. Uchiyama, A. Muranaka, N. Kobayashi,T. Yokozawa	8553-8561 頁
Well-Defined Star-Shaped Aromatic Polyamides from Chain-Growth Polycondensation of Phenyl 4-(Alkylamino)benzoate with Multifunctional Initiators	共著	平成 17 年 7 月	Macromolecules38,（13）	R. Sugi, Y. Hitaka, A. Yokoyama, T. Yokozawa	5526-5531 頁
Selective Cyclic Trimerization of 4-(Alkylamino)benzoic Acid Dimer Phenyl Esters	共著	平成 17 年 8 月	Chem. Lett.34,（8）	A. Yokoyama, Y. Shimizu, T. Yokozawa	1128-1129 頁
Inductive Effect-Assisted Chain-Growth Polycondensation. Synthetic Development from *para*- to *meta*-Substituted Aromatic Polyamides with Low Polydispersities	共著	平成 17 年 8 月	J. Am. Chem. Soc.127,（29）	R. Sugi, A. Yokoyama, T. Furuyama, M. Uchiyama,T. Yokozawa	10172-10173 頁
縮合系高分子の長さを制御する-重縮合における分子量と分子量分布の制御-	共著	平成 17 年 8 月	現代化学（8）	横澤　勉, 横山明弘	18-23 頁
Synthesis of Well-Defined Aromatic Polyesters by Chain-Growth Polycondensation under Suppression of Transesterification	共著	平成 17 年 9 月	J. Polym. Sci., PartA: Polym. Chem.43,（18）	K. Iwashita, A. Yokoyama, T. Yokozawa	4109-4117 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Convenient Method of Chain-Growth Polycondensation for Well-Defined Aromatic Polyamides	共著	平成 17 年 10 月	Macromol. Rapid Commun.26,（19）	T. Yokozawa, D. Muroya, R. Sugi, A. Yokoyama	979-981 頁
Simultaneous Construction of Polymer Backbone and Side Chains by Three-Component Polycondensation. Synthesis of Polyethers with Propargyl Side Chains from Dialdehydes, Alkylene Bis(trimethylsilyl) ethers, and Allenyltrimethylsilane	共著	平成 17 年 11 月	J. Polym. Sci., Part A: Polym. Chem.43,（22）	L. Niimi, S. Hiraoka, T. Yokozawa	5440-5448 頁
Effect of Substituent Orientation on Selectivity Between Polymerization and Cyclization: Polycondensation of (Alkylamino)benzoic Acid Dimer Phenyl Esters	共著	平成 17 年 12 月	Macromol. Rapid Commun.26,（24）	A. Yokoyama, S. Saito, Y. Shimizu, T. Yokozawa	1931-1935 頁
Catalyst-Transfer Polycondensation. Mechanism of Ni-Catalyzed Chain-Growth Polymerization Leading to Well-defined Poly(3-hexylthiophene)	共著	平成 17 年 12 月	J. Am. Chem. Soc.127,（49）	R. Miyakoshi, A. Yokoyama,T. Yokozawa	17542-17547 頁
リビング重合による縮合系高分子の合成	共著	平成 18 年	触媒 48	宮越　亮, 横山明弘, 横澤　勉	189-194 頁
Convergent Access to Macrocycles via Reversible Transacetalization	共著	平成 18 年 4 月	Chem. Lett.35 ,（4）	A. Yokoyama, Y. Nonaka, D. Uchida, S. Hiraoka, T. Yokozawa	424-425 頁
Solvent and Temperature Effect on Chiral Conformation of Poly(*meta*-benzamide)s	共著	平成 18 年 4 月	Macromolecules39,（7）	K. Yamazaki, A. Yokoyama,T. Yokozawa	2432-2434 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
A Variety of Poly(*m*-benzamide)s with Low Polydispersites from Inductive-Assisted Chain-Growth Polycondensation;	共著	平成 18 年 8 月	J. Polym. Sci., Part A: Polym. Chem.44, (17)	T. Ooishi, R. Sugi, A. Yokoyama,T. Yokozawa	4990-5003 頁
Novel Water-Soluble Poly(*m*-benzamide)s: Precision Synthesis and Thermosensitity in Aqueous Solution	共著	平成 18 年 9 月	Macromol. Rapid Commun.27, (9)	R. Sugi, T. Ohishi, A. Yokoyama,T. Yokozawa	716-721 頁
縮合重合におけるリビング重合系の進展	共著	平成 18 年 11 月	化学と工業 59, (11)	横澤　勉, 横山明弘	1160-1163 頁
Molecular Water-Wheel (Noria) from a Simple Condensation of Resorcinol and Alkanedial	共著	平成 18 年 11 月	Angew. Chem. Int. Ed45, (47)	H. Kudo, R. Hayashi, K. Mitani, T. Yokozawa, N. C. Kasuga, T. Nishikubo	7948-7952 頁
Synthesis of Well-Defined Polythiophene with Oxyethylene Side Chain: Effect of Phosphine Ligands on Catalyst-Transfer Polycondensation	共著	平成 18 年 11 月	Macromolecules39, (23)	I. Adachi, R. Miyakoshi, A. Yokoyama,T. Yokozawa	7793 頁
Catalyst-Transfer Polycondensation for the Synthesis of Poly(*p*-phenylene) with Controlled Molecular Weight and Low Polydispersity	共著	平成 18 年 12 月	J. Am. Chem. Soc.128, (50)	R. Miyakoshi, K. Shimono, A. Yokoyama,T. Yokozawa	16012-16013 頁
Chain-Growth Polycondensation: The living Polymerization Process in Polycondensation	共著	平成 19 年 2 月	Prog. Polym. Sci.32, (1)	T. Yokozawa, A. Yokoyama	147-172 頁
Higher Polyhedral Silsesquioxane (POSS) Cage by Amine-catalyzed Condensation of Silanols and Related Siloxanes	共著	平成 19 年 6 月	Chem. Lett.36, (6)	Y. Kawakami, K. Yamaguchi, T. Yokozawa, T. Serizawa, M. Hasegawa, Y. Kabe	792-793 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Chain-Growth Polymerization for the Synthesis of Polyfluorene via Suzuki-Miyaura Coupling Reaction from an Externally Added Initiator Unit	共著	平成 19 年 6 月	J. Am. Chem. Soc.129,（23）	A. Yokoyama, H. Suzuki, Y. Kubota, K. Ohuchi, H. Higashimura,T. Yokozawa	7236-7237 頁
Converting Step-Growth to Chain-Growth Condensation Polymerization	共著	平成 19 年 6 月	Macromolecules40,（12）	A. Yokoyama,T. Yokozawa	4093-4101 頁
Synthesis of Controlled Rod-Coil Block Copolymers by Macroinitiator Method: Chain-Growth Polycondensation for Aromatic Polyamide from Polystyrene Macroinitiator	共著	平成 19 年 7 月	J. Polym. Sci., Part A: Polym. Chem.45,（14）	S. Kim, Y. Kakuda, A. Yokoyama,T. Yokozawa	3129-3133 頁
Synthesis of Well-Defined Polystyrene-*b*-Aromatic Polyether Using an Orthogonal Initiator for Atom Transfer Radical Polymerization and Chain-Growth Condensation Polymerization	共著	平成 19 年 8 月	Macromolecules40,（15）	N. Ajioka, Y. Suzuki, A. Yokoyama,T. Yokozawa	5294-5300 頁
Catalyst-Transfer Condensation Polymerization for the Synthesis of Well-Defined Polythiophene with Hydrophilic Side Chain and of Diblock Copolythiophene with Hydrophilic and Hydrophobic Side Chains	共著	平成 19 年 10 月	High Perform. Polym.19,（5）	T. Yokozawa, I. Adachi, R. Miyakoshi, A. Yokoyama	684-699 頁
縮合系高分子アーキテクチャーとその自己組織化	共著	平成 19 年 12 月	高分子論文集 64,（12）	味岡直己，横山明弘, 横澤　勉	907-921 頁
Base-Promoted Condensation Polymerization of Aminoesters with Diphenylacetylene and *trans*-Stilbene Backbones	共著	平成 20 年 1 月	Chem. Lett.37,（1）	A. Yokoyama, Y. Shimizu, J. Saito, T. Yokozawa	8-9 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Development of Catalyst-Transfer Condensation Polymerization. Synthesis of π-Conjugated Polymers with Controlled Molecular Weight and Low Polydispersity	共著	平成 20 年 2 月	J. Polym. Sci., Part A: Polym. Chem.46, (3)	R. Miyakoshi, A. Yokoyama, T. Yokozawa	753-765 頁
Development of Catalyst-Transfer Condensation Polymerization. Synthesis of π-Conjugated Polymers with Controlled Molecular Weight and Low Polydispersity	共著	平成 20 年 3 月	J. Polym. Sci.Part A: Polym. Chem.	R. Miyakoshi, A. Yokoyama, T. Yokozawa	753-765 頁
Synthesis of Well-Defined Rod-Coil Diblock Copolymer of Aromatic Polyether and Polyacrylonitrile by Chain-Growth Condensation Polymerization and Atom Transfer Radical Polymerization	共著	平成 20 年 4 月	Macromol. Rapid Commun.29, (8)	N. Ajioka, A. Yokoyama, T. Yokozawa	665-671 頁
π共役系高分子アーキテクチャー	共著	平成 20 年 5 月	高分子 57, (5)	横澤　勉, 七島　祐	368-373 頁
One-Pot Synthesis of Cyclic Triamides with a Triangular Cavity from *trans*-Stilbene and Diphenylacetylene Monomers	共著	平成 20 年 8 月	Org. Lett.10, (15)	A. Yokoyama, T. Maruyama, K. Tagami, H. Masu, K. Katagiri, I. Azumaya, T. Yokozawa	3207-3210 頁
Reaction Control in Condensation Polymerization	共著	平成 20 年 9 月	Adv. Polym. Sci.217	T. Yokozawa, N. Ajioka, A. Yokoyama	1-77 頁
Precision Synthesis of Poly(*N*-hyxylpyrrole) and Its Diblock Copolymer with Poly(*p*-phenylene) via Catalyst-Transfer Polymerization	共著	平成 20 年 10 月	Macromolecules41, (20)	A. Yokoyama, A. Kato, R. Miyakoshi,T. Yokozawa	7271-7273 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Importance of the Order of Successive Catalyst-Transfer Condensation Polymerization in the Synthesis of Block Copolymers of Polythiophene and Poly(*p*-phenylene)	共著	平成 20 年 10 月	Chem. Lett.37,（10）	R. Miyakoshi, A. Yokoyama, T. Yokozawa	1022-1023 頁
Synthesis via Chain-Growth Condensation Polymerization and Gelating Propertites of a Variety of Block Copolymers of *m*-and *p*-Substituted Aromatic Polyamides.	共著	平成 20 年 12 月	Macromolecules41,（24）	T. Ohishi, R. Sugi, A. Yokoyama, T. Yokozawa	9683-9691 頁
精密高分子合成　4.　縮合系高分子	共著	平成 21 年 1 月	色材協会誌 82,（1）	大石　智之、横山　明弘、横澤　勉	36-42 頁
Successive Chain-Growth Condensation Polymerization for the Synthesis of Well-Defined Rod-Rod Diblock Copolymers of Aromatic Polyamide and Aromatic Polyether.	共著	平成 21 年 1 月	Macromol. Rapid Commun.30,（1）	A. Yokoyama, T. Masukawa, Y. Yamazaki, T. Yokozawa	24-28 頁
Synthesis of Well-Defined Miktoarm Star Copolymers of Aromatic Polyether and Polystyrene by Chain-Growth Condensation Polymerization and Atom Transfer Radical Polymerization	共著	平成 21 年 3 月	Macromolecules42,（3）	Y. Yamazaki, N. Ajioka, A. Yokoyama,T. Yokozawa	606-611 頁
その他					
3-シアノ-4-フルオロ-2-プロピルフェノールの連鎖重縮合：アルキル置換異性体モノマーの重合	共著	平成 15 年 5 月	第 52 回高分子学会年次大会（名古屋）	鈴木幸光, 横山明弘, 横澤　勉	
アミノアルキル基の異なる芳香族ポリアミドのスターブロック共重合体の合成	共著	平成 15 年 5 月	第 52 回高分子学会年次大会（名古屋）	長谷中奈美, 杉　龍司, 横山明弘, 横澤　勉	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
芳香族ポリアミドとポリエチレングリコールのスターブロック共重合体の合成	共著	平成 15 年 5 月	第 52 回高分子学会年次大会（名古屋）	漆島隆士, 関野　淳, 横山明弘, 横澤　勉	
ATRP と連鎖重縮合による分子量分布の狭いポリスチレン-*b*-ポリエーテルの合成	共著	平成 15 年 5 月	第 52 回高分子学会年次大会（名古屋）	味岡直己, 鈴木幸光, 横山明弘, 横澤　勉	
主鎖・側鎖同時構築重合法による水溶性ポリエーテルの合成およびモデル化合物による水中における挙動	共著	平成 15 年 5 月	第 52 回高分子学会年次大会（名古屋）	清水健太, 安田輝彦, 横山明弘, 横澤　勉	
2-ブロモ-5-ヨード-3-ヘキシルチオフェンの Ni 触媒連鎖重縮合によるポリチオフェンの分子量と分子量分布の制御	共著	平成 15 年 5 月	第 52 回高分子学会年次大会（名古屋）	宮越　亮, 横山明弘, 横澤　勉	
連鎖重縮合とリビングアニオン重合による分子量分布の狭い芳香族ポリアミド-*b*-ポリスチレンの合成	共著	平成 15 年 5 月	第 52 回高分子学会年次大会（名古屋）	金　善郁, 角田洋一, 横山明弘, 横澤　勉	
連鎖重縮合とリビングカチオン重合による分子量分布の狭い芳香族ポリアミド-*b*-ポリテトラヒドロフランの合成	共著	平成 15 年 5 月	第 52 回高分子学会年次大会（名古屋）	杉　龍司, 横山明弘, 横澤　勉	
分子量分布の狭い芳香族ポリエステルの合成とその液晶性	共著	平成 15 年 5 月	第 52 回高分子学会年次大会（名古屋）	岩下健一, 横山明弘, 横澤　勉	
分子量分布の狭いポリ（*p*-ベンズアミド）を含む二元および三元ブロック共重合体の合成とその自己組織化	共著	平成 15 年 5 月	第 52 回高分子学会年次大会（名古屋）	関野　淳, 横山明弘, 横澤　勉	
Properties of Self-assembly Formed with Mixture of Functional Polymers in Different Degrees of Polymerization	共著	平成 15 年 9 月	日本油化学会第 42 回年会 (名古屋)	M. Takayanagi, Y. Imai, T. Yokozawa, K. Kobayashi, M. Takahashi, K. Tajima	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Control over Molecular Weight and Polydispersity in Polycondensation	単著	平成 15 年 9 月	Sungkyunkwan-Kanagawa University Joint Symposium 2003 (Suwan)		
3-アルキルアミノ安息香酸メチルの連鎖重縮合によるメタ置換芳香族ポリアミドの分子量および分子量分布の制御	共著	平成 15 年 9 月	第 52 回高分子討論会（山口）	杉　龍司, 横山明弘, 横澤　勉	
機能性高分子のナノサイズ組織体形成とその電気伝導性の発現	共著	平成 15 年 9 月	日本化学会第 56 回コロイドおよび界面化学討論会 (徳島)	高柳真理子, 今井洋子, 小林光一, 高橋政志, 横澤　勉, 横山明弘, 鈴木幸光, 田嶋和夫	
マクロモノマーを用いた主鎖・側鎖共に分子量分布の狭いポリスチレン-*graft*-芳香族ポリアミドの合成	共著	平成 15 年 9 月	第 52 回高分子討論会（山口）	岩崎正利, 横山明弘, 横澤　勉	
二官能性開始剤からの ATRP と連鎖重縮合によるポリスチレンと芳香族ポリエーテルとのジブロック共重合体の合成	共著	平成 15 年 9 月	第 52 回高分子討論会（山口）	味岡直己, 鈴木幸光, 横山明弘, 横澤　勉	
Ni 触媒連鎖重縮合による分子量および分子量分布の制御されたポリヘキシルチオフェンの合成とその重合機構	共著	平成 15 年 9 月	第 52 回高分子討論会（山口）	宮越　亮, 横山明弘, 横澤　勉	
芳香族ポリアミドとポリスチレンの Rod-Coil ブロック共重合体の合成とその自己組織化	共著	平成 15 年 9 月	第 52 回高分子討論会（山口）	金　善郁, 横山明弘, 横澤　勉	
Absolute Helical Arrangement of Stacked Benzene Rings in Crystal	共著	平成 15 年 10 月	Molecular Chirality 2003 (Shizuoka)	I. Azumaya, D. Uchida, T. Kato, A. Yokoyama, H. Takayanagi, T. Yokozawa	
Epitaxial and Electroconductive Properties of Self-assembly Fabricated with Aromatic Polyether on Si-Wafer	共著	平成 15 年 10 月	1st International Meeting on Applied Physics (Spain)	K. Tajima, Y. Imai, M. Takayanagi, T. Yokozawa, A. Yokoyama, Y. Suzuki, M. Takahashi, K. Kobayashi	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
シクロデキストリンを保護基とする連鎖重縮合の開発	共著	平成 15 年 11 月	第 46 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム　(新潟)	中澤正徳, 横山明弘, 横澤　勉	
連鎖重合で進行する重縮合による新規精密高分子の合成とその自己組織化に関する研究	共著	平成 15 年 12 月	神奈川大学工学研究所所報 26	横澤　勉, 田嶋和夫, 横山明弘, 今井洋子, 鈴木幸光	77-86 頁
置換位置の異なるアルキルアミノ安息香酸二量体類の選択的環化反応	共著	平成 16 年 3 月	日本化学会第 84 春季年会（西宮）	齋藤俊介, 清水勇気, 横山明弘, 横澤　勉	
分子量と分子量分布を制御したポリチオフェンの合成	共著	平成 16 年 3 月	高分子錯体アニュアルレビュー 200312	横山明弘, 横澤　勉	
芳香環スタッキングを利用した自己集合による大環状アセタールの合成	共著	平成 16 年 3 月	日本化学会第 84 春季年会（西宮）	内田大介, 野仲祐樹, 横山明弘, 横澤　勉	
連鎖重縮合によるスター型芳香族ポリアミドの合成とその重合機構	共著	平成 16 年 3 月	日本化学会第 84 春季年会（西宮）	杉　龍司, 肥高良雄, 横山明弘, 横澤　勉	
シクロデキストリンを保護基とするジエステルの選択的加水分解	共著	平成 16 年 3 月	日本化学会第 84 春季年会（西宮）	落合祐介, 中澤正徳, 横山明弘, 横澤　勉	
酸触媒アセタール交換反応を利用したかご型分子の構築	共著	平成 16 年 3 月	日本化学会第 84 春季年会（西宮）	御子柴和文, 内田大介, 横山明弘, 横澤　勉	
ポリヘキシルチオフェン合成におけるニッケル触媒の位置選択的な反応性	共著	平成 16 年 3 月	日本化学会第 84 春季年会（西宮）	宮越　亮, 横山明弘, 横澤　勉	
鎖長の制御された芳香族ポリアミドからなる Core 架橋型星型ポリマーの合成	共著	平成 16 年 5 月	第 53 回高分子学会年次大会（神戸）	藤井修一、岩崎正利、横山明弘、横澤　勉	
ケト基を有する二官能性開始剤を用いた ATRP と連鎖重縮合によるポリスチレン-*b*-芳香族ポリエーテルの合成	共著	平成 16 年 5 月	第 53 回高分子学会年次大会（神戸）	味岡直己、鈴木幸光、横山明弘、横澤　勉	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Ni 触媒連鎖重縮合におけるポリヘキシルチオフェンの末端構造解析と末端官能基化	共著	平成 16 年 5 月	第 53 回高分子学会年次大会（神戸）	宮越　亮、横山明弘、横澤　勉	
シクロデキストリン包接モノマーを用いた水相―有機相における連鎖重縮合	共著	平成 16 年 5 月	第 53 回高分子学会年次大会（神戸）	中澤正徳、横山明弘、横澤　勉	
N-置換芳香族ポリアミドのらせん構造	共著	平成 16 年 5 月	第 53 回高分子学会年次大会（神戸）	棚谷　綾、稲垣夕子、横山明弘、杉　龍司、東屋　功、横澤　勉	
置換位置の異なるアルキルアミノ安息香酸二量体類の重合	共著	平成 16 年 5 月	第 53 回高分子学会年次大会（神戸）	斉藤俊介、清水勇気、横山明弘、横澤　勉	
エチニレン基で連結した二芳香環モノマーの連鎖重縮合	共著	平成 16 年 5 月	第 53 回高分子学会年次大会（神戸）	清水勇気、斉藤淳一郎、横山明弘、横澤　勉	
誘起効果による連鎖重縮合～メタ置換芳香族ポリアミドの分子量と分子量分布の制御～	共著	平成 16 年 5 月	第 53 回高分子学会年次大会（神戸）	杉　龍司、横山明弘、横澤　勉	
誘起効果で重縮合を精密に制御する重合反応設計	共著	平成 16 年 9 月	第 53 回高分子討論会（札幌）	杉　龍司、横山明弘、横澤　勉	
N-アルキル芳香族オリゴおよびポリアミドのらせん構造	共著	平成 16 年 9 月	第 53 回高分子討論会（札幌）	横山明弘、棚谷　綾、高倉淑範、東屋　功、横澤　勉	
芳香族ポリエーテルとポリスチレンの分子量分布の狭い結晶性―非昌性ブロック共重合体の合成とその自己組織化	共著	平成 16 年 9 月	第 53 回高分子討論会（札幌）	味岡直己、鈴木幸光、横山明弘、横澤　勉	
アームファースト法によるジビニル化合物を用いたコア架橋型・星型ポリアミドの合成	共著	平成 16 年 9 月	第 53 回高分子討論会（札幌）	藤井修一、岩崎正利、横山明弘、横澤　勉	
ポルフィリン骨格を核に有する 4 本鎖星型ポリアミドの合成とその自己組織化	共著	平成 16 年 9 月	第 53 回高分子討論会（札幌）	吉野和男、横山明弘、横澤　勉	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
N-アルキルポリおよびオリゴ（*p*-ベンズアミド）のUV スペクトルとらせんの関係	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会（横浜）	稲垣夕子、棚谷　綾、横山明弘、横澤　勉	
ナフタレン骨格の置換基効果を利用した連鎖重縮合	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会（横浜）	笠間潤也、横山明弘、横澤　勉	
分子量分布が狭く様々な溶解性を示す *N*-アルキルポリ（*m*-ベンズアミド）の合成	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会（横浜）	大石智之、杉　龍司、横山明弘、横澤　勉	
簡便な連鎖重縮合法の開発と制御された芳香族ポリアミド-*graft*-ポリテトラヒドロフラン合成への応用	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会（横浜）	杉　龍司、楯　大輔、室谷大地、横山明弘、横澤　勉	
ポリヘキシルチオフェンを与える連鎖重合における遷移金属触媒の影響	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会（横浜）	宮越　亮、横山明弘、横澤　勉	
二官能性開始剤を用いたATRP と連鎖重縮合による分子量分布の狭いポリメチルメタクリレートｂ－芳香族ポリエーテルの合成	共著	平成 17 年 5 月	第 54 回高分子学会年次大会 (横浜)	安堂智之、味岡直己、横山明弘、横澤　勉	
芳香族ポリエーテルとポリスチレンの結晶性ー非結晶性ー結晶性トリブロック共重合体の合成とその自己集積化	共著	平成 17 年 5 月	第 54 回高分子学会年次大会 (横浜)	味岡直己、横山明弘、横澤　勉	
ポルフィリン骨格を核とする種々の 4 本鎖星型ポリアミドの合成とその性質	共著	平成 17 年 5 月	第 54 回高分子学会年次大会 (横浜)	吉野和男、横山明弘、横澤　勉	
N-アルキルポリ（*p*-ベンズアミド）の共重合体組成とらせん構造の関係	共著	平成 17 年 5 月	第 54 回高分子学会年次大会（横浜）	稲垣夕子、横山明弘、横澤　勉	
パラジウム触媒による AB 型モノマーのπ-アリル錯体を経由する重合挙動	共著	平成 17 年 5 月	第 54 回高分子学会年次大会 (横浜)	迎居秋絵、須山絵里奈、横山明弘、横澤　勉	
m-アルキルアミノ安息香酸二量体エステルの連鎖重縮合	共著	平成 17 年 5 月	第 54 回高分子学会年次大会（横浜）	佐藤武仁、横山明弘、横澤　勉	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
側鎖にオキシエチレン鎖を導入した分子量分布の狭いポリチオフェンの合成とNi 触媒配位子の重要性	共著	平成 17 年 5 月	第 54 回高分子学会年次大会 (横浜)	安達　勲、宮越　亮、横山明弘、横澤　勉	
オリゴエチレングリコール側鎖を持つ水溶性ポリ (*m*-ベンズアミド) の合成とその溶液特性	共著	平成 17 年 5 月	第 54 回高分子学会年次大会（横浜）	大石智之、杉　龍司、横山明弘、横澤　勉	
アミノ基のオルト位にメチル基を有する（*p*-ベンズアミド）類の合成およびその特異な構造	共著	平成 17 年 5 月	第 54 回高分子学会年次大会 (横浜)	新山哲朗、横山明弘、横澤　勉	
Synthesis of Polyhexylthiophene with Controlled Molecular Weights and Low Polydispersities.	共著	平成 17 年 7 月	The 8th SPSJ International Polymer Conference (IPC2005) (福岡)	宮越　亮、横山明弘、横澤　勉	
Synthesis and Self-assembly of Well-defined Block Copolymer of Aromatic Polyether and Polystyrene	共著	平成 17 年 7 月	The 8th SPSJ International Polymer Conference (IPC2005) (福岡)		
m-アミノ安息香酸二量体エステルを用いた二種類の *N*-アルキル側鎖をもつ交互共重合体の合成	共著	平成 17 年 9 月	第 54 回高分子討論会 (山形)	佐藤武仁、横山明弘、横澤　勉	
種々性質の異なるポリ（*m*ーベンズアミド）の連鎖重縮合を用いた合成	共著	平成 17 年 9 月	第 54 回高分子討論会 (山形)	大石智之、横山明弘、横澤　勉	
疎水性および親水性キラル側鎖を持つメタ置換芳香族ポリアミドのらせん構造	共著	平成 17 年 9 月	第 54 回高分子討論会 (山形)	山崎加奈美、横山明弘、横澤　勉	
ポルフィリン骨格を有する 4 本鎖星型ポリアミドおよび直鎖状ポリアミドの合成とその性質	共著	平成 17 年 9 月	第 54 回高分子討論会 (山形)	吉野和男、横山明弘、横澤　勉	
ポリアルキルチオフェンを与える連鎖重縮合の一般性 -触媒、脱離基、アルキル基の影響-	共著	平成 17 年 9 月	第 54 回高分子討論会 (山形)	宮越　亮、安達　勲、横山明弘、横澤　勉	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Selective Hydrolysis of Diesters with Cyclodextrin as a Supramolecular Protecting Group	共著	平成 17 年 12 月	International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Honolulu)	Y. Ochiai, A. Yokoyama, T. Yokozawa	
Synthesis and specific structure of Well-defined poly(*p*-benzamide)s having methyl group at the ortho position of the amino group	共著	平成 17 年 12 月	International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Honolulu)	T. Niiyama, A. Yokoyama, T. Yokozawa	
Synthesis and Self-Assembly of Well-defined Block Copolymers of Aromatic Polyether and Polystyrene	共著	平成 17 年 12 月	International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Honolulu)	N. Ajioka, A. Yokoyama,T. Yokozawa	
Development of new chain-growth polycondensaiton in rotaxane system	共著	平成 17 年 12 月	Pacific Polymer Conference IX (Maui)	A. Mukai, E. Suyama, A. Yokoyama, T. Yokozawa	
Copolymers of Chiral *N*-Aklylated *p*-Benzamide and Their Helical Conformations	共著	平成 17 年 12 月	Pacific Polymer Conference IX (Maui)	Y. Inagaki, A. Yokoyama, T. Yokozawa	
光学活性な側鎖を持つメタ置換芳香族ポリアミドのキラルコンフォメーション	共著	平成 18 年 5 月	第 55 回高分子学会年次大会（名古屋）(1)	山崎加奈美, 横山明弘, 横澤　勉	3F13 頁
スチルベン骨格を有するモノマーの選択的環化反応による環状アミドの合成	共著	平成 18 年 5 月	第 55 回高分子学会年次大会（名古屋,）(1)	丸山拓郎, 横山明弘, 横澤　勉	2F08 頁
種々の *m*-および *p*-置換芳香族ポリアミドジブロック共重合体の合成	共著	平成 18 年 5 月	第 55 回高分子学会年次大会（名古屋）(1)	大石智之, 杉　龍司, 横山明弘, 横澤　勉	2F03 頁
Ni 触媒移動型連鎖重縮合によるポリ (p-フェニレン) の合成	共著	平成 18 年 5 月	第 55 回高分子学会年次大会（名古屋）	下野恭平, 宮越　亮, 横山明弘, 横澤　勉	1D31 頁
遷移金属触媒を用いたポリヘキシルチオフェンの合成における重合機構の解明	共著	平成 18 年 5 月	第 55 回高分子学会年次大会（名古屋), 高分子学会	宮越　亮, 横山明弘, 横澤　勉	1D30 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
オキシエチレン鎖を有するポリチオフェンの合成：最適化した配位子を用いたNi 触媒移動型連鎖重縮合	共著	平成 18 年 5 月	第 55 回高分子学会年次大会（名古屋), 高分子学会	安達　勲, 宮越　亮, 横山明弘, 横澤　勉	1D29 頁
制御された芳香族ポリアミドをマクロ開始剤として用いたコア架橋型・星型ポリマーの合成	共著	平成 18 年 5 月	第 55 回高分子学会年次大会（名古屋)	藤井修一, 横山明弘, 横澤　勉	1F29 頁
連鎖重縮合条件下の AB2 モノマーの重合による分子量分布の狭い多分岐芳香族ポリアミドの合成	共著	平成 18 年 5 月	第 55 回高分子学会年次大会（名古屋)	太田佳宏, 藤井修一, 横山明弘, 横澤　勉	1F28 頁
親水性側鎖を有する芳香族ポリアミドの合成とその自己組織化	共著	平成 18 年 5 月	第 55 回高分子学会年次大会（名古屋)	八幡幸太郎, 吉野和男, 横山明弘, 横澤　勉	1F27 頁
分子量と分子量分布を制御したポリベンゾオキサゾールの合成	共著	平成 18 年 5 月	第 55 回高分子学会年次大会（名古屋）	新山哲朗, 横山明弘, 横澤　勉	1E13 頁
固相に固定化したモノマーを用いる連鎖重縮合の開発	共著	平成 18 年 5 月	第 55 回高分子学会年次大会（名古屋,)	根岸亮太, 根本　卓, 樋口尚志, 横山明弘, 横澤　勉	1E12 頁
Mechanism of Ni-Catalyzed Chain-Growth Polymerization for Well-Defined Poly(3-Hexylthiophene)	共著	平成 18 年 8 月	1st European Chemistry Congress 2006(Budapest)	R. Miyakoshi, A. Yokoyama, T. Yokozawa	
Synthesis and Self-Assembly of Aromatic Polyether-b-Polystyrene-b-Aromatic Polyether with Fluoro-Telechelic Polystyrene	共著	平成 18 年 8 月	1st European Chemistry Congress 2006(Budapest)	N. Ajioka, A. Yokoyama,T. Yokozawa	
Catalyst-Transfer Polycondensation for the Synthesis of Well-Defined Poly(p-phenylene)	共著	平成 18 年 8 月	1st European Chemistry Congress 2006(Budapest)	A. Yokoyama, K. Shimono, R. Miyakoshi, T. Yokozawa	
AB_2 モノマーの連鎖重縮合法による分子量分布の狭い多分岐芳香族ポリアミドの合成	共著	平成 18 年 9 月	第 55 回高分子討論会（富山)	太田佳宏, 藤井修一, 横山明弘, 横澤　勉	3Pa033 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
N-キラル側鎖およびアキラル側鎖を有するポリ *p*-ベンズアミド共重合体のらせん構造	共著	平成 18 年 9 月	第 55 回高分子討論会（富山）	小野朋弥, 稲垣夕子, 横山明弘, 横澤　勉	3Pc009 頁
酸触媒による新規連鎖重縮合法の開発	共著	平成 18 年 9 月	第 55 回高分子討論会（富山）	味噌　豊, 横山明弘, 横澤　勉	2Pc009 頁
芳香環上にオクチル基を導入した分子量分布の狭いパラ置換芳香族ポリアミドの合成	共著	平成 18 年 9 月	第 55 回高分子討論会（富山）	唐澤　諒, 新山哲朗, 横山明弘, 横澤　勉	2Pc005 頁
種々の *m*- および *p*-置換芳香族ポリアミドジブロック共重合体の合成と有機溶媒に対するゲル化能	共著	平成 18 年 9 月	第 55 回高分子討論会（富山）	大石智之, 横山明弘, 横澤　勉	2D12 頁
連鎖重縮合による芳香族ポリエーテルとＡＴＲＰによるポリアクリロニトリルとの分子量分布の狭い rod-coil ジブロック共重合体の合成	共著	平成 18 年 9 月	第 55 回高分子討論会（富山）	味岡直己, 横山明弘, 横澤　勉	1D07 頁
生体重合酵素モデル: 金属触媒による重縮合の制御	単著	平成 18 年 10 月	2005 年度積水化学「自然に学ぶものづくり」研究助成プログラム研究成果発表会 (京都)		
スカンジウムトリフラートによる *N*-アシルラクタムの選択的開環反応	共著	平成 19 年 3 月	日本化学会第 87 回春季年会（大阪）	味噌　豊, 横山明弘, 横澤　勉	3C7-10 頁
分子内水素結合を利用したチューブ構造の構築を目指した芳香族オリゴアミドの合成と立体構造	共著	平成 19 年 3 月	日本化学会第 87 回春季年会（大阪）	成瀬陽平, 山崎加奈美, 横山明弘, 横澤　勉	1E2-37 頁
内部空洞を有する環状アミド化合物の合成と構造２－スチルベン骨格環状アミドと結晶構造ー	共著	平成 19 年 3 月	日本化学会第 87 回春季年会（大阪）	丸山拓郎, 田上　慶, 横山明弘, 横澤　勉, 片桐幸輔, 東屋　功	1E2-12 頁
内部空洞を有する環状アミド化合物の合成と構造１－ジフェニルアセチレン骨格環状アミドと結晶構造ー	共著	平成 19 年 3 月	日本化学会第 87 回春季年会（大阪）	田上　慶, 丸山拓郎, 横山明弘, 横澤　勉, 片桐幸輔，東屋　功	1E2-11 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
芳香族ポリエーテルとPMMAのブロック共重合体によるナノ中空構造ミセルの構築	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会（京都）	安堂智之, 味岡直己, 横山明弘, 横澤　勉	2Pf024 頁
芳香族ポリエーテル (APE) とポリスチレン (PS) による、分子量分布の狭いミクトアームスターコポリマー $(PS)_2(APE)$ の合成とその自己集積化	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会（京都）	山崎由香, 味岡直己,　横山明弘, 横澤　勉	2Pe023 頁
キラルな側鎖を持つポリナフタレンカルボキサミドのらせん構造に対する溶媒と温度の効果	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会（京都）	巳上幸一郎, 横山明弘, 横澤　勉	2Pc025 頁
2 つの光学活性側鎖がクラウンエーテル型の構造になるポリ（*p*-ベンズアミド）の合成と、そのらせん構造に及ぼす金属塩の効果	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会（京都）	山崎加奈美, 横山明弘, 横澤　勉	2Pd024 頁
芳香族ポリアミドの水素結合を利用した可逆的架橋高分子	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会（京都）	白倉忠彦, 横山明弘, 横澤　勉	2Pb034 頁
多官能性開始剤からの AB_2 モノマーの連鎖縮合重合による分子量分布の狭いハイパーブランチポリアミドの合成	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会（京都）	太田佳宏, 横山明弘, 横澤　勉	2Pa033 頁
アームファースト法によるコア架橋型メタ置換星型ポリアミドの合成	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会（京都）	益川友宏, 大石智之, 横山明弘, 横澤　勉	2Pb032 頁
ポルフィリン骨格を有する種々の *m*-置換 4 本鎖星型ポリアミドの合成とその性質	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会（京都）	吉野和男, 横山明弘, 横澤　勉	2Pa031 頁
連鎖縮合重合における置換基効果の速度論的解析	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会（京都）	佐藤武仁, 横山明弘, 横澤　勉	1Pe047 頁
Pd 触媒移動型連鎖縮合重合を目指したポリパラフェニレン合成における重合挙動の解析	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会（京都）	河野晴彦, 横山明弘, 横澤　勉	1Pe011 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
金属移動縮合重合によるポリ（*N*-アルキルピロール）の合成	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会（京都）	加藤　明, 横山　明弘, 横澤　勉	1Pf010 頁
親水性および疎水性側鎖を有するポリチオフェンジブロック共重合体の触媒移動型連鎖縮合重合による合成	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会（京都）	安達　勲, 宮越　亮, 横山明弘, 横澤　勉	1Pe009 頁
触媒移動型縮合重合によるポリフェニレン－ *block* －ポリチオフェンの合成	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会（京都）	宮越　亮, 横山明弘, 横澤　勉	1Pf008 頁
アンモニウム塩型シリカゲル担体に固体化したモノマーを用いる連鎖重縮合重合の開発－モデル反応と重合	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会（京都）	根岸亮太, 横山明弘, 横澤　勉, 加部義夫, 山口和夫	1Pe049 頁
Development of Chain-Growth Condensation Polymerization of Monomer Immobilized on Solid-Support: Model Reaction and Polymerization	共著	平成 19 年 7 月	The 4th International Symposium on Advanced Materials in Asia-Pacific Rim (ISAMAP)	R. Negishi, Y. Kabe, K. Yamaguchi, A. Yokoyama, T. Yokozawa	P079A 頁
Synthesis of a variety of well-defined *N*-aklyl poly(*m*-benzamide)s and their block copolymers by chain-growth condensation polymerization	共著	平成 19 年 7 月	The 4th International Symposium on Advanced Materials in Asia-Pacific Rim (ISAMAP)	T. Ohishi, A. Yokoyama, T. Yokozawa	P078C 頁
Investigation of Catalyst-Transfer Condensation Polymerization for the Synthesis of Well-Defined Polypridine	共著	平成 19 年 7 月	The 4th International Symposium on Advanced Materials in Asia-Pacific Rim (ISAMAP)	Y. Nanashima, A. Yokoyama, T. Yokozawa	P077B 頁
Synthesis of Poly(*p*-benzamide)s Bearing α-Branched Chiral Alkyl Side Chain and Investigation of Their Chiral Conformation	共著	平成 19 年 7 月	The 4th International Symposium on Advanced Materials in Asia-Pacific Rim (ISAMAP)	T. Saiki, A. Yokoyama, T. Yokozawa	P076A 頁
鎖長の制御された種々の *m*-置換芳香族ポリアミドによる星型ポリマーの合成	共著	平成 19 年 9 月	第 56 回高分子討論会	益川友宏、大石智之、横山明弘、横澤　勉	3Pa009 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
ポルフィリン骨格を有する種々の４本鎖星型ポリアミドおよび同ブロック共重合体の合成とその性質	共著	平成 19 年 9 月	第 56 回高分子討論会	吉野和男、横山明弘、横澤　勉	3Pb008 頁
芳香族ポリエーテルとポリスチレンとの分子量分布の狭いミクトアームスターコポリマーの合成	共著	平成 19 年 9 月	第 56 回高分子討論会	山崎由香、味岡直己、横山明弘、横澤　勉	2Pd054 頁
触媒移動重合によるπ共役高分子の精密合成	共著	平成 19 年 9 月	第 56 回高分子討論会	横山明弘、宮越　亮、安達　勲、下野恭平、加藤　明、横澤　勉	2C02 頁
AB_2 モノマーの連鎖縮合重合によるハイパーブランチポリアミドの分子量と分子量分布の制御	共著	平成 19 年 9 月	第 56 回高分子討論会	太田佳宏、横山明弘、横澤　勉	1C16 頁
縮合系高分子およびπ共役系高分子の精密重合- Introductory Remarks-	単著	平成 19 年 9 月	第 56 回高分子討論会		2831 頁
中堅私大化学系学科のぼやき	単著	平成 19 年 10 月	学術月報 60,（10）		878-879 頁
遷移金属触媒の分子内移動によるπ共役高分子の精密合成	共著	平成 19 年 10 月	第 54 回有機金属化学討論会（広島）	横山明弘、宮越　亮、安達　勲、下野恭平、加藤　明、横澤　勉	A110 頁
縮合系高分子の分子量と分子量分布の制御	単著	平成 20 年 3 月	神奈川大学工学部報告（46）		75-80 頁
単結晶 X 線構造解析装置による有機化合物の構造決定	単著	平成 20 年 3 月	神奈川大学工学部報告（46）		49-53 頁
受賞者のひとこと	単著	平成 20 年 3 月	神奈川大学工学部報告（46）		17 頁
Synthesis of Cyclic Triamides Bearing Intermolecular Interaction Moieties by LiHMDS-Assisted Cyclocondensation of Aminoesters	共著	平成 20 年 3 月	日本化学会第 88 春季年会（東京）	葛　子義、横山　明弘、横澤　勉	4J1-20 頁
アミド結合の連続構築反応による環状アミド構造の合成	共著	平成 20 年 3 月	日本化学会第 88 春季年会（東京）	唐澤　涼、谷口　正尚、横山　明弘、横澤　勉	4J1-19 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
アンモニウム塩を用いる固相ー液相連鎖縮合重合	共著	平成 20 年 3 月	日本化学会第 88 春季年会（東京）	根岸　亮太、加部　義夫、山口　和夫、横山　明弘、横澤　勉	2F1-18 頁
連鎖縮合重合を利用したテレケリックメタ置換芳香族ポリアミドの合成	共著	平成 20 年 3 月	日本化学会第 88 春季年会（東京）	大石智之、横山明弘、横澤　勉	2F1-17 頁
α-意が分岐したキラルオリゴエチレングリコール側鎖を有するポリ (*p*-ベンズアミド) の合成とらせん構造に及ぼす溶媒の効果	共著	平成 20 年 5 月	第 57 回高分子学会年次大会 (横浜)	斎木智秋, 横山明弘, 横澤　勉	2F19 頁
第二級と第三級アミド結合を交互に有するポリ (*p*-ベンズアミド) の合成とらせん構造に対する溶媒と温度の効果	共著	平成 20 年 5 月	第 57 回高分子学会年次大会 (横浜)	成瀬陽平, 横山明弘, 横澤　勉	2F18 頁
光学活性なトリエチレングリコール側鎖を持つポリ (ナフタレンカルボキサミド) のらせん構造とそのキラルーアキラル共重合体のコンフォメーション	共著	平成 20 年 5 月	第 57 回高分子学会年次大会 (横浜)	巳上幸一郎, 大工原裕楊, 横山明弘, 横澤　勉	2F17 頁
２本の芳香族ポリエーテル鎖と１本のポリスチレン鎖を持つミクトアームスターコポリマーの合成	共著	平成 20 年 5 月	第 57 回高分子学会年次大会 (横浜)	山崎由香, 味岡直己, 横山明弘, 横澤　勉	1F21 頁
種々の AB_2 モノマーの連鎖縮合重合による分子量分布の狭いハイパーブランチポリアミドの合成	共著	平成 20 年 5 月	第 57 回高分子学会年次大会 (横浜)	上條祐介, 太田佳宏, 横山明弘, 横澤　勉	1F-17 頁
Pd 触媒移動型連鎖縮合重合によるポリ (ｐ－フェニレン) の合成とその重合挙動	共著	平成 20 年 5 月	第 57 回高分子学会年次大会 (横浜)	河野晴彦, 横山明弘, 横澤　勉	1E06 頁
ベンゼン環上にアルコキシ基を有するポリ (*m*-ベンズアミド) および環化三量体の合成	共著	平成 20 年 5 月	第 57 回高分子学会年次大会（横浜）	鈴木俊也, 大石智之, 横山明弘, 片桐幸輔, 東屋　功, 横澤　勉	1E05 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Thin-Film Transistors Based on Poly(3-hexylthiophene) with Well-defined Molecular Structure	共著	平成 20 年 7 月	The 8th International Symposium on Functional π-Electron Systems (Graz)	R. Azumi, M. Ikawa, N. Suganuma, Y. Yoshida, M. Chikamatsu, K. Yase, R. Miyakoshi, A. Yokoyama, T. Yokozawa	
Synthesis of Well-Definded Hyperbranched Polyamides By Chain-Growth Condensation Polymerization of AB_2Monomer	共著	平成 20 年 7 月	The 3rd Joint International Symposium on Macrocyclic & Supramolecular Chemistry (III ISMSC), (Las Vegas)	Y. Ohta, A. Yokoyama, T. Yokozawa	
Synthesis of Poly(*m*-Benzamide) and Cyclic Trimer Having Alkoxy Group on the Benzene Ring By Condensation Polymerization Method	共著	平成 20 年 7 月	The 3rd Joint International Symposium on Macrocyclic & Supramolecular Chemistry (III ISMSC), (Lasvegas)	T. Ohishi, T. Suzuki, A. Yokoyama, T. Yokozawa	
Poly(*p*-Benzamide)s Bearing α-Branched Chiral Oligo(Ethyle n e Glycol) Side Chain: Solvent Polarity-Driven Helical Induction	共著	平成 20 年 7 月	The 3rd Joint International Symposium on Macrocyclic & Supramolecular Chemistry (III ISMSC), (Las Vegas)	T. Saiki, A. Yokoyama, T. Yokozawa	
Effect of Solvent and Temperature on Helical Conformation of Poly(*p*-Benzamide)s Consisting of Alternatingsecondary and Tertiary Amide Bonds.	共著	平成 20 年 7 月	The 3rd Joint International Symposium on Macrocyclic & Supramolecular Chemistry (III ISMSC), (Las Vegas)	Y. Naruse, A. Yokoyama, T. Yokozawa	
Solvent and Temperature Effect on Helical Conformation of Poly (Naphthalenecarboxamide)s Bearing Chiral Tri(Ethylen Glycol) Side Chain.	共著	平成 20 年 7 月	The 3rd Joint International Symposium on Macrocyclic & Supramolecular Chemistry (III ISMSC), (Las Vegas)	K. Mikami, A. Yokoyama, T. Yokozawa	
Synthesis and Structure Elucidation of Cyclic Triamide with *trans*-Stibene and Diphenylacetylene Units	共著	平成 20 年 7 月	The 3rd Joint International Symposium on Macrocyclic & Supramolecular Chemistry (III ISMSC), (Las Vegas)	A. Yokoyama, T. Maruyama, K. Tagami, H. Masu, K. Katagiri, I. Azumaya, T. Yokozawa	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Synthesis of Well-Defined Miktoarm Star Copolymers Consisting of Aromatic Polyethers and Polystryrenes by Chain-Growth Condensation Polymerization and Atom Transfer Radical Polymerization	共著	平成 20 年 8 月	236th American Chemical Society National Meeting (Philadelphia)	Y. Yamazaki, N. Ajioka, A. Yokoyama, T. Yokozawa	380 頁
Synthesis of Well-Defined Aromatic Polyamide-*b*-Polystyrene by Combination of Chain-Growth Condensation Polymerization and Controlled/Living Radical Polymerization	共著	平成 20 年 8 月	236th American Chemical Society National Meeting (Philadelphia)	T. Masukawa, S. Fujii, A. Yokoyama, T. Yokozawa	381 頁
UV and CD studies of poly(naphthalenecarboxamide)s with chiral tri(ethylene glycol) side chain	共著	平成 20 年 9 月	Polycondensation 2008（東京）	K. Mikami, H. Daikuhara, A. Yokoyama, T. Yokozawa	63 頁
縮合重合によるベンゼン環上にアルコキシ基を有するポリ（m－ベンズアミド）環化三量体の合成	共著	平成 20 年 9 月	第 57 回高分子討論会（大阪）	大石智之、鈴木俊也、横山明弘、横澤　勉	2Pd026 頁
連鎖縮合重合による芳香族ポリアミドと芳香族ポリエーテルとの分子量分布の狭いロッド-ロッドジブロック共重合体の合成	共著	平成 20 年 9 月	第 57 回高分子討論会（大阪）	益川友宏、山崎由香、横山明弘、横澤　勉	2Pc025 頁
触媒移動型連鎖縮合重合によるポリピリジンの合成検討	共著	平成 20 年 9 月	第 57 回高分子討論会（大阪）	七島　祐、宮越　亮、横山明弘、横澤　勉	2Pa013 頁
AB_2 モノマーの連鎖縮合重合による分子量と分子量分布の制御されたハイパーブランチポリアミドの合成	共著	平成 20 年 9 月	第 57 回高分子討論会（大阪）高分子学会予稿集	太田佳宏、上條祐介、横山明弘、横澤　勉	1G19 頁
連鎖縮合重合とリビングラジカル重合による鎖長の制御された芳香族ポリアミドとポリスチレンのジブロック共重合体の合成	共著	平成 20 年 9 月	第 57 回高分子討論会（大阪）	益川友宏、藤井修一、横山明弘、横澤　勉	2D18 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
N-キラル側鎖およびアキラル側鎖を有するポリ（ナフタレンカルボキサミド）のらせん構造	共著	平成 20 年 9 月	第 57 回高分子討論会（大阪）	巳上幸一郎、大工原祐揚、横山明弘、横澤勉	2D08 頁
2 本の芳香族ポリエーテル鎖と 1 本のポリスチレン鎖を持つミクトアームスター共重合体の合成と自己集積化	共著	平成 20 年 9 月	第 57 回高分子討論会（大阪）	山崎由香、味岡直己、横山明弘、横澤　勉	2D03 頁
Synthesis of Well-Defined Rod-Coil Block Copolymers Consisting of Aromatic Polyamide and Polystyrene	共著	平成 20 年 9 月	Polycondensation 2008（Tokyo）	T. Masukawa, S. Fujii, A. Yokoyama, T. Yokozawa	43 頁
Controlled Synthesis of AB_2, Miktoarm Star Copolymers by Chain-Growth Condensation polymerization and ATRP	共著	平成 20 年 9 月	Polycondensation 2008（Tokyo）	Y. Yamazaki, N. Ajioka, A. Yokoyama, T. Yokozawa	40 頁
Synthesis of a Variety of Hyperbranced Polyamides with Low Polydispersity by Chain-Growth Condensation Polymerization of AB_2 Monomers	共著	平成 20 年 9 月	Polycondenssation 2008　（Tokyo）	Y. Ohta, Y. Kamijyo, A. Yokoyama, T. Yokozawa	27 頁
Selective Anion and Cation Receptors Based on Cyclic Triamides: Facile One-step Synthesis and the Recognition Proerties	共著	平成 20 年 9 月	Polycondensation 2008 （Tokyo）	Z. Ge, T. Yokozawa	21 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 55 年 7 月～現在に至る	日本化学会会員
昭和 57 年 4 月～現在に至る	有機合成化学協会会員
昭和 60 年～現在に至る	財団法人加藤科学振興会 500 千円 （ケテンアセタール類を用いる有機合成と重合反応への応用）（研究代表者）
昭和 60 年 7 月～現在に至る	高分子学会会員
昭和 63 年 4 月～現在に至る	科学研究費補助金 奨励研究（A） 900 千円 （アレン誘導体の重合挙動及び反応性ポリマーへの応用に関する研究）
平成元年～現在に至る	財団法人理工学振興会（研究助成金） 500 千円 （アレン誘導体の反応特性を基盤とする新規重合反応の開発）（研究代表者）
平成 2 年 4 月～現在に至る	科学研究費補助金 奨励研究（A） 900 千円 （アレン誘導体の双性イオンを経由する新規重合反応の開発）
平成 4 年 6 月～現在に至る	高分子学会関東支部湘北地区幹事
平成 9 年 1 月～現在に至る	通商産業省工業技術員物質工学工業技術研究所流動研究員
平成 14 年 7 月～平成 16 年 6 月	高分子学会「高分子」編集委員
平成 16 年 6 月～平成 19 年 3 月	エレクトロニクス実装学会会員
平成 16 年 11 月～平成 17 年 10 月	電子回路基板技術振興財団（平成１６年度研究助成） 1,000 千円 （剛直高分子の自己組織化に基づくナノ導線の創製）（研究代表者）
平成 17 年 3 月～平成 19 年 2 月	有機合成化学協会有機合成化学協会誌編集委員
平成 17 年 4 月～平成 19 年 3 月	エレクトロニクス実装学会ナノテク材料研究会主査
平成 17 年 4 月～平成 18 年 3 月	（国内共同研究）住友化学工業（株）「芳香族リビング重合」（800 千円）
平成 17 年 4 月～平成 19 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究C 一般 3,500 千円 （主鎖上を成長末端へと移動する金属触媒による重縮合：制御された導電性高分子合成法）（研究代表者）
平成 17 年 4 月～平成 18 年 10 月	科学研究費補助金 特別研究員奨励費 2,400 千円 （芳香族ポリアミドのらせんおよびシート構造に基づく人工ポリペプチドの創製）（研究代表者）
平成 17 年 6 月～平成 19 年 5 月	2005 年度神奈川大学共同研究奨励助成金 6,000 千円 （種々の反応剤の自在固定化とこれを利用した新規重合および反応の開発）（研究代表者）
平成 17 年 10 月～平成 18 年 9 月	2005 年度　積水化学（自然に学ぶものづくり研究助成プログラム） 2,000 千円 （生体重合酵素モデル：金属触媒による重縮合の制御）（研究代表者）
平成 18 年 4 月～現在に至る	日本化学会会員委員会委員

年月	内　　容
平成 18 年 4 月～平成 19 年 3 月	（国内共同研究）住友化学工業（株）「芳香族リビング重合」（1,932 千円）
平成 18 年 4 月～平成 23 年 3 月	平成 18 年度学術フロンティア推進事業（「機能物質創製を目指す化学空間の設計と制御」（プロジェクト代表者：内藤周弌）.） 3,000 千円（縮合系高分子アーキテクチャーの自己組織化による階層化された化学空間の構築」および「縮合系高分子末端に選択的に重縮合が行われる触媒空間の開発）（研究分担者）
平成 18 年 8 月～平成 19 年 3 月	独立行政法人　日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員および国際事業委員会書面審査員
平成 19 年 4 月～平成 22 年 3 月	独立行政法人　日本学術振興会独立行政法人　日本学術振興会 学術システム研究センター専門研究員
平成 19 年 4 月～平成 20 年 3 月	（国内共同研究）住友化学（株）　筑波研究所「芳香族リビング重合」（2,100 千円）
平成 19 年 4 月～平成 21 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究（C) 3,600 千円 （縮合系ハイパーブランチポリマーの分子量と分子量分布の制御）（研究代表者）
平成 20 年 4 月～平成 22 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究（ｃ） 3,700 千円 （モノマー間に 2 つのアミド結合を連続構築する反応を用いたラダーポリマーの精密合成）（研究分担者）
平成 20 年 5 月～平成 22 年 3 月	独立行政法人　新エネルギー・産業技術総合開発機構 NEDO 技術委員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部物質生命化学科	職名 准教授	氏名 工藤　宏人	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 ノートチェックによる予習の確認。小テストによる習熟度の確認と復習。学生による問題の解答と解説の実践。	平成 18 年 4 月 ～現在に至る	（授業科目：物質生命化学演習 I）一人ずつ、ノートを確認し、予習を行っているかどうかを確認する。復習として、前回の内容について小テストを行い、習熟度について認識をしてもらう。演習様式の授業において、学生が問題の解答を黒板に行い、なぜそのように考えたのか解説をしてもらい。考える能力と、プレゼンテーションの能力向上を促すようにしている。
学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 18 年 4 月 ～現在に至る	（授業科目：物質生命化学演習 I）授業評価アンケート評価を受け、内容を分かりやすく伝えるため、黒板の板書方法、授業の声の大きさ、教科書を選定するなど、授業運営の改善活動を行った。
学生実験における当日報告書の作成と実験結果についてのデイスカッションを取り入れる	平成 18 年 4 月 ～現在に至る	（授業科目：物質生命化学実験 I）学生実験において、レポートとは別に、実験のポイントとなる報告書の作成を義務づけ、その報告書に基き、実験データーについてなぜそうしなければならないのかデイスカッションを行うことをとりいれた。そうすることで、実験をやりっぱなしにはさせないようようにし、考えながら実験を行うように促すことで、より深く実験化学の興味をもってもらうように工夫している。
2　作成した教科書、教材 「物資生命化学演習 I」テキストの作成	平成 18 年 4 月 ～現在に至る	授業で使用する演習共通テキストを、他の担当教官と分担し作成した。また、作成した問題について、授業内容として適切かどうかを議論し、より良問になるように作成した。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
エポキシ樹脂”第１巻　基礎編Ｉ（越智光一、佐武邦夫、中西義則、端直明、友井正男共編）	共著	平成 15 年 9 月	エポキシ樹脂技術協会、東京、 (2003).		235-249 頁
UV・EB 硬化技術の最新動向	単著	平成 18 年 3 月	UV・EB 硬化技術の最新動向（ラドテック研究会）第２章４		
ハイパーブランチポリマーの光硬化材料への応用	単著	平成 18 年 9 月	ＵＶ硬化樹脂（情報機構）第３節		
論文					
Synthesis and Photochemical Reaction of High-Performance UV-Curing Oligomers	共著	平成 15 年 4 月	ACS SYMPOSIUM SERIES 847, Photoinitiated Polymerization Chapter31,		363-377 頁
Synthesis of Polyester with Pendant Oxetane Groups by the Chemoselective Alternating Copolymerization of 3-Ethyl-3-(glycidyloxymethyl)oxetane with Carboxylic Anhydrides and Its Photochemical Reaction	共著	平成 15 年 6 月	J.Polym.Sci.PartA. Polym. Chem: Part A 41, (13), (2003).		1952-1961 頁
カリックスアレーン類を基盤とした光機能性オリゴマーの合成と反応	共著	平成 15 年 10 月	日本印刷学会誌 39	工藤宏人・亀山　敦・西久保　忠臣	394-399 頁
Synthesis and Properties of Fluorine-containing Poly(ether)s with Pendant Hydroxyl Groups by the Poly(addition) of Bis(oxetane)s with Bisphenol AF	共著	平成 16 年 1 月	Polym. J., 36, (2), (2004)		114-122 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Synthesis of Polyesters by the Polyaddition of Bis(oxetane)s with Active Di(ester)s	共著	平成 16 年 2 月	J. Polym. Sci. Part A. Polym. Chem42,（6）	kudo hiroto, Kurakata Tomohiko, Sasaki Masaki, Nishikubo Tadatomi	1528-1536 頁
Synthesis and Photo-induced Deprotection Reaction of Calix[4]resorcinarene Derivatives Containing tert-Butylester Moieties	共著	平成 16 年 3 月	Bulletin of the Chemical Society of Japan77,（4）	kudo hiroto, Mitani Kouji, Nishikubo Tadatomi, Mitsuishi Masaya, Miyashita Tokuji	819-826 頁
Synthesis of hyper-branched polymersby the anionic ring-opening polymerization of 3,3-bis(hydroxymethyl)-oxetane	共著	平成 16 年 4 月	Polymer Journal36	Morita Ayako, kudo hiroto, Nishikubo Tadatomi	413-421 頁
Synthesis and properties of fluorine-containing polyethers with pendant hydroxyl groups by the polyaddition of bis(epoxide)s with diols	共著	平成 16 年 6 月	Journal of Polymer Science, Part A: Polymer Chemistry,42,（10）	Konno Yousuke, kudo hiroto, Kameyama Atsushi, Nishikubo Tadatomi	2543-2550 頁
Synthesis of Alkaline-Developable, Photosensitive Hyperbranched Polyimides through the Reaction of Crboxylic Acid Dianhydrides and Trisamines	共著	平成 16 年 7 月	Journal of Polymer Science Part A: Polymer Chemistry42,（15）	Makita Shohei, kudo hiroto, Nishikubo Tadatomi	3697-3707 頁
Synthesis and Chemical Modification of Hyperbranched Polyethers with Terminal Hydroxy Groups by the Anionic Ring-Opening Polymerization of 3-Alkyl-3-hydroxymethyl Oxetanes	共著	平成 16 年 10 月	Journal of Polymer Science Part A: Polymer Chemistry ４２,（15）	Morita Ayako, kudo hiroto, Nishikubo Tadatom	3739-3750 頁
New Large Refractive-index Change Materials: Synthesis and Photochemical Valence Isomerization of the Calixarene Derivatives Containing Norbornadiene Moieties	共著	平成 16 年 10 月	Bulletin of the Chemical Society Japan77	kudo hiroto, Ueda Wataru, Sejimo Kiyomitsu, Mitani Kouji, Nishikubo Tadatomi	1415-1422 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Synthesis of Poly(ether)s with Pendant Ester Groups by the Polyaddition of Bis(oxetane)s with Active Bis(ester)s	共著	平成16年10月	polymer journal36,(10)	Nishikubo Tadatomi, kudo hiroto, Sasaki Masaki, Kuwamura Kenji, Imataki Chiga	841-847頁
Synthesis of Novel Chemically Amplified Materials Based on Calix[4]arene Derivatives with Acetal Moieties	共著	平成16年11月	Bulletin of the Chemical Society Japan77,(11)	kudo hiroto, Mitani Kouji, Koyama Syuhei, Nishikubo Tadatomi	2109-2114頁
環状オリゴマーを基盤とした新しい高性能光機能性材料	共著	平成17年4月	ネットワークポリマー（合成樹脂工業協会）26,(2)	工藤宏人・亀山　敦・西久保　忠臣	98-110頁
Synthesis and photochemical reaction of poly(ester)s containing donor-acceptor type norbornadiene residues in the both main and side chains	共著	平成17年7月	Polymer Journal37,(4)	Ono Yoshitomo, Kawashima Naoyuki, Kudo Hiroto, Nagai Takabumi, Nishikubo Tadatomi	246-254頁
Novel molecular photoresists based on the cyclodextrin derivatives containing fluorine atoms and t-butyl ester groups	共著	平成17年9月	Bulletin of the Chemical Society of Japan78,(4)	Kudo Hiroto, Inoue Naomi, Nishimura Isao, Nishikubo Tadatomi	731-737頁
Novel thermal curing reaction of oxetane resins with polyfunctional phenols	共著	平成17年9月	Journal of Polymer Science, Part A: Polymer Chemistry43,(10)	Nishikubo, Tadatomi; Kudo Hiroto; Yoshihara, Mayu; Maruyama, Ken	2028-2037頁
Synthesis of Cyclic Polymers: Ring-Expansion Reaction of Cyclic S-Dithioester with Thiiranes	共著	平成17年10月	macromolecules38	Kudo Hiroto, Makino Shinya, Kameyama Atsushi , Nishikubo Tadatomi	5964-5969頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Synthesis of new photoresponsive polyesters containing norbornadiene moieties by the ring-opening copolymerization of donor-acceptor norbornadiene dicarboxylic acid anhydride with donor-acceptor norbornadiene dicarboxylic acid monoglycidyl ester derivative	共著	平成17年12月	Journal of Polymer Science, Part A: Polymer Chemistry43, (19)	Ono Yoshitomo, Kawashima Naoyuki; Kudo Hiroto, Nishikubo Tadatomi, Nagai Takabumi	4412-4421頁
Synthesis of photocrosslinkable hyperbranched polyesters and their film properties	共著	平成17年12月	Journal of Polymer Science, Part A: Polymer Chemistry43, (19)	Maruyama, Ken; Kudo Hiroto, Ikehara, Takayuki; Ito, Nobuhito; Nishikubo, Tadatomi	4642-4653頁
オキセタン樹脂の光および熱硬化材料への展開	共著	平成18年4月	ネットワークポリマー（合成樹脂工業協会）127,（1）	西久保　忠臣・工藤　宏人	38-45頁
オキセタン化合物の新規開環付加反応による構造制御された高分子の合成	共著	平成18年4月	有機合成化学協会誌64, (9)	西久保　忠臣・亀山　敦・工藤宏人	934-946頁
Synthesis of Photocrosslinkable Hyperbranched Polyesters with Terminal Methacryloyl Groups by the One-pot Polyaddition of Bis(oxetane)s with 1,3,5-Benzenetricarboxylic Acid and Methacrylic Acid	共著	平成18年5月	Polymer Journa38, (5)	Tadatomi Nishikubo, Hiroto Kudo,and Takehiko Nakagami	447-456頁
Synthesis of Hyperbranched Poly(ester)s with Pendant Hydroxy Groups by the Polyaddition of Bis(oxetane)s with 1,3,5-Benzenetricarboxylic Acid	共著	平成18年9月	Polymer Journal38, (2)	Tadatomi Nishikubo, (Hiroto Kudo and Takehiko Nakagami	145-152頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Syntheses and Refractive-Indices Properties of Novel Octa-Arms Star-Shaped Polysulfides Radiating from p-t-Butylcalix[8]arene Cor	共著	平成 18 年 9 月	Polymer Journal38, (3)	Hiroto Kudo, Hajime Inoue, Tadatomi Nishikubo and Tetsuo Anada	289-297 頁
Novel Materials for Large Change in Refractive Index: Synthesis and Photochemical Reaction of the Ladder-like Poly(silsesquioxane) Containing Norbornadiene, Azobenzene, and Anthracene Groups in the Side Chains	共著	平成 18 年 10 月	macromolecules39	Hiroto Kudo, Masaru, Yamamoto, and Tadatomi Nishikubo	17590-1765 頁
Molecular Water-Wheel (Noria) from Simple Condensation of Resorcinol and Alkanedial	共著	平成 18 年 10 月	Angewandte Chemie Int. Ed45	Hiroto Kudo, Rieko Hayashi, Kouji Mitani, Tsutomu Yokozawa, Noriko C. Kasuga,and Tadatomi Nishikubo	7948-7952 頁
ビスエポキシド類とト リカルボン酸類との重付加反応 によるハイパーブランチポリマーの合成とその機能化	共著	平成 18 年 12 月	接着（高分子刊行会）12 月号、特集	工藤宏人・丸山　研・西久保　忠臣	
Large Refractive Index Change during Photo Crosslinking Reaction of Poly(silsesquioxane) Derivatives Containing Cinnamoyl Moieties in the Side Chains l	共著	平成 19 年 1 月	Nettwork Polymer128, (1)	Hiroto Kudo, Masaru, Yamamoto, and Tadatomi Nishikubo	11-18 頁
Synthesis and properties of dual-curable polymers containing oxetanyl, methacryloyl and carboxyl groups	共著	平成 19 年 3 月	Nettwork polymer128, (1)	能坂　麻美、工藤　宏人、西久保　忠臣	19-31 頁
ハイブリッド型ハイパーブランチポリマー ―光機能性ハイパーブランチポリマーの合成と性質	単著	平成 19 年 5 月	高分子「展望」（高分子学会）56,（5）		334-37 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Synthesis of self-photosensitizing polyesters containing donor-acceptor norbornadiene moieties and benzophenone groups and their photochemical reactions	共著	平成 19 年 9 月	Journal of Polymer Science Part A: Polym. Chem45	Yoshitomo Ono, Naoyuki Kawashima, Hiroto Kudo, Tadatomi Nishikubo, Takabumi Nagai	2978-2988 頁
Catalytic reactions of oxetanes with protonic reagents and aprotic reagents leading to novel polymers	共著	平成 19 年 10 月	J. Polym. Sci. Part A. Polym. Chem as a HIGHLIGHT.45	Hiroto Kudo, and Tadatomi Nishikubo	709-726 頁
Synthesis of Macrocycles by the Ring-crossover Reaction of Cyclic Dithioester	共著	平成 19 年 10 月	J. Polym. Sci. Part A. Polym. Chem45	Hiroto Kudo, Shinya Makino, and Tadatomi Nishikubo	680-687 頁
Synthesis and Properties of Photo-Cross-Linkable Hyperbranched Poly(urethane)s Containing Both Terminal Methacryloyl Groups and Carboxyl Groups	共著	平成 19 年 10 月	macromolecules40	Ken Maruyama,Hiroto Kudo, Takayuki kehara, Tadatomi Nishikubo, Isao Nishimura Isao, Atsushi Shishido, Tomiki Ikeda	4895-4900 頁
Phenolic Molecular Glasses as Resists for Next Generation Lithography	共著	平成 19 年 11 月	SPIE	Xavier Andre, Jin Kyun Lee, Anuja DeSilva, Christopher K. Ober, Heidi B. Cao, Hai Deng, Hiroto Kudo, Daisuke Watanabe, Tadatomi Nishikubo	Vol6519-Vol65194B 頁
Synthesis and Refractive-index Control of Fluoropolymers by the Polyaddition of Bis(epoxide)s and Triazine Di(aryl ether)s	共著	平成 19 年 11 月	Journal of Polymer Science Part A: Polym. Chem45	Hiroto Kudo, Nobuhito Ito, Keiji Nakajima, Masami Ochiai, and Tadatomi Nishikubo	4421-4429 頁
Controlled Thioacyl Group Transfer (TAGT) Polymerization of Cyclic Sulfide: Novel Approach to AB Diblock Copolymers by the Combination of RAFT and TAGT Polymerization	共著	平成 19 年 12 月	macromolecules40	Atsushi Nagai, Naoyuki Koike, Hiroto Kudo, Tadatomi Nishikubo	8129-8131 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Optical properties of calixarene polymers	共著	平成 20 年 1 月	SPIE（10）	Kim Taeho, Komatsu Kyoji, Sugihara Okihiro, KainonToshikuni, Kudo Hiroto, Tadatomi Nishikubo	6891 頁
高性能光機能性分子材料	共著	平成 20 年 1 月	化学工業 59,（1）	工藤宏人, 西久保忠臣	69-72 頁
A Novel Approach to Cyclic Polysulfides via the Controlled Ring-expansion Polymerization of Cyclic Thiourethane with Thiiranes	共著	平成 20 年 2 月	macromolecules41,（3）	Hiroto Kudo, Masaaki Sato, Ryosuke Wakai, Tadashi Iwamoto, and Tadatomi Nishikubo	521-523 頁
A novel thermal curing reaction of oxetane resin with active diester	共著	平成 20 年 3 月	Polymer Journal40,（4）	Nishikubo Tadatomi, Kudo, Hiroto, Nomura, Hiroshi.	310-316 頁
Temperature Dependence of Refractive Index of Films of Well-defined Liner and Star-shaped Polystyrenes	共著	平成 20 年 3 月	Chemistry Letters37,（3）	Hiroto Kudo, Hideyuki. Aoki, Tadatomi. Nishikubo	282-283 頁
Synthesis and properties of hybrid hyperbranched polymers containing oxetane moiety in the main chain and terminal oxetanyl, methacryloyl and carboxyl groups.	共著	平成 20 年 4 月	ネットワークポリマー（合成樹脂工業協会）29,（2）	Nosaka, Mami, Kudo, Hiroto, Nishikubo, Tadatomi.	73-85 頁
One-Pot Synthesis of a Novel Ladder Polymer of Calixarene via Condensation Reaction of Resorcinol and Alkanedial Based on Dynamic Covalent Chemistry	共著	平成 20 年 4 月	Macromolecules,41	Hiroto Kudo, Kyosuke Shigematsu, Kouji Mitani, Tadatomi Nishikubo, Noriko C. Kasuga, Hideyuki. Uekusa, and Yuji Ohashi	2030-2036 頁
Template Polymerization with Noria as a Template	共著	平成 20 年 5 月	Macromolecules	Saito Yoichi, Saito Reiko, Kudo Hiroto, Nishikubo Tadatomi	
A novel noria (waterwheel-like cyclic oligomer) derivatives as a chemically amplified electron-beam resist material ” Journal of Materials Chemistry	共著	平成 20 年 9 月	Journal of Materials Chemistry18	Hiroto Kudo, Daisuke Watanabe. Tadatomi Nishikubo, Ken Maruyama, Daisuke Shimizu, Tashiyuki Kai, Tsutomu Shimokawa, Christopher K. Ober	3588 - 3592 頁
その他					

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
ラジカル重合による含フッ素および含硫黄ポリメタクリレートの合成とその屈折率制御	共著	平成 15 年 5 月	第 52 回高分子年次大会、高分子学会予稿集, 52, (2), 161, 2003 年 5 月 (名古屋).		
同一分子内にオキセタニル基とカルボキシル基を有する AB_2 型モノマーを用いた多分岐ポリエーテルの合成とその光硬化性樹脂への応用	単著	平成 15 年 5 月	第 52 回高分子年次大会、高分子学会予稿集, 52, (2), 255, 2003 年 5 月 (名古屋).		
ジオール類とジビニルエーテル類との重付加反応による含フッ素ポリアセタールの合成と 157nm レジストへの応用	共著	平成 15 年 5 月	第 51 回高分子学会年次大会、高分子学会予稿集 51 IIIC-09（2002）（横浜）		
トリスオキセタン類とビスフェノール類との重付加反応による多分岐ポリエーテルの合成	共著	平成 15 年 5 月	第 52 回高分子年次大会、高分子学会予稿集, 52, (2), 254, 2003 年 5 月 (名古屋).		
分子内にオキセタニル基とカルボキシル基を有するモノマーの合成とその自己重付加反応	共著	平成 15 年 5 月	第 52 回高分子年次大会、高分子学会予稿集, 52, (2), 269, 2003 年 5 月 (名古屋).		
オキセタニル基とヒドロキシル基を有するハイパーブランチポリエーテルの機能化と光架橋反応	共著	平成 15 年 5 月	第 52 回高分子年次大会、高分子学会予稿集, 52, (2), 333, 2003 年 5 月 (名古屋).		
多官能性フェノール類を用いたオキセタン樹脂の硬化反応	共著	平成 15 年 5 月	第 52 回高分子年次大会、高分子学会予稿集, 52, (3), 653, 2003 年 5 月 (名古屋).		
ノルボルナジエン残基を有する光エネルギー変換・蓄積高分子 [XLV]：主鎖および側鎖にドナー・アクセプター型ノルボルナジエン残基および増感基を有する自己増感型ポリエステルの合成とその光反応	共著	平成 15 年 5 月	第 52 回高分子年次大会、高分子学会予稿集, 52, (4), 737, 2003 年 5 月 (名古屋).		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
アルカリ現像型感光性芳香族ハイパーブランチポリイミドの合成	共著	平成 15 年 5 月	第 52 回高分子年次大会、高分子学会予稿集, 52, (2), 255, 2003 年 5 月 (名古屋).		
側鎖にアゾベンゼンおよびアントラセン残基を有する光-熱変換・蓄積高分子の合成とその光反応特性	単著	平成 15 年 9 月	第 52 回高分子学討論会、高分子学会予稿集, 52, (8), 2003 年 9 月 (山口).		1632-1633 頁
ノルボルナジエン残基を有するカリックスアレーン誘導体類の合成とその屈折率変化	共著	平成 15 年 9 月	第 52 回高分子学討論会、高分子学会予稿集, 52, (12), 2003 年 9 月 (山口).		’3422-3423 頁
t-BuOK を開始剤に用いた 3-アルキル-3-ヒドロキシメチルオキセタン類の開環重合と得られたポリマーの高分子反応	共著	平成 15 年 9 月	第 52 回高分子学討論会、高分子学会予稿集, 52, (8), 2003 年 9 月 (山口).		1632-1633 頁
側鎖にアゾベンゼンおよびアントラセン残基を有する光-熱変換・蓄積高分子の合成とその光反応特性	共著	平成 15 年 9 月	第 52 回高分子学討論会、高分子学会予稿集, 52, (11), 2686, 2003 年 9 月 (山口).		
tert-ブチルエステル残基およびアセタール残基を有するカリックス [4] レゾルシンアレーン誘導体の合成およびその光脱保護反応	共著	平成 15 年 9 月	第 52 回高分子学討論会、高分子学会予稿集, 52, (12), 2003 年 9 月 (山口).		3406-3407 頁
メタクリロイル基を有する多分岐ポリマーの合成とその光架橋反応 第 52 回高分子学討論会、高分子学会予稿集, 52, (7), 1453, 2003 年 9 月 (山口).	共著	平成 15 年 9 月	第 52 回高分子学討論会、高分子学会予稿集, 52, (7), 1453, 2003 年 9 月 (山口).		
同一分子内にオキセタニル基とカルボキシル基を有するモノマーの合成と重付加反応および得られた多分岐ポリマーの光機能化	共著	平成 15 年 10 月	第 53 回ネットワークポリマー講演討論会、講演要旨集、平成 15 年 10 月 23,24 日 (横浜).		149-152 頁
新しい多分岐ポリマーの合成と機能化	共著	平成 15 年 10 月	第 53 回ネットワークポリマー講演討論会、講演要旨集、平成 15 年 10 月 23,24 日 (横浜).		153-156 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Synthesis and Photo-induced Deprotection of the Calix[4]resorcinarene Derivatives with tert-Butylester Moieties	単著	平成 15 年 12 月	9th International Conference on Radiation Curing, RadTech Asia '03, Proceeding, 309, December 9-12, 2003 (Yokohama).		
ビスオキセタン類とフェニルホスホン酸類との重付加反応による側鎖に一級水酸基を有するポリホスホネート類の合成	共著	平成 15 年 12 月	日本化学会第 84 春季年会, 講演予稿集 II, 2 J8-31, 2004 年 3 月 (神戸).		1203 頁
Synthesis and Patterning Property of Alkaline Developable Photosensitive Hyperbranched Polyimide	共著	平成 15 年 12 月	9th International Conference on Radiation Curing, RadTech Asia '03, Proceeding, 596, December 9-12, 2003 (Yokohama).		
New Fluoropolymers for 157 nm Lithography: Synthesis, Characterization, and Photochemical Reaction of Fluoropolymers", 9th International Conference on Radiation Curing	共著	平成 15 年 12 月	RadTech Asia '03, Proceeding, 570, December 9-12, 2003 (Yokohama).		
Synthesis of Novel Hyperbranched Poly(ester) Containing Methacryloxy Groups by the Polyaddition of Oxetanes with Carboxylic Acids and Their Photo-initiated Radical Polymerization	共著	平成 15 年 12 月	9th International Conference on Radiation Curing, RadTech Asia '03, Proceeding, 319, December 9-12, 2003 (Yokohama).		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Synthesis and Photocrosslinking Reaction of Polyesters with Pendant Oxetane Groups by the Chemo-selective Alternation Copolymerization of 3-Ethyl-3-glycidyloxymethyl)oxetane with Carboxylic Anhydride 9th International Conference on Radiation Curing, RadTech Asia '03, Proceeding, 288, December 9-12, 2003 (Yokohama).	共著	平成 15 年 12 月	9th International Conference on Radiation Curing, RadTech Asia '03, Proceeding, 288, December 9-12, 2003 (Yokohama).		
DBU 法を用いたビスハロゲン化アルキルと活性メチレン化合物との重縮合反応による含フッ素ポリマーの合成	共著	平成 16 年 1 月	第 52 回高分子年次大会、高分子学会予稿集, 52, (2), 232, 2003 年 5 月 (名古屋).		

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
～現在に至る	（国内共同研究）「アミノ酸を基盤とした高分子の合成と性質」
平成 8 年 3 月～現在に至る	日本化学会会員
平成 9 年 5 月～現在に至る	高分子学会会員
平成 14 年 4 月～平成 16 年 3 月	科学研究費補助金 萌芽研究 2,355 千円 （オキセタン誘導体のアニオン重合による新規ハイパーブランチポリマーの合成と機能評価）（研究分担者）
平成 14 年 8 月～現在に至る	アメリカ化学会会員
平成 15 年 4 月～平成 18 年 3 月	科学研究費補助金 若手研究Ｂ 2,355 千円 （環拡大反応による環状ポリマーの合成）（研究代表者）
平成 15 年 9 月～平成 16 年 9 月	電子回路基盤技術振興財団 1,000 千円 （新しい電子・光回路基盤への応用を目的とする光機能性高分子の開発）（研究代表者）
平成 18 年 4 月～平成 21 年 3 月	科学研究費補助金 若手研究Ａ 23,300 千円 （動的共有結合化学を利用したラダー型環状化合物の合成とその特異的機能の開発）（研究代表者）
平成 19 年 4 月～平成 21 年 3 月	科学研究費補助金 萌芽研究 3,474 千円 （超分子化学を利用した高屈折率材料の開発）（研究代表者）
平成 20 年 4 月～平成 22 年 3 月	高分子学会代議員
平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月	松籟科学技術振興財団 1,000 千円 （動的共有結合化学を基盤とした機能性樹脂の開発）（研究代表者）

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部物質生命化学科	職名 准教授	氏名 高山　俊夫	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
思考レベルでの授業参加	平成 6 年 4 月 1 日 ～現在に至る	学生が授業で理解できなかったことや、自分の考えを用紙に書かせるようにした。毎回の授業の終了前に 5～10 分程度で書かせ、その都度回収した（出席のチェックも兼ねる）。そして、次週に学生の質問事項について回答することによって理解度を高めている。（平成 6 年 4 月 1 日～）
授業評価に関するアンケートの結果の活用	平成 6 年 4 月 1 日 ～現在に至る	毎年、前期・後期末に授業評価に関するアンケートを行なった。学生実験では各セクションの終了時に興味のあったテーマ、そうではなかったテーマの理由を集め、次回のテーマ採用の参考にした。その結果を、シラバスに反映した。（平成 6 年 4 月 1 日～）
デイベートの採用	平成 18 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 7 月 20 日	（授業科目：FYS）学生自身の興味・関心・疑問を引き出すために、自分の意見と反する立場に身を置きながらも、自らの立場を論理的に説明し、説得し、自らの意思を貫くための討論を行った。この方法で自分が考えていることが思い込みの多いことを悟り、学生の問題意識を高めることが出来た。
2　作成した教科書、教材		
授業に向けてのプリント作成、パワーポイント	平成 6 年 4 月 1 日 ～現在に至る	授業の理解度を高めるために、教科書以外の書籍からデータを集め編集して学生に配布した。プリントの内容を PDF 化し、パワーポイントで視覚化して興味を集中させた。
無機化学 I・II の教科書	平成 16 年 3 月 25 日 ～平成 18 年 3 月 31 日	1 年次基礎科目の無機化学 I・II を学生の立場にたって作製した教科書で、生協に学生人数分を依頼して作製した。高校時代に化学を履修していない学生や理解しないで大学に来た学生でも理解できるように編集した。必要最小限の内容・ページ数に限ったので、低価格で学生に提供できた。
基礎からの無機化学の出版	平成 18 年 3 月 25 日 ～現在に至る	2005 年までの自作編集した教科書（無機化学 I・II) の成果を踏まえて、新たに 1 著者を加えて全国の大学生向けの基礎的な教科書として「基礎からの無機化学」を（株）朝倉書店から出版した。原子核～原子、溶液～固体の全範囲を網羅した大作である。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
学生実験の学生によるアンケート	平成 6 年 4 月 1 日 ～現在に至る	前期・後期の専修実験、基礎化学実験の修了時に、全学生からアンケートをとり、全教員・TA を含めた全体反省会議を行い、次年度への改善に向けて大いに役立っている。実験に興味を持ったという学生が 5 点満点で 4.4 という高い評価を受けた。
前期・後期授業評価アンケート	平成 16 年 7 月 25 日 ～現在に至る	（授業科目：無機化学 I・II）2004 年度から行われているが、一番新しいアンケートは平成 20 年 7 月に行った。授業内容に関して満足・やや満足が 90%であった。授業方法に関して満足・やや満足が 85%であった。（授業科目：FYS）平成 20 年 7 月に行った。授業内容に関して満足・やや満足が 80%であった。FYS の講義を学生が理解し切れていないことも反映している。授業方法に関して満足・やや満足が 85 %であった。
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
固体 NMR 測定者の実務個別指導担当	平成 2 年 4 月 1 日 ～現在に至る	JEOL270EX 固体 NMR 装置を 19 年間にわたって全てのユーザーに個別指導を行っている。講習を受けた学生にライセンスを与えている。
5　その他		
チュートリアルでの活動	平成 15 年 4 月 1 日 ～現在に至る	毎年 2 回、春と秋に食事を取りながら新入生との意見交換会を行っている。学生の取得単位状況、授業の感想、個々人の生活、アルバイト状況、等を話しながら学生のケアーを取るようにしている。
神奈川大学工学研究所運営委員	平成 16 年 4 月 1 日 ～平成 18 年 3 月 31 日	工学部の研究所である工学研究所の運営委員として企画を担当した。
Jabee 委員会としての活動	平成 19 年 4 月 1 日 ～平成 21 年 3 月 31 日	物生科の Jabee 継続審査のための資料集め、対策会議での検討に参加した。
物生科クラス委員	平成 19 年 4 月 1 日 ～現在に至る	物生科１，２年生クラス委員として活動している。授業の履修の説明、授業に関する相談、学生生活面での悩みなど折にふれ相談している。
応用化学科同窓会委員としての活動	平成 19 年 10 月 1 日 ～現在に至る	5 年前に発足した応用化学科同窓会の学内委員として就任し、委員長の補佐として会計・運営・準備の全てを行っている。
工学部広報委員会としての活動	平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	工学部のオープンキャンパス、工学部通信（教員の業績、研究室紹介、卒論・修論テーマ）発行、工学部ホームページ作成等の業務を行った。
ネットワーク倫理委員会での仕事	平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	全学ネットワーク委員会で問題が生じたときに、検討することになっている。

II　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
無機化学	共著	平成 16 年 3 月	神奈川大学生協		
73Ge NMR Spectroscopy of Organogermanium Compounds；Annual Reports on NMR Spectroscopy , Vol. 54	共著	平成 17 年 3 月	Elsevier Ltd., Amsterdam, Y.Takeuchi and T.Takayama,Edited by G.A.Webb		p.155-200 頁
基礎からの無機化学	共著	平成 18 年 3 月	朝倉書店		
論文					
Preparation of Platium(Ⅱ)Complexes with L-Serine Using KI.X-ray Crystal Structure,HPLC and ^{195}PtNMR Spectra	共著	平成 15 年 9 月	J.Inorg.Biochem.,97(2003)	M.Watabe,T.Takayama	240-248 頁
Cleavage of the SiO-Si$(CH_3)_2$H bond in $Si_8O_{20}[Si(CH_3)_2H]_8$	共著	平成 16 年 4 月	Inorg Chem.Commun.,7,(2004)	I.Hasegawa,T.Takayama	513-515 頁
燃料電池電解質の機能と固体NMRによるその分子運動解明	単著	平成 16 年 11 月	神奈川大学工学研究所所報；第２７号		p.2-13 頁
Substitution of the dimethylsilyl group in Si8O20[Si(CH3)2H]8 for another silyl group	共著	平成 17 年 4 月	Inorganic Chemistry Communication	I.Hasegawa,T.Takayama	159-161 頁
Preparation of platinum(II) complexes with dipeptide and diimine.X-ray crystal structure and ^{195}Pt NMR spectra	共著	平成 18 年 9 月	J.Inorg.Biochem.100	M.Watabe,H.Fukuda,K.Kitsukawa,H.Nakajima,Y.Kawa,S.Igarashi, Y.Fujii,T.Takayama	1653-1659 頁
新規貴金属微粒子を用いた導電性インク、導電性ペーストの製作	共著	平成 19 年 11 月	工学研究所所報（神奈川大学）30	高山俊夫、渡部正利、古川成明	61-69 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
その他					
π－π相互作用を利用した無機高分子－無機高分子のハイブリッド化	共著	平成 15 年 5 月	03-1 高分子学会 NMR 研究会（東京）		
ジペプチドを配位した白金（Ⅳ）錯体の合成	共著	平成 15 年 9 月	第 53 回錯体化学討論会（山形）		155 頁
ポリペプチド銀錯体の構造解析と抗菌活性	共著	平成 15 年 9 月	第 53 回錯体化学討論会（山形）		291 頁
高分子ポリペプチド銀錯体の固体 NMR による構造解析と抗菌活性	共著	平成 15 年 10 月	03-2 高分子学会 NMR 研究会（東京）		
$HNbWO_6$ 層状化合物にインターカレートされた n－アルキルアミンの固体 ^{13}CNMR による構造及び分子運動解明	共著	平成 15 年 11 月	第 42 回 NMR 討論会（大阪）		440 頁
ビピリジンおよびジペプチドを配位した白金（Ⅳ）錯体の合成	共著	平成 16 年 3 月	日本化学会第 84 春季年会（神戸）		607 頁
ジペプチド-Ag（Ⅰ）錯体の構造と抗菌活性との相関	共著	平成 16 年 3 月	日本化学会第 84 春季年会、（神戸）		585 頁
金属イオンの選択的吸着を示す化学修飾無機高分子の固体 NMR による構造解析	共著	平成 16 年 6 月	高分子学会 NMR 研究会（東京）		
ペプチドを配位した白金(II/IV) 錯体の合成	共著	平成 16 年 9 月	第５４回錯体化学討論会（熊本）		p.285 頁
ペプチド金属錯体の構造と抗菌活性	共著	平成 16 年 9 月	第５４回錯体化学討論会（熊本）		p.322 頁
抗菌活性錯体を包摂したシリケートゲルの NMR 法による構造解析	共著	平成 16 年 11 月	第４３回 NMR 討論会（東京）		p.266 頁
ジペプチドを配位したロジウム（III) 錯体の合成	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第８５春季年会（横浜）		
各種活性基を付与した機能性ポリシロキサンの合成とその金属イオンの補足効果	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第８５春季年会（横浜）		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Ag(I) を固定化した機能性ポリシロキサンの合成・構造・抗菌活性	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第８５春季年会（横浜）		
ペプチドを配位したロジウム（III) 錯体の合成	共著	平成 17 年 9 月	第５５回錯体化学討論会（新潟）		p.155 頁
ジペプチドシッフ塩基/ポリシロキサンを用いた金属ナノ粒子の合成と触媒活性	共著	平成 17 年 9 月	第５５回錯体化学討論会（新潟）		p.347 頁
Synthesis,structure and antimicrobial actibity of novel functionalized polysiloxane containing immobilized Ag^{+}	共著	平成 17 年 12 月	PACIFICHEM2005(Hawaii,USA)		
銀ナノ粒子/ポリシロキサンの調整と機能性評価	共著	平成 18 年 3 月	日本化学会、第 86 回春季年会（千葉）		1PC-061 頁
パラジウム含有銀ナノ粒子の錯体化学的合成	共著	平成 18 年 9 月	第５６回錯体化学討論会（広島）	栗田　哲、渡部正利、高山俊夫	
銀パラジウム複合ナノ粒子の合成	共著	平成 19 年 3 月	日本化学会第８７春季年会（大阪）	渡部正利、栗田　哲、高山俊夫	
錯体化学的手法を用いた金属ナノ粒子の合成	共著	平成 19 年 3 月	日本化学会第８７春季年会（大阪）	高山俊夫、引地史郎、渡部正利	
金属酸化物ナノ粒子の合成	共著	平成 19 年 9 月	第 60 回コロイドおよび界面化学討論会（松本）	高山俊夫、引地史郎、渡部正利、田野倉誠	355 頁
貴金属複合ナノ粒子の合成	共著	平成 19 年 9 月	第 60 回コロイドおよび界面化学討論会 (松本）	渡部正利、高山俊夫、田野倉誠	354 頁
新規貴金属微粒子を用いた導電性ペーストの製作	共著	平成 19 年 10 月	テクノフェスタ in 神大（神奈川大学工学研究所）	高山俊夫、渡部正利、古川成明	
ニッケル及びコバルトペルオキソ錯体のアルカン酸化特性	共著	平成 19 年 11 月	第 40 回酸化反応討論会（奈良）	奥田秀穂、高山俊夫、引地史郎	
αーケト酸要求性酸化酵素モデル錯体の反応選択性	共著	平成 19 年 11 月	第４０回酸化反応討論会（奈良）	（池田篤司、高山俊夫、引地史郎	
PVP を用いた貴金属ナノ粒子の新規合成	共著	平成 20 年 3 月	第 88 回日本化学会春季年会（東京）	渡部正利、高山俊夫	4pc-023 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
錯体化学的手法を用いたコア・シェル型ナノ合金の合成	共著	平成 20 年 3 月	第 88 回日本化学会春季年会（東京）	高山俊夫、引地史郎、渡部正利	4pc-022 頁
Ce1-xNd x O2-x 系における欠陥構造のリートベルト解析	共著	平成 20 年 7 月	第 24 回日本セラミックス協会関東支部研究発表会	真鍋明功、萩原健司、高山俊夫、山村　博	
ZrO2-Yb2O3 固溶系の結晶相と電気伝導度	共著	平成 20 年 7 月	第 24 回日本セラミックス協会関東支部研究発表会	川本隼人、八木勇誌、佐竹　淳、高山俊夫、山村　博	
ゾルーゲル法による SnO2 薄膜の作製	共著	平成 20 年 7 月	第 24 回日本セラミックス協会関東支部研究発表会	久保尚弥、川上博司、北村龍介、高山俊夫、山村　博	
サイト欠陥を含むペロブスカイト化合物系の合成と電気伝導度	共著	平成 20 年 7 月	第 24 回日本セラミックス協会関東支部研究発表会	野田博信、川上博司、高山俊夫、山村　博	
新規 B 型希土類酸化物の合成	共著	平成 20 年 7 月	第 24 回日本セラミックス協会関東支部研究発表会	木上輝紀、高山俊夫、山村　博	
固体酸化物形燃料電池用アノード材料の電気的特性	共著	平成 20 年 7 月	第 24 回日本セラミックス協会関東支部研究発表会	坂井雄樹、高山俊夫、山村　博	
CeO2 系蛍石関連化合物の酸化物イオン伝導と誘電緩和現象	共著	平成 20 年 7 月	第 24 回日本セラミックス協会関東支部研究発表会（神奈川）	佐竹　淳、高山俊夫、山村　博	
陽イオンを複合固溶させた ZnO の電気的特性と熱特性の相関性	共著	平成 20 年 7 月	第 24 回セラミックス協会関東支部研究発表会（神奈川）	蝋崎菜美恵、高山俊夫、山村　博	
新規ブラウンミラライト化合物の合成	共著	平成 20 年 7 月	第 24 回日本セラミックス協会関東支部研究発表会（神奈川）	伊藤慈啓、高山俊夫、山村　博	
ゾル・ゲル法によるＺｎＯ薄膜の作製	共著	平成 20 年 9 月	第 21 回日本セラミックス秋季年会シンポジュウム（北九州）	北村龍介、（高山俊夫）、山村　博）	
酸化物半導体 SrO 系試料の熱電素子としての有用性	共著	平成 20 年 9 月	第 21 回日本セラミックス秋季年会シンポジュウム（北九州）	嶋崎佑介、高山俊夫、山村　博	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
CaO を添加した ZrO2 系の酸化物イオン伝導と誘電緩和	共著	平成 20 年 9 月	第 21 回日本セラミックス秋季年会シンポジュウム（北九州）	八木勇誌、高山俊夫、山村　博	
新規ペロブスカイト酸化物の結晶構造と電気伝導	共著	平成 20 年 9 月	第 21 回日本セラミックス秋季年会シンポジュウム（北九州）	三角圭祐、高山俊夫、山村　博	
希土類酸化物で安定した Bi2O3 系における電気伝導度性	共著	平成 20 年 9 月	第 21 回日本セラミックス秋季年会シンポジュウム（北九州）	日笠光朗、高山俊夫、山村　博	
新規複合ブラウンミラライト化合物系の合成	共著	平成 20 年 9 月	第 21 回日本セラミックス秋季年会シンポジュウム（北九州）	伊藤慈啓、高山俊夫、山村　博	
新規複合ブラウンミラライト化合物の合成と結晶化学	共著	平成 20 年 9 月	第 21 回日本セラミックス秋季年会シンポジュウム（北九州）	斉藤美和、高山俊夫、山村　博	
ペロブスカイト関連化合物 Ca-Mn-O 系の熱電特性	共著	平成 20 年 9 月	第 21 回日本セラミックス秋季年会シンポジュウム（北九州）	川上博司、高山俊夫、山村　博	
ゾル・ゲル法による La1-xSrxMnO3 薄膜の光起電力特性	共著	平成 20 年 9 月	第２１回日本セラミックス秋季年会シンポジュウム（北九州）	竹本寛直、居崎枝里子、高山俊夫、山村　博	

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 40 年 6 月～現在に至る	日本化学会会員
昭和 62 年 10 月～現在に至る	高分子学会会員
平成 2 年 4 月～現在に至る	高分子学会 NMR 研究会会員
平成 8 年 12 月～現在に至る	錯体化学学会会員
平成 8 年 12 月～現在に至る	高分子学会無機高分子研究会会員
平成 8 年 12 月～現在に至る	高分子学会高分子錯体研究会会員
平成 9 年 4 月～現在に至る	日本化学会有機結晶部会会員
平成 9 年 4 月～現在に至る	固体 NMR 技術交流会幹事
平成 10 年 4 月～現在に至る	IUPAC 会員
平成 11 年 4 月～現在に至る	日本土壌肥料学会会員
平成 13 年 1 月～現在に至る	固体 NMR 装置の技術紹介幹事・会員
平成 14 年 1 月～現在に至る	日本コンピュータ化学会会員
平成 14 年 2 月～現在に至る	日本核磁気共鳴学会会員
平成 15 年 4 月～平成 21 年 3 月	固体 NMR の技術指導
平成 16 年 4 月～平成 17 年 3 月	（受託研究）(株) 日本ダクロシャムロック「シラン含有表面処理液及びその形成皮膜の NMR 分析」（630 千円）

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部物質生命化学科	職名 准教授	氏名 横山　明弘	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
学生によるアンケート結果の活用	平成 13 年 4 月 1 日 ～平成 17 年 7 月 31 日	（授業科目：応用化学専修実験）授業後のアンケート結果を受け、次年度以降の実験内容や指導方法の変更を行って授業を改善した。
学生によるアンケート結果の活用	平成 13 年 4 月 1 日 ～平成 17 年 7 月 31 日	（授業科目：応用化学演習 I）授業後のアンケート結果を受け、次年度以降の演習問題や解説方法の変更を行い、学生が有機化学の基礎的内容を習得できるように授業を改善した。
学生によるアンケート結果の活用	平成 13 年 9 月 1 日 ～平成 17 年 1 月 31 日	（授業科目：応用化学基礎実験）授業後のアンケート結果を受け、次年度以降の実験内容や指導方法の変更を行って授業を改善した。
学生によるアンケート結果の活用	平成 18 年 4 月 1 日 ～現在に至る	（授業科目：物質生命化学専修実験）授業後のアンケート結果を受け、次年度以降の実験内容や指導方法の変更を行って授業を改善している。
学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 18 年 4 月 1 日 ～現在に至る	（授業科目：物質生命化学演習 I）授業後のアンケート結果を受け、次年度以降の演習問題や解説方法の変更を行い、学生が有機化学の基礎的内容を習得できるように授業を改善している。
学生によるアンケート結果の活用	平成 18 年 9 月 1 日 ～現在に至る	（授業科目：物質生命化学基礎実験）授業後のアンケート結果を受け、次年度以降の実験内容や指導方法の変更を行って授業を改善している。
2　作成した教科書、教材		
応用化学専修実験の教科書（改訂版）執筆	平成 15 年 9 月 1 日 ～平成 16 年 1 月 31 日	標記授業に用いる教科書の改訂版を執筆した。
物質生命化学専修実験の教科書執筆	平成 17 年 9 月 1 日 ～平成 18 年 1 月 31 日	標記授業に用いる教科書を執筆した。
物資生命化学基礎実験の教科書執筆	平成 17 年 9 月 1 日 ～平成 18 年 1 月 31 日	標記授業に用いる教科書を執筆した。
物質生命化学演習 I の教科書執筆	平成 18 年 9 月 1 日 ～平成 19 年 1 月 31 日	標記授業に用いる教科書を執筆した。
物質生命化学専修実験の教科書（改訂版）の編集	平成 19 年 9 月 1 日 ～平成 20 年 1 月 31 日	標記授業に用いる教科書の改訂版を編集した。

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動					
著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
高分子辞典（第３版）	共著	平成 17 年	朝倉書店		
論文					
Bidirectional Propagation of Chain-Growth Polycondensation: Its Application to PEG-Aromatic Polyamide-PEG Triblock Copolymer with Low Polydispersity	共著	平成 15 年 4 月	J. Polym. Sci., Part A: Polym. Chem., 41 (9), 1341-1346 (2003).	Ryuji Sugi, Yoshio Hitaka, Atsushi Sekino, Akihiro Yokoyama, Tsutomu Yokozawa	
Investigation of Aromatic Polyester Synthesis by the Chain-Growth Polycondensation Method	共著	平成 15 年 6 月	Macromolecules, 36 (12), 4328-4336 (2003).	Akihiro Yokoyama, Ken-ichi Iwashita, Kyota Hirabayashi, Kazushige Aiyama, Tsutomu Yokozawa	
分子量と分子量分布を制御した芳香族縮合系高分子の合成	共著	平成 15 年 7 月	ポリイミド最近の進歩 2003, 37-40	横山明弘, 鈴木幸光，杉 龍司，岩下健一，横澤 勉	
Chain-Growth Polycondensation for Aromatic Polyethers with Low Polydispersities: Living Polymerization Nature in Polycondensation	共著	平成 15 年 7 月	Macromolecules, 36 (13), 4756-4765 (2003).	Yukimitsu Suzuki, Shuichi Hiraoka, Akihiro Yokoyama, Tsutomu Yokozawa	
精密縮合系ブロックポリマーと新規熱可塑性エラストマーとしての可能性	共著	平成 15 年 8 月	日本ゴム協会誌, 76 (8), 304-309 (2003).	横澤　勉, 横山明弘	
Synthesis of Well-Defined Poly(p-benzamide) from Chain-Growth Polycondensation and Its Application to Block Copolymers	共著	平成 15 年 9 月	Macromol. Symp., 199 (1), 187-195 (2003).	Tsutomu Yokozawa, Miyuki Ogawa, Atsushi Sekino, Ryuji Sugi, Akihiro Yokoyama	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Chain-Growth Polycondensation of Potassium 3-Cyano-4-fluorophenolate Derivatives for Well-Defined Poly(arylene ether)s	共著	平成 15 年 9 月	Macromol. Symp., 199 (1), 37-46 (2003).	Yukimitsu Suzuki, Shuichi Hiraoka, Akihiro Yokoyama, Tsutomu Yokozawa	
連鎖重縮合による芳香族ポリアミド合成法を利用したブロック共重合体およびスターポリマーの合成	共著	平成 15 年 10 月	高分子加工, 52 (10), 435-442 (2003).	杉 龍司, 横山明弘, 横澤 勉	
Synthesis of Well-Defined Telechelic Aromatic Polyamides by Chain-Growth Polycondensation: Application to the Synthesis of Block Copolymers of Polyamide and Poly(tetrahydrofuran)	共著	平成 15 年 12 月	Macromol. Rapid Commun., 224 (18), 1085-1090 (2003).	Ryuji Sugi, Akihiro Yokoyama, Tsutomu Yokozawa	
Folded Structure of a Cyclic Hexamer of 4-(Methylamino)benzoic Acid in the Crystal	共著	平成 15 年 12 月	Anal. Sci., 19, x67-x68 (2003).	Isao Azumaya, Takako Kato, Akihiro Yokoyama, Tsutomu Yokozawa, Fumiaki Imabeppu, Akio Watanabe, Hiroaki Takayanagi	
連鎖重合で進行する重縮合による新規精密高分子の合成とその自己組織化に関する研究	共著	平成 15 年 12 月	神奈川大学 工学研究所所報, 26, 77-86 (2003).	横澤 勉, 田嶋和夫, 横山明弘, 今井洋子, 鈴木幸光	
Solvent Effect on Chain-Growth Polycondensation for Aromatic Polyethers	共著	平成 16 年 2 月	J. Polym. Sci., Part A: Polym. Chem., 42 (5), 1198-1207 (2004).	Y. Suzuki, S. Hiraoka, A. Yokoyama, T. Yokozawa	
Chain-Growth Polymerization for Poly(3-hexylthiophene) with a Defined Molecular Weight and a Low Polydispersity	共著	平成 16 年 2 月	Macromolecules, 37 (4), 1169-1171 (2004).	Akihiro Yokoyama, Ryo Miyakoshi, Tsutomu Yokozawa	
Chain-Growth Polycondensation: Living Polymerization Nature in Polycondensation and Approach to Condensation Polymer Architecture	共著	平成 16 年 2 月	Polym. J., 36 (2), 65-83 (2004).	Tsutomu Yokozawa, Akihiro Yokoyama	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
分子量と分子量分布を制御したポリチオフェンの合成	共著	平成 16 年 3 月	高分子錯体アニュアルレビュー 2003, 12, 12-13.	横山明弘, 横澤 勉	
Absolute Helical Arrangement of Stacked Benzene Ring in the Crystal: Hetero Double-Helix Consisting of Hydrogen Bonding and Offset Parallel Aromatic-Aromatic Interaction	共著	平成 16 年 3 月	Angew. Chem. Int. Ed., 43 (11), 1360-1363 (2004).	Isao Azumaya, Daisuke Uchida, Takako Kato, Akihiro Yokoyama, Aya Tanatani, Hiroaki Takayanagi, Tsutomu Yokozawa	
Self-Initiated Chain-Growth Polycondensation for Aromatic Polyamides	共著	平成 16 年 3 月	Chem. Lett., 33 (3), 272-273 (2004).	Tsutomu Yokozawa, Ryuji Sugi, Toshinobu Asai, Akihiro Yokoyama	
Synthesis of Poly(3-hexylthiophene) with a Narrower Polydispersity	共著	平成 16 年 10 月	Macromol. Rapid Commun., 25 (19), 1663-1666 (2004).	Ryo Miyakoshi, Akihiro Yokoyama, Tsutomu Yokozawa	
高分子合成化学の最近の進展と接着技術への応用の可能性 (6) 重縮合	共著	平成 17 年 1 月	日本接着学会誌, 41 (2), 72-83 (2005).	横澤 勉, 横山明弘	
金属触媒の分子内移動による特異な重縮合挙動	共著	平成 17 年 4 月	高分子加工, 54 (4), 169-175 (2005).	宮越 亮, 横山明弘, 横澤 勉	
Chain-Growth Polycondensation for Well-Defined Condensation Polymers and Polymer Architecture	共著	平成 17 年 4 月	Chem. Rec. 5 (1), 47-57 (2005).	Tsutomu Yokozawa, Akihiro Yokoyama	
Helical Structure of N-Alkylated Poly(p-benzamide)s	共著	平成 17 年 6 月	J. Am. Chem. Soc., 127 (23), 8553-8561 (2005).	Aya Tanatani, Akihiro Yokoyama, Isao Azumaya, Yoshinori Takakura, Chikashi Mitsui, Motoo Shiro, Masanobu Uchiyama, Atsuya Muranaka, Nagao Kobayashi, Tsutomu. Yokozawa	
Well-Defined Star-Shaped Aromatic Polyamides from Chain-Growth Polycondensation of Phenyl 4-(Alkylamino)benzoate with Multifunctional Initiators	共著	平成 17 年 7 月	Macromolecules, 38 (13), 5526-5531 (2005).	Ryuji Sugi, Yoshio Hitaka, Akihiro Yokoyama, Tsutomu Yokozawa	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
縮合系高分子の長さを制御する-重縮合における分子量と分子量分布の制御	共著	平成 17 年 8 月	現代化学, (8), 18-23 (2005).	横澤 勉, 横山明弘	
Selective Cyclic Trimerization of 4-(Alkylamino)benzoic Acid Dimer Phenyl Esters	共著	平成 17 年 8 月	Chem. Lett., 34 (8), 1128-1129 (2005).	Akihiro Yokoyama, Yuuki Shimizu, Tsutomu Yokozawa	
Inductive Effect-Assisted Chain-Growth Polycondensation. Synthetic Development from para- to meta-Substituted Aromatic Polyamides with Low Polydispersities	共著	平成 17 年 8 月	J. Am. Chem. Soc., 127 (29), 10172-10173 (2005).	Ryuji Sugi, Akihiro Yokoyama, Taniyuki Furuyama, Masanobu Uchiyama,Tsutomu Yokozawa	
Synthesis of Well-Defined Aromatic Polyesters by Chain-Growth Polycondensation under Suppression of Transesterification	共著	平成 17 年 9 月	J. Polym. Sci., Part A: Polym. Chem., 43 (18), 4109-4117 (2005).	Ken-ichi Iwashita, Akihiro Yokoyama, Tsutomu Yokozawa	
Convenient Method of Chain-Growth Polycondensation for Well-Defined Aromatic Polyamides	共著	平成 17 年 10 月	Macromol. Rapid Commun., 26 (19), 979-981 (2005).	Tsutomu Yokozawa, Daichi Muroya, Ryuji Sugi, Akihiro Yokoyama	
重縮合における環状化合物の自発的生成	単著	平成 17 年 11 月	高分子, 54 (11), 822 (2005).		
Effect of Substituent Orientation on Selectivity Between Polymerization and Cyclization: Polycondensation of (Alkylamino)benzoic Acid Dimer Phenyl Esters	共著	平成 17 年 12 月	Macromol. Rapid Commun., 26 (24), 1931-1935 (2005).	Akihiro Yokoyama, Shunsuke Saito, Yuuki Shimizu, Tsutomu Yokozawa	
Catalyst-Transfer Polycondensation. Mechanism of Ni-Catalyzed Chain-Growth Polymerization Leading to Well-Defined Poly(3-hexylthiophene)	共著	平成 17 年 12 月	J. Am. Chem. Soc., 127 (49), 17542-17547 (2005).	Ryo Miyakoshi, Akihiro Yokoyama, Tsutomu Yokozawa	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
リビング重合による縮合系高分子の合成	共著	平成 18 年 4 月	触媒, 48 (3), 189-194 (2006).	宮越 亮, 横山明弘, 横澤 勉	
Solvent and Temperature Effect on Chiral Conformation of Poly(meta-benzamide)s	共著	平成 18 年 4 月	Macromolecules, 39 (7), 2432-2434 (2006).	Kanami Yamazaki, Akihiro Yokoyama, Tsutomu Yokozawa	
Convergent Access to Macrocycles via Reversible Transacetalization	共著	平成 18 年 4 月	Chem. Lett., 35 (4), 424-425 (2006).	Akihiro Yokoyama, Yuuki Nonaka, Daisuke Uchida, Shuichi Hiraoka, Tsutomub Yokozawa	
Novel Water-Soluble Poly(m-benzamide)s: Precision Synthesis and Thermosensitity in Aqueous Solution	共著	平成 18 年 5 月	Macromol. Rapid Commun., 27 (9), 716-721 (2006).	Ryuji Sugi, Tomoyuki Ohishi, Akihiro Yokoyama, Tsutomu Yokozawa	
A Variety of Poly(m-benzamide)s with Low Polydispersities from Inductive-Assisted Chain-Growth Polycondensation	共著	平成 18 年 9 月	J. Polym. Sci., Part A: Polym. Chem., 44 (17), 4990-5003 (2006).	Tomoyuki Ohishi, Ryuji Sugi, Akihiro Yokoyama, Tsutomu Yokozawa	
縮合重合におけるリビング重合系の進展	共著	平成 18 年 11 月	化学と工業, 59 (11), 1160-1163 (2006).	横澤 勉, 横山明弘	
Synthesis of Well-Defined Polythiophene with Oxyethylene Side Chain: Effect of Phosphine Ligands on Catalyst-Transfer Polycondensation	共著	平成 18 年 11 月	Macromolecules, 39 (23), 7793-7795 (2006).	Isao Adachi, Ryo Miyakoshi, Akihiro Yokoyama, Tsutomu Yokozawa	
Catalyst-Transfer Polycondensation for the Synthesis of Poly(p-phenylene) with Controlled Molecular Weight and Low Polydispersity	共著	平成 18 年 12 月	J. Am. Chem. Soc., 128 (50), 16012-16013 (2006).	Ryo Miyakoshi, Kyohei Shimono, Akihiro Yokoyama, Tsutomu Yokozawa	
Chain-growth polycondensation: The living polymerization process in polycondensation	共著	平成 19 年 1 月	Prog. Polym. Sci., 32 (1), 147-172 (2007).	Tsutomu Yokozawa, Akihiro Yokoyama	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Converting Step-Growth to Chain-Growth Condensation Polymerization	共著	平成 19 年 6 月	Macromolecules, 40 (12), 4093-4101 (2007).	Akihiro Yokoyama, Tsutomu Yokozawa	
Chain-Growth Polymerization for the Synthesis of Polyfluorene via Suzuki-Miyaura Coupling Reaction from an Externally Added Initiator Unit	共著	平成 19 年 6 月	J. Am. Chem. Soc. 129, (23), 7236-7237 (2007).	Akihiro Yokoyama, Hirohumi Suzuki, Yasuhiro Kubota, Kazuei Ohuchi, Hideyuki Higashimura, Tsutomu Yokozawa	
Synthesis of Controlled Rod-Coil Block Copolymers by Macroinitiator Method: Chain-Growth Polycondensation for Aromatic Polyamide from Polystyrene Macroinitiator	共著	平成 19 年 7 月	J. Polym. Sci., Part A: Polym. Chem., 45 (14), 3129-3133 (2007).	Sunwook Kim, Yoichi Kakuda, Akihiro Yokoyama, Tsutomu Yokozawa	
Synthesis of Well-Defined Polystyrene-b-Aromatic Polyether Using an Orthogonal Initiator for Atom Transfer Radical Polymerization and Chain-Growth Condensation Polymerization	共著	平成 19 年 8 月	Macromolecules, 40 (15), 5294-5300 (2007).	Naomi Ajioka, Yukimitsu Suzuki, Akihiro Yokoyama, Tsutomu Yokozawa	
Catalyst-Transfer Condensation Polymerization for the Synthesis of Well-Defined Polythiophene with Hydrophilic Side Chain and of Diblock Copolythiophene with Hydrophilic and Hydrophobic Side Chains	共著	平成 19 年 10 月	High Perform. Polym., 19 (5), 684-699 (2007).	Tsutomu Yokozawa, Isao Adachi, Ryo Miyakoshi, Akihiro Yokoyama	
縮合系高分子アーキテクチャーとその自己組織化	共著	平成 19 年 12 月	高分子論文集, 64 (12), 907-921 (2007).	味岡直己, 横山明弘, 横澤 勉	
Base-Promoted Condensation Polymerization of Aminoesters with Diphenylacetylene and trans-Stilbene Backbones	共著	平成 20 年 1 月	Chem. Lett., 37 (1), 8-9 (2008).	Akihiro Yokoyama, Yuuki Shimizu, Jun-ichiro Saito, Tsutomu Yokozawa	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Development of Catalyst-Transfer Condensation Polymerization. Synthesis of π-Conjugated Polymers with Controlled Molecular Weight and Low Polydispersity	共著	平成 20 年 2 月	J. Polym. Sci., Part A: Polym. Chem., 46 (3), 753-765 (2008).	Ryo Miyakoshi, Akihiro Yokoyama, Tsutomu Yokozawa	
Synthesis of Well-Defined Rod-Coil Diblock Copolymer of Aromatic Polyether and Polyacrylonitrile by Chain-Growth Condensation Polymerization and Atom Transfer Radical Polymerization	共著	平成 20 年 4 月	Macromol. Rapid Commun., 29 (8), 665-671 (2008).	Naomi Ajioka, Akihiro Yokoyama, Tsutomu Yokozawa	
One-Pot Synthesis of Cyclic Triamides with a Triangular Cavity from trans-Stilbene and Diphenylacetylene Monomers	共著	平成 20 年 8 月	Org. Lett., 10 (15), 3207-3210 (2008).	Akihiro Yokoyama, Takurou Maruyama, Kei Tagami, Hyuma Masu, Kosuke Katagiri, Isao Azumaya, Tsutomu Yokozawa	
Reaction Control in Condensation Polymerization	共著	平成 20 年 9 月	Adv. Polym. Sci., 217, 1-77 (2008).	Tsutomu Yokozawa, Naomi Ajioka, Akihiro Yokoyama	
Importance of the Order of Successive Catalyst-Transfer Condensation Polymerization in the Synthesis of Block Copolymers of Polythiophene and Poly(p-phenylene)	共著	平成 20 年 10 月	Chem. Lett., 37 (10), 1022-1023 (2008).	Ryo Miyakoshi, Akihiro Yokoyama, Tsutomu Yokozawa	
Precision Synthesis of Poly(N-hyxylpyrrole) and Its Diblock Copolymer with Poly(p-phenylene) via Catalyst-Transfer Polymerization	共著	平成 20 年 10 月	Macromolecules, 41 (20), 7271-7273 (2008).	Akihiro Yokoyama, Akira Kato, Ryo Miyakoshi, Tsutomu Yokozawa	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Synthesis via Chain-Growth Condensation Polymerization and Gelating Properties of a Variety of Block Copolymers of Meta- and Para-Substituted Aromatic Polyamides	共著	平成 20 年 12 月	Macromolecules, 41 (24), 9683-9691 (2008).	Tomoyuki Ohishi, Ryuji Sugi, Akihiro Yokoyama, Tsutomu Yokozawa	
縮合系高分子	共著	平成 21 年 1 月	色材協会誌, 82 (1), 36-42 (2009).	大石智之, 横山明弘, 横澤 勉	
Successive chain-growth condensation polymerization for the synthesis of well-defined diblock copolymers of aromatic polyamide and aromatic polyether	共著	平成 21 年 1 月	Macromol. Rapid Commun., 30 (1), 24-28 (2009).	Akihiro Yokoyama, Tomohiro Masukawa, Yuka Yamazaki, Tsutomu Yokozawa	
Synthesis of Well-Defined Miktoarm Star Copolymers of Aromatic Polyether and Polystyrene by Chain-Growth Condensation Polymerization and Atom Transfer Radical Polymerization	共著	平成 21 年 2 月	Macromolecules, 42 (3), 606-611 (2009).	Yuka Yamazaki, Naomi Ajioka, Akihiro Yokoyama, Tsutomu Yokozawa	
N-アルキル芳香族アミド結合を利用したラセン構造の構築と中空環状化合物の合成	単著	平成 21 年 3 月	超分子研究会アニュアルレビュー, 29, 6-7 (2008).		
その他					
3-シアノ-4-フルオロ-2-プロピルフェノールの連鎖重縮合：アルキル置換異性体モノマーの重合	共著	平成 15 年 5 月	第 52 回 高分子学会年次大会 （名古屋）		
ATRP と連鎖重縮合による分子量分布の狭いポリスチレン-b-ポリエーテルの合成	共著	平成 15 年 5 月	第 52 回 高分子学会年次大会 （名古屋）		
芳香族ポリアミドとポリエチレングリコールのスターブロック共重合体の合成	共著	平成 15 年 5 月	第 52 回 高分子学会年次大会 （名古屋）		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
分子量分布の狭いポリ (p-ベンズアミド) を含む二元および三元ブロック共重合体の合成とその自己組織化	共著	平成 15 年 5 月	第 52 回 高分子学会年次大会 （名古屋）		
分子量分布の狭い芳香族ポリエステルの合成とその液晶性	共著	平成 15 年 5 月	第 52 回 高分子学会年次大会 （名古屋）		
連鎖重縮合とリビングカチオン重合による分子量分布の狭い芳香族ポリアミド-b-ポリテトラヒドロフランの合成	共著	平成 15 年 5 月	第 52 回 高分子学会年次大会 （名古屋）		
連鎖重縮合とリビングアニオン重合による分子量分布の狭い芳香族ポリアミド-b-ポリスチレンの合成	共著	平成 15 年 5 月	第 52 回 高分子学会年次大会 （名古屋）		
2-ブロモ-5-ヨード-3-ヘキシルチオフェンの Ni 触媒連鎖重縮合によるポリチオフェンの分子量と分子量分布の制御	共著	平成 15 年 5 月	第 52 回 高分子学会年次大会 （名古屋）		
主鎖・側鎖同時構築重合法による水溶性ポリエーテルの合成およびモデル化合物による水中における挙動	共著	平成 15 年 5 月	第 52 回 高分子学会年次大会 （名古屋）		
アミノアルキル基の異なる芳香族ポリアミドのスターブロック共重合体の合成	共著	平成 15 年 5 月	第 52 回 高分子学会年次大会 （名古屋）		
機能性高分子のナノサイズ組織体形成とその電気伝導性の発現	共著	平成 15 年 9 月	日本化学会 第 56 回 コロイドおよび界面化学討論会 (徳島)		
二官能性開始剤からの ATRP と連鎖重縮合によるポリスチレンと芳香族ポリエーテルとのジブロック共重合体の合成	共著	平成 15 年 9 月	第 52 回 高分子討論会 (山口)		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
3-アルキルアミノ安息香酸メチルの連鎖重縮合によるメタ置換芳香族ポリアミドの分子量および分子量分布の制御	共著	平成 15 年 9 月	第 52 回 高分子討論会（山口）		
Ni 触媒連鎖重縮合による分子量および分子量分布の制御されたポリヘキシルチオフェンの合成とその重合機構	共著	平成 15 年 9 月	第 52 回 高分子討論会（山口）		
マクロモノマーを用いた主鎖・側鎖共に分子量分布の狭いポリスチレン-graft-芳香族ポリアミドの合成	共著	平成 15 年 9 月	第 52 回 高分子討論会（山口）		
芳香族ポリアミドとポリスチレンの Rod-Coil ブロック共重合体の合成とその自己組織化	共著	平成 15 年 9 月	第 52 回 高分子討論会（山口）		
Absolute Helical Arrangement of Stacked Benzene Rings in Crystal	共著	平成 15 年 10 月	Molecular Chirality 2003（Shizuoka）	I. Azumaya, D. Uchida, T. Kato, A. Yokoyama, H. Takayanagi, T. Yokozawa	5/6-9 頁
Epitaxial and Electroconductive Properties of Self-assembly Fabricated with Aromatic Polyether on Si-Wafer	共著	平成 15 年 10 月	1st International Meeting on Applied Physics（Spain）	K. Tajima, Y. Imai, M. Takayanagi, T. Yokozawa, A. Yokoyama, Y. Suzuki, M. Takahashi, K. Kobayashi	
シクロデキストリンを保護基とする連鎖重縮合の開発	共著	平成 15 年 11 月	第 46 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム（新潟）	中澤正徳, 横山明弘, 横澤 勉	B-11 (p 95-96) 頁
置換位置の異なるアルキルアミノ安息香酸二量体類の選択的環化反応	共著	平成 16 年 3 月	日本化学会第 84 春季年会（西宮）	齋藤俊介, 清水勇気, 横山明弘, 横澤 勉	2J8-32 (p II-1204) 頁
連鎖重縮合によるスター型芳香族ポリアミドの合成とその重合機構	共著	平成 16 年 3 月	日本化学会第 84 春季年会（西宮）	杉 龍司, 肥高良雄, 横山明弘, 横澤 勉	2J8-33 (p II-1204) 頁
ポリヘキシルチオフェン合成におけるニッケル触媒の位置選択的な反応性	共著	平成 16 年 3 月	日本化学会第 84 春季年会（西宮）	宮越 亮, 横山明弘, 横澤 勉	2B1-47 (p II-697) 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
シクロデキストリンを保護基とするジエステルの選択的加水分解	共著	平成 16 年 3 月	日本化学会第 84 春季年会（西宮）	落合祐介, 中澤正徳, 横山明弘, 横澤勉	4K2-10 (p II-1264) 頁
芳香環スタッキングを利用した自己集合による大環状アセタールの合成	共著	平成 16 年 3 月	日本化学会第 84 春季年会（西宮）	内田大介, 野仲祐樹, 横山明弘, 横澤勉	4K2-11 (p II-1264) 頁
酸触媒アセタール交換反応を利用したかご型分子の構築	共著	平成 16 年 3 月	日本化学会第 84 春季年会（西宮）	御子柴和文, 内田大介, 横山明弘, 横澤 勉	4K2-12 (p II-1264) 頁
誘起効果による連鎖重縮合～メタ置換芳香族ポリアミドの分子量と分子量分布の制御～	共著	平成 16 年 5 月	第 53 回高分子学会年次大会（神戸）	杉 龍司, 横山明弘, 横澤 勉	1E16 (p 298) 頁
エチニレン基で連結した二芳香環モノマーの連鎖重縮合	共著	平成 16 年 5 月	第 53 回高分子学会年次大会（神戸）	清水勇気, 斉藤淳一郎, 横山明弘, 横澤 勉	1E17 (p 299) 頁
置換位置の異なるアルキルアミノ安息香酸二量体類の重合	共著	平成 16 年 5 月	第 53 回高分子学会年次大会（神戸）	斉藤俊介, 清水勇気, 横山明弘, 横澤勉	1E18 (p 300) 頁
N-置換芳香族ポリアミドのらせん構造	共著	平成 16 年 5 月	第 53 回高分子学会年次大会（神戸）	棚谷 綾, 稲垣夕子, 横山明弘, 杉 龍司, 東屋 功, 横澤 勉	1E19 (p 301) 頁
シクロデキストリン包接モノマーを用いた水相—有機相における連鎖重縮合	共著	平成 16 年 5 月	第 53 回高分子学会年次大会（神戸）	中澤正徳, 横山明弘, 横澤 勉	1E20 (p 302) 頁
Ni 触媒連鎖重縮合におけるポリヘキシルチオフェンの末端構造解析と末端官能基化	共著	平成 16 年 5 月	第 53 回高分子学会年次大会（神戸）	宮越 亮, 横山明弘, 横澤 勉	2D10 (p 243) 頁
ケト基を有する二官能性開始剤を用いた ATRP と連鎖重縮合によるポリスチレン-b-芳香族ポリエーテルの合成	共著	平成 16 年 5 月	第 53 回高分子学会年次大会（神戸）	味岡直己, 鈴木幸光, 横山明弘, 横澤勉	3F06 (P 409) 頁
鎖長の制御された芳香族ポリアミドからなる Core 架橋型星型ポリマーの合成	共著	平成 16 年 5 月	第 53 回高分子学会年次大会（神戸）	藤井修一, 岩崎正利, 横山明弘, 横澤勉	2F15 (p 391) 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
ポルフィリン骨格を核に有する 4 本鎖星型ポリアミドの合成とその自己組織化	共著	平成 16 年 9 月	第 53 回高分子討論会（札幌）	吉野和男, 横山明弘, 横澤 勉	2D01 (p 2622-2623) 頁
アームファースト法によるジビニル化合物を用いたコア架橋型・星型ポリアミドの合成	共著	平成 16 年 9 月	第 53 回高分子討論会（札幌）	藤井修一, 岩崎正利, 横山明弘, 横澤勉	2D02 (p 2624-2625) 頁
芳香族ポリエーテルとポリスチレンの分子量分布の狭い結晶性―非昌性ブロック共重合体の合成とその自己組織化	共著	平成 16 年 9 月	第 53 回高分子討論会（札幌）	味岡直己, 鈴木幸光, 横山明弘, 横澤勉	2D05 (p 2630-2631) 頁
N-アルキル芳香族オリゴおよびポリアミドのらせん構造	共著	平成 16 年 9 月	第 53 回高分子討論会（札幌）	横山明弘, 棚谷 綾, 高倉淑範, 東屋功, 横澤 勉	2E05 (p 2893-2894) 頁
誘起効果で重縮合を精密に制御する重合反応設計	共著	平成 16 年 9 月	第 53 回 高分子討論会（札幌）	杉 龍司, 横山明弘, 横澤 勉	3D10 (p 2676-2677) 頁
分子量分布が狭くかつ分子量制御されたポリヘキシルチオフェンの合成	共著	平成 16 年 11 月	第 13 回ポリマー材料フォーラム（名古屋）	宮越 亮, 横山明弘, 横澤 勉	
化学の世界に迷い込んで…	単著	平成 17 年 1 月	第 7 回応化専攻セミナー		
簡便な連鎖重縮合法の開発と制御された芳香族ポリアミド-graft-ポリテトラヒドロフラン合成への応用	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会（横浜）	杉 龍司, 楯 大輔, 室谷大地, 横山明弘, 横澤 勉	2B7-31 頁
ポリヘキシルチオフェンを与える連鎖重合における遷移金属触媒の影響	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会（横浜）	宮越 亮, 横山明弘, 横澤 勉	2B3-27 頁
分子量分布が狭く様々な溶解性を示す N-アルキルポリ (m-ベンズアミド) の合成	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会（横浜）	大石智之, 杉 龍司, 横山明弘, 横澤 勉	2B7-32 頁
ナフタレン骨格の置換基効果を利用した連鎖重縮合	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会（横浜）	笠間潤也, 横山明弘, 横澤 勉	2B7-33 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
N-アルキルポリおよびオリゴ (p-ベンズアミド) のUV スペクトルとらせんの関係	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会（横浜）	稲垣夕子, 棚谷 綾, 横山明弘, 横澤 勉	
芳香族ポリエーテルとポリスチレンの結晶性−非結晶性−結晶性トリブロック共重合体の合成とその自己集積化	共著	平成 17 年 5 月	第 54 回高分子学会年次大会（横浜）	味岡直己, 横山明弘, 横澤 勉	2Pe007 (p 486) 頁
側鎖にオキシエチレン鎖を導入した分子量分布の狭いポリチオフェンの合成とNi 触媒配位子の重要性	共著	平成 17 年 5 月	第 54 回高分子学会年次大会 (横浜）		
二官能性開始剤を用いたATRP と連鎖重縮合による分子量分布の狭いポリメチルメタクリレート−b−芳香族ポリエーテルの合成	共著	平成 17 年 5 月	第 54 回高分子学会年次大会（横浜）	安堂智之, 味岡直己, 横山明弘, 横澤勉	2Pf008 (p 487) 頁
ポルフィリン骨格を核とする種々の４本鎖星型ポリアミドの合成とその性質	共著	平成 17 年 5 月	第 54 回高分子学会年次大会（横浜）	吉野和男, 横山明弘, 横澤 勉	1Pg023 (p 307) 頁
パラジウム触媒による AB 型モノマーの π-アリル錯体を経由する重合挙動	共著	平成 17 年 5 月	第 54 回高分子学会年次大会（横浜）	迎居秋絵, 須山絵里奈, 横山明弘, 横澤 勉	1Ph060 (p 344) 頁
オリゴエチレングリコール側鎖を持つ水溶性ポリ (m-ベンズアミド) の合成とその溶液特性	共著	平成 17 年 5 月	第 54 回高分子学会年次大会（横浜）	大石智之, 杉 龍司, 横山明弘, 横澤 勉	1Pf062 (p 302) 頁
アミノ基のオルト位にメチル基を有するポリ (p-ベンズアミド) 類の合成およびその特異な構造	共著	平成 17 年 5 月	第 54 回高分子学会年次大会（横浜）	新山哲朗, 横山明弘, 横澤 勉	1Pe061 (p 301) 頁
m-アルキルアミノ安息香酸二量体エステルの連鎖重縮合	共著	平成 17 年 5 月	第 54 回高分子学会年次大会（横浜）	佐藤武仁, 横山明弘, 横澤 勉	1Ph046 (p 330) 頁
N-アルキルポリ (p-ベンズアミド) の共重合体組成とらせん構造の関係	共著	平成 17 年 5 月	第 54 回高分子学会年次大会（横浜）	稲垣夕子, 横山明弘, 横澤 勉	2Pb032 (p 380) 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Synthesis of Polyhexylthiophene with Controlled Molecular Weights and Low Polydispersities.	共著	平成 17 年 7 月	The 8th SPSJ International Polymer Conference（IPC2005, Fukuoka）	Ryo Miyakoshi, Akihiro Yokoyama, Tsutomu Yokozawa	27P2G1-192B (p 561) 頁
Synthesis and Self-assembly of Well-defined Block Copolymer of Aromatic Polyether and Polystyrene	共著	平成 17 年 7 月	The 8th SPSJ International Polymer Conference（IPC2005, Fukuoka）	Naomi Ajioka, Akihiro Yokoyama, Tsutomu Yokozawa	27P2G1-192b (p 561) 頁
Condensation Polymers of Defined Architecture from Chain-Growth Polycondensation	共著	平成 17 年 7 月	The 8th SPSJ International Polyemr Conference（IPC2005, Fukuoka）	Tsutomu Yokozawa, Akihiro Yokoyama	27B18IL (p 70) 頁
N-アルキル化ポリ (p-ベンズアミド) のラセン構造	共著	平成 17 年 9 月	第 54 会高分子討論会（山形）	小林長夫, 村中厚哉, 棚谷 綾, 横山明弘, 東屋 功, 城 始勇, 内山真伸, 横澤 勉	3B09 (p 2800) 頁
種々性質の異なるポリ (m－ベンズアミド) の連鎖重縮合を用いた合成	共著	平成 17 年 9 月	第 54 回高分子討論会（山形）	大石智之, 横山明弘, 横澤 勉	3Pc009 (p 2681) 頁
疎水性および親水性キラル側鎖を持つメタ置換芳香族ポリアミドのらせん構造	共著	平成 17 年 9 月	第 54 回高分子討論会（山形）	山崎加奈美, 横山明弘, 横澤 勉	2Pc021 (p 2577) 頁
ポルフィリン骨格を有する 4 本鎖星型ポリアミドおよび直鎖状ポリアミドの合成とその性質	共著	平成 17 年 9 月	第 54 回高分子討論会（山形）	吉野和男, 横山明弘, 横澤 勉	2Pa033 (p 2547) 頁
ポリアルキルチオフェンを与える連鎖重縮合の一般性 -触媒、脱離基、アルキル基の影響-	共著	平成 17 年 9 月	第 54 回高分子討論会（山形）	宮越 亮, 安達 勲, 横山明弘, 横澤 勉	2Pb014 (p 2528) 頁
m-アミノ安息香酸二量体エステルを用いた二種類の N-アルキル側鎖をもつ交互共重合体の合成	共著	平成 17 年 9 月	第 54 回高分子討論会（山形）	佐藤武仁, 横山明弘, 横澤 勉	3Pd010 (p 2682) 頁
Synthesis and specific structure of Well-defined poly(p-benzamide)s having methyl group at the ortho position of the amino group	共著	平成 17 年 12 月	International Chemical Congress of Pacific Basin Societies（Honolulu）	T. Niiyama, A. Yokoyama, T. Yokozawa	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Synthesis and Self-Assembly of Well-defined Block Copolymers of Aromatic Polyether and Polystyrene	共著	平成 17 年 12 月	International Chemical Congress of Pacific Basin Societies（Honolulu）	N. Ajioka, A. Yokoyama, and T. Yokozawa	
Selective Hydrolysis of Diesters with Cyclodextrin as a Supramolecular Protecting Group	共著	平成 17 年 12 月	International Chemical Congress of Pacific Basin Societies（Honolulu）	Y. Ochiai, A. Yokoyama, T. Yokozawa	
Development of new chain-growth polycondensaiton in rotaxane system	共著	平成 17 年 12 月	Pacific Polymer Conference IX（Maui）	A. Mukai, E. Suyama, A. Yokoyama, T. Yokozawa	
Copolymers of Chiral N-Aklylated p-Benzamide and Their Helical Conformations	共著	平成 17 年 12 月	Pacific Polymer Conference IX（Maui）	Y. Inagaki, A. Yokoyama, T. Yokozawa	
光学活性な側鎖を持つメタ置換芳香族ポリアミドのキラルコンフォメーション	共著	平成 18 年 5 月	第 55 回高分子学会年次大会 (名古屋)	山崎加奈美, 横山明弘, 横澤 勉	3F13 (p 419) 頁
スチルベン骨格を有するモノマーの選択的環化反応による環状アミドの合成	共著	平成 18 年 5 月	第 55 回高分子学会年次大会（名古屋）	丸山拓郎, 横山明弘, 横澤 勉	2F08 (p 385) 頁
種々の m-および p-置換芳香族ポリアミドジブロック共重合体の合成	共著	平成 18 年 5 月	第 55 回高分子学会年次大会（名古屋）	大石智之, 杉 龍司, 横山明弘, 横澤 勉	2F03 (p 380) 頁
Ni 触媒移動型連鎖重縮合によるポリ (p-フェニレン) の合成	共著	平成 18 年 5 月	第 55 回高分子学会年次大会（名古屋）	下野恭平, 宮越 亮, 横山明弘, 横澤 勉	1D31 (p 226) 頁
遷移金属触媒を用いたポリヘキシルチオフェンの合成における重合機構の解明	共著	平成 18 年 5 月	第 55 回高分子学会年次大会（名古屋）	宮越 亮, 横山明弘, 横澤 勉	1D30 (p 225) 頁
オキシエチレン鎖を有するポリチオフェンの合成：最適化した配位子を用いた Ni 触媒移動型連鎖重縮合	共著	平成 18 年 5 月	第 55 回高分子学会年次大会（名古屋）	安達 勲, 宮越　亮, 横山明弘, 横澤 勉	1D29 (p 224) 頁
制御された芳香族ポリアミドをマクロ開始剤として用いたコア架橋型・星型ポリマーの合成	共著	平成 18 年 5 月	第 55 回高分子学会年次大会（名古屋）	藤井修一, 横山明弘, 横澤 勉	1F29 (p 375) 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
連鎖重縮合条件下の AB2 モノマーの重合による分子量分布の狭い多分岐芳香族ポリアミドの合成	共著	平成 18 年 5 月	第 55 回高分子学会年次大会（名古屋）	太田佳宏, 藤井修一, 横山明弘, 横澤勉	1F28 (374) 頁
親水性側鎖を有する芳香族ポリアミドの合成とその自己組織化	共著	平成 18 年 5 月	第 55 回高分子学会年次大会（名古屋）	八幡幸太郎, 吉野和男, 横山明弘, 横澤 勉	1F27 (373) 頁
分子量と分子量分布を制御したポリベンゾオキサゾールの合成	共著	平成 18 年 5 月	第 55 回高分子学会年次大会（名古屋）	新山哲朗, 横山明弘, 横澤 勉	1E13 (p 283) 頁
固相に固定化したモノマーを用いる連鎖重縮合の開発	共著	平成 18 年 5 月	第 55 回高分子学会年次大会（名古屋）	根岸亮太, 根本 卓, 樋口尚志, 横山明弘, 横澤 勉	1E12 (p 282) 頁
Mechanism of Ni-Catalyzed Chain-Growth Polymerization for Well-Defined Poly(3-Hexylthiophene)	共著	平成 18 年 8 月	1st European Chemistry Congress 2006 (Budapest)	R. Miyakoshi, A. Yokoyama, T. Yokozawa	M-PO-59 (p 293) 頁
Synthesis and Self-Assembly of Aromatic Polyether-b-Polystyrene-b-Aromatic Polyether with Fluoro-Telechelic Polystyrene	共著	平成 18 年 8 月	1st European Chemistry Congress 2006 (Budapest)	N. Ajioka, A. Yokoyama, T. Yokozawa	M-PO-2 (p 280) 頁
Catalyst-Transfer Polycondensation for the Synthesis of Well-Defined Poly(p-phenylene)	共著	平成 18 年 8 月	1st European Chemistry Congress 2006 (Budapest)	A. Yokoyama, K. Shimono, R. Miyakoshi, and T. Yokozawa	M-PO-104 (p 303) 頁
AB2 モノマーの連鎖重縮合法による分子量分布の狭い多分岐芳香族ポリアミドの合成	共著	平成 18 年 9 月	第 55 回高分子討論会（富山）	太田佳宏, 藤井修一, 横山明弘, 横澤勉	3Pa033 (p 2936) 頁
N-キラル側鎖およびアキラル側鎖を有するポリ (p-ベンズアミド) 共重合体のらせん構造	共著	平成 18 年 9 月	第 55 回高分子討論会（富山）	小野朋弥, 稲垣夕子, 横山明弘, 横澤勉	3Pc009 (p 2947) 頁
酸触媒による新規連鎖重縮合法の開発	共著	平成 18 年 9 月	第 55 回高分子討論会（富山）	味噌 豊, 横山明弘, 横澤 勉	2Pc009 (p 2853) 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
芳香環上にオクチル基を導入した分子量分布の狭いパラ置換芳香族ポリアミドの合成	共著	平成 18 年 9 月	第 55 回高分子討論会（富山）	唐澤 諒, 新山哲朗, 横山明弘, 横澤 勉	2Pc005 (p 2850) 頁
種々の m- および p-置換芳香族ポリアミドジブロック共重合体の合成と有機溶媒に対するゲル化能	共著	平成 18 年 9 月	第 55 回高分子討論会（富山）	大石智之, 横山明弘, 横澤 勉	2D12 (p 2613-2614) 頁
連鎖重縮合による芳香族ポリエーテルと ATRP よるポリアクリロニトリルとの分子量分布の狭い rod-coil ジブロック共重合体の合成	共著	平成 18 年 9 月	第 55 回高分子討論会（富山）	味岡直己, 横山明弘, 横澤 勉	1D07 (p 2563-2564) 頁
内部空洞を有する環状アミド化合物の合成と構造１－ジフェニルアセチレン骨格環状アミドと結晶構造－	共著	平成 19 年 3 月	日本化学会第 87 回春季年会（大阪）	田上 慶, 丸山拓郎, 横山明弘, 横澤 勉, 片桐幸輔, 東屋 功	1E2-11 頁
内部空洞を有する環状アミド化合物の合成と構造２－スチルベン骨格環状アミドと結晶構造－	共著	平成 19 年 3 月	日本化学会第 87 回春季年会（大阪）	丸山拓郎, 田上 慶, 横山明弘, 横澤 勉, 片桐幸輔, 東屋 功	1E2-12 頁
分子内水素結合を利用したチューブ構造の構築を目指した芳香族オリゴアミドの合成と立体構造	共著	平成 19 年 3 月	日本化学会第 87 回春季年会（大阪）	成瀬陽平, 山崎加奈美, 横山明弘, 横澤 勉	1E2-37 頁
スカンジウムトリフラートによる N-アシルラクタムの選択的開環反応	共著	平成 19 年 3 月	日本化学会第 87 回春季年会（大阪）	味噌 豊, 横山明弘, 横澤 勉	3C7-10 頁
芳香族ポリエーテルと PMMA のブロック共重合体によるナノ中空構造ミセルの構築	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会（京都）	安堂智之, 味岡直己, 横山明弘, 横澤 勉	2Pf024 (p 498) 頁
アンモニウム塩型シリカゲル担体に固体化したモノマーを用いる連鎖重縮合重合の開発－モデル反応と重合	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会（京都）	根岸亮太, 横山明弘, 横澤 勉, 加部義夫, 山口和夫	1Pe049 (p 308) 頁
触媒移動型縮合重合によるポリフェニレン－ block －ポリチオフェンの合成	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会（京都）	宮越 亮, 横山明弘, 横澤 勉	1Pf008 (p 267) 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
親水性および疎水性側鎖を有するポリチオフェンジブロック共重合体の触媒移動型連鎖縮合重合による合成	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会（京都）	安達 勲, 宮越 亮, 横山明弘, 横澤 勉	1Pe009 (p 268) 頁
金属移動縮合重合によるポリ (N-アルキルピロール) の合成	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会（京都）	加藤 明, 横山明弘, 横澤 勉	1Pf010 (p 269) 頁
Pd 触媒移動型連鎖縮合重合を目指したポリパラフェニレン合成における重合挙動の解析	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会（京都）	河野晴彦, 横山明弘, 横澤 勉	1Pe011 (p 270) 頁
連鎖縮合重合における置換基効果の速度論的解析	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会（京都）	佐藤武仁, 横山明弘, 横澤 勉	1Pe047 (p 306) 頁
ポルフィリン骨格を有する種々の m-置換 4 本鎖星型ポリアミドの合成とその性質	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会（京都）	吉野和男, 横山明弘, 横澤 勉	Pa031 (p 377) 頁
アームファースト法によるコア架橋型メタ置換星型ポリアミドの合成	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会（京都）	益川友宏, 大石智之, 横山明弘, 横澤勉	2Pb032 (p 378) 頁
多官能性開始剤からの AB2 モノマーの連鎖縮合重合による分子量分布の狭いハイパーブランチポリアミドの合成	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会（京都）	太田佳宏, 横山明弘, 横澤 勉	2Pa033 (p 379) 頁
芳香族ポリアミドの水素結合を利用した可逆的架橋高分子	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会（京都）	白倉忠彦, 横山明弘, 横澤 勉	2Pb034 (p 380) 頁
２つの光学活性側鎖がクラウンエーテル型の構造になるポリ (p-ベンズアミド) の合成と、そのらせん構造に及ぼす金属塩の効果	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会（京都）	山崎加奈美, 横山明弘, 横澤 勉	2Pd024 (p 434) 頁
キラルな側鎖を持つポリナフタレンカルボキサミドのらせん構造に対する溶媒と温度の効果	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会（京都）	巳上幸一郎, 横山明弘, 横澤 勉	2Pc025 (p 435) 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
芳香族ポリエーテル(APE) とポリスチレン(PS) による、分子量分布の狭いミクトアームスターコポリマー (PS)2(APE) の合成とその自己集積化	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会 （京都）	山崎由香, 味岡直己, 横山明弘, 横澤勉	2Pf023 (p 497) 頁
Synthesis of Poly(p-benzamide)s Bearing α-Branched Chiral Alkyl Side Chain and Investigation of Their Chiral Conformation	共著	平成 19 年 7 月	The 4th International Symposium on Advanced Materials in Asia-Pacific Rim (ISAMAP) (Niigata)	T. Saiki, A. Yokoyama, T. Yokozawa	
Investigation of Catalyst-Transfer Condensation Polymerization for the Synthesis of Well-Defined Polypyridine	共著	平成 19 年 7 月	The 4th International Symposium on Advanced Materials in Asia-Pacific Rim (ISAMAP) (Niigata)	Y. Nanashima, A. Yokoyama, T. Yokozawa	
Synthesis of a Variety of Well-Defined N-aklyl Poly(m-benzamide)s and Their Block Copolymers by Chain-Growth Condensation Polymerization	共著	平成 19 年 7 月	The 4th International Symposium on Advanced Materials in Asia-Pacific Rim (ISAMAP) (Niigata)	T. Ohishi, A. Yokoyama, T. Yokozawa	
Development of Chain-Growth Condensation Polymerization of Monomer Immobilized on Solid-Support: Model Reaction and Polymerization	共著	平成 19 年 7 月	The 4th International Symposium on Advanced Materials in Asia-Pacific Rim (ISAMAP) (Niigata)	R. Negishi, Y. Kabe, K. Yamaguchi, A. Yokoyama, T. Yokozawa	
AB2 モノマーの連鎖縮合重合によるハイパーブランチポリアミドの分子量と分子量分布の制御	共著	平成 19 年 9 月	第 56 回高分子討論会（名古屋）	太田佳宏，横山明弘，横澤 勉	
触媒移動重合によるπ共役高分子の精密合成	共著	平成 19 年 9 月	第 56 回高分子討論会（名古屋）	横山明弘，宮越 亮，安達 勲，下野恭平，加藤 明，横澤 勉	
芳香族ポリエーテルとポリスチレンとの分子量分布の狭いミクトアームスターコポリマーの合成	共著	平成 19 年 9 月	第 56 回高分子討論会（名古屋）	山崎由香，味岡直己，横山明弘，横澤 勉	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
ポルフィリン骨格を有する種々の４本鎖星型ポリアミドおよび同ブロック共重合体の合成とその性質	共著	平成 19 年 9 月	第 56 回高分子討論会（名古屋）	吉野和男，横山明弘，横澤 勉	
鎖長の制御された種々のm-置換芳香族ポリアミドによる星型ポリマーの合成	共著	平成 19 年 9 月	第 56 回高分子討論会（名古屋）	益川友宏，大石智之，横山明弘，横澤 勉	
遷移金属触媒の分子内移動によるπ共役高分子の精密合成	共著	平成 19 年 10 月	第 54 回有機金属化学討論会（広島）	横山明弘，宮越 亮，安達 勲，下野恭平，加藤 明，横澤 勉	
連鎖縮合重合を利用したテレケリックメタ置換芳香族ポリアミドの合成	共著	平成 20 年 3 月	日本化学会第 88 春季年会（東京）	大石智之，横山明弘，横澤 勉	
アンモニウム塩を用いる固相ー液相連鎖縮合重合	共著	平成 20 年 3 月	日本化学会第 88 春季年会（東京）	根岸亮太，加部義夫，山口和夫，横山明弘，横澤 勉	
アミド結合の連続構築反応による環状アミド構造の合成	共著	平成 20 年 3 月	日本化学会第 88 春季年会（東京）	唐澤 諒，谷口 正尚，横山明弘，横澤 勉	
Synthesis of Cyclic Triamides Bearing Intermolecular Interaction Moieties by LiHMDS-Assisted Cyclocondensation of Aminoesters	共著	平成 20 年 3 月	日本化学会第 88 春季年会（東京）	葛 子義，横山明弘，横澤 勉	
ベンゼン環上にアルコキシ基を有するポリ (m-ベンズアミド) および環化三量体の合成	共著	平成 20 年 5 月	第 57 回高分子学会年次大会 （横浜） 1E05	鈴木俊也, 大石智之, 横山明弘, 片桐幸輔, 東屋 功, 横澤 勉	
Pd 触媒移動型連鎖縮合重合によるポリ (p-フェニレン) の合成とその重合挙動	共著	平成 20 年 5 月	第 57 回高分子学会年次大会 (横浜) 1E06	河野晴彦, 横山明弘, 横澤　勉	
種々の AB2 モノマーの連鎖縮合重合による分子量分布の狭いハイパーブランチポリアミドの合成	共著	平成 20 年 5 月	第 57 回高分子学会年次大会 (横浜) 1F-17	上條祐介, 太田佳宏, 横山明弘, 横澤勉	
２本の芳香族ポリエーテル鎖と１本のポリスチレン鎖を持つミクトアームスターコポリマーの合成	共著	平成 20 年 5 月	第 57 回高分子学会年次大会 (横浜) 1F21	山崎由香, 味岡直己, 横山明弘, 横澤勉	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
光学活性なトリエチレングリコール側鎖を持つポリ(ナフタレンカルボキサミド) のらせん構造とそのキラルーアキラル共重合体のコンフォメーション	共著	平成 20 年 5 月	第 57 回高分子学会年次大会 (横浜) 2F17	巳上幸一郎, 大工原裕楊, 横山明弘, 横澤 勉	
第二級と第三級アミド結合を交互に有するポリ (p-ベンズアミド) の合成とらせん構造に対する溶媒と温度の効果	共著	平成 20 年 5 月	第 57 回高分子学会年次大会 (横浜) 2F18	成瀬陽平, 横山明弘, 横澤 勉	
α-位が分岐したキラルオリゴエチレングリコール側鎖を有するポリ (p-ベンズアミド) の合成とらせん構造に及ぼす溶媒の効果	共著	平成 20 年 5 月	第 57 回高分子学会年次大会 (横浜) 2F19	斎木智秋, 横山明弘, 横澤　勉	
Synthesis and Structure Elucidation of Cyclic Triamide with trans-Stibene and Diphenylacetylene Units	共著	平成 20 年 7 月	The 3rd Joint International Symposium on Macrocyclic & Supramolecular Chemistry (III ISMSC) (Las Vegas)	A. Yokoyama, T. Maruyama, K. Tagami, H. Masu, K. Katagiri, I. Azumaya, T. Yokozawa	
Solvent and Temperature Effect on Helical Conformation of Poly(naphthalenecarboxamide)s Bearing Chiral Tri(ethylen glycol) Side Chain	共著	平成 20 年 7 月	The 3rd Joint International Symposium on Macrocyclic & Supramolecular Chemistry (III ISMSC) (Las Vegas)	K. Mikami, A. Yokoyama, T. Yokozawa	
Effect of Solvent and Temperature on Helical Conformation of Poly(p-benzamide)s Consisting of Alternating Secondary and Tertiary Amide Bonds	共著	平成 20 年 7 月	The 3rd Joint International Symposium on Macrocyclic & Supramolecular Chemistry (III ISMSC) (Las Vegas)	Y. Naruse, A. Yokoyama, T. Yokozawa	
Poly(p-benzamide)s Bearing α-Branched Chiral Oligo(ethyle n e glycol) Side Chain: Solvent Polarity-Driven Helical Induction	共著	平成 20 年 7 月	The 3rd Joint International Symposium on Macrocyclic & Supramolecular Chemistry (III ISMSC) (Las Vegas)	T. Saiki, A. Yokoyama, T. Yokozawa	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Synthesis of Poly(m-benzamide) and Cyclic Trimer Having Alkoxy Group on the Benzene Ring by Condensation Polymerization Method	共著	平成 20 年 7 月	The 3rd Joint International Symposium on Macrocyclic & Supramolecular Chemistry (III ISMSC) (Lasvegas)	T. Ohishi, T. Suzuki, A. Yokoyama, T. Yokozawa	
Synthesis of Well-Definded Hyperbranched Polyamides by Chain-Growth Condensation Polymerization of AB2 Monomer	共著	平成 20 年 7 月	The 3rd Joint International Symposium on Macrocyclic & Supramolecular Chemistry (III ISMSC) (Las Vegas)	Y. Ohta, A. Yokoyama, T. Yokozawa	
Thin-Film Transistors Based on Poly(3-hexylthiophene) with Well-defined Molecular Structure	共著	平成 20 年 7 月	The 8th International Symposium on Functional π-Electron Systems (Graz)	R. Azumi, M. Ikawa, N. Suganuma, Y. Yoshida, M. Chikamatsu, K. Yase, R. Miyakoshi, A. Yokoyama, T. Yokozawa	
Synthesis of Well-Defined Aromatic Polyamide-b-Polystyrene by Combination of Chain-Growth Condensation Polymerization and Controlled/Living Radical Polymerization	共著	平成 20 年 8 月	236th American Chemical Society National Meeting (Philadelphia) 381	T. Masukawa, S. Fujii, A. Yokoyama, T. Yokozawa	
Synthesis of Well-Defined Miktoarm Star Copolymers Consisting of Aromatic Polyethers and Polystyrenes by Chain-Growth Condensation Polymerization and Atom Transfer Radical Polymerization	共著	平成 20 年 8 月	236th American Chemical Society National Meeting (Philadelphia) 380	Y. Yamazaki, N. Ajioka, A. Yokoyama, T. Yokozawa	
UV and CD studies of poly(naphthalenecarboxamide)s with chiral tri(ethylene glycol) side chain	共著	平成 20 年 9 月	Polycondensation 2008 (Tokyo) 63	K. Mikami, H. Daikuhara, A. Yokoyama, T. Yokozawa	
Synthesis of a Variety of Hyperbranced Polyamides with Low Polydispersity by Chain-Growth Condensation Polymerization of AB2 Monomers	共著	平成 20 年 9 月	Polycondenssation 2008 (Tokyo) 27	Y. Ohta, Y. Kamijyo, A. Yokoyama, T. Yokozawa	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Controlled Synthesis of AB2 Miktoarm Star Copolymers by Chain-Growth Condensation Polymerization and ATRP	共著	平成 20 年 9 月	Polycondensation 2008 （Tokyo） 40	Y. Yamazaki, N. Ajioka, A. Yokoyama, T. Yokozawa	
Synthesis of Well-Defined Rod-Coil Block Copolymers Consisting of Aromatic Polyamide and Polystyrene	共著	平成 20 年 9 月	Polycondensation 2008 （Tokyo） 43	T. Masukawa, S. Fujii, A. Yokoyama, T. Yokozawa	
２本の芳香族ポリエーテル鎖と１本のポリスチレン鎖を持つミクトアームスター共重合体の合成と自己集積化	共著	平成 20 年 9 月	第 57 回高分子討論会（大阪） 2D03	山崎由香, 味岡直己, 横山明弘, 横澤勉	
N-キラル側鎖およびアキラル側鎖を有するポリ (ナフタレンカルボキサミド) のらせん構造	共著	平成 20 年 9 月	第 57 回高分子討論会（大阪） 2D08	巳上幸一郎, 大工原祐揚, 横山明弘, 横澤 勉	
連鎖縮合重合とリビングラジカル重合による鎖長の制御された芳香族ポリアミドとポリスチレンのジブロック共重合体の合成	共著	平成 20 年 9 月	第 57 回高分子討論会（大阪） 2D18	益川友宏, 藤井修一, 横山明弘, 横澤勉	
AB2 モノマーの連鎖縮合重合による分子量と分子量分布の制御されたハイパーブランチポリアミドの合成	共著	平成 20 年 9 月	第 57 回高分子討論会 (大阪) 1G19	太田佳宏, 上條祐介, 横山明弘, 横澤勉	
触媒移動型連鎖縮合重合によるポリピリジンの合成検討	共著	平成 20 年 9 月	第 57 回高分子討論会（大阪） 2Pa013	七島 祐, 宮越 亮, 横山明弘, 横澤 勉	
連鎖縮合重合による芳香族ポリアミドと芳香族ポリエーテルとの分子量分布の狭いロッド-ロッドジブロック共重合体の合成	共著	平成 20 年 9 月	第 57 回高分子討論会（大阪） 2Pc025	益川友宏, 山崎由香, 横山明弘, 横澤勉	
縮合重合によるベンゼン環上にアルコキシ基を有するポリ (m-ベンズアミド) 環化三量体の合成	共著	平成 20 年 9 月	第 57 回高分子討論会（大阪） 2Pd026	大石智之, 鈴木俊也, 横山明弘, 横澤勉	

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
平成 5 年 12 月～現在に至る	日本薬学会会員
平成 8 年 12 月～現在に至る	有機合成化学協会会員
平成 10 年 8 月～現在に至る	光化学協会会員
平成 11 年 12 月～現在に至る	日本化学会会員
平成 13 年 5 月～現在に至る	高分子学会会員
平成 14 年 1 月～現在に至る	アメリカ化学会会員
平成 15 年 4 月～平成 17 年 3 月	科学研究費補助金 若手研究 (B) 3,500 千円 （環状モノマー間に複数の共有結合を同時構築する重合法を用いた有機ナノチューブの合成）（研究代表者）
平成 16 年 7 月～平成 17 年 5 月	財団法人 横浜学術教育振興財団 300 千円 （環状モノマーの立体的な重合による有機ナノチューブの合成）（研究代表者）
平成 16 年 9 月～平成 17 年 8 月	公益信託 三菱化学研究奨励基金 1,000 千円 （二つの共有結合を同時構築する新規重合法の開発）（研究代表者）
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	科学研究費補助金 若手研究 (B) 3,700 千円 （ポリ（パラベンズアミド）のらせん構造の精密制御と有機ナノチューブへの展開）（研究代表者）
平成 20 年 4 月～平成 23 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 (C) 3,700 千円 （モノマー間に２つのアミド結合を連続構築する反応を用いたラダーポリマーの精密合成）（研究代表者）

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部物質生命化学科	職名 助教	氏名 赤井　昭二	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 実験実習でのデジタル画像の活用	平成 19 年 4 月 1 日	物質生命化学実験において、デジタル写真やムービーを活用した教材を独自に作成し、実験方法・操作ならびに理論の修得を視覚的にも捉えられるように行っている。効果については、断定できないが、実験操作を確実に修得できるもの割合が増えたと感じられる。
2　作成した教科書、教材 1-2 年次用実験実習テキスト「物質生命化学基礎実験・物質生命化学実験 1・2（有機化学系）」（分担） 「物質生命化学実験 1・2」の教材の作成	平成 18 年 4 月 1 日 ～平成 18 年 9 月 30 日 平成 19 年 4 月 1 日	学科名称の変更にともない、新たな実験実習用テキストを作成した。講義科目との関連性を重視し、実習が効果的となるよう実験テーマを見直して、テキストを作成した。 デジタルカメラやビデオで実際の操作を撮影し、視覚的に実習に取り組めるような説明用パワーポイントを作成し、毎回、授業説明を行っている。特に化学物質の扱い・保管等に関連する法令・条例などについても講義している。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
“ Practical synthesis of [1-13C]- and [6-13C]-D-galactose ”	共著	平成 15 年 5 月	Tetrahedron Lett., 44(26), (2003).		4903-4907 頁
“ Synthesis of D-ruburanitrose by using a novel method for constructing function-alized branched-chain structures ”	共著	平成 16 年 3 月	Tetrahedron Lett.,45(27),(2004).		1523-1525 頁
“ An improved method for synthesizing an-tennary beta-D-mannopyranosyl dis-accharide units ”	共著	平成 16 年 11 月	Tetrahedron Lett.,45(44),(2004).		8199-8201 頁
”Practical synthesis of D-[1-13C]mannose, L-[1-13C] and L-[6-13C]fucose”	共著	平成 17 年 1 月	Tetrahedron Lett.,46(2), (2005).		237-243 頁
”Novel and stereocon-trolled synthesis of (+/-)-tetrodotoxin from myo-inositol”	共著	平成 17 年 9 月	J. Org. Chem.70, (19)	Ken-ichi Sato, Shoji Akai, Naoki Sugita, Tadatsugu Ohsawa, Tomokazu Kogure, Hirotsugu Shoji, Juji Yoshimura	7496-7504 頁
”Convenient construc-tion of a variety of glycosidic linkages using a universal glucosyl donor”	共著	平成 17 年 10 月	Tetrahedron Lett., 46(43)		7411-7414 頁
”A novel method for regioselective ring opening reduction of 4,6-O-benzylidene acetal derivatives of hexopyra-nosides with CoCl2 and BH3/THF”	共著	平成 19 年 4 月	Tetrahedron Lett., 48(17), (2007).	Shinki Tani, Sho Sawadi, Masaru Kojima, Shoji Akai and Ken-ichi Sato	3103-3104 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
”The use of 2-O-propagyloxycarbonyl protecting group in the selective formation of 1,2-trans-glycosidic linkages”	共著	平成 19 年 5 月	Tetrahedron Lett., 48(25), (2007).		4000-4001 頁
”The first total synthesis of telephiose A”	共著	平成 19 年 5 月	Tetrahedron Lett., 48(20), (2007).	Ken-ichi Sato, Koudai Sakai, Keiko Tsushima, Shoji Akai	3333-3334 頁
”Stereoselective and Efficient Total Synthesis of Optically Active Tetrodotoxin from D-Glucose”	共著	平成 20 年 2 月	J. Org. Chem.73,（4）	Ken-ichi Sato,* Shoji Akai, Hirotsugu Shoji, Naoki Sugita, Tomokazu Kogure, Yoshinao Nagai, Katsuhiko Suzuki, Yutaka Nakamura, Yasuhiro Kajihara, Masuo Funabashi,1 and Juji Yoshimura2	1234-1242. 頁
”Total Syntheses of Bistratamides J, E, and H from Two Types of dehydroAla-Containing Oligopeptides”	共著	平成 20 年 4 月	Bull. Chem. Soc. Jpn.81,（4）	Hiroyuki Suzuki, Masanori Andoh, Yasuchika Yonezawa, Shoji Akai, Chung-gi Shin, and Ken-ichi Sato	495-501. 頁
”Thioester-assisted alpha-sialylation reaction”	共著	平成 20 年 7 月	Tetrahedron Lett.49,（43）	S. Hanashima, S. Akai, K. Sato	5111-5114 頁
その他					
「新規α-ヒドロキシアルデヒド分枝鎖構築法を鍵反応とする天然産分枝糖の合成研究」	共著	平成 15 年 5 月	第 45 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム（群馬シンポジウム）(桐生).		
「^{13}C 標識化２糖・受容タンパク質複合状態での糖鎖の新規 NMR 構造解析法の研究」	共著	平成 15 年 5 月	第 45 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム（群馬シンポジウム）(桐生).		
「フェニルカルバモイル基の特性を利用するグリコシル化反応による実用的な糖鎖の合成研究」	共著	平成 15 年 5 月	第 45 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム（群馬シンポジウム）(桐生).		
「フェニルカルバモイルの特性を利用した効率的な糖鎖の合成研究」	共著	平成 15 年 11 月	第 46 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム（新潟シンポジウム）(新潟).		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
「^{13}C 標識化 Sialyl Le^{X} mimetics の合成」	共著	平成 15 年 11 月	第 46 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム (新潟シンポジウム)(新潟).		
「^{13}C 標識化 D-mannose の合成」	共著	平成 16 年 3 月	日本化学会第 84 春季年会 (兵庫).		
「L-Arabinose を出発原料とする L-[1-^{13}C]　Fucose の効率的合成」	共著	平成 16 年 3 月	日本化学会第 84 春季年会 (兵庫).		
「プロパギルオキシカルボニル基の隣接基関与を利用するグリコシル化反応の立体制御」	共著	平成 16 年 3 月	日本化学会第 84 春季年会 (兵庫).		
「D-グルコースおよび myo-イノシトールを出発原料とするテトロドトキシンの全合成」	共著	平成 16 年 10 月	第 30 回反応と合成の進歩シンポジウム, 講演要旨集 (札幌).		274-275 頁
「*myo*-イノシトール出発原料とする (±) −テトロドトキシンの全合成」	共著	平成 16 年 11 月	第 48 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム (新潟シンポジウム), 講演要旨集 (新潟).		127-128 頁
「Telephiose A の新規合成」	共著	平成 16 年 11 月	第 48 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム (新潟シンポジウム), 講演要旨集 (新潟).		180-181 頁
「9 炭糖 KDN をキラルシントンとする Polyhydroxy indolizidine 類の合成」	共著	平成 16 年 11 月	第 48 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム (新潟シンポジウム), 講演要旨集 (新潟).		184-185 頁
「D-グルコースを出発原料とする光学活性テトロドトキシンの合成」	共著	平成 16 年 11 月	第 48 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム (新潟シンポジウム), 講演要旨集 (新潟).		129-130 頁
「アセナフテンキノンと 3-オキソ-1,5-ペンタン二酸ジエチルとの新奇な Knoevenagel 1：2 縮合体　単離と構造決定」	共著	平成 16 年 11 月	第 48 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム (新潟シンポジウム), 講演要旨集 (新潟).		57-58 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
「簡便な geminal 炭素—炭素分枝鎖構築法の開発」	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会講演予稿集 2，2A2-32（横浜）.		849 頁
「同一中間体を経由する 1 位 ^{13}C 標識体 D-mannose、D-glucose、D-GlcNAc, 及び D-ManNAc の効率的合成」	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会講演予稿集 2，2A2-40（横浜）.		851 頁
「ストレプトースおよび関連分枝糖の系統的合成」	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会講演予稿集 2，1A2-32（横浜）.		839 頁
「*N*-フェニルカルバモイル基及びプロパギルオキシカルボニル基を用いる Durhamycin 構成糖の合成研究」	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会講演予稿集 2，1A2-33（横浜）.		839 頁
「フラノディクティン類の新規かつ短工程での合成」	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会講演予稿集 2，2A2-02（横浜）.		844 頁
「D-Glucose を出発原料とする Lanceolin C の合成研究」	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会講演予稿集 2，1A2-40（横浜）.		841 頁
「Ferrier 反応を鍵とする光学活性テトロドトキシンの合成」	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会講演予稿集 2，2A2-39（横浜）.		851 頁
「D-グルコースおよび *myo*-イノシトールを出発原料とするテトロドトキシンの立体選択的合成」	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会講演予稿集 2，2A2-37（横浜）.		850 頁
「9 炭糖 KDN を出発原料とする天然産シアル酸類の合成」	共著	平成 17 年 3 月	日本化学会第 85 春季年会講演予稿集 2，2A2-18,（横浜）.		847 頁
「新規抗生物質の開発を目的とした分枝糖 D-Rubranitrose 含有二糖誘導体の合成」	共著	平成 17 年 5 月	第 49 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム (横浜シンポジウム), 講演要旨集 (横浜).		138-139 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
「フラノディクシン類の効率的合成」	共著	平成 17 年 5 月	第 49 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム (横浜シンポジウム), 講演要旨集 (横浜).		50-51 頁
「テトロドトキシンの全合成」	共著	平成 17 年 7 月	第 25 回日本糖質学会年会，要旨集（大津）.		72 頁
「同一中間体からの Durhamycin B および Olivomycin A 構成三糖の合成研究」	共著	平成 17 年 11 月	第 50 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム (新潟 (長岡) シンポジウム), 講演要旨集,.		192-193 頁
”Total Syntheses of Tetrodotoxin from myo-Inositol and D-Glucose”	共著	平成 18 年 7 月	23rd International Carbohydrate Symposium, Abstract (Canada, Whistler).		280 頁
”Effective Syntheses of Important 13C-Labeled Monosaccharides and Bioactive Oligosaccharides by Using Novel 13C-Labeling Strategy”	共著	平成 18 年 8 月	23rd International Carbohydrate Symposium, Abstracts (Canada, Whistler).		129 頁
「新規四級炭素構築法の開発」	共著	平成 18 年 8 月	第 26 回日本糖質学会年会, 要旨集（仙台）.		130 頁
「D-グルコースを出発原料とする Lophiroside および Lanceolin の合成研究」		平成 18 年 8 月	第 26 回日本糖質学会年会，要旨集（仙台）.		129 頁
「ビサボラン セスキテルペン トリオールの合成研究」	共著	平成 18 年 12 月	第 52 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム（新潟シンポジウム), 講演要旨集（新潟）.		xxx 頁
「塩化コバルトを用いるベンジリデンアセタールの新規開裂法」	共著	平成 18 年 12 月	第 52 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム（新潟シンポジウム), 講演要旨集（新潟）.	谷真樹, 澤地翔, 小島勝, 赤井昭二, 佐藤憲一	37-38 頁
「グリコシド化反応に対する新規ライトフルオラス保護基の隣接基関与効果と効率的精製法の検討」	共著	平成 19 年 8 月	第 27 回日本糖質学会年会（福岡), 要旨集.	小島 勝，星　秀和，赤井昭二，中村　豊，武内征司，佐藤憲一.	159. 頁
「棘皮動物由来新規ガングリオシド LLG-3 の合成研究」	共著	平成 19 年 8 月	第 27 回日本糖質学会年会（福岡)，要旨集.	石川大地，花島慎弥，赤井昭二，佐藤憲一	152 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
「ポリアゾール系抗生物質の合成に向けた簡便なオキサゾール構築法」	共著	平成 19 年 10 月	第 37 回複素環化学討論会（長野），講演予稿集.	長屋昭裕，鈴木宏幸，米沢養躬，赤井昭二，辛重基，佐藤憲一	241 頁
「デヒドロペプチドを用いたビストラタミド類の系統的合成」	共著	平成 19 年 10 月	第 37 回複素環化学討論会（長野），講演予稿集.	鈴木宏幸，安藤正倫，赤井昭二，米沢養躬，辛重基，佐藤憲一	69 頁
「チオエステル供与体を用いたα-選択的シアリル化反応の開発」	共著	平成 19 年 12 月	第 54 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム (新潟シンポジウム)，講演要旨集.	花島慎弥，増田綾子，赤井昭二，佐藤憲一	162-163 頁
「グリコシド化反応に対する新規ライトフルオラス保護基の隣接基関与効果」	共著	平成 19 年 12 月	第 54 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム (新潟シンポジウム)，講演要旨集.	小島 勝，星　秀和，赤井昭二，中村　豊，武内征司，佐藤憲一	164-165 頁
「N-Glycolyl Sialyl Phosphite を用いたシアリル化の検討」,	共著	平成 20 年 8 月	第 28 回日本糖質学会年会（つくば），要旨集	花島慎弥，冨谷卓，石川大地，赤井昭二，佐藤憲一	186 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
平成 5 年 10 月～現在に至る	日本化学会会員
平成 5 年 11 月～現在に至る	有機合成化学協会会員
平成 8 年 5 月～現在に至る	日本糖質学会会員
平成 9 年 4 月～現在に至る	日本農芸化学会会員
平成 9 年 4 月～現在に至る	日本薬学会会員
平成 15 年 4 月～平成 16 年 3 月	科学研究費補助金 若手研究 (B) 2,200 千円 （各種抗生物質含有分枝糖の体系的合成と機能解明）（研究代表者）
平成 18 年 4 月～平成 19 年 3 月	（受託研究）株式会社ファンケル　総合研究所「「フェルラ酸配糖体の合成とその生理活性に関する研究」」（1,000 千円）
平成 18 年 4 月～現在に至る	（国内共同研究）新潟薬科大学「「新規ライトフルオラス保護基の開発とそれを用いた糖鎖の迅速合成」」
平成 19 年 4 月～現在に至る	科学研究費補助金 若手研究 (B) 2,500 千円 （テトロドトキシン新規誘導体の合成と構造－活性相関の解明）（研究代表者）

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部情報システム創成学科	職名 教授	氏名 今井　崇雅	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
毎回の小テストの採用	平成 19 年 4 月 1 日 ～現在に至る	（授業科目：コースワーク I、III、VI、プログラミング演習 I、マルチメディア、ネットワーク工学 (ネットワーク工学は 2009.4 月～)）前回授業のポイントの再認識と、各学生の修得度確認と修得度向上を狙いとして、毎回授業開始時に 5～10 分程度の小テストを行っている。小テスト解答用紙回収直後に、解答と導出の考え方を講義することによる反復学習による学修効果も狙っている。
輪講の採用	平成 19 年 4 月 1 日 ～現在に至る	（授業科目：経営工学演習）(1) 学生による専門知識の主体的な学習方法、(2) 理解したことを他の学生に系統だって説明する能力、(3) 分かりやすい発表方法、それぞれの修得を狙いとして輪講を行っている。テキストには、基礎的事項から記載している専門書を用い、必要に応じて、説明内容の補足を行うことで、正しい知識をわかりやすく把握、理解することにも配慮している。
研究室配属学生への教員スケジュールの公開、学生による指導予約システムの採用	平成 19 年 10 月 1 日 ～現在に至る	（授業科目：卒業研究）研究室配属学生が研究指導を受けやすい環境とすることを狙いとして、研究室教員のスケジュールを公開している。公開には汎用のスケジューラを用い、研究室の PC により配属学生はいつでも確認可能である。加えて、スケジューラを用いた指導時間の予約も可能である。当然のことながら、予約がなくても可能な限り指導希望に応じている。
文部科学省特色ある大学教育支援プログラム平成 16-19 年度事業「コアリッションによる工学教育の相乗的改革」活動報告会参加及び卒業研究指導への活用	平成 19 年 11 月 28 日 ～現在に至る	（授業科目：卒業研究）旧帝大を中心とした 8 大学による、科学技術創造立国を担う国際競争力ある人材の育成との課題への 4 年間の取り組み活動の報告会に参加し、今後の大学教育のあり方の指針となる多くの情報を入手した。また、237 頁にわたって活動内容の詳細をまとめた資料も入手し、卒業研究指導をはじめとした教育に役立てている。例えば、卒業研究テーマとして就職後の業務に役立ちそうなテーマを立案させるなどして、本人のやる気を引き出すと共に大学での教育が実社会に出てから当人にも役立つようにすることにより、社会から期待されている大学の役割も最大限担えるように工夫している。
FD 講演会「初年次教育における教育目標とそれを達成する方法論」（法政大学、藤田哲也）の聴講と FYS への活用	平成 20 年 3 月 3 日 ～現在に至る	（授業科目：ファーストイヤーセミナー）初年次教育に関する法政大学での取り組みを把握の上、2009 年度に担当する初年次教育（FYS) の準備に活用している。（注：2008 年度は FYS を担当していない為、準備活動に止まっている）例えば、学生自身の気づきの重視、授業への参加と振り返りの促し、などを取り入れた授業準備を進めている。

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
平成 19 年度私立大学の授業改善白書（私立情報教育協会、2008 年 5 月発行）の活用	平成 20 年 5 月 ～現在に至る	（授業科目：コースワーク I、III、VI、プログラミング演習 I、マルチメディア）　白書に記載されている授業の問題点を踏まえ、記載されている改善策を事業で活用している。例えば、授業シナリオの工夫、教材の簡素化と学生への要点メモの記載を促す施策などである。
2　作成した教科書、教材		
「企業経済学」の講義内容のポイントを記した資料の配布	平成 19 年 9 月 30 日 ～平成 20 年 1 月 15 日	授業のポイント理解促進をねらいとして、毎回授業のポイントを A4 1 枚程度に記した資料の配布を実施。
「マルチメディア」の講義内容のポイントを記した資料の配布	平成 19 年 9 月 30 日 ～現在に至る	学生による講義のポイント理解度向上を狙いとして、毎回、授業ポイントを問題形式で記載した A4 用紙 1 枚程度の資料を配布している。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		
FD 講演会「立教大学の教育改善と大学教育開発・支援センタ」（立教大学、今田昌子、2009 年 6 月 27 日）の聴講と授業改善への活用	平成 19 年 6 月 27 日 ～現在に至る	立教大学での FD への取り組み情報を収集し、今後の授業改善への活用を図っている。例えば、FD が求められるようになった社会背景などの整理結果などの情報を、今後の授業改善の方向を考える上で役立てている。

II　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
光技術総合事典	共著	平成 16 年 12 月	オプトロニクス社	分担執筆。執筆者 250 名。	66-67 頁
やさしい光ファイバ通信	共著	平成 18 年 11 月	電気通信協会	執筆者：今井崇雅、中島隆、山内修、灰原正、三川泉、清水正利	84-124, 151-169 頁
論文					
Efficiently Accommodation of IP Traffic by Employing WDM-Channel-Count Asymmetric Bidirectional optical Amplifiers	共著	平成 15 年 11 月	IEICE Trans. Common.,IEICE Trans. Common.,Vol. E86-B, No.11, pp. 3174-3181.	M. Sumida, T. Kubo and T. Imai	pp. 3174-3181 頁
Access Network Technology for Diverse Services	単著	平成 17 年 6 月	NTT Technical review,Vol. 3, No. 6, pp. 13-19.		pp. 13-19 頁
Super-multichannel WDM-PON using Heterodyne Detection with Novel Polarization Diversity	共著	平成 17 年 7 月	The 10th Optoelectronics and Communications Conference (OECC2005), July 4-8, 2005, Seoul, Korea, Tech. Dig. pp. 372-373.	H. Sanjo, S. Narikawa, N. Sakurai, K. Kumozaki and T. Imai	pp. 372-373. 頁
New 156M/2.5Gbit/s Multi-rate SFP Transceiver with Automatic Sensitivity Switching	共著	平成 17 年 7 月	The 10th Optoelectronics and Communications Conference (OECC2005), July 4-8, 2005, Seoul, Korea,Tech. Dig. pp. 204-205.	T. Yoshida, S. Kimura, H. Kimura, K. Kumozaki and T. Imai	pp. 204-205. 頁
Coherent WDM-PON using Directly Modulated Local Laser for Simple Heterodyne Transceiver	共著	平成 17 年 9 月	31th Europen conference on optical communication (ECOC2005), Sept. 25-29, 2005, Glasgow, Scotland, UK,Tech. Dig. We3.3.2.	S. Narikawa, H. Sanjo, N. Sakurai, K. Kumozaki, and T. Imai	Tech. Dig. We3.3.2. 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
First Single-fibre Bi-directional XFP Transceiver for Optical Metro/Access Networks	共著	平成 17 年 9 月	31th Europen conference on optical communication (ECOC2005), Sept. 25-29, 2005, Glasgow, Scotland, UK,Tech. Dig. We4. P.021.	T. Yoshida, S. Kimura, K. Kumozaki and T. Imai	Tech. Dig. We4. P.021. 頁
A New Single-fiber 10Gbit/s Optical Loop-back Method using Phase Modulation for WDM Optical Access Network	共著	平成 18 年 2 月	IEEE J. Lightwave Technol.,Vol. 24, No. 2, pp. 786-796.	T. Yoshida, S. Kimura, H. Kimura, K. Kumozaki and T. Imai	pp. 786-796 頁
Full-Duplex 1Gbps 60 GHz-band Radio-On-Fiber Access based on Loop-Back Optical Heterodyne Technique	共著	平成 18 年 3 月	Optical Fiber Communication Conference(OFC2006),Tech. Dig. OWG-5.	T. Taniguchi, N. Sakurai, K. Kumozaki, and T. Imai	Tech. Dig. OWG-5. 頁
Multi-Wavelength Monitoring Technique Dithering Temperature of Directly-Modulated Laser-diodes	共著	平成 18 年 6 月	IEE Electron. Lett., Vol. 42, No. 13, pp.770-771.	M. Fujiwara, H. Suzuki, N. Yoshimoto, K. Iwatsuki, and T. Imai	pp.770-771. 頁
Optical multiplexing technologies using incoherent light sources for access-area applications	共著	平成 18 年 7 月	IEEE J. Sel. Top. Quantum Electron.Vol. 12, No.4, pp. 661-668.	Y. Kani, K. Iwatsuki and T. Imai	pp. 661-668 頁
Next Generation Optical Access Networks: possible directions and Technical Challenges	共著	平成 18 年 9 月	32th Europen conference on optical communication (ECOC2006),Tech. Dig. TH 2-2-3.	J. Kani, N. Yoshimoto, K. Iwatsuki, and T. Imai	Tech. Dig. TH 2-2-3. 頁
Coherent WDM-PON based on Heterodyne Detection with Digital Signal Processing for Simple ONU Structure	共著	平成 18 年 9 月	32th Europen conference on optical communication (ECOC2006),Tech. Dig. Tu3.5.7.	S. Narikawa, N. Sakurai, K. Kumozaki and T. Imai	Tech. Dig. Tu3.5.7. 頁
Full-Duplex 60 GHz Radio-On-Fibre Access Employing Loop-Back Optical Heterodyne Technique and High power/Speed SOA	共著	平成 18 年 9 月	32th Europen conference on optical communication (ECOC2006),Tech. Dig. Tu1.6.2.	T. Taniguchi, N. Sakurai, K. Kumozaki and T. Imai	Tech. Dig. Tu1.6.2. 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
A Remote Wavelength Setting Procedure based on for Wavelength Sensing Random Access (λ-RA) for Power-Splitter-Based WDM-PON	共著	平成 18 年 9 月	32th Europen conference on optical communication (ECOC2006),Tech. Dig. We.3.P.157.	H. Suzuki, M. Fujiwara, T. Suzuki, N. Yoshimoto, K. Iwatsuki, and T. Imai	Tech. Dig. We.3.P.157. 頁
Recent Advances in Optical Access Technologies	共著	平成 18 年 10 月	Optics East,Tech. Dig. Session 4, No. 6390-09.	J. Kani, N. Yoshimoto, K. Iwatsuki, and T. Imai	No. 6390-09. 頁
FTTH Systems: Deployment and Next Challenges	単著	平成 19 年 1 月	Tenth International Symposium on Contemporary Photonic Technology, Tokyo, Japan,Tech. Dig. B-2, pp. 17-20,		Tech. Dig. B-2, pp. 17-20, 頁
A 10.3125-Gbit/s SiGe BiCMOS burst-mode 3R receiver for 10G-EPON systems	共著	平成 19 年 3 月	Optical Fiber Communication Conference(OFC2007),Tech. Dig. PDP8.	S. Nishihara, S. Kimura, T. Yoshida, M. Nakamura, J. Terada, K. Nishimura, K. Kishine, K. Kato, Y. Ohtomo and T. Imai	Tech. Dig. PDP8. 頁
Centralized Wavelength Monitoring/ Stabilization Technique by Dithering Temperature of LD in Power-Splitter-Based WDM-PON	共著	平成 19 年 3 月	Optical Fiber Communication Conference(OFC2007),Tech. Dig. JWA84.	M. Fujiwara, H. Suzuki, N. Yoshimoto and T. Imai	Tech. Dig. JWA84. 頁
New High-Optical Routing Architecture Based on First-Come-First-Serve Principle	共著	平成 19 年 3 月	Optical Fiber Communication Conference(OFC2007),Tech. Dig. JThA 63.	T. Yamada, S. Kimura, K. Iwatsuki and T. Imai	Tech. Dig. JThA 63. 頁
Loop-Back Optical Heterodyne Technique for 1.0 Gbit/s data transmission over 60 GHz Radio-On-Fiber Uplink	共著	平成 19 年 6 月	IEEE J. Lightwave Technol.,Vol. 25, No. 6, pp.1484-1494.	T. Taniguchi, N. Sakurai, K. Kumozaki and T. Imai	pp.1484-1494 頁
Colorless and plug-and-play technologies for WDM access over existing power-splitter-based infrastructure	共著	平成 19 年 7 月	Optical Society of America, Journal of Optical Networking,Vol. 6, No. 7, pp. 830-839.	H. Suzuki, M. Fujiwara, T. Suzuki, N. Yoshimoto, K. Iwatsuki, and T. Imai	pp. 830-839. 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Simple Multi-wavelength Stabilization Technique Using a Peridic Optical Filter for WDM Access Networks	共著	平成 19 年 7 月	The 12th Optoelectronics and Communications Conference (OECC2007),Tech. Dig.11, A2-3.	T. Suzuki, H. Suzuki, M. Fujiwara, N. Yoshimoto, K. Iwatsuki, and T. Imai	Tech. Dig.11, A2-3. 頁
Simple and cost effective wavelength setting and monitoring method using software-based wavelength estimation for WDM pluggable optical transceiver	共著	平成 19 年 9 月	SPIE, Optics East.Technical Digest, Paper 6775-13	S. Kawai, N. Yoshimoto, K. Iwatsuki and T. Imai	Paper 6775-13 頁
次世代ブロードバンドアクセスネットワークのキー技術	単著	平成 19 年 11 月	神奈川大学工学研究所所報第３０号		pp. 3-10 頁
Key technologies for evolving optical access networks	単著	平成 19 年 11 月	Asia-Pacific Optical Communications6784, (Part.1)		1N-1 - 1N-10 頁
A burst-mode 3R receiver for 10-Gbit/s PON system with high sensitivity, wide dynamic range, and fast response	共著	平成 20 年 1 月	IEEE、Journal of Kightwave Technol.26,（1）	S. Nishihara, S. Kimura, T. Toshida, M. Nakamura, J. Terada, K. Nishimura, K. Kishine, K. Kato, Y. Ohtomo, N. Yoshimoto、T. Imai, and M. Tsubokawa	99-107 頁
Beat Noise Mitigation of Spectral Amplitude Coding OCDMA Using Heterodyne Detection	共著	平成 20 年 4 月	IEEE, Journal of Lightwave Technol.26, (8)	Manabu Yoshino, Shin Kaneko, Tomohiro Taniguchi, Noriki Miki, Kiyomi Kumozaki, Takamasa Imai, Naoto Yoshimoto, and Makoto Tsubokawa	962-970 頁
Full-duplex 1.0Gbit/s data transmission over 60 GHz radio-on-fiber access system based on the loop-back optical heterodyne technique	共著	平成 20 年 7 月	IEEE Journal of Lightwave Technol.26, (13)	T. Taniguchi, N. Sakurai,K. Kumozaki and T. Imai	1765-1776 頁
その他					
FDM/TDM-PON アクセス方式における下り送信制御	共著	平成 17 年 3 月	2005 年電子情報通信学会通信ソサイエティ大会, B-10-60.	西原晋、吉田智暁、木村俊二、岩月勝美、今井崇雅	B-10-60. 頁
光 FDM アクセスにおける直接変調を用いた送信/局発光源の共用化	共著	平成 17 年 3 月	2005 年電子情報通信学会通信ソサイエティ大会, B-10-56.	成川聖、三条広明、桜井尚也、雲崎清美、今井崇雅	B-10-56. 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
10.3 Gbit/s バーストモードクロックデータ再生装置	共著	平成 18 年 3 月	2006 年電子情報通信学会総合大会, B-10-51.	西原　晋、木村俊二、川村智明、西村和好、大友祐輔、吉田智暁、岩月勝美、今井崇雅	B-10-51. 頁
メトロ/アクセスネットワークにおける電気分散補償技術を用いた経済的な光送受信方式の提案	共著	平成 19 年 3 月	2007 年電子情報通信学会総合大会, B-10-56.	中村浩崇、吉田智暁、中村誠、木村俊二、遠藤潤、神田淳、岩月勝美、今井崇雅	B-10-56. 頁
光ヘテロダイン受信を用いた光 FDM-PON アクセス方式における 12.5GHz 間隔 128 波× 1.25 Gbit/s 選択受信特	共著	平成 19 年 3 月	2007 年電子情報通信学会総合大会, B-10-87.	成川聖、桜井尚也、坪川信、今井崇雅	B-10-87. 頁
いつ実現？、オール光ネットワーク～FTTH, 光アクセス技術～	単著	平成 20 年 3 月	電子情報通信学会総合全国大会、BP-4-3		BP-4-3 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 56 年 8 月～現在に至る	応用物理学会会員
昭和 58 年 1 月～現在に至る	電子情報通信学会会員
平成 2 年～現在に至る	IEEE 会員
平成 2 年 3 月～現在に至る	FSK ヘテロダイン方式光ファイバ伝送システムの開発
平成 2 年 12 月～現在に至る	IEEE 会員
平成 6 年 6 月～現在に至る	海底光増幅中継伝送システムの開発
平成 11 年 7 月～現在に至る	波長多重対応の海底光増幅中継伝送システムの開発
平成 13 年 5 月～現在に至る	電子情報通信学会論文誌査読委員
平成 18 年 8 月～平成 19 年 6 月	超高速フォトニックネットワーク開発推進協議会新世代ＦＴＴＨ分科会主査
平成 18 年 9 月～平成 19 年 7 月	学術的国際会議 Conference on the Optical Internet2007(COIN'2007) 論文委員会委員
平成 19 年 4 月～現在に至る	（社）日本工学教育協会会員
平成 19 年 6 月～平成 20 年 3 月	（受託研究）日本電信電話株式会社「次期光アクセスネットワークの特性評価技術の検討」
平成 19 年 8 月～現在に至る	超高速フォトニックネットワーク開発推進協議会技術調査部会委員
平成 19 年 8 月～平成 20 年 3 月	特許出願技術動向調査「光伝送システム」委員会委員
平成 19 年 11 月～現在に至る	新世代ネットワーク推進フォーラム研究開発戦略ワーキンググループメンバ
平成 19 年 12 月～平成 20 年 10 月	学術的国際会議 Conference on the Optical Internet2007(COIN'2008）論文委員会　アクセスシステム部門 subcommittee 委員長

Ⅴ　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部情報システム創成学科	職名 教授	氏名 上野　俊夫	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 理論と実際の統合研究・教育の実践	昭和 45 年 7 月 ～平成 20 年 8 月	経営工学専門の内容（作業工学、生産管理など）の理論研究・教育の結果を毎年７月～８月の約１ヶ月企業実習を行い、実際への適用研究・教育を行っている（主として４年次の卒業研究を通して）。
2　作成した教科書、教材 「生産管理システムの要説」の作成	平成 17 年 4 月 1 日 ～平成 18 年 4 月 1 日	担当授業科目である「生産管理」に用いる教材として作成
「生産工学技法資料」の作成	平成 18 年 4 月 1 日 ～平成 19 年 4 月 1 日	担当科目である「生産工学技法」に用いる教材の作成
「生産管理システム」の作成	平成 19 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 4 月 1 日	担当科目である「生産管理システム」に用いる教材の作成
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
Optimal Economic Work Assignment in Robot Labor	共著	平成 17 年 2 月	Japan Industrial Manegement Association, Vol.55, No.6 ５５,（6）	上野俊夫三林洋介	pp.318-322 頁
その他					
アンケートによる宿泊サービス設計への接逝法	共著	平成 15 年 10 月	日本経営工学会（大阪）		
販売業における店舗レイアウトの設計に関する研究	共著	平成 16 年 10 月	日本経営工学会（金沢）		
店舗レイアウト設計のための要因に関する研究	共著	平成 18 年 11 月	日本経営工学会（広島）	上野俊夫三林洋介	
店頭商品の適正数量と補充管理に関する研究	共著	平成 19 年 10 月	平成１９年度日本経営工学会秋季大会予稿集	三林洋介　上野俊夫	
製品ライフサイクルを考慮したモノの循環サービスシステム～リースサービスによる軽自動車の環境ビジネスモデル	共著	平成 19 年 10 月	平成１９年度日本経営工学会秋季大会要旨集	徐端成　上野俊夫　丹下敏	
イメージトライアル法による医薬品 PTP シートのデザイン評価に関する研究	共著	平成 20 年 5 月	日本人間工学会第４９回大会要旨集	三林洋介　上野俊夫	
製品ライフサイクルロジスティクスに関する研究	共著	平成 20 年 10 月	日本経営工学会、平成２０年度秋季大会予稿集	徐　端成　上野俊夫　丹下　敏	

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 39 年 4 月～現在に至る	日本経営工学会会員
昭和 48 年 5 月～現在に至る	日本経営工学会研究委員
昭和 53 年 7 月～現在に至る	日本機械学会会員
昭和 60 年 4 月～現在に至る	高齢者の職務再設計に関する研究
昭和 62 年 12 月～現在に至る	日本経営工学会レフェリー委員
平成 6 年 12 月～現在に至る	日本人間工学会会員
平成 7 年～現在に至る	（学内共同研究）「作業編成における作業割当量の研究」
平成 9 年～現在に至る	（学内共同研究）「看護作業の研究」
平成 10 年 6 月～平成 15 年 5 月	日本経営工学会評議員
平成 10 年 6 月～現在に至る	日本人間工学会評議員

Ⅴ　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部情報システム創成学科	職名 教授	氏名 北岡　正敏	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 知識システムの教育方法の開発	平成 20 年 4 月 9 日 ～平成 20 年 7 月 9 日	情報システム創成学科になりカリキュラムで必修科目がコースワーク以外は選択科目になった。このため、科目間の関連性が無くなり、教育する科目で一つの完成した教育体系を確立いしなければならない。この科目は旧カリキュラムでは「知識システム工学」として存在した。こと当時では科目間に関連性があり、必修科目も存在したので教育上で問題がなかった。今回は２年次のため基礎となるブール代数は半導体の TTL を用いて実験を行いながら検証するという方法をとってきた。また、マンガをふんだんに用いてイメージの中から理解する方法を利用している。
2　作成した教科書、教材 走行ロボット製作によるもの作りと IE を併用した教材と教育システム開発	平成 17 年 9 月 11 日 ～平成 21 年 1 月 12 日	経営工学基礎演習では PIC を搭載した走行ロボットの製作をおこない、１）IE の各種法である、部品展開、価値工学、品質管理（特性要因図、相関関係、基礎統計学（EXCEL）、習熟性工学を走行ロボットを組立作業をしながら体験学習をする。２）機械図面、歯車のギヤー計算と速度比、ノギスの使用法、３）電気電子では抵抗、コンデンサ、ダイオード、トランジスタ、センサーの部品の使用法を学ぶ。次にテスターなどの計測器でデータを測定し半田こてで組立作業をする。４）完成したロボットはプログラミングをして走行コンテストをおこない表彰をする。
3　教育上の能力に関する大学等の評価 知識システム	平成 20 年 4 月 12 日 ～平成 20 年 7 月 20 日	情報システム創成学科ではほとんどの科目が選択科目になり、必修科目は少なく、科目間の関連性が無くなった。このため、「知識システム」はブール代数（論理回路）を履修していない学生のために実験機器を用いて短時間に理解できるような教材と指導法を開発した。また、推測統計学などに関しても独自の学習法をて提案した。
4　実務の経験を有する者についての特記事項 タグチメソド（品質工学）の企業での展開	昭和 20 年 10 月 1 日 ～平成 21 年 3 月 31 日	コイルフィーダの機械を生産している企業を例にして、製品開発とタグチメソドの適用を具体例を用いてマスターする教材を開発した。とくに実験計画法の分割実験を用いて機械の開発にどのように適用するかの教育システムを開発している。
5　その他		

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
「岩瀬弘和」研究員の指導による他大学への専任講師の栄転	平成 12 年 4 月 1 日 ～平成 16 年 3 月 31 日	平成 12 年 4 月 1 日より平成 16 年 3 月 31 日まで北岡研究室に研究員として在籍し研究に従事した。その間に広島市大にて博士（工学）を取得し、平成 16 年 4 月 1 日より東京成徳大学専任講師として栄転する。現在は准教授で活躍している。
吉田賢二助手の芝浦工業大学への栄転	平成 13 年 ～平成 18 年 4 月 1 日	
Juvy.Balingit（フイリッピン国費留学生）の博士論文指導	平成 15 年 4 月 1 日 ～平成 17 年 3 月 31 日	
ＡＯＴＳ（海外技術者研修協会）におけるロジスティクスシステムの講義	平成 17 年 3 月 9 日	アジア諸国（中国、タイ、マレーシア、ベトナム、シンガポール）からの学者、実務家を対象にしたロジスティクスシステムの講義。
永井正武（元帝京大学教授）の研究員受け入れと共同研究	平成 17 年 4 月 1 日 ～平成 19 年 4 月 1 日	永井正武（元帝京大学教授）を研究員として受け入れた。これは帝京大学の教え子である山口大輔君が北岡研究室の博士後期課程の学生として受け入れたため、共同で指導しながら灰色理論の共同研究を開始した。
アジア物流管理者研修,（財）海外技術者研修協会（ＡＯＴＳ）	～平成 16 年 2 月 20 日	アジアにおける物流技術者、管理者、大学助教授（マレーシア、シンガポール、台湾、中国、フィリッピン）を対象した物流システム設計の講義を実施する。
李家斉博士の中国の「清華大学」助教授就任	～平成 16 年 4 月 15 日	博士号を取得して、研究員として 2 年間にわたり、北岡研究室にて研究を続けていた。李家斉博士は、平成 16 年 4 月より、中国の清華大学の助教授に就任する。

II　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
Pattern Recognition for classification of Work using Hierarchical Fuzzy Art	共著	平成 15 年 9 月	Proc.32nd,int.Conferene on Computer and Industrial Engineering（2003）	Masao Takeuchi,Masatoshi Kitaoka	903-908 頁
Circular Data Analysis of Periodic Time Series Data Using Grey Theory	共著	平成 15 年 9 月	Proc.32,Int,conference on computer and Industrial Enginearing,,（2003）	Jun Usuki,Masatoshi Kitaoka	590-595 頁
Design of Distribution Center using EIQ method and gray Theory	共著	平成 15 年 9 月	Proc.32nd,Int,Conference on Computer and Industrial Engineering,（2003）Yusuke Moriyama,(Masatoshi Kitaoka)		578-583 頁
Construction of Automated Assembly systems using Natural Language and Generation of Control Language	共著	平成 15 年 9 月	Proc.32nd,Int,conference on Computer and Industrial Engineerng（2003）	Syuhei Terasono,Masatoshi Kitaoka	616-621 頁
ターゲット形状がタッチ画面の操作性に及ぼす影響	共著	平成 15 年 10 月	人間工学会誌 Vol.39,No.6,200339,（6）		
荷役作業の設計と再設計に関する研究	共著	平成 16 年 3 月	日本ロジステクスシステム学会誌 5,（1）	Balingit, 岩瀬弘和、北岡正敏	pp.39-52 頁
荷役作業における人体モデルを用いた作業姿勢に関する研究	共著	平成 16 年 5 月	日本経営工学会誌	北岡正敏、岩瀬弘和	Vol.55,No.2,pp.77-88 頁
Chaotic Analysis of Focal Accomodation and Pupil Area during the VDT Work	共著	平成 16 年 6 月	IEICE Transaction	Hirozazu Iwae, M asatoshi Kitaoka	Vil.E87-D,No.9,pp.2258-2261 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Software Design of Automated Genaration Program for Programable Logic Controller	共著	平成 16 年 8 月	Proceeding of 21th International Manufacturing Conference,IMC21	Shuhei Terasono,Masatoshi Kitaoka	IMC21,pp.730-737 頁
Economical Efficiency between Finished Products and Parts Stock in Production Systems	共著	平成 16 年 8 月	Proceeding of 21th International Manufacturing Conference,IMC	Yusuke Satou, Masatoshi Kitaoka	IMC,pp.722-729 頁
Application of Automated Assembly Process using RfID and Rule-Based Reasoning	共著	平成 16 年 8 月	Proceeding of 21th International Manufacturing Conference ,IMC21	Masatoshi Kitaoka, Ｒｕｉ　Ｎａｋａｍｕｒａ	pp.708-715 頁
Economical Analysis of Recycling used Item between Japan and China	共著	平成 16 年 8 月	Proceeding 9th International Symposium on Logistics、Bangalore University India	M asatoshi Kitaoka	pp.512-519 頁
Real Time Scheduling in the Control of Automated Assembly Line using Linux	共著	平成 16 年 8 月	Proceeding of 21th International Manufacturing Conference ,IMC	Daisuke Takahashi,Masatoshi Kitaoka	IMC21,pp.738-744 頁
２次元ポインティング作業における Fitts の法則の改良	共著	平成 16 年 9 月	計測自動制御学会論文集	岩瀬弘和、北岡正敏	Voi.40,No.9,pp.881-889 頁
Time Series Analysis of Shipments and Receipts for Distribution Center using Grey Theory	共著	平成 16 年 11 月	Proceeding of International Congress on Logistics and SCM Systems	Masatoshi Kitaoka, Jun Usuki	pp.246-252 頁
Three Dimensional Movement Analysis in Asymmetric Manual Material Handling	共著	平成 16 年 11 月	Proceeding of the 1st International Congress on Logistics and SCM Systems	Hirokazu Iwae,Masatoshi Kitaoka	pp.231-238 頁
捻り動作を含む荷物持ち上げ作業における 3 次元動作解析	共著	平成 17 年 2 月	人間工学会誌 41,（2）	岩瀬弘和、Juvy Balingit、北岡正敏	pp.77-88 頁
階層型神経回路網のパラメータ決定における PfGA の有効性	共著	平成 17 年 3 月	日本経営工会誌 56,（3）	岩瀬弘和、北岡正敏	pp.174-181 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Detection of Abnormal Condition of Parts Feeder by Times Series Control Chart and Neural Network	共著	平成 17 年 9 月	,Procceedig of International Conference of Production Research,CD-ROM,2005	Akihiko Ohta,Masatoshi Kitaoka	
Command Transfer Method with Characteristic Analysis using Optical Flo w	共著	平成 17 年 9 月	Proceeding of International Conference of Production Research,CD-ROM,2005	J.Usuki,M.Kiytaoka	
Cumulative Curve Analysis in the Supply Chain using Grey Method, ”,	共著	平成 17 年 9 月	Proc.International Conference of Production Research,CD-ROM,2005	佐藤雄介北岡正敏	
Three-Dimensional Computer Graphic Human Model Representation of Asymmetric Lifting	共著	平成 17 年 9 月	Proceeding of International Conference of Production Research,CD-ROM,2005	北岡正敏、竹田仁	
Debugging and Maintance of Automated Assembly Equipment with Reliability	共著	平成 17 年 9 月	, Proc.International Conference of Production Research,CD-ROM	草柳健、北岡正敏	CD-ROM 頁
Demand Forecasting of Shipments and Receipts Data in Distribution Center using Grey Theory	共著	平成 17 年 9 月	Proc.International Conference of Production Research,CD-ROM,2005	北岡正敏、臼杵潤	CD-ROM 頁
荷役作業姿勢の３次元動作解析と CG による人体モデル表示に関する研究	共著	平成 17 年 12 月	日本経営工学会誌 Vol.56,（No.5）	J.Balingit, 岩瀬弘和、北岡正敏	pp.346-357 頁
設備配置問題のための個体群を用いた進化アルゴリズム	共著	平成 18 年 4 月	日本設備管理学会誌 Vol.18,（No.2）	鈴木淳、山本久志、北岡正敏	pp.11-18 頁
捻りを伴う荷物持ち上げ動作の動力学的解析	共著	平成 18 年 4 月	日本経営工学会誌 Voi.18,（No.2）	J.Balingit, 岩瀬弘和、北岡正敏	pp.101-111 頁
An Automated Assembly System Design Deriving Timed AND/OR Nets and Petri Nets from a Scenario for Task sequence Planning	共著	平成 18 年 4 月	Journal Logistics SystemsVol.6,（No.2）	J.UsukiS.Aketa,M.Kitaoka	pp.53-62 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
A Relization Algorithm of Grey Structural Modeling with MATLAB	共著	平成 18 年 6 月	IEEE,Cybenetics and Intelligent SystemsIEEE,Cybenetics and Intelligent Systems,6/6	山口大輔、永井武志、北岡正敏	pp.528-533 頁
On the Generalization of Grey Relational Analysis	共著	平成 18 年 6 月	Journal of Grey System	D.Yamaguchi,M.Nagai,M.Kitaoka	pp.23-34 頁
Planning and Control of Distribution Center using EIQ Method	共著	平成 18 年 8 月	Proceeding of Second European Management of TechnologyManagement of Technology	M.Kitaoka、S.Takami	pp.672-679 頁
Integrated Cellular Manufacturing,Cell Formation,Processi Planning,Production Planning,Layout and Workcell Design	共著	平成 18 年 8 月	Management TechnologyProceedeing Second European Conference onManagement Technology	K.Nagata,S.Tange,M.Kitaoka	pp.527-534 頁
Inventory Control of Distribution Center using Grey Theory and Accumulated Curve	共著	平成 18 年 9 月	Proc.International Congress on Logistics and SCM systemCD-ROM	北岡正敏、臼杵潤	
GSM による消費者の感性を考慮した灰色理論型市場調査法	共著	平成 18 年 10 月	日本感性工学会誌 Vol.6,（No.3）	山口大輔、永井武志、北岡正敏	pp.11-18 頁
A Research on Grey Model by Grey Interval Analysis	共著	平成 18 年 10 月	Journal of Grey SystemVol.8,（No.2）	G.Dong,M.Nagai,M.Kitaoka	pp.103-114 頁
Circular Data Analysis of Periodic Time Series Data using Grey Theory	共著	平成 19 年 5 月	Journal of Grey SystemVol.10,No.2	臼杵潤、北岡正敏	pp.75-80 頁
Process Improvement for Automated Assembly Line using Timed Petri Nets and Knowledge Base	共著	平成 19 年 8 月	Proceedings of International Congress on Logistics and SCM SystemsICLS2007	Toshio Fujita,Masatoshi Kitaoka	150-157 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Total Logistics T aking Into Account Product Lifecycle Paradigm Shift from Product Qwnership to Utilization	共著	平成 19 年 8 月	Ｐｒｏｃｅｅｄｉｎｇ ｏｆ Ｉｎｔｅｒｎａｔｉｏｎａｌ Ｃｏｎｇｒｅｓｓ ｏｎ Ｌｏｇｉｓｔｉｃｓ ａｎｄ ＳＣＭ Ｓｙｓｔｅｍｓ 3rd ICLS	丹下敏、北岡正敏	p.67-74 頁
Process Improvement for Automated Assembly Line using Timed Petri Nets and Knowledge Base	共著	平成 19 年 8 月	Ｐｒｏｃｅｅｄｉｎｇ ｏｆ Ｉｎｔｅｒｎａｔｉｏｎａｌ Ｃｏｎｇｒｅｓｓ ｏｎ Ｌｏｇｉｓｔｉｃｓ ａｎｄ ＳＣＭ The 3rd ICLS	藤田敏雄、北岡正敏	pp.150-157 頁
SIQ and EIQ Method for the Design of Distribution Center in Supply Chain Systems	共著	平成 19 年 8 月	Proceeding of International Congress on Logistics and SCm SystemsICLS 2007	北岡正敏、岩瀬弘和、臼杵潤	pp.59-66 頁
The Role of IE in a Competitive Business Environment	共著	平成 19 年 10 月	ＰＲｏｃｅｅｄｉｎｇ ｏｆ ｔｈｅ ３７ｔｈ Ｉｎｔｅｒｎａｔｉｏｎａｌ Ｃｏｎｆｅｒｅｎｃｅ ｏｎ Ｃｏｍｐｕｔｅｒｓ ａｎｄ Industrial Engineering37th October,	Tange Satoshi,Masatoshi Kitaoka	388-393 頁
Comparison on The Economical Efficiency between Finihsed Products and Parts Stock in Production Systems	共著	平成 19 年 10 月	International Journalof Logistics and SCM SystemsVolume2,No 1	佐藤雄介、北岡正敏、臼杵潤、丹下敏	30-37 頁
Debugging Operation of automated Assembly line using reliability Theory	共著	平成 19 年 10 月	Ｃｏｍｐｕｔｅｒｓ ａｎｄ Ｉｎｄｕｓｔｒｉａｌ Ｅｎｇｉｎｅｅｒｉｎｇ Proceeding of Computers and Industrial Engineeinrg	北岡正敏臼杵潤、丹下敏	
待ち行列理論の生産流通システムへの適用における一考察	単著	平成 19 年 11 月	神奈川大学工学研究報 第３０号		31-38 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Automated Production Line Design using a Timed Petri Net and Queueing Theory	共著	平成 20 年 11 月	Ｐｒｏｃｅｅｗｄｉｎｇ ｏｆ Ｉｎｔｅｒｎａｔｉｏｎａｌ Congress on Logistics and SCM SystemsI-CLS 2008	Fujita Toshio	311-20 頁
Capability Measures and Estimation using Control Chart for Distribution Manegement Index	共著	平成 20 年 11 月	Proceeding of International Congress on Logistics and SCM Systems	Usuki Ｊｕｎ	167-175 頁
その他					
EIQ 表とネットワーク型待ち行列理論を用いた配送センターの能力評価	共著	平成 15 年 5 月	平成 15 年日本経営工学会春季大会予稿集	森山洋介、北岡正敏	67-68 頁
Generating OWAS posture Codes in Manual Material Handling Using Neural Network	共著	平成 15 年 9 月	6th conference on proceeding of J.S.L.S（2003）	Juvy Balingit, M asatoshi Kitaoka	60-63 頁
配送センター設計におけるレイアウト計画を考慮した機器選定に関する研究	共著	平成 15 年 9 月	第 6 回日本ロジィスティクスシステム学会大会予稿集	森山洋介、北岡正敏	57-59 頁
製品開発期間からみたクロックサイクルの概念による SCM 問題	共著	平成 15 年 9 月	第 6 回日本ロジィスティクスシステム学会大会予稿集	北岡正敏、臼杵潤、中村塁	74-77 頁
リサイクル問題の経済性に関する研究	共著	平成 15 年 9 月	第 6 回日本ロジィスティクスシステム学会大会予稿集	北岡正敏、李家斉	195-198 頁
EIQ 表とレイアウト計画を考慮した配送センターの設計に関する研究	共著	平成 15 年 10 月	日本経営工学会秋季大会予稿集	森山洋介、北岡正敏	192-193 頁
Work Posture Classification Model in Manual Material Handling	共著	平成 15 年 10 月	Proc.on JIMA in Autumn 2003	Hirokazu Iwase、Juvy Balingit,Masatoshi Kitaoka	250-251 頁
LLD とペトリネットを用いた自動生産システムの構築法に関する研究	共著	平成 15 年 10 月	日本経営工学会秋季大会予稿集	寺園修平、北岡正敏	50-51 頁
ニューラルネットを用いた仕分作業における画像分類に関する研究	共著	平成 15 年 10 月	日本経営工学会秋季大会予稿集	竹内正生、北岡正敏	52-53 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
自然言語処理による自動化システム構築に関する研究	共著	平成 15 年 10 月	日本経営工学会秋季大会予稿集	寺園修平、北岡正敏	48-49 頁
FMS におけるボトルネックの解析	共著	平成 15 年 10 月	日本経営工学会秋季大会予稿集	霧生達也、北岡正敏	20-21 頁
リアルタイムスケジューリングに関する研究	共著	平成 15 年 10 月	日本経営工学会秋季大会予稿集	高橋大輔、北岡正敏	234-235 頁
Kinetic Analysis of Asymmetric Lifting Tasks	共著	平成 16 年 5 月	日本経営工学会春季大会予稿集	Juvy Balingit,Masatoshi Kitaoka	250-251 頁
ウエーブレット解析による部品の自動識別に関する研究	共著	平成 16 年 10 月	日本経営工学会秋季研究大会予稿集	亀田和宏、北岡正敏	pp.312-313 頁
Linux を用いた自動生産ライン制御におけるリアルタイムスケジューリングに関する研究	共著	平成 16 年 10 月	日本経営工学会秋季研究大会予稿集	高橋大輔、北岡正敏	pp.230-231 頁
自動化システムの部品供給における時系列データの管理図に関する研究	共著	平成 16 年 10 月	日本経営工学会秋季研究大会予稿集	太田章彦、北岡正敏	pp.228-229 頁
自動生産ラインの信頼性とデバッキングに関する研究	共著	平成 16 年 10 月	日本経営工学会秋季研究大会予稿集	草柳健、北岡正敏	pp.226-227 頁
知識表現を用いた組立作業計画の生成に関する研究	共著	平成 16 年 10 月	日本経営工学会秋季研究大会予稿集	霧生達也、北岡正敏	pp.118-119 頁
灰色理論を用いたサプライチェーンの解析に関する研究	共著	平成 16 年 10 月	日本経営工学会秋季研究大会予稿集	佐藤雄介、北岡正敏	pp.164-165 頁
PLC 制御ソフトウエアの自動生成に関する研究	共著	平成 16 年 10 月	日本経営工学会秋季大会予稿集	寺園修平、北岡正敏	
Application and Control of Physical Distribution Equipment by Linux	共著	平成 16 年 11 月	Proceedings of International Congress on Logistics and SCM Systems	Daisuke T akahashi,Masatoshi Kitaoka	pp.239-245 頁
流動数曲線によるサプライチェーンの解析に関する研究	共著	平成 17 年 5 月	日本経営工学会春季大会予稿集	佐藤雄介、北岡正敏	126-127 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
自動化組み立てシステムにおける部品供給装置の異常検出に関する研究	共著	平成 17 年 5 月	日本経営工学会春季予稿集	太田章彦、北岡正敏	20-21 頁
米軍における信頼性から見た修理部品群の在庫モデルに関する研究	共著	平成 17 年 8 月	日本ロジステクスシステム学会全国大会予稿集	北岡正敏、中村塁、臼杵潤	pp.179-182 頁
SD 法と待ち行列理論によるサプライチェーンシステムの出荷特性に関する研究	共著	平成 17 年 9 月	日本ロジステクスシステム学会全国大会予稿集	佐藤雄介、北岡正敏	pp.183-186 頁
物流装置のデバッキング作業に対する信頼性工学による解析	共著	平成 17 年 9 月	日本ロジスティクスシステム学会全国大会予稿集	草柳健、北岡正敏	pp.187-190 頁
部品供給システムの異常診断に関する研究	共著	平成 17 年 9 月	日本経営工学会秋季研究大会予稿集	太田章彦、北岡正敏	134-135 頁
GT セルにおける類似係数に基づくセルフォーメイションに関する研究	共著	平成 17 年 9 月	日本経営工学会秋季研究大会予稿集		pp.132-133 頁
EIQ 法を用いた配送センターにおける出荷特性に関する研究	共著	平成 17 年 9 月	日本経営工学会秋季大会予稿集		pp.84-85 頁
GT セルにおける遺伝的アルゴリズムを用いた「セルレイアウト問題に関する研究	共著	平成 18 年 5 月	日本経営工学会春季大会予稿集	永田健、北岡正敏	pp.52-53 頁
EIQ 法を用いた配送センターにおける在庫管理の研究	共著	平成 18 年 5 月	日本経営工学会春季大会予稿集	高見慎一郎、北岡正敏	52-53 頁
生産工程における部品共有化にともなうロジスティクスの効率化に関する研究	共著	平成 18 年 8 月	日本ロジステクスシステム学会全国大会	臼杵潤、北岡正敏	23-28 頁
信頼性工学から見た物流機器所有における総コストに関する研究	共著	平成 18 年 8 月	日本ロジステクスシステム学会全国大会予稿集	中村　塁、北岡正敏	52-53 頁
不規則な時系列データの多変量管理図に関する研究	共著	平成 18 年 10 月	日本経営数学会２８回全国大会	北岡正敏、柏木利介	73-78 頁
インダストリアルエンジニアリングの成果と現状	単著	平成 18 年 11 月	神奈川大学工学研究所報（29）		18-26 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
習熟性を考慮したソフトウエアの信頼性に関する研究	共著	平成 19 年 4 月	日本経営工会春季予稿集	蓑島慎一、北岡正敏	158-159 頁
時間ペトリネットワークと推論構造を用いた自動生産ラインの問題点発見と改善案作成	共著	平成 19 年 5 月	日本経営工学会春季予稿集	藤田敏、北岡正敏	112-113 頁
信頼性工学による自動化ラインのデバッキング作業に関する研究	共著	平成 19 年 5 月	日本経営工学会春季予稿集	中村塁、草柳健、北岡正敏	110-111 頁
ソフトウエアの信頼性予測とＡＮＮのパラメータ設定における遺伝的アルゴリズムの適用	共著	平成 19 年 8 月	日本ロジステクスシステム学会予稿集	蓑島慎一、北岡正敏	58-61 頁
配送センターにおける不規則な出荷データのための管理図に関する研究	共著	平成 19 年 8 月	日本ロジステクスシステム学会予稿集	北岡正敏、臼杵潤、岩瀬弘和	18-21 頁
不規則な出荷特性のある製品の灰色理論による在庫管理	共著	平成 19 年 8 月	日本ロジステクスシステム学会予稿集	臼杵潤、岩瀬弘和、北岡正敏	42-45 頁
自動化生産ラインのペトリネット解析と待ち行列理論による基本設計	共著	平成 20 年 5 月	日本経営工学会春季大会予稿集	藤田敏雄、北岡正敏	186-187 頁
自動化生産ラインのデバッキング作業と修理に関する待ち行列理論による解析	共著	平成 20 年 5 月	日本経営工学会春季大会予稿集	藤田敏雄、丹下敏、北岡正敏	28-29 頁
ＣＵＳＵＭとＥＷＭＡ管理図による出荷特性の解析	共著	平成 20 年 6 月	日本ロジステクスシステム学会第１１回全国大会予稿集	三澤大樹、臼杵潤、北岡正敏	135-138 頁
待ち行列理論による物流機器のメインテナンスに関する研究	共著	平成 20 年 6 月	日本ロジステクスシステム学会第１１回全国大会予稿集	岩瀬弘和、丹下敏、北岡正敏	65-68 頁
信頼性工学を用いた製品保障の経済モデルに関する研究	共著	平成 20 年 6 月	日本ロジステクスシステム学会第１１回全国大会予稿集	古川智士、北岡正敏	57-60 頁
配送センターにおけるオーダピッキングに関する研究	共著	平成 20 年 6 月	日本ロジステクスシステム学会第１１回全国大会予稿集	千賀献児、北岡正敏	61-64 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 45 年 4 月～現在に至る	日本経営工学会会員
昭和 52 年 4 月～現在に至る	情報処理学会会員
昭和 53 年 4 月～現在に至る	日本機械学会会員
昭和 54 年 4 月～現在に至る	システム・制御・情報学会会員
昭和 58 年 4 月～現在に至る	日本経営数学会会員
平成 2 年～現在に至る	経営情報学会会員
平成 6 年 3 月～現在に至る	日本ロジスティクスシステム学会会員
平成 6 年 3 月～現在に至る	日本ロジスティクスシステム学会理事
平成 6 年 3 月～平成 20 年 3 月	日本ロジスティクスシステム学会日本ロジステクスシステム学会編集委員長
平成 11 年 3 月～現在に至る	科学研究費補助金 教育研究装置等整備補助金 20,000 千円 （ロボット・画像処理システム）（研究代表者）
平成 12 年 4 月～平成 15 年 5 月	日本経営数学会常任理事
平成 12 年 4 月～現在に至る	物流技術研究所「EIQ データの解析に関する研究」委員長
平成 12 年 4 月～	科学技術振興事業団研究費 （自然界電磁波ノイズ自動選別検出ネットワーク）（研究代表者）
平成 12 年 5 月～平成 15 年 5 月	日本経営工学会第 26 期評議員
平成 12 年 5 月～現在に至る	日本経営数学会庶務理事
平成 12 年 10 月～現在に至る	第 9 回神奈川県大学空手道選手権大会副会長
平成 15 年 4 月～平成 17 年 4 月	日本経営工学会第 27 期評議員
平成 15 年 4 月～平成 17 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究（C） 1,900 千円 （灰色理論による生産管理システムを考慮した自動化生産システムの研究）（研究代表者）
平成 16 年 1 月～現在に至る	竹安数博（大阪府立大学経済学部教授）学位論文審査会委員の就任
平成 16 年 3 月～現在に至る	科学研究費補助金 教育研究装置等整備補助金 52,000 千円 （生産技術教育システム）（研究代表者）
平成 16 年 11 月～平成 20 年 11 月	日本ロジスティクスシステム学会副会長
平成 17 年 3 月～現在に至る	海外技術者研修協会（AOTS) 講師

年月	内　　容
平成 17 年 3 月～現在に至る	福島大学講演会講師
平成 17 年 5 月～平成 19 年 4 月	日本ロジステクスシステム学会第２８期評議員
平成 18 年 1 月～平成 19 年 9 月	The 3rd International Conference on Logisitics and SCM Systems Ｃｈａｉｒｐｅｒｓｏｎ
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 (C) 2,000 千円 （中国のロジスティクスの現状と灰色理論を用いた時系列ＥＩＱ法の研究）（研究代表者）
平成 18 年 9 月～平成 19 年 9 月	神奈川県大学空手道連盟理事長
平成 19 年 9 月～平成 20 年 10 月	神奈川県大学空手道連盟副会長

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部情報システム創成学科	職名 教授	氏名 栗原　謙三	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
先端技術向上の見学会を企画	平成 9 年 8 月	学科の 1 学年の人数が 200 名弱もいるため、全員での工場見学の実施は難しい。そこで、私の研究室所属の 3 年、4 年生合計 30 数名のグループで工場見学を実施した。最先端の技術開発工場として、大型計算機の各種周辺機器製造工場（日立製作所ストレージシステム事業部）を選んだ。数名単位の小グループごとにベテラン技術者がついて案内してくれた。学生には、最先端製品の製造を肌で感じてもらうことができ、システム技術への興味も増したようであった。
授業評価に関するアンケートの実施	平成 10 年 7 月	前期末と後期末に授業評価に関するアンケート調査を開始した。これに基づいて、講義内容、方法の改善を定常的に図っている。（平成 10 年 7 月～）
コースワーク６を他教員と協力して立上げ	平成 20 年 4 月 1 日	コースワークは６セメスターに渡って、学科の教員が協力して推進している。この中で、最終科目にあたるコースワーク６を協力して立ち上げている。ここでは、情報システム設計技術の習得を目的としている。栗原は、企業研究者時代のシステム設計経験を活かして、教える内容、教え方について積極的に貢献している。
2　作成した教科書、教材		
情報システム化時代の信頼性工学テキスト、日本理工出版社	平成 12 年 10 月	
情報・技術経営シリーズ第 5 巻（全 9 巻）「経営情報処理のためのオペレーションズリサーチ」、コロナ社	平成 13 年 1 月	
システム工学　テキスト（教材）	平成 13 年 4 月	
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
5　その他		

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
日本ＯＲ学会チュートリアル講師	平成 2 年 2 月	知識利用型スケジューリング技術に関するチュートリアルが、日本ＯＲ学会主催で開催された。実用化システム開発、学会での技術発表の実績を買われて、講演とパネル討論に招待された。
最新技術動向を紹介する工学部講演会を企画（その 1）	平成 8 年 9 月	「インターネット/マルチメディアの動向および最近のトピックス」と題する講演会を企画して、日立製作所中央研究所の今野千里博士を招聘した。情報通信の新時代を迎えた現在、まさに時代をリードする最新技術を学生達に伝えることができた。他学科の先生、学生も含めた多くの参加者を集めることができた。
最新技術動向を紹介する工学部講演会を企画（その 2）	平成 10 年 7 月	「電子マネーが世界を一つにする」と題する講演会を企画して、日立製作所新金融システム推進本部技術部長の村松晃氏を招聘した。ビジネス分野での新潮流である、電子的な取引の現状と技術的なシステム開発状況を講演していただいた。村松氏は、世界を飛び歩いている超多忙な人であり、日程調整に難航したが、それだけの価値のある講演内容だった。参加者数の読み誤りで、講演会場に入れない人も出てしまったことは、残念であった。
最新技術動向を紹介する工学部講演会を企画（その 3）	平成 14 年 11 月	「特許制度と特許を取り巻く最近の動向」と題する講演会を企画して、日立製作所知的財産権本部主管技師システム開発研究所主管研究長藤倉信之氏を招聘した。産業政策、企業活動、大学における研究・教育等と特許政策・制度との間の課題がマスコミに多く取り上げられる昨今である。このような状況の理解を助けるために、特許以外の知的財産権との関係および歴史的な経緯を背景に、現行の特許制度の必要性と基本的な考え方を始めとして、システム・ソフトウェア関連の特許動向などについてその概要を紹介していただいた。
学科主任として活動	平成 15 年 4 月 ～平成 17 年 3 月	主任在任の 1 年目には、工学部が外部評価を受けた。また、2 年目には、JABEE 審査を受け、2 年間尾認定を受けることができた。これらの、評価、審査にあたって、学科主任としてリーダーシップを取り、自己点検資料の作成を指揮した。さらに、準備作業と当日の対応を取り仕切った。これらの活動以上に、精力を向けたのは、経営工学科の改革推進であった。種々の意見が渦巻く中、改革方針を取りまとめ、情報システム創成学科への改革計画をまとめた。この方針に基づき、2006 年度から改革後の新学科がスタートする。
最新技術動向を紹介する工学部講演会を企画（その 4）	平成 15 年 12 月	「横断的基幹科学技術によるユビキタス情報社会の設計」と題する講演会を企画して、日立製作所システム開発研究所主管研究長舩橋誠寿博士を招聘した。物理学に基礎をおく伝統的な科学技術に対して、分野横断性を備えた新しい技術分野の構築が始まっている。この一環として、2010 年頃の未来社会を設計することを目標とした、文理融合「やおよろずプロジェクト」を推進中である。プロジェクトの背景と現在までの研究開発への取組み状況を紹介していただいた。
最新技術動向を紹介する工学部講演会を企画（その 5）	平成 16 年 1 月	「インターネットセキュリティの最新動向」と題する講演会を企画して、東京電機大学工学部教授佐々木良一博士を招聘した。ブラスターウイルスによる被害や、ネット詐欺などインターネットに関する不正が増大の傾向にある。インターネット社会で被害者人も加害者にもならないようにするための、心構えと方法を最新動向とともに紹介していただいた。
神奈川大学工学部報告に新学科『情報システム創成学科』の紹介記事を執筆	平成 18 年 3 月	『情報システム創成学科が誕生（21 世紀杜会を快適にする創造的な情報システム技術者を育成)』と題して、新学科の教育理念、特長、カリキュラム概要などを紹介

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
リニューアル学科の第 1 年目の主任として	平成 18 年 4 月 1 日 ～平成 19 年 3 月 31 日	2004-2005 年度に主任を拝命しているときに、リニューアル学科「情報システム創成学科」の計画立案を推進した。s のリニューアル学科の第 1 年目には、これを軌道に乗せるべく、再び主任を拝命した。カリキュラムを大幅に改定したため、色々と苦労もあったが、大きな問題なくリニューアルを達成することができた。また、前回の主任在職時に、JABEE 審査を受け、2 年間尾認定を受けることができたが、この認定の継続審査が 2006 年度にあった。評価、審査にあたって、学科主任としてリーダーシップを取り、自己点検資料の作成を指揮した。さらに、準備作業と当日の対応を取り仕切った。

II　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
FA システム制御ソフトウェアの開発手法に関する研究	共著	平成 15 年 4 月	日本機械学会論文集 C 編		1169-1177 頁
虹彩輪郭の楕円近似を用いた非接触視線検出法の研究	共著	平成 15 年 6 月	日本機械学会論文集 C 編		
Reproduction Method of Facial Expression	共著	平成 15 年 8 月	Proceedings of International Conference of 32^n^{d} C & IE,（Limerick,Ireland）		206-211 頁
Hierarchical Path Planning Method	共著	平成 15 年 11 月	Fourth Congress of Logic Applied to Technology Conference,CD-ROM(Sao Paulo,Brazil)		
Hierachical Path Planning Method for Autonomous Mobile Robots	共著	平成 15 年 11 月	Frontiers in Artficial Intelligence and its Applications,Vol101,November2003,IOS Press		1-8 頁
A Path Planning Method for Autonomous Sweeping Robot	共著	平成 16 年 7 月	Proceedings of the 8th World Multi-Conference on Systemics,Cybernetics and Informatics,(Florida,USA)		
A Method of Flow-Shop Re-Scheduling Dealing with Variation of Productive Capacity	共著	平成 16 年 7 月	Proceedings of the 8th World Multi-Conference on Systemics,Cybernetics and Informatics,(Florida,USA)		

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Substitute Robot Reproducing Facial Expression	共著	平成 16 年 7 月	Proceedings of the 8th World Multi-Conference on Systemics,Cybernetics and Informatics,(Florida,USA)	K.Kurihara,D.Sugiyama and N.Nishiuchi	
A Study On Line Of Sight Detection Using Color Contact Lenses	共著	平成 16 年 7 月	Proceedings of the 8th World Multi-Conference on Systemics,Cybernetics and Informatics,(Florida,USA)		
特集 最近話題の画像計測技術　虹彩輪郭抽出による視線の検出	共著	平成 16 年 11 月	O plus E, Vol.26, No.12, （株）新技術コミュニケーションズ		1454-1459 頁
Facial Expression Robot of Remote Person	共著	平成 17 年 6 月	Proceedings of International Conference of 35th C & IE (Istanbul, Turkey)		
Mobile Robot Path Planning with the Existence of Moving Obstacles	共著	平成 17 年 9 月	Proceedings of 10th IEEE International Conference on Emerging Technologies and Factory Automation		195-202 頁
Flow Shop Scheduling based on Branch and Bound Method	共著	平成 18 年 6 月	Proceedings of The 36th International Conference on Computers and Industrial Engineering		
Health Monitoring System for Aged People and Workers Using Facial Image	共著	平成 18 年 7 月	Proceedings of 16th World Congress on Ergonomics	Nobuyuki Nishiuchi, Kenzo Kurihara, Mitsuyuki Kawakami and Akihiko Seo	
A Method of Flow-Shop Re-Scheduling Dealing with Variation of Productive Capacity	共著	平成 18 年 8 月	International Journal of Systemics, Cybernetics and Informatics13, (1)	K.Kurihara, Y.Owada, Y.Li, K.Masuda and N.Nishiuchi	
モンテカルロシミュレーションによる感度解析と GA を融合した確率的ネットワークのアロー分岐確率計画手法	共著	平成 18 年 8 月	電気学会論文誌 C	栗原謙三、永井学、西内信之、増田和明	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
勾配力学系の平衡点探索による大域的最適化手法	共著	平成 18 年 8 月	電気学会論文誌 C		
Branching Probabilities Planning of Stochastic Network for Project Duration Planning	共著	平成 18 年 9 月	Proceedings of 11th IEEE International Conference on Emerging Technologies and Factory Automation	K.Kurihara, M.Nagai, N.Nishiuchi and K.Masuda	1333-1339 頁
Facial Emotion Expression Robot of Remote Person	共著	平成 18 年 9 月	Advanced Technologies: Research - Development - Application, Advanced Robotic Systems Press		
Global Optimization by Searching Multiple Equilibrium Points of Gradient Dynamical System	共著	平成 18 年 10 月	Proceedings of SICE-ICCAS2006	K.Masuda and K.Kurihara	
歯並びを利用した作業者の人物識別システムの提案	共著	平成 18 年 12 月	産業保健人間工学研究、産業保健人間工学会 8, (1)	西内信之、栗原謙三	
Global Optimization with Chaotic Particles Inspired by Swarm Intelligence	共著	平成 19 年 9 月	Proc. SICE 2007	Kazuaki Masuda, Kenzo Kurihara	1319-1324 頁
Flow Shop Re-Scheduling Method Reflecting Current Productive Capacity	共著	平成 19 年 10 月	Proceedings of 37th International Conference on Computers and Industrial Engineering	K.Kurihara, Y.L.Li, N.Nishiuchi, K.Masuda	1961-1968 頁
混合整数計画に対する勾配系複数平衡点探索法の応用	共著	平成 20 年 1 月	電気学会論文誌 C128, (1)	増田和明、栗原謙三	101-110 頁
Branching Probabilities Planning of Stochastic Network Model using Genetic Algorithm supported by Sensitivity Analysis	共著	平成 20 年 3 月	Electrical Engineering in Japan, John Wiley and Sons162, (4)	Kenzo Kurihara, Manabu Nagai, Nobuyuki Nishiuchi, Kazuaki Masuda	42-53 頁
Facial Expression Reproduction on Face Robot	共著	平成 20 年 7 月	Proceedings of Robotics and Control Systems (ARCS-08) CD-ROM	K.Kurihara, Daisuke Sugiyama, Nishiuchi, K.Masuda	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
On the Properties of Search Directions in the Particle Swarm Optimization System	共著	平成 20 年 8 月	Proceedings of SICE Annual Conference 2008	Kazuaki Masuda, Kenzo Kurihara	3459-3464 頁
Global Optimization by Equilibrium-Point Search of Gradient-Based Dynamical System	共著	平成 20 年 8 月	Electronics and Communications in Japan91,（1）	Kazuaki Masuda, Kenzo Kurihara	19-30 頁
Facial Emotion and Gesture Reproduction Method for Substitute Robot of Remote Person	共著	平成 21 年 3 月	Elsevier Science Publishers56,（2）	K.Kurihara, D.Sugiyama, S.Matsumoto, N.Nishiuchi and K.Masuda	631-647 頁
その他					
表情と頭の動作再現（顔表情再現ロボットの開発）	共著	平成 15 年 10 月	日本経営工学会平成 15 年度秋季研究大会		82-83 頁
生産能力の変動に対応するフローショップ･スケジュール改善方式	共著	平成 15 年 10 月	日本経営工学会平成 15 年度秋季研究大会		224-225 頁
自律分散型ロボットによる清掃作業における清掃領域内の移動経路計画方法	共著	平成 15 年 10 月	日本経営工学会平成 15 年度秋季研究大会		262-263 頁
自律型清掃ロボットの移動経路計画方法	共著	平成 16 年 5 月	日本経営工学会平成 16 年度春季大会		20-21 頁
生産能力の変動に対応するフローショップ再スケジューリング方式	共著	平成 16 年 5 月	日本経営工学会平成 16 年度春季大会		62-63 頁
人型ロボットによる人動作の再現・認識方式	共著	平成 16 年 10 月	日本経営工学会平成 16 年度秋季研究大会		272-273 頁
Flexible Shop Scheduling 問題への AMIA 適用の検討	共著	平成 16 年 10 月	日本経営工学会平成 16 年度秋季研究大会		186-187 頁
複数ロボット群による分担作業方式（自律型清掃ロボットの移動経路計画方法）	共著	平成 16 年 10 月	日本経営工学会平成 16 年度秋季研究大会		114-115 頁
BAB/タブーサーチ融合型スケジューリング方式（生産能力が変動するフローショップ再スケジュール）	共著	平成 16 年 10 月	日本経営工学会平成 16 年度秋季研究大会		188-189 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
簡易型ヒューマノイドロボットによる身振り動作の再現方式	共著	平成 17 年 5 月	日本経営工学会平成 17 年度春季大会		68-69 頁
適応的免疫アルゴリズムを用いた Flexible Shop Scheduling 方式	共著	平成 17 年 5 月	日本経営工学会平成 17 年度春季大会		161-162 頁
勾配系平衡点の安定性を考慮した大域的最適化手法	共著	平成 17 年 9 月	平成 17 年電気学会電子・情報・システム部門大会講演論文集	増田和明, 栗原謙三	1090-1095 頁
勾配力学系の平衡点探索に基づく大域的最適化手法	共著	平成 17 年 9 月	第 15 回インテリジェント・システム・シンポジウム講演論文集		101-106 頁
身振り再現ロボットのフォールトトレラント制御方式	共著	平成 17 年 9 月	日本経営工学会平成 17 年度秋季研究大会		180-181 頁
Flexible Shop スケジューリング問題に対する適応的免疫アルゴリズムの改良方式	共著	平成 17 年 9 月	日本経営工学会平成 17 年度秋季研究大会		180-181 頁
離散化勾配系の不動点における安定性に関する検討	共著	平成 17 年 11 月	計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2005 講演論文集		194-199 頁
情報システム創成学科が誕生（21 世紀社会を快適にする創造的な情報システム技術者を育成）	単著	平成 18 年 3 月	神奈川大学工学部報告（44）		
カラーコンタクトレンズを用いた視線検出法の研究	共著	平成 18 年 5 月	日本経営工学会平成 18 年度春季大会	樫原翼、西内信之、高田一、栗原謙三	
学修目標手帳システムとそれを用いた 4 年間の継続的な学修指導	共著	平成 18 年 7 月	平成 18 年度全国大学 IT 活用教育方法研究発表会 (私情協)、予稿集 C-16、pp.98-99	内田智史, 増田和明, 高野倉雅人, 西奈美きよ, 杉本剛, 栗原謙三, 成田清正	
災害発生時のパニックフリーを目指した施設内避難誘導手法	共著	平成 18 年 11 月	計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2006 講演論文集	増田和明, 梅森直人, 栗原謙三	363-368 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
イベントドリブン型シミュレーションに基づく交通信号制御手法の開発	共著	平成 18 年 11 月	システム工学部会研究会（マルチエージェントシステムと最適化）予稿集（計測自動制御学会）	増田和明, 清　達紀, 栗原謙三	
利用者の経験的判断を反映するトレーディングシステムに関する基礎研究	共著	平成 18 年 12 月	第 28 回情報システム研究会資料、電気学会	増田和明, 中藪裕之, 栗原謙三	7-12 頁
Technical Trading System for Multiple Users ; Formulation of Trading Rules and Training Method of User Parameters	共著	平成 19 年 9 月	平成 19 年電気学会 電子・情報・システム部門大会 講演論文集	Kazuaki Masuda, Kenzo Kurihara	
小売業における販売促進を狙った販売実績データマイニング	共著	平成 19 年 9 月	第 60 回電気関係学会九州支部連合大会論文集	末木照久, 増田和明, 栗原謙三	
Practical Technical Trading System for Multiple Users	共著	平成 19 年 11 月	計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2007 講演論文集	Kazuaki Masuda、Kenzo Kurihara	282-288 頁
Particle Swarm Optimization を用いたファジィ制御ルールのパラメータ最適化	共著	平成 19 年 11 月	第 50 回自動制御連合講演会講演論文集	増田和明、丸山弘仁、栗原謙三	740-745 頁
Particle Swarm Optimization の大域的最適化能力に関する検討	共著	平成 20 年 3 月	平成 20 年電気学会全国大会講演論文集	増田和明、栗原謙三	
決定変数の相互依存性を伴う問題に対する勾配力学系による最適化	共著	平成 20 年 8 月	平成 20 年電気学会電子・情報・システム部門大会講演プログラム集	増田和明, 栗原謙三	932-937 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 47 年～現在に至る	日本機械学会会員
昭和 49 年～現在に至る	電気学会会員
昭和 55 年 4 月～現在に至る	計測自動制御学会会員
昭和 56 年 4 月～現在に至る	IEEE: Institute of Electrical and Electronics Engineering 会員
昭和 57 年～現在に至る	情報処理学会会員
昭和 63 年 5 月～現在に至る	財団法人興亜育英会理事
平成 8 年 4 月～現在に至る	電子情報通信学会会員
平成 8 年 4 月～平成 18 年 3 月	日本経営工学会会員
平成 8 年 4 月～平成 17 年 3 月	日本品質管理学会会員
平成 9 年 4 月～現在に至る	電気学会論文委員会委員
平成 10 年 7 月～平成 17 年 3 月	日本ロジスティクスシステム学会会員
平成 10 年 7 月～平成 17 年 3 月	日本ロジスティクスシステム学会評議員
平成 15 年 4 月～平成 17 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究{（C） 3,800 千円 （高信頼・高開発効率を実現する FA 制御ソフトウェアの開発手法）（研究代表者）

Ⅴ　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部情報システム創成学科	職名 教授	氏名 進藤　晋	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
ＦＤ研究授業	平成 18 年 11 月 21 日	「ファイナンス工学」の公開授業を行った。
教育評価アンケートで得られたこと－卒業生父母に対するアンケート調査－	～平成 15 年 9 月 4 日	原村嘉彦，佐藤祐一，進藤晋，小野寺重三，黒澤秀夫 日本工学教育協会第 51 回年次大会，工学・工業教育研究講演会論文集，pp.169-172 工学部 FD 小委員会が行った神奈川大学工学部卒業生の父母へのアンケート調査の結果と解析・考察。
2　作成した教科書、教材		
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		
経営工学科教育環境改善委員会委員長	平成 14 年 4 月 ～平成 17 年 3 月	学修・教育目標の確立、カリキュラムの改訂等、経営工学科における教育全般にわたる改革および平成 16 年度に予定されている日本技術者教育認定機構（JABEE）の本審査（経営工学関連分野）に向けての準備に委員長として取り組んでいる。（平成 14 年 4 月～）
経営工学科教育委員	平成 16 年 4 月 1 日 ～平成 18 年 3 月 31 日	教育委員として活動した。
ＪＡＢＥＥ審査（経営工学関連分野）ＪＡＢＥＥ申請関係大学責任者	平成 16 年 10 月 30 日 ～平成 16 年 11 月 1 日	JABEE 本審査の申請側の責任者として活動した。
神奈川大学大学院工学研究科運営委員	平成 18 年 4 月 1 日 ～平成 19 年 3 月 31 日	大学院工学研究科において、研究教育活動に寄与した。特に、論文審査マニュアルを作成した。
JABEE 地区別シンポジウム（関東地区）「国際的に通用する大学院教育のために」	平成 18 年 11 月 27 日	JABEE が目指す大学院外部認定制度についての考え方やそのシステムについてのシンポジウムに参加し、報告書を大学院工学研究科に提出した。

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
「国際的に通用する大学院教育のために」大学院修士課程プログラム認定申請予定校との意見交換会	平成 19 年 3 月 7 日	標記シンポジウムに参加し、報告書を大学院工学研究科に提出した。
「国際レベルの教育と大学院認定の実現を目指して」大学院認定審査員並びに国際審査員候補者および関係者の研修会	平成 19 年 3 月 19 日	標記研修会に参加し、報告書を大学院工学研究科に提出した。
教育評価アンケートの分析－卒業生に対するアンケート調査－	～平成 15 年 9 月 4 日	進藤晋，原村嘉彦，佐藤祐一，小野寺重三，黒澤秀夫 日本工学教育協会第 51 回年次大会，工学・工業教育研究講演会論文集，pp.165-168 工学部 FD 小委員会が行った神奈川大学工学部 1991 年度および 1998 年度卒業生に対するアンケート調査の結果と解析・考察。

II　研究活動					
著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び 巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
JABEE 試行審査－経営工学関連分野－	単著	平成 16 年 3 月	神奈川大学工学部報告, 第 42 号		18-24 頁
JABEE 認定－経営工学関連分野－	単著	平成 18 年 2 月	神奈川大学工学部報告 （44）		38-42 頁
その他					
教育評価アンケートで得られたこと－卒業生父母に対するアンケート調査－	単著	平成 15 年 9 月	日本工学教育協会第 51 回年次大会，工学・工業教育研究講演会論文集		169-172 頁
教育評価アンケートの分析－卒業生に対するアンケート調査－	単著	平成 15 年 9 月	日本工学教育協会第 51 回年次大会，工学・工業教育研究講演会論文集		165-168 頁
ボラティリティ変動モデルによるオプション評価	共著	平成 16 年 10 月	平成 16 年度日本経営工学会秋季発表大会	林英俊、山下真、進藤晋	
時系列モデルを用いた天候デリバティブの予測値の検証	共著	平成 16 年 10 月	平成 16 年度日本経営工学会秋季発表大会	小池宏和、山下真、進藤晋	
予測モデルの検証およびネットワーク型モデルの構築	共著	平成 16 年 10 月	平成 16 年度日本経営工学会秋季発表大会	佐野大介、山下真、進藤晋	
SVM を用いたデータマイニングの事例研究	共著	平成 16 年 10 月	日本経営工学会平成 16 年度秋季発表大会	徳増基、山下真、進藤晋	
時系列モデルを用いた天候デリバティブの予測値の検証	共著	平成 17 年 5 月	平成 17 年度日本経営工学会春季発表大会	小池宏和、山下真、進藤晋	
ボラティリティ変動モデルによるオプション評価	共著	平成 17 年 5 月	平成 17 年度日本経営工学会春季発表大会	林英俊、山下真、進藤晋	
グラフィカルモデリングを用いた時系列予測	共著	平成 17 年 10 月	平成 17 年度日本経営工学会秋季発表大会	佐野大介、山下真、進藤晋	

著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び 巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
色彩の識別に対するサポートベクターマシンの適応性に関する研究	共著	平成 17 年 10 月	平成 17 年度日本経営工学会秋季発表大会	徳増基、山下真、進藤晋	
均衡モデルを考慮に入れた平均分散モデル	共著	平成 20 年 10 月	日本経営工学会平成 20 年度秋季研究大会	金谷崇志、進藤晋	

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 62 年 7 月～現在に至る	日本 OR 学会会員
平成 11 年 6 月～現在に至る	日本ロジスティクスシステム学会会員
平成 15 年 5 月～平成 17 年 5 月	日本 OR 学会研究普及委員会委員
平成 16 年 6 月～現在に至る	日本ロジスティクスシステム学会理事

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部情報システム創成学科	職名 教授	氏名 杉本　剛	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 新規開講科目「フレッシュマンセミナー」の授業設計	平成 15 年 7 月 ～平成 16 年 4 月	多様化した新入生に学習習慣をつけ、自立して社会に巣だつための基礎学力と技能を与えるための総合演習科目を、助手 6 名と半年かけて実験授業等を実施しながらつくりあげ、教職員の OJT のため 3 月にワークショップを行った。また、平成 16 年 4 月からは授業を実施している。（平成 15 年 7 月～）
2　作成した教科書、教材 全学共通科目ＦＹＳ用副読本「知の作法－－ＦＹＳ＋＋」を作成した。	平成 17 年 3 月 15 日	
3　教育上の能力に関する大学等の評価 上級教育士（工学・技術）	平成 19 年 1 月 ～平成 24 年 3 月	(社) 日本工学教育協会の認定資格
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他 神奈川大学工学部教育委員会委員長	平成 18 年 4 月 1 日 ～平成 19 年 3 月 31 日	学部・大学院一貫教育についての答申をまとめた。

II　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
ながれの事典	共著	平成 16 年 3 月	丸善（株）		
未来の科学者との対話 2	共著	平成 16 年 6 月	日刊工業新聞社		
形の科学百科事典	共著	平成 16 年 8 月	（株）朝倉書店		
Introduction to some optimal techniques in bird soaring	単著	平成 18 年 2 月	Recent Research Developments in Experimental $¥&$ Theoretical Biology, Vol.1 (Transworld Research Network)		217-239 頁
知の作法－－ＦＹＳ＋＋	単著	平成 18 年 3 月	神奈川大学		180 頁
論文					
A theoretical analysis of formation flight as a non-linear self-organizing phenomenon	単著	平成 15 年 10 月	IMA J.Appl.Math.68, (5)		441-470 頁
Design to learn science and art symmetrically	単著	平成 18 年 12 月	Symmetry17, 1-2, 33-40		33-40 頁
On the structure of phase spaces in Synergetic Inter-Representation Network	単著	平成 19 年 12 月	Proc. Appl. Math. & Mech.7, 2030011-2030012		2030011-2030012 頁
Bifurcation and hysteresis phenomena in two-dimensional sail-sail-flow interactions	単著	平成 19 年 12 月	Physics of Fluids19, 12, 122102(1-13)		122102-1-13 頁
Samaras Fly in the Transverse Wind	共著	平成 20 年 1 月	Theoretical and Applied Mechanics56, 189-194	San'ei Ichikawa, Shigekatsu Saitou, Keiichi Kawase, Masashi Mimura, Takeshi Sugimoto	189-194 頁
A Spherical Horse Broadens Our Horizons of Study	共著	平成 20 年 12 月	Forma23,（1）	T. Sugimoto, San 'ei Ichikawa, Shigekatsu Saitou, Keiichi Kawase and Masashi Mimura	31-32 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Analysis on the nature of the basic equations in synergetic inter-representation network	単著	平成 21 年 2 月	Far East J. Appl. Mth.34,（2）		261-267 頁
Revisiting the energetics of porpoising in penguins	単著	平成 21 年 2 月	Theor. & Appl. Mech. Jpn57		331-338 頁
その他					
2 枚の帆と流れの干渉について	単著	平成 15 年 7 月	日本流体力学会年会 2003（東京）講演論文集		66-67 頁
Nonliniar Analysis of Sail-sail Interaction	単著	平成 15 年 7 月	Ⅴ Int'l Cong. Ind. & Appl.Math（Darling Harbour Convention Centre, Sydney）Suppl Info.		18-19 頁
How birds fly at low speed	単著	平成 15 年 8 月	Int'l Conf. Math. Biol. ／ Ann. Meeting Soc. Math. Biol 2003(University of Dundee,UK)Abstract		122 頁
Darwinian Daisyworlds revisited	単著	平成 15 年 8 月	Daisyworld and beyond Workshop 2003(University of Sussex,UK)		
技術者倫理の学習目標達成度の評価方法について－定量的評価の試み	共著	平成 15 年 9 月	日本工学教育協会第 51 回年次大会, 工学・工業教育研究講演会（札幌）講演論文集		631-632 頁
編隊飛行を利用した旅客機の輸送効率の最適化	共著	平成 15 年 10 月	日本経営工学会平成 15 年度秋季研究大会（大阪）予稿集		236-237 頁
利他的なデザイン	単著	平成 15 年 11 月	横浜市民大学講座「21 世紀のくらしをデザインする科学技術」⑤		
ケンブリッジ大学－国際交流記ならびに研究成果報告	単著	平成 15 年 12 月	神奈川大学工学研究所所報, 第 26 号		105-114 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
編隊飛行する２機の旅客機の安全性について	共著	平成 16 年 5 月	日本経営工学会平成１６年度春季大会（高崎）、予稿集		4-5 頁
経営工学関連分野における設計教育	単著	平成 16 年 7 月	日本工学教育協会第５２回年次大会、工学・工業教育研究講演会（金沢）、講演論文集		119-120 頁
横風の中での風散布体の落下速度変化	共著	平成 16 年 8 月	第 51 回日本生態学会大会（釧路）、講演要旨集		170 頁
Nonlinear interaction of jib and main sails in a flow	単著	平成 16 年 8 月	Int'l Symp. Trends in Appl. Math. to Mech.(Lufthansa Bildungszentrum Seeheim, Germany)		48-49 頁
Mechanics of the bounding flight revisted	単著	平成 16 年 8 月	21st Int'l Cong. Theor. $¥&$ Appl. Me c h.(Warsaw University of Technology, Poland), Abstract		49 頁
間欠的羽ばたき飛行の力学再訪	単著	平成 16 年 8 月	日本流体力学会年会 2004（名古屋）、講演論文集		540-541 頁
アフォーダンスを定量的に表現する方法について	共著	平成 16 年 10 月	日本経営工学会平成 16 年度秋季研究大会（金沢）、予稿集		288-289 頁
編隊飛行を活用した旅客機運航システムの設計――主翼の最適設計について	共著	平成 16 年 10 月	日本経営工学会平成 16 年度秋季研究大会（金沢）、予稿集		120-121 頁
「知」立国の礎	単著	平成 16 年 12 月	学問への誘い 2005 年度版		192-195 頁
環境とオブジェクトの組合せが誘発する行為の調査方法について	共著	平成 17 年 5 月	日本経営工学会平成 17 年度春季大会（東京）、予講集		34-35 頁
An analytic model for dynamics of penguin porpoising	単著	平成 17 年 7 月	Euro. Conf. Math. $¥&$ Theor. Biolo., Abstract Vol.2 (Dresden Univ. Tech., Germany)		112 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
一様流中におかれた二枚の帆が織り成す非線形現象	単著	平成 17 年 7 月	慶應義塾大学日吉物理学教室談話会第 36 号		1 頁
技術者倫理の学習目標達成度の評価方法について－Triangulation による総合評価の試み－	単著	平成 17 年 9 月	（社）日本工学教育協会平成 17 年度工学・工業教育研究講演会講演論文集		22-23 頁
順・逆問題解法によるアフォーダンスをデザインする方法の提案	共著	平成 17 年 11 月	形の科学会誌、第 20 巻、第 2 号		224-225 頁
店構えのデザインの心理学的研究	共著	平成 17 年 11 月	形の科学会誌 20,（2）		202-203 頁
視覚情報の有無と川の流水音の印象変化	共著	平成 17 年 11 月	形の科学会誌 20,（2）		198-199 頁
上部旧石器時代革命とよばれる創造活動について	単著	平成 18 年 5 月	形の科学会誌 21,（1）		96-97 頁
Nonlinear interaction of a pair of sails in a flow: comparison between theory and observation	単著	平成 18 年 6 月	EFMC6 Abstract Vol.1		182 頁
Design to learn science and art symmetrically	単著	平成 18 年 8 月	Symmetry Festival 2006 Abstract CD (ISA)		1-4 頁
ペンギンだって空を飛ぶでも　なぜ	単著	平成 18 年 9 月	日本流体力学会年会 2006 講演アブストラクト集		381 頁
感性情報を用いた店構え設計支援システムの開発	共著	平成 18 年 11 月	形の科学会誌 21,（2）		180-181 頁
ユーザ指向型サイン音制作支援システムの開発	共著	平成 18 年 11 月	形の科学会誌 21,（2）		178-179 頁
概念操作の数理モデル SIRN の解の構造について	単著	平成 18 年 11 月	形の科学会誌 21,（2）		232-233 頁
垂直風胴を用いて計測したトネリコ属翼果の二重回転	共著	平成 19 年 3 月	第 54 回日本生態学会全国大会講演要旨	斎藤茂勝自然研，市河三英，川瀬恵一，三村昌史，酒井敦国際農水研，倉本惠生森林総研，杉本剛神奈川大工	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
垂直風胴を用いて計測した風散布植物 30 種の散布体特性	共著	平成 19 年 3 月	第 54 回日本生態学会全国大会講演要旨	市河三英自然研，斎藤茂勝，三村昌史，川瀬恵一，酒井敦国際農水研，倉本惠生森林総研，杉本剛神奈川大工	
FYS への工学部の取組み	共著	平成 19 年 3 月	神奈川大学工学部報告、第 45 号	大成逸夫、渡辺良男	5-7 頁
翼果は横風の中を飛ぶ	共著	平成 19 年 3 月	第 56 回理論応用力学講演会（日本学術会議）	市河三英、齋藤茂勝、川瀬恵一、三村昌史	339-340 頁
概念操作の数理モデル SIRN の解の分岐について	単著	平成 19 年 6 月	形の科学会誌 21,（1）		27-28 頁
シルエットに見る猛禽の狩りのスタイル	単著	平成 19 年 6 月	Birder2007 年 6 月号		42-45 頁
On the structure of phase spaces in synergetic inter-representation network	単著	平成 19 年 7 月	Int'l Congress Appl. & Ind. Math. 2007		313-314 頁
創成能力育成のための Visual Literacy 活用法――Think outside the brain.	単著	平成 19 年 8 月	平成 19 年度工学・工業教育研究講演会講演論文集		498-499 頁
思考力＋表現力→図解力＜デザイン力（りょく）	単著	平成 19 年 11 月	形の科学会誌 22,（2）		217 頁
ソロモンの鍵に憩うプラナリア	単著	平成 20 年 6 月	形の科学会誌第２３巻第１号, 101		101 頁
究極の３次元トイ・モデル「球」にまつわる古典力学の二三の教材	単著	平成 20 年 6 月	形の科学会誌第２３巻第１号、21-22		21-22 頁
ペンギンに見られるイルカ跳びのエネルギー論再訪	単著	平成 20 年 6 月	第５７回理論応用力学講演会講演論文集		389-390 頁
Analysis of Ciliary Gliding in Freshwater Planarians	単著	平成 20 年 8 月	XXII International Congress of Theoretical and Applied Mechanics Abstract		78 頁
The Fossils of Ectoplasm in a Nutshell: A Brief History of the Challenges into the Air in the Animal Kingdom	単著	平成 20 年 8 月	12th Asian Congress of Fluid Mechanics Program and Abstract Book		28-29 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
ニーズ指向のプロダクト・デザインを体験するコースワークの構築	単著	平成 20 年 8 月	第 56 回工学・工業教育研究講演会講演論文集 130-131		130-131 頁
「知」立国の礎が巣立つ工学部に	単著	平成 20 年 9 月	工学教育 56,（5）		p.147 頁
Branches: obstacles or springboards for samaras	共著	平成 20 年 9 月	European Fluid Mechanics Conference 7, abstract	T. Sugimoto, San 'ei Ichikawa, Shigekatsu Saitou, Keiichi Kawaseb and Masashi Mimurab	p.326 頁
鳥類の呼吸法の正しい理解に向けて	単著	平成 20 年 9 月	日本流体力学会年会２００８講演論文集		p.395 頁
二枚の帆がおりなす非線形現象――分岐とヒステリシス	単著	平成 20 年 11 月	形の科学会誌 23,（2）		227-228 頁
発祥の地の意味	単著	平成 21 年 1 月	ゴムタイムス（ゴムタイムス社）（3078）		25 頁
淡水生プラナリアの行動様式の解析	単著	平成 21 年 3 月	第２３回エアロ・アクアバイオメカニズム研究会講演会資料集		1-4 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
平成 2 年 4 月～現在に至る	(社) 日本応用数理学会会員
平成 2 年 4 月～現在に至る	形の科学会会員
平成 3 年 5 月～現在に至る	米国航空宇宙学会（ＡＩＡＡ）その他（Senior Member)
平成 5 年 1 月～現在に至る	(社) 日本流体力学会会員
平成 5 年 4 月～現在に至る	ニュージーランド鳥学会（ＯＳＮＺ）その他（Life Member)
平成 9 年 1 月～現在に至る	米国工業応用数学会（ＳＩＡM）会員
平成 14 年 1 月～現在に至る	欧州力学会（EuroMech）会員
平成 15 年 8 月～現在に至る	数理生物学会（ＳＭＢ）会員
平成 15 年 9 月～平成 17 年 3 月	(社) 日本工学教育協会・平成 15～1 7 年度文部科学省委託事業「技術者教育におけるアクレディテーションシステムに関する調査研究事業」技術者倫理ワーキンググループ
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	形の科学会運営委員
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	形の科学会運営委員運営委員
平成 18 年 10 月～平成 19 年 11 月	第 64 回形の科学シンポジウム「デザインの新展開：ステート・オブ・ジ・アーツ」代表世話人
平成 19 年 4 月～平成 22 年 3 月	（社）日本工学教育協会　編集・出版委員会委員校閲委員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部情報システム創成学科	職名 教授	氏名 瀬古沢　照治	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
プロジェクト形式の探求型学習　コースワーク１	平成 18 年 4 月 1 日	（授業科目：コースワーク１）　プロジェクト達成科目群の中の第 1 セメスター。自ら考え、教育課程の理解、学習計画、履修計画ができることを主たる目的とする。学習や生活に取り組む態度と方法を体験することより、自己管理と日本語表現力の重要性を認識し、自己実現に向かって、積極的かつ実践的な行動に取り組むことができる。技術倫理教育も実践。13 回実施するミニテストで評価
プロジェクト形式の探求型学習　コースワーク４	平成 19 年 4 月 1 日	（授業科目：コースワーク４）プロジェクト達成科目群の中の第４セメスター。組織のリーダーとは何かを学び、リーダーとして必要となる能力や資質だけでなく、組織環境やフォロワーの状況に適合したリーダーの対応手法についても学ぶ。13 回実施するミニテストで評価。
経営戦略ビジネスシミュレーション	平成 19 年 4 月 1 日	（授業科目：経営工学実験、情報技術実習）　企業経営者としての役割を疑似体験し、財務諸表にもとづいて材料調達、商品生産・販売に関する意思を決定する。ビジネスシミュレータを用いて、各人が各々会社を起業し、材料購入から商品生産・販売までを実施する。その結果に基づき、自社経営を財務諸表で評価し、他の参加者と販売成績を競う。
クリエイティブ・シンキング	平成 19 年 4 月 1 日	（授業科目：特別工学演習）特別工学演習の中に、クリエイティブ・シンキング手法をワークしながら実践習得する。無理難題に直面し行き詰るあるいは硬直した頭を解きほぐす。考え方をロジカルシンキングの壁を打ち破る最新セオリーの「創造的思考」として実践。やあらゆる業種で新しい発想が求められているビジネス上の必須スキルを習得させる。
2　作成した教科書、教材		
コースワーク１のテキスト作成、授業計画・方針書の作成	平成 18 年 4 月 1 日	コースワークは（3 教員/1 クラス）× 3 クラスにて実施。授業方針、授業内容についてのコンセンサスを得、同期的に授業内容をシンクロさせ、教育内容の向上を図るために、授業方針書（11 頁）、授業計画書（29 頁）、およびテキスト（136 頁：非買品）を作成した。
コースワーク４のレクチャーノートを作成	平成 19 年 4 月 1 日	コースワーク４は（3 教員/1 クラス）× 3 クラスにて実施。授業内容についての教員のコンセンサスを得、同期的に授業内容をシンクロさせ教育内容の向上を図るために、教員用のレクチャーノート（90 頁）を作成した。13 回実施するミニテスト問題（25 頁）を作成した

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
優秀講義賞	平成 18 年 4 月 ～平成 18 年 9 月	
優秀講義賞	平成 18 年 10 月 ～平成 19 年 3 月	
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
企業研究所において海外大学院生（韓国人）の実務個別指導	平成 7 年	
企業研究所において海外学生（フランス人）の実務個別指導	平成 11 年	
5　その他		なし

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
キーテクノロジーとしての制御工学（－　これまでの貢献とこれからの展開　－）	共著	平成 17 年 5 月	日本学術会議, 自動制御研究連絡委員会、工学共通基盤研究連絡委員会自動制御専門委員会	古田勝久、池田雅夫、木下源一郎、橋本康、木村英紀、小林尚登、瀬古沢照治、他	
論文					
ラグランジュ緩和法を用いた空港スポット割当問題の解法	共著	平成 15 年 7 月	電気学会論文誌Ｃ分冊, Vol. 123-C，№7		1341-1349 頁
トリハロメタン生成予測のための配水管網内水の滞留時間解析方法	共著	平成 15 年 10 月	電気学会論文誌 D 分冊, Vol. 123-D，№10		1185-1192 頁
Energy Management System Based on Nonlinear Optimization for Direct Fuel Injection Engine and Continuous Variable Transmission	共著	平成 17 年 10 月	ICCMSEVolume 4A	Teruji Sekozawa, Shinsuke Takahashi	pp.513-517 頁
日本における地震防災水道運用管理システム	単著	平成 17 年 11 月	神奈川大学工学研究所所報（28 号）		pp.40-48 頁
Low Fuel Consumption Control Scheme Based on Nonlinear Optimization for Engine and Continuously Variable Transmission	単著	平成 18 年 6 月	WSAES Transaction on mathematicsIssue 6,（Volume 5）		pp.684-688 頁
Optimization Control of Low Fuel Consumption Ensuring Driving Performance on Engine and Continuously Variable Transmission	単著	平成 19 年 6 月	WSEAS Transactions on systems,Issue 6,（Volume 6）		pp.1102-1109 頁
Model-based Control and Learning Control Method for Automobile Idle Control using Electric Throttle	単著	平成 20 年 2 月	WSAES Transactions on systems and controlIssue 2,（Volume 3）		pp.125-136 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
アパレルオンラインショッピングにおけるワン・トゥ・ワンのリコメンドシステム	共著	平成 20 年 8 月	電気学会論文誌電子・情報・システム部門誌	瀬古沢照治，三橋宏行，小澤幸夫	pp.1333-1341 頁
Model of Optimal Paths Design for GMPLS Network and Evaluation of Solution	共著	平成 20 年 11 月	WSAES Transactions on systemsIssue 11, (Volume 7)	瀬古沢照治、福本恭	pp.1339-1348 頁
その他					
電気工業における制御技術の貢献	共著	平成 15 年	第 46 回自動制御連合講演会［特別企画　日本学術会議］	舩橋壽誠、瀬古沢照治	
電気工業における制御技術	単著	平成 15 年	第 2 回チュートリアル講演会，計測自動制御学会		
横断的科学によるユビキタス情報社会に関する研究	単著	平成 15 年 4 月	計測制御の理論と応用に関するシンポジウム東北大学、2003		
事業リスク評価モデル（省エネ機器ビジネス事例）	単著	平成 15 年 6 月	IT ユーザ会（顧客経営層向けセミナ）於：日立システムプラザ		
地域コミュニティコンサルティング	共著	平成 16 年 6 月	顧客：高知県および市町村		
事業継続性計画策定コンサルティング	共著	平成 16 年 9 月	顧客：大手タイヤメーカ		
キーテクノロジーとしての制御工学（－　これまでの貢献とこれからの展開　－）	共著	平成 17 年 5 月	日本学術会議 2005 年, (5 月)	古田勝久、橋本康他、	
八百万コンセプトに基づくユビキタス情報社会システムの創造	単著	平成 17 年 5 月	東北大学システム制御研究会 2005		
日本における地震防災水道運用管理システム	単著	平成 17 年 11 月	神奈川大学工学研究所所報（28 号）		pp.40-48 頁
Low Fuel Consumption Control Scheme Based on Nonlinear Optimization for Engine and Continuously Variable Transmission	単著	平成 18 年 5 月	Proceeding of the 9th WSAES International Conferences on Applied MathematicsIstanbul ,2006-5		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
コスト最小・信頼度最大を両立する光ケーブルネットの構築アルゴリズム	共著	平成 19 年 3 月	平成 19 年電気学会全国大会講演論文集	瀬古沢照治、鈴木祐介	pp.145-146 頁
オンラインショッピングにおける 1 対 1 のリコメンドシステム	共著	平成 19 年 9 月	平成 19 年電気学会　電気・情報システム部門大会　講演論文集	瀬古沢照治、三橋宏行	1071-1075 頁
Construction Algorithm of Optical Cable Net for Minimum Cost and Maximum Reliability	単著	平成 19 年 9 月	SICE Annual Conference 2007		
Model-based Idle Speed Control System for an Automobile Engine using an Electric Throttle System	単著	平成 19 年 12 月	Proceeding of the 3th WSAES International Conferences on Applied and Theoretical Mechanics		
日本型経営に見合った人事評価の提案	共著	平成 20 年 3 月	平成 20 年電気学会全国大会、講演論文集 3	小川博之、瀬古沢照治	38-39 頁
確率的利用者均衡配分モデルを用いた最適道路料金の提案	共著	平成 20 年 3 月	平成 20 年電気学会全国大会　講演論文集 [4]	瀬古沢照治、小林秀樹	347-348 頁
Model of Optimal Paths Design for GMPLS Network and Algorithm based on Lagrangian Relaxation Method	単著	平成 20 年 7 月	Proceeding of the 12th WSAES International Conferences on SYSTEMS		
AHP 手法によるオンラインショッピングの洋服提案システム	単著	平成 20 年 8 月	平成 20 年電気学会電子・情報・システム部門大会講演論文集		pp.80-85 頁
へき地利用者を考慮した救急医療用ヘリコプターの動的配置計画	共著	平成 20 年 8 月	平成 20 年電気学会電子・情報・システム部門大会講演論文集	伊藤敦、瀬古沢照治	pp.829-833 頁
ロジットモデルに基づく横浜市の交通状況の分析と DMV 導入効果	共著	平成 20 年 8 月	平成 20 年電気学会　電子・情報・システム部門大会講演論文集	浦手健吾、富永宏輝、瀬古沢照治	pp.705-707 頁
少子高齢化社会における企業の両立支援策	共著	平成 20 年 8 月	平成 20 年電気学会電子・情報・システム部門大会講演論文集	村主瑛子、瀬古沢照治、小澤幸夫	pp.708-710 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
中規模製造業の情報システム整備を通して見た企業マネジメント	共著	平成 20 年 8 月	平成 20 年電気学会電子・情報・システム部門大会講演論文集	中兼順、瀬古沢照治	pp.819-822 頁
為替リスクを考慮した統合オプションモデルとリスク分析	共著	平成 20 年 12 月	平成 20 年電気学会・電子通信学会合同講演会論文集	瀬古沢照治、開悠起	pp.147-150 頁
為替リスク統合オプションと有効性評価	共著	平成 21 年 3 月	平成 21 年電気学会全国大会，講演論文集 [3]	瀬古沢照治、開悠起	157-158 頁
森林価値のモデル化と森林最適制御の研究	共著	平成 21 年 3 月	平成 21 年電気学会全国大会，講演論文集 [3]	伊藤敦、瀬古沢照治	159-160 頁
エネルギー資源の備蓄運用オプション	共著	平成 21 年 3 月	平成 21 年電気学会全国大会，講演論文集 [3]	浦手健吾、瀬古沢照治	pp.161-162 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 57 年～現在に至る	計測自動制御学会会員
平成元年～現在に至る	電気学会会員
平成 12 年 10 月～平成 19 年 3 月	電気学会システム制御技術委員会委員
平成 12 年 10 月～平成 19 年 3 月	電気学会　システム制御技術委員会委員
平成 13 年 4 月～平成 15 年 9 月	電気学会　電子・情報・システム部門役員
平成 13 年 4 月～平成 15 年 9 月	電気学会　電子・情報・システム部門大会委員幹事
平成 13 年 5 月～平成 15 年 5 月	電気学会電子・情報・システム部門　役員
平成 14 年～平成 15 年 9 月	電気学会電子・情報・システム部門大会　幹事
平成 14 年 8 月～平成 17 年 3 月	文科省　科学技術振興調整費　先導研究　（横断的科学によるユビキタス情報社会の研究：やおよろずプロジェクト）分科会代表研究者
平成 14 年 8 月～平成 17 年 3 月	科学研究費補助金 文部科学賞　文科省科学技術振興調整費　先導的研究 300,000 千円 （横断的科学によるユビキタス情報社会の研究）（研究分担者）
平成 14 年 9 月～平成 15 年 9 月	電気学会平成１５年Ｃ部門大会大会委員会　幹事
平成 16 年 9 月～平成 17 年 9 月	計測自動制御学会広報委員会委員
平成 16 年 9 月～平成 17 年 3 月	計測自動制御学会　会員・広報委員会委員
平成 17 年 4 月～平成 18 年 3 月	IEEE　SMC2005（International Conference Systems, Man and Cybernetics）論文審査委員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部情報システム創成学科	職名 教授	氏名 成田　清正	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
平成 6 年度文部省科研費補助金一般研究Ｃ・講演会＆研究セミナー＆教育実践「リスプ言語の応用」	平成 6 年 9 月 29 日	神奈川大学数理情報システム工学研究室の学生たちを対象に、確率論の中堅である佐藤定夫助教授（東京電機大・理工学部）を講師に招いて講演会（於・神奈川大学 18-11 室）を催し、リスプ言語を用いたペトリネットの解析と学習モデルの例を伝授していただいた。その結果を情報処理に応用して、授業と卒業研究に効果を与えることができた（1994/9）。
平成 6 年度文部省科研費補助金一般研究Ｃ・講演会＆研究セミナー＆教育実践「ランダムウォークの逆正弦法則」	平成 6 年 9 月 29 日	神奈川大学数理情報システム工学研究室の学生たちを対象に、確率論の権威である清水昭信教授（横浜国立大・工学部）」を講師に招いて講演会（於・神奈川大学 18-11 室）を催し、ブラウン運動の離散モデルとして知られる酸歩・乱歩運動の解析とシミュレーションの手法を伝授していただいた。その結果を乱数処理に応用して、授業と卒業研究に効果を与えることができた（1994/9）。
講演会＆研究セミナー＆教育実践「学習モデルの構築」	平成 7 年 6 月 8 日	神奈川大学数理情報システム工学研究室の学生たちを対象に、統計数学の中堅である伊藤一郎助教授（東京学芸大・教育学部）、大口剛助教授（東邦大・理）を講師に招いて講演会（於・神奈川大学 18 号館-11 室）を催し、教育情報の学習モデルの構築法と計算機による偏微分方程式の数値解析を伝授していただいた。その結果を経営工学演習に応用して、授業と卒業研究に効果を与えることができた（1995/6）。
学術振興会補助金・講演会＆研究セミナー＆教育実践「Operations Research」	平成 7 年 7 月 14 日	学術振興会の招聘［引受人・山田敬吾教授（神奈川大）］によって来日したオペレーションズ・リサーチ学の世界的な数学者 Mandelbaum（イスラエル工科大）を講師に招いて講演会（於・神奈川大学 3 号館 342 室）を催し、清水昭信教授（横浜国立大・工）を討論者に、神奈川大学大学院院生と 4 年生たちにも参加していただいた。その結果、最適制御の確率論的方法を伝授していただき、修士論文と卒業研究の完成に大きな効果を与えることができた（1995/7）。
講演会＆研究セミナー＆教育実践「応用ソフトウェア Matlab によるＣＧ」	平成 7 年 11 月 9 日	神奈川大学数理情報システム工学研究室の学生たちを対象に、日本における Matlab デイストリビューターである小国力教授（神奈川大学・理）(平成 13 年度情報センター所長）を講師に招いて講演会を催し（於・神奈川大学 4 号館）、カオスとフラクタルのコンピュータグラフィックスに関する手法を伝授していただいた。その結果、Matlab・Maple・Mathematica を並列的に利用した処理技術で授業と卒業研究に効果を与えることができた（1995/11）。

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
講演会＆研究セミナー＆教育実践「確率論とその応用」	平成 8 年 11 月 21 日	神奈川大学数理情報システム工学研究室の学生たちを対象に、確率論の中堅である高野優教授（静岡大・工）、道工勇助教授（埼玉大・教育）を講師に招いて講演会（於・神奈川大学 18 号館-11 室）を催し、確率論のシミュレーションと制御論を伝授していただいた。その結果を経営工学演習に応用して、授業と卒業研究に効果を与えることができた（1996/11）。
平成 10 年度文部省科研費補助金基盤研究Ｃ・講演会＆研究セミナー＆教育実践「待ち行列の確率解析」	平成 10 年 9 月 16 日	神奈川大学大学院　経営工学専攻の院生たちを対象に、ＯＲと待ち行列の権威である日本電気Ｃ＆Ｃメディア研究所の紀一誠氏（主席研究員・現神奈川大学理学部教授）と小林和朝氏（主管研究員）を講師に招いて講演会（於・神奈川大学 3 号館）を催し、待ち行列理論の計算機ネットワークに対する応用技術を伝授していただいた。その結果をネットワーク問題の解決に生かして、大学院講義と修士論文作成に効果を与えることができた（1998/9）。
平成 12 年度文部省科研費補助金基盤研究 C・講演会＆研究セミナー＆教育実践「インターネットにおける QOS」	平成 13 年 3 月 15 日	神奈川大学経営工学専攻と数理情報システム工学研究室の学生たちを対象に、NEC 研究所の小林和朝氏 (主管研究員）と本学情報科学科の紀一誠教授を講師に招いて講演会 (於・神奈川大学 23 号館 4 階）を催し、インターネットにおける Quality of Service に関する複雑系の理論展開を学んだ。その結果をネットワークの構築に生かして、修士論文と卒業論文の作成に効果をあげることができた（2001/3）。
工学研究科委員長としての教育実践の改善改革に向けた取組	平成 16 年 4 月 ～平成 20 年 3 月	学部の教員免許に連動させて、大学院における数学と情報の教員免許教科（専修免許）の認定を受けることができた。大学院科目先取履修を含む学部と大学院の接続教育、現代ニーズに適った大学院入試日程と特別選考基準の改定、外国人留学生試験実施内容の改善、修士・博士の修了に関わる語学認定試験実施内容の改善、産学連携の大学院インターンシップの単位化に成果をあげた。また、論文審査に関わる成績評価、論文審査基準、学修の流れ（履修モデルと審査日程）、教育目的、教育理念、教育目標などの現代ニーズに適った策定と明示化に努め、大学院ホームページを毎年度充実化していく体制も作った。大型研究プロジェクト、外部資金および産学連携に関わる工学部、工学研究科、工学研究所の工学系としてのシステマティックな教育と研究体制を整備して、社会への情報発信を推進した。また、国際貢献、社会貢献、中教審答申における大学院教育実質化の項目と要素に力点をおいて教育と研究の自己点検・評価に取り組み、自己点検・評価報告書の 2005 年度版と 2007 年度版を取り纏めた。さらに、大学院ＦＤ実施委員会の組織化を推進した。
情報システム創成学科 1 年次生対象の新カリキュラム「コースワーク１－２」の設計と実践	平成 18 年 4 月 1 日 ～平成 19 年 3 月 31 日	2006 年度に認定された新学科「情報システム創成学科」における 1 年次生対象の新カリキュラムとして取り入れられた授業科目「コースワーク１（教育課程理解）」「コースワーク２（職業意識）」の授業デザインに取り組んだ。そして、中央教育審議会答申（平成 17 年度）において推奨されている学生参加型の動機づけ教育方法に基づき、「問題解決能力」を養いながら人間力を高める教育実践を深化さた。
大学院工学研究科委員長としての大学院自己点検・評価、大学院入試、大学院教育実質化のへの取り組み	平成 19 年 4 月 ～平成 20 年 3 月	大学院工学研究科委員長として、2005 年度に引き続き、2007 年度神奈川大学工学研究科自己点検・評価報告書を取り纏め、2008 年 4 月からの大学院ＦＤ実施委員会の設置を決定した。さらに、学部・大学院の 5 年一貫教育システム（飛び級、早期卒業、大学院科目先取り履修の制度、標準修業年限の短縮など）を大学に提案し、2008 年 4 月からの大学院科目先取り履修制度を実現することができた。また、2008 年 4 月からは、大学院インターンシップによる産学連携授業として、「学外研修Ａ，Ｂ」（前期、後期ともに 2 単位）を設置した。さらに、大学院入試における試験日程と特別選考基準について社会のニーズに適うよう改善した。

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
情報システム創成学科２年次生対象の新カリキュラム「コースワーク５（デザイン能力）」の教育実践	平成 19 年 9 月 ～平成 20 年 9 月	2006 年度に認定された新学科「情報システム創成学科」における２年次生対象の新カリキュラムとして取り入れられた前期授業科目「コースワーク５（デザイン能力）」の授業設計に、リーダーの杉本剛教授とともに取り組んだ。そして、中央教育審議会答申（平成 17 年度）において推奨されている学生参加型の動機づけ教育方法に基づき、複数の授業科目と連動させて「デザイン能力」を高め、それによって「持続可能な社会におけるものづくり」への橋渡しができるように、教育実践を展開した。
学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 20 年 4 月 ～現在に至る	平成 20 年度の授業評価アンケートの評価を受けて、数理統計学（前期、後期）および確率過程論の内容を分かりやすく伝えるために、身の回りの事例モデルを中心に解説し、板書も大きくゆっくりと進め、学生の興味を増すように努めた。また、授業時間中には、当日の授業内容に関する知識の確認のために小演習を行い、学生の理解をさらに促した。
２　作成した教科書、教材		
入門「新しい数学」（東京教学社）、エクササイズ確率・統計（共立出版）、「かたちの事典」（丸善出版）から「演習・微分積分」（牧野書店、平成２０年９月）まで２２冊有り。著書・論文、その他の欄を参照のこと。	昭和 51 年 3 月 ～平成 20 年 9 月	数学の一般教養と専門分野にわたって時代のニーズを捉え、かつ、高校と大学の新教育課程に沿って著した。平成の今日、国内の多くの大学において、教科書・参考書として採択されている実績がある。
３　教育上の能力に関する大学等の評価		
2008 年度前期授業評価アンケート結果	平成 20 年 4 月 ～現在に至る	数理統計学（前期）について：授業のねらいや到達目標、内容の進め方とシラバスとの関係、授業に取り組む熱意等に関する項目では、過半数の学生から「そう思う」「強くそう思う」との評価を得た。コースワーク（1 年次生、前期）について：板書・視聴覚教材の活用、授業に取り組む熱意等に関する項目では、過半数の学生から「そう思う」「強くそう思う」との評価を得た。
４　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
５　その他		
横浜市ファジィセミナー研究会・招待出席	平成 2 年 7 月 17 日	応用ファジィ工学の成功例として知られる仙台市営地下鉄車両に関する研究セミナーに参加し、東京工業大学の菅野道夫教授、横浜市、日立製作所等の研究者と討論をした。その先端結果を工学部の数学教育に効果的に反映させることができた（1990/7）。
研究集会「確率解析（伊藤清　京大名誉教授の業績）」発起人・招待出席	平成 7 年 9 月 9 日	確率微分方程式論を確立して学士院恩賜賞を含む数々の名誉を得た世界的な数学者・伊藤清（京大名誉教授）を囲む研究会（於・京大会館）の企画に携わり、数学のノーベル賞といわれるフィールズ賞を受賞した広中平祐教授（京大/ハーバード大）のもとに、研究打合わせ等を行った。得られた知見と収集した資料に基づいて実行された学内授業と研究指導は、神奈川大学の学生たちに大きな感銘と効果を与えた。
神奈川大学フォーラム・講師「新課程＜数学＞をめぐる２つの話題～入試前線・計算機模擬実験～」	平成 8 年 9 月 20 日	神奈川大学広報課の要請に基づいて、大学を代表して、目前の新教育課程による初めての入試に関する対応策を説明し、大学における数学教育の現状と将来への指針を与えた。さらに、新教育課程に含まれている計算機プログラムを用いた経済モデルの解析例を紹介した（於・広島市広島ガーデンパレス 1996/9）。

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
日本応用数理学会年会「数学教育部門」討論会出席	平成 8 年 9 月 26 日	渡邊信助教授（東海大・海洋）によるグラフ電卓（テキサス・インスツルメント社　他製造）を用いた効果的数学教育の事例研究発表をもとにして、今後の大学初年級の効果的な数学授業のあり方を、日本数学会理事長　岡本和夫（東大)、日本数学会理事　浪川幸彦（名大）他と共に討論した（1996/9)。
工学研究科大学院委員としての取組	平成 15 年 4 月 1 日 ～平成 16 年 3 月 31 日	JABEE(日本技術者教育認定機構) による経営工学関連分野の本審査（平成１６年１１月）を受けるに当たって、主任、教育委員、研究委員と共に学習教育目標と工学専門プログラムを策定し、自己点検書を作成した。（平成１５年４月～平成１６年３月)。また、平成１６年９月に実施される工学部独自の外部評価（外部検証）に向けた自己点検・評価報告書の取り纏めをした。
工学研究科委員長としての教育研究体制の改善に向けた取組	平成 16 年 4 月 1 日 ～平成 18 年 3 月 31 日	工学部の中期基本方針に基づいた学科改組等を含む教育改革、および、工学研究科の将来計画に基づいた専攻改組等を含む「継続課題・重点課題・新しい試み」の解決に向けて、恒常的な改善の取組をした。また、工学研究科・工学部・工学研究所全体に係って、「工学系の研究体制検討委員会委員長」として研究体制の現状分析を踏まえて、改善改革の方策等を提言する中間答申を取り纏めた。同時に、「工学研究科自己点検・評価報告書（2005 年度版)」を取り纏め、中央教育審議会答申に沿って「大学院教育の充実について」検討の結果を学長に提出した。また、経営工学科を平成 18 年度から情報システム創成学科に名称変更するための文科省への申請を推進した。
工学研究科委員長としての教育改革への取組	平成 16 年 4 月 1 日 ～平成 18 年 3 月 31 日	経営工学科主任時に取組を推進した新たな学部教員免許状教科「情報」の平成 14 年度認定の実績を踏まえて、大学院教員専修免許状教科「数学」（経営工学専攻)・「情報」（電気電子情報工学専攻）の平成 18 年度認定に向けた取組を、学内部署の協力のもとで推進した。さらに、大学院教育の充実化、特に学部と大学院の接続教育に関する検討結果を取り纏めた。
工学研究科委員長としての大学院の充実化に向けた取組	平成 18 年 4 月	中教審答申「我が国の高等教育の将来像」（平成 17 年 1 月)、中教審答申「新時代の大学院教育－国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて－」（平成 17 年 9 月）および文部科学省事務連絡（平成 18 年 3 月 30 日)「大学院教育振興施策要綱の策定について」に基づいて、大学院教育の実質化を、体系的な教育課程の編成計画のもとに促進している。

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
かたちの事典	共著	平成 15 年 4 月	丸善（出版事業部）(2003)	編集：高木隆司編集委員長、杉本剛他 9 名の編集委員。分担執筆：成田清正他	
Quick 演習　微分積分	共著	平成 20 年 9 月	牧野書店（2008）	著者：成田清正、野澤宗平	1-170 頁
論文					
Asymptotic analysis for stochastic Duffing equation with a small parameter.	単著	平成 17 年 1 月	Far East J. of Theoretical Statistics (FJTS) (2005)15,（1）		1-42 頁
Nonexplosion criteria for solutions of SDE with fractional Brownian motion.	単著	平成 19 年 1 月	Stochastic Analysis and Applications (2007)25,（01）		73-88 頁
Pathwise uniqueness of s olutions of SDE in a fractional Brownian environment.	単著	平成 19 年 9 月	Far East J. Mathematical Sciences (FJMS)(2007)27,（1）		121-146 頁
Stochastic analysis of fractional Brownian motion and application to Black-Scholes market.	単著	平成 20 年 6 月	Far East J. Mathematical Sciences (FJMS)(2008)30,（1）		65-135 頁
その他					
「文字を持たない自然言語のための音韻記号自動判別システムの提案」	共著	平成 15 年 5 月	日本経営工学会（電通大）春季大会（2003）[予稿集]	共同発表者：小林敬太郎、佐々木太良、成田清正	154-155 頁
「動画像のジェスチャ認識アルゴリズムの提案（1）」	共著	平成 15 年 5 月	日本経営工学会（電通大）春季大会 (2003)[予稿集]	共同発表者：柳井浩平、佐々木太良、成田清正	148-149 頁
「引き込みの確率ボラティリティをもつ利率過程に対する特異摂動と漸近挙動の解析」	単著	平成 15 年 9 月	日本応用数理学会年会（京都大）(2003)[予稿集]		148-149 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
「動画像のジェスチャ認識アルゴリズムの提案（2）」	共著	平成15年10月	日本経営工学会（大阪工大摂南大学）秋季研究大会（2003）[予稿集]	共同発表者：柳井浩平、佐々木太良、成田清正	264-265頁
書評 Rider, BrianC.「On the ∞-volume limit of the focusing cubic Schrödinger equation」Comm. Pure Appl. Math.55(2002), no.10,	単著	平成15年10月	AMS（米国数学会）Mathematical Reviews (2003) 2003j:82010		1231-1248頁
書評 Yuan, C. and Mao, X.「Asymptotic stability in distribution of stochastic differential equations with Markovian switching」Stochastic Process. Appl. 103(2003), no.2,	単著	平成15年11月	AMS（米国数学会）Mathematical Reviews (2003)2003k:60142		277-291頁
書評 Hamadène, S. and Ouknine, Y.「Reflected backward stochastic differential equation with jumps and random obstacles」Electron. J. Probab.8(2003), no.2, (electronic).	単著	平成15年12月	AMS（米国数学会）Mathematical Reviews (2003) 2003m:60148		20頁
書評 Rider, B.「Brownian motion with restoring drift: microcanonical ensemble and the thermodynamic limit」Comm. Math. Phys. 231(2002), no.3,	単著	平成16年1月	AMS（米国数学会）Mathematical Reviews (2004) 2004a:82038		463-480頁
書評 Liu, Y. and Peng, S.「Determination of a controllable set for a class of nonlinear stochastic control systems」Optimal Control Appl. Methods 24(2003), no.3,	単著	平成16年4月	AMS（米国数学会）Mathematical Reviews (2004) 2004d:93129		173-181頁
「文字をもたない自然言語のための音韻記号自動判別システムの提案ー樺太アイヌ語の一手法ー」	共著	平成16年5月	日本経営工学会（高崎経済大）春季大会(2004)[予稿集]	共同発表者：小林敬太郎、佐々木太良、成田清正	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
「バーガーズ・セルオートマトンモデルを用いた交通流の解析」	共著	平成 16 年 5 月	日本経営工学会（高崎経済大学）春季大会(2004)[予稿集]	共同発表者：鈴木理史、佐々木太良、成田清正	154-155 頁
「動画像のジェスチャ認識アルゴリズムの提案（3）」	共著	平成 16 年 5 月	日本経営工学会（高崎経済大学）春季大会(2004)[予稿集]	共同発表者：柳井浩平、佐々木太良、成田清正	126-127 頁
書評 Golec, J. and Sathannanthan, S.「Stability analysis of a stochastic logistic model」Math. Comput. Modelling 38(2003), no.5-6, pp.585-593.	単著	平成 16 年 7 月	AMS（米国数学会）Mathematical Reviews (2004)2004g: 34088		585-593 頁
Lorenz 系から導出される確率 Duffing 方程式に対する漸近解析	単著	平成 16 年 9 月	日本応用数理学会年会（中央大学）(2004)[予稿集]		394-395 頁
相互情報量規準を用いたジェスチャ言語の意味伝達誤り率低減に関する研究	共著	平成 16 年 10 月	日本経営工学会（金沢工大）秋季研究大会(2004)[予稿集]	共同発表者：柳井浩平、佐々木太良、成田清正	116-117 頁
確率過程を用いた交通流モデルの解析	共著	平成 16 年 10 月	日本経営工学会（金沢工大）秋季研究大会(2004)[予稿集]	共同発表者：鈴木理史、佐々木太良、成田清正	68-69 頁
書評 Freidlin, M.「Autonomous stochastic perturbations of dynamical systems」Acta Appl. Math. 78(2003), no.1-3, pp.121-128.	単著	平成 16 年 11 月	AMS(米国数学会) Mathematical Reviews(2004) 2004k: 37136		121-128 頁
書評 Da Prato, G. and Frankowska, H.「Invariance of stochastic control systems with deterministic arguments」J. Diferential Equations 200(2004), no.1, pp.18-52.	単著	平成 16 年 12 月	AMS（米国数学会）Mathematical Reviews (2004) 2004m: 93140		18-52 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
書評 Kifer, Y.「Some recent advances in averaging」Modern dynamical systems and applications, pp.385-403, Cambridge Univ. Press, Cambridge, 2004.	単著	平成 17 年 2 月	AMS（米国数学会）Mathematical Reviews (2005) 2005h:37067		385-403 頁
異分野融合（巻頭言）	単著	平成 17 年 3 月	神奈川大学工学研究所所報 No.27（27）		1 頁
書評 Unal, G. and Sun, J-Q.「Symmetries and conserved quantities of stochastic dynamical control systems」Nonlinear Dynam. 36(2004), no.1, pp.107-122.	単著	平成 17 年 5 月	AMS（米国数学会）Mathematical Reviews (2005) 2005e:93148		107-122 頁
書評 Zhu, W.Q. and Deng, M.L.「Optimal bounded control for minimizing the response of quasi-integrable Hamiltonian systems」Internat. J. Non-Linear Mech. 39(2004), no.9, pp.1535-1546.	単著	平成 17 年 5 月	AMS（米国数学会）Mathematical Reviews (2005) 2005e:70025		1535-1546 頁
フラクタル画像圧縮によって生じる画像劣化の改善	共著	平成 17 年 5 月	日本経営工学会（日大）春季大会 (2005)[予稿集]	共同発表者：梅本英生、佐々木太良、成田清正	64-65 頁
非同期更新の交通流セルオートマトンモデルの提案	共著	平成 17 年 5 月	日本経営工学会（日大）春季大会 (2005)[予稿集]	共同発表者：鈴木理史、佐々木太良、成田清正	62-63 頁
書評 Sowers, R.B.「A boundary layer theory for diffusively perturbed transport around a heteroclinic cycle」Comm. Pure Appl. Math. 58(2005), no. 1, pp. 30-84.	単著	平成 17 年 6 月	AMS（米国数学会）Mathematical Reviews (2005) 2005f:37131		30-84 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
書評「Lucor, D. and Karniadakis, G.E. 「Adaptive generalized polynomial chaos for nonlinear random oscillators」SIAM J. Sci. Comput. 26(2004), no.2, pp. 720-735 (electronic)」	単著	平成 17 年 7 月	AMS, Mathematical Reviews (2005) 2005j：37083		
フラクショナルノイズを伴う確率微分方程式の解に対する非爆発判定	単著	平成 17 年 9 月	日本応用数理学会 2005 年度年会（東北大学）[予稿集]		230-231 頁
色情報を利用し不定形に領域分割するフラクタル画像圧縮方式	共著	平成 17 年 9 月	日本経営工学会（愛知学院大）秋季研究大会(2005))[予稿集]	共同発表者：梅本英生、佐々木太良、成田清正	64-65 頁
平均場相互作用を伴う確率過程を用いた交通流の解析	共著	平成 17 年 9 月	日本経営工学会（愛知学院大）秋季研究大会(2005)[予稿集]	共同発表者：鈴木理史、佐々木太良、成田清正	62-63 頁
書評 Kifer, Yuri 「Averaging in difference equations driven by dynamical systems」Asterisque No.287(2003), 18, pp.103-123.	単著	平成 17 年 11 月	AMS（米国数学会）Mathematical Reviews (2005) 2005k:37047		103-123 頁
書評 Ramakrishnan, N. and Namachchivaya, N. Sri 「Random perturbations of 1:1-resonant systems with SO(2) symmetry」IMA J. Appl. Math. 70 (2005), no.5, pp.605-625.	単著	平成 18 年 1 月	AMS（米国数学会）Mathematical Reviews (2006) 2006x		605-625 頁
書評 Yuan, C. and Lygeros, J.「Stabilization of a class of stochastic differential equations with Markovian switching」Systems Control Lett. 54(2005), no.9, pp.819-833.	単著	平成 18 年 4 月	AMS（米国数学会）Mathematical Reviews (2006) 2006d:93143		

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
書評　Du, Nguyen Huu, Kon, R., Sato, K. and Takeuchi, Y.「The evolution of periodic population systems under random environment, Tohoku Math. J. 57 (2005), no.4, pp.447-468」	単著	平成 18 年 5 月	AMS Mathematical Reviews (2006) 2006MR 2203542.		
「フラクショナルブラウン運動の生成とファイナンスへの応用」	共著	平成 18 年 9 月	電子情報通信学会 2006 年ソサイエティ大会（2006　金沢大 ）[CD-ROM]	共同発表者：荒谷　仁、佐々木太良、成田清正	
「フラクタル画像符号化のための色情報を用いた領域探索による計算量削減」	共著	平成 18 年 9 月	電子情報通信学会 2006 年ソサイエティ大会（2006　金沢大）[CD-ROM]	共同発表者：梅本英生、佐々木太良、成田清正	
「フラクタルなブラウン運動のファイナンスへの応用」	共著	平成 18 年 9 月	日本学会オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会（2006　愛知大 ）[予稿集]	共同発表者：荒谷　仁、佐々木太良、成田清正	196-197 頁
「フラクタル画像圧縮におけるレンジ分割法」	共著	平成 18 年 9 月	日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会（2006　愛知大）[予稿集]	共同発表者：梅本英生、佐々木太良、成田清正	108-109 頁
「フラクタルノイズを伴う確率微分方程式の解の一意性について」	単著	平成 18 年 9 月	日本応用数理学会 2005 年度年会（筑波大学 ）［予稿集］		122-123 頁
書評　Luo, Jiaowan「Stability of invariant sets of Ito stochastic differential equations with Markovian switching」J. Appl. Math. Stoch. Anal. (2006), Art. ID 59032, pp.1-6.	単著	平成 18 年 12 月	AMS（米国数学会 ）Mathematical Reviews (2006) 2006m:60076		
問われる研究活性化の意味―Core Competence―	単著	平成 19 年 3 月	第 2 回 工学部・工学研究科 教育研究補助金による教育研究成果報告会要旨集（神奈川大学工学部・神奈川大学大学院工学研究科）(2)		-ii-頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
書評 Androshchuk, Taras and Mishra, Yuliya(2007/06/18)「Mixed Brownian-fractional Brownian model: absence of arbitrage and related topics」Stochastics 78 (2006), no.5, pp.281-300.	単著	平成 19 年 5 月	AMS（米国数学会） Mathematical Reviews (2007) MR2007k:60198		
書評 Kuroda, Koji and Matsuyama Naoki「Insurance mathematics, its theory and practice」Sugaku 59(2007), no.1, pp.91-10.	単著	平成 19 年 9 月	AMS（米国数学会） Mathematical Reviews (2007) MR 2007k:91170		
書評 Takahashi, Akihiko「Asymptotic expansion approaches to financial numerical problems」Sugaku 59(2007), no.1, pp.75-91.	単著	平成 19 年 9 月	AMS（米国数学会） Mathematical Reviews (2007) MR 2007k:91162		
書評 Kunitomo, Naoto and Kim Yong-Jin「Effect of stochastic interest rates and volatility on contingent claims」Jpn. Econ. Rev. 58(2007), no.1, pp.71-106.	単著	平成 19 年 9 月	AMS（米国数学会） Mathematical Reviews (2007) MR2007k:91144		
書評 Jovanovic, Miljana and Jankovic, Svetlana「Functionally perturbed stochastic differential equations」Math. Nachr. 279 (2006), no.16, pp.1808-1822.	単著	平成 19 年 9 月	AMS（米国数学会） Mathematical Reviews (200 7) MR 2274836		
「神奈川大の将来を考える」	単著	平成 19 年 9 月	神奈川大学教職員組合創立 50 周年記念行事		
「ATA ディスクのネットワーク分散化と遅延の評価」	共著	平成 19 年 9 月	電子情報通信学会 2007 年ソサイエティ大会（200 7 鳥取大） [CD-ROM(B-7-48)]	共同発表者：斎藤弘昌、佐々木太良、成田清正	B-7-48 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
「Fractional Black-Scholes モデルによるオプションの価格付け」	共著	平成 19 年 9 月	日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会（2007 政策研究大学院大学）[予稿集]	共同発表者：荒谷 仁、佐々木太良、成田清正	102-103 頁
「外的要因に影響される LOTO6 の微分方程式モデル」	共著	平成 19 年 9 月	日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会（2007 政策研究大学院大学）[予稿集]	共同発表者：和田明久、佐々木太良、成田清正	64-65 頁
「確率ボラティリティを持つ fractional Black-Scholes モデルに対する漸近解析」	単著	平成 19 年 9 月	日本応用数理学会 2006 年度年会（北海道大学）［予稿集］		186-187 頁
書評 Rashko, L.B.「Exponential mean square stability of stochastically forced invariant manifolds for nonlinear SDEs」Stoch. Dyn.7(2007), no.3, pp.389-401.	単著	平成 20 年 1 月	AMS（米国数学会）Mathematical Reviews (2008) MR 2351044		
書評 Sowers, R.B.「Stochastic averaging near ong heteroclinic orbits」Stoch. Dyn.7(2007), no.2, pp.187-228.	単著	平成 20 年 1 月	AMS（米国数学会）Mathematical Reviews (2008) MR 2339692		
書評 Kijima, M. and Suzuki, T.「The pricing of options with stochastic boundaries in a Gaussian economy」J. Oper. Res. Soc. Japan 50(2007), no.2, pp.137-150.	単著	平成 20 年 3 月	AMS（米国数学会）Mathematical Reviews (2008) MR2339880		
「ファイル構成の違いを考慮したディスクの遅延評価」	共著	平成 20 年 3 月	電子情報通信学会 2008 年総合大会（2008 北九州学術研究都市）[CD-ROM]	共同発表者：斎藤弘昌、佐々木太良、成田清正	
「ウエーブレットを用いた経済時系列における跳躍点検出」	共著	平成 20 年 3 月	電子情報通信学会 2008 年総合大会（2008 北九州学術研究都市）[CD-ROM]	共同発表者：和田明久、佐々木太良、成田清正	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
書評 Guo, Zeng-Xiao, Zhao, Ju-Sheng and Li, Guo-Cheng 「Existence of solutions for stochastic Volterra integral inclusions in Hilbert spaces」 Southeast Asian Bull. Math. 32(2008), no.1, pp.71-77.	単著	平成 20 年 5 月	AMS（米国数学会） Mathematical Reviews (2008) MR 2385102		
書評 Swishchuk,Anatoliy 「Modelling and pricing of variance swaps for multi-factor stochastic volatilities with delay」 Can. Appl. Math. Q. 14(2006), no.4, pp.439-467.	単著	平成 20 年 5 月	AMS（米国数学会） Mathematical Reviews (2008) MR 2008c:91078		
神奈川大学「工学部・工学研究科・工学研究所紹介冊子（2008 年度）」巻頭言	単著	平成 20 年 9 月	神奈川大学「工学部・工学研究科・工学研究所紹介冊子（2008 年度）」		-i-頁
「制約条件を考慮した自動作曲アルゴリズムの提案」	共著	平成 20 年 9 月	電子情報通信学会 2008 年ソサイエティ大会（2008 明治大生田キャンパス）[CD-ROM]	共同発表者：田中裕俊、佐々木太良、成田清正	
「ネットワーク ATA におけるネットワーク遅延に対する性能評価」	共著	平成 20 年 9 月	電子情報通信学会 2008 年ソサイエティ大会（2008 明治大生田キャンパス）[CD-ROM]	共同発表者：斎藤弘昌、佐々木太良、成田清正	
「長期記憶モデルによる時系列予測」	共著	平成 20 年 9 月	日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会（2008 札幌コンベンションセンター）[予稿集]	共同発表者：和田明久、佐々木太良、成田清正	80-81 頁
「Fractional Black-Scholes モデルの漸近解析」	単著	平成 20 年 9 月	日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会（2008 札幌コンベンションセンター）[予稿集]		16-17 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
「Fractional　Brownian motion　の環境下にある Black-Scholes モデル」オーガナイズド・セッション（数理ファイナンス）特別講演	単著	平成 20 年 9 月	日本応用数理学会 2008 年度年会日本応用数理学会（東大・柏キャンパス）［予稿集］		357-358 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 47 年 4 月～現在に至る	日本数学会会員
昭和 47 年 4 月～現在に至る	確率論セミナー会員
昭和 47 年 4 月～現在に至る	高校と大学の連携教育推進、学部教員免許状教科「情報」（平成 14 年度認定）および大学院教員専修免許状教科「数学」「情報」（平成 18 年度認定）への取組、数学教育への取組（現在に至る）
昭和 63 年 12 月～現在に至る	AMS（米国数学会）機関誌「Mathematical Reviews」の Reviewer(評者) を委嘱される（現在に至る）Reviewer
平成 4 年 1 月～現在に至る	SIAM【Society for Industrial and Applied Mathmatics】（アメリカ工業及び応用数学会）会員
平成 4 年 5 月～平成 17 年 12 月	日本経営工学会会員
平成 5 年 6 月～現在に至る	日本オペレーションズ・リサーチ学会会員
平成 5 年 6 月～現在に至る	日本応用数理学会（Japan SIAM）会員
平成 5 年 7 月～現在に至る	AMS【American Mathematical Society】（米国数学会）会員
平成 8 年 6 月～現在に至る	日本ディレクトリ学会会員
平成 8 年 7 月～現在に至る	日本ディレクトリ学会評議員
平成 10 年 4 月～現在に至る	日本ロジスティクス・システム学会会員
平成 10 年 6 月～現在に至る	日本ロジスティクス・システム学会評議員
平成 14 年 1 月～平成 17 年 3 月	日本音響学会会員
平成 14 年 8 月～平成 16 年 7 月	政府機関「大学評価・学位授与機構」評価委員会専門委員・総合科学分野・数理情報系部会主査
平成 16 年 4 月～平成 18 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究（C） 500 千円 （待ち行列型ネットワークに対する近似理論と占有時間問題の研究（課題番号　16540128））（研究分担者）

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部情報システム創成学科	職名 教授	氏名 森田　光	大学院における研究指導当 資格の有無　（㊒・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 財務諸表を用いた株式会社理解の実践	平成 18 年 9 月 1 日 ～平成 21 年 1 月 20 日	「職業意識」をテーマとする１年次科目のコースワーク II の講義において、受講者が株式会社を定量的に把握できるように、財務諸表を用いた説明を導入し、一定の理解を得るように工夫した。具体的には、複式簿記という基本的な会計の知識から説き起こし、貸借対照表・損益計算書・キャッシュ・フロー計算書の説明をし、特徴のある会社を事例に、数値例を用いた会社の実態把握をさせるようにしている。
2　作成した教科書、教材 ポイントを絞ったプログラミング演習教材の作成と配布	平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 7 月 20 日	２年次科目のプログラミング演習 I は、学生にとって初めてのコンピュータ言語を用いたプログラミング実践の授業にあたる。これまで、計算機科学の概念を説明して学生に理解を求める授業が一般的であり、知識の定着が見られなかった。そこで、一回ごとの授業内容を絞り、その説明と、確認用の小さいプログラムを作成する作業を繰り返すカリキュラムを作成し、一回ごとに資料を作成しホームページを用いて配布し、知識の定着を試みた。
3　教育上の能力に関する大学等の評価 神奈川大学工学部優秀講義賞	平成 19 年 10 月 10 日	2007 年度上半期の講義に対する受賞
4　実務の経験を有する者についての特記事項 電子調達システムの実践導入例の講演会の設定	平成 18 年 10 月	人脈を生かし、情報セキュリティの社会に対する顕著な成功適用例である電子調達システムについて、それに携わった技術者による講演会を設定した。具体的には、横須賀市のシステム構築したリーダーの一人に講演を依頼し、質疑応答を行った。
5　その他		なし

II　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
ユビキタスサービスネットワーク技術	共著	平成 15 年 9 月	電気通信協会	三宅功・斉藤洋編著、森田 光	225-260 頁
RFID におけるプライバシー保護のためのセキュリティ基礎技術と社会科学的な対策	共著	平成 16 年 6 月	IT セキュリティーソリューション大系，下巻，IT セキュリティーエンジニアリング，第 2 編，第 4 章，8. 3 節　フジ・テクノシステム	藤村明子，鈴木幸太郎，大久保美也子，木下真吾，{森田光}	289-294 頁
論文					
電子オークションプロトコル技術動向－第一価格秘密入札プロトコルについて－	共著	平成 15 年 7 月	電気通信大学紀要，Vol. 16，No.1	太田和夫，今井識，森田光	15-21 頁
内部告発制度の法制化を考慮した匿名情報提供方式	共著	平成 15 年 11 月	情報ネットワーク・ローレビュー，Vol. 2, 情報ネットワーク法学会	藤村明子，鈴木幸太郎，森田光	29-43 頁
An Auction Protocol Preserving Privacy of Losing Bids with A Secure Value Comparison Scheme	共著	平成 16 年 1 月	IEICE Trans. Fundamentals, Vol. E87-A, №1	Koji Chida, Kunio Kobayasi and Hikaru Morita	173-181 頁
RFID プライバシーに保護の実現に関する法制度及び技術的提案	共著	平成 16 年 7 月	情報ネットワーク・ローレビュー，Vol. 3, 情報ネットワーク法学会	藤村明子，鈴木幸太郎，木下真吾，森田光	33-50 頁
ハッシュ関数を用いた公平な電子抽選方法の提案	共著	平成 16 年 9 月	『日本社会情報学会論文誌』（日本社会情報学会）16，（2）	アグス・ファイナル・シュクリ，森田光，太田敏澄，齋藤泰一	21-29 頁
Security and Performance Evaluation of ESIGN and RSA on IC Cards by Using Byte-Unit Modular Algorithms	共著	平成 17 年 3 月	IEICE Trans. Comm. (IEICE)E88-B，（3）	Chung-Huang Yang, Hikaru Moritaand Tatsuaki Okamoto	1244-1248 頁
電子情報の安全性確保と Forensics の社会的実現に向けた秘密分散技術の考察	共著	平成 17 年 6 月	情報ネットワーク法学会 情報ネットワーク・ローレビュー	藤村明子，荻原利彦，森田光	30-41 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
安全対策を軽視する情報システムと安全を支える情報セキュリティ技術	単著	平成 17 年 9 月	『経営情報学会誌』14,（2）		96-101 頁
情報システム設計のためのセキュリティ要素	単著	平成 17 年 11 月	『神奈川大学工学研究所所報』（28）		32-39 頁
その他					
RFID 普及に際するプライバシー保護の実現手段に関する考察	共著	平成 15 年 10 月	情報処理学会，第 6 回コンピュータシンポジウム 2003，CSS2003，8A-4		
ハッシュ連鎖つきコリジョンの生成法	共著	平成 15 年 10 月	情報処理学会，第 6 回コンピュータセキュリティシンポジウム 2003，CSS2003，1C-3		
個人情報保護の実現－商流通におけるブラインド署名を用いたプライバシー保護方法の提案	共著	平成 15 年 10 月	日本社会情報学会，第 18 回全国大会		131-136 頁
ユビキタスサービスにおけるプライバシー保護の方法－追跡抑止のための個人カードと RFID タグの組合せ	共著	平成 15 年 10 月	日本社会情報学会，第 18 回全国大会		
RFID プライバシー保護の実現に関する法制度及び技術的提案	共著	平成 15 年 11 月	情報ネットワーク法学会，第 3 回研究大会		23-26 頁
SECI モデルを用いたインドネシアにおけるクレジットカード犯罪の広がり方の解析	共著	平成 16 年 1 月	社会情報システム学研究会，第 10 回社会情報システム学シンポジウム		
RFID プライバシー保護の実現に向けた法制度面の課題と提案	共著	平成 16 年 1 月	電子情報通信学会，2004 年暗号と情報セキュリティシンポジウム，SCIS2004-2D5-5		
連鎖する複数業者との個人取引でのプライバシー保護方法（その 1）	共著	平成 16 年 1 月	電子情報通信学会，2004 年暗号と情報セキュリティシンポジウム，SCIS2004-2D1-5		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
ハッシュ連鎖つきコリジョンを用いた小額決済方式の改良と実装	共著	平成 16 年 1 月	電子情報通信学会，2004 年暗号と情報セキュリティシンポジウム，SCIS2004-2D1-2		
ハッシュ連鎖つきコリジョンを用いた小額決済方式におけるパラメータ	共著	平成 16 年 1 月	電子情報通信学会，2004 年暗号と情報セキュリティシンポジウム，SCIS2004-2D1-1		
複数の無線タグを使う個人認証方式	共著	平成 16 年 3 月	電子情報通信学会，技術研究報告，IT2003-96，ISEC2003-136，WBS2003-214		133-138 頁
連鎖する複数業者との個人取引でのプライバシー保護方法（その 2）	共著	平成 16 年 3 月	電子情報通信学会，技術研究報告，IT2003-103，　ISEC2003-143，WBS2003-221		173-177 頁
電子情報の安全性と Computer Forensics の社会的実現に向けた秘密分散技術の考察	共著	平成 16 年 11 月	情報ネットワーク法学会、第 4 回研究大会		78-81 頁
効率的な電子抽選方式の提案	共著	平成 17 年 1 月	第 11 回社会情報システム学シンポジウム，日本学術会議経済政策研究連絡委員会・社会情報システム学研究会		73-77 頁
順序履歴検証方式	共著	平成 17 年 1 月	電子情報通信学会，2005 年暗号と情報セキュリティシンポジウム，SCIS2005-3C4-3		1579-1584 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 54 年 12 月～現在に至る	電子情報通信学会会員
昭和 62 年～現在に至る	米国電気電子学会会員
昭和 63 年～現在に至る	情報処理学会会員
平成 13 年 10 月～平成 17 年 3 月	情報処理学会情報規格調査会 SC27 専門委員会委員
平成 14 年～現在に至る	日本社会情報学会会員
平成 14 年～現在に至る	米国計算機学会会員
平成 14 年 5 月～平成 17 年 5 月	電子情報通信学会英論文誌 B 分冊編集委員
平成 15 年～現在に至る	日本経営工学会会員
平成 17 年 5 月～現在に至る	電子情報通信学会査読委員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部情報システム創成学科	職名 准教授	氏名 内田　智史	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 Java e-Learning システムの開発	～平成 15 年 11 月	38 時間分の Java のビデオ授業を一般に公開した。
2　作成した教科書、教材		
3　教育上の能力に関する大学等の評価 関東工学教育協会賞（業績賞）	平成 19 年 5 月	授業管理支援システム WebLec とその開発・運用支援体制
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
Java プログラミング徹底入門〜応用編〜	単著	平成 15 年 5 月	電波新聞社		
論文					
SCM の社内訓練ゲームについて	共著	平成 15 年 12 月	日本 e-Learning 学会会誌,Vol.5,		10-15 頁
コンピュータ言語	単著	平成 16 年 6 月	國文學 49,（7）		22-32 頁
THE IN-SERVICE TRAINING GAME FOR SCM	共著	平成 16 年 11 月	Proceedings of The 1st International Congress on Logistics and SCM Systems (ICLS2004)		227-230 頁
授業管理支援システム WebLec の開発と複数大学における運用	共著	平成 17 年 8 月	日本 e-Learning 学会会誌 7	八巻直一	4-9 頁
WEBLEC: A FULL-SCALE LESSON MANAGEMENT SUPPORT SYSTEM DEVELOPED BY UNIVERSITY STUDENTS	単著	平成 17 年 8 月	Proceedings of the 4th International Conference Web-based Learning: Technology and Padagogy (ICWL2005),World Scientific		13-21 頁
A Lesson Management Support System Using Ajax	共著	平成 19 年 3 月	International Symposium on Recent Trends in Global E-Learning and Collaboration	Masahiro Takesawa, Yusuke Tanaka, Qingbo Lou	
その他					

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 56 年 10 月～現在に至る	情報処理学会会員
昭和 60 年 10 月～現在に至る	ソフトウェア科学会会員
昭和 61 年 8 月～現在に至る	日本経営工学会会員
昭和 61 年 10 月～現在に至る	人工知能学会会員
平成 2 年 5 月～現在に至る	日本物流学会会員
平成 11 年 4 月～現在に至る	経営情報学会会員
平成 11 年 4 月～現在に至る	経営情報学会普及誌編集委員
平成 11 年 10 月～現在に至る	国税専門官採用試験試験専門委員
平成 12 年 4 月～現在に至る	教育システム情報学会会員
平成 12 年 4 月～現在に至る	日本教育情報学会会員
平成 14 年 4 月～平成 16 年 3 月	経営情報学会理事（編集）
平成 15 年 4 月～平成 16 年 3 月	経営情報学会普及誌編集委員長
平成 15 年 4 月～現在に至る	経営情報学会普及誌編集委員会

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部情報システム創成学科	職名 准教授	氏名 丹下　敏	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 システム設計コンペの実施による創造的、問題解決実践の指導	平成 14 年 4 月 10 日 ～平成 15 年 10 月 31 日	経営工学技術者には厳しい経営環境のもとで、”ものまね思考 ”でなく創造的問題解決力の具備が要請されている。かかる点からシステム設計コンペへの参加を前提として創造的問題解決を実際に体験させている。（継続的に実施）（～平成 15 年 10 月 31 日）
2　作成した教科書、教材		なし
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
生産管理実務（製造部門担当者編）	共著	平成 15 年 4 月	産能大学出版		
生産管理実務（設計部門担当者編）	共著	平成 15 年 4 月	産能大学出版		
設備保全の実際	単著	平成 19 年 4 月	産業能率大学出版部		
設備保全の基礎	単著	平成 19 年 4 月	産業能率大学出版部		
論文					
A Research on Flexiblity Index for SCM Design	共著	平成 16 年 9 月	Proceedings of the Internatinal Manufacturing Coferenc IMC21		p.p.468-473 頁
Business processinnovation in cmpetitive environment	共著	平成 18 年 9 月	Proceeding of 2nd Euro Conf, on-Management of Technology	S.Tange、M.Kitaoka	p.680-687 頁
SIQ and EIQ method for the decision of destribution center in supply chain systems	共著	平成 19 年 8 月	Proceeding of International Congress on Logistics and SCM System	M.Kitaoka, S.Tange	p.150-157 頁
Total logistics taking into account product lifecycle	共著	平成 19 年 8 月	Proceeding of International Congress on Logistics and SCM system	S.Tange, M.KItaoka	p.67-74 頁
The role of IE in a Conpetitive Business Environment	共著	平成 19 年 10 月	Proceeding of 37th International Conference on C onputers and ＩＥ	S.Tange、M.Kitaoka	
経営革新とインダストリアル・エンジニアリング	単著	平成 19 年 11 月	神奈川大学工学研究所報（30 号）		p.25-30 頁
製品ライフサイクルを考慮したトータルロジスティクス	共著	平成 19 年 11 月	日本ロジスティクスシステム学会誌Ｖ ol..7,（No.2）	丹下　聡、徐　瑞成	p.67-74 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
その他					
ＳCMへのシステム化技術	単著	平成 16 年 11 月	日本ロジスティクス学会基調講演		
企業実習におけるシステム企画・提案のためのエンジニアリング能力形成に関する考察	共著	平成 17 年 9 月	工学・工業教育研究講演会論文集	丹下敏、小澤幸夫、三林洋介	
製品ライフサイクルを考慮したトータルロジスティクス	共著	平成 19 年 8 月	日本ロジスティクス学会論文集	丹下　敏、徐 瑞成	
製品ライフサイクルを考慮したモノの循環サービスシステム	共著	平成 19 年 10 月	日本経営工学会論文集	徐瑞成、丹下敏、上野俊夫	

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 35 年 4 月～現在に至る	日本機械学会会員
昭和 40 年 4 月～現在に至る	日本経営工学会会員
平成 2 年 4 月～現在に至る	日本設備管理学会会員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部情報システム創成学科	職名 准教授	氏名 堀野　定雄	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 参加型立体講義	平成 15 年 9 月 1 日 ～現在に至る	講義終了 10 分前に大学所定のスモールテスト用紙を受講生全員に配付し、今日の講義で最も印象に残った事を自由に書いて貰う。次回講義の初め 15～20 分に印象記の項目を整理してフィードバックする。受講生全員に参考になる好事例印象記を出席者の 10 %程実名を紹介、本人確認の上紹介する。これを継続することにより、教師と学生のコミュニケーションだけでなく受講生の横断的コミュニケーション促進に大変貢献する事が目に見えて判る。ハプニングも起こり、講義の内容、進め方にも好影響を及ぼし、学生も参加する立体的参加型講義が実現している。
2　作成した教科書、教材 人間工学アクションチェックリストの作成と配付、実践応用	平成 12 年 4 月 1 日 ～平成 21 年 2 月 7 日	工学特別演習１，２、卒業研究で広範囲に活用し多大な成果を上げている。２０００年夏国際人間工医学世界大会（米国サンディエゴ市）で堀野の共同研究者小木氏が開発（英文）した和訳（堀野・森）版で A ３見開き様式の、分かり易い対策選択式人間工学チェックリスト。３年生の前期、神奈川大生協の協力で食堂や購買部の労働現場を 2 - 4 名のグループワークで観察し好事例３項目、要改善３項目を抽出し、パワーポイントにまとめて相互発表し、管理者のコメントも貰う実習用の教材である。これはタスク分析演習、卒業研究にも拡大応用し、労働観察眼の育成、改善提案力の育成に効果を上げている。生協食堂の改善、横浜駅構内案内標識の改善、国際観光都市鎌倉のユニバーサルデザイン応用実践、江ノ電、湘南モノレールのバリアフリー化、神社仏閣の境内のバリアフリー化、参道の商店のバリアフリー化など鎌倉の行政産業界も係わる形で大いに貢献している。
3　教育上の能力に関する大学等の評価 FD 委員会活動に積極的に協力	平成 18 年 4 月 1 日 ～平成 21 年 2 月 7 日	過去２回工学部内に設置されている FD 委員会の要請を快諾し、講義を委員に解放、自分の講義のやり方について率直なコメントを頂き感謝している。当日の講義要点を最後にまとめると更に学生に分かり易くなるとの指摘を受け、その後そうなるように改善努力をしている。自分の講義解放のみならず、他の教員の講義参観にも積極的に参加し、意見交換を行っている。
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
		なし

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
危険運転致死傷罪の総合的研究　第4章　警察庁統計からみた交通事故現状と有効な再発防止	共著	平成 17 年	日本評論社	交通科学研究会編、高山俊吉他	252-269 頁
論文					
ユニバーサルデザイン実践ガイドライン	単著	平成 15 年	日本人間工学会編、共立出版		
Ergonomic low-cost avoidance of intersection collisions by improvement for legibility of traffic-convex-mirrors ”	共著	平成 18 年 8 月	Proceedings of the 16th World Congress of the International Ergonomics Association CD-ROM(Maastricht	M. Mori, S. Kitajima, and M. Ueyama	
映像記録型ドライブレコーダを活用した事故分析と交通安全」交通事故に関する講演会、赤い本　弁護士必携　民事交通事故訴訟　損害賠償額算定基準下巻（講演録編）	単著	平成 20 年 2 月	、(財) 日弁連交通事故相談センター東京支部第 37 版		157-182 頁
映像記録型ドライブレコーダを活用した事故分析と交通安全」交通事故に関する講演会、赤い本　弁護士必携　民事交通事故訴訟　損害賠償額算定基準下巻（講演録編）	単著	平成 20 年 2 月	(財) 日弁連交通事故相談センター東京支部第 37 版		pp.157-182 頁
ユビキタス時代の安心・安全のためのアプローチ―ドライブレコーダによる予防安全の促進―	共著	平成 20 年 3 月	計測と制御，第 47 巻，（第 2 号）	久保登，北島創，森みどり	113-118 頁
その他					
「浮島インターチェンジの案内標識に関する調査研究（平成 6 年度）報告書」		平成 19 年 2 月	(財) 首都高速道路技術センター		

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
～現在に至る	日本人間工学会アーゴデザイン部会長
～現在に至る	人類動態学会幹事国際担当
～現在に至る	日本人間工学会アーゴデザイン部会長
～現在に至る	ISO/TC159(人間工学)/SC4(人間とシステムのインタラクション）/WG8(制御室の人間工学的設計）副議長
～現在に至る	人類動態学会幹事国際担当
～現在に至る	（国内共同研究）「産業疲労の測定評価-快適職場を目指した作業管理・環境管理-」
～現在に至る	（国内共同研究）「事故発生過程の動的解析とタスク志向の再発防止策-ヒューマンエラー対システムエラーの視点から-」
～現在に至る	（学内共同研究）「視線分析と視界設計-交通、監視制御、対話型システムに於ける視覚情報の時空間最適配置-」
昭和 36 年 4 月～現在に至る	日本経営工学会会員
昭和 39 年 4 月～現在に至る	日本人間工学会会員
昭和 40 年 4 月～現在に至る	日本インダストリアルエンジニアリング協会会員
昭和 42 年 4 月～現在に至る	農業機械学会会員
昭和 45 年 1 月～現在に至る	人類動態学会会員
昭和 45 年 1 月～現在に至る	人類働態学研究会会員
昭和 45 年 4 月～現在に至る	日本経営工学会学会誌編集委員
昭和 46 年～現在に至る	日本人間工学会選挙管理委員
昭和 46 年 4 月～現在に至る	日本人間工学会評議員
昭和 47 年 4 月～現在に至る	日本人間工学会関東支部委員
昭和 48 年～現在に至る	日本経営工学会学会誌レフェリー（人間工学領域）
昭和 48 年 1 月～現在に至る	人類働態学研究会幹事
昭和 48 年 1 月～現在に至る	人類働態学研究会会報編集委員
昭和 49 年 4 月～現在に至る	産業衛生学会会員

年月	内　　容
昭和 49 年 4 月～現在に至る	通産省大型プロジェクト，クリーン・ファンドリー・システム開発研究、人間・環境部会専門委員
昭和 50 年 4 月～現在に至る	日本人間工学会教育委員（連合大学院，人間工学用語検討委員）
昭和 50 年 4 月～現在に至る	通産省大型プロジェクト，クリーン・ファンドリー・システム開発研究、人間・環境部会専門委員会委員
昭和 51 年～現在に至る	通産省プロジェクト、マチュア・エンジニアリングに関する調査研究，マチュアエンジニアリングのあり方専門委員会委員
昭和 51 年 4 月～現在に至る	人類働態学研究会国際シンポジウム（アジアにおける産業化の影響とアーゴノミクス）開催実行委員
昭和 52 年 4 月～現在に至る	人類働態学研究会国際シンポジウム（現代生産システムのヒューマンパフォーマンスに及ぼす影響）実行委員
昭和 52 年 10 月～現在に至る	建設機械安全委員会（建設省関東地方建設局，関東技術事務所委託事業）委員
昭和 53 年～現在に至る	日本人間工学会関東支部大会長
昭和 53 年～現在に至る	Asian Conference on Occupational Health（アジア労働衛生会議）Educational Committee（教育委員会委員）
昭和 53 年 4 月～現在に至る	日本人類学会会員
昭和 53 年 11 月～現在に至る	横浜地方裁判所第五刑事部鑑定証人，朴鐘秀被告人業務上過失致死被告事件（大和市下鶴間に於る大型トラック左折巻込み事件）
昭和 54 年 1 月～現在に至る	神奈川簡易裁判所（中村良被告人道路交通法違反事件，横浜，片倉台交差点標識誤認裁判）刑事係，鑑定証人
昭和 54 年 4 月～現在に至る	日本機械学会会員
昭和 54 年 4 月～現在に至る	日本機械学会生産システム委員会委員
昭和 55 年～現在に至る	Asian Conference on Occupational Health（アジア労働衛生会議） Technical Committee（Ergonomics）
昭和 55 年～現在に至る	東京地方裁判所民事第 27 部（湯山裁判，大型トラック死角による死亡事故，損害賠償請求事件）鑑定人
昭和 55 年 6 月～現在に至る	東京高等裁判所第 11 刑事部（新井藤市被告人業務上過失致死被告事件，東京葛飾区柴又に於る大型トラック左折巻込み事件）鑑定証人
昭和 55 年 10 月～現在に至る	Human Factors Society（アメリカ人間工学会）会員
昭和 56 年 1 月～現在に至る	省エネ・スモールカー開発技術委員会委員
昭和 56 年 3 月～現在に至る	浦和地方裁判所刑事第一部（石澤養二被告人業務上過失致死被告事件，埼玉県与野市大字上峰交差点での大型トラック左折巻込事件）鑑定人
昭和 56 年 10 月～現在に至る	人類働態学研究会東日本地方会幹事
昭和 56 年 10 月～現在に至る	方向の標準化の原則委員会委員
昭和 56 年 11 月～現在に至る	第 6 回夜勤交代制に関する国際シンポジウム組織委員
昭和 57 年 8 月～現在に至る	東京高等裁判所第 5 刑事部，岩間正業務上過失致死被告事件“ 人間工学からみた大型トラック運転者の交差点右折時横断者視認ミスに関する意見書 ”鑑定証人

年月	内　　容
昭和 57 年 11 月～現在に至る	IE ハンドブック翻訳委員会委員委員
昭和 57 年 11 月～現在に至る	浦和地方裁判所熊谷支部（佐藤実被告の業務上過失致死被告事件）鑑定人
昭和 58 年～現在に至る	人類働態学研究会機関誌（Journal of Human Ergology）AssociateEditor（編集委員）
昭和 58 年 4 月～現在に至る	日本人間工学会理事，常任理事
昭和 58 年 4 月～現在に至る	日本産業デザイン振興会 インフォーメーション・リトリーバル・システム（人間工学担当）専門委員
昭和 58 年 4 月～現在に至る	㈳照明学会　視覚情報と視環境研究調査委員会委員
昭和 58 年 9 月～現在に至る	日本人間工学会工業デザイン部会幹事
昭和 59 年 4 月～現在に至る	機器を用いた高度な安全運転教育の授業設計研究会研究委員・(特殊法人）自動車安全運転センター，自動車の安全運転に必要な高度の技能・知識に関する研修の研究・委託先,(財）国際交通安全学会
昭和 60 年 4 月～現在に至る	通産省選定グッドデザイン商品（L. 産業機械部門）選定審査委員
昭和 60 年 5 月～現在に至る	日本人間工学会手指機能研究部会設立準備会幹事
昭和 63 年～現在に至る	運輸省大臣諮問自賠責懇談会委員
平成元年～現在に至る	日本人間工学会理事
平成元年～現在に至る	日本人間工学会理事
平成 7 年～現在に至る	ISO/TC159 国内対策委員会委員長
平成 8 年～現在に至る	運輸省先進安全自動車検討会座員
平成 9 年～現在に至る	交通法科学研究会代表世話人
平成 9 年～現在に至る	運輸省先進安全自動車検討会ヒューマンインタフェイス分科会主査
平成 10 年～現在に至る	運輸省ドライブレコーダ技術検討委員会委員
平成 10 年～現在に至る	運輸省大臣諮問自賠責懇談会委員
平成 11 年～現在に至る	運輸省事故調査委員会委員長
平成 11 年～現在に至る	運輸省事故調査パイロット調査事業委員会委員長
平成 18 年 4 月～平成 21 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究C 一般 3,600 千円 （出会い頭事故の原因分析と再発防止－視認性向上による交通管理システム再設計－）（研究代表者）

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部情報システム創成学科	職名 助教	氏名 奥野　祥二	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 レポートに対する添削とアドバイス	平成７年４月 ～現在に至る	実験などのレポートに対し添削を行い、このときに単なる解答にはしないで、どこが良くてどこが悪いのかを指摘し、改善を促す指導を実践している。
2　作成した教科書、教材 実験実習テキスト (経営工学実験実習、経営工学実験実習 I、II、コースワーク V、VI(経営工学コース))	平成７年４月 ～現在に至る	担当課題の設定、テキストの執筆、教材作成を受け持っている。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
スペースステーション搭載用宇宙線観測装置の重粒子検出性能に関する研究	共著	平成 15 年 4 月	平成 14 度放射線医学総合研究所重粒子線がん治療装置等共同利用研究報告書、14P098, pp.243-244, 2003	田村忠久、鳥居祥二、日比野欣也、奥野祥二、吉田賢二神奈川大、内堀幸夫、北村尚、放医研、片寄祐作横浜国大	243-244 頁
Studies of the Decay $B^{\pm} \to D_{CP}K^{\pm}$	共著	平成 15 年 4 月	Phys. Rev. Lett. 90, 131803 (2003)(5pages)	K. Abe, S. Okuno, et al. [Belle Collaboration]	
Observation of $\bar{B}^0 \to D^0\bar{K}^0 and \bar{B}^0 \to D^0\bar{K}^{*0}$ Decays	共著	平成 15 年 4 月	Phys.Rev.Lett.90, 141802 (2003) (6pages)	P.Krokovny, S.Okuno, et al. [Belle Collaboration] ,	
Observation of $B^0 \to p\bar{\Lambda}\pi^-$	共著	平成 15 年 5 月	Phys. Rev. Lett. 90, 201802 (2003)	M.-Z. Wang, Y.-J. Lee, S.Okuno, et al. [BELLE Collaboration],	
Measurement of the $B^0-\bar{B}^0$ mixing rate with $B^0(\bar{B}^0) \to D^{*\mp}\pi^{\pm}$ partial reconstruction	共著	平成 15 年 5 月	Phys. Rev. D 67,092004 (2003) (14 pages)	Y. Zheng, T. E. Browder, S.Okuno, et al. [BELLE Collaboration],	
Improved measurement of the partial-rate CP asymmetry in $B^+ \to K^0\pi^+$ and $B^- \to \bar{K}^0\pi^-$ decays	共著	平成 15 年 7 月	Phys. Rev. D 68, 011103(R) (2003) (6 pages)	Y. Unno, K. Suzuki, S.Okuno, et al. [BELLE Collaboration],	
Evidence for CP-violating asymmetries in $B^0 \to \pi^+\pi^-$ decays and constraints on the CKM angle ϕ_2	共著	平成 15 年 7 月	Phys. Rev. D 68, 012001 (2003) (15 pages)	K.Abe, S.Okuno, et al. [BELLE Collaboration],	
Measurement of branching fraction ratios and CP asymmetries in $B^{\pm} \to D_{CP}K^{\pm}$	共著	平成 15 年 9 月	Phys. Rev. D 68, 051101(R) (2003) (6 pages)	S. K. Swain, T. E. Browder, S.Okuno, et al. [BELLE Collaboration],	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Measurement of Branching Fractions and Polarization in $B \to \phi K^{(*)}$ Decays	共著	平成 15 年 11 月	Phys. Rev. Lett. 91, 201801 (2003) (6 pages)	K.-F. Chen, A. Bozek, S.Okuno, et al. [BELLE Collaboration],	
Observation of $B^{\mp} \to \rho^{\mp}\rho^{0}$ Decays	共著	平成 15 年 11 月	Phys. Rev. Lett. 91, 221801 (2003) (5 pages)	J. Zhang, M. Nakao, S.Okuno, et al. [BELLE Collaboration],	
Evidence for $B \to \phi\phi K$	共著	平成 15 年 12 月	Phys. Rev. Lett. 91, 241802 (2003) (6 pages)	H.-C. Huang, S.Okuno, et al. [BELLE Collaboration],	
人工ダイヤモンド・センサの開発	共著	平成 15 年 12 月	神奈川大学工学部研究所所報 No.26, (2003)	柏木利介、奥野祥二、吉田賢二、日比野欣也、藤高和信、内堀幸夫、北村尚、高島健、矢島佳央理、	95-104 頁
Observation of the $D_{sJ}(2317)$ and $D_{sJ}(2457)$ in B Decays	共著	平成 15 年 12 月	Phys. Rev. Lett. 91, 262002 (2003) (6 pages)	P. Krokovny, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Search for $B^0 \to \ell^+\ell^-$ at the Belle detector	共著	平成 15 年 12 月	Phys. Rev. D 68, 111101(R) (2003) (5 pages)	M.-C. Chang, P. Chang, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Observation of $B \to K^*\ell^+\ell^-$	共著	平成 15 年 12 月	Phys. Rev. Lett. 91, 261601 (2003) (6 pages)	A. Ishikawa, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Observation of a Narrow Charmoniumlike State in Exclusive $B^{\pm} \to K^{\pm}\pi^{+}\pi^{-}J/\Psi$ Decays	共著	平成 15 年 12 月	Phys. Rev. Lett. 91, 262001 (2003) (6 pages)	S.-K. Choi, S. L. Olsen, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Measurement of Time-Dependent CP-Violating Asymmetries in $B^0 \to \phi K^0_S$, $K^+K^-K^0_S$, and $\eta' K^0_S$ Decays	共著	平成 15 年 12 月	Phys. Rev. Lett. 91, 261602 (2003) (6 pages)	K. Abe, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Evidence for $B^0 \to \pi^0\pi^0$	共著	平成 15 年 12 月	Phys. Rev. Lett. 91, 261801 (2003) (5 pages)	S. H. Lee, K. Suzuki, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Study of B meson decays to three-body charmless hadronic final states	共著	平成 16 年 1 月	Phys. Rev. D 69, 012001 (2004) (12 pages)	A. Garmash, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Search for $B^- \to J/\psi\Lambda\bar{p}$ decay	共著	平成 16 年 1 月	Phys. Rev. D 69, 017101 (2004) (5 pages)	S. L. Zang, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Measurements of the D_{sJ} Resonance Properties	共著	平成 16 年 1 月	Phys. Rev. Lett. 92, 012002 (2004) (6pages)	Y. Mikami, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Observation of Radiative $B \to \phi K\gamma$ Decays	共著	平成 16 年 2 月	Phys. Rev. Lett. 92, 051801 (2004)	A. Drutskoy, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Measurement of $\|V_{ub}\|$ Using Inclusive $B \to X_u\ell\nu$ Decays with a Novel X_u-Reconstruction Method	共著	平成 16 年 3 月	Phys. Rev. Lett. 92, 101801 (2004)	H. Kakuno, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Observation of the Radiative Decay $D^0 \to \phi\gamma$	共著	平成 16 年 3 月	Phys. Rev. Lett. 92, 101803 (2004)	O. Tajima, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Letter of Intent for KEK Super B Factory	共著	平成 16 年 4 月	KEK Report 2004-4	K.Abe, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Search for neutrinoless decays $\tau \to 3\ell$	共著	平成 16 年 4 月	Phys. Lett. B 589 (2004) pp.103–110	Y. Yusa, T. Nagamineaj, A. Yamaguchiaj, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	103-110 頁
Upper Bound on the Decay $\tau \to \mu\gamma$ from the Belle Detector	共著	平成 16 年 4 月	Phys. Rev. Lett. 92, 171802 (2004)	K.Abe, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Observation of $B^+ \to p\bar{p}\pi^+$, $B^0 \to p\bar{p}K^0$, and $B^+ \to p\bar{p}K^{*+}$	共著	平成 16 年 4 月	Phys. Rev. Lett. 92, 131801 (2004) (6 pages)	M.-Z. Wang, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
結晶シンチレータを用いた全吸収カロリメータの重粒子線検出性能に関する研究	共著	平成 16 年 5 月	平成 15 年度放射線医学総合研究所重粒子線がん治療装置等共同利用研究報告書、15P162, pp.286-287, 2004	片寄祐作、井上武、市来高彦、柴田槙雄 [横浜国大]、日比野欣也、奥野祥二、田村忠久、鳥居祥二、吉田賢二 [神奈川大]、内堀幸夫、北村尚 [放医研]	286-287 頁
重粒子入射に対する新しい半導体検出器の応答	共著	平成 16 年 5 月	平成 15 年度放射線医学総合研究所重粒子線がん治療装置等共同利用研究報告書、15P066(2002 年度分報告), pp.201-202, 2004	柏木利介、奥野祥二、日比野欣也、吉田賢二 [神奈川大]、内堀幸夫、北村尚 [放医研]、岩田徹、高島健 [名古屋大理]、林健太郎、矢島佳央理 [東邦大理]。	201-202 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
重粒子入射に対する新しい半導体検出器の応答	共著	平成 16 年 5 月	平成 15 年度放射線医学総合研究所重粒子線がん治療装置等共同利用研究報告書、15P066, pp.199-200, 2004	柏木利介、奥野祥二、日比野欣也、吉田賢二 [神奈川大]、内堀幸夫、北村尚 [放医研]、高島健 [名古屋大理]、矢島佳央理 [東邦大理]。	199-200 頁
Measurement of the $B \to K^*\gamma$ branching fractions and asymmetries	共著	平成 16 年 6 月	Phys. Rev. D 69, 112001 (2004) (9 pages)	M. Nakao, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Improved measurements of the branching fractions for $B \to K\pi$, $\pi\pi$, and $K\bar{K}$ decays	共著	平成 16 年 6 月	Phys. Rev. D 69, 111102(R) (2004) (6 pages)	Y.Chao, K.Suzuki, Y.Unno, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Study of $B \to D^{**0}\pi^-(D^{**0} \to D^{(*)} + \pi^-)$ decays	共著	平成 16 年 6 月	Phys. Rev. D 69, 112002 (2004) (17 pages)	K.Abe, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Measurement of the CP Asymmetry in $B \to X_s\gamma$	共著	平成 16 年 7 月	Phys. Rev. Lett. 93, 031803 (2004)	S.Nishida, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Measurement of the branching fractions for $B \to \omega K$ and $B \to \omega\pi$	共著	平成 16 年 7 月	Phys. Rev. D 70, 012001 (2004) (6 pages)	C. H. Wang, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Study of CP Violating Effects in Time Dependent $B^0(\bar{B}^0) \to D^{(*)\mp}\pi^{\pm}$ Decays	共著	平成 16 年 7 月	Phys. Rev. Lett. 93, 031802 (2004)(5pages)	T. R. Sarangi, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Observation of $B^+ \to \psi(3770)K^+$	共著	平成 16 年 7 月	Phys. Rev. Lett. 93, 051803 (2004) (6pages)	R.Chistov, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Observation of Large CP Violation and Evidence for Direct CP Violation in $B^0 \to \pi^+\pi^-$ Decays	共著	平成 16 年 7 月	Phys. Rev. Lett. 93, 021601 (2004)	K.Abe, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Search for the Lepton-Flavor-Violating Decay $\tau \to \mu^-\eta$ at Belle	共著	平成 16 年 8 月	Phys. Rev. Lett. 93, 081803 (2004)	Y.Enari, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Inclusive Measurement of the Photon Energy Spectrum in $b \to s\gamma$ Decays	共著	平成 16 年 8 月	Phys. Rev. Lett. 93, 061803 (2004)	P. Koppenburg, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Observation of the decays $B^0 \to K^+\pi^-\pi^0$ and $B^0 \to \rho^- K^+$	共著	平成 16 年 9 月	Physics Letters B 599 (2004) pp.148-158	K.Abe, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	148-158 頁
Evidence for $B^0 \to \rho^0\pi^0$	共著	平成 16 年 9 月	Phys. Rev. Lett. 93, 131802 (2004)	J.Dragic, T.Gershon, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Evidence for $B^+ \to \omega\ell^+\nu$	共著	平成 16 年 9 月	Phys. Rev. Lett. 93, 131803 (2004)	C. Schwanda, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Study of double charmonium production in e^+e^- annihilation at $\sqrt{s} \approx$ 10.6 GeV	共著	平成 16 年 10 月	Phys. Rev. D 70, 071102(R) (2004) (6 pages)	K.Abe, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Measurement of ϕ_3 with Dalitz plot analysis of $B^\pm \to D^{(*)}K^\pm$ decay	共著	平成 16 年 10 月	Phys. Rev. D 70, 072003 (2004) (14 pages)	A. Poluektov, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Measurement of the $e^+e^- \to D^{(*)+}D^{(*)-}$ cross sections	共著	平成 16 年 10 月	Phys. Rev. D 70, 071101(R) (2004) (6 pages)	T.Uglov, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Search for CP Violation in the Decay $B^0 \to D^{*\pm}D^{\mp}$	共著	平成 16 年 11 月	Phys. Rev. Lett. 93, 201802 (2004)	T.Aushev, Y.Iwasaki, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Evidence for Direct CP Violation in $B^0 \to K^+\pi^-$ Decays	共著	平成 16 年 11 月	Phys.Rev.Lett. 93 (2004) 191802	Y.Chao, P.Chang, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Observation of $B^+ \to \Lambda\bar{\Lambda}K^+$	共著	平成 16 年 11 月	Phys. Rev. Lett. 93, 211801 (2004)	Y.-J. Lee, M.-Z. Wang, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Observation of $B^0 \to D^{*-}(5\pi)^+, B^+ \to D^{*-}(4\pi)^{++}$ and $B^+ \to \bar{D}^{*0}(5\pi)^+$	共著	平成 16 年 12 月	Phys. Rev. D 70, 111103(R) (2004) (5 pages)	G. Majumder, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Study of Time-Dependent CP Violation in $B^0 \to J/\psi\pi^0$ Decays	共著	平成 16 年 12 月	Phys. Rev. Lett. 93, 261801 (2004)	S. U. Kataoka, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Measurement of masses and branching ratios of Ξ_c^+ and Ξ_c^0 baryons	共著	平成 17 年 1 月	Physics Letters B 605 (2005) 237-246	T.Lesiak, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	237-246 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Measurement of the Branching Fraction and CP Asymmetry in $B^+ \to \rho^+\pi^0$	共著	平成 17 年 1 月	Phys. Rev. Lett. 94, 031801 (2005)	J. Zhang, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Improved measurements of the partial rate asymmetry in $B \to hh$ decays	共著	平成 17 年 2 月	Phys. Rev. D 71, 031502(R) (2005) (5 pages)	Y. Chao, P. Chang, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Observation of $B^+ \to K_1(1270)^+\gamma$	共著	平成 17 年 3 月	Phys. Rev. Lett. 94, 111802 (2005) (5 pages)	Heyoung Yang, M. Nakao, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Study of the Suppressed Decays $B^- \to [K^+\pi^-]_D K^-$ and $B^- \to [K^+\pi^-]_D \pi^-$	共著	平成 17 年 3 月	Phys. Rev. Lett. 94, 091601 (2005)	M.Saigo, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Observation of $B^+ \to K^+\eta\gamma$	共著	平成 17 年 3 月	Physics Letters B 610 (2005) 23-30	S.Nishida, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	23-30 頁
Observation of an Isotriplet of Excited Charmed Baryons Decaying to $\Lambda_c^+\pi$	共著	平成 17 年 4 月	Phys. Rev. Lett. 94, 122002 (2005) (5 pages)	R. Mizuk, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Search for $B^0 \to p\bar{p}$, $B^0 \to \Lambda\bar{\Lambda}$, and $B^+ \to p\bar{\Lambda}$ at Belle	共著	平成 17 年 4 月	Phys. Rev. D 71, 072007 (2005) (5 pages)	M.-C.Chang, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Search for $\tau \to e\gamma$ decay at Belle	共著	平成 17 年 4 月	Physics Letters B 613 (2005) 20-28	K.Hayasaka, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	20-28 頁
Improved measurement of CP-violation parameters sin2ϕ_1 and $\|\lambda\|$, B meson lifetimes, and $B^0 - \bar{B}^0$ mixing parameter Δm_d	共著	平成 17 年 4 月	Phys. Rev. D 71, 072003 (2005) (12 pages)	K. Abe, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Study of $B^0 \to \rho^\pm\pi^\mp$ Time-Dependent CP Violation at Belle	共著	平成 17 年 4 月	Phys. Rev. Lett. 94, 121801 (2005)	C. C. Wang, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Observation of $B^0 \to \pi^0\pi^0$	共著	平成 17 年 5 月	Phys. Rev. Lett. 94, 181803 (2005) (6 pages)	Y. Chao, P. Chang, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Dalitz analysis of the three-body charmless decays $B^+ \to K^+\pi^+\pi^-$ and $B^+ \to K^+K^+K^-$	共著	平成 17 年 5 月	Phys. Rev. D 71, 092003 (2005) (24 pages)	A. Garmash, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
結晶シンチレータを用いた全吸収カロリメータの重粒子線検出性能に関する研究	共著	平成 17 年 5 月	平成 16 年度放射線医学総合研究所重粒子線がん治療装置等共同利用研究報告書、16P162, pp.245-246, 2005	片寄祐作、井上武、岩塚正博、三橋庸智、柴田槙雄 [横浜国大]、日比野欣也、奥野祥二、田村忠久、鳥居祥二、吉田賢二 [神奈川大]、内堀幸夫、北村尚、[放医研]	245-246 頁
重粒子入射に対する新しい半導体検出器の応答	共著	平成 17 年 5 月	平成 16 年度放射線医学総合研究所重粒子線がん治療装置等共同利用研究報告書、16P066, pp.181-182, 2005	柏木利介、奥野祥二、日比野欣也、吉田賢二 [神奈川大]、内堀幸夫、北村尚、矢島佳央理 [放医研]、高島健 [JAXA]、伊藤真之、古市勝久、佐伯浩介 [神戸大]。	181-182 頁
Search for $B^0 \to J/\psi\bar{D}^0$ and $B^+ \to J/\psi\bar{D}^0\pi^+$ decays	共著	平成 17 年 5 月	Phys. Rev. D 71, 091107(R) (2005) (6 pages)	L.M.Zhang, Z.P.Zhang, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Observation of a Near-Threshold $\omega J/\psi$ Mass Enhancement in Exclusive $B \to K\omega J/\psi$ Decays	共著	平成 17 年 5 月	Phys. Rev. Lett. 94, 182002 (2005)	S.-K.Choi, S.L.Olsen, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Measurement of the $\gamma\gamma \to \pi^+\pi^-$ and $\gamma\gamma \to K^+K^-$ processes at energies of 2.4–4.1 GeV	共著	平成 17 年 5 月	Physics Letters B 615 (2005) 39-49	H.Nakazawaj, S.Uehara, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	39-49 頁
Measurements of branching fractions and CP asymmetries in $B \to \eta h$ decays	共著	平成 17 年 5 月	Phys. Rev. D 71, 091106(R) (2005) (6 pages)	P.Chang, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Spectra of prompt electrons from decays of B^+ and B^0 mesons and ratio of inclusive semielectronic branching fractions	共著	平成 17 年 5 月	Physics Letters B 614 (2005) 27-36	T.Okabe, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	27-36 頁
Observation of the $D_1(2420) \to D\pi^+\pi^-$ Decays	共著	平成 17 年 6 月	Phys. Rev. Lett. 94, 221805 (2005) (6 pages)	K.Abe, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Measurement of the Time-Dependent CP-Violating Asymmetry in $B^0 \to K^0_S\pi^0\gamma$ Decays	共著	平成 17 年 6 月	Phys. Rev. Lett. 94, 231601 (2005) (5 pages)	Y. Ushiroda, K. Sumisawa, M. Hazumi, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Measurement of Polarization and Triple-Product Correlations in $B \to \phi K^*$ Decays	共著	平成 17 年 6 月	Phys. Rev. Lett. 94, 221804 (2005) (5 pages)	K.-F. Chen, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Study of the baryon-antibaryon low-mass enhancements in charmless three-body baryonic B decays	共著	平成 17 年 6 月	Physics Letters B617, 30 June 2005, Pages 141-149	M.-Z. Wang, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	141-149 頁
Observation of $\bar{B}^0 \to D^0\eta'$ and $\bar{B}^0 \to D^{*0}\eta'$	共著	平成 17 年 7 月	Phys. Rev. D 72, 011103(R) (2005) (6 pages)	J. Sch¥"umann, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Branching fraction, polarization and CP-violating asymmetries in $B^0 \to D^{*+}D^{*-}$ decays	共著	平成 17 年 7 月	Physics Letters B618, 7 July 2005, Pages 34-42	H. Miyakeac, M. Hazumi, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	34-42 頁
Evidence for $B^0 \to D^+D^-$ and Observation of $B^- \to D^0D^-$ and $B^- \to D^0D^{*-}$ Decays	共著	平成 17 年 7 月	Phys. Rev. Lett. 95, 041803 (2005) (5 pages)	G. Majumder, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Time-dependent CP-violating asymmetries in $b \to s\bar{q}q$ transitions	共著	平成 17 年 7 月	Phys. Rev. D 72, 012004 (2005) (15 pages)	K.-F. Chen, F. Fang, 6 A. Garmash, K. Hara, M. Hazumi, T. Higuchi, H. Kakuno, A. Kusaka, T. Shibata, O. Tajima, K. Trabelsi, 6 T. Ziegler, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Search for the $b \to d\gamma$ process	共著	平成 17 年 7 月	Phys. Rev. D 72, 011101(R) (2005) (5 pages)	D. Mohapatra,47 M. Nakao,7 B. D. Yabsley, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Measurement of Click to view the MathML source production at Belle	共著	平成 17 年 8 月	Physics Letters B621, 11 August 2005, Pages 41-55	C.C. Kuo, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	41-55 頁
Measurement of Time-Dependent CP-Violating Asymmetries in $B^0 \to K^0_sK^0_sK^0_s$ Decay	共著	平成 17 年 8 月	Phys. Rev. Lett. 95, 061801 (2005) (6 pages)	K. Sumisawa, Y. Ushiroda, M. Hazumi, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Observation of $B^+ \to p\bar{\Lambda}\gamma$	共著	平成 17 年 8 月	Phys. Rev. Lett. 95, 061802 (2005) (5 pages)	Y.-J. Lee, M.-Z. Wang, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Studies of CP Violation in $B \to J/\psi K^*$ Decays	共著	平成 17 年 8 月	Phys. Rev. Lett. 95, 091601 (2005) (6 pages)	R. Itoh, Y. Onuki, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Measurement of $\|V_{ub}\|$ near the endpoint of the electron momentum spectrum from semileptonic B-meson decays	共著	平成 17 年 8 月	Physics Letters B621 , 11 August 2005, Pages 28-40	A. Limosani, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	28-40 頁
Time-dependent CP violation effects in partially reconstructed $B^0 \to D^{*\mp}\pi^{\pm}$ decays	共著	平成 17 年 9 月	Physics Letters B624, 22 September 2005, Pages 11-21	T. Gershon, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	11-21 頁
Search for lepton flavor violating decays $\tau^- \to \ell^-\pi^0, \ell^-\eta, \ell^-\eta'$	共著	平成 17 年 9 月	Physics Letters B622, 1 September 2005, Pages 218-228	Y. Enaris, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	218-228 頁
Improved Evidence for Direct CP Violation in $B^0 \to \pi^+\pi^-$ Decays and Model-Independent Constraints on ϕ_2	共著	平成 17 年 9 月	Phys. Rev. Lett. 95, 101801 (2005) (6 pages)	K.Abe, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Measurements of the Branching Fraction and Polarization in $B^+ \to \rho^+ K^{*0}$ Decays	共著	平成 17 年 9 月	Phys. Rev. Lett. 95, 141801 (2005) (5 pages)	J. Zhang, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Observation of $B^- \to J/\psi\Lambda\bar{p}$ and searches for $B^- \to J/\psi\Sigma^0\bar{p}$ and $B^0 \to J/\psi p\bar{p}$ decays	共著	平成 17 年 9 月	Phys. Rev. D 72, 051105(R) (2005) (6 pages)	Q. L. Xie, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Measurement of the branching fractions for $B^- \to D^{(*)+}\pi^-\ell^-\bar{\nu}_\ell$ and $\bar{B}^0 \to D^{(*)0}\pi^+\ell^-\bar{\nu}_\ell$	共著	平成 17 年 9 月	Phys. Rev. D 72, 051109(R) (2005) (7 pages)	K.Abe, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Search for $D^0 - \bar{D}^0$ mixing using semileptonic decays at Belle	共著	平成 17 年 10 月	Phys. Rev. D 72, 071101(R) (2005) (6 pages)	U. Bitenc, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Improved measurement of the electroweak penguin process $B \to X_s \ell^+ \ell^-$	共著	平成 17 年 11 月	Phys. Rev. D 72, 092005 (2005) (10 pages)	M. Iwasaki, K. Itoh, H. Aihara, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Determination of $\|V_{ub}\|$ from Measurements of the Inclusive Charmless Semileptonic Partial Rates of B Mesons using Full Reconstruction Tags	共著	平成 17 年 12 月	Phys. Rev. Lett. 95, 241801 (2005) (6 pages)	I. Bizjak, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Measurement of the Wrong-Sign Decays $D^0 K^+ \pi^- \pi^0$ and $D^0 \to K^+ \pi^- \pi^+ \pi^-$, and Search for CP Violation	共著	平成 17 年 12 月	Phys. Rev. Lett. 95, 231801 (2005) (5 pages)	K.Abe, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Measurements of B Decays to Two Kaons	共著	平成 17 年 12 月	Phys. Rev. Lett. 95, 231802 (2005) (5 pages)	K.Abe, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Search for the $\Theta(1540)^+$ pentaquark using kaon secondary interactions at Belle	共著	平成 18 年 1 月	Physics Letters B632, 12 January 2006, Pages 173-180	R. Mizukl, M. Danilovl, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	173-180 頁
Search for lepton and baryon number violating τ^- decays into $\bar{\Lambda}\pi^-$ and $\Lambda\pi^-$	共著	平成 18 年 1 月	Physics Letters B632, 5 January 2006, Pages 51-57	K.Abe, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	51-57 頁
Charm hadrons from fragmentation and B decays in e^+e^- annihilation at $\sqrt{s}$ = 10.6 GeV	共著	平成 18 年 2 月	Phys. Rev. D 73, 032002 (2006) (22 pages)	R. Seuster, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Measurement of branching fractions for $B \to \chi_{c1(2)} K(K^*)$ at Belle	共著	平成 18 年 3 月	Physics Letters B634, 9 March 2006, Pages 155-164	N. Soni, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	155-164 頁
Observation of a χ'_{c2} Candidate in $\gamma\gamma \to D\bar{D}$ Production at Belle	共著	平成 18 年 3 月	Phys. Rev. Lett. 96, 082003 (2006) (6 pages)	K.Abe, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Search for the decay $B^0 \to \gamma\gamma$	共著	平成 18 年 3 月	Phys. Rev. D 73, 051107(R) (2006) (5 pages)	K.Abe, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Study of $B^{\pm} \to D_{CP}K^{\pm}$ and $D^{*}_{CP}K^{\pm}$ decays	共著	平成 18 年 3 月	Phys. Rev. D 73, 051106(R) (2006) (6 pages)	K.Abe, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Investigation of basic characteristics of synthetic diamond radiation detectors	共著	平成 18 年 4 月	IEEE Transactions on Nuclear Science, Volume 53, No.2, (2006)	T.Kashiwagi, K.Hibino, H.Kitamura, K.Mori, S.Okuno, T.Takashima, Y.Uchihori, K.Yajima, M.Yokota, K.Yoshida,	630-635 頁
Improved Constraints on $D^0 - \bar{D}^0$ Mixing in $D^0 \to K^+\pi^-$ Decays from the Belle Detector	共著	平成 18 年 4 月	Phys. Rev. Lett. 96, 151801 (2006) (6 pages)	L. M. Zhang, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Measurements of CP Violation in $B^0 \to D^{*-}\pi^+$ and $B^0 \to D^-\pi^+$ Decays	共著	平成 18 年 5 月	Phys. Rev. D 73, 092003 (2006) (17 pages)	F.J. Ronga, T. R. Sarangi, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
結晶シンチレーターを用いた全吸収カロリメータの重粒子線検出性能に関する研究	共著	平成 18 年 5 月	平成 17 年度放射線医学総合研究所重粒子線がん治療装置等共同利用研究報告書、15P162, pp210-211, 2006	片寄祐作、岩崎正統、内堀幸夫、奥野祥二、北村 尚、小平 聡柴田槇雄、田村忠久、陳鼎、豊田哲也、鳥居祥二、日比野欣也、吉田賢二	210-211 頁
重粒子に対する新しい半導体検出器の応答	共著	平成 18 年 5 月	平成 17 年度放射線医学総合研究所重粒子線がん治療装置等共同利用研究報告書、16P066, pp.163-164, 2006	柏木利介、奥野祥二、日比野欣也、吉田賢二神奈川大、内堀幸夫、北村尚放医研、高島健 JAXA、伊藤真之、古市勝久、神戸大。	163-164 頁
Measurement of the Branching Fraction, Polarization, and CP Asymmetry for $B^0 \to \rho^+\rho^-$ Decays, and Determination of the Cabibbo-Kobayashi-Maskawa Phase ϕ_2	共著	平成 18 年 5 月	Phys. Rev. Lett. 96, 171801 (2006) (6 pages)	A. Somov,4 A. J. Schwartz, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Radon alpha-ray detector on-board lunar mission SELENE	共著	平成 18 年 5 月	Advances in Space Research37, (1)	J. Nishimura, T. Kashiwagi, T. Takashima, S. Okuno, K. Yoshida, K. Mori, M. Itoh, K. Saeki and K. Furuichi	34-37 頁
Measurement of ϕ_3 with Dalitz plot analysis of $B^+ \to D^{(*)}K^{(*)+}$ decay	共著	平成 18 年 6 月	Phys. Rev. D 73, 112009 (2006) (16 pages)	A. Poluektov, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Measurement of Forward-Backward Asymmetry and Wilson Coefficients in $B \to K^* \ell^+ \ell^-$	共著	平成 18 年 6 月	Phys. Rev. Lett. 96, 251801 (2006)	A, Ishikawa, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Measurement of Azimuthal Asymmetries in Inclusive Production of Hadron Pairs in e^+e^- Annihilation at Belle	共著	平成 18 年 6 月	Phys. Rev. Lett. 96, 232002 (2006)	R. Seidl, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Observation of $b \to d\gamma$ and Determination of $\|V_{td}/V_{ts}\|$	共著	平成 18 年 6 月	Phys. Rev. Lett. 96, 221601 (2006)	D. Mohapatra, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Measurement of Branching Fraction and Direct CP Asymmetry in $B^0 \to \rho^0\pi^0$ Decays	共著	平成 18 年 6 月	Phys. Rev. D 73, 111105(R) (2006) (6 pages)	J. Dragic, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Evidence for Large Direct CP Violation in $B^\pm \to \rho(770)^0 K^\pm$ from Analysis of the Three-Body Charmless $B^\pm \to K^\pm\pi^\pm\pi^\mp$ Decay	共著	平成 18 年 6 月	Phys. Rev. Lett. 96, 251803 (2006)	A.Garmash, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Charge Asymmetry of Same-Sign Dileptons in B^0-$\bar{B}^0$ Mixing	共著	平成 18 年 6 月	Phys. Rev. D 73, 112002 (2006) (13 pages)	E. Nakano, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Search for the h_c meson in $B^\pm \to h_c K^\pm$	共著	平成 18 年 7 月	Phys. Rev. D 74, 012007 (2006) (7 pages)	F. Fang, T.E. Browder, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Search for lepton flavor violating τ^- decays with a K^0_S meson	共著	平成 18 年 8 月	Physics Letters B Volume 639, Issues 3-4 , 10 August 2006	Y.Miyazaki, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	159-164 頁
Measurement of the Quark Mixing Parameter $\cos 2\phi_1$ Using Time-Dependent Dalitz Analysis of $\bar{B^0} \to D[K^0_s\pi^+\pi^-]h^0$	共著	平成 18 年 8 月	Phys. Rev. Lett. 97, 081801 (2006)	P.Krokovny, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Measurement of $D^0 \to \pi\ell\nu(K\ell\nu)$ Form Factors and Absolute Branching Fractions	共著	平成 18 年 8 月	Phys. Rev. Lett. 97, 061804 (2006) published 11 August 2006	L. Widhalm, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Evidence of $B \to \eta'\pi$ and improved measurements of $B \to \eta' K$	共著	平成 18 年 8 月	Phys. Rev. Lett. 97, 061802 (2006)	J. Schuemann, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Observation of $B^{\pm} \to \chi_{c1}\pi^{\pm}$ and Search for Direct CP Violation	共著	平成 18 年 9 月	Phys. Rev. D 74, 051103(R) (2006) (6 pages)	R.Kumar, J.B.Singh, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Observation of near-threshold enhancement in the $D^0\bar{D}^0\pi^0$ invariant mass in $B \to D^0\bar{D}^0\pi^0 K$ Decay	共著	平成 18 年 10 月	Phys. Rev. Lett. 97, 162002 (2006)	G.Gokhroo, G.Majumder, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Observation of New States Decaying into $\Lambda_c^+ K^-\pi^+$ and $\Lambda_c^+ K_S^0\pi^-$	共著	平成 18 年 10 月	Phys. Rev. Lett. 97, 162001 (2006)	Ruslan Chistov, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Study of $J/\psi \to p\bar{p}$, $\Lambda\bar{\Lambda}$ and observation of $\eta_c \to \Lambda\bar{\Lambda}$ at Belle	共著	平成 18 年 10 月	Phys. Rev. Lett. 97, 162003 (2006)	C.-H. Wu, M.-Z. Wang, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Observation of $B^+ \to \Lambda_c^+\Lambda_c^- K^+$ and $B^0 \to \Lambda_c^+\Lambda_c^- K^0$ Decays	共著	平成 18 年 11 月	Phys. Rev. Lett.97	N. Gabyshev, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	202003 頁
放射線医療・被爆そして宇宙ガンマ線観測にも有効なダイヤモンド・リコイル・テレスコープ (DCRT) の開発	共著	平成 18 年 11 月	神奈川大学工学研究所所報、第 29 号	柏木利介、日比野欣也、奥野祥二、内堀幸夫、北村尚、高島健、矢島佳央理、大田幸雄、横田護、	59-66 頁
First Observation of the Decay $\tau^- \to \phi K^-\nu_\tau$	共著	平成 18 年 11 月	Physics Letters B Volume 643, Issue 1 , 30 November 2006	K. Inami, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	5-10 頁
Improved Measurements of Color-suppressed Decays $\bar{B}^0 \to D^0\pi^0$, $D^0\eta$, $D^0\omega$, $D^{*0}\pi^0$, $D^{*0}\eta$ and $D^{*0}\omega$	共著	平成 18 年 11 月	Phys. Rev. D 74, 092002 (2006) (10 pages)	S. Blyth, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Time-Dependent CP Asymmetries in $B^0 \to K_s\pi^0\gamma$ Transitions	共著	平成 18 年 12 月	Phys. Rev. D 74, 111104(R) (2006) (6 pages)	Y. Ushiroda, K. Sumisawa, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Study of decay mechanisms in $B^- \to \Lambda_c^+ \bar{p}\pi^-$ decay and observation of anomalous structure in the $\Lambda_c^+ \bar{p}$ system	共著	平成 18 年 12 月	Phys. Rev. Lett. 97, 242001 (2006)	N.Gabyshev, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Improved measurements of branching fractions and CP partial rate asymmetries for $B \to \omega K$ and $B \to \omega\pi$	共著	平成 18 年 12 月	Phys. Rev. D 74, 111101(R) (2006) (6 pages)	Chun-Min Jen, P. Chang, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Evidence of the Purely Leptonic Decay $B^- \to \tau^- \bar{\nu}_\tau$	共著	平成 18 年 12 月	Phys. Rev. Lett. 97, 251802 (2006)	K. Ikado, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Observation of $B^+ \to \bar{\Xi}_c^0 \Lambda_c^+$ and Evidence for $B^0 \to \Xi_c^- \Lambda_c^+$	共著	平成 18 年 12 月	Phys. Rev. D 74, 111105(R) (2006) (5 pages)	R.Chistov, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Improved measurement of CP-violating parameters in $B \to \rho^+\rho^-$ decays	共著	平成 19 年	Phys. Rev. D76	A. Somov, A. J. Schwartz, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	011104(R) (2007) (7 pages) 頁
Study of $B^+ \to p\bar{\Lambda}\gamma$, $p\bar{\Lambda}\pi^0$ and $B^0 \to p\bar{\Lambda}\pi^-$	共著	平成 19 年	Phys. Rev. D76	M.-Z. Wang, Y.-J. Lee, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	052004 (2007) (8 pages) 頁
Improved measurements of branching fractions and CP asymmetries in $B \to \eta h$ decays	共著	平成 19 年	Phys. Rev. D75	P. Chang, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	071104(R) (2007) (7 pages) 頁
Dalitz Analysis of Three-body Charmless $B^0 \to K^0\pi^+\pi^-$ Decay	共著	平成 19 年 1 月	Phys. Rev. D 75, 012006 (2007) (10 pages)	A. Garmash, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Search for $B^+ \to J/\psi\eta' K^+$ and $B^0 \to J/\psi\eta' K_S^0$ Decays	共著	平成 19 年 1 月	Phys. Rev. D 75, 017101 (2007) (6 pages)	Q. L. Xie, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Measurement of inclusive D_s, D^0 and J/ψ rates and determination of the $B_s^{(*)}\bar{B}_s^{(*)}$ production fraction in $b\bar{b}$ events at the $\Upsilon(5S)$ resonance	共著	平成 19 年 1 月	Phys. Rev. Lett. 98, 052001 (2007)	A. Drutskoy, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Observation of time-dependent CP violation in $B^0 \to \eta' K^0$ decays and improved measurements of CP asymmetries in $B^0 \to \phi K^0$, $K_s K_s K_s$ and $B^0 \to J/\psi K^0$ decays	共著	平成 19 年 1 月	Phys. Rev. Lett. 98, 031802 (2007) (6 pages)	K.-F. Chen, K.Hara, M.Hazumi, T.Higuchi, K.Miyabayashi, Y.Nakahama, K.Sumisawa, O.Tajima, Y.Ushiroda, Y.Yusa, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Study of the charmed baryonic decays $\bar{B}^0 \to \Sigma_c^{++} \bar{p} \pi^-$ and $\bar{B}^0 \to \Sigma_c^0 \bar{p} \pi^+$	共著	平成 19 年 1 月	Phys. Rev. D 75, 011101(R) (2007) (6 pages)	K.S.Park and H.Kichimi, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
Measurement of the Near-Threshold $e^+e^- \to D^{(*)\pm} D^{(*)\mp}$ Cross Section using Initial-State Radiation	共著	平成 19 年 2 月	Phys. Rev. Lett.98	G. Pakhlova, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	092001 頁
Moments of the hadronic invariant mass spectrum in $B \to X_c \ell \nu$ decays at Belle	共著	平成 19 年 2 月	Phys. Rev. D75	C. Schwanda, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	032005(9 pages) 頁
Observation of a Charmoniumlike State Produced in Association with a J/ψ in e^+e^- Annihilation at $\sqrt{s} \approx 10.6$GeV	共著	平成 19 年 2 月	Phys. Rev. Lett.98	K. Abe, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	082001 頁
Moments of the electron energy spectrum and partial branching fraction of $B \to X_c e \nu$ decays at Belle	共著	平成 19 年 2 月	Phys. Rev. D 75, 032001 (2007) (16 pages)	P. Urquijo, E. Barberio, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	
High statistics study of the $f_0(980)$ resonance in $\gamma\gamma \to \pi^+\pi^-$ production	共著	平成 19 年 3 月	Phys. Rev. D75	T. Mori, S. Uehara, Y. Watanabe, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	051101(R) (2007) (6 pages) 頁
Observation of the Decay $B^0 \to J/\psi \eta$	共著	平成 19 年 3 月	Phys. Rev. Lett.98	M.-C. Chang, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	131803 頁
Search for Invisible Decay of the $\Upsilon(1S)$	共著	平成 19 年 3 月	Phys. Rev. Lett.98	O. Tajima, H. Hayashii, M. Hazumi, K. Inami, Y. Iwasaki, S. Uehara, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	132001 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Observation of the decay $\Upsilon(4S) \to \Upsilon(1S)\pi^+\pi^-$	共著	平成 19 年 4 月	Phys. Rev. D75	A. Sokolov, M. Shapkin, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	071103(R)(6pages) 頁
Evidence for $D^0 - \bar{D}^0$ Mixing	共著	平成 19 年 5 月	Phys. Rev. Lett.98	M. Stari{c}, B. Golob, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	211803 頁
Improved measurement of $\bar{B}^0 \to D_s^- D^+$ and search for $\bar{B}^0 \to D_s^+ D_s^-$ at Belle	共著	平成 19 年 5 月	Phys. Rev. D75	A. Zupanc, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	091102(R) (2007) (7 pages) 頁
Search for lepton flavor violating τ^- decays into $\ell^-\eta$, $\ell^-\eta'$ and $\ell^-\pi^0$	共著	平成 19 年 5 月	Physics Letters B648, (5-6)	Y. Miyazaki, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	341-350 頁
Evidence for CP Violation in $B^0 \to D^+D^-$ Decays	共著	平成 19 年 5 月	Phys. Rev. Lett.98	S. Fratina, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	221802 頁
Measurement of charmless B decays to ηK^* and $\eta\rho$	共著	平成 19 年 5 月	Phys. Rev. D75	C. H. Wang, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	092005 (2007) (10 pages) 頁
Search for B decays into $\eta' p$, $\eta' K^*$, $\eta'\phi$, $\eta'\omega$ and $\eta'\eta^{(\prime)}$	共著	平成 19 年 5 月	Phys. Rev. D75	J. Sch¥"umann, C. H. Wang, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	092002 (2007) (8 pages) 頁
Observation of B Decays to Two Kaons	共著	平成 19 年 5 月	Phys. Rev. Lett.98	S.-W. Lin, P. Chang, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	181804 頁
A search for the rare leptonic decays $B^+ \to \mu^+\nu_\mu$ and $B^+ \to e^+\nu_e$	共著	平成 19 年 5 月	Physics Letters B647, (2-3)	N. Satoyama, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	67-73 頁
Observation of Direct CP Violation in $B^0 \to \pi^+\pi^-$ Decays and Model-Independent Constraints on the Quark-Mixing Angle ϕ_2	共著	平成 19 年 5 月	Phys. Rev. Lett.98	H. Ishino, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	211801 頁
Measurements of branching fractions and q^2 distributions for $B \to \pi\ell\nu$ and $B \to \rho\ell\nu$ decays with $B^{(*)}\ell\nu$ decay tagging	共著	平成 19 年 5 月	Physics Letters B648, (2-3)	T. Hokuue, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	139-148 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Search for $B^0 \to p\bar{p}$, $\Lambda\bar{\Lambda}$ and $B^+ \to p\bar{\Lambda}$ at Belle	共著	平成 19 年 6 月	Phys. Rev. D75	Y.-T. Tsai, P. Chang, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	111101(R) (2007) (5 pages) 頁
Experimental Constraints on the Spin and Parity of the $\Lambda_c(2880)^+$	共著	平成 19 年 6 月	Phys. Rev. Lett.98	R. Mizuk, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	262001 頁
Measurement of CP Asymmetry in a Time-Dependent Dalitz Analysis of $B^0 \to (\rho\pi)^0$ and a Constraint on the Quark Mixing Matrix Angle ϕ_2	共著	平成 19 年 6 月	Phys. Rev. Lett.98	A. Kusaka, C. C. Wang, H. Ishino, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	221602 頁
宇宙線観測装置 CALET のフロントエンド回路の耐放射線性能	共著	平成 19 年 6 月	平成 18 年度放射線医学総合研究所重粒子線がん治療装置等共同利用研究報告書、18P218, pp253-254, (2007-6)	田村忠久、日比野欣也、奥野祥二、鳥居祥二、清水雄輝、吉田賢二、片寄祐作、陳鼎、内堀幸夫、北村尚	253-254 頁
高エネルギー重イオンに対するプラスチックシンチレータと光電子増倍管の応答特性	共著	平成 19 年 6 月	平成 18 年度放射線医学総合研究所重粒子線がん治療装置等共同利用研究報告書、17P202, pp226-227, (2007-6)	増田公明、村木綏、伊藤好孝、土谷隆、毛受弘彰、渡邉泰典、間瀬剛、田中隆之、田村忠久、日比野欣也、奥野祥二、片寄祐作、陳鼎、吉田賢二、村上健	226-227 頁
重粒子に対する新しい半導体検出器の応答	共著	平成 19 年 6 月	平成 18 年度放射線医学総合研究所重粒子線がん治療装置等共同利用研究報告書、16P066, pp.165-166, (2007-6)	柏木利介、内堀幸夫、奥野祥二、北村尚、高島健、日比野欣也、吉田賢二、伊藤真之、古市勝久	165-166 頁
The design of diamond Compton telescope	共著	平成 19 年 6 月	Astrophysics and Space Science309, (1-4)	Kinya Hibino, Toshisuke Kashiwagi, Shoji Okuno, Kaori Yajima, Yukio Uchihori, Hisashi Kitamura, Takeshi Takashima, Mamoru Yokota and Kenji Yoshida	541-544 頁
Measurements of exclusive B_s^0 decays at the $\Upsilon(5S)$ resonance	共著	平成 19 年 7 月	Phys. Rev. D76	A. Drutskoy, K. Abe, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	012002 (2007) [9 pages] 頁
A study of $\gamma\gamma \to K_S^0 K_S^0$ production at energies from 2.4 to 4.0 GeV at Belle	共著	平成 19 年 7 月	Physics Letters B651, (1)	W.T. Chen, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	15-21 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Measurement of the τ Lepton Mass and an Upper Limit on the Mass Difference between τ^+ and τ^-	共著	平成 19 年 7 月	Phys. Rev. Lett.99	K. Belous, M. Shapkin, A. Sokolov, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	011801 頁
Study of $\bar{B^0} \to D^0\pi^+\pi^-$ decays	共著	平成 19 年 7 月	Phys. Rev. D76	A. Kuzmin, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	012006 (2007) (11 pages) 頁
Measurement of $D^0 - \bar{D}^0$ Mixing Parameters in $D^0 \to K_s\pi^+\pi^-$ Decays	共著	平成 19 年 9 月	Phys. Rev. Lett.99	L. M. Zhang, Z. P. Zhang, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	131803 頁
Observation of the decay $\bar{B}^0 \to D_s^+\Lambda\bar{p}$	共著	平成 19 年 9 月	Phys. Rev. D76	T. Medvedeva, R. Chistov, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	051102(R) (2007) (5 pages) 頁
Measurements of Branching Fractions for $B \to K\pi$ and $B \to \pi\pi$ Decays	共著	平成 19 年 9 月	Phys. Rev. Lett.99	S.-W. Lin, P. Chang, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	121601 頁
Measurement of Einstein-Podolsky-Rosen-Type Flavor Entanglement in $\Upsilon(4S) \to B^0\bar{B}^0$ Decays	共著	平成 19 年 9 月	Phys. Rev. Lett.99	A. Go, A. Bay, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	131802 頁
Observation of Two Resonant Structures in $e^+e^- \to \pi^+\pi^-\psi(2S)$ via Initial-State Radiation at Belle	共著	平成 19 年 10 月	Phys. Rev. Lett.99	X. L. Wang, C. Z. Yuan, C. P. Shen, P. Wang, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	142002 頁
Measurement of branching fraction and time-dependent CP asymmetry parameters in $B^0 \to D^{*+}D^{*-}K_S^0$ decays	共著	平成 19 年 10 月	Phys. Rev. D76	J. Dalseno, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	072004 (2007) (9 pages) 頁
High Statistics Measurement of the Cross Sections of $\gamma\gamma \to \pi^+\pi^-$ Production	共著	平成 19 年 10 月	J. Phys. Soc. Jpn.76	T. Mori, S. Uehara, Y. Watanabe	074102 (11 pages) 頁
Observation of $B^0 \to D^{*-}\tau^+\nu_\tau$ Decay at Belle	共著	平成 19 年 11 月	Phys. Rev. Lett.99	A. Matyja, M. Rozanska, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	191807 (2007) [5 pages] 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Search for the CP-Violating Decays $\Upsilon(4S) \to B^0\bar{B}^0 \to J/\psi K_S^0 + J/\psi(\eta_c)K_S^0$	共著	平成 19 年 11 月	Phys. Rev. Lett.99	O. Tajima, M. Hazumi, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	211601 頁
Measurement of the $e^+e^- \to \pi^+\pi^- J/\psi$ Cross Section Via Initial-State Radiation at Belle	共著	平成 19 年 11 月	Phys. Rev. Lett.99	C. Z. Yuan, C. P. Shen, P. Wang, S. McOnie, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	182004 頁
Search for $B \to h^{(*)}\nu\bar{\nu}$ Decays at Belle	共著	平成 19 年 11 月	Phys. Rev. Lett.99	K.-F. Chen, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	221802 頁
Study of charmonia in four-meson final states produced in two-photon collisions	共著	平成 19 年 11 月	European Physical Journal C53	S. Uehara, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	1-14 頁
Measurements of time-dependent CP violation in $B^0 \to \omega K_S^0$, $f_0(980)K_S^0, K_S^0\pi^0$ and $K^+K^-K_S^0$ decays	共著	平成 19 年 11 月	Phys. Rev. D76	Y. Chao, K.-F. Chen, H. Miyake, O. Tajima, K. Trabelsi, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	091103(R) (2007) (7 pages) 頁
Observation of $D_{s1}(2536)^+ \to D^+\pi^-K^+$ and angular decomposition of $D_{s1}(2536)^+ \to D^{*+}K_S^0$	共著	平成 20 年	Phys. Rev. D77	V. Balagura, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	032001 (2008) (10 pages) 頁
Measurement of the near-threshold $e^+e^- \to D\bar{D}$ cross section using initial-state radiation	共著	平成 20 年 1 月	Phys. Rev. D77	G. Pakhlova, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	011103(R) (2008) (5 pages) 頁
Time-Dependent CP-Violating Asymmetry in $B^0 \to \rho^0\gamma$ Decays	共著	平成 20 年 1 月	Phys. Rev. Lett.100	Y. Ushiroda, K. Sumisawa, N. Taniguchi, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	021602 頁
Observation of $e^+e^- \to K^+K^-J/\psi$ via initial-state radiation at Belle	共著	平成 20 年 1 月	Phys. Rev. D77	C. Z. Yuan, C. P. Shen, P. Wang, X. L. Wang, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	011105(R) (2008) (6 pages) 頁
Study of the decay mechanism for $B^+ \to p\bar{p}K^+$ and $B^+ \to p\bar{p}\pi^+$	共著	平成 20 年 1 月	Physics Letters B659, (1-2)	J.-T. Weiz, M.-Z. Wangz, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	80-86 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Search for lepton flavor violating τ decays into three leptons	共著	平成 20 年 2 月	Physics Letters B660, (3)	Y. Miyazaki, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	154-160 頁
Observation of the $\psi(4415) \to D\bar{D}_2^*(2460)$ Decay Using Initial-State Radiation	共著	平成 20 年 2 月	Phys. Rev. Lett.100	G. Pakhlova, I. Adachi, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	062001 頁
Difference in direct charge-parity violation between charged and neutral B meson decays	共著	平成 20 年 3 月	Nature452	S.-W. Lin, Y. Unno, W.-S. Hou, P. Chang, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	332-335 頁
Measurement of Time-Dependent CP-Violating Parameters in $B^0 \to K_S^0 K_S^0$ Decays	共著	平成 20 年 3 月	Phys. Rev. Lett.100	Y. Nakahama, K. Sumisawa, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	121601 頁
Observation of Anomalous $\Upsilon(1S)\pi^+\pi^-$ and $\Upsilon(2S)\pi^+\pi^-$ Production near the $\Upsilon(5S)$ Resonance	共著	平成 20 年 3 月	Phys. Rev. Lett.100	K.-F. Chen, W.-S. Hou, M. Shapkin, A. Sokolov, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	112001 頁
Observation of $B_s^0 \to \phi\gamma$ and Search for $B_s^0 \to \gamma\gamma$ Decays at Belle	共著	平成 20 年 3 月	Phys. Rev. Lett.100	J. Wicht, S. Okuno et al. The Belle Collaboration	121801 頁
Search for $\bar{B}^0 \to \Lambda_c^+ \bar{\Lambda}_c^-$ decay at Belle	共著	平成 20 年 3 月	Phys. Rev. D77	Y. Uchida, H. Ozaki, H. Kichimi, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	051101(R) (2008) (6 pages) 頁
Observation of a New D_{sJ} Meson in $B^+ \to \bar{D}^0 D^0 K^+$ Decays	共著	平成 20 年 3 月	Phys. Rev. Lett.100	J. Brodzicka, H. Palka, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	092001 頁
Measurement of the ratio $\mathcal{B}(D^0 \to \pi^+\pi^-\pi^0)/\mathcal{B}(D^0 \to K^-\pi^+\pi^0)$ and the time-integrated CP asymmetry in $D^0 \to \pi^+\pi^-\pi^0$	共著	平成 20 年 4 月	Physics Letters B662, (2)	K. Arinstein, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	102-110 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Measurement of CP asymmetries and branching fractions in a time-dependent Dalitz analysis of $B^0 \to (\rho\pi)^0$ and a constraint on the quark mixing angle ϕ_2	共著	平成 20 年 4 月	Phys. Rev. D77	A. Kusaka, C. C. Wang, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	072001 (2008) (25 pages) 頁
Observation of a Resonancelike Structure in the $\pi^{+-}\psi'$ Mass Distribution in Exclusive $B \to K\pi^{+-}\psi'$ Decays	共著	平成 20 年 4 月	Phys. Rev. Lett.100	S.-K. Choi,6 S. L. Olsen, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	142001 頁
Improved measurement of time-dependent CP violation in $B^0 \to J/\psi\pi^0$ decays	共著	平成 20 年 4 月	Phys. Rev. D77	S. E. Lee, K. Miyabayashi, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	071101(R) (2008) (6 pages) 頁
Measurement of masses of the $\Xi_c(2645)$ and $\Xi_c(2815)$ baryons and observation of $\Xi_c(2980) \to \Xi_c(2645)\pi$	共著	平成 20 年 5 月	Physics Letters B665, (1)	T. Lesiak, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	9-15 頁
Search for lepton-flavor-violating $\tau \to \ell V^0$ decays at Belle	共著	平成 20 年 5 月	Physics Letters B664, (1-2)	Y. Nishio, K. Inamiab, T. Ohshima, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	35-40 頁
Production of New Charmoniumlike States in $e^+e^- \to J/\psi D^{(*)}\bar{D}^{(*)}$ at $\sqrt{s} \approx 10.6$ GeV	共著	平成 20 年 5 月	Phys. Rev. Lett.100	P. Pakhlov,, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	202001 (2008) [5 pages] 頁
Measurement of the branching fraction and charge asymmetry of the decay $B^+ \to D^+\bar{D}^0$ and search for $B^0 \to D^0\bar{D}^0$	共著	平成 20 年 5 月	Phys. Rev. D77	I. Adachi, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	091101(R) (2008) (5 pages) 頁
Measurements of time-dependent CP violation in $B^0 \to \psi(2S)K^0_S$ decays	共著	平成 20 年 5 月	Phys. Rev. D77	H. Sahoo, T. E. Browder, K. Trabelsi, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	091103(R) (2008) (6 pages) 頁
Study of $B \to D^{**}\ell\nu$ with full reconstruction tagging	共著	平成 20 年 5 月	Phys. Rev. D77	D. Liventsev, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	091503(R) (2008) (7 pages) 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Search for resonant $B^{\pm} \to K^{\pm}h \to K^{\pm}\gamma\gamma$ decays at Belle	共著	平成 20 年 5 月	Physics Letters B662, (4)	J. Wicht, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	323-329 頁
Measurement of $B(D_S^+ \to \mu^+\nu_\mu)$	共著	平成 20 年 6 月	Phys. Rev. Lett.100	L. Widhalm, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	241801 (2008) [6 pages] 頁
Improved search for $D^0-\bar{D}^0$ mixing using semileptonic decays at Belle	共著	平成 20 年 6 月	Phys. Rev. D77	U. Bitenc, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	112003 (2008) [20 pages] 頁
Observation of $B^0 \to p\bar{p}K^{*0}$ with a Large K^{*0} Polarization	共著	平成 20 年 6 月	Phys. Rev. Lett.100	J.-H. Chen, M.-Z. Wang, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	251801 (2008) [6 pages] 頁
New search for $\tau \to \mu\gamma$ and $\tau \to e\gamma$ decays at Belle	共著	平成 20 年 8 月	Physics Letters B666, (1)	K. Hayasaka, S. Okunoet al. [The Belle Collaboration]	16-22 頁
その他					
Development of a PMT Readout System with Viking Chips for the SciFi Detector of CALET	共著	平成 15 年 8 月	28th International Cosmic Ray Conferrence 2003, Vol.5 (2003)	T.Tamura, S.Torii, K.Hibino, K.Yoshida, S.Okuno, K.Anraku, T.Yamashita, Y.Uchihori, H.Kitamura, Y.Katayose, T.Inoue, K.Kasahara, S.Kubo, R.Battiston, and M.Menichelli,	2189-2192 頁
The Diamond compton Recoil Telescope	共著	平成 15 年 8 月	28th International Cosmic Ray Conferrence 2003, Vol.5 (2003)	T. Kashiwagi, S. Okuno, K. Hibino, K. Yoshida, Y. Uchihori, H. Kitamura, T. Takashima, K. Hayashi, K. Yajima,	2995-2998 頁
The improved ladder production for the Belle silicon vertex detector (SVD2.1)	共著	平成 15 年 10 月	Nuclear Science Symposium Conference Record, 2004 IEEE, Vol. 2	T.Ziegler, S.Okuno et al.BELLE SVD Group,	899- 903 頁
Japanese industry overviews based on optimal hub strategy in East Asia	共著	平成 16 年 7 月	Proceedings of The 9th International Symposium on Logistics (9th ISL)	A. Hanamura, Y. Karasawa, M. Sakano, S. Okuno	696-701 頁
Basic Study on trade-off analysis between business benefit and environment conservation for the investment of the Mineral-Water Plant	共著	平成 16 年 7 月	Proceedings of The 9th International Symposium on Logistics (9th ISL)	K.Sonoda, S.Okuno, Y.Karasawa	534-540 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Research Vehicle Exhaust Emission Diffusion Model intended for Underground Parking Lot	共著	平成 16 年 9 月	Proceedings of the 21st International Manufacturing Conference (IMC21)	D.Negishi, S.Okuno, Y.Karasawa	716-721 頁
Optimal Site Selection for Regions of Three Economic Polarization in the World	共著	平成 16 年 9 月	Proceedings of the 21st International Manufacturing Conference (IMC21)	Aya Hanamura, Y.Karasawa, M.Sakano, S.Okuno	707 頁
A Research on Flexibility Index For SCM Design	共著	平成 16 年 9 月	Proceedings of the 21st International Manufacturing Conference (IMC21)	S.Tange, H.Nakajima, S.Okuno, Y.Karasawa	468-474 頁
A Basic Research on Optimization Model for the Manufacturing and the Transportation by JIT-Kamban Supply Chain System	共著	平成 16 年 9 月	Proceedings of the 21st International Manufacturing Conference (IMC21)	AtsushiKubota, Shoji Okuno, Yutaka Karasawa	371-376 頁
Investigation of basic characteristics of synthetic diamond radiation detectors	共著	平成 16 年 10 月	Nuclear Science Symposium Conference Record, 2004 IEEE, Vol. 2	T.Kashiwagi, K.Hibino, H.Kitamura, S.Okuno, T.Takashima, Y.Uchihori, K.Yajima, M.Yokota, K.Yoshida,	734- 738 頁
Level-1 silicon vertex detector trigger at Belle	共著	平成 16 年 10 月	Nuclear Science Symposium Conference Record, 2004 IEEE, Vol. 3		1716- 1720 頁
The Belle L1.5 trigger	共著	平成 16 年 10 月	Nuclear Science Symposium Conference Record, 2004 IEEE, Vol. 3	Stamen, R.; Ziegler, T.; Okuno, S.; et. al.[BELLE SVD Collaboration]	1697-1701 頁
The development of the high energy particle detector onboard the SELENE spacecraft	共著	平成 16 年 10 月	Nuclear Science Symposium Conference Record, 2004 IEEE, Vol. 1	T.Takashima, T.Kashiwagi, S.Okuno, K.Mori, H.Onabe,	181-185 頁
地下駐車場内を対象とした排気ガス拡散モデルに関する研究	共著	平成 16 年 10 月	日本経営工学会平成１６年度秋季研究大会	根岸大地、奥野祥二、唐澤豊	238-239 頁
JIT-Kanban Supply Chain System における製造・輸送の最適化モデルに関する基本的研究	共著	平成 16 年 10 月	日本経営工学会平成１６年度秋季研究大会	久保田篤、奥野祥二、唐澤豊	158-159 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
エコロジスティクスに関する基本的研究	共著	平成 16 年 11 月	日本ロジスティクスシステム学会第 7 回全国大会	斎藤徹也、唐澤豊、奥野祥二	130-133 頁
ロジスティクスの共同化における情報セキュリティに関する基本的研究	共著	平成 16 年 11 月	日本ロジスティクスシステム学会第 7 回全国大会	加賀谷雅人、唐澤豊、奥野祥二	102-105 頁
物流共同化に関する基本的研究	共著	平成 16 年 11 月	日本ロジスティクスシステム学会第 7 回全国大会	藤田知明、、唐澤豊、奥野祥二	97-100 頁
ロジスティクス情報ネットワーク生成プロセスに関する基本的研究	共著	平成 16 年 11 月	日本ロジスティクスシステム学会第 7 回全国大会	大槻正毅、唐澤豊、奥野祥二	12-15 頁
Basic study on trade-off analysis between business benefit and environment conservation for the investment of the mineral-water plant	共著	平成 16 年 11 月	Proceedings of the 1st International Congress on Logistics and SCM System	Kouji Sonoda, Shoji Okuno, Yutaka karasawa	299-305 頁
Research on modelling vehicle exhaust in underground parking lot	共著	平成 16 年 11 月	Proceedings of the 1st International Congress on Logistics and SCM System	Daichi Negishi, Shoji Okuno, Yutaka karasawa	306-313 頁
A basic research on optimization model for the manufacturing and the transportation by JIT-Kanban supply chain system	共著	平成 16 年 11 月	Proceedings of the 1st International Congress on Logistics and SCM System	Atsushi Kubota, Shoji Okuno, Yutaka karasawa	293-298 頁
The CALET Mission on International Space Station	共著	平成 17 年 8 月	29th International Cosmic Ray Conference Pune (2005) 3	S. Torii, T. Tamura, N. Tateyama, K. Hibino, T. Yuda, K. Yoshida, K. Kashiwagi, S. Okuno, J. Nishimura, T. Yamagami, Y. Saito, H. Fuke, M.Takayanagi, H. Tomida, S. Ueno, F. Makino, M. Shibata, Y. Katayose, S. Kuramata, M. Ichimura, Y. Uchihori, H. Kitamura, K. Kasahara, H. Murakami, T. Kobayashi, Y. Komori, K. Mizutani, T. Terasawa, R.E. Streitmatter, et. al. [Calet Collaboration]	329-332 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
CALET Observation of Nuclear Components in Primary Cosmic Rays	共著	平成 17 年 8 月	29th International Cosmic Ray Conference Pune (2005) 3	M. Ichimura, S. Kuramata, S. Torii, T. Tamura, K. Yoshida, K. Kasahara, J. ChangH. Fuke, K. Hibino, T. Kashiwagi, Y. Katayose, H. Kitamura, T. Kobayashi, Y. Komori, F. Makino, K. Mizutani, H. Murakami, J. Nishimura, S. Okuno, Y. Saito, M. Shibata, M. Takayanagi, N. Tateyama, T. Terasawa, S. Tomida, Y. Uchihori, S. Ueno, T. Yamagami, T. Yuda,	321-324 頁
Performance of the CALET Calorimeter by Accelerator Beam Test	共著	平成 17 年 8 月	29th International Cosmic Ray Conference Pune (2005) 3	Y.Katayose, S.Torii, T.Tamura, K.Yoshida, H.Murakami, H.Fuke, K.Hibino, M.Ichimura, K.Kasahara, K.Kashiwagi, H.Kitamura, Y.Komori, S.Kuramata, T.Kobayashi, F.Makino, K.Mizutani, J.Nishimura, S.Okuno, Y.Saito, M.Shibata, M.Takayanagi, N.Tateyama, T.Terasawa, H.Tomida, Y.Uchihori, S.Ueno, T.Yamagamiand T.Yuda	325-328 頁
Observation of High-Energy Electron, Gamma Ray, and Dark Matter with CALET	共著	平成 17 年 8 月	29th International Cosmic Ray Conference Pune (2005) 3	K.Yoshida, S.Torii, T.Tamura, K.Kasahara, J.Chang, H.Fuke , K.Hibino, M.Ichimura, T.Kashiwagi, Y.Katayose, H.Kitamura, T.Kobayashi, Y.Komori, S.Kuramata, F.Makino, K.Mizutani, H.Murakami, J.Nishimura, S.Okuno , Y.Saito, M.Shibata, M.Takayanagi, N.Tateyama, T.Terasawa, S.Tomida, Y.Uchihori, S.Ueno, T.Yamagami, T.Yuda	337-340 頁
CALET Observations of Galactic Electrons in the Heliosphere	共著	平成 17 年 8 月	29th International Cosmic Ray Conference Pune (2005) 2	Y. Komori, S. Torii, T. Tamura, K. Yoshida, J. Nishimura, T. Terasawa, H. Fuke, K. Hibino, M. Ichimura, K. Kasahara, K. Kashiwagi, Y. Katayose, H. Kitamura, T. Kobayashi, S. Kuramata, F. Makino, K. Mizutani, H. Murakami, S. Okuno, Y. Saito, M. Shibata, M. Takayanagi, N. Tateyama, H. Tomida, Y. Uchihori, S. Ueno, T. Yamagami, T. Yuda,	453-456 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
The CALET Instrument for Experiment on the ISS	共著	平成 17 年 8 月	29th International Cosmic Ray Conference Pune (2005) 3	S. Torii, T. Tamura, K. Yoshida, N. Tateyama, K. Hibino, T. Yuda, K. Kashiwagi, S. Okuno, J. Nishimura, T. Yamagami, M. Takayanagi, Y. Saito, H. Fuke, H. Tomida, S. Ueno, F. Makino, M. Shibata, Y. Katayose, S. Kuramata, M. Ichimura, Y. Uchihori, H. Kitamura, H. Murakami, K. Kasahara, T. Kobayashi, Y. Komori, K. Mizutani, T. Terasawa and J. Chang	333-336 頁
Investigation of synthetic diamond radiation detector using heavy ion beams	共著	平成 17 年 10 月	Nuclear Science Symposium Conference Record, 2005 IEEE, Vol. 3	Y.Uchihori, T.Kashiwagi, K.Hibino, H.Kitamura, S.Okuno, T.Takashima, K.Yajima, M.Yokota, K.Yoshida,	1416- 1418 頁
Performance of the high energy Particle Spectrometer (PS) onboard SELENE	共著	平成 19 年 1 月	The SELENE Science Working Team Meeting, Tsukuba Space Center in JAXA, 2007	T. Takashima, T. Mitani, T. Kashiwagi, S. Okuno, K. Mori	
Performance of the Alpha Ray Detector (ARD) onborad SELENE	共著	平成 19 年 1 月	The SELENE Science Working Team Meeting, Tsukuba Space Center in JAXA, 2007	T. Takashima, T. Kashiwagi, S. Okuno, M. Itoh, K. Yoshida, K. Mori, K. Furuichi, J. Nishimura	
Science with the Alpha Ray Detector (ARD) onboard SELENE	共著	平成 19 年 1 月	The SELENE Science Working Team Meeting, Tsukuba Space Center in JAXA, 2007	M. Itoh, T. Kashiwagi, T. Takashima, S. Okuno, Y. Yoshida, K. Mori, K. Furuichi, J. Nishimura	
CALET 開発報告 18:SciFi 読み出し FEC の耐放射線テスト	共著	平成 19 年 3 月	日本物理学会 2007 年春季大会,（首都大学東京南大沢キャンパス、2007-3）.	田村忠久、奥野祥二、他 CALET チーム、	
CALET 開発報告 15:CALET 計画の装置開発状況と将来展望	共著	平成 19 年 3 月	日本物理学会 2007 年春季大会,（首都大学東京南大沢キャンパス、2007-3）.	鳥居祥二、奥野祥二、他 CALET Collaboration、	
CALET 開発報告 21：CALET の概念設計	共著	平成 19 年 9 月	日本物理学会第 62 回年次大会,（北海道大学札幌キャンパス、2007-9）.	鳥居祥二、奥野祥二、他 CALET Collaboration、	

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
～現在に至る	（国際共同研究）「CP 非保存に関する研究」
～現在に至る	（学内共同研究）「人工ダイヤモンド放射線検出器に関する研究」
平成 3 年 7 月～現在に至る	日本物理学会会員
平成 7 年 7 月～現在に至る	日本経営工学会会員
平成 7 年 11 月～現在に至る	計測自動制御学会会員
平成 10 年 6 月～現在に至る	日本ロジスティクスシステム学会会員
平成 13 年 4 月～平成 17 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究（A) 分担 11,600 千円 （宇宙ガンマ線観測のためのダイヤモンド・コンプトン・リコイル・テレスコープの開発）（研究分担者）
平成 14 年 4 月～平成 17 年 3 月	科学研究費補助金 若手研究 (B) 代表 3,000 千円 （人工ダイヤモンドを用いた放射線検出器の研究）（研究代表者）
平成 14 年 10 月～平成 17 年 3 月	科学研究費補助金 萌芽研究 分担 2,500 千円 （光照射構造をした新しいタイプの覚醒レベル計測装置の開発）（研究分担者）
平成 14 年 11 月～現在に至る	応用物理学会会員
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	科学研究費補助金 特定領域研究　(継続領域) 8,000 千円 （中性子計測は完全な電極構造を持ったダイヤモンド検出器が有効である）（研究分担者）
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 (B) 14,300 千円 （CERN-LHC における 10^17eV 領域での最前方散乱粒子の LHCf による測定）（研究分担者）

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部情報システム創成学科	職名 助教	氏名 柏木　利介	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 神奈川大学工学部ＦＤ小委員会委員	平成 16 年 4 月	神奈川大学工学部は他の学部に先んじて FD に関する委員会を作っている。私はその委員を数年に渡って勤めて来た。また 2005 年度は、この委員会の委員長も務めた。この委員会において私が主に行ったことは研究授業や講演会の実施であり、学外から数名の方々をお招きして講演会を行ったことである。
2　作成した教科書、教材		なし
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
The Diamond Compton Recoil Telescope	共著	平成 15 年	The 28th ICRC Vol.5(2003)2995-2998	T.Kashiwagi, S.Okuno, K.Hibino, K.Yoshida, Y.Uchihori, H.Kitamura, T.Takashima, K,Hayashi, K,Yajima	
重粒子入射に対する新しい半導体検出器の応答	共著	平成 15 年	平成 15 年度放射線医学総合研究所重粒子線がん治療装置等共同利用研究報告書 pp.199-202, 2004-5	柏木利介、奥野祥二、日比野欣也、吉田賢二、内堀幸夫、北村尚、岩田徹、高島健、林健太郎、矢島佳央理	
人工ダイヤモンド・センサの開発	共著	平成 15 年	神奈川大学工学研究所所報 第 26 号 (2003)95-104	柏木 利介、奥野祥二、吉田賢二、日比野欣也、藤高和信 、内堀幸夫、北村尚	
重粒子入射に対する新しい半導体検出器の応答	共著	平成 16 年	平成 16 年度放射線医学総合研究所重粒子線がん治療装置等共同利用研究報告書 pp.199-200, 2004-5	柏木利介、奥野祥二、日比野欣也、吉田賢二、内堀幸夫、北村尚、矢島佳央理、高島健、伊藤真之、古市勝久、佐伯浩介	
The CALET, CAlorimetric Electron Telescope, on ISS/JEM	共著	平成 16 年	Nucler Pysics B,134(2004)23-30	S.Torii, T.kashiwagi, et. al.,	
放射線医療・被曝・そして宇宙ガンマ線観測にも有効なダイヤモンド・リコイル・テレスコープ (DCRT) の開発	共著	平成 18 年	神奈川大学工学部研究所所報 No.29, pp.59-64, 2006-12.	柏木利介、日比野欣也、奥野祥二、吉田賢二、内堀幸夫、北村尚、高島健、矢島佳央理、太田幸雄、横田護	
重粒子に対する新しい半導体検出器の応答	共著	平成 18 年	平成 17 年度放射線医学総合研究所重粒子線がん治療装置等共同利用研究報告書 pp.163-164,2006-5.	柏木利介、奥野祥二、日比野欣也、吉田賢二、内堀幸夫、北村尚、高島健、伊藤真之、古市勝久	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Investigation of Basic Characteristics of Synthetic Diamond Radiation Detectors	共著	平成 18 年	IEEE Trans. on Nucl. Sci. Vol.53,No.2(2006)630-635	T.Kashiwagi, K.Hibino, H.Kitamura, S.Okuno, T.Takashima, Y.Uchibori, K.Yajima, M.Yokota, K.Yoshida	
Radon alpha-ray detector on-board lunar mission SELENE	共著	平成 18 年	Advances in Space Research 37(2006)34-37	J.Nishimura, T.Kashiwagi, et. al.,	
Advanced Diagnostics for Burning Plasma Experiment	共著	平成 19 年	JOURNAL of Plasma and Fusion ResearchVol.83, No.12(2007) pp.957-1022	M.Sasao, J.Kaneko, T.Kashiwagi, et., al	
重粒子に対する新しい半導体検出器の応答	共著	平成 19 年	平成 18 年度放射線医学総合研究所重粒子線がん治療装置等共同利用研究報告書 pp.165-166 (2007-6)	柏木利介、奥野祥二、日比野欣也、内堀幸夫、北村尚	
The Design of Diamond Compton Telescope	共著	平成 19 年	Astrophysics and Space Science, (2007)309: 541-544	K.Hibino, T.Kashiwagi, H.Kitamura, S.Okuno, T.Takashima, Y.Uchibori, K.Yajima	
その他					
Expected performance of the Alpha Ray Detector on-board SELENE	共著	平成 15 年	2003 Joint Meeting of Earth and Planetary Science, P036-027, (Chiba,2003-5).（口答発表）	Masayuki Itoh, Hidenori Natsui, Toshisuke Kashiwagi, Shouji Okuno, Kenji Yoshida, Takeshi Takashima, Kunishiro Mori, Jun Nishimura	
The Diamond Compton Recoil Telescope	共著	平成 15 年	The 28th International Cosmic Ray Conference, Tsukuba, Japan, July, 2003（口答発表）	T. Kashiwagi, S. Okuno, K. Hibino, K. Yoshida, Y. Uchihori, H. Kitamura, T. Takashima, K. Hayashi and K. Yajima,	
Radon Alpha-Ray Detector On Board Lunar Missin SELENE	共著	平成 16 年	35th COSPAR Scientific Assembly, Paris, France, 18-25, July, 2004（口答発表）	J.Nishimura, T.Kashiwagi, T.Takashima, S.Okuno, K.Yoshida, K.Mori, M.Itoh, K.Saeki	
Development of a diamond detector as a tissue equivalent semiconductor detector for space radiation	共著	平成 16 年	9th Workshops on Radiation Monitoring for the International Space Station, Vienna, Austria, Sep. 2004.（口答発表）	Y. Uchihori, T. Kashiwagi, K. Hibino, H. Kitamura, S. Okuno, T. Takashima, K. Yajima, M. Yokota and K. Yoshida	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Development of a diamond detector as a tissue equivalent semiconductor detector for space radiation	共著	平成 16 年	9th Workshops on Radiation Monitoring for the International Space Station, Vienna, Austria(口答発表)	Y. Uchihori, T. Kashiwagi, K. Hibino, H. Kitamura, S. Okuno, T. Takashima, K. Yajima, M. Yokota and K. Yoshida	
Investigation of Basic Characteristics of Synthetic Diamond Radiation Detectors	共著	平成 16 年	IEEE Nuclear Science Symposium, Rome, Italy, October（口答発表）	Toshisuke Kashiwagi, Kinya Hibino, Hisashi Kitamura, Shoji Okuno, Takeshi Takashima, Yukio Uchihori, Kaori Yajima, Mamoru Yokota, Kenji Yoshida	
SELENE 搭載α線検出器による科学	共著	平成 16 年 5 月	地球惑星科学合同大会（口答発表）	伊藤 真之；柏木 利介；高島 健；奥野 祥二；吉田 健二；森 国城；佐伯 浩介；西村 純	
Investigation of Synthetic Diamond Radiation Detector Using Heavy Ion Beams	共著	平成 17 年	IEEE Nuclear Science Symposium, Puerto Rico ,USA(口答発表)	Toshisuke Kashiwagi, Kinya Hibino, Hisashi Kitamura, Shoji Okuno, Takeshi Takashima, Yukio Uchihori, Kaori Yajima, Mamoru Yokota, Kenji Yoshida	
SELENE 搭載α線検出器（ARD）による科学	共著	平成 17 年 5 月	地球惑星科学合同大会（口答発表）	古市 勝久；柏木 利介；高島 健；奥野 祥二；吉田 健二；伊藤 真之；森 国城；西村 純	
SELENE-ARD による月面マッピングの評価	共著	平成 17 年 9 月	日本惑星学会 2005 年秋季講演会 (口答発表)	古市 勝久；柏木 利介；高島 健；奥野 祥二；吉田 健二；伊藤 真之；森 国城；西村 純	
科研費 特定領域研究「プラズマ燃焼のための先進計測」平成 17 年度報告書	共著	平成 18 年		笹尾真実子、山田弘司、柏木利介、他	
The Design of Diamond Compton Telescope	共著	平成 18 年	”THE MULTI-MESSENGER APPROACH TO HIGH ENERGY GAMMA-RAY SOURCES”, 3rd WorkshopBarcelona, Spain July 4-7, 2006.(口答発表)	Kinya Hibino, T. Kashiwagi , S. Okuno , K. Yoshida , Y. Uchihori , H. Kitamura , T. Takashima and K. Yajima	
中性子計測は完全な電極構造を持ったダイヤモンド検出器が有効である	共著	平成 19 年	科学技術研究費補助金特定領域研究「プラズマ燃焼のための先進計測」平成 19 年度報告書、p.43	柏木利介、奥野祥二、日比野欣也	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Parformance of the high energy Particle Spectrometer(PS) onboard SELENE	共著	平成 19 年	The SELENE Science Working Team Meeting, Tsukuba Space Center in JAXA, Jan. 2007（口答発表）	T.Takashima, T.Mitani, T.Kashiwagi, S Okuno, K.Mori	
Performance of the Alpha Ray Detector(ARD) onboard SELENE	共著	平成 19 年	The SELENE Science Working Team Meeting, Tsukuba Space Center in JAXA, Jan. 2007（口答発表）	T.Takashima, T.Kashiwagi, S.Okuno, M.Itoh, K.Yoshida, K.Mori, K.Furuuchi, J.Nishimura	
Science with the Alpha Ray Detector(ARD) onboard SELENE	共著	平成 19 年	The SELENE Science Working Team Meeting, Tsukuba Space Center, in JAXA, Jan. 2007（口答発表）	M.Itoh, T.Kashiwagi, T.Takashima, S.Okuno, K.Yoshida, K.Mori, K.Furuuchi, J.Nishimura	
人工ダイヤモンド放射線検出器の温度依存性および放射線耐性についての研究	共著	平成 20 年	平成 16 年度～平成 17 年度科学研究費補助金 (基盤研究C) 研究成果報告書	内堀幸夫、柏木利介	

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 63 年 10 月～現在に至る	日本物理学会会員
平成 2 年 2 月～現在に至る	応用物理学会（放射線分科会）会員
平成 2 年 7 月～現在に至る	日本経営工学会会員
平成 7 年 12 月～現在に至る	計測自動制御学会会員
平成 8 年 4 月～現在に至る	宇宙航空開発機構 (ＪＡＸＡ) による月探査周回衛星「かぐや」計画宇宙粒子線観測搭載機器責任者
平成 10 年 4 月～平成 18 年 3 月	放射線医学総合研究所 (放射線安全研究センター宇宙放射線プロジェクト) 客員研究員
平成 13 年 4 月～平成 17 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 A 38,100 千円 （宇宙ガンマ線観測のためのダイヤモンド・コンプトン・リコイル・テレスコープの開発）（研究代表者）
平成 15 年 3 月～平成 17 年 3 月	科学研究費補助金 萌芽研究 1,400 千円 （光照射構造をした新しいタイプの覚醒レベル計測装置の開発）（研究代表者）
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	科学研究費補助金 特定領域研究 8,000 千円 （中性子計測は完全な電極構造を持ったダイヤモンド検出器が有効である）（研究代表者）

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部情報システム創成学科	職名 助教	氏名 髙野倉　雅人	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 ディベートを活用した技術者倫理の実践的教育方法の開発	平成 18 年 10 月 1 日 ～現在に至る	（授業科目：技術者倫理）学生が倫理的な問題を発見してそれを解決する実践的な能力の向上を目指して，ケースメソッドを基礎として，それにディベートを取り入れた演習を開発した．また授業後のアンケート調査から，その教育効果について分析することで，より高い教育効果が得られるように，演習内容を改善している．
2　作成した教科書、教材 経営工学実験実習 II 「NC マシン基本の理解と卓上 NC マシン実習」テキスト	平成 14 年 4 月 1 日 ～平成 18 年 3 月 31 日	経営工学科 3 年次後期開講の経営工学実験実習 II で自動化システム技術について学ぶテーマ「NC マシン基本の理解と卓上 NC マシン実習」のテキストを作成した。
経営工学実験実習 I「歩行のバイオメカニクス」と「動画像によるアフォーダンス」テキスト	平成 16 年 4 月 1 日 ～平成 18 年 3 月 31 日	経営工学科 3 年次前期開講の経営工学実験実習 I で人間要素解析技術について学ぶテーマ「歩行のバイオメカニクス」と「動画像によるアフォーダンス」の予習用テキストと実習用テキストを作成した。
経営工学実験・経営工学実験実習 I 「CAD/CAM」テキスト	平成 18 年 4 月 1 日 ～平成 19 年 3 月 31 日	経営工学科 3 年次前期開講の経営工学実験・経営工学実験実習 I で設計生産について学ぶテーマ「CAD/CAM」のテキストを作成した。
経営工学実験 「経営戦略（ビジネスシミュレーション 1)」テキスト	平成 18 年 4 月 1 日 ～平成 19 年 3 月 31 日	経営工学科 3 年次前期開講の経営工学実験で経営管理について学ぶテーマ「経営戦略」の予習テキストと実習用テキストを作成した。
情報技術実習 「歩行のバイオメカニクス」と「動画像によるアフォーダンス」テキスト	平成 18 年 4 月 1 日 ～平成 19 年 3 月 31 日	経営工学科 3 年次後期開講の情報技術実習で身体特性データ処理について学ぶテーマ「歩行のバイオメカニクス」と「動画像によるアフォーダンス」の予習用テキストと実習用テキストを作成した。
3　教育上の能力に関する大学等の評価 2007 年度後期工学部優秀講義賞	平成 20 年 3 月 3 日	学生の意見調査を参考とした 2007 年度工学部優秀講義賞を受賞した．
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
経営工学科「フレッシュマンセミナー・ワーキンググループ」における活動	平成 15 年 7 月 31 日 ～平成 16 年 3 月 31 日	平成 16 年度からの経営工学科新カリキュラムにおいて 1 年次に開講した「フレッシュマンセミナー」のワーキンググループの一員として、フレッシュマンセミナーの授業・演習内容を計画・立案した。

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
V-4 加速度,「人間の許容限界事典」, 山崎昌廣・坂本和義・関邦博（編）, 分担執筆	単著	平成 17 年 10 月	朝倉書店		667-672 頁
論文					
Cortical Potentials Associated with Voluntary, Refkex, and Spontaneous Blinks as Bilateral Simultaneous Eyelid Movement	共著	平成 16 年 12 月	Electromyogr. Clin. Neurophysiol.44,（8）	K. Kaneko, K. Mito, H. Makabe, M. Takanokura, K. Sakamoto	455-462 頁
Neuromuscular Control of Physiological Tremor during Elastic Load	共著	平成 17 年 3 月	Med. Sci. Monit.11,（4）	M. Takanokura, K. Sakamoto	CR143-152 頁
Influence of Location of Acceleration Sensor on Physiological Tremor of Upper Limb	共著	平成 18 年 1 月	Electromyogr. Clin. Neurophysiol.46,（1）	K. Sakamoto, T. Yamaji, M. Taniri, K. Mito, M. Takanokura, H. Makabe, K. Kaneko, B.C. Min	3-16 頁
定常歩行時に歩行補助車へ作用する力の分析	単著	平成 18 年 2 月	人間工学 42,（1）		22-30 頁
Comparison of Experimental and Numerical Muscle Fiber Conduction Velocity (MFCV) Distribution around the End-plate Zone and Fiber Endings	共著	平成 18 年 4 月	Med. Sci. Monit.12,（4）	K. Mito, K. Kaneko, H. Makabe, M. Takanokura, K. Sakamoto	BR115-123 頁
昇段・降段動作を考慮した歩行補助車の制動装置およびハンドグリップとカゴの配置に関する理論的研究	単著	平成 19 年 6 月	人間工学 43,（3）		138-148 頁
Coordination of the Upper-limb Segments in Physiological Tremor with Various External Loads	共著	平成 19 年 9 月	Med. Sci. Monit.13,（9）	M. Takanokura, H. Makabe, K. Kaneko, K. Mito, K. Sakamoto	CR379-385 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
ディベートを活用した技術者倫理の実践的教育	共著	平成 19 年 9 月	工学教育 55,（5）	高野倉雅人，林茂雄	44-51 頁
ディベートを活用した技術者倫理の実践的教育方法の教育効果について	共著	平成 20 年 3 月	工学教育 56,（2）	高野倉雅人，林茂雄	8-13 頁
生理的振戦を用いた上肢姿勢保持時の機能評価と肩関節疾患者の機能評価への応用	共著	平成 20 年 6 月	人間工学 44,（3）	坂本和義，黒川敏弘，山路雄彦，水戸和幸，高野倉雅人	151-164 頁
その他					
Evaluation of Muscular Function by Muscle Fiber Conduction Velocity During Static and Dynamic Contractions	共著	平成 15 年 7 月	19th Congress of International Society of Biomechanics	K. Mito, H. Makabe, K. Kaneko, M. Takanokura, N. Itakura, K. Sakamoto	
Vim-thalamotomy 前後における病理的振戦のカオスダイナミクスの変化	共著	平成 15 年 7 月	日本人間工学会第 44 回大会	真壁寿，苗鉄軍，閔丙賛，高野倉雅人，水戸和幸，坂本和義	
立位姿勢時における前屈動作及び旋回動作の筋電図学的負担評価	共著	平成 15 年 7 月	日本人間工学会第 44 回大会	坂本和義，スウィ・ユニアルト・ウィジャヤ，水戸和幸，高野倉雅人，閔丙賛，真壁寿	
Evaluation of the Effect of Vim-Thalamotomy by Using Chaos Theory	共著	平成 15 年 7 月	19th Congress of International Society of Biomechanics	H. Makabe, K. Ihashi, T. Miao, M. Takanokura, T. Yamaji, K. Sakamoto	
Neuromuscular Control of Finger Estimated by Physiological Tremor and Electromyogram During Elastic Load	共著	平成 15 年 8 月	World Congress on Medical Physics and Biomedical Engineering	M. Takanokura, K. Sakamoto	
Theoretical Optimization of Anthropometric Parameters in a Vertical Squat Jump	共著	平成 15 年 9 月	International Congress on Sports Dynamics	M. Takanokura, T. Sugimoto	235-240 頁
最適制御理論を用いた垂直跳のシミュレーション	共著	平成 15 年 10 月	第 24 回バイオメカニズム学術講演会	高野倉雅人，杉本剛	67-70 頁
身体運動の最適制御モデルによる作業負担担評価の基礎研究	共著	平成 15 年 10 月	日本経営工学会平成 15 年度秋季研研究大会	高野倉雅人，杉本剛	76-77 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
筋線維伝導速度を用いた動的運動時における筋機能評価	共著	平成 15 年 10 月	第 24 回バイオメカニズム学術講演会	水戸和幸，金子賢一，真壁寿，高野倉雅人，坂本和義	83-86 頁
ヘリウムガスによる負荷軽減時の生理的振戦を用いた生体システムの機能評価	共著	平成 15 年 10 月	第 24 回バイオメカニズム学術講演会	高野倉雅人，真壁寿，水戸和幸，坂本和義	113-114 頁
Study of Muscle Function in Process of Fatigue Generated During Isometric Contraction and in Process of Its Recovery with Both Mechanomyogram (MMG) and Electromyogram (EMG)	共著	平成 16 年 6 月	15th Congress of International Society of Electrophysiology and Kinesiology	K. Sakamoto, Y. Imai, K. Mito, K. Kaneko, M. Takanokura, H. Makabe	
生理的振戦を用いた関節機能の評価法の研究―肩関節と膝関節の評価を中心として―	共著	平成 16 年 6 月	日本人間工学会第 45 回大会	坂本和義，山路雄彦，真壁寿，高野倉雅人，島田英則，水戸和幸	418-419 頁
筋疲労および回復過程における筋音図の特性	共著	平成 16 年 6 月	日本人間工学会第 45 回大会	水戸和幸，今井悠美子，金子賢一，真壁寿，高野倉雅人，板倉直明，坂本和義	314-315 頁
オプティカルフローによる姿勢変動とディスプレイとの関係	共著	平成 16 年 6 月	日本人間工学会第 45 回大会	高野倉雅人，菊地洋平，杉本剛	308-309 頁
歩行補助車のバイオメカニクス―定常歩行と段差越えの実験―	共著	平成 16 年 6 月	日本人間工学会第 45 回大会	渡辺真由美，高野倉雅人，杉本剛	250-251 頁
フレッシュマンセミナーにおける取り組み（第３報）―コミュニケーション能力向上を目指した教育方法について―	共著	平成 16 年 7 月	日本工学教育協会第 52 回年次大会工学・工業教育研究講演会	高野倉雅人，西内信之，杉本剛	587-588 頁
アフォーダンスを定量的に表現する方法について	共著	平成 16 年 10 月	日本経営工学会平成 16 年度秋季研究大会	菊地洋平，高野倉雅人，杉本剛	288-289 頁
Coordination of Upper-limb Segments in Physiological Tremor with Various External Loads	共著	平成 17 年 4 月	6th Asian-Pacific Conference on Biomedical Engineering	M. Takanokura, K. Sakamoto	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
環境とオブジェクトの組み合わせが誘発する行為の調査方法について	共著	平成 17 年 5 月	日本経営工学会平成 17 年度春季大会	菊地洋平，高野倉雅人，杉本剛	34-35 頁
ベットの硬さの違いによる睡眠効果の評価―体幹の生理的振戦による評価―	共著	平成 17 年 6 月	日本人間工学会第 46 回大会	坂本和義，川端まや，小山智士，水戸和幸，真壁寿，高野倉雅人，金子賢一	318-319 頁
皮膚表面温度と筋音図特性の関係	共著	平成 17 年 6 月	日本人間工学会第 46 回大会	水戸和幸，北原聡，金子賢一，真壁寿，高野倉雅人，坂本和義	258-259 頁
ベビーカーを抱えた段差昇降動作の危険性の検討	共著	平成 17 年 6 月	日本人間工学会第 46 回大会	高野倉雅人，四元裕子	144-145 頁
Influence of Skin Temperature on Mechanomyogram of M. Biceps Brachii	共著	平成 17 年 8 月	20th Congress of International Society of Biomechanics	K. Mito, T. Tamura, K. Kaneko, H. Makabe, M. Takanokura, K. Sakamoto	
Evaluation of Function of Knee Joint by Physiological Tremor in Lower Leg	共著	平成 17 年 8 月	20th Congress of International Society of Biomechanics	K. Sakamoto, T. Igo, K. Mito, H. Shimada, H. Makabe, M. Takanokura	
Biomechanical Analysis of Four-wheeled Walker for an Elderly Person	共著	平成 17 年 8 月	20th Congress of International Society of Biomechanics	M. Takanokura, T. Yamauchi	
複数分野にわたるコンテストを活用した設計教育の成果と展望	共著	平成 17 年 9 月	日本工学教育協会第 53 回年次大会工学・工業教育研究講演会	高野倉雅人，杉本剛	150-151 頁
順・逆問題解法によるアフォーダンスをデザインする方法の提案	共著	平成 17 年 11 月	第 60 回形の科学シンポジウム	菊地洋平，高野倉雅人，杉本剛	224-225 頁
店構えのデザインの心理学的研究	共著	平成 17 年 11 月	第 60 回形の科学シンポジウム	赤妻晃行，杉本剛，高野倉雅人	202-203 頁
視覚情報の有無と川の流水音の印象変化	共著	平成 17 年 11 月	第 60 回形の科学シンポジウム	山本直樹，高野倉雅人，杉本剛	198-199 頁
歩行補助車を使用した定常歩行と段差を越える動作の分析	共著	平成 17 年 12 月	第 3 回生活支援工学系学会連合大会	高野倉雅人，山内寿洋	16 頁
Upper Limb Tremor for Shoulder Patients and Healthy Persons	共著	平成 18 年 6 月	16th Congress of International Society of Electrophysiology and Kinesiology	K. Sakamoto, T. Kurokawa, T. Yamaji, H. Makabe, K. Mito, M. Takanokura, K. Kaneko	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
仮想環境で誘発される酔いと姿勢変動との関係について	共著	平成 18 年 6 月	日本人間工学会第 47 回大会	高野倉雅人，井出優太	394-395 頁
創成科目群コースワークの設計	共著	平成 18 年 7 月	日本工学教育協会第 54 回年次大会工学・工業教育研究講演会	高野倉雅人，杉本剛	480-481 頁
学修目標手帳とそれを用いた 4 年間の継続的な学修指導	共著	平成 18 年 7 月	平成 18 年度全国大学 IT 活用教育方法研究会	内田智史，増田和明，高野倉雅人，西奈美きよ，杉本剛，栗原謙三，成田清正	98-99 頁
下肢の負担を減らす歩行補助車のハンドグリップの配置に関する研究	単著	平成 18 年 9 月	第 4 回生活支援工学系学会連合大会		127 頁
感性情報を用いた店構え設計支援システムの開発	共著	平成 18 年 11 月	第 62 回形の科学シンポジウム	赤妻晃行，高野倉雅人，杉本剛	180-181 頁
ユーザ指向型サイン音制作支援システムの開発	共著	平成 18 年 11 月	第 60 回形の科学シンポジウム	山本直樹，高野倉雅人，杉本剛	178-179 頁
ディベートを活用した技術者倫理の実践教育―教育方法の開発とアンケートによる教育効果の調査―	共著	平成 19 年 8 月	日本工学教育協会第 55 回年次大会工学・工業教育研究講演会	高野倉雅人，林茂雄	210-211 頁
Theoretical Optimization of Usage of Four-wheeled Walker and Body Posture of Elderly Users for Comfortable Steady Walking	単著	平成 20 年 8 月	30th Annual International IEEE EMBS Conference		4519-4522 頁
ディベートを活用した技術者倫理の実践的教育 (第 2 報)―問題構造の理解と解決策の創出に対する教育効果―	共著	平成 20 年 8 月	日本工学教育協会第 56 回年次大会工学・工業教育研究講演会	高野倉雅人，林茂雄	296-297 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
平成 8 年 4 月～平成 8011 年 3 月	日本人間工学会会員
平成 8 年 4 月～平成 18 年 3 月	日本生理人類学会会員
平成 13 年 4 月～平成 8011 年 3 月	バイオメカニズム学会会員
平成 13 年 4 月～平成 8011 年 3 月	日本生体医工学会会員
平成 13 年 4 月～平成 8011 年 3 月	日本経営工学会会員
平成 14 年 1 月～平成 8011 年 3 月	International Society of Biomechanics 会員
平成 15 年 1 月～平成 8011 年 3 月	IEEE/EMBS 会員
平成 15 年 4 月～平成 8011 年 3 月	関東工学教育協会会員
平成 15 年 5 月～平成 15 年 5 月	日本経営工学会平成 15 年度春季大会大会組織委員会委員
平成 17 年 4 月～平成 8011 年 3 月	ライフサポート学会会員
平成 17 年 4 月～平成 8011 年 3 月	日本生活支援工学会会員
平成 17 年 4 月～平成 19 年 3 月	科学研究費補助金 若手研究Ｂ 3,700 千円 （バイオメカニクス・筋電図融合型の動作解析による歩行補助車の設計）（研究代表者）
平成 19 年 4 月～平成 22 年 3 月	科学研究費補助金 若手研究 (B) 2,800 千円 （環境と調和する歩行補助車の人間中心設計メソッドの確立）（研究代表者）
平成 20 年 4 月～平成 8011 年 3 月	日本福祉工学会会員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部情報システム創成学科	職名 特別助教	氏名 増田　和明	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
基礎力定着を実現するプログラミング演習	平成 20 年 4 月	（授業科目：プログラミング演習 I）情報を学習する学生にとってプログラミング能力の向上は必須であるが，学生へ十分な演習を経験させるとともに，応用力を養わせるための工夫として，従来の授業実施方法を大きく変更した．詳細は以下の通り．・授業冒頭での小テスト実施： 前回内容の復習問題を短答式問題（選択式など）で重要事項を万遍なく含むように出題．プログラムの「要所」を確認し，学力の定着を確認する．・講義: 講義内容を整理した資料を作成・配布．サンプルもふんだんに掲載し，次週にも適した教材とした．学生には要点をマークするよう指導し，授業に集中させる効果も狙った．・演習: 実際にプログラムを作成させる．・宿題: 授業中の学習範囲について一層の実力定着をはかるため，プログラムを自筆で書かせることを中心とした宿題を課した．通常，プログラムは電子的に作成するものであるが，そのため第三者の作成したプログラムを入手できるため，演習に取り組まない学生も見られるため，必ず自らの手を動かして学習させることを狙った．また，フローチャートの作成なども出題した．・補講: 学力不足の学生を対象に，補講をおこない，講義中の課題とは別の問題を解かせ，自らつまずき箇所を認識・学習させるよう工夫した．対象者以外にも受講を希望する学生が多く，学生にもおおむね好評であった．
2　作成した教科書、教材		
プレゼンテーション発表の手引き	平成 18 年 4 月	（科目名： ファーストイヤーセミナー II (主に)）学部 1 年次から学生のプレゼンテーション能力を向上させるため，プレゼンテーション発表の注意事項を整理した教材（MS PowerPoint ファイル．学生にも配布）を作成した．本資料は，所属学科内の複数の科目でも利用されている．
実験・実習科目の授業用教材	平成 19 年 4 月	実験・実習テーマ「Web 制作」について，・教科書（兼実習手順解説．全 48 ページ）・サンプルコード（HTML ファイル，スタイルシートファイル）を作成した．
プログラミング演習 I・講義資料	平成 20 年 4 月	プログラミング演習 I の講義を実施するために必要なすべての教材：・授業内容を網羅するとともにサンプルプログラムを含めた講義資料，・演習問題，解答例・小テスト問題・宿題・補習用教材を作成した．
実験系科目の授業用教材	平成 20 年 4 月	実験テーマ「動画像処理」について，・教科書（兼実験手順解説．全 30 ページ）・サンプルコード（C++言語プログラム，計 500 ステップ程度）を作成した．

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
電気学会技術報告書		平成 16 年 10 月	（社）電気学会　技術報告書 983 号		22-30 頁
電気学会技術報告書	共著	平成 19 年 7 月	電気学会		
メタヒューリスティクスと応用		平成 19 年 10 月	オーム社		
論文					
シンプレックス上のカオスカ学系と正規化制約付大域的最適化手法	共著	平成 15 年 6 月	電気学会論文誌 C，Vol. 123，№6		1147-1154 頁
シンプレックス内のカオスカ学系を用いた正規化不等式制約付大域的最適化	共著	平成 15 年 7 月	計測自動制御学会論文集　Vol. 39，№7		691-693 頁
多様体上の非線形力学系による制約条件付最適化に関する研究	単著	平成 17 年 3 月	慶應義塾大学大学院博士学位論文		
超球面上の最適化手法を応用した主成分分析	共著	平成 17 年 3 月	計測自動制御学会論文集		268-273 頁
A Method of Flow-Shop Re-Scheduling Dealing with Variation of Productive Capacity	共著	平成 18 年 8 月	Intl. J. Systemics, Cybernetics and Informatics3,（1）	Kenzo Kurihara, Yusuke Owada, Yann-Liang Li, Kazuaki Masuda, Nobuyuki Nishiuchi	18-24 頁
モンテカルロシミュレーションによる感度解析と GA を融合した確率的ネットワークのアロー分岐確率計画手法	共著	平成 18 年 8 月	電気学会論文誌 C126,（8）	栗原謙三, 永井学, 西内信之 増田和明	1040-1048 頁
勾配力学系の平衡点探索による大域的最適化手法	共著	平成 18 年 8 月	電気学会論文誌 C126,（8）	増田和明 栗原謙三	997-1008 頁
Global Optimization by Searching Multiple Equilibrium Points of Gradient Dynamical System	共著	平成 18 年 10 月	Proc. SICE-ICCAS 2006	Kenzo Kurihara Kazuaki Masuda	1738-1743 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Facial Emotion Expression Robot of Remote Person	共著	平成 18 年 12 月	Advanced Technologies: Research - Development - Applications	Kenzo Kurihara, Daisuke Sugiyama, Nobuyuki Nishiuchi Kazuaki Masuda	465-474 頁
混合整数計画に対する勾配系複数平衡点探索法の応用	共著	平成 20 年 1 月	電気学会論文誌 C128, (1)	増田和明栗原謙三	101-110 頁
Global Optimization by Equilibrium-Point Search of Gradient-Based Dynamical System	共著	平成 20 年 8 月	Electronics and Communications in Japan91, (1)	Kazuaki Masuda, Kenzo Kurihara	19–31 頁
その他					
Global Optimization Method Using Chaos of Discrete Inertial Gradient Dynamics	共著	平成 15 年 8 月	Proc. SICE annual Conference 2003,		853-858 頁
Estimation of Periodic in Chaos of Discrete Gradient Models for Global Optimization	共著	平成 15 年 8 月	Proc. SICE Annual Conference 2003,		847-852 頁
単位超球面上の制約付最適化に対する勾配法力学モデルの検討	共著	平成 15 年 9 月	平成 15 年電気学会　電子・情報・システム部門大会　講演論文集,		1087-1092 頁
離散カオス力学系の不動点推定による最適化手法	共著	平成 15 年 11 月	計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2003　講演論文集,		195-200 頁
超球面上の大域的最適化－正規直交解探索による主成分分析への応用をめざして－	共著	平成 15 年 11 月	第 46 回自動制御連合講演会　講演論文集,		733-736 頁
離散勾配系のカオスを用いた大域的最適化へのアプローチ	共著	平成 16 年 3 月	平成 16 年電気学会全国大会講演論文集［4］		S19(9)-(13) 頁
Curve Search for Constrained Global Optimization	共著	平成 16 年 7 月	Proc. IEEE Midwest Symposium on Circuit and System 2004,		
Global Optimization Method Using Chaos of Discrete Gradient Dynamics	共著	平成 16 年 9 月	IFAC Workshops IFAC ALCOSP & PSYCO 2004 in Yokohama		

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Recurrent Network Expression of Replicator Dynamics for Optimization	共著	平成 16 年 10 月	Proc. IEEE Conf. on Sytems, Man, and Cybernetics 2004,		3488-3493 頁
決定変数の相互依存性を伴う問題に対する勾配力学系による最適化	共著	平成 20 年 8 月	平成 20 年電気学会電子・情報・システム部門大会講演プログラム集	増田和明, 栗原謙三	932–937 頁
On the Properties of Search Directions in the Particle Swarm Optimization System	共著	平成 20 年 8 月	Proceedings of SICE Annual Conference 2008	Kazuaki Masuda, Kenzo Kurihara	3459–3464 頁
多目的最適化手法を用いた確率的需要下の供給計画立案方式	共著	平成 20 年 11 月	計測自動制御学会 システム・情報部門学術講演会 2008 講演論文集	丸山弘仁, 増田和明, 栗原謙三	261–266 頁
Particle Swarm Optimization によるニューラルネットワーク学習法–ネットワーク構造決定を含めた統合型学習–	共著	平成 20 年 11 月	計測自動制御学会 システム・情報部門学術講演会 2008 講演論文集	増田和明, 犬塚克敏, 栗原謙三	pp. 91–96 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
平成 14 年 1 月～現在に至る	電気学会会員
平成 14 年 1 月～現在に至る	計測自動制御学会会員
平成 17 年 4 月～平成 18 年 12 月	電気学会産業応用部門 ソフトコンピューティングと産業システムデザインへの応用調査専門委員会 運営委員
平成 17 年 4 月～平成 18 年 12 月	電気学会産業応用部門 ソフトコンピューティングと産業システムデザインへの応用調査専門委員会 幹事補佐
平成 17 年 5 月～平成 18 年 12 月	電気学会 産業応用部門 ソフトコンピューティングと産業システムデザインへの応用調査専門委員会委員（幹事補佐兼任）
平成 17 年 7 月～現在に至る	電子情報通信学会会員
平成 17 年 7 月～現在に至る	情報処理学会会員
平成 17 年 7 月～現在に至る	IEEE 会員
平成 17 年 7 月～現在に至る	計測自動制御学会情報・システム部門 システム工学部会 運営委員
平成 17 年 7 月～平成 18 年 12 月	計測自動制御学会 システム・情報部門 システム工学部会運営委員
平成 18 年 10 月～現在に至る	電気学会論文委員
平成 18 年 12 月～現在に至る	電子情報通信学会論文査読委員
平成 19 年 1 月～平成 20 年 12 月	電気学会産業応用部門 ソフトコンピューティングの新展開とその産業応用調査専門委員会 運営委員
平成 19 年 1 月～平成 20 年 12 月	計測自動制御学会情報・システム部門 システム工学部会 幹事
平成 19 年 1 月～平成 20 年 12 月	電気学会 産業応用部門ソフトコンピューティングの新展開とその産業応用調査専門委員会委員
平成 19 年 1 月～平成 20 年 12 月	計測自動制御学会 システム・情報部門 システム工学部会幹事

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部建築学科	職名 教授	氏名 岩田　衛	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 9 月 30 日	2008 年度前期授業評価アンケートとうを受け、学生が自主学習をほとんどしていないことが分かった。来年度は自主学習時間の課題を与えることにする。
2　作成した教科書、教材 教科書の要点のパワーポイント	平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	（授業科目：建築の構造）教科書として使用している「地球環境建築のすすめ」の要点を 60 枚のパワーポイントにまとめ、最後の講義の際に、復習のために用いている。
3　教育上の能力に関する大学等の評価 2008 年度前期授業評価アンケート結果 2008 年度前期授業評価アンケート結果	平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 9 月 30 日 平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 9 月 30 日	（授業科目：建築の構造）建築構造を何も知らない 1 年生にとって、初めての専門科目であるこの授業は難しいと感じているようである。もう少し、分かり易くする工夫をしなければならない。 （授業科目：鉄骨構造）授業は余り難しいとは思わなかったようだ。教員に熱意を感じ、総合的な満足度も高い。
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
いま、この研究がおもしろい Part2、大空間構造から地球環境建築へ	共著	平成 19 年 11 月	岩波ジュニア新書	岩波書店編集部編	123-140 頁
論文					
鋼モルタル板を用いた座屈拘束ブレースの実験的研究	共著	平成 15 年 7 月	日本建築学会構造系論文集、第 569 号		105-110 頁
Performance Evaluation of Buckling-Restrained Braces in Damage-Controlled Structures	共著	平成 15 年 8 月	STESSA 2003,Naples		37-43 頁
損傷制御構造とした軸降伏型履歴ダンパーを有する屋根構造の設計と施工	共著	平成 15 年 12 月	日本建築学会技術報告集、第 18 号		85-90 頁
A Reuse Management Model of Building Steel Structures Using Information Technology	単著	平成 15 年 12 月	ILCDES 2003,Kuopio		299-304 頁
円弧板を用いた鋼管トラス接合部の力学性状に関する研究、その 1 T 型継手の終局耐力評価	共著	平成 15 年 12 月	日本建築学会構造系論文集、第 574 号		121-126 頁
A Japanese Approcach to Steel design for Sustainable Construction	単著	平成 16 年 3 月	NASCC 2004,Long Beach		1-11 頁
建築鋼構造のリユースシステムに関する研究、ストックヤードの設置方法の提案	共著	平成 16 年 5 月	日本建築学会環境系論文集、第 579 号		105-110 頁
サステナブルビル構造システムの提案とその基本特性	共著	平成 16 年 7 月	日本建築学会環境系論文集、第 581 号		109-116 頁
Applications-Design of Buckling Restrained Braces in Japan	共著	平成 16 年 8 月	13WCEE, STS Special Theme Session, Vancouver, MTC 12		1-15 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
冗長性構造とした高張力鋼座屈拘束部材を有する平版システムトラスに関する研究	共著	平成 16 年 9 月	日本建築学会構造系論文集、第 583 号		85-90 頁
鋼モルタル板を用いた座屈拘束ブレースの実験的研究　その２　製作簡易化と芯材幅厚比の変化	共著	平成 16 年 12 月	日本建築学会構造系論文集、第 586 号		187-193 頁
建築鋼構造のリユースシステムに関する研究、データベースの構築方法の提案	共著	平成 17 年 1 月	日本建築学会環境系論文集、第 587 号		93-98 頁
サステナブルビル構造システムの柱梁接合部に関する実験	共著	平成 17 年 5 月	日本建築学会構造系論文集、第 591 号		145-152 頁
ファサードエンジニアリングの統合に関する研究	共著	平成 17 年 6 月	日本建築学会環境系論文集、第 592 号		97-104 頁
鋼モルタル板を用いた座屈拘束ブレースの耐火性能	共著	平成 17 年 12 月	日本建築学会技術報告集、第 22 号		223-226 頁
屋根材に使用した鋼板サンドイッチパネル用補強座金の開発	共著	平成 17 年 12 月	日本建築学会技術報告集、第 22 号		21-24 頁
建築鋼構造のリユースシステムに関する研究、リユース材の構造性能	共著	平成 18 年 2 月	日本建築学会環境系論文集、第 600 号		83-89 頁
ファサードエンジニアリングの統合に関する研究、統合ファサードの提案および性能評価	共著	平成 18 年 3 月	日本建築学会環境系論文集、第 601 号		81-88 頁
建築鋼構造のリユースシステムに関する研究、小屋組鉄骨造の丁寧な解体方法	共著	平成 18 年 6 月	日本建築学会環境系論文集、第 604 号		
Proposal for a sustainable building structure and its basic properties	共著	平成 18 年 8 月	STESSA 2006, Yokohama		
サステナブルビル構造システムの柱梁接合部の力学モデルとその検証	共著	平成 18 年 8 月	日本建築学会構造系論文集、第 606 号		

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Buckling behavior of the core plate on buckling-restrained braces	共著	平成 18 年 9 月	STEEL, A New and Traditional Material for Building, The International Conference in Metal Structures, Poiana Brasov, Romania		
Studies on Integrated Building Facade Engineering with High-Performance Structural Elements	共著	平成 18 年 9 月	International Association for Bridge and Structural Engineering, Budapest		
Buckling-restrained brace using steel mortar planks; performance evaluation as a hysteretic damper	共著	平成 18 年 12 月	Earthquake Engineering and Structural Dynamics, 2006		
統合ファサードによる既存不適格建物の耐震改修	共著	平成 18 年 12 月	日本建築学会技術報告集、第 24 号		
鋼モルタル板を用いた座屈拘束ブレースの実験的研究、その３芯材の座屈挙動	共著	平成 19 年 1 月	日本建築学会構造系論文集、第 611 号		
建築鋼構造のリユースシステムに関する研究、リユース材の適用シミュレーション	共著	平成 19 年 2 月	日本建築学会環境系論文集、第 612 号		
Careful demolition of low-storied steel structures	共著	平成 19 年 3 月	Pacific Structural Steel Conference 2007, Wairakei, New Zealand		
A mechanical model for a sustainable building structural system	共著	平成 19 年 6 月	Ninth Canadian Conference on Earthquake Engineering, Ottawa, Canada		
高性能硬質ポリウレタンフォームにより小型・軽量化した座屈拘束ブレース	共著	平成 19 年 6 月	日本建築学会技術報告集、第 25 号		
建築鋼構造のリユースシステムに関する研究、リユース材のストック	共著	平成 19 年 7 月	日本建築学会環境系論文集、第 618 号		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
鋼モルタル板を用いた座屈拘束ブレースの有限要素法による弾塑性大変形の解析	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会構造系論文集、第 618 号		
弾塑性骨組に配置された座屈拘束ブレースの累積変形性能予測	共著	平成 19 年 9 月	日本建築学会構造系論文集、第 619 号		
鋼モルタル板を用いた座屈拘束ブレースの実験的研究、その４　芯材幅厚比と拘束力および断面ディテールの影響	共著	平成 19 年 10 月	日本建築学会構造系論文集、第 620 号		
建築鋼構造のリユースシステムに関する研究、リユース材の加工とその性能評価	共著	平成 19 年 10 月	日本建築学会環境系論文集、第 620 号		
ファサードエンジニアリングの統合に関する研究、統合ファサードの構造性能	共著	平成 20 年 6 月	日本建築学会技術報告集、第 27 号		
初期不整を有する鋼モルタル板を用いた座屈拘束ブレースに関する実験的研究	共著	平成 20 年 6 月	日本建築学会技術報告集、第 27 号		
サステナブルビル構造システムの部分架構実験	共著	平成 20 年 6 月	日本建築学会技術報告集、第 27 号		
Reuse system of building steel structures	共著	平成 20 年 6 月	Structure and Infrastructure Engineering, Vol.4, No.3, pp.207-220		
鋼モルタル板を用いた座屈拘束ブレースの実験的研究、芯材の降伏耐力および軸剛性の調整	共著	平成 20 年 7 月	日本建築学会構造系論文集、第 629 号		
Reuse Dismantling and Performance Evaluation of Reusable Members	共著	平成 20 年 8 月	Structural Engineering International, Vol.18, No.2		
建築鋼構造のリユースシステムに関する研究、リユース材のストック診断	共著	平成 20 年 8 月	日本建築学会環境系論文集、第 630 号		1061-1067 頁
斜行配置座屈拘束ブレースによる耐震補強	共著	平成 20 年 12 月	日本建築学会構造系論文集、第 634 号		2215-2222 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
その他					
地球環境問題への建築鋼構造の対応：環境性とその対応	単著	平成 16 年 6 月	日本建築学会構造委員会・鋼構造運営委員会		
地球環境時代の建築設計教育：構造計画の視点から	単著	平成 16 年 8 月	日本建築学会地球環境委員会		30-41 頁
環境に配慮した接合部	単著	平成 16 年 12 月	建築技術、第 659 号		100-103 頁
地球環境問題に対応する建築構造技術の提案	単著	平成 17 年 4 月	日本学術会議、建築学研究連絡委員会報告（案）		
鋼モルタル板を用いた座屈拘束ブレース　履歴ダンパーとしての性能評価	共著	平成 17 年 4 月	鉄構技術、Vol.18, NO.203		54-61 頁
鋼モルタル板を用いた座屈拘束ブレース　履歴ダンパーとしての性能評価、その 2	共著	平成 17 年 5 月	鉄構技術、Vol.18, NO.204		
環境保全型建築　建築構造	単著	平成 17 年 10 月	公共建築、Vol.47, No.186		
構造研究者から見た地球環境建築	単著	平成 18 年 1 月	日本構造技術者協会、Structure, NO.97		
環境とコンクリート、環境負荷低減に向けて、構造設計からの取組み	単著	平成 19 年 5 月	コンクリート工学、Vol.45, No.5		
建築鋼構造のリユースシステム	単著	平成 19 年 12 月	ベース設計資料、NO.135、建築編（後）		
地球環境と防災のフロンティア、第６号の刊行にあたって		平成 20 年 2 月	日本建築学会、総合論文誌、第６号		
統合ファサードシステム		平成 20 年 4 月	日本構造技術者協会、Structure, NO.106		
蔵前人のキャンパスライフ		平成 20 年 4 月	KURAMAE　JOURNAL、No.1006		
大空間構造、損傷制御構造そして地球環境建築、わたしの建築放浪記		平成 20 年 9 月	建築技術、No.704		

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 44 年 4 月～現在に至る	日本建築学会会員
昭和 52 年～現在に至る	新製品の鋼管立体トランスシステム（NS トラス）開発
昭和 54 年～現在に至る	新宿 NS ビル大屋根構造（3 層立体トラス、スパン 61m）の構造設計
昭和 57 年～現在に至る	小瀬スポーツ公園体育館大屋根構造（方形立体トラス、スパン 63m）の構造設計
昭和 59 年～現在に至る	名古屋総合体育館大屋根構造（パラレルラメラドーム、直径 100m）の構造設計
昭和 60 年～現在に至る	新製品の角形鋼管 Y トラスト（Y トラス）開発
昭和 60 年～現在に至る	ジャカルタ空港ハンガー構造（平板立体トラス、間口 300m、最大スパン 105m）の構造設計
昭和 61 年～現在に至る	大連 TV タワー構造（立体トラスタワー、高さ 192m）の構造設計
昭和 62 年～現在に至る	横浜アリーナ大屋根構造（プラットトラス、スパン 108m）の構造設計
昭和 63 年 4 月～現在に至る	IABSE（International Association for Bridge and Structural Engineering）会員
平成元年～現在に至る	新製品の大規模人工地盤（スペース LSY トラス）開発
平成 2 年～現在に至る	新製品の免震構造システム（アイソレーター＋スチールダンパー）開発
平成 2 年 4 月～現在に至る	日本建築構造技術者協会会員
平成 3 年～現在に至る	新製品の被害レベル制御構造（制振構造システム）開発
平成 3 年～現在に至る	常滑体育館構造（フィーレンデールトラス壁構造＋斜交立体トラス、スパン 50 × 101m）の構造設計
平成 4 年～現在に至る	新製品の NS トラス CAD システム開発
平成 5 年～現在に至る	深圳地王商業中心ビル構造（68F、高さ 384m）の構造設計
平成 6 年～現在に至る	新製品のテンション構造（NS テンション）開発
平成 7 年～現在に至る	芦屋浜高層ハウジング構造（地震被害調査、補修、脆性破壊原因分析）の構造設計
平成 8 年～現在に至る	東京電力火力発電所構造（制御構造システム適用）の構造設計
平成 8 年 5 月～現在に至る	日本鋼構造協会会員
平成 9 年～現在に至る	サンキョウ渋谷ビル構造（斜め柱構造ビル、14F、高さ 62m）の構造設計

年月	内　　容
平成 9 年 4 月～平成 17 年 3 月	日本建築学会鋼構造運営委員会委員
平成 10 年～現在に至る	郡山駅西口再開発ビル構造（23F、高さ 132m）の構造設計
平成 11 年 4 月～平成 17 年 3 月	日本建築学会地球環境本委員会委員
平成 12 年 4 月～平成 16 年 3 月	日本建築学会鋼構造地球環境小委員会主査
平成 12 年 6 月～平成 17 年 3 月	日本建築学会地球環境構造小委員会委員
平成 13 年 3 月～平成 19 年 3 月	IABSE・Working Commission 6 委員
平成 13 年 4 月～平成 16 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究Ｂ一般 11,000 千円 （建築鉄骨構造のライフサイクルにおける環境負荷削減に関する研究）（研究代表者）
平成 13 年 6 月～平成 15 年 5 月	国家公務員採用Ⅰ種試験（理工Ⅰ）試験専門委員
平成 15 年 6 月～平成 17 年 5 月	日本建築学会理事
平成 15 年 6 月～平成 17 年 5 月	日本建築学会建築雑誌編集委員長
平成 15 年 9 月～平成 17 年 3 月	NEDO（大学発事業創出実用化研究開発事業費助成金） 30,000 千円 （鋼材リユースが可能な低環境負荷型サステナブル鋼構造システムの開発）（研究代表者）
平成 16 年 4 月～平成 19 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究Ｂ一般 12,600 千円 （ファサードエンジニアリングの統合化による都市環境の改善）（研究代表者）
平成 17 年 4 月～平成 19 年 3 月	日本建築学会地球環境本委員会委員長
平成 17 年 4 月～平成 18 年 12 月	国土交通省住宅・建築関連先導技術開発審査委員会委員
平成 17 年 4 月～平成 20 年 3 月	エコビルド実行委員会委員
平成 18 年 1 月～平成 18 年 12 月	日本学術振興会科学研究費委員会専門委員
平成 19 年 4 月～平成 21 年 3 月	特別研究員等審査会審査委員
平成 19 年 4 月～平成 22 年 3 月	科学研究費補助金 基盤Ｂ一般 13,300 千円 （建築鋼構造のリユースシステムに関する研究）（研究代表者）
平成 20 年 4 月～平成 22 年 3 月	建築物環境衛生管理技術者試験委員会試験委員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部建築学科	職名 教授	氏名 荏本　孝久	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		なし
2　作成した教科書、教材		なし
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		
JABEE 小委員会委員	平成 12 年 4 月 ～平成 19 年 3 月	工学部における JABEE 対応を取りまとめる委員会に参画し、2004 年度審査に向けて建築学科のとりまとめを実施した。
工学部自己点検・評価実施委員会副委員長	平成 13 年 4 月 ～平成 16 年 3 月	上記「工学部自己点検評価実施委員会」における副委員長を務めることになった。
博士論文審査委員（副査）	平成 14 年 2 月	東京都立大学大学院都市科学研究科における博士論文審査の副査を務めた。
工学部・外部評価実行委員長	平成 15 年 4 月 ～平成 16 年 3 月	
工学部自己点検・評価実施委員会委員	平成 16 年 4 月	
全学自己点検・評価委員会委員	平成 17 年 4 月	
上級教育士資格取得	平成 19 年 4 月 1 日	
授業評価及び学生生活実態調査作業部会委員	平成 20 年 4 月	

II　研究活動					
著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び 巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
ものが壊れる―巨大災害の破壊力―	共著	平成 19 年 11 月	山海堂出版	小川雄二郎，菊地敏男，大野春雄，荏本孝久	
論文					
三重塔の免震性に関する一考察	共著	平成 15 年 4 月	長野工業高等専門学校紀要, 第 37 号		
大都市震災の社会防災システム	単著	平成 15 年 7 月	建設工業調査会ベース設計資料		
高密度微動観測を用いた相模平野の表層地盤振動特性のゾーニングに関する研究	共著	平成 15 年 11 月	地域安全学会論文集		21-26 頁
大都市大震災における復旧･復興評価手法の開発･被災世帯の生活関連の復旧・復興プロセスの分析	単著	平成 16 年 3 月	文部科学省･大都市大震災軽減化特別プロジェクト 2004 年度研究成果報告書		
自然災害種別を考慮した地域防災ポテンシャル評価指標に関する研究	共著	平成 16 年 11 月	第 15 回地域安全学会研究発表会	荏本孝久，山本俊雄	57-58 頁
大都市大震災の復旧・復興を考慮した防災計画に関する研究	共著	平成 16 年 11 月	第 15 回地域安全学会研究発表会	大関千恵，山本俊雄，荏本孝久	53-56 頁
高密度常時微動観測による足柄平野南部の表層地盤振動特性の検討	共著	平成 16 年 11 月	第 15 回地域安全学会研究発表会	山本俊雄，荏本孝久	143-146 頁
阪神・淡路大震災における市街地の復旧・復興プロセスに関与した要因分析	共著	平成 17 年 5 月	第 16 回地域安全学会研究発表会	荏本孝久，山本俊雄，今成雄一郎	69-72 頁
ウェブ上で公開された防災ツールのデータベース化とその共有化に関する分析	共著	平成 17 年 5 月	第 16 回地域安全学会研究発表会	山本俊雄，荏本孝久	27-30 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
SPAC 法を用いた微動アレー観測による地盤構造の検討	共著	平成 17 年 9 月	日本建築学会学術講演会梗概集	荏本孝久他	259-260 頁
PS 検層と微動アレー観測による 1995 年新潟県北部地震の震源域・福島潟周辺の１地点における表層地下構造	共著	平成 17 年 9 月	日本建築学会学術講演会梗概集	荏本孝久他	219-220 頁
地盤関連情報データベースの管理と活用技術に関する研究	共著	平成 17 年 9 月	日本建築学会学術講演会梗概集	荏本孝久他	213-214 頁
2004 年 Al Hoceima,Morocco (Mw=6.5) 地震における被害調査―建物被害の概要と地盤震動―	共著	平成 17 年 9 月	日本建築学会学術講演会梗概集	荏本孝久他	227-228 頁
神奈川県西部地域における地盤情報デジタルデータベースの統合	共著	平成 17 年 11 月	地域安全学会梗概集	荏本孝久他	85-86 頁
GIS を活用した横浜市における地域危険度評価に関する基礎的研究	共著	平成 17 年 11 月	地域安全学会梗概集	荏本孝久他	91-92 頁
横浜市の地形・地質地盤と地盤振動の関連性について―地震および微動観測記録の分析による観察―	共著	平成 17 年 12 月	第 15 回環境地質学シンポジウム論文集	荏本孝久他	263-266 頁
微動観測による横浜市西部丘陵地の地盤構造と地盤振動特性について	共著	平成 17 年 12 月	第 15 回環境地質学シンポジウム論文集	荏本孝久他	259-262 頁
横浜市港北区を対象とした高密度微動観測による地盤振動特性の検討	共著	平成 18 年 5 月	地域安全学会梗概集 18	荏本孝久他	49-50 頁
不整形な地盤-地形の 2 次元解析による地震動特性と増幅特性の検討	共著	平成 18 年 5 月	地域安全学会梗概集 18	荏本孝久他	47-48 頁
異なる微地形・地盤における短周期微動アレイ観測を利用した表層地盤構造の推定	共著	平成 18 年 5 月	地域安全学会梗概集 18	荏本孝久他	45-46 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
神奈川県西部地域における地盤情報デジタルデータベースの統合	共著	平成 18 年 5 月	地域安全学会梗概集 18	荏本孝久他	43-44 頁
地域防災評価のための民間組織の実態に関するアンケート調査	共著	平成 18 年 5 月	地域安全学会梗概集 18	荏本孝久他	37-38 頁
表層地盤情報抽出を目的とした高密度微動観測による地盤振動特性の検討	共著	平成 18 年 9 月	2006 年度大会 (関東) 学術講演梗概集	荏本孝久他	
不整形な地盤-地形の特徴が地震動特性に与える影響に関する研究	共著	平成 18 年 9 月	2006 年度大会 (関東) 学術講演梗概集	荏本孝久他	
微動アレイ観測による表層地盤構造の推定に関する研究	共著	平成 18 年 9 月	2006 年度大会 (関東) 学術講演梗概集	荏本孝久他	
2004 年新潟中越地震による被害地域の地盤振動特性の検討	共著	平成 18 年 9 月	2006 年度大会 (関東) 学術講演梗概集	荏本孝久他	
微動および強震観測記録による H/V スペクトル比特性の比較検討	共著	平成 18 年 9 月	2006 年度大会 (関東) 学術講演梗概集	荏本孝久他	
Analysis of the Weightiness of Site Effect on Reinforced Concrete (RC) Building Seismic Behaviour: The Adra Town Example (SE Spain)	共著	平成 19 年 1 月	Earthquake Engineering and Structural Dynamics	M. Navarro, F. Vidal, T. Enomoto, F. J. Alcala, A. Garcia-Jerez, F. J. Sanchez and N. Abeki	1-20 頁
Shallow Velocity Structure Using Joint Inversion of Array and h/v Spectral Ratio of Ambient Noise: The Case of Mula Town (SE of Spain)	共著	平成 19 年 3 月	Soil Dynamics and Earthquake Engineering	A. Garcia-Jerez, M. Navarro, F. J. Alcala, F. Luson, J. A. Perez-Ruiz, T. Enomoto, F. Vidal and E. Ocana	1-13 頁
自主防災組織の活動実態に関するアンケート調査－神奈川県西部地域の 9 市町を対象として－	共著	平成 19 年 5 月	地域安全学会梗概集 20	山本俊雄，荏本孝久，田代恭平	47-48 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
神戸市の防災福祉コミュニティに関する基礎的研究－組織作りと地域特性との関連性に着目して－	共著	平成 19 年 5 月	地域安全学会梗概集 20	荏本孝久，山本俊雄，草野恂也	49-52 頁
Development of Shaking Force Generator for Estimation of Dynamic Characteristics of Building and Soil Structure	共著	平成 19 年 5 月	3rd National Conference on Seismic Engineering, Girona Spain	T. Enomoto, T. Yamamoto, T. Kikuchi, M. Navarro and F. Vidal	CD-ROM 頁
Seismic Excited Vibration Control of Cable-atayed Bridge During Construction by Using TMD and ATMD	共著	平成 19 年 6 月	9th Canadian Conference on Earthquake Engineering	Y. Wen, T. Enomoto, L. M. Sun, T. Yamamoto	CD-ROM 頁
Assessment on Ground Structure and Ground Shaking Characteristics Using by Microtremor Observation in the West Belt, Yokohama City	共著	平成 19 年 6 月	9th Canadian Conference on Earthquake Engineering	M. Sugimoto, T. Yamamoto and T. Enomoto	
Investigation on Applicability of H/V Spectrum Obtained from Microtremors and Seismic Microzoning Study	共著	平成 19 年 6 月	9th Canadian Conference on Earthquake Engineering	T. Yamamoto, T. Enomoto, M. Sugimoto, M Navarro and F. Vidal	CD-ROM 頁
Research on Management System Combined with Hard and Soft Measures for Seismic Disaster Risk Reduction	共著	平成 19 年 6 月	9th Canadian Conference on Earthquake Engineering	T. Enomoto, T. Yamamoto, M. Rahimian, Y. Wen, M. Navarro and F. Vidal	
神奈川大学 23 号館 (免震棟) の振動解析	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会 2007 年度学術講演会梗概集	渡辺裕也，荏本孝久，山本俊雄	973-974 頁
神奈川県を対象としたデジタル地盤区分図作成に関する研究－その４．凡例の統合化によるデジタル地形・地質図の作成結果－	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会 2007 年度学術講演会梗概集	釘宮康郎，小林大悟，堀川康司，沈　堅貞，山本俊雄，荏本孝久	277-278 頁
神奈川県を対象としたデジタル地盤区分図作成に関する研究－その３．デジタル地形・地質図（50m × 50m メッシュ）の作成方法－	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会 2007 年度学術講演会梗概集	小林大悟，堀川康司，釘宮康郎，沈　堅貞，山本俊雄，荏本孝久	275-276 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
神奈川県を対象としたデジタル地盤区分図作成に関する研究―その２．地形分類図と表層地質図のデジタル化―	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会 2007 年度学術講演会梗概集	堀川康司，小林大悟，釘宮康郎，沈　堅貞，山本俊雄，荏本孝久	273-274 頁
神奈川県を対象としたデジタル地盤区分図作成に関する研究―その１．研究プロジェクトの目的と概要―	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会 2007 年度学術講演会梗概集	荏本孝久，堀川康司，小林大悟，釘宮康郎，沈　堅貞，山本俊雄	271-272 頁
小型起振機を用いた構造物の振動特性の推定に関する研究―その２．起振機実験による建物振動特性の推定結果―	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会 2007 年度学術講演会梗概集	文　永奎，菊地敏男，沈　堅貞，青木保夫，山本俊雄，荏本孝久	547-548 頁
小型起振機を用いた構造物の振動特性の推定に関する研究―その１．リニアモーターを利用した起振機の開発と性能評価―	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会 2007 年度学術講演会梗概集	青木保夫，菊地敏男，文　永奎，沈　堅貞，山本俊雄，荏本孝久	545-546 頁
横浜市青葉区における高密度微動観測による地盤振動特性の検討	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会 2007 年度学術講演会梗概集	落合　努，山本俊雄，露木延夫，荏本孝久	253-254 頁
地域の地形に対応した地震防災マップの作成（その２）微地形区分に基づく小田原市の 50 mメッシュ震度マップ	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会 2007 年度学術講演会梗概集	橋本光史，栗山利男，蔦野雅俊，荏本孝久，山本俊雄	281-282 頁
微動観測による松本盆地の地盤振動特性の検討―その１　東部地域について―	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会 2007 年度学術講演会梗概集	山本俊雄，荏本孝久	257-258 頁
建築物の減衰性能評価手法の高度化と耐震耐風設計・第 5 章 1 節 地盤－建物動的相互作用による逸散減衰の効果に関する検討	共著	平成 19 年 11 月	建築学会構造委員会荷重運営委員会・建築物の性能設計と減衰小委員会報告書	二宮正行・荏本孝久	
建築物の減衰性能評価手法の高度化と耐震耐風設計・第 3 章 3 節・免震構造ＲＣ建物 (神奈川大学 23 号館) の減衰特性	単著	平成 19 年 11 月	建築学会構造委員会荷重運営委員会・建築物の性能設計と減衰小委員会報告書		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
阪神・淡路大震災における都市型大震災の復旧・復興プロセスに関する研究 (その３)	共著	平成 19 年 11 月	地域安全学会	荏本孝久、山本俊雄	49-50 頁
神奈川県中央地域の GIS を用いたボーリングデータベース統合化と活用に関する研究	共著	平成 19 年 11 月	地域安全学会	山本俊雄、荏本孝久、布川裕一	43-44 頁
2007 年新潟県中越沖地震・被害調査報告	共著	平成 19 年 11 月	『土木施工』「（山海堂出版）	大野春雄、岩楯隆広、荏本孝久	
地盤－建物動的相互作用による逸散減衰の効果に関する検討	共著	平成 19 年 11 月	日本建築学会・建物の減衰評価と性能設計小委員会・シンポジウム論文集	二宮正行，荏本孝久	
免震構造 RC 建物（神奈川大学 23 号館）の減衰特性	単著	平成 19 年 11 月	日本建築学会・建物の減衰評価と性能設計小委員会・シンポジウム論文集		
災害リスクマネジメントと環境	単著	平成 20 年 2 月	日本建築学会総合論文誌 No.6		21-24 頁
地震、津波災害時の避難誘導における高輝度蓄光機能の活用	共著	平成 20 年 4 月	『土木の新時代』（建設教育研究推進機構）	大野春雄、荏本孝久、井上之彦	
自主防災組織の活動実態に関するアンケート調査－神奈川県県央地域の 15 市町村を対象にして－	共著	平成 20 年 5 月	地域安全学会	山本俊雄、荏本孝久、田辺賢一	31-32 頁
横浜市神奈川区・西区の高密度微動観測による地盤振動特性の検討	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会	落合　努、山本俊雄、露木延夫、荏本孝久	963-964 頁
地域の地形に対応した地震防災マップの作成 (その３) 微地形区分に基づく神奈川県の 50m メッシュ地盤増幅率	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会	橋本光史、栗山利男、荏本孝久、山本俊雄	849-850 頁
神奈川大学２３号館 RC 免震建物で観測されたやや長周期地震動による動的挙動	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会	渡辺裕也、荏本孝久、二宮正行、山本俊雄	307-308 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
地盤関連情報データベースを活用した地盤増幅率に関する基礎的検討	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会	荏本孝久、山本俊雄	963-964 頁
微動観測による松本盆地の地盤振動特性の検討－その 2　西部地域について－	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会	山本俊雄、荏本孝久	959-960 頁
Vs30 Structure of Lorca town (SE Spain) from Ambient Noise Array Observations	共著	平成 20 年 9 月	European Seismologicl Commision,31st General Assembly	Navarro M., Garcia-Jerez JA., Alcala F., Vidal F., Enomoto T., Luzon F., Creus C.	CD-ROM 頁
Effect of Surface Geology Mapped for central Kashiwazaki City Niigata,Japan,Using Microtremors Data	共著	平成 20 年 9 月	European Seismological Commision,31st General Assembly	Rahimian M., Ochiai T., Yamamoto T., Enomoto T., Navarro Bernal M., Vidal SancheZ F.	CD-ROM 頁
Experimental Testing of New Type Vibration Generator for the Estimation of Stractural Dynamic Properties	共著	平成 20 年 9 月	European Seismologicl Commision,31st General Assembly	Enomoto T., Wen Y., Navarro M. and Vidal F	CD-ROM 頁
その他					
ボーリングデータと高密度微動観測による足柄平野北部の表層地盤振動特性の検討－その 1 ボーリングデータベース化と推定地質断面の検討－	共著	平成 15 年 9 月	日本建築学会 2003 年大会学術講演梗概集		279-280 頁
ボーリングデータと高密度微動観測による足柄平野北部の表層地盤振動特性の検討－その 2 高密度微動観測と断面図を用いた妥当性の評価－	単著	平成 15 年 9 月	日本建築学会 2003 年大会学術講演梗概集		281-282 頁
自治体の防災施策に関する基礎調査－都道府県及び人口 20 万人程度以上の市区を対象としたアンケート－	共著	平成 15 年 9 月	日本建築学会 2003 年大会学術講演梗概集		437-438 頁
2003 年メキシコ・コリマ地震 (M7.6) によるコリマ市の建物被害と地盤振動に関する研究－その 1 被害集中地区における常時微動－	共著	平成 15 年 9 月	日本建築学会 2003 年大会学術講演梗概集、		283-284 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
常時微動から推定される長野盆地の表層厚分布-H/Vスペクトル比による表層厚の推定	共著	平成 15 年 9 月	土木学会第 58 回年次学術講演会概要集		569-570 頁
長野盆地及び周辺の表層地盤振動特性の検討	共著	平成 15 年 11 月	日本地震工学会大会 2003 梗概集		54-55 頁
信濃川河口周辺における表層地盤の振動特性の検討	共著	平成 15 年 11 月	日本地震工学会大会 2003 梗概集		53-54 頁
地震防災戦略の考え方	共著	平成 15 年 11 月	2003 年度地域安全学会梗概集		
阪神・淡路大震災の復旧・復興プロセスの分析	共著	平成 15 年 11 月	2003 年度地域安全学会梗概集		73-76 頁
自治体の防災対策と復旧・復興にかかわるアンケート調査－都道府県及び人口 20 万人程度以上の都市を対象として－	共著	平成 15 年 11 月	2003 年度地域安全学会梗概集		81-84 頁
地震・地盤と建築	単著	平成 16 年 1 月	セキスイハウス講演会		
免震建物の減衰	単著	平成 16 年 2 月	建築物の減衰シンポジウム講演集		
長周期微動の地盤振動特性	単著	平成 16 年 3 月	土木学会中部支部研究発表会論文要旨集		
長野盆地の表層地盤の卓越周期分布	共著	平成 16 年 3 月	土木学会中部支部研究発表会論文要旨集		
阪神・淡路大震災の復旧・復興プロセスの分析	単著	平成 16 年 3 月	耐震研究の地震防災対策への反映シンポジウム		
ボーリングデータのデータベース化による表層地盤特性の検討	単著	平成 19 年 2 月	防災科学研究所・地下構造データベース構築 WG 報告		
災害リスク軽減を目的としたソフト・ハード融合型リスクマネジメントシステムの構築に関する研究－研究目的と研究概要－	単著	平成 19 年 6 月	学術フロンティア研究報告シンポジウム		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
ハードとソフトの防災対策の必要性と防災教育	単著	平成 19 年 7 月	建設教育研究推進機構設立シンポジウム		
地震災害の軽減化に向けて	単著	平成 19 年 8 月	南足柄市防災セミナー		
実践的防災まちづくりコーディネータ養成講座・第１回－講座開設の主旨と目的－	単著	平成 19 年 10 月	神奈川大学エクステンション講座		
実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座・第３回地震はどうして起こる？－地域の地盤環境に関する基礎知識をもつ－	単著	平成 19 年 10 月	神奈川大学エクステンション講座		
地震災害の軽減に向けて－情報の活用と人的ネットワーク－	単著	平成 19 年 10 月	神奈川大学宮陵会北陸ブロック会議講演		
地震の揺れと地盤の基礎知識－身近な地震防災の心構え－	単著	平成 19 年 11 月	神奈川大学テクノサイエンス・暮らしの中のサイエンス・第１回		
Sistema de Estimacion de Danos Associados a Sismos	単著	平成 19 年 11 月	El Colegio de Arquitectos del Estado de Oaxaca, A. C., Delegacion Huajuapan		
横浜市における高密度微動観測結果に基づく地盤震動特性	共著	平成 19 年 11 月	地盤工学会関東支部地盤工学セミナー	常田達矢，圷　善明，山本俊雄，荏本孝久	
地盤震動特性評価を目的とする地盤関連情報のデータベース化	共著	平成 19 年 11 月	地盤工学会関東支部地盤工学セミナー	龍野翔武，山本俊雄，荏本孝久	
「神奈川県の細密地盤区分図作成を目的とする地形・地質図のデジタル化	共著	平成 19 年 11 月	地盤工学会関東支部地盤工学セミナー	三谷俊介，文　永圭，山本俊雄，荏本孝久	
地域の防災力向上と自主防災会の役割につい－自主防災活動のアンケート調査から－	単著	平成 20 年 1 月	秦野市防災講演会		
大井町の地盤と活断層	単著	平成 20 年 2 月	神奈川県大井町防災講演会		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
神奈川県内の揺れやすさマップ	単著	平成 20 年 2 月	平成 19 年度県央地区防災事務連絡協議会講演会		
Development and Performance Tests of New Type Vibration Generator with Electromagnetism Actuation	共著	平成 20 年 2 月	5th International Workshop on Seismic Microzoning, AIT	Yongkui WEN, Takahisa Enomoto, Toshio. Kikuch, Toshio Yomamoto and Jianzhen Shen	
Study of Making Detailed Digital Soil Classification Map in Kanagawa Prefecture for Seismic Disaster Mitigation	共著	平成 20 年 2 月	5th International Workshop on Seismic Microzoning, AIT	Yongkui WEN, Koji. HORIKAWA, Mitsufumi Hashimoto, Toshio KURIYAMA, Toshio YAMAMOTO, Takahisa ENOMOTO	
Study on Microtremors Observed in Central Kashiwazaki City, After 2007 July 17th Sea of Japan Earthquake	共著	平成 20 年 2 月	5th International Workshop on Seismic Microzoning, AIT	Mahmood RAHIMIAN, Tutomu OCHIAI, Toshio YAMAMOTO and Takahisa ENOMOTO	
Study on the Sismic Micrzonation in Sagami Plain Using Spatially Dense Microtremor Measurement	共著	平成 20 年 2 月	5th International Workshop on Seismic Microzoning, AIT	Tsutomu OCHIAI, Takahisa ENOMOTO, Toshio YAMAMOTO and Norio ABEKI	
Study on information technology system related to database of geotechnical borehole data using GIS	共著	平成 20 年 2 月	5th International Workshop on Seismic Microzoning, AIT	Toshio Yamamoto, Takahisa Enomoto, Iware Matsuda and Manual Navarro	
Basic Analysis on Restoring Process due to the 1995 Hanshin - Awaji Great Earthquake Disaster, Japan	共著	平成 20 年 2 月	5th International Workshop on Seismic Microzoning, AIT	Takahisa ENOMOTO, Toshio YAMAMOTO, Kunihiro AMAKUNI and Manual Navarro	
文部科学省・学術フロンティア研究プロジェクト (2005 － 2009) 災害リスク軽減を目的としたソフト・ハード融合型リスクマネジメントシステムの構築に関する研究	単著	平成 20 年 2 月	３大学合同シンポジウム		
地形・地質図のデジタル化 “ 揺れやすさマップ ”による防災対策	単著	平成 20 年 6 月	第 128 回横浜市産学交流サロン講演会		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
地盤と地震災害―地震災害を予測することの重要性―	単著	平成 20 年 6 月	神奈川ボランティアネットワーク講演会		
地震はどうして起こる？―地震のメカニズムと災害―	単著	平成 20 年 7 月	大井町防災コーディネーター養成講座		
地震の切迫性－地震を知り、災害に備える－	単著	平成 20 年 8 月	横浜市都筑区防災講演会・多文化共生と地域防災		
実践的防災まちづくりコーディネータ養成講座・第１回―講座開設の主旨と目的―	単著	平成 20 年 10 月	神奈川大学エクステンション講座		

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 49 年～現在に至る	土木学会会員
昭和 52 年～現在に至る	日本建築学会会員
昭和 53 年～現在に至る	文部省自然災害科学総合研究班（地震動災害部門）
昭和 53 年～現在に至る	建築研究振興協会会員
昭和 57 年～現在に至る	国土庁避難地および防災施設の整備方策等調査委員会委員
昭和 57 年～現在に至る	横浜市消防局防災環境モデル調査委員会幹事
昭和 58 年～現在に至る	横浜市消防局防災環境モデル調査委員会幹事
昭和 59 年～現在に至る	広島市防災対策基礎調査委員会委員
昭和 59 年～現在に至る	神奈川県地震防災被害想定調査委員会火災・危険物等分科会委員
昭和 60 年～現在に至る	自然災害科学学会会員
昭和 60 年～現在に至る	地震学会会員
昭和 60 年～現在に至る	東京都立大学都市研究センター非常勤研究員
昭和 60 年～現在に至る	広島市防災対策基礎調査委員会委員
昭和 60 年～現在に至る	神奈川県地震防災被害想定調査委員会火災・危険物等分科会委員
昭和 60 年～現在に至る	八王子市地震被害想定調査委員会委員
昭和 62 年 4 月～現在に至る	岐阜県地震被害想定調査委員会委員
昭和 62 年 4 月～現在に至る	岩倉市地震被害想定調査委員会委員
昭和 63 年～現在に至る	地域安全学会会員
昭和 63 年～現在に至る	東京都地震被害想定協力員
昭和 63 年～現在に至る	横浜市・人工地震による地下構造探査委員会委員
昭和 63 年 4 月～現在に至る	岩倉市地震被害想定調査委員会委員
昭和 63 年 4 月～現在に至る	岐阜県地震被害想定調査委員会委員

年月	内　　容
昭和 63 年 4 月～現在に至る	八王子市地震被害想定調査委員会委員
平成元年～現在に至る	国際地震工学会（EERI）会員
平成 2 年 4 月～現在に至る	神奈川県石油コンビナート等施設液状化対策推進委員会委員
平成 2 年 4 月～現在に至る	三重県地震被害想定調査会委員
平成 2 年 4 月～現在に至る	市川市・地震防災対策調査委員会委員
平成 2 年 9 月～現在に至る	日本建築学会フィリピン地震調査団団員
平成 3 年～現在に至る	土木学会第 1 部門論文審査委員
平成 6 年～現在に至る	地震工学協会会員
平成 8 年 4 月～現在に至る	日本建築学会都市防災システム小委員会オブザーバー
平成 8 年 4 月～現在に至る	日本建築学会地盤震動小委員会委員
平成 9 年 4 月～現在に至る	地盤工学会会員
平成 11 年 3 月～現在に至る	東京都地域危険度測定調査委員会委員
平成 11 年 4 月～現在に至る	日本建築学会建築物の減衰小委員会委員
平成 12 年 4 月～現在に至る	YSK 耐震診断評定委員会委員
平成 13 年 4 月～現在に至る	地域安全学会「人と地域の防災戦略研究小委員会」主査
平成 14 年 9 月～現在に至る	市川市・防災計画支援システム構築検討委員会委員
平成 14 年 9 月～現在に至る	総務省消防庁「地方公共団体の地域防災力・危機管理対応力評価指針作成検討委員会」委員
平成 15 年 4 月～現在に至る	神奈川県震災事前復興検討専門家会議委員
平成 15 年 4 月～平成 17 年 3 月	高橋産業経済研究財団助成金 2,000 千円 （IT 技術を利用した地盤関連情報の管理と活用技術に関する研究）（研究代表者）
平成 17 年 4 月～現在に至る	文部科学省（学術フロンティア研究事業） 150,000 千円 （災害リスク軽減を目的としたソフト・ハード融合型リスクマネジメントの構築に関する研究）（研究代表者）
平成 18 年 4 月～現在に至る	地下構造データベース構築ワーキング委員
平成 18 年 11 月～現在に至る	特定非営利活動法人（内閣府承認）建設教育研究推進機構理事
平成 20 年 4 月～現在に至る	「神奈川の地盤」企画・編集委員会委員長

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部建築学科	職名 教授	氏名 大熊　武司	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
工学研究科自己点検・評価報告書の作成	平成 12 年 3 月	工学研究科自己点検。評価委員会に副委員長として、参加。
工学研究科自己点検・評価報告書の作成	平成 15 年 3 月	工学研究科自己点検。評価委員会に委員長（工学研究科委員長）として、参加。
2　作成した教科書、教材		
建築学用語辞典第 1 版	平成 5 年 12 月	主に、設計荷重関係を担当、岩波書店
建築物の耐風設計	平成 8 年 3 月	建築物の耐風設計に関する事項、設計法について体系的に記述（分担、編集主査）、鹿島出版
構造物の耐風工学　12.1 建築物の耐風設計	平成 9 年 11 月	東京電気大学出版局
流体実験ハンドブック　9.3 建築物の風洞実験	平成 9 年 12 月	特に、耐風安全性に関わる方法として、設計と風洞実験、相似則、風圧実験、風力実験、空力振動実験について解説、朝倉書店
建築学用語辞典第 2 版	平成 11 年 9 月	岩波書店
防災辞典	平成 14 年 7 月	風工学関係を分担、築地書館
ヴィジュアル版建築入門 9 建築と工学　8 風工学	平成 15 年 11 月	建築に関わる工学のうち、風工学についてわかりやすく解説（単独担当）、彰国社
スペクトル解析ハンドブック　9.2 耐風設計とスペクトル解析	平成 16 年 1 月	科学技術分野のみならず、医学、社会科学、人文科学におけるスペクトル解析技術の基礎と応用を示したもので建築関係を編集・執筆（分担）、朝倉書店
風工学ハンドブック	平成 19 年 2 月	構造・防災・環境・エネルギーを扱ったもので、第 5 章耐風設計の編著を担当、朝倉書店
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
		なし
5　その他		

II　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
ヴィジュアル版建築入門 9 建築と工学，8 風工学	共著	平成 15 年 11 月	彰国社		
スペクトル解析ハンドブック，9.2 耐風設計とスペクトル解析	共著	平成 16 年 1 月	朝倉書店		
建築物の振動に関する居住性能評価指針・同解説	共著	平成 16 年 5 月	日本建築学会		
建築物荷重指針・同解説	共著	平成 16 年 9 月	日本建築学会		
アルミニウム屋根構造マニュアル		平成 17 年 11 月	日本アルミニウム協会		
送電用鉄塔の設計荷重-現状と将来展望		平成 18 年 11 月	電気協同研究会		
風工学ハンドブック	共著	平成 19 年 2 月	朝倉書店		
鋼板製屋根構法標準		平成 19 年 11 月	日本金属屋根協会、日本鋼構造協会		
論文					
Wind response analysis of a transmission tower in a mountaineos area	共著	平成 15 年	Jour. of Wind Engineering and Industrial Aerodynamics91	Toshinaga Okamura, Takeshi Ohkuma, Eijiro Hongo and Hajime Okada	53-63 頁
変動風力による弾塑性構造物への総エネルギー入力に関する研究	共著	平成 15 年 10 月	日本建築学会構造系論文集（572）	吉江慶祐，北村春幸，大熊武司	31-38 頁
風向別基本風速マップ作成の試み	共著	平成 15 年 10 月	日本風工学会論文集 28，(4)	中村秀治，石川智巳，大熊武司，田村幸雄，田中伸和，北嶋知樹	121-136 頁
Development of wind tunnel test model of mid-rise base-isolated building	共著	平成 16 年	Wind and Structure7，(3)	T. Ohkuma, H. Yasui and H. Marukawa.	203-314 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
風向別風速を用いた送電鉄塔の耐風設計法に関する研究－送電用鉄塔の風荷重指針（案）の骨子	共著	平成 16 年 1 月	日本風工学会論文集 29,(1)	大熊武司，中村秀治，石川智巳，本郷榮次郎，渡辺敏緒，篠田明秀，北嶋知樹	137-150 頁
送電用鉄塔の耐風設計のための風向別基本風速に関する検討	共著	平成 16 年 7 月	日本風工学会論文集 29,(3)	山崎智之，石川智巳，大熊武司，田村幸雄，北嶋知樹，中村秀治，加藤央之	19-34 頁
強風時における五重塔の風応答性状に関する研究	共著	平成 16 年 8 月	日本建築学会構造系論文集（582）	大熊武司，片桐純治，丸川比佐夫，安井八紀	109-116 頁
木造軸組工法建築物の耐風性能評価用復元力特性に関する研究	共著	平成 16 年 12 月	第 18 回風工学シンポジウム論文集	下村祥一，大熊武司	371-376 頁
実大建物による屋根瓦に作用する風力に関する研究その 2　浮上りの生じた瓦に作用する風圧力の性状	共著	平成 16 年 12 月	第 18 回風工学シンポジウム論文集	岡田 創，大熊武司，片桐純治	323-328 頁
鉄塔腹材の後流渦励振に関する研究	共著	平成 16 年 12 月	第 18 回風工学シンポジウム論文集	大熊武司，本郷栄次郎，漆原秀雄，片桐純治，鶴見俊雄，岡村俊良	317-322 頁
外付け電動ブラインドに作用する風力及び風応答性状に関する屋外計測	共著	平成 16 年 12 月	第 18 回風工学シンポジウム論文集	大熊武司，岡田 創，平塚鉄也，片桐純治，大石 守	251-256 頁
実大建物による屋根瓦に作用する風力に関する研究，その 1　浮上りのない瓦に作用する風圧力の性状	共著	平成 17 年 2 月	日本建築学会構造系論文集（588）	岡田 創，大熊武司，片桐純治	49-56 頁
エネルギーの釣合に基づく変動風力を受ける弾塑性構造物の応答予測手法	共著	平成 17 年 3 月	日本建築学会構造系論文集（589）	吉江慶祐，北村春幸，大熊武司	59-66 頁
多方向で振動する弾塑性構造物の空力不安定現象に関する数値解析	共著	平成 18 年 3 月	日本建築学会構造系論文集（601）	田村哲郎，黒田真樹，大熊武司	53-60 頁
広帯域性の変動風力を受ける弾塑性構造物の応答変位振幅の確率分布	共著	平成 18 年 6 月	日本建築学会構造系論文集（604）	吉江慶祐，大熊武司，北村春幸，和田 章	37-46 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Wind response analyse method for base-isolated building considering small- amplitude plastic behavior and creep	共著	平成 18 年 7 月	Proceedings of The Fourth International Symposium on Computational Wind Engineering (CWE2006)	Hachinori Yasui and Takeshi Ohkuma	909-912 頁
Prediction of typhoon wind by level 2.5 closure model	共著	平成 18 年 7 月	Proceedings of The Fourth International Symposium on Computational Wind Engineering (CWE2006)	M. Yoshida, M. Yamamoto, K. Takagi and T. Ohkuma	189-192 頁
加力方法の違いが木造軸組工法耐力壁の復元特性に及ぼす影響とそのモデル化手法，木造軸組工法耐力壁の耐風性能評価用復元力特性に関する研究　その 1	共著	平成 18 年 9 月	日本建築学会構造系論文集（607）	下村祥一，大熊武司	133-140 頁
実測に基づく風力発電コンクリートタワーの風応答特性に関する研究	共著	平成 18 年 9 月	日本建築学会構造系論文集（607）	山本 学，内藤幸雄，近藤宏二，大熊武司	45-52 頁
エネルギーの釣合に基づく平均成分を有する広帯域性変動風力を受ける弾塑性構造物の応答予測手法	共著	平成 18 年 10 月	日本建築学会構造系論文集（608）	吉江慶祐，北村春幸，大熊武司，和田 章	21-28 頁
強風時における屋根瓦の挙動に関する研究	共著	平成 18 年 11 月	第 19 回風工学シンポジウム論文集	岡田 創，大熊武司，片桐純治，丸川比佐夫	355-360 頁
矩形平面の高層建築物に作用する変動捩りモーメント特性	共著	平成 18 年 11 月	第 19 回風工学シンポジウム論文集	片桐純治，大熊武司，丸川比佐夫，鶴見俊雄	253-258 頁
低層住宅に作用する風力特性に関する研究	共著	平成 18 年 11 月	第 19 回風工学シンポジウム論文集	下村祥一，大熊武司	247-252 頁
Wind-induced responses and wind loads on a concrete tower supporting a wind turbine obtained from field measurements during turbine rotation	共著	平成 19 年 7 月	Proceedings of 12th ICWE	M.Yamamoto, Y.Naito, K.Kondo and T.Ohkuma	2143-2150 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Probability distribution function of response amplitude for an elastic structure subjected to wide-band fluctuating wind force	共著	平成 19 年 7 月	Proceedings of 12th ICWE	Keisuke Yoshie, Takeshi Ohkuma, Haruyuki Kitamura and Akira Wada	271-278 頁
実測による風力発電タワーの風荷重特性と作用外力の推定	共著	平成 19 年 7 月	日本建築学会構造系論文集（617）	山本 学，内藤幸雄，近藤宏二，大熊武司	39-46 頁
クリープ変形を伴う免震建物の風応答性状に関する研究	共著	平成 19 年 9 月	日本建築学会構造系論文集（619）	安井八紀，大熊武司，丸川比佐夫	41-48 頁
木造軸組工法建物の弾塑性風応答性状とその応答解析手法に関する研究，木造軸組工法耐力壁の耐風性能評価用復元力特性に関する研究　その 2	共著	平成 19 年 11 月	日本建築学会構造系論文集（621）	下村祥一，大熊武司	119-126 頁
浮き上がりが生じた瓦に作用する風圧力の性状、実大建物による屋根瓦に作用する風力に関する研究　その 2	共著	平成 19 年 12 月	日本建築学会構造系論文集（622）	岡田 創，大熊武司，片桐純治	57-64 頁
風車回転時の風力発電設備に作用する風力に関する風洞実験	共著	平成 20 年 3 月	日本建築学会構造系論文集 73,（625）	山本 学，近藤宏二，大熊武司	375-382 頁
粘弾性ダンパーを有する木造戸建て建物の弾塑性風応答性状に関する研究	共著	平成 20 年 10 月	日本建築学会構造系論文集 73,（632）	下村祥一，大熊武司	1818-1821 頁
Prediction of typhoon wind by level 2.5 closure model	共著	平成 20 年 11 月	Journal of Wind Engineering and Industrial Aerodynamics96	M.Yoshida, M.Yamamoto, K.Takagi, T.Ohkuma	2104-2120 頁
屋根瓦の裏面に作用する風圧予測に関する研究	共著	平成 20 年 11 月	日本建築学会構造系論文集 73,（633）	岡田 創，大熊武司，片桐純治	1943-1950 頁
折板屋根を対象とした強風に対するバルナラビリティ評価	共著	平成 20 年 12 月	第 20 回風工学シンポジウム論文集	喜々津仁密，大熊武司，奥田泰雄，西村宏昭	223-228 頁
標準 k-ε モデルを用いた複雑地形周りの流れ解析	共著	平成 20 年 12 月	第 20 回風工学シンポジウム論文集	片桐純治，大熊武司，岡田 創，野田博，丸川比佐夫	55-60 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
その他					
木造３階建て住宅の風揺れに関する解析的研究－風力モデルの改善－	共著	平成 15 年 4 月	日本風工学会誌（95）	佐々木孝基，大熊武司，下村祥一	163-164 頁
弾塑性構造物の風直角方向－捩れ連成空力不安定振動に関する数値解析	共著	平成 15 年 4 月	日本風工学会誌（95）	黒田真樹，田村哲郎，大熊武司	173-174 頁
木造軸組工法耐力壁の耐風性能評価用復元力特性に関する研究，その 3	共著	平成 15 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-1	佐々木孝基，下村祥一，大熊武司	343-344 頁
木造軸組工法耐力壁の耐風性能評価用復元力特性に関する研究，その 2	共著	平成 15 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-1	下村祥一，大熊武司，佐々木孝基，	341-342 頁
弾塑性構造物の風直角方向－捩れ連成空力不安定振動に関する数値解析	共著	平成 15 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-1	黒田真樹，田村哲郎，大熊武司	201-202 頁
強風時における五重塔の風応答特性に関する研究，その 1	共著	平成 15 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-1	片桐純治，大熊武司，山田晴二郎，安井八紀，丸川比佐夫	461-462 頁
実大建物による屋根瓦に作用する風力に関する研究，その 4	共著	平成 15 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-1	岡田 創，大熊武司，岡田 恒，丸川比佐夫	145-146 頁
強風時における五重塔の風応答特性に関する研究，その 2	共著	平成 15 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-1	安井八紀，大熊武司，小林義幸，片桐純治，丸川比佐夫	463-464 頁
木造軸組工法耐力壁の耐風性能評価用復元力特性に関する研究，その 1	共著	平成 15 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-1	下村祥一，大熊武司，佐々木孝基，	339-340 頁
実大建物による屋根瓦に作用する風力に関する研究 その 3	共著	平成 15 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-1	丸川比佐夫，大熊武司，岡田 恒，岡田 創，	143-144 頁
迎角を有する円形断面部材に作用する風直角方向風力特性に関する研究	共著	平成 15 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-1	鶴見俊雄，大熊武司，片桐純治，丸川比佐夫	181-182 頁
五重塔に作用する風力特性に関する研究	共著	平成 15 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-1	山田晴二郎，大熊武司，片桐純治，丸川比佐夫	177-178 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
巻頭言：「構造物の体風設計」という視点	単著	平成 16 年 1 月	日本風工学会誌 1 月号，日本風工学会		
文化財の風災害と五重塔の耐風性能	共著	平成 16 年 3 月	文化遺産災害対策小委員会研究報告集，第 1 集，建築学会		19-26 頁
風力を対象とした木造軸組工法筋交い構面耐力壁の仮動的実験，その 2　実験結果と弾塑性風応答解析	共著	平成 16 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-1	栗原 真，下村祥一，大熊武司	211-212 頁
風力を対象とした木造軸組工法筋交い構面耐力壁の仮動的実験，その 1　実験計画と風力シミュレーション	共著	平成 16 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-1	下村祥一，大熊武司，栗原 真	209-210 頁
風力を対象とした木造軸組工法面材構面耐力壁の復元力特性に関する研究，その 2　時刻歴風応答解析	共著	平成 16 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-1	神崎拓海，下村祥一，大熊武司，上羽美和子	207-208 頁
風力を対象とした木造軸組工法面材構面耐力壁の復元力特性に関する研究，その 1　実験結果	共著	平成 16 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-1	上羽美和子，下村祥一，大熊武司，神崎拓海	205-206 頁
鉄塔腹材の後流渦励振に関する風力特性に関する研究，その 3　腹材の弱軸方向の応答予測	共著	平成 16 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-1	漆原秀雄，大熊武司，本郷栄次郎，丸川比佐夫，片桐純治，岡村俊良	143-144 頁
鉄塔腹材の後流渦励振に関する研究，その 2　腹材の弱軸方向の層風力特性	共著	平成 16 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-1	鶴見俊雄，大熊武司，本郷栄次郎，漆原秀雄，丸川比佐夫，岡村俊良	141-142 頁
鉄塔腹材の後流渦励振に関する研究，その 1　レイノルズ数による風力特性の変化	共著	平成 16 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-1	丸川比佐夫，大熊武司，本郷栄次郎，漆原秀雄，片桐純治，岡村俊良	139-140 頁
鋼管トラス鉄塔における腹材の風応答に関する実測	共著	平成 16 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-1	淡嶋毅弘，大熊武司，本郷榮次郎，漆原秀雄，丸川比佐夫，岡村俊良	137-138 頁
傾斜円柱の風直角方向風応答性状に関する研究	共著	平成 16 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-1	片桐純治，大熊武司，鶴見俊雄，丸川比佐夫	135-136 頁
高層免震建物の等価静的風荷重に関する研究	共著	平成 16 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-1	安井八紀，大熊武司，丸川比佐夫	127-128 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
多方向に弾塑性挙動する二次元正方形角柱の空力不安定振動に関する数値解析	共著	平成 16 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-1	黒田真樹，田村哲郎，大熊武司	119-120 頁
外付け電動ブラインドに作用する風力及び風応答の屋外計測，その３　風圧係数及び風力係数の計測結果	共著	平成 16 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-1	岡田 創，大熊武司，大石守，平塚鉄也，片桐純治	63-64 頁
外付け電動ブラインドに作用する風力及び風応答の屋外計測，その２　屋外計測方法及び風応答変位の計測結果	共著	平成 16 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-1	平塚鉄也，大熊武司，大石 守，片桐純治，岡田 創	61-62 頁
外付け電動ブラインドに作用する風力及び風応答の屋外計測，その１　計測対象ブラインドの概要及び自由振動計測	共著	平成 16 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-1	大石 守，大熊武司，平塚鉄也，片桐純治，岡田創	59-60 頁
Full-scale Measurement of Wind Forces Acting on an External Venetian Sunblind and Its Wind Responses	共著	平成 17 年	Proceedings of The Sixth Asia-Pacific Conference on Wind Engineering (APCWE-VI) CD-ROM	Junji Katagiri, Takeshi Ohkuma, Mamoru Ooishi, Hisao Marukawa and Tetsuya Hiratsuka	1758-1773 頁
Full-scale Measurement Study on Wind Forces on Roof Tiles with Lift	共著	平成 17 年	Proceedings of The Sixth Asia-Pacific Conference on Wind Engineering (APCWE-VI) CD-ROM	Hajime Okada, Takeshi Ohkuma, Junji Katagiri and Hisao Marukawa	1712-1725 頁
Study on Restoring Force Characteristics of Shear Walls in Timber-frame-construction with Regard to Wind Force	共著	平成 17 年	Proceedings of The Sixth Asia-Pacific Conference on Wind Engineering (APCWE-VI) CD-ROM	Shoichi Shimomura and Takeshi Ohkuma	1539-1550 頁
A Study of Fluctuating Wind-force Induced Energy Input to an Elasto-plastic Structure	共著	平成 17 年	Proceedings of The Sixth Asia-Pacific Conference on Wind Engineering (APCWE-VI) CD-ROM	Keisuke Yoshie, Haruyuki Kitamura and Takeshi Ohkuma	1524-1538 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Study on Characteristics of Wind Forces of a Triangular Rigid Frame Tower	共著	平成 17 年	Proceedings of The Sixth Asia-Pacific Conference on Wind Engineering (APCWE-VI) CD-ROM	Akira Hayakawa, Takeshi Ohkuma, Kazutsugu Hiramatsu, Tadashi Yanai, Hisanobu Akagi, Sadato Sugiyama and Akihiro Honda	903-915 頁
Study on Simplified Method for Estimation of Clearance between Conductors under Wind and Full-scale Measurements of Conductors Behavior	共著	平成 17 年	Proceedings of The Sixth Asia-Pacific Conference on Wind Engineering (APCWE-VI) CD-ROM	Tomoki Kitashima, Takeshi Ohkuma, Hachinori Yasui, Junji Katagiri, Tadahiro Takahashi and Tomoyuki Watanabe	1885-1904 頁
低層住宅の屋根面風圧性状における棟形状の影響	共著	平成 17 年 4 月	日本風工学会誌 30,（2）	岡田 創，大熊武司，片桐純治	215-216 頁
アスペクト比の小さな傾斜円柱に作用する風力・風圧性状に関する研究（その 2）　部材軸方向の平均抗力・平均風圧分布性状	共著	平成 17 年 4 月	日本風工学会誌 30,（2）	片桐純治，鶴見俊雄，大熊武司，丸川比佐夫	177-178 頁
アスペクト比の小さな傾斜円柱に作用する風力・風圧性状に関する研究（その 1）　模型中央部における平均風力・風圧性状	共著	平成 17 年 4 月	日本風工学会誌 30,（2）	鶴見俊雄，大熊武司，丸川比佐夫，片桐純治	175-176 頁
外付電動ブラインドに作用する風力及び風応答性状に関する屋外計測	共著	平成 17 年 6 月	日本建築学会技術報告集（21）	片桐純治，大熊武司，大石 守，丸川比佐夫，平塚鉄也	51-56 頁
時刻歴応答解析におけるアンサンブル平均のばらつき	共著	平成 17 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-1	吉江慶祐，北村春幸，大熊武司，和田 章	233-234 頁
風力発電設備に作用する風力特性　－境界層乱流中での風力特性－，その 2　風車回転時の実験結果	共著	平成 17 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-1	内野清士，山本 学，近藤宏二，大熊武司	181-182 頁
風力発電設備に作用する風力特性　－境界層乱流中での風力特性－，その 1　風車静止時の実験結果	共著	平成 17 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-1	山本 学，近藤宏二，大熊武司，内野清士	179-180 頁
傾斜円柱に作用する揚力特性における傾斜角の影響	共著	平成 17 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-1	鶴見俊雄，大熊武司，丸川比佐夫、片桐純治	175-176 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
強風時における屋根瓦の挙動に関する研究，その２ 静的引き上げ試験による隣接する瓦の影響の検討	共著	平成 17 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-1	岡田 創，大熊武司，丸川比佐夫，片桐純治	131-132 頁
強風時における屋根瓦の挙動に関する研究，その１ 屋根瓦に作用する循環風力の分布	共著	平成 17 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-1	片桐純治，大熊武司，丸川比佐夫，岡田 創	129-130 頁
宮古島を対象にした台風 T0314 の風速予測	共著	平成 17 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-1	吉田正邦，山本 学，高木賢二，大熊武司	127-128 頁
木造軸組工法耐力壁の耐風性能評価用復元力特性に関する荷重制御実験，その２ 簡易解析手法の提案	共著	平成 17 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-1	上羽美和子，下村祥一，大熊武司，金子哲也	331-332 頁
木造軸組工法耐力壁の耐風性能評価用復元力特性に関する荷重制御実験，その１ 加力方法が復元力特性に及ぼす影響	共著	平成 17 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-1	金子哲也，下村祥一，大熊武司，上羽美和子	329-330 頁
粘弾性ダンパーを有する木造住宅の風応答を考慮した材料実験と応答の試算	共著	平成 17 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-1	下村祥一，大熊武司	89-90 頁
メソスケールモデルによる台風シミュレーション	共著	平成 17 年 9 月	日本流体力学会年会 2005 講演論文集	吉田正邦，山本 学，高木賢二，大熊武司	175 頁
弾塑性モデルを用いた五重塔の風応答性状に関する研究	共著	平成 18 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-1	片桐純治，花里利一，大熊武司	471-472 頁
木造住宅の弾塑性風対応答予測手法の開発，その２ 空力振動実験	共著	平成 18 年 9 月	日本建築学会大会学術梗概集 C-1	上羽美和子，下村祥一，高師利明，大熊武司	339-340 頁
木造住宅の弾塑性風応答予測手法の開発，その１　振動実験模型の開発	共著	平成 18 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-1	高師利明，下村祥一，上羽美和子，大熊武司	337-338 頁
長時間加力を受ける粘弾性ダンパー付き木造制振壁の復元力特性に関する実験的研究，その２　粘弾性ダンパーに温度の上昇の試算	共著	平成 18 年 9 月	日本建築学会学術講演梗概集 C-1	下村祥一，金子哲也，大熊武司	315-316 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
長時間加力を受ける粘弾性ダンパー付き木造制振壁の復元力特性に関する実験的研究，その１　長時間加力実験結果と制振壁の性能評価	共著	平成 18 年 9 月	日本建築学会学術講演梗概集 C-1	金子哲也，下村祥一，大熊武司	313-314 頁
免震建物の風応答予測に関する研究，その５　風直交方向および捩れの簡易応答予測法	共著	平成 18 年 9 月	日本建築学会学術講演梗概集 B-2	七井猛雄，安井八紀，大熊武司	579-580 頁
免震建物の風応答予測に関する研究，その４　風方向の簡易応答予測法	共著	平成 18 年 9 月	日本建築学会大会講演梗概集 B-2	安田勝範，安井八紀，大熊武司	577-5478 頁
免震建物の風応答予測に関する研究，その３　風応答性状	共著	平成 18 年 9 月	日本建築学会大会講演梗概集 B-2	日高康彦，安井八紀，大熊武司	575-576 頁
免震建物の風応答予測に関する研究，その２　クリープ変形の予測法	共著	平成 18 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-2	小林義幸，安井八紀，大熊武司	573-574 頁
免震建物の風応答予測に関する研究，その１　検討方法と風力特性	共著	平成 18 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-2	丸川比佐夫，安井八紀，大熊武司	571-572 頁
一様乱流中における辺長比の小さい角柱の空力不安定振動に関する LES 解析	共著	平成 18 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-1	内野清士，小野佳之，田村哲郎，大熊武司	183-184 頁
曲面を有する建物の外装材設計用風力係数について	共著	平成 18 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-1	鶴見俊雄，大熊武司，片桐純治，西澤崇雄	161-162 頁
低層建物模型の屋根面風圧測定における実験気流の影響に関する研究	共著	平成 18 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-1	岡田 創，大熊武司，丸川比佐夫，片桐純治	145-146 頁
耐風設計用風速の台風モデルによる予測について	共著	平成 18 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-1	吉田正邦，山本 学，大熊武司	135-136 頁
長時間ランダム加力を受ける粘弾性ダンパー付き木造制振壁の動的挙動に関する研究，その２　粘弾性体の温度変化を考慮した挙動解析	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-1	下村祥一，金子哲也，初岡徹朗，大熊武司	277-278 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
長時間ランダム加力を受ける粘弾性ダンパー付き木造制振壁の動的挙動に関する研究，その１　長時間ランダム加力実験	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-1	金子哲也，下村祥一，初岡徹朗，大熊武司	275-276 頁
辺長比の小さな角柱の空力不安定振動に関する LES 解析	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-1	内野清士，小野佳之，田村哲郎，大熊武司	177-178 頁
台風モデルによる鉛直方向風速分布の推定	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-1	吉田正邦，大熊武司	165-166 頁
周辺建物を考慮した低層住宅に作用する風力特性に関する風洞実験	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-1	中村淳子，下村祥一，大熊武司	147-148 頁
防鳥網の風力性状に関する実験	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-1	鶴見俊雄，片桐純治，小川秀雄，大熊武司	145-146 頁
鉛直方向風速分布計算手法の検討	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-1	吉田正邦，大熊武司	161-162 頁
根瓦の内圧予測に関する研究，その１　部分モデルによる内圧測定実験	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-1	片桐純治，岡田 創，大熊武司，丸川比佐夫	229-230 頁
屋根瓦の内圧予測に関する研究，その２　内圧の推定方法に関する検討	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-1	岡田 創，大熊武司，丸川比佐夫，片桐純治	231-232 頁
風車回転時のタワーに関する風方向荷重算定式について，その１　風荷重評価の基本的考え方	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-1	山本学，近藤宏二，大熊武司	259-260 頁
風車回転時のタワーに関する風方向荷重算定式について，その２　パラメータのモデル化と計算例	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-1	近藤宏二，山本学，大熊武司	261-262 頁
防鳥防風網を設置した開放型畜舎の設計用風荷重，その１　模型用ネットの風力特性	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-1	丸川比佐夫，小川秀雄，鶴見俊雄，大熊武司，片桐純治	273-274 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
防鳥防風網を設置した開放型畜舎の設計用風荷重，その２　構造骨組用風力係数の防鳥防風網による変化	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-1	鶴見俊雄，小川秀雄，大熊武司，片桐純治，丸川比佐夫	275-276 頁
偏心を有する木造低層建物の風応答に関する研究	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-1	高師利明，下村祥一，大熊武司	113-114 頁
粘弾性ダンパー型木造軸組工法建物の耐風性能に関する動的加力実験，その１　ダンパー剛性比の変化による制振架構試験体の挙動変化	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-1	中村淳子，下村祥一，大熊武司	195-196 頁
粘弾性ダンパー型木造軸組工法建物の耐風性能に関する動的加力実験，その２　時間の経過による立体架構試験体の挙動変化と風応答解析	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-1	下村祥一，大熊武司，中村淳子	197-198 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 55 年 4 月～現在に至る	日本建築学会会員
昭和 55 年 4 月～現在に至る	日本建築学会風荷重小委員会委員
昭和 59 年 4 月～現在に至る	日本風工学会会員
昭和 63 年 4 月～平成 20 年 4 月	日本建築学会荷重運営委員会委員
平成元年 4 月～現在に至る	日本建築センター：高層建築物構造評定委員会委員
平成 6 年 4 月～現在に至る	アメリカ土木学会会員
平成 6 年 4 月～平成 18 年 3 月	日本アルミニウム協会：アルミ合金屋根構造技術委員会副委員長
平成 7 年 4 月～現在に至る	日本畜産機械協会：畜舎建築に係る関連基準等に関する検討委員会委員
平成 9 年 11 月～現在に至る	日本電気協会：技術基準適合評価委員会委員
平成 10 年 9 月～現在に至る	国際雑誌”Wind and Structure”編集委員
平成 12 年 3 月～現在に至る	工学研究科自己点検・評価報告書の作成。工学研究科自己点検。評価委員会に副委員長として、参加。
平成 14 年～現在に至る	授業評価に関するアンケートの実施（平成 15）年全学及び工学部のスケジュールに従って実施
平成 14 年 4 月～現在に至る	建築・住宅国際機構：ISO/TC98 分科会委員
平成 14 年 10 月～平成 16 年 10 月	経済産業省：総合資源エネルギー調査会臨時委員
平成 15 年 3 月～現在に至る	工学研究科自己点検・評価報告書の作成。工学研究科自己点検。評価委員会に委員長（工学研究科委員長）として、参加。
平成 16 年 4 月～現在に至る	東京建築検査機構：構造性能評価委員会委員
平成 17 年 11 月～平成 19 年 11 月	新エネルギー産業技術総合開発機構 (NEDO)：日本型風力発電ガイドライン策定委員会委員
平成 17 年 11 月～平成 19 年 11 月	日本鋼構造協会：SSR92 および関連マニュアル改訂小委員会委員長
平成 18 年 6 月～平成 20 年 6 月	経済産業省：総合資源エネルギー調査会臨時委員
平成 19 年 4 月～現在に至る	日本免震構造協会：技術委員会　耐風設計部会部会長
平成 19 年 7 月～現在に至る	電力中央研究所：電力設備の雪害に関する研究委員会委員長
平成 19 年 7 月～現在に至る	日本電気協会：電気設備技術基準整備調査委員会委員

Ⅴ　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部建築学科	職名 教授	氏名 鎌田　元康	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
担当教員全員による反省会の実施と次年度授業への反映	平成 19 年 4 月 1 日 ～現在に至る	（授業科目：環境システム計画１及び演習）（授業科目：環境システム計画２及び演習）授業途中での中間チェックおよび最終講評会の後、非常勤講師１名を含む担当教員全員で反省会を行い、その結果に基づき、次年度の授業内容へ反映
環境専門プログラムＦＤ	平成 19 年 4 月 1 日	（授業科目：建築環境コース関連科目全般）不定期ではあるが、建築環境コース担当教員全員が集まり、建築環境コース関連科目全般について討議し、授業内容などの改善を模索。具体的には、建築環境輪講１で技術者倫理を扱うこと、学生の負担を少なくする方向での使用書選定を心がけること、卒業研究優秀賞の選定をより客観的に行うために評価シートを改善することなどを決定
レポート・小テスト・定期試験採点結果に基づく授業内容の改善	平成 19 年 9 月 1 日 ～現在に至る	（授業科目：建築設備システム）2007 年 4 月に本学に着任して最初の単独授業であったことから、レポート・小テスト・定期試験の採点を詳細に行い、その分析結果を 2008 年度の授業内容に反映した。2008 年度の定期試験の成績から判断し、学生の理解度が増す方向で授業内容を改善できたと考えている
メーリングリストを活用しての授業運営	平成 19 年 9 月 1 日	（授業科目：建築環境輪講２／建築システム輪講２）授業の最初に、私が研究してきた内容と、それらに関連する最近の話題を講義し、続いてのディスカッションを通じて学生が興味をもっているテーマを整理。そのデータに基づき、関連する展示会、出版物などの各種情報をメールで提供
2　作成した教科書、教材		
重要事項を記載した教材の配布	平成 19 年 9 月 1 日 ～現在に至る	（授業科目：建築設備システム）共著『大学課程　建築設備』をテキストとして使用しているが、毎回、重要事項を記載したプリントを配布した。また、必要に応じ、補助資料を配布（全体でＡ４で 20 枚程度）した
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
		なし

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
2004　建築設備定期検査業務基準書	共著	平成 16 年 1 月	日本建築設備・昇降機センター		
平成 16 年版　国土交通大臣指定講習　建築設備検査資格者講習テキスト	共著	平成 16 年 7 月	(財)　日本建築設備・昇降機センター		
大学課程　建設設備　第 5 版	共著	平成 16 年 9 月	オーム社		
改訂　既存建築物の吹付けアスベスト粉じん飛散防止処理技術指針・同解説 2006	共著	平成 18 年 9 月	日本建築センター	「既存建築物の吹付けアスベスト粉じん飛散防止処理技術指針・同解説」編集委員会	
給排水設備技術基準・同解説　2006 年版	共著	平成 18 年 10 月	日本建築センター	給排水設備技術基準・同解説編集委員会	
京都議定書目標達成に向けて　建築・都市エネルギーシステムの新技術	共著	平成 19 年 10 月	空気調和・衛生工学会		
設備設計一級建築士資格講習テキスト	共著	平成 20 年 5 月	(財) 建築技術教育普及センター		
論文					
集合住宅における暖房の使用状況に関する研究	共著	平成 15 年 4 月	空気調和・衛生工学会論文集（89）	前　真之、鍋島美奈子、二宮秀與、永村一雄、長井達夫、鎌田元康	45-54 頁
湯・水消費の季節変動要因についての分析　都市型集合住宅における給湯・給水の消費構造分析と評価方法に関する研究（その１）	共著	平成 15 年 4 月	日本建築学会環境系論文集（566）	前　真之、布野裕子、石渡　博、市川憲良、鎌田元康	73-80 頁
ＫＳＩ住宅における雑排水横枝管の緩勾配に関する研究	共著	平成 15 年 6 月	日本建築学会技術報告集（17）	陳　玉芳、鎌田元康、渋谷　巧	261-264 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
湯量・湯熱量に基づく給湯負荷評価　集合住宅における給湯・給水消費に関する実態調査	共著	平成 15 年 7 月	空気調和・衛生工学会論文集（90）	前　真之、飯尾昭彦、石渡　博、市川憲良、大塚雅之、坂上恭介、鎌田元康	39-48 頁
集合住宅における排水立て管の排水能力予測手法に関する研究	共著	平成 15 年 8 月	日本建築学会環境系論文集（570）	符　立偉、鎌田元康、倉渕　隆	53-60 頁
廃棄物マネージメントを支援する建築・都市システムの構築　第４報―生ごみのディスポーザ処理の廃棄物・下水処理を含めた視点による環境評価	共著	平成 15 年 10 月	空気調和・衛生工学会論文集（91）	間宮　尚、鎌田元康、井上　隆、木原勇信、小林謙介、長谷川善明	31-40 頁
単体ガス成分に対する家庭用空気清浄機の性能試験方法に関する検討	共著	平成 15 年 10 月	日本建築学会環境系論文集（572）	長谷川麻子、羽田崇秀、小峯裕己、鎌田元康	55-62 頁
放射熱伝達解析における形態係数の計算法についての研究	共著	平成 15 年 10 月	日本建築学会環境系論文集（572）	今野　雅、倉渕　隆、鎌田元康	17-22 頁
風圧力発生頻度に基づく常時換気システムの設備された集合住宅の換気量充足度評価に関する研究第２報―片廊下型高層住宅に対する検討	共著	平成 15 年 10 月	空気調和・衛生工学会論文集（91）	鳥海吉弘、倉渕　隆、嵐口晃宏、今野　雅、鎌田元康、水谷泰三	11-19 頁
生活時間のパターン分類―都心部集合住宅居住者のライフスタイルとエネルギー消費に関する研究　その１―	共著	平成 15 年 11 月	日本建築学会環境系論文集（573）	前　真之、鍋島美奈子、鎌田元康	103-109 頁
A CFD Analysis of the Air Flow Characteristics at an Inflow Opening	共著	平成 16 年 3 月	The International Journal of Ventilation2,（2）	Yoshihiko Akamine, Takashi Kurabuchi, Masaaki Ohba, Tomoyuki Endo and Motoyasu Kamata	439-446 頁
A Fundamental Study on the Air Flow Structure of Outflow Openings	共著	平成 16 年 3 月	The International Journal of Ventilation2,（2）	Tomoyuki Endo, Takashi Kurabuchi, Masaaki Ohba, Yoshihiko Akamine and Motoyasu Kamata	439-446 頁
超音波風速計の測定誤差と補正方法	共著	平成 16 年 5 月	日本建築学会技術報告集（19）	飯野由香里・倉渕　隆・高橋　潤・鎌田元康	177-180 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
住宅用給湯システムの熱効率および熱損失の検討　住宅用給湯システムの効率評価法に関する研究　第１報	共著	平成 16 年 6 月	日本建築学会環境系論文集（580）	王　祥武・前　真之・岩本静男・鎌田元康	61-68 頁
特殊継手排水システム排水能力予測手法の適用範囲拡大に関する研究　第１報－配管形態の変化による通気流量と管内圧力の挙動	共著	平成 17 年 1 月	空気調和・衛生工学会論文集（96）	八木博史・鎌田元康・清水宏典・小林宜泰・田中良法・仲石正雄	95-105 頁
廃棄物マネージメントを支援する建築・都市システムの構築　第５報－廃棄物流制御の環境評価に基づく都市機能の抽出	共著	平成 17 年 7 月	空気調和・衛生工学論文集（100）	間宮　尚・鎌田元康	17-26 頁
排水横枝管の曲がりが排水立て管負荷に及ぼす影響　第１報－公団ＳＩ住宅の便器系統に関する検討	共著	平成 17 年 9 月	空気調和・衛生工学論文集（102）	陳　玉芳・鎌田元康・坂上恭助・渋谷　巧	9-15 頁
配水管・給水管内水温の予測法に関する研究　第２報－浄水場水温の分析と簡易予測法	共著	平成 18 年 7 月	空気調和・衛生工学会論文集（112）	岩本静男・近藤武士・坂上恭助・鎌田元康	33-39 頁
サーモスタット混合水栓、手元止水機能付シャワーヘッドによる節水効果　節水・節湯器具の評価に関する研究	共著	平成 18 年 9 月	日本建築学会環境系論文集（607）	近藤武士・岩本静男・市川憲良・鎌田元康	87-92 頁
風環境のＣＦＤ解析に対する直交格子自動生成　有限体積法ＣＦＤ解析における誤差推定法の比較（その１）	共著	平成 19 年 2 月	日本建築学会環境系論文集（612）	今野　雅・鎌田元康・坂本雄三	51-57 頁
節水型台所水栓を用いた食器洗浄による節水効果　節水・節湯器具の評価に関する研究　その２	共著	平成 19 年 3 月	日本建築学会環境系論文集（613）	近藤武士・岩本静男・鎌田元康	65-70 頁
配水管・給水管内水温の予測法に関する研究　第３報－浄水場水温の計算モデル	共著	平成 19 年 3 月	空気調和・衛生工学会論文集（120）	岩本静男・近藤武士・坂上恭助・鎌田元康	1-7 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
風環境のＣＦＤ解析に対する直交格子自動生成　解適合格子を用いた計算効率の良い格子の自動生成（その２）	共著	平成 19 年 7 月	日本建築学会環境系論文集 No.617	今野　雅、大西直紀、鎌田元康、坂本雄三	31-38 頁
私と給排水衛生設備	単著	平成 19 年 11 月	神奈川大学工学研究所所報（30）		11-18 頁
住宅における給湯日消費量の季節・短期変動	共著	平成 19 年 12 月	日本建築学会環境系論文集 No.622	前　真之、高須直子、鍋島美奈子、市川憲良、飯尾昭彦、鎌田元康	73-80 頁
風環境のＣＦＤ解析に対する直交格子自動生成　非一様型解適合格子生成法の開発（その３）	共著	平成 20 年 2 月	日本建築学会環境系論文集 No.624	今野　雅、大西直紀、鎌田元康、坂本雄三	207-214 頁
Study on Utility Cross-Ventilation in Guangzhou and Shenzhen, China	共著	平成 20 年 5 月	Journal of Asian Architecture and Building Engineering(JAABE)7,（1）	Masashi Imano, Yunchan Zheng, Yoshihiko Akamine, Narongwit Areemit, Motoyasu Kamataand Yuzo Sakamoto	131-138 頁
Cross-ventilation Utilization in Housing in Congested Urban Areas in Taiwan	共著	平成 20 年 5 月	Journal of Asian Architecture and Building (JAABE)7,（1）	Yu-Feng Tu, Motoyasu Kamata, Yoshihiko Akamine, Masashi Imano and Yuzo Sakamoto	117-124 頁
Utilization of Cross-ventilation in High-density Urban Areas	共著	平成 20 年 11 月	Journal of Asian Architecture and Building Engineering(JAABE)（日本建築学会）7,（2）	Yoshihiko Akamine, Hideaki Hoshino, Motoyasu Kamata, Masashi Imano and Yuzo Sakamoto	445-451 頁
その他					

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 46 年 1 月～現在に至る	日本建築学会会員
昭和 48 年 2 月～現在に至る	空気調和・衛生工学会会員
平成 8 年 4 月～現在に至る	（財）日本建築設備・昇降機センター建築設備検査資格者講習運営委員会委員長
平成 11 年 7 月～現在に至る	（財）ベターリビング優良住宅部品認定基準及び評価基準検討委員会委員長
平成 13 年 4 月～平成 18 年 3 月	最高裁判所民事調停委員（2004 年 4 月からは専門委員に名称変更）
平成 13 年 4 月～平成 15 年 4 月	経済産業大臣総合資源エネルギー調査会臨時委員
平成 14 年 4 月～平成 17 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究（B）（２） 12,600 千円 （通風を促進する開口部の開発と涼風環境の評価に関する研究）（研究代表者）
平成 14 年 6 月～現在に至る	住宅金融公庫総裁住宅金融公庫技術審査会委員
平成 14 年 6 月～現在に至る	（社）建設設備技術者協会理事
平成 14 年 10 月～現在に至る	国土交通大臣技術検定委員（管工事施工管理）
平成 14 年 11 月～現在に至る	国土交通大臣中央建設工事紛争審査会特別委員
平成 16 年 5 月～平成 18 年 4 月	空気調和・衛生工学会副会長
平成 17 年 4 月～平成 20 年 3 月	（国内共同研究）科研費による共同研究（課題番号：17360228）「住宅用衛生機器の節水効果に関する総合評価手法の開発研究」（1,150 千円）
平成 17 年 4 月～平成 18 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究（B） 1,040 千円 （密集市街地に建つ住宅における通風有効利用手法の提案）（研究代表者）
平成 18 年 5 月～平成 20 年 5 月	空気調和・衛生工学会会長
平成 19 年 9 月～現在に至る	(財) 建築技術教育普及センター国家資格「設備設計一級建築士」講習運営委員会委員長
平成 20 年 1 月～平成 20 年 4 月	(財) ガス石油機器工業会ＪＩＳ Ｓ ２０７１原案作成委員会委員長
平成 20 年 4 月～現在に至る	(財) 建築技術教育普及センター国家資格「建築設備士」試験委員会委員長

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部建築学科	職名 教授	氏名 島崎　和司	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
web を利用した教材提示と意見集約	平成 13 年 4 月 1 日 ～現在に至る	授業の教材を電子化し授業でパソコンを用いてビジュアルな授業を行うと共に、電子化した教材を web 上で公開し、復習できるようにした。また授業への質問や感想を書きこむ web 掲示板を授業毎に用意し、リアルタイムでの授業改善手法を試行した。
学部・大学院を通じた「大型実験装置」を利用した初級構造技術者養成教育プログラムとその実践	平成 13 年 4 月 1 日 ～現在に至る	実際の建物に適用される技術としての損傷低減型構造や低環境負荷型構造の構築をめざした統一的なテーマの基に、「大型実験装置」を用いた実験的研究を中心とした教育プログラムを、プロトタイプ構造物の設計から結果の評価にいたるフローで進めて、教育効果を高めるための工夫をし、構造技術者の実務と関連させた初級構造技術者養成教育プログラムとして作り上げ、実践している。
学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 19 年 9 月 1 日 ～現在に至る	鉄筋コンクリート構造の授業において、２００６年度後期の学生による授業評価アンケートで、授業の進め方や理解度に対する評価が低い。これは、建築構造の力学的挙動を理解するに当たって、基本ができていないことと、それを学生が自覚できていないことに起因していると思われる。2007 年度は 2006 度に比べ、さらに基礎に重きを置き、２００８年度は毎週の学習目標をはっきりさせて、予習につながるような宿題等を与え、また、授業の最後で、要点をまとめて復習に役立てるように改善した。
2　作成した教科書、教材		
鉄筋コンクリート構造の設計　学びやすい構造設計	平成 14 年 1 月	日本建築学会関東支部
建築構造力学 I	平成 15 年 11 月	学芸出版
建築構造設計	平成 16 年 2 月	文部科学省検定高等学校工業科教科書、実教出版
基礎シリーズ 最新建築構造設計入門　－力学から設計まで－	平成 16 年 4 月	実教出版
建築構造力学 II	平成 17 年 11 月	学芸出版
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
工学部優秀講義賞	平成 19 年 3 月	
4　実務の経験を有する者についての特記事項		

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
		なし
5　その他 教育委員として2006年カリの取り組み、FYS実施への取り組み、JABEE認定へ向けての取り組み 拡大教育委員として、教育委員としての業務の継続	 平成15年4月1日 ～平成17年3月31日 平成17年4月1日 ～平成19年3月31日	 2006年カリの取りまとめ工学部FYS案の作成（WG主査) JABEEの実施詳細の取りまとめ 工学部FYS案の作成

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
建築構造力学 I	共著	平成 15 年 11 月	学芸出版社	坂田　弘安、島崎和司	
建築構造設計指導資料	共著	平成 16 年 2 月	実教出版		
建築構造設計（文部科学省検定工業高校教科書)	共著	平成 16 年 2 月	実教出版	和田章	
最新建築構造設計入門	共著	平成 16 年 4 月	実教出版	和田章	
建築構造力学 II	共著	平成 17 年 11 月	学芸出版社	坂田　弘安、島崎和司	
論文					
CFT 柱－フラットプレート接合部の水平力―変形関係	共著	平成 17 年 4 月	日本建築学会構造系論文集（590）	佐藤宏貴、島崎和司	145-152 頁
損傷制御型デボンドX型配筋梁の開発	共著	平成 17 年 7 月	地震・台風災害の制御低減研究成果報告書		15-26 頁
RC 系構造物の損傷制御型構造設計法	単著	平成 17 年 7 月	地震・台風災害の制御低減研究成果報告書		81-92 頁
平面形状の大きな免震建物の地震時の捩れ振動を伴う挙動に関する研究	共著	平成 17 年 12 月	神奈川大学工学研究所所報	島崎和司、荏本孝久、大熊武司	59-68 頁
高耐力短スパン RC 梁に関する実験的研究	共著	平成 18 年 3 月	構造工学論文集、日本建築学会 Vol.52B	島崎和司，熊谷仁志，北村佳久	285-290 頁
平面形状の大きな免震建物の地震時の捩れ振動を伴う挙動	単著	平成 18 年 6 月	日本建築学会技術報告集（23）		77-82 頁
アンボンド X 型配筋 RC 梁の損傷評価	単著	平成 18 年 6 月	日本建築学会構造系論文集（604）		119-126 頁
低損傷アンボンド X 型配筋 RC 梁の開発	単著	平成 18 年 12 月	日本建築学会構造系論文集（610）		139-144 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
CFT 柱―フラットプレート接合部の鉛直耐力に関する実験的研究	共著	平成 19 年 4 月	日本建築学会構造系論文集（614）	山口卓巳，島崎和司，佐藤宏貴	163-170 頁
許容せん断耐力を指標としたせん断クラック幅の評価	単著	平成 21 年 2 月	日本建築学会技術報告集 No.29		
ＲＣ造柱の地震後の残存軸耐力に関する研究	単著	平成 21 年 3 月	日本建築学会構造系論文集 No.637		537-542 頁
その他					
鉄筋コンクリート構造の研究と教育	単著	平成 15 年	神奈川大学工学部報告、No.41		31-36 頁
袖壁付き鉄筋コンクリート柱の力学的挙動に関する研究	共著	平成 15 年 6 月	応用セラミックス研究所共同利用研究報告書、Vol.2003		95-96 頁
Strong ground motion drift estimation for R/C structures using the response spectrum	単著	平成 15 年 8 月	Response of Structures to Extreme Loading,CD-ROM, Tronto		
損傷低減を目的としたエネルギー吸収型Ｘ型配筋 RC 梁の開発　その 4　軸伸び防止と補修性の検討	共著	平成 15 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集、CD-ROM,No.23057		
RC 柱の損傷過程に材料強度及び断面形状が及ぼす影響	単著	平成 15 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集、CD-ROM、No.23065		
乾燥収縮により初期変形を受けた免震建物の耐震性能の評価、積層ゴム、鋼棒ダンパー、鉛ダンパーの組み合わせ	単著	平成 15 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集、CD-ROM、No.21232		
CFT 柱-フラットプレート接合部の耐荷性能に関する実験的研究	単著	平成 15 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集、CD-ROM、No.22599		
損傷低減を目的としたエネルギー吸収型Ｘ型配筋 RC 梁の開発　その 5　芯鉄筋のアンボンド化	共著	平成 16 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集、C-2		239-240 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
CFT 柱-フラットプレート接合部の耐荷性能に関する実験的研究　その 3　復元力特性の検討	共著	平成 16 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集、C-1		1131-1132 頁
CFT 柱-フラットプレート接合部の耐荷性能に関する実験的研究　その 2　パンチングシアー耐力の検討	共著	平成 16 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集、C-1		1129-1130 頁
De-bonded diagonally reinforced beam for good repairability	単著	平成 16 年 8 月	13th World Conference on Earthquake Engineering		3173 頁
Experimental research on load resistance performance of CFT column/flat plate connection	共著	平成 16 年 8 月	13th World Conference on Earthquake Engineering,		976 頁
Damage Level Evaluation of Existing R/C Buildings under an Earthquake	単著	平成 17 年 9 月	IABSE Symposium on STRUCTURES AND EXTREME EVENTS		Paper 211 頁
高耐力短スパン RC 梁に関する実験的研究　その 2　実験結果の検討	共著	平成 17 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集、C-2		55-56 頁
高耐力短スパン RC 梁に関する実験的研究　その 1　実験計画および実験結果概要	共著	平成 17 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集、C-2		53-54 頁
CFT 柱-フラットプレート接合部の耐荷性能に関する実験的研究　その 6 耐荷機構と復元力特性の検討	共著	平成 17 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集、C-1		1171-1172 頁
CFT 柱-フラットプレート接合部の耐荷性能に関する実験的研究　その 5 T 型接合部の復元力特性の実験的研究	共著	平成 17 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集、C-1		1169-1170 頁
CFT 柱-フラットプレート接合部の耐荷性能に関する実験的研究　その 4 パンチングシアー耐力の検討	共著	平成 17 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集、C-1		1167-1168 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
免震構造物における乾燥収縮の実測と耐震性能に与える影響について　その3 基礎梁変形量の実測と計算値の比較	共著	平成 17 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集、B-2		867-868 頁
神奈川大学横浜キャンパス再開発	共著	平成 17 年 12 月	建築防災、日本建築防災協会		23-27 頁
RC 造柱の地震後の残存軸耐力に関する研究	共著	平成 18 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集、C-2		655-656 頁
枠付き鉄骨ブレースと既存躯体の接合部に関する実験的研究	共著	平成 18 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集、C-2		579-580 頁
損傷低減を目的としたエネルギー吸収型 X 型配筋 RC 梁の開発　その 7　デボンド処理方法による性能の相異	共著	平成 18 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集、C-2		271-272 頁
デボンド X 型配筋を用いた損傷低減型耐震壁の実験的研究	単著	平成 18 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集、C-2		175-176 頁
CFT 柱-フラットプレート接合部の耐荷性能に関する実験的研究　その 8 T 型接合部の復元力特性の検討	共著	平成 18 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集、C-1		1091-1192 頁
CFT 柱-フラットプレート接合部の耐荷性能に関する実験的研究　その 7 パンチングシアー耐力の検討	共著	平成 18 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集、C-1		1089-1190 頁
平面形状の大きな免震建物の地震時の捩れ振動を伴う挙動	共著	平成 18 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集、B-2		587-588 頁
PC 構造研究の現状、新 PC 規準へ向けての活動およびプレストレス技術を有効利用した建物例	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会大会構造部門（PC 構造）パネルディスカッション資料	丸田誠, 福井剛, 内山執樹, 二村有則, 島崎和司, 真田靖士	pp. 47-71 頁
ハーフ SC 構造部材の鋼板継手合理化に関する研究　その 3　鋼板継手の性能	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-1	熊谷仁志、下戸芳寛、豊田哲也、島崎和司	pp.1255-1256 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
ハーフ SC 構造部材の鋼板継手合理化に関する研究　その２　荷重?変形関係および破壊性状	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-1	豊田哲也、下戸芳寛、熊谷仁志、島崎和司	pp.1253-1254 頁
ハーフ SC 構造部材の鋼板継手合理化に関する研究　その１　継手工法および実験の概要	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-1	下戸芳寛、豊田哲也、熊谷仁志、島崎和司	pp.1251-1252 頁
コア壁を用いた超高層 RC 住宅の開発　その 4　31 階建物の耐震設計	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-2	松尾英典、島崎和司、清水秀哲、片山喜隆	pp.721-722 頁
コア壁を用いた超高層 RC 住宅の開発　その３　コア壁の要素実験	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-2	薬研地彰、島崎和司、大井裕、芝譲	pp.719-720 頁
コア壁を用いた超高層 RC 住宅の開発　その２　実験結果の解析検討	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-2	松浦恒久、島崎和司、西原寛、藤本利昭	pp.717-718 頁
コア壁を用いた超高層 RC 住宅の開発　その１　コア壁の曲げせん断実験	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-2	松本智夫、根本恒、飯田剛、島崎和司	pp.715-716 頁
X 型配筋間柱タイプ制震装置の研究　軸伸びを考慮した実験的検討	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-2	二宮誠司、五十嵐泉、島崎和司	pp.313-314 頁
コア壁-フラットプレート接合部に関する実験的研究　捩り耐力と挙動の検討	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-2	村山彰宏、山口卓巳、五十嵐泉、島崎和司	pp.175-176 頁
CFT 柱-フラットプレート接合部の耐荷性能に関する実験的研究　その１０　偏心加力によるパンチングシアー耐力の検討	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-1	佐藤宏貴、山口卓巳、島崎和司、五十嵐泉	pp.1199-1200 頁
CFT 柱-フラットプレート接合部の耐荷性能に関する実験的研究　その９　パンチングシアー耐力の検討	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-1	山口卓巳、島崎和司、五十嵐泉	pp.1197-1198 頁
RC 造柱の地震後の残存軸耐力に関する研究　その 3　丸鋼主筋による影響	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-2	五十嵐泉、岩松、島崎和司	pp.315-316 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
RC 造柱の地震後の残存軸耐力に関する研究　その 2 繰り返し載荷とせん断スパン比の影響	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 B-2	岩松、五十嵐泉、島崎和司	pp.313-314 頁
デボンドX型配筋を用いた損傷低減型耐震壁の実験的研究　その 3　分割型耐震壁の実験的検討	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-2	平田寛治、島崎和司	pp.725-726 頁
デボンド X 型配筋を用いた損傷低減型耐震壁の実験的研究　その 2　直交壁の影響について	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集、C-2	島崎和司、平田寛治	pp.723-724 頁
低降伏点鋼を用いた境界梁ダンパーの研究　その 4 耐力・変形性状	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-1	熊谷仁志、神野靖夫、戸沢正美、刑部章、徳田浩、島崎和司	1229-1230 頁
低降伏点鋼を用いた境界梁ダンパーの研究　その 3 PCa 化と根巻部長さに関する検討	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-1	栗田翔、神野靖夫、淵本正樹、戸沢正美、刑部章、島崎和司	1227-1228 頁
X 型配筋間柱タイプ制震装置の研究　損傷部補修後の性能評価	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-2	佐藤宏貴、二宮誠司、五十嵐泉、島崎和司	839-840 頁
デボンド異形鉄筋を用いたブレース型制振部材に関する研究　その 2 ブレース実験による性能評価	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-2	二宮誠司、五十嵐泉、島崎和司	837-838 頁
デボンド異形鉄筋を用いたブレース型制振部材に関する研究　その 1 要素実験によるデボンド処理方法の評価	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-2	五十嵐泉、二宮誠司、島崎和司	835-836 頁
：コア壁－フラットプレート接合部に関する実験的研究 －その 2 偏心加力時の耐力－	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-2	村山彰宏、五十嵐泉、島崎和司	627-628 頁
デボンド X 型配筋を用いた損傷低減型耐震壁の実験的研究　その 4 境界梁の影響について	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-2	平田寛治、島崎和司、五十嵐泉	359-360 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
RC 造柱の地震後の残存軸耐力に関する研究　その 5 せん断破壊曲面の検証	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-2	岩松、五十嵐泉、島崎和司	119-120 頁
RC 造柱の地震後の残存軸耐力に関する研究　その 4 せん断破壊曲面の評価、日本建築学会大会学術講演梗概集	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-2	島崎和司、岩松	117-118 頁
せん断クラック幅を対象とした損傷評価　せん断力を指標とした残留ひび割れ幅の推定	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 C-2	山根英揮、島崎和司	115-116 頁
An Experimental Study on Vertical Load Resistance of CFT Column-Flat Plate Joints, 14th World Conference on Earthquake Engineering	共著	平成 20 年 10 月	14th World Conference on Earthquake Engineering, Beijing, China,Paper ID 05-06-0022	T. Yamaguchi, K. Shimazaki, H. Satoh	
Reinforced Concrete Shear Walls with De-Bonded Diagonal Reinforcements for the Damage-Less Reinforced Concrete Building	単著	平成 20 年 10 月	14th World Conference on Earthquake Engineering, Beijing, China, Paper ID 05-03-0017		

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 52 年 4 月～現在に至る	（社）日本建築学会会員
平成元年 5 月～現在に至る	アメリカコンクリート工学協会会員
平成 2 年 3 月～現在に至る	日本コンクリート工学協会会員
平成 12 年～現在に至る	（受託研究）学術フロンティア、科研費「損傷制御型鉄筋コンクリート構造の研究」
平成 12 年 4 月～平成 17 年 3 月	学術フロンテイア 6,000 千円 （地震・台風災害の制御・低減に関する研究）（研究分担者）
平成 12 年 5 月～現在に至る	日本建築学会ＰＣ耐震設計小委員会委員
平成 13 年 4 月～現在に至る	日本地震工学会会員
平成 13 年 4 月～現在に至る	横浜市公共建築物耐震工法検討委員会委員
平成 14 年 3 月～現在に至る	建築研究開発コンソーシアム会員
平成 14 年 4 月～現在に至る	EERI（Earthquake Engineering Research Institute）会員
平成 14 年 10 月～現在に至る	(株) ビューローベリタスジャパン　60m 以下の建築物の構造審査委員会審査委員
平成 15 年 4 月～平成 18 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究（C）（２） 3,700 千円 （ハイブリッド構造における小鉄骨を内蔵したフラットプレートー CFT 柱接合部の研究）（研究代表者）
平成 15 年 7 月～現在に至る	日本免震構造協会会員
平成 15 年 12 月～現在に至る	(社) 神奈川県建築士事務所協会　建築物耐震改修評価特別委員会委員
平成 16 年 6 月～平成 18 年 5 月	日本コンクリート工学協会関東支部役員
平成 17 年 1 月～平成 17 年 3 月	（受託研究）清水建設株式会社「高耐力短スパン RC 梁に関する実験的研究」
平成 17 年 4 月～平成 21 年 3 月	文部科学省（学術フロンティア） 1,850 千円 （災害リスク軽減を目的としたソフト・ハード融合型リスクマネジメントシステムの構築に関する研究）（研究分担者）
平成 17 年 5 月～平成 18 年 3 月	（受託研究）ハザマ「枠付き鉄骨ブレース接合部の性能実験」
平成 18 年 4 月～平成 21 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究（B）（一般） 8,300 千円 （損傷制御型コア壁構造システムの研究）（研究代表者）
平成 18 年 8 月～現在に至る	（社) 免震構造協会構造性能評価委員会委員、評定委員会委員
平成 18 年 8 月～現在に至る	日本建築学会 RC 規準改定小委員会柱・梁 WG 委員

年月	内　　容
平成 18 年 8 月～平成 19 年 3 月	（受託研究）清水建設「鋼板コンクリート梁の曲げ実験」
平成 18 年 8 月～平成 19 年 3 月	（受託研究）安藤建設、間組「コア壁の要素試験」
平成 19 年 6 月～平成 20 年 3 月	（受託研究）清水建設「低降伏点鋼を用いた境界梁ダンパーの研究」
平成 19 年 9 月～現在に至る	（株）ビューローベリタスジャパン　構造性能評価委員会、構造計算適合判定機関専門家委員会委員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部建築学科	職名 教授	氏名 曽我部　昌史	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
具体的なプロジェクトを通した実践的教育	平成 18 年 4 月 1 日	（授業科目：卒研輪講）　前期において、卒研輪講を設計教育の最終段階として位置づけ、実施レベルを含んだ設計やアートプロジェクトへの参加を通した、具体的な建築への関わりを修得するべく指導を行っている。机上のみでは理解が難しい、幅広い知見を身につけることに役立っており、後期以降の具体的な卒業設計のプロセスにおいても大きな効果が確認できている。
論考の組み立て方の指導を兼ねたレポート	平成 18 年 4 月 1 日	（授業科目：都市デザイン論）　授業のテーマに即した小レポートを課す際、小論文の形式となるよう論の組み立て方の解説をしている。学生自身の論を組み立てることを習慣とし、理解を深める試みである。
学外での建築作品の見学など	平成 18 年 4 月 1 日	（授業科目：卒研輪講および建築デザイン輪講２）　建築設計者同士のネットワークをいかし、建築現場や竣工したばかりの建築作品の見学などを数多く計画している。見学後に行うディスカッションなどを通し、設計と空間そのものの関係をつなぐ視点の獲得に効果を得ている。
全学生同時の指導とグループ毎の指導を組み合せた授業運営	平成 18 年 4 月 1 日	（授業科目：建築デザイン３）　非常勤講師を含む全５人の教師陣によるスタジオ型（学生をグループに分ける設計教育スタイル）の体制で、個人との距離の近い教育を前提としている。同時に、毎回の授業のはじめに、全教員が数名の代表学生を指導することで、問題意識の共有を効率的、効果的に行っている。
実務的視点を組み込んだ設計教育	平成 19 年 4 月 1 日 ～平成 19 年 7 月 1 日	（授業科目：建築デザイン輪講１）　実際につくることを前提とした小規模な課題を通して、各部の納まりの考え方やコスト的な視点での判断などについて体験的な学習の場を用意した。一定の効果が確認されたものの、一部の教員に負担が集中することや、カリキュラム全体での学生全体の負担を配慮し、それぞれの設計課題の指導に織り込むこととした。
二段階方式によるキメ細かい卒業設計の最終審査	平成 20 年 4 月 1 日	（授業科目：卒業設計）　デザインコースの卒業研究のうち、建築の設計についての最終審査を２段階とした。ポスターセッション方式の卒業設計審査会で、全作品を教員、学生ともども把握し、その中から３分の１程度の作品を選定し、優秀作品発表会を行った。日程的には少々負担が増えるものの、効果の大きさが確認されている。
学生同士の共同によるディスカッション能力の涵養とプレゼンテーション技術の習得	平成 20 年 4 月 1 日	（授業科目：建築デザイン輪講２）　共通テーマを元にしたリサーチとそのプレゼンテーションを課している。修士の学生とのペアで行うことで、学生自身の関心をきっかけに視点を深めることになり、また、パワーポイントを用いたプレゼンテーションなど、丁寧でレベルの高い教育効果を上げている。

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
2　作成した教科書、教材		
建築をめぐる社会的な問題の共有を助ける書籍	平成 13 年 ～平成 20 年	「団地再生計画」（平成 13 年。INAX 出版）、「ポストオフィス」（平成 19 年。TOTO 出版）、「商店街再生計画」（平成 20 年。洋泉社）など、建築をめぐる今日的社会状況に関するリサーチをまとめた書籍を複数刊行した（すべて共著）。現在でも、学生の指導のなかで、、建築を構想する意識の再認識の場面等で活用している。
建築作品映像の作成	平成 18 年 4 月 1 日	建築の理解を深めるには、視覚情報が非常に有効である。紙媒体の資料だけでなく、映像資料（動画を含む）を授業の教材用にまとめ直して利用している。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
2006 年授業評価アンケート結果（造形デザイン A）	平成 18 年	全体に平均的な評価である。特徴的な点として、ほとんどの学生が「意欲的に取り組んだ」という自覚をもち、「授業に興味・関心が持てた」ことが特に際立った傾向を示していることが判った。
2006 年授業評価アンケート結果（都市デザイン論）	平成 18 年	「授業に興味・関心が持てた」「話し方は明確でひきつけた」「板書などはわかりやすかった」「熱意を感じた」などが、平均よりも際立って高い評価となっている。「総合的に満足」を得ていることも判る。一方「難易レベル」的にはそれほど高い難易度であるとは意識されていないことがわかり、次年度以降の調整のきっかけとなっている。
2007 年授業評価アンケート結果（FYS）	平成 19 年	全学共通で進められる科目であるが、大半の部分を建築の話題を軸に個人的に改変して授業を行った。その効果か、アンケート結果でも学生が大きな関心をもって関わったことが伺える。一方、個別に書かれた意見の中には、建築の話題を中心としていたためか、他学科との混成であることへの戸惑いも見られた。
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
建築設計実務に関わる視点での助言	平成 18 年 4 月 1 日	神奈川大学に就任して以来、学生が、あるいは卒業生が具体的な建物の機会を得た場合等に、建築の実務に関わる様々な水準での助言を行っている。大学のカリキュラムと直接の関係を持つものではない場合も少なくないが、他の学生にとっても、実務的な思考に触れられる貴重な体験となっている。
5　その他		
工学部「教育委員会」委員としての活動	平成 19 年 4 月 1 日	建築学科を代表する教育委員として、工学部の教育方針の審議等に関わってきた。
建築学科「教育改善検討委員会」委員としての活動	平成 19 年 4 月 1 日	建築学科内で構成する「教育改善検討委員会」の委員として、学科の教育運営について議論・検討を行ってきた。

II　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
先端芸術宣言！	共著	平成 15 年 6 月	岩波書店		
サクセスフルエイジング読本 5「しあわせなデザイン」	共著	平成 16 年 4 月	求龍堂		
家のきおく	共著	平成 16 年 12 月	インデックス・コミュニケーションズ		
POST OFFICE -ワークスペース改造計画-	共著	平成 18 年 2 月	TOTO 出版		
卒業設計で考えたこと。そしていま　2		平成 18 年 6 月	彰国社		
日常を変える！クリエイティヴ・アクション		平成 18 年 7 月	フィルムアート社		
旅。建築の歩き方		平成 18 年 12 月	彰国社		
別冊みかんぐみ 2	共著	平成 19 年 1 月	エクスナレッジ		
POST OFFICE 台湾版	共著	平成 19 年 4 月	TOTO 出版		
住宅のディティール		平成 19 年 10 月	日経アーキテクチャー		
今活躍中の同級生		平成 19 年 10 月	KURAMAE　JOURNAL １００３号		
今読み返したい５冊		平成 19 年 10 月	MAC POWER １０月号		
デザインで選ぶ住まいの設備		平成 19 年 11 月	エイ出版社		
YEAR BOOK 2007		平成 19 年 11 月	JA（新建築社)		
中国建築を笑っている場合ではない		平成 19 年 11 月	imidas 時事&トレンド		
オール電化住宅最前線ー曽我部邸		平成 19 年 11 月	住まいと電化		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
ARTWORKS		平成19年11月	SPACE CRAFT		
ふたりで巡る建築散歩		平成19年11月	TOKYO　METRO NEWS		
建築家ダイアリー		平成19年11月	建築ジャーナル２００７年１１月号		
都市をつくる建築（対談）		平成19年11月	建築雑誌２００７年１１月号		
建築家の仕事・デザインガイドブック	共著	平成19年11月	REAL DESIGN		
建築みやげ		平成20年1月	建築雑誌		
NHK長野放送会館		平成20年2月	JAPANESE ARCHI-TECTURE（韓国）		
住宅特集ー曽我部邸		平成20年2月	Casa BRUTUS		
拡張可能な防災拠点システム		平成20年2月	新建築（新建築社）２００８年2月号		
多様な活動、フラットな関係、共働のありかた		平成20年6月	JIA Bulletin		
伊那東小学校	共著	平成20年6月	春秋２００８年6月号		
菊地宏の建築	共著	平成20年9月	BankART1929		
壁をデザインする「海の家08」		平成20年9月	商店建築		
淺井裕介の成長する絵＝壁		平成20年9月	DETAIL JAPAN		
建築家は住宅で何を考えているのか	共著	平成20年9月	PHP出版		
ハウジング・フィジックス・デザイン・スタディーズ	共著	平成20年9月	INAX出版		
海の家08		平成20年10月	建築ノートEXTRA		
心斎橋なにわビル		平成20年10月	商店建築		
トヨタの秘密「トヨタグループパビリオン」		平成20年10月	ATLAS		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
座談会：建築とアートをきっかけとした黄金町の街づくり		平成 20 年 11 月	新建築		
京急高架下文化芸術スタジオ・黄金スタジオ		平成 20 年 11 月	新建築		
京急高架下文化芸術スタジオ・黄金スタジオ		平成 20 年 12 月	新建築社　JA 建築年鑑 2008		
京急高架下文化芸術スタジオ・黄金スタジオ		平成 20 年 12 月	SD（鹿島出版会）		
商店街再生計画ー大学とのコラボでよみがえれ!	共著	平成 20 年 12 月	洋泉社		
大型店撤退「大学と商店街で広がる連携」		平成 20 年 12 月	朝日新聞		
再読・伊藤ていじ「動物的な人間・知性を持った人間」		平成 21 年 1 月	INAX REPORT		
東日本建築集「みかんぐみ」		平成 21 年 1 月	建築ジャーナル		
学校施設は公共の原点		平成 21 年 1 月	季刊・文教施設		
新日本様式の挑戦-再生するジャパン・ブランド	共著	平成 21 年 1 月	角川学芸出版		
フランス大使公邸改修		平成 21 年 2 月	新建築社　新建築		
対談「アートプロジェクトが引き出す団地の風景」		平成 21 年 2 月	新建築社　住宅特集		
2009 年話題になる建築		平成 21 年 2 月	日経アーキテクチュア		
住まいに関するこの一冊ー『デザインの鍵』		平成 21 年 3 月	辰巳出版　もくたろ		
論文					
その他					
東京デザイナーズブロック 2003		平成 15 年	表参道のショップ		
東京デザイナーズウィーク 2003		平成 15 年	カラヤン広場／六本木		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
越後妻有アートトリエンナーレ展		平成 15 年	十日町市街地内全域		
心の在処展		平成 15 年	ルードヴィッヒ美術館／ブダペストほか		
Carrefour de la creation 展		平成 15 年	ポンピドーセンター／パリ		
団地再生計画について	共著	平成 15 年 4 月	リノベーションスタディーズ（inax 出版）		
キャンチレバーの家	共著	平成 15 年 4 月	IW magazine		
北京建外 SOHO	共著	平成 15 年 4 月	JA（新建築社）		
時代が求める新しい価値観	共著	平成 15 年 5 月	ブレーン（宣伝会議）		
先端芸術表現科／曽我部研究室	単著	平成 15 年 6 月	新建築（新建築社）		
新しいアイデア	単著	平成 15 年 7 月	レコレコ（メタローグ）		
この先の建築	共著	平成 15 年 7 月	この先の建築（TOTO 出版）		
近藤康夫のデザイン	共著	平成 15 年 8 月	近藤康夫 AB（六耀社）		
ビルディングタイプ以降の建築	単著	平成 15 年 8 月	ＪＡ（新建築社）		
U35 のポテンシャル	共著	平成 15 年 8 月	建築文化（彰国社）		
蘇公塔／トルファン	単著	平成 15 年 9 月	inax　report（inax 出版）		
集合住宅は変わるか	共著	平成 15 年 9 月	新建築（新建築社）		
キネティック社オフィス改修	共著	平成 15 年 9 月	東京リノベーション（SSC）		
美しが丘の家	共著	平成 15 年 9 月	LIVINGdesign（OZONE）		
東京モーターショートヨタブース案	共著	平成 15 年 11 月	BRUTUS（マガジンハウス）		
高橋てい一的思考の形	単著	平成 15 年 12 月	TOTO WEB マガジン		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
東京モーターショー	単著	平成 15 年 12 月	AXIS		
建築家に何が可能か	共著	平成 15 年 12 月	建築家（日本建築家協会）		
Modern Style in Asia 展		平成 16 年	北京東京芸術工程／北京ほか		
ミラノサローネ		平成 16 年	ミラノ市内各所		
東京デザイナーズブロック 2004		平成 16 年	仮設会場／青山		
45 歳以下の建築家 45 人展		平成 16 年	埼玉県立美術館		
New Architecture from Japanese and Poland 展		平成 16 年	日本美術技術センター／クラコフ		
六本木クロッシング展		平成 16 年	森美術館／六本木		
FUSION:日本の現代美術展		平成 16 年	イスラエル美術館／エルサレム		
青い影	単著	平成 16 年 2 月	CasaBRUTUS（マガジンハウス）		
仙台市西中田団地改修計画	共著	平成 16 年 3 月	BRUTUS（マガジンハウス）		
ゆるい完成度の建築	単著	平成 16 年 4 月	建築文化（彰国社）		
上原の家	共著	平成 16 年 4 月	住宅特集（新建築社）		
団地再生を通して見えてくる建築再生の現在	単著	平成 16 年 6 月	CEL（エネルギー文化研究所）		
みかんぐみの建築	共著	平成 16 年 8 月	新版・建築学がわかる（アエラムック）		
建築計画の専門家とコラボレートすることの目的	単著	平成 16 年 8 月	建築学会		
人間拡張の原理・21 世紀バージョン	単著	平成 16 年 8 月	建築学会		
トヨタグループパビリオン	共著	平成 16 年 9 月	新建築（新建築社）		
上海海泰 SOHO	共著	平成 16 年 10 月	建築文化（彰国社）		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
書評「木を植えた人」	単著	平成 16 年 11 月	AXIS		
西荻のマンション改修	共著	平成 16 年 11 月	モダンリビング (婦人画報社)		
発表するデザインと誰かにあてるためのデザイン	共著	平成 16 年 12 月	新建築（新建築社）		
参加のデザイン	単著	平成 16 年 12 月	建築ジャーナル		
35 歳以下の建築家	単著	平成 16 年 12 月	日経アーキテクチュア（日経 BP）		
四季の桜 (建築作品)	共著	平成 16 年 12 月	新建築 (新建築社)		
食と現代美術展		平成 17 年	バンクアート 1929 ／馬車道		
教育へのヴィジョン展		平成 17 年	ベネッセスクエア／岡山		
椅子のデザイン展		平成 17 年	埼玉県立美術館		
どらかみかんかぐ	共著	平成 17 年 1 月	ぼくどらえもん (小学館)		
八雲のコートハウス	共著	平成 17 年 1 月	美しい部屋 (主婦と生活社)		
佐久の家	共著	平成 17 年 1 月	住宅特集 (新建築社)		
阿部仁史建築の謎	単著	平成 17 年 3 月	阿部仁史　フリッカー（TOTO 出版）		
それぞれの読書（団地映画）	共著	平成 17 年 3 月	10+1（INAX 出版）		
みかんぐみの席の座り方	単著	平成 17 年 3 月	プロジェクトブック（彰国社）		
愛地球博／フランスパビリオン	共著	平成 17 年 3 月	(新建築掲載予定)		
マナイタハウスほか	共著	平成 17 年 3 月	東京新聞 (新築掲載予定)		
玉川台の家（玉川台２丁目プロジェクト A 棟）	共著	平成 18 年 2 月	新建築２００６年２月号		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
横浜の保育園	共著	平成 18 年 10 月	日経 BP 社　日経アーキテクチュア		
BankART 妻有	共著	平成 18 年 10 月	新建築社　住宅特集２００６年１０月号		
social design cafe SOBORO	共著	平成 18 年 10 月	商店建築５２号		
鎌倉の納骨堂	共著	平成 18 年 10 月	新建築２００６年１０月号		
笹塚の集合住宅	共著	平成 19 年 2 月	新建築社　新建築２００７年2月号		
上野ビルディング	共著	平成 19 年 3 月	建築技術２００７年３月号		
海の家 PARADAISE-AO	共著	平成 19 年 6 月	新建築社　新建築２００７年6月号		
伊那東小学校	共著	平成 20 年			

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
平成 11 年 11 月～平成 17 年 3 月	くまもとアートポリス東京事務局委員委員
平成 14 年 4 月～現在に至る	日本建築家協会（JIA）雑誌「建築家」編集委員委員
平成 15 年 6 月～現在に至る	くまもとアートポリスアドバイザーアドバイザー
平成 16 年 4 月～現在に至る	日本文化デザインフォーラム会員
平成 16 年 4 月～現在に至る	日本文化デザインフォーラム委員委員
平成 17 年 4 月～現在に至る	日本文化デザインフォーラム幹事
平成 17 年 4 月～現在に至る	日本文化デザインフォーラム幹事
平成 18 年 4 月～現在に至る	新日本様式協議会会員
平成 18 年 4 月～現在に至る	新日本様式協議会評議会委員
平成 19 年 4 月～現在に至る	BankART1929 外部企画委員
平成 20 年 4 月～現在に至る	（国内共同研究）日本工業大学小川研究室「八潮市街並みづくり景観研究」

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部建築学科	職名 教授	氏名 寺尾　道仁	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
建築 CAD 演習環境の構築・運用管理	平成 11 年 9 月 ～平成 20 年 11 月 1 日	建築教育におけるコンピュータ利用教育、コンピュータ活用設計、コンピュータ活用プレゼンテーションの重要性が高まり、200 名規模の 3D-CAD 実習環境が必要になった。これに対応するため高水準 CAD アプリケーション FormZ（163 本）を導入し、そのためのサーバクライアント環境を実現した。その後もバージョンアップ対応などの運用にたずさわっている。（平成 11 年 9 月～）
卒業研究の中間報告とその審査の導入	平成 16 年 7 月 15 日	卒業研究の中間報告について、当該年度の卒業研究の中間報告について各研究室に掲示を行い、卒業研究の研究課題と進捗状況を提出することとした。審査結果により、著しく進捗の遅い者について夏休み明けに再提出とする。中間報告の提出がないものについては、指導教員が個別に対応し、例えば退学を視野に入れた進路変更を考えている場合には、退学を思いとどまった際にも対応できるように再提出扱いとするなども十分に配慮する。
学科内研究授業のための授業公開	平成 16 年 11 月 26 日	担当授業「建築の設備」の授業状況を建築学科教員に公開し、授業方法に関する評価を受けた。学生が理解できているかどうか質問等による確認が必要ではないか、などの意見を頂戴した。この点については、次回から質問用紙を配布して対応することにした。
卒業研究優秀賞および修論優秀賞の導入とその審査方法の検討	平成 19 年 2 月	2006 年度より卒研評価シートを利用して、卒業研究優秀賞を決定することとした。評価方法は、卒研梗概、発表、質疑について総合的に 100 点満点で 4 名の教員により採点を行っており、その平均点の上位者とする。さらに空衛学会の学生賞の推薦者も合議の上で決定することとした。また、大学院前期課程 2 年生について梗概集を用いて修了判定を行うが、その折に修論優秀賞を決定することとした。また、研究内容によって空衛学会篠原賞を推薦することとした。
授業の話し方に関する講習会参加	平成 20 年 2 月 27 日	NHK 研究センターエグゼクティーブアナウンサー岩井正氏による講演。神奈川大学共通教養系科目教育協議会主催講演会に参加。
Web 活用による授業支援	平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 11 月 1 日	約 170 名の受講者を対象とする前期講義科目「建築環境概論」、前期演習科目「建築環境工学 I 及び演習」、後期講義科目「建築の設備」の 3 科目について、毎回、アンケート用紙に疑問・質問・感想などを書かせてその回答を Web のホームページにアップロードすることにより個別対応を図っている。講義科目では、時々小テストを、また、「建築環境工学 I 及び演習」では毎回演習を行うが行うがその解答と解説についても詳細についてはこのホームページの上で実施している。（平成 20 年 4 月～）
2　作成した教科書、教材		

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
「建築の設備」、「建築環境概論」及び「建築環境工学 I 及び演習」の授業用 PDF ドキュメントの作成	平成 5 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 12 月 20 日	それぞれの教科書の担当部分約 100 ページ、150 ページ及び 120 ページについて、そのスキャナー画像をプラットフォームとして吹出しコメント、イラスト・写真・動画・サウンド等のファイルリンクを埋め込んだ PDF ドキュメントを作成し、毎回更新を行ってきた。授業ではアドビアクロバットプロにより提示する。パワーポイントに比較して、提示画面上で書き込みや変形ができるため、受講者の反応に対応した融通ある解説が可能になる。
設備設計の課題建築物に関する検討	平成 15 年 7 月 17 日	従来から配布してきた課題建築物に、２年次前期の設計製図 II の課題で学生自らが設計した事務所建築を採用することを提案した。用途、規模、敷地などこれまでの課題建築物に近いこと、他の科目との連携がはかれること、機械室・ダクトシャフト・パイプシャフトと建築設計との関連を学べること、など利点が多いことから、2004 年度より採用することとした。
設備設計の課題建築物に関する見直し	平成 16 年 6 月 3 日	今年度より設計製図 II で学生が作成した事務所建築を課題対象建物としたが、基準階規模が小さいため後期の空調系統を２系統にし難い、階数が小さいので達成感が乏しい、建築図の描き方が不十分などの欠陥がみられた。次年度以降について、設計製図 II の担当者、高木幹朗教授と相談したが、対応は難しいと思われる。次年度からは従前の標準図面を見直して新たに採用することとした。後期の課題建物は、後半の課題提出を見てから再度審議することとした。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
2002 年度授業評価アンケート結果（建築環境概論）	平成 14 年 7 月	「板書の使い方」の評価が低かった。私は PC プロジェクターによるプレゼンテーションを試行している。721 教室を使っているが，大教室にしてはプロジェクターの照度が低い。スクリーン付近のみ部分的に照明を落としたいがそのような調整はできない。そこでスクリーンが見えるように前半分座席の天井の照明を消している。その結果，板書がよく見えなかったものと思われるが，今回指摘されるまで全く気付かずに授業していたので大いに反省し改善したい。なお，OHP 方式や IT システム活用授業など板書の比重が低下する今後の授業形態を想定すれば，評価項目「板書の使い方」は「授業プレゼンテーション」など変更が必要になると思う。
2002 年度授業評価アンケート結果（建築環境工学 I 及び演習）	平成 14 年 7 月	「聞き取りやすい」,「準備・工夫」など,「学生の理解を深める教員の努力」に関する評価項目について厳しい評価を受けた。抽象度の高い教科内容であるため理解困難な学生は必ず出てくる。したがって,「理解度」に関する評価項目には 10%程度の学生からは厳しい評価をうけることもやむを得ないと予想していたが，平均的にも厳しい評価を受けたことは衝撃である。高校まで,「唯一の解答」が存在する問題に限定して教育されてきた学生に対して，急に「考えさせる」ことを主体とした授業を苦痛なく受止めさせることは容易でないが，大学の教育課程としては重要であるのでこの授業の改善を模索したい。
神奈川大学工学部優秀講義賞受賞	平成 20 年 3 月 3 日	優れた講義を行い神奈川大学工学部の教育への貢献
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
新版　音響用語辞典	共著	平成 15 年 6 月	コロナ社		
建築環境設備学新訂版	共著	平成 15 年 12 月	彰国社		
環境計量士国家試験問題の正解と解説	共著	平成 17 年 10 月	日本環境測定分析協会丸善		
最新建築環境工学 [改訂 3 版]	共著	平成 18 年 3 月	井上書院		263-314 頁
音響管による吸音率及びインピーダンスの測定ー第 2 部：伝達関数法（JIS A 1405-2）	共著	平成 19 年 4 月	（財）日本規格協会 JIS A 1405-2	寺尾道仁安岡正人ほか 18 名	1-34 頁
建築環境工学演習編	共著	平成 19 年 7 月	井上書院	田中俊六、武田仁、岩田利枝、土屋喬雄、寺尾道仁	
制振工学ハンドブック	共著	平成 20 年 4 月	株式会社コロナ社	長松昭男、寺尾道仁	
論文					
An In-duct method for determination of oblique incidence reflection factors	共著	平成 15 年 8 月	Proceedings of inter-noise 2003		3398-3405 頁
Experimental and numerical study of spatial coherence of surface pressure on a square sylinder for numerical aerodynamic noise prediction	共著	平成 15 年 8 月	Proceedings of inter-noise 2003		1737-1744 頁
An In-duct method to determine oblique incidence reflection factors of surfaces	共著	平成 16 年 4 月	Proceedings of ICA 2004		1995-1998 頁
A one-dimensional wave model for numerical analyses of ventilation openings with Helmholz resonator attachments	共著	平成 16 年 8 月	The 33rd international congress on noise control engineering		N380 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
部分スパン数値流体解析結果を利用した柱状物体からの空気音推定法ー推定手法の構築および実証実験ー	共著	平成 17 年 12 月	日本建築学会環境系論文集、598 号		15-22 頁
A correction method of tube attenuation in impedance-tube two-microphone-position method for absorption coefficient	共著	平成 18 年 12 月	Proceeding of inter-noise 2006in06-553	寺尾道仁、関根秀久、石井孝憲、服部康文	
Prototype test of a resistance control device for Helmholtz resonators	共著	平成 19 年 8 月	Proceedings of Inter-Noise	Michihito Terao, Hidehisa Sekine、Yasuhumi Hattori, Yuuya Sasaki	In07-142 頁
インピーダンス管を用いた材料の音響特性の計測技術	単著	平成 19 年 10 月	日本音響学会誌 63,(10)		606-611 頁
その他					
柱状物体からの空力音推定法に関する実験的検討 －受音点音圧推定値と実測値の比較－	共著	平成 15 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集，環境工学 I		27-28 頁
ダクト内進行波音圧波形の２マイクロホン実時間検出法	共著	平成 15 年 9 月	日本音響学会講演論文集		695-696 頁
ダクト網の波動音響予測 3D・CAD の開発	共著	平成 15 年 9 月	日本騒音制御工学会講演論文集		77-80 頁
ダクト網の自動 3D-CAD の開発	共著	平成 15 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集，環境工学 I		35-36 頁
共鳴器を含む換気口の一次元波動解析	共著	平成 16 年 3 月	日本音響学会講演論文集		707-708 頁
通気ダクト系向散逸型共鳴器列の開発	共著	平成 16 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集		119-120 頁
音響境界層を含むスリット型共鳴器周辺音場の数値解析	共著	平成 16 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集		121-122 頁
遮音囲いにおける吸音構造設置効果の予測－高速多重極境界要素法の適用－	共著	平成 16 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集		123-124 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
柱状物体からの空力音放射問題における全体放射音圧推定法－実験解析による加藤の式との比較－	共著	平成 16 年 9 月	日本音響学会講演論文集		883-884 頁
共鳴器オリフィスにおける粘性境界層音響散逸の分布	共著	平成 16 年 9 月	日本音響学会講演論文集		873-874 頁
通気機能付二重ガラス窓の遮音に関する数値解析	共著	平成 16 年 9 月	日本騒音制御工学会研究発表会講演論文集		209-212 頁
吸音率測定インピーダンス管の管壁音響減衰について	共著	平成 17 年 3 月	日本音響学会講演論文集		733-734 頁
換気用共鳴器列型消音器の開発	共著	平成 17 年 9 月	日本騒音制御工学会研究発表会講演論文集		73-76 頁
時間領域境界積分原理による音響解析について	共著	平成 17 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集		185-186 頁
音響管吸音率測定における管内音響減衰補正について	共著	平成 17 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集		173-174 頁
吸音率測定音響管の管内減衰補正について	共著	平成 17 年 9 月	日本音響学会 2005 年秋季研究発表会		NO2-5-6(CD-ROM) 頁
音響管二マイクロホン法吸音率測定における管内減衰の影響	共著	平成 18 年 3 月	日本音響学会講演論文集		NO2-9-9(CD-ROM) 頁
ペアガラス窓の遮音特性に関する数値解析	共著	平成 18 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集	関根秀久、寺尾道仁	55-56 頁
音響管二マイクロホン法吸音率測定における管内減衰の影響	共著	平成 18 年 9 月	日本騒音制御工学会研究発表会講演論文集	関根秀久、寺尾道仁、石井孝憲、服部泰章	133-136 頁
音響管二位置マイクロホン法インピーダンス測定における管内減衰の補正法	共著	平成 18 年 9 月	日本音響学会講演論文集		645-646 頁
共鳴器音響特性調整用抵抗可変機構の開発	共著	平成 19 年 3 月	日本音響学会講演論文集	寺尾道仁、関根秀久	815-816 頁
気流発生音源の表面変動圧測定ととの利用法について－流量調整ダンパの気流発生音－	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集	服部康章、寺尾道仁、関根秀久	165-166 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
共鳴器調整ツールによるダクト系騒音制御	共著	平成 19 年 9 月	日本音響学会講演論文集	寺尾道仁、関根秀久、服部康章、佐々木悠哉	
気流発生音源データとしての表面変動圧測定について－流量調整ダンパの気流発生音－	共著	平成 19 年 9 月	日本騒音制御工学会研究発表会講演論文集	服部康章、寺尾道仁、関根秀久	97-100 頁
ダクト系共鳴器チューニング装置の開発－ネック長による制御－	共著	平成 20 年 3 月	日本音響学会講演論文集	寺尾道仁、関根秀久、服部康章	1065-1066 頁
図書館が醸す神奈川大学の風格	単著	平成 20 年 4 月	KU 図書館だより（125）		1 頁
ダクト系共鳴器チューニング装置の開発	共著	平成 20 年 9 月	日本騒音制御工学会研究発表会講演論文集	服部康章、寺尾道仁、関根秀久、佐々木悠哉	157-160 頁
気流音源の支配的表面変動圧測定による音場予測－流量調節ダンパの気流発生音－	共著	平成 20 年 9 月	日本音響学会講演論文集	佐々木悠哉、寺尾道仁、関根秀久、服部康章	
支配的音源の表面変動圧測定による気流発生音音場予測－流量調節ダンパの気流発生音－	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集	佐々木悠哉、寺尾道仁、関根秀久、服部康章	265-266 頁
通気ダクト系共鳴器チューニング装置に関する検討－共鳴の鋭さの制御－	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集	服部康章、寺尾道仁、関根秀久、佐々木悠哉	263-264 頁
空気調和ダクト系騒音の予測に向けて	単著	平成 20 年 10 月	日本騒音制御工学会誌 32,（5）		357 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 42 年 4 月～現在に至る	日本音響学会会員
昭和 42 年 4 月～現在に至る	日本建築学会会員
昭和 44 年 4 月～現在に至る	空気調和・衛生工学会会員
昭和 47 年 4 月～現在に至る	日本設備士協会会員
昭和 50 年 4 月～現在に至る	日本騒音制御工学会会員
昭和 56 年 5 月～現在に至る	国際騒音制御工学会会員
昭和 60 年 4 月～現在に至る	国際音響会議会員
昭和 60 年 5 月～現在に至る	日本計算数理工学会会員
平成元年 4 月～現在に至る	日本機械学会会員
平成 2 年 3 月～現在に至る	アメリカ音響学会（Acoustic Society of America）会員
平成 3 年 5 月～平成 16 年 5 月	日本騒音制御工学会理事
平成 7 年 4 月～平成 15 年 4 月	日本建築学会論文集査読委員
平成 9 年 9 月～現在に至る	IBPSA（国際建築性能解析学会）会員
平成 10 年 4 月～平成 19 年 3 月	私立大学情報教育協会建築情報教育委員会委員
平成 11 年 5 月～平成 15 年 5 月	日本音響学会理事
平成 11 年 5 月～平成 15 年 5 月	日本音響学会ポスター賞顕彰委員会委員長
平成 11 年 8 月～平成 18 年 8 月	通商産業省計量士国家試験委員
平成 12 年 5 月～平成 16 年 5 月	日本騒音制御工学会理事
平成 13 年 10 月～平成 19 年 9 月	日本音響学会編集委員会査読委員
平成 14 年 5 月～平成 16 年 5 月	日本騒音制御工学会平成 14 年度学会賞審査委員会副委員長
平成 14 年 5 月～平成 16 年 5 月	日本騒音制御工学会平成 14 年度認定技術士審査委員会委員
平成 15 年 4 月～平成 15 年 5 月	日本騒音制御工学会日本学術会議第 19 期会員の推薦人

年月	内　　容
平成 15 年 5 月～平成 17 年 5 月	日本音響学会代議員
平成 15 年 5 月～平成 17 年 5 月	日本音響学会評議員
平成 15 年 5 月～平成 17 年 5 月	日本音響学会ポスター賞顕彰委員会委員
平成 15 年 5 月～平成 16 年 5 月	日本騒音制御工学会研究奨励賞選定委員会副委員長
平成 15 年 5 月～平成 18 年 12 月	国際騒音制御工学会国際諮問委員会委員
平成 15 年 5 月～平成 19 年 5 月	私立大学情報教育協会建築情報教育 IT 活用研究委員会委員
平成 15 年 9 月～平成 15 年 9 月	日本音響学会秋季研究発表会騒音・振動部門（振動と音響）座長
平成 15 年 10 月～平成 18 年 10 月	日本学術会議その他（連絡委員会委員)
平成 15 年 10 月～平成 17 年 9 月	日本音響学会編集委員会査読委員
平成 15 年 10 月～平成 18 年 10 月	日本学術会議工学共通基盤研究連絡委員会委員
平成 15 年 10 月～平成 17 年 10 月	日本学術会議工学共通基盤研究連絡委員会委員
平成 15 年 10 月～平成 18 年 10 月	日本学術会議工学共通基盤研究連絡委員会委員
平成 16 年 1 月～平成 16 年 5 月	日本騒音制御工学会守田栄論文賞選定委員会委員
平成 16 年 1 月～平成 16 年 5 月	日本騒音制御工学会研究奨励賞選定委員会委員
平成 16 年 1 月～平成 16 年 5 月	日本騒音制御工学会研究奨励賞選定委員会委員
平成 16 年 3 月～平成 16 年 3 月	日本音響学会秋季研究発表会騒音・振動部門（騒音・振動対策）座長
平成 16 年 4 月～平成 16 年 4 月	国際音響会議 18th 国際音響会議、「測定技術及び解析」部門座長
平成 16 年 5 月～平成 20 年 5 月	日本騒音制御工学会評議員
平成 16 年 5 月～平成 18 年 12 月	Inter-noise 2006 International advisory committee 委員
平成 16 年 7 月～平成 18 年 3 月	日本建築学会 JIS A 1405 原案作成委員会委員（第 2 部分科会主査）
平成 16 年 7 月～平成 18 年 3 月	（財）建材試験センター JIS A 1405 原案作成委員会委員（第 2 部分科会主査）
平成 16 年 9 月～平成 16 年 9 月	日本音響学会秋季研究発表会「振動と音響」部門座長
平成 17 年 3 月～平成 17 年 3 月	日本音響学会春季研究発表会「計測・評価 II」部門座長
平成 17 年 5 月～平成 18 年 12 月	国際騒音制御工学会インターノイズ 06,「消音器及び吸音構造 II」部門座長

年月	内　　容
平成 17 年 9 月～平成 17 年 9 月	日本音響学会秋季研究発表会「振動と音響」セッション座長
平成 17 年 10 月～平成 21 年 9 月	日本音響学会編集委員会査読委員
平成 18 年 4 月～平成 21 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究C一般 2,500 千円 （通気系消音用音響消散型共鳴器列の自動調整システムの開発）（研究代表者）
平成 18 年 6 月～平成 18 年 12 月	国際騒音制御工学会インターノイズ 06, 「ダクト内計測法」部門座長
平成 18 年 9 月～平成 18 年 9 月	日本音響学会秋季研究発表会「吸音材・制振材」セッション座長
平成 19 年 3 月～平成 19 年 3 月	日本音響学会春季研究発表会「数値解析」部門座長

Ⅴ　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部建築学科	職名 教授	氏名 西　和夫	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 授業外における学習を促進する取組み、授業内容のインターネット上での公開等	平成 19 年 11 月 1 日 ～平成 21 年 2 月 20 日	建築史の授業を深めるため、学生が学外で参加する町づくり研究所を長野市松代町と山形県長井市に設置。二カ所とも 2007 年度から活動を続け、学生と地元の人の協力の基に研究が進んでいる。
個人または複数教員及び学科等で組織的に実践している取組み	平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 21 年 3 月 31 日	2008 年度前期においてアンケート結果を基に授業内容の向上を図り、2008 年度前期優秀講義賞を受賞。
2　作成した教科書、教材		なし
3　教育上の能力に関する大学等の評価 学部内の優秀講義賞	平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 21 年 3 月 31 日	2007 年度前期終了時点において、学生の評価に基づく工学部内の優秀講義賞を受賞。
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
長崎出島ルネサンス復原オランダ商館	共著	平成 16 年 2 月	戎光祥出版		
松代に残る文化遺産の保存と活用	単著	平成 16 年 3 月	『新しい松代が見えてくる－武家屋敷の庭園と町屋』（NPO 法人夢空間松代のまちと心を育てる会）		
長崎出島　オランダ異国事情	単著	平成 16 年 9 月			
京都で建築に出会う　－見るおもしろさ、知る楽しみ	単著	平成 17 年 8 月			
登録文化財の現状と課題	単著	平成 17 年 11 月	『総覧　登録有形文化財建造物５０００』（海路書院）		
壱岐勝本浦まちあるき読本	単著	平成 18 年 2 月			
日本建築史図集　新訂第二版	共著	平成 19 年 2 月			
論文					
長野市松代町の町並み調査について－旧花之丸御殿の建物と町家	共著	平成 15 年 4 月	日本建築学会大会学術講演梗概集		117-118 頁
江津市本町地区の町並み－江津町並み調査その 1	共著	平成 15 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集		127-128 頁
出島和蘭商館 6 棟の復原について	共著	平成 15 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集		139-140 頁
現在建物に見る平戸旧城下町の都市構造とその変容－オランダ商館復原と合わせた町の活性化に向けて、平戸町並み調査その 6	共著	平成 15 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集		141-142 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
古城は本当に古城だった	単著	平成 16 年 1 月	日本歴史 668 号		
防空壕	単著	平成 16 年 3 月	『歴史と民俗２０』（平凡社）		
平戸旧城下町の武家屋敷－大曲公家住宅、大曲敦家住宅、内野茂樹家住宅を中心に、平戸町並み調査その 7	共著	平成 16 年 3 月	日本建築学会九州支部研究報告		
生月（長崎県）鯨組益冨家住宅の調査	共著	平成 16 年 3 月	日本建築学会九州支部研究報告		
棟札・絵画史料などによる益冨家住宅建設年代の検討　生月島 (長崎県) 鯨組関連施設の調査研究　その 2	共著	平成 16 年 9 月	『日本建築学会大会学術講演梗概集２００４』		
益冨家住宅と捕鯨関連施設　生月島 (長崎県) 鯨組関連施設の調査研究　その 1	共著	平成 16 年 9 月	『日本建築学会大会学術講演梗概集２００４』		
平戸市志々伎町福田酒造元禄蔵の調査研究　平戸町並み調査その 8	共著	平成 16 年 9 月	『日本建築学会大会学術講演梗概集２００４』		
１枚の写真と２３枚の絵－東京下落合の歴史を探る－	単著	平成 16 年 12 月	『年報　人類文化研究のための非文字資料の体系化２』（神奈川大学２１世紀 COE プログラム）		
究極の文化財　―平戸の町並み調査	単著	平成 17 年 2 月	『新建築２００５年２月』		
文化財指定の問題点そして庶民文化財の試み	単著	平成 17 年 3 月	『歴史と民俗２１』（平凡社）		
建築教育の悩み	単著	平成 17 年 4 月	『新建築２００５年４月』		
目白文化村と会津八一	単著	平成 17 年 6 月	『新建築２００５年６月』		
日本建築の素晴らしい遺産　―建築史無用論を吹き飛ばすために	単著	平成 17 年 8 月	『新建築２００５年８月』		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
豊門会館本館（旧和田豊治向島自邸）について　―駿河小山、富士紡績の建築　その２	共著	平成 17 年 9 月	『日本建築学会大会学術講演梗概集２００５』		
豊門会館の設立と様相について　―駿河小山、富士紡績の建築　その１	共著	平成 17 年 9 月	『日本建築学会大会学術講演梗概集２００５』		
日本住宅の通奏低音　―書院造	単著	平成 17 年 11 月	『新建築２００５年１１月臨時増刊』		
建築文化のスーパーバイブル　―１００の空間が語るもの	単著	平成 17 年 11 月	『新建築２００５年１１月臨時増刊』		
富士紡績豊門会館の移築・建設経過に関する文書による検討　―駿河小山、富士紡績の建築、その３	共著	平成 18 年 3 月	『日本建築学会関東支部講演梗概集２００５』		
中山道鵜沼宿の幕末期の様相　―建物の復原検討を中心に	単著	平成 18 年 3 月	『歴史と民俗２２』（平凡社）		
壱岐勝本浦の町家･酒造店･石造物　町づくりに向けた建造物調査	共著	平成 18 年 9 月	『日本建築学会大会学術講演梗概集２００６』		
川上貞の菩提寺貞照寺と別荘萬松園　各務原の歴史的建造物、その２	共著	平成 18 年 9 月	『日本建築学会大会学術講演梗概集２００６』		
中山道鵜沼宿の復原考察　各務原の歴史的建造物、その１	共著	平成 18 年 9 月	『日本建築学会大会学術講演梗概集２００６』		
宿場町	単著	平成 19 年 1 月	日本歴史第 704 号		
川上貞奴の菩提寺貞照寺と別荘萬松園―ひとりの女性先駆者の実績	単著	平成 19 年 2 月			
山形県長井市における歴史的建造物の調査検討	共著	平成 19 年 3 月	日本建築学会関東支部研究報告集 2006 年度第 77 回		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
明治期の木造郵便局建物の検討―旧鵜沼郵便局・旧江津郵便局・旧名護屋郵便局を中心に―	共著	平成 19 年 3 月	日本建築学会関東支部研究報告集 2006 年度第 77 回		
中山道鵜沼宿の現状と復原―各務原の歴史的建造物、その３―	共著	平成 19 年 3 月	日本建築学会関東支部研究報告集 2006 年度第 77 回		
棟札と絵図による加佐美神社の検討―各務原の歴史的建造物、その４―	共著	平成 19 年 3 月	日本建築学会関東支部研究報告集 2006 年度第 77 回		
非文字資料としての建築図面	単著	平成 19 年 3 月			
軽妙、遊び心、自由。それが数寄屋	単著	平成 19 年 4 月	てんとう虫４		
建築史の社会貢献―学生よ、町へ出よう	単著	平成 19 年 5 月	建築雑誌 No.1562		
Japan as seen from architecture(1) Let's Restore Lost Japanese Landscapes:Kaido & Syukuba-machi	単著	平成 19 年 6 月	Japan SPOT-LIGHT153th		
その他					
松代に残る文化遺産の保存と活用	単著	平成 16 年 3 月	庭園都市まつしろ新しい松代が見えてくる―武家屋敷の庭園と町屋―		
絵画史料と建物の復原	単著	平成 16 年 3 月	非文字資料研究 NO.3		

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 39 年 3 月～現在に至る	日本建築学会会員
昭和 58 年 3 月～現在に至る	建築史学会会員
昭和 59 年 1 月～現在に至る	日本建築学会建築歴史・意匠委員会委員
昭和 60 年 3 月～現在に至る	横浜市文化財総合調査会委員
昭和 60 年 4 月～現在に至る	建築史学会常任委員
昭和 60 年 7 月～現在に至る	日本生活文化史学会会員
昭和 60 年 7 月～現在に至る	日本生活文化史学会理事
昭和 63 年 3 月～現在に至る	横浜市文化財審議会委員
昭和 63 年 3 月～現在に至る	横浜市歴史的景観保全委員会委員
昭和 63 年 4 月～現在に至る	名護屋城跡並びに陣跡保存整備委員会環境整備専門部会委員を佐賀県教育委員会
平成元年 4 月～現在に至る	横浜市歴史的資産調査会委員
平成 2 年 4 月～現在に至る	美術史学会会員
平成 2 年 4 月～平成 16 年 3 月	文化庁史跡内復原建物検討委員委員
平成 3 年 3 月～現在に至る	東京都文化財庭園の保存・復原・管理等に関する専門委員会委員
平成 5 年 10 月～現在に至る	茶の湯文化学会会員
平成 6 年 2 月～平成 16 年 3 月	茶の湯文化学会理事
平成 7 年 4 月～現在に至る	建築史学会常任委員
平成 8 年 4 月～現在に至る	日本建築学会歴史意匠委員会日本建築史小委員主査
平成 8 年 5 月～現在に至る	長崎市出島オランダ商館復原建物検討委員会委員長
平成 12 年 12 月～現在に至る	東京都文化財保護審議会委員
平成 13 年 4 月～現在に至る	平戸市平戸和蘭商館復元事業専門委員
平成 13 年 4 月～平成 16 年 3 月	文化庁史跡等整備の在り方に関する調査研究会委員

年月	内　　容
平成 13 年 4 月～現在に至る	財団法人日光寺社文化財保存会評議員
平成 14 年～平成 15 年	（受託研究）凸版印刷株式会社「二条城二の丸御殿を例にしたデジタルアーカイブの研究」
平成 14 年 2 月～平成 20 年 12 月	文化庁文化審議会委員委員
平成 15 年～現在に至る	（国内共同研究）島根県建築士会江津支部「島根県江津市本町地区の町並み調査研究」
平成 15 年 2 月～現在に至る	文部科学省文化審議会委員
平成 16 年 4 月～平成 19 年 3 月	文化庁・独立行政法人評価委員会委員
平成 16 年 4 月～現在に至る	東京都文化財審議会委員
平成 16 年 4 月～平成 17 年 3 月	横浜市重要文化財関家住宅修理専門委員会委員長
平成 16 年 4 月～現在に至る	長崎市史跡和蘭商会跡整備審議会委員
平成 16 年 4 月～現在に至る	平戸市史跡平戸オランダ商館跡整備委員会委員
平成 16 年 4 月～現在に至る	長野市史跡松代城整備委員会委員
平成 16 年 4 月～現在に至る	高松市史跡高松城整備委員会委員
平成 16 年 4 月～現在に至る	文化庁平城宮跡整備検討委員会委員
平成 17 年 4 月～平成 18 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究（C） 2,200,000 千円 （寛政度内裏造営における復古様式の復元過程をめぐる諸問題に関する建築史的研究）（研究分担者）
平成 18 年 6 月～現在に至る	（国内共同研究）高松市歴史資料館「高松市香西町大工文書の研究」
平成 18 年 10 月～現在に至る	（国内共同研究）山形市商工会議所「山形県長井市の町並み調査と町づくり」
平成 18 年 12 月～平成 19 年 3 月	（国内共同研究）京都工芸繊維大学「二条城耐震診断調査研究」

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部建築学科	職名 教授	氏名 室伏　次郎	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		なし
2　作成した教科書、教材		なし
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動					
著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び 巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
平町の家	単著	平成 16 年	新建築住宅特集		
その他					
講演		平成 16 年 1 月	東京都		
梅屋敷ハウス／都市の原風景としての曖昧な境界、そして解体された個を繋ぐ構築された外気の空間	単著	平成 20 年 8 月	新建築誌（新建築社）２００８年８月号		
鎌倉の杜：構築された外気の空間／異化された原風景	単著	平成 20 年 11 月	新建築誌（新建築社）		

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
平成 5 年 4 月～現在に至る	日本建築学会会員
平成 6 年～現在に至る	JIA 関東甲信越支部卒業設計コンクール審査委員
平成 6 年～現在に至る	建築学会賞作品部会選考委員
平成 7 年～現在に至る	横浜コモンズ委員
平成 7 年～現在に至る	JIA 関東甲信越支部卒業設計コンクール審査委員
平成 8 年～現在に至る	横浜コモンズ委員
平成 9 年～現在に至る	建築学会設計競技事業委員
平成 10 年～現在に至る	建築学会設計競技事業委員及び全国審査員
平成 12 年～現在に至る	あたたかな空間デザインコンペ審査委員
平成 12 年 4 月～現在に至る	日本建築家協会神奈川地域会理事 (CPD) 職能継続研修委員長
平成 15 年 3 月～現在に至る	神奈川県建築コンクール審査員・住宅部門座長
平成 17 年 5 月～平成 8011 年 9 月	日本建築家協会神奈川地域会代表

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部建築学科	職名 教授	氏名 吉松　京子	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
思考レベルでの授業参加	平成 9 年 4 月 ～現在に至る	（授業科目：建築計画 B，都市計画）与えられた知識ではなく自分の言葉で思考する能力を養うことをねらいとして、授業内容に関連する質問に対し自分の考えを書かせるようにした。1 つの授業で 3～4 回程度、A5 版の用紙を配布し 1 回につき 10 分程度で書いてもらい、その都度回収した（回収用紙は出席チェックも兼ねている）。また、提出された内容については次の授業で取り上げ、フィードバックを試みている。
建築学科デザインコース「総合講評会の実施」	平成 11 年 9 月 25 日 ～現在に至る	設計教育の充実を図るために、学部 1 年生から大学院に至る 6 つの設計図製図関連授業の総合講評会を実施した。非常勤講師はじめ学外の方にも参加していただき、設計教育の流れ、学生の設計技術の習得のレベル及びその問題点などが把握された。また、学生たちの設計教育の流れに対する理解を促すことができた。
ミニレポートの提出	平成 12 年 4 月 ～現在に至る	（授業科目：建築計画 B，都市計画）学生の理解を深めるために、その日の授業内容をミニレポートにまとめて提出させた。一つの授業で 3～4 回程度、A5 版の用紙を配布し一回につき 10 分程度で書いてもらい、その都度回収した。「思考レベルでの授業参加」が主に自分の言葉で思考する能力を養うことをねらいとしているのに対し、授業内容の積極的理解を目的としている。授業前半でレポート実施を告げることにより、学生の授業に臨む態度にあきらかな変化が見られた。（平成 12 年 4 月 1 日～）
学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 15 年 4 月 ～現在に至る	2002 年度以降、6 回に渡り行われた授業評価アンケート評価結果は随時授業内容の完全に役立てている。例えば「質問・意見に配慮した」が他項目に比べやや評価が低かったことを受け、ミニレポートへの還元を積極的に図るなどインタラクティブであるよう改善した。
2　作成した教科書、教材		なし
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
		なし
5　その他 ビデオ会議による遠隔地講評への参加	平成 11 年 7 月 13 日	東京工芸大学の設計製図課題を対象とした、インターネット上のビデオ会議による遠隔地講評会に参加した。デジタルツールを用いた設計教育方法の実験的試みといえる。成果は「ビデオ会議による遠隔地講評を設計製図教育に応用する試みーインターネット上のビデオ会議における可能性の検討ー」（真鍋信太郎他、第 22 回情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集、平成 11 年 12 月）にて報告された。

II　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
空間デザイン事典	共著	平成 18 年 7 月	井上書院	日本建築学会編	102-111 頁
建築設計テキスト　商業施設	共著	平成 20 年 11 月	彰国社	福井通，山家京子	
論文					
インターネットに現れる都市のアクティビティに関する研究－その 2.　都市画像の分類と都市指標との対応－	共著	平成 15 年 12 月	第 26 回情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集（日本建築学会）	秋永絵理．山家京子	61-66 頁
インターネット画像に現れる商業集積地のアクティビティに関する研究	共著	平成 17 年 4 月	日本建築学会計画系論文集（590）	山家京子，秋永絵理	125-130 頁
インターネットにおいて外観が注目される建築の特徴	単著	平成 17 年 12 月	第 28 回情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集（日本建築学会）		25-30 頁
都市空間と情報空間のインタラクション：メディア・アートと公共圏に関する考察	共著	平成 18 年 2 月	総合論文誌（日本建築学会）（3）	山家京子, 栃澤克次	78-84 頁
用途断面の特徴と混在度から見た検討-商業集積地における均質性と固有性-	共著	平成 18 年 4 月	日本建築学会計画系論文集（602）	山家京子, 東國肇	113-119 頁
インターネット画像に現れるエリアイメージの特性	単著	平成 18 年 12 月	第 29 回情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集（日本建築学会）		85-90 頁
商業集積地における表層の雑多性に関する研究－指標作成と用途断面の混在度との比較－	共著	平成 19 年 4 月	日本建築学会計画系論文集（614）	山家京子, 石井啓輔	161-166 頁
インターネット発イベントから見た都市空間に関する研究	共著	平成 19 年 12 月	第 30 回情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集（日本建築学会）	井口惠之, 山家京子	43-48 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
その他					
口頭発表「ニュータウンにおけるコミュニティ・イベントと非建蔽地に関する研究 その 2. コミュニティ・イベントと非建蔽地」	共著	平成 15 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1	山家京子，小林真介	809-810 頁
口頭発表「インターネットに現れる都市のアクティビティに関する研究 その 1. 渋谷をキーワードとしたイメージ検索」	共著	平成 15 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1	秋永絵理，山家京子	965-966 頁
口頭発表「ニュータウンにおけるコミュニティ・イベントと非建蔽地に関する研究 その 1. 非建蔽地の現況」	共著	平成 15 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1	小林真介，山家京子	807-808 頁
2004 年度日本建築学会技術部門設計競技：Fluid City －ユビキタス・ネットワークによって可能となる都市のカタチ－	共著	平成 16 年 7 月	建築雑誌	山家京子，東國肇，吉村和真，石井啓輔，栃澤克次	
口頭発表「商店街活性化における情報技術の利用に関する研究　その 1. ホームページ所有に関する予備的調査」	共著	平成 16 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1	吉村和真，山家京子	267-268 頁
口頭発表「犯罪不安感と都市空間の関わり　港北ニュータウンの公園・緑道を対象として」	共著	平成 16 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1	竹花佳代，山家京子	369-370 頁
口頭発表「インターネットに現れる都市のアクティビティに関する研究　その 3. 画像の特徴と商業集積地のアクティビティ」	共著	平成 16 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1	秋永絵理，山家京子	551-552 頁
口頭発表「都市計画マスタープランと『情報』」	共著	平成 16 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1	望月那実子，山家京子	559-560 頁
口頭発表「インターネットに現れる都市のアクティビティに関する研究－その 4. インターネット・ランドマークの抽出－」	単著	平成 17 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿）F-1		1177-1178 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
口頭発表「メディア・アートからみた公共空間に関する考察－その１．都市空間に関連する事例調査－」	共著	平成 17 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿）F-1	栃澤克次，山家京子	189-190 頁
口頭発表「商業集積地における均質性と固有性に関する研究－その２．用途断面の類型化と混在度－」	共著	平成 17 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿）F-1	東國肇，山家京子，石井啓輔	521-522 頁
口頭発表「商業集積地における均質性と固有性に関する研究－その１．用途断面における用途の種類と割合－」	共著	平成 17 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿）F-1	石井啓輔，山家京子，東國肇	519-520 頁
口頭発表「横浜市における商店街活性化に関する研究ー情報技術利用とコミュニティ施設導入の視点からー」	共著	平成 17 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿）F-1	吉村和真，山家京子	547-548 頁
デスクトップからテーブルトップへ：個人端末ツール連動型テーブル「ubiqui-table」プロジェクト	単著	平成 18 年 2 月	総合論文誌（日本建築学会）		30-31 頁
口頭発表「インターネットに現れる都市のアクティビティに関する研究－その５．インターネット画像とエリアイメージ－」	単著	平成 18 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1		817-818 頁
口頭発表「メディア・アートからみた公共空間に関する考察－その２．生活世界からみた公共圏形成の可能性－」	共著	平成 18 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1	栃澤克次，山家京子	187-188 頁
口頭発表「商業集積地における均質性と固有性に関する研究－その３．表層の雑多性の指標作成－」	共著	平成 18 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1	武石遥，山家京子，石井啓輔	661-662 頁
口頭発表「商業集積地における均質性と固有性に関する研究－その４．表層の雑多性の特徴－」	共著	平成 18 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1	遠藤大輔，山家京子，石井啓輔	663-664 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
口頭発表「インターネット発イベントからみたオープンスペースに関する研究－その１．レイブが開催される場所の特性－」	共著	平成 18 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1	井口惠之，山家京子	677-678 頁
2007 年度日本建築学会設計競技：synthetic　landscape：郊外住宅地における「人口減少を組み込んだ」宅地改替システムの提案	共著	平成 19 年 7 月	2007 年度日本建築学会設計競技作品集	山家京子，佐々木一晋，他 4 名	
口頭発表「商業集積地における均質性と固有性に関する研究－その５．屋外広告物の指標作成及びその特徴－」	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集（九州）F-1	吉沢亮介，山家京子，山家京子	527-528 頁
口頭発表「商業集積地における均質性と固有性に関する研究－その６．用途断面との比較及び屋外広告物のコンテンツ－」	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集（九州）F-1	遠藤大輔，山家京子，吉沢亮介	529-530 頁
口頭発表「コミュニティ支援を意図した防災空間情報に関する研究－その１．横浜市における自主防災活動の現状と防災マップ－」	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集（九州）F-1	齋藤千夏，武石遥，山家京子	573-574 頁
口頭発表「コミュニティ支援を意図した防災空間情報に関する研究－その２．横浜市神奈川区における地震災害危険度評価－」	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集（九州）F-1	武石遥，山家京子	575-576 頁
口頭発表「インターネット発イベントから見た都市空間に関する研究－その１．変容する都市の公共空間と集合体－」	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集（九州）F-1	井口惠之，山家京子	857-858 頁
口頭発表「インターネット発イベントから見た都市空間に関する研究－その２．開催場所とパフォーマンスの関わり－」	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集（九州）F-1	原田佳幸，山家京子，井口惠之	859-860 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 60 年 4 月～現在に至る	日本建築学会会員
平成 3 年 4 月～現在に至る	日本都市計画学会会員
平成 11 年 3 月～平成 20 年 2 月	横浜市土地利用審査会委員
平成 12 年 2 月～平成 20 年 1 月	神奈川県建築士審査会委員
平成 13 年 3 月～現在に至る	文部科学省科学技術動向研究センター専門調査員
平成 16 年 4 月～現在に至る	日本建築学会空間研究小委員会委員
平成 16 年 9 月～現在に至る	横浜市大規模小売店舗立地審議会委員
平成 17 年～現在に至る	文部科学省（学術フロンティア） 195,000 千円 （災害リスク軽減を目的としたソフト・ハード融合型リスクマネジメントシステムの構築に関する研究）（研究分担者）
平成 17 年 6 月～現在に至る	神奈川県国土利用計画審議会委員
平成 17 年 7 月～現在に至る	日本建築学会建築教育認定事業委員会委員
平成 17 年 7 月～現在に至る	日本建築学会建築教育認定事業委員会委員
平成 18 年 8 月～平成 19 年 3 月	平塚市新庁舎建設計画懇話会委員
平成 19 年 8 月～平成 20 年 3 月	平塚市新庁舎建設基本構想策定委員会委員
平成 20 年 4 月～現在に至る	（学内共同研究）神奈川大学工学研究所「計画支援を意図した空間情報視覚化システムの開発」

Ⅴ　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部建築学科	職名 特任教授	氏名 紀谷　文樹	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		なし
2　作成した教科書、教材		なし
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		
上海・同済大学	平成 6 年 3 月 19 日	同大学環境設備系研究者を対象に 1 時間の特別講義を行った。
火災防災委員会委員	平成 15 年	工学部選出
新学科設置検討委員会委員	平成 15 年 10 月 8 日 ～平成 18 年 3 月 31 日	工学部の改組と新学科設置を検討する委員会で副委員長として企画・とりまとめを行った。(平成 15 年 10 月 8 日～)

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
建築設備	共著	平成 15 年 5 月	オーム社		
建築環境設備学新訂版	共著	平成 15 年 12 月	彰国社		
建築物の環境衛生管理　上巻	共著	平成 16 年 3 月	ビル管理教育センター		
建築物の環境衛生管理　下巻	共著	平成 16 年 3 月	ビル管理教育センター		
新　貯水槽の衛生管理	共著	平成 17 年 2 月	ビル管理教育センター		
空気調和・衛生用語辞典	共著	平成 18 年 3 月	オーム社		
論文					
その他					
Examination of Direct Booster Water Supply System in Japan	共著	平成 16 年 9 月	CIB-W62 Symposium	市川憲良	1-12 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 38 年 4 月～現在に至る	（社）空気調和・衛生工学会会員
昭和 38 年 4 月～現在に至る	（社）日本建築学会会員
平成元年 4 月～平成 16 年 3 月	（財）水道（管路）技術研究センター評議員
平成 5 年 6 月～現在に至る	（社）環境情報科学センター評議員
平成 6 年 7 月～現在に至る	給排水設備研究会評議員
平成 8 年 5 月～平成 16 年 3 月	（社）建築設備技術者協会理事
平成 8 年 10 月～現在に至る	国土交通省（建設省）中央建設工事紛争審査会委員
平成 9 年 4 月～平成 16 年 3 月	（財）給水工事技術振興財団理事
平成 9 年 9 月～現在に至る	（社）日本水道協会認証制度運営委員会委員
平成 11 年 9 月～現在に至る	（財）ビル管理教育センター理事
平成 11 年 10 月～現在に至る	（財）建築保全センター評議員
平成 13 年 1 月～現在に至る	(財) 建築保全センター保全技術審査証明委員会委員
平成 13 年 4 月～平成 19 年 3 月	（財）ビル管理教育センター建築物環境衛生管理技術者試験委員会委員長
平成 13 年 5 月～現在に至る	(社) 空気調和・衛生工学会特別会員
平成 14 年 10 月～現在に至る	（社）日本建築学会司法支援建築会議会員
平成 15 年 4 月～現在に至る	給排水設備研究会名誉会員
平成 15 年 6 月～現在に至る	(社) 全国建築物飲料水管理協会理事
平成 16 年 4 月～平成 19 年 3 月	(社) 空気調和・衛生工学会出版委員
平成 16 年 4 月～平成 18 年 3 月	(社) 空気調和・衛生工学会設備士審議委員
平成 16 年 4 月～平成 17 年 3 月	給水工事技術振興財団　給水装置工事配管技能者認定協議会委員
平成 16 年 10 月～平成 17 年 1 月	国立保健医療科学院外部評価委員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部建築学科	職名 准教授	氏名 岩本　静男	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
大学機械室の見学会の実施	平成 15 年 12 月 ～現在に至る	（授業科目：環境システム計画Ⅰ・Ⅱ及び演習）設計演習において機械室の設計を行わせるが、本学本館の機械室の見学会を実施し、設計課題の参考資料となるよう配慮した。（平成 15 年 12 月～）
卒業研究と卒研輪講の評価について	平成 16 年 1 月 8 日 ～現在に至る	【環境専門プログラム FD 議事録より】卒業研究と卒研輪講について、2004 年度 JABEE 申請に備えて、2003 年度の卒業研究発表会にて全教員が評価を行うことを確認した。また、研究室所属学生については、卒研輪講の成績とは別に JABEE 上必要となる評価を A・B・C の 3 段階で行うことになっている。採点資料は一括して JABEE 担当の岩本静男助教授が保管することになった。記録用のシートはエクセル・ファイルで教育委員から配布される。
卒業研究の中間報告の実施	平成 16 年 7 月 15 日 ～現在に至る	【環境専門プログラム FD 議事録より】卒業研究の中間報告について、当該年度の卒業研究の中間報告について、各研究室に掲示を行い、卒業研究の研究課題と進捗状況を提出することとした。審査結果により、著しく進捗の遅い者について夏休み明けに再提出とする。中間報告の提出がないものについては、指導教員が個別に対応し、例えば退学を視野に入れた進路変更を考えている場合には、退学を思いとどまった際にも対応できるように再提出扱いとするなど、十分に配慮している。
卒業研究優秀賞の選考	平成 19 年 2 月 1 日 ～現在に至る	【環境専門プログラム FD 議事録より】2006 年度より卒研評価シートを利用して、卒業研究優秀賞を決定することとした。評価方法は、卒研梗概、発表、質疑について総合的に 100 点満点で 4 名の教員により採点を行っており、その平均点の上位者とする。さらに空衛学会の学生賞の推薦者も、大学院進学希望者を優先して合議の上決定することとした。
修論優秀賞と学外賞の選考	平成 19 年 2 月 1 日 ～現在に至る	【環境専門プログラム FD 議事録より】大学院前期課程 2 年生について梗概集を用いて修了判定を行うが、その折に修論優秀賞を合議の上決定することとした。また、研究内容によって、空衛学会篠原賞を推薦することとした。
2　作成した教科書、教材		
Homepage による講義資料の提供	平成 13 年 5 月 1 日 ～現在に至る	（授業科目：建築情報処理）履修学生が情報処理教育用教室にて手軽に閲覧できるように、講義で用いるプリント・演習類を Homepage 形式で作成し、研究室内の PC サーバーにより提供した。出席や演習の提出にも Homepage を活用できるよう配慮した。（平成 13 年 5 月～平成 15 年 3 月）

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
環境システム計画 I・II 及び演習の課題建物	平成 15 年 7 月 17 日	【環境専門プログラム FD 議事録より】従来配布している課題建築物に、2 年次前期の設計製図 II の課題で学生自らが設計した事務所建築を採用する案が寺尾教授から提案された。用途、規模、敷地などこれまでの課題建築物に近いこと、他の科目との連携がはかれること、機械室・ダクトシャフト・パイプシャフトと建築設計との関連を学べること、など利点が多いことから、2004 年度より採用することとした。
復習用自習問題の提供	平成 16 年 4 月 ～現在に至る	（授業科目：空調設備・建築情報処理）履修学生が授業後の復習に使えるように、復習のための自習問題をホームページに掲載することとした。（平成 16 年 4 月～）
環境システム計画 I・II 及び演習の課題建物の変更	平成 16 年 4 月 22 日 ～平成 17 年 1 月 20 日	環境専門プログラム FD 議事録より】清水保夫講師に代わって今年度から非常勤講師として参加いただく徳弘洋子先生の紹介があった。建築図チェックでは例年になく時間をかけて行った。昨年度の議事録にあるように、5 月の適切な日程で本学本館の機械室の見学会を実施するよう確認された。　【環境専門プログラム FD 議事録より】さらに、今年度より設計製図 II で学生が作成した事務所建築を課題対象建物としたが、基準階規模が小さいため後期の空調系統を 2 系統にしづらい、階数が小さいので達成感が乏しい、建築図の描き方があまいなどが見つかった。次年度以降について、設計製図 II の担当者、高木幹朗教授と相談したが、対応は難しいと思われる。次年度からは従前の標準図面を見直して新たに採用することとした。後期の課題建物は、後半の課題提出を見てから再度審議することとした。　後期の環境システム計画 II 及び演習において、十分な成果が得られないことから、課題建物は 2003 年度以前の標準建物に戻すこととし、平面計画を変更して用いることとした。
Excel による実験結果の処理ソフトを提供	平成 17 年 10 月 ～現在に至る	（授業科目：建築実験、建築環境・設備実験）温熱環境の実測と評価において、学生が実験後に結果を評価する際に用いる計算プログラムを提供してきたが、入力に手間取って講義時間を超えてしまうことがある。Excel による処理ソフトを開発して入力の省力化を図った。
空調設備 II において、予習のための自習問題を提供	平成 18 年 4 月 10 日 ～現在に至る	2006 年度より、空調設備 II の授業前に予習できるよう、web を通して自習問題を提供し始めた。
温冷感指標計算シートの SI 単位化	平成 18 年 5 月 20 日 ～現在に至る	温冷感指標計算シートを SI 単位に基づいて作成しなおした。
配布資料のＳＩ化	平成 18 年 9 月	（授業科目：環境システム計画 I・II 及び演習）これまでの資料では慣用単位系であったが、教科書もカタログもＳＩ単位となってきた。今年度より配布される選定資料、利用 program の全てをＳＩ化することを目標とし、改善を始めた。
建築環境輪講 I における技術者倫理の追加	平成 20 年 3 月 6 日 ～現在に至る	【環境専門プログラム FD 議事録より】2006 年度カリより建築環境輪講 I において技術者倫理を扱うことになっている。建築構造コース、建築デザインコースでは建築学会編「建築倫理用教材」を用いて解説して学生にレポートを書かせて提出することとしている。建築環境コースでどのように扱うか審議し、3 コース共通に扱うことを趣旨として、同教材を用いて学生にレポートを書かせて提出させることとし、第 1 回の建築環境輪講 I の授業で紹介・案内することとした。なお、設備一級建築士の「みなし講習」のテキスト作成が進行中であり、その中で技術者倫理が扱われることになっている。2009 年度以降はこれも含めて教材を見直すこととした。

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
授業評価アンケートの活用について	平成 15 年 7 月 17 日 ～現在に至る	【環境専門プログラム FD 議事録より】2003 年 7 月 7～12 日に行われた授業評価アンケートについて、集計結果が得られた後に各教員が内容を確認し、適切な処置をとるよう確認した。なお、アンケート回収後すぐ提出せずに、教員がコピーをとる、スキャナーで読み取る、などの工夫で週結果が出る前に、学生の反応を知ることが出来る。即座に対応できる内容があれば、後期授業から取り組むこととした。
工学部 平成 18 年度前期 優秀講義者賞	平成 18 年 10 月	
工学部 平成 19 年度前期 優秀講義者賞	平成 19 年 10 月	
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		
ＦＤセミナーに参加	平成 16 年 3 月 17 日 ～平成 16 年 3 月 18 日	平成 16 年 3 月 17・18 日にメディア教育開発センター主催の研修会：高等教育におけるＩＴ活用―授業創造とＦＤ・ＳＤへのガイドライン―に参加し、研修報告を工学部発行のＦＤだよりに掲載した。
工学・工業教育研究講演会 参加	平成 16 年 7 月 30 日 ～平成 16 年 8 月 1 日	平成 16 年 7 月 30 日～8 月 1 日に金沢工業大学で開催された、日本工学教育協会主催の工学・工業教育研究講演会に参加し、学生による授業評価アンケートに関する解析結果を報告した。その成果は工学部発行のＦＤだよりに掲載した。
ＦＤフォーラム京都 参加	平成 17 年 3 月 5 日 ～平成 17 年 3 月 6 日	平成 17 年 3 月 5 日～6 日に京都で開催された、(財) 大学コンソーシアム京都主催の第 10 回ＦＤフォーラムに参加した。初日の基調講演・シンポジウム、2 日目の分科会で貴重な知見を得た。主な成果を工学部発行のＦＤだよりに報告した。
大学教育学会 参加	平成 18 年 6 月 11 日 ～平成 18 年 6 月 11 日	平成 18 年 6 月 10～11 日に東海大にて大学教育学会が開催された。6 月 11 日の一日のみ参加し、自由研究発表を聴講した。報告書は共通教養系科目教育協議会に提出した。
教育力向上セミナー 参加	平成 18 年 8 月 25 日 ～平成 18 年 8 月 27 日	平成 18 年 8 月 25～27 日に東京で開催された、日本工学教育協会主催の教育力向上セミナーに参加した。講演、グループディスカッションによる構成であり、3 日間とも参加した。
第 13 回 大学教育研究フォーラムに参加	平成 19 年 3 月 27 日 ～平成 19 年 3 月 28 日	平成 19 年 3 月 27 日～28 日に京都大学吉田南 1 号館にて第 13 回　大学教育研究フォーラムが開催され、2 日目の個人研究発表（2）、小講演（2）の「批判的思考と高次リテラシー」、ラウンドテーブル「心理学者、大学教育への挑戦 7 －グループ活動を含む諸年次教育の実践－」に参加した。
第 29 回 大学教育学会大会に参加	平成 19 年 6 月 9 日 ～平成 19 年 6 月 10 日	平成 19 年 6 月 9 日～10 日に東京農工大学小金井キャンパスにて、大学教育学会 第 29 回大会が開催された。持続可能な社会と大学を総合テーマとして開催され、1 日目のラウンドテーブル、学会総会、学長挨拶、基調講演に参加した。

II　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
Simplified Prediction Methods and Analysis of Water Temperature in Water Supply, Distribution Pipes and Purification Plants	共著	平成 15 年 9 月	The Proceedings of CIB W62 Symposium		297-310 頁
The Standard for Evaluation of Energy Saving on Hot Water Supply System in Japan	共著	平成 15 年 9 月	The Proceedings of CIB W62 Symposium		361-377 頁
住宅給湯システムの熱効率および熱損失の検討　住宅用給湯システムの効率評価法に関する研究　第 1 報	共著	平成 16 年 6 月	日本建築学会環境系論文集第 580 巻		
Research on Thermal Storage using Rock Wool PCM Ceiling Board	共著	平成 18 年 5 月	Proceedings of Eco-Stock 2006 (10th International Conference on Thermal Energy Storage)	Takeshi KONDO, Tadahiko IBAMOTO	
配水管・給水管内水温の予測法に関する研究 (第 2 報) 浄水場水温の分析と簡易予測法	共著	平成 18 年 7 月	空気調和・衛生工学会論文集 No.112	近藤武士、坂上恭助、鎌田元康	33-39 頁
Study on water conservation by water saving fixtures	共著	平成 18 年 9 月	Proceedings of CIB W062 Symposium 2006 (32nd International Symposium on Water Supply and Drainage for Buildings)	Takeshi KONDO, Noriyuki ICHIKAWA, Motoyasu KAMATA	
節水・節湯器具の評価に関する研究, サーモスタット付混合栓手元止水機能付シャワーヘッドによる節水効果	共著	平成 18 年 9 月	日本建築学会環境系論文集（607）	近藤武士、市川憲良、鎌田元康	87-92 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
節水型台所水栓を用いた食器洗浄による節水効果ー節水・節湯器具の評価に関する研究　その２	共著	平成 19 年 3 月	日本建築学会環境系論文集（613）	近藤武士、鎌田元康	65-70 頁
配水管・給水管内水温の予測法に関する研究 (第３報) 浄水場水温の計算モデル	共著	平成 19 年 3 月	空気調和・衛生工学会論文集 No.120	近藤武士、坂上恭助、鎌田元康	1-8 頁
その他					
給湯設備における省エネ性の評価方法と設計方法に関する研究開発	単著	平成 15 年 6 月	第 4 回日加住宅 R & D 専門家作業会合講演予稿集		133-160 頁
水道水温の簡易予測法に関する研究 (第 2 報) 浄水場水温の計算モデル	共著	平成 15 年 9 月	空気調和・衛生工学会学術講演論文集		1585-1588 頁
潜熱蓄熱天井を用いた躯体蓄熱システムの研究（その 3）実験室実験および数値計算による基本検討	共著	平成 15 年 9 月	空気調和・衛生工学会学術講演論文集		929-932 頁
節水・節湯器具の評価に関する研究（その 2）手元止水機能付シャワーヘッドによる効果	共著	平成 15 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集、D-2		469-470 頁
節水・節湯器具の評価に関する研究（その 1）サーモスタット付混合栓による効果	共著	平成 15 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集、D-2		467-468 頁
水道水温の簡易予測法に関する研究 (第 1 報) 浄水場水温の分析と簡易予測法	共著	平成 15 年 9 月	空気調和・衛生工学会学術講演論文集		1581-1584 頁
住宅用給湯設備の設計・評価手法に関する研究 (その 8) 潜熱回収型ガス瞬間式給湯機を用いた給湯システムに関する実験的研究	共著	平成 15 年 9 月	空気調和・衛生工学会学術講演論文集		1589-1592 頁
住宅用給湯設備の設計・評価手法に関する研究 (その 10) 住戸セントラル給湯システムの貯湯槽の熱効率に関する研究	共著	平成 15 年 9 月	空気調和・衛生工学会学術講演論文集		1597-1600 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
住宅用給湯設備の設計・評価手法に関する研究 (その 11) 住宅用給湯配管と混合水栓の熱損失に関する研究	共著	平成 15 年 9 月	空気調和・衛生工学会学術講演論文集		1601-1604 頁
衛生設備の機器・器具の LCA(その 1) 衛生器具・水槽・貯湯槽	共著	平成 15 年 9 月	空気調和・衛生工学会学術講演論文集		1601-1604 頁
給気口からの侵入外気が室内温熱環境に与える影響-給気口形状、設置高さによる検討-	共著	平成 15 年 9 月	空気調和・衛生工学会学術講演論文集		1409-1412 頁
給気口からの侵入外気が室内温熱環境に与える影響（その 2）給気口形状、設置高さ、暖房方式による検討	共著	平成 16 年 9 月	空気調和・衛生工学会学術講演論文集		1199-1202 頁
自然給気口による室内温熱環境への影響　給気口風量と隙間風量の比率、給気口形状による検討	共著	平成 16 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2		759-760 頁
節水・節湯器具の評価に関する研究（その 4）食器洗浄における冬期被験者実験	共著	平成 16 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2		573-574 頁
節水・節湯器具の評価に関する研究（その 3）節水シャワー水栓による夏期・冬期被験者実験	共著	平成 16 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2		571-572 頁
潜熱蓄熱天井を用いた躯体蓄熱システムの研究（その 4）PCM ロックウール天井材の基本性能把握	共著	平成 16 年 9 月	空気調和・衛生工学会学術講演論文集		999-1002 頁
住宅用給湯設備の設計・評価手法に関する研究 (その 12) 給湯システムの効率予測に関する研究	共著	平成 16 年 9 月	空気調和・衛生工学会学術講演論文集		65-68 頁
水道水温の簡易予測法に関する研究 (第 3 報) 水道水温の計算モデル	共著	平成 16 年 9 月	空気調和・衛生工学会学術講演論文集		.61-64 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
成層型空調システムにおける室内熱環境に関する研究	共著	平成 17 年 3 月	日本建築学会関東支部研究報告集、pp.		565-569 頁
屋上緑化が空調熱負荷に及ぼす影響	共著	平成 17 年 3 月	日本建築学会関東支部研究報告集		601-604 頁
暖房方式による室内環境の相違に関する実験的研究	共著	平成 17 年 4 月	空気調和・冷凍連合講演会		
ヒートポンプ暖房時と床暖房時における気流性状の相違	共著	平成 17 年 4 月	空気調和・冷凍連合講演会		
ヒートポンプ暖房時と床暖房時における気流性状	共著	平成 17 年 8 月	空気調和・衛生工学会学術講演会論文集		289-292 頁
暖房方式による室内環境の相違に関する実験的研究	共著	平成 17 年 8 月	空気調和・衛生工学会学術講演会論文集		289-292 頁
給湯用エネルギの削減に関する基礎的考察 食器洗浄用水の許容温度について	共著	平成 17 年 8 月	空気調和・衛生工学会学術講演会論文集		1541-1544 頁
潜熱蓄熱天井を用いた躯体蓄熱システムの研究（その５）PCM ロックウール天井材を用いた実験室実験	共著	平成 17 年 8 月	空気調和・衛生工学会学術講演会論文集		289-292 頁
自然給気口による室内温熱・空気環境への影響	共著	平成 17 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2		691-692 頁
暖房方式による室内温熱環境の相違に関する実験的研究	共著	平成 17 年 9 月	学会大会学術講演梗概集 D-2		157-158 頁
節水・節湯器具の評価に関する研究,（その７）食器洗い乾燥機と手洗い実験の比較	共著	平成 17 年 9 月	学会大会学術講演梗概集 D-1		429-430 頁
節湯器具の評価に関する研究（その５）節水型シャワー水栓２種による夏期・冬期被験者実験	共著	平成 17 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 D-1		425-426 頁
CFD による床暖房室内温熱環境の評価法に関する研究	共著	平成 18 年 9 月	空気調和・衛生工学会学術講演論文集 I	倉渕隆、遠藤智行、近藤武士、他	1189-1192 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
給気口からの侵入外気が室内温熱環境に与える影響（その 4）給気口種別による室内温熱環境把握実験	共著	平成 18 年 9 月	空気調和・衛生工学会学術講演論文集 I	近藤武士、町田圭吾、倉渕隆、遠藤智行、飯野由香利	615-618 頁
給気口からの侵入外気が室内温熱環境に与える影響（その 3）給気口設置高さによる室内温熱環境把握実験	共著	平成 18 年 9 月	空気調和・衛生工学会学術講演論文集 I	町田圭吾、近藤武士、倉渕隆、遠藤智行、飯野由香利	611-614 頁
潜熱蓄熱天井を用いた躯体蓄熱システムの研究（その 6）PCM ロックウール天井材の蓄熱量把握および実験室実験	共著	平成 18 年 9 月	空気調和・衛生工学会学術講演論文集 I	新井麻里亜、町田圭吾、近藤武士、射場本忠彦	259-262 頁
電気式蓄熱床暖房システムの最適化に関する研究（第 3 報）空調機併用簡易制御手法を適用した学校におけるフィールド実験	共著	平成 18 年 9 月	空気調和・衛生工学会学術講演論文集 I	近藤武士、射場本忠彦	247-250 頁
給湯使用モードによる家庭用ガス・石油給湯機の熱効率測定法の標準化調査研究（第 5 報）実験条件の検討ならびに標準条件における効率実験例	共著	平成 18 年 9 月	空気調和・衛生工学会学術講演論文集 I	福澤清、前真之、鎌田元康、近藤武士、佐藤誠、佐野隆之	87-90 頁
給湯使用モードによる家庭用ガス・石油給湯機の熱効率測定法の標準化調査研究（第 4 報）給湯使用モードの作成	共著	平成 18 年 9 月	空気調和・衛生工学会学術講演論文集 I	江戸千恵子、佐藤誠、前真之、鎌田元康、福澤清、近藤武士	83-86 頁
給湯使用モードによる家庭用ガス・石油給湯機の熱効率測定法の標準化調査研究（第 3 報）給湯使用モード作成の基本概念とパラメータ抽出のための実測概要	共著	平成 18 年 9 月	空気調和・衛生工学会学術講演論文集 I	江戸千恵子、佐藤誠、前真之、鎌田元康、福澤清、近藤武士	79-82 頁
給湯使用モードによる家庭用ガス・石油給湯機の熱効率測定法の標準化調査研究（第 2 報）貯湯式急速加熱型石油小型給湯機の効率	共著	平成 18 年 9 月	空気調和・衛生工学会学術講演論文集 I	佐野孝之、近藤武士、福澤清、佐藤誠、前真之、鎌田元康	75-78 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
給湯使用モードによる家庭用ガス・石油給湯機の熱効率測定法の標準化調査研究（第 1 報）研究の概要とガス瞬間式給湯機の効率基礎実験	共著	平成 18 年 9 月	空気調和・衛生工学会学術講演論文集 I	前真之、鎌田元康、福澤清、佐藤誠、近藤武士	71-74 頁
住宅用自然冷媒ヒートポンプ給湯機の貯湯槽内温度分布	共著	平成 18 年 9 月	空気調和・衛生工学会学ｊ通講演論文集 I	井原匡哉、近藤武士、倉渕隆、前真之、他	67-70 頁
CFD を用いた常時換気される床暖房室内温熱環境の評価法に関する研究	共著	平成 18 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集Ｄ－２分冊	倉渕隆、近藤武士、遠藤智行、他	
屋上緑化が空調熱負荷に及ぼす影響 (その 1) 土壌含水率を考慮した数値シミュレーション	共著	平成 18 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集Ｄ－２分冊	近藤武士	
節水・節湯器具の評価に関する研究　その８　洗浄食器数の違いによる食器洗い乾燥機と手洗い実験の比較	共著	平成 18 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集Ｄ－１分冊	新井麻里亜、近藤武士、鎌田元康	
給湯設備における年間消費エネルギーの予測に関する研究 (第 1 報) ビジネスホテルの計量結果と CEC/HW 計算結果の比較	共著	平成 18 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集Ｄ－１分冊	桑沢保夫、田島昌樹、宇梶正明、前真之	409-410 頁
給湯設備の省エネルギー	単著	平成 19 年 8 月	空気調和・衛生工学 81, (8)		13-17 頁
CFD による 2 次元正方形キャビティ内自然対流場の数値解析　MKC・標準 k-εモデル解析と Tian らの実験との比較	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集Ｄ－２分冊	加治屋亮一、酒井孝司、他	653-654 頁
異なる暖房方式を採用した居室の温熱環境評価に関する研究（その 4）　CFD によるエアコン暖房室内の温熱環境解析	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集Ｄ－２分冊	倉渕隆、加治屋亮一、酒井孝司、遠藤智行、久保隆太郎、近藤武士、飯野由香利、他	37-38 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
異なる暖房方式を採用した居室の温熱環境評価に関する研究（その 3）　CFD による床暖房室内の温熱環境解析	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集Ｄ－２分冊	倉渕隆、加治屋亮一、酒井孝司、遠藤智行、久保隆太郎、近藤武士、飯野由香利、他	35-36 頁
異なる暖房方式を採用した居室の温熱環境評価に関する研究（その 2）　快適性からみた温熱環境や気流性状の実態	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集Ｄ－２分冊	倉渕隆、加治屋亮一、酒井孝司、遠藤智行、久保隆太郎、近藤武士、飯野由香利、他	33-34 頁
異なる暖房方式を採用した居室の温熱環境評価に関する研究（その 1）床暖房・エアコンにより形成される居室の温熱環境の把握	共著	平成 19 年 8 月	日本建築学会大会学術講演梗概集Ｄ－２分冊	倉渕隆、加治屋亮一、酒井孝司、遠藤智行、久保隆太郎、近藤武士、飯野由香利、他	31-32 頁
暖房室内の温熱環境評価に関する研究（第 2 報）高レイノルズ数型 k―ε モデルと低レイノルズ数型 k―ε モデルの比較	共著	平成 19 年 9 月	空気調和・衛生工学会学術講演論文集 I	飯野由香利、倉渕隆、町田圭吾、近藤武士、遠藤智行、他	413-416 頁
暖房室内の温熱環境評価に関する研究（第 1 報）CFD による室内の温熱環境解析	共著	平成 19 年 9 月	空気調和・衛生工学会学術講演論文集 I	飯野由香利、倉渕隆、町田圭吾、近藤武士、遠藤智行、他	409-412 頁
CFD による 2 次元正方形キャビティ内自然対流場の数値解析（第 3 報）LES 解析と Tian らの実験の比較	共著	平成 19 年 9 月	空気調和・衛生工学会学術講演論文集 I	加治屋亮一、酒井孝司、久保隆太郎、他	325-328 頁
CFD による 2 次元正方形キャビティ内自然対流場の数値解析（第 2 報）各種 k―ε モデル解析と Tian らの実験との比較	共著	平成 19 年 9 月	空気調和・衛生工学会学術講演論文集 I	加治屋亮一、酒井孝司、久保隆太郎、他	321-324 頁
潜熱蓄熱天井を用いた躯体蓄熱システムの研究（その 7）PCM ロックウール天井材の基本性能把握、（その 8）蓄熱制御方法と熱源容量削減の検討	共著	平成 19 年 9 月	空気調和・衛生工学会学術講演論文集 III	町田圭吾、新井麻里亜、近藤武士、射場本忠彦	1809-1812 頁
住宅用自然冷媒ヒートポンプ給湯機のヒートポンプユニットのモデル化	共著	平成 19 年 9 月	空気調和・衛生工学会学術講演論文集 III	井原匡哉、近藤武士、倉渕隆、前真之、鎌田元康	1665-1668 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
給湯使用モードによる家庭用ガス・石油給湯機の熱効率測定法の標準化調査研究（第 6 報）測定条件の検討と再現性の確認	共著	平成 19 年 9 月	空気調和・衛生工学会学術講演論文集 III	鎌田元康、佐藤誠、前真之、近藤武士、他	1653-1656 頁
CFD を主軸とした住宅の温熱環境解析に関する研究（第 2 報）床暖房室内の LES 解析	共著	平成 20 年 8 月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 2008 年度	酒井孝司、小野浩己、久保隆太郎、加治屋亮一、倉渕隆	493-496 頁
CFD を主軸とした住宅の温熱環境解析に関する研究（第 1 報）強制対流暖房室内の LES 解析	共著	平成 20 年 8 月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 2008 年度	小野浩己、酒井孝司、加治屋亮一、久保隆太郎、倉渕隆	489-492 頁
暖房室内の温熱環境評価に関する研究（第 5 報）数値サーマルマネキンを用いた人体放熱特性の把握に関する基礎的検討	共著	平成 20 年 8 月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 2008 年度	小笠原岳、倉渕隆、加治屋亮一、酒井孝司、久保隆太郎、他	485-488 頁
暖房室内の温熱環境評価に関する研究（第 4 報）CFD による室内快適性の詳細検討	共著	平成 20 年 8 月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 2008 年度	蛭田厚大、加治屋亮一、酒井孝司、倉渕隆、遠藤智行、長井達夫、飯野由香利、他	481-484 頁
暖房室内の温熱環境評価に関する研究（第 3 報）床暖房・エアコンにより形成される居室の温熱環境と投入熱量の把握	共著	平成 20 年 8 月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 2008 年度	清水裕幸、倉渕隆、加治屋亮一、酒井孝司、長井達夫、飯野由香利、遠藤智行、他	477-480 頁
CFD を主軸とした住宅の温熱環境解析に関する研究－強制対流暖房室内の k-e・LES 解析－	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 2008 年度 D-II	小野浩己、酒井孝司、倉渕隆、加治屋亮一、久保隆太郎	1177-1178 頁
異なる暖房方式を採用した居室の温熱環境評価に関する研究 (その 8)CFD による室内温熱・気流性状の詳細解析	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 2008 年度 D-II	蛭田厚大、加治屋亮一、酒井孝司、他	63-64 頁
異なる暖房方式を採用した居室の温熱環境評価に関する研究 (その 7)CFD による居室内温熱環境の再現性の検討	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 2008 年度 D-II	加治屋亮一他	61-62 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
異なる暖房方式を採用した居室の温熱環境評価に関する研究 (その 5) 床暖房・エアコンにより形成される居室の温熱環境と投入熱量の把握	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 2008 年度 D-II	清水裕幸、倉渕隆、加治屋亮一、酒井孝司、飯野由香利、長井達夫、遠藤智行、久保隆太郎、蛭田厚大、岸田拓也	57-58 頁
屋上緑化が空調熱負荷に及ぼす影響 その 2 水分重量による数値シミュレーションの検討	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 2008 年度 D-II	近藤武士	19-20 頁
節水・節湯器具の評価に関する研究 その 9 節水器具による住宅湯消費量削減効果の検討	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 2008 年度 D-I	近藤武士、前真之、鎌田元康	655-656 頁
異なる暖房方式を採用した居室の温熱環境評価に関する研究 (その 6) 暖房方式や給気口の種類別にみた気流環境の相違	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 2008 年度 DII	飯野由香利他	59-60 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
～現在に至る	（国内共同研究）「住戸セントラル方式の給湯システムに関する研究」
昭和 58 年 4 月～現在に至る	日本建築学会会員
昭和 61 年 4 月～現在に至る	空気調和・衛生工学会会員
平成 5 年 4 月～現在に至る	住宅・建築省エネルギー機構 建築省エネルギー推進委員会設備部会給湯 WG 委員
平成 6 年 4 月～現在に至る	日本建築学会会員
平成 6 年 4 月～現在に至る	日本建築学会建築環境工学用教材改訂賞委員会委員
平成 10 年 4 月～平成 18 年 3 月	空気調和・衛生工学会　地球環境委員会委員・幹事
平成 12 年 4 月～現在に至る	空気調和・衛生工学会地球環境委員会幹事
平成 12 年 4 月～平成 17 年 3 月	（受託研究）財団法人 ベターリビング「住宅用給湯設備の設計・評価手法に関する総合研究」
平成 13 年 4 月～平成 16 年 3 月	空気調和・衛生工学会標準化委員会　煙突計算基準改定小委員会委員
平成 13 年 4 月～平成 18 年 3 月	文部科学省ハイテクリサーチセンター（分担）
平成 13 年 4 月～平成 17 年 3 月	文科省　科学研究費補助金　基盤研究 (C)(2)　住宅給湯システムにおける長期実測と年間シミュレーション代表
平成 13 年 4 月～平成 17 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 (C)(2) 3,400 千円 （住宅給湯システムにおける長期実測と年間シミュレーション）（研究代表者）
平成 14 年 4 月～現在に至る	空気調和・衛生工学会論文委員会委員
平成 14 年 4 月～平成 17 年 3 月	建築環境・省エネルギー機構 自立循環型住宅開発委員会 [A2] 高効率暖冷房・給湯システム小委員会委員長
平成 14 年 4 月～平成 17 年 3 月	（受託研究）財団法人　地球環境 省エネルギー機構「自立循環型住宅の技術開発に関する研究」
平成 15 年～平成 15 年	（受託研究）「運転モードによるガス石油機器のエネルギー消費効率測定方法の標準化」
平成 15 年 4 月～平成 18 年 3 月	空気調和・衛生工学会地球環境委員会温暖化対策小委員会委員
平成 15 年 4 月～平成 18 年 3 月	文科省　科学研究費補助金　基盤研究 (B)(1)　非定常室内気流・温熱環境解析手法の環境設計への応用分担
平成 15 年 4 月～平成 18 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 (B)(1) （非定常室内気流・温熱環境解析手法の環境設計への応用）（研究分担者）
平成 15 年 7 月～平成 18 年 3 月	ガス石油機器工業会給湯運転モード本委員会委員
平成 15 年 7 月～平成 16 年 3 月	ガス石油機器工業会給湯運転モード専門委員会委員長

年月	内　　容
平成 15 年 7 月～平成 18 年 3 月	ガス石油機器工業会給湯運転モード貯湯式分科会主査
平成 16 年 4 月～現在に至る	空気調和・衛生工学会省エネルギー委員会委員
平成 16 年 4 月～現在に至る	空気調和・衛生工学会省エネルギー委員会住宅小委員会委員
平成 18 年 4 月～現在に至る	空気調和・衛生工学会　省エネルギー委員会委員
平成 18 年 4 月～現在に至る	空気調和・衛生工学会　省エネルギー委員会　住宅小委員会委員
平成 18 年 4 月～現在に至る	空気調和・衛生工学会　地球環境委員会委員長
平成 19 年 4 月～現在に至る	建築・環境 省エネルギー機構　省エネルギー推進委員会　給湯部会部会長
平成 19 年 4 月～平成 23 年 3 月	文科省　科学研究費補助金　基盤研究 (B)　非定常気流・温熱環境解析手法を用いたバーチャルハウスシミュレータの開発分担
平成 19 年 4 月～平成 22 年 3 月	科学研究費補助金 日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究 (B)(一般) 195 千円 （CFD を主軸とした住宅の温熱環境解析に関する研究）（研究分担者）

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部建築学科	職名 准教授	氏名 中井　邦夫	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
実例ヴィジュアル教材と大型プロジェクターによる授業	平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 9 月 30 日	（授業科目：建築計画 A）教科書のみならず，最新の事例をカラー写真や図面資料などの豊富なヴィジュアル教材を大型プロジェクターによって映写し解説することにより，学生の関心を引き出し，より具体的な実感を与えることができた。
講義と製図との連動方式の採用	平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 9 月 30 日	（授業科目：建築計画 A，設計製図２）名作建築作品事例の紹介を講義授業で行い，製図授業においてその事例の図面を自らトレースすることにより，通常の製図の授業のみでは達成しにくい，設計意図の理解と実践的な図面制作との連続的な習得を可能とした。
実践的な設計活動と職能の学修	平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 9 月 30 日	（授業科目：設計製図２）実践的な能力が重要視される設計製図の特質を考慮し，一級建築士資格を有する実務家の非常勤講師を招き，実践的な設計活動について学修させるとともに，建築設計という職能についての理解を深める。
2　作成した教科書、教材		なし
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
住宅 70 年代・狂い咲き	共著	平成 18 年 2 月	エクスナレッジ	今村創平，植田実，奥山信一，倉方俊輔，塩崎太伸，塚本由晴，中井邦夫，中谷礼仁，長田直之，西沢立衛，藤本壮介，松本　正，南　泰裕，山本想太郎	pp.119-121 頁
論文					
現代日本の博物館建築における立地環境と外形構成―外形ヴォリュームの分節による建築の構成形式に関する研究 (4)	共著	平成 18 年 9 月	日本建築学会計画系論文集第 607 号	中井邦夫，森山ちはる，坂本一成	33-40 頁
街路に面した商業建築の外形表現―外形ヴォリュームの分節による建築の構成形式に関する研究 (5)	共著	平成 19 年 12 月	日本建築学会計画系論文集第 622 号	中井邦夫，根本理恵，坂本一成	65-70 頁
その他					
（建築作品）ベセトシアター	共著	平成 17 年 3 月	「新建築」（新建築社）80,（3）	小倉亮子＋中井邦夫／ＮＯＤＥＳＩＧＮ	224-225 頁
ベセトシアター	共著	平成 17 年 11 月	日経アーキテクチュア「Next-A」（日経 BP 社）2005 年 11 月 14 日号	小倉亮子＋中井邦夫／ＮＯＤＥＳＩＧＮ	21 頁
（論説）素材・空間・空気感―建築的実践の先にあるもの	単著	平成 18 年 8 月	「ザ・藤森照信」（エクスナレッジ）		
有料老人ホーム・グリーンヒル	共著	平成 19 年 2 月	保健･医療･福祉施設建築情報シート集 2007，日本医療福祉建築協会	中井邦夫＋小倉亮子／ＮＯＤＥＳＩＧＮ	
（建築作品）有料老人ホーム・グリーンヒル	共著	平成 19 年 11 月	日経アーキテクチュア（日経 BP 社）2007 年 11 月 26 日号	中井邦夫＋小倉亮子／ＮＯＤＥＳＩＧＮ	92-95 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
（論説）50 年代小住宅への新たな視点―絶対スケール空間という仮説	単著	平成 20 年 2 月	「住宅デザインの教科書　現代住宅の読み解き方」(エクスナレッジ)		92-97 頁
モダニズムから学ぶこと		平成 20 年 2 月	「住宅デザインの教科書　現代住宅の読み解き方」(エクスナレッジ)		84-91 頁
「貝殻屋根の家」	共著	平成 20 年 8 月	建築家と考えるセカンドハウス，エクスナレッジ	小倉亮子，中井邦夫，畠山健一	98-99 頁
窓先空所の立体構成　―3 階建て住宅作品における窓先空所（2）	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会 2008 年大会（中国）学術講演梗概集 (F-2)	長谷川千夏，坂本一成，根本理恵，安森亮雄，久野靖広，中井邦夫，本橋良介，大内祥子，三木達朗	719-720 頁
窓先空所の平面構成―3 階建て住宅作品における窓先空所（1）	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会 2008 年大会（中国）学術講演梗概集 (F-2)	根本理恵，坂本一成，長谷川千夏，安森亮雄，久野靖広，中井邦夫，本橋良介，大内祥子，三木達朗	717-718 頁
交差点における環境要素―都市中心部の交差点の空間構成（2）	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会 2008 年大会（中国）学術講演梗概集 (F-2)	斎藤啓佑，坂本一成，安森亮雄，中井邦夫，久野靖広，本橋良介，三木達朗，大内祥子，根本理恵	715-716 頁
交差点における環境要素―都市中心部の交差点の空間構成（1）	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会 2008 年大会（中国）学術講演梗概集 (F-2)	安森亮雄，坂本一成，斎藤啓佑，中井邦夫，久野靖広，本橋良介，三木達朗，大内祥子，根本理恵	713-714 頁
駅における動線空間の構成	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会 2008 年大会（中国）学術講演梗概集 (F-2)	宮下淳平，坂本一成，中井邦夫，足立真，安森亮雄，久野靖広，大内祥子，本橋良介	417-418 頁
動線と環境要素によるランドスケープの構成類型―動線と環境要素による博物館建築のランドスケープ（2）	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会 2008 年大会（中国）学術講演梗概集 (F-2)	吉田紗織，坂本一成，久野靖広，中井邦夫，安森亮雄，大内祥子，本橋良介，三木達朗，根本理恵	409-410 頁
動線の接続パタンと環境要素―動線と環境要素による博物館建築のランドスケープ（1）	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会 2008 年大会（中国）学術講演梗概集 (F-2)	久野靖広，坂本一成，吉田紗織，中井邦夫，安森亮雄，大内祥子，本橋良介，三木達朗，根本理恵	407-408 頁
坂道における空所の立体構成 ―坂道における都市の空所（2）	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会 2008 年大会（中国）学術講演梗概集 (F-2)	菅谷祐輔，坂本一成，本橋良介，中井邦夫，安森亮雄，久野靖広，三木達朗，大内祥子，根本理恵	397-398 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
坂道における空所の平面構成 ―坂道における都市の空所（1）	共著	平成 20 年 9 月	日本建築学会 2008 年大会（中国）学術講演梗概集 (F-2)	本橋良介，坂本一成，菅谷祐輔，中井邦夫，安森亮雄，久野靖広，三木達朗，大内祥子，根本理恵	395-396 頁
（建築作品）台東区立浅草文化観光センター設計案コンペティション佳作入賞作品	共著	平成 21 年 1 月	入賞作品パネル展示会（台東区立浅草文化観光センター 1 階ホール）2009 年 1 月 15～28 日	中井邦夫，中村幸寛，松田真有，矢崎悠平，小倉亮子 NODESIGN	

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
平成 5 年 4 月～現在に至る	日本建築学会会員
平成 19 年 4 月～平成 20 年 3 月	2007 年度　東京工業大学　若手教員研究基盤整備助成

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部建築学科	職名 助教	氏名 冨井　正憲	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		なし
2　作成した教科書、教材 「新住宅Ⅰ」	～平成 15 年 10 月	（再掲、著書の No.17）
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動					
著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び 巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
新住宅Ⅰ	共著	平成 15 年 10 月	市ヶ谷出版		
論文					
旧樺太（南サハリン）神社 跡地調査報告	共著	平成 16 年 3 月	年報人類文化研究のた めの非文字資料の体系 化第 1 号		126-157 頁
その他					
空間要素	共著	平成 15 年 7 月	井上書院		26,223 頁
サハリン調査ノート		平成 15 年 12 月	神奈川大学		
アジアの住空間～韓国の空 間構成について	単著	平成 15 年 12 月	日本建築学会空間小委 員会		

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 59 年～現在に至る	大韓民国建築学会会員
昭和 60 年～現在に至る	日本建築学会会員
昭和 62 年～現在に至る	住宅総合研究財団研究助成金 1,500 千円 （朝鮮住宅営団の住宅に関する研究（1））（研究代表者）
昭和 63 年～現在に至る	住宅総合研究財団研究助成金 2,700 千円 （朝鮮住宅営団の住宅に関する研究（2））（研究代表者）
平成 13 年 3 月～現在に至る	社団法人都市住宅学会会員
平成 15 年 7 月～現在に至る	神奈川建築コンクール住宅部門審査委員委員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部建築学科	職名 助教	氏名 福井　通	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
建築教育・研究に関する出版企画・編集・実践	平成 5 年 4 月 ～平成 21 年 3 月	日本建築学会建築計画委員会に所属する出版 WG 主査・委員として，テキストを含む出版物の企画・編集・執筆を実践
建築基本用語辞典の企画・編集・執筆	平成 19 年 4 月 ～平成 21 年 3 月	建築・都市関連のビジュアルな新しい辞典「建築基本用語辞典」(仮) を企画・編集・執筆 (2009 年刊行予定)
2　作成した教科書、教材		
建築都市計画のための調査方法と分析方法（共著、日本建築学会編、井上書院）	昭和 62 年 5 月	建築計画系の若手研究者、院生、学生を対象とした調査分析方法に関する解説書。
建築外部空間（共著、市ヶ谷出版社）	昭和 63 年 7 月	「建築計画設計シリーズ全 36 巻」の内の一冊として建築的スケールの外部空間の計画設計の解説書。
地域施設の計画（共著、丸善）	平成 7 年 9 月	地域施設の計画について、分担執筆した解説書。
建築都市計画のための空間学事典（共著、日本建築学会編、井上書院）	平成 8 年 11 月	建築計画系の研究者、院生、学生を対象に空間研究のための解説書。
空間体験（共著、日本建築学会編、井上書院）	平成 10 年 12 月	学生を対象とした空間場所論の解説書。
空間演出（共著、日本建築学会編、井上書院）	平成 12 年 11 月	学生を対象とした空間演出についての解説書。
新・建築外部空間（共著、市ヶ谷出版）	平成 13 年 9 月	「建築計画設計シリーズ全 36 巻」の内の一冊で外部空間の計画設計の解説書の改訂版。
空間要素（共著、日本建築学会編、井上書院）	平成 15 年 7 月	「空間の魅力」の三部作の一冊で空間を構成する要素についての解説書。
建築都市計画のための空間学事典（改訂版、共著、日本建築学会編、井上書院）	平成 17 年 4 月	建築計画系の研究者、院生、学生を対象とした空間研究のための解説書の改訂版。
空間デザイン事典（共著、日本建築学会編、井上書院）	平成 18 年 7 月	建築学会編で初めての計画・設計のためのデザイン手法事典。空間を構築する計画・設計手法概念 20 項目を各々4-5 の用語で解説、合計 98 用語の手法で約 700 事例を用いて記述した事典。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
建築士教育の実践	平成 15 年 6 月 ～平成 17 年 5 月	神奈川県建築士会教育講習委員会委員・担当理事として，建築士の各種講習・研修会を企画・実践
専攻建築士制度	平成 17 年 6 月	CPD による建築士の技術能力認定の社会的制度である専攻建築士制度審査評議会の議長
5　その他		なし

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
空間要素　世界の建築都市デザイン	共著	平成 15 年 7 月	日本建築学会編　井上書院	福井通、空間研究小委員会委員他 45 名	
建築都市計画のための空間学事典（改訂版）	共著	平成 17 年 4 月	日本建築学会編　井上書院	福井通、空間研究小委員会委員他 43 名	
空間デザイン事典	共著	平成 18 年 7 月	日本建築学会編　井上書院	福井通、空間研究小委員会委員他 33 名	
建築設計テキスト商業施設	共著	平成 20 年 10 月		福井　通　山家京子	
論文					
カオスモスの都市 －ベナレスの外部空間－	単著	平成 15 年 5 月	「神奈川大学評論」 第 44 号 神奈川大学広報委員会		
神奈川建築コンクール　最優秀作品選評 (一般部門)	単著	平成 19 年 10 月	第 52 回　神奈川建築コンクール作品集　神奈川建築コンクール実行委員会　第 52 回 (平成 19 年度)		
その他					
要素から見た建築・都市空間の魅力	共著	平成 15 年 7 月	日本建築学会		
神奈川県建築コンクール入賞作品見学会		平成 15 年 11 月	日本建築学会 神奈川県建築士会 JIA 神奈川		
チュニジアの建築と都市空間	単著	平成 15 年 11 月	川崎市まちづくり研究会		
都市・新世紀の風景, ベナレス	単著	平成 15 年 11 月	神奈川大学		
横浜みなとみらい線駅デザイン	共著	平成 16 年 1 月	日本建築学会		
屋外広告物の表示方法	単著	平成 16 年 3 月	東京都		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
形のことば	単著	平成 18 年 7 月			
世界の集住体	単著	平成 18 年 11 月			
屋外広告物の表示の方法 1	単著	平成 19 年 8 月	東京都		
武蔵小杉地区の超高層集合住宅と再開発	共著	平成 19 年 10 月	日本建築学会		
屋外広告物の表示の方法 2	単著	平成 19 年 12 月	東京都		
「邸園文化圏再生構想」及び「旧吉田茂邸」	共著	平成 20 年 2 月	日本建築学会		

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 48 年 4 月～現在に至る	日本建築学会会員
昭和 55 年 4 月～平成 18 年 3 月	日本建築学会関東支部神奈川支所役員
昭和 57 年 4 月～平成 16 年 3 月	日本建築学会建築計画委員会空間研究小委員会委員
昭和 60 年 4 月～平成 18 年 3 月	日本建築学会関東支部神奈川支所事業小委員会委員
平成 5 年 4 月～平成 19 年 3 月	日本建築学会建築計画委員会空間研究小委員会出版 WG 委員
平成 7 年 6 月～平成 15 年 5 月	神奈川県建築士会役員会理事
平成 7 年 6 月～平成 15 年 5 月	神奈川県建築士会研修委員会委員
平成 10 年 6 月～平成 15 年 5 月	神奈川県建築士会講習委員会副委員長
平成 15 年 4 月～平成 17 年 3 月	神奈川県建設工事紛争審査会委員
平成 15 年 6 月～平成 16 年 5 月	神奈川県建築士会専攻建築士制度検討委員会委員
平成 15 年 6 月～平成 17 年 5 月	神奈川県建築士会教育講習委員会担当理事
平成 15 年 6 月～平成 17 年 5 月	神奈川県建築士会役員会常任理事
平成 15 年 6 月～平成 17 年 5 月	神奈川県建築士会教育講習委員会委員
平成 15 年 6 月～平成 17 年 5 月	神奈川建築士会・研修委員会委員
平成 16 年 1 月～平成 16 年 3 月	川崎市斜面地建築物問題研究会委員
平成 16 年 6 月～平成 18 年 5 月	神奈川県建築士会教育講習委員会担当理事
平成 17 年 4 月～平成 18 年 5 月	日本建築学会関東支部総会実行委員会委員
平成 17 年 4 月～平成 19 年 3 月	神奈川県建設工事紛争審査会委員
平成 17 年 6 月～平成 19 年 5 月	神奈川県建築士会役員会理事　副会長
平成 17 年 7 月～平成 18 年 12 月	日本建築学会全国大会 (関東) 実行委員会委員・行事部会幹事
平成 20 年 4 月～現在に至る	日本建築学会建築計画委員会空間研究小委員会出版 WG
平成 20 年 4 月～現在に至る	日本建築学会空間研究小委員会出版 WG 委員

年月	内　　容
平成 20 年 4 月～現在に至る	日本建築士会連合会資格 WG 委員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部数学教室	職名 教授	氏名 阿部　吉弘	大学院における研究指導当 資格の有無　（㊒・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 授業時間外の計算問題追試験	平成 14 年 4 月 1 日 ～平成 18 年 3 月 31 日	微分積分学 I と II の授業において、基礎的な計算試験を実施し、合格（10 問前問正解）しないものには、1 時限開始前と土曜日の午後を含む授業の空き時間に合格するまで追試験を行った。各学期、15 回から 20 回追試験を行い、ほぼ全員が合格した。これに合格することは、単位取得の必要条件とした。
2　作成した教科書、教材 使用教科書の改善（再掲）	平成 13 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 4 月 1 日	平成 10 年 4 月から使用していた「微分積分学」「線形代数」の教科書をより親しみやすい表現にし、サイズも A5 から B5 に変えた（サイズに関しては、私の発案）。「線形代数」の第 7 章「工学への応用」を新たに執筆し、学生（工学部）の関心を引くよう努めた。「微分積分学」の pp.70-74、「有理関数の積分」の項目は、まったく一新した記述になり、好評を博した（2001 年 4 月）。その後、毎年、学生のレベルに応じて記述を変更している。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		

II　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
選択公理（岩波数学辞典第４版-239）	共著	平成 19 年 3 月	『岩波数学辞典第 4 版』（岩波書店）		716-717 頁
巨大基数（岩波数学辞典第 4 版-104）	共著	平成 19 年 3 月	『岩波数学辞典第 4 版』（岩波書店）		296-299 頁
論文					
Notes on subtlety and ineffability in $\mathcal{P}_\kappa\lambda$	単著	平成 17 年 7 月	Arch. Math. Logic, Vol. 44, No.5		619-631 頁
A counterpart of strong normality	単著	平成 18 年 2 月	京都大学数理解析研究所考究録, 1471		1-8 頁
その他					
Ineffability of $P_\kappa\ \lambda$ when $cf(\lambda) < \kappa$	単著	平成 15 年 8 月	Logic Colloquium '03(European Summer Meeting of the Association for Symbolic Logic)University of Helsinki(ヘルシンキ，フィンランド)		
How small is the weak partition ideal ?	単著	平成 16 年 3 月	日本数学会年会, 筑波大学		
Saturation of the weak partition ideal	単著	平成 16 年 9 月	日本数学会秋季総合分科会, 北海道大学		
Notes on Partition ideals on $P_\kappa\lambda$	単著	平成 16 年 10 月	強制法と巨大基数公理, 京都大学数理解析研究所		
A Counterpart of strong normality for non-inaccessible κ	単著	平成 17 年 10 月	強制法と無限組合せ論、京都大学数理解析研究所		
A fact imprimented in Usuba's results	単著	平成 18 年 3 月	日本数学会年会, 中央大学		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
On the coincidence of ineffability with the partition property	単著	平成 19 年 9 月	日本数学会秋季総合分科会　東北大学		
Kunen's theorem on normal measures without the partition property	単著	平成 20 年 9 月	The 10th Asian Logic Conference、神戸大学		

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 58 年 4 月～現在に至る	日本数学会会員
平成 9 年 8 月～現在に至る	Association for Symbolic Logic 会員
平成 10 年 4 月～現在に至る	American Mathematical Society 会員
平成 14 年 4 月～平成 16 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 (C)(1) 1,400 千円 （巨大基数公理と関連する Ｐ κ λ 上のイデアルと無限組み合わせ論）（研究代表者）
平成 16 年 4 月～平成 18 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 (C) 1,500 千円 （P κ λ 上のイデアルと無限組み合わせ論への pcf の応用と独立性証明）（研究代表者）
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究（Ｃ） 1,400 千円 （巨大基数公理及び連続体仮説との関連でみたＰ κ λ 上のイデアル論）（研究代表者）
平成 20 年 4 月～平成 23 年 3 月	（受託研究）科学研究費補助金「無限組み合わせ論における諸原理とコンパクト基数」(2,100 千円)
平成 20 年 4 月～平成 23 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究（C) 2,100 千円 （無限組み合わせ論における諸原理とコンパクト基数）（研究代表者）

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部数学教室	職名 教授	氏名 伊藤　博	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 小テストの実施	平成 19 年 4 月 1 日 ～現在に至る	微積分学と幾何学において，きめ細かく理解を確認するために，２週間に１回程度の割合で小テストを実施した。
2　作成した教科書、教材 工学を志す人の微分積分 工学を志す人の線形代数	 平成 16 年 3 月 平成 17 年 10 月	 第０章「初等関数」を執筆 第１章～第３章を執筆
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動					
著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び 巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
A density result for elliptic Dedekind sums	単著	平成 16 年 3 月	Acta Arith. 112		199-208 頁
その他					

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 58 年 4 月～現在に至る	日本数学会会員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部数学教室	職名 教授	氏名 酒井　政美	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		なし
2　作成した教科書、教材		
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
The Pytkeev property and the Reznichenko property in function spaces	単著	平成 15 年	Note de Matematica vo. 22		43-52 頁
Subparacompactness and submetacompactness of σ-products	共著	平成 15 年	Topology Appl.Vol.129		153-158 頁
Free topological groups over ω_μ-metrizable spaces	共著	平成 16 年	Houston J. Math. vol. 30		1039-1053 頁
Counterexamples on generalized metric spaces	単著	平成 18 年	Scientiae Mathematicae Japonicae64		73-76 頁
Two properties of $C_p(X)$ weaker than the Fréchet Urysohn property	単著	平成 18 年	Topology and its Applications153		2795-2804 頁
On dense subspaces of $C_p(X)$	単著	平成 19 年	Note di Matematica27,（1）		41–46 頁
Counterexamples on the images of locally separable metric spaces	共著	平成 19 年	Topology Proceedings31,（1）	S. Lin	181–187 頁
Weak-open maps and sequence-covering maps	単著	平成 19 年	Scientiae Mathematicae Japonicae66		67–71 頁
Special subsets of reals characterizing local properties of $C_p(X)$	単著	平成 19 年	Quaderni di Matematica18		195-225 頁
κ-Fréchet Urysohn property of $C_k(X)$	単著	平成 19 年	Topology and its Applications154		1516-1520 頁
The sequence selection properties of $C_p(X)$	単著	平成 19 年	Topology and its Applications154		552-560 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Mapping theorems on aleph-spaces	単著	平成 20 年	Comment. Math. Univ. Carolin.49,（1）		163–167 頁
その他					
Remark on weak Frechet-Urysohn property in function spaces	単著	平成 15 年 6 月	Conference on Topology and its Applications in Honor of Alexander Arhangel'skii		
On κ-Fréchet Urysohn property of function spaces	単著	平成 16 年 12 月			

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 63 年 4 月～現在に至る	日本数学会会員
平成 19 年 4 月～平成 22 年 3 月	科学研究費補助金 基盤Ｃ　一般 1,200 千円 （関数空間の局所的性質の研究から導かれる実数の特異部分集合とその臨界濃度の研究）（研究代表者）

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部数学教室	職名 教授	氏名 長　宗雄	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		なし
2　作成した教科書、教材		なし
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
The Quadratic Moment Matrix E(1)	共著	平成 15 年 5 月	Sci. Math. Japon. 7	共著者：Chunji Li	231-239 頁
Aluthge transformations and invariant subspaces of p-hyponormal operators	共著	平成 15 年 7 月	Hokkaido Math. J. 32	共著者：古谷　正	445-450 頁
On approximate point joint spectrum of p-hyponormal and log-hyponormal operators	共著	平成 15 年 7 月	Commentationes Mathematicae 63	共著者：山崎丈明, A. Soltysiak	33-41 頁
p-hyponormality is not translation-invariant	共著	平成 15 年 10 月	Proc. Amer. Math. Soc. 131	共著者：J. I. Lee	3109-3111 頁
Riemann-Hilbert problem for operators associated with hyponormal operators and increasing functions	共著	平成 15 年 11 月	International J. Pure Appl. Math. 2	共著者：古谷　正	145-151 頁
Spectral mapping theorems for hyponormal operators	共著	平成 15 年 12 月	Math. Proc. Royal Irish Acad. 103A(2)	共著者:古谷　正, 儀我真理子, Young Min Han	209-216 頁
Spectral mapping properties for hyponormal operators	共著	平成 15 年 12 月	Acta Sci. Math. (Szeged) 69	共著者：古谷　正，Y. M. Han	789-800 頁
Tensor Products of log-hyponormal and of classs $A(s,t)$ operators	共著	平成 16 年 1 月	Glasgow Math. J.46	共著者：棚橋浩太郎	91-95 頁
Trace formulae for p-hyponormal operators	共著	平成 16 年 1 月	Studia Math. 161	共著者：古谷　正	1-18 頁
Mosaic and Principal Functions of log-hyponormal Operators	共著	平成 16 年 4 月	Integr. Equat. Oper. Th. 48	共著者：古谷　正，山崎丈明	295-304 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Isolated points of spectrum of (p,k)-hyponormal perators	共著	平成 16 年 5 月	Linear Algebra and Appl. 382(2004)	共著者：内山　敦，棚橋浩太郎	221-229 頁
Relations between principal functions of p-hyponormal operators	共著	平成 17 年 1 月	J.Math. Soc.Japan57(2005)	共著者：古谷　正	605-618 頁
Unitary dilation for polar decompositions of p-hyponormal operators	共著	平成 17 年 5 月	Banach Center Publications 67(2005)	共著者：古谷　正、棚橋浩太郎	139-144 頁
Trace formulae associated with the polar decomposition of operators	共著	平成 17 年 8 月	Math.Proc.Royal Irish Acad.105A(2005)	古谷　正、C, Li	57-69 頁
Riez Idempotent and Algebraically M-hyponormal operators	共著	平成 17 年 10 月	Integr. Equat. Oper. Th. 53(2005)	Y. M. Han	311-321 頁
On Aluthge transform of p-hyponormal operators	共著	平成 17 年 10 月	Integr. Equat. Oper. Th. 53(2005)	共著者：I. B. Jung, W. Y. Lee	321-329 頁
An operator transform from class A to the class of hyponomal operators and its application	共著	平成 17 年 12 月	Integr. Equat. Oper. Th. 53(2005)	共著者：山崎丈明	497-508 頁
Principal functions for high power of operators	共著	平成 18 年 6 月	Tokyo J. Math.29	共著者：古谷　正、 An Hyun Kim、Chunji Li	111-116 頁
Trace formulae associated with the polar decomposition of operators	共著	平成 18 年 6 月	Math. Proc. Royal Irish Acad.105	共著者：古谷　正，Chunji Li	57-69 頁
Trace formulae of p-hyponormal operators II	共著	平成 18 年 7 月	Hokkaido Math. J.35	共著者：古谷　正	2006 頁
A simple proof of Xia's proposition	共著	平成 19 年 7 月	Inter. Math. Forum2, (41-44)	共著者：古谷　正，瀬戸道生	2079-2082 頁
Spectral area estimations for norms of commutators	共著	平成 19 年 7 月	. Korean Math. Soc.44, (4)	共著者：中路貴彦	855-861 頁
Putnam's inequality for class A operators and an operator transform by Cho and Yamazaki	共著	平成 19 年 10 月	Sci. Math. Japon.	共著者：S. M. Patel, 棚橋浩太郎，内山 敦	613-621 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Xia Spectrum for Some Class of Operators	共著	平成 20 年 6 月	Integr. Equat. Oper. Theory61	共著者：古谷　正、棚橋浩太郎	159-165 頁
Spectrum and principal functions of operators	共著	平成 20 年 10 月	Operator Theory: Advances and Applications187	共著者：儀我真理子, An Hyun Kim	117-123 頁
On the operator equation $AB = zBA$	共著	平成 21 年 2 月	Scienticae Mathematicae Japonicae	共著者：山崎丈明，J. I Lee	49–55 頁
On Xia's Proposition	共著	平成 21 年 2 月	Intenational Math. Forum4	共著者：古谷　正, Jun Ik Lee	161-164 頁
その他					
数学の学力向上に向けての課題		平成 18 年 2 月	教職課程（共同出版）第 2 月号		8-11 頁
教員採用試験と教科専門科目「数学」		平成 20 年 3 月	教員の養成・免許・採用・研修（教育開発研究所）		100-104 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
平成 10 年 6 月～現在に至る	作用素論国際研究集会 (KOTAC) 組織委員
平成 11 年 4 月～平成 17 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究C （コンピューターを利用した作用素不等式とスペクトルの研究）（研究代表者）
平成 14 年 4 月～現在に至る	日本数学会会員
平成 14 年 4 月～平成 16 年 3 月	日本数学会関数解析学分科会委員
平成 17 年 4 月～現在に至る	作用素論国際研究集会（IWOTA2006）組織委員
平成 17 年 4 月～平成 20 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究C 一般 3,200 千円 （情報理論におけるシャノンの不等式の作用素版への一般化とその応用）（研究代表者）
平成 18 年 7 月～平成 20 年 6 月	日本数学会数学編集委員
平成 18 年 7 月～平成 22 年 6 月	日本数学会「数学」編集委員
平成 19 年 2 月～平成 21 年 1 月	文部科学省その他（科学技術・学術審議会専門委員（技術士））
平成 20 年 4 月～平成 23 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 （C) 3,500 千円 （非可換力学系の関数解析的基礎研究および位相力学系と作用素論との交流理論の研究）（研究代表者）

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部数学教室	職名 教授	氏名 本間　正明	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 学生の授業評価アンケート結果の活用	平成 17 年 4 月 1 日 ～現在に至る	（授業科目：幾何学 I）2004 年度の「学生による授業評価アンケート」において，この授業を難しいと感じる学生が四半分以上いることに衝撃を受け，授業内容を可能な限り噛み砕いて再構成し，2008 年度にはそのように感じる学生が 10 %以下になるまでに改善された.
2　作成した教科書、教材		なし
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他 工学部 FD 小委員会委員	平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 21 年 3 月 31 日	工学部 FD 活動の一環として，教室系教員による研究公開授業についての arrangement を担当した.

II　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
Various aspects of codes on a Hermitian curve	単著	平成 15 年	Proceeding of the fifth conference on Algebraic Geometry,Number Theory,Coding Theory and Cryptography		48-54 頁
Hermitian 曲線上の 2 点符号 (予報)	単著	平成 16 年	数理解析研究所講究録 1361「符号と暗号の代数的数理」		152-161 頁
Conics with a Hermitian curve	単著	平成 16 年	2004 代数幾何学シンポジウム報告集		67-75 頁
Correction to our paper:Projective systems supported on the complement of two linear subspaces(Bull.Korean Math.Soc.37(2000),493-505)	共著	平成 16 年	Bull.Korean Math.Soc.Vol.41		19-25 頁
Hermitian 曲線の幾何と符号	単著	平成 17 年	数理解析研究所講究録 1420「符号と暗号の代数的数理」		
Toward the determination of the minimum distance of two-point codes on a Hermitian curve	共著	平成 17 年 10 月	Designs, Codes and Cryptography Vol. 37		111-132 頁
The two-point codes on a Hermitian curve with the designed minimum distance	共著	平成 18 年 1 月	Designs, Codes and Cryptography, Vol. 3838		55-81 頁
The Two-Point Codes with the Designed Distance on a Hermitian Curve in Even Characteristic	共著	平成 18 年 6 月	Designs, Codes and Cryptography39	Masaaki HommaSeon Jeong Kim	375-386 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
The Complete Determination of the Minimum Distance of Two-Point Codes on a Hermitian Curve	共著	平成 18 年 7 月	Designs, Codes and Cryptography40	Masaaki HommaSeon Jeong Kim	5-24 頁
A semigroup at a pair of Weierstrass points on a cyclic 4-gonal curve and a bielliptic curve	共著	平成 18 年 11 月	Journal of Algebra	M. Homma, S.J. Kim and J. Komeda	1-17 頁
Galois Points for a Hermitian Curve	単著	平成 18 年 12 月	34,（12）		4503 - 4511 頁
The Galois group of a projection of a Hermitian curve	単著	平成 19 年	Int. J. Algebra1		563 - 585 頁
Weierstrass 半群と Goppa 符号	単著	平成 20 年 6 月	数理解析研究所講究録「代数，言語のアルゴリズムと計算理論」1604		90-100 頁
The second generalized Hamming weight for two-point codes on a Hermitian curve	共著	平成 21 年 1 月	Designs, Codes and Cryptography50,（1）	Masaaki HommaSeon Jeong Kim	1-40 頁
その他					
Hermitian 曲線上の 2 点符号	単著	平成 15 年 11 月	符号と暗号の代数的数理（京都大学数理解析研究所）		
Conics with a Hermitian curve	単著	平成 16 年 2 月	2004 代数幾何学シンポジウム（ウエルシティ新潟）		
Hermitian 曲線の幾何と符号	単著	平成 16 年 11 月	符号と暗号の代数的数理（京都大学数理解析研究所）		

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
～現在に至る	（国際共同研究）「代数曲線上の特殊因子理論とその符号理論への応用」
昭和 55 年～現在に至る	日本数学会会員
平成 5 年～現在に至る	アメリカ数学会会員
平成 10 年 4 月～現在に至る	日本応用数理学会会員
平成 15 年 4 月～平成 17 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究（C）(1) 2,000 千円 （代数幾何と有限幾何による符号理論）（研究代表者）
平成 17 年 4 月～平成 19 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究C 一般 1,800 千円 （符号理論に動機づけられた代数曲線論）（研究代表者）
平成 18 年 3 月～平成 18 年 3 月	研究集会「リーマン面，代数曲線，符号」の主催者
平成 19 年 4 月～平成 21 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 (C) 1,700 千円 （有限体上の組み合わせ論的代数幾何とその応用）（研究代表者）

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部数学教室	職名 教授	氏名 矢島　幸信	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		なし
2　作成した教科書、教材		なし
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他 補習授業の実施	平成 18 年 4 月	高校在学中に微分積分学の基礎をほとんど習得しないまま工学部に入学してくる学生が多い。そのため、微分積分学を中心に補習授業を元高校の先生に担当させている。単位にならない授業であるが、数年間をかけてようやくそのシステムが整いつつあり、他大学からも評価されるに至った。

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
Encyclopedia of General		平成 16 年	Elsevier Science		60-64 頁
論文					
Covering properties of inverse limits, II	共著	平成 15 年	Topology Proceedings27,（1）	Keiko Chiba	79-100 頁
Subparacompactness and submetacompactness of σ-products	共著	平成 15 年	Topology and its Applications129,（2）	Masami Sakai	153-158 頁
Characterizations of paracompactness and Lindelofness by separation property	単著	平成 15 年	Proceedings of the American Mathematical Society131,（4）		1297-1302 頁
A base property in paracompact products and its applications	単著	平成 16 年	Topology and its Applications142,（1）		19-30 頁
Characterizations of normal covers of rectangular products	単著	平成 18 年	Topology and its Applications153		3220-3229 頁
Rectangular products with ordinal factors	共著	平成 19 年	Topolgy and its Applications154,（3）	Nobuyuki Kemoto	758-770 頁
Strong beta-spaces and their countable products	単著	平成 19 年	Houston Journal of Mathematics		
Normal covers of infinite products and normality of Sigma-products	単著	平成 19 年	Topology and its Applications154,（1）		103-114 頁
その他					
なし					

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
～現在に至る	日本数学会会員
平成元年 4 月～平成 17 年 3 月	技術士（第 1 次試験) 試験委員
平成 11 年 9 月～現在に至る	横浜コンベンションビューロ 100 千円 （市民講座共催負担金）（研究代表者）
平成 11 年 11 月～現在に至る	日本万国博覧会記念協会補助金 1,000 千円 （同国際会議・開催経費の一部援助）（研究代表者）
平成 13 年 3 月～平成 17 年 1 月	科学技術・学術審議会（技術士分科会）専門委員
平成 13 年 4 月～平成 16 年 3 月	日本留学試験基礎学力 (数学) 問題作成委員
平成 15 年 4 月～平成 18 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究（C) 3,000 千円 （M3 問題への新しい方向からの考察）（研究代表者）
平成 18 年 8 月～平成 18 年 10 月	平成１７年度技術士第一次試験審査委員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部数学教室	職名 特任教授	氏名 何森　仁	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
授業プリントの活用	平成 17 年 4 月 1 日 ～平成 18 年 3 月 31 日	(授業科目：幾何学 A・B) 教科書の他に、ないよう理解を深めるため授業プリントを作成した。問題演習にも活用でき、学生にも好評であった。
授業プリント及び教材の活用	平成 18 年 4 月 1 日 ～現在に至る	(授業科目：微分積分学入門) 工学で必要な微積分に苦手意識を持たせないために、学生が「自分で考え理解する」ように心がけている。毎回、授業プリントを配り、説明→理解→演習→確認を基本としている。また、微分の概念をより理解する教具を開発し、授業で使用している。授業アンケートでも好評である。
授業プリントの活用	平成 18 年 4 月 1 日 ～現在に至る	(授業科目：幾何学　) 授業プリントを教科書と併用して授業を進めている。概念説明→理解→演習を基本としている。学生は、大変積極的に黒板にでて自らの解答を板書してくれる。なるべく机間を歩き学生ノートを見ている。中間テストの結果に応じて、課題を出し理解度を点検するようにしている。
2　作成した教科書、教材		なし
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動					
著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び 巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
図形・空間の意味がわかる	共著	平成 15 年 9 月	ベレ出版		
パソコン数学博物館	単著	平成 17 年 11 月	東京図書		
ボクもギリシャの数学者	共著	平成 19 年 1 月	日本評論社	何森仁江藤邦彦、小沢健一、近藤年示、時永晃	
検定外高校数学 (上)	共著	平成 19 年 10 月		何森仁、小島順 編著	
論文					
なし					
その他					
目であそぶ	単著	平成 16 年 1 月	毎日新聞		
数楽教育の仕方・数学教材のいろいろ・数学・情報の授業	単著	平成 16 年 7 月	津田塾大学フォーラム		

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 53 年 4 月～現在に至る	数学教育協議会会員
平成 17 年 10 月～現在に至る	日本数学会会員
平成 20 年 4 月～平成 23 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 (C) 4,550 千円 （能動的数学理解を促進する教材・教具開発）（研究代表者）

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部数学教室	職名 准教授	氏名 永野　與彦	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・㊡）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
FD 委員会開催の研究授業実施	平成 19 年 10 月 26 日	2 年次対象の「微分積分学 III」において、「多変数関数の極大、極小」を題材として、公開研究授業を実施。10 月 30 日に講評会を開催。講評会では、板書、出席、私語などについて高評価を受けた。一方で学習のフィードバックについては有益なアドバイスを頂いた。
授業評価結果	平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 21 年 1 月 31 日	授業評価結果を受けて、学生の授業参加への意欲を引き出すための講義方法の改善が、さらに、必要であると思っている。 補助教材（プリント、図等）の配布　演習時間の大幅な増加　オフィスアワーの設定（ほとんど毎日実施）　学生自身による黒板での解説 等、実施してきたが、まだ、十分でないように思える。さらに、 コンピュータ環境を利用した資料配布、演習問題の提示　教具等を利用した講義（数学教室で教具の研究を行っている先生が存在）　学習のフィードバック方法の改善 等、今後実施するつもりである。
2　作成した教科書、教材		
工学を志す人の線形代数	平成 19 年 4 月 1 日	1 年次履修「幾何学」の教科書を全面改訂。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
神奈川大学工学部　「優秀講義賞」受賞	平成 20 年 3 月 3 日	2007 年度後期「優秀講義賞」を受賞。
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動					
著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び 巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
その他					
なし					

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
～現在に至る	日本数学会会員

Ⅴ　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部数学教室	職名 准教授	氏名 堀口　正之	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 インターネットを利用した授業のサポート	平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	授業科目（ＦＹＳ、微分積分学Ⅰ、ⅠⅠ、ⅠⅠⅠ、幾何学Ⅰ、ⅠⅠ）授業時に行っている小テストの解答や授業時の配布資料、教材等をインターネットから自由に閲覧できるように準備し、授業の復習に役立てられるようにしている。
2　作成した教科書、教材 インターネットを活用した教材作成	平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	担当科目（微分積分学Ⅰ，ⅠI，III，幾何学Ⅰ，ⅠⅠ）において、授業用の公開ＨＰを作成し、授業時に行うマークシート式小テスト教材（プリント）と解答を講義期間中にインターネット上で公開している（各講義科目 A4 版 10 枚程度）。また、授業中に例示した Mathematica で作成した教材（極値や固有値の３Ｄ視覚化）も閲覧できるように公開した。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
情報系の微分積分学	共著	平成 16 年 3 月	東京電機大学出版局	田沢義彦、新津靖、白川健、堀口正之	
情報系の線形代数	共著	平成 16 年 8 月	東京電機大学出版局	田沢義彦、新津靖、白川健、堀口正之	
工学を志す人の線形代数（長宗雄・永野與彦編）	共著	平成 20 年 4 月	東京教学社	阿部吉弘、伊藤博、酒井政美、長宗雄、永野與彦、堀口正之、矢島幸信、山崎丈明	
工学を志す人の微分積分(長宗雄・伊藤博編)	共著	平成 20 年 4 月	東京教学社	阿部吉弘、伊藤博、酒井政美、長宗雄、永野與彦、堀口正之、矢島幸信、山崎丈明	
論文					
Stopped Semi-Markov Decision Processes with Multiple Constraints	共著	平成 16 年 12 月	In: The Proceedings of the Third International Conference on Nonlinear Analysis and Convex Analysis	M. Horiguchi and M. Kurano	81-96 頁
A structured pattern matrix algorithm for multichain Markov decision processes	共著	平成 17 年 12 月	京都大学数理解析研究所講究録「最適化数理の手法と実際」	T. Iki, M. Horiguchi and M. Kurano	202-213 頁
A learning algorithm for communicating Markov decision processes with unknown transition matrices	共著	平成 18 年 3 月	京都大学数理解析研究所講究録「不確実性の下での意思決定と数理モデル」	T. Iki, M. Horiguchi, M. Yasuda and M. Kurano	127-135 頁
A modified pattern matrix algorithm for multichain MDPs	共著	平成 18 年 7 月	京都大学数理解析研究所講究録 1504「情報決定過程論の展開」(The development of Information and Decision Processes), 73-86	T. Iki and M. Horiguchi	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
マルコフ決定過程における TD 法による学習アルゴリズムについて (A learning algorithm of TD method for Markov decision processes)	共著	平成 19 年 6 月	京都大学数理解析研究所講究録 1559「最適化問題における確率モデルの展開と応用」(Developments of probability models on optimization problems), 34-49	M. Horiguchi, M. Yasuda and M. Kurano	
Temporal Difference-Based Adaptive Policies in Neuro Dynamic Programming	共著	平成 19 年 8 月	In: 4th International conference on Proceedings of Modeling Decisions for Artificial Intelligence (MDAI) 2007 (CD-ROM Proceedings), Vicen c Torra, Yasuo Narukawa, Yuji Yoshida (Eds.), ISBN 978-84-00-08359-1	T. Iki, M. Horiguchi, M. Yasuda and M. Kurano	112-122 頁
A structured pattern matrix algorithm for multichain Markov decision processes	共著	平成 19 年 11 月	Mathematical Methods of Operations Research66	T. Iki, M. Horiguchi and M. Kurano	545-555 頁
A learning algorithm for communicating Markov decision processes with unknown transition matrices	共著	平成 19 年 12 月	Bulletin of Informatics and Cybernetics39	T. Iki, M. Horiguchi, M. Yasuda and M. Kurano	11-24 頁
区間ベイズ推定による適応型品質管理	共著	平成 20 年 4 月	京都大学数理解析研究所講究録 1589「不確実な状況における意思決定の理論と応用」(Theory and application of decision analysis in uncertain situation), 120-129	佐々木 稔、堀口 正之、蔵野 正美	
A pattern-matrix learning algorithm for adaptive MDPs:The regularly communicating case	共著	平成 20 年 4 月	京都大学数理解析研究所講究録 1589「不確実な状況における意思決定の理論と応用」(Theory and application of decision analysis in uncertain situation), 110-119	T. Iki, M. Horiguchi, M. Yasuda and M. Kurano	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
マルコフ決定過程における適応型アルゴリズム (Adaptive Algorithms for Markov Decision Processes)	単著	平成 20 年 11 月	神奈川大学工学研究所所報 31		22-29 頁
ダイナミックプログラミングを用いたファジィメトリッククラスタリング (Fuzzy Metric Clustering Based on Dynamic Programming)	共著	平成 21 年 2 月	京都大学数理解析研究所講究録 1630「非加法性の数理と情報：非加法性と凸解析」, pp.77-88	Iwamura, Horiguchi, Horiike	
その他					
Constrained semi-Markov decision processes with stopping times	共著	平成 15 年 9 月	日本数学会 2003 年度秋季総合分科会統計数学分科会講演アブストラクト pp.63–64		
Fuzzy Metric Clustering and Dynamic Programming	共著	平成 16 年 3 月	日本オペレーションズリサーチ学会 2004 年春季研究発表会アブストラクト集 pp.150–151		
Stopped semi-Markov decision processes and mathematical programming	単著	平成 17 年 3 月	日本数学会 2005 年度年会統計数学分科会講演アブストラクト集 pp.45–46		
A learning algorithm for communicating Markov decision processes with unknown transition matrices	共著	平成 18 年 3 月	日本数学会 2006 年度年会統計数学分科会講演アブストラクト pp.75–76		
教員の連携による初年次学生の学習経験多様化を改善するための取り組みについて	共著	平成 19 年 8 月	平成 19 年度高専教育講演論文集	浜中俊一、坂内宏行、藤井清治、堀口正之、上江憲治、石橋洋二	55-58 頁
Adaptive Markov decision processes based on temporal difference method	共著	平成 19 年 9 月	日本数学会 2007 年度秋季総合分科会統計数学分科会講演アブストラクト pp.125–126		

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
A pattern-matrix learning algorithm for adaptive MDPs: The regularly communicating case	共著	平成 19 年 9 月	Fuzzy theory and application academic conference of China and Japan（日中友好学術交流会－ファジィ理論とその応用), 天津理工大学 (中国)	T. Iki, M. Horiguchi, M. Yasuda and M. Kurano	25-35 頁
初年次学生の多様化する学習経験を改善するための教員の連携と実践 (Improving the insufficiency of first-year students 'study experiences through cooperation between teachers)	共著	平成 20 年 3 月	論文集「高専教育」第 31 号、独立行政法人高等専門学校機構（31）	堀口正之、浜中俊一、上江憲治、藤井清治、坂内宏行、石橋洋二	559-564 頁
Adaptive algorithm for MDPs using pattern-matrix learning method	共著	平成 20 年 9 月	日本数学会 2008 年度秋季総合分科会統計数学分科会講演アブストラクト pp.121–122		
高大連携出張講義「身近にある数学の問題」		平成 21 年 2 月			
Bayesian approach to uncertain MDPs with intervals of prior measures	共著	平成 21 年 3 月	日本数学会 2009 年度年会統計数学分科会講演アブストラクト	Horiguchi, Iki, Yasuda, Kurano	pp. 81–82 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
平成 12 年 4 月～現在に至る	日本数学会会員
平成 16 年 3 月～現在に至る	日本オペレーションズ・リサーチ学会会員
平成 16 年 4 月～平成 19 年 3 月	科学研究費補助金 若手研究 (B) 2,100 千円 （停止構造を持つマルコフ決定過程における数理モデルの研究）（研究代表者）
平成 18 年 7 月～現在に至る	日本数学教育学会会員
平成 19 年 4 月～平成 21 年 3 月	科学研究費補助金 若手研究（B) （意思決定過程における時間差分制御の研究とその応用）（研究代表者）
平成 19 年 11 月～現在に至る	Journal of Artificial Intelligence Research（国際雑誌）reviewer

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部数学教室	職名 准教授	氏名 山崎　丈明	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
小テストの実施	平成 16 年 4 月 ～現在に至る	毎時間授業開始と同時に小テストを行っている。その問題と解答を web で公開している。
授業の要望に対する迅速な対応	平成 20 年 4 月 ～現在に至る	学生からメールなどで寄せられる要望に対して、web で返事を公開し講義に反映させている。
2　作成した教科書、教材		
小テストの実施	平成 16 年 4 月 ～現在に至る	毎時間講義開始時に小テストを行い、問題と解答を web で公開している。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
The iterated Aluthge transforms of a 2–by–2 matrix converge	共著	平成 15 年	Linear Algebra Appl., 375(2003)		299-309 頁
On approximate point joint spectrum of p-hyponormal and log-hyponormal operators	共著	平成 15 年	Comment. Math. Prace Mat., 43(2003)		33-41 頁
Relations between two operator inequalities and their applications to paranormal operators	共著	平成 15 年	Acta Sci. Math. (Szeged), 69(2003)		,377-389 頁
Generalizations of results on relations between Furuta-type inequalities	共著	平成 15 年	Acta Math Sci. (Szeged), 69(2003)		,853-862 頁
On generalized numerical range of the Aluthge transformation	共著	平成 15 年	Linear Algebra Appl., 370(2003)		,147-161 頁
On the polar decomposition of the product of two operators and its applications	共著	平成 16 年	Integral Equations Operator Theory, vol. 49		461-472 頁
On the polar decomposition of the Aluthge transformation and related results	共著	平成 16 年	J. Operator Theory, Vol. 51		303-319 頁
Mosaic and principal functions of log-hyponormal operators	共著	平成 16 年 4 月	Integral Equations Operator Theory, 48(2004, 4 月)		,295-304 頁
On conparisons of norms and the numerical ranges of an operator with its generalized Aluthge transformation	共著	平成 17 年	Scientiae Mathematicae Japonicae62	S.M. Patel, 山崎丈明	349–361 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
On comparisons of norms and the numerical ranges of an operator with its generalized Aluthge transformation	共著	平成 17 年	Sci. Math. Jpn., Vol. 62 (2005)		349–361 頁
An operator transform from class A to the class of hyponormal operators and its application	共著	平成 17 年	Integral Equations Operator Theory, Vol. 53 (2005).		497–508 頁
An extension of Kantorovich inequality to n-operators via the geometric mean by Ando-Li-Mathias	単著	平成 18 年	Linear Algebra and its Applications416		688–695 頁
A remark on support of the principal function for class A operators	共著	平成 19 年	Integral Equations and Operators Theory57,（3）	Muneo Cho, Mariko Giga, Tadasi Huruya, Takeaki Yamazaki	303-308 頁
On upper and lower bounds of the numerical radius and an equality condition	単著	平成 19 年	Studia Mathematica178		83–89 頁
On the operator equation AB=zBA	共著	平成 21 年	Scientiae Mathematicae Japonicae69,（2）	Muneo Cho, Jun Ik Lee, Takeaki Yamazaki	257-263 頁
その他					
Operator inequalities derived from new formula that Specht ratio$S(1)$ can be expressed by generalized Kantorovich constant $K(p)$: $S(1) = e^{K'(1)}$	共著	平成 15 年 6 月	KOTAC 2003 Operator theory and its applications,Chungnam National University, ２００３年６月１９日		
An operator transform from class A to the class of hyponormal operators	共著	平成 15 年 9 月	日本数学会２００３年度 秋季総合分科会, 千葉大学, ２００３年９月２４日		
Relations among operator inequalities following from $\log A \geq \log B$	共著	平成 15 年 9 月	日本数学会２００３年度 秋季総合分科会, 千葉大学, ２００３年９月２４日		

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Relations among operator orders and operator inequalities	共著	平成15年11月	作用素不等式に関わる最近の話題, 京都大学数理解析研究所, ２００３年１１月１９日		
An operator transform from class A to the class of hyponormal operators and its application	共著	平成15年11月	作用素不等式に関わる最近の話題, 京都大学数理解析研究所, ２００３年１１月２０日		
An operator transform from class A to the class of hyponormal operators	共著	平成15年12月	第１２回関数空間セミナー, お茶の水女子大学, ２００３年１２月２６日		
On single-valued extension property and Bishop's one of class A operators	共著	平成16年3月	日本数学会２００４年度年会, 筑波大学, ２００４年3月２９日		
Weakly chaotic order and its application to class A operators	共著	平成16年6月	KOTAC 2004 Operator theory and its applications, Seoul National University, Korea		
On the polar decomposition of the product of operators	単著	平成16年7月	11th Conference of the international linear algebra society, University of Coimbra, Portugal		
On some norm inequalities associated with the variance of an operator	単著	平成16年9月	日本数学会２００４年度秋季総合分科会, 北海道大学		
On numerical range and norm of the generalized Aluthge transform	単著	平成16年12月	作用素論における作用素不等式の役割, 京都大学数理解析研究所		
On numerical range and norm of the generalized Aluthge transform	単著	平成17年3月	日本数学会２００５年度年会, 日本大学		

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
平成 9 年 9 月～現在に至る	日本数学会会員
平成 12 年 4 月～現在に至る	国際数理科学協会会員

Ⅴ　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部物理学教室	職名 教授	氏名 大成　逸夫	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
工学部基礎科目の物理学に「物理学概説」を新設	平成 18 年 4 月	中学校、高等学校生に見られる理科離れ、物理離れの現象は全国的である。したがって、従来本学で用意してきた基礎科目としての物理学は新入生にとってギャップが高くなってしまった。それゆえ高等学校の物理教育内容にスムーズ接続して大学工学部に必要な物理学のカリキュラムとして「物理学概説」を新設した。内容は力学電磁気学のみならず、光学、流体力学、熱学の基礎的部分を含む。これは工学部５学科全部に適用すべく物理学教室で相談、計画した。
研究授業	平成 18 年 10 月 24 日	教員の参観者の下で平常の授業を行う。本学工学部では数年前から実践している。物質生命工学科 1 年生対象物理学Ａの授業を行う。
学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	（授業科目：物理学概説）物理・数学の講義授業で種々のプレゼンテイション法のうち、もっとも適しているのは ”ゆっくりしゃべるスピードで丁寧に板書することである ”と経験に基づいて実行している。(OHP やパワーポイントは図や表を提示するのに併用するのに便利である)。数理嫌いの学生が多く居る場合、文字が小さいだのギリシャ文字を知らないなどのクレイムが出される。そこで板書の文字を可能な限り大きくきれいに書くことを心がけている。
2　作成した教科書、教材		
講義に即した教材プリントの作成	平成 17 年 4 月 1 日 ～現在に至る	熱力学、電磁気学、量子力学、特殊相対性理論についての講義プリントを作成した。毎年加筆訂正しているので大分内容が良くなってきた。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
放送大学大学院客員教授として修士論文指導	平成 14 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 3 月 31 日	H14 年～H16 年　修士論文　野田冬彦「省エネルギーの計量分析」中山正敏教授と共に H16 年～H18 年　修士論文　高木貞夫「自然エネルギーによる温度差発電」中山正敏教授と共に H18 年～H20 年　修士論文　酒井孝一「地球温暖化について、温室効果の解析と考察」生井沢寛教授と共に予定 H19 年～(H21 年）修士論文　角田久雄「密度汎関数法による電子バンド、格子振動の計算」生井沢寛教授と共に。はじめの 3 人は国立大学の博士課程に進学した。
5　その他		

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
工学部教育委員会　委員長	平成 16 年 5 月 ～平成 18 年 3 月	工学部教育に関わるルーティン的な事柄の確認・変更等の議論の他、学生による授業評価、キャリアー・デザインの導入、セメスター制への移行、FYS,GPA 導入などの新企画についての議論をまとめ報告した。

II　研究活動					
著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び 巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
日本近海での潮流を横切る音波伝搬解析のための広角波動音波伝搬法の開発	共著	平成 15 年 12 月	神奈川大学　工学研究所所報 26 号	遠藤信行　大成逸夫　杉本　剛　穴田哲夫　土屋健伸」	87-94 頁
2006 年問題を巡っての教育改革	単著	平成 17 年 3 月	神奈川大学工学部報告 43		23-25 頁
ＦＹＳへの工学部の取り組み	共著	平成 19 年 3 月	神奈川大学工学部報告 45	大成逸夫渡辺良男 杉本剛	5-7 頁
その他					
原、岡崎著「工科系のための現代物理」	単著	平成 18 年 11 月	日本物理学会　物理学会誌 11		
ノーベル賞受賞者小柴昌俊博士による講演会の実行委員会		平成 20 年 7 月			

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 40 年 6 月～現在に至る	日本物理学会会員
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	特別教育士（工学・技術）（社）日本工学教育協会委員

Ⅴ　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部物理学教室	職名 教授	氏名 窪谷　浩人	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 感想用紙の活用	平成 18 年 4 月 1 日	（授業科目：情報科学基礎）講義終了時感想用紙を履修学生に配布し、講義内容にいての感想（難易、進度）、質問、コメントを記入してもらうことを毎講義行っている。記入内容を元に、次回講義で、質問の回答や復習を行っている。明示的なフィードバックがあるので学生は積極的に記入しており、学生の理解を助けるための講義運営がやりやすくなっている。
2　作成した教科書、教材 神奈川大学情報倫理ガイドブック	平成 17 年 4 月 ～平成 18 年 3 月	第 4 章執筆担当
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
Entanglement Generation by the mixing property in a quantum non-linear system	共著	平成 15 年 12 月	Physics Letters A,Vol.319	H. Kubotani and M. Den	475-485 頁
Universality in dynamical formation of entanglement for quantum chaos	共著	平成 18 年 9 月	Physical Review A74	H. Kubotani, M. Toda, and S. Adachi	032314-1 頁
Exact Formula of the Distribution of Schmidt Eigenvalues for Dynamical Formation of Entanglement in Quantum Chaos	共著	平成 20 年 6 月	Physical Review Letters100	H. Kubotani, S. Adachi and M. Toda	240501 頁
その他					
量子カオス系が生成するエンタングルメント（ポスター発表）	共著	平成 15 年 7 月	第 8 回量子情報技術研究会（電子情報通信学会量子情報技術時限研究専門委員会主催）		
Entanglement Generation by Quantum Chaos（Poster Presentation）	共著	平成 15 年 9 月	ERATO Conference on Quantum Information Science 2003		
量子エンタングルメントに潜む古典力学性（口頭発表）	共著	平成 16 年 3 月	第 59 回日本物理学会年次大会		

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
平成 3 年 5 月～現在に至る	日本天文学会会員
平成 6 年 1 月～現在に至る	日本物理学会会員
平成 7 年 3 月～現在に至る	日本惑星科学会会員
平成 7 年 5 月～現在に至る	情報処理学会会員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部物理学教室	職名 教授	氏名 三田　一郎	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		なし
2　作成した教科書、教材 CP Violation Cambridge University Press Text book for graduate students and researchers.	平成 12 年	
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他 要望 ：これからの教師の科学的教養と教員養成の在り方について 日本学術会議　　日本の展望　　大学と人材　委員 日本学術会議　大学教育の分野別質保証のあり方検討委員会　委員	 平成 19 年 平成 20 年 4 月 1 日 平成 20 年 4 月 1 日	 日本学術会議で私の発案で我が国の小中高学校の教師の待遇改善を要求した。

II　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
神の大いなる計画　翻訳	共著	平成 15 年	サンパウロ		
論文					
POSSIBLE LARGE DIRECT CP VIOLATIONS IN CHARMLESS B DECAYS: SUMMARY REPORT ON THE PQCD METHOD.	共著	平成 15 年	Phys.Rev.D67		54009 頁
B —¿ D(*) FORM-FACTORS IN PERTURBATIVE QCD.	共著	平成 15 年	Phys.Rev.D67		54028 頁
CALCULATION OF MAGNETIC PENGUIN AMPLITUDES IN B —¿ φ K DECAYS USING PQCD APPROACH.	共著	平成 15 年	Prog.Theor.Phys.110		549-561 頁
NONFACTORIZABLE CONTRIBUTIONS TO B —¿ D(*) M DECAYS.	共著	平成 16 年	Phys.Rev. D69		
AN ANALYSIS OF SUPERSYMMETRIC EFFECTS ON B —¿ φ K DECAYS IN PQCD APPROACH.	共著	平成 16 年	Phys.Rev.D69		
Resolution to the $B \to \pi K$ puzzle.	共著	平成 17 年			
Status and future progress of B physics.	単著	平成 17 年	Czech.J.Phys.		
A ‘ KNOWN ’ CP ASYMMETRY IN τ DECAYS.	共著	平成 17 年	Phys.Lett.B625		
RESOLUTION TO THE B → Φ K PUZZLE.	共著	平成 17 年	Phys.Rev.D72		

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
CP ASYMMETRY, BRANCHING RATIOS AND ISOSPIN BREAKING EFFECTS IN B → ρ γ AND B → ω γ DECAYS WITH THE PQCD APPROACH.	共著	平成 17 年	Phys.Rev.D72		
A Solution for little hierarchy problem and $b \to s\gamma$.	共著	平成 18 年			
CP asymmetry, branching ratios and isospin breaking effects in $B \to \rho\gamma$ and $B \to \omega\gamma$ decays with the pQCD approach.	共著	平成 18 年			
Flavor physics and Nagoya: The past 50 years.	単著	平成 19 年 6 月	Prog.Theor.Phys.Suppl..167:26-35,2007		
Theoretical overview of flavor physics	単著	平成 19 年 10 月	.Phys.Soc.Jap.76:111005,2007		
Analysis of lepton flavor violating tau+- —¿ mu+- mu+- mu-+ decays	共著	平成 20 年 11 月	Ｐｈｙｓｉｃａｌ Ｒｅｖｉｅｗ D77	A. Matsuzaki	073003 頁
おめでとうございます！南部先生、小林さん、益川さん	単著	平成 20 年 12 月	パリティ（丸善）12 月号		
ＣＰ対称性の破れの起源	共著	平成 21 年 2 月	日経サイエンス 39,（2）	中島林彦	94 頁
小林・益川理論の誕生とその確率まで	単著	平成 21 年 2 月	日本物理学会誌 64,（2）		84 頁
その他					
なし					

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
平成 4 年 4 月～現在に至る	日本物理学会会員
平成 5 年 4 月～現在に至る	基礎物理理学研究所研究部員
平成 5 年 10 月～現在に至る	日米高エネルギー物理学研究協力事業実施委員
平成 7 年 1 月～現在に至る	基礎物理学研究所運営委員
平成 9 年 1 月～現在に至る	学術審議会専門委員
平成 14 年 12 月～平成 15 年 12 月	高エネルギー物理学研究所　Super Computer Center　評価委員委員長
平成 15 年 2 月～平成 17 年 3 月	高エネルギー物理学研究所評価委員
平成 15 年 8 月～現在に至る	日本学術振興会特別研究員等審査専門委員
平成 17 年 4 月～平成 21 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究C 一般 2,400 千円 （フレーバ物理学・B 中間子における CP 非保存の研究）（研究代表者）
平成 17 年 10 月～現在に至る	日本学術会議会員
平成 20 年 4 月～現在に至る	聖母学園　理事・評議員理事・評議員
平成 20 年 4 月～現在に至る	World Premier Initiative Institute for Physics and Mathematics of the UniversProgram Officer

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部物理学教室	職名 教授	氏名 白井　達也	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 工学部外部評価への取り組み	～平成 16 年 3 月 31 日	工学部が外部評価を受けた。外部評価実施委員として外部評価実施計画を企画・検討し、報告書の作製を行った。また、外部評価実行委員として物理学教室のとりまとめ、説明を行い教室は高い評価を得た。
2　作成した教科書、教材 「物理学実験Ⅰ」の教科書作成及び改定版	昭和 55 年 10 月 1 日 ～平成 20 年 3 月 1 日	授業担当者が分担執筆した。平成 3 年の改定で分担加筆した「グラフの書き方」等が、ほとんど同じ形で次年度の東工大、大阪市大の教科書に載った。（昭和 55 年 10 月 1 日）
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		

II　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
Multi-TeV Gamma-Ray Flares from Markarian 421 in 2000 and 2001 Observed with Tibet Air Shower Array	単著	平成 15 年	Astrophysical Journal,598		242-249 頁
Search for VHE gamma ray emisson from SNRs with the data of Tibet AS Ⅲ.	共著	平成 15 年 7 月	Proc. 28th International Cosmic Ray Conference,VoL4,		2357-2360 頁
Sun Shadow in the Solar Activity Cycle 23 Observed with the Tibet Air Shower Array.	共著	平成 15 年 7 月	Proc. 28th International Cosmic Ray Conference,VoL7,		4061-4064 頁
Galactic anisotropy of ～10TeV cosmic-ray intensity observed by the Tibet air shower array.	共著	平成 15 年 7 月	Proc. 28th International Cosmic Ray Conference,VoL7		3961-3964 頁
The energy spectrum of all-particle cosmic rays around the knee region observed with the Tibet air-shower array.	共著	平成 15 年 7 月	Proc. 28th International Cosmic Ray Conference,VoL1,		143-146 頁
Search for TeV GRBs using the Tibet-Ⅲ AS Data.	共著	平成 15 年 7 月	Proc. 28th International Cosmic Ray Conference,VoL5,		2757-2760 頁
Observations of Primary Electrons with an Emulsion Chamber by Automatic Scanning	共著	平成 15 年 7 月	Proc. 28th International Cosmic Ray Conference,VoL4,		1821-1824 頁
Observation of Multi-TeV Gamma Rays from the Shell-like SNR GC40.5-0.5 Using the Tibet Air Shower Array.	共著	平成 15 年 7 月	Proc. 28th International Cosmic Ray Conference,VoL4,		2405-2408 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Galactic anisotropy of multi-TeV cosmic-ray intensity observed by the Tibet Ⅲ air shower array.	共著	平成 15 年 7 月	Proc. 28th International Cosmic Ray Conference,VoL7		3917-3920 頁
Search for Diffuse Gamma Rays from the Galactic Plane in Multi-TeV Region with the Tibet Air Shower Array.	共著	平成 15 年 7 月	Proc. 28th International Cosmic Ray Conference,VoL4,		72305-2308 頁
Primary proton spectrum in the knee region observed by the Tibet hybrid experiment.	共著	平成 15 年 7 月	Proc. 28th International Cosmic Ray Conference,VoL1		107-110 頁
Expected Event Rate of Sub hundred-GeV Gamma Ray Bursts using the Tibet-Ⅲ Air Shower Array with Single Particle Counting Technique.	共著	平成 15 年 7 月	Proc. 28th International Cosmic Ray Conference,VoL5,		2705-2708 頁
A Wide Sky Survey for TeV -ray Sources by Using the Tibet-Ⅲ Air Shower Array.	共著	平成 15 年 7 月	Proc. 28th International Cosmic Ray Conference,VoL4,		2315-2318 頁
An Upper Limit on Cosmic-ray p/p Flux Ratio Estimated by the Moon's shadow with the Tibet-Ⅲ Air Shower Array.	共著	平成 15 年 7 月	Proc. 28th International Cosmic Ray Conference,VoL3,		1651-1654 頁
Observation of Multi-TeV Gamma Rays from Mrk 421 and Search for Other BL Lac Objects with the Tibet-Ⅲ Air Shower Array.	共著	平成 15 年 7 月	Proc. 28th International Cosmic Ray Conference,VoL5		2595-2598 頁
Analysis of Emulsion Chambers in Tibet Hybrid Experiment Using the Image Scanner.	共著	平成 15 年 7 月	Proc. 28th International Cosmic Ray Conference,VoL2,		753-756 頁
Performance of the Tibet-Ⅲ Air Shower Array.	共著	平成 15 年 7 月	Proc. 28th International Cosmic Ray Conference,VoL5,		3019-3022 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Observation by an Air-Shower Array in Tibet of the Multi-TeV Cosmic-Ray Anisotropy Due to Terrestrial Orbital Motion around the Sun	共著	平成 16 年	Physical Review Letters,93		1-4 頁
Time Variation of the Solar Neutrino fluxes from Super-Kamiokande Data	単著	平成 16 年	Solar Physics,222		199-201 頁
Observation of PeV Gamma Rays from the Monogem Ring with the Tibet Air Shower Array	共著	平成 17 年	Astrophysical Journal635		L53-L56 頁
Sun's Shadow Variation During the Recent Solar Cycle 23 Observed with the Tibet Air Shower Array	共著	平成 17 年	Proc.29th International Cosmic Ray Conference		
Two dimensional observation on TeV Cosmic-ray large scale anisotropy using the Tibet Air Shower Array	共著	平成 17 年	Proc.29th International Cosmic Ray Conference		
Sidereal Anisotropy of Galactic Cosmic-Ray Intensity Observed with the Tibet Air Shower Array	共著	平成 17 年	Proc.29th International Cosmic Ray Conference		
Primary cosmic-ray proton and helium spectra at the knee energy measured by the Tibet hybrid AS experiment	共著	平成 17 年	Proc.29th International Cosmic Ray Conference		
The energy spectrum of the light components (P+He) at the knee obtained by the Tibet air shower core detector	共著	平成 17 年	Proc.29th International Cosmic Ray Conference		
An Upper Limit in Cosmic-ray p/p Flux Ratio Estimated by the Moon's Shadow with the Tibet-Ⅲ Air Shower Array	共著	平成 17 年	Proc.29th International Cosmic Ray Conference		

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Absolute Energy Scale Calibration of Multi-Tev Cosmic Rays Using the Moon's Shadow Observed by the Tibet Air Shower Array	共著	平成 17 年	Proc.29th International Cosmic Ray Conference		
Search for TeV transient gamma-ray sources of the northern sky using the Tibet-Ⅲ air shower array	共著	平成 17 年	Proc.29th International Cosmic Ray Conference		
A Northern Sky Survey for TeV gamma-ray sources using the Tibet-Ⅲ air shower array	共著	平成 17 年	Proc.29th International Cosmic Ray Conference		
Multiwavelength searches of the Shell-like SNR G40.5-0.5	共著	平成 17 年	Proc.29th International Cosmic Ray Conference		
Search for steady PeV gamma-ray emission from the Monogem ring with the Tibet air shower array	共著	平成 17 年	Proc.29th International Cosmic Ray Conference		
New Flux Upper Limits of Diffuse TeV Gamma Rays from the Galactic Plane Observed with the Tibet Air Shower Array	共著	平成 17 年	Proc.29th International Cosmic Ray Conference		
A Northern Sky Survey for Steady TeV Gamma-Ray Point Sources Using the Tibet Air Shower Array	共著	平成 17 年	Astrophysical Journal, Vol.633		1005-1012 頁
Large-Scale Sidereal Anisotropy of Galactic Cosmic-Ray Intensity Observed by the Tibet Air Shower Array	共著	平成 17 年	Astrophysical Journal, Vol.626		29-32 頁
Are protons still dominant at the knee of the cosmic-ray energy spectrum?	共著	平成 18 年	Physics Letters B632		58-64 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Flux upper limits of diffuse TeV gamma rays from the Galactic plane using the effective area of the Tibet-II and -III arrays	共著	平成 18 年	Advances in Space Reserch37		1932-1937 頁
Primary proton spectrum around the knee observed by the Tibet air-shower experiment	共著	平成 18 年	Advances in Space Peserch37		1938-1943 頁
A northern sky servey for both TeV cosmic-ray anisotropy and TeV γ-ray sources using the Tibet air shower array	共著	平成 18 年	Nuclear Physics B (Proceedings Supplements)151		121-124 頁
Variation of Sun shadow in the solar cycle 23 observed with the Tibet air shower array	共著	平成 18 年	Advances in Space Research38		936-941 頁
Anisotoropy and Corotation of Galactic Cosmic Rays	共著	平成 18 年	Science314		439-443 頁
Implication of the sidereal anisotropy of ～5 TeV cosmic ray intensity observed with the Tibet III air shower array	共著	平成 19 年	AIP Conf. Proc.932		283-289 頁
Underground Water Cherenkov muon detector array with the Tibet air shower array for gamma-ray astronomy in the 100 TeV region	共著	平成 19 年	Astrop h ycics and Space Science309		435-439 頁
Moon Shadow by Cosmic Rays under the Influence of Geomagnetic Field and Search for Antiprotons at Multi-TeV Energies	共著	平成 19 年	Astropa r ticle Physics28		137-142 頁
Implication of the sidereal anisotropy of 5 TeV cosmic ray intensity observed wiht the Tibet-III air shower array	共著	平成 20 年	AIP Conf. Proc.932		283-289 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
The cosmic-ray energy spectrum around the knee measured by the Tibet-III air-shower array	共著	平成 20 年	Nuc l ear Physics B(Proceedings Supplement)175		318-321 頁
Spectral index of high-energy cosmic rays by the Compton-Getting effect at solar time frame with the Tibet air shower array	共著	平成 20 年	Nuclear Physics B(Proceedings Supplement)175		427-430 頁
Northern Sky Survey for Gmma-ray Point Sources in 100 TeV Region with the Tibet Air Shower Array	共著	平成 20 年	Nuclear Physics B(Proceedings Supplement)175		431-434 頁
A large underground water Cherenkov muon detector array with the Tibet air shower array for the Gamma-ray astronomy in the 100 TeV region :detector design and simulation	共著	平成 20 年	Nuclear Physics B(Proceedings Supplement)175		480-483 頁
A large underground water Cherenkov muon detector array with the Tibet air shower array for the Gamma-ray astronomy in the 100 TeV region :overvew and physics goal	共著	平成 20 年	Nuclear Physics B(Proceedings Supplement)175		476-479 頁
The Variation of the Solar Neutrino Fluxes over Time in the Homestake, GALLEX (GNO) and the Super-Kamiokande Experiments	共著	平成 20 年	Spce Radiation5,（3）		207-216 頁
New Estimation of the Spectral Index of High-Energy Cosmic Rays as Determind by the Compton-Getting Anisotoropy	共著	平成 20 年	Astrophysical Journal672		L53-56 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
The all-particle spectrum of primary cosmic rays in the wide energy range from 10^{14} eV to 10^{17} eV observed with the Tibet-III air-shower array	共著	平成 20 年	Astrophysical Journal678		1165-1179 頁
The energy spectrum of all-particle cosmic rays around the knee region observed with the Tibet-III air-shower array	共著	平成 20 年	Advances in Space Reserch42		467-472 頁
その他					

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 40 年 4 月～現在に至る	日本物理学会会員
平成 19 年 6 月～平成 20 年 5 月	関東地区学生生活連絡協議会会長

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部物理学教室	職名 教授	氏名 立山　暢人	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
授業評価アンケート結果の利用	平成 16 年 4 月 ～平成 20 年 11 月	（授業科目：物理学 1，物理学 2）　授業の内容をわかりやすく伝えるため、パワーポイント・補助テキスト・DVD を使用している。
思考レベルでの授業参加	平成 18 年 3 月 ～平成 20 年 11 月	（授業科目：物理学 1，物理学 2）　問題解決能力を養うことを狙いとして、授業の終了 10 分～15 分演習問題とともに質問事項を書かせる。回収用紙は出席のチェックとしている。
デイベート・ビデオの採用	平成 19 年 4 月 ～平成 20 年 7 月	（授業科目：FYS）　学生自身の興味・関心・疑問を引き出し合いながら、樹種的な学習を行うことをねらいとして、授業にデイベートを採用した。これにより、学生個々の問題意識を高めることができた。さらに、レポート発表の様子をビデオに撮り、自分の発表態度を客観的に見ることをテーマの一つにした。これまで人前で発表することの少なかった自分の姿を、改めてスクリーンで目の当たりにしたことは、学生にとって大きな感動すら感じたようだ。
2　作成した教科書、教材		
「物理学実験 1」の指導書作成・改定	平成 16 年 ～平成 20 年	「物理学実験 1」（神奈川大学物理学教室編）の共著者の 1 人として、指導書の改定を行なっている（約 2 年に 1 回）。
物理学 1，物理学 2 の演習プリントの作成	平成 16 年 4 月 ～平成 20 年	（授業科目：物理学 1，物理学 2，物理学実験）　物理学 1，物理学 2 についてはそれぞれ約 20 頁の演習問題・解答のプリントを学生に与え、教育効果を挙げている。
実験補助プリントの作成	平成 18 年 4 月 ～平成 20 年	（授業科目：物理学実験 1）　ゆとり教育を受けてきた学生向けに、実験の補助プリントを作成し、実験レポート作成に活用している。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
大学入試責任者	平成 17 年 ～平成 20 年	神奈川大学入試科目「物理」の責任者
神奈川大学全国高校生理科・科学論文大賞の専門委員会における活動	平成 18 年 ～平成 20 年	神奈川大学全国高校生理科・科学論文大賞の専門委員として論文の審査・評価を行なっている。
神奈川大学における重力加速度の実測	平成 19 年 11 月	神奈川大学構内 3 箇所における重力加速度の精密測定を応用地質（株）に依頼した。結果を工学部教授会・大学資料編纂室に報告し、神奈川大学における精密な重力値として公開した。

II　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
Diffuse Gamma Rays from the Galactic Plane in the TeV Region	共著	平成 15 年	Proc.28th International Cosmic Ray Conference,4	M.Amenomori,N.Tateyama,T.Yuda	2285-2288 頁
Multi-TeV Gamma-Ray Flares from Markarian 421 in 2000 and 2001 Observed with the Tibet Air Shower Array	共著	平成 15 年	The Astrophysical Journal598	M.Amenomori,N.Tateyama,T.Yuda	242-249 頁
THe CALET CALorimetric Electron Telescope Mission for the International Space Station	共著	平成 15 年	Nuclear Physics B, vol.113	S.Torii,N.Tateyama,T.Yuda	107-110 頁
Search for TeV GRBs using the Tibet-III AS γ Data	共著	平成 15 年	Proc. 28th International Cosmic Ray Conference, Vol. 5,(2003)	M.Amenomori,N.Tateyama,T.Yuda	2757-2760 頁
An Upper Limit on Cosmic-ray p/p Flux Ratio Estimated by the Moon's Shadow with the Tibet-III Air Shower Array	共著	平成 15 年	Proc. 28th International Cosmic Ray Conference, Vol. 3, (2003).	M.Amenomori,N.Tateyama,T.Yuda	1651-1654 頁
Observations of Primary Electrons with an Emulsion Chamber by Automatic Scanning Method	共著	平成 15 年	Proc. 28th International Cosmic Ray Conference, Vol. 4, (2003).		1821-1824 頁
Observation of Multi-TeV Gamma Rays from Mrk 421 and Search for Other BL Lac Objects with the Tibet-III Air Shower Array	共著	平成 15 年	Proc. 28th International Cosmic Ray Conference, Vol. 5, (2003).	M.Amenomori,N.Tateyama,T.Yuda	2595-2598 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Search for VHE gamma ray emisson from SNRs with the data of Tibet AS γ III	共著	平成 15 年	Proc. 28th International Cosmic Ray Conference, Vol. 4, (2003)	M.Amenomori,N.Tateyama,T.Yuda	2357-2360 頁
A Wide Sky Survey for TeV γ-ray Sources by Using the Tibet-III Air Shower Array	共著	平成 15 年	Proc. 28th International Cosmic Ray Conference, Vol. 4, (2003)	M.Amenomori,N.Tateyama,T.Yuda	2315-2318 頁
Gamma Rays from the Galactic Plane in the TeV Region	共著	平成 15 年	Proc. 28th International Cosmic Ray Conference, Vol. 4, (2003).	M.Amenomori,N.Tateyama,T.Yuda	2285-2288 頁
Galactic anisotropy of∼ 10TeV cosmic-ray intensity observed by the Tibet air shower array	共著	平成 15 年	Proc. 28th International Cosmic Ray Conference, Vol. 7, (2003)	M.Amenomori,N.Tateyama,T.Yuda	3961-3964 頁
Observation of Multi-TeV Gamma Rays from the Shell-like SNR GC40.5-0.5 Using the Tibet Air Shower Array	共著	平成 15 年	Proc. 28th International Cosmic Ray Conference, Vol. 4, (2003)	M.Amenomori,N.Tateyama,T.Yuda	2405-2408 頁
High Energy Electron Observation by Polar Patrol Balloon Flight in Antarctica	共著	平成 15 年	Proc. 28th International Cosmic Ray Conference, Vol. 4, (2003).	S.Torii,N.Tateyama,J.Nishimura	2085-2088 頁
Sun Shadow in the Solar Activity Cycle 23 Observed with the Tibet Air Shower Array	共著	平成 15 年	Proc. 28th International Cosmic Ray Conference, Vol. 7, (2003)	M.Amenomori,N.Tateyama,T.Yuda	4061-4064 頁
Expected Event Rate of Sub hundred-GeV Gamma Ray Bursts using the Tibet-III Air Shower Array with Single Particle Counting Technique	共著	平成 15 年	Proc. 28th International Cosmic Ray Conference, Vol. 5, (2003).	M.Amenomori,N.Tateyama,T.Yuda	2705-2708 頁
Performance of the Tibet-III Air Shower Array	共著	平成 15 年	Proc. 28th International Cosmic Ray Conference, Vol. 5, (2003)	M.Amenomori,N.Tateyama,T.Yuda	3019-3022 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Compatibility of CALorimetric Electron Telescope (CALET) for JEM Exposed Facility on International Space Station	共著	平成 15 年	Proc. 28th International Cosmic Ray Conference, Vol. 4, (2003).	S.Torii,N.Tateyama,J.Nishimura	2181-2184 頁
Galactic anisotropy of multi-TeV cosmic-ray intensity observed by the Tibet III air shower array	共著	平成 15 年	Proc. 28th International Cosmic Ray Conference, Vol. 7, (2003)	M.Amenomori,N.Tateyama,T.Yuda	3917-3920 頁
Analysis of Emulsion Chambers in Hybrid Experiment Using the Image Scanner	共著	平成 15 年	Proc. 28th International Cosmic Ray Conference, Vol. 2, (2003).	T.Kobayashi,N.Tateyama,J.Nishimura	753-756 頁
The energy spectrum of all-particle cosmic rays around the knee region observed with the Tibet air-shower array	共著	平成 15 年	Proc. 28th International Cosmic Ray Conference1	M.Amenomori,N.Tateyama,T.Yuda	143-146 頁
The CALorimetric Electron Telescope, CALET, Mission for the International Space Station	共著	平成 15 年	Proc. 28th International Cosmic Ray Conference, Vol. 4, (2003).	S.Torii,N.Tateyama,J.Nishimura	2177-2180 頁
Search for Diffuse Gamma Rays from the Galactic Plane in Multi-TeV Region with the Tibet Air Shower Array	共著	平成 15 年	Proc. 28th International Cosmic Ray Conference, Vol. 4, (2003).	M.Amenomori,N.Tateyama,T.Yuda	2305-2308 頁
Primary proton spectrum in the knee region observed by the Tibet hybrid experiment	共著	平成 15 年	Proc.28th International Cosmic Ray Conference, Vol. 1, (2003).	M.Amenomori,N.Tateyama,T.Yuda	107-110 頁
The CALET Mission for the International Space Station	共著	平成 15 年	Nuclear Phyiscs B (Proc. Suppl) 113 (2002)	S.Torii,N.Tateyama,J.Nishimura	95-102 頁
長時間気球による CALET 検出器の実証試験と電子, ガンマ線観測	共著	平成 15 年 11 月	平成 15 年度大気球シンポジウム、宇宙科学研究本部	S.Torii,N.Tateyama,J.Nishimura	125-128 頁
南極周回気球による高エネルギー宇宙電子線観測	共著	平成 15 年 11 月	平成 15 年度大気球シンポジウム、宇宙科学研究本部	S.Torii,N.Tateyama,J.Nishimura	121-124 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
CALET の開発 4：シンチファイバー読み出しシステムの開発	共著	平成 15 年 12 月	第 4 回宇宙科学シンポジウム、宇宙科学研究本部	S.Torii,N.Tateyama,J.Nishimura	341-344 頁
CALET の開発 3：プロトタイプの CERN ビーム実験による性能評価	共著	平成 15 年 12 月	第 4 回宇宙科学シンポジウム、宇宙科学研究本部	S.Torii,N.Tateyama,J.Nishimura	337-340 頁
CALET の開発 2：電子、ガンマ線観測で期待される成果	共著	平成 15 年 12 月	第 4 回宇宙科学シンポジウム、宇宙科学研究本部	S.Torii,N.Tateyama,J.Nishimura	333-336 頁
CALET の開発 1：国際宇宙ステーション搭載への構造，熱適合性	共著	平成 15 年 12 月	第 4 回宇宙科学シンポジウム、宇宙科学研究本部	S.Torii,N.Tateyama,J.Nishimura	329-332 頁
CALET：国際宇宙ステーションにおける電子, ガンマ線観測計画	共著	平成 15 年 12 月	第 4 回宇宙科学シンポジウム、宇宙科学研究本部	S.Torii,N.Tateyama,J.Nishimura	325-328 頁
Ovservation by an Air-Shower Array in Tibet of the Multi-TeV Cosmic-Ray Anisotropy due ti Terrestrial Orbital Motion Around the Sun	共著	平成 16 年	Physical Review Letter93	M.Amenomori,N.Tateyama,T.Yuda	061101(1-4) 頁
The CALET, CALorimetric Electron Telescope, on ISS/JEM	共著	平成 16 年	Nuclear Physics B134	S.Torii,T.Tamura,N.Tateyama	23-30 頁
JEM 暴露部における高エネルギー電子、ガンマ線観測計画（CALET）	共著	平成 16 年 1 月	第 20 回宇宙利用シンポジウム、日本学術会議、宇宙科学研究本部	S.Torii,N.Tateyama,J.Nishimura	323-326 頁
Observation of PeV Gamma Rays from the Monogem Ring with the Tibet Air Shower Array	共著	平成 17 年	The Astrophysical Journal635	M.Amenomori,N.Tateyama,T.Yuda et. al.	L53-L56 頁
CALET for High Energy Electron and Gamma-Ray Measurements on ISS	共著	平成 17 年	Nuclear Physics BProc.Suppl	S.Torii,T.Tamura,N.Tateyama	345-348 頁
Large-Scale Sidereal Anisotropy of Galactic Cosmic-Ray Intensity Observed by the Tibet Air Shower Array	共著	平成 17 年	Astrophysical Journal626	M.Amenomori,K.Munakata,N.Tateyama,T.Yuda	L29-L32 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
A Northern Sky Survey for Steady TeV Gamma-Ray Point Sources Using the Tibet Shower Array	共著	平成 17 年	Astrophysical Journal633	M.Qmenomori	1005-1012 頁
Observation of High-Energy Electron, Gamma Ray and Dark Matter with CALET	共著	平成 17 年 8 月	29th International Cosmic Ray Conference Pune		
The CALET Mission on International Space Station	共著	平成 17 年 8 月	29th International Cosmic Ray Conference Pune		
CALET Observations of Galactic Electrons in the Heliospere	共著	平成 17 年 8 月	29th International Cosmic Ray Conference Pune		
Performance of the CALET Calorimeter by Accelerator Beam Test	共著	平成 17 年 8 月	29th International Cosmic Ray Conference Pune		
CALET Observation of Nuclear Components in Primary Cosmic Rays	共著	平成 17 年 8 月	29th International Cosmic Ray Conference Pune		
Search for TeV Transient Gamma-Ray Sources of the Northern Sky Using the Tibet III Air Shower Array	共著	平成 17 年 8 月	Proceedings Of the 29th International Cosmic Ray Conference		
A Northern Sky Survey for TeV Gamma-Ray Sources Using the Tibet III Air Shower Array	共著	平成 17 年 8 月	Proceedings Of the 29th International Cosmic Ray Conference		
Multi-wavelength Searches of the Shell-like SNR G40.5-0.5	共著	平成 17 年 8 月	Proceedings Of the 29th International Cosmic Ray Conference		
Search for Steady PeV Gamma-Ray Emission from the Monogem Ring with the Tibet Air Shower Array	共著	平成 17 年 8 月	Proceedings Of the 29th International Cosmic Ray Conference.		
New Flux Upper Limits of Diffuse TeV Gamma Rays from the Galactic Plane Observed with the Tibet Air Shower Array	共著	平成 17 年 8 月	Proceedings Of the 29th International Cosmic Ray Conference		

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Variation of Sun shadow in the solar cycle 23 observed with the Tibet air shower array.	共著	平成 18 年	Advances in Space Research（38）	M.Amenomori,N.Tateyama,T.Yuda	936-941 頁
Anisotropy and Corotation og Galactic Cosmic Rays.	共著	平成 18 年	Science（314）	M.Amenomori,N.Tateyama,T.Yuda	439-443 頁
Are protons still dominant at the knee of the cosmic-ray energy spectrum?	共著	平成 18 年	Physics Letters B632	M.Amenomori,N.Tateyama,T.Yuda	58-64 頁
Primary proton spectrum around the knee observed by the Tibet air-shower experiment	共著	平成 18 年	Advances in Space Research37	M.Amenomori,N.Tateyama,T.Yuda	1938-1943 頁
Variation of Sun shadow in the Solar Cycle 23 observed with the Tibet air shower array	共著	平成 18 年	Advance in Space Research38	M.Amenomori,N.Tateyama,T.Yuda	936-941 頁
Flux upper Limits of Diffuse TeV Gamma Rays from the Galactix Plane using the Effective Area of the Tibet-II and III Arrays	共著	平成 18 年	Advance in Space Research37	M.Amenomori,N.Tateyama,T.Yuda	1932-1937 頁
Anisotropy and Corotation of Galactic Cosmic Rays	共著	平成 18 年	Science314	M.Amenomori,K.Munakata,N.Tateyama,T.Yuda	439-443 頁
Implication of the sidereal anisotropy of 5 TeV cosmic ray intensity observed with the Tibet III air shower array	共著	平成 19 年	AIP Conf. Proc.932	M. Amenomori, K. Hibino, T. Shirai, N. Tateyama, T. Yuda	283-289 頁
Implication of the sidereal anisotropy of 5 TeV cosmic ray intensity observed with the Tibet III air shower array	共著	平成 19 年	AIP Conf. Proc（932）	M.Amenomori,N.Tateyama,T.Yuda	283-289 頁
Underground water Cherenkov muon detector array with the Tibet air shower array for gamma-ray astronomy in the 100 TeV region.	共著	平成 19 年	Astrophysics and Space Science（309）	M.Amenomori,N.Tateyama,T.Yuda	435-439 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
【博士学位論文】High Energy Diffuse Gamma Rays From The Galactic Plane (銀河面からの高エネルギー拡散ガンマ線の研究)	単著	平成 19 年 3 月	大阪市立大学		
Moon Shadow by Cosmic Rays under the Influence of Geomagnetic Field and Search for Antiprotons at Multi-TeV Energies.	共著	平成 19 年 5 月	Astroparticle Physics (28)	M.Amenomori,N.Tateyama,T.Yuda	137-142 頁
Implication of the sidereal anisotropy of 5 TeV cosmic ray intensity observed with the Tibet III air shower array	共著	平成 20 年	AIP Conf. Proc.932	M. Amenomori, K. Hibino, T. Shirai, N. Tateyama, T. Yuda	283-289 頁
New Estimation of the Spectral Index of High-Energy Cosmic Rays as Determined by the Compton-Getting Anisotropy	共著	平成 20 年	The Astrophysical Journal672	M. Amenomori, K. Hibino, T. Shirai, N. Tateyama, T. Yuda	L53-56 頁
The all-particle spectrum of primary cosmic rays in the wide energy range from $10^14eVto10^17eVobservedwiththeTibet-IIIair-showerarray$	共著	平成 20 年	The Astrophysical Journal678	M. Amenomori, K. Hibino, T. Shirai, N. Tateyama, T. Yuda	1165-1179 頁
The energy spectrum of all-particle cosmic rays around the knee region observed with the Tibet-III air-shower array	共著	平成 20 年	Advances in Space Research42	M. Amenomori, K. Hibino, T. Shirai, N. Tateyama, T. Yuda	467-472 頁
その他					
高エネルギー電子、ガンマ線観測計画	共著	平成 15 年	第 3 回宇宙科学シンポジウム，宇宙科学研究所、 (2003-1).		247-250 頁
高エネルギー電子、ガンマ線観測装置（CALET）の国際宇宙ステーション搭載適合性	共著	平成 15 年	第 3 回宇宙科学シンポジウム, 宇宙科学研究所, (2003-1)		247-250 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Tibet Ⅲarry による knee 領域の全粒子スペクトルの解析（3）	共著	平成 15 年	日本物理学会 2003 年秋季大会（宮崎，2003-9）		
3 − 20TeV における銀河面および Cygnus 領域からの Diffuse ガンマ線の探索	共著	平成 15 年	日本物理学会 2003 年秋季大会（宮崎，2003-9）		
国際宇宙ステーションにおける高エネルギー電子、ガンマ線観測 (CALET)	共著	平成 15 年	日本物理学会第 58 回年次大会（東北学院大学，2003-3）		
Tibet Ⅲ空気シャワーレイによる移行時の太陽の影	共著	平成 15 年	日本物理学会 2003 年秋季大会（宮崎，2003-9）		
Tibet Ⅲ空気シャワーアレイの性能評価	共著	平成 15 年	日本物理学会第 58 回年次大会（東北学院大学，2003-3）		
電子の加速と銀河面からの TeV 領域の Diffuse γ	共著	平成 15 年	日本物理学会第 58 回年次大会（東北学院大学，2003-3）		
Tibet Ⅲ空気シャワーアレイによる sub 100GeV のガンマ線放射天体の探索（Ⅰ）	共著	平成 15 年	日本物理学会第 58 回年次大会（東北学院大学，2003-3）		
銀河面からの TeV 領域拡散ガンマ線の解析	共著	平成 15 年	日本物理学会第 58 回年次大会（東北学院大学，2003-3）		
Tibet 空気シャワーアレイによ TeV ガンマ線バースト現象の探索	共著	平成 15 年	日本物理学会第 58 回年次大会（東北学院大学，2003-3）		
Tibet 連動実験による一次宇宙線陽子成分エネルギースペクトル Ⅲarry による knee 領域の全粒子スペクトル	共著	平成 15 年	日本物理学会 2003 年秋季大会（宮崎，2003-9）		
Tibet Ⅲ arry による knee 領域の全粒子スペクトルの解析（2）	共著	平成 15 年	日本物理学会第 58 回年次大会（東北学院大学，2003-3）		
オートスキャンによる 1 次電子観測用 ECC の解析Ⅱ	共著	平成 15 年	日本物理学会第 58 回年次大会（東北学院大学，2003-3）		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
TeV 領域の銀河面からの Diffuse γ と unsolved source	共著	平成 15 年	日本物理学会 2003 年秋季大会（宮崎ワールドコンベンションセンター・サミット，2003-9）		
Tibet 空気シャワーアレイを用いたγ線及びハドロン成分起源空気シャワーの分別	共著	平成 15 年	日本物理学会 2003 年秋季大会（宮崎，2003-9）		
オートスキャンによる 1 次電子観測用 ECC の解析 (3)	共著	平成 15 年	日本物理学会 2003 年秋季大会（宮崎，2003-9）		
TibetⅢ空気シャワーレイによる TeV 領域宇宙線太陽時日周変動の観測	共著	平成 15 年	日本物理学会 2003 年秋季大会（宮崎，2003-9）		
TibetⅢアレイによるフレア型 TeV ガンマ線源の探索	共著	平成 15 年	日本物理学会第 58 回年次大会（東北学院大学，2003-3）		
CALET の概念設計Ⅱ－観測装置の最適化シミュレーション	共著	平成 15 年	日本物理学会第 58 回年次大会（東北学院大学，2003-3）		
高エネルギー電子，ガンマ線観測装置（CALET）の概念設計	共著	平成 15 年	宇宙環境利用に関する公募地上研究　研究進捗状況報告書，財団法人 日本宇宙フォーラム (2003-3).		
TibetⅢ空気シャワーアレイによる TeV 領域のバースト現象探索	共著	平成 15 年	日本物理学会 2003 年秋季大会（宮崎ワールドコンベンションセンター・サミット，2003-9）		
GRB に対する空気シャワー観測イベント数の増加現象の探索	共著	平成 16 年 3 月	日本物理学会第 59 回年次大会, 九州大学		
銀河面及びシグナス領域からの TeV ガンマ線探索	共著	平成 16 年 3 月	日本物理学会第 59 回年次大会, 九州大学		
チベット空気シャワーアレイの将来計画	共著	平成 16 年 3 月	日本物理学会第 59 回年次大会, 九州大学		
チベット空気シャワーコア検出器の開発 (1)	共著	平成 16 年 3 月	日本物理学会第 59 回年次大会, 九州大学		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Tibet 実験による knee 領域一次宇宙線化学組成	共著	平成 16 年 3 月	日本物理学会第 59 回年次大会, 九州大学		
オートスキャンによる一次電子観測用 ECC の解析 (4)	共著	平成 16 年 3 月	日本物理学会第 59 回年次大会, 九州大学		
PPB-BETS における高エネルギー電子観測	共著	平成 16 年 3 月	日本物理学会第 59 回年次大会, 九州大学		
PPB － BETS による高エネルギー電子の観測と解析報告	共著	平成 16 年 9 月	日本物理学会第 60 回年次大会, 高知大学		
Tibet 実験による knee 領域一次宇宙線化学組成 (2)	共著	平成 16 年 9 月	日本物理学会第 60 回年次大会, 高知大学		
Sidereal anisotropy of 10TeV cosmic-ray intensity observed by the TibetIII air shower array	共著	平成 16 年 9 月	日本物理学会第 60 回年次大会, 高知大学		
Tibet-III 空気シャワーアレイによる活動期の太陽の影と Gnevyshev Gap との相関	共著	平成 16 年 9 月	日本物理学会第 60 回年次大会, 高知大学		
TibetAS γ 連動実験による knee 領域一次宇宙化学組成とエネルギースペクトルの研究	共著	平成 17 年 3 月	日本物理学会第 60 回年次大会, 東京理科大		
Tibet 実験による knee 領域一次宇宙化学組成 3	共著	平成 17 年 3 月	日本物理学会第 60 回年次大会, 東京理科大		

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 45 年～現在に至る	日本物理学会会員
平成 15 年 4 月～平成 16 年 3 月	財団法人　日本宇宙フォーラム 2,000 千円 （高エネリギー電子、ガンマ線観測装置（CALET）の概念設計）（研究分担者）
平成 20 年 4 月～平成 22 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 (B) 2,000 千円 （チベットにおける高エネルギー天体現象の系統的研究）（研究分担者）

Ⅴ　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部物理学教室	職名 教授	氏名 日比野　欣也	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
2　作成した教科書、教材		
3　教育上の能力に関する大学等の評価 工学部優秀講義賞	平成 20 年 3 月 3 日	
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
高等学校検定教科書「情報 A」,「情報 B」,「情報 C」（計 3 冊）（平成 15 年度版）	共著	平成 15 年	教育出版		
高等学校検定教科書「情報 C」教授資料（平成 15 年度版）	共著	平成 15 年	教育出版		
高等学校検定教科書「情報 A」,「情報 B」,「情報 C」（計 3 冊）（平成 17 年度版）	共著	平成 17 年	教育出版		
高等学校検定教科書「情報 C」教授資料（平成 17 年度版）	共著	平成 17 年	教育出版		
論文					
Multi-TeV Gamma-Ray Flares from Markarian 421 in 2000 and 2001 Observed with the Tibet Air Shower Array	共著	平成 15 年	Astrophysical Journal,590,		242-249 頁
Observation of Multi-TeV Gamma Rays from Mrk 421 and Search for Other BL Lac Objects with the Tibet-III Air Shower Array	共著	平成 15 年 8 月	Proc. of 28th International Cosmic Ray Conference, Vol. 5,		2595-259 頁
Observation of Multi-TeV Gamma Rays from the Shell-like SNR GC40.5-0.5 Using the Tibet Air Shower Array	共著	平成 15 年 8 月	Proc. of 28th International Cosmic Ray Conference, Vol. 4,		2405-2408 頁
Search for VHE gamma ray emisson from SNRs with the data of Tibet AS γ III	共著	平成 15 年 8 月	Proc. of 28th International Cosmic Ray Conference, Vol. 4,		2357-2360 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
A Wide Sky Survey for TeV γ-ray Sources by Using the Tibet-III Air Shower Array	共著	平成 15 年 8 月	Proc. of 28th International Cosmic Ray Conference, Vol. 4,		2315-2318 頁
The Diamond Compton Recoil Telescope	共著	平成 15 年 8 月	Proc. of 28th International Cosmic Ray Conference, Vol. 5,		2995-2998 頁
Sun Shadow in the Solar Activity Cycle 23 Observed with the Tibet Air Shower Array	共著	平成 15 年 8 月	Proc. of 28th International Cosmic Ray Conference, Vol. 7,		4061-4064 頁
Galactic anisotropy of ∼10TeV cosmic-ray intensity observed by the Tibet air shower array	共著	平成 15 年 8 月	Proc. of 28th International Cosmic Ray Conference, Vol. 7,		3961-3964 頁
Galactic anisotropy of multi-TeV cosmic-ray intensity observed by the Tibet III air shower array	共著	平成 15 年 8 月	Proc. of 28th International Cosmic Ray Conference, Vol. 7,		3917-3920 頁
Performance of the Tibet-III Air Shower Array	共著	平成 15 年 8 月	Proc. of 28th International Cosmic Ray Conference, Vol. 5,		3019-3022 頁
Search for TeV GRBs using the Tibet-III AS γ Data	共著	平成 15 年 8 月	Proc. of 28th International Cosmic Ray Conference, Vol. 5,		2757-2760 頁
Search for Diffuse Gamma Rays from the Galactic Plane in Multi-TeV Region with the Tibet Air Shower Array	共著	平成 15 年 8 月	Proc. of 28th International Cosmic Ray Conference, Vol. 4,		2305-2308 頁
An Upper Limit on Cosmic-ray antiproton/proton Flux Ratio Estimated by the Moon's Shadow with the Tibet-III Air Shower Array	共著	平成 15 年 8 月	Proc. of 28th International Cosmic Ray Conference, Vol.3,		1651-1654 頁
Analysis of Emulsion Chambers in Tibet Hybrid Experiment Using the Image Scanner	共著	平成 15 年 8 月	Proc. of 28th International Cosmic Ray Conference, Vol. 2,		753-756 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
The energy spectrum of all-particle cosmic rays around the knee region observed with the Tibet air-shower array	共著	平成 15 年 8 月	Proc. of 28th International Cosmic Ray Conference, Vol. 1,		143-146 頁
Primary proton spectrum in the knee region observed by the Tibet hybrid experiment	共著	平成 15 年 8 月	Proc. of 28th International Cosmic Ray Conference, Vol. 1,		107-110 頁
Expected Event Rate of Subhundred-GeV Gamma Ray Bursts using the Tibet-III Air Shower Array with Single Particle Counting Technique	共著	平成 15 年 8 月	Proc. of 28th International Cosmic Ray Conference, Vol. 5,		2705-2708 頁
Observation by an Air-Shower Array in Tibet of the Multi-TeV Cosmic-Ray Anisotropy due to Terrestrial Orbital Motion Around the Sun	共著	平成 16 年	Phys. Rev. Lett., 93		061101-061104 頁
Large-Scale Sidereal Anisotropy of Galactic Cosmic-Ray Intensity Observed by the Tibet Air Shower Array	共著	平成 17 年 6 月	The Astrophysical Journal Letters, Vol 626, No.1		L29-L32 頁
Telescope Array; Simulation and Data Analysis	共著	平成 17 年 8 月	Proc. of The 29 th International Cosmic Ray Conference (India)		8-193 頁
Telescope Array; Progress of Surface Array	共著	平成 17 年 8 月	Proc. of The 29 th International Cosmic Ray Conference (India)		8-181 頁
Telescope Array; Status and Prospects	共著	平成 17 年 8 月	Proc. of The 29 th International Cosmic Ray Conference (India)		8-141 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
The energy spectrum of the light components (P+He) at the knee obtained by the Tibet air shower core detector	共著	平成 17 年 8 月	Proc. of The 29 th International Cosmic Ray Conference (India)		6-185 頁
Primary cosmic-ray proton and helium spectra at the knee energy region measured by the Tibet hybrid AS experiment	共著	平成 17 年 8 月	Proc. of The 29 th International Cosmic Ray Conference (India)		6-177 頁
Absolute Energy Scale Calibration of Multi-TeV Cosmic Rays Using the Moon's Shadow Observed by the Tibet Air Shower Array	共著	平成 17 年 8 月	Proc. of The 29 th International Cosmic Ray Conference (India)		6-053 頁
An Upper Limit on Cosmic-ray Antiproton/proton Flux Ratio Estimated by the Moon's Shadow with the Tibet III Air Shower Array	共著	平成 17 年 8 月	Proc. of The 29 th International Cosmic Ray Conference (India)		6-045 頁
Search for TeV transient gamma-ray sources of the northern sky using the Tibet- III air shower array	共著	平成 17 年 8 月	Proc. of The 29 th International Cosmic Ray Conference (India)		4-391 頁
A Northern Sky Survey for TeV Gamma-ray Sources using the Tibet-III air shower array	共著	平成 17 年 8 月	Proc. of The 29 th International Cosmic Ray Conference (India)		4-211 頁
Search for steady PeV gamma-ray emission from the Monogem Ring with the Tibet air shower array	共著	平成 17 年 8 月	Proc. of The 29 th International Cosmic Ray Conference (India)		4-207 頁
Multiwavelength searches of the Shell-like SNR G40.5-0.5	共著	平成 17 年 8 月	Proc. of The 29 th International Cosmic Ray Conference (India)		4-093 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
New Flux Upper Limits of Diffuse TeV Gamma Rays from the Galactic Plane Observed with the Tibet Air Shower Array	共著	平成 17 年 8 月	Proc. of The 29 th International Cosmic Ray Conference (India)		4-043 頁
Observation of High-Energy Electron, Gamma Ray, and Dark Matter with CALET	共著	平成 17 年 8 月	Proc. of The 29 th International Cosmic Ray Conference (India)		3-337 頁
The CALET Instrument for Experiment on the ISS	共著	平成 17 年 8 月	Proc. of The 29 th International Cosmic Ray Conference (India)		3-333 頁
The CALET Mission on International Space Station	共著	平成 17 年 8 月	Proc. of The 29 th International Cosmic Ray Conference (India)		3-329 頁
Performance of the CALET Calorimeter by Accelerator Beam Test	共著	平成 17 年 8 月	Proc. of The 29 th International Cosmic Ray Conference (India)		3-325 頁
CALET Observation of Nuclear Components in Primary Cosmic Rays	共著	平成 17 年 8 月	Proc. of The 29 th International Cosmic Ray Conference (India)		3-321 頁
CALET Observations of Galactic Electrons in the Heliosphere	共著	平成 17 年 8 月	Proc. of The 29 th International Cosmic Ray Conference (India)		2-453 頁
Sun's Shadow Variation During the Recent Solar Cycle 23 Observed with the Tibet Air Shower Array	共著	平成 17 年 8 月	Proc. of The 29 th International Cosmic Ray Conference (India)		2-207 頁
Sidereal Anisotropy of Galactic Cosmic-Ray Intensity Observed with the Tibet Air Shower Array	共著	平成 17 年 8 月	Proc. of The 29 th International Cosmic Ray Conference (India)		2-077 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Two dimensional observation on TeV Cosmic-ray large scale anisotropy using the Tibet Air Shower Array	共著	平成 17 年 8 月	Proc. of The 29 th International Cosmic Ray Conference (India)		2-049 頁
A Northern Sky Survey for Steady TeV Gamma-Ray Point Sources Using the Tibet Air Shower Array	共著	平成 17 年 11 月	The Astrophysical Journal		633, 1005-1012 頁
Observation of PeV Gamma Rays from the Monogem Ring with the Tibet Air Shower Array	共著	平成 17 年 12 月	The Astrophysical Journal		635, L53-L56 頁
ON THE UPPER LIMITING ENERGY OF THE SOLAR DIURNAL ANISOTROPY OF GALACTIC COSMIC RAY INTENSITY	共著	平成 18 年	Advances in Geosciences, eds. W. H. Ip and M. Duldig (World Scientific Publishing Co., USA) (2)	K. Munakata, K. Hibino, T. Shirai, N. Tateyama, T. Yuda et al.	125-134 頁
Investigation of Basic Characteristics of Synthetic Diamond Radiation Detectors	共著	平成 18 年	IEEE Trans. on Nucl. Sci.53, (2)	T. Kashiwagi, K. Hibino, et al.	630-635 頁
Variation of Sun shadow in the solar cycle 23 observed with the Tibet air shower array	共著	平成 18 年	Advances in Space Research (38)		936-941 頁
Anisotropy and Corotation of Galactic Cosmic Rays	共著	平成 18 年	Science (314)		439-443 頁
Primary proton spectrum around the knee observed by the Tibet air-shower experiment	共著	平成 18 年	Advances in Space Research (37)		1938-1943 頁
Flux upper limits of diffuse TeV gamma rays from the Galactic plane using the effective area of the Tibet-II and -III arrays	共著	平成 18 年	Advances in Space Research (37)		1938-1943 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Are protons still dominant at the knee of the cosmic-ray energy spectrum?	共著	平成 18 年	Physics Letters B (632)		58-64 頁
Implication of the sidereal anisotropy of 5 TeV cosmic ray intensity observed with the Tibet III air shower array	共著	平成 19 年	AIP Conf. Proc. 932, 283-289	M. Amenomori, K. Hibino, T. Shirai, N. Tateyama, T. Yuda et al.	
Variation of Sun shadow in the solar cycle 23 observed with the Tibet air shower array	共著	平成 19 年	(38)	Advances in Space Research	936-941 頁
Anisotropy and Corotation of Galactic Cosmic Rays	共著	平成 19 年	Science (314)	M. Amenomori, K. Hibino, T. Shirai, N. Tateyama, T. Yuda et al.	439-443 頁
The design of diamond Compton telescope	共著	平成 19 年	Astrophysics and Space Science (309)	K. Hibino, et al.	541-544 頁
Underground water Cherenkov muon detector array with the Tibet air shower array for gamma-ray astronomy in the 100 TeV region	共著	平成 19 年	Astrophysics and Space Science (309)	M. Amenomori, K. Hibino, T. Shirai, N. Tateyama, T. Yuda et al.	435-439 頁
Moon Shadow by Cosmic Rays under the Influence of Geomagnetic Field and Search for Antiprotons at Multi-TeV Energies	共著	平成 19 年	Astroparticle Physics (28)	M. Amenomori, K. Hibino, T. Shirai, N. Tateyama, T. Yuda et al.	137-142 頁
The energy spectrum of all-particle cosmic rays around the knee region observed with the Tibet-III air-shower array	共著	平成 20 年	Advances in Space Research42, 467-472	M. Amenomori, K. Hibino, T. Shirai, N. Tateyama, T. Yuda et al.	
The all-particle spectrum of primary cosmic rays in the wide energy range from $10^{14}eVto10^{17}eVobservedwiththeTibet-IIIair-showerarray$	共著	平成 20 年	The Astrophysical Journal678, 1165-1179	M. Amenomori, K. Hibino, T. Shirai, N. Tateyama, T. Yuda et al.	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
New Estimation of the Spectral Index of High-Energy Cosmic Rays as Determined by the Compton-Getting Anisotropy	共著	平成 20 年	The Astrophysical Journal672, L53-56	M. Amenomori, K. Hibino, T. Shirai, N. Tateyama, T. Yuda et al.	
The cosmic-ray energy spectrum around the knee measured by the Tibet-III air-shower array	共著	平成 20 年	Nuclear Physics B (Proceedings Supplement)（175）	M. Amenomori, K. Hibino, T. Shirai, N. Tateyama, T. Yuda et al.	318-321 頁
Spectral index of high-energy cosmic rays by the Compton-Getting effect at solar time frame with the Tibet air shower array	共著	平成 20 年	（175）	Nuclear Physics B Proceedings Supplement	427-430 頁
Northern Sky Survey for Gamma-ray Point Sources in 100 TeV Region with the Tibet Air Shower Array	共著	平成 20 年	Nuclear Physics B (Proceedings Supplement)（175）	M. Amenomori, K. Hibino, T. Shirai, N. Tateyama, T. Yuda et al.	431-434 頁
A large underground water Cherenkov muon detector array with the Tibet air shower array for the Gamma-ray astronomy in the 100 TeV region: detector design and simulation	共著	平成 20 年	Nuclear Physics B (Proceedings Supplement)（175）	M. Amenomori, K. Hibino, T. Shirai, N. Tateyama, T. Yuda et al.	480-483 頁
その他					
テレスコープアレイ計画 58:地表検出器および FADC の性能評価	共著	平成 15 年 9 月	日本物理学会 (宮崎ワールドコンベンションセンター・サミット)		
TibetIII 空気シャワーアレイによる TeV 領域のバースト現象探索	共著	平成 15 年 9 月	日本物理学会 (宮崎ワールドコンベンションセンター・サミット)		
Tibet III array による Knee 領域の全粒子スペクトルの解析 (3)	共著	平成 15 年 9 月	日本物理学会 (宮崎ワールドコンベンションセンター・サミット)		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Tibet 連動実験による一次宇宙線陽子成分エネルギースペクトル	共著	平成 15 年 9 月	日本物理学会 (宮崎ワールドコンベンションセンター・サミット)		
Tibet-III 空気シャワーアレイによる AGN からの TeV ガンマ線の探索	共著	平成 15 年 9 月	日本物理学会 (宮崎ワールドコンベンションセンター・サミット)		
テレスコープアレイ計画 56: 全体計画について	共著	平成 15 年 9 月	日本物理学会 (宮崎ワールドコンベンションセンター・サミット)		
シンチファイバー読み出しシステムの開発 VI	共著	平成 15 年 9 月	日本物理学会 (宮崎ワールドコンベンションセンター・サミット)		
チベット空気シャワーアレイを用いたγ線及びハドロン成分起源空気シャワーの分別	共著	平成 15 年 9 月	日本物理学会 (宮崎ワールドコンベンションセンター・サミット)		
チベット空気シャワーアレイによる TeV ガンマ線点源の広域探査	共著	平成 15 年 9 月	日本物理学会 (宮崎ワールドコンベンションセンター・サミット)		
3 20TeV における銀河面および Cygnus 領域からの Diffuse ガンマ線の探索	共著	平成 15 年 9 月	日本物理学会 (宮崎ワールドコンベンションセンター・サミット)		
Tibet 空気シャワーアレイによる TeV 領域宇宙線反陽子陽子存在比の測定	共著	平成 15 年 9 月	日本物理学会 (宮崎ワールドコンベンションセンター・サミット)		
Tibet-III 空気シャワーアレイによる移行期の太陽の影	共著	平成 15 年 9 月	日本物理学会 (宮崎ワールドコンベンションセンター・サミット)		
Tibet III 空気シャワーアレイによる TeV 領域宇宙線太陽時日周変動の観測	共著	平成 15 年 9 月	日本物理学会 (宮崎ワールドコンベンションセンター・サミット)		
テレスコープアレイ計画 65:地表検出器システムについて	共著	平成 16 年 3 月	日本物理学会 (九州大)		
テレスコープアレイ計画 63:大気モニタ R & D	共著	平成 16 年 3 月	日本物理学会 (九州大)		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
GRB に対する空気シャワー観測イベント数の増加現象の探索	共著	平成 16 年 3 月	日本物理学会 (九州大)		
チベット空気シャワーコア検出器の開発 (1)	共著	平成 16 年 3 月	日本物理学会 (九州大)		
テレスコープアレイ計画 59：全体計画について	共著	平成 16 年 3 月	日本物理学会 (九州大)		
テレスコープアレイ計画 60：大気蛍光望遠鏡の性能テスト	共著	平成 16 年 3 月	日本物理学会 (九州大)		
テレスコープアレイ計画 64：シミュレーションによる地表検出器性能評価	共著	平成 16 年 3 月	日本物理学会 (九州大)		
Tibet 実験による knee 領域一次宇宙線化学組成	共著	平成 16 年 3 月	日本物理学会 (九州大)		
テレスコープアレイ計画 66（地表検出器 PMT のキャリブレーション）	共著	平成 16 年 3 月	日本物理学会 (九州大)		
テレスコープアレイ計画 67：地表検出器エレクトロニクスの開発	共著	平成 16 年 3 月	日本物理学会 (九州大)		
テレスコープアレイ計画 68（無線 LAN の試験結果）	共著	平成 16 年 3 月	日本物理学会 (九州大)		
テレスコープアレイ計画 61：大気蛍光観測用 PMT カメラとエレクトロニクス	共著	平成 16 年 3 月	日本物理学会 (九州大)		
テレスコープアレイ計画 62：大気蛍光望遠鏡の校正方法の開発	共著	平成 16 年 3 月	日本物理学会 (九州大)		
銀河面及びシグナス領域からの TeV ガンマ線探索	共著	平成 16 年 3 月	日本物理学会 (九州大)		
テレスコープアレイ計画 69：TA 全体計画	共著	平成 16 年 9 月	日本物理学会（高知大）		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Tibet-III 空気シャワーアレイによる活動期の太陽の影と Gnevyshev Gap との相関	共著	平成 16 年 9 月	日本物理学会（高知大）		
Tibet 実験による knee 領域一次宇宙線化学組成 (II)	共著	平成 16 年 9 月	日本物理学会（高知大）		
Sidereal anisotropy of 10TeV cosmic-ray intensity observed by the TibetIII air shower array	共著	平成 16 年 9 月	日本物理学会（高知大）		
チベット空気シャワー観測装置による Cygnus 領域 TeV ガンマ線の探索	共著	平成 17 年 3 月	日本物理学会（東京理科大野田）		
チベット空気シャワー観測装置による 100TeV 領域宇宙線放射天体の探索 (I)	共著	平成 17 年 3 月	日本物理学会（東京理科大野田）		
CALET 開発報告 9：無機結晶シンチレータによる全吸収カロリメータの開発	共著	平成 17 年 3 月	日本物理学会（東京理科大野田）		
CALET 開発報告 8：電子・ガンマ線観測による暗黒物質の探索	共著	平成 17 年 3 月	日本物理学会（東京理科大野田）		
チベット空気シャワーコア検出器の開発 (II)	共著	平成 17 年 3 月	日本物理学会（東京理科大野田）		
チベット空気シャワー観測装置による地磁気を利用した一次宇宙線のエネルギー較正	共著	平成 17 年 3 月	日本物理学会（東京理科大野田）		
チベット空気シャワー観測装置による TeV 領域宇宙線強度恒星時異方性の観測	共著	平成 17 年 3 月	日本物理学会（東京理科大野田）		
テレスコープアレイ実験 88：TA シミュレーション	共著	平成 17 年 3 月	日本物理学会（東京理科大野田）		
テレスコープアレイ実験 84：全体計画	共著	平成 17 年 3 月	日本物理学会（東京理科大野田）		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Tibet AS γ 連動実験による Knee 領域の宇宙線化学組成とエネルギースペクトルの研究	共著	平成 17 年 3 月	日本物理学会（東京理科大野田）		
Tibet 実験による knee 領域一次宇宙線化学組成 III	共著	平成 17 年 3 月	日本物理学会（東京理科大野田）		
シミュレーションによる太陽の影の再現およびチベット空気シャワー実験との比較	共著	平成 17 年 9 月	日本物理学会（大阪市大）		
チベット空気シャワーアレイによる TeV ガンマ線点源の広域探索 (II)	共著	平成 17 年 9 月	日本物理学会（大阪市大）		
Tibet 実験による knee 領域一次宇宙線化学組成	共著	平成 17 年 9 月	日本物理学会（大阪市大）		
チベット空気シャワー観測装置による 100TeV 領域宇宙線放射天体の探索 (II)	共著	平成 17 年 9 月	日本物理学会（大阪市大）		
TA 実験 93. TA シミュレーション	共著	平成 17 年 9 月	日本物理学会（大阪市大）		
CALET 開発報告 11：プロトタイプ検出器による 2005 年度三陸気球実験報告	共著	平成 17 年 9 月	日本物理学会（大阪市大）		
テレスコープアレイ実験 90：全体状況報告	共著	平成 17 年 9 月	日本物理学会（大阪市大）		
チベット空気シャワーコア検出器の開発 (III)	共著	平成 18 年 3 月	日本物理学会（愛媛大)		
Tibet III array による Knee 領域の全粒子スペクトルの解析 (4)	共著	平成 18 年 3 月	日本物理学会 (愛媛大)		
CALET 開発報告 12:無機結晶シンチレータの VLSI 読み出しシステムの開発	共著	平成 18 年 3 月	日本物理学会（愛媛大)		
TA 実験 105：地表粒子検出器の全体報告	共著	平成 18 年 3 月	日本物理学会（愛媛大）		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
チベット水チェレンコフミューオン観測装置 4：テスト実験 1	共著	平成 18 年 3 月	日本物理学会（愛媛大)		
TA 実験 99：大気蛍光望遠鏡全体報告	共著	平成 18 年 3 月	日本物理学会 (愛媛大)		
チベット水チェレンコフミューオン観測装置 3:シミュレーション	共著	平成 18 年 3 月	日本物理学会（愛媛大）		
チベット水チェレンコフミューオン観測装置 2：装置	共著	平成 18 年 3 月	日本物理学会（愛媛大）		
チベット水チェレンコフミューオン観測装置 1：計画概要	共著	平成 18 年 3 月	日本物理学会（愛媛大）		
シミュレーションによる太陽の影の再現およびチベット空気シャワー実験との比較	共著	平成 18 年 3 月	日本物理学会（愛媛大）		
TA 実験 114：地表粒子検出器の設置・観測報告	共著	平成 18 年 9 月	日本物理学会（奈良女大）		
TA 実験 109：大気蛍光望遠鏡観測状況報告	共著	平成 18 年 9 月	日本物理学会（奈良女大）日本物理学会（奈良女大）		
TA 実験 108：TA 全体状況報告	共著	平成 18 年 9 月	日本物理学会（奈良女大）		
LHCf 位置検出器の開発－HIMAC による SciFi キャリブレーション－	共著	平成 18 年 9 月	日本物理学会（奈良女大）		
チベット水チェレンコフミューオン観測装置 5	共著	平成 18 年 9 月	日本物理学会（奈良女大）		
Tibet 空気シャワー観測装置による Diffuse TeV ガンマ線源の広域探査	共著	平成 18 年 9 月	日本物理学会（奈良女大）		
Tibet hybrid array による knee 領域化学組成観測のシミュレーション	共著	平成 18 年 9 月	日本物理学会（奈良女大）日本物理学会（奈良女大）		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
「Tibet III array による Knee 領域の全粒子スペクトルの解析」(5)	共著	平成 18 年 9 月	日本物理学会（奈良女大）		
The sidereal anisotropy sky-map of 10 TeV cosmic ray intensity observed with the Tibet III air shower array	共著	平成 18 年 9 月	日本物理学会（奈良女大）		
Tibet 空気シャワーアレイによる極小移行期における太陽の影	共著	平成 18 年 9 月	日本物理学会（奈良女大）		
TA 実験 119：全体報告	共著	平成 19 年 3 月	日本物理学会（首都大東京）		
TA 実験 120：地表粒子検出器全体報告	共著	平成 19 年 3 月	日本物理学会（首都大東京）		
TA 実験 123：大気蛍光望遠鏡全体報告	共著	平成 19 年 3 月	日本物理学会（首都大東京）		
TA 実験 124:大気蛍光望遠鏡の撮像カメラの較正	共著	平成 19 年 3 月	日本物理学会（首都大東京）		
「Tibet III array による knee 領域の全粒子スペクトルの解析」(6)	共著	平成 19 年 3 月	日本物理学会（首都大東京）		
Tibet 実験による knee 領域一次宇宙線化学組成 V	共著	平成 19 年 3 月	日本物理学会（首都大東京）		
Implication of the sidereal anisotropy sky-map of 10 TeV cosmic ray intensity observed with the Tibet III air shower array	共著	平成 19 年 3 月	日本物理学会（首都大東京）		
CALET 開発報告 15：CALET 計画の装置開発状況と将来展望	共著	平成 19 年 3 月	日本物理学会（首都大東京）		
CALET 開発報告 18：SciFi 読み出し FEC の耐放射線性テスト	共著	平成 19 年 3 月	日本物理学会（首都大東京）		
チベット水チェレンコフミューオン観測装置 6	共著	平成 19 年 3 月	日本物理学会（首都大東京）		

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
シミュレーションによる太陽の影の再現およびチベット空気シャワー実験との比較 (2)	共著	平成 19 年 3 月	日本物理学会（首都大東京）		
TA 実験 136：テレスコープアレイ検出器による極高エネルギー宇宙線のハイブリッド観測報告その 1	共著	平成 19 年 9 月	日本物理学会（北海道大）	佐川宏行, 日比野欣也, 他	
TA 実験 132：地表粒子検出器全体報告	共著	平成 19 年 9 月	日本物理学会（北海道大）	櫻井信之, 日比野欣也, 他	
TA 実験 127：大気蛍光望遠鏡観測状況報告	共著	平成 19 年 9 月	日本物理学会（北海道大）	得能久生, 日比野欣也, 他	
チベット水チェレンコフミューオン観測装置 7	共著	平成 19 年 9 月	日本物理学会（北海道大）	塩見昌司, 白井達也，立山暢人，日比野欣也，湯田利典，他	
チベット空気シャワー観測装置による「かに星雲」からの TeV ガンマ線長期観測	共著	平成 19 年 9 月	日本物理学会（北海道大）	川田和正, 白井達也，立山暢人，日比野欣也，湯田利典，他	
Tibet 空気シャワーアレイによる TeV 領域の γ 線起源空気シャワーのエネルギー決定	共著	平成 19 年 9 月	日本物理学会（北海道大）	柴田槇雄, 白井達也，立山暢人，日比野欣也，湯田利典，他	
チベット水チェレンコフミューオン観測装置 8	共著	平成 20 年 3 月	日本物理学会（近畿大）	川田和正, 白井達也，立山暢人，日比野欣也，湯田利典，他	
Tibet-III array により観測された Knee 領域空気シャワーサイズスペクトルの天頂角依存	共著	平成 20 年 3 月	日本物理学会（近畿大）	陳鼎, 白井達也，立山暢人，日比野欣也，湯田利典，他	
チベット水チェレンコフミューオン観測装置 9	共著	平成 20 年 3 月	日本物理学会（近畿大）	佐古崇志, 白井達也，立山暢人，日比野欣也，湯田利典，他	
TA 実験 137：地表粒子検出器全体報告	共著	平成 20 年 3 月	日本物理学会（近畿大）	東龍二, 日比野欣也, 他	
チベット水チェレンコフミューオン観測装置 12：プロトタイプ検出器を用いたガンマ線の探索	共著	平成 20 年 9 月	日本物理学会（山形大）	川田和正, 白井達也，立山暢人，日比野欣也，湯田利典，他	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
チベット水チェレンコフミューオン観測装置 11：プロトタイプ検出器を用いた空気シャワー解析	共著	平成 20 年 9 月	日本物理学会（山形大）	大西宗博, 白井達也，立山暢人，日比野欣也，湯田利典，他	
チベット水チェレンコフミューオン観測装置 10：計画概要とシミュレーション	共著	平成 20 年 9 月	日本物理学会（山形大）	佐古崇志, 白井達也，立山暢人，日比野欣也，湯田利典，他	
Large-scale and localized structures of the sidereal anisotropy observed with the Tibet III air shower array	共著	平成 20 年 9 月	日本物理学会（山形大）	宗像一起, 白井達也，立山暢人，日比野欣也，湯田利典，他	
TA 実験 152：地表粒子検出器のデータ解析	共著	平成 20 年 9 月	日本物理学会（山形大）	櫻井信之，日比野欣也, 他	
TA 実験 150：地表粒子検出器全体報告	共著	平成 20 年 9 月	日本物理学会（山形大）	奥田剛司，日比野欣也, 他	
TA 実験 146：大気蛍光望遠鏡 観測・解析の現状	共著	平成 20 年 9 月	日本物理学会（山形大）	多米田裕一郎，日比野欣也, 他	

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 62 年 1 月～現在に至る	日本物理学会会員
平成 9 年 1 月～現在に至る	コンピュータ利用教育協議会会員
平成 10 年 8 月～現在に至る	情報処理学会会員
平成 13 年 4 月～平成 17 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 A （宇宙ガンマ線観測のためのダイアモンド・リテイル・コンプトン・テレスコープの研究）（研究分担者）
平成 16 年 9 月～平成 18 年 9 月	日本物理学会新著紹介小委員会委員
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	科学研究費補助金 特定領域公募研究 8,000 千円 （中性子計測は完全な電極構造を持ったダイヤモンド検出器が有効である）（研究分担者）
平成 19 年 4 月～平成 20 年 3 月	東京大学宇宙線研究所（共同利用研究） 50 千円 （銀河拡散ガンマ線の研究）（研究代表者）
平成 20 年 4 月～平成 23 年 3 月	科学研究費補助金 基盤 C 一般 3,400 千円 （雷雲電場における粒子線加速機構の研究）（研究代表者）
平成 20 年 4 月～平成 23 年 3 月	科学研究費補助金 基盤 B 海外 13,000 千円 （チベットにおける高エネルギー天体現象の系統的研究）（研究分担者）
平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月	東京大学宇宙線研究所（共同利用研究） 50 千円 （銀河拡散ガンマ線の研究（継続））（研究代表者）

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部物理学教室	職名 教授	氏名 渡邊　靖志	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		なし
2　作成した教科書、教材		
素粒子物理入門　培風館	平成 14 年 4 月 25 日	新物理学シリーズ３３　できるだけ式を使わず，素粒子物理学の本質から現代最前線までを概説したもの
基礎の電磁気学　培風館	平成 16 年 9 月 24 日	できるだけ早くマクスウェル方程式を提示し，それを理解していくという方式の大学初年級の１学期用教科書
基礎　熱学・波動	平成 18 年 2 月 10 日	大学初年級のテキスト。プリントの形で存在
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
基礎の電磁気学	単著	平成 16 年 9 月	培風館		
アドバンシング物理ー A2	共著	平成 18 年 6 月	シュプリンガー・フェラーク東京		
論文					
Improved Evidence for Direct CP Violation in BO → pi+pi- Decays and Model- Independent Constraints on phi (2).	共著	平成 17 年	Phys. Rev. Lett.95	H. Ishino et al.	101801 頁
Observation of Direct CP-Violation in B0 -¿ pi+pi- Decays and Model-Independent Constraints on phi2	共著	平成 19 年	Phys. Rev. Lett.98	H. Ishino et al.	211801 頁
High statistics study of the $f_0(980) resonance in gamma gamma -> pi + pi - production$	共著	平成 19 年	Phys. Rev. D	T. Mori et al.	051101(R) 頁
Evidence for D0-D0bar Mixing	共著	平成 19 年	Phys. Rev. Lett.98	M. Staric et al.	211803 頁
High statistics Measurement of the cross section of gamma gamma -¿ pi+pi- production	共著	平成 19 年 7 月	J. Phya. Soc. Jpn76	T. Mori S. Uehara and Y. Watanabeet al. Belle Collaboration	62645 頁
High-statistics measurement of neutral pion-pair production in two-photon collisions	共著	平成 20 年 5 月	Phys. Rev. D (RC)78	S. Uehara and Y. Watanabeet al. Belle Collaboration	052004 頁
その他					
なし					

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 44 年 9 月～現在に至る	アメリカ物理学会会員
昭和 53 年 7 月～現在に至る	日本物理学会会員
平成 6 年 4 月～現在に至る	（国際共同研究）高エネルギー加速器研究機構「物質・反物質の対称性の破れの研究」
平成 7 年 4 月～現在に至る	日本物理教育学会会員
平成 12 年 4 月～平成 16 年 3 月	日本物理教育学会評議員
平成 13 年 4 月～現在に至る	（国際共同研究）東京大学宇宙線研究所「核子崩壊の探索」
平成 13 年 4 月～平成 17 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究（B) 13,200 千円 （CP 非保存パラメータφ 2 の測定）（研究代表者）
平成 14 年 4 月～平成 17 年 3 月	科学研究費補助金 特定領域研究（公募） 7,200 千円 （B 中間子崩壊での CP 非保存パラメータφ 2 の測定）（研究代表者）
平成 15 年 9 月～平成 17 年 8 月	日本物理学会理事
平成 16 年 4 月～平成 19 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究（B) 16,400 千円 （B 中間子の FCNC 崩壊過程における混合に起因する CP 非保存の研究）（研究代表者）
平成 19 年 4 月～平成 22 年 3 月	（国際共同研究）高エネルギー加速器研究機構「二光子過程断面積の高統計測定による中間子の性質・構造の解明」（14,500 千円）
平成 19 年 4 月～平成 22 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究（B) 14,500 千円 （二光子過程断面積の高統計測定による中間子の性質・構造の解明）（研究代表者）

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部物理学教室	職名 特任教授	氏名 長瀬　文昭	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		なし
2　作成した教科書、教材		なし
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
Simultaneous ASCA and Hubble Space Telescope/GHRS Observations of Cygnus X-2/V1341 Cygni	共著	平成 15 年	Publ. Astron. Soc. Pacific115	Vrtilek, S. D.; Raymond, J. C.; Boroson, B.; McCray, R.; Smale, A.; Kallman, T.; Nagase, F.	1124-1134 頁
Luminosity-related Changes in the Cyclotron Resonance Structure of the Binary X-Ray Pulsar 4U 0115+632	共著	平成 16 年	Astrophys.J.610,（1）	Mihara, T.; Makishima, K.; Nagase, F.	390-401 頁
Ionization States and Plasma Structures of Mixed-Morphology Supernova Remnants Observed with ASCA	共著	平成 17 年	Astrophys.J.631,（2）	Kawasaki, M.; Ozaki, M.; Nagase, F.; Inoue, H.; Petre, R.	935-9462005 頁
X-Ray Spectral Study of the Photoionized Stellar Wind in Vela X-1	共著	平成 18 年	Astrophys. J.651	Watanabe, S., Sako, M., Ishida, M., Ishisaki, Y., Kahn, S. M., Kohmura, T., Nagase, F., Paerels, F., Takahashi, T.	421-437 頁
Cyclotron Observations of Binary X-Ray Pulsars	共著	平成 19 年	Prog. Theor. Phys. Suppl.	Mihara, T., Terada, Y., Nakajima, M., Suzuki, M., Enoto, T., Makishima, K., Nagase, F., et al.	191-195 頁
Suzaku Observations of Hercules X-1: Measurements of the Two Cyclotron Harmonics	共著	平成 20 年	Publ. Astron. Soc. Japan60	Enoto, T., Makishima, K., Terada, Y., Mihara, T., Nakazawa, K., Ueda, T., Dotani, T., Kokubun, M.; Nagase, F., et al.	S57–S68 頁
その他					
なし					

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 45 年 4 月～現在に至る	日本物理学会会員
昭和 52 年 4 月～現在に至る	日本天文学会会員
昭和 55 年～平成 20 年	（国際共同研究）名古屋大学および（旧）文部省宇宙科学研究所「衛星観測による銀河系内 X 線源、特に X 線連星、X 線パルサーの研究」
昭和 56 年 4 月～現在に至る	COSPAR(Committee on Space Research) 会員
昭和 59 年 4 月～現在に至る	IAU(International Astronomical Union) 会員
平成 19 年 4 月～平成 20 年	（受託研究）学術振興会「衛星観測データベースを用いた宇宙科学教育教材の作成」

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部物理学教室	職名 特任教授	氏名 波田野　彰	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		なし
2　作成した教科書、教材		
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
物理の世界	共著	平成 19 年 4 月	放送大学教育振興会	生井澤寛，波田野彰，小形正男	
論文					
SSH と新たな科学技術教育の方向性	単著	平成 15 年 7 月	日本科学教育学会		123-124 頁
理学・工学の基礎としての物理教育	単著	平成 15 年 7 月	日本科学教育学会		9-10 頁
サイエンスの基礎を学習させるカリキュラム編成―物理関連項目の検討―	共著	平成 15 年 9 月	日本科学教育学会研究会報告（科教研報）Vol.18　№1(2003)		21-26 頁
スーパーサイエンスハイスクールにおける数学と物理のカリキュラム	単著	平成 16 年 8 月	日本科学教育学会		219-222 頁
大学院課程の JABEE 認証の意義	単著	平成 17 年 5 月	日本物理学会誌６０巻５号		377-380 頁
その他					
VTR/放送大学 TV　「物理の世界」	共著	平成 15 年 4 月	放送大学		
技術分野別の認定審査試行調査 (応用物理分野)	共著	平成 15 年 7 月	新エネルギー・産業技術総合機構/日本物理学会		
りメディアル☆フィジックス	共著	平成 16 年	文科省メディア教育開発センター/大学物理教育協会		
日本学術会議“ 科学のための科学 ”を基盤にした“ 社会のための科学 ”に向けた新世紀の科学教育	共著	平成 16 年 3 月	日本学術会議「科学教育研連シンポジウム」		
日本学術会議“ 科学のための科学 ”を基盤にした“ 社会のための化学 ”に向けた新世紀の科学教育	共著	平成 16 年 5 月	日本学術会議「科学教育研連シンポジウム」		

著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び 巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
VTR ／放送大学 TV 「光と電磁場 (’０５)」	共著	平成 17 年 4 月	放送大学	櫻井捷海，中山正敏，波田野彰	
VTR ／放送大学 TV 「物理の世界 (’０７)」	共著	平成 19 年 4 月	放送大学	生井澤寛，波田野彰，小形正男	

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
平成 6 年 9 月～現在に至る	日本物理学会会員
平成 6 年 9 月～現在に至る	日本物理学会大学の物理教育誌編集委員
平成 10 年 4 月～現在に至る	日本物理教育学会会員
平成 10 年 4 月～平成 15 年 6 月	日本物理教育学会評議員
平成 14 年 4 月～現在に至る	JABEE 会員
平成 15 年 6 月～平成 19 年 5 月	日本物理教育学会理事
平成 15 年 10 月～平成 17 年 9 月	日本学術会議科学教育研究連絡委員会幹事
平成 16 年 4 月～現在に至る	JABEE 物理・応用物理分野審査委員
平成 16 年 4 月～現在に至る	JABEE 基準委員
平成 16 年 5 月～平成 17 年 6 月	JABEE 大学院基準委員
平成 17 年 4 月～平成 19 年 3 月	スーパーサイエンスハイスクールの総合的評価に関する調査研究
平成 17 年 4 月～平成 18 年 3 月	平成１７年度高等学校教育課程実施調査状況調査 (高等学校物理 I) 委員平成１７年度高等学校教育課程実施調査状況調査委員会
平成 17 年 9 月～平成 19 年 8 月	日本物理学会刊行委員会委員
平成 17 年 10 月～平成 18 年 12 月	OECD　PISA　調査委員会　出題作成等
平成 18 年 6 月～平成 20 年 9 月	学習指導要領の改善に関する調査研究中学校学習指導要領解説理科編作成協力者会議
平成 19 年 6 月～現在に至る	日本物理教育学会評議員
平成 19 年 9 月～現在に至る	物理チャレンジ・オリンピック日本委員会会員
平成 19 年 9 月～平成 20 年 9 月	日本物理学会「大学の物理教育」編集委員長

Ⅴ　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部物理学教室	職名 特任教授	氏名 湯田　利典	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		なし
2　作成した教科書、教材		なし
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
An experiment to measure the primary energy spectra of protons, heliums and heavy nuclei in the knee energy region at a high altitude	共著	平成 15 年	Journal of Physics G: Nuclear and Pariticle Physics29	X.W. Xu, T. Yuda, L.K. Ding, C.S. Zhang and M. Ohnishi	719 - 735 頁
Primary proton spectrum around the knee deduced from the emulsion chamber data obtained at Mts. Fuji and Kanbala	共著	平成 15 年	Astroparticle Physics18	J. Huang, N. Hotta, K. Kasahara, I. Ohta, S. Ozawa, T. Saito, M. Shibata,X.W. Xu, and T. Yuda	637-648 頁
Multi-TeV gamma-ray flares from Markarian 421 in 2000 and 2001 observed with the Tibet air shower array	共著	平成 15 年 9 月	The Astrophysical Journal593	M.Amenomori, T.Yuda et al.	242 - 249 頁
Observation by an air-shower array in Tibet of the multi-TeV cosmic-ray anisotropy due to the terrestrial orbital motion around the Sun	共著	平成 16 年 8 月	Physical Review Letters93,（6）	M.Amenomori, T.Yuda et al.	061101-1-061101-4 頁
Large-scale siderial anisotropy of Galactic cosmic-ray intensity observed by the Tibet air shower array	共著	平成 17 年 7 月	The Astrophysical Journal Letters626,（1）	M.Amenomori, T.Yuda et al.	L29-L32 頁
A northern sky survey of steady TeV gamma-ray point sources using the Tibet air shower array	共著	平成 17 年 11 月	The Astrophysical Journal633,（10）	M.Amenomori, T.Yuda et al.	1005-1012 頁
Observation of PeV gamma rays from the Monogem Ring with the Tibet air shower array	共著	平成 17 年 12 月	The Astrophysical Journal Letters635,（1）	M. Amenomori, T.Y. Saito, T. Yuda et al.	L53-L56 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
On the upper limiting energy of the solar diurnal anisotropy of Galactic cosmic ray intensities	共著	平成 18 年	Advances in Geosciences2	K. Munakata, T. Yuda et al.	125 頁
Study of ¿100GeV electrons with BETS detector using a long duration balloon flight in Antarctica	共著	平成 18 年	Advances in Space Research37	S.Torii, T.Yuda et al.	2095-2101 頁
Flux upper limitsof diffuse TeV gamma rays from the Galactic plane using the effective area of the Tibet-II and -III arrays	共著	平成 18 年	Advances in SPace Research37	M.Amenomori, T.Yuda et al.	1932-1937 頁
Variation of Sun shadow in the SolarCycle 23 observed with the Tibet air shower array	共著	平成 18 年	Advances in Space Research38	M.Amenomori, T.Yuda et al.	936-941 頁
Primary proton spectrum around the knee observed by the Tibet air-shower experiment	共著	平成 18 年	Advances in Space Research37	M.Amenomori, T.Yuda et al.	1938- 1943 頁
Are protons still dominant at the knee of the cosmic-ray energy spectrum ?	共著	平成 18 年 1 月	Physics LettersB 632	M.Amenomori, T.Yuda et al.	58-64 頁
Anisotropy and Corotation of Galactic Cosmic Rays	共著	平成 18 年 10 月	Science314	M.Amenomori, T.Yuda et al.	439 - 443 頁
A Solar Neutron Telescope in Tibet and its Capability Examined by the 1998 November 28th Event	共著	平成 19 年 1 月	Astroparticle Physics28,（8）	Y. Muraki, T. Yuda, Y.H. Tan et al.	119-131 頁
Moon Shadow by Cosmic Rays under the Influence of Geomagnetic Field and Search for Antiprotons at Multi-TeV Energies	共著	平成 19 年 11 月	Astroparticle Physics28,（8）	M. Amenomori, K. Hibino, T. Yuda et al.	137-142 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
New Estimation of the Spectral Index of High-Energy Cosmic Rays as Determined by the Compton-Getting Anisotropy	共著	平成 20 年 1 月	The Astrophysical Journal Letters672	M.Amenomori, T.Yuda et al	L52-L56 頁
The all-particle spectrum of primary cosmic rays in the wide energy range from 10**14 eV to 10**17 eV observed with the Tibet-III air-shower array	共著	平成 20 年 5 月	The Astrophysical Journals678,（2）	M.Amenomori, T.Yuda et al.	1165-1179 頁
The Energy Spectrum of All-particle Cosmic Rays Around the Knee Region Observed with the Tibet-III Air-shower Array	共著	平成 20 年 6 月	Advances in Space Research42	M. Amenomori, D. Chen, J. Huang, T. Yuda et al.	467 - 472 頁
その他					

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 39 年 4 月～現在に至る	日本物理学会会員
平成 11 年 4 月～平成 16 年 3 月	（受託研究）東京大学宇宙線研究所「チベット高原における高エネルギー宇宙線放射天体の研究」(224,000 千円)
平成 15 年 4 月～平成 16 年 3 月	科学研究費補助金 特定領域 30,600 千円 （チベットにおける高エネルギー宇宙線放射天体の研究 （領域名、継続)）(研究代表者)
平成 15 年 4 月～平成 16 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 B(1) 4,300 千円 （チベットにおける高エネルギー宇宙ガンマ線宇宙線の研究 (継続)）(研究代表者)
平成 16 年 4 月～現在に至る	（国際共同研究）東京大学宇宙線研究所、中国科学院高能物理研究所「宇宙粒子天体物理の研究」(15,000 千円)
平成 16 年 4 月～平成 17 年 3 月	科学研究費補助金 特定領域 20,900 千円 （チベットにおける高エネルギー宇宙線放射天体の研究 （領域名、継続)）(研究代表者)
平成 16 年 4 月～平成 17 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 B(1) 4,200 千円 （チベットにおける高エネルギー宇宙ガンマ線宇宙線の研究 (継続)）(研究代表者)
平成 17 年 4 月～平成 20 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究Ｂ （海外） 13,700 千円 （チベット高原における高エネルギー粒子線天体物理の展開）(研究代表者)
平成 20 年 4 月～平成 23 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究Ｂ（海外） 16,900 千円 （チベットにおける高エネルギー天体現象の系統的研究）(研究代表者)

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部物理学教室	職名 准教授	氏名 宇佐見　義之	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
2　作成した教科書、教材		
3　教育上の能力に関する大学等の評価 工学部　優秀講義賞　受賞	平成 18 年 4 月 1 日 ～平成 19 年 3 月 31 日	工学部に設けられた、優秀講義賞を受賞した
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他 バーチャル地球史博物館　講演	平成 13 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 11 月	コンスタントに年に１０回ほど、バーチャル地球史博物館の講演を行っている。 対象は、中学生、高校生、一般、授業を受け持ち講義の学生。

II　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
生物の形の多様性と進化	共著	平成 15 年 6 月	裳華房		
リンゴと地球の間にはたらく力とは何か?	共著	平成 17 年 6 月	森北出版		
カンブリア爆発の謎	単著	平成 20 年 3 月	技術評論社		
論文					
How Anomalocaris Swam in the Cambrian sea; A TheoreticoO study Based on Hydrodynamics	共著	平成 15 年 10 月	Horphogenesis and Pattern Formation in Biological System.		
Theoretical study on the body form and swimming pattern of Anomalocaris based on hydrodynamic simulation	単著	平成 18 年 1 月	J.Theor.Bio.		11-17 頁
Theoretical study on the body form and swimming pattern of Anomalocaris based on hydrodynamic simulation	単著	平成 19 年 9 月	Advances in Artificial Life (F.A.Costa, et. al. (eds.)), Springer。		183-192 頁
その他					

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 63 年 4 月～現在に至る	日本物理学会会員
平成 15 年 8 月～現在に至る	日本古生物学会会員
平成 15 年 10 月～現在に至る	数理生物学会会員
平成 16 年 4 月～現在に至る	日本進化学会会員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部物理学教室	職名 准教授	氏名 黒澤　秀夫	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 高校までの数学を意味と言う観点から復習	昭和 61 年 4 月 ～平成 15 年 5 月 1 日	全ての担当教科の開始から最初の 1 時限 (基礎ゼミ)、または、2 時限 (統計物理学Ⅰ)、または、6～8 時限 (物理学Ⅰ) の間、『言葉としての数式』と題して、小・中・高で学習した数学を、日常生活やニュートン力学 (目で見える世界の力学) での代表的な使用例を中心に再整理・再確認して、計算のみならず “記述する言葉 ”として理解を深め、使用できる状態に導いた。(昭和 61 年 4 月～)
2　作成した教科書、教材		
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		

II　研究活動					
著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び 巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
授業評価アンケートの解析	共著	平成 16 年 6 月	『工学教育』52 巻 6 号		66-71 頁
その他					
教育評価アンケートで得られたこと	共著	平成 15 年 9 月	平成 15 年工学・工業教育研究講演会（日本工学教育協会）		
教育評価アンケートの分析	共著	平成 15 年 9 月	平成 15 年度工学・工業教育研究講演会（日本工学教育協会）		

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 38 年 4 月～現在に至る	日本物理学会会員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部物理学教室	職名 准教授	氏名 田村　忠久	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
物理学 I、物理学 II、物理学概説、物理学 A：毎回の演習とアンケート（双方向コミュニケーション）の実施	平成 17 年 4 月 1 日 ～現在に至る	毎回の授業で簡単な演習を行うことで、講義内容の重要点の理解を促すとともに、出席の確認も行っている。演習プリントの裏面はアンケートになっており、授業改善に役立てている。アンケートでの質問等には全て回答して、次回の授業で返却している。
物理学実験 I：実験結果の報告としてプレゼンテーション形式を導入した。	平成 18 年 9 月 ～平成 19 年 1 月	実験結果の報告はレポートの提出によって評価しているが、それに代わるプレゼンテーションを行い、実験報告の要所や結果の吟味方法について、学生相互での意識の高め合いと理解度の向上を図った。
物理学 I、物理学 II：中間試験の実施を 1 回から 2 回へ変更	平成 19 年 4 月 1 日 ～現在に至る	試験範囲を狭くすることで試験勉強をしやすくすることを目的に、中間試験の実施を 1 回から 2 回へ変更した。また、試験回数を増やすことで学生の勉強の機会を増やすことも目的としている。但し、2 クラス（計 200 名弱）の採点作業の負担は大きい。
物理学 II、物理学 A：演習でのマークシートの活用	平成 20 年 4 月 ～平成 20 年 7 月	毎回の講義で行っている演習の答案用紙にマークシート用紙を活用する試みを行った。
物理学 I、物理学 II、物理学 A：5 分刻みの授業計画の実践	平成 20 年 4 月 ～現在に至る	学生の理解度に合わせて授業進度を調整していたために、一つの項目が 2 回の講義にまたがることがあった。気にはなっていたが、アンケートで項目が途中で切れると、前回の講義内容を思い出すのに苦労するというコメントがあったので、授業ノートに 5 分刻みの講義スケジュール目標を書いて、一まとまりの項目が講義に収まるように計画した。また、アンケートでは、集中力がせいぜい 60 分程度しか持たないという意見もあったので、授業途中で数分程度の休憩を取れるように計画した。
FYS：パソコン演習室での課題発表会	平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 7 月 31 日	FYS の課題発表を学生全員が各自でパワーポイントや書画カメラ等を用いて行えるように、発表を行う 3 回の講義をパソコン演習室において行った。
物理学 I、物理学 II：中間試験の再試験を導入	平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	中間試験（1 回目のみ）の不合格者を対象とした再試験を行い、初期の段階でのつまずきや遅れを挽回する機会を与える試みを行っている。
2　作成した教科書、教材		
物理学 I、物理学 A：自習プリントの作成	平成 17 年 4 月 ～平成 21 年 1 月	力学の授業内容を補う復習を行える演習プリントを No.1 から＃まで作成した。毎年、増補改訂を行い、今回の改訂作業によって、No.1 から No.12 までとなった。2008 年度後期も改訂を行っている。

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
物理学 II：自習プリントの作成	平成 17 年 9 月 ～平成 20 年 7 月 31 日	電磁気学の授業内容を補う復習を行える演習プリントを No.1 から＃まで作成した。毎年、増補改訂を行っている。2008 年度前期の時点では No.11 までとなっている。
物理学概説：自習プリントの作成	平成 18 年 4 月 ～平成 18 年 7 月	授業内容を補う復習を行える演習プリントを No.1 から＃まで作成した。
物理学実験 I のガイダンス用スライドの作成	平成 19 年 8 月 28 日 ～現在に至る	物理学実験 I で第 1 回目の授業で行う、ガイダンスと有効数字の説明のためのスライドを作成した。このスライドを利用している教員もいる。
物理学実験 I：テキスト改訂（分担）	平成 20 年 3 月 ～平成 20 年 3 月	実験テーマ「マイクロメータ」、「大気圧」、「湿度」において、検討項目を追加および改善することで、定量的な検討を行えるようにした。
FYS：講義用スライドの作成	平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 7 月 31 日	2008 年 3 月の工学部 FD 講演会で紹介された初年次教育の授業項目を取り入れたスライドを作成した。
物理学 A、物理学 I、物理学 II：演習用スライドの作成	平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	これまで板書で行っていた演習をスライドによって行うために、各回毎のスライドを作成した。スライドを講義の板書と併用することで授業に変化を持たせることができ、また解答の強調点等をアニメーションで示すことができる。
物理学実験 I：対数グラフ演習の作成	～平成 20 年 1 月	対数グラフを自作させることによって、対数グラフの仕組みと使い方を身につけるための演習プリントを作成した。
3　教育上の能力に関する大学等の評価 工学部優秀講義賞	平成 19 年 3 月	
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
High Energy Electron Observation by Polar Patrol Balloon Flight in Antarctica	共著	平成 15 年	Proceedings of 28th International Cosmic Ray Conference (Tsukuba)8	S.Torii ,T.Tamura ,N.Tateyama ,K.Yoshida ,K.Anraku ,T.Yamashita , J.Nishimura, T.Yamagami, Y.Saito, S.Ohta, M.Namiki, Y.Matsuzaka, .Yamagishi, A.Kadokura, K.Kasahara, S.Ogawa, M.Fujii, M.Shibata, Y.Katayose , T.Inoue, H.Kitamura, H.Murakami, T.Kobayashi, Y.Komori, K.Mizutani, Y.Hira, J.Chang	2085-2088 頁
The CALET, CALorimetric Electron Telescope, Mission for the International Space Station	共著	平成 15 年	Nuclear Physics B (Proc. Suppl)113	S.Torii, et al.	103-110 頁
スペースステーション搭載型宇宙線観測装置の重粒子検出性能に関する研究	共著	平成 15 年 4 月	平成 14 年度放射線医学総合研究所 重粒子線がん治療装置等 共同利用研究報告書	田村忠久、他	243-244 頁
Expected Perfomance of CALET from Simulation	共著	平成 15 年 8 月	Proc. of 28th International Cosmic Ray Conference (Tsukuba), Vol.4, 2003		2185-2188 頁
Development of PMT Readout System with Viking Chips for the SciFi Detector of CALET	共著	平成 15 年 8 月	Proc. of 28th International Cosmic Ray Vonference (Tsukuba), Vol.4, 2003		2189-2192 頁
Compatibility of Calorimetric Electron Telescope(CALET), Mission for JEM Exposed Facility	共著	平成 15 年 8 月	Proc. of 28th International Cosmic Ray Vonference (Tsukuba), Vol.4, 2003		2177-2180 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Development of Total Absorption Calorimeter of CALET	共著	平成 15 年 8 月	Proc. of 28th International Cosmic Ray Vonference (Tsukuba), Vol.4, 2003	Yusaku Katayose, Kazuaki Anraku, Kenji Yoshida, Shoji Torii, Tadahisa Tamura and Jin Chang	2197-2200 頁
Scientific Perfomance of the CALET Instrument for 20 MeV-10 TeV Gamma-Ray Observation	共著	平成 15 年 8 月	Proc. of 28th International Cosmic Ray Vonference (Tsukuba), Vol.4,2003		’2791-2794 頁
The CALorimetric Electron Telescope, CALET, Misson for the International Space Station	共著	平成 15 年 8 月	Proc. of 28th International Cosmic Ray Vonference (Tsukuba), Vol.4, 2003		2181-2184 頁
Performance of 64-anode Photomultiplier and Scintillating Fiber for the CALET detector	共著	平成 15 年 8 月	Proc. of 28th International Cosmic Ray Vonference (Tsukuba), Vol.4, 2003		2193-2196 頁
長時間気球実験による CALET 検出器の実証試験と電子ガンマ線観測	共著	平成 15 年 11 月	平成 15 年度大気球シンポジム（JAXA/ISAS）	田村忠久、他	125-128 頁
南極周回気球による高エネルギー宇宙電子観測	共著	平成 15 年 11 月	平成 15 年度大気球シンポジム（JAXA/ISAS）	北村尚、他	121-124 頁
The CALET, CALorimetric Electron Telescope, on ISS/JEM：	共著	平成 16 年	Nuclear Physics B (Proc. Suppl)134	S.Torii, et al.	23-30 頁
スーパープレッシャー気球を用いた電子・ガンマ線の長時間観測計画	共著	平成 16 年 12 月	平成 16 年度大気球シンポジム（JAXA/ISAS）	田村忠久、他	182-185 頁
結晶シンチレータによる気球観測用全吸収カロリメータの開発	共著	平成 16 年 12 月	平成 16 年度大気球シンポジム（JAXA/ISAS）	片寄祐作	176-181 頁
PPB-BETS による高エネルギー宇宙線電子観測データの解析	共著	平成 16 年 12 月	平成 16 年度大気球シンポジム（JAXA/ISAS）	北村尚、他	174-175 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Atmospheric gamma-ray observation over 100GeV with PPB-BETS by long duration balloon flight in Antarctica	共著	平成 17 年	Proceedings of the 29th International Cosmic Ray Conference (Pune)9, (53-56)	K.Yoshida , H.Kitamura , S.Torii, T.Tamura , K.Kasahara , J.Chang , I.Iijima, A.Kadokura, Y.Katayose , T.Kobayashi , Y.Komori , Y.Matsuzaka , K.Mizutani , H.Murakam , M.Namiki , J.Nishimura , S.Ohta , Y.Saito , M.Shibata , N.Tateyama , T.Yamagami , H.Yamagishi and T.Yuda	
The CALET Mission on International Space Station	共著	平成 17 年	Proceedings of the 29th International Cosmic Ray Conference (Pune)3	S.Torii, T.Tamura, et al.	329-332 頁
Performance of the CALET Calorimeter by Accelerator Beam Test	共著	平成 17 年	Proceedings of the 29th International Cosmic Ray Conference (Pune)3	Y.Katayose , S.Torii , T.Tamura, K.Yoshida, H.Murakami, H.Fuke, K.Hibino, M.Ichimura, K.Kasahara, K.Kashiwagi, H.Kitamura, Y.Komori, S.Kuramata, T.Kobayashi, F.Makino, K.Mizutani, J.Nishimura, S.Okuno, Y.Saito, M.Shibata, M.Takayanagi, N.Tateyama, T.Terasawa, H.Tomida, Y.Uchihori, S.Ueno, T.Yamagami and T.Yuda	325-328 頁
CALET Observation of Nuclear Components in Primary Cosmic Rays	共著	平成 17 年	Proceedings of the 29th International Cosmic Ray Conference (Pune),3	M. Ichimura , S. Kuramata , S. Torii , T. Tamura , K. Yoshida, K. Kasahara, J. Chang, H. Fuke, K. Hibino , T. Kashiwagi, Y. Katayose, H. Kitamura, T. Kobayashi, Y. Komori , F. Makino , K. Mizutani , H. Murakami , J. Nishimura , S. Okuno , Y. Saito , M. Shibata , M. Takayanagi , N. Tateyama , T. Terasawa , S. Tomida , Y. Uchihori , S. Ueno , T. Yamagami and T. Yuda	321-324 頁
Observation of Electrons above 100 GeV with the BETS Detector Using Long-Duration Balloon in Antarctica	共著	平成 17 年	Proceedings of the 29th International Cosmic Ray Conference (Pune)3	S.Torii, T.Tamura, T.Yamagami, M.Ejiri, H.Kitamura, I.Iijima, A.Kadokura , K.Kasahara, Y.Katayose, T.Kobayashi, Y.Komori, Y.Matsuzaka, K.Mizutani, H.Murakami, M.Namiki, J.Nishimura, S.Ohta, Y.Saito, M.Shibata, N.Tateyama, H.Yamagishi , K.Yoshida, T.Yuda and J.Chang	29-32 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Simulation Study on High Energy Electron and Gamma-ray Detection with CALET	共著	平成 17 年	Proceedings of 29th International Cosmic Ray Conference Pune (2005)3	J. Chang, S. Torii, K. Kasahara, T. Tamura and K. Yoshida	273-276 頁
The CALET Instrument for Experiment on the ISS	共著	平成 17 年	Proceedings of the 29th International Cosmic Ray Conference Pune (2005)3	S. Torii, T. Tamura, K. Yoshida, N. Tateyama, K. Hibino, T. Yuda, K. Kashiwagi, S. Okuno, J. Nishimura, T. Yamagami, M. Takayanagi, Y. Saito, H. Fuke, H. Tomida, S. Ueno, F. Makino, M. Shibata, Y. Katayose, S. Kuramata, M. Ichimura, Y. Uchihori, H. Kitamura, H. Murakami, K. Kasahara, T. Kobayashi, Y. Komori, K. Mizutani, T. Terasawa and J. Chang	333-336 頁
結晶シンチレーターを用いた全吸収カロリメータの重粒子線検出性能に関する研究	共著	平成 17 年 5 月	平成 16 年度放射線医学総合研究所重粒子線がん治療装置等共同利用研究報告書	片寄祐作 a、井上 武 a、岩塚正博 a、内堀幸夫 c、奥野祥二 b、北村 尚 c、柴田槇雄 a、田村忠久 b、鳥居祥二 b、日比野欣也 b、三橋庸智 a、吉田賢二 b	245-246 頁
High Energy Electron Observation by Polar Patrol Balloon Flight in Antarctica	共著	平成 18 年	Adv. Polar Upper Atmos. Res.,20	S.Torii, et al.,	52-56 頁
Study of ¿100 GeV electrons with BETS detector using a long duration balloon flight in Antarctica	共著	平成 18 年	Advances in Space ResearchVolume 37, Issue 11	S. Torii, K. Yoshida, T. Tamura, H. Kitamura, T. Yamagami, N. Tateyama, K. Anraku, T. Yamashita, J. Chang, J. Nishimura, Y. Saito, S. Ohta, M. Namiki, Y. Matsuzaka, I. Iijima, H. Yamagishi, A. Kadokura, K. Kasahara, S. Ogawa, M. Fujii, Y. Tasaki, H. Kaiho, M. Shibata, Y. Katayose, T. Inoue, K. Mizutani, Y. Hirai, H. Murakami, T. Kobayashi, Y. Komori and T. Yuda	2095-2102 頁
気球実験用 CALET プロトタイプ検出器の性能	共著	平成 18 年 1 月	平成 17 年度大気球シンポジム（JAXA/ISAS）	田村忠久、他	154-157 頁
南極周回気球による 100GeV 以上の一次電子エネルギースペクトル	共著	平成 18 年 1 月	平成 17 年度大気球シンポジム（JAXA/ISAS）	吉田健二、他	150-153 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
結晶シンチレーターを用いた全吸収カロリメータの重粒子線検出性能に関する研究	共著	平成 18 年 5 月	平成 17 年度放射線医学総合研究所重粒子線がん治療装置等共同利用研究報告書	片寄祐作 a、岩崎正統 a、内堀幸夫 d、奥野祥二 b、北村 尚 d、小平 聡 c、柴田槇雄 a、田村忠久 b、陳鼎 a、豊田哲也 a、鳥居祥二 c、日比野欣也 b、吉田賢二 b	210-211 頁
CALET 全吸収型カロリメータの VLSI 読み出し	共著	平成 19 年 1 月	平成 18 年度大気球シンポジム（JAXA/ISAS）	片寄祐作、他	182-185 頁
気球実験用 CALET プロトタイプ検出器のシミュレーションによる性能評価	共著	平成 19 年 1 月	平成 18 年度大気球シンポジム（JAXA/ISAS）	渡辺怡禎，他	178-181 頁
CALET プロトタイプ検出器による電子、ガンマ線観測実験報告	共著	平成 19 年 1 月	平成 18 年度大気球シンポジム（JAXA/ISAS）	鳥居祥二、他	174-177 頁
宇宙線観測装置 CALET のフロントエンド回路の耐放射線性能	共著	平成 19 年 6 月	平成 18 年度放射線医学総合研究所重粒子線がん治療装置等共同利用研究報告書	田村忠久 a、日比野欣也 a、奥野祥二 a、鳥居祥二 b、清水雄輝 b、吉田賢二 c、片寄祐作 d、陳鼎 d、内堀幸夫 e、北村 尚 e	253-254 頁
高エネルギー重イオンに対するプラスチックシンチレータと光電子増倍管の応答特性	共著	平成 19 年 6 月	平成 18 年度放射線医学総合研究所重粒子線がん治療装置等共同利用研究報告書	増田公明 a，村木綏 a，伊藤好孝 a，さこ隆志 a，毛受弘彰 a，渡邉泰典 a，間瀬剛 a，田中隆之 a，田村忠久 b，日比野欣也 b，奥野祥二 b，片寄祐作 c，陳鼎 c，吉田 賢二 d，村上健	226-227 頁
Development of Data Acquisition System for CALET on the ISS	共著	平成 19 年 7 月	Proceedings of the 30th International Cosmic Ray Conference, Merida, Yucatan, Mexico	T.Tamura, S.Torii, Y.Shimizu, K.Hibino, S.Okuno, K.Yoshida, H.Kitamura, Y.Uchihori, H.Murakami	
CALET Mission on the International Space Station	共著	平成 19 年 7 月	Proceedings of the 30th International Cosmic Ray Conference, Merida, Yucatan, Mexico	S.Torii, et al.	
Development of a high dynamic range read-out system using multi-photodiode for the Total Absorption Calorimeter of CALET	共著	平成 19 年 7 月	Proceedings of the 30th International Cosmic Ray Conference, Merida, Yucatan, Mexico	Y.Katayose, et al.	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Energy spectrum and arrival directions of high-energy electrons over 100GeV observed with PPB-BETS	共著	平成 19 年 7 月	Proceedings of the 30th International Cosmic Ray Conference, Merida, Yucatan, Mexico	K.Yoshida, et al.	
Balloon observation of electrons and gamma rays with CALET prototype	共著	平成 19 年 7 月	Proceedings of the 30th International Cosmic Ray Conference, Merida, Yucatan, Mexico	Y.Shimizu, S.Torii, K.Kasahara, Y.Akaike, Y.Fukuta, K.Taira, T.Tamura, T.Sato, I.Watanabe, Y.Katayose, H.Murakami	
Prospects of gamma-ray observations and dark matter search with CALET	共著	平成 19 年 7 月	Proceedings of the 30th International Cosmic Ray Conference, Merida, Yucatan, Mexico	K.Yoshida, S.Torii, K.Kasahara, Y.Shimizu, T.Tamura, J.Chang	
Status of the LHCf experiment	共著	平成 19 年 7 月	Proceedings of the 30th International Cosmic Ray Conference, Merida, Yucatan, Mexico	H. Menjo, et al.	
The performance of the LHCf detectors	共著	平成 19 年 7 月	Proceedings of the 30th International Cosmic Ray Conference, Merida, Yucatan, Mexico	H. Menjo, et al.	
Performance of the prototype detector for the LHCf experiment	共著	平成 19 年 7 月	Nuclear Instruments and Methods in Physics Research A578	T.Sako, et al	146-159 頁
CALET プロトタイプ検出器による気球実験結果と将来の長期間観測計画	共著	平成 19 年 12 月	平成 19 年度大気球シンポジウム（JAXA）	鳥居祥二、他	128-131 頁
Dark matter search with the CALET detector onboard ISS	共著	平成 20 年	Advances in Space ResearchVolume 41, Issue 12	S.Torii, et al.	2032-2036 頁
Dark matter search with the CALET detector onboard ISS	共著	平成 20 年 2 月	Advances in Space ResearchVolume 41, Issue 12	S. Torii, K. Yoshida, K. Kasahara, T. Tamura, J. Chang and for the CALET Collaboration	2032-2036 頁
The LHCf Detector at the CERN Large Hadron Collider	共著	平成 20 年 7 月	2008,JINST,3,S08006	O. Adriani, et al. the LHCf Collaboration	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Production and test of the LHCf microstrip silicon system	共著	平成 20 年 10 月	Nuclear Instruments and Methods in Physics Research A596	L. Bonechi, O.Adriani, M.Bongi, G.Castellini, R.D 'Alessandro, A.Faus, M.Haguenauer, Y.Itow, K.Kasahara, D.Macina, T.Mase, K.Masuda, Y.Matsubara, H.Matsumoto, H.Menjo, M. Mizuishi, Y.Muraki, P.Papini, A.L.Perrot, S.Ricciarini, T.Sako, Y.Shimizu, T.Tamura, S. Torii, A.Tricomi, W.C.Turner, J.Velasco, H.Watanabe, K.Yoshida	85-87 頁
その他					
CERN-SPS を用いた PPB-BETS の性能評価	共著	平成 15 年	日本物理学会第 58 回年次大会（東北学院大学、仙台）		
シンチファイバー読み出しシステムの開発 V	共著	平成 15 年	日本物理学会第 58 回年次大会（東北学院大学、仙台）		
CALET でのシンチファイバー読み出しに用いる 64 マルチアノード PMT の線形性の測定	共著	平成 15 年	日本物理学会第 58 回年次大会（東北学院大学、仙台）		
CALET の概念設計 II－観測装置の最適化シミュレーション	共著	平成 15 年	日本物理学会第 58 回年次大会（東北学院大学、仙台）		
シンチファイバー読み出しシステムの開発（VI）	共著	平成 15 年 9 月	日本物理学会 2003 年秋期大会（宮崎）		
CALET で用いるシンチレータの基礎性能テスト II	共著	平成 15 年 9 月	日本物理学会 2003 年秋期大会（宮崎）		
CALET の開発 III：プロトタイプの CERN ビーム実験による性能評価	共著	平成 16 年 1 月	第 4 回宇宙科学シンポジウム (宇宙航空研究開発機構)		
CALET の開発 IV：シンチファイバー読み出しシステムの開発	共著	平成 16 年 1 月	第 4 回宇宙科学シンポジウム（宇宙航空研究開発機構）		
JEM 曝露部における高エネルギー電子、ガンマ線観測計画（CALET：CALorimetric Electron Telescope)	共著	平成 16 年 1 月	第 20 回宇宙利用シンポジウム（宇宙航空研究開発機構）、2004		327-329 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
高エネルギー電子・ガンマ線観測装置（CALET）のJEM 曝露部搭載性	共著	平成 16 年 1 月	第 20 回宇宙利用シンポジウム（宇宙航空研究開発機構）、2004		330-331 頁
CALET の開発Ⅰ：国際宇宙ステーション搭載への構造・熱適合性	共著	平成 16 年 1 月	第 4 回宇宙科学シンポジウム（宇宙航空研究開発機構）		
CALET の開発Ⅱ：電子、ガンマ線観測で期待される成果	共著	平成 16 年 1 月	第 4 回宇宙科学シンポジウム（宇宙航空研究開発機構）		
CALET 開発報告 2：2003 年 CERN ビーム実験概要	共著	平成 16 年 3 月	日本物理学会第 59 回年次大会（九州大学）		
CALET 開発報告 7：プロトタイプ観測装置による気球、衛星実験計画	共著	平成 16 年 3 月	日本物理学会第 59 回年次大会（九州大学）		
CALET 開発報告 6：BGO、PWO の温度特性	共著	平成 16 年 3 月	日本物理学会代 59 回年次大会（九州大学）		
CALET 開発報告 5：シンチレータ読み出しシステムの基礎開発	共著	平成 16 年 3 月	日本物理学会代 59 回年次大会（九州大学）		
CALET 開発報告 1：国際宇宙ステーションへの構造適合性	共著	平成 16 年 3 月	日本物理学会第 59 回年次大会（九州大学）		
CALET 開発報告 3：2003 年 CERN ビーム実験解析	共著	平成 16 年 3 月	日本物理学会第 59 回年次大会（九州大学）		
CALET 開発報告 4：シンチファイバー読み出しシステムの開発（Ⅶ）	共著	平成 16 年 3 月	日本物理学会第 59 回年次大会（九州大学）		
CALET の開発 IX:CALET による陽子、原子核成分の観測	共著	平成 18 年 1 月	第 6 回宇宙科学シンポジウム、JAXA 宇宙科学研究本部	柴田槇雄、他	
CALET の開発 VIII:CALET による一次電子、暗黒物質の観測	共著	平成 18 年 1 月	第 6 回宇宙科学シンポジウム、JAXA 宇宙科学研究本部	吉田健二、他	
CALET の開発 VII：気球搭載用 CALET プロトタイプの開発	共著	平成 18 年 1 月	第 6 回宇宙科学シンポジウム、JAXA 宇宙科学研究本部	田村忠久、他	

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
LHC における 10^{17}eV 領域での最前方粒子測定実験 LHCf(III) － 06 年準備状況－	共著	平成 18 年 3 月	日本物理学会第 61 回年次大会、松山大学	伊藤好孝，他	
LHCf 実験における最前方カロリメータの開発－レーザーと重イオンによる PMT リニアリティ試験－	共著	平成 18 年 3 月	日本物理学会第 61 回年次大会、松山大学	増田公明，他	
10^{17}ev における最前方粒子測定実験 LHCf －実験概要と MC シミュレーションによる相互作用モデルの比較 (II)	共著	平成 18 年 3 月	日本物理学会第 61 回年次大会、松山大学	毛受弘彰，他	
CALET 開発報告 13：気球実験用プロトタイプ検出器の性能	共著	平成 18 年 3 月	日本物理学会第 61 回年次大会、松山大学	田村忠久，他	
CALET 開発報告 12：無機結晶シンチレータの VLSI 読み出しシステムの開発	共著	平成 18 年 3 月	日本物理学会第 61 回年次大会、松山大学	片寄祐作，他	
CALET の開発 X: CALET による電子、ガンマ線観測の概要	共著	平成 18 年 12 月	第 7 回宇宙科学シンポジウム、JAXA 宇宙科学研究本部	吉田健二、他	
CALET の開発 XI: 気球搭載型 CALET プロトタイプによる電子、ガンマ線観測	共著	平成 18 年 12 月	第 7 回宇宙科学シンポジウム、JAXA 宇宙科学研究本部	清水雄輝、他	
CALET の開発 XII：全吸収型カロリメータの読み出しシステムの開発	共著	平成 18 年 12 月	第 7 回宇宙科学シンポジウム、JAXA 宇宙科学研究本部	片寄祐作、他	
CALET の開発 XIII：CERN-SPS での SciFi 読み出しの性能テスト	共著	平成 18 年 12 月	第 7 回宇宙科学シンポジウム、JAXA 宇宙科学研究本部	田村忠久、他	
LHCf 実験用小型サンプリングカロリーメータの性能評価	共著	平成 19 年 3 月	日本物理学会 2007 年春季大会、首都大学東京（南大沢キャンパス）	伊藤好孝，他	
CALET 開発報告 18：SciFi 読み出し FEC の耐放射線性テスト	共著	平成 19 年 3 月	日本物理学会 2007 年春季大会、首都大学東京（南大沢キャンパス）	田村忠久，他	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
CALET 開発報告 17:ガンマ線バースト検出器のコンセプト	共著	平成 19 年 3 月	日本物理学会 2007 年春季大会、首都大学東京（南大沢キャンパス）	吉田篤正，他	
CALET 開発報告 16：気球搭載プロトタイプ検出器による電子・ガンマ線観測結果	共著	平成 19 年 3 月	日本物理学会 2007 年春季大会、首都大学東京（南大沢キャンパス）	清水雄輝，他	
CALET 開発報告 15：CALET 計画の装置開発状況と将来展望	共著	平成 19 年 3 月	日本物理学会 2007 年春季大会、首都大学東京（南大沢キャンパス）	鳥居祥二，他	
CALET 開発報告 22:ガンマ線バーストモニタの開発	共著	平成 19 年 9 月	日本物理学会第 62 回年次大会、北海道大学（札幌キャンパス）	吉田篤正，他	
CALET 開発報告 21：CALET の概念設計	共著	平成 19 年 9 月	日本物理学会第 62 回年次大会、北海道大学（札幌キャンパス）	鳥居祥二，他	
CALET 開発報告 20:プロトタイプ気球実験の解析結果報告	共著	平成 19 年 9 月	日本物理学会第 62 回年次大会、北海道大学（札幌キャンパス）	清水雄輝，他	
CALET 開発報告 19：シミュレーション計算による CALET の性能評価	共著	平成 19 年 9 月	日本物理学会第 62 回年次大会、北海道大学（札幌キャンパス）	赤池陽水，他	
PPB-BETS による宇宙線電子エネルギースペクトルと到来方向の観測	共著	平成 19 年 9 月	日本物理学会第 62 回年次大会、北海道大学（札幌キャンパス）	吉田健二，他	
LHCf 検出器の放射線ダメージ評価－ 2007 年 HIMAC ビームテスト結果－	共著	平成 19 年 9 月	日本物理学会第 62 回年次大会、北海道大学札幌キャンパス	渡邉泰典，他	
LHCf 測定器の位置性能評価－ 2006 年夏 CERN SPS ビームテストの解析結果－	共著	平成 19 年 9 月	日本物理学会第 62 回年次大会、北海道大学札幌キャンパス	水石光紀，他	
LHCf 測定器の性能評価－ 2006 年夏 CERN SPS ビームテスト解析結果 (I)	共著	平成 19 年 9 月	日本物理学会第 62 回年次大会、北海道大学札幌キャンパス	毛受弘彰，他	
10^{17}eV における最前方粒子測定実験 LHCf －全体報告 (07 年秋) －	共著	平成 19 年 9 月	日本物理学会第 62 回年次大会、北海道大学札幌キャンパス	伊藤好孝、他	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
CALET の開発 19:重原子核の電荷測定用シリコンピクセルアレーの概念設計	共著	平成 20 年 1 月	第 8 回宇宙科学シンポジウム、JAXA　宇宙科学研究本部	P.S.Marrocchesi、 他	
CALET の開発１８：ガンマ線バーストモニタ (GBM)	共著	平成 20 年 1 月	第 8 回宇宙科学シンポジウム、JAXA　宇宙科学研究本部	山岡 和貴、他	
CALET の開発 17:プロトタイプ気球実験による電子観測結果	共著	平成 20 年 1 月	第 8 回宇宙科学シンポジウム、JAXA　宇宙科学研究本部	清水雄輝、他	
CALET の開発 16：全吸収型カロリメータの多チャンネル読み出しシステムの開発	共著	平成 20 年 1 月	第 8 回宇宙科学シンポジウム、JAXA　宇宙科学研究本部	片寄祐作、他	
CALET の開発 15：データ収集システムの開発	共著	平成 20 年 1 月	第 8 回宇宙科学シンポジウム、JAXA　宇宙科学研究本部	田村忠久、他	
CALET の開発 14: Expected performance of CALET	共著	平成 20 年 1 月	第 8 回宇宙科学シンポジウム、JAXA　宇宙科学研究本部	笠原克昌、他	
CALET による太陽磁気圏構造の解明	共著	平成 20 年 1 月	第 8 回宇宙科学シンポジウム、JAXA　宇宙科学研究本部	古森良志子、他	
CALET による WIMP 暗黒物質探索	共著	平成 20 年 1 月	第 8 回宇宙科学シンポジウム、JAXA　宇宙科学研究本部	吉田健二、他	
国際宇宙ステーション搭載 CALET ミッションの現状と計画	共著	平成 20 年 1 月	第 8 回宇宙科学シンポジウム、JAXA　宇宙科学研究本部	鳥居祥二、他	
地磁気によるシンクロトロン放射測定による TeV 電子観測のためのシンチレータの性能評価	共著	平成 20 年 3 月	日本物理学会第 63 回年次大会、近畿大学東大阪キャンパス	中村亮太、他	
CALET 開発報告 27:ガンマ線バーストモニタの開発	共著	平成 20 年 3 月	日本物理学会第 63 回年次大会、近畿大学本部キャンパス	中平聡志, 他	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
CALET 開発報告 26：シミュレーション計算による CALET の粒子識別性能評価	共著	平成 20 年 3 月	日本物理学会第 63 回年次大会、近畿大学本部キャンパス	赤池陽水，他	
CALET 開発報告 25：シミュレーション計算による CALET のハドロン観測性能評価	共著	平成 20 年 3 月	日本物理学会第 63 回年次大会、近畿大学本部キャンパス	平晃一，他	
CALET 開発報告 24:GeV 領域 γ 線の検出性能評価	共著	平成 20 年 3 月	日本物理学会第 63 回年次大会、近畿大学本部キャンパス	日高健，他	
CALET 開発報告 23：長時間気球観測のための CALET プロトタイプ開発の概要	共著	平成 20 年 3 月	日本物理学会第 63 回年次大会、近畿大学本部キャンパス	福田康博，他	
LHCf 検出器の放射線損傷とその回復の評価－ 2007 年 炭素ビーム及び γ 線照射テスト結果－	共著	平成 20 年 3 月	日本物理学会第 63 回年次大会、近畿大学本部キャンパス	渡邉泰典，他	
LHCf 測定器の性能評価 － 2007 年夏 CERN SPS ビームテスト解析結果－	共著	平成 20 年 3 月	日本物理学会第 63 回年次大会、近畿大学本部キャンパス	毛受弘彰，他	
LHCf における中性子測定 － 2007 年夏 CERN SPS ビームテストによる粒子弁別 －	共著	平成 20 年 3 月	日本物理学会第 63 回年次大会、近畿大学本部キャンパス	間瀬剛，他	
10^{17}eV における最前方粒子測定実験 LHCf －全体報告 (08 年春) －	共著	平成 20 年 3 月	日本物理学会第 63 回年次大会、近畿大学本部キャンパス	さこ隆志，他	
宇宙線観測装置 CALET のフロントエンド回路の耐放射線性能	共著	平成 20 年 4 月	平成 19 年度 HIMAC 共同利用研究成果発表会（ホテルポートプラザちば）	田村忠久、他	
bCALET-2 による高エネルギー電子・ガンマ線観測計画	共著	平成 20 年 9 月	大気球シンポジウム、JAXA 宇宙科学研究本部（相模原）	田村忠久、他 bCALET チーム	
1017eV における最前方粒子測定実験 LHCf －全体報告（08 年秋）－	共著	平成 20 年 9 月	日本物理学会 2008 年秋季大会、山形大学	田村忠久、他	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
SciFi 検出器を用いたシャワーの再構成評価－ 2007 年夏 CERN SPS ビームテストの解析結果－	共著	平成 20 年 9 月	日本物理学会 2008 年秋季大会、山形大学	水石三紀、他	
CALET 開発報告 33：次期気球観測装置 (bCALET-2) の性能	共著	平成 20 年 9 月	日本物理学会 2008 年秋季大会、山形大学	福田康博、他	
CALET 開発報告 32：シミュレーション計算による原子核成分観測性能の評価	共著	平成 20 年 9 月	日本物理学会 2008 年秋季大会、山形大学	平晃一、他	
CALET 開発報告 30：ガンマ線バーストモニタの開発	共著	平成 20 年 9 月	日本物理学会 2008 年秋季大会、山形大学	鈴木圭、他	
CALET 開発報告 29：GeV 領域 γ 線のビーム実験による検出性能評価 II	共著	平成 20 年 9 月	日本物理学会 2008 年秋季大会、山形大学	日高健、他	
CALET 開発報告 28：全吸収カロリメータの大ダイナミックレンジ Si PIN-PD 読み出しシステムの開発	共著	平成 20 年 9 月	日本物理学会 2008 年秋季大会、山形大学	片寄祐作、他	
CALET 開発報告 31：ISS 軌道上における観測データレートの評価	共著	平成 20 年 9 月	日本物理学会 2008 年秋季大会、山形大学	赤池陽水、他	
粒子線 XY 多層検出フロントエンド回路システム	単著	平成 20 年 10 月	神大テクノフェスタ		
CALET 開発報告 27：GeV 領域ガンマ線の検出性能評価	共著	平成 21 年 1 月	第 9 回宇宙科学シンポジウム、JAXA 宇宙科学本部（相模原）	日高健、鳥居祥二、笠原克昌、小澤俊介、赤池陽水、平晃一、福田康博、宮本浩輝、中村亮太、相場俊英、中井幹夫、有働慈治、田村忠久、他 JEM-CALET WG	
CALET 開発報告 24：全吸収型カロリメータの BGO 読み出しフロントエンド回路開発	共著	平成 21 年 1 月	第 9 回宇宙科学シンポジウム、JAXA 宇宙科学本部（相模原）	片寄祐作、柴田槇雄、浅井孝、郷 昌樹、鳥居祥二、小澤俊介、植山良貴、加藤藍、中村亮太、田村忠久、奥野祥二、日比野欣也、有働慈治、吉田健二、内堀幸夫、北村尚、村上浩之、他 JEM-CALET WG	
CALET の開発 23：宇宙線電子・ガンマ線気球観測実験 bCALET-2、bCALET-3 計画	共著	平成 21 年 1 月	第 9 回宇宙科学シンポジウム、JAXA 宇宙科学本部（相模原）	田村忠久、鳥居祥二、笠原克昌、福田康博、平晃一、日高健、赤池陽水、吉田健二、片寄祐作、村上浩之、清水雄輝、他 JEM-CALET WG	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
CALET 開発報告 22：CALET による太陽磁気圏内宇宙線輸送の解明	共著	平成 21 年 1 月	第 9 回宇宙科学シンポジウム、JAXA 宇宙科学本部（相模原）	古森良志子、鳥居祥二、田村忠久、吉田健二、寺沢敏夫、宗像一起、他 JEM-CALET WG	
CALET 開発報告 41：bCALET-2 におけるトリガーシステムの開発	共著	平成 21 年 3 月	日本物理学会第 64 回年次大会、立教大学	植山良貴，他	
CALET 開発報告 40:次期気球観測装置 bCALET-2 の開発	共著	平成 21 年 3 月	日本物理学会第 64 回年次大会、立教大学	中村亮太，他	
CALET 開発報告 39：CALET プロトタイプ気球実験 bCALET	共著	平成 21 年 3 月	日本物理学会第 64 回年次大会、立教大学	田村忠久，有働慈治，小澤俊介，鳥居祥二，片寄祐作，村上浩之，吉田健二，他	
CALET 開発報告 38:ガンマ線バーストモニタの開発と観測性能	共著	平成 21 年 3 月	日本物理学会第 64 回年次大会、立教大学	中平聡志，他	
CALET 開発報告 37:GeV 領域 γ 線のビーム実験による検出性能評価 III	共著	平成 21 年 3 月	日本物理学会第 64 回年次大会、立教大学	宮本浩輝，日高健，鳥居祥二，笠原克昌，小澤俊介，赤池陽水，相場俊英，中井幹夫，植山良貴，加藤藍，田村忠久，有働慈治	
CALET 開発報告 36：全吸収カロリーメーター PD 読み出し前置回路の開発	共著	平成 21 年 3 月	日本物理学会第 64 回年次大会、立教大学	小澤俊介，他	
CALET 開発報告 35：ISS 軌道上における観測性能のシミュレーション計算	共著	平成 21 年 3 月	日本物理学会第 64 回年次大会、立教大学	赤池陽水，他	
CALET 開発報告 34：CALET における暗黒物質観測性能	共著	平成 21 年 3 月	日本物理学会第 64 回年次大会、立教大学	吉田健二，他	
ATIC/PPB-BETS で観測された 300-800GeV 領域での宇宙線電子成分の過剰	共著	平成 21 年 3 月	日本物理学会第 64 回年次大会、立教大学	鳥居祥二，吉田健二，田村忠久	
LHCf における粒子識別性能について	共著	平成 21 年 3 月	日本物理学会第 64 回年次大会、立教大学	中井幹夫、他	
LHCf 実験におけるバックグラウンドの研究	共著	平成 21 年 3 月	日本物理学会第 64 回年次大会、立教大学	滝和也，他	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
LHCf 実験における最前方中性子測定の研究	共著	平成 21 年 3 月	日本物理学会第 64 回年次大会、立教大学	間瀬剛，他	
LHCf 実験のシミュレーションにおける性能評価 (II)	共著	平成 21 年 3 月	日本物理学会第 64 回年次大会、立教大学（池袋）	毛受弘彰、他	
10^{17}eV における最前方粒子測定実験 LHCf －全体報告 (09 年春) －	共著	平成 21 年 3 月	日本物理学会第 64 回年次大会、立教大学（池袋）	さこ隆志，伊藤好孝，笠原克昌，清水雄輝，滝和也，田村忠久，鳥居祥二，中井幹夫，福井謙一，増田公明，間瀬剛，松原豊，水石光紀，村木綏，毛受弘彰，吉田健二，O.Adriani, L.Bonechi, M.Bongi, G.Castellini, R.D'Alessandro, A.Faus, M.Grandi, M.Haguenauer, D.Macina, P.Papini, A.-L.Perrot, S.Ricciarini, A.Tricomi, W.C.Turner, J.Velasco, A.Viciani	
粒子線 XY 多層検出フロントエンド回路システム	単著	平成 21 年 3 月	工学部報告 2008 年度		

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 63 年 3 月～現在に至る	日本物理学会会員
平成 4 年 7 月～現在に至る	日本天文学会会員
平成 12 年 9 月～現在に至る	放射線医学総合研究所共同利用研究員
平成 13 年 4 月～平成 16 年 3 月	財団法人 日本宇宙フォーラム（公募地上研究予算） 33,259 千円 （高エネルギー電子、γ線観測装置（CALET）の概念設計）（研究分担者）
平成 14 年 4 月～平成 16 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究（B) 13,100 千円 （CERN-SPS のビームを用いた飛翔体搭載用解像型カロリメータの開発）（研究分担者）
平成 14 年 4 月～平成 16 年 3 月	科学研究費補助金 特定領域研究 6,100 千円 （南極周回気球による高エネルギー大気ガンマ線の観測）（研究分担者）
平成 15 年～現在に至る	（国際共同研究）CERN LHCC (欧州合同原子核研究所 CERN の LHC 加速器委員会)「CERN-LHC での最前方散乱粒子測定実験 LHCf」
平成 15 年 4 月～平成 17 年 3 月	科学研究費補助金 特定領域研究 5,100 千円 （GeV ガンマ線検出器のための光電子増倍管読み出しフロントエンド回路の開発）（研究代表者）
平成 16 年 4 月～平成 19 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究（B) 海外 13,300 千円 （超高エネルギー宇宙線現象解明のための CERN LHC 用ガンマ線観測装置の製作）（研究分担者）
平成 17 年 11 月～平成 18 年 10 月	日本物理学会　宇宙線・宇宙物理領域 世話人
平成 18 年～現在に至る	（国内共同研究）JAXA　宇宙科学本部　大気球研究系「bCALET による宇宙線電子・ガンマ線の長期大陸間気球観測」
平成 18 年 4 月～平成 21 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究Ｂ 一般 15,100 千円 （CERN-LHC における 10^17eV 領域での最前方散乱粒子の LHCf による測定）（研究代表者）
平成 19 年 4 月～平成 21 年 3 月	神奈川大学（共同研究奨励助成金） 6,000 千円 （国際宇宙ステーションへの搭載を目指す宇宙線観測装置の実証化に向けた開発）（研究代表者）

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部化学教室	職名 教授	氏名 亀山　敦	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 19 年 4 月 1 日 ～現在に至る	（授業科目：化学 I）200 7 年度の授業評価アンケート結果を受け、内容を分かりやすく伝えるため、板書の工夫、分子模型による解説を加え、補助テキストを使用して、授業運営の改善活動を行った。 （授業科目：化学 II）200 7 年度の授業評価アンケート結果を受け、内容を分かりやすく伝えるため、配布資料を平易な表現に工夫し、また板書を工夫し、せっけんの合成実験デモンストレーション、プラスチック製品を見せて、授業運営の改善活動を行った。 （授業科目：基礎化学 I）200 7 年度の授業評価アンケート結果を受け、内容を分かりやすく伝えるため、板書の工夫、分子模型による解説を加え、補助テキストを増やした。また、学生が講義の重要点を把握できるよう、頻繁に質問形式の小テストを行い、授業運営の改善活動を行った。 （授業科目：基礎化学 II）200 7 年度の授業評価アンケート結果を受け、内容を分かりやすく伝えるため、板書の工夫、分子模型による解説を加え、パワーポイント、補助テキストとして CD 教材を使用して、授業運営の改善活動を行った。 （授業科目：有機反応論）200 7 年度の授業評価アンケート結果を受け、内容を分かりやすく伝えるため、板書をできるだけ減らし、パワーポイントによる解説に変更した。また、学生が講義の重要点を把握できるよう、毎回小テストを行い、翌週その解説を行うことにより授業運営の改善活動を行った。
2　作成した教科書、教材		なし
3　教育上の能力に関する大学等の評価 2008 年度学生による授業評価アンケート結果の活用		（授業科目：化学 I）すべての項目で、大半の回答が「そう思う」、「強くそう思う」の評価であった。 （授業科目：化学 II）すべての項目で、大半の回答が「そう思う」、「強くそう思う」の評価であった。特に、「教員の熱意を感じたか」の質問に対して、多くの学生が高い評価をしていた。 （授業科目：基礎化学 I）すべての項目で、大半の回答が「そう思う」、「強くそう思う」の評価であった。 （授業科目：基礎化学 II）すべての項目で、大半の回答が「そう思う」、「強くそう思う」の評価であった。
4　実務の経験を有する者についての特記事項		

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
		なし
5　その他		
国際交流センター委員としての活動	平成 15 年 4 月 1 日 ～平成 16 年 3 月 31 日	1) 派遣留学制度の充実について検討を行った。2) 神奈川大学と韓国成均館大学との理工系学術交流である第 1 回ジョイントシンポジウム”Joint Symposium on Advanced Bio & Polymeric Materials”の実行委員長として、企画から準備を行い、両校の化学、高分子材料系研究者の交流を行うと共に中期に渡る学術交流について方針を作成した。
学生生活支援委員としての活動	平成 16 年 4 月 1 日	1）課外活動支援　2）留学生の相談

II　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
高分子の精密合成と高次構造制御	共著	平成 16 年 3 月	エヌ・ティー・エス		
Synthesis of Cyclic Polymers: Ring-Expansion Reaction of Cyclic S-Dithioester with Thiiranes	共著	平成 17 年	Macromolecules38		5964-5969 頁
第 5 版　実験化学講座 26　高分子学会	共著	平成 17 年 3 月	丸善		
高分子辞典	単著	平成 17 年 6 月	朝倉書店		
論文					
Novel Synthesis of Reactive Polycarbonates with Pendant Chloromethyl Groups by the Polyaddition of Bis(oxcetane)s with 2,2'-Bis[(4-chloroformyl)oxyphenyl]-propane	共著	平成 15 年	Journal of Polymer Science, Part A, Polymer Chemistry},41,(2003).41		2304-2311 頁
Solid Phase Ring-Opening Polymerization of Macrocyclic S-Aryl Thioesters Containing Terephthaloyl Structure	共著	平成 15 年	High Performance Polymers, 15, (2003)		207-218 頁
Synthesis and Photochemical Reaction of Highperformance UV-curing Oligomers	共著	平成 15 年	ACS Symposium Series 847, Photointiated Polymerizaation, 31, (2003)		363-377 頁
Synthesis and Characterization of Fluorine-Containing Polyesters by the Polyaddition of Bis(epoxide)s with Active Diesters	共著	平成 15 年	J. Polym. Sci. Part A. Polym. Chem., 40, (2003)		213-222 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Synthesis and Photochemical Reaction of Polystyrenes with Pendant Donor-acceptor Type Norbornadienes Containing Carbamoyl Chromophores	共著	平成 15 年	Reactive Functional Polymers, 55,（2003）		75-88 頁
Synthesis and Properties of Fluorine-containing Poly(ether)s with Pendant Hydroxyl Groups by the Polyaddtion of Bis(oxetane)s and Bisphenol AF	共著	平成 16 年	Polymer Journal36		114-122 頁
Synthesis and Photoinitiated Cationic Polymerization of Polyfunctional 1-Propernyl Ether Monomers and Polymers Containing Phosphonate Linkage in the Main Chain	共著	平成 16 年	Polymer Journal36		329-337 頁
Synthesis of Phosphorus-Containting Vinyl Ehter Monomers and Oligomers and Their Photoinitiated Polymerization	共著	平成 16 年	J. Polym. Sci., Part A, Polym. Chem.42		2031-2042 頁
Synthesis and Properties of Fluorine-Containing Polyethers with Pendant Hydroxyl Groups by the Polyaddition of Bis(epoxide)s with Diols	共著	平成 16 年	J. Polym. Sci., Part A, Polym. Chem.42		2543-2550 頁
Abilities of 1-(9-Anthrylmethyloxy)-2-pyridone and Related Compounds to Initiate Radical and Cationic Photopolymerizations	共著	平成 16 年	J. Polym. Sci., Part A, Polym. Chem.42		2859-2865 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Synthesis of Fluorine-containing Poly(acetal)s by the Polyaddition of Bisphenol AF with Divinyl Ether Compounds and Their Photoinduced Depolymerization	共著	平成 16 年	Polymer Journal36		531-537 頁
Molecular Design of Cationically Polymerizable Monomers and Polymers	共著	平成 16 年	J. Photopolym. Sci. and Tech.17		45-50 頁
Synthesis of Cyclic Polymers: Ring-Expansion Reaction of Cyclic S-Dithioester with Thiiranes	共著	平成 17 年	Macromolecules38		5964-5969 頁
Novel Photocurable Monomers: The Synthesis of Difunctional Vinyl Ethers with a Phosphonate Group and Difunctional 1-Propenyl Ethers with a Phosphonate Group and Their Photoinitiated Cationic Polymerization	共著	平成 17 年	J. Polym. Sci., Part A, Polym. Chem.43		3105-3115 頁
Adsorption Behavior of 6-Octylthio-1,3,5-triazine-2,4-dithiol Monosodium on Au(111) Investigated by Electrochemical Scanning Tunneling Microscopy	共著	平成 18 年	Chemistry Letters35		1282 頁
重合法によるナノ粒子合成の新展開	単著	平成 19 年	オレオサイエンス 7		3 頁
Novel Synthesis of Polymers with Well-Defined Structures Based on Selective Reaction of Cyclic Sulfides and Cyclic Ethers Catalyzed by Quaternary Onium Salts	共著	平成 21 年	Polymer Journal41		1-15 頁
その他					

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Solid Phase Ring-Opening Polymerization of Macrocyclic Sulfide Containing Triazine and Pyridine Structur	共著	平成 15 年	Advanced Polymeric Materials and Tedchnology (APMT-2003), Preprints (CD) P-1-08, 2003 (Gyeongju, Korea)		
Selective Formation of Reactive Species by the Photochemical Reaction of New Heterocycles and Photopolymerization	共著	平成 15 年	Science Reports of Reseaerch Institute for Engineering,No. 26,(2003)		67-76 頁
New Fluorpolymers for 57nm Lithography:Synthesis, Characterization, and Photochemical Reaction of Fluoropolyethers	共著	平成 15 年	The 9th International Conference on Radiation Curing (RadTech Asia '03), Abstracts, 2003 (Yokohama, Japan).		567-570 頁
オキセタン樹脂の開発 －オキセタン類の新しい反応の高分子合成、高分子工業への展開	共著	平成 15 年	高分子加工，42（4），(2003)		16-21 頁
Novel High Performance Materials. Calixarene Derivatives Containing Protective Group and Polymerizable Groups for Photolithography, and Calixarene Derivatives Containing Active Ester Groups for Thermal Curing of Epoxy Resins	共著	平成 15 年	Polym. J., 35 (3) ,(2003)		213-229 頁
6 －オクチル－ s －トリアジン－ 2,4 －ジオチールの溶媒中での単分散ナノ集合体形成	共著	平成 15 年 9 月	第 42 回日本油化学会講演要旨集，1P － 07、2003 年 9 月 (名古屋)		216 頁
ハイブリッド型開始剤として 3 －メトキシベンジル基を有する複素還類を用いた環状エーテル類の光カチオン重合	共著	平成 15 年 9 月	第 52 回高分子学会予稿集、52(6) I Pd016、2003 年 9 月 (山口)		1232 頁
オリゴエチレンオキシド類を有する多分岐ポリマーの合成	共著	平成 15 年 9 月	第 52 回高分子学会予稿集、52(6) II Pe031, 2003 年 9 月 (山口)		1404 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Synthesis of Hyperbranched Polymers with Oligo(ethylene oxide) Chains	単著	平成 16 年	1st Japan-Taiwan Bilateral Symposium on Soft Materials, Abstract		34-35 頁
新しいオキタン化学とその高分子工業への展開	共著	平成 16 年	化学と工業，第 57 巻 (3)，(2004)		225-228 頁
逆ミセルを反応場としたpoly（ＨEMA）ナノ粒子の合成	共著	平成 16 年 5 月	第 53 回高分子学会年次大会予稿集		433 頁
“ テトラメチレン鎖を有するハイパーブランチポリマーの合成と性質 ”	共著	平成 16 年 5 月	第 53 回高分子学会年次大会予稿集		421 頁
“ 6-オクチルチオ-S-トリアジン-2-メルカプト-4-チオレートナトリウムの水溶液中での単分散自己集合体形成 ”	共著	平成 16 年 11 月	第 43 回日本油化学会年会予稿集		217 頁
“ 2-カルボキシメチルチオ-4-メルカプト-6-オクチルチオ-S -トリアジンの水溶液中での自己集合体形成 ”	共著	平成 16 年 11 月	第 43 回日本油化学会年会予稿集		94 頁
“ ITO 電極上におけるトリアジンジチオール誘導体の電解重合 ”	共著	平成 17 年 4 月	表面技術協会第 111 回講演大会、pxx		
ペンタメチレン鎖を有するハイパーブランチポリマーの合成	共著	平成 17 年 5 月	第５４回高分子学会年次大会予稿集		377 頁
白金表面での ATRP を用いた白金内包 PMMA 粒子の合成	共著	平成 17 年 5 月	第５４回高分子学会年次大会予稿集		210 頁
Synthesis of Properties of Hyperbranched Polymers with Penta- or Hexa(ethyleneoxide)Chains by Polycondensation of Active Methylene Type AB2	共著	平成 17 年 7 月	The 8th SPSJ International Polymer Conference		560 頁

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
“ Synthesis and Properties of Hyperbranched Polymers with Tetra-or Pentamethylene Chains by Polycondensation of Active Methylene Type AB2 Monomers	共著	平成 17 年 7 月	The 8th SPSJ Internaitonal Polymer Conference		559 頁
6-オクチルチオ-s-トリアジンジチオール誘導体の自己集合による反応性微粒子形成	共著	平成 17 年 9 月	第５４回高分子討論会予稿集		2959 頁
Fe 電極上におけるトリアジンジチオール誘導体の電解重合と腐食抑制評価	共著	平成 18 年 3 月	第 113 回表面技術協会講演大会予稿集	亀山敦、渡辺雅紀、鹿倉健太、金子信悟、小早川紘一、佐藤祐一	58 頁
トリアジンジチオールの自己組織体を鋳型とた金ナノ粒子ワイヤの構築	共著	平成 18 年 3 月	日本化学会第 86 春季年次会予稿集 3F6-37	亀山敦、福島規之、高柳真里子、今井洋子、田嶋和夫	
トリアジンジチオール構造を有するビオロゲン誘導体の光電子移動	共著	平成 18 年 3 月	日本化学会第 86 春季年次会予稿集 3L1-09	亀山敦、澤山友博、金子信悟、佐藤祐一	
Formation of Nanoparticles with Thiol Groups by Self-Organization of 6-Octylthio-s-triazine, 4-dithiol	共著	平成 18 年 4 月	World Forum on Advanced Materials (POLYCHAR 14)	A.Kameyama,K.Shikakura, S.Sato	208 頁
メトキシ置換チオ安息香酸 S-(2-ベンザオキサゾイル) 光開始剤として用いたスチレンの光重合	共著	平成 18 年 5 月	第 55 回高分子学会年次大会予稿集	亀山敦、柳下利明	445 頁
6-アルキルチオトリアジンジチオール類の自己集合を利用した染色内包カプセルの合成	共著	平成 18 年 5 月	第 55 回高分子学会年次大会予稿集	亀山敦、佐藤智宏	709 頁
Synthesis of Hyperbranched Polymers with Penta(ethylene oxide) Chains and Cores Structure	共著	平成 18 年 8 月	Polycondensation 2006	A.Kameyama,E.Makino	102 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
トリアジンジチオール構造を有するビオロゲン類ITO 電極への吸着挙動と光電子移動	共著	平成 18 年 9 月	第 59 回コロイドおよび界面化学討論会講演要旨集	亀山敦、澤山友博、金子信悟、佐藤祐一	109 頁
ATRP を用いた白金ナノ粒子を内包したポリメタクリル酸メチル微粒子の合成	共著	平成 18 年 9 月	第 45 回日本油化学会年会講演要旨集	亀山敦、矢野正希	298 頁
白金ナノ粒子を内包したポリメタクリル酸メチル微粒子の合成	共著	平成 18 年 11 月	第 14 回高分子ミクロスフェア討論会講演要旨集 43B	亀山敦、野正希、安田千恵	115 頁
トリアジンジチオール構造を有するビオロゲン類のITO 電極への自己組織化形成と光誘起電子移動	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会予稿集	亀山敦、澤山友博、金子信悟、佐藤祐一	1761 頁
6-アルキルチオートリアジン-2,4-ジチオール類の水中自己集合におけるアルキル鎖の効果	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会予稿集	亀山敦、佐藤智宏、二瓶佑樹	1127 頁
側鎖に p-(2-ベンズオキサゾイル）チオメチルフェニルを有するコポリマーを高分子開始剤として用いた光重合	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会予稿集	亀山敦、柳下利明、能崎一康	204 頁
p-(2 ベンズオキサゾイル)チオメチルスチレンの光ラジカル重合による多分岐ポリマーの合成	共著	平成 19 年 5 月	第 56 回高分子学会年次大会予稿集	亀山敦、柳下利明	203 頁
ビオロゲン構造を有するトリアジンジチオールと S-アルキルトリアジンジチオールの混合分子膜形成とその光誘起電子移動	共著	平成 19 年 9 月	第 56 回高分子学会年次大会予稿集	亀山敦、佐藤啓介	4412 頁
ビオロゲン誘導体の光還元を用いた可逆性蛍光記録媒体	共著	平成 19 年 9 月	第 56 回高分子学会年次大会予稿集	亀山敦、平田修造、小早川翠、澤山友博、戸谷健朗、渡辺敏行	4209 頁
アミノ基を有する s-トリアジンジチオール化合物で表面修飾した金ナノ粒子の高分子による集積化	共著	平成 19 年 9 月	第 46 回日本油化学会年会講演予稿集	亀山敦、寺竹洋一	213 頁

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
トリアジンジチオール自己組織体の構造転移と三相乳化法による乳化特性	共著	平成 19 年 9 月	第 46 回日本油化学会年会講演要旨集	亀山敦、福島規之、高柳真里子、今井洋子、田嶋和夫	107 頁
p-(2-ベンズオキサゾイル)チオメチルスチレンの光ラジカル重合による多分岐高分子の合成とその重合	共著	平成 20 年 3 月	精密ネットワークポリマー研究会代 1 回若手シンポジウム 21	亀山敦、柳下利明	
アルキル鎖図トリオキシエチレン鎖を有する両親媒性ビオロゲン誘導体の自己集合体形成	共著	平成 20 年 5 月	第 57 回高分子学会年次大会予稿集	亀山敦、佐藤啓介、今井洋子、田嶋和夫	1077 頁
6-アルキルチオ-s-トリアジンジチオールの自己集合を利用したイミダゾール類内包カプセルの調整と機能	共著	平成 20 年 5 月	第 57 回高分子学会年次大会予稿集	亀山敦、佐藤智宏、今井純子	1076 頁
末端にチオベンズオキサゾイル基を有する多分岐ポロスチレンを開始剤として用いたビニルモノマーおよび環状エーテルの光重合	共著	平成 20 年 9 月	第 57 回高分子学会討論会予稿集	柳下利明、萩原浩平	5348 頁
トリオキシエチレン鎖を有する両親媒性ビオロゲン誘導体の合成とミセル形成	共著	平成 20 年 9 月	第 61 回コロイドおよび界面化学討論会講演要旨集	亀山敦、佐藤啓介、阿部弘之	166 頁

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 56 年 4 月～現在に至る	高分子学会会員
昭和 63 年 1 月～現在に至る	日本化学会会員
平成 8 年 3 月～現在に至る	アメリカ化学学会会員
平成 12 年 11 月～平成 16 年 10 月	日本化学会　関東支部代議員
平成 13 年 3 月～現在に至る	科学技術動向研究センター専門調査員
平成 15 年 1 月～現在に至る	日本油化学会会員
平成 15 年 4 月～現在に至る	電気化学会会員
平成 15 年 4 月～平成 16 年 3 月	（財）神奈川科学技術アカデミー 2,000 千円 （新規環境調和高分子材料のためのオリゴエチレンオキシドモノマーの合成と同定）（研究代表者）
平成 15 年 4 月～平成 17 年 3 月	（財）新生資源協会 800 千円 （オリゴエチレン鎖を有する多分岐高分子材料の開発）（研究代表者）
平成 15 年 6 月～平成 17 年 5 月	高分子学会　関東支部代表会員
平成 15 年 8 月～平成 17 年 3 月	日本技術者教育認定機構大学院教育認定制度検討 WG 委員
平成 16 年 4 月～平成 17 年 3 月	（財）神奈川科学技術アカデミー 2,000 千円 （新規水溶性多分岐ポリマーの合成と環境材料への応用検討）（研究代表者）
平成 16 年 6 月～平成 18 年 5 月	高分子学会会員普及委員会員
平成 16 年 6 月～平成 20 年 5 月	高分子学会　広報委員
平成 17 年 4 月～現在に至る	日本接着学会会員
平成 17 年 4 月～現在に至る	日本油化学会　関東支部幹事
平成 17 年 4 月～平成 18 年 3 月	高橋産業経済研究財団 1,000 千円 （ハイブリッド型光重合開始剤の開発）（研究代表者）
平成 17 年 4 月～平成 18 年 3 月	電子回路基板技術振興財団（調査研究費） 1,000 千円 （電子回路基板への応用を目的とする新しいハイブリッド光硬化系の開発）（研究代表者）
平成 18 年 4 月～平成 19 年 3 月	高橋産業経済研究財団 1,000 千円 （新規光重合開始剤の合成とそれを用いた光ラジカル重合による機能性ハイブリッド微粒子の開発）（研究代表者）
平成 18 年 4 月～平成 19 年 3 月	科学研究費補助金 学術フロンティア 3,000 千円 （機能物質創製を目指す化学空間の設計と制御）（研究代表者）
平成 18 年 12 月～平成 19 年 11 月	第 16 回ポリマー材料フォーラム運営委員

年月	内　　容
平成 19 年 4 月～平成 20 年 3 月	科学研究費補助金 基礎C 870 千円 （チオール基を有する反応性微粒子の合成と機能発見）（研究代表者）
平成 19 年 4 月～平成 20 年 3 月	科学研究費補助金 学術フロンティア 4,500 千円 （機能物質創製を目指す化学空間の設計と制御）（研究代表者）
平成 19 年 6 月～平成 20 年 5 月	第 57 回高分子学会年次大会運営委員

Ⅴ　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部生物学教室	職名 教授	氏名 大塚　一郎	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 20 年 4 月 8 日 ～現在に至る	『学生による授業評価』の授業評価項目の９『―-学生が質問したり意見を述べられるように十分な配慮をしましたか』についての評価が低かった事、および学生の大半がシラバスに明記してある『オフィス・アワー』の意味を理解していない事が明らかになった点から、以下のように教育方法を改善した。講義の始めに『オフィス・アワー』の意味を説明して、疑問な点はそのままにしない様に強調した。毎回の授業でも９０分の途中で質問時間を設け、さらに授業終了時にも個別の質問を受け付ける旨アナウンスした。
2　作成した教科書、教材		なし
3　教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		なし

II　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
HMW and LMW glutenin alleles among putative tetraploid and hexaploid European spelt wheat (Triticum spelta L.) progenitors	共著	平成 15 年 9 月	Springer - Verlag・Theoretical and Applied Genetics (TAG)107 巻 (年単位), (1321 号（通産))	Y.Yan S.L.KHsam J.Z.Yu Y.Jiang I.OhtsukaF.J.Zeller	
Tow Classes of *Mutator* taransposable element-like sequences in the wild einkorn wheat.	共著	平成 15 年 9 月	Proc.10th Int. Wheat Genetic Symp.Vol.2:		469-471 頁
Sequence diversity and copy number Variation of Mutator-like transposases in wheat	共著	平成 20 年 5 月	Sociedade Brasileira de Genetica・Genetics and Molrcular Biology31, (2)	Nobuaki Asakura,Shinya Yoshida,Naoki Mori,Ichiro Ohtsuka and Chiharu Nakamura	539-546 頁
Possible horizontal transfer of two subclasses of Mutator-like elements within PoaceaePossible horizontal transfer of two subclasses of Mutator-like elements within Poaceae	共著	平成 20 年 8 月	Proceedings of the 11th International Wheat Genetics Symposium (Sydney University Press)	Asakura N. , Mori N. , Yoshida S. , Ohtsuka I., Nakamura C.	
Synthesis of the hexaploid club wheat and analysis about the homoeo-alleles of club gene C	共著	平成 20 年 8 月	Proceedings of the 11th International Wheat Genetics Symposium (Sydney University Press)	Ohtsuka T. , Ohtsuka I.	
その他					

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
昭和 51 年 10 月～現在に至る	日本遺伝学会会員
昭和 55 年 4 月～現在に至る	日本育種学会会員

V　研究活動と研究環境

1　専任教員の教育・研究業績

所属 工学部生物学教室	職名 准教授	氏名 朝倉　史明	大学院における研究指導当 資格の有無　（有・無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
小テストの活用	平成 9 年 4 月 ～現在に至る	講義内で小テストを行い、採点後、各学生に答案用紙を返却している。さらに解答例も配布し、再度、講義内容の確認を促している。
パワーポイントの活用	平成 19 年 9 月 ～現在に至る	講義内容のより良い理解のために、パワーポイントによる講義を行うようにした。具体的な例や理解しやすい図を多く提示するようにした。
2　作成した教科書、教材		
「遺伝学」化学同人	平成 19 年 10 月	化学同人発行の基礎生物学テキストシリーズ第一巻「遺伝学」の 12 章「トランスポゾン』を執筆した。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
2006 年度前期授業評価アンケート結果	平成 18 年 9 月	(授業科目：生物学 I) 学生による授業評価アンケートにおいて、学生の総合満足度が 4.0（5 点満点）であった。
2006 年度後期授業評価アンケート結果	平成 19 年 3 月	(授業科目：生物学 II) 学生による授業評価アンケートにおいて、学生の総合満足度が 4.0（5 点満点）であった。
2007 年度前期授業評価アンケート結果	平成 19 年 9 月	(授業科目：FYS) 学生による授業評価アンケートにおいて、学生の総合満足度が 4.0（5 点満点）であった。
4　実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5　その他		
基本科目教育協議会における運営委員会の運営委員としての取組み	平成 15 年 4 月 1 日 ～平成 19 年 3 月 31 日	自然科学系の基本科目担当教員の代表として運営委員に選出されて活動を行った。（平成 15 年 4 月 1 日～）
学修進路支援委員会の委員としての活動	平成 18 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 3 月 31 日	工学部選出の委員として全学の学修進路支援委員会に出席し、活動した。

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
工学部 FD 小委員会での活動	平成 19 年 4 月 1 日 ～平成 21 年 3 月 31 日	工学部 FD 小委員会の委員として、FD 講演会の開催や FD だよりの発行など工学部における FD 活動を行った。
第 13 回 FD フオーラムへの出席	平成 20 年 3 月 8 日 ～平成 20 年 3 月 9 日	2008 年 3 月 8 日および 9 日、立命館大学衣笠キャンパスにおいて開催された第 13 回 FD フォーラムに出席し、その内容を工学部 FD だより第 10 号において紹介した。

II　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
遺伝学	共著	平成 19 年 10 月	化学同人		
論文					
A maize MuDR-like transposable element transcribed in the rice genome	共著	平成 15 年	Advances in Rice Genetics	Yoshida, S., Asakura, N., Ootani, R., Nakamura, C.	397-399 頁
The presence of D plasmon-identical and novel mtDNA sequences in hexaploid wheat species of a series of synthetic lines.	共著	平成 15 年	Proc.10th Int.Wheat.Symp.,1	Kishida, M., Takumi, S., Asakura, N., Kawahara, T., Nakamura, C.	21-24 頁
Two classes of Mutator transoposable element-like sequences in the wild einkorn wheat.	共著	平成 15 年	Proc.10th Int.Wheat.Symp.,2		469-471 頁
Fluorescent in situ hubridization (FISH) 法によるシロイヌナズナの花粉母細胞での減数第一分裂期染色体の動態解析	共著	平成 17 年	Science Journal of Kanagawa University16	安積良隆、外山俊士、中村美奈子、豊泉龍児、風間真、朝倉史明、日野晶也、鈴木秀穂	25-33 頁
Possible horizontal transfer of two subclasses of Mutator-like elements within Poaceae	共著	平成 20 年	Proc. 11th Int. Wheat Genet. Symp.	N. Asakura, N. Mori, S. Yoshida, I. Ohtsuka, C. Nakamura	
Sequence diversity and copy number variation of Mutator-like transposases in wheat	共著	平成 20 年	Genet. Mol. Biol.Genet. Mol. Biol., 31 (2008) 539-546.31	N. Asakura, S. Yoshida, N. Mori, I. Ohtsuka, C. Nakamura	539-546 頁
その他					
コムギ属植物における Mutator 様転移因子の構造と分布の解析	共著	平成 15 年 9 月	日本育種学会第 104 回講演会	朝倉史明、吉田晋弥、大塚一郎、中村千春	

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所・発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
合成パンコムギのミトコンドリア DNA 領域で見られる父型プラズモン配列と母型プラズモン配列との組み換え	共著	平成 15 年 9 月	日本育種学会第 104 回講演会	岸田匡、北川師士、服部宣明、宅見薫雄、朝倉史明、河原太八、中村千春	
合成パンコムギのミトコンドリアに見られる B ／ D プラズモン分子間の組換え	共著	平成 16 年 9 月	日本遺伝学会第 76 回大会	岸田匡、宅見薫雄、朝倉史明、河原太八、中村千春	
コムギにおける Mutator 様転移酵素配列の同定とイネ科植物内での分布	共著	平成 17 年 8 月	日本育種学会第 107･108 回講演会	朝倉史明、吉田晋弥、森直樹、大塚一郎、中村千春	
イネ科植物における Mutator 様因子（MuLEs）の分布	共著	平成 18 年 9 月	日本育種学会第 110 回講演会	朝倉史明、吉田晋弥、森直樹、大塚一郎、中村千春	
イネ科植物内における Mutator 様因子の水平移行の可能性	共著	平成 19 年 9 月	日本遺伝学会第 79 回大会	朝倉史明、森直樹、吉田晋弥、大塚一郎、中村千春	

III　学会等および社会における主な活動	
年月	内　　容
平成 5 年 4 月～現在に至る	日本遺伝学会会員
平成 5 年 4 月～現在に至る	日本育種学会会員
平成 11 年～現在に至る	（国内共同研究）「高等植物におけるトランスポゾンの研究」
平成 11 年 4 月～現在に至る	科学研究費補助金 萌芽的研究 （イネにおけるトウモロコシＭｕトランスポゾン相同因子の構造・機能解析）（研究分担者）